Salesforce Winter '18 リリースノート

Salesforce, Winter '18

イノベーションへの道を切り拓く

18

@salesforcedocs

最終更新日: 2017/10/24

本書の英語版と翻訳版で相違がある場合は英語版を優先するものとします。

© Copyright 2000–2017 salesforce.com, inc. All rights reserved. Salesforce およびその他の名称や商標は、salesforce.com, inc. の登録商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。

目次

Salesforce Winter '18 リリースノート 1
リリースノートの使用方法 4
機能が使用可能になる方法と状況 14
サポートされるブラウザ 56
Salesforce 全体 59
Lightning Experience 78
Salesforce Einstein 94
セールス 96
マーケティング 156
サービス 156
分析 247
コミュニティ 377
Chatter 440
Files 450
Salesforce インテグレーション 455
モバイル 458
Financial Services Cloud 480
Health Cloud 494
カスタマイズ 499
セキュリティと ID 541
開発 566
重要な更新 684
ドキュメントコンテンツ 685
その他の Salesforce 製品とサービス 693

Salesforce Winter '18 リリースノート

Winter '18 では、Salesforce Platform 内に人工知能 (AI) が直接組み込まれているため、インタラクションのたびにスマートになっていくアプリケーションを構築することができます。また、Salesforce Einstein により、リードスコアリング、データ検出、重複管理、推奨も強化されました。Lightning Partner Central により Salesforce CRM がパートナーネットワークまで拡張され、Lightning オムニチャネルによりカスタマーサービスのケースを適切なタイミングで適切なエージェントに転送できるようになります。ユーザの Lightning Experience 採用を促進するより多くのツールが提供され、Lightning コンソールの分割ビューでは 1 つの画面で複数のレコードや関連レコードを開くことができます。

このセクションの内容:

リリースノートの使用方法

Salesforce のリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

機能が使用可能になる方法と状況

Winter '18 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

Salesforce 全体: Lightning Experience 準備状況チェック、コンソール、検索による生産性の向上

再設計された準備状況チェックを使用して、営業チームの生産性に Lightning Experience がどの程度の影響を与えているのかを測定します。Lightning Experience のデザインが新しくなり、一段と作業しやすくなりました。スタイルと新しい機能を兼ね備えた Lightning Experience の検索結果ページでは、簡単に列のサイズを変更し、テキストを折り返し、レコードを並び替えることができます。コンソールユーザは、お気に入り、ナビゲーションルール、2 つの新しいコンポーネントを使用して、すばやく作業できます。

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Experience は、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、UI プラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。このリリースでの新機能と考慮事項を確認してください。

Salesforce Einstein: 人工知能を備えた世界で最もスマートな CRM をすべてのユーザへ

Salesforce Einstein は、Salesforce プラットフォームに組み込まれている AI です。高度な AI 機能を営業、サービス、マーケティングに提供します。誰でもクリックやコードを使用して、やりとりするたびに賢くなっていく AI を装備したアプリケーションを構築できます。これにより、あらゆる役割および業種の Trailblazer が AI を使用して最大限のパフォーマンスを発揮できます。

セールス: Einstein リードスコアリング、コラボレーション売上予測、およびキャンペーンインフルエンス

販売につながる可能性が高いリードや商談に営業チームが専念できるようにする、影響力の高い Lightning Experience 機能が導入されました。営業担当は、Outlook と Gmail から直接、セールスパイプラインに集中することができます。

マーケティング: コンテンツ共有、SMS/転送メッセージの機能強化、およびその他の機能

あらゆるソースからの顧客利用データを 1 か所で表示します。会社のビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。また、最適なタイミングですべてのチャネルとデバイスにパーソナライズされたコンテンツを配信します。Marketing Cloud を使用してアプローチを最適化し、より優れた結果を得られるように、ビジネスでの各インタラクションの影響を測定できます。

サービス: Android 用 Field Service、新しいソーシャル取引先、Lightning Experience 対応の強化

Live Agent、オムニチャネル、サービス契約、ケースマイルストン、マクロ、ケースコピーなどへの Lightning Experience 対応を活用できます。Android 用の Field Service Lightning モバイルアプリケーションを通じて、フィールドサービス業務を拡大します。ナレッジ記事にビデオとコードブロックを埋め込み、短時間で知識を共有します。また、ソーシャルカスタマーサービスプロフェッショナルアドオンを使用すると、最大 10 件のソーシャルアカウントがサポートされます。

Analytics: レポートとダッシュボード、および Einstein Analytics

このリリースで導入される Lightning レポートビルダーにより、レポートの作成が楽しく (ユーザの見方によってはもっと楽しく) なります。また、Einstein Analytics (旧 Wave) によってスマート機能が追加されます。これには、簡略化され、より直観的になったアプリケーション作成、グラフの提案、Einstein Discovery ストーリー改善機能などがあります。

コミュニティ: カスタマー取引先ポータル、動的ブランド設定、Community Pulse

取引先管理を念頭に置いて設計されたカスタマー取引先ポータルでは、非公開の安全な場所が顧客に提供され、顧客はそこで取引先情報にアクセスし、情報を更新できます。ブランドセットが利用者ターゲティングと連携することで、ページを参照している利用者に応じて、容易にコミュニティのデザインとスタイルを動的に変更できます。また、Community Pulse では、最も重要なコミュニティ総計値がワークスペース領域の中心に表示されます。

Chatter: Chatter の暗号化、固定された投稿、上位グループ、Trailhead テーマ

Chatter の暗号化が正式リリースされ、項目が追加されました。投稿をグループまたはトピックフィードの最上部に固定 (ベータ) し、活動が最も多いグループを判断できます。グループおよびユーザプロファイルが Trailhead のような新しい外観になりました。

ファイル: Quip、レコード上の非公開ファイル、検索の向上

Quip を使用して、外部ファイルプロバイダなしでドキュメントの作成、共有、コラボレーションを行います。また、ファイルをレコードに添付して非公開のままにするか、選択したユーザやグループと共有します。ファイル検索結果は、並び替え可能になり、項目が増えました。

Salesforce とのインテグレーション: Cisco Spark、Microsoft および Google アプリケーション

業界をリードするいくつかのビジネスアプリケーションに Salesforce を接続することによって、営業およびサービス担当の生産性を高めます。

モバイル: 外出先で実行できる操作の増加

Salesforce モバイルアプリケーションでは、場所を問わず、ユーザが多忙なときでも生産性を維持できます。Salesforce は、オフィスの外にいるユーザをサポートする新しい方法を追加するために懸命に取り組んでいます。Salesforce では、Chatter、ToDo、その他多くのセールス機能の改善が提供されるため、営業担当は携帯電話からさらに多くの業務を実行できます。

Financial Services Cloud: 銀行向けのデータモデル拡張と Lightning アプリケーション、インテリジェントなニーズベースの紹介とスコアリングなど

パーソナルバンカーやファイナンシャルアドバイザーは、銀行向けのデータモデル拡張と Financial Services Cloud に合わせて調整された 3 つの Lightning アプリケーション (Retail Banking、Retail Banking コンソール、Wealth Management) を使用して、顧客との関係を深め、生産性を向上させることができるようになりました。インテリジェントなニーズベースの紹介とスコアリングによって、簡単なフローで容易に、ユーザは紹介を作成、追跡、管理できます。金融口座 UI コンポーネントや積み上げ集計項目を設定する方法が新しくなり、Financial Services Cloud をさらに高度にカスタマイズできるようになりました。また、金融口座残高を複数の共同所有者に積み上げ集計できるようになりました。加えて、新しい Lightning コンポーネント、プロファイル (4 つ)、権限セットを使用して、カスタマーコミュニティやパートナーコミュニティをすぐに開始できます。その他の機能強化については、操作性の向上についてを網羅したリストを参照してください。

Health Cloud: コンソールへの Lightning Experience の導入、Health Cloud によるタイムラインコンポーネントの強化、世帯マップなど

Health Cloud では、ケアコーディネータ、ケア担当者、患者が必要とするツールの提供が大幅に強化されました。ケアコーディネータは、Lightning Experience の素晴らしいユーザインターフェースとコンポーネントを気に入るでしょう。世帯マップによって患者の世帯とリレーションを全体的に把握できることにも満足するに違いありません。患者は、コミュニティにログインし、自分の過去、現在、将来のヘルスケアに関する行動のタイムラインを参照できます。さらに、絞り込み可能なタイムラインや個人アカウントのサポートなど、他にも患者ケアをサポートする多くの機能があります。

カスタマイズ: 動的 Lightning ページ、翻訳可能なフロー、カスタム Lightning ページテンプレート

特定のコンポーネントをいつ表示するのかを選択して、Lightning ページを動的にします。レコードの変更以外のことが組織内外で発生したとき、プロセスを開始することができます。また、トランスレーションワークベンチを使用して、言語にかかわらず、全ユーザに同じフローを配布することができます。すでにコードを使用しているのであれば、カスタム Lightning ページテンプレートをお試しください。

セキュリティと ID: シングルログアウト、ブランド情報入りログインページ、Chatter の暗号化

Salesforce が ID プロバイダまたはサービスプロバイダである場合、ユーザはシングルログアウトを使用して複数のアプリケーションから同時にログアウトすることができます。誰がどこからログインするのかに基づいて、実行時のログインページにブランドを設定し、Lightning のデザインをログインフローに取り入れることができます。また、Chatter フィードをはじめとした、さらに多くのデータを暗号化できます。

開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

Salesforce DX は、Salesforce アプリケーション開発の可能性を大きく広げるものであり、個人開発者と開発チームの両方に、高パフォーマンスのアジャイル開発向けに設計されたエンドツーエンドの統合ライフサイクルを提供します。Lightning コンポーネント、Visualforce、または Apex を使用する、あるいはお気に入りのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれであっても、Force.com の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージを開発するのに役立ちます。

重要な更新

HYPERLINK 関数での JavaScript の実行をブロックする重要な更新が適用されます。レコードがバックグラウンドで申請されたときにレコードを適切な承認プロセスに転送する重要な更新は遅延されました。

ヘルプ & トレーニング

Trailhead モジュールと手順の動画が追加されました。また、信頼とコンプライアンスに関するドキュメントも更新されました。

その他の Salesforce 製品とサービス

リリースノートの使用方法

Salesforce のリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

- PDF 版と HTML 版が用意されています。
- HTML 版では、使用される言語はブラウザの設定によって決まります。言語を変更するには、下部にスクロールして [言語を変更] をクリックし、言語を選択します。
- リリースノートは新機能や変更された機能に関するものであり、既知の問題に関するものではありません。既知の問題については Salesforce の「既知の問題」サイトを参照してください。

メモ: 新しいリリースが使用可能になるまで、Salesforce ヘルプ、実装ガイド、開発者ガイド、その他のドキュメントへのリリースノート内のリンクは機能しません。場合によっては、以前のリリースのドキュメントにリダイレクトされることがあります。

一部のドキュメントには、リリースの数週間前に参照できるプレビューバージョンがあります。Salesforce Developers でプレビューバージョンにアクセスするには、[ドキュメントバージョン] ドロップダウンリストから [プレビュー] を選択します。

このセクションの内容:

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み

検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握

Salesforce Lightning Experience およびその提供内容には高い関心が寄せられています。また、今後数回のリリースでは Salesforce Classic のみを使用したり、使用経験を積んでから Lightning Experience と併用するなど、多くの組織で引き続き Salesforce Classic を使用することも把握しています。

お客様のご要望

IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

その他のリソース

これらのリリースノートの他にも、すばやく概要を把握するためのリソースが用意されています。

リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み

検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

環境

Lightning Experience、モバイル、および Salesforce Classic で使用できる機能を参照してください。

エディション

使用可能な機能強化は、エディションごとに異なります。リリースノートを絞り込んで、ご使用のエディションでリリースされる機能強化のみを表示します。

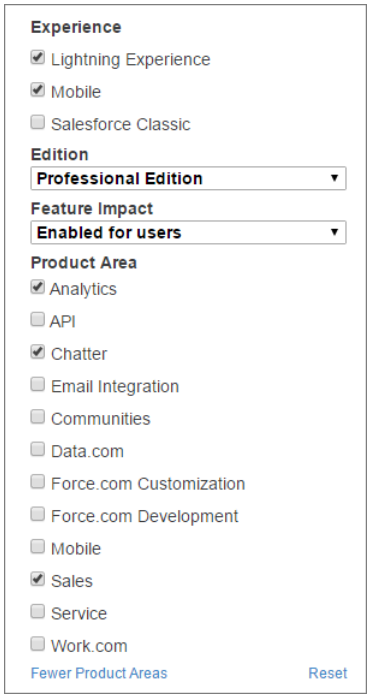
機能の影響

有効化または設定しないとユーザが利点を得られない機能もあります。システム管理者は、リリースノートを絞り込むことでそれらの機能だけを表示したり、非表示にしたりできます。また、ユーザに対して自動的に有効になる機能のみを表示することもできます。

製品エリア

組織で使用する商品のみを表示します。組織がセールスを行いサポートは行わない場合、セールス関連のニュースのみが表示されるようにリリースノートを設定します。

リリースノートのリストを絞り込むには、画面の右側にある[条件を表示] をクリックします。



絞り込まれたリリースノートのリストを他のユーザと共有できます。検索条件を選択して URL をコピーし、その URL を任意の方法で配信します。

Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握

Salesforce Lightning Experience およびその提供内容には高い関心が寄せられています。また、今後数回のリリースでは Salesforce Classic のみを使用したり、使用経験を積んでから Lightning Experience と併用するなど、多くの組織で引き続き Salesforce Classic を使用することも把握しています。

この移行期間を成功させる鍵は、1 つ、両方、またはすべての Salesforce 環境で使用できる機能を把握することです。そのため、リリースノートには情報が適用される最上位レベル (クラウド全体またはクラウド内の個々の機能) での環境情報を追加しました。次の 2 つの例を見てみましょう。

- Service Cloud 機能であるケースフィードは、*両方のデスクトップ環境*で使用可能であるため、「この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。」と記載されています。
- Sales Cloud の新機能である商談ワークスペースは Lightning Experience でのみ使用可能であるため、「この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。」と記載されています。

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、または Salesforce モバイル Web でも主要機能が使用可能な場合は、機能の説明でその点を示しています。新機能の完全なリストの「モバイル」セクションを確認することもできます。

お客様のご要望

IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

IdeaExchange	実現したアイデア
セールス	
Lightning - 商品を保存して商談に追加するボタン	商品を商談に追加するようユーザに促す
Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web での売上予測分類の編集	商談の売上予測分類の変更
一括メールを簡単に作成する方法	リストメールを使用した営業担当のメールリーチの拡大
メールによる一括コンテンツ配信の許可	
リストビューからの一括メール配信	
Lightning 内での取引先責任者の一括メール送信機能	
活動履歴での一括メールの件名表示	活動タイムラインでのリストメールの追跡
	活動タイムラインの絞り込み方法の追加
活動レポートからの一括メールの自動除外	活動タイムラインでのリストメールの追跡
	活動タイムラインの絞り込み方法の追加
活動レイアウトのアラーム項目の再配置機能	営業担当が忘れないように ToDo アラームを使用
ToDo や行動のポップアップを Lightning Experience に表示	

IdeaExchange	実現したアイデア
Lightning Experience でのアーカイブ済み活動の表示	[すべての活動履歴] を使用して過去およびアーカイブ済みの活動をすべて表示
取引先、取引先責任者、リードのマージ Data.com の重複管理: 重複レコードセットへのマージボタンの設定 取引先を無関係の取引先名にマージ 取引先責任者のマージ機能の制限	Lightning Experience で重複レコードセットを使用して重複をまとめる
Lightning Experience を使用したレコードのマージ機能	Lightning Experience での個人取引先のマージ
サービス	
送信ソーシャル投稿での画像の送信	ソーシャル投稿への画像添付で顧客をサポート
ナレッジ記事の検索や表示のユーザ別の追跡	イベント監視を使用した記事ビュー数の追跡
レポートのナレッジ記事の参照日/投票日の検索条件	イベント監視を使用した記事ビューの追跡 *(部分的に実施)*
KB 記事に埋め込む Wistia 動画	ナレッジ記事への動画とコードブロックの埋め込み
中国人ユーザのために Youku 動画に記事を埋め込めるようにしてください	ナレッジ記事への動画とコードブロックの埋め込み
ナレッジ記事の割り当てのレポート作成	記事割り当てを使用してフローに従う
カスタマイズ	
Lightning Experience の関連リストに 5 項目以上表示	関連リストのクイックリンクを使用した関連リストデータのすばやい表示
UserLicense オブジェクトの [使用ライセンス]/[ライセンス合計数] を正式リリース	変更されたオブジェクト
Visual Workflow/フローの表示ラベルおよび項目の翻訳	トランスレーションワークベンチからのフローの翻訳
Salesforce for Android、Salesforce for iOS、または Salesforce モバイル Web でのフローのサポート flow:interview コンポーネントに属性を追加して Lightning UX でフローを表示	フロー Lightning コンポーネントによる Salesforce 内の任意の場所へのフローの追加

その他のリソース

これらのリリースノートの他にも、すばやく概要を把握するためのリソースが用意されています。

- Release Readiness & Feature Adoption コミュニティ。Salesforce エキスパートのコミュニティに参加しましょう。
- リリースデモ。このリリースで導入される機能の概要を動画で簡単に確認できます。

- リリースの概要。ユーザ向けの社内トレーニングを作成したり、設定画面を確認したり、機能の使用方法を学習したりします。
- Release Readiness & Feature Focus のイベントカレンダー。Expert Hours や他のイベントに登録します。
- Release Readiness の提供。新しい機能を登録し、活用します。
- Winter '18 リリース。新しい機能を確認します。
- Winter '18 リリースモジュール。Winter '18 Trailhead バッジを取得します。
- メンテナンス試験。認定資格を更新します。

リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

最新の情報 (以下の日付以降の差分) は英語版ご覧ください。

2017 年 11 月 1 日

Salesforce1 から Salesforce への名称変更

Salesforce1 は Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web になりました。

Einstein Object Detection を使用した画像オブジェクトの特定 (ベータ)

Einstein Object Detection のベータ版を利用できることが発表されました。

Trailhead で機能を探索

新しい Trailhead モジュール「Einstein Intent API Basics (Einstein Intent API の基本)」が追加されました。

UserInfo エンドポイントおよび ID URL レスポンスの Email_Verified 値の更新

組織またはコミュニティユーザがメールの確認メッセージのリンクをクリックしてメールアドレスを正常に検証したときに更新される `email_verified` 定義に関するリリースノートが追加されました。

Lightning Experience の Live Agent で使用できない機能

Live Chat トランスクリプトでのサブタブおよびナビゲーションルールの使用に関する制限が Lightning Experience の Live Agent に追加されました。

2017 年 10 月 25 日

Field Service Mobile: Android アプリケーションの正式リリースと iOS アプリケーション 3.0 へのアップグレード

フローを実行するための新しい権限要件のコールアウトが追加されました。

Service Analytics の最新バージョンでの高速 (基本) 作成オプションとカスタム作成オプションの選択

簡単かつ正確にアプリケーションの設定と作成ができる新しい VisualForce 設定ウィザードに関する注意事項が追加されました。

Field Service Mobile: Android アプリケーションの正式リリースと iOS アプリケーション 3.0 へのアップグレード

Winter '18 リリースから機能が削除されたため、「ユーザごとのモバイルアプリケーション設定のカスタマイズ」というタイトルのリリースノートが削除されました。詳細は、Salesforce にお問い合わせください。

システム権限を使用したレコードページのアクションの表示の制御

ユーザがレコードページを表示したときに、オブジェクトのページレイアウトからカスタマイズされたアクションがユーザに表示されるかどうかに影響する可能性のある新しいユーザ権限に関する情報が追加されました。

ホーム: ToDo コンポーネントの検索条件オプションの追加

Lightning Experience のホームページでの ToDo コンポーネントの絞り込みに関するトピックが再び追加されました。

Lightning Experience を使用した取引先責任者からの商談の取引先責任者の役割の作成

取引先責任者の [商談] 関連リストの新機能に関するリリースノートが追加されました。

ユーザのメール情報を取得するための Facebook 認証プロバイダの更新

ユーザのメールアドレスを返すためのデフォルトの Facebook 認証プロバイダの変更に関するリリースノートが追加されました。

AppExchange: 再設計された Web サイト、新しいソリューションタイプ

AppExchange の設計と製品一覧表の変更を発表するリリースノートが追加されました。

AppExchange 公開コンソールのその他の変更

AppExchange の有料リストの最低価格に関する情報が追加されました。

スクラッチ組織を使用した開発ライフサイクルの短縮 (正式リリース)

スクラッチ組織の割り当ての情報が修正されました。最大割り当てと日次割り当てが切り替わりました。

メタデータ API

CustomObject メタデータ型の `compactLayoutAssignment` 項目に関するお知らせが削除されました。このリリースの変更はありません。

2017 年 10 月 18 日

複数のキャンペーンによる商談への影響を営業とマーケティングで追跡

キャンペーンインフルエンスの複数接触属性モデルには Sales Cloud および Pardot ライセンスが必要であること、および Sales Cloud では 2017 年 11 月 14 日から使用可能になる予定であることが明記されました。

最新バージョンの Salesforce for Android と Salesforce for iOS の新機能

Salesforce for Android と Salesforce for iOS のバージョン 14.0 が 2017 年 10 月 16 日の週に正式リリースされることが発表されました。ユーザ向けの新しい機能強化を確認してください。

マクロ: サポートエージェントの効率と顧客の満足度が向上

Lightning Experience のクイックテキストおよびメールテンプレートでのマクロのサポートに関する注意事項が追加されました。

その他の API の変更

レコードタイプに基づく SOQL クエリでは、クエリの実行ユーザが「参照」アクセス権を持つオブジェクトのみについて結果が返される、ということを反映するために API セクションが更新されました。

新しい Trailblazer コミュニティで共につながり、学び、道を切り拓く

Salesforce Success コミュニティから Trailblazer コミュニティへの名称変更が発表されました。

カスタマイズ可能なビューと積み上げ集計による金融口座の大幅な向上

新しい金融口座の積み上げ集計ルールと絞り込み条件を作成して、どのようなタイミングや条件で積み上げ集計がトリガされるのかを決定する機能は、サポートされません。

2017 年 10 月 11 日

Salesforce DX: Salesforce アプリケーション開発の新境地

10 月中旬の Salesforce DX 機能の正式リリースで導入された変更を反映するために、Salesforce DX セクションのリリースノートが更新されました。

メタデータ API

CustomObject メタデータ型の `compactLayoutAssignment` 項目の変更が発表されました。

CMS Connect を使用したコミュニティのパーソナライズ

パーソナライズを設定するために必要なコネクタ JSP ページの作成手順およびコードへのリンクが追加されました。

$Label 式の処理の変更

`$Label` グローバル値プロバイダを使用するカスタム表示ラベルにアクセスする、ドキュメントに記載されていないメソッドは、最新リリースでは機能しません。

新規追加または変更された Lightning インターフェース

ユーティリティバーで使用される Lightning コンポーネントの `force:hasRecordId` インターフェースのサポートが追加されました。

2017 年 10 月 4 日

行動を引き続き同期するために必要な G Suite 設定の変更

Winter '18 で行動 (予定) を引き続き同期するには Google システム管理者に問い合わせて G Suite の設定を更新する必要があることを、Lightning Sync for Google を使用するお客様に通知してください。

Network オブジェクトに追加された項目

メタデータ API の Network オブジェクトに `enableUpDownVote` 項目が追加されました。

リード: 柔軟性の向上で迅速化されたリードの取引開始

新しい [リードの取引の開始] ダイアログボックスでは、古い PLSQL に基づくリードの取引開始ではなく、新しい Apex に基づくリードの取引開始を使用する必要があることが明記されました。

コラボレーション売上予測: 売上予測の機能強化

Lightning Experience のコラボレーション売上予測の新しい動画に関する情報が追加されました。

Lightning Experience でのサービス契約の管理 (正式リリース)

Lightning Experience では契約品目名を一括編集できないことが明記され、レコードタイプに関する制限が記載されました。

営業担当が忘れないように ToDo アラームを使用

ユーザは、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web で ToDo アラームの作成と編集はできますが、受信できないことが明記されました。また、[新規 ToDo] グローバルアクションでは ToDo アラームがサポートされません。

ToDo 通知を使用した営業担当の業務の円滑化

通知トレイのプッシュ通知とアラームは、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web ではサポートされないことが明記されました。

2017 年 9 月 27 日

管理パッケージのアップグレードでの新しい選択リスト値の追加

リリースノートからこの項目が削除されました。この機能は Winter '18 で使用できなくなります。今後のリリースに向けて評価中です。

新しいオブジェクト

ListEmail と ListEmailRecipientSource という新しい API が 2 つ追加されました。

参照のみモード中の Apex コールアウトの防止

参照のみモードでの Apex コールアウトのベストプラクティスに関するリリースノートが追加されました。Salesforce 組織は、計画的なサイト切り替えやインスタンス更新など、Salesforce のメンテナンアクティビティ中に参照のみモードになります。

新規追加または変更された Lightning コンポーネント

`lightning:button` および `lightning:buttonStateful` の変更に関する情報が追加されました。

ヘルプ & トレーニング

[ヘルプ & トレーニング] セクションが追加されました。

変更されたオブジェクト

`DuplicateRecordSet` オブジェクトの `DuplicateRuleId` 項目の表示ラベルが `[重複ルール ID]` に戻ったことが注記されました。Spring '18 以前の表示ラベルは `[親]` でした。

Pardot が日本語で使用可能 (ベータ)

Pardot の日本語ベータリリースに関する情報が追加されました。

2017 年 9 月 20 日

Sales Cloud Einstein のその他の変更

Sales Cloud Einstein での表示ラベルの変更に関する情報が追加されました。

Lightning Experience でサポートされるブラウザ

Lightning アプリケーションの Internet Explorer 11 サポートに関する情報が更新されました。

お客様のご要望

当社が配信したアイデアが追加されました。

コンポーネントコードの保存時の自動検証

行われた検証についての詳細が記された、開発者ガイドの該当セクションへのリンクが追加されました。

相対 URL から絶対 URL への自動変換 (ベータ)

どこで相対 URL が変換されるのかについての詳細が追加されました。

Lightning コンソールアプリケーションでのマクロの使用

セールスコンソールを含むすべての Lightning コンソールアプリケーションでのマクロのサポートに関する情報が追加されました。

Lightning Dialer: カスタムボイスメール挨拶の録音

電話をかけるときに標準の会社の電話番号を表示することに関するトピックが削除されました。

納入商品: 納入商品階層の全体像を把握

納入商品ページレイアウトに [納入商品階層を表示] アクションを追加する方法が記載されました。

新規追加または変更された Lightning コンポーネント

`lightning:outputField` と `lightning:recordViewForm` という新しいコンポーネントに関する情報と、`lightning:datatable` と `lightning:verticalNavigation` の変更に関する情報が追加されました。

変更されたオブジェクト

Task オブジェクトの `TaskSubtype` 項目で、選択リスト値 ListEmail が追加されました。

外部ドキュメントのケース添付とレポート

ケースに外部ドキュメントを添付するには、ユーザの Chatter が有効になっている必要があるという考慮事項が追加されました。

Lightning コンソール JavaScript API によるコンソールアプリケーションのカスタマイズ (正式リリース)

ユーティリティバー API、ワークスペース API、オムニチャネル API が `lightning` 名前空間に移されました。`lightning:tabClosed` や `lightning:tabFocused` などのコンソールタブイベントも `lightning` 名前空間に移されました。

アクセシビリティの更新により Salesforce Authenticator をより簡単に操作

Salesforce Authenticator 2.10.1 のアクセシビリティの更新に関する情報が追加されました。

バックアップと復元の通知が表示されるまでの時間の延長

Salesforce Authenticator 2.10.1 のバックアップと復元の通知の変更に関する情報が追加されました。

2017 年 9 月 13 日

[レコードを更新] クイックアクションで参照のみの項目と数式項目の表示

この変更に関する情報が追加されました。

サービスクルーによるスケジュールの簡略化

作業種別のクルー人数項目がデフォルトですべてのユーザに対して非表示であることが注記されました。

サービスレポートの複数の署名の機能強化

サービスレポートテンプレートエディタで [署名種別] 項目が [種別] として表示されることが注記されました。

関連レコードコンポーネントで参照のみの項目の表示

関連レコードコンポーネントの更新に関する情報が追加されました。

Lightning レポートビルダーの登場でレポート作成が一新 (ベータ)

Salesforce Classic レポートビルダーと Lightning Experience レポートビルダーの相違点が追加されました。Lightning Experience レポートビルダーでは、日付項目でグループ化すると日付の粒度をカスタマイズできません。

Cisco Spark のグループ会話コンポーネントを使用してユーザがビデオミーティングの開催やインスタントメッセージの送信をレコードから直接行う

コンポーネントの名前が更新されました。

Cisco Spark for Salesforce でのユーザによる共有ワークスペースの管理

コンポーネントの名前が更新されました。

Cisco Spark for Salesforce: Salesforce を離れずに顧客や営業担当とつながる (正式リリース)

コンポーネントの名前が更新されました。

Financial Services Cloud レコードタイプの新規追加
新規レコードタイプがオブジェクトに追加されました。

商談の売上予測分類の変更
商談の売上予測分類の更新に関する情報が追加されました。

変更データキャプチャを使用した外部データの最新の状態の維持 (パイロット)
データ変更イベントがカスタムオブジェクトで明示的に有効化される必要があることが明記されました。

JSON コンテンツでコミュニティページを強化 (ベータ)
SEO に関する注意事項が追加されました。

CustomTab 型を S コントロールから Visualforce ページへ変更
メタデータ API を使用して CustomTab 型を変更できるようになったことが明記されました。

2017 年 9 月 6 日

レポートおよびダッシュボード REST API
レポートおよびダッシュボード REST API の `folders` リソースに関する情報が追加されました。

カスタムアクションの高速クリックにより複数のインスタンスが起動する問題の修正
このバグ修正についての詳細が追加されました。

[レコードを更新] クイックアクションで参照のみの項目と数式項目の表示
この変更に関する情報が追加されました。

レシピのパッケージ化
レシピをパッケージ化する前にデータセット内でレシピを使用する必要性がある、という情報が追加されました。

セキュリティ述語による共有継承の統合
Analytics での共有継承にはデータセットごとにサポートされるオブジェクトを 1 つのみ選択できるという注意事項が追加されました。

厳格な CSP 制限の重要な更新
重要な更新は、予定されていた Winter '18 リリースではなく、Spring '18 で本番組織に適用されます。

2017 年 8 月 30 日

関連リストのクイックリンクを使用した関連リストデータのすばやい表示
組織が Winter '18 にアップグレードされると、カスタマイズされていないレコードページにコンポーネントが自動的に追加されるという文が削除されました。

Field Service 管理パッケージ: スマートなテリトリーの作成、複数日の作業、指定作業
スケジュール設定ポリシーでディープコピーが使用できるという文が削除されました。

SAML 署名証明書の廃止
影響を受ける対象と、どのように対応するかについての手順が明記されました。

2017 年 8 月 21 日

Salesforce Winter '18 リリースノート
公開済みプレビューリリースノート。

フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

- フィードバックフォーム:Salesforce ヘルプ、リリースノート、開発者ガイドのドキュメントには、フィードバックフォームと賛成/反対投票があります。必要に応じてコメントを追加できます。
- **Twitter** — Twitter で @salesforcedocs をフォローすると、新しいドキュメントの公開や、既存のドキュメントへの重要な更新について通知を受けることができます。@salesforcedocs 宛にツイートしてください。

機能が使用可能になる方法と状況

Winter '18 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience でサポートされるブラウザ	✅			
Microsoft Internet Explorer バージョン 11 を使用した Lightning Experience へのアクセスのサポートの延長			✅	
Salesforce Classic でサポートされるブラウザ	✅			

Salesforce 全体

再設計された準備状況チェックを使用して、営業チームの生産性に Lightning Experience がどの程度の影響を与えているのかを測定します。Lightning Experience のデザインが新しくなり、一段と作業しやすくなりました。スタイルと新しい機能を兼ね備えた Lightning Experience の検索結果ページでは、簡単に列のサイズを変更し、テ

キストを折り返し、レコードを並び替えることができます。コンソールユーザは、お気に入り、ナビゲーションルール、2つの新しいコンポーネントを使用して、すばやく作業できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience のデザインの変更	✅			
検索				
検索結果ページの列サイズ変更、テキスト折り返し、簡単な並び替え	✅			
改善されたインスタント結果機能による適切なレコードのいち早い取得	✅			
デフォルトの上位の結果への関連性の高いオブジェクトの表示	✅			
さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に		✅		
拡張クイック検索で設定の高速検索	✅			
Lightning コンソールアプリケーション: お気に入りとカスタマイズされたナビゲーション				
コンソールアプリケーションでのお気に入りの使用	✅			
ナビゲーションルールを使用してコンソールアプリケーションで関連レコードを自動的に開く			✅	
Lightning コンソールアプリケーションでの Cmd + クリックを使用した作業の迅速化	✅			
Lightning コンソールアプリケーションでのマクロの使用			✅	
コンソールアプリケーションページへのマイルストンコンポーネントとアコーディオンコンポーネントの追加			✅	
参照のみの項目をコンソールの関連レコードコンポーネントで表示			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新しいブラウザタブでお気に入りを開く	✅			
キーボードショートカットを使用した移動の迅速化	✅			
管理パッケージからインストールされた Lightning アプリケーションへのタブの追加		✅		
新しい Trailblazer コミュニティで共につながり、学び、道を切り拓く	✅			

セールス

販売につながる可能性が高いリードや商談に営業チームが専念できるようにする、影響力の高い Lightning Experience 機能が導入されました。営業担当は、Outlook と Gmail から直接、セールスパイプラインに集中することができます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Trailhead			✅	
Sales Cloud Einstein				
Einstein リードスコアリング				
Salesforce Classic での Einstein リードスコアリングの使用			✅	
Einstein リードスコアリングでサポートされるリード取引開始種別の増加			✅	
Einstein リードスコアリングの有効化の追跡および制御			✅	
Einstein 自動取引先責任者				
不要になった取引先責任者データ入力 (ベータ)			✅	
Einstein によって Salesforce に追加された取引先責任者数の表示(ベータ)			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein 活動キャプチャ				
Microsoft® Exchange 2013 および 2016 アカウントへようこそ			✅	
見積および契約に関する活動の追加			✅	
自動的に取り込まれた Microsoft® Office 365® の行動を Salesforce カレンダーから表示			✅	
データ保持期間の指定				✅
[除外アドレス]リストを容易に管理			✅	
Einstein Sales Analytics			✅	
Sales Cloud Einstein のその他の変更	✅			
	中核的なセールス機能			
リード	✅			
取引先				
個人取引先の簡単な設定			✅	
取引先レポートからキャンペーンへの個人取引先の追加	✅			
キャンペーン				
複数のキャンペーンによる商談への影響を営業とマーケティングで追跡			✅	
その他の変更によるキャンペーンインフルエンスの柔軟性向上			✅	
コラボレーション売上予測		✅		
エンタープライズテリトリー管理		✅		
商談				
商談チームメンバーをすばやく追加	✅			
商品を商談に追加するようユーザに促す			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience を使用した取引先責任者からの商談の取引先責任者の役割の作成	✅			
商談の売上予測分類の変更	✅			
		生産性機能		
セールスコンソール			✅	
メール				
リストメールを使用した営業担当のメールリーチの拡大	✅			
活動タイムラインでのリストメールの追跡	✅			
空のメール差し込み項目についてのエラーの排除	✅			
活動				
営業担当が忘れないように ToDo アラームを使用	✅			
ToDo 通知を使用した営業担当の業務の円滑化	✅			
[すべての活動履歴]を使用して過去およびアーカイブ済みの活動をすべて表示	✅			
活動タイムラインの絞り込み方法の追加	✅			
リストビュー				
コンテンツに合わせて動的に調整されるリストビューの列幅	✅			
より多くのリストビューでカスタム列幅の設定	✅			
カスタムリストビューの列幅をデフォルトにリセット	✅			
リストビューのテキスト折り返し	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コピーまたは別名で保存を使用してリストビューを自分専用にする	✅			
一括インライン編集でより多くのレコードを同時に編集	✅			
備考	✅			
カレンダー				
Lightning Sync for Google を使用して Salesforce に行動の被招集者の詳細を取り込む			✅	
Lightning Experience で同僚とカレンダーを共有	✅			
Cloud Scheduler の廃止	✅			
Lightning Dialer			✅	
ホーム	✅			
データ品質				
Lightning Experience での個人取引先のマージ			✅	
Lightning Experience で重複レコードセットを使用して重複をまとめる			✅	
Lightning Experience でサードパーティのデータを使用して Salesforce レコードの項目を拡張			✅	
Google インテグレーション				
Lightning for Gmail: 時間の節約につながる機能および新しいインサイト				
テンプレートの機能強化			✅	
Gmail から Salesforce ToDo の管理	✅			
容易に項目を検出して適切な Salesforce レコードに関連付ける	✅			
取引開始の可能性が最も高いリードに焦点を絞る			✅	
Lightning Sync				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
行動を引き続き同期するために必要な G Suite 設定の変更			✅	
Service Cloud と Force.com ライセンスでユーザを設定			✅	
Google カレンダーと Salesforce 間の行動の同期			✅	
Salesforce の行動でのミーティング出席者の機能強化			✅	
Microsoft® インテグレーション				
Lightning for Outlook				
テンプレートの機能強化			✅	
Microsoft® Outlook® から Salesforce ToDo の管理	✅			
容易に項目を検出して適切な Salesforce レコードに関連付ける	✅			
取引開始の可能性が最も高いリードに焦点を絞る			✅	
Engage for Outlook で見込み客の活動のインサイトを取得			✅	
Lightning Sync			✅	
Salesforce for Outlook				
Salesforce for Outlook の使用継続に必須の重要なアップグレード			✅	
手動アップグレードを避ける			✅	
セキュリティ				
顧客の個人識別情報の暗号化 (正式リリース)			✅	
商談の [説明] 項目と [次のステップ] 項目の暗号化 (ベータ)			✅	
[商談名] 項目の暗号化 (パイロット)		✅		
Sales Cloud のその他の変更				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
「Salesforce 行動」カレンダーから「私の行動」への名称変更	✅			
ブラウザを更新せずにカレンダーの最新変更を Lightning Experience から表示	✅			
Data.com の取引先データ評価の廃止		✅		
Prospector ユーザのみが使用可能な [Data.com] タブ		✅		
Pardot が日本語で使用可能 (ベータ)				

サービス

Live Agent、オムニチャネル、サービス契約、ケースマイルストン、マクロ、ケースコピーなどへの Lightning Experience 対応を活用できます。Android 用の Field Service Lightning モバイルアプリケーションを通じて、フィールドサービス業務を拡大します。ナレッジ記事にビデオとコードブロックを埋め込み、短時間で知識を共有します。また、ソーシャルカスタマーサービスプロフェッショナルアドオンを使用すると、最大 10 件のソーシャルアカウントがサポートされます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
サービスコンソール				
マクロ、Live Agent、その他の機能強化を使用してサービスコンソールでの作業を効率化			✅	
Lightning サービスの設定フローでのコミュニティのブランド設定		✅		
合理化された Lightning Knowledge の設定フローの活用		✅		
Community 360 を使って顧客の活動に関する価値あるインサイトを取得 (正式リリース)	✅			
フィールドサービス				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
サービスクルーによるスケジュールの簡略化			✅	
サービス予定の新しい割り当てオプション			✅	
作業指示および作業指示品目へのサービスレポートテンプレートの割り当て			✅	
サービスレポートの複数の署名の機能強化	✅			
サービスレポートで再利用されなくなった署名	✅			
商品 SKU の追跡			✅	
24 時間の時間枠を用いた夜間シフトのスケジュール設定	✅			
フィールドサービスロケーション階層の詳細およびファイルの表示				
作業種別の共有ルールの作成			✅	
Field Service フローアクションによる時間の節約			✅	
レコードタイプによる作業指示の絞り込み			✅	
モバイル用 Field Service				
Android への Field Service Lightning の導入 (正式リリース)			✅	
サービスレポートの複数の署名の取得			✅	
強化されたサービスレポートのプレビューによるサービスレポートの検証			✅	
バックグラウンドモードの地理位置情報の設定			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
フローのローカライズによる他言語の従業員向けの使いやすさの向上			✅	
スマートな製品リクエストによる時間の節約			✅	
強化された製品検索を使用して必要な部品を入手			✅	
Field Service 管理パッケージ				
マップ多角形を使用した地図上でのテリトリーの描画			✅	
複数日にわたる作業のスケジュール			✅	
複合作業での連動関係のスケジュール			✅	
指定作業のための時間枠の予約			✅	
すべてのテリトリーでのサービスリソースの表示			✅	
リソースガントチャートに表示される不在の制御			✅	
緊急度の低い予定を無視して優先度の高い予定をスケジュール			✅	
フィールド技術者が自動的に予定をフォロー			✅	
コンソールマップ上での予定ルートと実移動ルートの同時表示			✅	
Field Service Lightning ユーザに必要なカスタム権限の設定			✅	
テリトリーレベルでのドリップフィード派遣設定の制御			✅	
ケース				
差し込み項目や Salesforce Classic テンプレートによる顧客へのメール送信時間の節約	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
受信者項目を使用したメールとケース取引先責任者の関連付け			✅	
Lightning Experience でのケースマイルストンの使用			✅	
ケースのシームレスなコピー	✅			
関連リストからのケースコメントの追加			✅	
ナレッジ				
Lightning Experience による複数言語組織のナレッジ記事へのアクセス (ベータ)	✅			
ナレッジコンポーネントからの記事の作成	✅			
ナレッジ記事への動画とコードブロックの埋め込み	✅			
イベント監視を使用した記事ビュー数の追跡		✅		
記事割り当てを使用してフローに従う	✅			
Lightning でのデータカテゴリの選択	✅			
ナレッジ検索: 記事の結果の並び替えとケースへの外部ドキュメントの添付				
ナレッジ記事の検索結果の並び替え	✅			
外部ドキュメントのケース添付とレポート			✅	
Live Agent				
Lightning Experience で顧客とチャット			✅	
エージェントのチャットウィンドウの配置と高さの制御			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience でチャットの全トランスクリプトへのアクセス			✅	
リピート顧客の過去のチャットを使用した会話の継続	✅			
チャットヘッダーのプレビューによるエージェントのマルチタスクをサポート	✅			
チャットエージェントのツールバーの拡張	✅			
Lightning Experience の Live Agent で使用できない機能	✅			
オムニチャネル				
Lightning Experience でのエージェントへの作業の転送 (正式リリース)			✅	
Lightning Experience のオムニチャネルによる Live Agent チャットの転送			✅	
Lightning Experience の Omni-Channel Supervisor によるサポートセンターの監視 (ベータ)			✅	
Omni-Channel Supervisor にスーパーバイザが必要な情報のみを表示 (ベータ)				✅
オムニチャネルでの外部ルーティング実装の使用 (ベータ)				✅
オムニチャネルの制限緩和による作業効率の向上	✅			
コンソール API でのオムニチャネルメソッドの使用と Lightning Experience の新しいコンポーネント (ベータ)		✅		
カスタム要求日時項目を使用した顧客の待機順番の保持		✅		
ユーザのプレゼンス状況を削除して組織の領域を確保		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Web 用の Snap-in				
Snap-in チャットを使用した Lightning Experience での顧客とのチャット			✅	
訪問者のブロックによるスパム送信者対策			✅	
事前チャットフォームレコードのチャットのトランスクリプトへの自動添付	✅			
事後チャットへの顧客情報の伝達			✅	
エンタイトルメント管理				
Lightning Experience でのサービス契約の管理 (正式リリース)	✅			
Lightning Experience でのケースマイルストンの追跡			✅	
マクロ				
Lightning Experience でマクロを作成して時間を節約	✅			
マクロレコードホーム	✅			
ユーティリティバーからのマクロの実行			✅	
納入商品	✅			
CTI				
lightning:clickToDial コンポーネントを使用したクリック-To-ダイヤル電話番号の作成		✅		
Lightning Experience で使用できる Open CTI の notifyInitializationComplete メソッド		✅		
ソーシャルカスタマーサービス				
ソーシャルカスタマーサービスプロフェッショナルアドオンによる				✅

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ソーシャル活動の活発化 (リリース遅延)				
ソーシャルビジネスルールによる短時間でのソーシャルサービス設定		✅		
ソーシャル投稿への画像添付で顧客をサポート	✅			
ケースフィードで画像添付ファイルのプレビュー	✅			
Facebook コメントと返信を非表示にして顧客を非公開でサポート	✅			
顧客の詳細を表示する項目をソーシャル人格に追加			✅	
ボタンとテキストの Radian6 から Social Studio への移行	✅			
その他の変更				
Chatter アンサーは Spring '18 で廃止	✅			
Lightning Sync 用に Service Cloud ライセンスのユーザを設定			✅	

分析

このリリースで導入される Lightning レポートビルダーにより、レポートの作成が楽しく (ユーザの見方によってはもっと楽しく) なります。また、Einstein Analytics (旧 Wave) によってスマート機能が追加されます。これには、簡略化され、より直観的になったアプリケーション作成、グラフの提案、Einstein Discovery ストーリー改善機能などがあります。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
レポートとダッシュボード				
Lightning レポートビルダーの登場でレポート作成が一新 (ベータ)			✅	
Quip でレポートを開く	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ダッシュボードへの最大 10 列のテーブルの追加 (ベータ)	✅			
[ホーム] タブと Lightning アプリケーションにダッシュボードを埋め込む		✅		
ダッシュボードのグラフ区分をクリックして絞り込まれたレポートを表示	✅			
Lightning Experience の拡張フォルダ共有の機能をフル活用			✅	
Lightning Experience のレポートおよびダッシュボードのグラフの機能強化	✅			
Lightning Experience のレポートおよびダッシュボードのその他の機能強化	✅			
		Einstein Analytics		
Wave Analytics が Einstein Analytics に改称	✅			
Analytics 事前作成済みアプリケーション				
Service Analytics の最新バージョンで可能になった高速 (基本) 作成オプションとカスタム作成オプションの選択	✅			
アプリケーションのステップごとの作成状況の監視			✅	
Einstein 搭載の Sales Analytics によるデータの収益化	✅			
Service Analytics よるアプリケーション作成時の推測作業の排除、パフォーマンスに関するより深いインサイトのエージェントへの提供	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Field Service Analytics を使用したモバイル技術者とテリトリーに関する詳細なインサイトの取得	✅			
Analytics ホーム				
チームに適した Analytics 環境のキュレーション	✅			
Lightning Experience の Analytics ホームで生産性を向上	✅			
Lightning Experience グローバル検索によるレンズとダッシュボードの高速検索	✅			
新しい[アプリケーションを参照]および[アプリケーションの詳細]ページで整理された状態を維持	✅			
Analytics 探索と視覚化				
エクスプローラの機能強化で探索がさらに簡単に	✅			
新しいプロパティを使用したテーブルのスタイル設定	✅			
フォーカスの復活	✅			
ドラッグアンドドロップによる値テーブルの列の並び替え	✅			
データセット項目の表示の制御	✅			
エクスプローラによるデータに合ったグラフの提案	✅			
サンキーグラフを使用したデータの流れの視覚化	✅			
折り紙グラフを使用したデータの展開	✅			
グラフのツールチップのカスタマイズ	✅			
地図グラフの外観の制御	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
グラフのその他の機能強化	✅			
Analytics ダッシュボード設計				
インスペクタの推奨に基づくダッシュボードの調整	✅			
大きなダッシュボードの分割によるパフォーマンス改善 (ベータ)	✅			
ステップの編集による時間の節約	✅			
見つけやすくなったステップ	✅			
新しいファセット動作によるダッシュボード検索条件の制御	✅			
関連Webコンテンツを使用したダッシュボードの補完	✅			
グローバル検索条件を使用したダッシュボードコントロールの作成	✅			
Wave デザイナのダッシュボード JSON の変更		✅		
Wave ダッシュボードデザイナのその他の機能強化	✅			
Analytics データインテグレーション				
複製の適切な管理		✅		
新しいコネクタで接続範囲が拡大		✅		
データセット作成時の.csvデータのインテリジェントな準備	✅			
任意のデータフローでのデータセットの作成		✅		
データフローの機能強化によるデータのフローの維持		✅		
export 変換を使用した Einstein Discoveryへのデータのエクスポート (ベータ)				✅
要点をすぐに把握できる更新されたデータセット編集ページ	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
データを元に戻す: 以前のバージョンのデータセットの復元		✅		
スマート提案と列のプロファイルを使用したデータのインテリジェントな準備とクリーンアップ		✅		
セキュリティ述語による共有継承の統合			✅	
Analytics Einstein Discovery				
Einstein Discovery でさらに容易になった Salesforce データへの接続				✅
Salesforce オブジェクトでの Einstein Discovery のおすすめの表示 (パイロット)				✅
ストーリー改善機能による的確なストーリーの作成				✅
ストーリータイムラインによる経時的な変化を促進する要素の把握				✅
ストーリーの更新による分析の最新状態の維持				✅
Einstein Analytics データフローからのデータセットの作成 (ベータ)				✅
Analytics モバイル				
iOS デバイスでの新しいグラフの使用	✅			
Android デバイスでの最新のダッシュボードとレンズの探索	✅			
Analytics 開発とカスタマイズ				
Analytics テンプレートによる堅牢なアプリケーション機能の有効化		✅		
REST API の更新		✅		
新しい SDK 機能によるダッシュボードの検出		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新しい SAQL 機能の利用		✅		
コミュニティのダッシュボードでのアノテーションを使用したコラボレーション			✅	
埋め込みダッシュボードの表示と機能の制御		✅		
Analytics ダッシュボードへの Apex 機能の追加 (ベータ)		✅		
レシピのパッケージ化		✅		

コミュニティ

取引先管理を念頭に置いて設計されたカスタマー取引先ポータルでは、非公開の安全な場所が顧客に提供され、顧客はそこで取引先情報にアクセスし、情報を更新できます。ブランドセットが利用者ターゲティングと連携することで、ページを参照している利用者に応じて、容易にコミュニティのデザインとスタイルを動的に変更できます。また、Community Pulse では、最も重要なコミュニティ総計値がワークスペース領域の中心に表示されます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning テンプレートと Bolt ソリューション				
カスタマーサービス (Napili) コミュニティの更新		✅		
更新された Partner Central コミュニティでより多くのことを行う		✅		
カスタマー取引先のポータルの発表、顧客満足を維持するまったく新しい方法		✅		
開発者が独自にコミュニティを構築		✅		
際限を知らない Lightning Bolt		✅		
動的ブランド設定		✅		
利用者ターゲティング				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ユーザ条件に基づいた利用者の作成		✅		
利用者への表示の優先度設定		✅		
CMS Connect (ベータ)				
CMS Connect を使用したコミュニティのパーソナライズ				
JSON コンテンツでコミュニティページを強化 (ベータ)		✅		
さらに多くの CMS プロバイダのサポートによりコミュニティと Web サイトのコンテンツのデザインを揃える (ベータ)		✅		
相対URLから絶対URLへの自動変換 (ベータ)		✅		
操作性およびパフォーマンスの改善				
無料のコンテンツ配信ネットワークを使用したコミュニティパフォーマンスの高速化 (ベータ)			✅	
ナビゲーションの背景色とテキスト色のカスタマイズ		✅		
カスタムフォントファミリをより容易に追加		✅		
ブラウザキャッシュによるコミュニティのパフォーマンスの向上	✅			
Salesforce コミュニティページオプティマイザによるパフォーマンス情報の取得 (正式リリース)		✅		
[ページ構造]パネルからコンポーネントを削除		✅		
開発者コンソールでのカスタムコンポーネントの編集		✅		
コミュニティビルダーで現在の公開済みページを編集		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
現在のページを更新して変化を確認		✅		
Lightning コミュニティ				
タイルメニューを使用したより直感的なナビゲーション環境の導入 (ベータ)		✅		
自分のプロファイルを編集するためのアクセス権をポータルメンバーに付与		✅		
Community 360 を使用した顧客のコミュニティ活動の表示 (正式リリース)		✅		
ピアツーピアコミュニティでグローバル検索を使用して必要なものを検索		✅		
更新されたテンプレートの新しいユーザプロファイルメニュー		✅		
新しい[リソース]ページでライブラリおよびその他にアクセス		✅		
人気のあるファイルの検出		✅		
契約、注文、見積、カスタムオブジェクトでパスを使用		✅		
Lightning コミュニティページへのフローの埋め込み		✅		
ナビゲーションメニューへのグローバルアクションの追加		✅		
新しいコミュニティでは Koa および Kokua テンプレートを使用不可		✅		
Lightning コミュニティの Chatter				
Chatter パブリッシャーへのリッチパブリッシャーアプリケーションの埋め込み (正式リリース)	✅			
質問ボタンの活用	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ストリームを使用した独自のメガフィードの作成	✅			
Salesforce でのすべてのコミュニティストリームの表示(パイロット)	✅			
固定表示投稿による重要な情報の可視性の向上 (ベータ)	✅			
ユーザプロファイルへのデフォルトコミュニティの割り当て	✅			
絵文字によるコミュニティの活性化	✅			
コミュニティでの最適なソリューションの強調表示	✅			
組織およびコミュニティごとにトピックの提案を有効化		✅		
コミュニティでハッシュタグ付きトピックの追加	✅			
ランキング上位のグループを表示するカスタムレポートタイプの作成 (リリース遅延)		✅		
コミュニティ内のトピックについてディスカッションしているユーザ数を確認		✅		
Lightning コミュニティのファイル				
コミュニティでの外部ファイルの取得	✅			
ライブラリとフォルダの内容をタイルビューで表示 (ベータ)	✅			
コミュニティのライブラリの整理	✅			
パートナーによるファイルのコンテンツ配信および公開リンクの作成を許可 (リリース遅延)	✅			
カスタムファイルプレビューコンポーネントの作成	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ファイルのアップロードコンポーネントによるアップロード操作の改善	✅			
レコード上のファイルを非公開にしておく (リリース遅延)	✅			
Quip を使用した Salesforce 内のドキュメントの作成とコラボレーション	✅			
パートナーリレーションの管理				
チャネルプログラムとレベルを使用したパートナーの管理		✅		
市場開発資金によるパートナーの認知度の向上		✅		
簡単な手順とガイド付き設定に従って機能を設定				
パートナー独自の商談をパートナーが登録		✅		
リードの簡単な配布		✅		
パートナーへの市場開発資金の提供		✅		
パートナースコアカードでパフォーマンスを監視 (ベータ)		✅		
Distributed Marketing を使用したパートナーキャンペーンの作成 (パイロット)		✅		
コミュニティ分析				
Community Pulse で統計を前面中央に配置		✅		
Analytics ダッシュボードでのアノテーションを使用したコラボレーション			✅	
モデレーション				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Community Cloud と Marketing Cloud のインテグレーションによりエンゲージメントを促進 (ベータ)		✅		
メンバーエンゲージメントキューですべてを実行		✅		
よりきれいに整理され、強力になった待機中のディスカッションキュー		✅		
ワークスペースに切り替えて、コミュニティでより多くのことを行う		✅		
コミュニティのその他の変更				
拡張された変更セットサポートでさらに容易になったコミュニティの移行		✅		
Lightning Experience で外部コミュニティユーザを管理		✅		
より多くのオブジェクトをコミュニティで使用		✅		
Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition でコミュニティを作成-コミュニティライセンスは不要		✅		
ケース、ダッシュボード、グループ、レポートの詳細ページの SEO 対応 URL		✅		
記事の URL にレコード ID を含めない		✅		
ユーザに基づいたコミュニティのログイン環境のカスタマイズ		✅		
トピック別上位の記事コンポーネントのタイトルの表示または非表示		✅		
外部のコミュニティモデレータがグループ情報を参照可能		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
表示しているページでレポートを開く		✅		

Chatter

Chatterの暗号化が正式リリースされ、項目が追加されました。投稿をグループまたはトピックフィードの最上部に固定(ベータ)し、活動が最も多いグループを判断できます。グループおよびユーザプロファイルがTrailheadのような新しい外観になりました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
		フィード		
Chatterの暗号化によるセキュリティの強化 (正式リリース)	✅			
Salesforce でのすべてのコミュニティストリームの表示(パイロット)	✅			
固定表示投稿による重要な情報の可視性の向上 (ベータ)	✅			
絵文字による会話の活性化	✅			
組織のトピックの提案の有効化		✅		
		グループ		
ランキング上位のグループを表示するカスタムレポートタイプの作成 (リリース遅延)		✅		
Trailheadのような外観に刷新されたグループ	✅			
		ユーザプロファイル		
Trailheadのような外観に刷新されたユーザプロファイル	✅			
Astro アバター をデフォルトとして表示可能な場所の増加	✅			
[オフィス不在]機能を使用して心おきなく休暇を取得 (正式リリース)	✅			

Files

Quipを使用して、外部ファイルプロバイダなしでドキュメントの作成、共有、コラボレーションを行います。また、ファイルをレコードに添付して非公開のままにするか、選択したユーザやグループと共有します。ファイル検索結果は、並び替え可能になり、項目が増えました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce での Quip ドキュメントの作成とコラボレーション	✅			
レコード上のファイルを非公開にしておく (リリース遅延)	✅			
新しい項目を使用したファイル検索結果の並び替え	✅			
コンテンツ配信公開リンク作成の権限名の変更	✅			
カスタムファイルプレビューコンポーネントの作成	✅			

Salesforce インテグレーション

業界をリードするいくつかのビジネスアプリケーションにSalesforceを接続することによって、営業およびサービス担当の生産性を高めます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Cisco Spark for Salesforce: Salesforce を離れずに顧客や営業担当とつながる (正式リリース)			✅	
Google インテグレーション: レコードの柔軟な照合、多くのテンプレートオプション、行動の双方向同期、Lightning Sync 設定の必須変更			✅	
Skype for Salesforce: チャットとインスタントメッセージの送信 (正式リリース)			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Microsoft® とのインテグレーション: ToDo 管理、Pardot Engagement、一括同期			✅	

モバイル

Salesforce モバイルアプリケーションでは、場所を問わず、ユーザが多忙なときでも生産性を維持できます。Salesforce は、オフィスの外にいるユーザをサポートする新しい方法を追加するために懸命に取り組んでいます。Salesforce では、Chatter、ToDo、その他多くのセールス機能の改善が提供されるため、営業担当は携帯電話からさらに多くの業務を実行できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web				
最新バージョンの Salesforce for Android と Salesforce for iOS の新機能	✅			
Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web のすべての新機能				
[最近]セクションでの関連性の高いオブジェクトの表示	✅	✅	✅	
Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の要件の更新	✅			
外出先でのテリトリーの管理	✅			
Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web のサービス契約の管理	✅			
外出先でケースマイルストンにアクセス			✅	
関連リストからのケースコメントの追加			✅	
ケースのシームレスなコピー	✅			
Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の従	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
来のグラフは Spring '18 で廃止 (段階的廃止)				
Salesforce for iOS の最新の Chatter 環境	✅	✅	✅	
新しい Chatter 投稿コンポーザでのコンテンツの共有	✅	✅	✅	
Chatter フィード内でのインライン画像と複数の添付ファイルの表示	✅	✅	✅	
Salesforce1 から Salesforce への名称変更	✅			
Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の更新されたヘルプでより迅速に回答を取得	✅			
Salesforce Authenticator	✅			
Salesforce Chatter: Windows 10 を操作する新しい方法				
サポート対象デバイスと Salesforce Chatter のインストール	✅	✅	✅	
Salesforce Chatter で使用可能な機能	✅	✅	✅	
Salesforce Mobile Classic		✅		

Financial Services Cloud

パーソナルバンカーやファイナンシャルアドバイザーは、銀行向けのデータモデル拡張と Financial Services Cloud に合わせて調整された 3 つの Lightning アプリケーション (Retail Banking、Retail Banking コンソール、Wealth Management) を使用して、顧客との関係を深め、生産性を向上させることができるようになりました。インテリジェントなニーズベースの紹介とスコアリングによって、簡単なフローで容易に、ユーザは紹介を作成、追跡、管理できます。金融口座 UI コンポーネントや積み上げ集計項目を設定する方法が新しくなり、Financial Services Cloud をさらに高度にカスタマイズできるようになりました。また、金融口座残高を複数の共同所有者に積み上げ集計できるようになりました。加えて、新しい Lightning コンポーネント、プロファイル (4 つ)、権限セットを使用して、カスタマーコミュニティやパートナーコミュニティをすぐに開始できます。その他の機能強化については、操作性の向上についてを網羅したリストを参照してください。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Retail Banking アプリケーションと Retail Banking コンソールによる生産性の向上				
新しい Lightning アプリケーション、Wealth Management による Financial Services Cloud 環境の最適化				
インテリジェントなニーズベースの紹介とスコアリングによる紹介の作成および管理				
カスタマイズ可能なビューと積み上げ集計による金融口座の大幅な向上				
カスタマーコミュニティやパートナーコミュニティの迅速な開始				
Financial Services Cloud の操作性の向上				
Financial Services Cloud のその他の機能強化				
Financial Services Cloud の新規オブジェクトおよび項目				
Financial Services Cloud レコードタイプの新規追加		✅		

Health Cloud

Health Cloud では、ケアコーディネータ、ケア担当者、患者が必要とするツールの提供が大幅に強化されました。ケアコーディネータは、Lightning Experience の素晴らしいユーザインターフェースとコンポーネントを気に入るでしょう。世帯マップによって患者の世帯とリレーションを全体的に把握できることにも満足するに違いありません。患者は、コミュニティにログインし、自分の過去、現在、将来のヘルスケアに関する行動のタイムラインを参照できます。さらに、絞り込み可能なタイムラインや個人アカウントのサポートなど、他にも患者ケアをサポートする多くの機能があります。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Health Cloud コンソールへの Lightning Experience の導入			✅	
患者がコミュニティからタイムラインを参照可能に			✅	
世帯マップを使用した患者のリレーションの管理	✅			
Health Cloud コンソールと Health Cloud Empower コミュニティタイムラインに表示されるレコードの決定			✅	
Health Cloud での個人アカウントのサポート			✅	
新規追加または変更された Health Cloud Lightning コンポーネント			✅	
Health Cloud オブジェクトの変更		✅		

カスタマイズ

特定のコンポーネントをいつ表示するのかを選択して、Lightningページを動的にします。レコードの変更以外のことが組織内外で発生したとき、プロセスを開始することができます。また、トランスレーションワークベンチを使用して、言語にかかわらず、全ユーザに同じフローを配布することができます。すでにコードを使用しているのであれば、カスタム Lightning ページテンプレートをお試しください。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning アプリケーションビルダー				
動的な Lightning ページの作成		✅		
カスタムページテンプレートで Lightning ページのカスタマイズをまったく新たなレベルに		✅		
既存のカスタム Lightning ページのコピーによるカスタム Lightning ページの作成		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
関連リストのクイックリンクを使用した関連リストデータのすばやい表示		✅		
Cisco Sparkのグループ会話コンポーネントを使用してユーザがビデオミーティングの開催やインスタントメッセージの送信をレコードから直接行う		✅		
Cisco Spark for Salesforce でのユーザによる共有ワークスペースの管理		✅		
更新された検索条件リストコンポーネントの操作習得		✅		
リッチテキストコンポーネントの新しいスタイル		✅		
カスタムコンポーネントを使用した Lightning ページの設定の簡易化と [私のドメイン] の制限の緩和		✅		
ケースレコードページへのマイルストンの追加		✅		
関連レコードコンポーネントで参照のみの項目の表示		✅		
フローコンポーネントの変数値の増加		✅		
[関連リスト – 1 つ] となった関連リストコンポーネント		✅		
四半期パフォーマンスコンポーネントからパフォーマンスへの名称変更		✅		
リストビューコンポーネントでサポートされなくなったカスタム設定		✅		
Visual Workflow				
トランスレーションワークベンチからのフローの翻訳		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
オブジェクト固有のアクションからのフローの起動 (ベータ)		✅		
プラットフォームイベントが発生するまで待機するためのフローの設定 (リリース遅延)		✅		
フロー Lightning コンポーネントによる Salesforce 内の任意の場所へのフローの追加		✅		
Lightning コミュニティへのフローの追加		✅		
選択リスト変数と複数選択リスト変数の値の設定		✅		
REST API によるフローインタビューのデザインのカスタマイズ (パイロット)				✅
フローでの暗号化データへのアクセス (正式リリース)			✅	
プロセスビルダー				
プラットフォームイベントが発生したときのプロセスの開始 (リリース遅延)		✅		
プロセスでの特定のユーザやキューの迅速な参照		✅		
プロセスビルダーでの暗号化データへのアクセス (正式リリース)			✅	
グローバリゼーション:いっそう簡単になった複数通貨の有効化、トランスレーションワークベンチでの XLIFF 形式およびフローのサポート				
サポートへ連絡せずにマルチ通貨を有効化			✅	
XLIFF 形式での翻訳ファイルのインポートとエクスポート		✅		
トランスレーションワークベンチでのフローのサポート		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce Connect				
Apex 一括処理を使用した大量の外部オブジェクトデータセットの処理		✅		
外部オブジェクトデータへのアクセスの検証			✅	
項目と選択リスト				
ページネーションを使用した無効な選択リスト値の容易な管理		✅		
共有				
無効な共有の非同期削除による操作の続行 (正式リリース)			✅	
個人取引先を使用する組織での法人取引先責任者の手動共有 (正式リリース)			✅	
AppExchange				
新しいインテリジェントな AppExchange での最適なソリューションの迅速な検索		✅		
AppExchange で利用できるようになった Bolt ソリューションと Lightning データ		✅		
設定				
外部サービスでサポートされるようになった Swagger (ベータ)		✅		
1時間で実行できるワークフロータイムトリガの増加		✅		✅
HYPERLINK 関数内で実行される JavaScript のブロックが適用 (重要な更新)			✅	
[レコードを更新] クイックアクションで参照のみの項目と数式項目の表示		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
削除できなくなったページレイアウトに含まれるアクション		✅		
カスタムアクションの高速クリックにより複数のインスタンスが起動する問題の修正	✅			
「バックグラウンドで行われたレコードの承認申請の適切な承認プロセスへの転送」(重要な更新)の延期			✅	
Lightning Sync 用に Force.com ライセンスのユーザを設定			✅	
システム権限を使用したレコードページのアクションの表示の制御		✅		

セキュリティと ID

Salesforce が ID プロバイダまたはサービスプロバイダである場合、ユーザはシングルログアウトを使用して複数のアプリケーションから同時にログアウトすることができます。誰がどこからログインするのかに基づいて、実行時のログインページにブランドを設定し、Lightning のデザインをログインフローに取り入れることができます。また、Chatter フィードをはじめとした、さらに多くのデータを暗号化できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
認証と ID				
動的ブランド設定によるユーザのログイン環境の変更		✅		
シングルログアウトですべてのアプリケーションから同時にログアウトできる (正式リリース)		✅		
ログインフローの更新		✅		
SAML 署名証明書の廃止		✅		
指定ログイン情報: リリースオプションの追加、URL スキームの適用				
変更セット、パッケージ、メタデータ API を通じた指定ログイン情報の		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
コールアウトオプションのリリース				
指定ログイン情報 URL の不正なスキームの回避		✅		
ユーザのメール情報を取得するための Facebook 認証プロバイダの更新		✅		
UserInfo エンドポイントおよび ID URL レスポンスの Email_Verified 値の更新		✅		
Salesforce Shield				
プラットフォームの暗号化				
確定的暗号化を使用した暗号化データの絞り込み (パイロット)			✅	
プラットフォームの暗号化と鍵の管理のパブリッククラウドへの拡張 (正式リリース)	✅			
Chatter のデータの暗号化 (正式リリース)			✅	
フローおよびプロセスビルダーを使用した暗号化データへのアクセス (正式リリース)			✅	
鍵の管理タスクでの高保証セッションの必要性 (ベータ)			✅	
取引先、個人取引先、取引先責任者、リードに関する多くの PII 項目の暗号化 (正式リリース)			✅	
[商談名] 項目の暗号化 (パイロット)		✅		
スキニーテーブルとの暗号化互換性 (ベータ)			✅	
最終通知: 重要な更新「暗号化されたデータのマスクを無効化」の自動有効化			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
イベント監視ログの暗号化鍵の管理使用の追跡			✅	
イベント監視				
イベントログファイルによるユーザ検索とクリックの追跡		✅		
イベントログファイルによるナレッジ記事ビューの追跡		✅		
イベントログファイルでテナントの秘密の使用状況を参照		✅		
クライアント IP 項目に含まれるようになった文字列値		✅		
Event Monitoring Analytics アプリケーションの新しい名前とこれまでと同じ優れたデータ		✅		
UI 追跡イベント種別の廃止		✅		
その他の変更				
Visualforce ページ、サイト、コミュニティのブラウザ保護の改善			✅	
HSTS (HTTP Strict Transport Security) によって HTTPS を使用するようにブラウザをリダイレクト			✅	
ヘルスチェック: デフォルトベースラインの選択と必要に応じたベースラインの名称変更		✅		

開発

Salesforce DX は、Salesforce アプリケーション開発の可能性を大きく広げるものであり、個人開発者と開発チームの両方に、高パフォーマンスのアジャイル開発向けに設計されたエンドツーエンドの統合ライフサイクルを提供します。Lightning コンポーネント、Visualforce、または Apex を使用する、あるいはお気に入りのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれであっても、Force.com の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージを開発するのに役立ちます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce DX (リリース遅延)				
Salesforce DX を試す (リリース遅延)		✅		
Salesforce CLI による生産性の向上 (正式リリース) (リリース遅延)		✅		
スクラッチ組織を使用した開発ライフサイクルの短縮(正式リリース) (リリース遅延)		✅		
開発者ハブを使用したスクラッチ組織の管理 (正式リリース) (リリース遅延)		✅		
ソースの追跡および同期 (正式リリース)				
Visual Studio Code 向け Salesforce 開発ツールを使用した迅速な構築 (正式リリース) (リリース遅延)			✅	
第二世代パッケージ(ベータ)のポテンシャル (リリース遅延)				
スクラッチ組織のシェイプ処理 (パイロット)				
Einstein Platform Services				
Einstein Language (ベータ): アプリケーションの自然言語処理の作成		✅		
Einstein Vision: マルチ表示ラベルモデル、モデルフィードバック、およびグローバルデータセット				
新しい API エンドポイントへの切り替え		✅		
フィードバックを使用したモデルの最適化		✅		
マルチ表示ラベルモデルによる複数のオブジェクトの識別		✅		
事前作成済みモデルを使用した画像の分類		✅		
グローバルデータセットによるモデルへのデータの追加		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
データセットの作成にデータセット種別が必要		✅		
廃止された Einstein Image Classification API コール		✅		
Einstein Object Detection を使用した画像オブジェクトの特定 (ベータ)		✅		
Lightning コンポーネント				
厳格な CSP 制限の重要な更新			✅	
新しい Lightning 基本コンポーネントで画期的なユーザインターフェースを構築		✅		
新しいコンポーネントライブラリの紹介 (ベータ)		✅		
更新された LockerService API ビューアの紹介		✅		
コンポーネントコードの保存時の自動検証		✅		
$Label 式の処理の変更		✅		
Lightning コンポーネントを使用したカスタムページテンプレートの作成		✅		
lightning:container での Apex サービスの使用 (正式リリース)		✅		
Apex コードなしで Lightning データサービスを使用したレコード操作の実行 (正式リリース)		✅		
aura:method から結果を返す		✅		
クライアントペイロードデータ制限の 4 MB への増加		✅		
Lightning コンポーネントタブの翻訳			✅	
aura:dependency でのワイルドカード照合は非推奨		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新規追加または変更された Lightning コンポーネント				
コンポーネントを最新の API バージョンに更新して、新しい lightning: コンポーネントを使用			✅	
lightning:flexipageRegionInfo による Lightning ページコンポーネントでの幅の認識				
新規追加または変更された Lightning イベント		✅		
新規追加または変更された Lightning インターフェース		✅		
Visualforce				
「Visualforce ページに対する GET 要求の CSRF 保護を許可」の適用 (重要な更新)			✅	
Lightning Experience のスタイルシートを使用して既存の Visualforce ページを自動的にスタイル設定		✅		
Lightning Experience のためのページの準備		✅		
Visualforce グローバル変数を使用したプラットフォームキャッシュの組織キャッシュの値へのアクセス		✅		
JavaScript Remoting 要求のデータ制限が 4 MB に増加			✅	
Visualforce のその他の変更			✅	
Apex				
@isTest アノテーションの新しいオプションを使用した並列テストの実行		✅		
API でのクラス名を使用した Apex テストの実行		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Apex テストの同期実行時にケースの割り当てルールを起動しない		✅		
リリースでのすべての Apex コードの再コンパイル		✅		
重複レコードを検索および表示する新しい方法		✅		
Visualforce グローバル変数を使用したプラットフォームキャッシュの組織キャッシュの値へのアクセス		✅		
Cache.Org.put の有効期間値とドキュメントの一致		✅		
変更セットのリリースおよび管理パッケージのアップグレードでリセットされなくなったプラットフォームキャッシュ割り当て		✅		
Apex の一括処理からの外部サービスへのアクセスの改善		✅		
Apex REST サービスへのアクセスの制御		✅		
参照のみモード中の Apex コールアウトの防止		✅		
Apex: 新規および変更されたクラス				
新規 Apex クラス		✅		
変更された Apex クラス		✅		
ConnectApi (Chatter in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum				
新規および変更された Chatter in Apex クラス		✅		
新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス		✅		
新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス		✅		
新規および変更された Chatter in Apex Enum		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
		ISVforce		
AppExchange Trailblazer チェックリストを使用した ISV ビジネスの迅速な構築	✅			
AppExchange 公開コンソールでのビジネスプランの管理		✅		
機能パラメータによるアプリケーションへのアクセスの制御と追跡 (正式リリース) (リリース遅延)			✅	
管理パッケージ更新での無効化および再有効化されたグローバル値セットの値の保持		✅		
パッチ組織で[私のドメイン]が自動的に有効化		✅		
変更セットのリリースおよび管理パッケージのアップグレードでリセットされなくなったプラットフォームキャッシュ割り当て		✅		
「管理-リリース済み」パッケージからの S コントロールの削除		✅		
CustomTab 型を S コントロールから Visualforce ページへ変更		✅		
パートナー用の Salesforce DX 機能 (正式リリース)				
AppExchange 公開コンソールのその他の変更	✅			
		デバッグ		
より長い期間、より多くのデバッグログを保持		✅		
プラットフォームイベント登録のデバッグログイベント		✅		
		API		
新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
新しいオブジェクト		✅		
変更されたオブジェクト		✅		
SOSL		✅		
REST API				
新しいリソース: Flows と Flow Interviews (パイロット)				✅
SOAP API				
新規、変更、および廃止されたコールとデータ型		✅		
Chatter REST API				
新規および変更された Chatter REST API リソース		✅		
新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ		✅		
新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ		✅		
レポートおよびダッシュボード REST API				
新しいリソースとパラメータ: フォルダおよび分析通知		✅		
新規および変更されたメソッド: レポートインスタンス		✅		
変更されたリソース: Dashboard Describe および Dashboard Results		✅		
Bulk API 2.0 (正式リリース)		✅		
Tooling API				
Tooling API で有効な組織での CRUD 操作のサポート開始		✅		
より多くの Tooling API オブジェクトでの個々の項目の更新		✅		
Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Tooling API におけるコールおよびリソースの変更		✅		
メタデータ API		✅		
データサービス: カスタム Big Object および非同期 SOQL を使用した数百万件のレコードの操作				
カスタム Big Object を使用した数百万件 (または数十億件!) のレコードの操作 (正式リリース)		✅		
非同期 SOQL を使用した数百万件のレコードのクエリ (正式リリース)		✅		
エンタープライズメッセージング				
変更データキャプチャを使用した外部データの最新の状態の維持 (パイロット)				✅
大規模プラットフォームイベントによる 1 日あたり数百万件のイベントの配信 (パイロット)				✅
Lightning コンソール JavaScript API によるコンソールアプリケーションのカスタマイズ (正式リリース)		✅	✅	
Open CTI API		✅		
その他の API の変更				

サポートされるブラウザ

Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

このセクションの内容:

Lightning Experience でサポートされるブラウザ

Lightning Experience でサポートされるブラウザと制限事項を確認してください。

Microsoft Internet Explorer バージョン 11 を使用した Lightning Experience へのアクセスのサポートの延長

2017 年 12 月 16 日の廃止日以降も Lightning Experience で Internet Explorer 11 を引き続き使用するには、IE11 の延長サポートを選択します。

Salesforce Classic でサポートされるブラウザ

Salesforce Classic は、Microsoft® Internet Explorer® バージョン 9、10、11 および macOS の Apple® Safari® バージョン 10.x でサポートされています。また、Microsoft Edge、Mozilla® Firefox®、および Google Chrome™ の最新の安定バージョンでもサポートされています。いくつか制限事項があります。

Lightning Experience でサポートされるブラウザ

Lightning Experience でサポートされるブラウザと制限事項を確認してください。

エディション

Lightning Experience を使用可能なエディション: **Essentials** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

メモ:

- Salesforce では、Salesforce Classic、Lightning Experience、または Salesforce モバイル Web のコンテンツを表示する WebView や同様のコントロールを埋め込む非ブラウザアプリケーションはサポートされていません。このタイプのコントロールを埋め込む方法として、Microsoft の WebBrowser コントロール、Electron の埋め込みの Chromium ブラウザ、iOS の UIWebView、Android の WebView などが挙げられます。
- モバイルブラウザで Lightning Experience にアクセスすることはできません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce アプリケーションを使用することをお勧めします。Salesforce でサポートされるモバイルブラウザのリストについては、「Salesforce アプリケーションの要件」を参照してください。

重要: Internet Explorer 11 による Lightning Experience へのアクセスは、Summer '16 以降サポートされなくなります。

- 2017 年 12 月 16 日まで引き続き IE11 を使用して Lightning Experience にアクセスできます。
- IE11 の延長サポートを選択すると、2020 年 12 月 31 日まで引き続き IE11 を使用して Lightning Experience にアクセスできます。
- IE11 での Lightning Experience の使用には、重大なパフォーマンスの問題があります。
- この変更は、Salesforce Classic または Salesforce コミュニティを使用した組織のユーザには影響しません。

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Lightning Experience	IE 11 (2020 年 12 月 31 日にサポート終了)	最新	最新	最新	10.x+
Lightning コンソールアプリケーション	IE 11 (2020 年 12 月 31 日にサポート終了)	最新	最新	最新	10.x+
Lightning コミュニティ	IE 11	最新	最新	最新	10.x+

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
設定に関する特別な考慮事項?	なし	なし	なし	なし	なし
制限事項?	あり	あり	なし	あり	あり

メモ: 「最新バージョン」の用語は、ブラウザベンダによって定義されます。ブラウザのサポートを使用して「最新バージョン」の意味を確認してください。

Microsoft Internet Explorer バージョン 11 を使用した Lightning Experience へのアクセスのサポートの延長

2017 年 12 月 16 日の廃止日以降も Lightning Experience で Internet Explorer 11 を引き続き使用するには、IE11 の延長サポートを選択します。

IE11 延長サポートは 2020 年 12 月 31 日まで利用できます。この延長期間によって、Lightning Experience の利点を活用しつつ、IE11 から最新の安全なブラウザへと移行する時間を確保できます。

IE11 のサポート延長についての詳細 (サポート対応される事項、サポート対応されない事項、実行する必要のある手順など) は「Microsoft Internet Explorer 11 を使用した Lightning Experience へのアクセスのサポート延長」を参照してください。

重要: IE11 は Lightning Experience でパフォーマンス上の顕著な問題が生じる点に注意してください。

エディション

Lightning Experience を使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

Salesforce Classic でサポートされるブラウザ

Salesforce Classic は、Microsoft® Internet Explorer® バージョン 9、10、11 および macOS の Apple® Safari® バージョン 10.x でサポートされています。また、Microsoft Edge、Mozilla® Firefox®、および Google Chrome™ の最新の安定バージョンでもサポートされています。いくつか制限事項があります。

メモ: モバイルブラウザでの Salesforce Classic の使用はサポートされていません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce アプリケーションを使用することをお勧めします。Salesforce でサポートされるモバイルブラウザについては、「Salesforce アプリケーションの要件」を参照してください。

エディション

Salesforce Classic を使用可能なエディション: すべてのエディション

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Salesforce Classic	IE 9+	最新	最新	最新	10.x+

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Salesforce コンソール	IE 9+	最新	最新	最新	なし
設定に関する特別な考慮事項?	あり	なし	なし	あり	なし
制限事項?	あり	あり	なし	なし	あり

メモ:

- 「最新バージョン」の用語は、ブラウザベンダによって定義されます。ブラウザのサポートを使用して「最新バージョン」の意味を確認してください。
- Salesforce Classic での Microsoft® Internet Explorer® バージョン 7 および 8 のサポートは、Summer '15 をもって終了しています。

Salesforce 全体: Lightning Experience 準備状況チェック、コンソール、検索による生産性の向上

再設計された準備状況チェックを使用して、営業チームの生産性に Lightning Experience がどの程度の影響を与えているのかを測定します。Lightning Experience のデザインが新しくなり、一段と作業しやすくなりました。スタイルと新しい機能を兼ね備えた Lightning Experience の検索結果ページでは、簡単に列のサイズを変更し、テキストを折り返し、レコードを並び替えることができます。コンソールユーザは、お気に入り、ナビゲーションルール、2 つの新しいコンポーネントを使用して、すばやく作業できます。

このセクションの内容:

Lightning Experience のデザインの変更

お客様からのフィードバックに基づき、情報密度、読みやすさ、コントラストが改善され、色も若干追加されました。そのため、スクロールしたり目を通したりする時間が減り、重要なことに集中できる時間が増えます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

検索: 調整可能な検索結果列とさらにスマートになったインスタント結果

インスタント結果のドロップダウンリストに、便利な 2 つの機能が追加されました。ユーザが入力語句を間違えた場合も、スペル修正機能によって効率的に検索できます。また、検索語に取引先名を含めると、取引先責任者と商談とが一致する結果をすばやく確認できます。検索結果ページでは、ユーザが列幅とテキスト折り返しを調整できます。また、結果の並び替えが簡単になり、ナレッジ記事の結果も並べ替えられるようになりました。サポート担当は外部ドキュメントをケースに添付することができ、管理者はどの外部ドキュメントが添付されたのかをレポートできます。Lightning Experience と Salesforce Classic では、使用できる機能が異なります。

Lightning コンソールアプリケーション: お気に入りとカスタマイズされたナビゲーション

多くの機能が Salesforce Classic コンソールアプリケーションから Lightning Experience へと移行され、新機能も追加されています。Lightning コンソールアプリケーションでレコードをどのように開くのかを定義し、新しいコンポーネントを Lightning ページに追加することで、ユーザが一段と迅速に作業できるようになります。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

新しいブラウザタブでお気に入りを開く

お気に入りへのアクセスがさらに簡単になりました。お気に入りを右クリックし、新しいタブで開けるようになりました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

キーボードショートカットを使用した移動の迅速化

新しいキーボードショートカットを使用すると、ユーザはコンソールと標準ナビゲーション Lightning アプリケーションの両方でより効率的に作業できます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

管理パッケージからインストールされた Lightning アプリケーションへのタブの追加

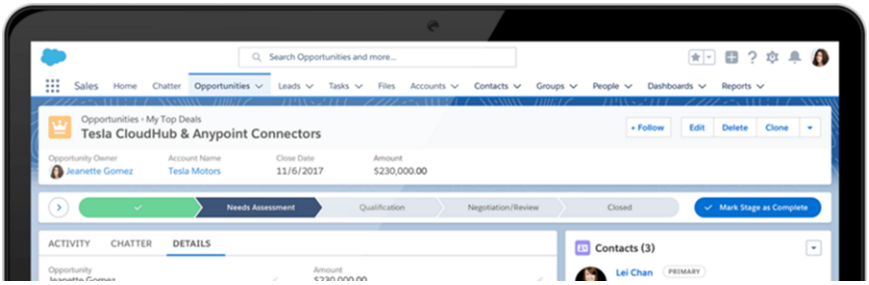
管理パッケージについて作業しているときに頻繁にアクセスする Salesforce 機能はありますか? 管理パッケージから Lightning アプリケーションをインストールする場合、アプリケーションに標準ナビゲーション項目やカスタムタブを追加できます。これは、Lightning Experience の新機能です。

新しい Trailblazer コミュニティで共につながり、学び、道を切り拓く

Success コミュニティは、Trailblazer コミュニティになりました。名称変更に伴い、より簡単に回答を検索したり、アイデアを共有したり、コミュニティとつながったりできるようにホームページを再設計しました。Success コミュニティのすべての優れた要素に、Trailhead の魔法の粉を振りかけました。

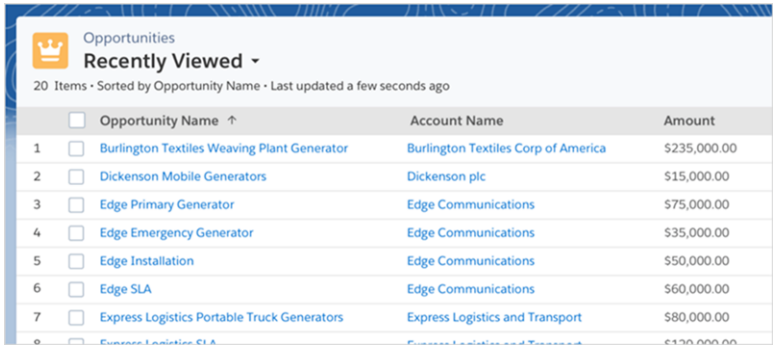
Lightning Experience のデザインの変更

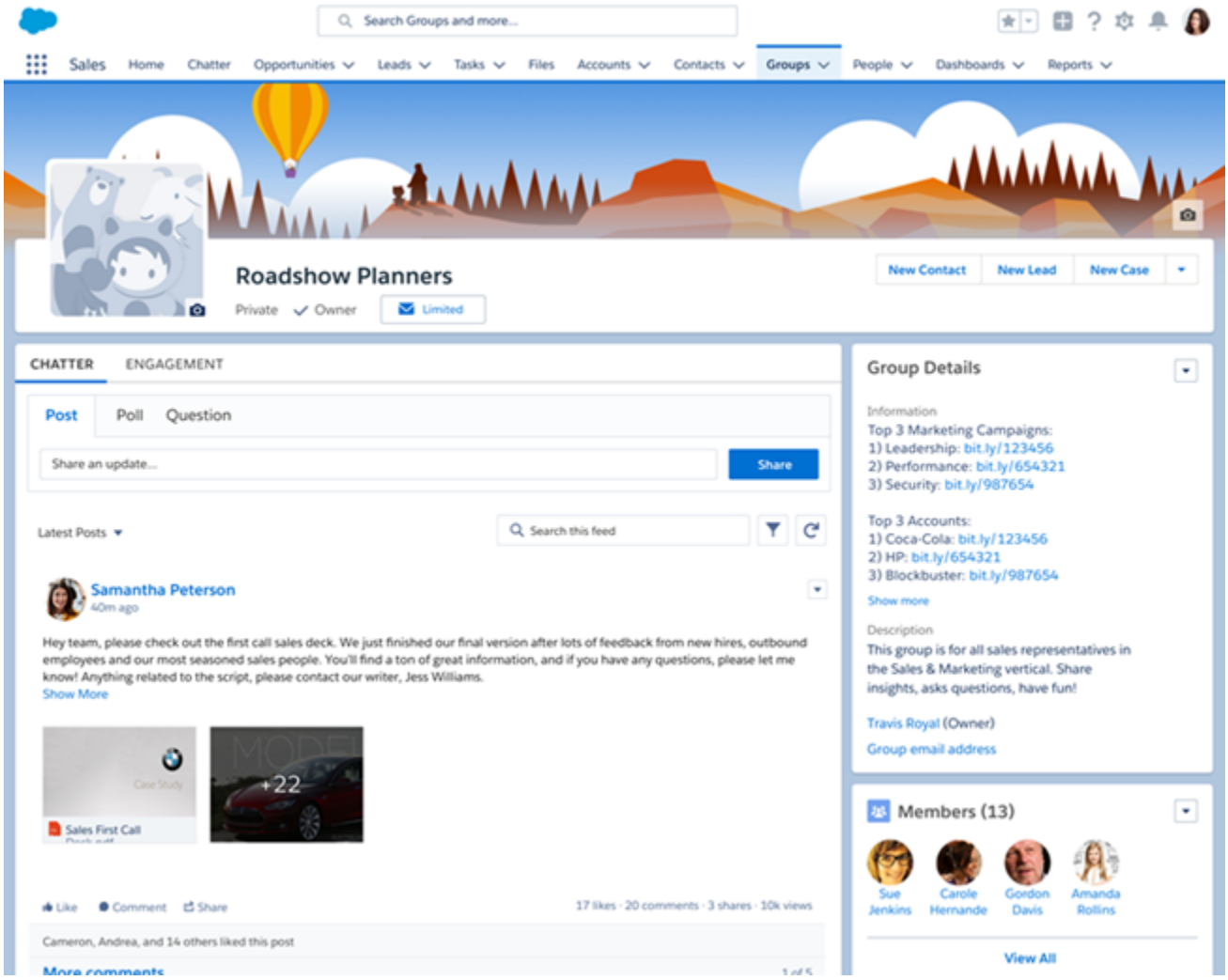
お客様からのフィードバックに基づき、情報密度、読みやすさ、コントラストが改善され、色も若干追加されました。そのため、スクロールしたり目を通したりする時間が減り、重要なことに集中できる時間が増えます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。



次に、変更内容の詳細を示します。

- 情報密度が高まって空白が減ったことで、スクロールせずに必要な情報を参照できるようになりました。
- 読みやすさが向上し (フォントのサイズと色を考慮)、最も重要な情報が目立つようになりました。
- フォアグラウンドとバックグラウンドのコントラストが改善され、必要な情報にフォーカスしたまま、全体に目を通すことやスクロールすることが容易になりました。Salesforce の Trailhead からヒントを得て、色と背景画像も追加されました。





これらの機能強化を使用開始するにあたってユーザ側で行うことはありません。ただし、必要に応じて、背景画像と青色はニュートラルグレーに変更できます。[設定]で、[クイック検索]ボックスに「*テーマおよびブランド設定*」と入力し、[テーマおよびブランド設定] を選択して [非表示] を選択します。

検索: 調整可能な検索結果列とさらにスマートになったインスタント結果

エディション

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

インスタント結果のドロップダウンリストに、便利な 2 つの機能が追加されました。ユーザが入力語句を間違えた場合も、スペル修正機能によって効率的に検索できます。また、検索語に取引先名を含めると、取引先責任者と商談とが一致する結果をすばやく確認できます。検索結果ページでは、ユーザが列幅とテキスト折り返しを調整できます。また、結果の並び替えが簡単になり、ナレッジ記事の結果も並べ替えられるようになりました。サポート担当は外部ドキュメントをケースに添付することができ、管理者はどの外部ドキュメントが添付されたのかをレポートできます。Lightning Experience と Salesforce Classic では、使用できる機能が異なります。

このセクションの内容:

検索結果ページの列サイズ変更、テキスト折り返し、簡単な並び替え

検索結果の列幅を調整したり、長い行のテキストを折り返したりすることで、上下にスクロールしなくても、ユーザは結果を表示できます。また、改善された並び替えメニューを利用して、検索結果を順番に表示できます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

改善されたインスタント結果機能による適切なレコードのいち早い取得

検索結果ページを開かずとも、適切なレコードを見つけられます。スペル修正機能がインスタント結果に導入されました。また、取引先責任者または商談に関連する取引先をユーザが把握している場合、より関連性の高い項目がインスタント結果に表示されます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

デフォルトの上位の結果への関連性の高いオブジェクトの表示

ユーザが Salesforce の使用を初めて開始するとき、検索結果ページの [上位の結果] には Lightning Experience ナビゲーションバーと同じ項目が含まれています。ユーザが検索履歴の構築を開始すると、デフォルトリストは、よく使用されるオブジェクトで置き換えられます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

Analytics、パートナー資金、サービスクルーレコードが検索可能です。この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

拡張クイック検索で設定の高速検索

クイック検索では、関連検索の結果、グローバル検索へのリンクなど、必要なものを見つける方法が追加されました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

関連トピック:

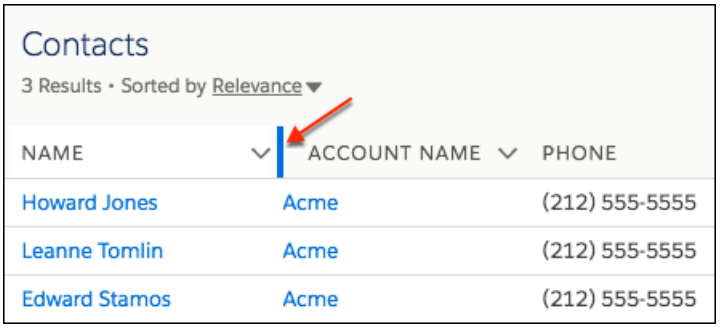
ナレッジ検索: 記事の結果の並び替えとケースへの外部ドキュメントの添付
新しい項目を使用したファイル検索結果の並び替え
イベントログファイルによるユーザ検索とクリックの追跡

検索結果ページの列サイズ変更、テキスト折り返し、簡単な並び替え

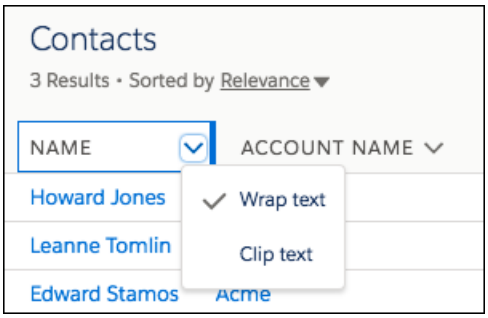
検索結果の列幅を調整したり、長い行のテキストを折り返したりすることで、上下にスクロールしなくても、ユーザは結果を表示できます。また、改善された並び替えメニューを利用して、検索結果を順番に表示できます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

サイズ変更と折り返し

列幅を調整するには、列ヘッダーの境界線をクリックしてドラッグします。

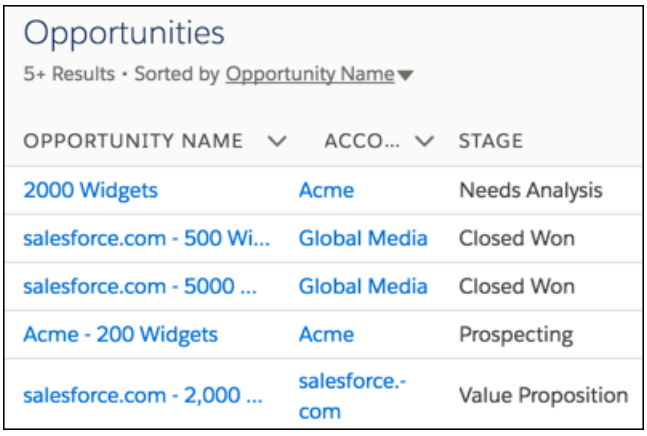


列のテキスト折り返し設定を変更するには、列ヘッダーの下矢印をクリックします。



列幅とテキスト折り返し設定は保存されるため、以降の結果も同じように表示されます。なお、ToDo、行動、ダッシュボードの検索結果は例外で、次回検索時にはデフォルト表示に戻ります。

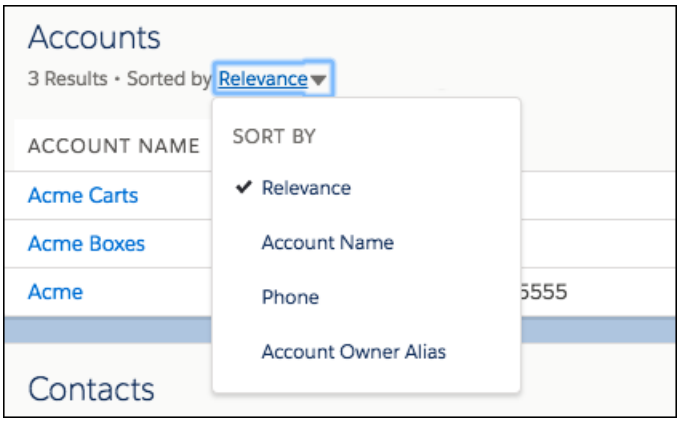
デフォルトでは、テキスト折り返しはオンです。ユーザがテキスト折り返しをオフにしている場合、省略記号はテキストが長すぎて列に収まらないことを示します。列ヘッダーの表示ラベルの長さにより、列の最小幅が決まります。



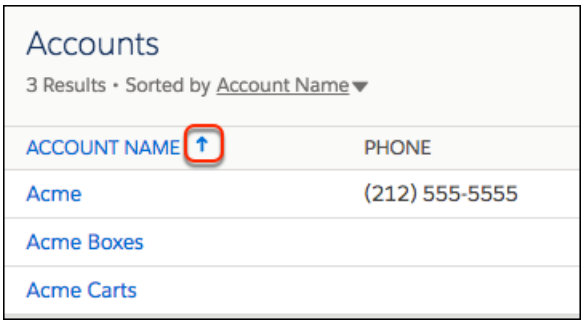
列のサイズ変更とテキスト折り返しは、外部ソースの検索結果では使用できません。

結果の並び替え

検索結果を並び替えるには、列ヘッダーをクリックするか、新しいデザインの並び替えメニューを使用します。

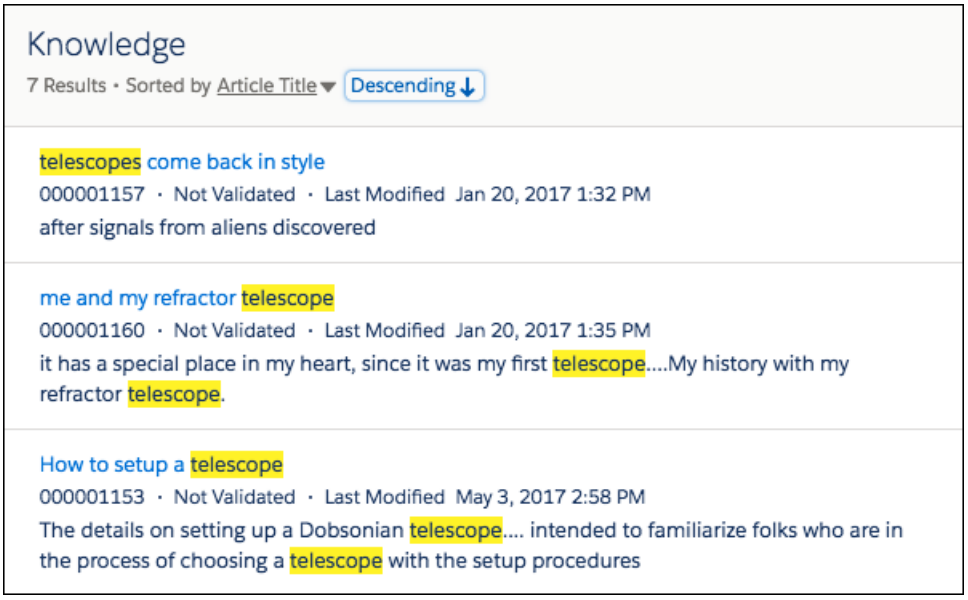


並び替え方向を変更するには、列ヘッダーの矢印をクリックします。



ナレッジ記事の検索結果の場合、並び替えメニューで並び替える項目を選択して、[昇順] または [降順] リンクを使用して並び替えの方向を変更します。

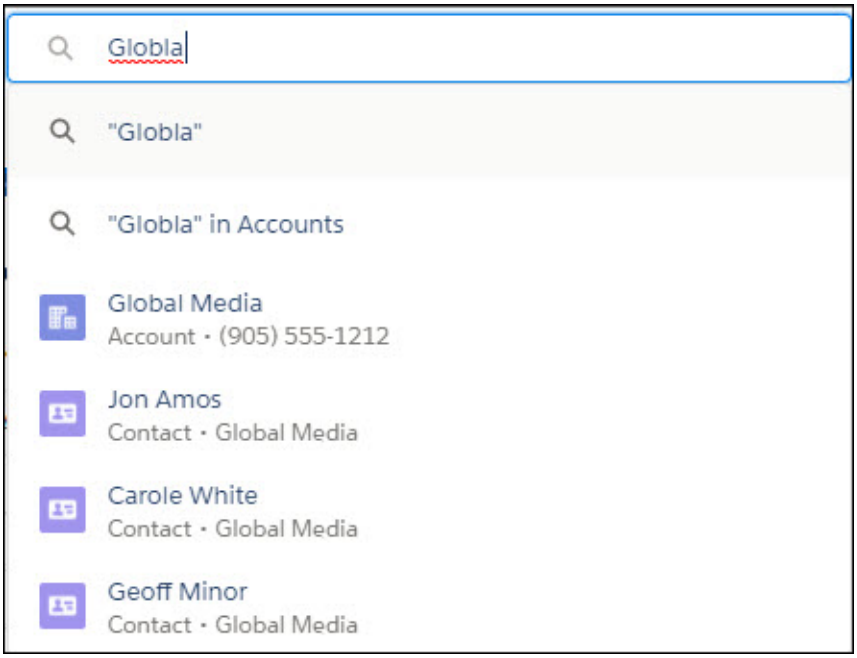
関連性で並び替えた場合は、最も関連性の高い結果が常に先頭に表示されます。



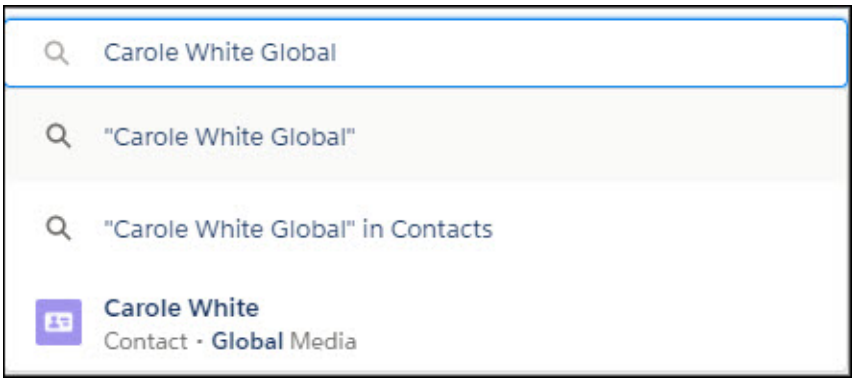
改善されたインスタント結果機能による適切なレコードのいち早い取得

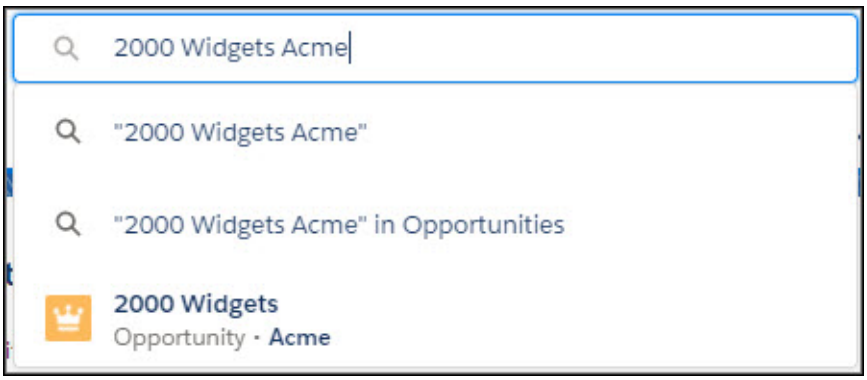
検索結果ページを開かずとも、適切なレコードを見つけられます。スペル修正機能がインスタント結果に導入されました。また、取引先責任者または商談に関連する取引先をユーザが把握している場合、より関連性の高い項目がインスタント結果に表示されます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

検索語のスペルミスが原因で結果が返されないときには、検索語の修正されたスペルに一致する項目がユーザに表示されます。Salesforce はレコード名のみを確認します。複数の検索語が入力された場合でも、スペル修正は 1 つの検索語にしか機能しません。複数の検索語のスペルが間違っている場合、間違いのある最初の検索語のみが修正されます。



ユーザが取引先責任者や商談を検索する場合、取引先名を入力すると、より関連性の高い検索結果が表示されます。たとえば、Global Media という企業に関連する取引先責任者の Carole White をすばやく検索するには、「`Carole White Global`」と入力します。





この機能は、取引先責任者、商談、取引先に対してのみ機能します。

メモ: この関連レコード検索機能は、リリースの公開後、最大 1 か月のローリング方式で、組織で使用できるようになります。その間、レコードの再インデックス付けが行われます。再インデックス付けされると、新しい機能を使用してレコードを検索できるようになります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 検索結果に表示される検索語のバリエーションは? (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

デフォルトの上位の結果への関連性の高いオブジェクトの表示

ユーザが Salesforce の使用を初めて開始するとき、検索結果ページの [上位の結果] には Lightning Experience ナビゲーションバーと同じ項目が含まれています。ユーザが検索履歴の構築を開始すると、デフォルトリストは、よく使用されるオブジェクトで置き換えられます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Lightning アプリケーションの Lightning Experience ナビゲーションバーを変更することで、[上位の結果] にデフォルトで表示されるオブジェクトを指定できます。ユーザがグループと人を使用する場合、メニューにそれらのオブジェクトを必ず含めてください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning アプリケーションの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

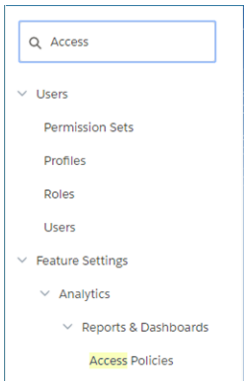
Analytics、パートナー資金、サービスクルーレコードが検索可能です。この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

オブジェクト	Salesforce Classic に新規追加	Lightning Experience に新規追加	Salesforce モバイル Web に新規追加	Salesforce for iOS/Android に新規追加
Analytics (ダッシュボードとレンズ)		✓		
チャネルプログラム	✓	✓	✓	✓
チャネルプログラムレベル	✓	✓	✓	✓
パートナー資金割り当て	✓	✓	✓	✓
パートナー資金要求	✓	✓	✓	✓
パートナー資金リクエスト	✓	✓	✓	✓
パートナーマーケティング予算	✓	✓	✓	✓
サービスクルー	✓	✓	✓	✓
サービスクルーメンバー	✓	✓	✓	✓

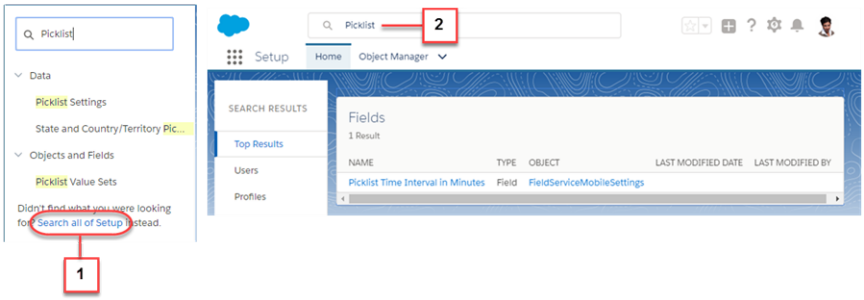
拡張クイック検索で設定の高速検索

クイック検索では、関連検索の結果、グローバル検索へのリンクなど、必要なものを見つける方法が追加されました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

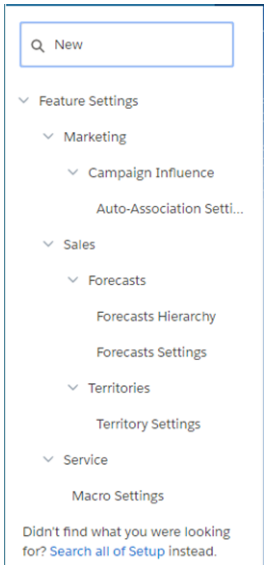
[設定] に何が含まれているのか、あるいは Salesforce 用語について、まだ十分には把握できていませんか? クイック検索を利用すると、関連項目の結果が返されるようになりました。たとえば、「アクセス」を検索すると、検索結果には「*権限セット*」が表示されます。



クイック検索で探しているものが見つかりませんか?検索結果の下部にあるリンク(1)をクリックして、すべての [設定] を対象に検索を実行します (2)。



[設定] の新しい機能を知りたいですか?[クイック検索] で「*新規*」を検索すると、新規の設定ノードが表示されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience の検索可能な設定オブジェクト (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning コンソールアプリケーション: お気に入りとカスタマイズされたナビゲーション

多くの機能が Salesforce Classic コンソールアプリケーションから Lightning Experience へと移行され、新機能も追加されています。Lightning コンソールアプリケーションでレコードをどのように開くのかを定義し、新しいコンポーネントを Lightning ページに追加することで、ユーザが一段と迅速に作業できるようになります。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

段階的な手順: Lightning コンソールアプリケーションを探索する

メモ: Lightning コンソールアプリケーションは、まだ Salesforce Classic コンソールアプリケーションと完全に同じ機能を使用できるわけではありません。たとえば、転送通知やマルチモニターサポートなどの Salesforce Classic コンソールアプリケーションの一部の機能は、Lightning コンソールアプリケーションでは使用できません。詳細はこちらを参照してください。

Salesforce Classic コンソールアプリケーションを Lightning Experience に移行することもできません。

エディション

使用可能なインターフェース: Lightning Experience

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

このセクションの内容:

コンソールアプリケーションでのお気に入りの使用
よくアクセスするページ、重要なレコード、リスト、グループ、ダッシュボードを、ユーザがすぐ使用できるようにします。お気に入りは Web ブラウザのブックマークに似ていて、頻繁に使用する項目にすばやくアクセスできるようにします。これは、Lightning Experience の新機能です。

ナビゲーションルールを使用してコンソールアプリケーションで関連レコードを自動的に開く
ナビゲーションルールを使用すると、コンソールユーザのワークフローがより効率的になります。たとえば、ユーザが取引先責任者をクリックしたときに取引先責任者の関連取引先のサブタブを開くように、ナビゲーションルールを設定できます。これは、Lightning Experience の新機能です。

Lightning コンソールアプリケーションでの Cmd + クリックを使用した作業の迅速化
Cmd キーを押しながらクリックするだけで、新しいワークスペースタブをバックグラウンドで開くことができます。ユーザは、Lightning コンソールアプリケーションのリンクをクリックして、作業中の内容にフォーカスしたままレコードを開くことができます。これは、Lightning Experience の新機能です。

Lightning コンソールアプリケーションでのマクロの使用

Lightning Experience でマクロを使用して、よく実行する繰り返しタスクを自動化し、問題を効率よく解決します。コンソールユーザがマクロを使用できるようにするには、マクロユーティリティをLightningコンソールアプリケーションに追加します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

コンソールアプリケーションページへのマイルストンコンポーネントとアコーディオンコンポーネントの追加

マイルストンコンポーネントでは、ユーザは、ケースの有効なマイルストン、完了したマイルストン、違反したマイルストンを参照できます。アコーディオンコンポーネントでは、ユーザは、複数のコンテンツ領域を持つ縦に積み上げられたセクションのコレクションから情報にすばやくアクセスできます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

参照のみの項目をコンソールの関連レコードコンポーネントで表示

関連レコードコンポーネントに参照のみの項目が表示されるようになり、コンソールユーザは[最終更新者]や [商品画像] などの項目を表示できます。

関連トピック:

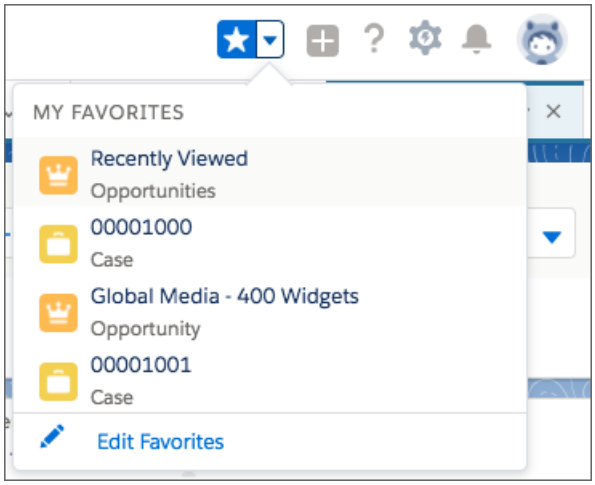
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Experience コンソールの制限事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning コンソールアプリケーションで使用可能な機能(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コンソールアプリケーションでのお気に入りの使用

よくアクセスするページ、重要なレコード、リスト、グループ、ダッシュボードを、ユーザがすぐ使用できるようにします。お気に入りは Web ブラウザのブックマークに似ていて、頻繁に使用する項目にすばやくアクセスできるようにします。これは、Lightning Experience の新機能です。

をクリックすると現在のページが追加されます。星印が強調表示されていれば、現在のページはすでにお気に入りに入っています。お気に入りを削除するには、強調表示された星印をクリックします。

お気に入りリストにはすべてのお気に入りが表示されます。



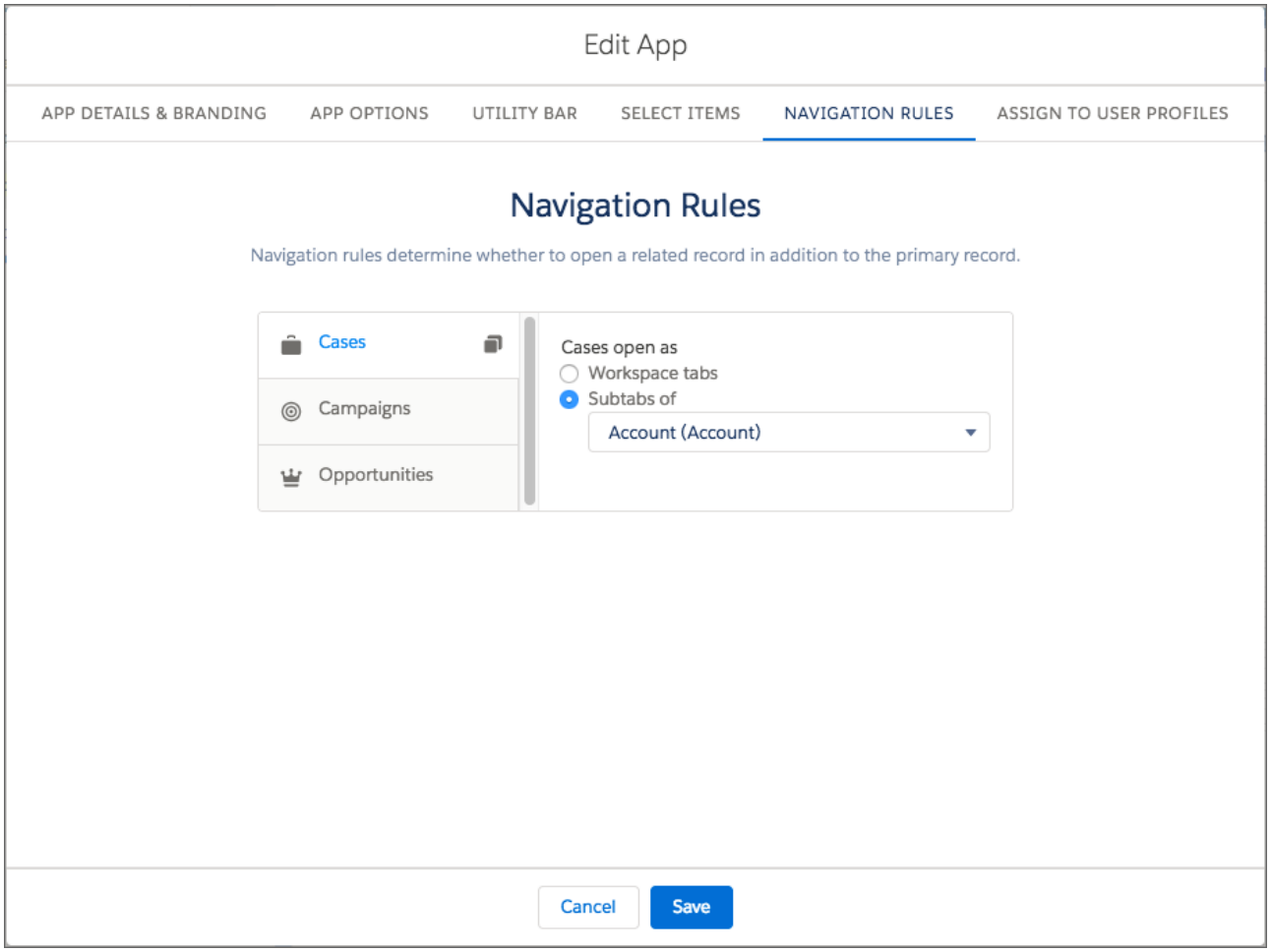
関連トピック:

Salesforce ヘルプ: お気に入りを使用した上位 Salesforce ページへのショートカットの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ナビゲーションルールを使用してコンソールアプリケーションで関連レコードを自動的に開く

ナビゲーションルールを使用すると、コンソールユーザのワークフローがより効率的になります。たとえば、ユーザが取引先責任者をクリックしたときに取引先責任者の関連取引先のサブタブを開くように、ナビゲーションルールを設定できます。これは、Lightning Experience の新機能です。

1. [設定]から、[クイック検索]ボックスに「アプリケーションマネージャ」と入力し、[アプリケーションマネージャ] をクリックします。
2. カスタマイズするアプリケーションの横にあるドロップダウンをクリックし、[編集] をクリックします。
3. アプリケーションマネージャで、[ナビゲーションルール] タブをクリックします。
4. そこから、オブジェクトを選択し、ワークスペースタブとして開くか関連レコードのサブタブとして開くかを選択します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: カスタム Lightning コンソールアプリケーションの作成と編集 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning コンソールアプリケーションでの Cmd + クリックを使用した作業の迅速化

Cmd キーを押しながらクリックするだけで、新しいワークスペースタブをバックグラウンドで開くことができます。ユーザは、Lightning コンソールアプリケーションのリンクをクリックして、作業中の内容にフォーカスしたままレコードを開くことができます。これは、Lightning Experience の新機能です。

関連トピック:

キーボードショートカットを使用した移動の迅速化

Lightning コンソールアプリケーションでのマクロの使用

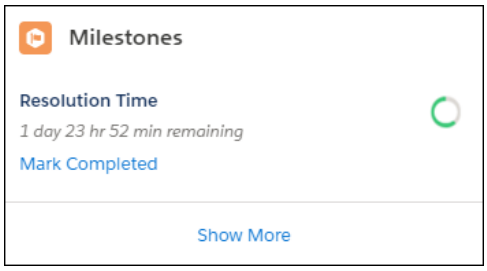
Lightning Experience でマクロを使用して、よく実行する繰り返しタスクを自動化し、問題を効率よく解決します。コンソールユーザがマクロを使用できるようにするには、マクロユーティリティを Lightning コンソールアプリケーションに追加します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

詳細は、「マクロ: サポートエージェントの効率と顧客の満足度が向上」を参照してください。

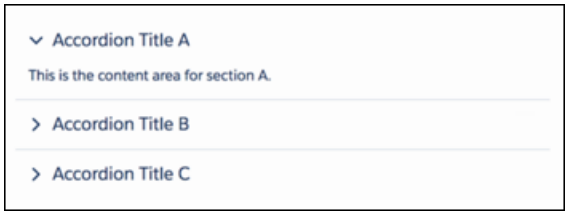
コンソールアプリケーションページへのマイルストンコンポーネントとアコーディオンコンポーネントの追加

マイルストンコンポーネントでは、ユーザは、ケースの有効なマイルストン、完了したマイルストン、違反したマイルストンを参照できます。アコーディオンコンポーネントでは、ユーザは、複数のコンテンツ領域を持つ縦に積み上げられたセクションのコレクションから情報にすばやくアクセスできます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

マイルストンコンポーネントは、Salesforce Classic のケースマイルストントラッカーに似ています。マイルストンコンポーネントを追加するには、Lightning アプリケーションビルダーでケースレコードページを編集し、ページに [マイルストン] コンポーネントをドラッグします。このコンポーネントはケースにのみ使用できます。



アコーディオンコンポーネントはタブコンポーネントに似ていますが、タブが水平方向であるのに対してアコーディオンは垂直方向に積み上げられます。アコーディオンコンポーネントは、Lightning アプリケーションビルダーでは使用できません。アコーディオンコンポーネントを作成するには、開発者と協力し、開発者コンソールで `lightning:accordion` コンポーネントを作成します。



関連トピック:

- Lightning Experience でのケースマイルストンの追跡
- 新規追加または変更された Lightning コンポーネント

参照のみの項目をコンソールの関連レコードコンポーネントで表示

関連レコードコンポーネントに参照のみの項目が表示されるようになり、コンソールユーザは[最終更新者]や[商品画像]などの項目を表示できます。

詳細は、「関連レコードコンポーネントで参照のみの項目の表示」を参照してください。

新しいブラウザタブでお気に入りを開く

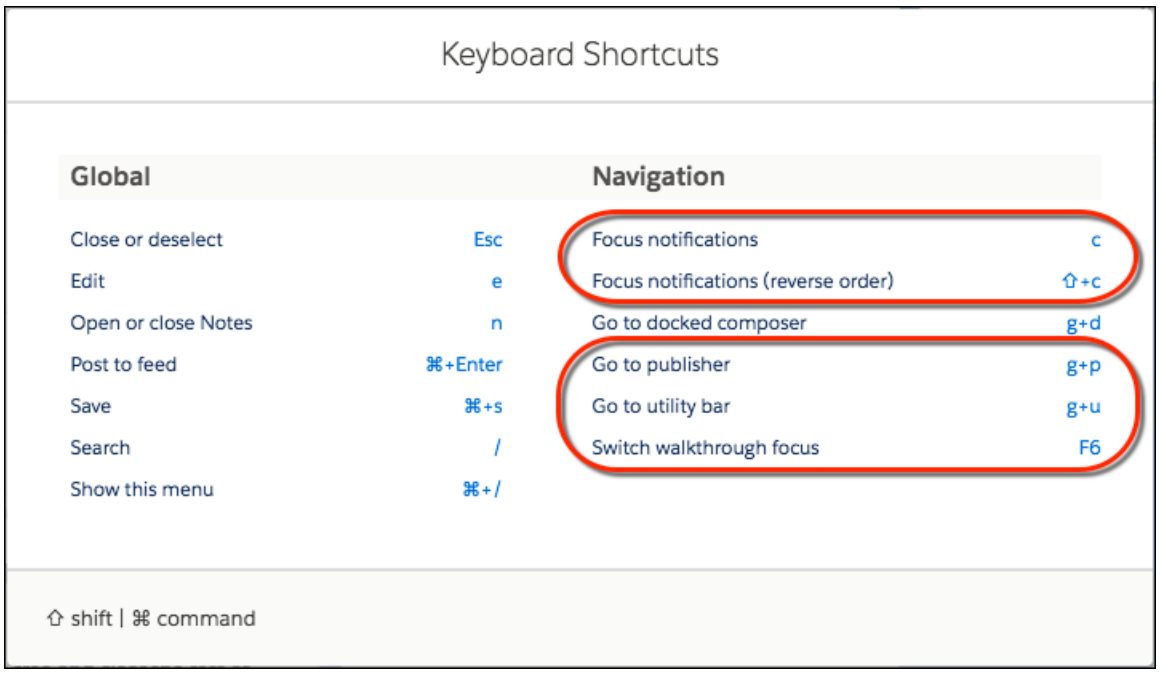
お気に入りへのアクセスがさらに簡単になりました。お気に入りを右クリックし、新しいタブで開けるようになりました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

キーボードショートカットを使用した移動の迅速化

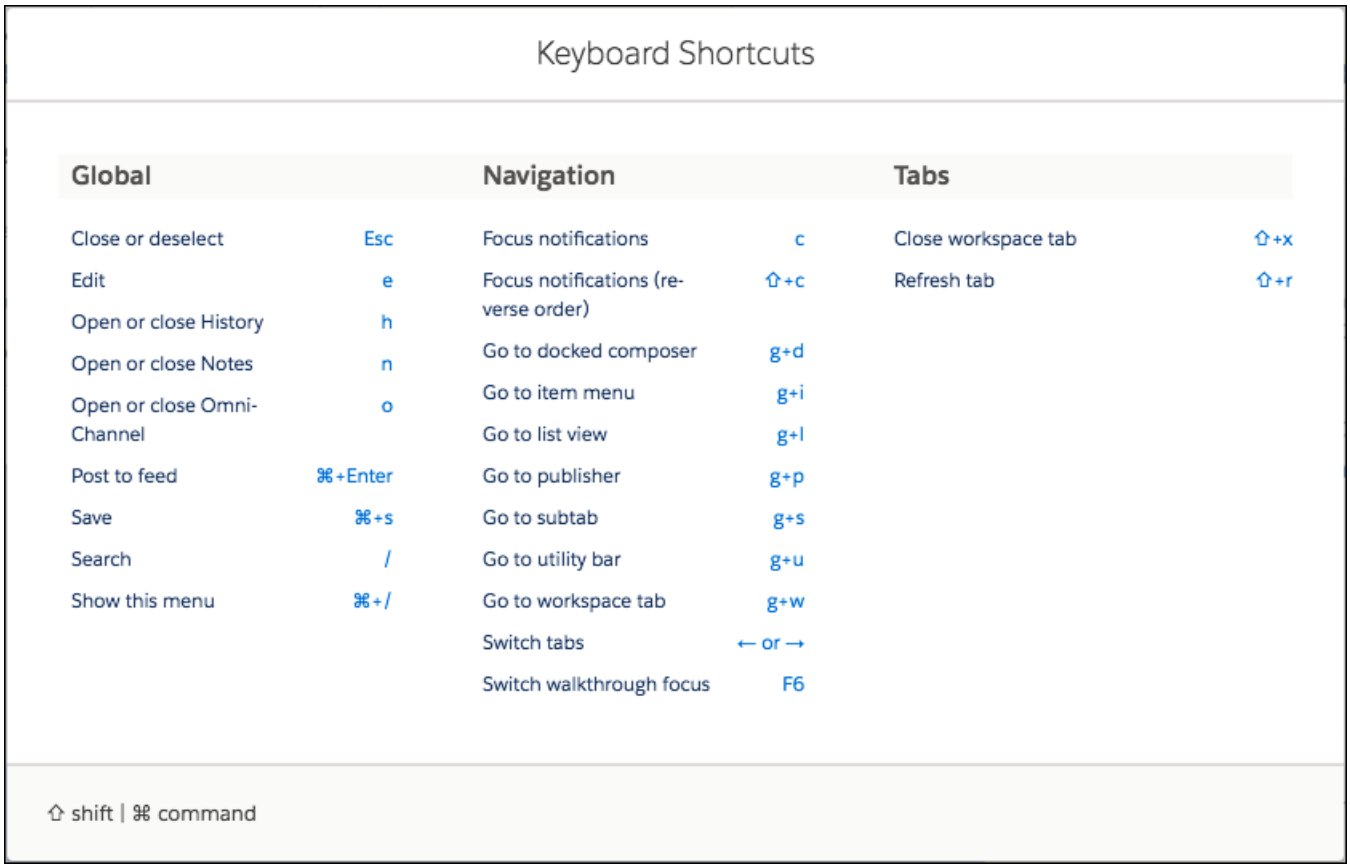
新しいキーボードショートカットを使用すると、ユーザはコンソールと標準ナビゲーション Lightning アプリケーションの両方でより効率的に作業できます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

使用できるキーボードショートカットを参照するには、次のキーを押してください。

- Windows: Ctrl+/
- macOS: Cmd+/



Lightning コンソールアプリケーションには追加のキーボードショートカットがあります。



次のキーボードショートカットが新規追加されました。

ウォークスルーのフォーカスを切り替える	F6
通知にフォーカスを置く	C
通知にフォーカスを置く (逆順)	Shift+C
ユーティリティバーに移動する	G+U
ドッキングされたコンポーザに移動する	G+D

関連トピック:

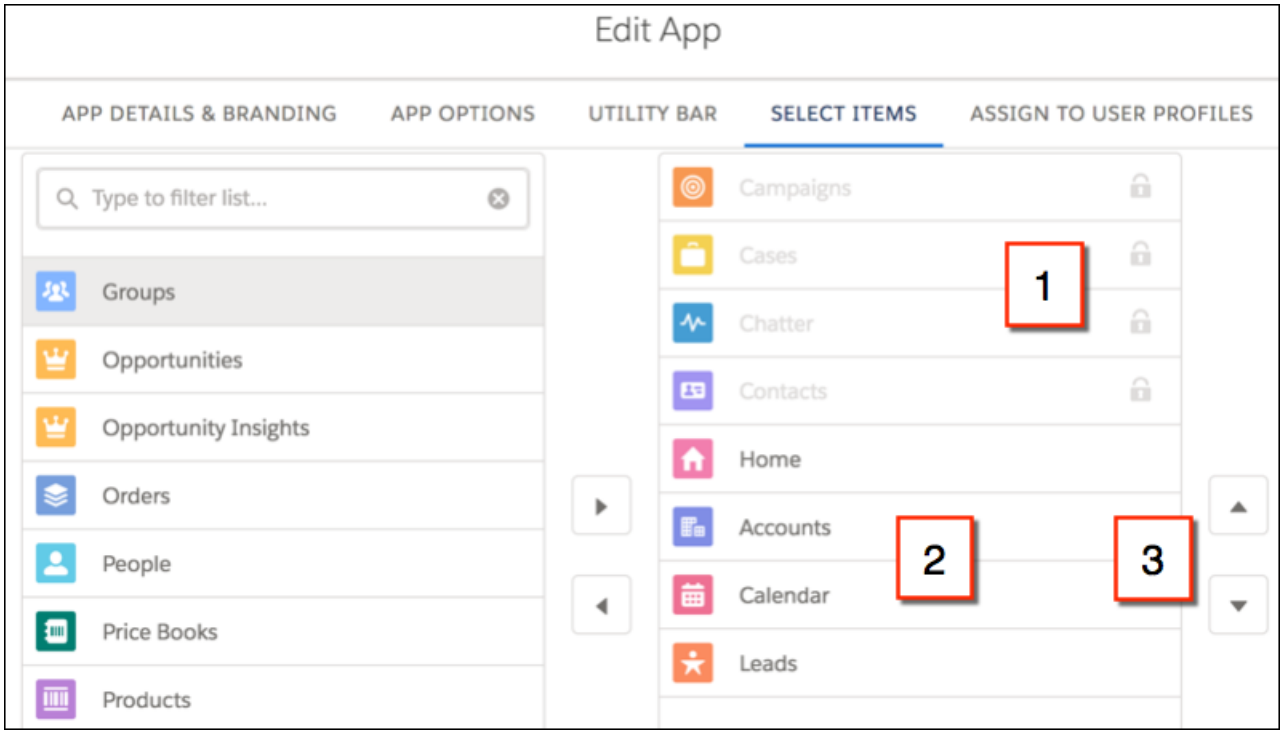
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Experience のキーボードショートカット (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning コンソールアプリケーションのキーボードショートカット (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

管理パッケージからインストールされた Lightning アプリケーションへのタブの追加

管理パッケージについて作業しているときに頻繁にアクセスする Salesforce 機能はありますか? 管理パッケージから Lightning アプリケーションをインストールする場合、アプリケーションに標準ナビゲーション項目やカスタムタブを追加できます。これは、Lightning Experience の新機能です。

たとえば、カレンダーや [取引先] タブを追加します。

1. [設定] から Lightning Experience アプリケーションマネージャを開くと、アプリケーションのリストが表示されます。
2. 独自のタブを追加する Lightning アプリケーションを選択し、[編集] をクリックします。



3. [アプリケーションを編集する] ウィンドウで [項目を選択] をクリックします。

   Lightning アプリケーションに組み込まれているタブのリストが右側に表示されます。ロックされているアイコン (1) は、このタブのセットが固定されていて変更できないことを示します。

4. 組み込むタブを左側のリストからそれぞれ選択し、右側のリスト (2) に移動します。
5. タブの順序を変更するには、上下矢印キーをクリックします (3)。

   追加されたタブは、常に Lightning アプリケーションタブの下にまとめて表示されます。

関連トピック:

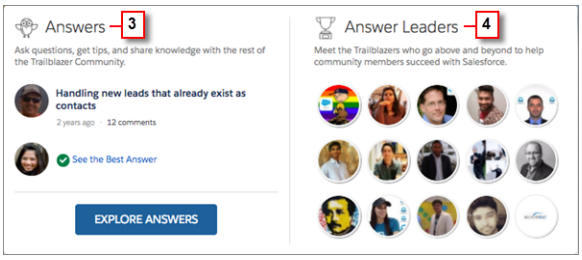
Salesforce ヘルプ: Lightning アプリケーション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新しいTrailblazerコミュニティで共につながり、学び、道を切り拓く

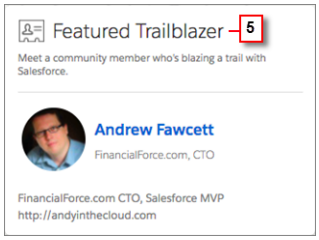
Successコミュニティは、Trailblazerコミュニティになりました。名称変更に伴い、より簡単に回答を検索したり、アイデアを共有したり、コミュニティとつながったりできるようにホームページを再設計しました。Successコミュニティのすべての優れた要素に、Trailheadの魔法の粉を振りかけました。

ホームページの上部からは、これまでどおり[アンサー]や[アイデア]といったよく使われるリソースにすばやくアクセスできます(1)。人やコンテンツを検索しやすくするために、2つの小さな検索ボックスを1つの大きなボックスに置き換えて検索環境を簡略化しました(2)。

[アンサー]セクション(3)には、コミュニティのトレンドな質問と最良の回答のプレビューが表示されるようになりました。トレンドな質問の横には、回答や知識の共有に大きく貢献しているTrailblazerが表示されます(4)。



[コラボレーション]セクションには、コミュニティのどこで会話が行われているのかが表示され、参加しやすくなりました。また、コミュニティを特別なものとする要素である「人」にもスポットライトを当てています。新しい[Featured Trailblazer(注目のTrailblazer)]セクション(5)で、Salesforceを使用してキャリアアップしているコミュニティ内のユーザと知り合うことができます。



Trailblazerコミュニティを探索するときに、自分のプロファイルにアクセスし、個人情報や業務経験を確認してください。プロファイル写真が古い場合は、更新するいい機会です。「注目のTrailblazer」に次になるのはあなたかもしれません!

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Lightning Experience は、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、UI プラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。このリリースでの新機能と考慮事項を確認してください。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

このリリースの Lightning Experience の機能
Lightning Experience は、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、UI プラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。このリリースでの新機能と考慮事項を確認してください。

Winter '18 の Lightning Experience で使用できない機能と新機能
Lightning Experience の新機能と機能強化に関する次のトピックを参照して、ビジネスに不可欠な機能がこのリリースで制限されたり、使用できなくなったりしていないか確認してください。

このリリースの Lightning Experience の機能

Lightning Experience は、まったく新しい概念のインターフェースです。さらに、UI プラットフォームで構築されているため、ニーズに伴いエクスペリエンスの成長および進化が可能です。このリリースでの新機能と考慮事項を確認してください。

Lightning Experience: 最新のインテリジェントなユーザエクスペリエンス

Salesforce 全体

Lightning Experience のデザインの変更

Lightning コンソールアプリケーション: お気に入りとカスタマイズされたナビゲーション

新しいブラウザタブでお気に入りを開く

キーボードショートカットを使用した移動の迅速化

管理パッケージからインストールされた Lightning アプリケーションへのタブの追加

新しい Trailblazer コミュニティで共につながり、学び、道を切り拓く

検索

検索結果ページの列サイズ変更、テキスト折り返し、簡単な並び替え

改善されたインスタント結果機能による適切なレコードのいち早い取得

デフォルトの上位の結果への関連性の高いオブジェクトの表示

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

拡張クイック検索で設定の高速検索

セールス

Trailhead: Lightning Experience 機能の最適化、Outlook および Gmail との統合

Sales Cloud Einstein: セールスプロセスの各ステップのスマート化

中核的なセールス機能

リード: 柔軟性の向上で迅速化されたリードの取引開始

取引先: 簡単になった有効化プロセス、Lightning Experience での個人取引先のマージのサポート、改善された共有モデル

キャンペーン: 複数接触のキャンペーンインフルエンスおよびその他の改善

コラボレーション売上予測: 売上予測の機能強化

エンタープライズテリトリー管理: Lightning Experience での営業テリトリーの設定と管理

商談: 商談チーム、商談商品、取引先責任者の役割、売上予測分類

生産性機能

セールスコンソール: コンソールへの売上予測の導入

メール: リストメールの導入

活動: アーカイブ済みおよび過去の活動、活動タイムラインの検索条件、ToDo アラーム

リストビュー: カスタマイズ、一括インライン編集、テキスト折り返し

メモ: 非公開メモを使用した機密データの守秘

カレンダー: より堅牢になった Lightning Experience のカレンダーオプション

Lightning Dialer: カスタムボイスメール挨拶の録音

ホーム: ToDo コンポーネントの検索条件オプションの追加

データ品質

Lightning Experience での個人取引先のマージ

Lightning Experience で重複レコードセットを使用して重複をまとめる

Lightning Experience でサードパーティのデータを使用して Salesforce レコードの項目を拡張

Google インテグレーション

Lightning for Gmail: 時間の節約につながる機能および新しいインサイト

Lightning Sync for Google: Lightning Sync の設定、行動の双方向同期、サポートされるライセンスの追加に必要な変更

Microsoft® インテグレーション

Lightning for Outlook: 時間の節約につながる機能および新しいインサイト

Lightning Sync for Microsoft Exchange: Service Cloud および Force.com ユーザの設定

Salesforce for Outlook: 必須の重要なアップグレード、使用可能になった次世代製品

セキュリティ

顧客の個人識別情報の暗号化 (正式リリース)

商談の [説明] 項目と [次のステップ] 項目の暗号化 (ベータ)

[商談名] 項目の暗号化 (パイロット)

Sales Cloud のその他の変更

「Salesforce 行動」カレンダーから「私の行動」への名称変更

ブラウザを更新せずにカレンダーの最新変更を Lightning Experience から表示

Data.com の取引先データ評価の廃止

サービス

サービスコンソール: 生産性機能の増加、拡張メール機能、容易な設定

Lightning Knowledge: 複数言語組織、記事アクションの更新、ビデオサポート

オムニチャネル: Lightning Experience および Salesforce Classic における改良

マクロ: サポートエージェントの効率と顧客の満足度が向上

納入商品: 納入商品階層の全体像を把握

フィールドサービス

サービスクルーによるスケジュールの簡略化

サービス予定の新しい割り当てオプション

作業指示および作業指示品目へのサービスレポートテンプレートの割り当て

サービスレポートの複数の署名の機能強化

サービスレポートで再利用されなくなった署名

商品 SKU の追跡

24 時間の時間枠を用いた夜間シフトのスケジュール設定

作業種別の共有ルールの作成

Field Service フローアクションによる時間の節約

レコードタイプによる作業指示の絞り込み

モバイル用 **Field Service**

Android への Field Service Lightning の導入 (正式リリース)

サービスレポートの複数の署名の取得

強化されたサービスレポートのプレビューによるサービスレポートの検証

バックグラウンドモードの地理位置情報の設定

フローのローカライズによる他言語の従業員向けの使いやすさの向上

スマートな製品リクエストによる時間の節約

強化された製品検索を使用して必要な部品を入手

Field Service 管理パッケージ

マップ多角形を使用した地図上でのテリトリーの描画

複数日にわたる作業のスケジュール
複合作業での連動関係のスケジュール
指定作業のための時間枠の予約
すべてのテリトリーでのサービスリソースの表示
リソースガントチャートに表示される不在の制御
緊急度の低い予定を無視して優先度の高い予定をスケジュール
フィールド技術者が自動的に予定をフォロー
コンソールマップ上での予定ルートと実移動ルートの同時表示
Field Service Lightning ユーザに必要なカスタム権限の設定
テリトリーレベルでのドリップフィード派遣設定の制御
ケース
差し込み項目や Salesforce Classic テンプレートによる顧客へのメール送信時間の節約
受信者項目を使用したメールとケース取引先責任者の関連付け
Lightning Experience でのケースマイルストンの使用
ケースのシームレスなコピー
関連リストからのケースコメントの追加
Live Agent
Lightning Experience で顧客とチャット
エージェントのチャットウィンドウの配置と高さの制御
Lightning Experience でチャットの全トランスクリプトへのアクセス
リピート顧客の過去のチャットを使用した会話の継続
チャットヘッダーのプレビューによるエージェントのマルチタスクをサポート
チャットエージェントのツールバーの拡張
Lightning Experience の Live Agent で使用できない機能
Web 用の Snap-in
Snap-in チャットを使用した Lightning Experience での顧客とのチャット
訪問者のブロックによるスパム送信者対策
事前チャットフォームレコードのチャットのトランスクリプトへの自動添付
事後チャットへの顧客情報の伝達
エンタイトルメント管理
Lightning Experience でのサービス契約の管理 (正式リリース)
Lightning Experience でのケースマイルストンの追跡
CTI
lightning:clickToDial コンポーネントを使用したクリック-To-ダイヤル電話番号の作成

Lightning Experience で使用できる Open CTI の notifyInitializationComplete メソッド

ソーシャルカスタマーサービス

ソーシャルカスタマーサービスプロフェッショナルアドオンによるソーシャル活動の活発化

ソーシャルビジネスルールによる短時間でのソーシャルサービス設定

ソーシャル投稿への画像添付で顧客をサポート

ケースフィードで画像添付ファイルのプレビュー

Facebook コメントと返信を非表示にして顧客を非公開でサポート

顧客の詳細を表示する項目をソーシャル人格に追加

ボタンとテキストの Radian6 から Social Studio への移行

その他の変更

Lightning Sync 用に Service Cloud ライセンスのユーザを設定

分析

Einstein Analytics: スマート探索、グローバル検索条件、アップロードウィザード

レポートとダッシュボード

Lightning レポートビルダーの登場でレポート作成が一新 (ベータ)

Quip でレポートを開く

ダッシュボードへの最大 10 列のテーブルの追加 (ベータ)

[ホーム] タブと Lightning アプリケーションにダッシュボードを埋め込む

ダッシュボードのグラフ区分をクリックして絞り込まれたレポートを表示

Lightning Experience の拡張フォルダ共有の機能をフル活用

Lightning Experience のレポートおよびダッシュボードのグラフの機能強化

Lightning Experience のレポートおよびダッシュボードのその他の機能強化

コミュニティ

動的ブランド設定: 1 つのコミュニティ、利用者ごとに異なるデザイン

CMS Connect: パーソナライズ、JSON、より多くの CMS プロバイダのサポート

Lightning テンプレートと **Bolt** ソリューション

カスタマーサービス (Napili) コミュニティの更新

更新された Partner Central コミュニティでより多くのことを行う

カスタマー取引先のポータルの発表、顧客満足を維持するまったく新しい方法

開発者が独自にコミュニティを構築

際限を知らない Lightning Bolt

利用者ターゲティング

ユーザ条件に基づいた利用者の作成

利用者への表示の優先度設定

操作性およびパフォーマンスの改善

無料のコンテンツ配信ネットワークを使用したコミュニティパフォーマンスの高速化 (ベータ)

ナビゲーションの背景色とテキスト色のカスタマイズ

カスタムフォントファミリをより容易に追加

ブラウザキャッシュによるコミュニティのパフォーマンスの向上

Salesforce コミュニティページオプティマイザによるパフォーマンス情報の取得 (正式リリース)

[ページ構造] パネルからコンポーネントを削除

開発者コンソールでのカスタムコンポーネントの編集

コミュニティビルダーで現在の公開済みページを編集

現在のページを更新して変化を確認

Lightning コミュニティ

タイルメニューを使用したより直感的なナビゲーション環境の導入 (ベータ)

自分のプロファイルを編集するためのアクセス権をポータルメンバーに付与

Community 360 を使用した顧客のコミュニティ活動の表示 (正式リリース)

ピアツーピアコミュニティでグローバル検索を使用して必要なものを検索

更新されたテンプレートの新しいユーザプロファイルメニュー

人気のあるファイルの検出

契約、注文、見積、カスタムオブジェクトでパスを使用

Lightning コミュニティページへのフローの埋め込み

ナビゲーションメニューへのグローバルアクションの追加

新しいコミュニティでは Koa および Kokua テンプレートを使用不可

Lightning コミュニティの Chatter

Chatter パブリッシャーへのリッチパブリッシャーアプリケーションの埋め込み (正式リリース)

質問ボタンの活用

ストリームを使用した独自のメガフィードの作成

Salesforce でのすべてのコミュニティストリームの表示 (パイロット)

固定表示投稿による重要な情報の可視性の向上 (ベータ)

ユーザプロファイルへのデフォルトコミュニティの割り当て

絵文字によるコミュニティの活性化

コミュニティでの最適なソリューションの強調表示

組織およびコミュニティごとにトピックの提案を有効化

コミュニティでハッシュタグ付きトピックの追加

ランキング上位のグループを表示するカスタムレポートタイプの作成

コミュニティ内のトピックについてディスカッションしているユーザ数を確認

Lightning コミュニティのファイル

コミュニティでの外部ファイルの取得

ライブラリとフォルダの内容をタイルビューで表示 (ベータ)

パートナーによるファイルのコンテンツ配信および公開リンクの作成を許可

カスタムファイルプレビューコンポーネントの作成

ファイルのアップロードコンポーネントによるアップロード操作の改善

レコード上のファイルを非公開にしておく

Quip を使用した Salesforce 内のドキュメントの作成とコラボレーション

パートナーリレーションの管理

チャネルプログラムとレベルを使用したパートナーの管理

市場開発資金によるパートナーの認知度の向上

Distributed Marketing を使用したパートナーキャンペーンの作成 (パイロット)

コミュニティ分析

Community Pulse で統計を前面中央に配置

Analytics ダッシュボードでのアノテーションを使用したコラボレーション

モデレーション

Community Cloud と Marketing Cloud のインテグレーションによりエンゲージメントを促進 (ベータ)

メンバーエンゲージメントキューですべてを実行

よりきれいに整理され、強力になった待機中のディスカッションキュー

ワークスペースに切り替えて、コミュニティでより多くのことを行う

コミュニティのその他の変更

拡張された変更セットサポートでさらに容易になったコミュニティの移行

Lightning Experience で外部コミュニティユーザを管理

より多くのオブジェクトをコミュニティで使用

Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition でコミュニティを作成 - コミュニティライセンスは不要

ケース、ダッシュボード、グループ、レポートの詳細ページの SEO 対応 URL

記事の URL にレコード ID を含めない

ユーザに基づいたコミュニティのログイン環境のカスタマイズ

トピック別上位の記事コンポーネントのタイトルの表示または非表示

外部のコミュニティモデレータがグループ情報を参照可能

表示しているページでレポートを開く

Chatter

フィード

Chatter の暗号化によるセキュリティの強化 (正式リリース)

Salesforce でのすべてのコミュニティストリームの表示 (パイロット)

固定表示投稿による重要な情報の可視性の向上 (ベータ)

絵文字による会話の活性化

組織のトピックの提案の有効化

グループ

ランキング上位のグループを表示するカスタムレポートタイプの作成

Trailhead のような外観に刷新されたグループ

ユーザプロファイル

Trailhead のような外観に刷新されたユーザプロファイル

Astro アバター をデフォルトとして表示可能な場所の増加

[オフィス不在] 機能を使用して心おきなく休暇を取得 (正式リリース)

Files

Salesforce での Quip ドキュメントの作成とコラボレーション

レコード上のファイルを非公開にしておく

新しい項目を使用したファイル検索結果の並び替え

コンテンツ配信公開リンク作成の権限名の変更

カスタムファイルプレビューコンポーネントの作成

Salesforce インテグレーション

Cisco Spark for Salesforce: Salesforce を離れずに顧客や営業担当とつながる (正式リリース)

Google インテグレーション: レコードの柔軟な照合、多くのテンプレートオプション、行動の双方向同期、Lightning Sync 設定の必須変更

Skype for Salesforce: チャットとインスタントメッセージの送信 (正式リリース)

Microsoft® とのインテグレーション: ToDo 管理、Pardot Engagement、一括同期

モバイル

Salesforce Authenticator

アクセシビリティの更新により Salesforce Authenticator をより簡単に操作

バックアップと復元の通知が表示されるまでの時間の延長

Financial Services Cloud

Retail Banking アプリケーションと Retail Banking コンソールによる生産性の向上

新しい Lightning アプリケーション、Wealth Management による Financial Services Cloud 環境の最適化

インテリジェントなニーズベースの紹介とスコアリングによる紹介の作成および管理

カスタマイズ可能なビューと積み上げ集計による金融口座の大幅な向上

カスタマーコミュニティやパートナーコミュニティの迅速な開始

Financial Services Cloud の操作性の向上

Financial Services Cloud のその他の機能強化

Financial Services Cloud の新規オブジェクトおよび項目

Financial Services Cloud レコードタイプの新規追加

カスタマイズ

Lightning アプリケーションビルダー

動的な Lightning ページの作成

カスタムページテンプレートで Lightning ページのカスタマイズをまったく新たなレベルに

既存のカスタム Lightning ページのコピーによるカスタム Lightning ページの作成

関連リストのクイックリンクを使用した関連リストデータのすばやい表示

Cisco Spark のグループ会話コンポーネントを使用してユーザがビデオミーティングの開催やインスタントメッセージの送信をレコードから直接行う

Cisco Spark for Salesforce でのユーザによる共有ワークスペースの管理

更新された検索条件リストコンポーネントの操作習得

リッチテキストコンポーネントの新しいスタイル

カスタムコンポーネントを使用した Lightning ページの設定の簡易化と [私のドメイン] の制限の緩和

ケースレコードページへのマイルストンの追加

関連レコードコンポーネントで参照のみの項目の表示

フローコンポーネントの変数値の増加

[関連リスト – 1 つ] となった関連リストコンポーネント

四半期パフォーマンスコンポーネントからパフォーマンスへの名称変更

リストビューコンポーネントでサポートされなくなったカスタム設定

Visual Workflow

トランスレーションワークベンチからのフローの翻訳

オブジェクト固有のアクションからのフローの起動 (ベータ)

プラットフォームイベントが発生するまで待機するためのフローの設定

フロー Lightning コンポーネントによる Salesforce 内の任意の場所へのフローの追加

Lightning コミュニティへのフローの追加

選択リスト変数と複数選択リスト変数の値の設定

REST API によるフローインタビューのデザインのカスタマイズ (パイロット)

フローでの暗号化データへのアクセス (正式リリース)

プロセスビルダー

プラットフォームイベントが発生したときのプロセスの開始

プロセスでの特定のユーザやキューの迅速な参照

プロセスビルダーでの暗号化データへのアクセス (正式リリース)

グローバリゼーション:いっそう簡単になった複数通貨の有効化、トランスレーションワークベンチでの XLIFF 形式およびフローのサポート

サポートへ連絡せずにマルチ通貨を有効化

XLIFF 形式での翻訳ファイルのインポートとエクスポート

トランスレーションワークベンチでのフローのサポート

Salesforce Connect

Apex 一括処理を使用した大量の外部オブジェクトデータセットの処理

外部オブジェクトデータへのアクセスの検証

項目と選択リスト

ページネーションを使用した無効な選択リスト値の容易な管理

共有

無効な共有の非同期削除による操作の続行 (正式リリース)

個人取引先を使用する組織での法人取引先責任者の手動共有 (正式リリース)

AppExchange

新しいインテリジェントな AppExchange での最適なソリューションの迅速な検索

AppExchange で利用できるようになった Bolt ソリューションと Lightning データ

設定

外部サービスでサポートされるようになった Swagger (ベータ)

1 時間で実行できるワークフロータイムトリガの増加

HYPERLINK 関数内で実行される JavaScript のブロックが適用 (重要な更新)

[レコードを更新] クイックアクションで参照のみの項目と数式項目の表示

削除できなくなったページレイアウトに含まれるアクション

カスタムアクションの高速クリックにより複数のインスタンスが起動する問題の修正

「バックグラウンドで行われたレコードの承認申請の適切な承認プロセスへの転送」(重要な更新) の延期

Lightning Sync 用に Force.com ライセンスのユーザを設定

システム権限を使用したレコードページのアクションの表示の制御

セキュリティと ID

認証と ID

動的ブランド設定によるユーザのログイン環境の変更

シングルログアウトですべてのアプリケーションから同時にログアウトできる (正式リリース)

ログインフローの更新

SAML 署名証明書の廃止

指定ログイン情報: リリースオプションの追加、URL スキームの適用

ユーザのメール情報を取得するための Facebook 認証プロバイダの更新

UserInfo エンドポイントおよび ID URL レスポンスの Email_Verified 値の更新

Salesforce Shield

プラットフォームの暗号化:暗号化データの絞り込み(パイロット)、鍵イベントの監視、スキニーテーブルの使用

イベント監視: 検索、ナレッジ記事、プラットフォームの暗号化向けの新しいイベント種別

その他の変更

Visualforce ページ、サイト、コミュニティのブラウザ保護の改善

HSTS (HTTP Strict Transport Security) によって HTTPS を使用するようにブラウザをリダイレクト

ヘルスチェック: デフォルトベースラインの選択と必要に応じたベースラインの名称変更

開発

Salesforce DX: Salesforce アプリケーション開発の新境地

Lightning コンポーネント: セキュリティ、開発者の生産性、UI の機能と柔軟性

Visualforce: Lightning Experience の準備状況とスタイル設定

Apex

Einstein Platform Services

Einstein Language (ベータ): アプリケーションの自然言語処理の作成

Einstein Vision: マルチ表示ラベルモデル、モデルフィードバック、およびグローバルデータセット

ISVforce

AppExchange Trailblazer チェックリストを使用した ISV ビジネスの迅速な構築

AppExchange 公開コンソールでのビジネスプランの管理

機能パラメータによるアプリケーションへのアクセスの制御と追跡 (正式リリース)

管理パッケージ更新での無効化および再有効化されたグローバル値セットの値の保持

パッチ組織で [私のドメイン] が自動的に有効化

変更セットのリリースおよび管理パッケージのアップグレードでリセットされなくなったプラットフォームキャッシュ割り当て

「管理-リリース済み」パッケージからの Sコントロールの削除

CustomTab 型を S コントロールから Visualforce ページへ変更
パートナー用の Salesforce DX 機能 (正式リリース)
AppExchange 公開コンソールのその他の変更
デバッグ
より長い期間、より多くのデバッグログを保持
プラットフォームイベント登録のデバッグログイベント
API
新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト
SOSL
REST API
SOAP API
Chatter REST API
レポートおよびダッシュボード REST API
Bulk API 2.0 (正式リリース)
メタデータ API
データサービス: カスタム Big Object および非同期 SOQL を使用した数百万件のレコードの操作
エンタープライズメッセージング
Lightning コンソール JavaScript API によるコンソールアプリケーションのカスタマイズ (正式リリース)
Open CTI API
その他の API の変更

ドキュメントコンテンツ

動画を見る (英語のみ)

Winter '18 の Lightning Experience で使用できない機能と新機能

Lightning Experience の新機能と機能強化に関する次のトピックを参照して、ビジネスに不可欠な機能がこのリリースで制限されたり、使用できなくなったりしていないか確認してください。

メモ: Lightning Experience で使用できない機能とその制限事項の完全なリストは、Salesforce ヘルプの「Lightning Experience と Salesforce Classic 間の機能の違い」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

検索: Lightning Experience の考慮事項
セールス機能: Lightning Experience の考慮事項
生産性の機能: Lightning Experience の考慮事項

カスタマーサービスの機能: Lightning Experience の考慮事項
レポートおよびダッシュボード: Lightning Experience の考慮事項

検索: Lightning Experience の考慮事項

Lightning Experience で検索するときに想定される問題について説明します。

グループの結果は並び替えできない
: グループ検索結果の並び替えは使用できません。

ナレッジ記事の検索結果
: 検索結果に表示される列はカスタマイズできません。デフォルトの列は、[記事番号]、[公開状況](システム管理者が有効にしている場合)、および [最終更新日] です。

Knowledge One ウィジェットでは、ケースに外部ドキュメントを添付できない
: 統合検索を含めた外部データソースのドキュメントを、ナレッジサイドバーからケースに添付することはできません。

ナレッジ記事のスペル修正は無効にできない
: Salesforce Classic の [検索設定] ページにある [ナレッジ検索で英語のみのスペルチェックを有効化] オプションは、Lightning Experience のナレッジ検索に適用されません。

セールス機能: Lightning Experience の考慮事項

ここでは、Lightning Experience で営業チームに発生する可能性がある問題について説明します。

エンタープライズテリトリー管理

- 取引先の [割り当てられたテリトリー] 関連リストは、「テリトリーの管理」権限のあるユーザであっても参照のみです。
- 取引先の [割り当てられたテリトリー内のユーザ] 関連リストは使用できません。
- 取引先の更新および保存時にテリトリールールに照らして取引先を評価するオプションは使用できません。このため、API によって更新が実行された場合にのみ、有効な取引先割り当てルールが自動的に実行されます。
- テリトリー関連オブジェクトのオブジェクト管理設定は使用できません。

商談

- ユーザには、コピーによって作成された新規商談への新規商談の追加を求めるメッセージは表示されません。

生産性の機能: Lightning Experience の考慮事項

Lightning Experience で Salesforce 生産性ツールを使用するときに発生する可能性がある問題について説明します。新しいユーザインターフェースでは、一部の Salesforce 機能を使用できません。また、一部の機能は Salesforce Classic と同等ではありません。

活動: 行動とカレンダー

行動の被招集者

Lightning Experience では行動の被招集者が提供されます。これは Salesforce Classic の行動の招待者と似ています。Lightning Experience で被招集者の参照、招待、または削除を行うには、Salesforce システム管理者とユーザはいくつかの条件を満たす必要があります。

- システム管理者は、ユーザ用の Lightning Sync を [双方向同期] の同期方向で設定する必要があります。双方向同期を選択すると、一部の Salesforce Classic 機能が制限されます。Salesforce ヘルプの「Lightning Sync の考慮事項」を参照してください。
- システム管理者は [被招集者] 項目を行動ページレイアウトまたは行動のクイックアクションレイアウトに追加する必要があります。[被招集者] 項目は、コンパクトレイアウトではサポートされません。
- ユーザには、Microsoft® Office 365® または Google G Suite のアカウントに関連付けられたカレンダーへのアクセス権が必要です。
- ユーザは Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web で行動を作成または編集する必要があります。

行動への招待

Lightning Experience の行動への招待を送信するには、Salesforce システム管理者とユーザはいくつかの条件を満たす必要があります。

- システム管理者は、ユーザ用の Lightning Sync を [双方向同期] の同期方向で設定する必要があります。[双方向同期] を選択すると、Salesforce Classic のいくつかの機能が制限されます。Salesforce ヘルプの「Lightning Sync の考慮事項」を参照してください。
- システム管理者は [被招集者] 項目を行動ページレイアウトまたは行動のクイックアクションレイアウトに追加する必要があります。[被招集者] 項目は、コンパクトレイアウトではサポートされません。
- ユーザは Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web で行動を作成または編集する必要があります。

Lightning Experience で開始された招待は、Microsoft® Office 365® または Google Calendar™ からメール送信されます。被招集者は、それらのメールまたはカレンダーアプリケーションからのみ行動の招待を受諾または拒否できます。被招集者の応答は Salesforce に同期され、他の被招集者は参加状況を表示できます。

カレンダー共有と所有権

[私の行動] カレンダーは、マネージャや他の同僚とは共有できますが、個人、公開グループ、ロールとは共有できません。カレンダーを共有するとき、同僚による行動の詳細の表示や行動の追加を許可するかどうかを制御できますが、同僚に行動を編集するためのフルアクセス権を付与することはできません。Salesforce オブジェクトから作成したカレンダーは共有できません。ロール階層のマネージャは、レポートを使用してロール階層内で自分より下位のユーザが所有する行動を参照できますが、編集することはできません。ミーティングを所有できるユーザは 1 人のみです。ミーティングを再割り当てすると、カレンダーに表示されなくなります。

カスタマーサービスの機能: Lightning Experience の考慮事項

組織でカスタマーサービスツールを使用している場合に想定される問題について説明します。

マイルストン

- [ケースマイルストン] 関連リストをケースで使用できません。

- マイルストントラッカーを作業指示で使用できません。
- ケースマイルストンレコード詳細ページはサポートされますが、[マイルストン名]および[エンタイトルメント プロセス] 項目は使用できません。
- [マイルストン状況アイコン] 項目をケースで 使用できません。
- Lightning Experience では、マイルストンに警告状態はありません。

オムニチャネル

オムニチャネルの設定 (オムニチャネルの有効化を含む) は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

Lightning Experience でサポートされないオブジェクトを、オムニチャネルユーティリティを使用して転送することはできません。現在、SOS セッションを転送することはできません。

Omni-Channel Supervisor は、Lightning Experience では既知の制限があるベータバージョンとして使用できます。オムニチャネル設定 (Omni-Channel Supervisor の設定を含む) は、Salesforce Classic でのみ使用できます。エージェントタイムラインのフロート表示はサポートされません。Live Agent スーパーバイザ機能は使用できません。代わりに、オムニチャネルで転送されたチャットを処理するエージェント用のスキルを作成します。スーパーバイザは Salesforce Classic で Live Agent スーパーバイザを使用できます。

外部ルーティング (ベータ) は、Lightning Experience ではサポートされません。

Live Agent

Live Agent の設定 (Live Agent の有効化など) は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

Lightning Experience でチャットを行うには、オムニチャネルを使用してチャットを転送する必要があります。Lightning Experience でオムニチャネルの準備ができていること、オムニチャネルを使用して転送するようにチャットボタンまたは Snap-in を設定したことを確認します。オムニチャネルルーティングに関する考慮事項が適用されます。

Omni-Channel Supervisor でチャット機能は使用できません。エージェントがオムニチャネルルーティングを使用している場合でも、サポートスーパーバイザは Salesforce Classic の Live Agent スーパーバイザを使用してチャット監視機能を実行できます。オムニチャネルで転送されたチャットを処理するエージェント用のスキルを作成します。このエージェントのチャットは、Live Agent ルーティングで転送されたチャットと共に Live Agent スーパーバイザに表示されます。

Live Agent のコンソールインテグレーションツールキットメソッドは Salesforce Classic でのみ使用できます。

Lightning Knowledge コンポーネントはケースでのみ使用できます。そのため、これを Lightning Experience の Live Agent で使用することはできません。ナレッジをチャットと統合するには、Salesforce Classic を使用します。

クイックテキストは Lightning Experience の Live Agent ではサポートされません。

ファイルプレビューは、Lightning Experience のファイル転送では使用できません。そのため、ファイルをエージェントのコンピュータにダウンロードします。

Lightning Experience でまだサポートされていない Live Agent レコードをエージェントが開くと、[サポートされていない項目] タブが表示される場合があります。エージェントはこのレコードを Salesforce Classic で参照できます。

顧客とチャットする場合、サブタブではなく主タブとして Live Chat トランスクリプトを開くことをお勧めします。チャットする場合は、Live Chat トランスクリプトのカスタムナビゲーションルールを設定しないでください。

Field Service Lightning

- サービスレポートは Lightning Experience では削除できません。サービスレポートを削除するには、Salesforce Classic に切り替えてください。
- サービスレポートは Lightning Experience では表示できません。サービスレポートを表示するには、ダウンロードするか、Salesforce Classic に切り替えてください。

サービス契約

- [状況アイコン] 項目は Lightning Experience では使用できません。
- サービス契約に複数の契約品目名を追加するときには、契約品目名の選択リスト項目に、契約品目名のレコードタイプに対応する値のみではなく、組織内のすべての値が表示されます。ただし、異なるレコードタイプに対応する値を選択するとエラーが発生します。この問題は 1 つの品目名を編集しているときには発生しません。

レポートおよびダッシュボード: Lightning Experience の考慮事項

ここでは、Lightning Experience でレポートとダッシュボードを使用するときに想定される問題について説明します。

Lightning レポートビルダー (ベータ)
次の機能は、Lightning レポートビルダーのベータバージョンでは使用できませんが、今後のリリースで実装できるように取り組んでいます。

- 結合レポート
- バケット化
- カスタム集計項目
- クロス条件
- 行制限の検索条件
- ロール階層検索条件
- ダッシュボードの設定メニュー
- レポートのプロパティメニュー

Lightning テーブル (ダッシュボードコンポーネント) (ベータ)
次の機能は、Lightning テーブルのベータバージョンでは使用できませんが、今後のリリースで実装できるように取り組んでいます。

- Chatter 写真
- 条件付き強調表示
- ダッシュボード検索条件は Lightning テーブルには適用されない。

ダッシュボードコンポーネントのクリック後に絞り込まれたレポートを表示
グラフに次のいずれかの種別のデータが表示される場合、ソースレポートは絞り込まれません。

- 暗号化された文字列
- 年-月または月-日の粒度の日付項目

埋め込みダッシュボード
レコードページにダッシュボードを埋め込むことはできません。

Salesforce Einstein: 人工知能を備えた世界で最もスマートな CRM をすべてのユーザへ

Salesforce Einstein は、Salesforce プラットフォームに組み込まれている AI です。高度な AI 機能を営業、サービス、マーケティングに提供します。誰でもクリックやコードを使用して、やりとりするたびに賢くなっていく AI を装備したアプリケーションを構築できます。これにより、あらゆる役割および業種の Trailblazer が AI を使用して最大限のパフォーマンスを発揮できます。

次に、Salesforce が世界で最もスマートな CRM になることに寄与している Einstein 機能のリストを示します。

概要

Trailhead: Salesforce Einstein でスマートに

AI が、スマートな予測、インテリジェントな推奨事項、適時の自動化によって、どのように CRM を転換したかを確認します。現在使用できる数多くの Einstein 機能と、それを使用してインサイトを検出して結果を予測する方法を学習します。

分析

Wave Analytics が Einstein Analytics に改称

Wave Analytics ブランドが Einstein Analytics という名称になりました。Einstein Analytics Platform、事前作成済みアプリケーション、および Einstein Discovery (Einstein Data Discovery から改称) という複数の製品が含まれています。事前作成済みアプリケーション、権限セットライセンス、およびユーザ権限も名前が変更されました。Summer '17 から Winter '18 にかけて、製品とドキュメント全体に新しい名前が適用されました。

Einstein Discovery: 適切な回答、説明、おすすめ

Einstein Discovery の新機能により、誰でもさらに容易にデータサイエンスの力を引き出すことができます。統計分析と予測分析で、回答、説明、およびおすすめを知ることができます。

Trailhead: Einstein Discovery の基礎

「Einstein Discovery の基礎」モジュールを完了し、データが語るストーリーに耳を傾ける方法を学習します。次に、「Einstein Discovery データインテグレーション」モジュールを完了し、Salesforce、Oracle、および Postgres データを Einstein Discovery に取り込んで回答、インサイト、およびおすすめを取得する方法を学習します。

コマース

Einstein 検索辞書 (ベータ): 買い物客の検索結果を改善

Einstein 検索辞書は人工知能を利用して、小売業辞書にはない検索語を見つけ、その検索語を追加するシノニムリストを提案します。時間とコストが節約され、買い物客はより強力かつ包括的な検索結果を得ることができます。

Trailhead: Commerce Cloud Einstein について

Commerce Cloud Einstein の機能についての詳細を学習します。

コミュニティ

人気のあるファイルの検出

Partner Central コミュニティの新しいおすすめコンポーネントを使用して、メンバーに人気のあるファイルを表示します。人気度は、ファイルを最近参照したユーザ数、ファイルにテキストが含まれるか、およびファイルがライブラリ内にあるかによって決定されます。

開発

Einstein Language (ベータ): アプリケーションの自然言語処理の作成

Einstein Language API を使用して、アプリケーションの自然言語処理を作成し、テキスト内の強力なインサイトを得ます。Language API には、Einstein Intent API と Einstein Sentiment API が含まれます。

Einstein Vision: マルチ表示ラベルモデル、モデルフィードバック、およびグローバルデータセット

Einstein Vision バージョン 2.0 がリリースされました。このバージョンで、Einstein Vision がすべての画像認識 API の総称となりました。Einstein Vision API は、Image Classification API という名前に変更されました。Image Classification API には、マルチ表示ラベルモデル、モデルにフィードバックを追加する機能、グローバルデータセットなどの新機能が含まれています。

Trailhead: Einstein Vision のクイックスタート

Apex を使用して、画像を認識して分類する簡単なアプリケーションを作成することで、Einstein Vision についての詳細を学習します。

Trailhead: Build a Cat Rescue App that Recognizes Cat Breeds (猫の品種を認識する猫救出アプリケーションの作成)

Apex、Lightning コンポーネント、および Einstein Vision を使用して、画像を認識して分類します。

Trailhead: Einstein Intent API の基本

深層学習カスタムモデルを構築して、テキストの分類とビジネスプロセスの自動化を行います。

マーケティング

Einstein エンゲージメントスコアリング: 顧客ターゲティング、エンゲージメント、および登録サービスの大幅な向上

Einstein エンゲージメントスコアリングは人工知能を利用して、各登録者のメール開封、リンククリック、および登録継続の可能性をスコアで表します。エンゲージしている登録者リストの状態を監視し、パフォーマンスが最も高い登録者と同様の属性を持つ利用者を作成し、登録者リストをセグメント化して特定の利用者のターゲティングを最適化し、他の Marketing Cloud アプリケーションを使用して登録者を簡単にターゲティングすることもできます。

セールス

Einstein リードスコアリング: Salesforce Classic の可用性と改善された [設定]

Salesforce Classic で Einstein リードスコアリングを使用して、より多くの種類のリード取引開始でリードスコアリングを設定し、設定中に発生した問題に関する詳細を表示します。

Einstein 自動取引先責任者: 新しい自動オプションとレポート

Einstein 自動取引先責任者に自動オプションが追加されました。また、Einstein の状態を追跡するために役立つ便利なダッシュボードも追加されました。

Einstein 活動キャプチャ: Microsoft® Exchange とより多くの Salesforce レコードのサポート

Einstein 活動キャプチャを Microsoft Exchange 2013 および 2016 ユーザが使用できるようになりました。Einstein 活動キャプチャ機能が拡張されて見積と契約も含まれるようになりました。さらに、Salesforce が Einstein 活動キャプチャデータを保持する期間を制御できます。

Sales Cloud Einstein Analytics: より多くのダッシュボードと新しい名前

Einstein 自動取引先責任者の Analytics アプリケーションが追加され、Einstein が Salesforce に追加した取引先責任者数を追跡できるようになりました。さらに、いくつかの名前の変更によりナビゲーションが改善されました。

Sales Cloud Einstein のその他の変更

一貫性と直感性を向上するため、一部の項目とコンポーネントの名前が変更されました。

Trailhead: Sales Cloud Einstein

AI と Sales Cloud Einstein がチームの営業の生産性をどのように変革できるかについて学習します。

Trailhead: Einstein High Velocity Sales Cloud

強力なセールス機能とスマートな Einstein を組み組み合わせることでセールスをパワーアップさせる方法について学習します。

セキュリティと ID

Event Monitoring Analytics アプリケーションの新しい名前とこれまでと同じ優れたデータ

Summer '17 で、Event Monitoring Wave アプリケーションの名前が Event Monitoring Analytics に変更されました。Analytics という名前は、設定ウィザード、標準権限セット、権限セットライセンス、事前作成済みダッシュボードなど、すべてのアプリケーション関連ページに表示されるようになりました。Wave 変更、Wave インタラクション、Wave パフォーマンスのイベント種別名は変更されません。

セールス: Einstein リードスコアリング、コラボレーション売上予測、およびキャンペーンインフルエンス

販売につながる可能性が高いリードや商談に営業チームが専念できるようにする、影響力の高い Lightning Experience 機能が導入されました。営業担当は、Outlook と Gmail から直接、セールスパイプラインに集中することができます。

このセクションの内容:

Trailhead: Lightning Experience 機能の最適化、Outlook および Gmail との統合

Lightning Experience でセールス機能を最適化するときに、成功する営業チームを設定する方法を学習します。また、営業担当が Outlook または Gmail から商談の作業を行うのに役立ちます。

Sales Cloud Einstein: セールスプロセスの各ステップのスマート化

Einstein リードスコアリングを Salesforce Classic で使用できるようになりました。さらに、リードスコアリングの設定が改善され、リードスコアリングモデルの基となるデータを詳細に制御できるようになりました。Einstein 自動取引先責任者が自動化され、新しいダッシュボードが含まれています。Einstein 活動キャプチャでは、Microsoft とのインテグレーションが向上し、見積と契約がサポートされます。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

中核的なセールス機能:キャンペーンインフルエンス、コラボレーション売上予測、エンタープライズテリトリー管理

複数のキャンペーンによる商談への影響を追跡します。売上を予測するときにより多くの情報にアクセスします。Lightning Experience からテリトリー管理を設定します。それだけではありません。

生産性機能: セールスコンソールの ToDo アラーム、拡張リストビュー、売上予測

ToDo アラーム、リストビューの改善、カレンダーオプションの追加により、Lightning Experience での営業担当の生産性が最大化されます。コラボレーション売上予測もセールスコンソールで使用できるようになりました。

データ品質: Lightning Experience での個人取引先のマージおよび重複レコードセット、サードパーティデータのインテグレーション

個人取引先が重複管理の対象になりました。重複レコードセットは Lightning Experience で使用できますが、さらに Lightning Experience でのみ、重複レコードセットを使用して重複をマージできます。また、Salesforce 取引先レコードおよび取引先責任者レコードに新しいアクションを使用することで、営業チームはサードパーティの業界データを項目ごとに比較、統合することができます。

Google インテグレーション: レコードの柔軟な照合、多くのテンプレートオプション、行動の双方向同期、Lightning Sync 設定の必須変更

営業担当は Gmail™ と Google カレンダー™ で Salesforce の商談の作業ができます。Lightning for Gmail を使用すると、メール受信者を関連する Salesforce レコードと照合するときの柔軟性が高まります。より多くのメールテンプレートオプション、Einstein リードスコアリング、および Salesforce ToDo によって、営業担当の作業がより難しくなるのではなく、よりスマートになります。Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web ユーザのための行動の双方向同期が Lightning Sync に含まれるようになりました。また、Google カレンダーから Salesforce に行動を同期しているユーザは、Winter '18 で引き続き行動を同期するために Lightning Sync の設定を更新する必要があります。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

Microsoft® とのインテグレーション: ToDo 管理、Pardot Engagement、一括同期

営業担当は Outlook メールとカレンダーで商談の作業ができます。Salesforce ToDo へのアクセスや、より多くのメールテンプレートオプション、さらに Pardot Engage の機能によって、営業担当は営業プロセスを自由に操れるようになります。Lightning Sync の新機能。Service および Force.com ライセンス。お読みください! これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

セキュリティ: セールスデータの暗号化

Shield Platform Encryption を使用して、顧客の個人識別情報 (PII) を含む重要なセールスデータを保護します。

Sales Cloud のその他の変更

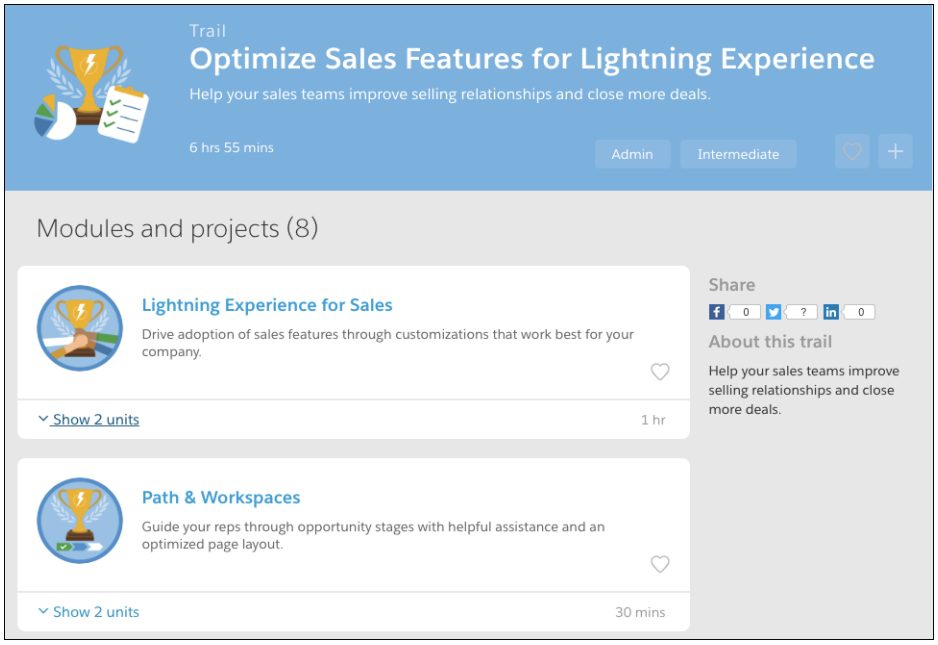
使い勝手を向上するために加えられたその他の変更について説明します。

Trailhead: Lightning Experience 機能の最適化、Outlook および Gmail との統合

Lightning Experience でセールス機能を最適化するときに、成功する営業チームを設定する方法を学習します。また、営業担当が Outlook または Gmail から商談の作業を行うのに役立ちます。

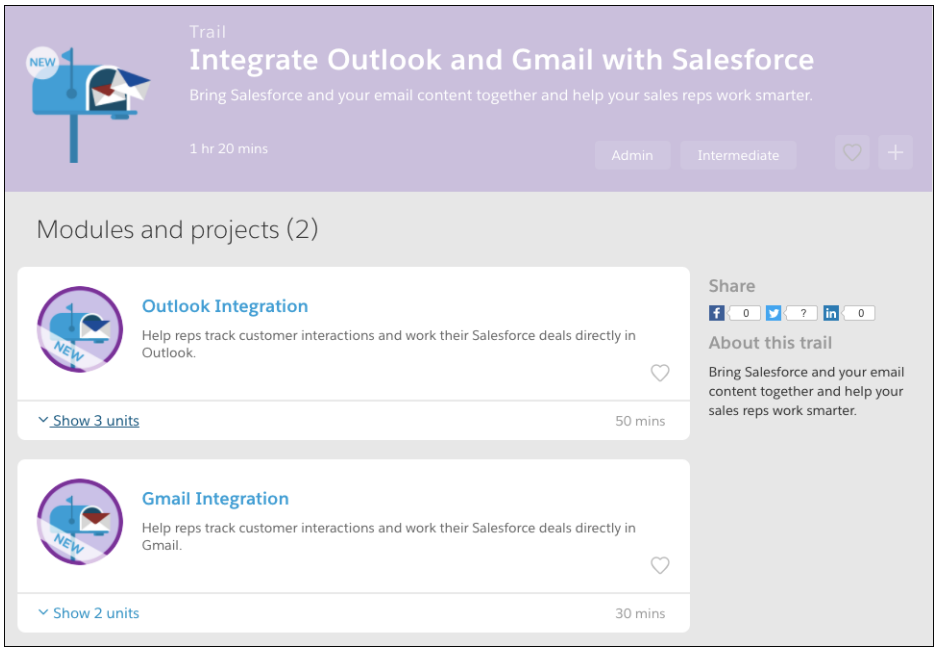
Lightning Experience のセールス機能の最適化

セリングリレーションを向上させてより多くの商談を成立できるよう、営業チームをサポートします。「Lightning Experience のセールス機能の最適化」には、最適な販売環境に必要な主な機能を設定するためのモジュールが含まれています。



Outlook および Gmail と Salesforce との統合

営業担当は Outlook および Gmail で営業に容易に集中できます。また、取引先責任者と行動を同期するように営業チームを設定すると、データ入力の冗長性が排除されます。「Outlook および Gmail と Salesforce との統合」は、営業担当が Outlook および Gmail での作業中でもパイプラインに集中できるようにすることを目指しています。



Sales Cloud Einstein: セールスプロセスの各ステップのスマート化

Einstein リードスコアリングを Salesforce Classic で使用できるようになりました。さらに、リードスコアリングの設定が改善され、リードスコアリングモデルの基となるデータを詳細に制御できるようになりました。Einstein 自動取引先責任者が自動化され、新しいダッシュボードが含まれています。Einstein 活動キャプチャでは、Microsoft とのインテグレーションが向上し、見積と契約がサポートされます。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

メモ: 一部のサービスおよびサブスクリプションでは、この機能が有料オプションで用意されています。価格設定についての詳細は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

エディション

有料オプションで使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

Einstein リードスコアリング: Salesforce Classic でのリードスコア、リードの取引開始の柔軟性、詳細な有効化状況

Salesforce Classic で Einstein リードスコアリングを使用して、より多くの種類のリード取引開始でリードスコアリングを設定し、設定中に発生した問題に関する詳細を表示します。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Einstein 自動取引先責任者: 新しい自動オプションとレポート

Einstein 自動取引先責任者に自動オプションが追加されました。また、Einstein の状態を追跡するために役立つ便利なダッシュボードも追加されました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Einstein 活動キャプチャ: Microsoft® Exchange とより多くの Salesforce レコードのサポート

Einstein 活動キャプチャを Microsoft Exchange 2013 および 2016 ユーザが使用できるようになりました。Einstein 活動キャプチャ機能が拡張されて見積と契約も含まれるようになりました。さらに、Salesforce が Einstein 活動キャプチャデータを保持する期間を制御できます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Sales Cloud Einstein Analytics: より多くのダッシュボードと新しい名前

Einstein 自動取引先責任者の Analytics アプリケーションが追加され、Einstein が Salesforce に追加した取引先責任者数を追跡できるようになりました。さらに、いくつかの名前の変更によりナビゲーションが改善されました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Sales Cloud Einstein のその他の変更

一貫性と直感性を向上するため、一部の項目とコンポーネントの名前が変更されました。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Sales Cloud Einstein の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Einstein リードスコアリング: Salesforce Classic でのリードスコア、リードの取引開始の柔軟性、詳細な有効化状況

Salesforce Classic で Einstein リードスコアリングを使用して、より多くの種類のリード取引開始でリードスコアリングを設定し、設定中に発生した問題に関する詳細を表示します。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

エディション

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

Salesforce Classic での Einstein リードスコアリングの使用

営業担当が自分のリードのスコアおよびスコアを裏付ける要素を参照できるように、[Einstein スコア] 項目を Salesforce Classic のリードページレイアウトに追加します。この変更は Salesforce Classic にのみ適用されます。

Einstein リードスコアリングでサポートされるリード取引開始種別の増加

リードの取引を開始するときに商談につながるかどうかに関わらず、リードスコアリングのメリットを活用します。以前は、取引開始時に営業担当が商談を作成した場合のみ、Einstein はリードの履歴を分析できました。現在は、リードが取引先および取引先責任者のみに変換された場合でも Einstein はその機能を実行できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Einstein リードスコアリングの有効化の追跡および制御

リードスコアリングの有効化時および初期分析時に発生する問題について有用な情報が提供されるようになり、設定が容易になりました。有効化後に、必要に応じてリードスコアリングを無効化できるようになりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Salesforce Classic での Einstein リードスコアリングの使用

営業担当が自分のリードのスコアおよびスコアを裏付ける要素を参照できるように、[Einstein スコア] 項目を Salesforce Classic のリードページレイアウトに追加します。この変更は Salesforce Classic にのみ適用されます。

ページレイアウトエディタでコンポーネントを容易に追加できます。

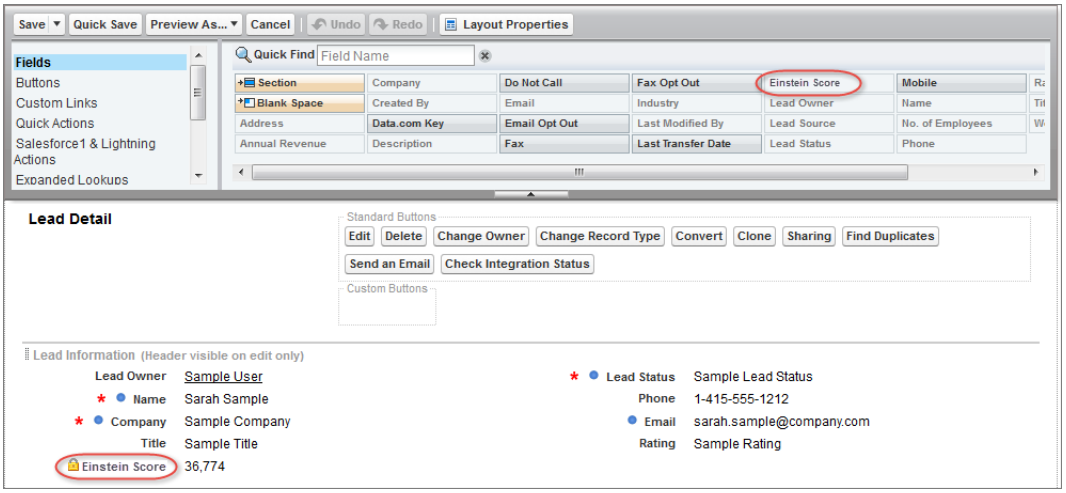
エディション

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

ユーザ権限

[リード] タブを参照する
- リードに対する「参照」

リードを参照する
- リードに対する「参照」



ページレイアウトにコンポーネントを追加したら、Salesforce Classic ユーザはリードに優先度を付けて、より多くのリードと取引をすばやく開始できます。コンポーネント内で、スコアと、そのスコアに最も影響する項目が表示されます。

以前は、[スコア] 項目のみを Salesforce Classic のリストビューでのみ使用できました。

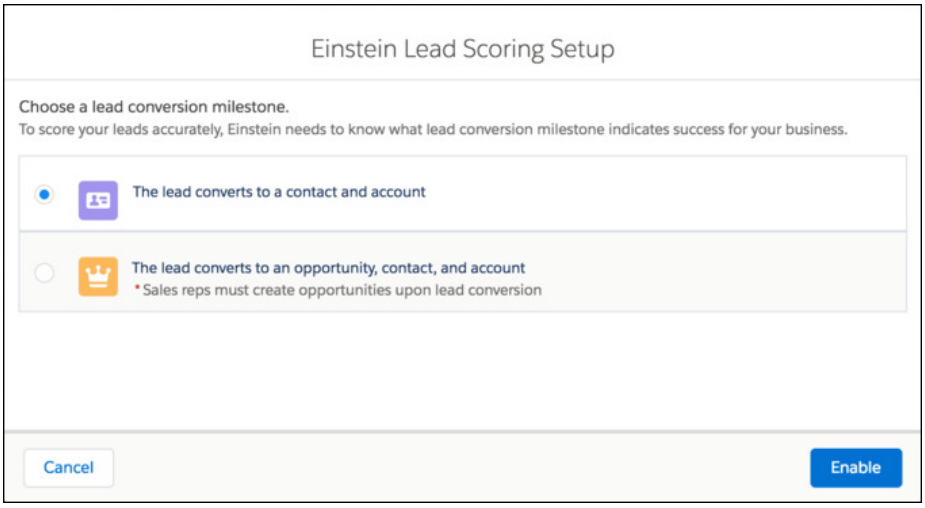
Einstein リードスコアリングでサポートされるリード取引開始種別の増加

リードの取引を開始するときに商談につながるかどうかに関わらず、リードスコアリングのメリットを活用します。以前は、取引開始時に営業担当が商談を作成した場合のみ、Einstein はリードの履歴を分析できました。現在は、リードが取引先および取引先責任者のみに変換された場合でも Einstein はその機能を実行できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Einstein リードスコアリングは、リード取引開始履歴の中でパターンを探し、パターンにどれだけ一致しているかに基づいてリードにスコアを付けます。リードスコアリングを有効にすると、営業チームの業務に一致する、リード取引開始のマイルストンを選択するように [設定] で要求されます。

エディション

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition



Einstein リードスコアリングの有効化の追跡および制御

リードスコアリングの有効化時および初期分析時に発生する問題について有用な情報が提供されるようになり、設定が容易になりました。有効化後に、必要に応じてリードスコアリングを無効化できるようになりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Einstein リードスコアリングの有効化ではバックグラウンドでいくつかの手順が実行されます。以前は、以下の手順の進行状況に関する情報を利用できませんでした。

1. 前提条件を満たしているかどうかを確認する。
2. 機能を有効にする。
3. リードの取引開始履歴を分析する。
4. 現在のリードにスコアを付ける。

エディション

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

ユーザ権限

Einstein リードスコアリングを有効にする
- 「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの編集」

Einstein 自動取引先責任者: 新しい自動オプションとレポート

Einstein 自動取引先責任者に自動オプションが追加されました。また、Einstein の状態を追跡するために役立つ便利なダッシュボードも追加されました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

このセクションの内容:

不要になった取引先責任者データ入力 (ベータ)
Salesforce への取引先責任者および取引先責任者の役割の追加は、Einstein にお任せください。自動的に行われるので、営業担当は販売に専念できます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

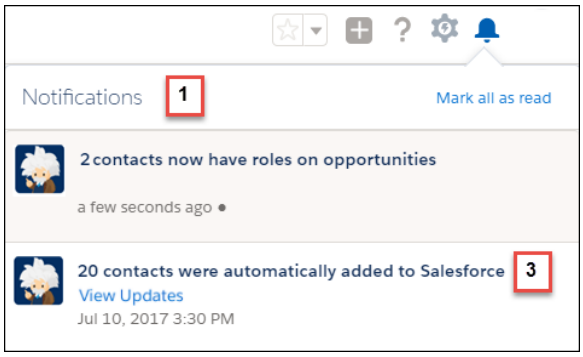
Einstein によって Salesforce に追加された取引先責任者数の表示 (ベータ)
Einstein 自動取引先責任者ダッシュボードには、Einstein による取引先責任者の検出および追加の状況が表示されます。Einstein が各取引先責任者を追加している間、営業担当は他のことを自由に行うことができます。これは、Lightning Experience の新機能です。

不要になった取引先責任者データ入力 (ベータ)

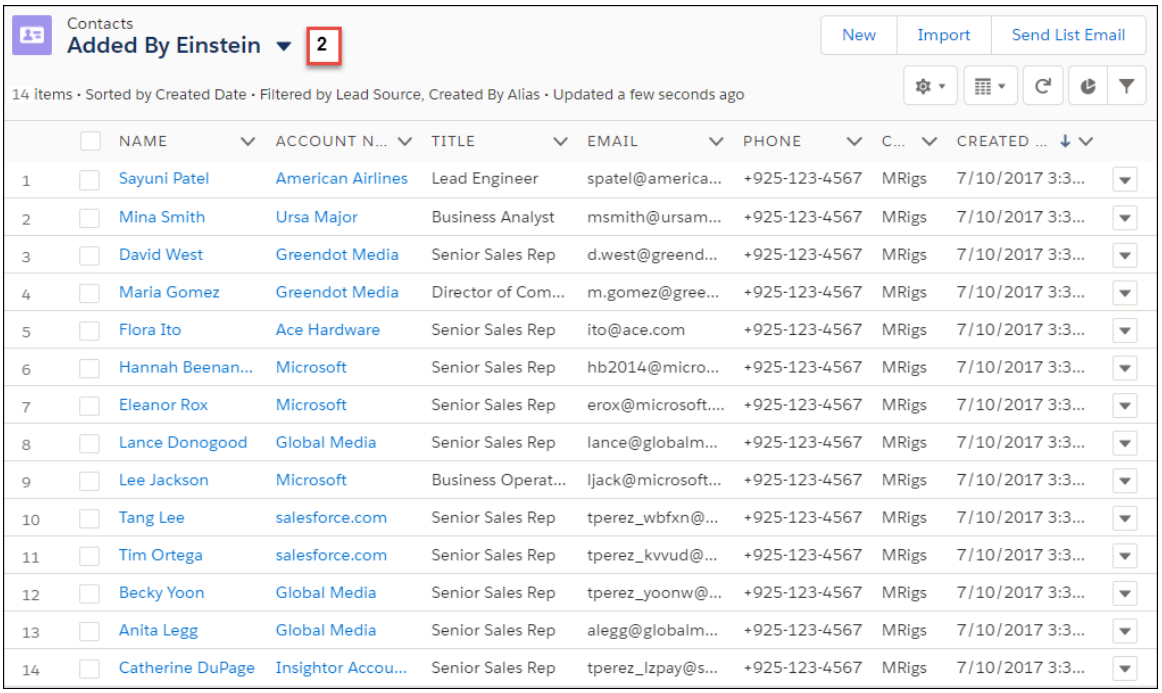
Salesforce への取引先責任者および取引先責任者の役割の追加は、Einstein にお任せください。自動的に行われるので、営業担当は販売に専念できます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンの「Einstein 自動取引先責任者」自動オプションが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。この自動オプションは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

Einstein 自動取引先責任者を設定するときに、取引先責任者および取引先責任者の役割が Salesforce に自動的に追加されるように指定します。



新しいデータが追加されると営業担当に通知されます (1)。



Einsteinによって追加された取引先責任者が、新しいリストビューに表示されます (2)。通知テキスト (3) をクリックすると、リストビューに移動できます。エラーによって取引先責任者を追加できない場合 (たとえば、必須項目にデフォルト値がないなど)、その取引先責任者は提案として表示されます。その後、営業担当は取引先責任者を追加するときにエラーを修正できます。

営業担当がアクションを実行する推奨として新規データが表示されるように指定することもできますが、わざわざそうする必要はありますか?

Einstein によって Salesforce に追加された取引先責任者数の表示 (ベータ)

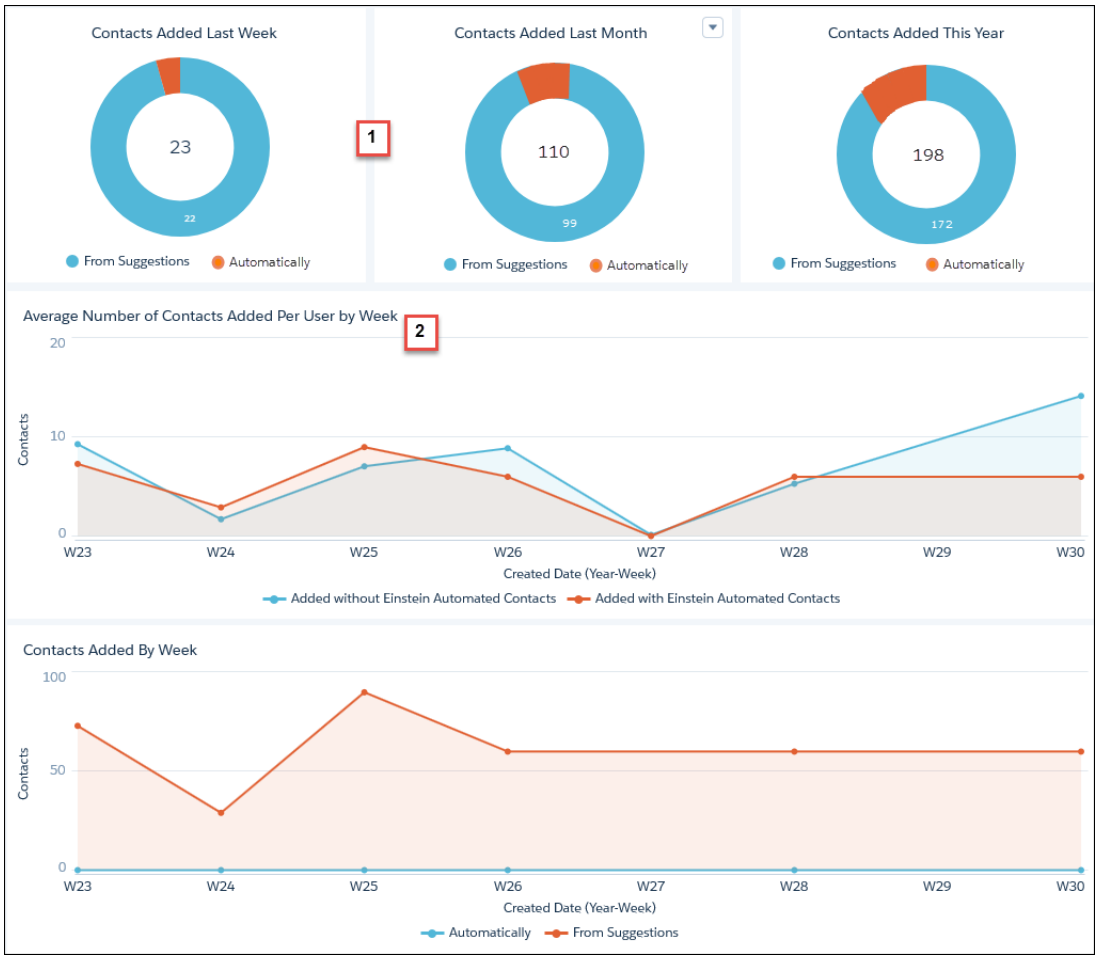
Einstein 自動取引先責任者ダッシュボードには、Einstein による取引先責任者の検出および追加の状況が表示されます。Einsteinが各取引先責任者を追加している間、営業担当は他のことを自由に行うことができます。これは、Lightning Experience の新機能です。

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンの Einstein 自動取引先責任者ダッシュボードが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。このダッシュボードは、Salesforceがドキュメン

ト、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

Sales Cloud Einstein には、Einstein Sales Analytics ライセンスが 5 個付属しています。これを Einstein 自動取引先責任者のユーザに割り当てると、これらのユーザは便利なダッシュボードを表示できます。

[Sales Cloud Einstein] タブをクリックして、[取引先責任者] をクリックします。



Einstein 自動取引先責任者によって自動的または推奨から追加された取引先責任者の数を表示します。データは週、月、年ごとに表示されます (1)。

Einstein 自動取引先責任者により追加された取引先責任者数と手動で追加された数を比較します。データは週ごとに、ユーザあたりの平均取引先責任者数として表示されます (2)。

関連トピック:

- 不要になった取引先責任者データ入力 (ベータ)

Einstein 活動キャプチャ: Microsoft® Exchange とより多くの Salesforce レコードのサポート

Einstein 活動キャプチャを Microsoft Exchange 2013 および 2016 ユーザが使用できるようになりました。Einstein 活動キャプチャ機能が拡張されて見積と契約も含まれるようになりました。さらに、Salesforce が Einstein 活動キャプチャデータを保持する期間を制御できます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

エディション

Sales Cloud Einstein および Inbox で有料オプションで使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

Microsoft® Exchange 2013 および 2016 アカウントへようこそ
見積および契約に関する活動の追加
自動的に取り込まれた Microsoft® Office 365® の行動を Salesforce カレンダーから表示
データ保持期間の指定
[除外アドレス] リストを容易に管理

Microsoft® Exchange 2013 および 2016 アカウントへようこそ

Microsoft Exchange 2013 および 2016 アカウントを持つ営業担当は、自分のメールとカレンダーを Salesforce に接続できるようになりました。さらにシステム管理者は、営業担当が自分のアカウントにすばやく接続できるように、各 Microsoft Exchange ドメインの設定を作成、保存することができます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

見積および契約に関する活動の追加

チームは、より多くのレコードタイプに関して活動を記録する必要がなくなります。見積と契約をサポートする Einstein 活動キャプチャにより、行動とメールが見積と契約のレコードに自動的に追加され、Einstein によってインサイトを生成するために使用されます。また、活動アプリケーションに見積と契約の活動が表示されるようになりました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

自動的に取り込まれた Microsoft® Office 365® の行動を Salesforce カレンダーから表示

Einstein 活動キャプチャを使用できるように営業担当を設定すると、営業担当は Salesforce カレンダーから自分の Microsoft の行動を参照できます。行動は、Microsoft カレンダーと呼ばれるカレンダーに追加されるため、自動追加された行動とデフォルトの Salesforce カレンダーの行動を区別しておくことができます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

データ保持期間の指定

Salesforce にデータが保存される期間を制御する必要がありますか? お任せください。Salesforce カスタマーサポートに連絡し、Einstein 活動キャプチャデータを保持する月数を指定してください。Salesforce は Einstein 活動キャプチャデータを最大 5 年 (デフォルトの期間は 24 か月) 保持できます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

[除外アドレス] リストを容易に管理

アドレスとドメインの除外手順を合理化し、エラーを回避するため、そのプロセスのための使いやすいウィザードインターフェースが追加されました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Microsoft® Exchange 2013 および 2016 アカウントへようこそ

Microsoft Exchange 2013 および 2016 アカウントを持つ営業担当は、自分のメールとカレンダーを Salesforce に接続できるようになりました。さらにシステム管理者は、営業担当が自分のアカウントにすばやく接続できるように、各 Microsoft Exchange ドメインの設定を作成、保存することができます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Microsoft Exchange 設定*」と入力し、[新規] をクリックします。
2. Microsoft Exchange 接続の設定を入力し、[保存] をクリックします。

ユーザ権限

Microsoft Exchange と Salesforce の間の接続を設定する
- Microsoft Exchange との新しい接続を設定するための管理者アクセス権

見積および契約に関する活動の追加

チームは、より多くのレコードタイプに関して活動を記録する必要がなくなります。見積と契約をサポートする Einstein 活動キャプチャにより、行動とメールが見積と契約のレコードに自動的に追加され、Einstein によってインサイトを生成するために使用されます。また、活動アプリケーションに見積と契約の活動が表示されるようになりました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Einstein 活動キャプチャ*」と入力し、[Einstein 活動キャプチャ] の [設定] を選択します。
2. [レコードの編集] をクリックします。
3. 活動の追加先のレコードのタイプを選択します。
4. [保存] をクリックします。

ユーザ権限

見積および契約への活動の追加
- 「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの編集」

自動的に取り込まれた Microsoft® Office 365® の行動を Salesforce カレンダーから表示

Einstein 活動キャプチャを使用できるように営業担当を設定すると、営業担当は Salesforce カレンダーから自分の Microsoft の行動を参照できます。行動は、Microsoft カレンダーと呼ばれるカレンダーに追加されるため、自動追加された行動とデフォルトの Salesforce カレンダーの行動を区別しておくことができます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Microsoft カレンダーを参照するには、営業担当は [私のカレンダー] から Microsoft カレンダーを選択します。

データ保持期間の指定

Salesforce にデータが保存される期間を制御する必要がありますか? お任せください。Salesforce カスタマーサポートに連絡し、Einstein 活動キャプチャデータを保持する月数を指定してください。Salesforce は Einstein 活動キャプチャデータを最大 5 年 (デフォルトの期間は 24 か月) 保持できます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Salesforce カスタマーサポートに連絡してから要求が有効になるまで、最長で 48 時間かかる場合があります。

メモ: Salesforce は各月を 30 日として計算します。

[除外アドレス] リストを容易に管理

アドレスとドメインの除外手順を合理化し、エラーを回避するため、そのプロセスのための使いやすいウィザードインターフェースが追加されました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Sales Cloud Einstein Analytics: より多くのダッシュボードと新しい名前

Einstein 自動取引先責任者の Analytics アプリケーションが追加され、Einstein が Salesforce に追加した取引先責任者数を追跡できるようになりました。さらに、いくつかの名前の変更によりナビゲーションが改善されました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Einstein 自動取引先責任者にある、名称変更された [Sales Cloud Einstein] タブに新しいダッシュボードが含まれ、Einstein による取引先責任者の検出状況および追加状況が表示されます (1)。

「Einstein Sales Analytics」タブの名前は「Sales Cloud Einstein」に変更されました (2)。このタブには、Einstein 活動キャプチャ (3) および Einstein リードスコアリング (4) のダッシュボードを含め、同様の便利な Einstein ダッシュボードが含まれます。また、Einstein 活動キャプチャダッシュボードの名前が「活動総計値」から「活動」に変更されました。

関連トピック:

- Einstein 自動取引先責任者: 新しい自動オプションとレポート

Sales Cloud Einstein のその他の変更

一貫性と直感性を向上するため、一部の項目とコンポーネントの名前が変更されました。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

What (種類)	新しい名称
Einstein リードスコアリング: リードレコードとリストビューのスコア項目	Einstein スコア
Einstein リードスコアリング: リードレコードの Einstein コンポーネント	Einstein スコア
Einstein リードスコアリング: Lightning アプリケーションビルダーの Einstein コンポーネント	Einstein リードスコア
Einstein インサイト: 取引先、商談、ホームページ、および Lightning アプリケーションビルダーの Einstein コンポーネント	Einstein インサイト
Einstein 自動取引先責任者: 取引先、商談、ホームページ、および Lightning アプリケーションビルダーの Einstein コンポーネント	Einstein インサイト
商談インサイト: 商談リストビューの上位インサイト項目	上位 Einstein インサイト

中核的なセールス機能: キャンペーンインフルエンス、コラボレーション売上予測、エンタープライズテリトリー管理

複数のキャンペーンによる商談への影響を追跡します。売上を予測するときにより多くの情報にアクセスします。Lightning Experience からテリトリー管理を設定します。それだけではありません。

このセクションの内容:

リード: 柔軟性の向上で迅速化されたリードの取引開始

営業担当がリードの取引を開始するときに時間を節約できるようになります。リードの取引開始の新しいプロセスでは、リードが、Salesforce にすでに存在する取引先責任者および取引先と照合されます。また、営業担当は商談を作成するか、すでに進行している商談を選択します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

取引先: 簡単になった有効化プロセス、Lightning Experience での個人取引先のマージのサポート、改善された共有モデル

有効化プロセスの改善や、Lightning Experience で個人取引先をマージする機能の追加を行ったほか、個人取引先を使用する組織で取引先責任者を共有する方法に柔軟性を加えました。 これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

キャンペーン: 複数接触のキャンペーンインフルエンスおよびその他の改善

営業およびマーケティング部門は、複数のキャンペーンが商談に及ぼす影響を追跡できます。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

コラボレーション売上予測: 売上予測の機能強化

Lightning Experience でコラボレーション売上予測を設定します。また、売上予測ユーザは売上を予測するときにより多くの情報を取得し、その情報を使用してより多くのことができます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

エンタープライズテリトリー管理: Lightning Experience での営業テリトリーの設定と管理

Salesforce Classic に切り替えずに、[設定] で [エンタープライズテリトリー管理] を設定します。また、営業担当は、Lightning Experience で自分の営業テリトリーを管理できるようになりました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

商談: 商談チーム、商談商品、取引先責任者の役割、売上予測分類

Lightning Experience での商談の操作がかつてないほど効率的になりました。ユーザはより少ないクリック数で商談チーム全体を追加できます。また、商談の作成またはコピー時に商品をすぐに追加するようユーザに要求することで商談の完成度が高くなります。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

リード: 柔軟性の向上で迅速化されたリードの取引開始

営業担当がリードの取引を開始するときに時間を節約できるようになります。リードの取引開始の新しいプロセスでは、リードが、Salesforce にすでに存在する取引先責任者および取引先と照合されます。また、営業担当は商談を作成するか、すでに進行している商談を選択します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

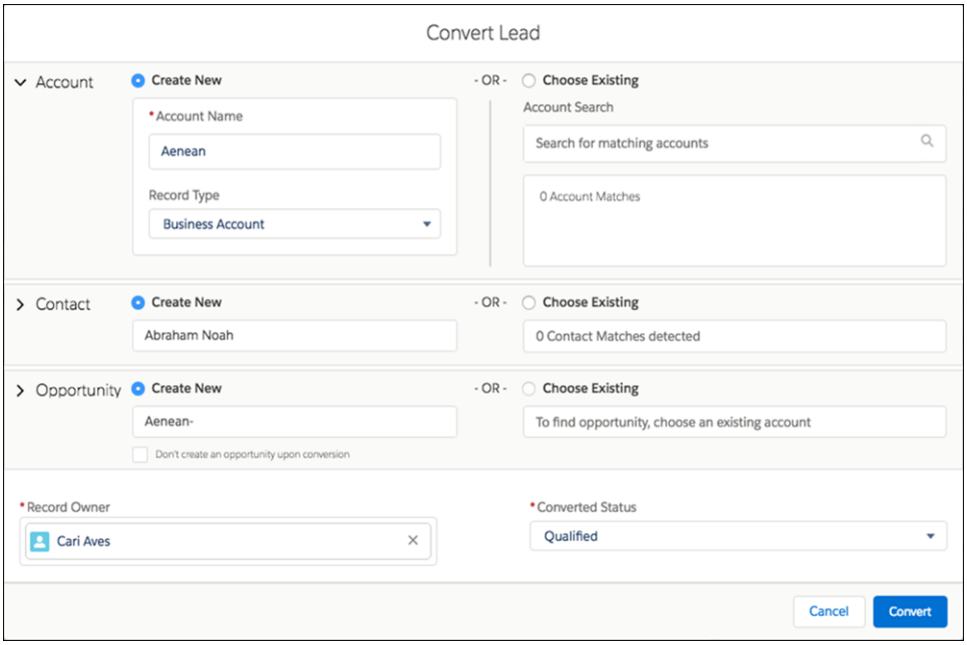
エディション

使用可能なエディション: Apex のリード変換使用時の **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

新しい効率的な取引開始ウィンドウで、営業担当は次のことをすばやく行うことができます。

- 1 回のクリックでリードデータから取引先、取引先責任者、および商談を作成する
- 新しいレコードごとにリードから提供された値を更新する
- レコードタイプを選択する
- 重複管理ルールを使用して、リードに一致する既存の取引先、取引先責任者、および商談レコードにリードを関連付ける
- 一致レコードの詳細を表示する
- リードに関連付けるその他のレコードを検索する
- フォローアップ ToDo を作成する

これらの機能は、取引先、取引先責任者、および商談ごとに別々の展開可能なセクションに表示されます。1つの便利な場所で、営業担当は自由にリードの取引を開始できます。



メモ: 新しいリードの取引開始ウィンドウを使用するには、Apexのリード変換を有効化する必要があります。PLSQLで構築された古いリードの取引開始を使用するユーザには、以前のリリースと同じウィンドウが表示されます。機能、柔軟性、効率性の点で優れた新しいリードの取引開始ウィンドウの登場は、Apexのリード変換に無料で切り替えるよい機会です。Apexのリード変換を有効化するには、こちらのナレッジ記事を参照し、Salesforceサポートにお問い合わせください。

取引先: 簡単になった有効化プロセス、Lightning Experienceでの個人取引先のマージのサポート、改善された共有モデル

有効化プロセスの改善や、Lightning Experienceで個人取引先をマージする機能の追加を行ったほか、個人取引先を使用する組織で取引先責任者を共有する方法に柔軟性を加えました。 これらの変更は、Lightning ExperienceとSalesforce Classicに適用されます。

個人取引先の簡単な設定

個人取引先の使用を開始する準備が整っていますか?有効化プロセスが合理化されたので、今が絶好の機会です。

Lightning Experienceでの個人取引先のマージ

営業担当は、法人取引先、取引先責任者、リードと同じように、Lightning Experienceで個人取引先の重複を表示できるようになりました。権限を持つユーザも、個人取引先をマージできます。

個人取引先を使用する組織での法人取引先責任者の手動共有 (正式リリース)

個人取引先を使用する組織で、取引先責任者の組織の共有設定を変更できるようになりました。これにより、取引先責任者の共有ルールを定義することや、法人取引先責任者を手動で共有することが可能になり、法人取引先責任者を柔軟に共有できるようになりました。

取引先レポートからキャンペーンへの個人取引先の追加

個人取引先を使用している場合、マーケティング部門は、取引先ベースの標準レポートおよびカスタムレポートから個人取引先を直接キャンペーンに追加して、すぐに対象とすることができます。これまで、ユーザは取引先責任者ベースのレポートからのみ、個人取引先をキャンペーンに追加できました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

個人取引先の簡単な設定

エディション

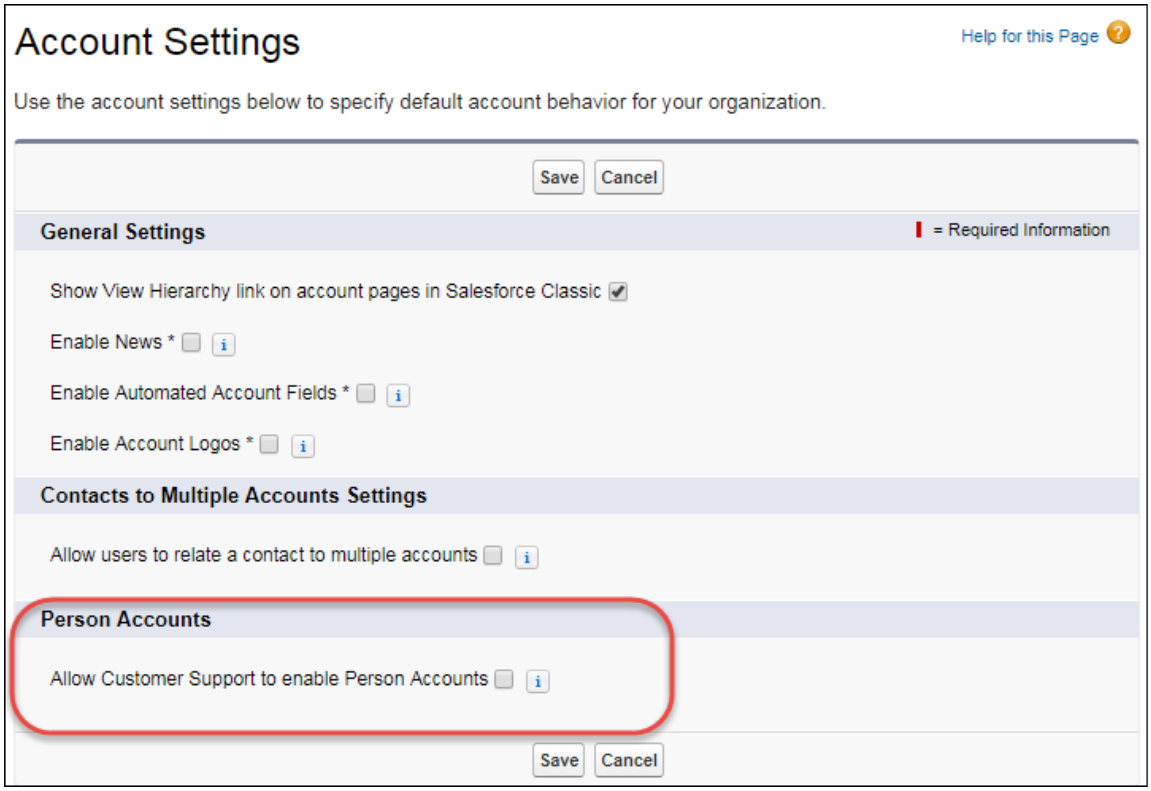
使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

個人取引先の使用を開始する準備が整っていますか?有効化プロセスが合理化されたので、今が絶好の機会です。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

組織が個人取引先を使用するための要件を満たしているかどうかを自動化プロセスで確認します。要件は次のとおりです。

- 取引先のレコードタイプが少なくとも 1 つある。
- 取引先に対する参照権限を持つユーザに、取引先責任者に対する参照権限がある。
- 取引先責任者が「親レコードに連動」するように、または取引先および取引先責任者が「非公開」となるように組織の共有設定が設定されている。

[設定] から、[クイック検索] ボックスに *「取引先設定」* と入力し、[カスタマーサポートによる個人取引先の有効化を許可] を選択します。組織で個人取引先を使用する準備ができていることが Salesforce で確認がとれた後、サポートケースの登録についての追加情報がメールで送信されます。



ただし、個人取引先の準備をする必要があるのは組織だけではありません。ユーザも準備をする必要があります。個人取引先は無効にできないため、Sandbox を作成して個人取引先が組織に与える影響を事前に確認することをお勧めします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:個人取引先の有効化(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

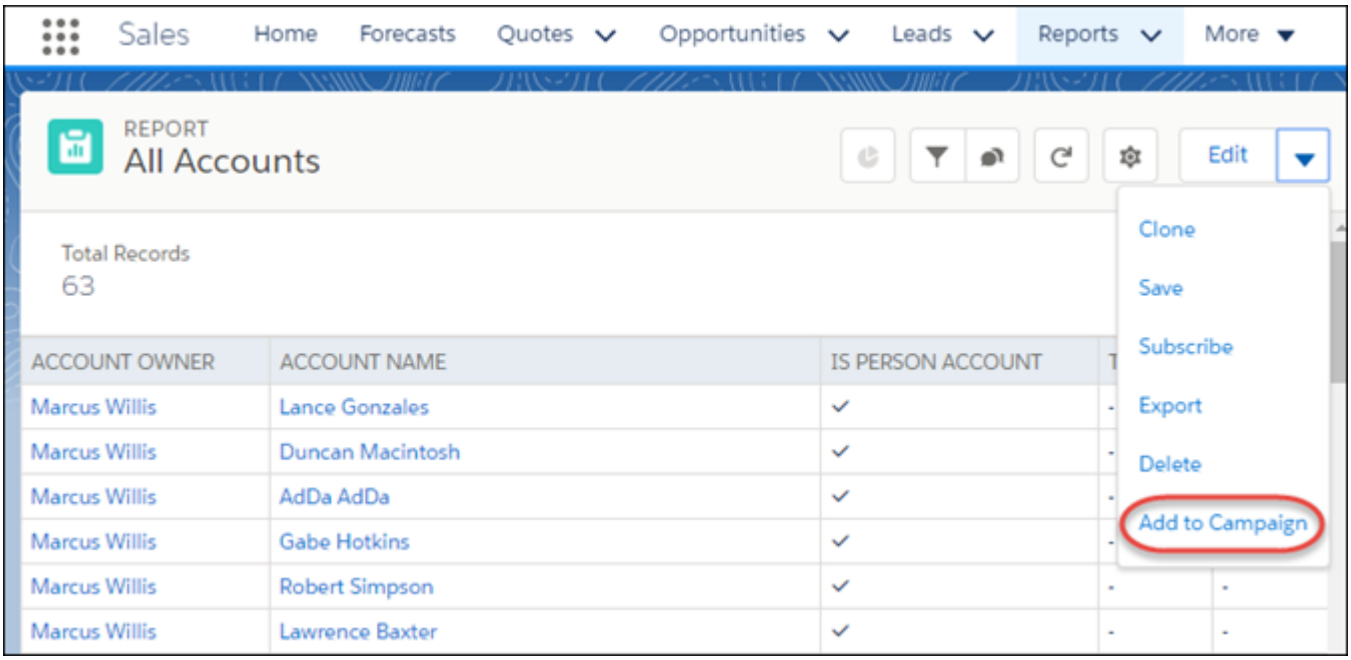
取引先レポートからキャンペーンへの個人取引先の追加

個人取引先を使用している場合、マーケティング部門は、取引先ベースの標準レポートおよびカスタムレポートから個人取引先を直接キャンペーンに追加して、すぐに対象とすることができます。これまで、ユーザは取引先責任者ベースのレポートからのみ、個人取引先をキャンペーンに追加できました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

ユーザはレポートの [キャンペーンに追加] をクリックして、最大 50,000 件の個人取引先を追加できます。レポートから個人取引先をキャンペーンに追加するには、レポートの主オブジェクトが取引先である必要があります。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



カスタムレポートタイプの場合、[個人取引先]項目は使用可能な項目として自動的に含まれます。削除しないでください。

キャンペーン: 複数接触のキャンペーンインフルエンスおよびその他の改善

営業およびマーケティング部門は、複数のキャンペーンが商談に及ぼす影響を追跡できます。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

複数のキャンペーンによる商談への影響を営業とマーケティングで追跡
複数接触の新しいキャンペーンインフルエンスモデルを使用して、マーケティング部門は最も関心のある影響の詳細を表示できます。初回接触、最終回接触、および商談に影響を与えるすべてのキャンペーンへの均等分布収益属性を別々のモデルで追跡します。この変更は、Pardot も購入した組織の Sales Cloud ユーザにのみ適用されます。

その他の変更によるキャンペーンインフルエンスの柔軟性向上
キャンペーンインフルエンス設定は、作業しやすいように異なるページに分割されています。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

複数のキャンペーンによる商談への影響を営業とマーケティングで追跡

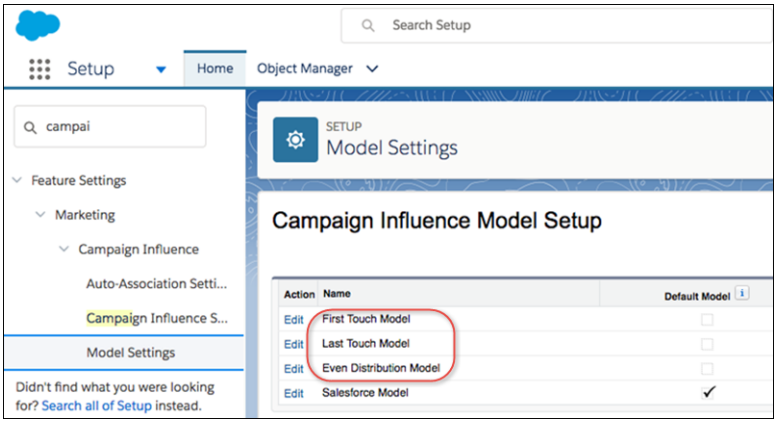
複数接触の新しいキャンペーンインフルエンスモデルを使用して、マーケティング部門は最も関心のある影響の詳細を表示できます。初回接触、最終回接触、および商談に影響を与えるすべてのキャンペーンへの均等分布収益属性を別々のモデルで追跡します。この変更は、Pardot も購入した組織の Sales Cloud ユーザにのみ適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

主キャンペーンソースモデルに加えて、Sales Cloud のカスタマイズ可能なキャンペーンインフルエンスも使用する Pardot ユーザ向けに、最大 3 つの新しいモデルを有効化できるようになりました。

- 初回接触モデルでは、あなたのブランドが見込み客と最初にやり取りした場所を追跡します。
- 最終回接触モデルでは、商談の成立に役立っているキャンペーンを示します。
- 均等分布モデルでは、見込み客とのすべてのやり取りの中でキャンペーンがどのように実行されたかをキャッチします。



[設定] でデフォルトとして選択したモデルのレコードが商談の [キャンペーンインフルエンス] 関連リストに表示されます。

メモ: この機能には、Pardot と Sales Cloud ライセンスの両方が必要です。この機能は、2017 年 11 月から 2018 年 1 月の期間に正式リリースされる予定です。公式声明で参照されている未リリースのサービスまたは機能は、現在利用できず、提供が遅れたり中止されたりする可能性があります。salesforce.com アプリケーションのご購入をご検討中のお客様は、現在利用可能な機能に基づいて購入をご決定ください。

その他の変更によるキャンペーンインフルエンスの柔軟性向上

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

キャンペーンインフルエンス設定は、作業しやすいように異なるページに分割されています。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

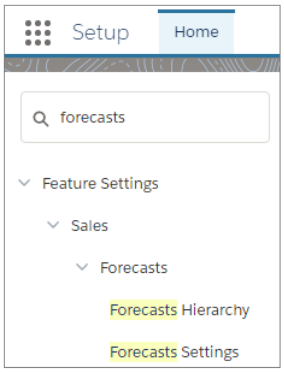
- [設定] で、[キャンペーンインフルエンス] ページは 3 つの別々のページに分割されています。
  - キャンペーンインフルエンスの設定
  - 自動関連付け設定
  - モデルの設定
- [設定] で、モデルごとに、収益属性に基づいてキャンペーンインフルエンスレコードをどのような場合に作成するかを選択できるようになりました。常にレコードを作成するか、収益属性が 0% よりも上回っている場合にレコードを作成するかを選択できます。各キャンペーンインフルエンスモデルには [レコードの設定] 設定が新しく追加され、[商談の主キャンペーンではキャンペーンインフルエンスレコードのみを移行] 項目は削除されました。

コラボレーション売上予測: 売上予測の機能強化

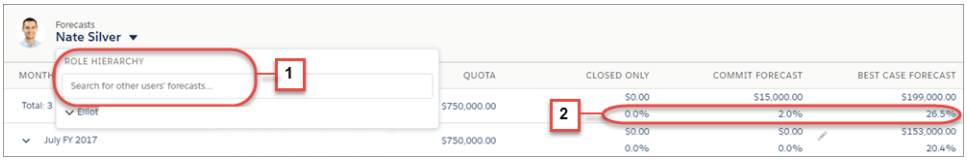
エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition (カスタム項目の売上予測を除く)、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

Lightning Experience でコラボレーション売上予測を設定します。また、売上予測ユーザは売上を予測するときにより多くの情報を取得し、その情報を使用してより多くのことができます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。



Salesforce システム管理者は、[設定] で [売上予測階層] と [売上予測の設定] にアクセスできます。



売上予測ユーザは、次のようなことができます。

- アクセス権があるユーザの売上予測にジャンプして表示する (1)。
- 目標達成率情報を表示する (2)。
- Lightning セールスコンソールでコラボレーション売上予測にアクセスする。
- 自分の商品ファミリの売上予測を調整する。これは、Lightning Experience に固有の機能です。

  商品ファミリの売上予測の合計は、Salesforce Classic では使用できません。ユーザが Lightning Experience で自分の商品ファミリの売上予測を調整しても、Salesforce Classic 売上予測グリッドのすべての合計にその調整が反映されるわけではありません。

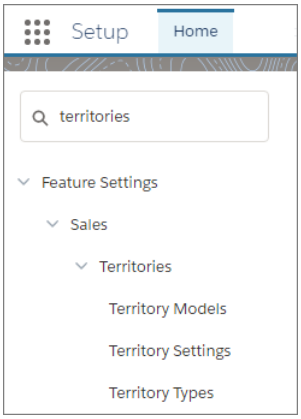
また、営業チームが Lightning Experience のコラボレーション売上予測に慣れてない場合、最新情報を紹介する動画「Forecast Accurately with Collaborative Forecasts in Lightning Experience (Lightning Experience のコラボレーション売上予測による正確な売上予測)」(英語のみ) を共有します。

エンタープライズテリトリー管理: Lightning Experience での営業テリトリーの設定と管理

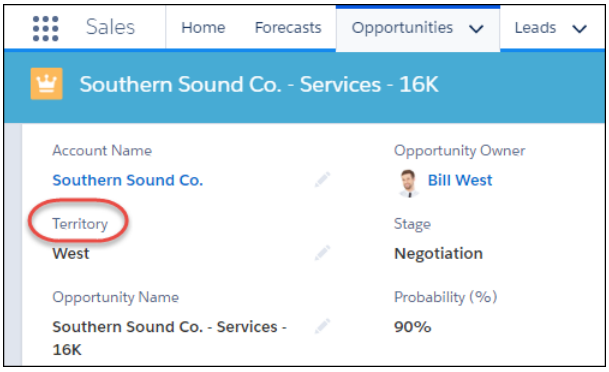
Salesforce Classic に切り替えずに、[設定] で [エンタープライズテリトリー管理] を設定します。また、営業担当は、Lightning Experience で自分の営業テリトリーを管理できるようになりました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

エディション

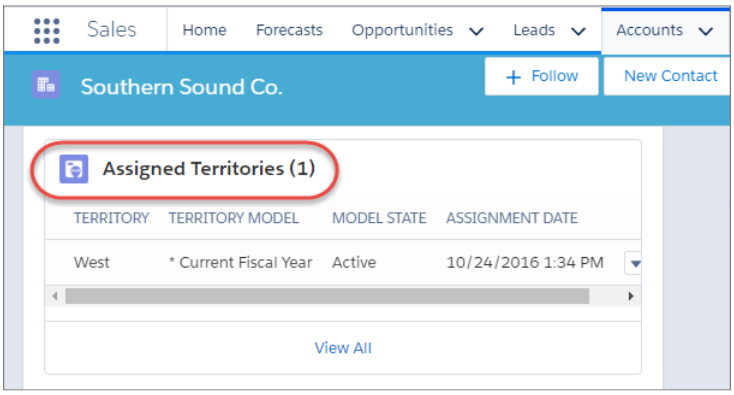
使用可能なエディション: **Developer** Edition および **Performance** Edition と、Sales Cloud が付属した **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition



[設定] で、[テリトリーモデル]、[テリトリーの設定]、[テリトリー種別] にアクセスします。



営業担当は、商談の詳細で割り当てられたテリトリーを変更できます。



営業担当は、取引先の[割り当て済みテリトリー]関連リストも表示できますが、このリストは「テリトリーの管理」権限を持つユーザでも参照のみです。

関連トピック:

- 外出先でのテリトリーの管理
- セールス機能: Lightning Experience の考慮事項

商談: 商談チーム、商談商品、取引先責任者の役割、売上予測分類

Lightning Experience での商談の操作がかつてないほど効率的になりました。ユーザはより少ないクリック数で商談チーム全体を追加できます。また、商談の作成またはコピー時に商品をすぐに追加するようユーザに要求することで商談の完成度が高くなります。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

エディション

Lightning Experience で使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

- 商談チームメンバーをすばやく追加
- 商品を商談に追加するようユーザに促す

商談チームメンバーをすばやく追加

営業担当は、商談チームの複数のメンバーを 1 ページで追加できます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

商品を商談に追加するようユーザに促す

新しい商談への商品の追加を営業担当に促すメッセージを表示することで、商談の完成度が高くなります。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Lightning Experience を使用した取引先責任者からの商談の取引先責任者の役割の作成

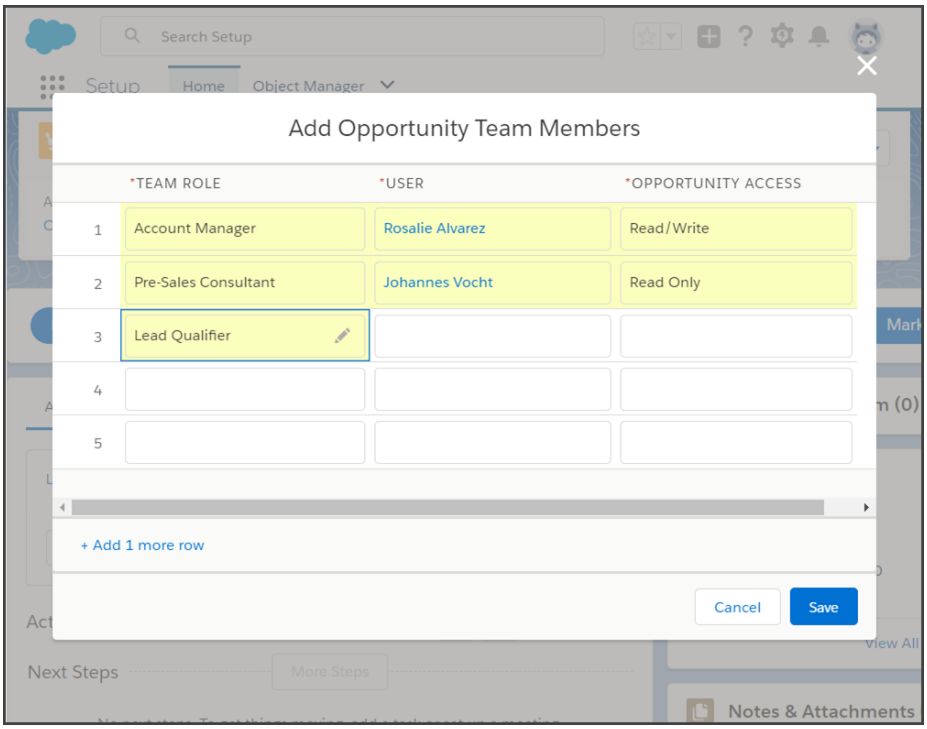
商談と取引先責任者の役割を一度に作成します。営業担当が取引先責任者の [商談] 関連リストから商談を作成すると、Salesforce によって商談の取引先責任者の役割に取引先責任者が追加されます。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce アプリケーションにのみ適用されます。

商談の売上予測分類の変更

商談のフェーズにかかわらず、売上予測分類を変更して、売上予測を調整します。この変更は、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

商談チームメンバーをすばやく追加

営業担当は、商談チームの複数のメンバーを 1 ページで追加できます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。



エディション

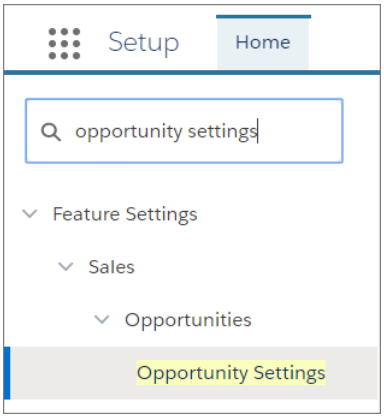
Lightning Experience で使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

商品を商談に追加するようユーザに促す

新しい商談への商品の追加を営業担当に促すメッセージを表示することで、商談の完成度が高くなります。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

エディション

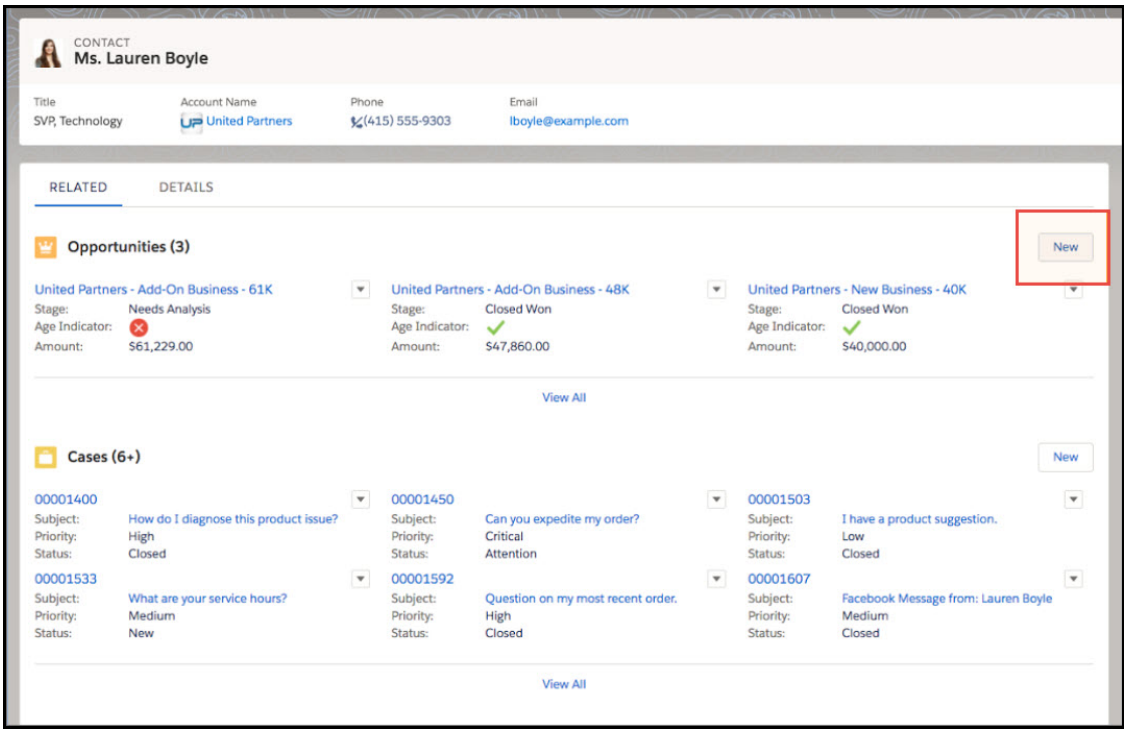
Lightning Experience で使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



商品を商談に追加するようユーザに促すには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「商談の設定」と入力し、[商談の設定] を選択します。[商品を商談に追加するようユーザに促す] を有効にします。

Lightning Experience を使用した取引先責任者からの商談の取引先責任者の役割の作成

商談と取引先責任者の役割を一度に作成します。営業担当が取引先責任者の [商談] 関連リストから商談を作成すると、Salesforce によって商談の取引先責任者の役割に取引先責任者が追加されます。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce アプリケーションにのみ適用されます。

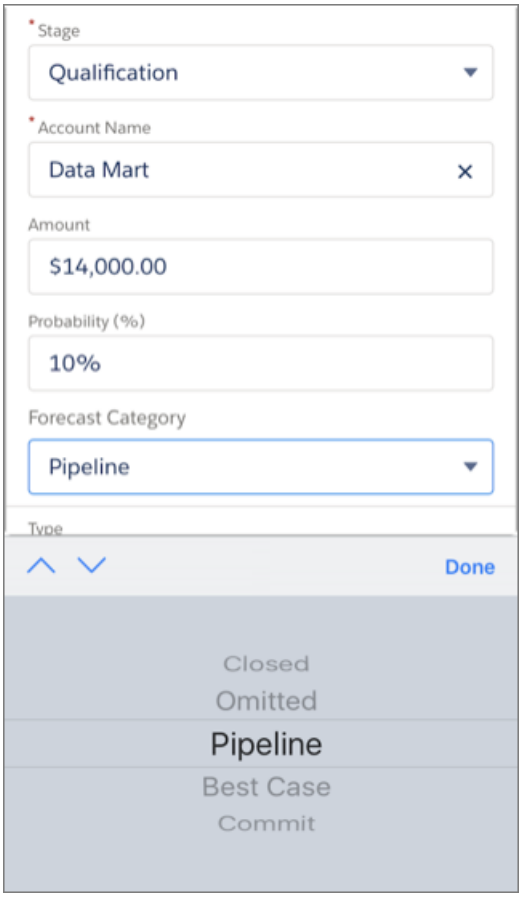


商談の売上予測分類の変更

商談のフェーズにかかわらず、売上予測分類を変更して、売上予測を調整します。この変更は、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

エディション

Lightning Experience で使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



生産性機能: セールスコンソールの ToDo アラーム、拡張リストビュー、売上予測

ToDo アラーム、リストビューの改善、カレンダーオプションの追加により、Lightning Experience での営業担当の生産性が最大化されます。コラボレーション売上予測もセールスコンソールで使用できるようになりました。

このセクションの内容:

セールスコンソール: コンソールへの売上予測の導入

長らくお待たせしましたが、Lightning セールスコンソールにコラボレーション売上予測が導入されました。もう待つ必要はありません。その他にも、お気に入りを追加する機能、ユーザのワークフローを効率化するナビゲーションルール、追加のキーボードショートカットなど、Lightning コンソールアプリケーションも改善しました。

メール: リストメールの導入

会社のマーケティングおよび営業チームは、リストメールを使用して、メールマーケティングをさらに向上できます。対象の取引先責任者、リード、個人取引先のリストビューをキュレーションできます。また、個別のパーソナライズされたメールをリストの各受信者に送信することもできます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

活動: アーカイブ済みおよび過去の活動、活動タイムラインの検索条件、ToDo アラーム

営業担当は、ToDo を利用し、過去およびアーカイブ済みのすべての活動を表示して、より多くのインサイトを得ることができます。活動タイムラインを新しい方法で絞り込むことができます。また、ToDo を見過ごさないように ToDo アラームを設定できます。これらの変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

リストビュー: カスタマイズ、一括インライン編集、テキスト折り返し

営業担当がリストビューから作業するときに、数回クリックするだけでより多くの作業を完了できるようになりました。リストビューから複数のレコードを編集し、列のテキストを折り返して一目でわかるように表示します。

メモ: 非公開メモを使用した機密データの守秘

営業担当はメモを活用してワークフローの合理化や生産性の向上を図っています。非公開メモがあれば、コンテキストにメモを残したまま、機密情報を記録できます。営業担当は、選択した相手と非公開メモを共有することもできます。この変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

カレンダー: より堅牢になった Lightning Experience のカレンダーオプション

Lightning Experience でより効率的に同僚とコラボレーションします。営業担当は、カレンダーを共有したり、Google カレンダーと同期している行動に被招集者を追加したりできます。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

Lightning Dialer: カスタムボイスメール挨拶の録音

ボイスメールに個性を追加します。営業担当は、Lightning Dialer のボイスメールにカスタムの挨拶を録音できます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

ホーム: ToDo コンポーネントの検索条件オプションの追加

ToDo のさまざまなビューを営業担当が確認できるようにする必要がありますか?営業チームが ToDo コンポーネントをホームページで直接絞り込むことができるようになりました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

セールスコンソール: コンソールへの売上予測の導入

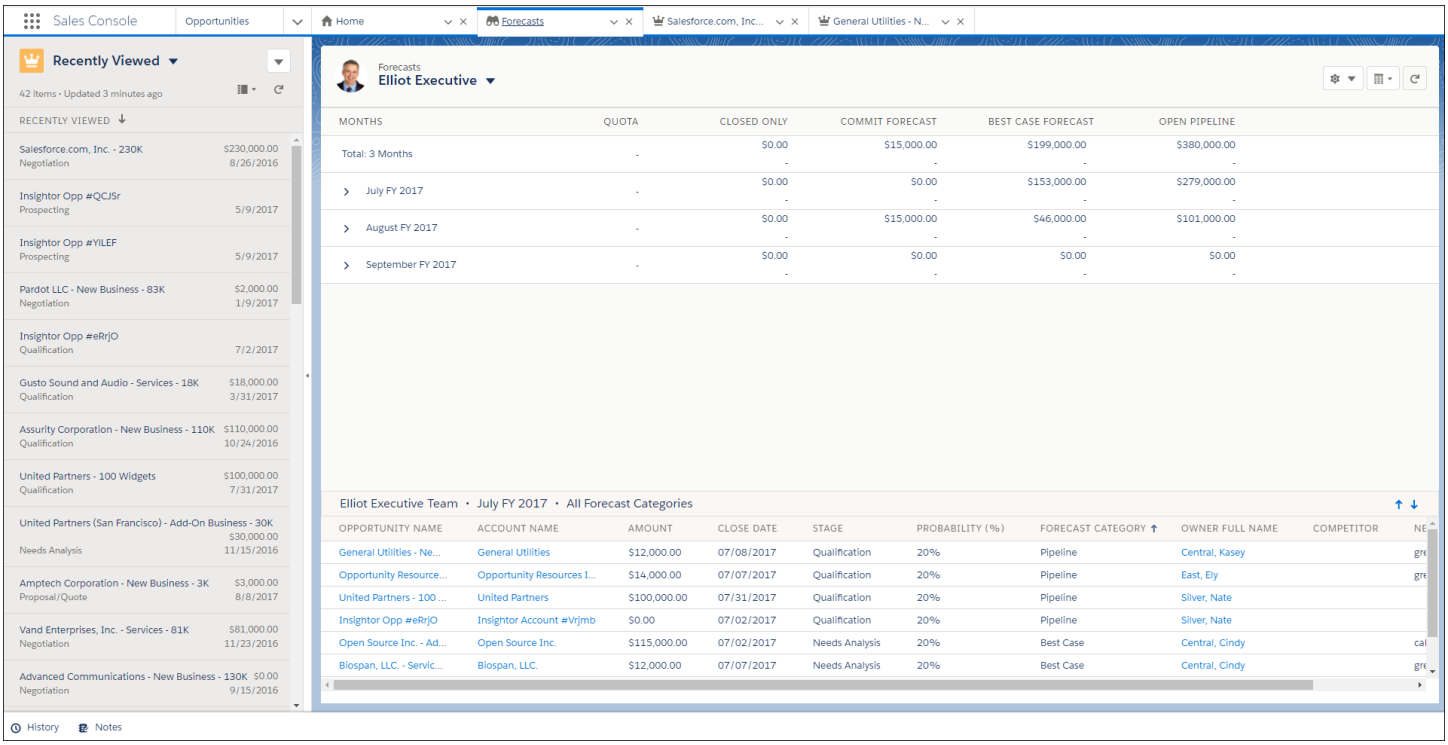
長らくお待たせしましたが、Lightning セールスコンソールにコラボレーション売上予測が導入されました。もう待つ必要はありません。その他にも、お気に入りを追加する機能、ユーザのワークフローを効率化するナビゲーションルール、追加のキーボードショートカットなど、Lightning コンソールアプリケーションも改善しました。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Sales Cloud 付属)

メモ: Lightning コンソールアプリケーションは、まだ Salesforce Classic コンソールアプリケーションと完全に同じ機能を使用できるわけではありません。たとえば、転送通知やマルチモニターサポートなどの Salesforce Classic コンソールアプリケーションの一部の機能は、Lightning コンソールアプリケーションでは使用できません。詳細はこちらを参照してください。

Salesforce Classic コンソールアプリケーションを Lightning Experience に移行することもできません。



コンソールアプリケーションでのお気に入りの使用

よくアクセスするページ、重要なレコード、リスト、グループ、ダッシュボードを、ユーザがすぐ使用できるようにします。お気に入りは Web ブラウザのブックマークに似ていて、頻繁に使用する項目にすばやくアクセスできるようにします。

ナビゲーションルールを使用してコンソールアプリケーションで関連レコードを自動的に開く

ナビゲーションルールを使用すると、コンソールユーザのワークフローがより効率的になります。たとえば、ユーザが取引先責任者をクリックしたときに取引先責任者の関連取引先のサブタブを開くように、ナビゲーションルールを設定できます。

キーボードショートカットを使用した移動の迅速化

新しいキーボードショートカットを使用すると、ユーザはコンソールと標準ナビゲーション Lightning アプリケーションの両方でより効率的に作業できます。

Lightning Experience でのマクロの使用

営業担当は、一般的な反復作業を自動化するマクロを使用できます。営業担当がマクロを使用できるようにするには、マクロユーティリティを Sales Console アプリケーションに追加します。

関連トピック:

- コラボレーション売上予測: 売上予測の機能強化
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Experience コンソールの制限事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning コンソールアプリケーションで使用可能な機能(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メール: リストメールの導入

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

会社のマーケティングおよび営業チームは、リストメールを使用して、メールマーケティングをさらに向上できます。対象の取引先責任者、リード、個人取引先のリストビューをキュレーションできます。また、個別のパーソナライズされたメールをリストの各受信者に送信することもできます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

このセクションの内容:

リストメールを使用した営業担当のメールリーチの拡大

会社のメールによるアウトリーチ努力を次のレベルまで高めます。営業担当は、取引先責任者、リード、個人取引先リストの受信者にメールを送信できます。「全員に返信」応答を使用してすべての人を巻き込む心配はありません。または、リストビューの個々のレコードを選択できます。リストメールでは、グループ全体に 1 つのメールではなく、各受信者に個別のメールが送信されます。営業担当は、メールテンプレートと差し込み項目を使用して、各メールをカスタマイズできます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

活動タイムラインでのリストメールの追跡

営業担当の場合は、活動タイムラインが画面の大半を占めています。リストメールがリードまたは取引先責任者に送信されたときの活動がタイムラインに表示されるようになりました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

空のメール差し込み項目についてのエラーの排除

メールとメールテンプレートには、パーソナライズのための差し込み項目を含めることができます。Summer '17 以前は、受信者のレコードに差し込み項目のデータがないとエラーが表示されました。このエラーがなくなり、現在はメールが送信されるときに差し込み項目は空白になります。この変更は、[メールを送信] アクションとリストメールに適用されます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

リストメールを使用した営業担当のメールリーチの拡大

会社のメールによるアウトリーチ努力を次のレベルまで高めます。営業担当は、取引先責任者、リード、個人取引先リストの受信者にメールを送信できます。「全員に返信」応答を使用してすべての人を巻き込む心配はありません。または、リストビューの個々のレコードを選択できます。リストメールでは、グループ全体に 1 つのメールではなく、各受信者に個別のメールが送信されます。営業担当は、メールテンプレートと差し込み項目を使用して、各メールをカスタマイズできます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

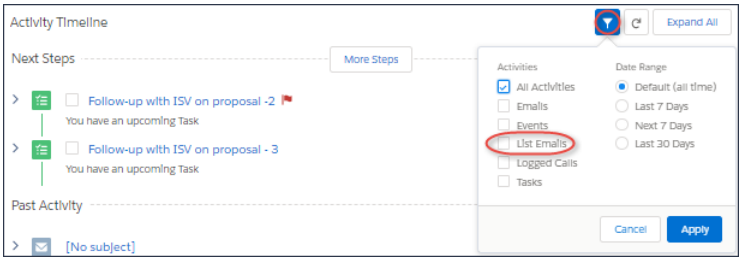
リストメールを使用するには、リストメールと一括メールのユーザ権限が必要です。

関連トピック:

- *Salesforce ヘルプ*: グループへのメール送信: リストメールと一括メール (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce ヘルプ*: Lightning Experience でのリストメールの送信に関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *IdeaExchange*: Easy Way to Create Mass Email (一括メール送信を簡単に作成する方法)
- *IdeaExchange*: Allow Mass Content Delivery via Email (メールによる一括コンテンツ配信の許可)
- *IdeaExchange*: Mass Email Directly from a List View (リストビューからの一括メール送信)
- *IdeaExchange*: Ability to Mass Email Contacts within Lightning (Lightning での取引先責任者の一括メール送信機能)

活動タイムラインでのリストメールの追跡

営業担当の場合は、活動タイムラインが画面の大半を占めています。リストメールがリードまたは取引先責任者に送信されたときの活動がタイムラインに表示されるようになりました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。



リストメールの活動が活動タイムラインに表示されるのは、リストメールの活動の記録が有効になっている場合のみです。これはデフォルトで有効になっています。

営業担当は Salesforce for Android、Salesforce for iOS、または Salesforce モバイル Web でリストメールを作成できませんが、活動を参照することはできます。

メモ: Salesforce Classic では、一括メール送信は活動ではなく ToDo として記録されます。これは (HTML メールの場合も) プレーンテキストで記録されるため、添付ファイルを含めたり、受信者を表示したりしないでください。

関連トピック:

活動タイムラインの絞り込み方法の追加

IdeaExchange: Display the Email Subject for Mass Emails in Activity History (活動履歴での一括メールの件名表示)

IdeaExchange: Automatically Filter Out Mass Emails from Activity Reporting (活動レポートからの一括メールの自動除外)

空のメール差し込み項目についてのエラーの排除

メールとメールテンプレートには、パーソナライズのための差し込み項目を含めることができます。Summer '17 以前は、受信者のレコードに差し込み項目のデータがないとエラーが表示されました。このエラーがなくなり、現在はメールが送信されるときに差し込み項目は空白になります。この変更は、[メールを送信] アクションとリストメールに適用されます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メールテンプレートでの差し込み項目の使用に関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

活動: アーカイブ済みおよび過去の活動、活動タイムラインの検索条件、ToDo アラーム

営業担当は、ToDo を利用し、過去およびアーカイブ済みのすべての活動を表示して、より多くのインサイトを得ることができます。活動タイムラインを新しい方法で絞り込むことができます。また、ToDo を見過ごさないように ToDo アラームを設定できます。これらの変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション

このセクションの内容:

営業担当が忘れないように ToDo アラームを使用

ToDo にアラームを設定すると、営業担当がその ToDo をうっかり忘れてしまうことはありません。期限またはマイルストンチェックのどちらを設定するとしても、アラームは期日を守るのに役立ちます。この変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

ToDo 通知を使用した営業担当の業務の円滑化

ビジュアルキューによって、営業担当は期日を守り、業務を円滑に進められます。通知、通知トレイ、ToDo アイコンは、消化しなければならない ToDo があることを営業担当に知らせます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

[すべての活動履歴] を使用して過去およびアーカイブ済みの活動をすべて表示

すべての取引先、商談、取引先責任者の活動を表示できれば、営業担当にとって便利なことです。では、これまでに行われたことをすべて表示するには、どうすればよいのでしょうか?この過去に遡ったビューを表示するには、[すべての活動履歴] ページを使用します。このビューには、過去の活動とアーカイブ済みの活動がすべて含まれます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

活動タイムラインの絞り込み方法の追加

活動タイムラインに表示される内容をリストメールで絞り込む、という新しい方法が追加されました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

営業担当が忘れないように ToDo アラームを使用

ToDo にアラームを設定すると、営業担当がその ToDo をうっかり忘れてしまうことはありません。期限またはマイルストンチェックのどちらを設定するとしても、アラームは期日を守るのに役立ちます。この変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

ユーザ権限

ページレイアウトを編集する
- 「アプリケーションのカスタマイズ」

営業担当の ToDo アラームを有効にするには、ToDo のページレイアウトに [アラーム設定] 項目を追加します。項目を [ToDo の詳細] セクションに配置します。

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web で ToDo アラームを作成および編集する場合も、[簡単な新規 ToDo フォームを表示] 設定がオフになっていることを確認します。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*活動設定*」と入力し、[活動設定] を選択します。[簡単な新規 ToDo フォームを表示] をオフにします。

メモ: Salesforce for Android、Salesforce for iOS、または Salesforce モバイル Web ではアラームの受信がサポートされていません。

営業担当がアラームを受信するには、ユニバーサル通知サービス (UNS) を有効にする必要があります。UNS は、Lightning Experience 通知ベルの通知に使用され、デフォルトで有効になっています。

メモ: 新規 ToDo グローバルアクションは ToDo アラームをサポートしていません。

関連トピック:

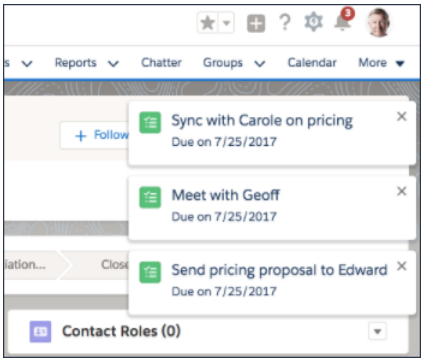
IdeaExchange: Ability to Reposition Reminder Fields in Activity Layouts (活動レイアウトのアラーム項目の再配置機能)

IdeaExchange: Bring Pop Up Reminders for Tasks and Events to Lightning Experience (ToDo や行動のポップアップを Lightning Experience に表示)

ToDo 通知を使用した営業担当の業務の円滑化

ビジュアルキューによって、営業担当は期日を守り、業務を円滑に進められます。通知、通知トレイ、ToDo アイコンは、消化しなければならない ToDo があることを営業担当に知らせます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

アラームの時刻が来ると、Salesforce と通知トレイに通知カードが表示されます。

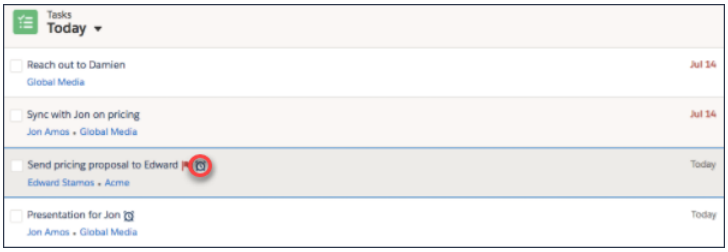


営業担当は、通知カードを一度に 3 件まで表示できます。カードをクリックして ToDo に移動するか、[X] をクリックしてアラームを消すと、さらに別のカードが表示されます。

アラームは通知トレイに残ります。

営業担当は、通知トレイアイコン をクリックして、通知のリストを表示できます。

ToDo が表示されると必ず、アラームが設定された ToDo の横に アイコンが表示されます。



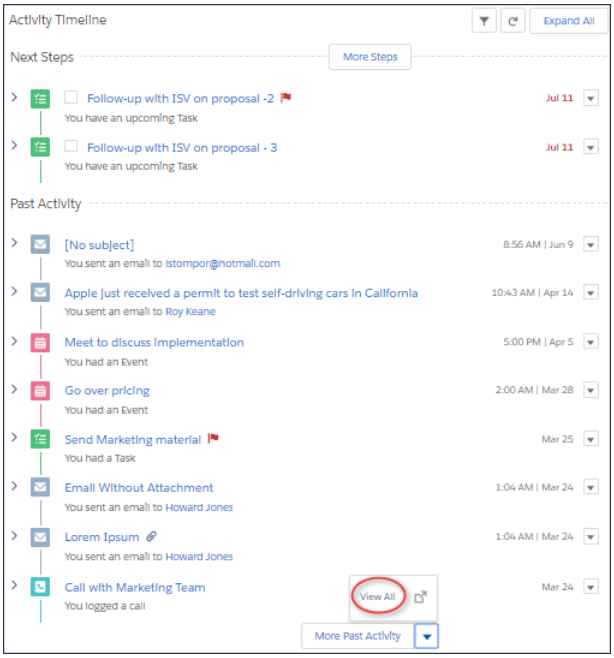
メモ: 通知トレイのプッシュ通知とアラームは、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、または Salesforce モバイル Web ではサポートされません。

[すべての活動履歴] を使用して過去およびアーカイブ済みの活動をすべて表示

すべての取引先、商談、取引先責任者の活動を表示できれば、営業担当にとって便利なことです。では、これまでに行われたことをすべて表示するには、どうすればよいのでしょうか? この過去に遡ったビューを表示するには、[すべての活動履歴] ページを使用します。このビューには、過去の活動とアーカイブ済みの活動がすべて含まれます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

営業担当は、[すべての活動履歴] タブを使用して、顧客のエンゲージメントのコンテキストを理解し、キーワードで特定の活動を検索できます。すべての活動が 1 ページに表示されるので、必要な情報を見つけるためにページ間を移動する必要がありません。

活動タイムラインで [過去の活動をさらに表示] ドロップダウンから [すべて表示] をクリックします。



関連トピック:

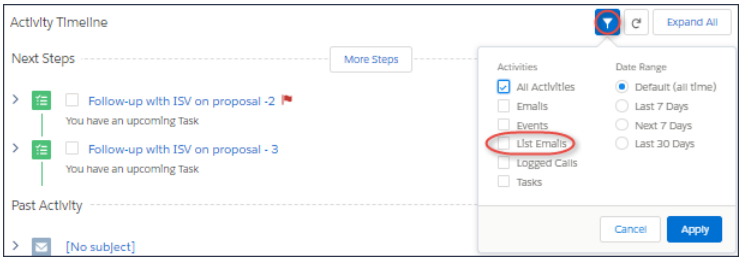
IdeaExchange: Lightning Experience Should Display Archived Activities (Lightning Experience でのアーカイブ済み活動の表示)

活動タイムラインの絞り込み方法の追加

活動タイムラインに表示される内容をリストメールで絞り込む、という新しい方法が追加されました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション



じょうごアイコンをクリックして検索条件に移動します。リストメールオプションを選択して、リストメールで絞り込みます。

関連トピック:

活動タイムラインでのリストメールの追跡

IdeaExchange: Display the Email Subject for Mass Emails in Activity History (活動履歴での一括メールの件名表示)

IdeaExchange: Automatically Filter Out Mass Emails from Activity Reporting (活動レポートからの一括メールの自動除外)

リストビュー: カスタマイズ、一括インライン編集、テキスト折り返し

営業担当がリストビューから作業するときに、数回クリックするだけでより多くの作業を完了できるようになりました。リストビューから複数のレコードを編集し、列のテキストを折り返して一目でわかるように表示します。

エディション

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Personal** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

コンテンツに合わせて動的に調整されるリストビューの列幅
列に過剰な空白が表示されたり、コンテンツが表示領域外となることがなくなりました。リストビュー、検索結果、関連リスト、[設定]のアプリケーションマネージャなどの列は、列内のデータの長さに基づいてサイズが変更されるようになりました。画面のサイズを変更すると、列はそれに応じて調整されます。固定列幅を設定すると、この機能は無効になります。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

より多くのリストビューでカスタム列幅の設定
スティッキー列幅が [最近参照したデータ] リストビュー、関連リスト、検索結果に導入されました。列幅を変更し、別のページに移動した後にまた戻ってくると、カスタム列幅がそのまま使用されます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

カスタムリストビューの列幅をデフォルトにリセット
リストビュー、関連リスト、検索結果の列幅は変更ができます。ただし、変更をすべて元に戻す必要がある場合はどうすればよいでしょうか? リストビューコントロールの新しい [列幅をリセット] 設定を使用して、デフォルトの幅に戻します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

リストビューのテキスト折り返し
リストビューで各項目の一部しか表示されず、うんざりしていませんか?リストビュー列のテキストを折り返せるようになりました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

コピーまたは別名で保存を使用してリストビューを自分専用にする
お気に入りのリストビューが見つかりました。ただし、それを編集して変更を保存するための権限がありませんか? [別名で保存] や [コピー] を使用すればリストビューを容易に作成し、微調整を加えることができます。Salesforce Classic を使用してこの方法でリストビューを作成したユーザは、それを Lightning Experience でも実行できるようになりました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

一括インライン編集でより多くのレコードを同時に編集
営業担当は、リストビューから離れずに、最大200件のレコードを更新できるようになりました。これは、Lightning Experience の新機能です。

コンテンツに合わせて動的に調整されるリストビューの列幅

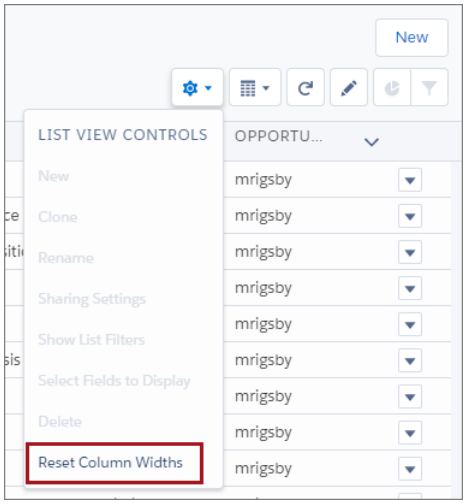
列に過剰な空白が表示されたり、コンテンツが表示領域外となることがなくなりました。リストビュー、検索結果、関連リスト、[設定]のアプリケーションマネージャなどの列は、列内のデータの長さに基づいてサイズが変更されるようになりました。画面のサイズを変更すると、列はそれに応じて調整されます。固定列幅を設定すると、この機能は無効になります。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

より多くのリストビューでカスタム列幅の設定

スティッキー列幅が[最近参照したデータ]リストビュー、関連リスト、検索結果に導入されました。列幅を変更し、別のページに移動した後にまた戻ってくると、カスタム列幅がそのまま使用されます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

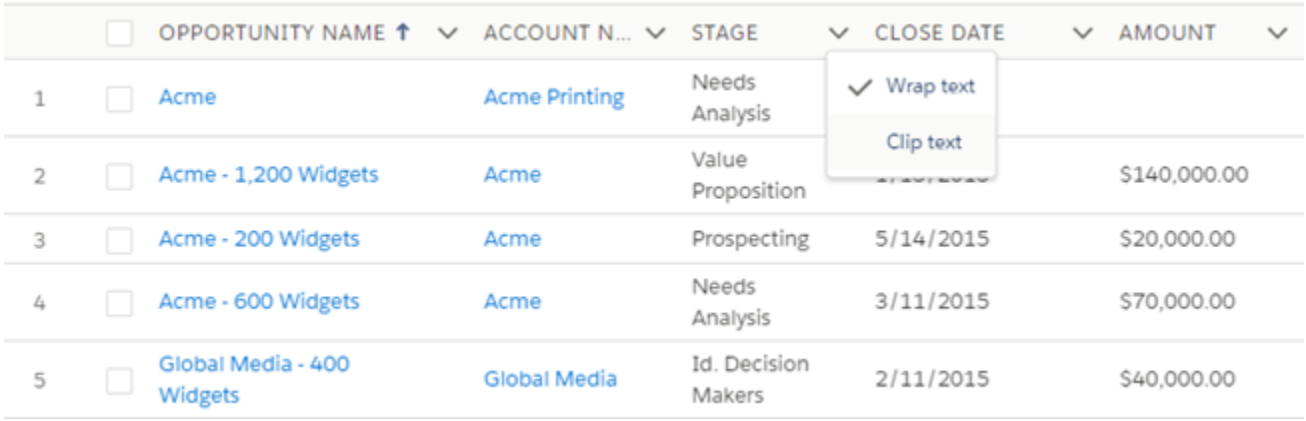
カスタムリストビューの列幅をデフォルトにリセット

リストビュー、関連リスト、検索結果の列幅は変更ができます。ただし、変更をすべて元に戻す必要がある場合はどうすればよいでしょうか?リストビューコントロールの新しい[列幅をリセット]設定を使用して、デフォルトの幅に戻します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。



リストビューのテキスト折り返し

リストビューで各項目の一部しか表示されず、うんざりしていませんか? リストビュー列のテキストを折り返せるようになりました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

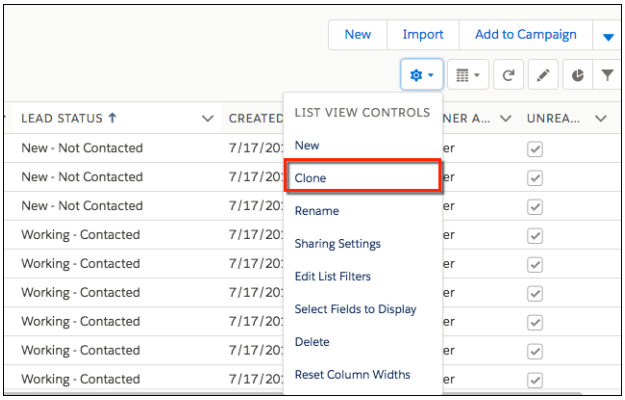


方法は簡単です。リストビュー列の上部で [テキスト折り返し] または [テキスト省略] を選択します。

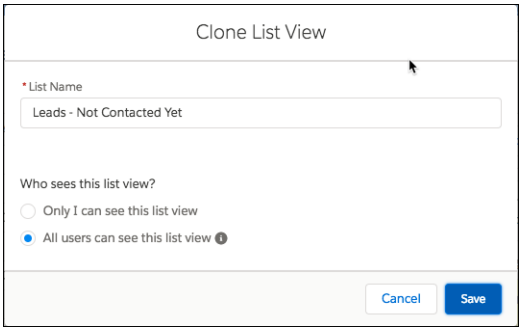
コピーまたは別名で保存を使用してリストビューを自分専用にする

お気に入りのリストビューが見つかりました。ただし、それを編集して変更を保存するための権限がありませんか? [別名で保存] や [コピー] を使用すればリストビューを容易に作成し、微調整を加えることができます。Salesforce Classic を使用してこの方法でリストビューを作成したユーザは、それを Lightning Experience でも実行できるようになりました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

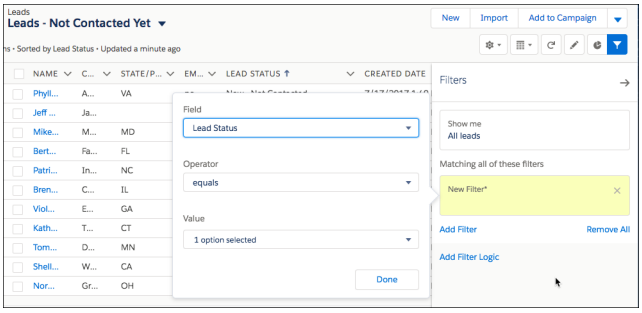
このリストビューの正確なコピーを作成する必要がありますか? コピーオプションを使用できます。まず、お気に入りのリストビューを選択します。[リストビューコントロール] を開き、[コピー] をクリックします。



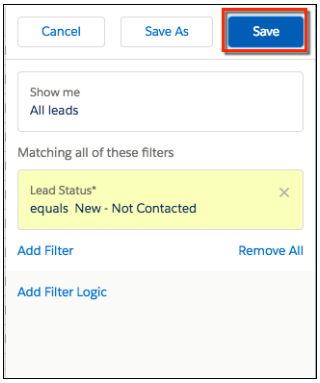
新しい名前でリストビューを保存して、それを共有するかどうかを選択できます。



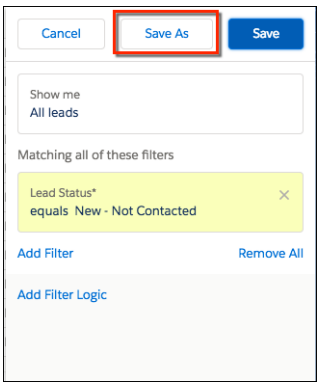
必要に応じて、検索条件と表示オプションを編集して情報を自由に表示します。



[保存] をクリックします。



既存のリストビューをコピーすることなく、その検索条件の編集を開始してしまいましたか?心配は無用です。その場合は、[検索条件] パネルで [別名で保存] をクリックし、リストに新しい名前を付けます。



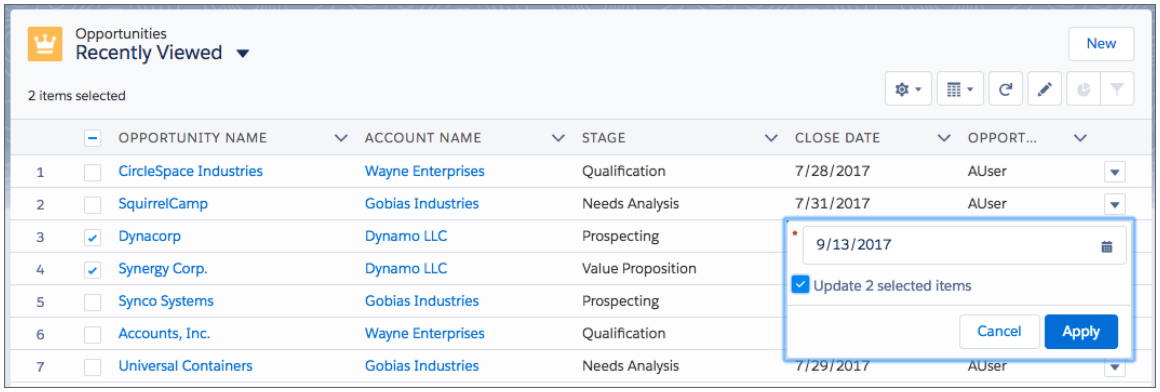
関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のリストビューの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

一括インライン編集でより多くのレコードを同時に編集

営業担当は、リストビューから離れずに、最大 200 件のレコードを更新できるようになりました。これは、Lightning Experience の新機能です。

リストビューで複数のレコードを選択し、更新する項目の横にある編集アイコンをクリックします。項目に新しい値を入力し、[適用] をクリックして選択したレコードを更新します。



メモ: 非公開メモを使用した機密データの守秘

営業担当はメモを活用してワークフローの合理化や生産性の向上を図っています。非公開メモがあれば、コンテキストにメモを残したまま、機密情報を記録できます。営業担当は、選択した相手と非公開メモを共有することもできます。この変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

営業担当が顧客とビジネス関係を構築していく中で、守秘情報を知り得ることがあります。たとえば、商品の新発売の予定や新しいイニシアティブの時期に関する情報を知らされることがあります。こうした情報を記録しておきたいと思いますが、誰かに見られたくはありません。非公開メモが役立つのはこうした場面です。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

営業担当は非公開メモの次の共有オプションを選択できます。

レコードで可視
関連レコードに対する参照アクセス権があるすべてのユーザがメモを参照できます。

非公開で共有
営業担当および明示的に営業担当がメモを共有したユーザのみが参照できます。

非公開
メモの所有者のみが参照できます。

カレンダー: より堅牢になった Lightning Experience のカレンダーオプション

Lightning Experience でより効率的に同僚とコラボレーションします。営業担当は、カレンダーを共有したり、Google カレンダーと同期している行動に被招集者を追加したりできます。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

Lightning Sync for Google を使用して Salesforce に行動の被招集者の詳細を取り込む
Google カレンダーと Salesforce 間で同期するように行動を設定するときに、拡張されたスケジュールオプションを含めます。これで、営業担当は取引先責任者、リード、その他の Salesforce ユーザにミーティングへの参加を招待でき、すべての Salesforce ユーザはミーティングの被招集者がどのように応答したかを参照できます。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。この機能では、G Suite と Lightning Sync を [双方向同期] の同期方向で設定する必要があります。

Lightning Experience で同僚とカレンダーを共有
あなたが開拓してきた見込み客との商談を成立させることができる営業担当を探していますか?商談成立を担当する営業担当が、自分のカレンダーを他の営業担当と共有している場合、他の営業担当はこの営業担当の空き状況を確認できます。これで、商談成立を担当する営業担当のカレンダーに他の営業担当はミーティングを直接追加することで、自分の見込み客を引き継ぐことができます。これは、Lightning Experience の新機能です。

Cloud Scheduler の廃止
Cloud Scheduler は使用できなくなりました。営業担当は、行動の [新規ミーティング要請] ボタンを使用して新しいミーティングを提案することはできません。既存の提案には、この機能が使用できなくなり、招待者は主催者へ問い合わせるよう提案が表示されます。この変更は Salesforce Classic にのみ適用されます。

Lightning Sync for Google を使用して Salesforce に行動の被招集者の詳細を取り込む

Google カレンダーと Salesforce 間で同期するように行動を設定するときに、拡張されたスケジュールオプションを含めます。これで、営業担当は取引先責任者、リード、その他の Salesforce ユーザにミーティングへの参加を招待でき、すべての Salesforce ユーザはミーティングの被招集者がどのように応答したかを参照できます。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。この機能では、G Suite と Lightning Sync を [双方向同期] の同期方向で設定する必要があります。

営業担当の Google カレンダーからスケジュールされたミーティングが Salesforce に同期されます。これにより、チームは両方のアプリケーションからミーティングデータにアクセスできます。営業担当のミーティングデータを Salesforce に取り込むと、会社全体でこのデータを共有、追跡、分析できるようになります。

システム管理者や営業担当が行動の被招集者の表示、招待、管理を行うには、次の条件を満たす必要があります。

- Salesforce と Google カレンダーの間で行動が同期されるように、OAuth 2.0 を使用する Lightning Sync に対して営業担当を設定し、同期方向を [双方向同期] に設定している。
- [行動] ページレイアウトに [被招集者] 項目を追加している。
- ユーザが Google カレンダー、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web で行動を作成または編集している。

[双方向同期]を選択すると、Salesforce Classic の一部のカレンダー機能が制限されます。Salesforce ヘルプの「Lightning Sync の考慮事項」を参照してください。

関連トピック:

生産性の機能: Lightning Experience の考慮事項

Salesforce ヘルプ:行動の双方向同期に関する考慮事項(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

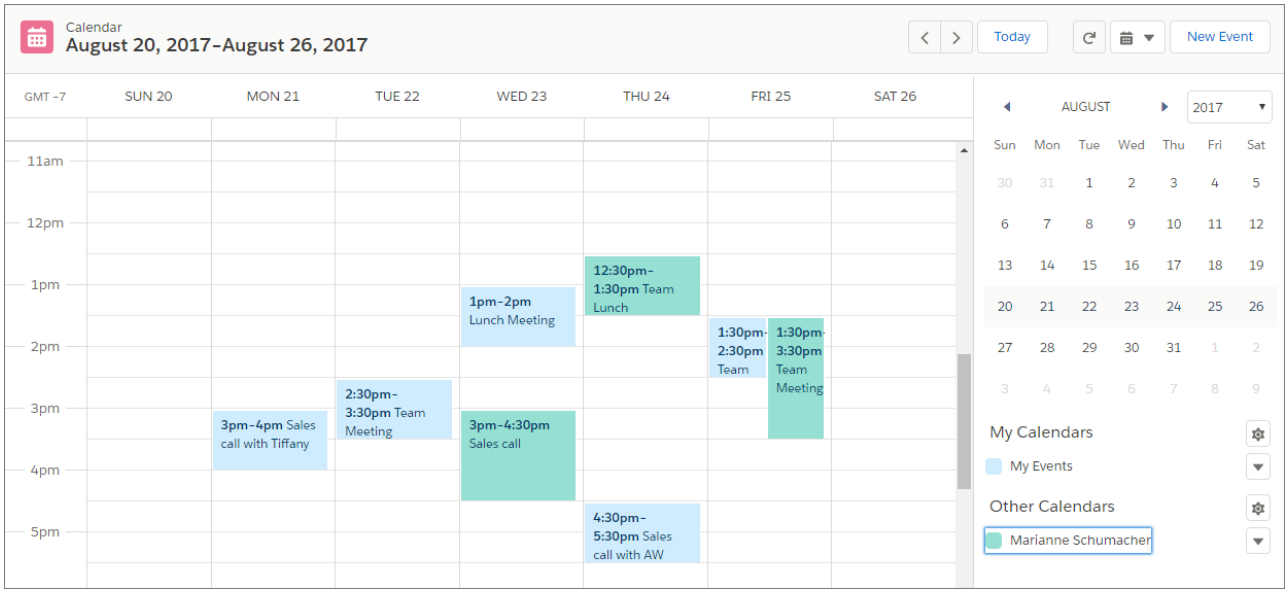
Lightning Experience で同僚とカレンダーを共有

あなたが開拓してきた見込み客との商談を成立させることができる営業担当を探していますか? 商談成立を担当する営業担当が、自分のカレンダーを他の営業担当と共有している場合、他の営業担当はこの営業担当の空き状況を確認できます。これで、商談成立を担当する営業担当のカレンダーに他の営業担当はミーティングを直接追加することで、自分の見込み客を引き継ぐことができます。これは、Lightning Experience の新機能です。

営業担当は、自分の[私の行動]カレンダーへのアクセス権を同僚に付与し、空き状況やミーティングの詳細を共有できます。さらには、同僚がその営業担当の代わりに行動を追加することもできます。アクセス権を付与するには、カレンダービューから [私の行動] の横にある ▾ をクリックし、[カレンダーを共有] を選択します。次に、共有相手の同僚およびアクセスレベルを選択します。

同僚は、[他のカレンダー]の横にある ⚙ をクリックし、[カレンダーを追加]を選択すると、営業担当のカレンダーを表示できます。

営業担当は、自分が参照したいカレンダーを所有する同僚を選択すると、[他のカレンダー]リストにそのカレンダーが表示されます。営業担当はここで、カレンダービューに行動を表示するか、非表示にするかを切り替えることができます。



営業担当が付与したアクセスレベルに応じて、同僚は営業担当のカレンダーに行動を直接追加したり、関連するレコードに行動を関連付けたりできます。

営業担当が自分の[私の行動]カレンダーを共有しない場合、同僚は営業担当のカレンダーを参照できますが、詳細は表示されず、空いている時間帯のみが表示されます。この同僚のカレンダーへのデフォルトのアクセスレベルを上げるには、[設定] の [共有設定] から最低限の共有アクセスレベルを変更します。

Cloud Scheduler の廃止

Cloud Scheduler は使用できなくなりました。営業担当は、行動の[新規ミーティング要請]ボタンを使用して新しいミーティングを提案することはできません。既存の提案には、この機能が使用できなくなり、招待者は主催者へ問い合わせるよう提案が表示されます。この変更は Salesforce Classic にのみ適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Personal Edition** と **Database.com Edition** を除くすべてのエディション

関連トピック:

ナレッジ記事: Cloud Scheduler の廃止

Lightning Dialer: カスタムボイスメール挨拶の録音

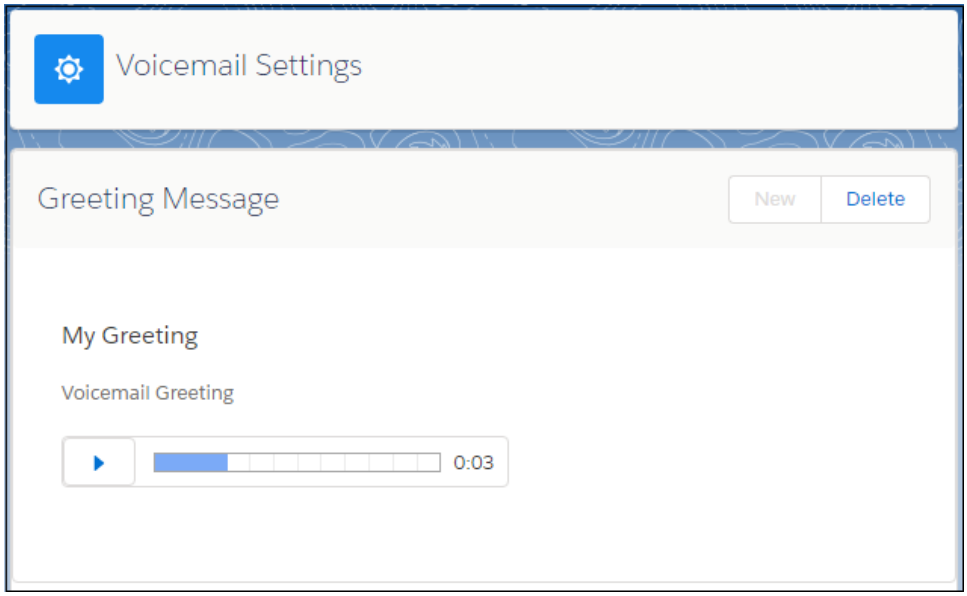
ボイスメールに個性を追加します。営業担当は、Lightning Dialer のボイスメールにカスタムの挨拶を録音できます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

エディション

Dialer は、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition で使用できます (有料オプション)。

メモ: 現時点では、米国とカナダへの発信電話のみがサポートされています。

通話パネルまたは個人設定から [Voicemail 設定] を選択すると、営業担当は標準のボイスメール挨拶を個人の録音に容易に置き換えることができます。

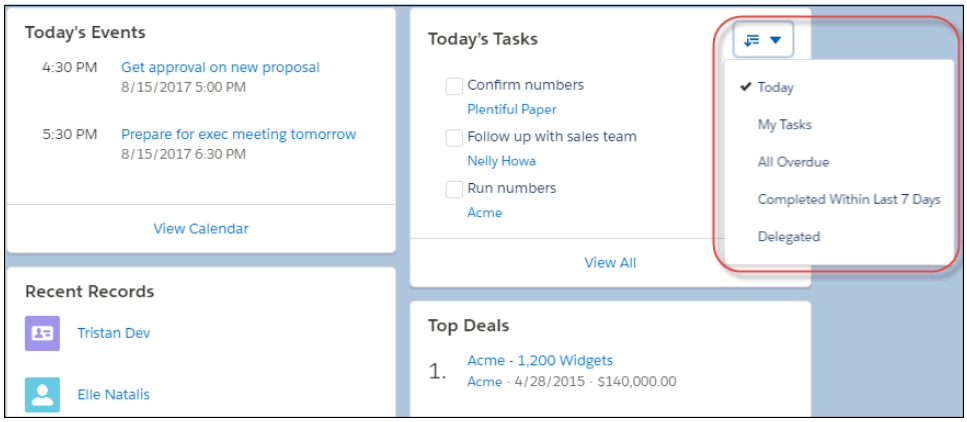


この機能を使用できるのは、発信および着信の通話アクセス権を持つユーザのみです。

ボイスメール挨拶の使用にあたって、コンテンツ配信のためのパスワード保護をデフォルトで不要とすることができます。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「コンテンツ配信」と入力し、[コンテンツ配信] を選択します。[パスワード保護は必須] がオフになっていることを確認します。

ホーム: ToDo コンポーネントの検索条件オプションの追加

ToDoのさまざまなビューを営業担当が確認できるようにする必要がありますか?営業チームがToDoコンポーネントをホームページで直接絞り込むことができるようになりました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。



データ品質: Lightning Experience での個人取引先のマージおよび重複レコードセット、サードパーティデータのインテグレーション

個人取引先が重複管理の対象になりました。重複レコードセットは Lightning Experience で使用できますが、さらに Lightning Experience でのみ、重複レコードセットを使用して重複をマージできます。また、Salesforce 取引先レコードおよび取引先責任者レコードに新しいアクションを使用することで、営業チームはサードパーティの業界データを項目ごとに比較、統合することができます。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

Lightning Experience での個人取引先のマージ

営業担当は、法人取引先、取引先責任者、リードと同じように、Lightning Experience で個人取引先の重複を表示できるようになりました。権限を持つユーザも、個人取引先をマージできます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Lightning Experience で重複レコードセットを使用して重複をまとめる

Lightning Experience で重複レコードセットが使用できるようになりました。重複ルールでレポートオプションを選択した場合、ルールで見つかった重複の重複レコードセットが重複管理によって作成されます。重複レコードセットを作成し、任意のレコードを重複レコード項目として追加することもできます。Lightning Experience でのみ、重複レコードセットを使用して同じオブジェクト上で項目をマージすることもできます。

Lightning Experience でサードパーティのデータを使用して Salesforce レコードの項目を拡張

営業チームは、サードパーティのデータを自分の Salesforce データに、レコード単位だけではなく、項目ごとに統合できるようになりました。AppExchange では、取引先、取引先責任者、およびリードと互換性のある業界データのパッケージが提供されます。AppExchange パッケージアプリケーションのデータ評価を使用して、無料でデータをお試しください。チームがデータを利用できるようにするには、パッケージを購入し、データインテグレーションルールを有効化します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

関連トピック:

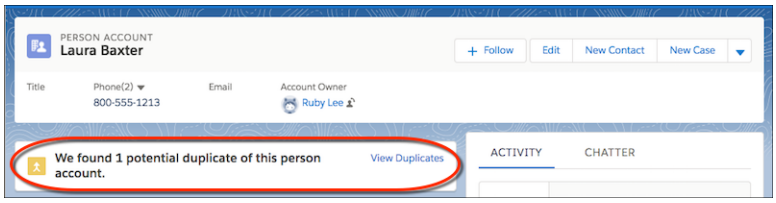
- Data.com の取引先データ評価の廃止
- Prospector ユーザのみが使用可能な [Data.com] タブ

Lightning Experience での個人取引先のマージ

営業担当は、法人取引先、取引先責任者、リードと同じように、Lightning Experience で個人取引先の重複を表示できるようになりました。権限を持つユーザも、個人取引先をマージできます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

1. [設定] で、個人取引先の重複ルールが有効化されていることを確認します。
2. Lightning アプリケーションビルダーで、潜在的な重複コンポーネントを設定します。

重複のある個人取引先を営業チームが参照した場合、このアラートが表示されます。



ユーザ権限

重複および一致ルールを表示する
- 「設定・定義を参照する」

重複および一致ルールを作成、編集、削除、有効化、および無効化する
- 「アプリケーションのカスタマイズ」

潜在的な重複コンポーネントを追加する
- 「アプリケーションのカスタマイズ」

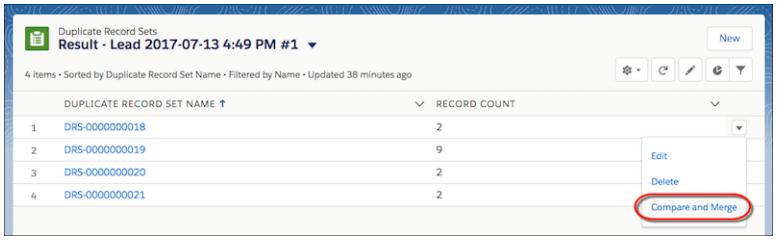
関連トピック:

- 個人取引先の簡単な設定
- 取引先: 簡単になった有効化プロセス、Lightning Experience での個人取引先のマージのサポート、改善された共有モデル

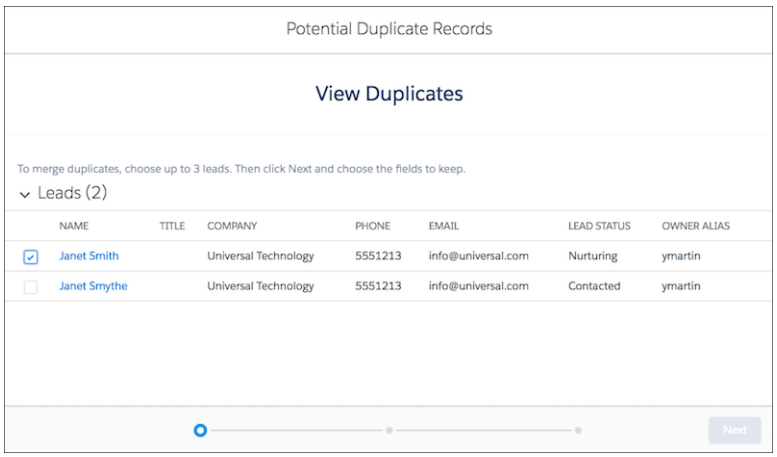
Lightning Experience で重複レコードセットを使用して重複をまとめる

Lightning Experience で重複レコードセットが使用できるようになりました。重複ルールでレポートオプションを選択した場合、ルールで見つかった重複の重複レコードセットが重複管理によって作成されます。重複レコードセットを作成し、任意のレコードを重複レコード項目として追加することもできます。Lightning Experience でのみ、重複レコードセットを使用して同じオブジェクト上で項目をマージすることもできます。

1. アプリケーションランチャーを開き、[重複レコードセット] を見つけます。



2. レコードセットの作成、既存のセットへのレコードの追加、またはセットの削除を行います。または、セット内のレコードを比較してマージします。



エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

ユーザ権限

重複レコード項目を参照する

- 取引先、取引先責任者、またはリードに対する「参照」

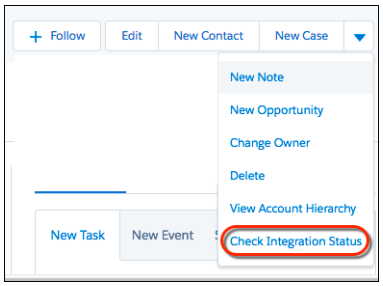
重複レコード項目をマージする (Lightning Experience のみ)

- 取引先、取引先責任者、またはリードに対する「編集」および「削除」

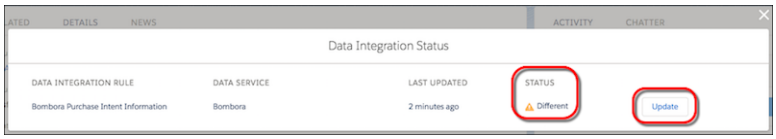
Lightning Experience でサードパーティのデータを使用して Salesforce レコードの項目を拡張

営業チームは、サードパーティのデータを自分の Salesforce データに、レコード単位だけではなく、項目ごとに統合できるようになりました。AppExchange では、取引先、取引先責任者、およびリードと互換性のある業界データのパッケージが提供されます。AppExchange パッケージアプリケーションのデータ評価を使用して、無料でデータをお試しください。チームがデータを利用できるようにするには、パッケージを購入し、データインテグレーションルールを有効化します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

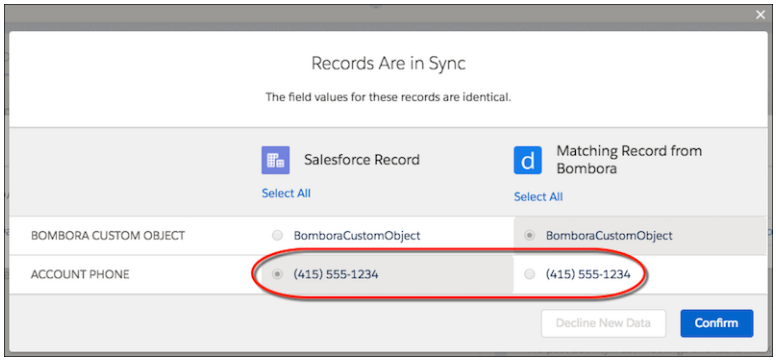
AppExchange データパッケージでデータインテグレーションルールを有効化すると、ページレイアウトに [インテグレーション状況を確認] アクションが追加されます。



営業チームは、アクションを使用して、レコードに適用された各ルールのデータインテグレーション状況を表示できます。



営業担当は、[更新]をクリックして、レコードの項目値をデータサービスからの値と比較できます。営業担当は、値の確認、異なる値の選択、データサービスからのデータの却下をまとめて行うことができます。



関連トピック:

- AppExchange: Bombora のインテントデータ
- AppExchange: HG Connect 製品と技術データ

Google インテグレーション: レコードの柔軟な照合、多くのテンプレートオプション、行動の双方向同期、Lightning Sync 設定の必須変更

営業担当は Gmail™ と Google カレンダー™ で Salesforce の商談の作業ができます。Lightning for Gmail を使用すると、メール受信者を関連する Salesforce レコードと照合するときの柔軟性が高まります。より多くのメールテンプレートオプション、Einstein リードスコアリング、および Salesforce ToDo によって、営業担当の作業がより難しくなるのではなく、よりスマートになります。Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web ユーザのための行動の双方向同期が Lightning Sync に含まれるようになりました。また、Google カレンダーから Salesforce に行動を同期しているユーザは、Winter '18 で引き続き行動を同期するために Lightning Sync の設定を更新する必要があります。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

このセクションの内容:

Lightning for Gmail: 時間の節約につながる機能および新しいインサイト
Lightning for Gmail で Salesforce Classic のテンプレートを使用できるようになりました。Lightning for Gmail に新しく導入される ToDo によって、営業チームは ToDo リストを容易に把握できます。メールでリードに関する Einstein リードスコアの人工知能を体験してください。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方から管理できます。

Lightning Sync for Google: Lightning Sync の設定、行動の双方向同期、サポートされるライセンスの追加に必要な変更
Google カレンダー™ と Salesforce 間で双方向に同期するように行動 (予定) を設定して、チームの生産性を向上させます。この機能を設定すると、Lightning Sync と連動するように設計された Salesforce カレンダー機能への排他アクセス権が付与されます。Service Cloud および Force.com のライセンスを持つユーザもサポートされるようになったので、さらに多くのユーザが Salesforce と Google アプリケーション間の同期を実行できるようになります。また、Google カレンダーから Salesforce に行動を同期しているユーザは、Winter '18 で引き続き行動を同期するために Lightning Sync の設定を更新する必要があります。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

Lightning for Gmail: 時間の節約につながる機能および新しいインサイト

Lightning for Gmail で Salesforce Classic のテンプレートを使用できるようになりました。Lightning for Gmail に新しく導入される ToDo によって、営業チームは ToDo リストを容易に把握できます。メールでリードに関する Einstein リードスコアの人工知能を体験してください。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方から管理できます。

エディション

この機能を管理可能なエディション: Salesforce Classic と Lightning Experience の両方

使用可能なプラットフォーム: すべての Edition の Sales Cloud、Service Cloud、Force.com

このセクションの内容:

テンプレートの機能強化
より強力で視覚的な魅力がある Lightning アプリケーションビルダーコンポーネントのテンプレートが提供されます。営業担当は Salesforce Classic で作成されたメールテンプレートを Gmail でも使用できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Gmail から Salesforce ToDo の管理
メールと ToDo を同時に把握するのは難しい場合があります。朗報です。営業担当は Lightning for Gmail で Salesforce の ToDo を表示、編集、作成できます。毎日の ToDo リストの項目を追加またはチェックするために Salesforce に切り替える必要がなくなりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

容易に項目を検出して適切な Salesforce レコードに関連付ける
セールスパイプラインを最適に管理し、顧客とのコミュニケーションを迅速に把握するには、営業担当は Gmail の内容を Salesforce レコードに関連付ける必要があります。Lightning for Gmail には拡張検索機能が含まれます。これにより、営業担当に、より多くの人レコードが表示され、その人レコードに Gmail の内容を関連付けることができます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

取引開始の可能性が最も高いリードに焦点を絞る
最も有望なリードから先にフォローアップしていくと、営業担当はより多くの商談を成立することができます。Lightning for Gmail の Einstein リードスコアリングを使用すると、営業担当は有望なリードを容易に判別できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

テンプレートの機能強化

より強力で視覚的な魅力がある Lightning アプリケーションビルダーコンポーネントのテンプレートが提供されます。営業担当は Salesforce Classic で作成されたメールテンプレートを Gmail でも使用できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

営業担当は、Lightning for Gmail でテキスト、HTML、またはカスタム形式の Salesforce Classic テンプレートを読み込めるようになりました。このテンプレートに差し込み項目を追加すると、営業担当はメールメッセージに Salesforce レコードを含めることができます。生産性をさらに高めるために、営業担当は Gmail から Classic テンプレートの共有フォルダにアクセスできます。

営業担当は、作成したメールメッセージから独自の Lightning メールテンプレートを作成することもできます。

重要: アプリケーションビルダーを使用して、営業担当がカスタムメールアプリケーションペインを使用できるように設定してある場合は、テンプレートコンポーネントをこれらのペインに追加する必要があります。

Gmail から Salesforce ToDo の管理

メールと ToDo を同時に把握するのは難しい場合があります。朗報です。営業担当は Lightning for Gmail で Salesforce の ToDo を表示、編集、作成できます。毎日の ToDo リストの項目を追加またはチェックするために Salesforce に切り替える必要がなくなりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

標準リストビューを使用することで、営業担当は Gmail で Salesforce の次のような ToDo をすばやく確認できます。

- 営業担当に割り当てられた ToDo

- 今日が期限の ToDo
- 期限切れの ToDo
- チームメンバーに委任した ToDo
- 過去 7 日以内に完了した ToDo

これらをすべて Gmail から確認できます。また、Lightning for Gmail は営業担当の最近のリストビューの選択を記憶して次回使用します。1 クリックするだけで詳細にドリルダウンできます。では、営業担当がメールメッセージを処理しているときに ToDo を更新するには、どうすればよいでしょう? インライン編集で、ToDo の状況やその他の詳細をすぐに更新できます。

営業担当が Lightning for Gmail で ToDo に集中できるようにするには、どうすればよいでしょう? 答えは簡単です。Lightning アプリケーションビルダーで ToDo コンポーネントをドラッグアンドドロップし、メールアプリケーションペインの上部に表示されるようにします。

容易に項目を検出して適切な Salesforce レコードに関連付ける

セールスパイプラインを最適に管理し、顧客とのコミュニケーションを迅速に把握するには、営業担当は Gmail の内容を Salesforce レコードに関連付ける必要があります。Lightning for Gmail には拡張検索機能が含まれます。これにより、営業担当に、より多くの人レコードが表示され、その人レコードに Gmail の内容を関連付けることができます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Lightning for Gmail では、取引先責任者、リード、ユーザの標準項目とカスタム項目を検索した後に、メールアドレスが一致するレコードが提案されるようになりました。新しいインターフェースでは、一致レコード数を容易に識別できるほか、営業担当が選択した Salesforce レコードにメールの内容を容易に関連付けることができます。Lightning for Gmail では、営業担当の選択が記憶され、次回以降の人レコードの提案に使用されます。

取引開始の可能性が最も高いリードに焦点を絞る

最も有望なリードから先にフォローアップしていくと、営業担当はより多くの商談を成立することができます。Lightning for Gmail の Einstein リードスコアリングを使用すると、営業担当は有望なリードを容易に判別できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Sales Cloud Einstein を有効にして Einstein リードスコアリングを設定している場合、Lightning for Gmail で、提案されたリードのスコアが表示されるようになりました。営業チームはこれらのスコアに基づいて、リードを追跡するための優先順位を設定し、取引を迅速に開始することができます。スコアについてのインサイトや詳細は、スコアの上にマウスポインタを置くだけで表示されます。

Lightning Sync for Google: Lightning Sync の設定、行動の双方向同期、サポートされるライセンスの追加に必要な変更

Google カレンダー™ と Salesforce 間で双方向に同期するように行動 (予定) を設定して、チームの生産性を向上させます。この機能を設定すると、Lightning Sync と連動するように設計された Salesforce カレンダー機能への排他アクセス権が付与されます。Service Cloud および Force.com のライセンスを持つユーザもサポートされるようになったので、さらに多くのユーザが Salesforce と Google アプリケーション間の同期を実行できるようになります。また、Google カレンダーから Salesforce に行動を同期しているユーザは、Winter '18 で引き続き行動を同期するために Lightning Sync の設定を更新する必要があります。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

行動を引き続き同期するために必要な G Suite 設定の変更
ユーザが行動 (予定) を同期する場合は、Winter '18 で同期が中断しないように G Suite の管理設定を変更する必要があります。

Service Cloud と Force.com ライセンスでユーザを設定
Lightning Sync は、Service Cloud および Force.com ユーザライセンスで使用できます。ライセンスでどのオブジェクトを使用できるかに応じて、営業担当は取引先責任者か行動、またはその両方を G Suite アカウントと Salesforce 間で同期できます。この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

Google カレンダーと Salesforce 間の行動の同期
Google カレンダーと Salesforce 間で同期するように行動を設定して、営業担当の時間を節約し、不要なデータ入力を軽減します。これにより、営業担当はどちらのアプリケーションからもミーティングの作成と編集ができます。システム管理者は営業担当が重要なミーティングを Salesforce に簡単に取り込みことができるようにすることで、Salesforce の採用を促進できます。この変更は、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

Salesforce の行動でのミーティング出席者の機能強化
Salesforce カレンダーの拡張されたスケジュールオプションを設定すると、営業担当は Google Calendar™ の被招集者の詳細および返答をどちらのシステムからも表示できます。この変更は、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

行動を引き続き同期するために必要な G Suite 設定の変更

ユーザが行動 (予定) を同期する場合は、Winter '18 で同期が中断しないように G Suite の管理設定を変更する必要があります。

Winter '18 以降では、Google システム管理者が会社の G Suite アカウントからカレンダーのアクセス権に新しいスコープを承認する必要があります。Winter '18 より前は、行動の同期のスコープが参照のみに設定されていました。Winter '18 以降は、ユーザの同期方向に関係なく、行動を同期するすべての顧客の同期のスコープを参照・更新に設定する必要があります。

カレンダーのスコープを更新する場合は、Google システム管理者が管理者アクセス権を使用して会社の G Suite アカウントにログインし、Google API コンソールから新しいスコープを設定できます。

Winter '18 に備えてスコープを更新する場合は、Google システム管理者が既存の設定に `https://www.googleapis.com/auth/calendar` という新しいスコープを追加します。Winter '18 のリリース後 (ユーザの行動が同期されなくなった後) にスコープを更新する場合は、Google システム管理者が `https://www.googleapis.com/auth/calendar` という新しいスコープを追加し、また `https://www.googleapis.com/auth/calendar.readonly` という以前のスコープを削除することもできます。

Service Cloud と Force.com ライセンスでユーザを設定

Lightning Sync は、Service Cloud および Force.com ユーザライセンスで使用できます。ライセンスでどのオブジェクトを使用できるかに応じて、営業担当は取引先責任者か行動、またはその両方を G Suite アカウントと Salesforce 間で同期できます。この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Sync ユーザライセンスサポート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Sync for Google の設定の概要の把握 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Google カレンダーと Salesforce 間の行動の同期

Google カレンダーと Salesforce 間で同期するように行動を設定して、営業担当の時間を節約し、不要なデータ入力を軽減します。これにより、営業担当はどちらのアプリケーションからもミーティングの作成と編集ができます。システム管理者は営業担当が重要なミーティングを Salesforce に簡単に取り込みことができるようにすることで、Salesforce の採用を促進できます。この変更は、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

営業担当が行動を双方向に同期するには、営業担当は次の条件を満たす必要があります。

- 会社の G Suite アカウントで Google カレンダーを使用して Salesforce の外部で行動 (予定) を作成または編集している。
- Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web を使用して Salesforce の行動を作成または編集している。Salesforce Classic で作成または編集された行動は Google カレンダーと同期されません。

上記に該当する場合は、営業担当の行動の双方向同期を開始できます。まず、Google API 管理者と連携して、行動を同期するための G Suite アカウントを準備します。次に、営業担当の Lightning Sync 設定で、行動の [双方向同期] を選択します。

[双方向同期]を選択すると、Salesforce Classic の一部のカレンダー機能が制限されます。詳細は、Salesforce ヘルプの「Lightning Sync の考慮事項」を参照してください。

関連トピック:

- 生産性の機能: Lightning Experience の考慮事項
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Sync for Google の設定の概要の把握 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:行動の双方向同期に関する考慮事項(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce の行動でのミーティング出席者の機能強化

Salesforce カレンダーの拡張されたスケジュールオプションを設定すると、営業担当は Google Calendar™ の被招集者の詳細および返答をどちらのシステムからも表示できます。この変更は、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

関連トピック:

- Lightning Sync for Google を使用して Salesforce に行動の被招集者の詳細を取り込む
- 生産性の機能: Lightning Experience の考慮事項

Microsoft® とのインテグレーション: ToDo 管理、Pardot Engagement、一括同期

営業担当は Outlook メールとカレンダーで商談の作業ができます。Salesforce ToDo へのアクセスや、より多くのメールテンプレートオプション、さらに Pardot Engage の機能によって、営業担当は営業プロセスを自由に操れるようになります。Lightning Sync の新機能。Service および Force.com ライセンス。お読みください! これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

このセクションの内容:

- Lightning for Outlook: 時間の節約につながる機能および新しいインサイト
  Lightning for Outlook で Salesforce Classic のテンプレートを使用できるようになりました。Lightning for Outlook に導入される ToDo によって、営業チームは ToDo リストを容易に把握できます。メールでリードに関する Einstein リードスコアの人工知能を体験してください。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方から管理できます。
- Lightning Sync for Microsoft Exchange: Service Cloud および Force.com ユーザの設定
  Lightning Sync は、Service Cloud および Force.com ユーザライセンスで使用できます。ライセンスでどのオブジェクトを使用できるかに応じて、営業担当は取引先責任者や行動、またはその両方を Microsoft® アプリケーションと Salesforce 間で同期できます。この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

Salesforce for Outlook: 必須の重要なアップグレード、使用可能になった次世代製品

Salesforce for Outlook v2.9.3 以前で作業をする営業担当に必須のアップグレードについてよく理解してください。最新の Microsoft インテグレーション製品である Lightning for Outlook および Lightning Sync のシステム要件を満たしている場合、できれば今すぐ、営業担当をその機能に移行させることをお勧めします。これにより、最新機能を利用でき、今後手動でアップグレードしないで済むようになります。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Lightning for Outlook: 時間の節約につながる機能および新しいインサイト

Lightning for Outlook で Salesforce Classic のテンプレートを使用できるようになりました。Lightning for Outlook に導入される ToDo によって、営業チームは ToDo リストを容易に把握できます。メールでリードに関する Einstein リードスコアの人工知能を体験してください。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方から管理できます。

エディション

この機能を管理可能なエディション: Salesforce Classic と Lightning Experience の両方

使用可能なプラットフォーム: すべての Edition の Sales Cloud、Service Cloud、Force.com

このセクションの内容:

テンプレートの機能強化

より強力で視覚的な魅力がある Lightning アプリケーションビルダーコンポーネントのテンプレートが提供されます。営業担当は Salesforce Classic で作成されたメールテンプレートを Microsoft® Outlook® でも使用できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Microsoft® Outlook® から Salesforce ToDo の管理

メールと ToDo を同時に把握するのは難しい場合があります。朗報です。営業担当は Lightning for Outlook で Salesforce の ToDo を表示、編集、作成できます。毎日の ToDo リストの項目を追加またはチェックするために Salesforce に切り替える必要がなくなりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

容易に項目を検出して適切な Salesforce レコードに関連付ける

セールスパイプラインを最適に管理し、顧客とのコミュニケーションを迅速に把握するには、営業担当は Outlook の内容を Salesforce レコードに関連付ける必要があります。Lightning for Outlook には拡張検索機能が含まれます。これにより、営業担当に、より多くの人レコードが表示され、その人レコードに Outlook の内容を関連付けることができます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

取引開始の可能性が最も高いリードに焦点を絞る

最も有望なリードから先にフォローアップしていくと、営業担当はより多くの商談を成立することができます。Lightning for Outlook の Einstein リードスコアリングを使用すると、営業担当は有望なリードを容易に判別できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Engage for Outlook で見込み客の活動のインサイトを取得

営業チームは、メールによる見込み客への連絡がどれほど効果的かを知る必要があります。営業担当がこれを追跡するのに Engage for Outlook が役立ちます。営業担当は、どの見込み客がエンゲージしているのかを追跡し、スコアとエンゲージメント履歴を表示できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

テンプレートの機能強化

より強力で視覚的な魅力がある Lightning アプリケーションビルダーコンポーネントのテンプレートが提供されます。営業担当は Salesforce Classic で作成されたメールテンプレートを Microsoft® Outlook® でも使用できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

営業担当は、Lightning for Outlook でテキスト、HTML、またはカスタム形式の Salesforce Classic テンプレートを読み込めるようになりました。このテンプレートに差し込み項目を追加すると、営業担当はメールメッセージに Salesforce レコードを含めることができます。生産性をさらに高めるために、営業担当は Outlook から Classic テンプレートの共有フォルダにアクセスできます。

営業担当は、作成したメールメッセージから独自の Lightning メールテンプレートを作成することもできます。

重要: アプリケーションビルダーを使用して、営業担当がカスタムメールアプリケーションペインを使用できるように設定してある場合は、テンプレートコンポーネントをこれらのペインに追加する必要があります。

Microsoft® Outlook® から Salesforce ToDo の管理

メールと ToDo を同時に把握するのは難しい場合があります。朗報です。営業担当は Lightning for Outlook で Salesforce の ToDo を表示、編集、作成できます。毎日の ToDo リストの項目を追加またはチェックするために Salesforce に切り替える必要がなくなりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

標準リストビューを使用することで、営業担当は Outlook で Salesforce の次のような ToDo をすばやく確認できます。

- 営業担当に割り当てられた ToDo
- 今日が期限の ToDo
- 期限切れの ToDo
- チームメンバーに委任した ToDo
- 過去 7 日以内に完了した ToDo

これらをすべて Outlook から確認できます。また、Lightning for Outlook は営業担当の最近のリストビューの選択を記憶して次回使用します。1 クリックするだけで詳細にドリルダウンできます。では、営業担当がメールメッセージを処理しているときに ToDo を更新するには、どうすればよいでしょう? インライン編集で、ToDo の状況やその他の詳細をすぐに更新できます。

営業担当が Lightning for Outlook で ToDo に集中できるようにするには、どうすればよいでしょう? 答えは簡単です。Lightning アプリケーションビルダーで ToDo コンポーネントをドラッグアンドドロップし、メールアプリケーションペインの上部に表示されるようにします。

容易に項目を検出して適切な Salesforce レコードに関連付ける

セールスパイプラインを最適に管理し、顧客とのコミュニケーションを迅速に把握するには、営業担当は Outlook の内容を Salesforce レコードに関連付ける必要があります。Lightning for Outlook には拡張検索機能が含まれます。これにより、営業担当に、より多くの人レコードが表示され、その人レコードに Outlook の内容を関連付けることができます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Lightning for Outlook では、取引先責任者、リード、ユーザの標準項目とカスタム項目を検索した後に、メールアドレスが一致するレコードが提案されるようになりました。新しいインターフェースでは、一致レコード数を容易に識別できるほか、営業担当が選択した Salesforce レコードにメールの内容を容易に関連付けることができます。Lightning for Outlook ではまた、営業担当の選択が記憶され、次回以降の人レコードの提案に使用されます。

取引開始の可能性が最も高いリードに焦点を絞る

最も有望なリードから先にフォローアップしていくと、営業担当はより多くの商談を成立することができます。Lightning for Outlook の Einstein リードスコアリングを使用すると、営業担当は有望なリードを容易に判別できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Sales Cloud Einstein を有効にして Einstein リードスコアリングを設定している場合、Lightning for Outlook で、提案されたリードのスコアが表示されるようになりました。営業チームはこれらのスコアに基づいて、リードを追跡するための優先順位を設定し、取引を迅速に開始することができます。スコアについてのインサイトや詳細は、スコアの上にマウスポインタを置くだけで表示されます。

Engage for Outlook で見込み客の活動のインサイトを取得

営業チームは、メールによる見込み客への連絡がどれほど効果的かを知る必要があります。営業担当がこれを追跡するのに Engage for Outlook が役立ちます。営業担当は、どの見込み客がエンゲージしているのかを追跡し、スコアとエンゲージメント履歴を表示できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Salesforce Engage ライセンスがある場合、Lightning for Outlook は次の情報を営業担当に表示します。

- メールメッセージを受信した人および開封した人
- メールに関する人の Pardot スコアとエンゲージメント履歴
- Salesforce での Engage アラート
- Engage チームレポートでキャプチャされたメール送信数とメール開封数

Salesforce Engage ライセンスがなくても、チームは Lightning for Outlook からメールメッセージおよび Web リンクのエンゲージメント履歴を確認できます。それには、Pardot AppExchange パッケージをインストールしてください。

営業担当が Engage for Outlook とエンゲージメント履歴を使用できるようにするには、[私のドメイン] が組織で有効になっている必要があります。また、**[Lightning for Outlook の設定]** ページで **[Engage for Outlook]** を有効にします。さらに、Lightning for Outlook で人コンポーネントが使用できることを確認します。

Lightning Sync for Microsoft Exchange: Service Cloud および Force.com ユーザの設定

Lightning Sync は、Service Cloud および Force.com ユーザライセンスで使用できます。ライセンスでどのオブジェクトを使用できるかに応じて、営業担当は取引先責任者や行動、またはその両方を Microsoft® アプリケーションと Salesforce 間で同期できます。この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Sync for Microsoft® Exchange の設定の概要の把握 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce for Outlook: 必須の重要なアップグレード、使用可能になった次世代製品

Salesforce for Outlook v2.9.3 以前で作業をする営業担当に必須のアップグレードについてよく理解してください。最新の Microsoft インテグレーション製品である Lightning for Outlook および Lightning Sync のシステム要件を満たしている場合、できれば今すぐ、営業担当をその機能に移行させることをお勧めします。これにより、最新機能を利用でき、今後手動でアップグレードしないで済むようになります。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション

このセクションの内容:

Salesforce for Outlook の使用継続に必須の重要なアップグレード

営業担当が Salesforce for Outlook を使用して Salesforce にアクセスできない場合、Web セキュリティの新規標準により、再び製品を使用するには v3.0.0 移行にアップグレードする必要があります。手動更新を避けるのであれば、最新の Microsoft インテグレーション機能である Lightning for Outlook および Lightning Sync にアップグレードします。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

手動アップグレードを避ける

次世代の Microsoft® インテグレーション製品である Lightning for Outlook と Lightning Sync に移行してください。移行の準備ができているかどうかは、システム要件で確認できます。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Salesforce for Outlook の使用継続に必須の重要なアップグレード

営業担当が Salesforce for Outlook を使用して Salesforce にアクセスできない場合、Web セキュリティの新規標準により、再び製品を使用するには v3.0.0 移行にアップグレードする必要があります。手動更新を避けるのであれば、最新の Microsoft インテグレーション機能である Lightning for Outlook および Lightning Sync にアップグレードします。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション

さらに、営業担当が Salesforce for Outlook の TLS 1.1 と 1.2 との互換性の要件をすべて満たしていることを確認してください。営業担当が Salesforce for Outlook のどのバージョンで作業しているのか不明な場合は、Salesforce にお問い合わせください。

関連トピック:

- *ナレッジ記事*: TLS 1.0 の無効化後に Salesforce for Outlook の使用を継続するためのユーザの準備
- *ナレッジ記事*: Salesforce による TLS 1.0 の無効化
- *Salesforce ヘルプ*: ユーザが実行する Salesforce for Outlook のバージョンの追跡 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

手動アップグレードを避ける

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション

次世代の Microsoft® インテグレーション製品である Lightning for Outlook と Lightning Sync に移行してください。移行の準備ができているかどうかは、システム要件で確認できます。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Lightning for Outlook と Lightning Sync は、Salesforce for Outlook とまったく同様です。これらの製品で、チームは Microsoft Outlook® から直接 Salesforce コンテンツを表示、アクセス、更新できます。また、両方のシステムで更新する重要な取引先責任者や行動を同期できます。

では、なぜ切り替えるのでしょう? 最大の機能差は、Salesforce のクラウドベース製品では Salesforce for Outlook のような手動アップグレードの必要がなく、Salesforce から 最新の更新が転送されてきます。営業担当はソフトウェアのメンテナンスに費やす時間が減り、重要なこと、つまり顧客を満足させることに多くの時間を費やせるようになります。また、Lightning for Outlook と Lightning Sync は最新の Microsoft アプリケーションをサポートしているため、それらの製品に最新のイノベーションが導入されます。

Lightning for Outlook と Lightning Sync には Lightning Experience を必要とするいくつかの機能がありますが、ほとんどの機能は Salesforce Classic と Lightning Experience の両方で使用できます。

使用を開始する準備ができましたか? まず、Lightning for Outlook と Lightning Sync のシステム要件をチェックして、それらを満たしていることを確認します。システムの準備が整ったら、製品ドキュメントを参照して、これらの製品で使用できる機能を確認します。最後に、設定と移行に関するドキュメントを参照して、チームがアクセスできるようにする方法を確認します。

関連トピック:

- *Trailhead*: Outlook および Gmail と Salesforce との統合
- *Salesforce ヘルプ*: Lightning for Outlook のシステム要件 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce ヘルプ*: Lightning Sync のシステム要件 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

セキュリティ: セールスデータの暗号化

Shield Platform Encryption を使用して、顧客の個人識別情報 (PII) を含む重要なセールスデータを保護します。

このセクションの内容:

顧客の個人識別情報の暗号化 (正式リリース)
取引先、取引先責任者、リードの標準項目に含まれるさらに多くの個人識別情報 (PII) を保護できます。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

商談の [説明] 項目と [次のステップ] 項目の暗号化 (ベータ)
Sandbox 環境および本番環境で、商談の [説明] 項目と [次のステップ] 項目を暗号化できます。この機能を有効化するには、Salesforce に連絡してください。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

[商談名] 項目の暗号化 (パイロット)
Sandbox 環境および Deleloper Edition 環境でのみ、[商談名] 項目を暗号化できます。このパイロットプログラムに参加するには、Salesforce のアカウントエグゼクティブまたはサクセスマネージャにお問い合わせください。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

顧客の個人識別情報の暗号化 (正式リリース)

取引先、取引先責任者、リードの標準項目に含まれるさらに多くの個人識別情報 (PII) を保護できます。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

リードの暗号化可能な情報

- 住所 (町名・番地、市区郡)
- 会社名
- 説明
- メール
- Fax
- 携帯電話
- 名前 (名、ミドルネーム、および姓)
- 電話
- 役職
- Web サイト

取引先と個人取引先の暗号化可能な情報

- 請求先 (町名・番地、市区群)
- 納入先 (町名・番地、市区郡)
- サイト

取引先責任者の暗号化可能な情報

- アシスタント
- アシスタント 電話
- その他の住所 (町名・番地、市区郡)

- 役職

メモ: これは、個人取引先にも適用されます。

この機能を使用するには、重要な更新「暗号化されたデータのマスクを無効化」を有効化する必要があります。

商談の [説明] 項目と [次のステップ] 項目の暗号化 (ベータ)

Sandbox 環境および本番環境で、商談の [説明] 項目と [次のステップ] 項目を暗号化できます。この機能を有効化するには、Salesforce に連絡してください。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

メモ: この機能を使用するには、重要な更新「暗号化されたデータのマスクを無効化」を有効化する必要があります。

メモ: 今回のリリースには、商談の [説明] 項目と [次のステップ] 項目の暗号化サポートのベータバージョンが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。説明と次のステップの暗号化サポートは、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

[商談名] 項目の暗号化 (パイロット)

Sandbox 環境および Deleloper Edition 環境でのみ、[商談名] 項目を暗号化できます。このパイロットプログラムに参加するには、Salesforceのアカウントエグゼクティブまたはサクセスマネージャにお問い合わせください。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

メモ: この機能を使用するには、重要な更新「暗号化されたデータのマスクを無効化」を有効化する必要があります。

この機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforceにお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があるため、参加は保証されません。このドキュメント、プレスリリース、または公式声明で参照されているこのパイロット機能は正式リリースされていません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている機能に基づいて購入をご決定ください。

Sales Cloud のその他の変更

使い勝手を向上するために加えられたその他の変更について説明します。

このセクションの内容:

「Salesforce 行動」カレンダーから「私の行動」への名称変更

誰でも間違えることはあります。私たちもそれは同様です。Salesforce で作業をしていることをユーザ自身に表示する必要はないので、デフォルトのカレンダーの名前を「Salesforce 行動」から「私の行動」に変更しました。 この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

ブラウザを更新せずにカレンダーの最新変更を Lightning Experience から表示

カレンダーを開いたままにしておくと、60 秒ごとに更新されます。これにより、同僚から行動に招待されたり、アクセス権がある行動が更新されたりしたときに、最新情報を確実に表示することができます。ブラウザを更新する必要はありません。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Data.com の取引先データ評価の廃止

「取引先の会社情報」データインテグレーションルールを使用する無料の取引先データ評価は、Salesforce で使用できなくなりました。Winter'18 よりも前に実行した評価にはアクセスできなくなりました。Data.com Premium Clean のライセンスがある場合は、引き続きルールを使用して取引先の会社情報を更新できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Prospector ユーザのみが使用可能な [Data.com] タブ

Salesforce Classic の [Data.com] タブは、現在、Data.com Prospector のライセンスを持つ組織でのみ使用できます。以前は、すべての Salesforce ユーザが、このタブを使用してレコードを検索できました。この変更は Salesforce Classic にのみ適用されます。

Pardot が日本語で使用可能 (ベータ)

Pardot は日本向けにローカライズされており、ベータリリースとしてすべてのお客様が使用できます。

「Salesforce 行動」カレンダーから「私の行動」への名称変更

誰でも間違えることはあります。私たちもそれは同様です。Salesforce で作業をしていることをユーザ自身に表示する必要はないので、デフォルトのカレンダーの名前を「Salesforce 行動」から「私の行動」に変更しました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition および **Contact Manager** Edition を除くすべてのエディション

ブラウザを更新せずにカレンダーの最新変更を Lightning Experience から表示

カレンダーを開いたままにしておくと、60秒ごとに更新されます。これにより、同僚から行動に招待されたり、アクセス権がある行動が更新されたりしたときに、最新情報を確実に表示することができます。ブラウザを更新する必要はありません。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition および **Contact Manager** Edition を除くすべてのエディション

Data.com の取引先データ評価の廃止

「取引先の会社情報」データインテグレーションルールを使用する無料の取引先データ評価は、Salesforce で使用できなくなりました。Winter'18 よりも前に実行した評価にはアクセスできなくなりました。Data.com Premium Clean のライセンスがある場合は、引き続きルールを使用して取引先の会社情報を更新できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

Prospector ユーザのみが使用可能な [Data.com] タブ

Salesforce Classic の [Data.com] タブは、現在、Data.com Prospector のライセンスを持つ組織でのみ使用できます。以前は、すべての Salesforce ユーザが、このタブを使用してレコードを検索できました。この変更は Salesforce Classic にのみ適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

Pardot が日本語で使用可能 (ベータ)

Pardot は日本向けにローカライズされており、ベータリリースとしてすべてのお客様が使用できます。

メモ: ベータ、開発者プレビュー、評価、限定リリース、非本番、パイロット、またはプレリリースとマークされている機能(総称して「プレリリース機能」という)は試行中の機能で、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」とはみなされません。Salesforce はプレリリース機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証しません。Salesforce が発表する、プレリリース機能の最新の正式リリース日以降は、そのプレリリース機能は正式に利用可能となり、その日付をもってプレリリース機能とはみなされなくなります。購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。プレリリース機能はお客様独自の裁量で試行するものとします。プレリリース機能は評価のみを目的として無保証で提供され、本番環境で使用するものではなく、追加の条件の対象になることがあります。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する SFDC 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用はすべて、お客様のプレリリース機能の使用にも同様に適用されます。当社はその独自の裁量でプレリリース機能を終了できるものとします。プレリリース機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して当社は一切の責任を負わないものとします。

エディション

使用可能なエディション: すべての Pardot エディション

マーケティング: コンテンツ共有、SMS/転送メッセージの機能強化、およびその他の機能

あらゆるソースからの顧客利用データを 1 か所で表示します。会社のビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。また、最適なタイミングですべてのチャネルとデバイスにパーソナライズされたコンテンツを配信します。Marketing Cloud を使用してアプローチを最適化し、より優れた結果を得られるように、ビジネスでの各インタラクションの影響を測定できます。

最新機能と機能強化の詳細は、Marketing Cloud リリースノートを参照してください。

- 2017 年 10 月リリース
- 2017 年 8 月リリース
- 2017 年 7 月リリース

関連トピック:

Marketing Cloud の概要

Marketing Cloud リリースノート (すべてのリリース)

サービス: Android 用 Field Service、新しいソーシャル取引先、Lightning Experience 対応の強化

Live Agent、オムニチャネル、サービス契約、ケースマイルストン、マクロ、ケースコピーなどへの Lightning Experience 対応を活用できます。Android 用の Field Service Lightning モバイルアプリケーションを通じて、フィールドサービス業務を拡大します。ナレッジ記事にビデオとコードブロックを埋め込み、短時間で知識を共有します。また、ソーシャルカスタマーサービスプロフェッショナルアドオンを使用すると、最大 10 件のソーシャルアカウントがサポートされます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

サービスコンソール: 生産性機能の増加、拡張メール機能、容易な設定

Lightning サービスコンソールアプリケーションの Service Cloud 機能の数が増えました。エージェントは、コンソールでマクロ、Omni-Channel Supervisor、Live Agent を使用できます。また、ケースのメール機能を拡張し、一部のサービスの設定フローも調整しました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Field Service: サービスクルー、商品 SKU、改善されたサービスレポート

フィールドサービスツールボックスは常に改良されています。無敵のサービスクルーの作成、複数の署名を使用したサービスレポートの増強、商品 SKU の追跡などが行われています。

Field Service Mobile: Android アプリケーションの正式リリースと iOS アプリケーション 3.0 へのアップグレード

Field Service Lightning は、Android 用 Field Service Lightning モバイルアプリケーションのリリースすることで、モバイルの世界をも席巻し続けます。iOS アプリケーションでは、製品検索と製品リクエストが今まで以上にスマートになりました。また、どちらのプラットフォームでも、必要があるすべてのユーザが作業に署名できるように、複数の署名をサービスレポートテンプレートに追加できるようになりました。

Field Service 管理パッケージ: スマートなテリトリーの作成、複数日の作業、指定作業

地図上に直接テリトリーを描画したり、複数日にわたる作業をスケジュールしたり、複雑なプロジェクトの予定の連動関係を作成したり、緊急と指定された作業に時間枠を予約したりします。

ケース: ケースのコピー、マイルストンの使用、拡張メールツールなど

エージェントは、Lightning Experience のケースに対して多くの操作を実行できます。ケースをコピーしたり、[ケースコメント] 関連リストから直接ケースコメントを作成したり、ケースマイルストンを追跡したりできます。新しいツールバー項目でケースメールを簡単に送信できます。エージェントは、差し込み項目の使用、メールのプレビュー、および Salesforce Classic テンプレートの挿入を行うことができます。変更のほとんどは Lightning Experience にのみ適用されますが、いくつかは Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web に適用されます。

Lightning Knowledge: 複数言語組織、記事アクションの更新、ビデオサポート

複数言語組織は、Lightning Knowledge に移行できるようになりました。コンソールでケースを表示しているときに、著者はナレッジコンポーネントから記事を作成できます。また、ビデオによってリッチテキスト編集環境がさらに向上しました。著者はイベント監視を使用して誰が記事を参照しているのかを確認することもできます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Live Agent: Lightning Experience でのサポートエージェントの Web チャット

Lightning サービスコンソールで、拡張されたチャット環境がエージェントに提供されます。エージェントのチャットウィンドウがコンソール内でいっそう目につくようになり、エージェントの好みに応じてチャットウィンドウを移動できます。取引先責任者レコードの過去のチャットを使用して、顧客と会社の以前のチャットを確認できます。

オムニチャネル: Lightning Experience および Salesforce Classic における改良

Lightning サービスコンソールアプリケーションのオムニチャネルユーティリティが正式にリリースされました。Lightning Experience の Omni-Channel Supervisor を使用してください (ベータ)。Salesforce Classic の機能強化により、オムニチャネルのキューと外部ルーティングを使用したキューの両方にエージェントを割り当てることができるようになりました (ベータ)。

Web 用の Snap-in: Lightning Experience での顧客とのチャット、事前チャットおよび事後チャットのサポートの改善

Snap-in チャットを使用して顧客とチャットするエージェントは、Lightning サービスコンソールで Live Agent を使用できます。事前チャットフォームで顧客から提供された情報をもとに作成されたレコードが、チャットのトランスクリプトに添付されます。顧客の詳細が事後チャットフォームに渡されます。Live Agent の場合と同様です。

エンタイトルメント管理: Lightning Experience のサービス契約とケースマイルストン

Lightning Experience でサービス契約とケースマイルストンが使用できるようになり、新しいユーザインターフェースですべてのエンタイトルメント管理作業を簡単に処理できるようになりました。

マクロ: サポートエージェントの効率と顧客の満足度が向上

Lightning Experience マクロでサポートエージェントの作業方法を変革できます。エージェントは、1 クリックで顧客へのメール送信やケース状況の更新ができます。マクロを利用することで、よく実行する繰り返しタスクを自動化して問題を効率よく解決できるため、エージェントはより多くの時間を本来の仕事であるお客様の成功への取り組みに割けるようになります。マクロユーティリティを組織の Lightning コンソールアプリケーション (サービスコンソールアプリケーションやセールスコンソールアプリケーションなど) に追加し、問題をすばやく解決するためのツールをコンソールユーザに提供します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

納入商品: 納入商品階層の全体像を把握

Lightning Experience の洗練された新しいツールで納入商品の階層をすばやく表示できます。納入商品階層のツリーグリッドビューを使用すると、フィールドサービス作業員は部品を識別し、素材の請求額を評価し、納入商品が互いにどう関係するかを理解できます。

CTI: 新しい初期化メソッドとクリック-To-ダイヤルコンポーネント

Lightning Experience では、`notifyInitializationComplete()` メソッドを使用できるようになりました。また、クリック-To-ダイヤル Lightning コンポーネントも導入されます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

ソーシャルカスタマーサービス: 新しいサービスプロフェッショナルアドオンおよびソーシャルビジネスルール設定

サービスプロフェッショナルアドオンを使用して、以前よりも多くのソーシャルアカウントを追加します。[ソーシャルビジネスルール] 設定ページを使用して、すぐにソーシャルカスタマーサービスを開始できます。サポートエージェントは、ソーシャル投稿に画像添付ファイルを追加できるようになりました。

Service Cloud のその他の変更

Service Cloud に加えられたその他の変更について説明します。

サービスコンソール: 生産性機能の増加、拡張メール機能、容易な設定

Lightning サービスコンソールアプリケーションの Service Cloud 機能の数が増えました。エージェントは、コンソールでマクロ、Omni-Channel Supervisor、Live Agent を使用できます。また、ケースのメール機能を拡張し、一部のサービスの設定フローも調整しました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)

メモ: Lightning コンソールアプリケーションは、まだ Salesforce Classic コンソールアプリケーションと完全に同じ機能を使用できるわけではありません。たとえば、転送通知やマルチモニターサポートなどの Salesforce Classic コンソールアプリケーションの一部の機能は、Lightning コンソールアプリケーションでは使用できません。詳細はこちらを参照してください。

Salesforce Classic コンソールアプリケーションを Lightning Experience に移行することもできません。

このセクションの内容:

マクロ、Live Agent、その他の機能強化を使用してサービスコンソールでの作業を効率化

マクロ、お気に入り、拡張メール機能、ケースフィードの更新により、エージェントの生産性を高める方法を追加しました。サブタブとして開くオブジェクトを指定し、サービスエージェントのワークフローを迅速化します。ナレッジユーザはコンソールを離れずに記事を作成できます。さらに、エージェントは Live Agent を使用してコンソールで顧客とチャットできます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Lightning サービスの設定フローでのコミュニティのブランド設定

ドラッグアンドドロップによるブランド設定で新しいコミュニティを作成できます。たとえば、ゲスト向けの連絡フォームをコミュニティに追加できます。また、強化された機能を[データカテゴリ]モーダルに、複数の自動有効化機能をWeb-to-ケースおよびナレッジ向けに追加しました。新しいコミュニティは、これまで以上のものになります。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

合理化された Lightning Knowledge の設定フローの活用

ページレイアウトまたは FAQ 作成のために [設定] に移動する必要がなくなり、代わりに設定フローが機能します。デフォルトのページレイアウトと著者権限が、Knowledgeの設定フローで自動的に有効化されるようになりました。このような機能強化によって、著者が知識ベースの記事を表示しやすくなります。また、FAQ に新しいデフォルトのページレイアウトとレコードタイプが追加されました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Community 360 を使って顧客の活動に関する価値あるインサイトを取得 (正式リリース)

今回のリリースのCommunity 360 (顧客のコミュニティ活動を確認するためにコンソールに追加できるLightning アプリケーションビルダーコンポーネント)に関してはサプライズがいくつかあります。まずお伝えしたいのは、この機能がパイロット版のマントを脱ぎ去って正式リリースされる、ということです。また、顧客の全体像をエージェントが把握するのに役立つ多くの機能が追加されました。すべては素晴らしいカスタマーサービスのためです。この機能は、Salesforce Classic および Lightning Experience で使用できます。

関連トピック:

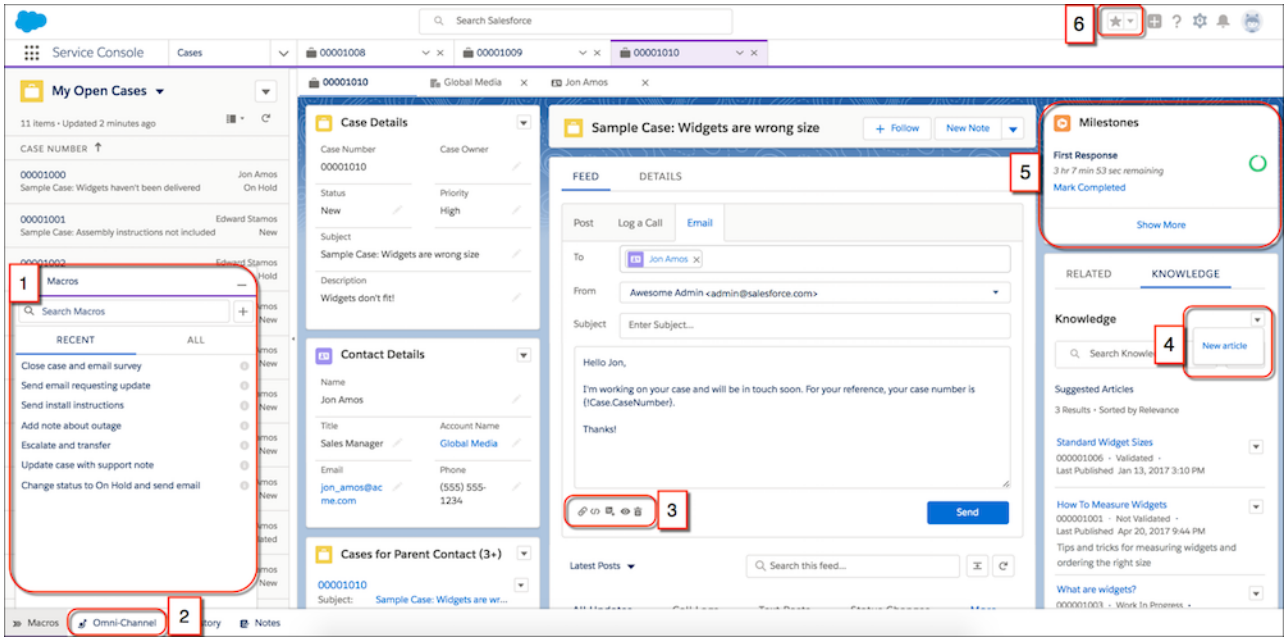
Salesforce ヘルプ: Lightning Experience コンソールの制限事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning コンソールアプリケーションで使用可能な機能(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

マクロ、Live Agent、その他の機能強化を使用してサービスコンソールでの作業を効率化

マクロ、お気に入り、拡張メール機能、ケースフィードの更新により、エージェントの生産性を高める方法を追加しました。サブタブとして開くオブジェクトを指定し、サービスエージェントのワークフローを迅速化します。ナレッジユーザはコンソールを離れずに記事を作成できます。さらに、エージェントは Live Agent を使用してコンソールで顧客とチャットできます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

段階的な手順: Lightning コンソールアプリケーションを探索する



マクロユーティリティを使用して繰り返し作業を完了 (1)
エージェントは、顧客へのメールの送信、ケース状況の更新などの繰り返し作業を 1 回のクリックで完了できます。

オムニチャネルユーティリティによる Live Agent チャットの転送 (2)
エージェントは、自分のプレゼンス状況の変更や、作業要求の受け入れまたは拒否ができます。また、Live Agent からチャットを転送することもできます。

拡張メールツールバーを使用して時間を節約 (3)
エージェントは、ケースのメールパブリッシャーから差し込み項目を挿入し、メールをプレビューし、メールをクリアできます。さらに、Salesforce Classic メールテンプレートを挿入し、ファイルを添付し、気が変わった場合は添付ファイルを削除できます。

コンソールからナレッジ記事を作成 (4)
記事を作成するためにコンソールを離れる必要がなくなりました。エージェントは、ナレッジコンポーネントから直接記事を作成できます。

コンソールでケースマイルストンを追跡 (5)
エージェントは、ケースレコードページで有効、完了、または違反のマイルストンを表示し、マイルストンの詳細にドリルダウンできます。

コンソールアプリケーションでお気に入りを使用 (6)
エージェントは、時間を節約しつつ、最も多くアクセスするページを追跡できます。

キーボードショートカットを使用した移動の迅速化
ユーティリティバーに移動するショートカットなど、新しいショートカットで、ユーザの効率が向上します。

ナビゲーションルールを使用してコンソールアプリケーションで関連レコードを開く
ナビゲーションルールを設定して、サブタブとして開くオブジェクトを指定し、サービスエージェントのワークフローを迅速化します。サービスコンソールのナビゲーションルールをカスタマイズするには、[設定] の [アプリケーションマネージャ] ページでアプリケーションを編集します。

関連レコードコンポーネントで参照のみの項目の表示
関連レコードコンポーネントに参照のみ項目が表示されるようになりました。このコンポーネントを使用すると、サービスコンソールユーザがページを離れることなくレコードの更新、レコードの作成、レコードのリンク設定のすべてを実行できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience コンソールの制限事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

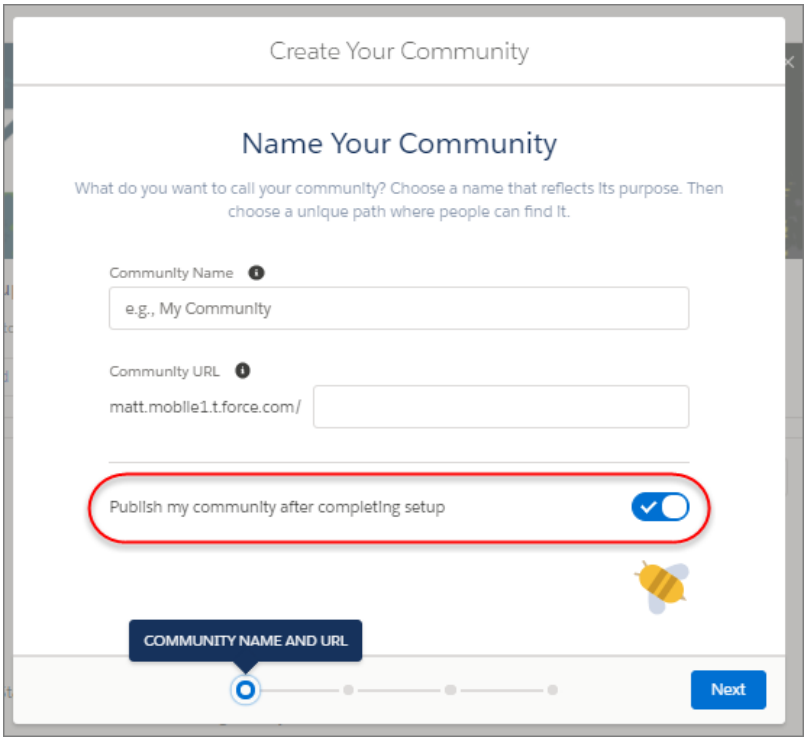
Salesforce ヘルプ: Lightning コンソールアプリケーションで使用可能な機能(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning サービスの設定フローでのコミュニティのブランド設定

ドラッグアンドドロップによるブランド設定で新しいコミュニティを作成できます。たとえば、ゲスト向けの連絡フォームをコミュニティに追加できます。また、強化された機能を [データカテゴリ] モーダルに、複数の自動有効化機能を Web-to-ケースおよびナレッジ向けに追加しました。新しいコミュニティは、これまで以上のものになります。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

コミュニティの設定フローの公開機能

[コミュニティ名および URL] モーダルに、[設定の完了後にコミュニティを公開] 切り替えスイッチを追加しました。

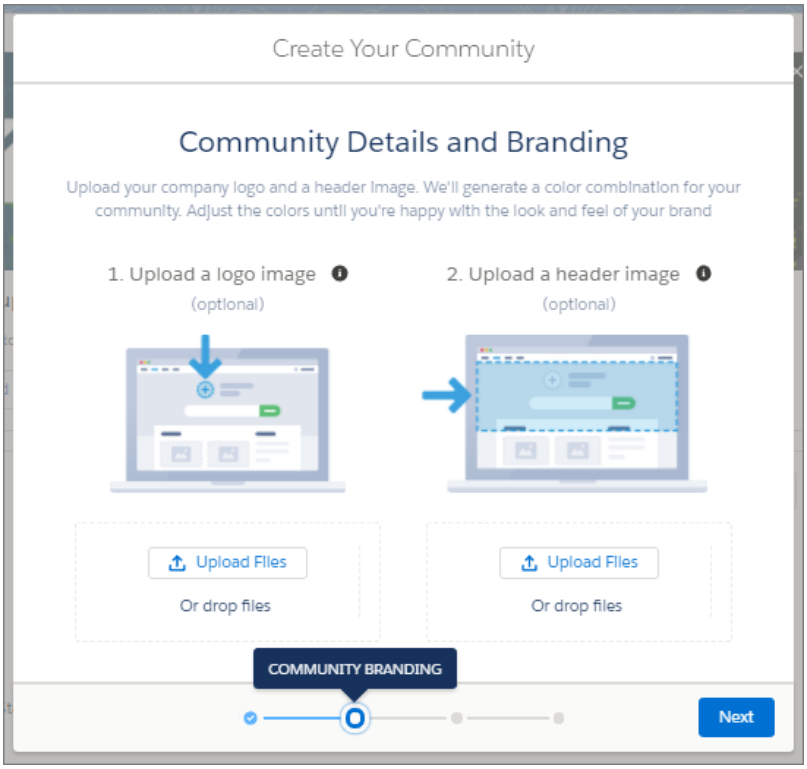


S

このスイッチをオンにすると、設定フローの完了時に新しいコミュニティが自動的に公開されます。公開済みのコミュニティに変更を加える必要があっても、問題ありません。設定フローを完了した後、いつでもコミュニティをオフラインにした上でコピーと設定を調整し、再公開できます。あるいは後で公開する場合、このオプションを無効にして、設定フローの次のステップに進みます。

コミュニティ

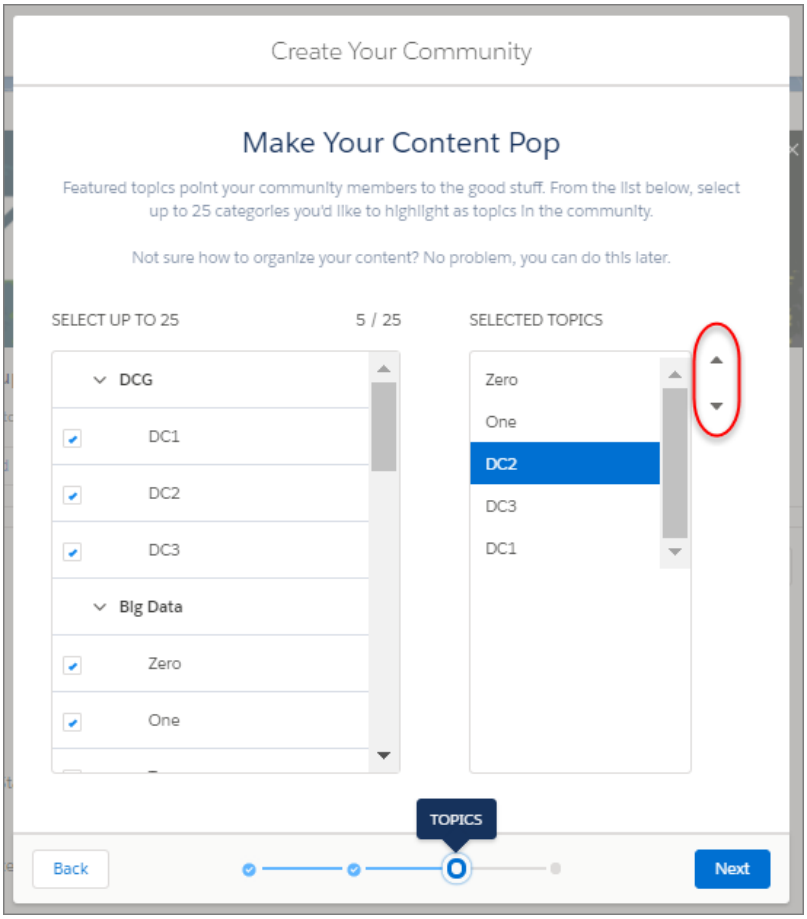
コミュニティの設定フローには、新しいブランド設定モーダルがあります。設定フローに直接、ファイルをアップロードすることや、会社のロゴなどのブランドアセットをドラッグすることが可能になりました。



実に優れているのは、ロゴおよびブランドアセットの色に基づいて、Lightningコミュニティでは、そのコミュニティ向けの色の組み合わせが生成されるということです。フローを完了した後、コミュニティビルダーのパレットを使用して、いろいろと試してみることができます。10ステップ足らずで、ブランド設定されたコミュニティを作成できます。

デュエル選択リストと最大 25 個の主要トピックを使用したコミュニティのデータカテゴリ

主要トピックは簡単に追加できます。リストを開き、追加する主要トピックのチェックボックスをクリックします。設定フローで最大 25 個の主要トピックを追加できます。



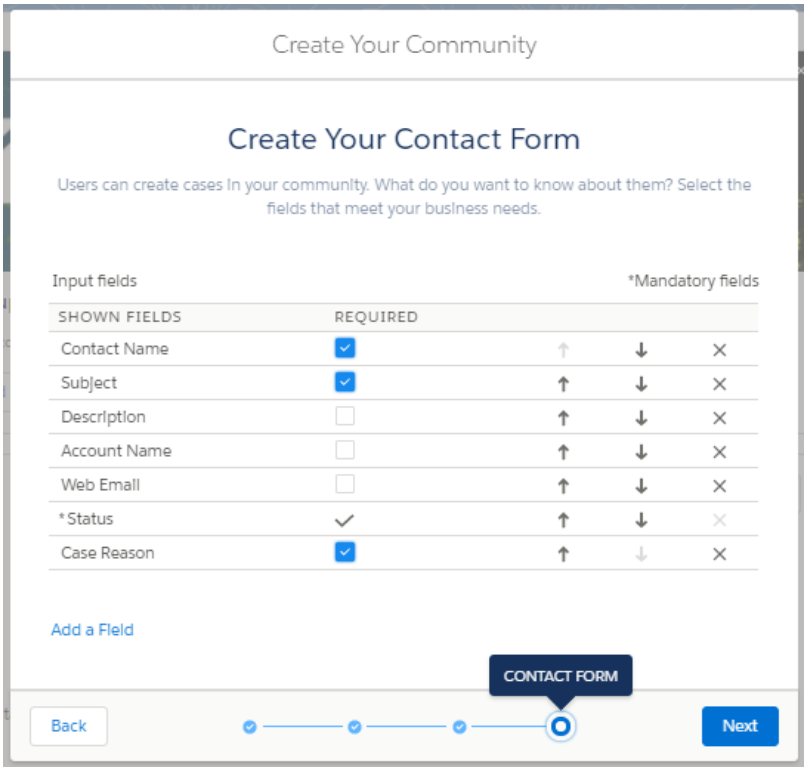
トピックの順序を変更するには、矢印をクリックして上下に移動します。コミュニティを公開すると、トピックはこの順序で表示されます。

メモ: 次の条件下では、[データカテゴリ] モーダルは Lightning コミュニティの設定フローに表示されません。

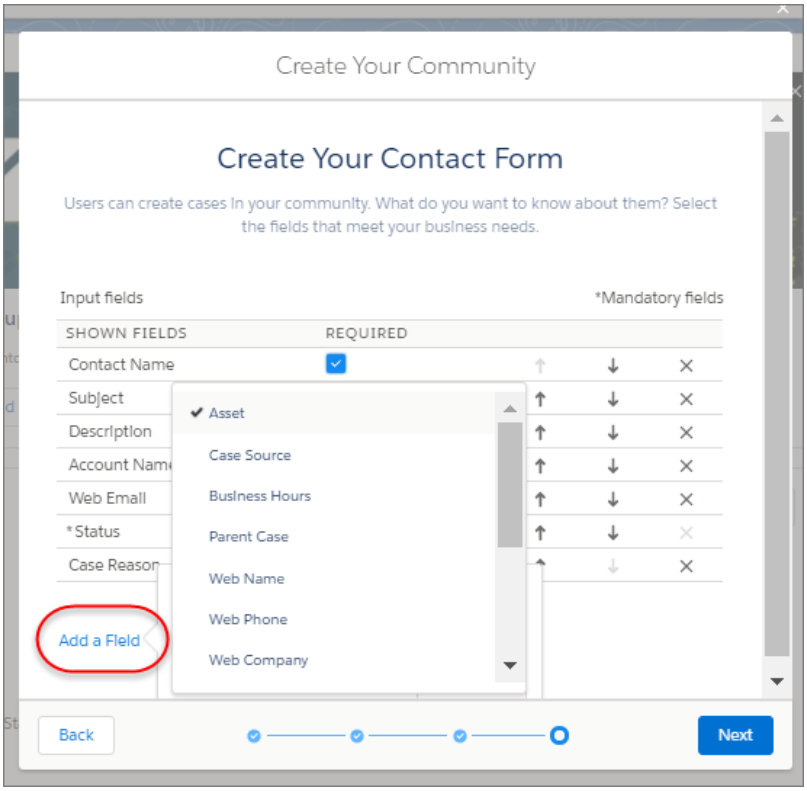
- Lightning Knowledge が有効になっていない
- Lightning Knowledge は有効になっているが、選択したデータカテゴリが有効になっていない
- 複数の知識ベースが有効になっている

Web-to-ケースの取引先責任者フォーム

コミュニティの設定フローの最後は、Web-to-ケースの取引先責任者フォームを作成するオプションです。取引先責任者フォームには、デフォルトの項目を使用することも、必須項目を含めた上で他の項目を追加することもできます。Web-to-ケースは、コミュニティからゲストが質問したり、コメントしたりするのに便利です。



取引先責任者フォームに詳細を追加するには、[項目の追加]を使用します。また、項目の順序を変更したり、不要な項目を削除したりすることもできます。



Auto-Enablements

これらのフロントエンド機能の他に、強力なバックエンドの自動有効化機能を追加しました。

ヒント: Lightning コミュニティの設定フローでは、これらの機能がバックグラウンドで自動的に有効化されます。

設定フローを完了後、Web-to-ケースおよびクイックアクションの編集機能が有効化されます。コミュニティを公開後、ゲストはコミュニティから直接ケースを送信できます。

設定フローでデータカテゴリを選択した場合は、ナレッジのトピックが自動的に有効化されます。コミュニティメンバーには、コミュニティ内のそれらのトピックに「参照のみ」アクセス権があります。データカテゴリに関連付けられたトピックは、フロー完了後にコミュニティに表示されます。また、データカテゴリに関連付けられる新しい記事には、対応するトピックが割り当てられます。

合理化された Lightning Knowledge の設定フローの活用

ページレイアウトまたはFAQ作成のために[設定]に移動する必要がなくなり、代わりに設定フローが機能します。デフォルトのページレイアウトと著者権限が、Knowledge の設定フローで自動的に有効化されるようになりました。このような機能強化によって、著者が知識ベースの記事を表示しやすくなります。また、FAQに新しいデフォルトのページレイアウトとレコードタイプが追加されました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

デフォルトのページレイアウトとレコードタイプの作成

デフォルトのFAQページレイアウトとレコードタイプによって、レイアウト中で記事がどのように表示されるのかが定義されます。なお今後も、オブジェクトマネージャでページレイアウトを作成することは可能です。

[著者を選択] 画面からプロファイルへのページレイアウトとレコードタイプの割り当て

Lightning Knowledgeの設定フローを完了すると、ページレイアウトに概要と本文の項目が追加されます。このステップを完了すると、ページレイアウトとレコードタイプが関連付けられます。選択した著者には、それらのページへの著作アクセス権が付与され、プロファイルに対してページレイアウトとレコードタイプが自動的に有効化されます。

ゲストユーザプロファイルへの知識ベースアクセス権の付与

ゲストユーザ権限を自動的に有効化し、ゲストが知識ベースの記事を表示できるようにします。

ヒント: Lightning Knowledgeの設定フローでは、これらの機能がバックグラウンドで自動的に有効化されます。

Community 360 を使って顧客の活動に関する価値あるインサイトを取得 (正式リリース)

今回のリリースの Community 360 (顧客のコミュニティ活動を確認するためにコンソールに追加できる Lightning アプリケーションビルダーコンポーネント) に関してはサプライズがいくつかあります。まずお伝えしたいのは、この機能がパイロット版のマントを脱ぎ去って正式リリースされる、ということです。また、顧客の全体像をエージェントが把握するのに役立つ多くの機能が追加されました。すべては素晴らしいカスタマーサービスのためです。この機能は、Salesforce Classic および Lightning Experience で使用できます。

Community 360 の機能についての詳細は、「Community 360 を使用した顧客のコミュニティ活動の表示 (正式リリース)」を参照してください。

Field Service: サービスクルー、商品 SKU、改善されたサービスレポート

フィールドサービスツールボックスは常に改良されています。無敵のサービスクルーの作成、複数の署名を使用したサービスレポートの増強、商品 SKU の追跡などが行われています。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience

Field Service Lightning 標準機能と管理パッケージを使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition。作業指示は **Professional** Edition でも使用できます。

このセクションの内容:

サービスクルーによるスケジュールの簡略化
サービス予定の新しい割り当てオプション
作業指示および作業指示品目へのサービスレポートテンプレートの割り当て
サービスレポートの複数の署名の機能強化

サービスクルーによるスケジュールの簡略化

常に共同作業するフィールドサービス技術者のドリームチームを結成したことはありますか? サービスクルーを使用すれば、従業員の定義済みチームをサービス予定に割り当てることができます。これにより、時間を節約でき、適切な従業員で各予定を確実に処理できるようになります。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

サービス予定の新しい割り当てオプション

サービス予定をサービスクルーに割り当てる方法を柔軟に選択できるようになりました。予定をクルーまたは個々のクルーメンバーに割り当てます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

作業指示および作業指示品目へのサービスレポートテンプレートの割り当て

成功するためのサービスレポートを設定しましょう。作業指示および作業指示品目の [サービスレポートテンプレート] 項目では、各レコードのサービスレポートで使用するテンプレートを選択できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

サービスレポートの複数の署名の機能強化

完了した作業に技術者、顧客、パートナーが署名できるように、複数の署名ブロックをサービスレポートテンプレートに追加します。誰の署名がサービスレポートに必要なのかを技術者が把握できるように、各署名ブロックに一意の種別を割り当てます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

サービスレポートで再利用されなくなった署名

顧客の署名を保護します。Field Service Lightning モバイルアプリケーションを使用してサービスレポートに署名した場合、そのユーザの署名はサービスレポートの後続のバージョンにコピーされなくなりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

商品 SKU の追跡

商品の新しい［商品 SKU］項目を使用して、提供する商品を追跡します。この項目は［商品コード］項目と共に、またはその代わりに使用できます。たとえば、［商品コード］項目を使用してメーカーの識別コードを追跡し、再販時に商品に SKU を割り当てることができます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

24 時間の時間枠を用いた夜間シフトのスケジュール設定

業務時間の時間枠を午前 0 時に終了できるようになり、夜間シフトの対応可能状況を簡単に追跡できるようになりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

フィールドサービスロケーション階層の詳細およびファイルの表示

ロケーションは、フィールドサービスエコシステムの中心的な部分ですが、以前よりも多くの方法でロケーションの特性を追跡できるようになりました。階層内のロケーションの位置を一目で評価したり、ファイルをロケーションに添付したり、ロケーションレコードへの変更を追跡したりできます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

作業種別の共有ルールの作成

共有ルールを設定して、ユーザグループごとに異なる作業種別を使用できるようにします。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Field Service フローアクションによる時間の節約

Cloud Flow Designer の [サービスレポートを作成] および [作業指示を生成] アクションを使用して、フィールドサービスプロセスを高速化できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

レコードタイプによる作業指示の絞り込み

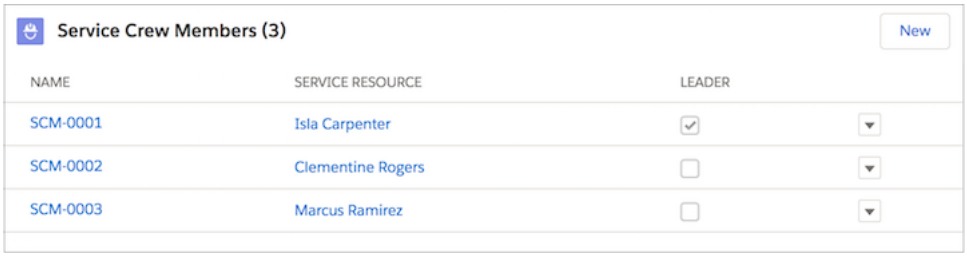
レコードタイプによる条件検索が反映されるようにリストビューを変更して、各レコードタイプに関連付けられた作業指示を参照できるようになりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

サービスクルーによるスケジュールの簡略化

常に共同作業するフィールドサービス技術者のドリームチームを結成したことはありますか? サービスクルーを使用すれば、従業員の定義済みチームをサービス予定に割り当てることができます。これにより、時間を節約でき、適切な従業員で各予定を確実に処理できるようになります。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

サービスクルーは、サービス予定で共同作業するのに適したスキルと経験を持ち合わせるサービスリソースのグループです。たとえば、水源回復クルーには水文学者、機械工学士、電気技術者などが含まれます。

クルーを作成するには、[サービスクルー] タブで [新規] をクリックし、クルーの名前とサイズを指定します。[サービスクルーメンバー] 関連リストを使用してサービスリソースをクルーに追加します。クルーメンバーの開始日と終了日を指定したり、クルーリーダーにフラグを設定したりできます。



[サービスクルーメンバー] 関連リストからメンバーをサービスクルーに追加します。

サービスリソースが属するクルーは、サービスリソースの詳細ページの [サービスクルー] 関連リストに表示されます。

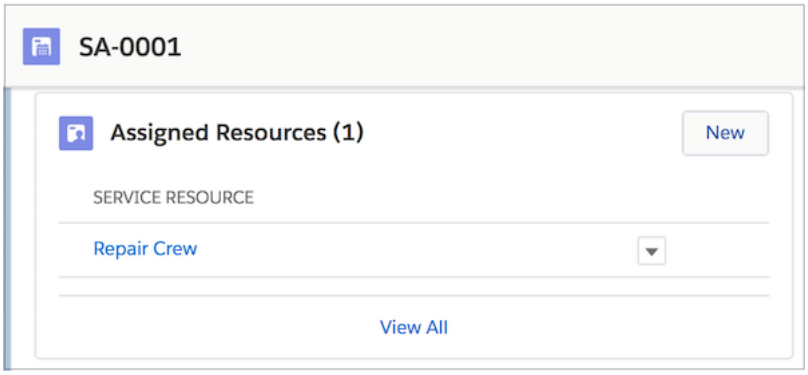
ヒント: [サービスクルーメンバー] 関連リストに表示される項目を変更するには、サービスクルーのページレイアウトを更新します。

サービスリソースの変更内容

サービスクルーの導入に伴い、Salesforce でのサービスリソースの機能がいくつか変更されています。これまで、サービスリソースはユーザを表していましたが、個々のユーザまたはサービスクルーを表すようになりました。サービスクルーごとにサービスリソースレコードを作成するため、クルーをサービス予定に割り当てることができます。メンバーを追加または削除する必要があっても心配無用です。クルーメンバーの変更は、サービス予定の割り当てには影響しません。

今後、サービスリソースを作成する場合、次のアプローチを取ります。

- ユーザを表すサービスリソースを作成するには、[ユーザ] 参照項目でユーザを選択し、[リソース種別] として *[技術者]* を選択します。
- サービスクルーを表すサービスリソースを作成するには、新しい [サービスクルー] 参照項目でクルーを選択し、[リソース種別] として *[クルー]* を選択します。クルーのサービスリソースは、クルーに 1 人以上の有効なメンバーが設定されるまで有効化できません。



[割り当て済みリソース] 関連リストからクルーをサービス予定に割り当てます。

重要:

- サービスリソースの [サービスクルー] 項目は、デフォルトですべてのユーザに対して非表示になっています。これを使用するには、[設定] でその項目レベルセキュリティ設定を更新して、サービスリソースのページレイアウトに追加します。

- 組織が Winter '18 より前に作成されている場合、［サービスクルー］項目をサービスリソースのページレイアウトに追加し、［ユーザ］が必須項目にならないようにページレイアウトを編集します。ページレイアウトを開き、[ユーザ] 項目をダブルクリックして [必須] をオフにし、[OK] をクリックします。このようにしなければ、サービスクルーを表すサービスリソースを作成できません。［ユーザ］および［サービスクルー］項目は UI では必須項目としてマークされませんが、組み込みの検証により、いずれかの項目が入力されるまではサービスリソースを保存できません。

作業種別の変更内容

サービスクルーのサイズ要件を作業種別、作業指示、および作業指示品目に追加できます。［推奨クルーサイズ］および［最少クルー人数］項目は、サービス予定を割り当てる派遣担当者のガイドになります。これらの項目は次のように機能します。

- 推奨クルーサイズを入力した場合は、最少クルー人数の入力が必要になります。
- 作業指示と作業指示品目は、作業種別のクルーサイズ値を継承します。

これら 2 つの項目は、デフォルトではすべてのユーザに対して非表示になります。これらを使用するには、[設定] でそれらの項目レベルセキュリティ設定を更新して、作業種別のページレイアウトに追加します。

メモ: サービスクルーは、Salesforce モバイル Web または Salesforce for Android/iOS では使用できません。［クルー］種別のサービスリソースを表示することはできますが、［サービスクルー］項目の値をクリックするとエラーが発生します。

Field Service Lightning 管理パッケージを使用している場合、サービスクルーはまだスケジュールの最適化およびガントチャートに含まれていないので注意してください。

サービス予定の新しい割り当てオプション

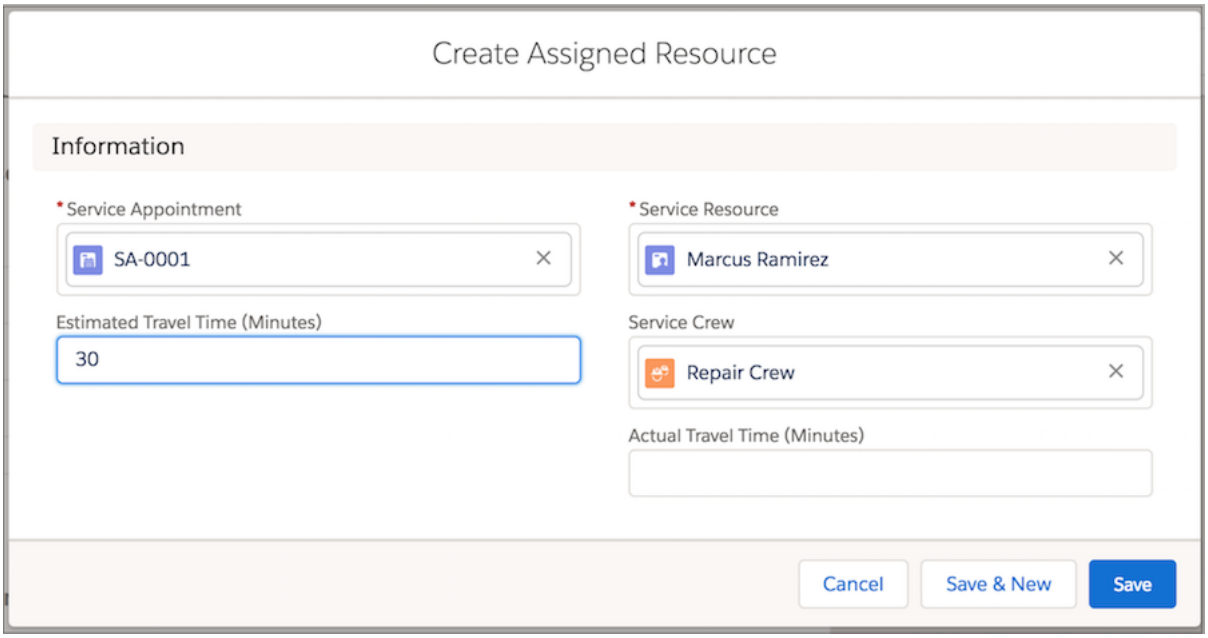
サービス予定をサービスクルーに割り当てる方法を柔軟に選択できるようになりました。予定をクルーまたは個々のクルーメンバーに割り当てます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

サービスクルーの導入に伴い、サービスリソースは個々のユーザまたはユーザグループ (サービスクルー) を表すようになりました。クルーを表すサービスリソースにサービス予定を割り当てる場合、予定の [割り当て済みリソース] 関連リストには、1 つの任命先 (クルー) のみが表示されます。ただし、割り当て済みリソースの新しい［サービスクルー］項目により、個別にクルーメンバーに予定を割り当てることもできます。このアプローチでは、次のことが可能です。

- 各クルーメンバーの推定移動時間と実際の移動時間を記録する
- 予定の [割り当て済みリソース] 関連リストですべてのクルーメンバーを確認する

続いて、個別にクルーメンバーにサービス予定を割り当てる方法を示します。

1. 予定の [割り当て済みリソース] 関連リストで [新規] をクリックします。
2. ［サービスリソース］項目で、クルーに属する個々のサービスリソース ([ユーザ] リソース種別) を選択します。
3. ［サービスクルー］項目で、個々のリソースが属するクルーを選択します。
4. 必要に応じて他の項目を入力し、変更を保存します。
5. クルーメンバーごとに前の手順を繰り返します。



これで、技術者や派遣担当者は[割り当て済みリソース]関連リストで簡単にクルーメンバーのリストを確認できます。

重要: 割り当て済みリソースの［サービスクルー］項目は、デフォルトですべてのユーザに対して非表示になっています。これを使用するには、[設定]でその項目レベルセキュリティ設定を更新して、割り当て済みリソースのページレイアウトに追加します。

作業指示および作業指示品目へのサービスレポートテンプレートの割り当て

成功するためのサービスレポートを設定しましょう。作業指示および作業指示品目の［サービスレポートテンプレート］項目では、各レコードのサービスレポートで使用するテンプレートを選択できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

作業指示でサービスレポートテンプレートを指定しない場合、その作業種別にリストされるサービスレポートテンプレートが使用されます。作業種別にテンプレートがリストされない場合や、作業種別が指定されていない場合、作業指示ではデフォルトのサービスレポートテンプレートが使用されます。作業指示品目についても同様です。

メモ: 作業指示または作業指示品目で更新しない限り、［サービスレポートテンプレート］項目は空白のままです。サービスレポートで使用されるテンプレートを確認するには、その作業種別をチェックします。

サービスレポートの複数の署名の機能強化

完了した作業に技術者、顧客、パートナーが署名できるように、複数の署名ブロックをサービスレポートテンプレートに追加します。誰の署名がサービスレポートに必要なのかを技術者が把握できるように、各署名ブロックに一意の種別を割り当てます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

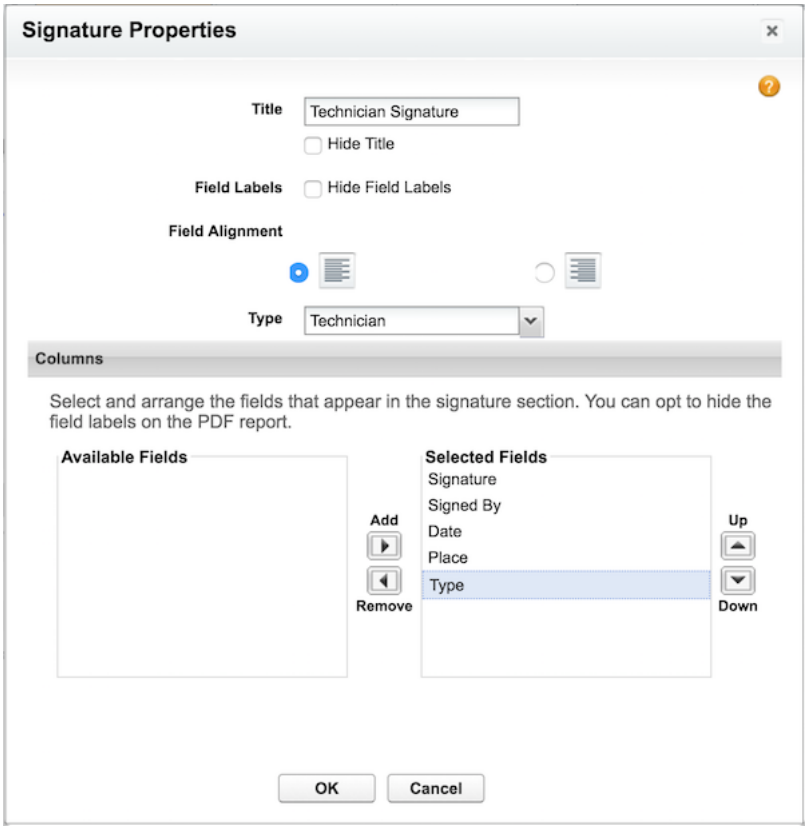
デジタル署名の［署名種別］項目は、サービスレポートに署名するユーザの役割を表します。これにより、適切なユーザがレポートに署名していることを確認しやすくなります。

例として、会社で納入商品の予防メンテナンスを実行するときは、顧客と技術者の両方が最終サービスレポートに署名する必要があるとします。この署名があれば、完了した作業に全員が同意していることがわかり、将来の言い争いを回避できます。

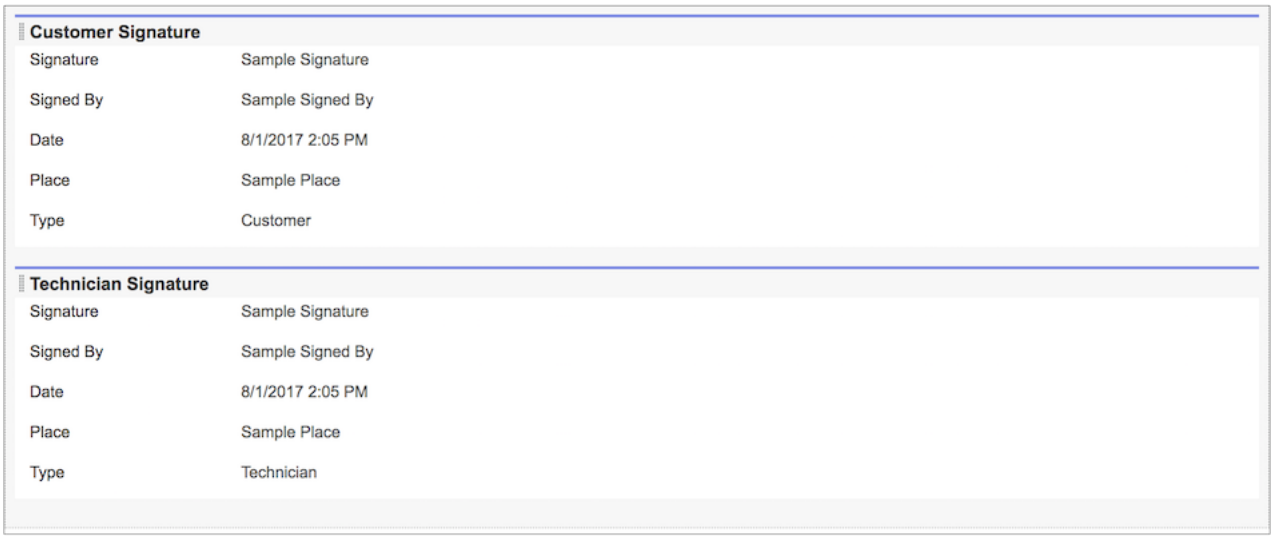
上記の要件を満たすために、*「Customer (顧客)」* と *「Technician (技術者)」* という 2 つの値を [署名種別] 選択リスト値に追加します。次に、*「Maintenance Report (メンテナンスレポート)」* というサービスレポートテンプレートを作成します。2 つの署名ブロック (*[Customer (顧客)]* 署名種別と *[Technician (技術者)]* 署名種別) をそのレイアウトにドラッグします。

メモ: レポートでは 1 つの種別ごとに 1 つの署名のみが許可されているため、[署名種別] の値を定義するまでは、追加の署名ブロックをテンプレートにドラッグすることはできません。同じユーザ種別の署名が 1 つのレポートに複数必要となる場合は、*[Customer 1 (顧客 1)]* と *[Customer 2 (顧客 2)]* など、番号付きの種別値を作成することをお勧めします。署名ブロックでは複数列を使用できません。

署名ブロックをレイアウトにドラッグすると、その表示設定が表示されます。[署名種別] 項目は、[署名のプロパティ] ウィンドウに [種別] として表示されるもので、サービスレポートテンプレートの署名ブロックの必須項目です。署名の指定領域である [Signature (署名)] 項目も追加します。



署名ブロックを追加してテンプレートを保存した後で、テンプレートからサービスレポートを生成すると、便利な表示ラベルが付けられた 2 つの署名ブロックが表示されます。もう迷わずに済みますね。



使用を開始する準備ができましたか?

- 値を［署名種別］選択リストに追加するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「*デジタル署名*」と入力し、[デジタル署名] の [項目] を選択します。選択リストには、［デフォルト］という 1 つの値が含まれますが、これは必要に応じて無効化できます。
- サービスレポートテンプレートを作成または編集するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「*サービスレポートテンプレート*」と入力し、[サービスレポートテンプレート] を選択します。
- サービス予定、作業指示、作業指示品目のサービスレポートを作成するには、レコード詳細ページのドロップダウンアクションメニューで [サービスレポートを作成] を選択します。

メモ: Winter '18 より前に作成されたサービスレポートテンプレートには、［署名種別］項目は含まれません。ただし、テンプレートの署名ブロックを編集する場合は、種別を選択するように求められます。

サービスレポートで再利用されなくなった署名

顧客の署名を保護します。Field Service Lightning モバイルアプリケーションを使用してサービスレポートに署名した場合、そのユーザの署名はサービスレポートの後続のバージョンにコピーされなくなりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

たとえば、技術者がサービス予定のサービスレポートを生成し、顧客がレポートに署名したとします。後で、技術者がサービスのメモを更新して推奨事項を追加します。技術者がサービスレポートを再生成した場合、新しいレポートには顧客の署名は表示されません。

サービスレポートのバージョン間で署名を再利用し続ける場合は、Salesforce にお問い合わせください。

商品 SKU の追跡

エディション

商品を使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

商品の新しい［商品 SKU］項目を使用して、提供する商品を追跡します。この項目は［商品コード］項目と共に、またはその代わりに使用できます。たとえば、［商品コード］項目を使用してメーカーの識別コードを追跡し、再販時に商品に SKU を割り当てることができます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

2 つの商品に同じ SKU を割り当てることはできません。［商品 SKU］項目は検索可能で、最大 180 字の文字および数字を含めることができます。Winter '18 以降に作成された組織の場合、これはデフォルトの商品ページレイアウトに表示されます。より古い組織の場合、これをページレイアウトに追加する必要があります。また、納入商品ページレイアウトや新規納入商品の階層ビューでも使用できます。「納入商品: 納入商品階層の全体像を把握」を参照してください。

24 時間の時間枠を用いた夜間シフトのスケジュール設定

業務時間の時間枠を午前 0 時に終了できるようになり、夜間シフトの対応可能状況を簡単に追跡できるようになりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

これまで、業務時間の時間枠は午前 0 時に終了できませんでした。サービスリソースの業務時間を午後 8:00 に開始して午後 11:59 に終了する場合、厳密には 1 日の最後の 1 分はリソースを利用できませんでした。そのため、夜間シフトの時間をモデル化することは困難でしたが、

たとえば、従業員が午後 8:00 から午前 4:00 まで作業できる場合、午後 8:00 から午前 0 時までの時間と、翌日の午前 0 時から午前 4:00 までの時間を表す、2 つの時間枠を作成できるようになりました。この変更により、スケジュールオプティマイザ (Field Service Lightning 管理パッケージ機能) でサービス予定に対応できる技術者を簡単に識別することもできます。

メモ: 特定の日に 24 時間の時間枠を作成すると、その日に他の時間枠は作成できません。

フィールドサービスロケーション階層の詳細およびファイルの表示

ロケーションは、フィールドサービスエコシステムの中心的な部分ですが、以前よりも多くの方法でロケーションの特性を追跡できるようになりました。階層内のロケーションの位置を一目で評価したり、ファイルをロケーションに添付したり、ロケーションレコードへの変更を追跡したりできます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

ロケーション階層は、フィールドサービス作業環境を正確にモデル化するのに役立ちます。たとえば、特定の作業サイトにメイン倉庫があることを示すには、倉庫のロケーションレコードをサイトのロケーションレコードの子にします。Winter '18 では、ロケーションレコードの既存の［親ロケーション］項目に次の 3 つの機能が追加されました。

- ［ルートロケーション］項目: ロケーション階層の最上位ロケーションをリストします。
- ［階層レベル］項目: 階層内のロケーションの位置を示します。
- [子ロケーション] 関連リスト: すべての子ロケーションを表示します。

ロケーションレコードへの変更を追跡するには、フィード追跡を使用します。新しい [ファイル] 関連リストでは、倉庫のブループリント、サイトマップ、または写真などのファイルをロケーションに添付できます。

作業種別の共有ルールの作成

共有ルールを設定して、ユーザグループごとに異なる作業種別を使用できるようにします。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

レコード所有者に基づいて、最大 300 個の作業種別共有ルールを定義できます。たとえば、作成した公開グループに基づいて、特定の作業種別を特定の国のユーザのみが使用できるようにする共有ルールを設定できます。

開始するには、[設定] の [共有設定] ページに移動し、[作業種別共有ルール] 関連リストで [新規] をクリックします。

メモ: 作業種別では、条件に基づく共有ルールはサポートされていません。

Field Service フローアクションによる時間の節約

Cloud Flow Designer の [サービスレポートを作成] および [作業指示を生成] アクションを使用して、フィールドサービスプロセスを高速化できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

[サービスレポートを作成] アクション
作業指示、作業指示品目、サービス予定の標準テンプレートまたはカスタムテンプレートからサービスレポートを作成します。入力を次に示します。

- 関連レコード — 必須。サービスレポートが作成されるレコードの ID。サービス予定、作業指示、作業指示品目のサービスレポートを作成できます。
- サービスレポートテンプレート — 必須。サービスレポートの作成に使用されるテンプレート。
- 署名 — 省略可能。サービスレポートに追加される署名。複数の署名をサービスレポートに追加できます。

アクションの出力を次に示します。

- バージョン — サービスレポートのコンテンツバージョン ID。
- サービスレポート — サービスレポートの ID。

このアクションを使用するには、「Field Service Standard」ユーザ権限が必要です。Field Service Lightning が組織で有効になっている必要があります。

[作業指示を生成] アクション
メンテナンスプランの作業指示を生成します。入力 (1 つ) を次に示します。

- レコード ID — 作業指示の生成元のメンテナンスプラン ID。

このアクションを使用するには、「Field Service Standard」ユーザ権限、納入商品への「参照」アクセス権、作業指示およびサービス予定への「作成」アクセス権が必要です。Field Service Lightning が組織で有効になっている必要があります。

同時に生成できる作業指示は 2,500 個までです。生成される作業指示の数を減らすには、頻度を増やしたり、生成期間を減らしたり、メンテナンスプランに関連する納入商品の数を減らしたりします。

レコードタイプによる作業指示の絞り込み

レコードタイプによる条件検索が反映されるようにリストビューを変更して、各レコードタイプに関連付けられた作業指示を参照できるようになりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Field Service Mobile: Android アプリケーションの正式リリースと iOS アプリケーション 3.0 へのアップグレード

Field Service Lightning は、Android 用 Field Service Lightning モバイルアプリケーションのリリースすることで、モバイルの世界をも席巻し続けます。iOS アプリケーションでは、製品検索と製品リクエストが今まで以上にスマートになりました。また、どちらのプラットフォームでも、必要があるすべてのユーザが作業に署名できるように、複数の署名をサービスレポートテンプレートに追加できるようになりました。

重要: 3.0 リリース以降、ユーザはフローを使用するのに RunFlow 権限が必要になりました。

エディション

Field Service Lightning 標準機能と管理パッケージを使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition。作業指示は **Professional** Edition でも使用できます。

このセクションの内容:

Android への Field Service Lightning の導入 (正式リリース)

Field Service Lightning モバイルアプリケーションの Android バージョンがリリースされ、すべてのモバイルデバイスで Field Service Lightning を使用できるようになりました。Android アプリケーションは、技術者が 1 回の予約で業務を完了できるように設計された一連の優れた機能を備えています。フローアクション、柔軟なユーザインターフェース、サービスリソース地理位置情報、Salesforce ナレッジなどを使用して、世界クラスのサービス環境を実現できます。Android アプリケーションは、iOS バージョンと同じ機能をすべてサポートしているわけではありません。

サービスレポートの複数の署名の取得

複数の署名テンプレートを使用して、サービスレポートの署名を効率的に取得および追跡します。

強化されたサービスレポートのプレビューによるサービスレポートの検証

モバイル環境の従業員は、サービスレポートが完全で正確なものであることを簡単に検証できます。ただし、リッチテキスト項目に画像を含めることはできません。テンプレートのページレイアウトに含まれていない特定の項目値はプレビューに表示されない場合があります。

バックグラウンドモードの地理位置情報の設定

バックグラウンドモードのときに Field Service Lightning モバイルアプリケーションの地理位置情報の精度や更新頻度をカスタマイズします。追跡精度の向上のために更新頻度を増やしたり、地理位置情報ポーリングの頻度を減らしてバッテリーを節約したりできます。

フローのローカライズによる他言語の従業員向けの使いやすさの向上

Field Service Lightning iOS アプリケーションを他言語の従業員向けに簡単にカスタマイズできるようになりました。フローのローカライズによって、モバイル環境の従業員は希望する言語でフロー画面を表示できます。また、フローの制限が少なくなったことで、モバイル環境の従業員はいっそう強力な機能を利用できるようになりました。

スマートな製品リクエストによる時間の節約

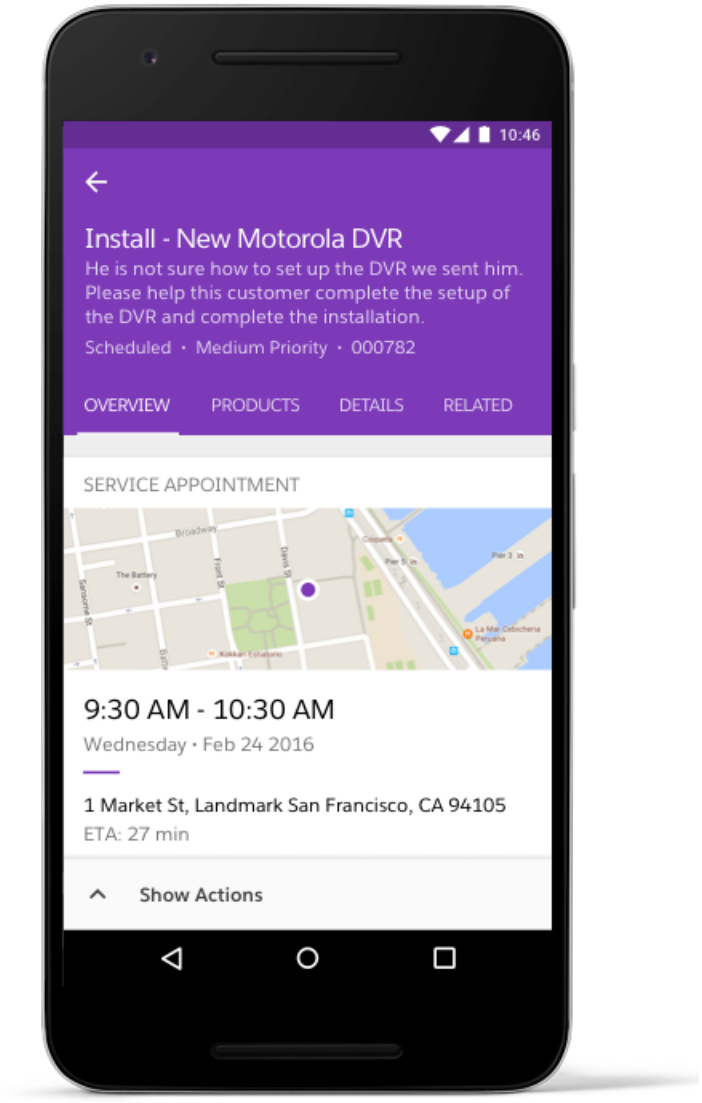
必要なところに部品や製品を届けます。以前は、Field Service Lightning iOS アプリケーションからユーザが製品リクエストレコードを作成しても、その製品レコードが作業指示に自動的に関連付けられることはありませんでした。今回のリリースでは、ユーザが製品リクエストを作成すると、そのレコードはアプリケーションで開いている作業指示に関連付けられるようになりました。

強化された製品検索を使用して必要な部品を入手

作業を完了するために必要な部品をすべて見つけようとすると、手間を要することがあります。製品検索が改善されたことで、モバイル環境の従業員は、特定の場所を検索して、別の技術者または場所に必要な製品があるかどうかを調べることができます。また、作業を完了するときは、製品を複数の場所から消費できるようになり、かつてないほど簡単にリソースをプールできるようになりました。

Android への Field Service Lightning の導入 (正式リリース)

Field Service Lightning モバイルアプリケーションの Android バージョンがリリースされ、すべてのモバイルデバイスで Field Service Lightning を使用できるようになりました。Android アプリケーションは、技術者が 1 回の予約で業務を完了できるように設計された一連の優れた機能を備えています。フローアクション、柔軟なユーザインターフェース、サービスリソース地理位置情報、Salesforce ナレッジなどを使用して、世界クラスのサービス環境を実現できます。Android アプリケーションは、iOS バージョンと同じ機能をすべてサポートしているわけではありません。



Field Service Lightning Android アプリケーションは、モバイル環境の従業員のニーズを満たすように設計されたオフライン対応のソリューションです。このアプリケーションの一連の機能と設定可能なオプションにより、モバイル環境の従業員が必要とする機能をすべて備えるようにカスタマイズできます。すべてが 1 つのアプリケーション内に収まり、デザインも思いのままです。

Field Service Lightning Android アプリケーションで何ができるのかについては、次の主な機能の表を参照してください。

機能	説明
オフライン対応	インターネット接続が困難な場合でも、常に業務を遂行できます。モバイル環境の従業員はネットワーク接続がない場合や制限されている場合でも、常に作業を完了できます。オフライン時に行った変更は、アプリ

機能	説明
	ケーションが Salesforce に再び接続されるまでアップロード待機中のキュー内で追跡されます。
作業指示の概要	直感的な UI によって情報が個別のカードに表示されるため、モバイル環境の従業員は、業務を遂行するために重要な情報をすばやく見つけることができます。
設定可能なクイックアクション	モバイル環境の従業員の独自のニーズを満たすようにアクションを設定できます。クイックアクションでは、レコードの作成や更新などのアクションを実行できます。
Field Service アプリケーション拡張	Field Service Lightning Android アプリケーションからレコードデータを渡して、Salesforce for Android などの他のアプリケーションに接続できます。Lightning アプリケーションおよびサードパーティアプリケーション拡張のみがサポートされています。
署名のキャプチャおよびサービスレポート作成	完了した作業指示のサービスレポート用に、顧客の署名を取得します。
カスタムブランド	アプリケーションをブランド設定して、会社のデザインを適用します。
設定可能なユーザインターフェース	ユーザに表示するレコード情報を選択できます。情報に優先順位を付けて、ユーザが必要な情報を容易に見つけられるようにします。
転送通知	モバイル環境の従業員が最新情報を把握し、重要な更新を見逃さないようにします。
フローアクション	Visual Workflow を使用してワークフローを容易に作成および管理して、ユーザが画面を順に進みながら、情報の収集および表示、レコードの作成および更新、ユーザ入力に基づいたロジックの実行ができるように案内します。システム管理者は、Flow Designer のドラッグアンドドロップユーザインターフェースでフローを設計、作成した後、それらを有効化、管理、保守します。フローはローカライズをサポートしているため、多言語の従業員向けにフローを設定できます。
納入商品履歴	納入商品履歴カードには同じ納入商品に関連付けられた他の作業指示が表示されるため、納入商品のサービス履歴を完全に把握できます。
サービスリソース追跡	サービスリソースの地理位置情報追跡によってモバイル環境の従業員を管理します。

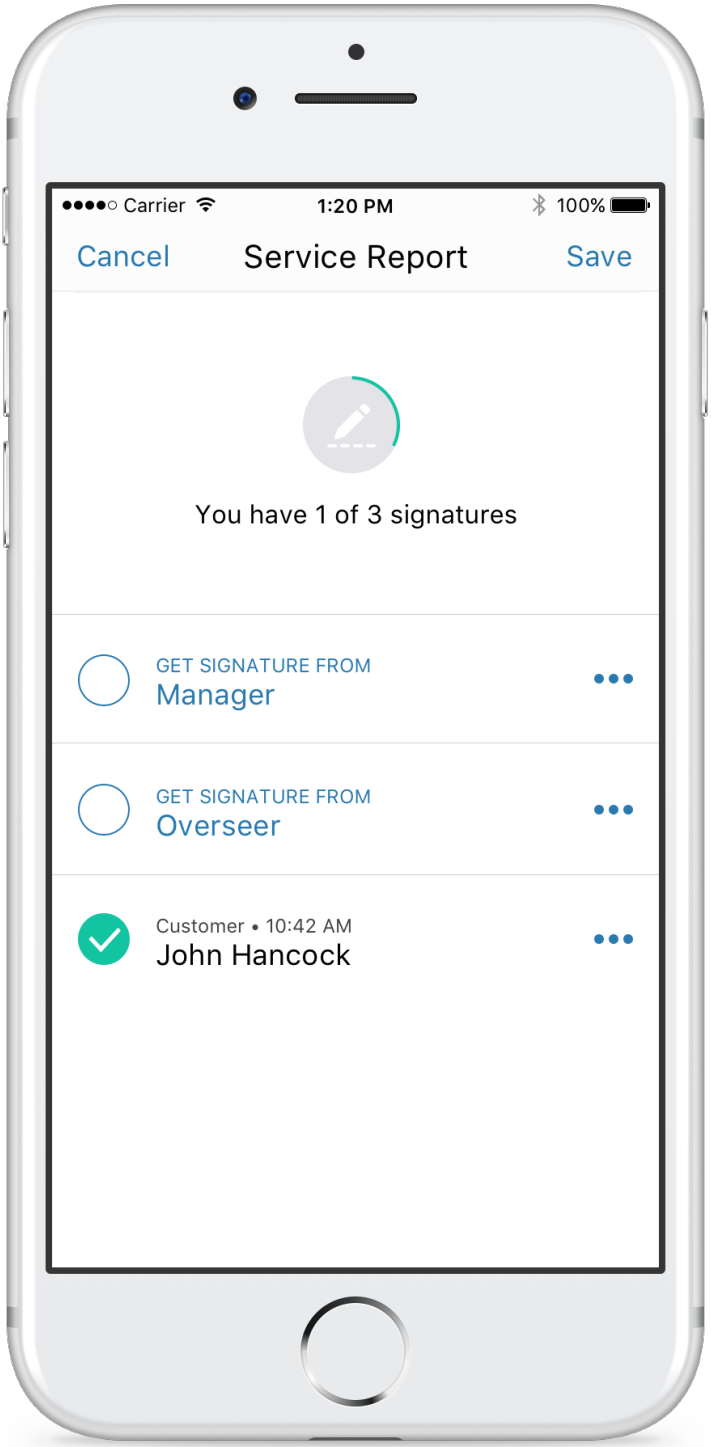
機能	説明
リソース不在	従業員がリソース不在を作成して、作業できない期間を表すことができます。
バンのストック	バンのストックにある製品項目の完全なリストを維持します。
消費した部品	作業指示を完了するときに、消費した製品と部品を追跡します。
Salesforce ナレッジ	モバイル環境の従業員に有益な情報を提供します。製品マニュアルや詳細な手順などの重要な情報をもとに、ナレッジ記事を作成します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Field Service Lightning iOS アプリケーション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

サービスレポートの複数の署名の取得

複数の署名テンプレートを使用して、サービスレポートの署名を効率的に取得および追跡します。

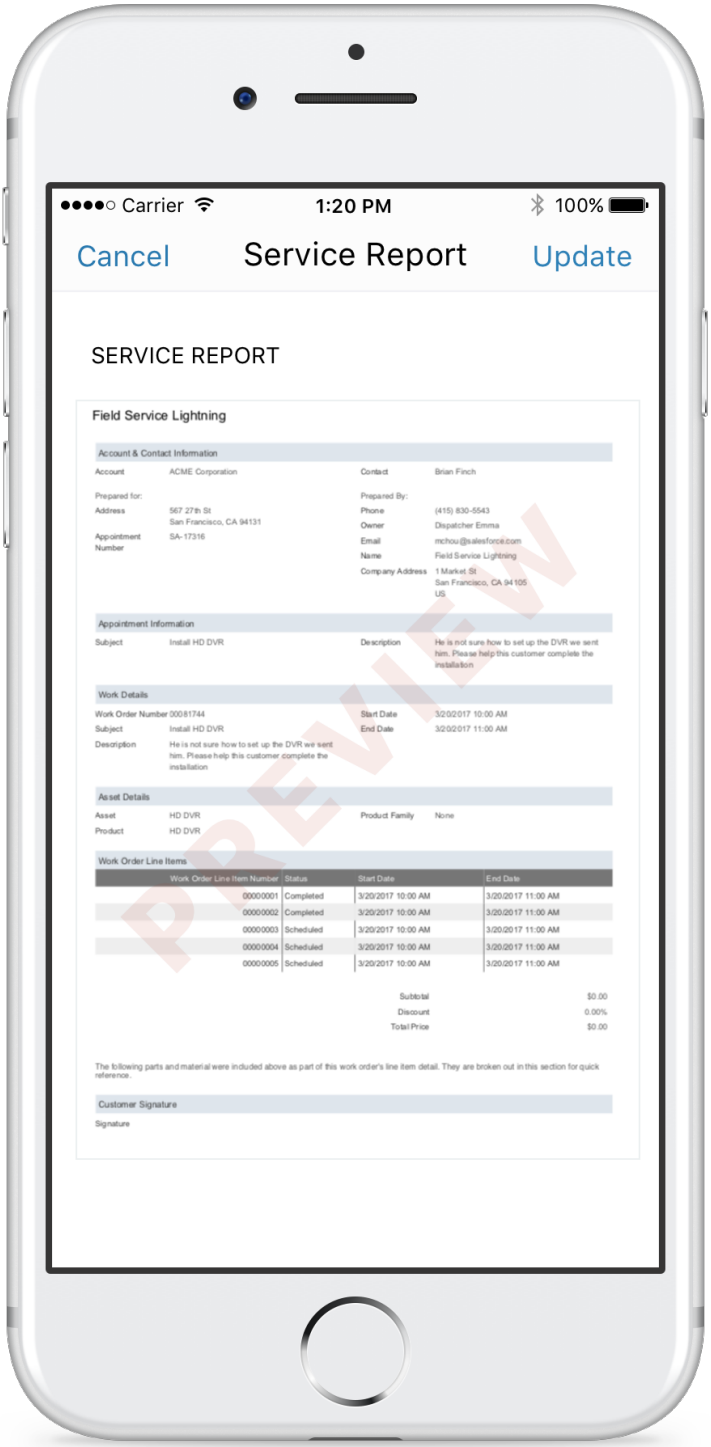

Carrier
1:20 PM
100%
Cancel
Service Report
Save
You have 1 of 3 signatures
GET SIGNATURE FROM
Manager
GET SIGNATURE FROM
Overseer
Customer • 10:42 AM
John Hancock

サービスレポートテンプレートに複数の署名ブロックを含めることが可能になり、作業に関わる全員がサービスレポートに署名できるようになりました。各署名ブロックには一意の署名種別があるため、技術者は誰の署名が必要なのかを把握できます。詳細は、「サービスレポートの複数署名の機能強化」を参照してください。

サービスレポートのバージョン間における署名の再利用は過去のものとなりました。詳細は、「サービスレポートで再利用されなくなった署名」を参照してください。

強化されたサービスレポートのプレビューによるサービスレポートの検証

モバイル環境の従業員は、サービスレポートが完全で正確なものであることを簡単に検証できます。ただし、リッチテキスト項目に画像を含めることはできません。テンプレートのページレイアウトに含まれていない特定の項目値はプレビューに表示されない場合があります。


Carrier
1:20 PM
100%
Cancel
Service Report
Update
SERVICE REPORT
Field Service Lightning
Account & Contact Information
Account
ACME Corporation
Contact
Brian Finch
Prepared for:
Address
567 27th St
San Francisco, CA 94131
Appointment Number
SA-17316
Prepared By:
Phone
(415) 830-5543
Owner
Dispatcher Emma
Email
mchou@salesforce.com
Name
Field Service Lightning
Company Address
1 Market St
San Francisco, CA 94105
US
Appointment Information
Subject
Install HD DVR
Description
He is not sure how to set up the DVR we sent him. Please help this customer complete the installation
Work Details
Work Order Number
00081744
Subject
Install HD DVR
Description
He is not sure how to set up the DVR we sent him. Please help this customer complete the installation
Start Date
3/20/2017 10:00 AM
End Date
3/20/2017 11:00 AM
Asset Details
Asset
HD DVR
Product
HD DVR
Product Family
None
Work Order Line Items
Work Order Line Item Number
Status
Start Date
End Date
00000001
Completed
3/20/2017 10:00 AM
3/20/2017 11:00 AM
00000002
Completed
3/20/2017 10:00 AM
3/20/2017 11:00 AM
00000003
Scheduled
3/20/2017 10:00 AM
3/20/2017 11:00 AM
00000004
Scheduled
3/20/2017 10:00 AM
3/20/2017 11:00 AM
00000005
Scheduled
3/20/2017 10:00 AM
3/20/2017 11:00 AM
Subtotal
$0.00
Discount
0.00%
Total Price
$0.00
The following parts and material were included above as part of this work order's line item detail. They are broken out in this section for quick reference.
Customer Signature
Signature
PREVIEW

バックグラウンドモードの地理位置情報の設定

バックグラウンドモードのときに Field Service Lightning モバイルアプリケーションの地理位置情報の精度や更新頻度をカスタマイズします。追跡精度の向上のために更新頻度を増やしたり、地理位置情報ポーリングの頻度を減らしてバッテリーを節約したりできます。

モバイルアプリケーションに次の地理位置情報の設定が追加されました。

項目名	説明
地理位置情報の更新頻度 (分)	アプリケーションがフォアグラウンドモードのときのユーザの地理位置情報の最小更新時間 (分)。
地理位置情報の更新頻度 (分) (バックグラウンドモード)	アプリケーションがバックグラウンドモードのときのユーザの地理位置情報の最小更新時間 (分)。
地理位置情報の精度	地理位置情報データの精度。使用可能な値は、[詳細]、[中]、[粗い] です。
地理位置情報の精度 (バックグラウンドモード)	地理位置情報データの精度。使用可能な値は、[中]、[粗い]、[非常に粗い] です。

バックグラウンドモード設定があることで、臨機応変にアプリケーションを制御できます。たとえば、アプリケーションがフォアグラウンドモードのときは地理位置情報の精度を［詳細］に設定します。そしてアプリケーションがバックグラウンドモードのときは、バッテリーを節約するために、地理位置情報の精度を［非常に粗い］に設定します。

フローのローカライズによる他言語の従業員向けの使いやすさの向上

Field Service Lightning iOS アプリケーションを他言語の従業員向けに簡単にカスタマイズできるようになりました。フローのローカライズによって、モバイル環境の従業員は希望する言語でフロー画面を表示できます。また、フローの制限が少なくなったことで、モバイル環境の従業員はいっそう強力な機能を利用できるようになりました。

関連トピック:

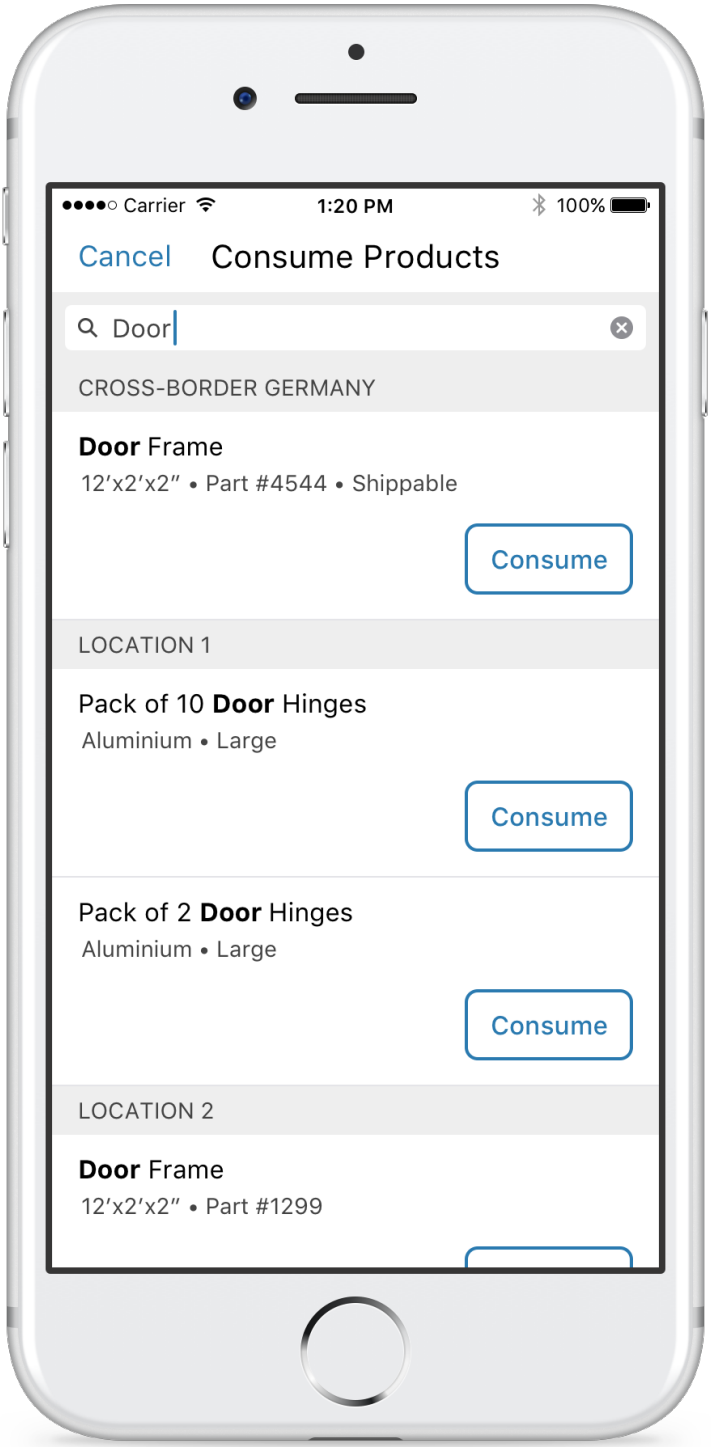
Salesforce ヘルプ:モバイル環境の従業員がカスタムメイドのワークフローを使用できるようにする (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

スマートな製品リクエストによる時間の節約

必要なところに部品や製品を届けます。以前は、Field Service Lightning iOS アプリケーションからユーザが製品リクエストレコードを作成しても、その製品レコードが作業指示に自動的に関連付けられることはありませんでした。今回のリリースでは、ユーザが製品リクエストを作成すると、そのレコードはアプリケーションで開いている作業指示に関連付けられるようになりました。

強化された製品検索を使用して必要な部品を入手

作業を完了するために必要な部品をすべて見つけようとすると、手間を要することがあります。製品検索が改善されたことで、モバイル環境の従業員は、特定の場所を検索して、別の技術者または場所に必要な製品があるかどうかを調べることができます。また、作業を完了するときは、製品を複数の場所から消費できるようになり、かつてないほど簡単にリソースをプールできるようになりました。


Carrier
1:20 PM
100%
Cancel
Consume Products
Door
CROSS-BORDER GERMANY
Door Frame
12′x2′x2″ • Part #4544 • Shippable
Consume
LOCATION 1
Pack of 10 Door Hinges
Aluminium • Large
Consume
Pack of 2 Door Hinges
Aluminium • Large
Consume
LOCATION 2
Door Frame
12′x2′x2″ • Part #1299

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Field Service Lightning モバイルアプリケーションの商品の検索 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Field Service 管理パッケージ: スマートなテリトリーの作成、複数日の作業、指定作業

地図上に直接テリトリーを描画したり、複数日にわたる作業をスケジュールしたり、複雑なプロジェクトの予定の連動関係を作成したり、緊急と指定された作業に時間枠を予約したりします。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience

Field Service Lightning 標準機能と管理パッケージを使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition。作業指示は **Professional** Edition でも使用できます。

このセクションの内容:

マップ多角形を使用した地図上でのテリトリーの描画

地図上に直接テリトリーを描画し、それをサービステリトリーにリンクします。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

複数日にわたる作業のスケジュール

ローマは 1 日にして成らず、というように、作業指示の中には 1 日では完了できないものがあります。複数日にわたる予定をスケジュールできるようになりました。複数日作業では、ディスパッチャコンソールで、クイックアクションのスケジュール設定や最適化など、即日作業と同じメリットを得られます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

複合作業での連動関係のスケジュール

プロジェクトの連動関係を把握するために、予定間で連動関係の時間をスケジュールします。新しい複合作業用の Visualforce ページでは、これらの連動関係を定義できます。複合作業用のページから任意規模の予定のチェーンを直接スケジュールするか、スケジュール設定アクション、ディスパッチャコンソール、および最適化を使用して、2 つの予定のチェーンをスケジュールします。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

指定作業のための時間枠の予約

条件を満たすサービス予定用の時間枠を作成します。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

すべてのテリトリーでのサービスリソースの表示

セカンダリサービステリトリーメンバーシップを表示するためにリソースガントチャートを離れる必要はありません。サービスリソースは、それが関連付けられているすべてのテリトリーに表示されます。以前までサービスリソースは、プライマリサービステリトリーのガントチャートにのみ表示されていました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

リソースガントチャートに表示される不在の制御

承認された不在のみが技術者の対応可能状況をブロックでき、リソースガントチャートに表示されます。未承認のリソース不在は、スケジュールされたものと見なされません。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

緊急度の低い予定を無視して優先度の高い予定をスケジュール

スケジュール時に他の優先度の低い予定を無視できる予定を指定します。サービス予定が優先度の低い予定を無視できるようになると、緊急の予定をスケジュールして、優先度の低い予定を再スケジュールすることが簡単になります。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

フィールド技術者が自動的に予定をフォロー

技術者は、作業ログの各レコードで[フォローする]をクリックする必要がなくなりました。サービスリソースは、予定が割り当てられると、自分のサービス予定とその親レコードを自動的にフォローします。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

コンソールマップ上での予定ルートと実移動ルートの同時表示

スケジュール設定エンジンは、道路レベルのルーティングを使用して、技術者の 1 日を適切にスケジュールします。サービスの当日、Field Service Lightning モバイルアプリケーションによって、実際に通ったルートが追跡されます。今回のリリースでは、リソースマップビューで両方のルートが表示されるようになりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Field Service Lightning ユーザに必要なカスタム権限の設定

カスタムユーザ権限を設定してアクションやビューへのアクセスを制御できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

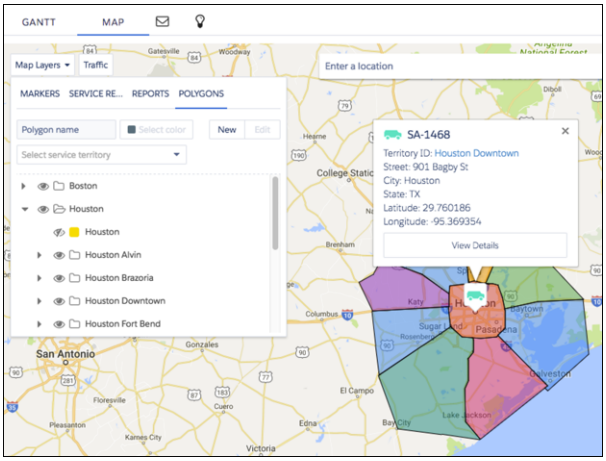
テリトリーレベルでのドリップフィード派遣設定の制御

以前までドリップフィード派遣は、組織全体で設定されていました。今回のリリースでは、テリトリーレベルでドリップフィードを設定できるようになりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

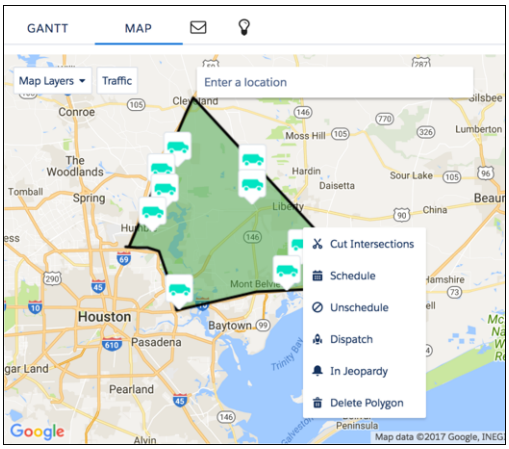
マップ多角形を使用した地図上でのテリトリーの描画

地図上に直接テリトリーを描画し、それをサービステリトリーにリンクします。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Field Service マップ上に多角形を描画し、関連するサービステリトリーを選択することでサービステリトリーを関連付けます。新しい予定が作成されると、予定の住所に基づいてサービス予定のサービステリトリー項目が自動的に入力されます。



また、マップ多角形を使用して、Field Service マップビューから直接、一括アクションによって複数のサービス予定を同時に操作することもできます。

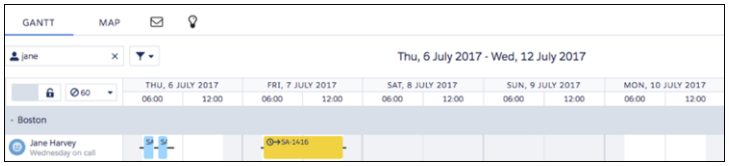


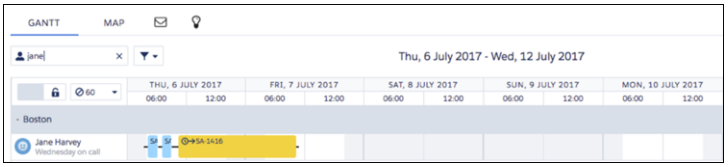
複数日にわたる作業のスケジュール

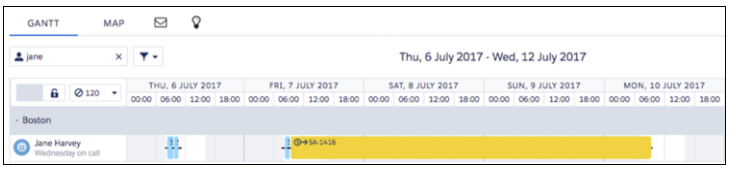
ローマは 1 日にして成らず、というように、作業指示の中には 1 日では完了できないものがあります。複数日にわたる予定をスケジュールできるようになりました。複数日作業では、ディスパッチャコンソールで、クイックアクションのスケジュール設定や最適化など、即日作業と同じメリットを得られます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Field Service Lightning スケジュール設定エンジンが、スケジュール済み開始時間、所要時間、サービスリソースの業務時間と不在時間に基づき、予定のスケジュール済み終了時間を計算します。

例:





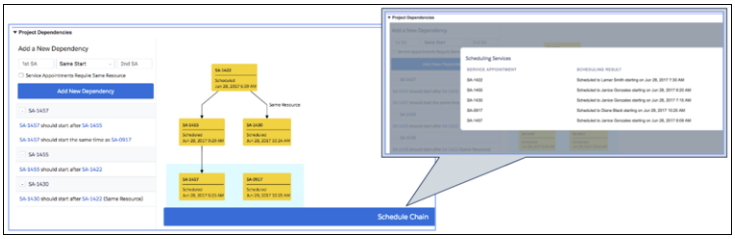


1 か月先までの複数日作業が含まれる 5 週間表示。

複合作業での連動関係のスケジュール

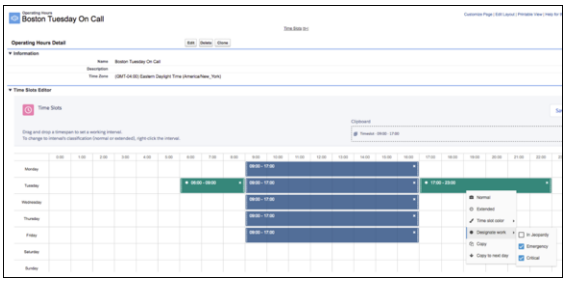
プロジェクトの連動関係を把握するために、予定間で連動関係の時間をスケジュールします。新しい複合作業用の Visualforce ページでは、これらの連動関係を定義できます。複合作業用のページから任意規模の予定のチェーンを直接スケジュールするか、スケジュール設定アクション、ディスパッチャコンソール、および最適化を使用して、2つの予定のチェーンをスケジュールします。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

複雑な作業指示の準備がすべて整っていることを確認するには、予定のチェーンを定義します。予定などの時間の連動関係は、同時に開始するか、別の予定の完了直後に開始することができます。

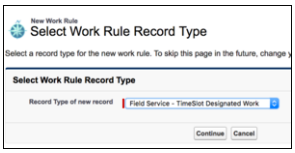


指定作業のための時間枠の予約

条件を満たすサービス予定用の時間枠を作成します。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

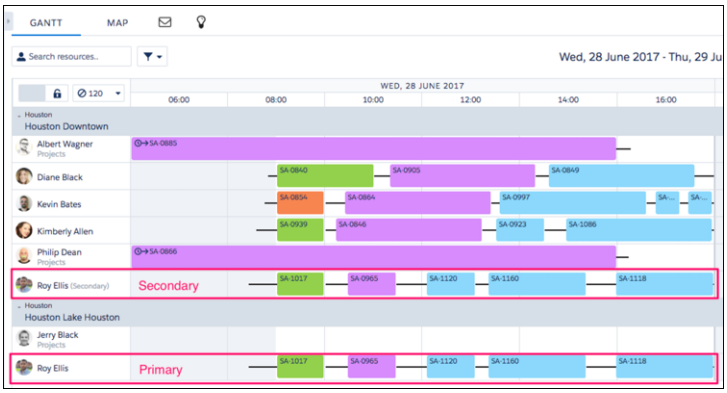


新しい [指定作業スケジュール設定] 作業ルールを使用して、指定作業の時間枠を設定できます。



すべてのテリトリーでのサービスリソースの表示

セカンダリサービステリトリーメンバーシップを表示するためにリソースガントチャートを離れる必要はありません。サービスリソースは、それが関連付けられているすべてのテリトリーに表示されます。以前までサービスリソースは、プライマリサービステリトリーのガントチャートにのみ表示されていました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

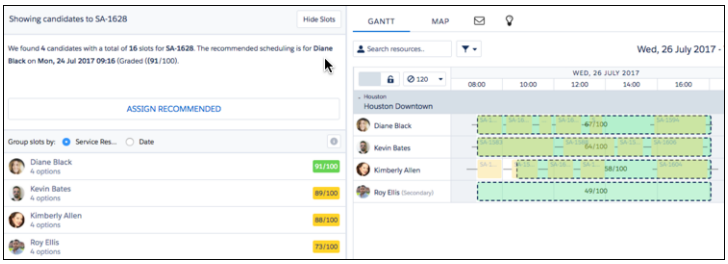


リソースガントチャートに表示される不在の制御

承認された不在のみが技術者の対応可能状況をブロックでき、リソースガントチャートに表示されます。未承認のリソース不在は、スケジュールされたものと見なされません。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

緊急度の低い予定を無視して優先度の高い予定をスケジュール

スケジュール時に他の優先度の低い予定を無視できる予定を指定します。サービス予定が優先度の低い予定を無視できるようになると、緊急の予定をスケジュールして、優先度の低い予定を再スケジュールすることが簡単になります。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。



フィールド技術者が自動的に予定をフォロー

技術者は、作業ログの各レコードで[フォローする]をクリックする必要がなくなりました。サービスリソースは、予定が割り当てられると、自分のサービス予定とその親レコードを自動的にフォローします。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

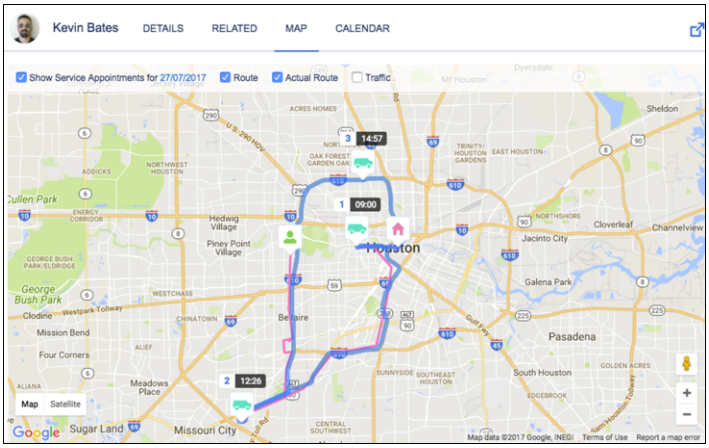
Field Service Mobile アプリケーションを使用しているフィールド技術者は、サービス予定の状況のカテゴリが [派遣済み] または [進行中] に変更されると、その予定に関連付けられているレコードをフォローします。

また、予定が [派遣済み] または [進行中] カテゴリではなくなると、割り当てられた技術者はすべての関連レコードからフォロワーとして自動的に削除されます。

コンソールマップ上での予定ルートと実移動ルートの同時表示

スケジュール設定エンジンは、道路レベルのルーティングを使用して、技術者の1日を適切にスケジュールします。サービスの当日、Field Service Lightning モバイルアプリケーションによって、実際に通ったルートが追跡されます。今回のリリースでは、リソースマップビューで両方のルートが表示されるようになりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

予定ルートは青で、実ルートはピンクで表示されています。昼食を取るために、少し寄り道をしたことがわかります。



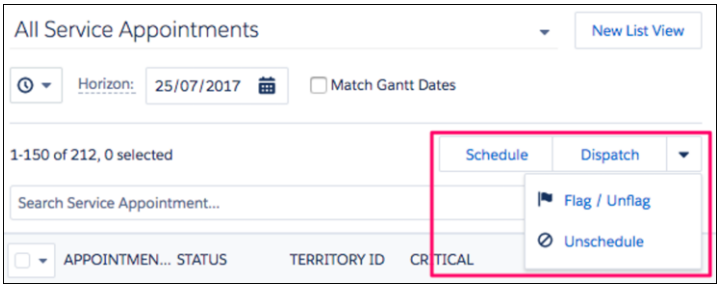
Field Service Lightning ユーザに必要なカスタム権限の設定

カスタムユーザ権限を設定してアクションやビューへのアクセスを制御できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

カスタム権限は次の機能やアクションに適用できます。

- 派遣、最適化、スケジュール設定などの一括アクション
- さまざまな状況 (キャンセル済み、フラグ設定済み、スケジュール済み、未スケジュール、対応が必要) の予定、コントラクター、ガントチャート、ToDo などのコンソールリストビュー
- 代行や固定間隔などのリソーススケジュール設定アクション
- スケジュール設定、入れ替え、近辺をまとめるなどの予定スケジュール設定アクション
- 複数日作業や月表示などのガントチャート
- 作成、編集、表示などのマップ多角形アクション
- サービステリトリー稼働率
- ガントチャートからのサービスリソースの不在の作成
- ガントチャート上でのセカンダリテリトリーメンバーの表示

例: 最適化リクエストの数を制御するため、最適化を実行できる派遣担当者の数を減らすことができます。`FSL.Bulk Optimize` カスタム権限を削除すると、このアクションがユーザに表示されなくなります。



テリトリーレベルでのドリップフィード派遣設定の制御

以前までドリップフィード派遣は、組織全体で設定されていました。今回のリリースでは、テリトリーレベルでドリップフィードを設定できるようになりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

ケース:ケースのコピー、マイルストンの使用、拡張メールツールなど

エージェントは、Lightning Experience のケースに対して多くの操作を実行できます。ケースをコピーしたり、[ケースコメント]関連リストから直接ケースコメントを作成したり、ケースマイルストンを追跡したりできます。新しいツールバー項目でケースメールを簡単に送信できます。エージェントは、差し込み項目の使用、メールのプレビュー、および Salesforce Classic テンプレートの挿入を行うことができます。変更のほとんどは Lightning Experience にのみ適用されますが、いくつかは Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web に適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

差し込み項目や Salesforce Classic テンプレートによる顧客へのメール送信時間の節約
エージェントは、ケースのメールパブリッシャーから差し込み項目を挿入し、メールをプレビューし、メールをクリアできます。さらに、Salesforce Classic メールテンプレートを挿入し、ファイルを添付し、気が変わった場合は添付ファイルを削除できます。以前は、エージェントが実行できるのはファイルの添付と Lightning Experience で作成されたテンプレートの挿入のみでした。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

受信者項目を使用したメールとケース取引先責任者の関連付け
ケースメールをカスタマイズするために使用できる 3 つの項目 (宛先受信者、CC 受信者、BCC 受信者) が新しく作成されました。これらの項目を使用すると、メールが常に Salesforce の適切なレコードと関連付けられるようになります。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Lightning Experience でのケースマイルストンの使用
エージェントは、ケースレコードページから有効なマイルストン、完了したマイルストン、および違反したマイルストンを確認できるようになりました。また、ケースマイルストンをドリルダウンして詳細を確認することもできます。この変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

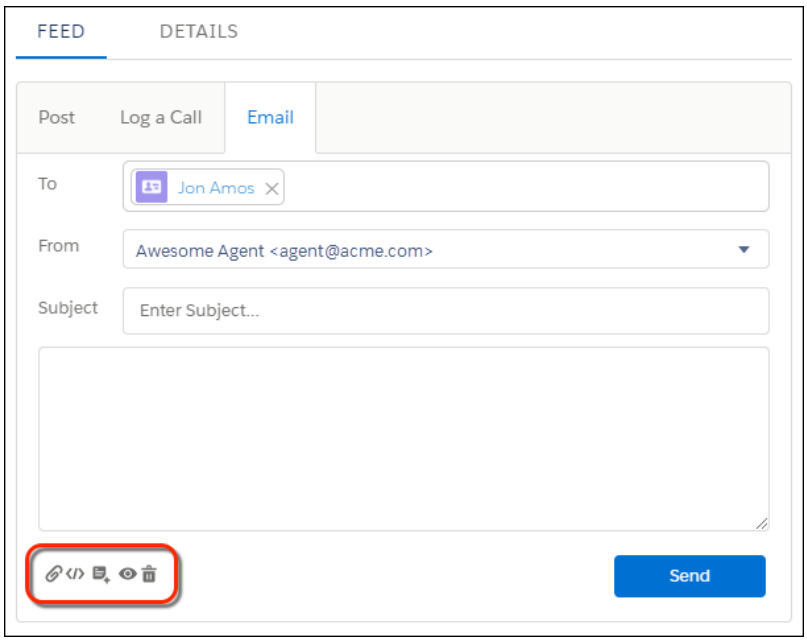
ケースのシームレスなコピー
エージェントは、顧客に関する複数の問題を簡単に記録したり、既存のケースの情報を使用したりできます。[コピー]ボタンをクリックして情報を入力し、ケースを割り当てて保存するだけです。これまで、ケースのコピーは Salesforce Classic でしか使用できませんでした。この変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

関連リストからのケースコメントの追加
エージェントは、ボタンをクリックして [ケースコメント] 関連リストから直接ケースコメントを追加できるようになりました。この変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

差し込み項目や Salesforce Classic テンプレートによる顧客へのメール送信時間の節約

エージェントは、ケースのメールパブリッシャーから差し込み項目を挿入し、メールをプレビューし、メールをクリアできます。さらに、Salesforce Classic メールテンプレートを挿入し、ファイルを添付し、気が変わった場合は添付ファイルを削除できます。以前は、エージェントが実行できるのはファイルの添付と Lightning Experience で作成されたテンプレートの挿入のみでした。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

ケースのメールパブリッシャーのツールバーが更新されました。



メールパブリッシャーで次のアクションを使用できるようになりました。

アクション	説明
ファイル添付	更新された機能 添付ファイルがメールテンプレートに含まれている場合でも、送信前に添付ファイルを削除できます。
差し込み項目の挿入	新規アクション メモ: 差し込み項目は、送信とプレビューでのみ解決されます。メールパブリッシャーに挿入されたときは、プレーンテキストとして表示されます。 モーダルに表示されていない差し込み項目を挿入できます。メールに有効な差し込み項目をプレーンテキストとして入力し、送信する前に [プレビュー] アクションを使用して確認します。

アクション	説明
テンプレートを挿入、作成、または更新	更新された機能 • Salesforce Classic テンプレートを挿入 (Salesforce Classic の Visualforce メールテンプレートはサポートされていません) • テンプレートはカーソルの位置に挿入され、メールの本文全体と置き換えられることはなくなりました メモ: テンプレートを挿入すると、件名がテンプレートの件名で置き換えられます。
メールをプレビュー	新規アクション ヒント: プレビューは、差し込み項目があるメールを送信する前に確認するために最適です。
メールのクリアと復元	新規アクション メモ: このアクションは、メールをクリアして元の値に戻します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのメール差し込み項目、テンプレート、および添付ファイルへのアクセスと共有 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: ケースの差し込み項目 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

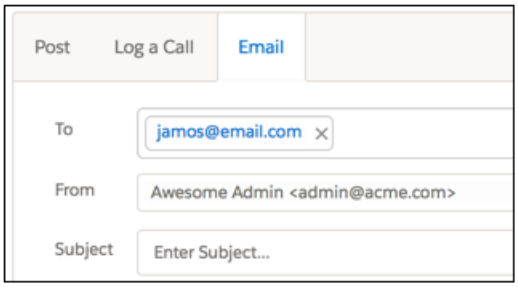
受信者項目を使用したメールとケース取引先責任者の関連付け

ケースメールをカスタマイズするために使用できる 3 つの項目 (宛先受信者、CC 受信者、BCC 受信者) が新しく作成されました。これらの項目を使用すると、メールが常に Salesforce の適切なレコードと関連付けられるようになります。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

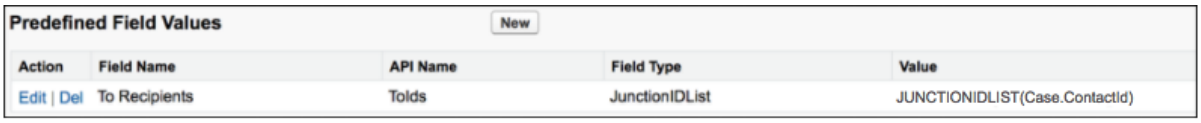
重要: 新しい組織では、[メール-to-ケース] を有効にしていると、自動的に [宛先受信者] の定義済み項目値が設定されます。既存の組織では、[宛先受信者] の定義済み項目値を作成する必要があります。

既存の組織の場合、デフォルトでケースメールアクションによって [宛先] 項目の定義済み項目値 (ケース取引先責任者のメールアドレス) が入力されます。定義済みデータ型がテキスト (ケース取引先責任者にリンクされていないプレーンメールアドレス) であるため、メールは Salesforce ケース取引先責任者レコードに関連付けられません。

次に、デフォルトのメールパブリッシャーを示します。

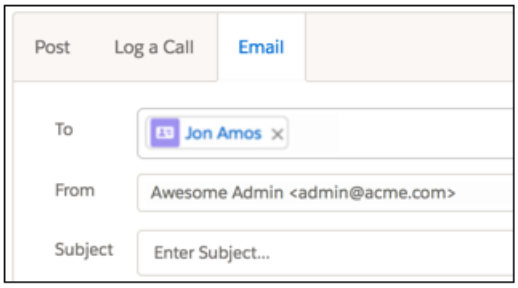


デフォルト環境を変更して、メールを Salesforce レコードに関連付けるには、[宛先受信者]、[CC 受信者]、および [BCC 受信者] 項目の値を事前に定義します。これらの項目では、JunctionIDList データ型が使用されます。新しい定義済み項目を設定するには、[設定] に移動し、オブジェクトマネージャを使用してケースオブジェクトの [メール] アクションを編集します。[宛先受信者] 項目の定義済み項目値を作成します。数式エディタで、JUNCTIONIDLIST 関数を使用して値を指定します。[CC 受信者] 項目と [BCC 受信者] 項目も同じように事前に定義します。



重要: 完了したら、[宛先アドレス] 項目のデフォルトの定義済み値を削除します。[宛先アドレス] 項目と [宛先受信者] 項目の両方の定義済み項目値がある場合、[宛先アドレス] 項目のみが適用されます。

定義済みの [宛先受信者] 項目を使用するメールパブリッシャーは次のように表示されます。[宛先] 項目には、取引先責任者のメールアドレスの代わりに取引先責任者名が事前に入力されます。



メールの送信後、エージェントはメールをクリックして、関連する取引先責任者情報を確認できます。

メモ: [宛先受信者]、[CC 受信者]、および [BCC 受信者] 項目を使用して、メールを複数の取引先責任者やユーザに送信できます。これらの項目は、ケースの [メール] アクションでのみ機能します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: クイックアクション項目の定義済み項目値の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: クイックアクションの定義済み項目値に関するメモ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Experience でのケースマイルストンの使用

エージェントは、ケースレコードページから有効なマイルストン、完了したマイルストン、および違反したマイルストンを確認できるようになりました。また、ケースマイルストンをドリルダウンして詳細を確認することもできます。この変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

詳細は、「Lightning Experience でのケースマイルストンの追跡」を参照してください。

ケースのシームレスなコピー

エージェントは、顧客に関する複数の問題を簡単に記録したり、既存のケースの情報を使用したりできます。[コピー] ボタンをクリックして情報を入力し、ケースを割り当てて保存するだけです。これまで、ケースのコピーは Salesforce Classic でしか使用できませんでした。この変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

新しい組織では、デフォルトでケースページレイアウトで [コピー] ボタンを使用できます。既存の組織では、[コピー] クイックアクションをページレイアウトに追加します。

関連リストからのケースコメントの追加

エージェントは、ボタンをクリックして [ケースコメント] 関連リストから直接ケースコメントを追加できるようになりました。この変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

すでにレコードページに [ケースコメント] 関連リストがある場合は、何も実行する必要はありません。エージェントの関連リストのドロップダウンには [新規] ボタンが表示されます。[ケースコメント] 関連リストをページに追加するには、Lightning アプリケーションビルダーで [関連リスト - 1 つ] コンポーネントをページに追加します。

関連リストを更新すると、エージェントは関連リストのドロップダウンメニューから [新規] ボタンをクリックできます。その後、エージェントはコメントの入力を求められます。[ケースコメント] ウィンドウの外観は、設定によって異なる可能性があります。

メモ: ケースコメントを作成するためのクイックアクションは引き続き作成できます。

Lightning Knowledge: 複数言語組織、記事アクションの更新、ビデオサポート

複数言語組織は、Lightning Knowledge に移行できるようになりました。コンソールでケースを表示しているときに、著者はナレッジコンポーネントから記事を作成できます。また、ビデオによってリッチテキスト編集環境がさらに向上しました。著者はイベント監視を使用して誰が記事を参照しているのかを確認することもできます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

メモ: **Lightning Knowledge を有効にすると、組織のデータモデルが記事タイプではなくレコードタイプを使用するように変更されます。複数の記事タイプを使用する組織は、Lightning Knowledge を有効にする前に、データを移行して記事タイプを統合する必要があります。**

重要:Lightning Knowledgeは一度有効化すると、無効化できません。本番組織で有効にする前に Sandbox またはトライアル組織でテストしてください。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic、Lightning Experience

Salesforce ナレッジを使用可能なエディション: **Performance** Edition、**Developer** Edition、および **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Salesforce ナレッジを使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

Lightning Experience による複数言語組織のナレッジ記事へのアクセス (ベータ)
ナレッジコンポーネントからの記事の作成
ナレッジ記事への動画とコードブロックの埋め込み
イベント監視を使用した記事ビュー数の追跡
記事割り当てを使用してフローに従う
Lightning でのデータカテゴリの選択
ナレッジ検索: 記事の結果の並び替えとケースへの外部ドキュメントの添付

Lightning Experience による複数言語組織のナレッジ記事へのアクセス (ベータ)

複数言語組織が、Lightning Knowledge でサポートされるようになりました。Lightning Knowledge で翻訳記事を検索および参照できます。翻訳記事は、引き続き Salesforce Classic で作成および管理します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

ナレッジコンポーネントからの記事の作成

ユーザは、ナレッジコンポーネントから記事を作成できます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

ナレッジ記事への動画とコードブロックの埋め込み

Lightning Knowledge の著者は、動画を埋め込んだり、コードブロックを挿入したりして、リッチ記事環境を作成できます。動画の埋め込みがサポートされるドメインのリストが Salesforce Classic と Lightning Experience の両方で拡張されました。

イベント監視を使用した記事ビュー数の追跡

イベント追跡を使用して、知識ベースのコンテンツについてデータ主導の決定を下します。EventLogFile 標準オブジェクトに、記事ビュー向けの KnowledgeArticleView イベント種別が追加されました。誰が記事を参照しているのかを確認して、組織内でユーザがどのようにナレッジを利用しているのかを把握できます。

記事割り当てを使用してフローに従う

割り当て項目のレポートを作成して、アクションが必要な記事を追跡します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Lightning でのデータカテゴリの選択

データカテゴリ選択機能コンポーネントには、Lightning Knowledge レコードホームから完全にアクセスできます。このコンポーネントでは、組織で有効にしたすべての数のデータカテゴリがサポートされます。

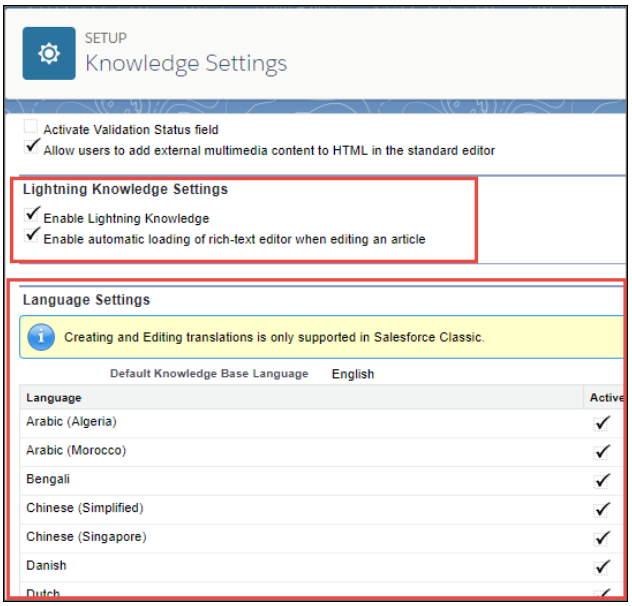
ナレッジ検索: 記事の結果の並び替えとケースへの外部ドキュメントの添付

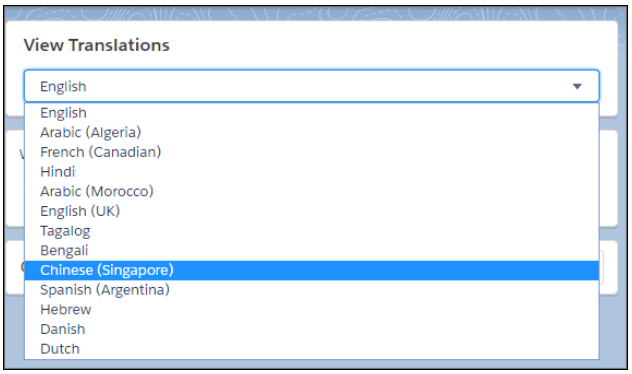
記事の検索やケースの解決を迅速に行うために、ナレッジ記事の検索が改善されました。

Lightning Experience による複数言語組織のナレッジ記事へのアクセス (ベータ)

複数言語組織が、Lightning Knowledge でサポートされるようになりました。Lightning Knowledge で翻訳記事を検索および参照できます。翻訳記事は、引き続き Salesforce Classic で作成および管理します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

複数言語組織は Lightning Knowledge を有効化でき、Lightning Knowledge 組織は複数言語サポートを有効化できます。翻訳記事は Lightning Knowledge で検索および参照が可能です。ただし、翻訳記事の作成と管理ができるのは、現在 Salesforce Classic のみです。さらに、ユーザはリストビューの列として言語を追加できます。記事の翻訳版が公開されており、記事レコードホームが表示されているとき、ユーザは言語選択リストを使用して簡単に別の言語に切り替えることができます。翻訳言語にドラフト版しかない場合は、公開されるまで、その言語は選択リストに表示されません。



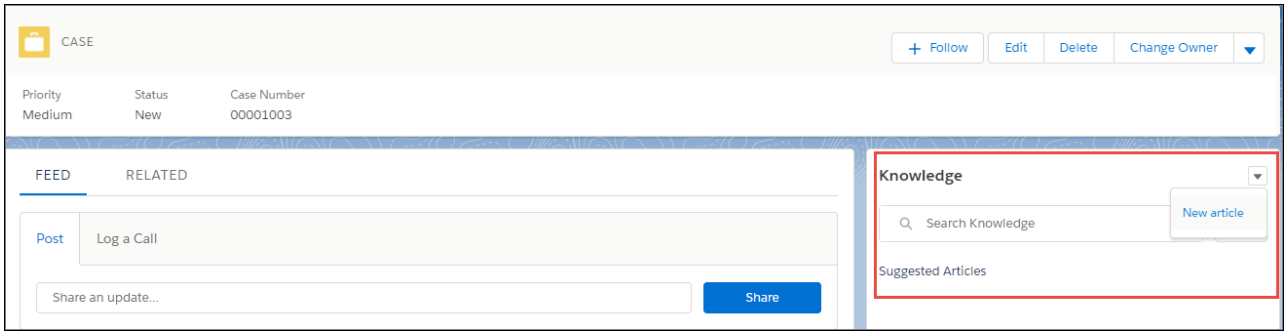


メモ: [翻訳申請] アクションは、Lightning Experience では使用できませんが、Lightning Knowledge が有効な場合は、引き続き Salesforce Classic で使用できます。

ナレッジコンポーネントからの記事の作成

ユーザは、ナレッジコンポーネントから記事を作成できます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

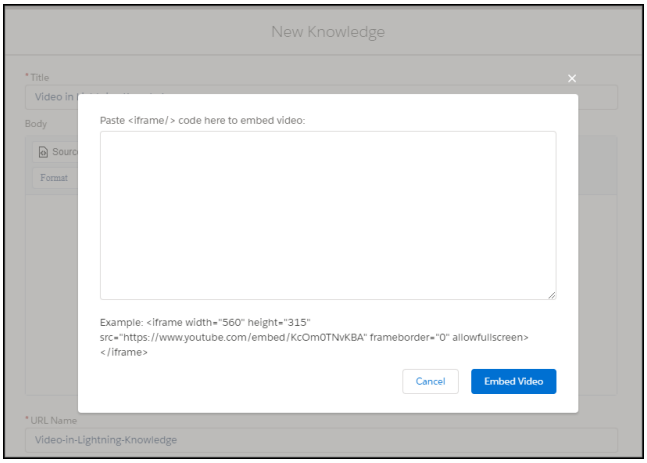
ナレッジユーザは、ケースを管理しているときに、ナレッジコンポーネントから簡単に記事を作成できます。ケースから直に記事を作成することで、エージェントはカスタマーサポートのワークフローから離れることなく、不要なクリックを最小限に抑え、他のエージェントにとって重要な情報をドキュメントに記録できます。

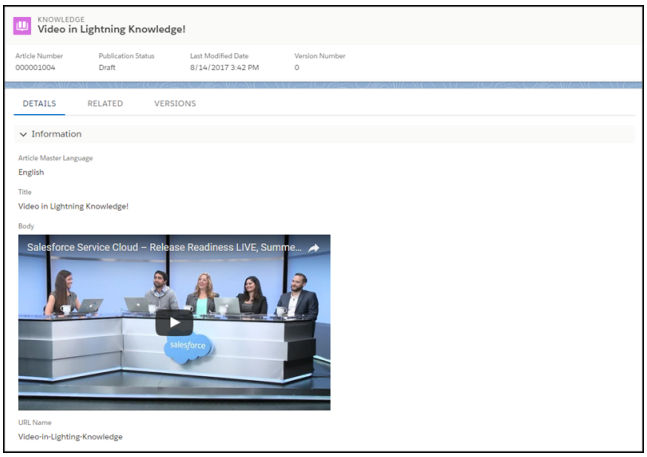


ナレッジ記事への動画とコードブロックの埋め込み

Lightning Knowledgeの著者は、動画を埋め込んだり、コードブロックを挿入したりして、リッチ記事環境を作成できます。動画の埋め込みがサポートされるドメインのリストがSalesforce Classic と Lightning Experienceの両方で拡張されました。

Lightning Knowledge ビデオプラグインを使用して、Lightning Knowledge 記事に動画を埋め込むことができます。さらに、Lightning Knowledgeにはコードブロックプラグインがあります。コードとして処理されるのではなく、コンテンツとして表示されるように、Lightning Knowledge記事にコードスニペットを埋め込むことができます。





サポートされるビデオソース:

- players.brightcove.net
- dailymotion.com
- force.com
- salesforce.com
- videos.sproutvideo.com
- ustream.tv
- app.ustudio.com
- play.vidyard.com
- vimeo.com
- fast.wistia.net

- player.youku.com
- youtube.com
- youtube-nocookie.com
- youtube.ca
- youtube.jp
- youtube.com.br
- youtube.co.uk
- youtube.nl
- youtube.pl
- youtube.es
- youtube.ie
- youtube.fr

関連トピック:

IdeaExchange: Wistia video embedding in KB articles (KB **記事に埋め込む** Wistia **動画**)

IdeaExchange: Please enable embedding Youku videos to articles to serve Chinese customers (**中国人ユーザのために** Youku **動画を記事に埋め込めるようにしてください**)

イベント監視を使用した記事ビュー数の追跡

イベント追跡を使用して、知識ベースのコンテンツについてデータ主導の決定を下します。EventLogFile**標準オブジェクトに、記事ビュー向けの** KnowledgeArticleView **イベント種別が追加されました。誰が記事を参照しているのかを確認して、組織内でユーザがどのようにナレッジを利用しているのかを把握できます。**

イベント監視を使用して、ユーザ別および日付別にビュー数を追跡し、誰が記事を利用しているのかについてインサイトを得ることができます。KnowledgeArticleView **イベント種別は** API **で使用できますが、**Event Monitoring Analytics **アプリケーションでは使用できません。**

メモ: **ユーザ別および日付別ビュー数には、コミュニティおよびカスタム** Apex **ビューは含まれません。**

関連トピック:

変更されたオブジェクト

IdeaExchange: Track Knowledge Article Searches and / or Views by User (**ユーザが実行したナレッジ記事の検索や表示の追跡**)

IdeaExchange: Knowledge Article Viewed Date / Voted Date Filter in Reports (**レポートのナレッジ記事の参照日/投票日の検索条件**)

記事割り当てを使用してフローに従う

割り当て項目のレポートを作成して、アクションが必要な記事を追跡します。この変更は Lightning Experience **にのみ適用されます。**

組織の知識ベースをもとに割り当てプロセスに注目して、記事のワークフローを管理します。期日が近い、期日が経過した、または外出中の誰かに割り当てられた記事割り当てを確認できる、割り当てリストビューを作成します。

メモ: 現在、Salesforce Classic でドラフト記事のみを割り当てることができます。既存のドラフト記事の割り当て項目は、割り当て項目レポートには表示されません。ただし、リリース後に再割り当てされると、使用できるようになります。

関連トピック:

IdeaExchange: Knowledge Article Assignment Reporting (ナレッジ記事の割り当てレポートの作成)

Lightning でのデータカテゴリの選択

データカテゴリ選択機能コンポーネントには、Lightning Knowledge レコードホームから完全にアクセスできます。このコンポーネントでは、組織で有効にしたすべての数のデータカテゴリがサポートされます。

ナレッジ検索: 記事の結果の並び替えとケースへの外部ドキュメントの添付

記事の検索やケースの解決を迅速に行うために、ナレッジ記事の検索が改善されました。

エディション

Salesforce ナレッジを使用可能なエディション: **Performance** Edition、**Developer** Edition、および **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Salesforce ナレッジを使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

ナレッジ記事の検索結果の並び替え
検索結果ページの並び替えメニューが改善され、ナレッジ記事も並び替えることができます。ユーザは、システム管理者がナレッジ記事の検索結果レイアウトに組み込んでいる項目で並べ替えることができます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

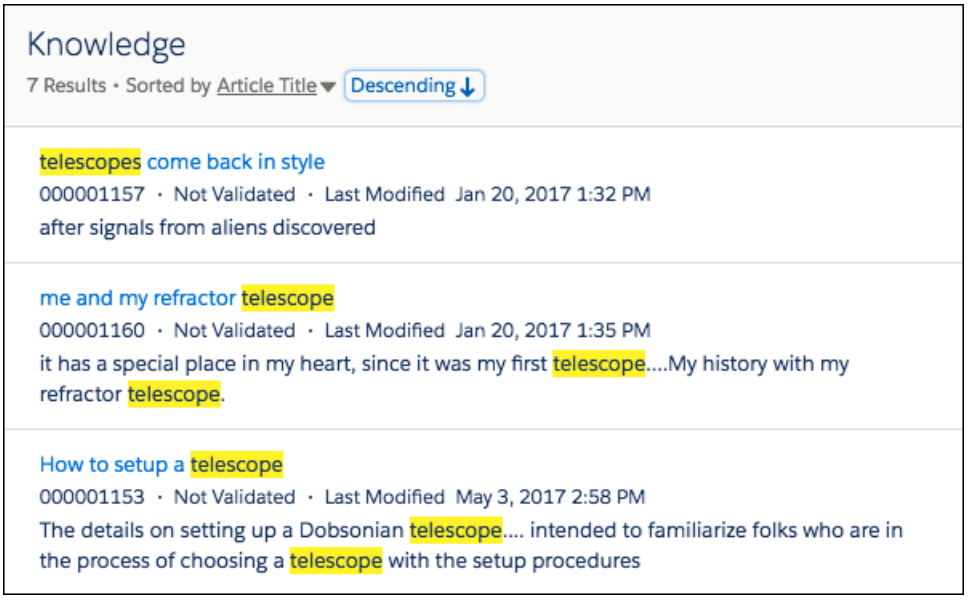
外部ドキュメントのケース添付とレポート
ユーザは外部ドキュメントについて単に言及するだけではなく、外部ドキュメントをケースに添付できます。たとえば、YouTube ビデオや SharePoint ファイルを添付してケースを完了できます。顧客は即座にヘルプを得られ、サービス担当は合理的なワークフローで時間を節約できます。また、レポート機能を利用して、管理者はすべてを追跡できます。この変更は Salesforce Classic にのみ適用されます。

ナレッジ記事の検索結果の並び替え

検索結果ページの並び替えメニューが改善され、ナレッジ記事も並び替えることができます。ユーザは、システム管理者がナレッジ記事の検索結果レイアウトに組み込んでいる項目で並べ替えることができます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

デフォルトでは、記事は関連性で並び替えられています。並び替え対象の項目を変更するには、結果の上にある並び替えリンクを使用します。[昇順] または [降順] リンクを使用して、並び替えの方向を変更します。

関連性で並び替えた場合は、最も関連性の高い結果が常に先頭に表示されます。



外部ドキュメントのケース添付とレポート

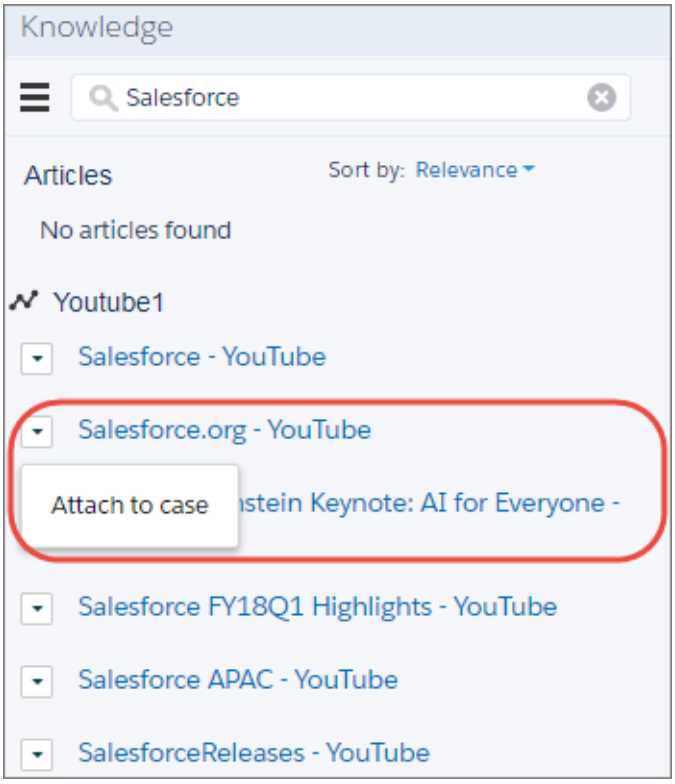
ユーザは外部ドキュメントについて単に言及するだけではなく、外部ドキュメントをケースに添付できます。たとえば、YouTube ビデオや SharePoint ファイルを添付してケースを完了できます。顧客は即座にヘルプを得られ、サービス担当は合理的なワークフローで時間を節約できます。また、レポート機能を利用して、管理者はすべてを追跡できます。この変更は Salesforce Classic にのみ適用されます。

最初に、Salesforce 組織に外部データベースを接続します。

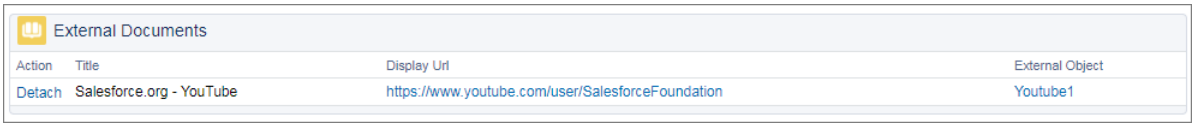
- Salesforce ヘルプに「統合検索の設定および管理」の説明が記載されています。
- Salesforce ヘルプに「外部データソースの定義」の説明が記載されています。

ナレッジサイドバー用の「Knowledge One ウィジェットの設定」を行ってください。

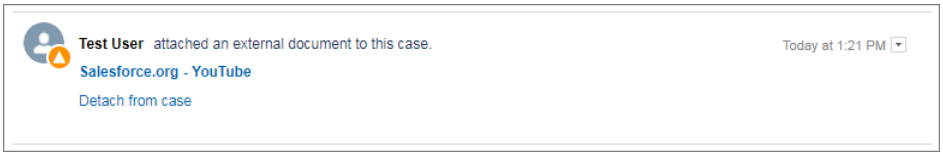
ユーザ画面では、外部データソースや検索結果はナレッジサイドバー検索結果に表示されます。ユーザは Chatter が有効な場合にのみ、外部ドキュメントをケースに添付できます。ワンクリックのみでケースに追加できます。ユーザ画面には、外部ドキュメント名の横に [ケースに添付] ドロップダウンメニューが追加されており、それ以外はこれまでと同じユーザインターフェースが表示されます。



ドキュメントが添付されている場合、ケースの [外部ドキュメント] 関連リストに表示されます。



添付に関するケースフィードの投稿も追加されます。



外部ドキュメントが添付された記事の数をレポートして、サービス担当が機能を使用しているのかどうかを判断できます。また、どの外部ソースが最も影響力を持つのかを監視できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ケースに添付された外部ドキュメントに関するレポート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Live Agent: Lightning Experience でのサポートエージェントの Web チャット

Lightning サービスコンソールで、拡張されたチャット環境がエージェントに提供されます。エージェントのチャットウィンドウがコンソール内でいっそう目につくようになり、エージェントの好みに応じてチャットウィンドウを移動できます。取引先責任者レコードの過去のチャットを使用して、顧客と会社の以前のチャットを確認できます。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic、Lightning Experience

Live Agent を使用可能な組織: **Performance** Edition および 2012 年 6 月 14 日よりも後に作成された **Developer** Edition の組織

Live Agent を使用可能なエディション: **Unlimited** Edition (Service Cloud 付属)

有料オプションで Live Agent を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

Lightning Experience で顧客とチャット
エージェントのチャットウィンドウの配置と高さの制御
Lightning Experience でチャットの全トランスクリプトへのアクセス
リピート顧客の過去のチャットを使用した会話の継続
チャットヘッダーのプレビューによるエージェントのマルチタスクをサポート
チャットエージェントのツールバーの拡張

Lightning Experience で顧客とチャット

私たちは Live Agent の最も優れた機能をとらえて、その機能に Lightning Experience のまったく新しいデザインを与えました。エージェントのチャットウィンドウが大きくなりました。これにより、エージェントは愛用のチャット機能を広いスペースで使用できます。

エージェントのチャットウィンドウの配置と高さの制御

エージェントのチャットウィンドウを画面の片側に配置しても、前面中央に配置しても、エージェントが望むような生産性を高めるスペースを提供できます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Lightning Experience でチャットの全トランスクリプトへのアクセス

エージェントは作業を見直す必要があります。たとえば、作業しているケースの情報を探したい場合や、顧客の質問にあざやかな回答を返せたときのことを思い出したいだけの場合もあります。エージェントは項目メニューから [Live Chat のトランスクリプト] を選択して、Lightning サービスコンソールでチャットのトランスクリプトのオブジェクトホームにアクセスできます。

リピート顧客の過去のチャットを使用した会話の継続

顧客に満足感を抱いてもらうためには、時として、会社全体を巻き込む必要があります。リピート顧客の繰り返される問題やフォローアップの問題を処理する場合、エージェントは過去のチャットを使用して必要なコンテキストを得ることができるようになりました。トランスクリプトに取引先責任者レコードが添付されている場合、エージェントは以前のチャットを全体的に確認できます。エージェントは以前のチャットに添付されたレコードを参照することはできませんが、すべてのトランスクリプトを読むことは可能です。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

チャットヘッダーのプレビューによるエージェントのマルチタスクをサポート

エージェントは簡単なコンテキストをプレビューから確認できるため、エージェントはチャット間をシームレスに移動できます。エージェントが開いているすべてのチャットを容易に見分けられるように、顧客が入力したメッセージの最初の 100 文字がチャットヘッダーに表示されます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

チャットエージェントのツールバーの拡張

お気に入りのいくつかの Live Agent チャット機能が Lightning Experience への移行に伴って成熟してきました。ファイル転送、チャット転送、フラグ有効化で使用するポップオーバーのプロセスがわずかに異なります。この相違点をサポートチームは確実に理解しておいてください。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Lightning Experience の Live Agent で使用できない機能

Lightning Experience の Live Agent には次の使用できない機能があります。

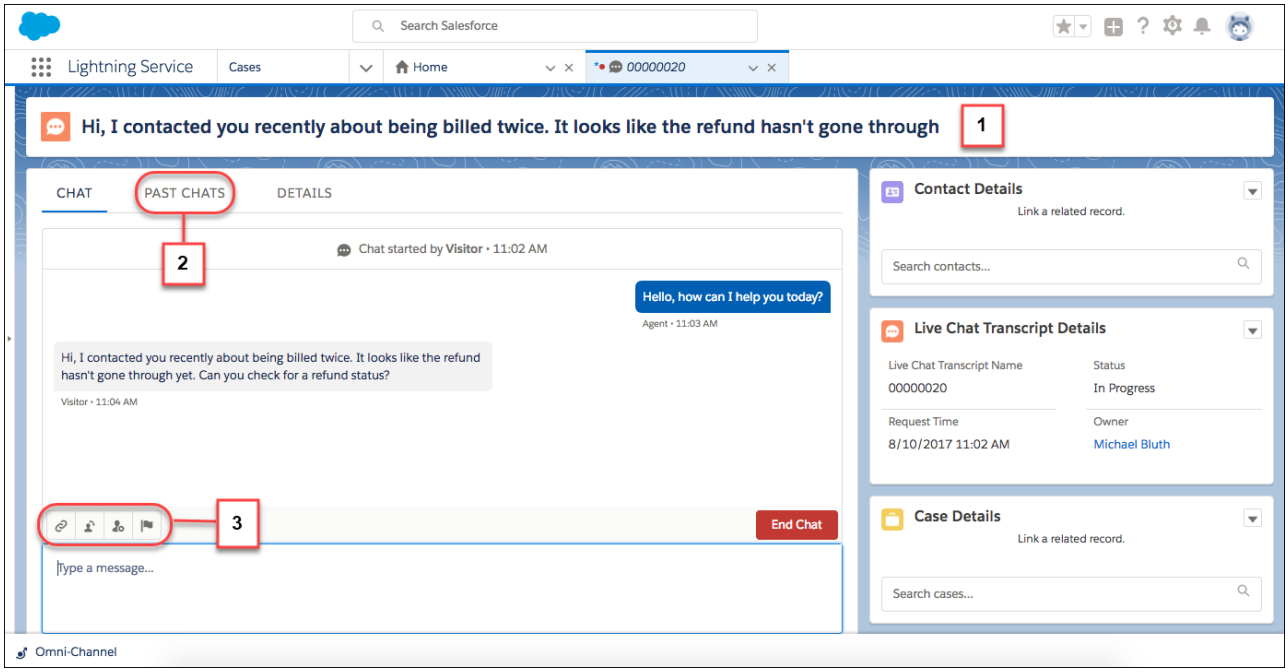
Lightning Experience で顧客とチャット

私たちは Live Agent の最も優れた機能をとらえて、その機能に Lightning Experience のまったく新しいデザインを与えました。エージェントのチャットウィンドウが大きくなりました。これにより、エージェントは愛用のチャット機能を広いスペースで使用できます。

チャットでオムニチャネルルーティングをすでに使用している場合も、リリースコードを再生成する必要はありません。Lightning アプリケーションマネージャにアクセスし、Lightning コンソールアプリケーションを編集するだけです。オムニチャネルユーティリティを追加した後、選択した項目に Live Chat のトランスクリプトを追加します。Live Agent ルーティングは Lightning Experience でサポートされていないため、オムニチャネルルーティングを使用するチャットボタンが必要です。

コンソールの洗練されたデザイン

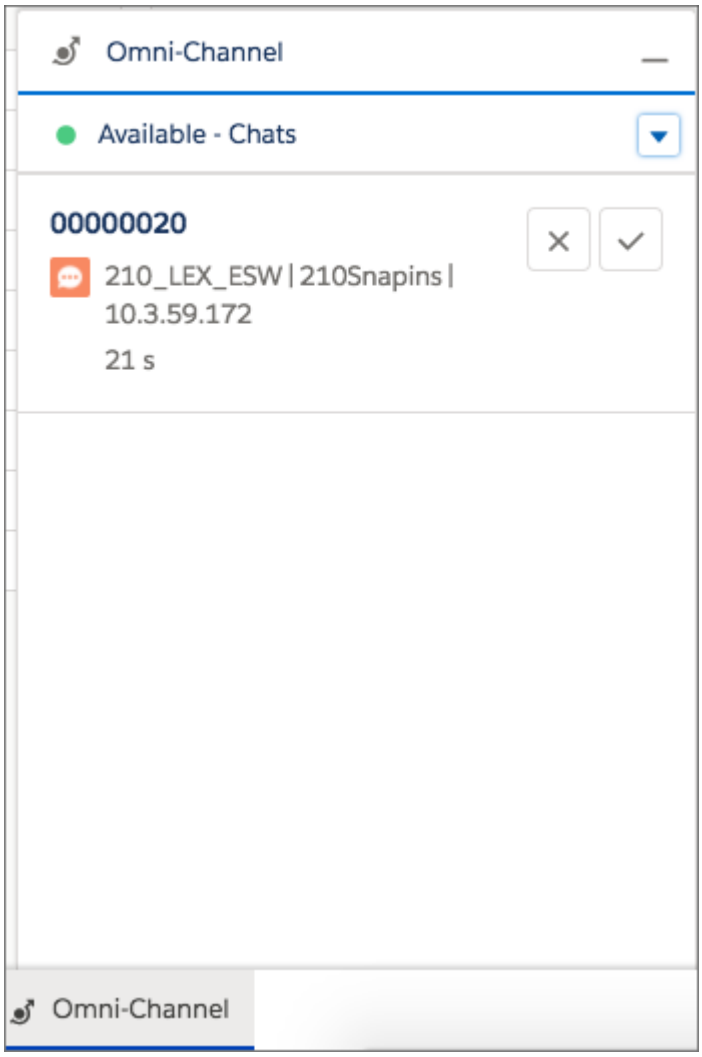
チャットがコンソールの上の隅に追いやられていたのは過去のことです。



デフォルトでは、エージェントのチャットウィンドウはエージェントビューの中央に大きく表示され、エージェントがチャットを区別できるようにチャットヘッダーを備えています (1)。過去のチャットも表示されます。これによりエージェントはリピート顧客との以前のチャットを確認できます (2)。しかも、チャット機能はテキストボックスの上、つまり操作に最適な場所にあります (3)。

Ping! 新しい通知およびシステムメッセージ

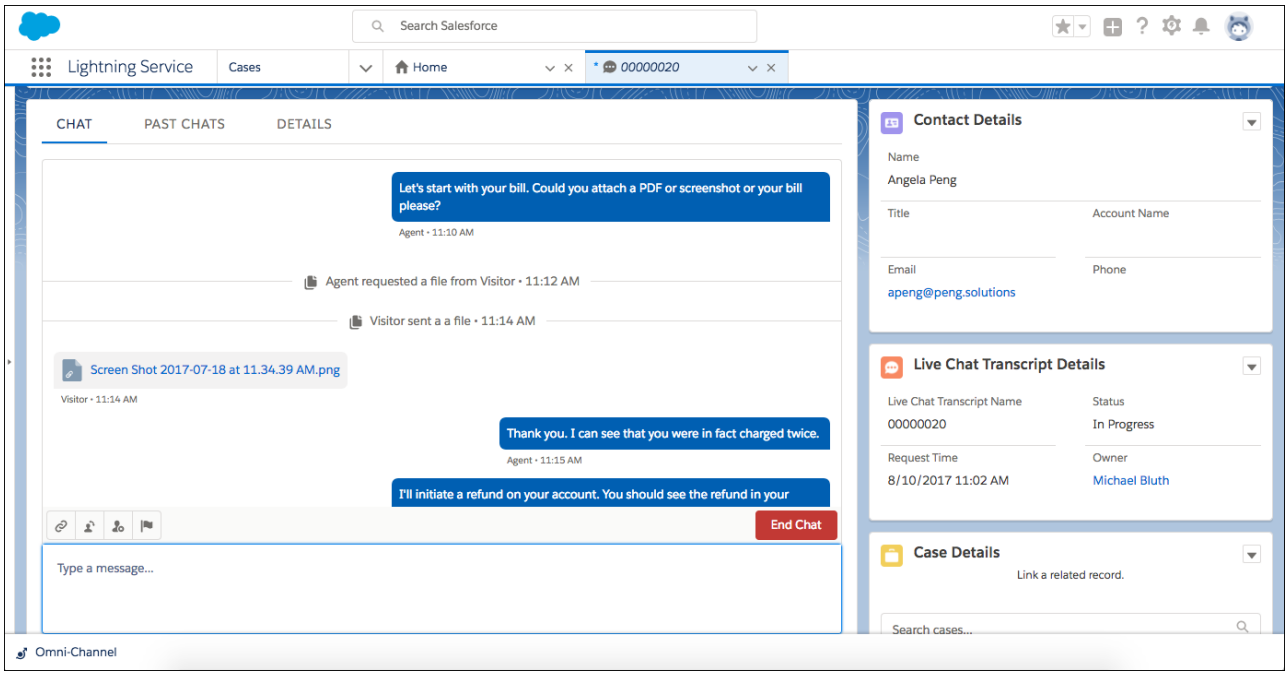
処理しているチャットが 1 件であろうと数件であろうと、通知は、エージェントが Lightning Experience で複数の作業をうまく処理するのに役立ちます。チャット要求が Lightning サービスコンソールのオムニチャネルユーティリティに表示されます。



チャット中に受け取った通知は、Salesforce Classic とは少し異なる方法でエージェントのコンソールに表示されます。

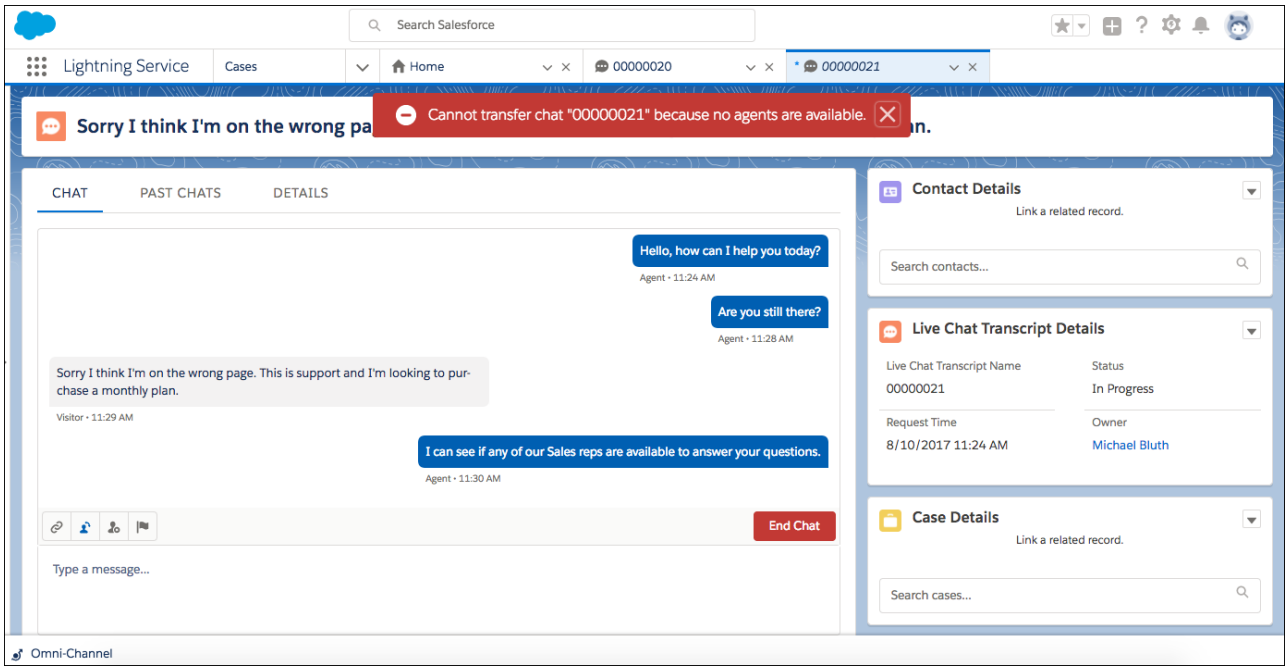
チャットエージェントがチャットタブを表示しているかどうかに関係なく、未読のチャットがあればチャットタブが強調表示されます。

システム通知がチャットのトランスクリプトに表示されます。



処理中のアクションがチャット機能によってはっきりと表示されます。エージェントはアクションをキャンセルすることなくポップオーバーを閉じることができます。

画面上部の確認メッセージによってエージェントは何が起きているのかを正確に知ることができます。



関連トピック:

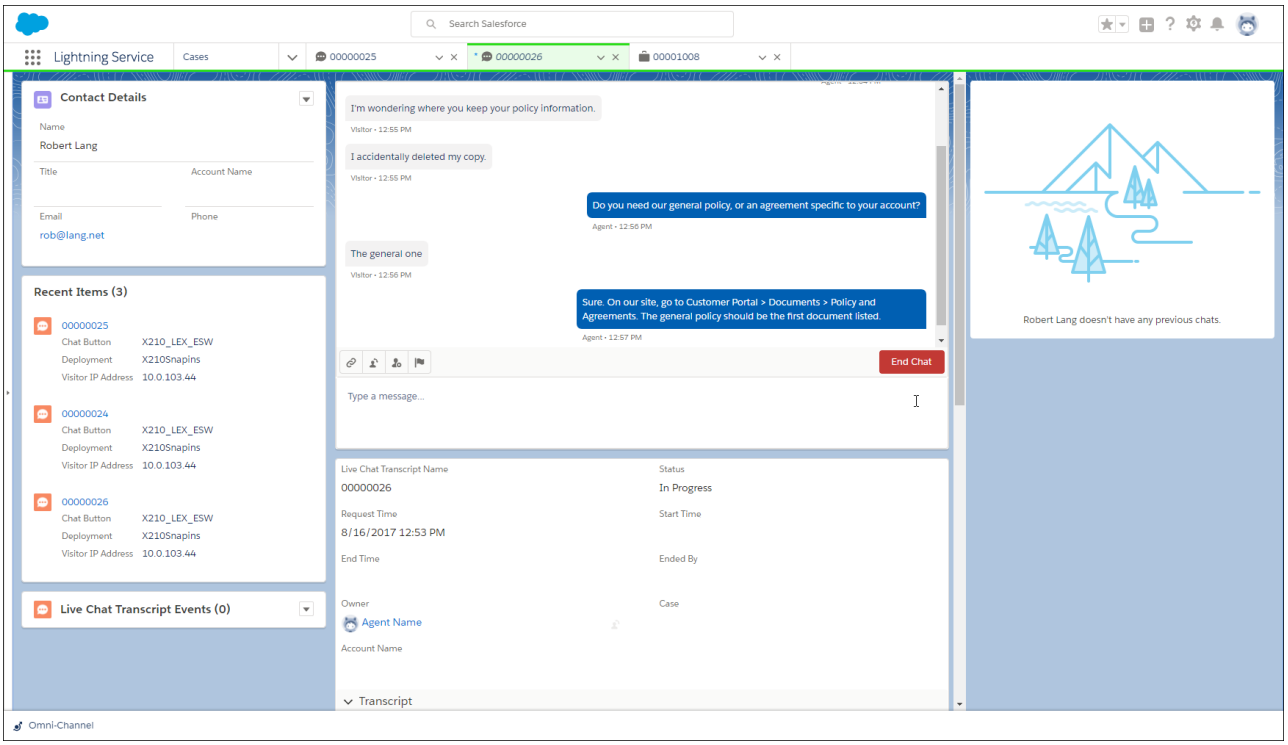
Lightning Experience でのエージェントへの作業の転送 (正式リリース)

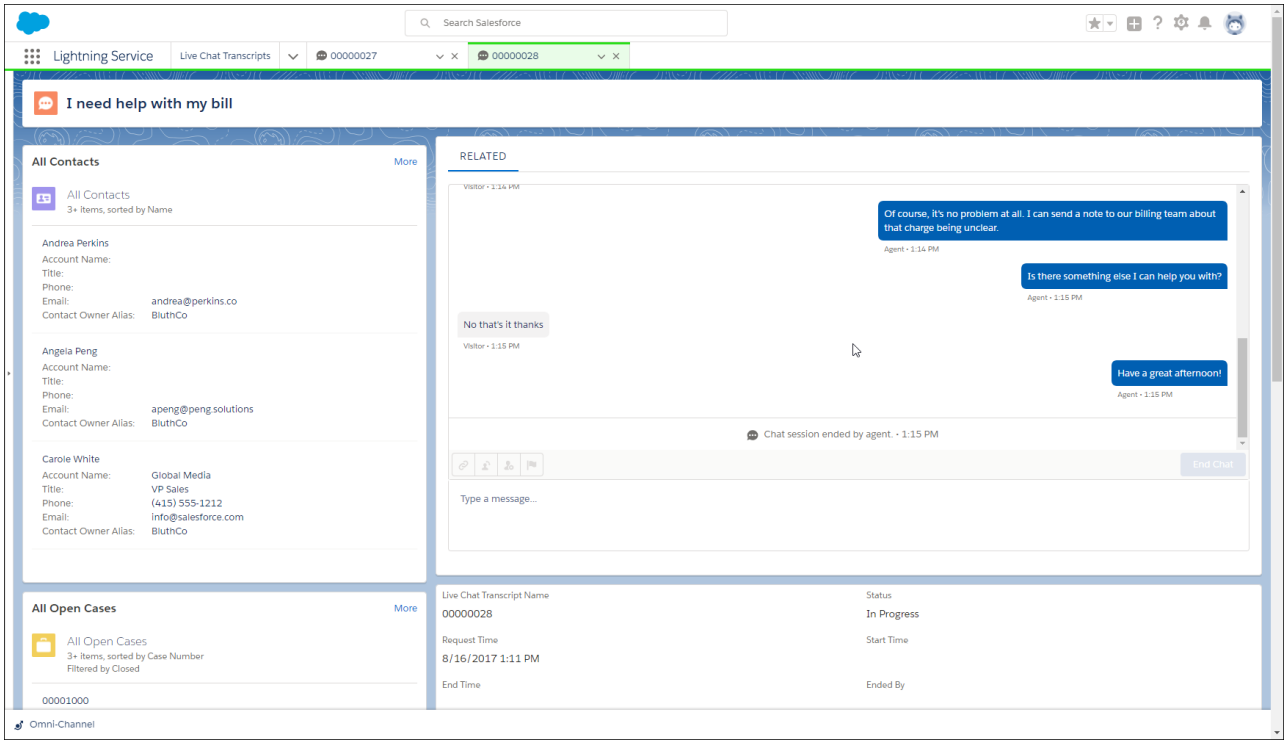
エージェントのチャットウィンドウの配置と高さの制御

エージェントのチャットウィンドウを画面の片側に配置しても、前面中央に配置しても、エージェントが望むような生産性を高めるスペースを提供できます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

チャットのトランスクリプトを開いて、ライブページを編集し、チャット本文コンポーネントをコンソールの任意の場所に任意のサイズで配置できます。また、Lightning アプリケーションビルダーで新しいカスタムレコードページを作成することもできます。チャット本文コンポーネントをページの任意の場所に配置できるため、どの場所でエージェントがチャットを行うのか、どのコンポーネントを近くに配置するのかを制御できます。デフォルトの高さは 500 ピクセルですが、エージェントの画面に収まる最適な高さに設定できます。

Live Chat トランスクリプトオブジェクトを使用したカスタムレコードページについては、次の例を確認してください。

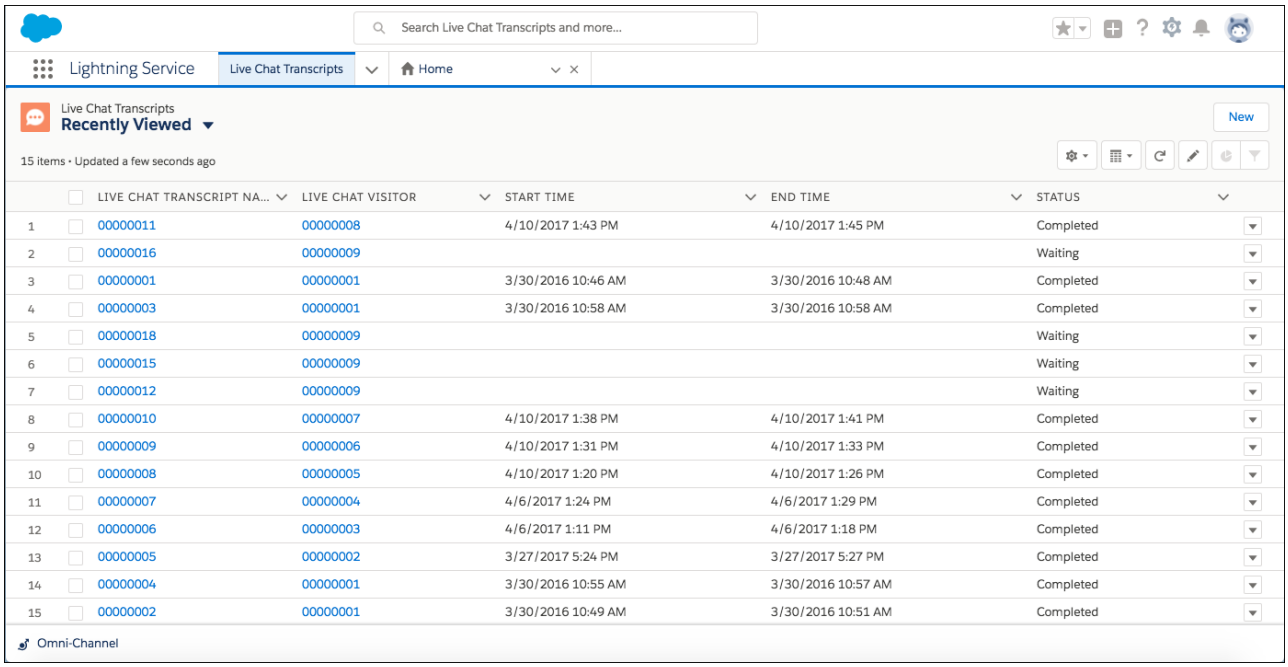




Lightning Experience でチャットの全トランスクリプトへのアクセス

エージェントは作業を見直す必要があります。たとえば、作業しているケースの情報を探したい場合や、顧客の質問にあざやかな回答を返せたときのことを思い出したいだけの場合もあります。エージェントは項目メニューから [Live Chat のトランスクリプト] を選択して、Lightning サービスコンソールでチャットのトランスクリプトのオブジェクトホームにアクセスできます。

[Live Chat のトランスクリプト] オブジェクトホームには、チャットのトランスクリプトのリストビューが表示されます。デフォルトのビューは [最近参照したデータ] であるため、エージェントは最新のチャットにすばやくアクセスできます。

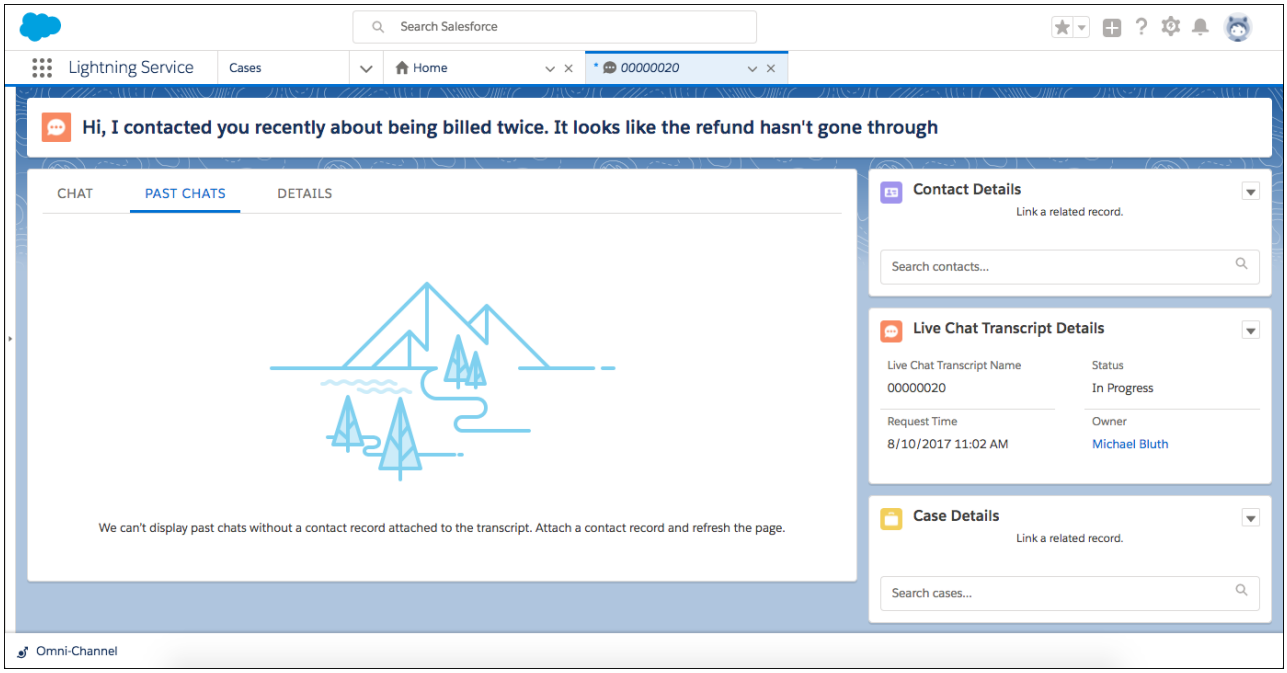


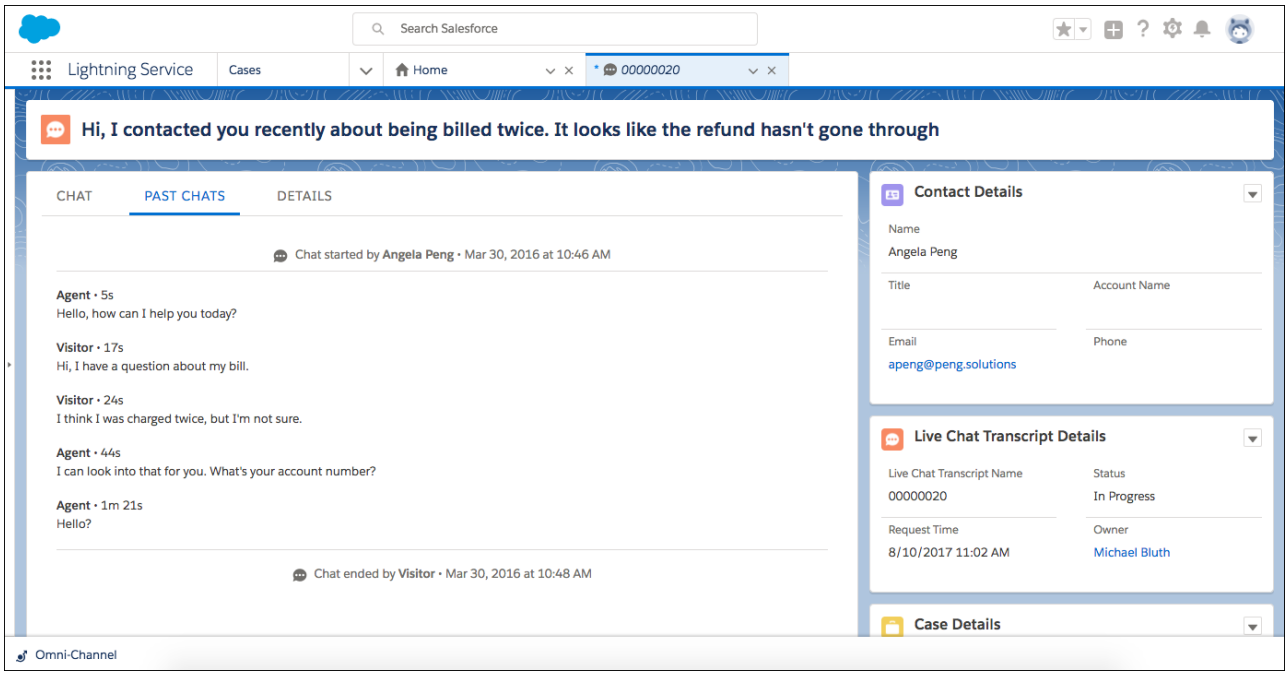
エージェント向けに、[処理中] や [待機中] など他のリストビューを作成できます。エージェントが表示できるのは、アクセス権のあるチャットトランスクリプトのみです。

リピート顧客の過去のチャットを使用した会話の継続

顧客に満足感を抱いてもらうためには、時として、会社全体を巻き込む必要があります。リピート顧客の繰り返される問題やフォローアップの問題を処理する場合、エージェントは過去のチャットを使用して必要なコンテキストを得ることができるようになりました。トランスクリプトに取引先責任者レコードが添付されている場合、エージェントは以前のチャットを全体的に確認できます。エージェントは以前のチャットに添付されたレコードを参照することはできませんが、すべてのトランスクリプトを読むことは可能です。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

トランスクリプトレコードのデフォルトホームには過去のチャットがすでに含まれており、チャット本文が表示されています。エージェントがこのコンポーネントの常時表示を望む場合は、コンポーネントをページ上に容易に直接配置できます。

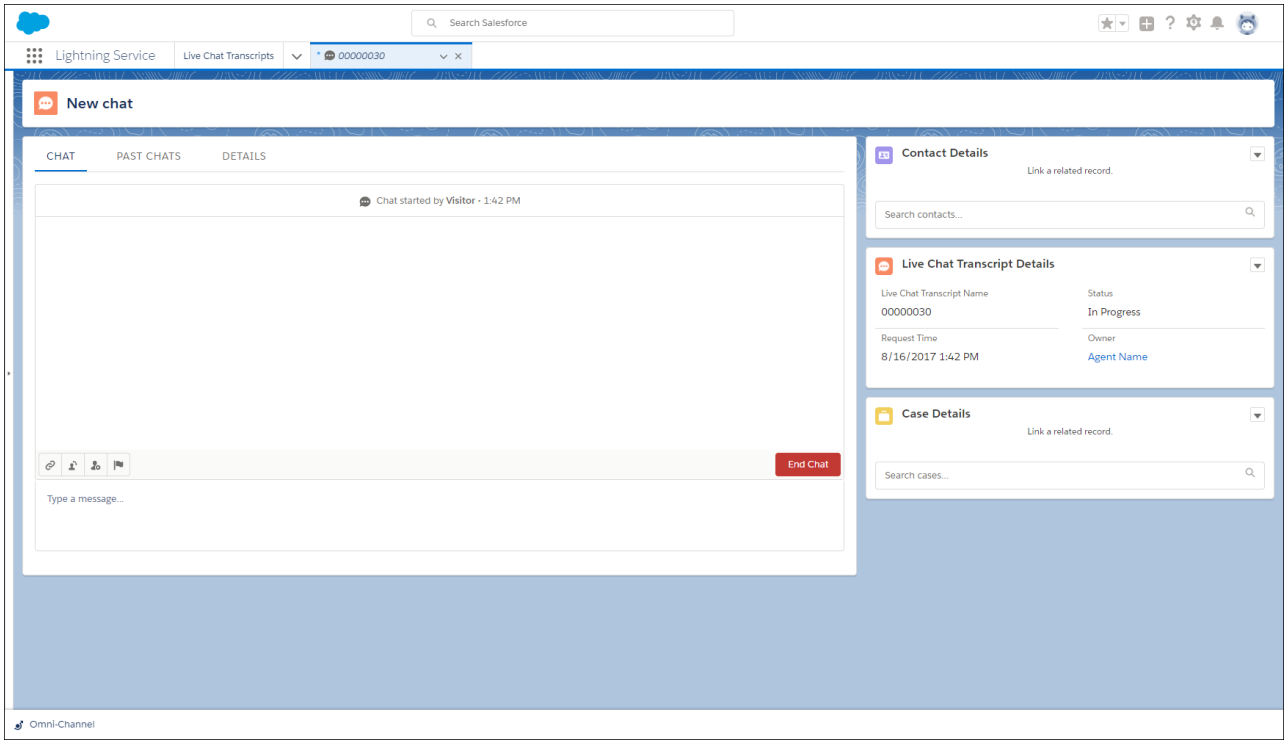

Search Salesforce
Lightning Service
Cases
Home
00000020
Hi, I contacted you recently about being billed twice. It looks like the refund hasn't gone through
CHAT
PAST CHATS
DETAILS
We can't display past chats without a contact record attached to the transcript. Attach a contact record and refresh the page.
Contact Details
Link a related record.
Search contacts...
Live Chat Transcript Details
Live Chat Transcript Name
00000020
Status
In Progress
Request Time
8/10/2017 11:02 AM
Owner
Michael Bluth
Case Details
Link a related record.
Search cases...
Omni-Channel

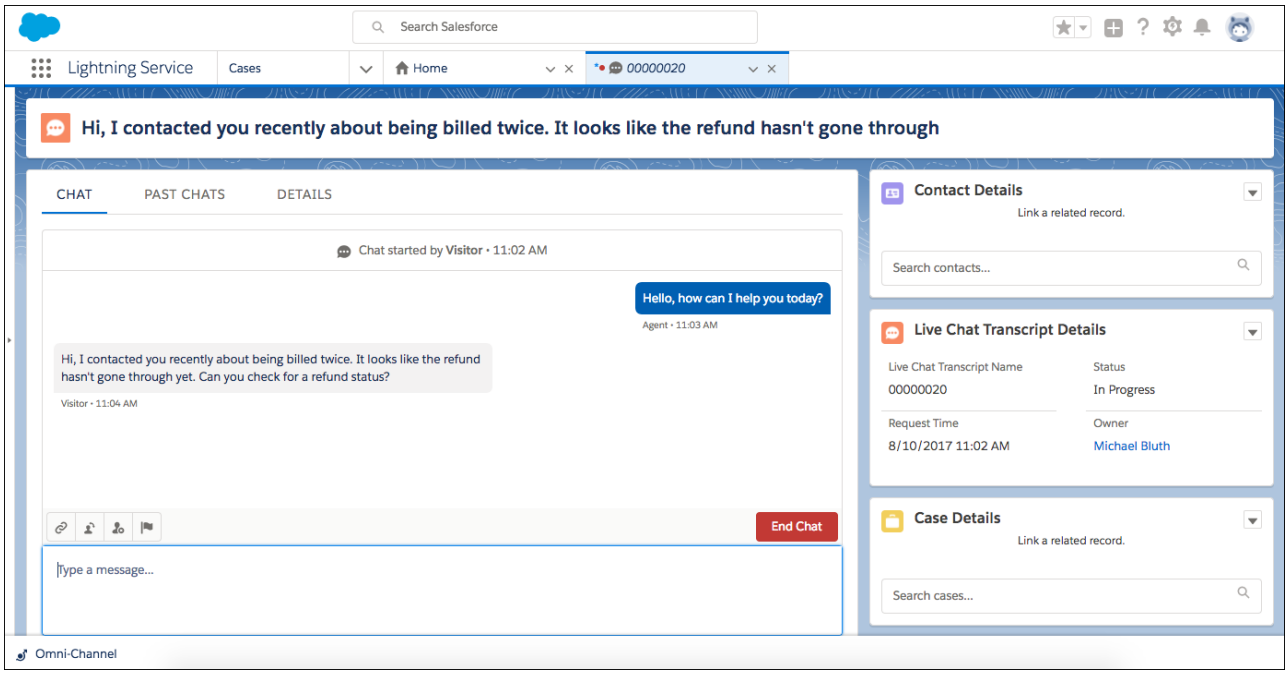

Search Salesforce
Lightning Service
Cases
Home
00000020
Hi, I contacted you recently about being billed twice. It looks like the refund hasn't gone through
CHAT
PAST CHATS
DETAILS
Chat started by Angela Peng • Mar 30, 2016 at 10:46 AM
Agent • 5s
Hello, how can I help you today?
Visitor • 17s
Hi, I have a question about my bill.
Visitor • 24s
I think I was charged twice, but I'm not sure.
Agent • 44s
I can look into that for you. What's your account number?
Agent • 1m 21s
Hello?
Chat ended by Visitor • Mar 30, 2016 at 10:48 AM
Contact Details
Name
Angela Peng
Title
Account Name
Email
apeng@peng.solutions
Phone
Live Chat Transcript Details
Live Chat Transcript Name
00000020
Status
In Progress
Request Time
8/10/2017 11:02 AM
Owner
Michael Bluth
Case Details
Omni-Channel

チャットヘッダーのプレビューによるエージェントのマルチタスクをサポート

エージェントは簡単なコンテキストをプレビューから確認できるため、エージェントはチャット間をシームレスに移動できます。エージェントが開いているすべてのチャットを容易に見分けられるように、顧客が入力したメッセージの最初の 100 文字がチャットヘッダーに表示されます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

顧客がメッセージをまだ送信していない場合、チャットヘッダーに件名は表示されません。顧客が入力を開始すると、すぐにヘッダーにメッセージが表示されます。





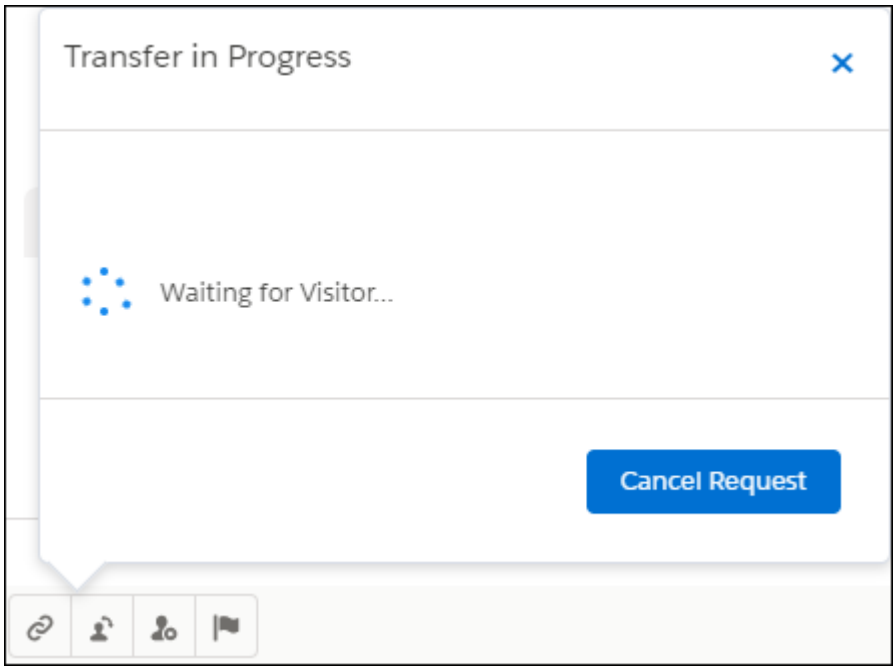
チャットエージェントのツールバーの拡張

お気に入りのいくつかの Live Agent チャット機能が Lightning Experience への移行に伴って成熟してきました。ファイル転送、チャット転送、フラグ有効化で使用するポップオーバーのプロセスがわずかに異なります。この相違点をサポートチームは確実に理解しておいてください。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

エージェントツールバーには、ファイル転送、チャット転送、訪問者のブロック、フラグ設定というエージェントが使い慣れたチャット機能すべてが表示されます。

ポップオーバーによってエージェントは Live Agent 機能に没頭

Lightning Experience では、ポップオーバーとして、エージェントが訪問者やチームメンバーの応答を待機しているときの待機中画面などが表示されます。

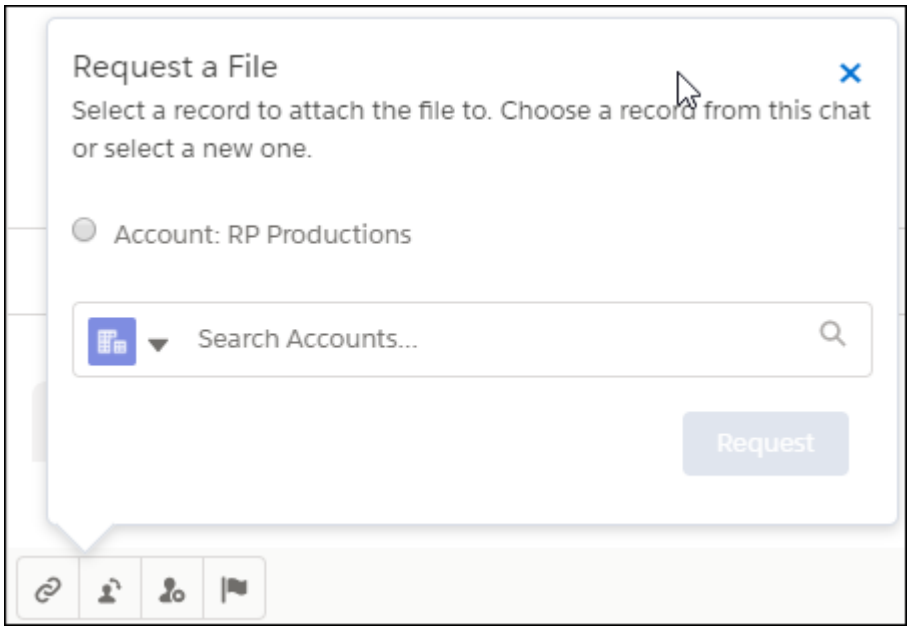


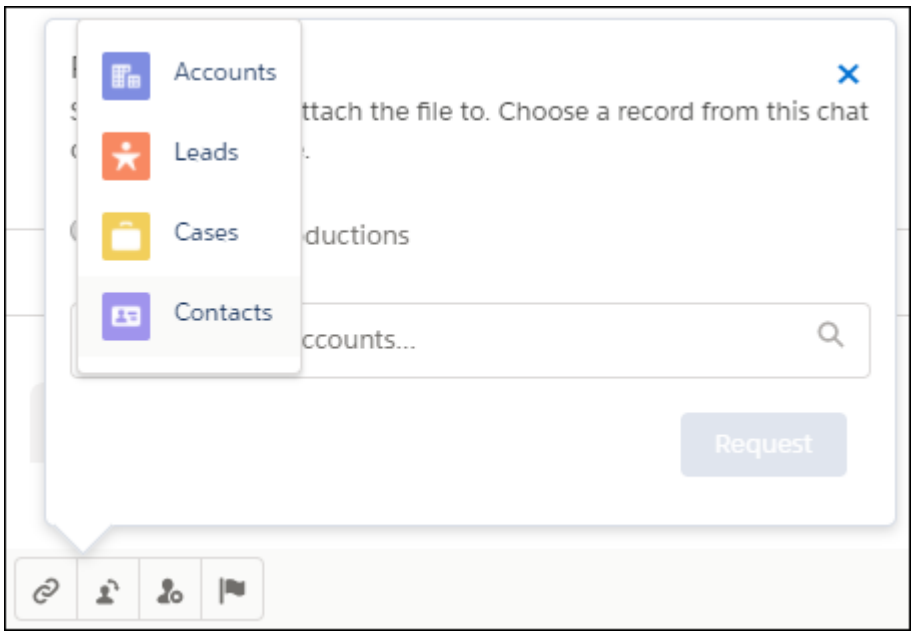
エージェントはプロセスをキャンセルすることなくポップオーバーを閉じることができます。エージェントは [閉じる] ボタンを使用するか、アイコンを再度クリックしてポップオーバーを非表示にできます。アクションをキャンセルするには、ポップオーバーを再度開いて [キャンセル] ボタンを使用します。

ファイル転送に関する変更

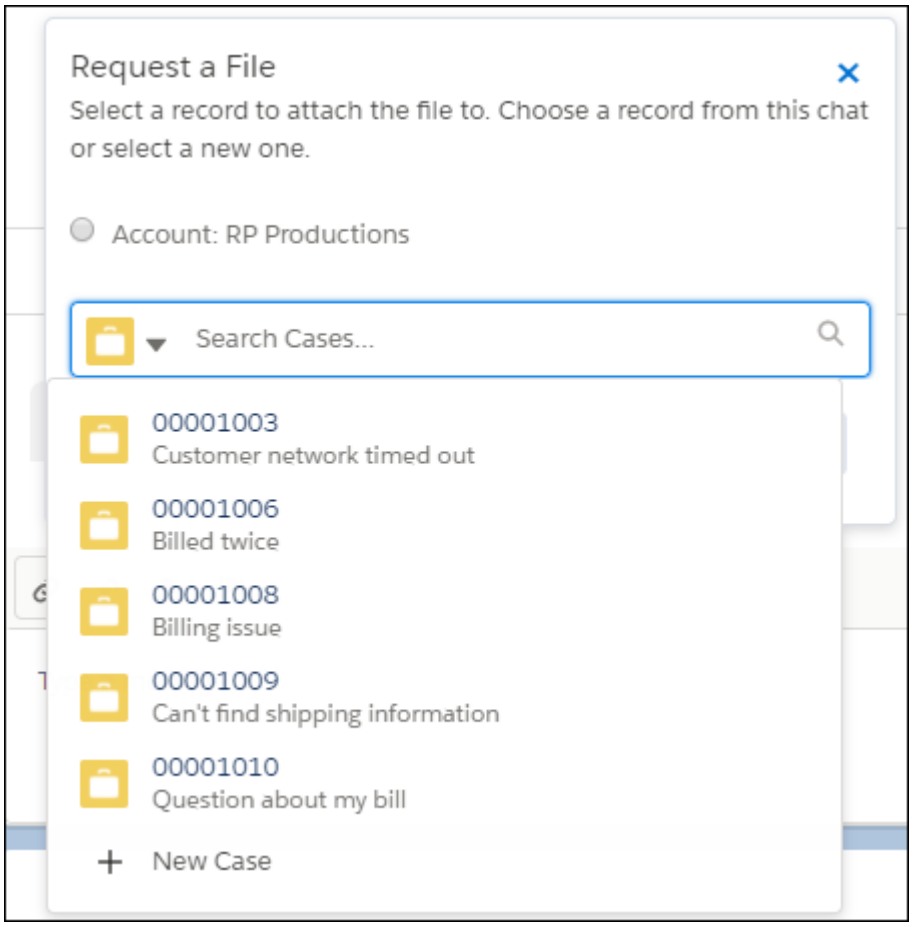
トランスクリプトに添付するレコードを選択または作成するとき、エージェントがツールバーのアイコンを 1 つだけ使用します。

現在添付されているレコードが表示されますが、エージェントは参照項目を使用して別のレコードを検索できます。参照項目を使用するには、エージェントがオブジェクト種別を選択して検索を絞り込みます。





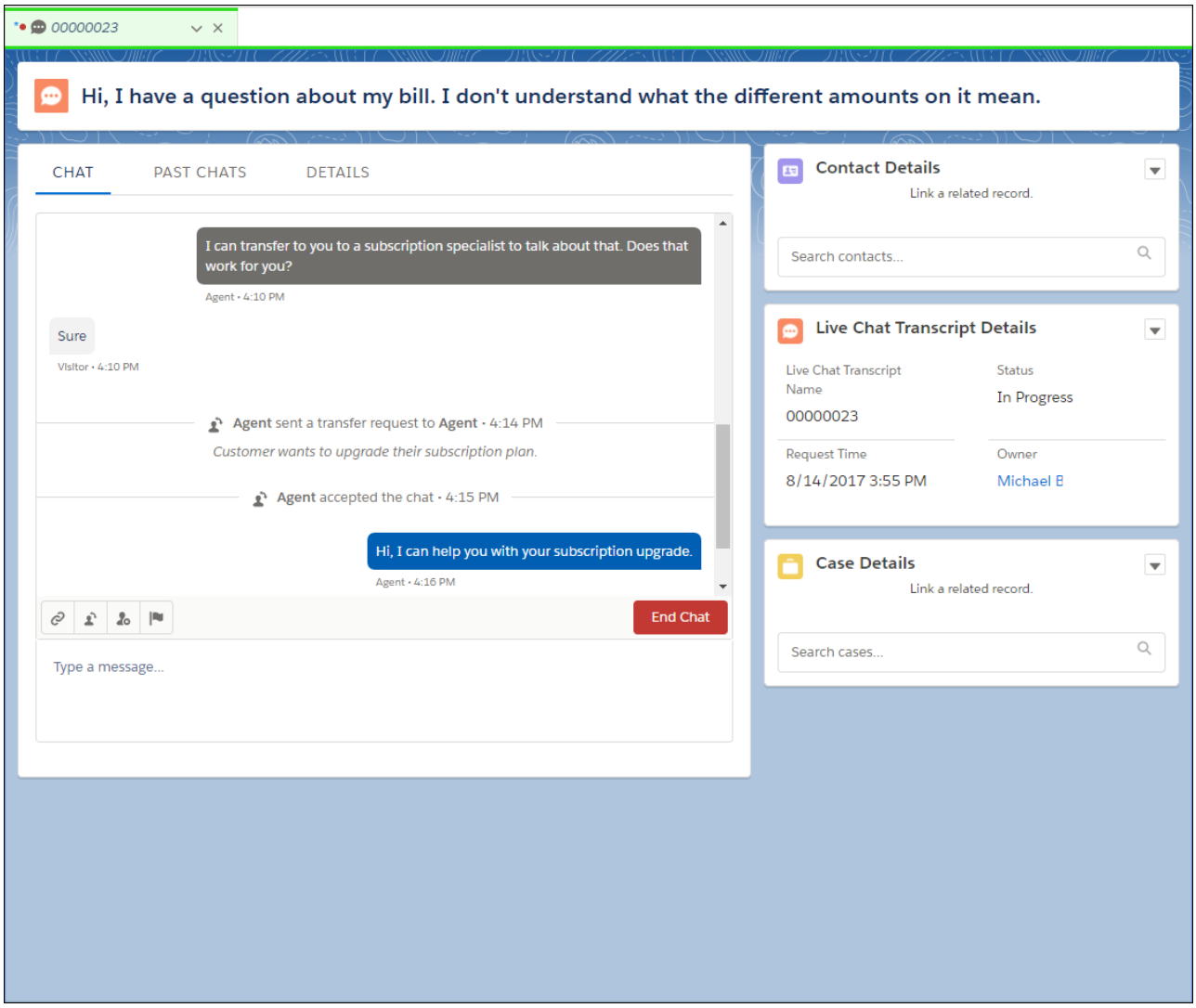
これで、エージェントはその種別のレコードを検索したり、新しいレコードを作成したりできます。



アップロードしたファイルは、チャット内にリンクとして表示されます。エージェントがリンクをクリックすると、ブラウザ設定に基づいてファイルがダウンロードされます。Salesforce Files ではなく [添付ファイル] を使用して、Salesforce Classic と同じ方法でファイルをレコードに添付します。エージェントは、関連レコードの [ファイル] 関連リストからファイルを見つけることができます。ファイルプレビューは使用できません。

チャット転送に関する変更

受け入れ先エージェントは、オムニチャネルの最初のエージェントからのメッセージをプレビューできません。エージェントは、転送を承認した後にのみメッセージを表示できます。Salesforce Classic と同様に、受け入れ先エージェントは、最初のエージェントのメッセージを表示できます。ただし、Lightning Experience では、受け入れ先エージェントがチャットを操作しやすいように、前のエージェントからのチャットバブルは別の色で表示されます。



Lightning Experience の Live Agent で使用できない機能

Lightning Experience の Live Agent には次の使用できない機能があります。

- Lightning Experience でチャットを行うには、オムニチャネルを使用してチャットを転送する必要があります。Lightning Experience でオムニチャネルの準備ができていること、オムニチャネルを使用して転送するようにチャットボタンを設定したことを確認します。チャットのオムニチャネルルーティングに関する考慮事項が適用されます。
- Live Agent の設定 (Live Agent およびオムニチャネルルーティングの有効化など) は、Salesforce Classic でのみ使用できます。
- Omni-Channel Supervisor でチャット機能は使用できません。エージェントがオムニチャネルルーティングを使用している場合でも、サポートスーパーバイザは Salesforce Classic の Live Agent スーパーバイザを使用してチャット監視機能を実行できます。オムニチャネルで転送されたチャットを処理するエージェント用のスキルを作成します。このエージェントのチャットは、Live Agent ルーティングで転送されたチャットと共に Live Agent スーパーバイザに表示されます。

- Lightning Knowledge コンポーネントはケースでのみ使用できます。そのため、これを Lightning Experience の Live Agent で使用することはできません。ナレッジをチャットと統合するには、Salesforce Classic を使用します。
- Live Agent のコンソールメソッドは、オムニチャネルルーティングまたは Lightning Experience ではサポートされません。
- クイックテキストは Lightning Experience の Live Agent ではサポートされません。
- ファイルプレビューは、Lightning Experience のファイル転送では使用できません。そのため、ファイルをエージェントのコンピュータにダウンロードします。
- Lightning Experience でまだサポートされていない Live Agent レコードをエージェントが開くと、[サポートされていない項目] タブが表示される場合があります。エージェントはこのレコードを Salesforce Classic で参照できます。
- 顧客とチャットする場合、サブタブではなく主タブとして Live Chat トランスクリプトを開くことをお勧めします。チャットする場合は、Live Chat トランスクリプトのカスタムナビゲーションルールを設定しないでください。

オムニチャネル: Lightning Experience および Salesforce Classic における改良

Lightning サービスコンソールアプリケーションのオムニチャネルユーティリティが正式にリリースされました。Lightning Experience の Omni-Channel Supervisor を使用してください (ベータ)。Salesforce Classic の機能強化により、オムニチャネルのキューと外部ルーティングを使用したキューの両方にエージェントを割り当てることができるようになりました (ベータ)。

使用可能なエディション: Salesforce Classic、Lightning Experience
オムニチャネルを使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

Lightning Experience でのエージェントへの作業の転送 (正式リリース)
サポートエージェントは Lightning サービスコンソールでオムニチャネルユーティリティを使用して、自分のプレゼンス状況の変更や、作業要求の受け入れまたは拒否ができます。Live Agent チャットと活動時間の追跡を Lightning Experience で使用できるようになりました。

Lightning Experience のオムニチャネルによる Live Agent チャットの転送
チャットエージェントも Lightning サービスコンソールを使用できます。チャットのオムニチャネルルーティングをすでに使用している場合は、Lightning アプリケーションマネージャで Lightning サービスコンソールアプリケーションを編集します。オムニチャネルユーティリティを追加した後、選択した項目に Live Chat のトランスクリプトを追加します。すでにオムニチャネルルーティングを使用するチャットボタンがある場合は、リリースコードを変更する必要はありません。

Lightning Experience の Omni-Channel Supervisor によるサポートセンターの監視 (ベータ)

Omni-Channel Supervisor は継続的に更新されて最新データが反映されるため、常にサポートセンターの状況を把握できます。オムニチャネルのエージェント、キュー、および作業に関する情報がパネルにライブでストリーミングされます。そうです。「ライブ」です。待ち時間、進行中の作業などがリアルタイムで表示されます。

Omni-Channel Supervisor にスーパーバイザが必要な情報のみを表示 (ベータ)

スーパーバイザは、エージェントビューにコールセンターのすべてのエージェントを表示する必要はありません。雑音は取り除きましょう。スーパーバイザチームにとって適切なエージェントグループが表示されるように、エージェントビューを絞り込むスーパーバイザ設定を作成します。スーパーバイザ設定を有効化するには、Salesforce にお問い合わせください。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

オムニチャネルでの外部ルーティング実装の使用 (ベータ)

1つのコンソールに複数の転送オプションがあります。外部ルーティングを現在のオムニチャネル実装と統合できるようになりました。以前は、両方のタイプのキューにエージェントを割り当てることはできませんでしたが、エージェントは、オムニチャネルと外部実装から作業を処理できるようになりました。Salesforce に連絡して、オムニチャネルの外部ルーティングを有効化するよう依頼してくださいこの変更は Salesforce Classic にのみ適用されます。

オムニチャネルの制限緩和による作業効率の向上

キューに追加される作業項目の最大数を 1 時間あたり 5,000 から 1 時間あたり 15,000 に増加しました。これで生産性が 3 倍になります。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

コンソール API でのオムニチャネルメソッドの使用と Lightning Experience の新しいコンポーネント (ベータ)

Salesforce Classic ですでに使用しているコンソールメソッドは Lightning Experience で使用できます。コンソールイベントは Lightning Experience では使用できません。オムニチャネルツールキット用の API へのアクセスを提供する新しい Lightning コンポーネント (`lightning:omniToolkitAPI`) もあります。

カスタム要求日時項目を使用した顧客の待機順番の保持

新しい `PendingServiceRouting` オブジェクトの [カスタム要求日時] 項目を使用して、作業項目の初期要求の日時を保持します。再転送された作業項目は、転送日時ではなく初期要求の日時を使用します。この項目を空白にすると、作業項目は再転送日時を使用して再転送されます。この項目は API を使用して入力できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

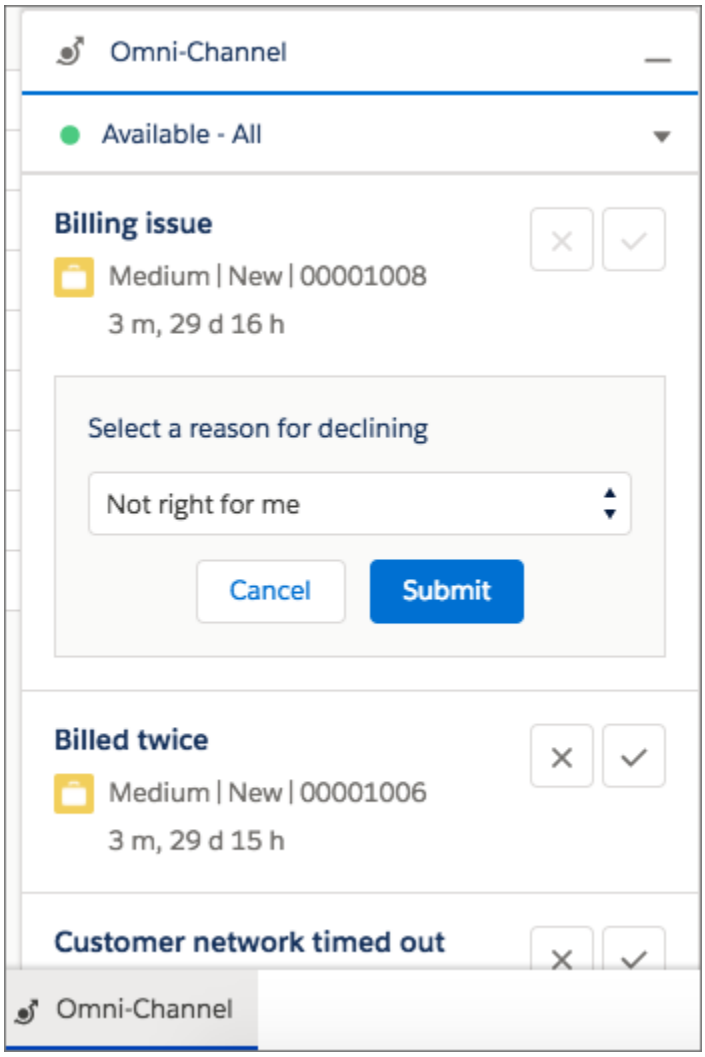
ユーザのプレゼンス状況を削除して組織の領域を確保

SOAP API のバージョン 41.0 を使用して、ユーザの不要なプレゼンス状況を削除します。気が変わった場合は、15 日以内であれば、完全に削除される前に削除した状況を復元できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Lightning Experience でのエージェントへの作業の転送 (正式リリース)

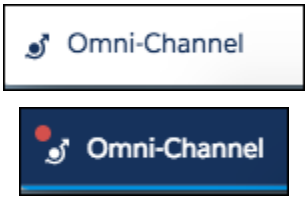
サポートエージェントは Lightning サービスコンソールでオムニチャネルユーティリティを使用して、自分のプレゼンス状況の変更や、作業要求の受け入れまたは拒否ができます。Live Agent チャットと活動時間の追跡を Lightning Experience で使用できるようになりました。

Lightning Experience でオムニチャネルを使用するには、組織でオムニチャネルを有効にする必要があります。次に、アプリケーションマネージャを使用して、オムニチャネルユーティリティを Lightning サービスコンソールアプリケーションに追加します。



Lightning Experience のオムニチャネル通知は、視覚的に変化します。最小化されたユーティリティでは、色の変化で新しい要求があることをエージェントに通知します。最小化されたユーティリティでは、要求の数は表示されません。

要求が存在する場合と存在しない場合のオムニチャネルユーティリティ



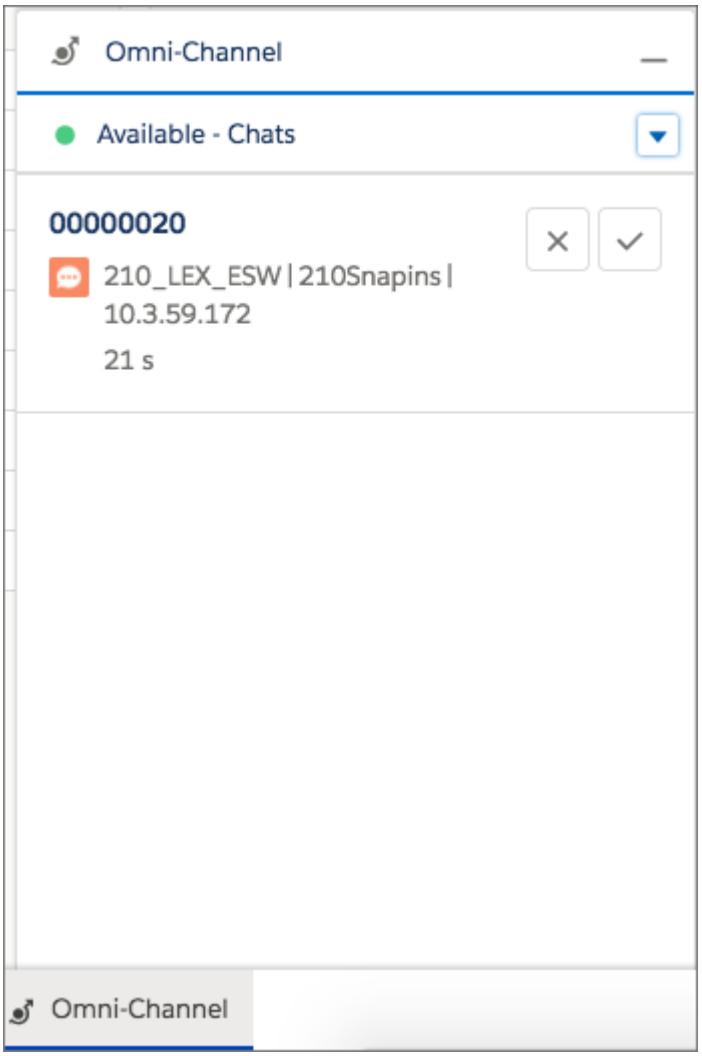
Lightning Experience でオムニチャネルを使用するときの考慮事項は、次のとおりです。

- オムニチャネル設定 (オムニチャネルの有効化など) は、Salesforce Classic でのみ使用できます。

- SOS は Lightning Experience でサポートされていないため、SOS コールは Lightning サービスコンソールのオムニチャネルで転送できません。Salesforce Classic を使用してください。
- 外部ルーティング (ベータ) は、Lightning Experience ではサポートされません。

Lightning Experience のオムニチャネルによる Live Agent チャットの転送

チャットエージェントも Lightning サービスコンソールを使用できます。チャットのオムニチャネルルーティングをすでに使用している場合は、Lightning アプリケーションマネージャで Lightning サービスコンソールアプリケーションを編集します。オムニチャネルユーティリティを追加した後、選択した項目に Live Chat のトランスクリプトを追加します。すでにオムニチャネルルーティングを使用するチャットボタンがある場合は、リリースコードを変更する必要はありません。



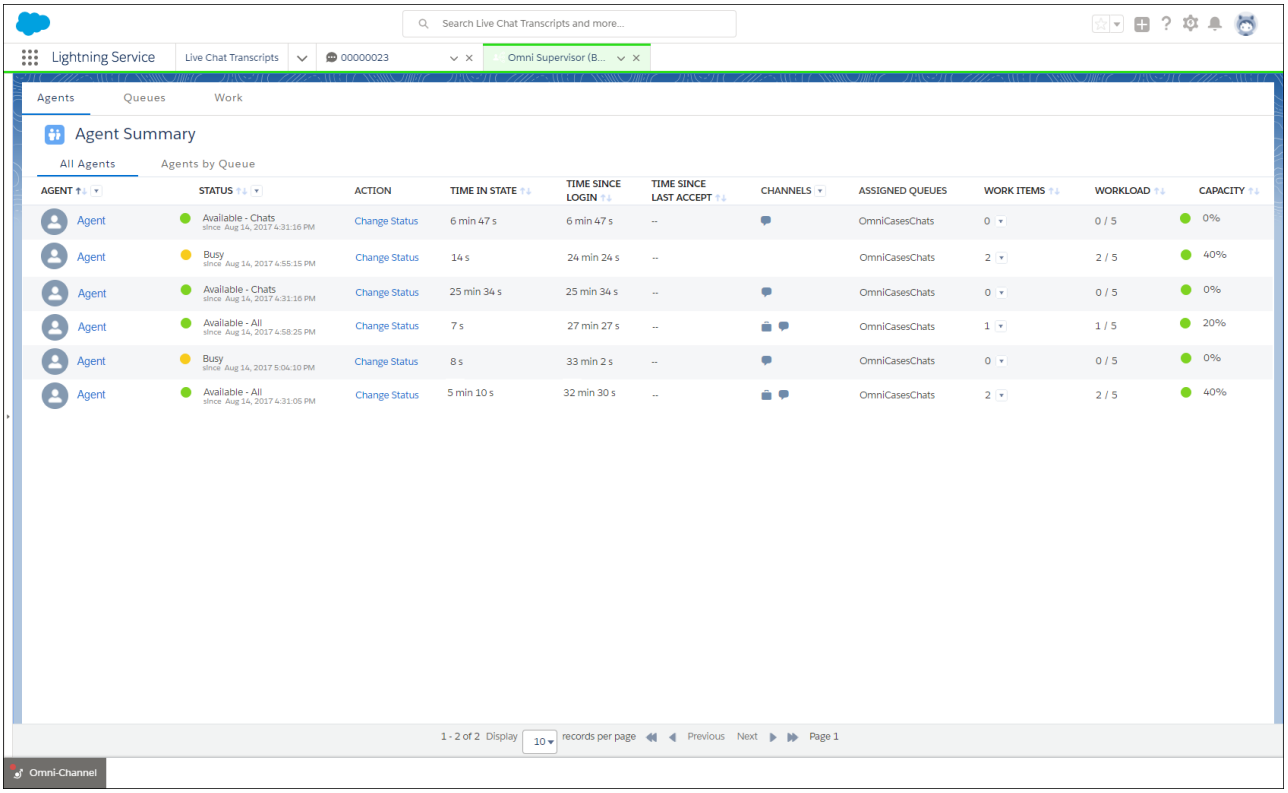
関連トピック:

Lightning Experience で顧客とチャット

Lightning Experience の Omni-Channel Supervisor によるサポートセンターの監視 (ベータ)

Omni-Channel Supervisor は継続的に更新されて最新データが反映されるため、常にサポートセンターの状況を把握できます。オムニチャネルのエージェント、キュー、および作業に関する情報がパネルにライブでストリーミングされます。そうです。「ライブ」です。待ち時間、進行中の作業などがリアルタイムで表示されます。

メモ: このリリースには、Lightning Experience に Omni-Channel Supervisor のベータバージョンが含まれています。ベータバージョンは機能の品質は高いですが、既知の制限があります。Lightning Experience の Omni-Channel Supervisor は、ドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースが発表されない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。



スーパーバイザにこのインサイトをすべて提供するには、Lightning サービスコンソールに Omni-Channel Supervisor を選択済みの項目として追加し、スーパーバイザにアクセス権を付与します。

Lightning Experience で Omni-Channel Supervisor を使用するときの考慮事項は、次のとおりです (ベータ)。

- オムニチャネル設定 (Omni-Channel Supervisor の設定を含む) は、Salesforce Classic でのみ使用できます。
- エージェントのスケジュールのフロート表示は、Lightning Experience ではサポートされません。
- Live Agent スーパーバイザ機能は Omni-Channel Supervisor では使用できません。エージェントがオムニチャネルルーティングを使用している場合でも、サポートスーパーバイザは Salesforce Classic の Live Agent スーパーバイザを使用してチャット監視機能を実行できます。オムニチャネルで転送されたチャットを処理するエージェント用のスキルを作成します。このエージェントのチャットは、Live Agent ルーティングで転送されたチャットと共に Live Agent スーパーバイザに表示されます。

Omni-Channel Supervisor にスーパーバイザが必要な情報のみを表示 (ベータ)

スーパーバイザは、エージェントビューにコールセンターのすべてのエージェントを表示する必要はありません。雑音は取り除きましょう。スーパーバイザチームにとって適切なエージェントグループが表示されるように、エージェントビューを絞り込むスーパーバイザ設定を作成します。スーパーバイザ設定を有効化するには、Salesforce にお問い合わせください。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

メモ: このリリースには、Omni-Channel Supervisor 設定のベータバージョンが含まれています。ベータバージョンは機能の品質は高いですが、既知の制限があります。Omni-Channel Supervisor 設定は、ドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースが発表されない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

組織で Omni-Channel Supervisor 設定が有効な場合、Salesforce Classic の [設定] の Omni-Channel Supervisor 設定 (ベータ) ページを使用して、スーパーバイザの絞り込みを設定できます。適切なユーザとプロファイルを追加することで、スーパーバイザを設定に割り当てます。次に、エージェントが含まれる 1 つ以上の公開グループを追加することで、スーパーバイザが参照できるエージェントを指定します。この設定は、エージェントビューの絞り込みにのみ適用されます。スーパーバイザは、組織のすべてのキューおよび作業項目も引き続き参照できます。

オムニチャネルでの外部ルーティング実装の使用 (ベータ)

1 つのコンソールに複数の転送オプションがあります。外部ルーティングを現在のオムニチャネル実装と統合できるようになりました。以前は、両方のタイプのキューにエージェントを割り当てることはできませんでしたが、エージェントは、オムニチャネルと外部実装から作業を処理できるようになりました。Salesforce に連絡して、オムニチャネルの外部ルーティングを有効化するよう依頼してくださいこの変更は Salesforce Classic にのみ適用されます。

メモ: 今回のリリースには、オムニチャネルを使用する外部ルーティングのベータバージョンが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。外部ルーティングは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

外部ルーティングが有効であるときは、最新バージョン (41.0) の Salesforce 標準 API とストリーミング API を使用して、ルーティング設定で Salesforce を外部ルーティング実装に接続します。次に、オムニチャネルルーティングまたは外部ルーティング実装を使用するキューを作成し、エージェントを追加します。これで、作業要求がどんどん入ってきます。

オムニチャネルの制限緩和による作業効率の向上

キューに追加される作業項目の最大数を 1 時間あたり 5,000 から 1 時間あたり 15,000 に増加しました。これで生産性が 3 倍になります。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

コンソール API でのオムニチャネルメソッドの使用と Lightning Experience の新しいコンポーネント (ベータ)

Salesforce Classic ですでに使用しているコンソールメソッドは Lightning Experience で使用できます。コンソールイベントは Lightning Experience では使用できません。オムニチャネルツールキット用の API へのアクセスを提供する新しい Lightning コンポーネント (`lightning:omniToolkitAPI`) もあります。

メモ: 今回のリリースには、Lightning コンソール JavaScript API のオムニチャネルメソッドのベータバージョンが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。このメソッドは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

関連トピック:

Lightning コンソール JavaScript API によるコンソールアプリケーションのカスタマイズ (正式リリース)

カスタム要求日時項目を使用した顧客の待機順番の保持

新しい `PendingServiceRouting` オブジェクトの [カスタム要求日時] 項目を使用して、作業項目の初期要求の日時を保持します。再転送された作業項目は、転送日時ではなく初期要求の日時を使用します。この項目を空白にすると、作業項目は再転送日時を使用して再転送されます。この項目は API を使用して入力できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

関連トピック:

新しいオブジェクト

ユーザのプレゼンス状況を削除して組織の領域を確保

SOAP API のバージョン 41.0 を使用して、ユーザの不要なプレゼンス状況を削除します。気が変わった場合は、15 日以内であれば、完全に削除される前に削除した状況を復元できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

関連トピック:

変更されたオブジェクト

Web 用の Snap-in: Lightning Experience での顧客とのチャット、事前チャットおよび事後チャットのサポートの改善

Snap-in チャットを使用して顧客とチャットするエージェントは、Lightning サービスコンソールで Live Agent を使用できます。事前チャットフォームで顧客から提供された情報をもとに作成されたレコードが、チャットのトランスクリプトに添付されます。顧客の詳細が事後チャットフォームに渡されます。Live Agent の場合と同様です。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

Snap-in チャットを使用した Lightning Experience での顧客とのチャット
チャットエージェントは、Lightning サービスコンソールの Snap-in チャットからチャットを受信できます。Lightning Experience でオムニチャネルが設定されており、Live Agent チャットボタンがオムニチャネルルーティングを使用していることを確認してください。Lightning Experience の Live Agent には使用できない機能や通常とは異なる動作が存在します。

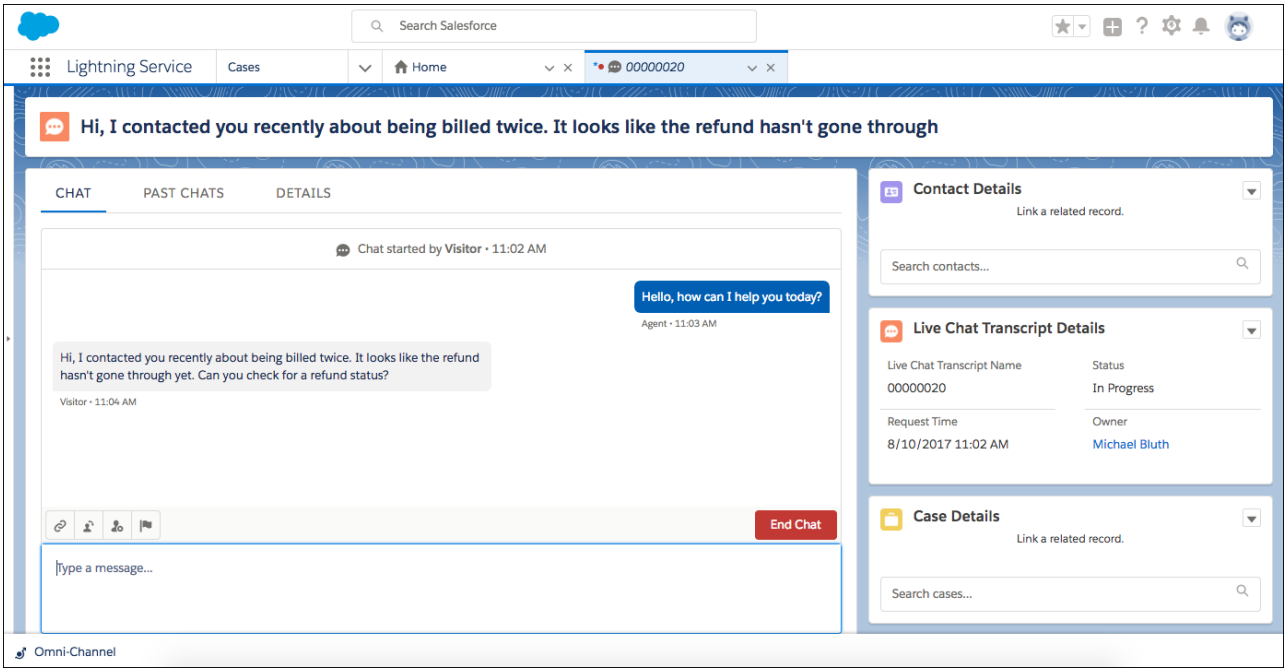
訪問者のブロックによるスパム送信者対策
訪問者によるスパム送信やその他のサービス利用規約違反を Snap-in チャットエージェントが発見した場合、エージェントは該当の IP アドレスをブロックできます。Live Agent の場合と同様です。Live Agent の設定で訪問者のブロックを有効化します。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

事前チャットフォームレコードのチャットのトランスクリプトへの自動添付
レコードが Snap-in の事前チャットフォームから作成されたとき、そのレコードはチャットのトランスクリプトに自動的に添付されます。これまでエージェントは、作成されたレコードをチャットのトランスクリプトに手動で添付する必要がありました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

事後チャットへの顧客情報の伝達
地域や添付レコードをはじめとした顧客の詳細を、事後チャット環境に渡せます。Live Agent の場合と同様です。事後チャット API の Live Agent がサポートするパラメータを渡せます。Snap-in に関連付けた Live Agent チャットのボタンで事後チャット URL を作成して、情報を事後チャットへと渡します。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Snap-in チャットを使用した Lightning Experience での顧客とのチャット

チャットエージェントは、Lightning サービスコンソールの Snap-in チャットからチャットを受信できます。Lightning Experience でオムニチャネルが設定されており、Live Agent チャットボタンがオムニチャネルルーティングを使用していることを確認してください。Lightning Experience の Live Agent には使用できない機能や通常とは異なる動作が存在します。

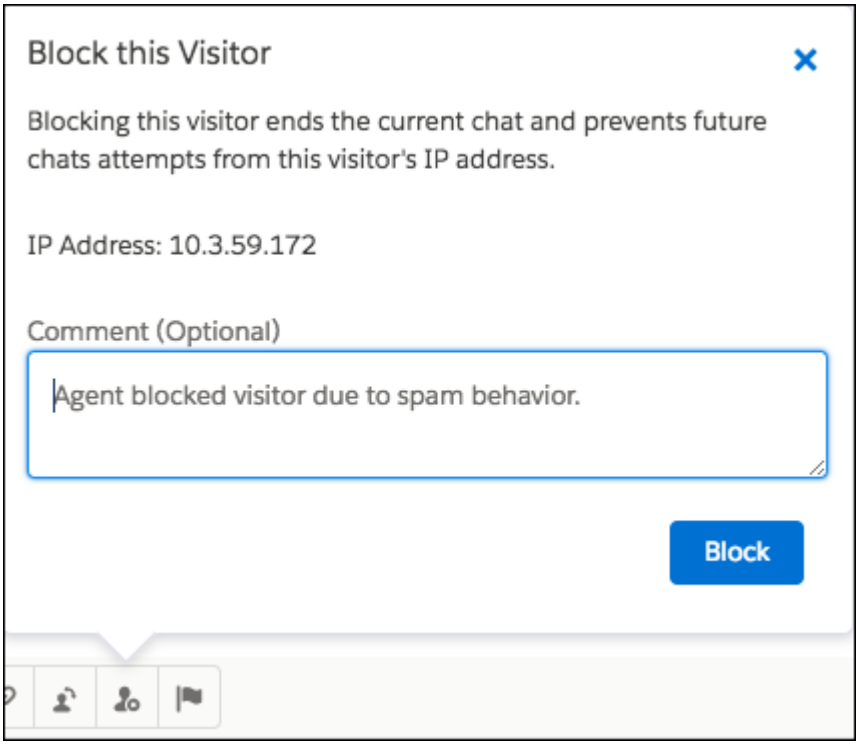


関連トピック:

- Lightning Experience で顧客とチャット

訪問者のブロックによるスパム送信者対策

訪問者によるスパム送信やその他のサービス利用規約違反を Snap-in チャットエージェントが発見した場合、エージェントは該当の IP アドレスをブロックできます。Live Agent の場合と同様です。Live Agent の設定で訪問者のブロックを有効化します。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。



事前チャットフォームレコードのチャットのトランスクリプトへの自動添付

レコードが Snap-in の事前チャットフォームから作成されたとき、そのレコードはチャットのトランスクリプトに自動的に添付されます。これまでエージェントは、作成されたレコードをチャットのトランスクリプトに手動で添付する必要がありました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

事後チャットへの顧客情報の伝達

地域や添付レコードをはじめとした顧客の詳細を、事後チャット環境に渡せます。Live Agent の場合と同様です。事後チャット API の Live Agent がサポートするパラメータを渡せます。Snap-in に関連付けた Live Agent チャットのボタンで事後チャット URL を作成して、情報を事後チャットへと渡します。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Live Agent で使用可能なすべてのパラメータをサポートしています。詳細は、*『Live Agent 開発者ガイド』*の「事後チャットのコードサンプル」を参照してください。

エンタイトルメント管理: Lightning Experience のサービス契約とケースマイルストン

Lightning Experience でサービス契約とケースマイルストンが使用できるようになり、新しいユーザインターフェースですべてのエンタイトルメント管理作業を簡単に処理できるようになりました。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)

このセクションの内容:

Lightning Experience でのサービス契約の管理 (正式リリース)
プロのように Lightning Experience でサービス契約と契約品目名を管理できます。Lightning Experience のサービス契約には Salesforce Classic の使い慣れたすべての機能が備わっています。

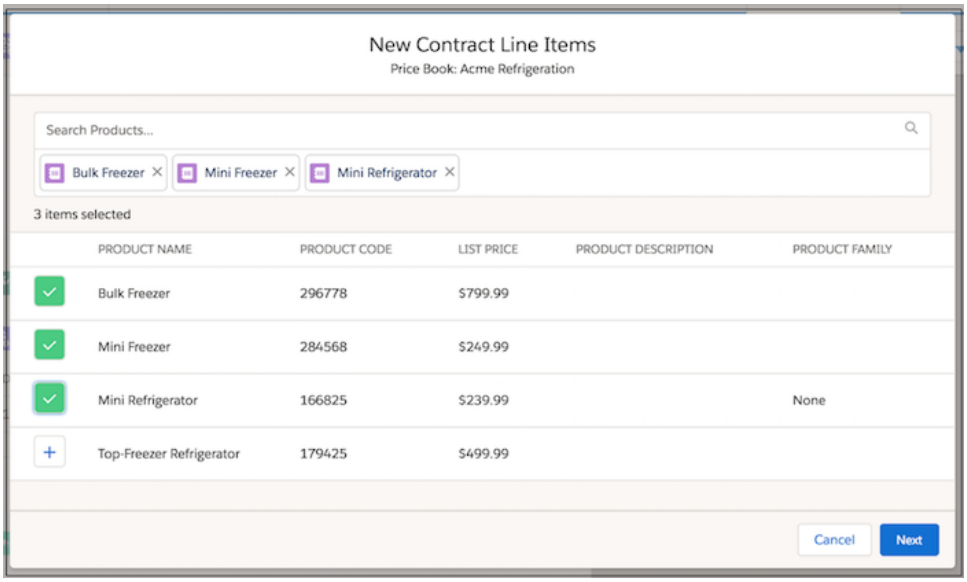
Lightning Experience でのケースマイルストンの追跡
Lightning Experience でケースマイルストントラッカーを待つ必要はもうありません。エージェントは、ケースレコードページで有効なマイルストン、完了したマイルストン、違反したマイルストンを表示し、ドリルダウンして詳細を確認できます。これまで、ケースマイルストンは Salesforce Classic でしか使用できませんでした。この変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

Lightning Experience でのサービス契約の管理 (正式リリース)

プロのように Lightning Experience でサービス契約と契約品目名を管理できます。Lightning Experience のサービス契約には Salesforce Classic の使い慣れたすべての機能が備わっています。

次に、Lightning Experience で品目名をサービス契約に追加する方法を示します。

1. サービス契約レコードホームから、[契約品目名] 関連リストの [新規品目] をクリックします。
2. プロンプトが表示されたら価格表を選択します。
3. 商品名の横にあるプラスアイコンをクリックして、サービス契約を追加する商品を選択します。各商品の品目名が作成されます。



4. [次へ] をクリックします。
5. 商品ごとに数量を入力します。必要に応じて、割引の追加や販売価格の更新を行います。
6. [保存] をクリックします。

サービス契約の品目名を編集するには、[契約品目名] 関連リストの品目のアクションドロップダウンで [編集] をクリックします。

一括作成ウィンドウに表示される項目をカスタマイズできます。[設定] で、価格表エントリの検索ページレイアウトと契約品目名の複数行ページレイアウトを更新します。

Lightning Experience でサービス契約および契約品目名を使用するときは次の点に注意してください。

- ［状況アイコン］項目は使用できません。
- サービス契約に複数の契約品目名を追加するときには、契約品目名の選択リスト項目に、契約品目名のレコードタイプに対応する値のみではなく、組織内のすべての値が表示されます。ただし、異なるレコードタイプに対応する値を選択するとエラーが発生します。この問題は 1 つの品目名を編集しているときには発生しません。

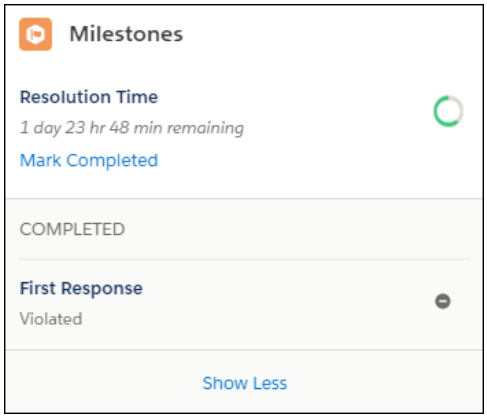
サービス契約と契約品目名は、Salesforce モバイル Web および Salesforce for Android/iOS でも使用できます。Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web では契約品目名を編集および削除できますが、作成することはできません。

Lightning Experience でのケースマイルストンの追跡

Lightning Experience でケースマイルストントラッカーを待つ必要はもうありません。エージェントは、ケースレコードページで有効なマイルストン、完了したマイルストン、違反したマイルストンを表示し、ドリルダウンして詳細を確認できます。これまで、ケースマイルストンは Salesforce Classic でしか使用できませんでした。この変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

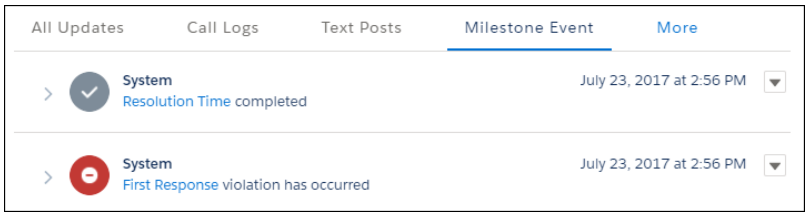
エンタイトルメント、エンタイトルメントプロセス、マイルストンを設定したら、Lightning アプリケーションビルダーを使用して、マイルストンコンポーネントをケースレコードページに追加します。マイルストンコン

ポーネントでは、ケースのみがサポートされています。このコンポーネントを他のオブジェクトページに追加することはできません。

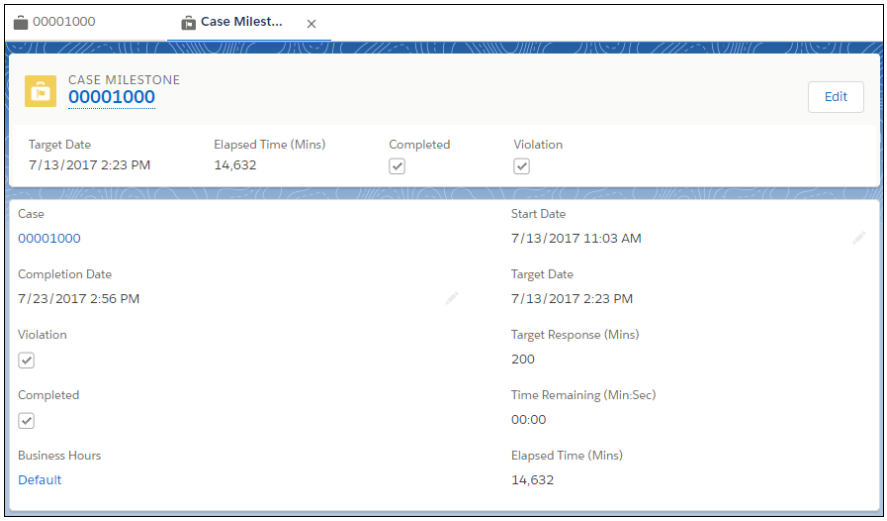


Lightning Experience では、[中止] 項目を更新して、エージェントがケースを一時停止または停止できるようにすることができます。[中止]項目を追加するには、ケースページレイアウトを編集します。次に、[設定]の[項目アクセス許可] で項目へのアクセス権をエージェントに付与します。

組織でマイルストンフィード項目が有効になっている場合、エージェントは、ケースフィードでケースマイルストンの更新を確認することもできます。



エージェントは、ケースフィードまたはコンポーネントからマイルストン名をクリックして、詳細なレコードページを開くことができます。エージェントは、インライン編集と [編集] ボタンの 2 つの方法でこのページを更新できます。



ページレイアウトや入力規則などのケースマイルストンオブジェクトをカスタマイズするには、Salesforce Classic の [設定] を使用します。

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web では、エージェントはケースフィードでマイルストンの更新を表示し、ケースマイルストンレコードページを開くことができます。Salesforce Classic の [設定] からケースマイルストンレコードページのコンパクトレイアウトをカスタマイズできます。

Lightning Experience でケースマイルストンを操作するときは次の点に注意してください。

- Lightning Experience では、[マイルストン名] 項目と [エンタイトルメントプロセス] 項目は表示されません。Salesforce Classic では、これらの項目がケースマイルストンレコードページにデフォルトで表示されます。
- Lightning Experience では、[ケースマイルストン] 関連リストはサポートされていません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:エンタイトルメントとサービス契約の設定(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

マクロ: サポートエージェントの効率と顧客の満足度が向上

Lightning Experience マクロでサポートエージェントの作業方法を変革できます。エージェントは、1 クリックで顧客へのメール送信やケース状況の更新ができます。マクロを利用することで、よく実行する繰り返しタスクを自動化して問題を効率よく解決できるため、エージェントはより多くの時間を本来の仕事であるお客様の成功への取り組みに割けるようになります。マクロユーティリティを組織の Lightning コンソールアプリケーション(サービスコンソールアプリケーションやセールスコンソールアプリケーションなど)に追加し、問題をすばやく解決するためのツールをコンソールユーザに提供します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

メモ: Lightning Experience では、ケース、取引先責任者、リード、およびカスタムオブジェクトでマクロがサポートされます。Lightning Experience では、マクロでクイックテキストを使用したり、メールテンプレートを挿入したりすることはまだできません。

このセクションの内容:

Lightning Experience でマクロを作成して時間を節約
新しいマクロビルダーのポイント & クリックインターフェースを使用して、すばやく簡単にマクロを編集し、命令を追加できます。

マクロレコードホーム
レコードホームページでは、Lightning のマクロの表示と管理を一元的に行うことができます。

ユーティリティバーからのマクロの実行
マクロユーティリティをサービスコンソールのユーティリティバーに追加し、作業のコンテキストで素晴らしいマクロを作成できます。

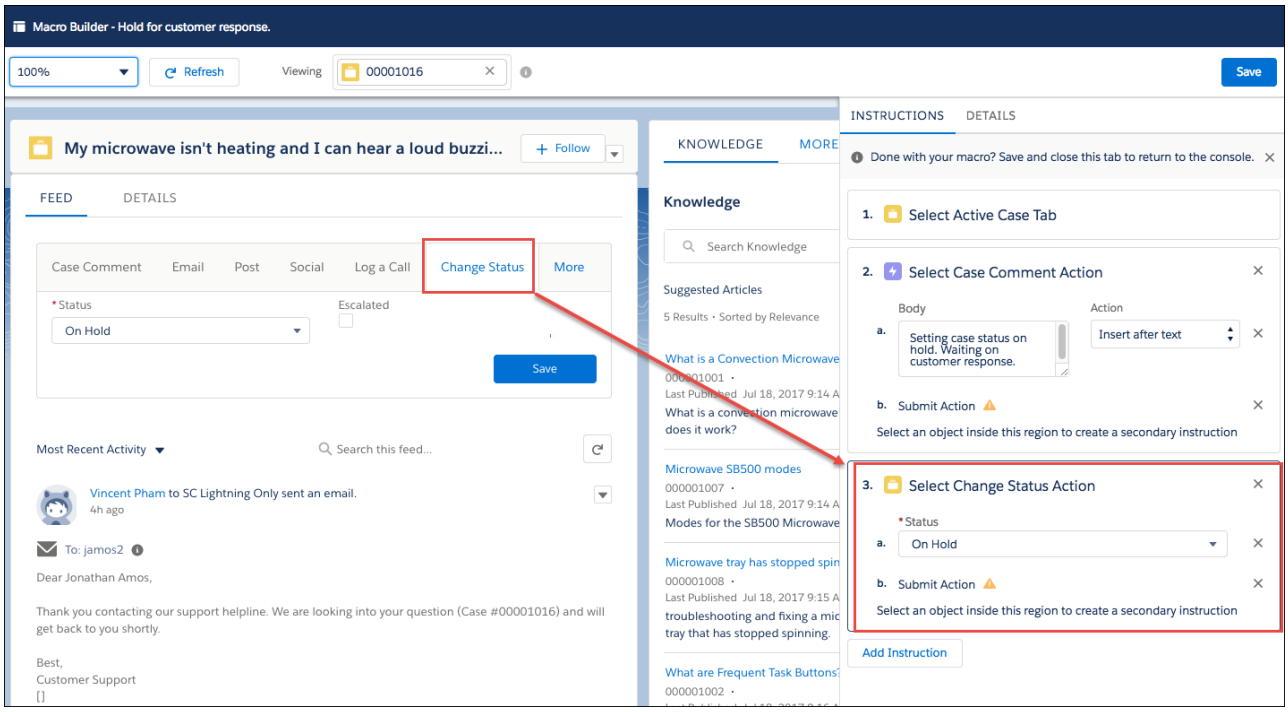
Lightning Experience でマクロを作成して時間を節約

新しいマクロビルダーのポイント&クリックインターフェースを使用して、すばやく簡単にマクロを編集し、命令を追加できます。

マクロは、顧客とコミュニケーションするときの効率と一貫性を高めることでエージェントの生産性を合理化します。Lightning マクロビルダーでは、ユーザは Lightning アプリケーションビルダーに似た視覚的な操作環境を使用して既存のマクロの編集と命令の追加ができます。ビルダーのシンプルなポイント&クリックインターフェースで、マクロ作成者は、マクロ命令に含めるクイックアクションと項目を取得できます。

ビルダーの右側には、マクロ命令タブにマクロの命令が表示されています。命令を構成するのは、クイックアクションとそれに対応する項目で、ページの左側から選択できます。

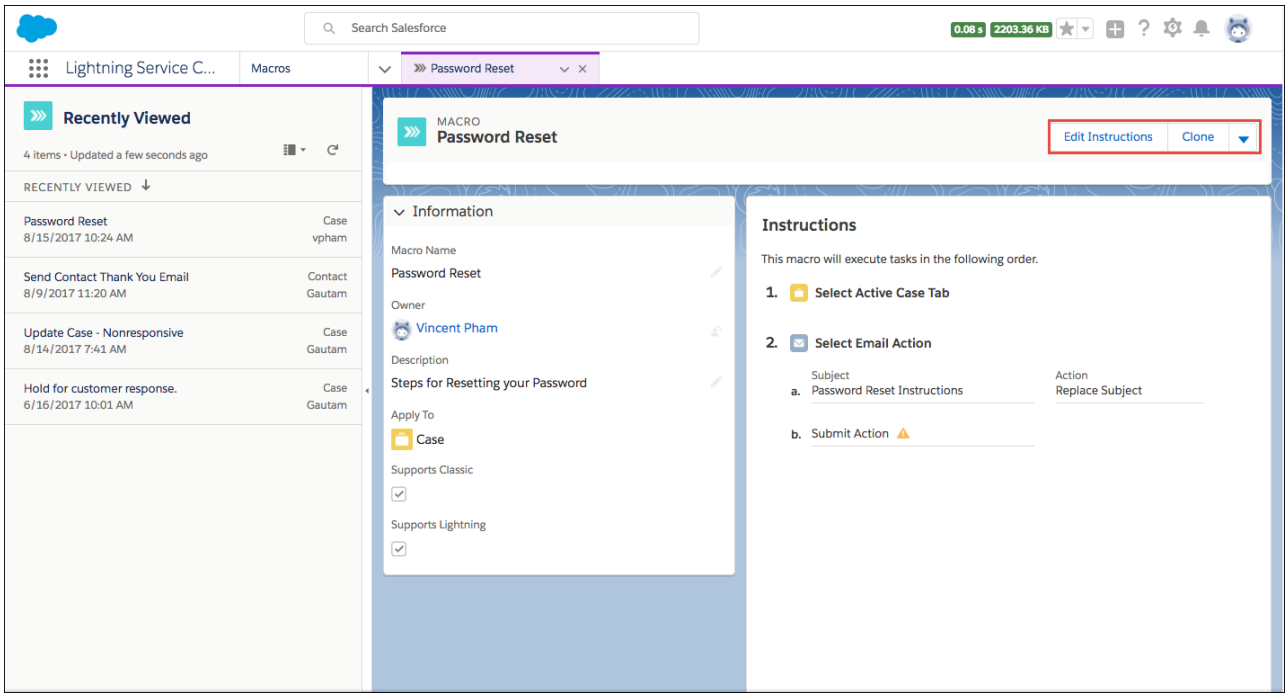
メモ: キーボードショートカットを使用して、マクロビルダーの他の領域にフォーカスを移動します。Alt+1 でツールバーにフォーカスします。Alt+2 でクイックアクションにフォーカスします。Alt+3 でマクロ命令にフォーカスします。



マクロレコードホーム

レコードホームページでは、Lightning のマクロの表示と管理を一元的に行うことができます。

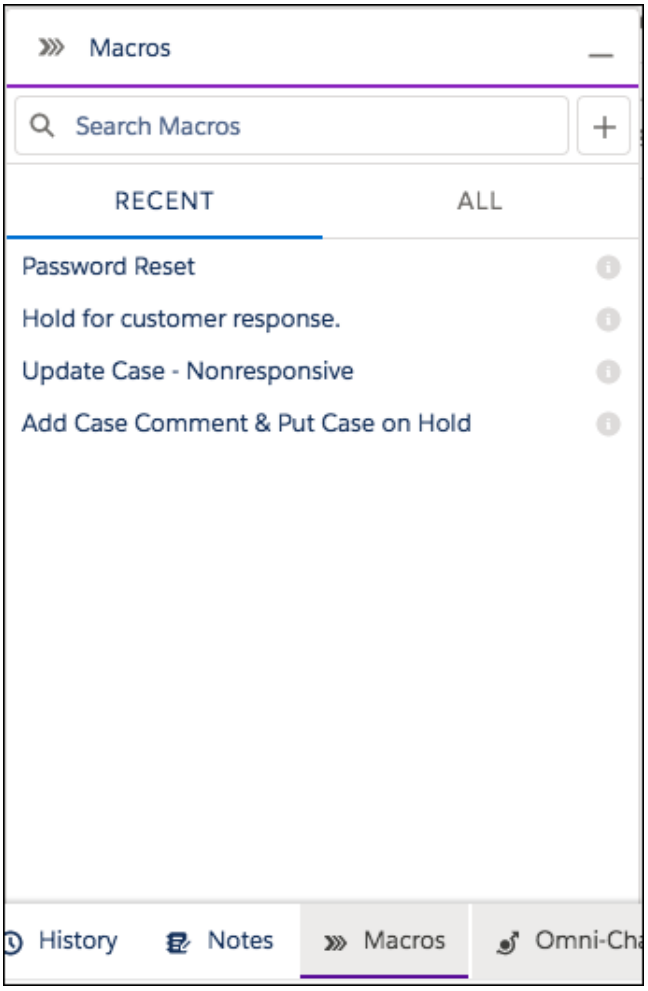
Lightning Experience の他のレコードホームと類似の機能を持つマクロレコードホームで、ユーザはマクロの表示、編集、コピーができます。マクロ名と説明の変更もできます。



ユーティリティバーからのマクロの実行

マクロユーティリティをサービスコンソールのユーティリティバーに追加し、作業のコンテキストで素晴らしいマクロを作成できます。

ユーティリティバーを使用することでLightningで簡単にマクロのアクセス、作成、実行ができます。エージェントは [+] (作成) ボタンをクリックして選択したオブジェクトに対して新しいマクロを作成できます。マクロを実行するには、マクロ名をダブルクリックします。コンポーネントのタブ化されたデザインにより生産性が向上します。よく使用されるマクロは、[最近] タブからアクセスでき、すべてのマクロの完全なリストは [すべて] タブにあります。マクロの横にある情報バブルをクリックすると、ツールチップに詳細が表示されます。



メモ: Salesforce Classic で作成したマクロは、Lightning でサポートされる可能性があります。[Lightning をサポート] 項目を確認してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning アプリケーションへのユーティリティバーの追加 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

納入商品: 納入商品階層の全体像を把握

Lightning Experience の洗練された新しいツールで納入商品の階層をすばやく表示できます。納入商品階層のツリーグリッドビューを使用すると、フィールドサービス作業員は部品を識別し、素材の請求額を評価し、納入商品が互いにどう関係するかを理解できます。

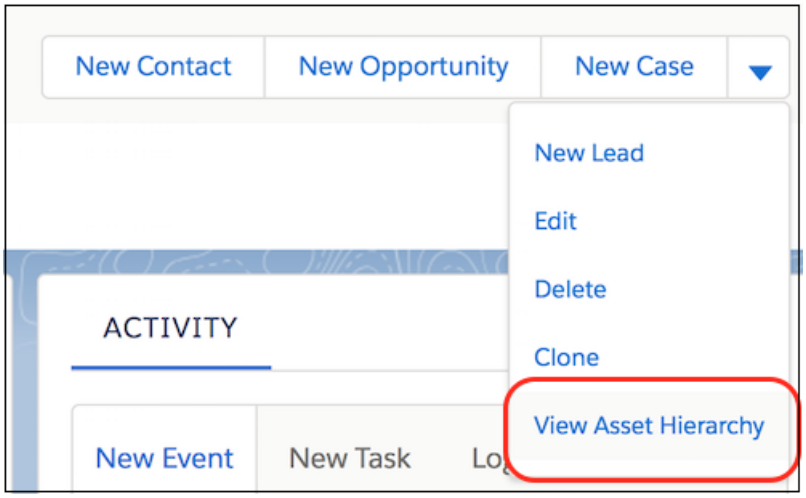
Lightning Experience で納入商品階層の展開されたツリーグリッドを表示するには、納入商品ページレイアウトを更新します。ページレイアウトエディタで、

エディション

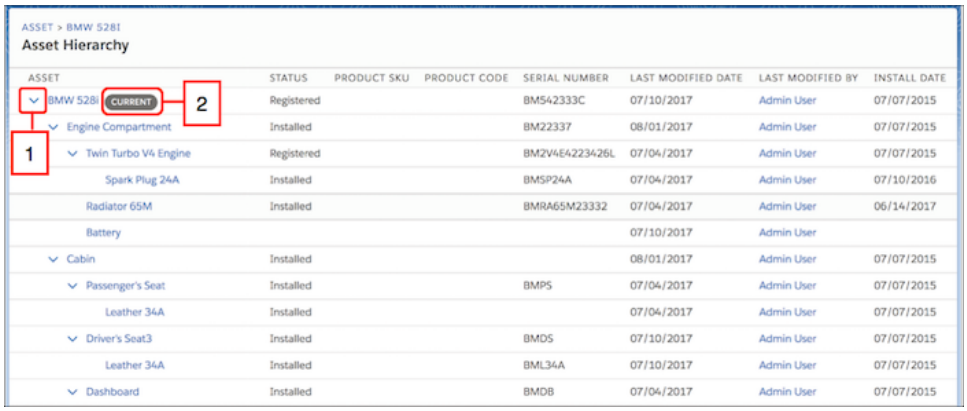
使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

[Salesforce1 および Lightning のアクション] を選択し、[納入商品階層を表示] アクションをレイアウトにドラッグします。このアクションは、コンソールの納入商品でも使用できます。

ツリーグリッドを表示するには、納入商品の詳細ページのドロップダウンアクションメニューで [納入商品階層を表示] をクリックします。



ノードを折りたたむか、展開するには、キャレット (1) をクリックします。階層内で最大 20 レベルの深さまで移動できます。階層を閲覧中の納入商品には、[現在] スタンプ (2) が表示されます。



メモ: 階層に表示される項目はカスタマイズできません。

[納入商品階層を表示] アクションは、納入商品数が 500 以下の階層でのみ使用できます。階層に 500 を超える納入商品が含まれる場合でも、各納入商品の [子納入商品] 関連リストと `Parent Asset`、`Root Asset`、および `Asset Level` 項目を参照できます。

納入商品階層の特定の要素に対するアクセス権がない場合には、次のようになります。

- 項目レベルセキュリティ設定によって、納入商品階層ビューの特定の項目へのアクセスを禁止されている場合、列タイトルに項目名は表示されますが、列は空白になります。
- 共有設定によって、現在の納入商品の階層で下位にある納入商品の表示を禁止されている場合、禁止された納入商品は階層ビューに表示されません。

- 共有設定によって、現在の納入商品の階層で上位にある納入商品の表示を禁止されている場合、エラーが表示され、その納入商品階層を表示できません。レコード共有設定は子レコードにも適用されます。

納入商品階層ビュー内で検索または編集を行うことはできません。また、Salesforce Classic、コミュニティ、Salesforce モバイル Web、Salesforce for Android/iOS、Field Service Lightning モバイルアプリケーションでは納入商品階層ビューを使用できません。

CTI: 新しい初期化メソッドとクリック-To-ダイヤルコンポーネント

Lightning Experience では、`notifyInitializationComplete()` メソッドを使用できるようになりました。また、クリック-To-ダイヤル Lightning コンポーネントも導入されます。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

lightning:clickToDial コンポーネントを使用したクリック-To-ダイヤル電話番号の作成
開発者とパートナーは、Lightning ページおよびアプリケーションで Lightning コンポーネント `lightning:clickToDial` を使用して、Open CTI、Salesforce Voice、およびその他の CTI プロバイダを通じて電話を発信できます。電話番号がページに表示されたら、エージェントはその番号をクリックするだけでダイヤルできます。このコンポーネントは、Visualforce ページで使用される `support:clickToDial` コンポーネントと似ています。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Lightning Experience で使用できる Open CTI の notifyInitializationComplete メソッド
以前は、Open CTI の `notifyInitializationComplete()` メソッドは Salesforce Classic でのみ使用できました。Salesforce Classic での動作とは少し異なることに注意してください。

`lightning:clickToDial` コンポーネントを使用したクリック-To-ダイヤル電話番号の作成

開発者とパートナーは、Lightning ページおよびアプリケーションで Lightning コンポーネント `lightning:clickToDial` を使用して、Open CTI、Salesforce Voice、およびその他の CTI プロバイダを通じて電話を発信できます。電話番号がページに表示されたら、エージェントはその番号をクリックするだけでダイヤルできます。このコンポーネントは、Visualforce ページで使用される `support:clickToDial` コンポーネントと似ています。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

コンポーネントを使用するときは、次の点に留意してください。

- `lightning:clickToDial` コンポーネントでは、`enableClickToDial`、`disableClickToDial`、`onClickToDial` など、Open CTI の既存のクリック-to-ダイヤルコマンドが優先されます。
- このコンポーネントはどの Lightning Experience アプリケーションのどの Lightning ページにも追加できます。
- このコンポーネントは iFrame をサポートしないため、電話ユーティリティなどのユーティリティや、iFrame でホストされる Lightning Out アプリケーションではこのコンポーネントを使用できません。

実際の `lightning:clickToDial` コンポーネントを次に示します。

(415) 555-5555

関連トピック:

新規追加または変更された Lightning コンポーネント
Lightning コンポーネント開発者ガイド

Lightning Experience で使用できる Open CTI の `notifyInitializationComplete` メソッド

以前は、Open CTI の `notifyInitializationComplete()` メソッドは Salesforce Classic でのみ使用できました。Salesforce Classic での動作とは少し異なることに注意してください。

詳細は、「Open CTI API」を参照してください。

ソーシャルカスタマーサービス: 新しいサービスプロフェッショナルアドオンおよびソーシャルビジネスルール設定

サービスプロフェッショナルアドオンを使用して、以前よりも多くのソーシャルアカウントを追加します。[ソーシャルビジネスルール] 設定ページを使用して、すぐにソーシャルカスタマーサービスを開始できます。サポートエージェントは、ソーシャル投稿に画像添付ファイルを追加できるようになりました。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience

ソーシャルカスタマーサービスを使用可能なエディション: API が有効になっている **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

ソーシャルカスタマーサービスプロフェッショナルアドオンによるソーシャル活動の活発化

最大 10 件のソーシャルアカウントを組織に追加して、顧客のお気に入りのソーシャルメディアチャネルを追跡、監視したり、それらにレスポンスしたりできます。 この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

ソーシャルビジネスルールによる短時間でのソーシャルサービス設定

ソーシャルカスタマーサービスの設定が簡単になりました。ソーシャルビジネスルール設定ページを使用して、Twitter や Facebook、Instagram など、チャネルでのソーシャル活動を活発にするためにチームをサポートできます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

ソーシャル投稿への画像添付で顧客をサポート

Twitter または Facebook で顧客向けに画像を投稿します。詳細な説明や素敵な写真をソーシャルメディアでの会話に追加します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

ケースフィードで画像添付ファイルのプレビュー

ソーシャル投稿の複数の添付ファイルをケースフィード内でプレビューします。ケースから離れずに、添付ファイルの詳細を表示します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Facebook コメントと返信を非表示にして顧客を非公開でサポート

サポートエージェントは、顧客をサポートしている間、受信コメントまたは返信を簡単に非表示にして一般公開されないようにできます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

顧客の詳細を表示する項目をソーシャル人格に追加

深くケースを理解し、問題を迅速に解決するために、ケースに顧客の詳細を表示します。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

ボタンとテキストの Radian6 から Social Studio への移行

Salesforce ユーザインターフェースでは Radian6 の代わりに Social Studio を使用します。ソーシャルカスタマーサービスをオンにすると、たとえば、**[Radian6 のログイン情報]** という名前であったボタンが **[Social Studio のログイン情報]** という名前になります。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

ソーシャルカスタマーサービスプロフェッショナルアドオンによるソーシャル活動の活発化

最大 10 件のソーシャルアカウントを組織に追加して、顧客のお気に入りのソーシャルメディアチャネルを追跡、監視したり、それらにレスポンスしたりできます。 この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

これまでは Starter Pack で Twitter および Facebook の最大 2 件のソーシャルアカウントを追加できましたが、ソーシャルカスタマーサービスプロフェッショナルアドオンでは、サポートエージェントがアクセスできるソーシャルアカウントの数を増やし、Instagram や、ウェイボー (パイロット)、Google+ (パイロット) での存在感を高めることができます。

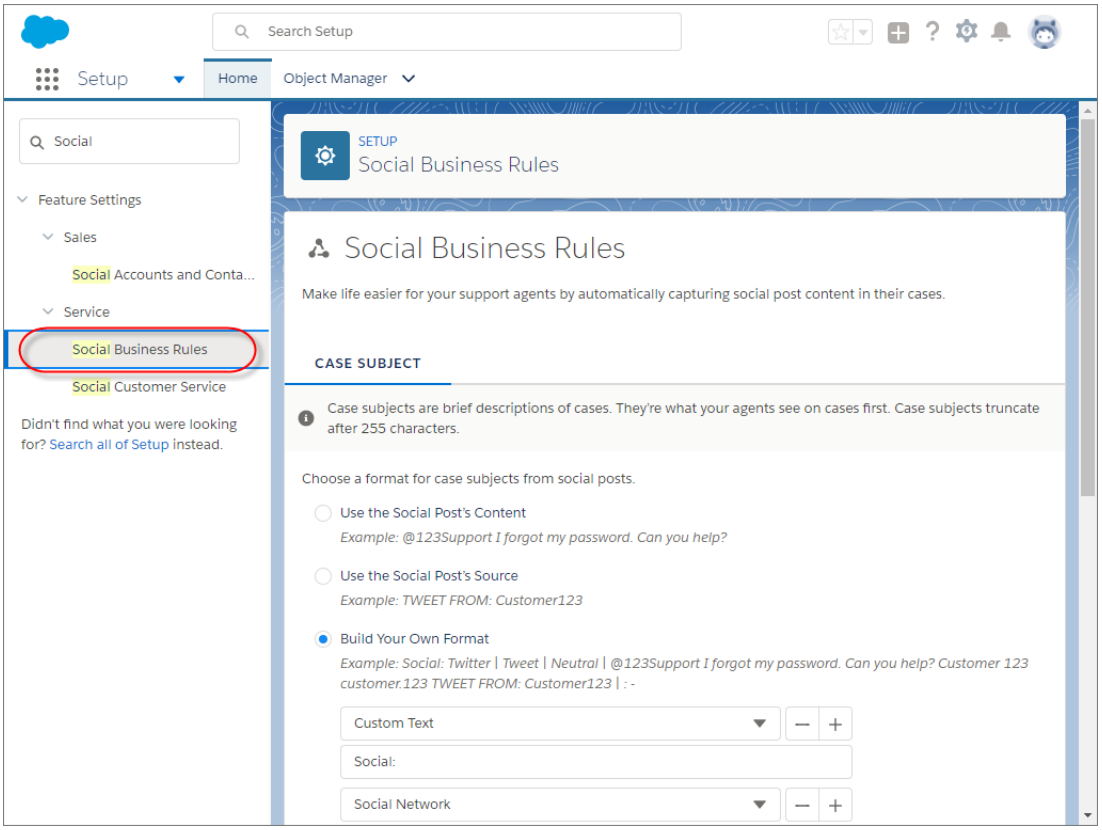
ソーシャルカスタマーサービスプロフェッショナルは、ソーシャルカスタマーサービスが使用できるすべてのエディションで有料オプションとして使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

ソーシャルカスタマーサービスプロフェッショナルは、2017 年10月中旬からご利用いただけます。

ソーシャルビジネスルールによる短時間でのソーシャルサービス設定

ソーシャルカスタマーサービスの設定が簡単になりました。ソーシャルビジネスルール設定ページを使用して、Twitter や Facebook、Instagram など、チャネルでのソーシャル活動を活発にするためにチームをサポートできます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

ソーシャルビジネスルールで、ソーシャルチャネルからの受信投稿を Salesforce で処理する方法が自動化されます。Apex でコードを作成するのではなく、設定の[ソーシャルビジネスルール]をクリックして開始できます。



ソーシャルカスタマーサービスを有効にすると、デフォルトのApexクラスを更新することなく、受信ソーシャルコンテンツをケースの[件名]にどのようにフォーマットするのかを選択できます。ポイント&クリックツールを使用して、フォーマットをカスタマイズすることもできます。

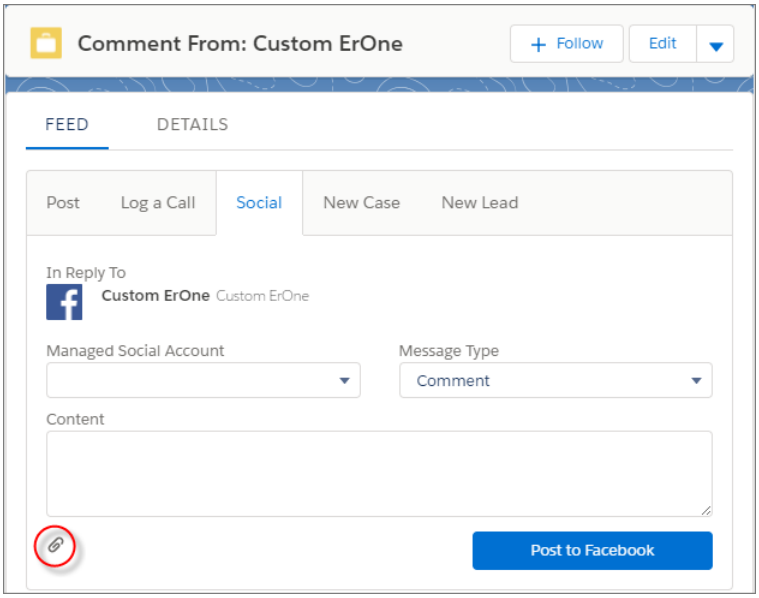
関連トピック:

*Salesforce*ヘルプ:ソーシャル投稿からのケースコンテンツのフォーマット(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ソーシャル投稿への画像添付で顧客をサポート

Twitterまたは Facebookで顧客向けに画像を投稿します。詳細な説明や素敵な写真をソーシャルメディアでの会話に追加します。この変更は Lightning Experienceにのみ適用されます。

ソーシャルカスタマーサービスで作成されたケースの[ソーシャル]タブで添付ファイルアイコンをクリックして、ブラウザまたは Salesforceから画像をアップロードします。文章を入力し、[ツイート]または[Facebookに投稿]をクリックします。



最大 5 MB のファイルを添付できます。外部の場所 (Google ドライブや Facebook Messenger など) にあるファイルは、添付として投稿できません。画像添付ファイルは、ファイル名や拡張子ではなく、ソーシャル投稿にプレビューとして表示されます。Salesforce for Android、Salesforce for iOS、または Salesforce モバイル Web からソーシャル投稿にファイルを添付することはできません。

重要: 顧客からの添付ファイルをエージェントが誤って投稿しないようにするために、エージェントのソーシャルカスタマーサービス設定の受信設定が [ユーザとして Apex を実行] とならないようにしてください。この措置によって、エージェントは[ファイルを選択]ボックスで顧客の添付を表示または選択できなくなります。「ソーシャルカスタマーサービスの有効化」を参照してください。

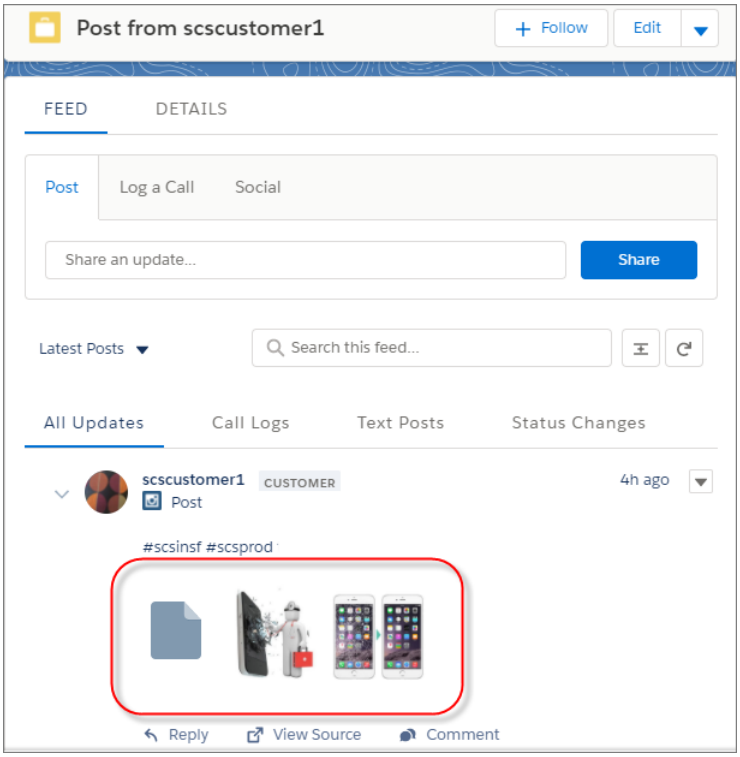
関連トピック:

IdeaExchange: Send Images on Outbound Social Posts (送信ソーシャル投稿での画像の送信)

ケースフィードで画像添付ファイルのプレビュー

ソーシャル投稿の複数の添付ファイルをケースフィード内でプレビューします。ケースから離れずに、添付ファイルの詳細を表示します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

添付ファイルはサムネイルとして表示され、クリックすると全画面表示に拡大されます。



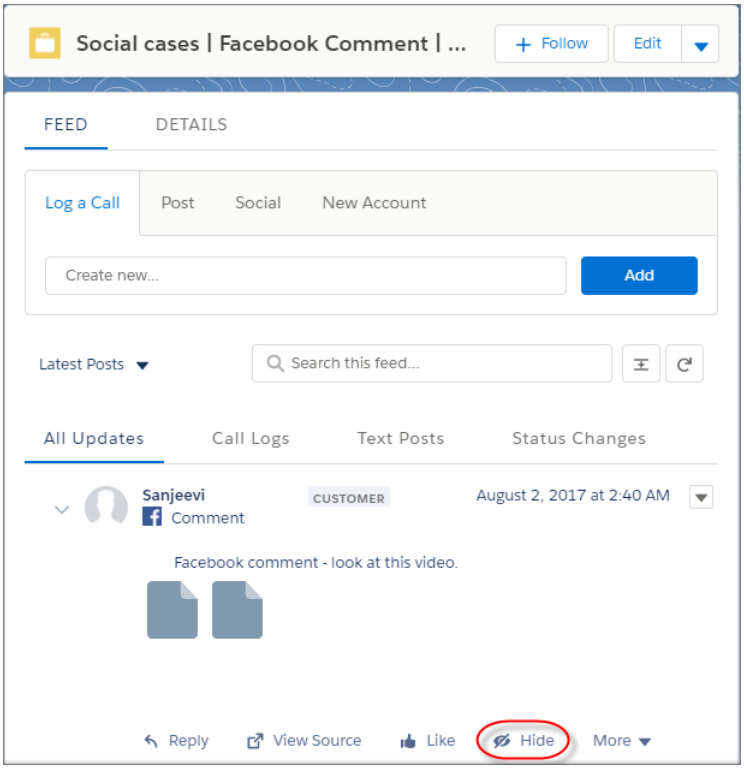
Summer '17 で作成されたソーシャル投稿の画像添付ファイルは、サムネイルや全画面表示ではなく、ケース関連リストに表示されます。

メモ: カスタム Apex を使用してソーシャル投稿からレコードを作成する場合、受信レコードの添付ファイルをサポートするには、Apex コードの更新が必要となる場合があります。コードサンプルは、*ナレッジ記事*「ソーシャルカスタマーサービスのケースフィードに複数の添付ファイルが表示されない」を参照してください。

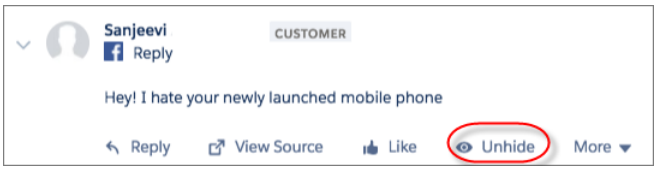
Facebook コメントと返信を非表示にして顧客を非公開でサポート

サポートエージェントは、顧客をサポートしている間、受信コメントまたは返信を簡単に非表示にして一般公開されないようにできます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

ソーシャルカスタマーサービスから作成されたケースのフィードで、[非表示] をクリックします。



コメントまたは返信は非表示になりますが、ソーシャル投稿には引き続き返信できます。コメントまたは返信を再び公開するには、[再表示] をクリックします。



顧客の詳細を表示する項目をソーシャル人格に追加

深くケースを理解し、問題を迅速に解決するために、ケースに顧客の詳細を表示します。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Twitter や Facebook などのソーシャルネットワークから詳細な顧客情報をケースに転送するには、ソーシャル人格ページレイアウトに次の 3 つの項目を追加します。

- 検証済み
- インフルエンサースコア
- 著者ラベル

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ソーシャル人格の管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ボタンとテキストの Radian6 から Social Studio への移行

Salesforce ユーザインターフェースでは Radian6 の代わりに Social Studio を使用します。ソーシャルカスタマーサービスをオンにすると、たとえば、**[Radian6 のログイン情報]** という名前であったボタンが **[Social Studio のログイン情報]** という名前になります。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Social Studio は、Salesforce が買収した Radian6、Buddy Media、ExactTarget を基盤とする、優れたソーシャルメディアとマーケティングソリューションのプラットフォームです。

Service Cloud のその他の変更

Service Cloud に加えられたその他の変更について説明します。

このセクションの内容:

Chatter アンサーは Spring '18 で廃止
Chatter アンサーの引退がいよいよ近づいてきました。差し迫った質問への回答を検索するお手伝いを長年誠実に行ってきたサービスですが、Chatter アンサーは Spring '18 をもって廃止になります。Salesforce で、Chatter アンサーはサポートされなくなり、Chatter アンサーで既存の Chatter アンサーデータについての投稿、回答、コメント、および表示はできなくなります。セルフサービスのマントを担う、準備が整った熱意ある新しいサービス、Chatter の質問へ Chatter アンサーはトーチを渡します。

Lightning Sync 用に Service Cloud ライセンスのユーザを設定
Lightning Sync は、Service Cloud および Force.com ユーザライセンスで使用できます。どのオブジェクトが使用できるライセンスなのかに応じて、営業担当は、取引先責任者や行動を Microsoft® またはグーグルアプリケーションと Salesforce との間で同期できます。この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

Chatter アンサーは Spring '18 で廃止

Chatter アンサーの引退がいよいよ近づいてきました。差し迫った質問への回答を検索するお手伝いを長年誠実に行ってきたサービスですが、Chatter アンサーは Spring '18 をもって廃止になります。Salesforce で、Chatter アンサーはサポートされなくなり、Chatter アンサーで既存の Chatter アンサーデータについての投稿、回答、コメント、および表示はできなくなります。セルフサービスのマントを担う、準備が整った熱意ある新しいサービス、Chatter の質問へ Chatter アンサーはトーチを渡します。

詳細は、「Chatter アンサーは Spring '18 で廃止」を参照してください。

Lightning Sync 用に Service Cloud ライセンスのユーザを設定

Lightning Sync は、Service Cloud および Force.com ユーザライセンスで使用できます。どのオブジェクトが使用できるライセンスなのかに応じて、営業担当は、取引先責任者や行動を Microsoft® またはグーグルアプリケーションと Salesforce との間で同期できます。この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Sync (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Sync ユーザライセンスサポート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Analytics: レポートとダッシュボード、および Einstein Analytics

このリリースで導入される Lightning レポートビルダーにより、レポートの作成が楽しく (ユーザの見方によってはもっと楽しく) なります。また、Einstein Analytics (旧 Wave) によってスマート機能が追加されます。これには、簡略化され、より直観的になったアプリケーション作成、グラフの提案、Einstein Discovery ストーリー改善機能などがあります。

このセクションの内容:

レポートおよびダッシュボード: Lightning レポートビルダー (ベータ)、拡張フォルダ共有、Lightning ダッシュボードテーブル (ベータ)

新しい時代の幕開けです。次世代の Salesforce レポートである Lightning レポートビルダー (ベータ) が導入されました。他にも様々な新機能が目白押しです。拡張フォルダ共有、Quip でレポートを開く機能、Lightning ダッシュボードテーブル (ベータ)、埋め込みダッシュボード、多数のグラフ機能の強化が一斉に導入されました。Lightning Experience でビジネスを分析するには、今が絶好のときです。

Einstein Analytics: スマート探索、グローバル検索条件、アップロードウィザード

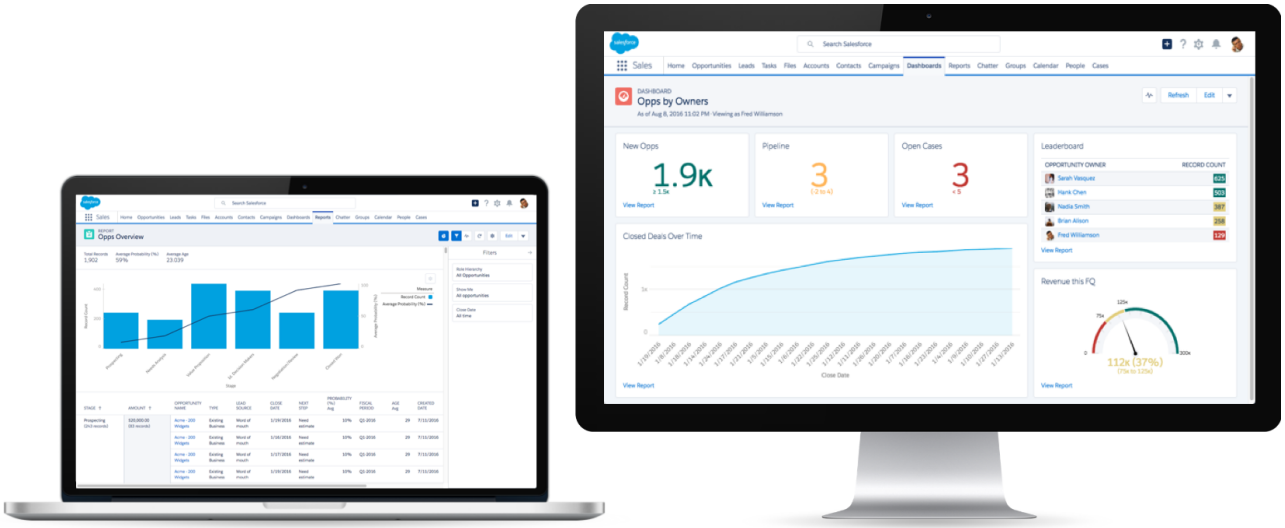
Einstein Analytics は、ビジネスユーザ、システム管理者、開発者が簡単に分析を行えるように設計されました。今回のリリースからご使用いただけます。データをすばやく理解し、探索ウィンドウのより直観的でスマートなインターフェースを使用して最適な視覚化を見つけることができます。グローバル検索条件でクエリを最適化することで、ダッシュボードのパフォーマンスが大幅に向上します。アップロードウィザードを使用すると、データをアップロードする前にファイルプロパティと項目属性を表示して変更できます。

レポートおよびダッシュボード: Lightning レポートビルダー (ベータ)、拡張フォルダ共有、Lightning ダッシュボードテーブル (ベータ)

新しい時代の幕開けです。次世代の Salesforce レポートである Lightning レポートビルダー (ベータ) が導入されました。他にも様々な新機能が目白押しです。拡張フォルダ共有、Quip でレポートを開く機能、Lightning ダッシュボードテーブル (ベータ)、埋め込みダッシュボード、多数のグラフ機能の強化が一斉に導入されました。Lightning Experience でビジネスを分析するには、今が絶好のときです。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



このセクションの内容:

Lightning レポートビルダーの登場でレポート作成が一新 (ベータ)

すぐに新しい Lightning レポートビルダーを有効化して、Salesforce データを分析する強力で直観的なツールをユーザに提供しましょう。レコードをグループ化、絞り込み、集計し、「南東部の前四半期の収益はどれぐらいあったか?」、「最も多く完了した商談を生み出しているリードソースはどれか?」、「すべてのオープンケースの平均経過時間はどれぐらいか?」などのビジネスに関する質問への回答を得ます。これは、Lightning Experience の新機能です。

Quip でレポートを開く

Quip スプレッドシート内の接続済みレポートデータを操作して、Quip の頻繁に更新されるドキュメントを最大限に活用します。さらに、Quip の生産性機能を使用して、同僚に @メンションし、リアルタイムのディスカッションスレッドでデータについて話し合います。何百ものスプレッドシート関数を利用します。他の Quip ドキュメントにスプレッドシートを追加し、コンテキストにデータを、またはデータにコンテキストを追加します。これは、Lightning Experience の新機能です。

ダッシュボードへの最大 10 列のテーブルの追加 (ベータ)

新しいダッシュボードテーブルコンポーネントの Lightning テーブルには、ソースレポートのレポートタイプで使用可能な項目から最大 200 レコードおよび 10 列が表示されます(項目をソースレポートに列として追加する必要はありません!)。Lightning テーブルを追加して、グラフおよび総計値ベースの概要にレコードごとの詳細を補足します。これは、Lightning Experience の新機能です。

[ホーム] タブと Lightning アプリケーションにダッシュボードを埋め込む

ユーザが作業するページにインサイトが表示されるようにダッシュボードを埋め込みます。たとえば、[ホーム] タブに Sales Pipeline ダッシュボードを追加して、営業チームが Salesforce にログインしたときに、必要な情報が表示されるようにします。埋め込みダッシュボードは、完全に機能し、インタラクティブな操作が可能です。ダッシュボードを更新したり、検索条件を適用したり、グラフ区分をクリックして絞り込まれたレポートにドリルインしたりできます。これは、Lightning Experience の新機能です。

ダッシュボードのグラフ区分をクリックして絞り込まれたレポートを表示

ダッシュボードのグラフに表示されるデータの詳細が必要ですか? グラフ区分、軸ラベル、または凡例をクリックすると、ソースレポートの条件設定済みバージョンが表示されます。レポートが開くと、クリックしたグラフ区分と、適用されたすべてのダッシュボード検索条件が、リンクされた検索条件として表示されます。たとえば、商談パイプラインのじょうごグラフの [Prospecting (見込み客)] 区分をクリックすると、ソースレポートが開き、「フェーズ次の文字列と一致する Prospecting (見込み客)」の検索条件で絞り込まれます。これは、Lightning Experience の新機能です。

Lightning Experience の拡張フォルダ共有の機能をフル活用

Lightning Experience には、レポートとダッシュボードの整理と共有に必要なすべての機能が揃っています。フォルダの作成、共有、名前変更、削除が容易にできるようになりました。もう、Salesforce Classic に切り替える必要はありません! これは、Lightning Experience の新機能です。

Lightning Experience のレポートおよびダッシュボードのグラフの機能強化

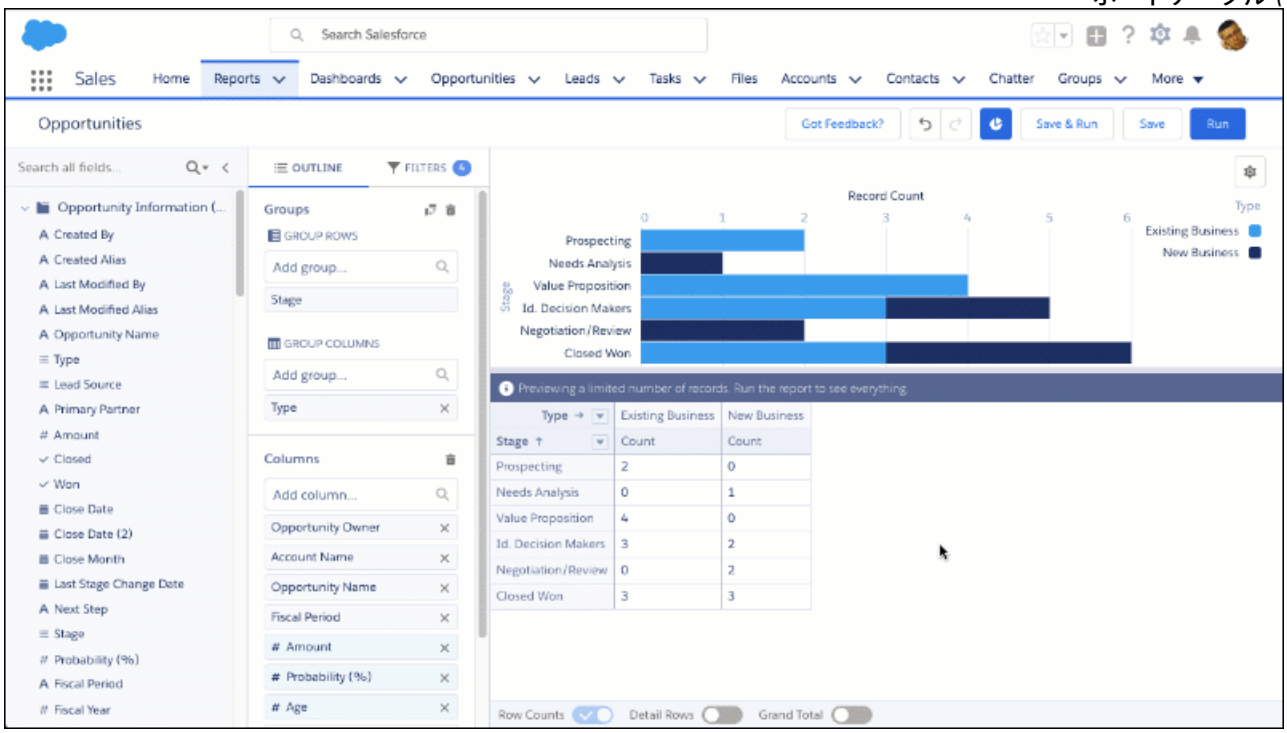
ビジネスデータの視覚化とは、ビジネスデータを理解することです。より見やすくするために、グラフを改善しました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Lightning Experience のレポートおよびダッシュボードのその他の機能強化

このリリースの主要機能に加えて、レポートとダッシュボードにいくつかの小さいながら重要な改善が行われました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Lightning レポートビルダーの登場でレポート作成が一新 (ベータ)

すぐに新しい Lightning レポートビルダーを有効化して、Salesforce データを分析する強力で直観的なツールをユーザに提供しましょう。レコードをグループ化、絞り込み、集計し、「南東部の前四半期の収益はどれぐらいあったか?」、「最も多く完了した商談を生み出しているリードソースはどれか?」、「すべてのオープンケースの平均経過時間はどれぐらいか?」などのビジネスに関する質問への回答を得ます。これは、Lightning Experience の新機能です。



[設定] から Lightning レポートビルダーを有効にします。[クイック検索] ボックスに「*レポートおよびダッシュボードの設定*」と入力し、[レポートおよびダッシュボードの設定]をクリックします。**[Lightning レポートビルダーの有効化(ベータ)]を選択し、[保存]をクリックします。最後に、「レポートビルダー** (Lightning Experience)」**ユーザ権限をユーザに割り当てます。**

メモ: Lightning レポートビルダーは、拡張フォルダ共有を使用する組織でのみ使用できます。Summer '13 より後の Salesforce リリースで作成された組織には、拡張フォルダ共有がすでに存在します。組織で拡張フォルダ共有をまだ使用していない場合、Salesforce ヘルプの「レポートとダッシュボードの拡張共有の有効化」を参照してください。

Lightning レポートビルダーは、Lightning Experience でのみ使用できます。ユーザは、[レポート] タブで [新規レポート] をクリックするか、既存のレポートを編集して、Lightning レポートビルダーを起動できます。権限が付与されていれば、ユーザは Salesforce Lightning と Classic の両方のレポートビルダーを使用してレポートを編集できます。Lightning Experience で Salesforce Classic レポートビルダーにアクセスするには、**[新規レポート (Salesforce Classic)] または [編集 (Salesforce Classic)]** をクリックします。両方のビルダーですべてのレポートを編集でき、Lightning Experience と Salesforce Classic でレポートを参照できます。

Lightning レポートビルダーと Classic レポートビルダーの相違点

Lightning レポートビルダーと Classic レポートビルダーには以下の相違点があります。

機能	相違点
レポート形式	Salesforce Classic レポートビルダーでは、データをグループ化する前にレポート形式を選択する必要があります。 Lightning レポートビルダーでは、レポートデータをグループ化するとレポート形式は自動的に更新され

機能	相違点
	ます。表形式、集計、およびマトリックスレポートをすべて使用できますが、データをグループ化する前に形式を選択することはありません。
グラフ	Lightning レポートビルダーでは、Lightning Experience のレポートビューページと同じグラフが使用されます。
日付項目によるグルーピング時の細分性のカスタマイズ	日付項目でレコードをグルーピングする場合、日付の細分性はカスタマイズできません。 たとえば、商談のレポートタイプでは、[完了日] 項目によるグルーピングは常に日付ごとにレコードをグルーピングし、[完了月] は常に月ごとにレコードをグルーピングします。

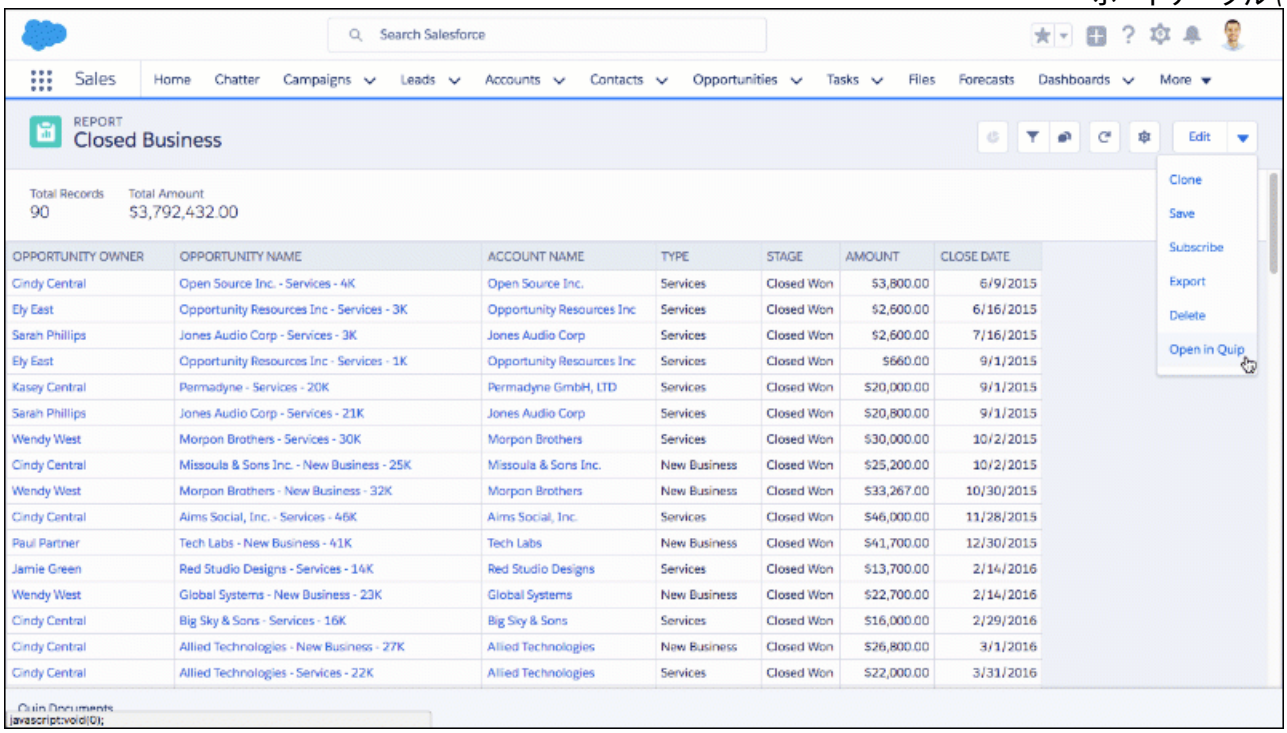
Lightning レポートビルダー (ベータ) で使用できない機能

次の機能は、Lightning レポートビルダーのベータバージョンでは使用できませんが、今後のリリースで実装できるように取り組んでいます。

- 結合レポート
- バケット化
- カスタム集計項目
- クロス条件
- 行制限の検索条件
- ロール階層検索条件
- ダッシュボードの設定メニュー
- レポートのプロパティメニュー

Quip でレポートを開く

Quip スプレッドシート内の接続済みレポートデータを操作して、Quip の頻繁に更新されるドキュメントを最大限に活用します。さらに、Quip の生産性機能を使用して、同僚に @メンションし、リアルタイムのディスカッションスレッドでデータについて話し合います。何百ものスプレッドシート関数を利用します。他の Quip ドキュメントにスプレッドシートを追加し、コンテキストにデータを、またはデータにコンテキストを追加します。これは、Lightning Experience の新機能です。



Quip でレポートデータを操作するには、**[Quip で開く]** をクリックします。プロンプトが表示されたら、Quip にサインインします。

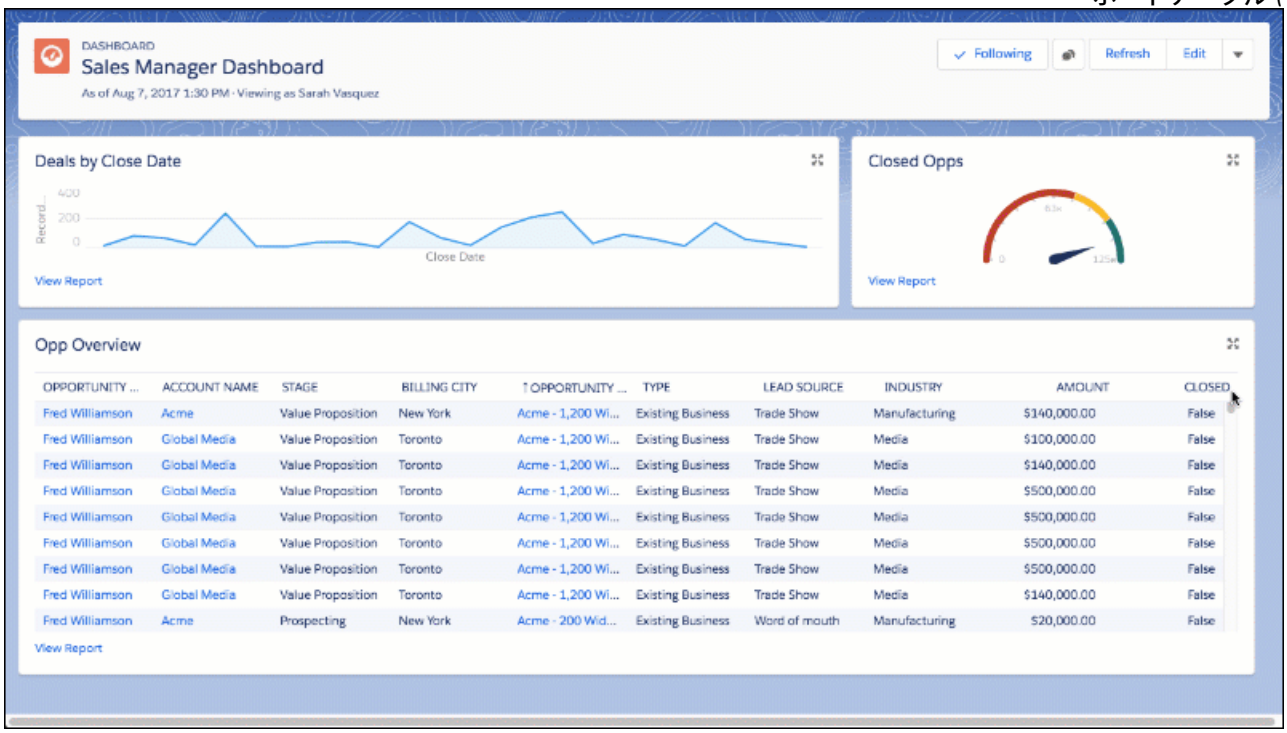
Quip でレポートを開くと、レポートが Quip スプレッドシートに接続されます。接続されると、スプレッドシートは Salesforce から更新済みレポートデータを自動的に取得し、Salesforce のレコードにリンクされます。たとえば、[取引先名] 列は取引先レコードにリンクされます。

Quip スプレッドシート内の接続済みレポートデータを管理するには、[本番データ] をクリックし、接続済み Salesforce レポートの名前にマウスポインタを置きます。[本番データ] メニューから、次の操作を実行できます。

- Salesforce でレポートを開く。
- レポートを手動で更新して Quip の最新データを取得する。
- 自動レポート更新を有効または無効にする。自動更新を有効にすると、スプレッドシートを開くたびに Quip は Salesforce から最新の更新済みレポートデータを取得します。
- Salesforce レポートと Quip スプレッドシート間の接続を削除する。接続を削除しても、Salesforce レポートおよび Quip スプレッドシートは削除されません。

ダッシュボードへの最大 10 列のテーブルの追加 (ベータ)

新しいダッシュボードテーブルコンポーネントの Lightning テーブルには、ソースレポートのレポートタイプで使用可能な項目から最大 200 レコードおよび 10 列が表示されます (項目をソースレポートに列として追加する必要はありません!)。Lightning テーブルを追加して、グラフおよび総計値ベースの概要にレコードごとの詳細を補足します。これは、Lightning Experience の新機能です。



現在、2 種類のテーブルコンポーネントが存在するため、このテーブルコンポーネントの名前を「レガシーテーブル」に変更します。

Lightning テーブルは、デフォルトでダッシュボードビルダーで使用できます。Lightning テーブルをオフにするには、[設定]の[レポートおよびダッシュボードの設定]ページで、**[Lightning ダッシュボードテーブルを有効化 (ベータ)]** をオフにします。

Lightning テーブルは、Salesforce Classic では使用できません。Lightning テーブルを Classic ダッシュボードビルダーから追加できません。また、Salesforce Classic でダッシュボードを表示したときに Lightning テーブルを表示できません。

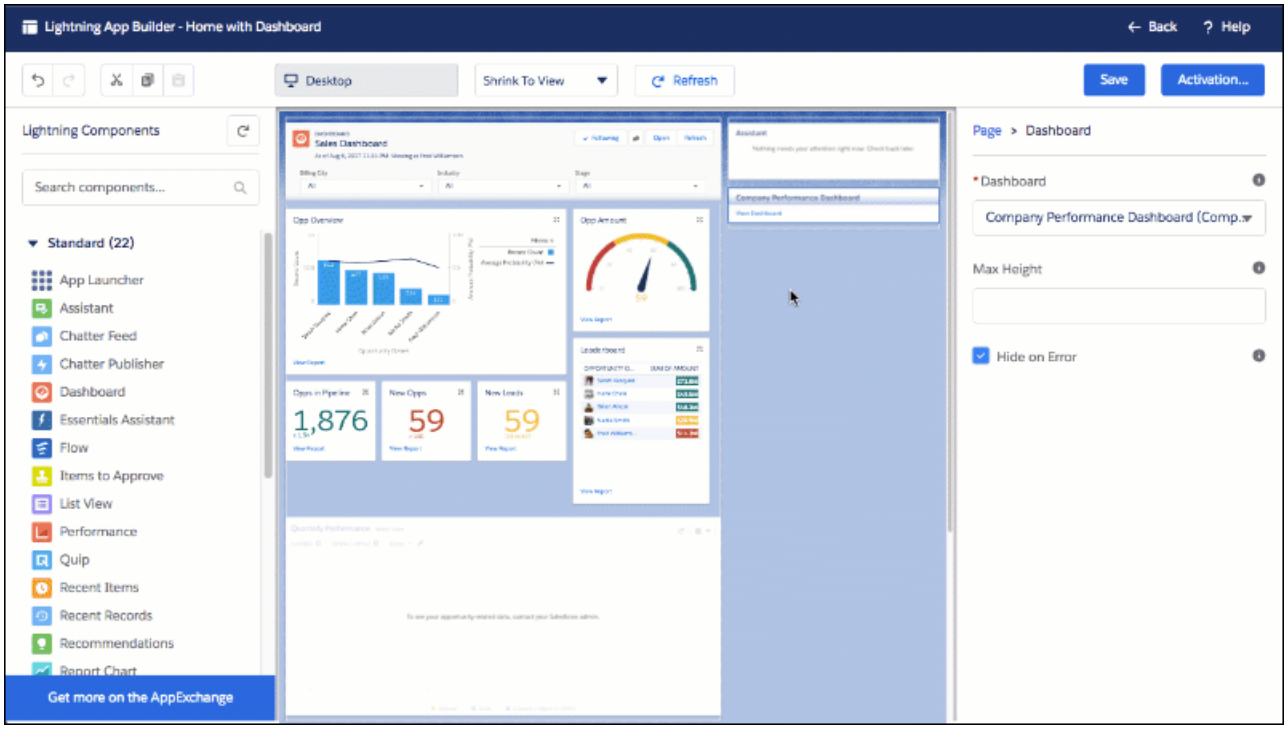
次の機能は、Lightning テーブルのベータバージョンでは使用できませんが、今後のリリースで実装できるように取り組んでいます。

- Chatter 写真
- 条件付き強調表示
- ダッシュボード検索条件は Lightning テーブルには適用されません。

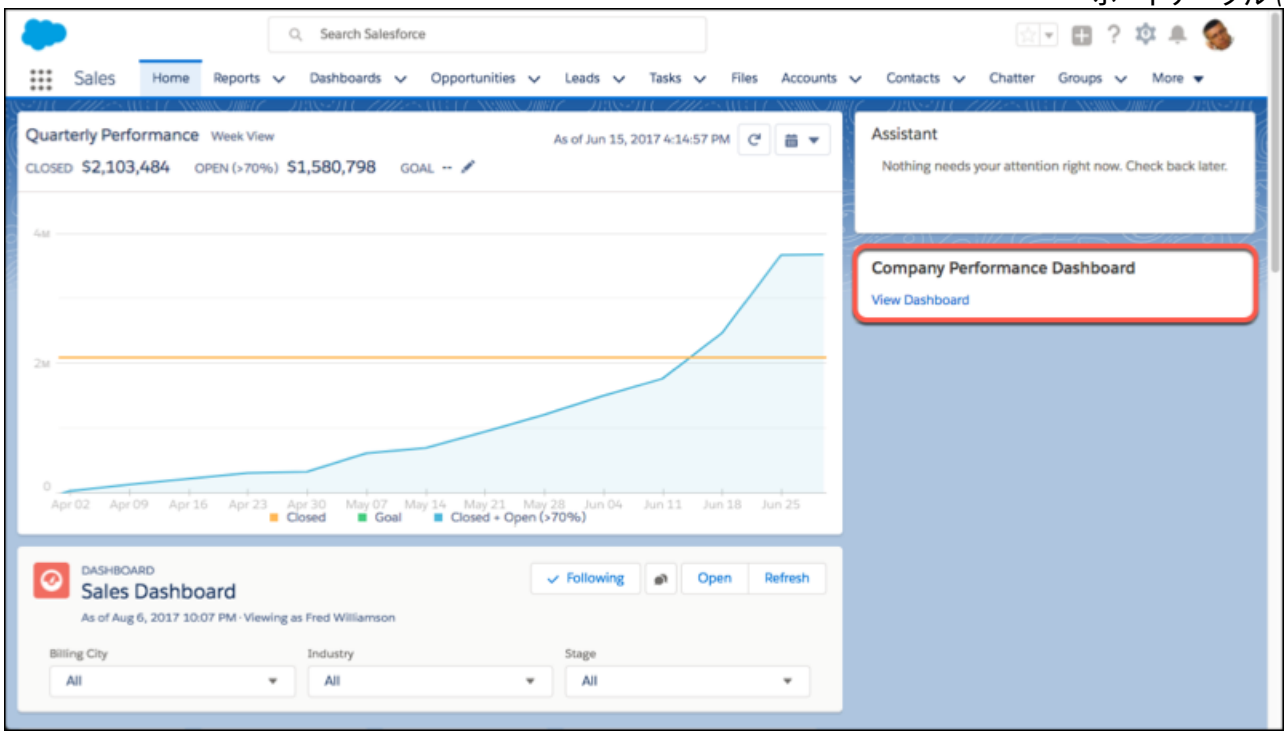
[ホーム] タブと Lightning アプリケーションにダッシュボードを埋め込む

ユーザが作業するページにインサイトが表示されるようにダッシュボードを埋め込みます。たとえば、[ホーム] タブに Sales Pipeline ダッシュボードを追加して、営業チームが Salesforce にログインしたときに、必要な情報が表示されるようにします。埋め込みダッシュボードは、完全に機能し、インタラクティブな操作が可能です。ダッシュボードを更新したり、検索条件を適用したり、グラフ区分をクリックして絞り込まれたレポートにドリルインしたりできます。これは、Lightning Experience の新機能です。

Lightning アプリケーションビルダーを使用してダッシュボードを埋め込みます。[ホーム] タブをカスタマイズするか、Lightningアプリケーションを作成した後、ダッシュボードコンポーネントをドラッグアンドドロップで配置します。埋め込みダッシュボードは、レコードページでは使用できません。

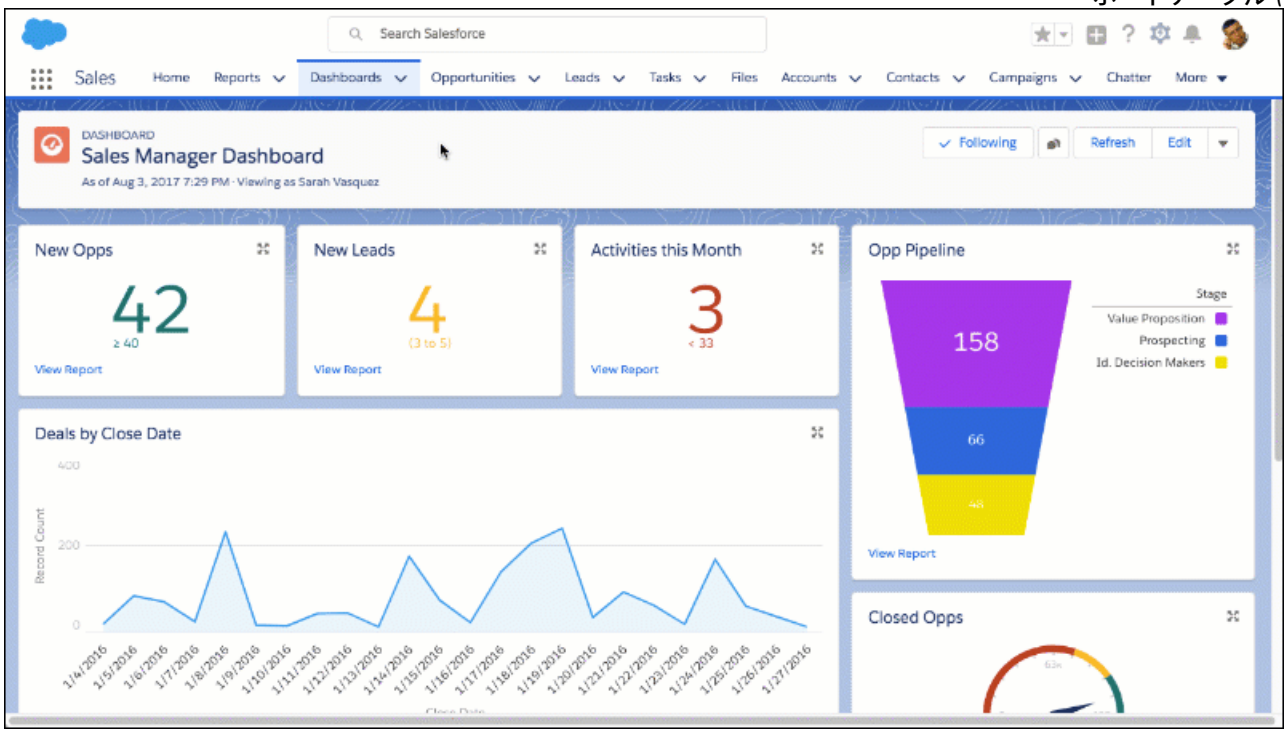


ダッシュボードには、図やテーブルを表示する領域が必要です。小さすぎる領域にダッシュボードを埋め込むと、ダッシュボードは全体ではなく折りたたまれて表示されます。折りたたまれたダッシュボードを開くには、[ダッシュボードを参照] をクリックします。



ダッシュボードのグラフ区分をクリックして絞り込まれたレポートを表示

ダッシュボードのグラフに表示されるデータの詳細が必要ですか?グラフ区分、軸ラベル、または凡例をクリックすると、ソースレポートの条件設定済みバージョンが表示されます。レポートが開くと、クリックしたグラフ区分と、適用されたすべてのダッシュボード検索条件が、リンクされた検索条件として表示されます。たとえば、商談パイプラインのじょうごグラフの[Prospecting(見込み客)]区分をクリックすると、ソースレポートが開き、「フェーズ次の文字列と一致するProspecting(見込み客)」の検索条件で絞り込まれます。これは、Lightning Experienceの新機能です。



条件設定済みソースレポートを新しいタブで開くには、**CTRL** (Windows® の場合) または **Command** (MacOS® の場合) を押しながらグラフ区分をクリックします。

グラフに次のいずれかの種別のデータが表示される場合、ソースレポートは絞り込まれません。

- 暗号化された文字列
- 年-月または月-日の粒度の日付項目

Lightning Experience の拡張フォルダ共有の機能をフル活用

Lightning Experience には、レポートとダッシュボードの整理と共有に必要なすべての機能が揃っています。フォルダの作成、共有、名前変更、削除が容易にできるようになりました。もう、Salesforce Classic に切り替える必要はありません! これは、Lightning Experience の新機能です。

Summer '13 以降に作成した組織がありますか? その場合、準備はできています。拡張フォルダ共有がすでにデフォルトで有効になっています。これよりも古い組織がありますか?拡張フォルダ共有を有効にしてください。

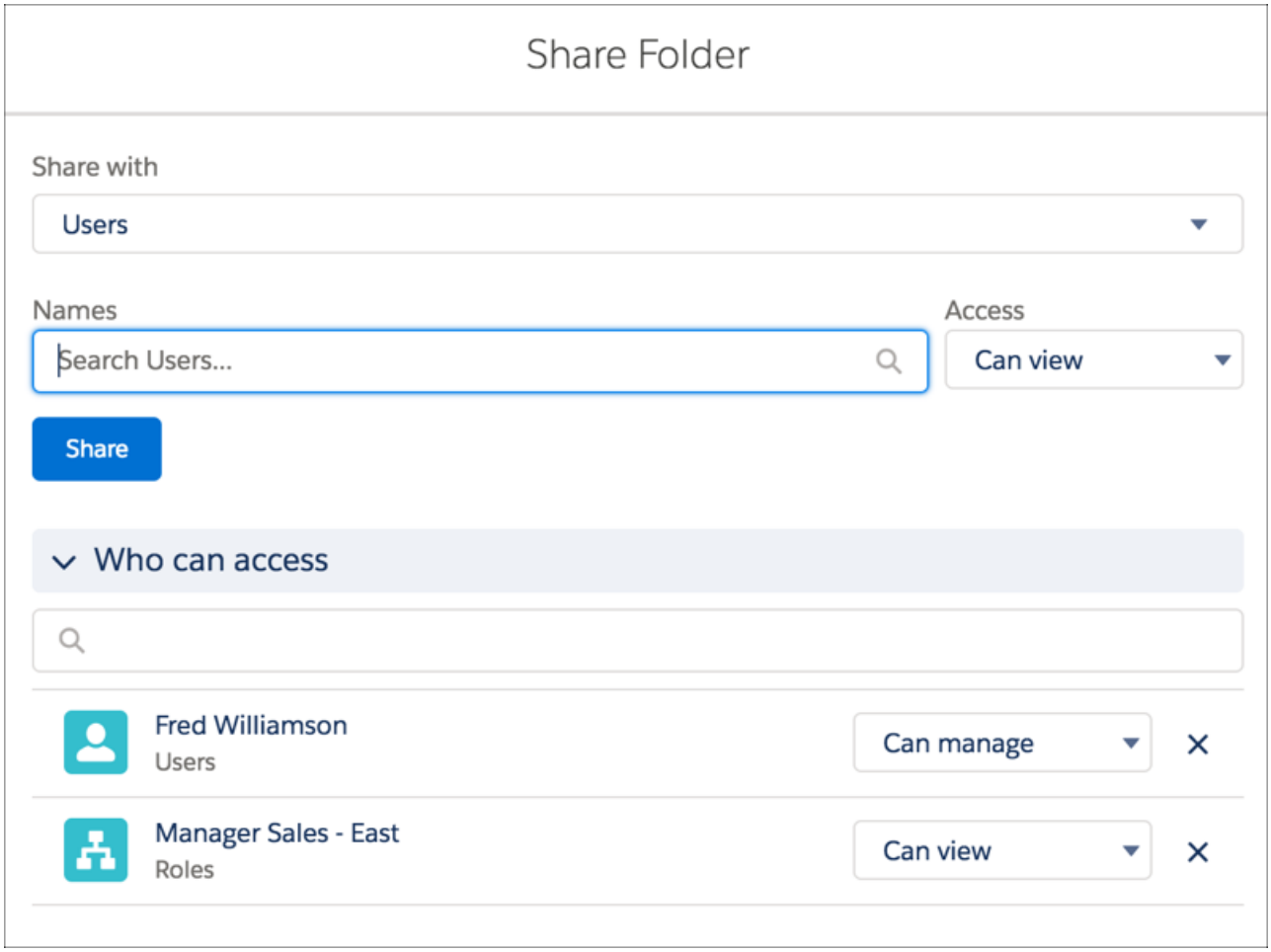
詳細な権限制御と簡単な設定により、フォルダ作業がスムーズになり、ストレスがなくなります。

- ユーザ、グループ、またはロールレベルで、あるいはこれらを組み合わて共有できます。
- フォルダ共有ごとに詳細なアクセスレベルを設定できます。
- 特定のレポートおよびダッシュボードフォルダに誰がアクセスできるかをすべてのユーザが確認できます。

また、あらゆるニーズに対応するアクセスレベルがあります。

- 閲覧者。フォルダ内のレポートまたはダッシュボードを表示したり、フォルダに対して誰がどのレベルのアクセス権を持っているかを確認したりできます。
- エディタ。すべての閲覧者アクセス権を持つのに加えて、レポートまたはダッシュボードをフォルダに保存できます。

- マネージャ。閲覧者とエディタのすべてのアクセス権を持つのに加えて、フォルダの名前変更、フォルダの削除、共有の編集、共有の削除、共有の停止ができます。



では、Summer '13 よりも前の組織と従来のフォルダ共有があり、レポートとダッシュボードの権限を再割り当てしたくない場合はどうでしょうか?心配は無用です。従来のフォルダ共有は引き続き利用できます。ただし、この機能は Salesforce Classic でのみ提供されます。従来のフォルダ共有を使用する場合、ユーザが何を参照できるかと、フォルダで何ができるかは Salesforce が決定します。

- また、Salesforce は各ユーザに対してフォルダのアクセス権および表示方法 (参照のみまたは参照・更新) を決定します。
- 参照のみ:ユーザがフォルダを参照できる場合、ユーザはそのフォルダに保存されているすべてのレポートを表示して実行できます。
- 参照・更新:フォルダに対する参照・更新権限を持つユーザは、その特定のフォルダにレポートを保存できます。レポートを保存する場合、書き込み権限のあるレポートフォルダが表示されます。

また、Analytics レポートとダッシュボードの独自の領域で、レポートとダッシュボードフォルダに関するすべてのヘルプトピックを確認できるようになりました。

Lightning Experience のレポートおよびダッシュボードのグラフの機能強化

ビジネスデータの視覚化とは、ビジネスデータを理解することです。より見やすくするために、グラフを改善しました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

ダッシュボードの折れ線グラフと棒グラフに最大 500 グループを表示

累積折れ線グラフと積み上げ横棒グラフを含め、折れ線グラフと棒グラフに表示されるグループ数を 200 から 500 に増やしました。その他の種類のグラフには引き続き 200 グループが表示されます。この変更は Summer '17 パッチで導入されました。

ダッシュボードコンポーネントの横棒グラフと積み上げ横棒グラフに最大 4 個の基準を追加

4個の基準を表示するには、コンポーネントのソースレポートで4個の基準が使用されている必要があります。横棒グラフと積み上げ横棒グラフでは、引き続き最大 2 つのグループまたは最大 2 個の基準がサポートされますが、両方同時にはサポートされません。複数のグループを表示する場合、複数の基準は表示できません。また、その逆も同様です。

折れ線グラフに 2 番目の折れ線を追加

ダッシュボードコンポーネントの折れ線グラフでは、最大2個の基準がサポートされるようになりました。2 番目の基準は、2 番目の折れ線として描画されます。2 個の基準を表示するには、コンポーネントのソースレポートで 2 個の基準が使用されている必要があります。

Lightning ダッシュボードビルダーで従来のテーブルに Chatter 写真を追加

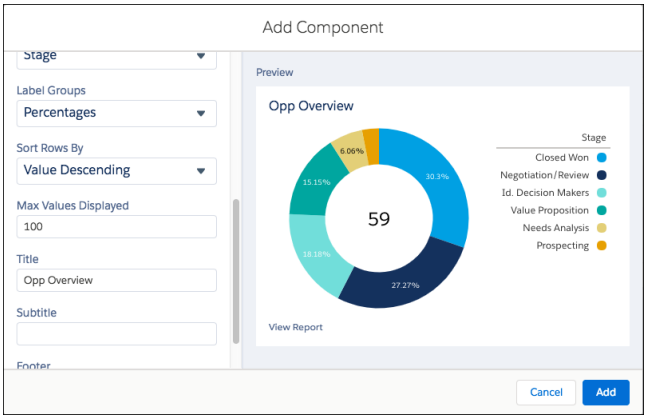
Lightning Experience 全体のランキング表。朗報です! ダッシュボード編集者は、従来のテーブルの Chatter プロファイル写真を表示して、Lightning Experience にランキング表を作成できるようになりました。以前は、Salesforce Classic で設定されている場合に、従来のテーブルに Chatter 写真が表示されました。これを Lightning Experience で設定できるようになりました。Chatter 写真は [コンポーネントの追加] プレビューウィンドウには表示されませんが、ダッシュボードを保存すると表示されます。

Lightning ダッシュボードビルダーで従来のテーブルに条件付き強調表示を追加

従来のテーブルに条件付き強調表示を表示して、良い点、悪い点、その他の特徴を示します。以前は、Salesforce Classic で設定されている場合に、従来のテーブルに条件付き強調表示が表示されました。これを Lightning Experience で設定できるようになりました。

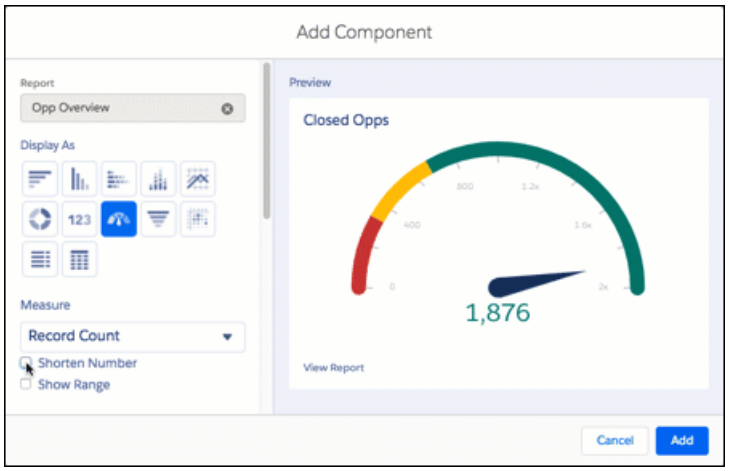
ドーナツグラフに値またはパーセンテージを表示

ドーナツグラフのグループに、実際の値またはパーセンテージのラベルを表示します。



総計値およびゲージグラフ数値を完全表示/短縮表示、値の範囲を表示/非表示

数値を短縮して表示領域が小さい近似値を表示 (たとえば、1,876 が 1.9k になる) するか、桁数が正確な完全な数値を表示します。データの詳しいコンテキストを提供する場合は値の範囲を表示し、数値自体を重視する場合は非表示にします。



デザイン変更されたグラフアイコンで作業効率を向上

ダッシュボードコンポーネントまたはレポートグラフを追加するためのグラフアイコンのデザインを変更しました。デフォルトの状態 (1)、フロート表示の状態 (2)、選択済みの状態 (3)、利用不可の状態 (4) の新しいアイコンを次に示します。

データ制限に達したことを示す

レポートに多くのグループが含まれている場合など、ソースレポートのすべての情報をダッシュボードコンポーネントに表示できないことがあります。グラフに限定的なデータが表示されていることをより明らかに示すようにしました。

Lightning Experience のレポートおよびダッシュボードのその他の機能強化

このリリースの主要機能に加えて、レポートとダッシュボードにいくつかの小さいながら重要な改善が行われました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

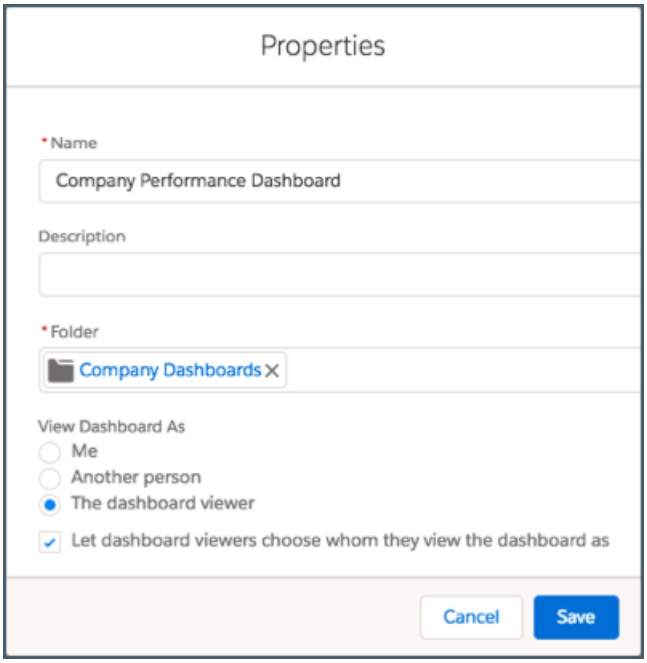
明確にするために拡張されたダッシュボードのプロパティメニュー

ダッシュボードのプロパティメニューの[次のユーザとしてダッシュボードを参照]セクションで、オプションの名前が変更され、分かりやすくなりました。以前のオプションは次のとおりです。

- 自分
- 指定したユーザ
- ログインしたユーザ
- ダッシュボード閲覧者にこの変更を許可 (動的ダッシュボード)

これらのオプションは次のようになりました。

- 自分
- 別のユーザ
- ダッシュボード閲覧者
- ダッシュボード閲覧者がダッシュボードの表示ユーザを選択できるようにする



埋め込みレポートグラフのソースレポートを表示

レコードページまたはLightningアプリケーションに埋め込まれたレポートグラフを表示しているユーザは、[レポートの表示] をクリックしてグラフのソースレポートを開くことができます。

相対日付でダッシュボードを絞り込む

「昨日」、*「先週」*、*「翌会計四半期」*、*「翌 30 日」*などの値に基づいてダッシュボードコンポーネントを絞り込む場合は、条件値を編集し、[データ型] で [相対] を選択します。

ダッシュボードの表示ユーザが無効な場合に表示ユーザを変更

以前は、ダッシュボードの表示ユーザが無効な場合、Salesforce Classic でのみ表示ユーザを変更できました。現在は、Lightning Experience からダッシュボードエディタは無効なユーザを有効なユーザに置き換えることができます。

Einstein Analytics: スマート探索、グローバル検索条件、アップロードウィザード

Einstein Analytics は、ビジネスユーザ、システム管理者、開発者が簡単に分析を行えるように設計されました。今回のリリースからご使用いただけます。データをすばやく理解し、探索ウィンドウのより直観的でスマートなインターフェースを使用して最適な視覚化を見つけることができます。グローバル検索条件でクエリを最適化することで、ダッシュボードのパフォーマンスが大幅に向上します。アップロードウィザードを使用すると、データをアップロードする前にファイルプロパティと項目属性を表示して変更できます。

エディション

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition。**Developer** Edition でも使用可能。

メモ: Einstein Analytics でサポートされるブラウザは、Microsoft® Edge、Microsoft Internet Explorer® バージョン 11、および Mozilla® Firefox® と Google Chrome™ の最新の安定バージョンです。Apple® Safari® では Analytics はサポートされません。

このセクションの内容:

Wave Analytics が Einstein Analytics に改称

Wave Analytics ブランドが Einstein Analytics という名称になりました。Einstein Analytics Platform、事前作成済みアプリケーション、および Einstein Discovery (Einstein Data Discovery から改称) という複数の製品が含まれています。事前作成済みアプリケーション、権限セットライセンス、およびユーザ権限も名前が変更されました。Summer '17 から Winter '18 にかけて、製品とドキュメント全体に新しい名前が適用されました。

Analytics の事前作成済みアプリケーション: アプリケーションの作成の迅速な可視化、Einstein インテグレーション、柔軟性の高い設定

事前作成済みアプリケーションは、リリースごとによりスマートで使いやすくなっています。すべてのアプリケーションの作成状況ページにステップごとの進行状況が表示されるようになり、Sales Analytics に Sales Cloud Einstein インテグレーションが組み込まれ、Service Analytics の設定の柔軟性と信頼性が高まり、Field Service Analytics に 2 つの新しい埋め込み可能なダッシュボードが追加されました。

Analytics ホーム: グローバル検索、Lightning Experience

Lightning Experience の Analytics ホームでは、アセットの検索と整理、さまざまなチーム向けのインサイトのキュレーションと提供が容易になりました。

Analytics の探索と視覚化: テーブルスタイル、簡単な列の並び替え、データセット項目の制御

テーブル用の新規プロパティおよび機能、データセット項目の表示、スマートなグラフの提案など、より直感的になったエクスプローラウィンドウを使用してすばやくデータを理解できます。

Analytics ダッシュボード設計: パフォーマンスを改善するための推奨事項、ページ、ステップと検索条件へのアクセスの簡易化

ダッシュボードページのウィジェット、ステップ、およびグローバル検索条件を共有して、迅速に作成できます。ステップを再作成せずに編集して、時間を節約できます。ダッシュボードをより小さいページに分割し、ダッシュボードインスペクタで推奨される変更を実装して、ダッシュボードのパフォーマンスを最適化できます。

Analytics データインテグレーション: アップロードウィザード、新しいコネクタ、データを準備するためのスマート提案

データフローエディタ、データセット編集ページ、および複製設定ページの機能強化により、Analyticsへのデータインテグレーションが容易になりました。新しいアップロードウィザードを使用すると、データをアップロードする前にファイルプロパティと項目属性を表示して変更できます。データセットビルダーでは、データフローを選択して新しいデータフローを作成できます。

Analytics Einstein Discovery: より多くのデータへのアクセス、的確なストーリー

Einstein Discoveryの新機能により、誰でもさらに容易にデータサイエンスの力を引き出すことができます。統計分析と予測分析で、回答、説明、およびおすすめを知ることができます。

Analytics Mobile: グラフの増加、カスタム背景画像、ダッシュボードとレンズの更新

デスクトップのAnalyticsと全く変わらない、洗練されたグラフを含むお気に入りのダッシュボードとレンズを探索して提示できます。

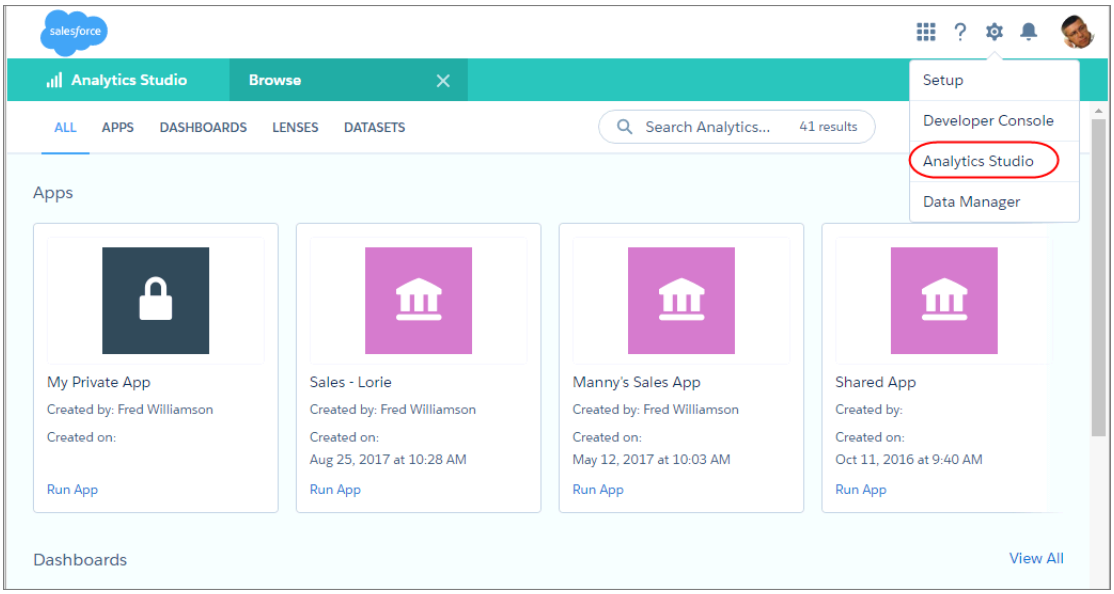
Analytics 開発とカスタマイズ: 新しいSDKイベントとSAQL機能、埋め込まれたダッシュボードヘッダーの制御

SAQL、REST API、およびSDKすべてで継続して機能強化が行われています。新しい関数、エンドポイント、イベントが追加されています。ダッシュボードでApexを使用できます。テンプレートでカスタムアイコンと接続されたデータセットを使用できます。

Wave Analytics が Einstein Analytics に改称

Wave Analyticsブランドが Einstein Analytics という名称になりました。Einstein Analytics Platform、事前作成済みアプリケーション、および Einstein Discovery (Einstein Data Discovery から改称) という複数の製品が含まれています。事前作成済みアプリケーション、権限セットライセンス、およびユーザ権限も名前が変更されました。Summer '17 から Winter '18 にかけて、製品とドキュメント全体に新しい名前が適用されました。

Einstein Analytics Platform に言及するドキュメントやインターフェースでは、短縮名である Analytics が使用されます。Analyticsアプリケーションを作成するには、アプリケーションピッカーで **[Analytics Studio]** をクリックします。このオプションは Wave Analytics から名称変更されたものです。

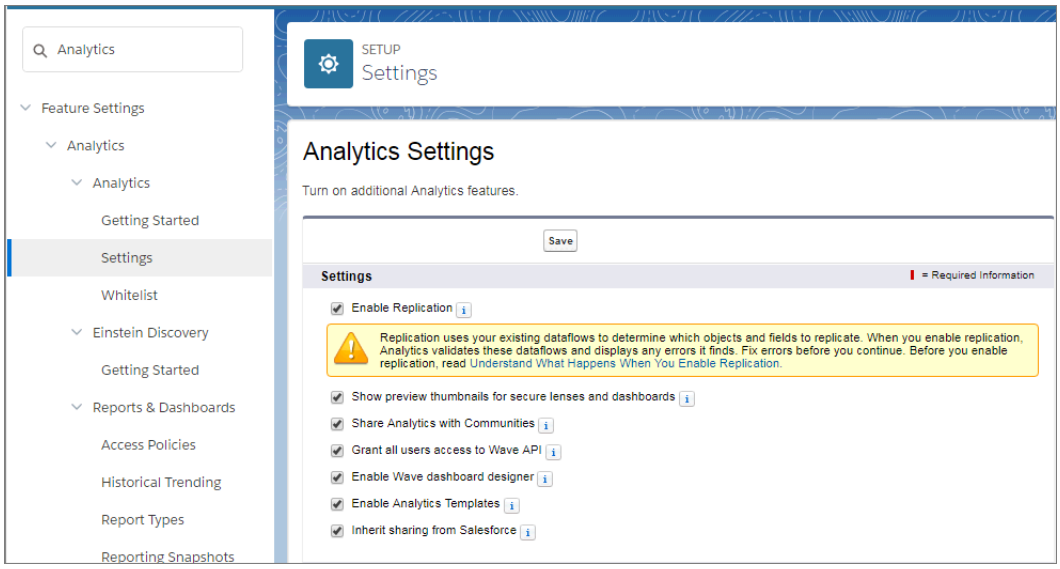


新しい名前を確認して慣れ親しんでおいてください。

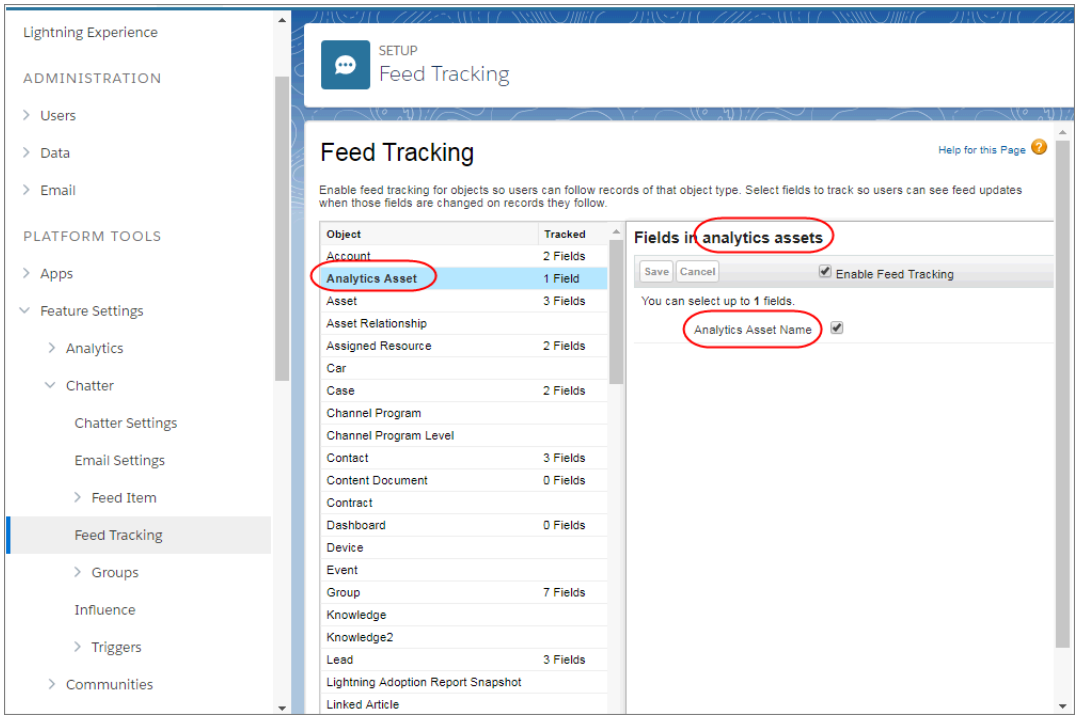
事前作成済み Analytics アプリケーション (Summer '17 で変更)

以前の名称	新しい名称
B2B Marketing Wave Analytics	B2B Marketing Analytics
Event Monitoring Wave	Event Monitoring Analytics
Field Service Wave Analytics	Field Service Analytics
Sales Wave Analytics	Sales Analytics
Service Wave Analytics	Service Analytics
Wave for Financial Services Cloud	Einstein Analytics for Financial Services Cloud
Wave for Health Cloud	Einstein Analytics for Health Cloud

Analytics の設定 (Winter '18 で変更)



以前の名称	新しい名称
行レベルのセキュリティを有効にしてレンズとダッシュボードのプレビューサムネイルを表示	セキュアなレンズおよびダッシュボードのプレビューサムネイルを表示
コミュニティの Wave Analytics の有効化	コミュニティとの Analytics の共有
すべての Wave ユーザの Wave API を有効化	Wave API にすべてのユーザアクセス権を付与
Wave Analytics での null 基準の処理を有効化	データセットでの null 基準の処理を許可
Wave テンプレートのサポートを有効化	Analytics テンプレートを有効化
Wave 共有継承を有効化	Salesforce から共有を継承



以前の名称	新しい名称
Wave アセット	Analytics アセット

権限セットライセンス (Winter '18 で変更)

以前の名称	新しい名称
Analytics Cloud - Wave Analytics Platform	Analytics Platform
Analytics Cloud Explorer	Analytics Explorer
Analytics Cloud - Wave Community Users	コミュニティの Analytics
Wave Embedded App	Analytics Embedded App
Wave テンプレート管理	Analytics テンプレート管理

ユーザ権限 (Winter '18 で変更)

以前の名称	新しい名称
Wave Analytics SAQL エディタにアクセス	非推奨。このユーザ権限は、SAQLエディタへのアクセスに不要となったため、削除されました。エディタはエクスプローラの一部として含まれます。
Wave Analytics ダッシュボードの作成と編集	Analytics ダッシュボードの作成と編集

以前の名称	新しい名称
Wave Analytics アプリケーションの作成	Analytics アプリケーションの作成
Wave Analytics データをダウンロード	Analytics からのデータのダウンロード
Wave Analytics データフローを編集	「Analytics データフローを編集」
Wave Analytics を管理	Analytics の管理
Wave Analytics テンプレートアプリケーションを管理	「Analytics テンプレートアプリケーションを管理」
外部データを Wave Analytics にアップロード	外部データの Analytics へのアップロード
Wave Analytics を使用	Analytics の使用
Wave Analytics テンプレートアプリケーションを使用	「Analytics テンプレートアプリケーションを使用」
Wave Analytics をコミュニティページに表示します。	コミュニティページでの Analytics の表示
Wave Analytics のトレンドレポートデータ	Analytics でのレポートデータのトレンド分析

Analytics の事前作成済みアプリケーション: アプリケーションの作成の迅速な可視化、Einstein インテグレーション、柔軟性の高い設定

事前作成済みアプリケーションは、リリースごとによりスマートで使いやすくなっています。すべてのアプリケーションの作成状況ページにステップごとの進行状況が表示されるようになり、Sales Analytics に Sales Cloud Einstein インテグレーションが組み込まれ、Service Analytics の設定の柔軟性と信頼性が高まり、Field Service Analytics に 2 つの新しい埋め込み可能なダッシュボードが追加されました。

ユーザ権限

Analytics アプリケーションを使用する
- 「Analytics テンプレートアプリケーションを使用」
- アプリケーションごとに指定する追加の権限

Analytics アプリケーションを作成および管理する
- 「Analytics テンプレートアプリケーションを管理」
- 「Analytics データフローを編集」

このセクションの内容:

Service Analytics の最新バージョンで可能になった高速 (基本) 作成オプションとカスタム作成オプションの選択

新しい Service Analytics 設定ウィザードには、すばやく使用を開始できるアプリケーションの基本作成オプションと、アプリケーションの設定を調整できるカスタム作成オプションが用意されています。

アプリケーションのステップごとの作成状況の監視

すべての Analytics の事前作成済みアプリケーションの状況ページには、アプリケーション作成プロセスの各イベントの成功または失敗が表示されるようになりました。

Einstein 搭載の Sales Analytics によるデータの収益化

最新バージョンの Sales Analytics では、Sales Cloud Einstein インテグレーションによって見込みの高いリードを表面化できます。Lightning Experience ホームページに強力な視覚化コンポーネントを埋め込んで、ディープデータのインサイトに即座にアクセスすることもできます。

Service Analytics よるアプリケーション作成時の推測作業の排除、パフォーマンスに関するより深いインサイトのエージェントへの提供

このアプリケーションは、作成に失敗した場合に何を修正すべきか表示されるようになり、ウィザードで選択が必要な内容が減り、地理的データが使いやすくなりました。また、エージェントが自分のパフォーマンスを把握するために役立ちます。

Field Service Analytics を使用したモバイル技術者とテリトリーに関する詳細なインサイトの取得

Lightning Experience ページに埋め込み可能な Service Resource ダッシュボードと Service Territory ダッシュボードには、フィールド技術者に関する正確な最新の情報が表示されます。

Service Analytics の最新バージョンで可能になった高速 (基本) 作成オプションとカスタム作成オプションの選択

新しい Service Analytics 設定ウィザードには、すばやく使用を開始できるアプリケーションの基本作成オプションと、アプリケーションの設定を調整できるカスタム作成オプションが用意されています。

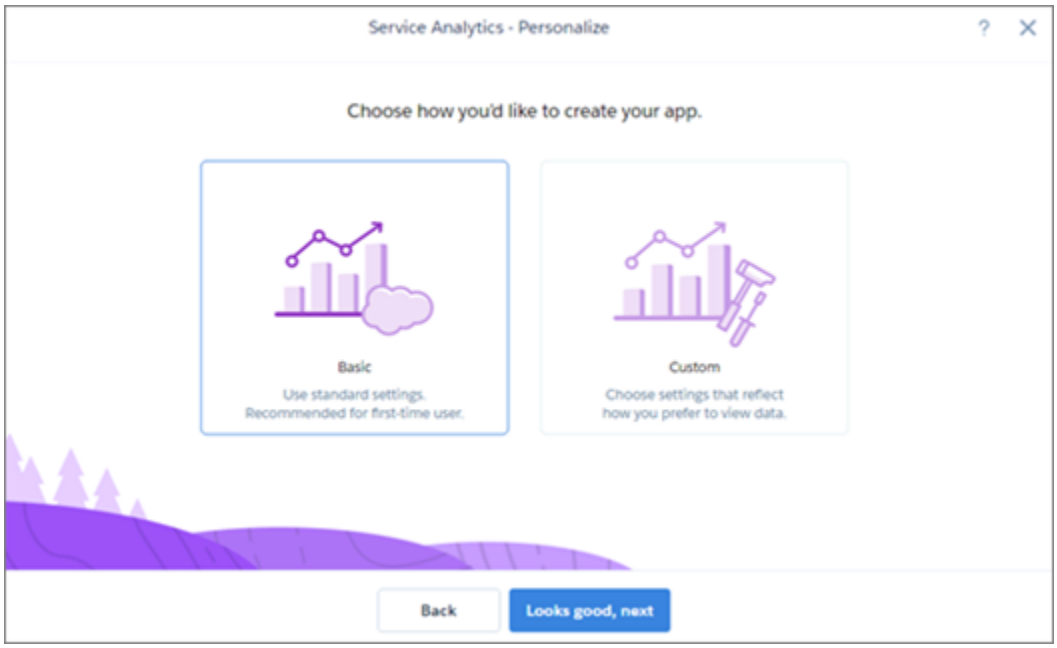
新しいウィザードでは、直感的な Analytics インターフェースを使用して、従来よりも簡単にサービスビジネスに関するアクション可能なインサイトをすばやく取得できます。アプリケーションの作成方法を選択できます。

- 基本作成。初めてのユーザにお勧めします。基本オプションでは、標準のデフォルト設定を使用して、Service Analytics すばやく作成できます。ウィザードで 1 つの質問に答えると、残りは自動的に処理されます。
- カスタム作成。設定ウィザードを使用して、自身やそのチームのユーザがデータをどのように表示するかに応じて設定を調整します。ウィザードで、Service Analytics に追加する Salesforce 機能を選択および設定するように求められます。Salesforce をどのように使用し、このアプリケーションでどのようなデータを確認したいかに基づいてオブジェクトを選択します。カスタムウィザードでは、組織でどのようにデータを使用するのかについて一連の質問に応えるため、アプリケーションの独自のバージョンを調整できます。

ユーザ権限

Service Analytics アプリケーションを使用する

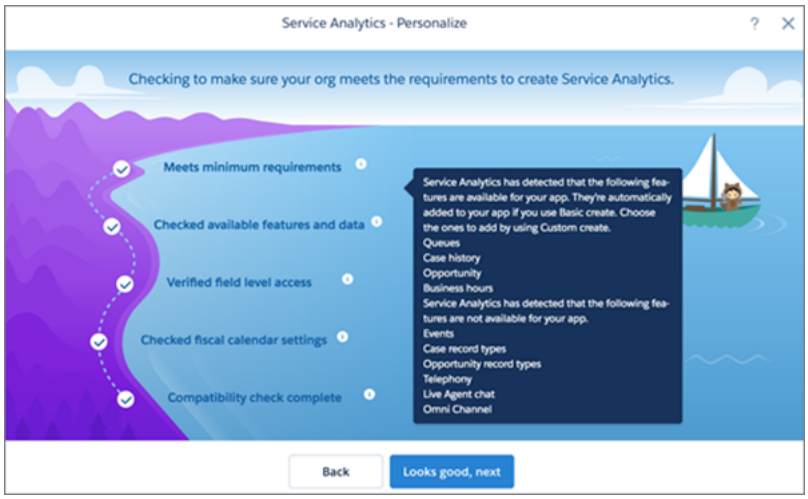
- 「Service Cloud Analytics テンプレートおよびアプリケーションへのアクセス」



基本作成オプションでは、顧客満足度およびナレッジデータをアプリケーションに追加できません。また、基本作成ではデフォルトの Service Cloud 標準項目に設定されます。CSAT、ナレッジ、カスタム項目を使用するには、カスタム作成を使用します。

各自のアプリケーションを作成する場合、Service Analytics が、アプリケーションのデータセットおよびダッシュボードを作成するために必要なデータが組織に揃っているかどうかを確認します。揃っていない場合は、アプリケーションを作成する前に組織に追加する必要があるデータがエラーメッセージに示されます。互換チェックでは以下の点も判断されます。

- アプリケーションの基本作成で使用するデフォルト設定。
- アプリケーションに追加できるオブジェクトや、カスタムアプリケーション作成を使用するときに設定ウィザードに表示される質問。組織の次の要素がチェックされ、アプリケーションに追加できるかどうかが通知されます。
- – ケース履歴
  - 商談
  - キュー
  - イベント
  - 営業時間
  - ケースレコードタイプ
  - 商談レコードタイプ
  - テレフォニー
  - Live Agent チャット
  - オムニチャネル

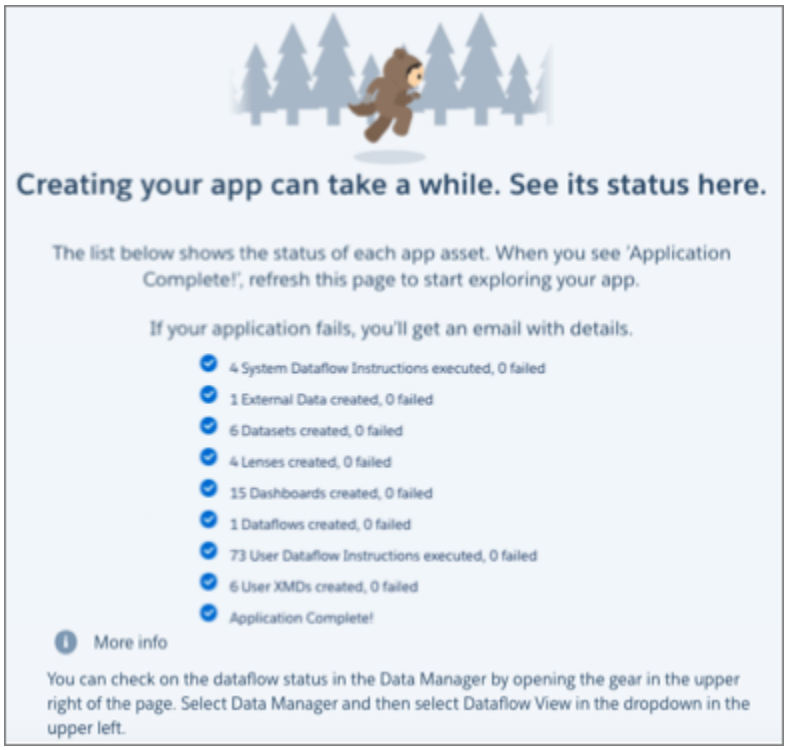


- 項目レベルセキュリティ設定。基本作成オプションを使用してアプリケーションを作成するために必要なすべての項目に Analytics インテグレーションユーザがアクセスできるかどうかを確認します。Service Analytics では、インテグレーションユーザがアクセスできない項目 (ある場合) が通知されるため、Salesforce の [設定] に移動して項目レベルセキュリティを調整できます。
- 会計年度カレンダー設定。

ヘルプを展開すると、設定ウィザードでアプリケーションを作成する方法についての詳細が表示されます。ウィザードの各ページにある アイコンからヘルプリンクにアクセスしてください。

アプリケーションのステップごとの作成状況の監視

すべての Analytics の事前作成済みアプリケーションの状況ページには、アプリケーション作成プロセスの各イベントの成功または失敗が表示されるようになりました。



以前は、Analytics の事前作成済みアプリケーションの作成時は急いで完了した後に待つ必要がありました。設定ウィザードの最後まで進んだときに、アプリケーションの作成には時間がかかるためしばらく待つように促すメッセージが表示されていました。

その必要がなくなりました。アプリケーションに名前を付け、[次へ]をクリックしてアプリケーションの作成を完了すると、作成プロセスの各イベントの成功または失敗を示す状況ページが表示されるようになりました。アプリケーションが作成される過程を監視し、成功または失敗をすぐに知ることができます。プロセスが完了すると、詳細が記されたメールが送信されます。アプリケーションの作成が失敗した場合、何が失敗したかの詳細が表示されるため、何を修正すべきかを知ることができます。

アプリケーションの作成が成功したら、状況ページを再読み込みして探索を開始します。Analytics によって、アプリケーションとそのすべてのダッシュボードが開かれます。

Einstein 搭載の Sales Analytics によるデータの収益化

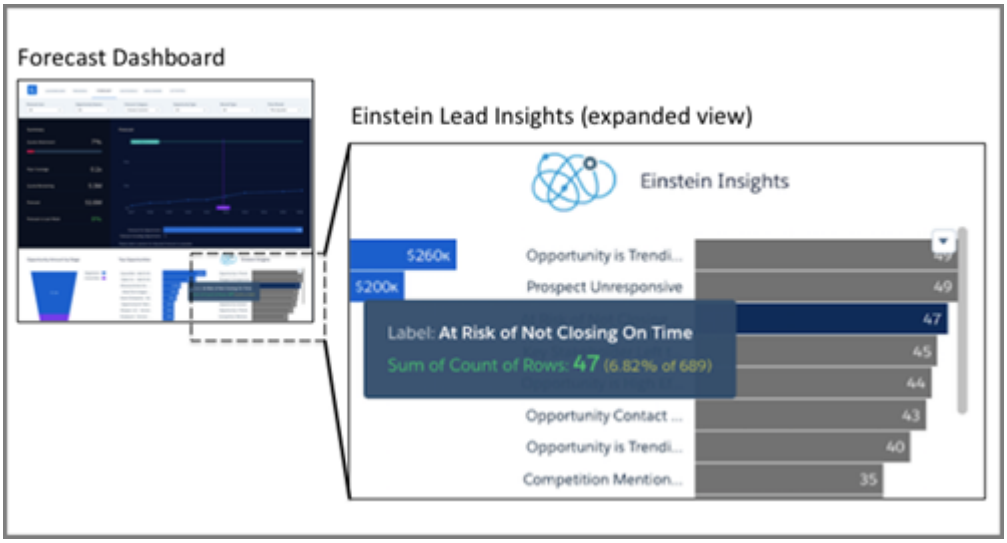
最新バージョンの Sales Analytics では、Sales Cloud Einstein インテグレーションによって見込みの高いリードを表面化できます。Lightning Experience ホームページに強力な視覚化コンポーネントを埋め込んで、ディープデータのインサイトに即座にアクセスすることもできます。

Sales Analytics を作成するときに、組織がリードスコアリングを使用しているかどうかがウィザードによって確認されます。使用している場合、質の高いリードを表面化するために役立つリードスコアとリードインサイトがダッシュボードに表示されます。取引先と、商談が成立する可能性が高いかどうかをすばやく確認できます。その後に見込みの高いリードまたは問題のあるリードにドリルダウンし、直ちにアクションを実行できます。

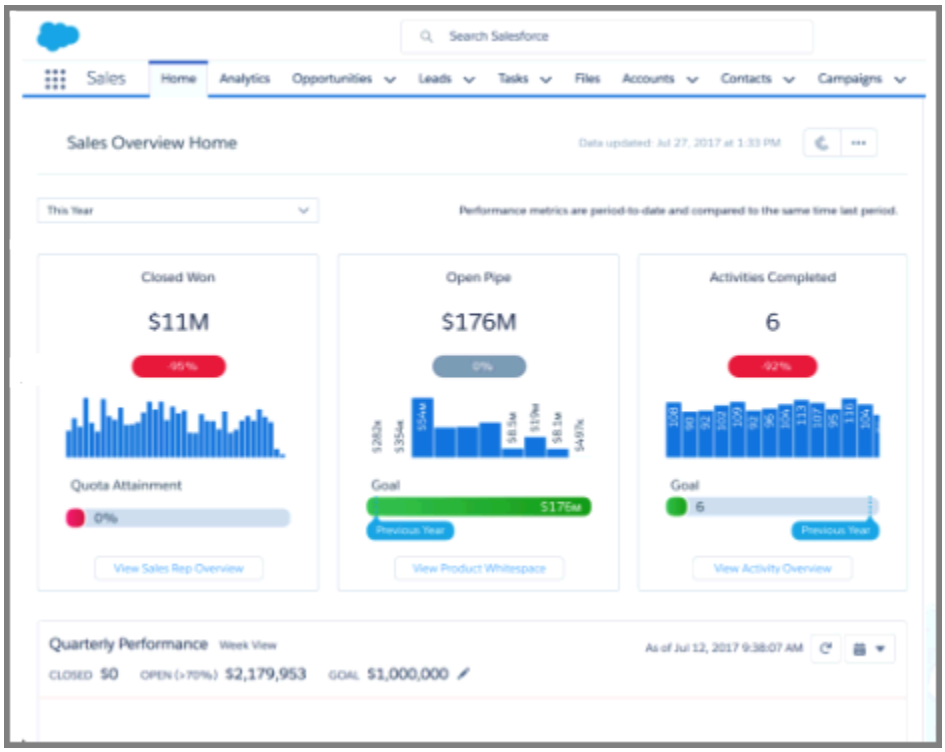
ユーザ権限

Sales Analytics アプリケーションを使用する

- 「Sales Cloud Analytics テンプレートおよびアプリケーションへのアクセス」



Salesforce ページに埋め込むことができる再設計されたダッシュボードにより、Sales Analytics のインサイトにすばやく簡単にアクセスすることもできます。Lightning Experience ホームページに新しい Sales Overview ダッシュボードを埋め込み、そこからアプリケーションの他のダッシュボードにアクセスします。または、商談および取引先レコードページに埋め込むことができる拡張された Opportunity および Account Summary ダッシュボードから直接 KPI にドリルインします。



データと視覚化の増加に伴い、これまで以上に精密なツールも提供され、埋もれた貴重なデータを発掘できます。データ側では、アプリケーションを設定するときに、商談項目履歴で追跡されたカスタム項目のデータを追加できます。これにより、ダッシュボードがそれらの項目のデータを含めた合計商談金額を計算できます。

たとえば、Team Trending 滝グラフには、カスタム項目のデータを含む合計商談金額が表示されるようになりました。最新の視覚化には、商談、パイプライン、およびセールスプロセスに焦点を絞ったレンズが含まれます。最後に、アプリケーションの作成時に、組織が商談の分割を使用しているかどうかが確認されます。使用している場合、ロール階層でのチームメンバーの位置に基づき、商談全体ではなく分割金額がダッシュボードに表示されます。

Service Analytics よるアプリケーション作成時の推測作業の排除、パフォーマンスに関するより深いインサイトのエージェントへの提供

このアプリケーションは、作成に失敗した場合に何を修正すべきか表示されるようになり、ウィザードで選択が必要な内容が減り、地理的データが使いやすくなりました。また、エージェントが自分のパフォーマンスを把握するために役立ちます。

ユーザ権限

Service Analytics アプリケーションを使用する

- 「Service Cloud Analytics テンプレートおよびアプリケーションへのアクセス」

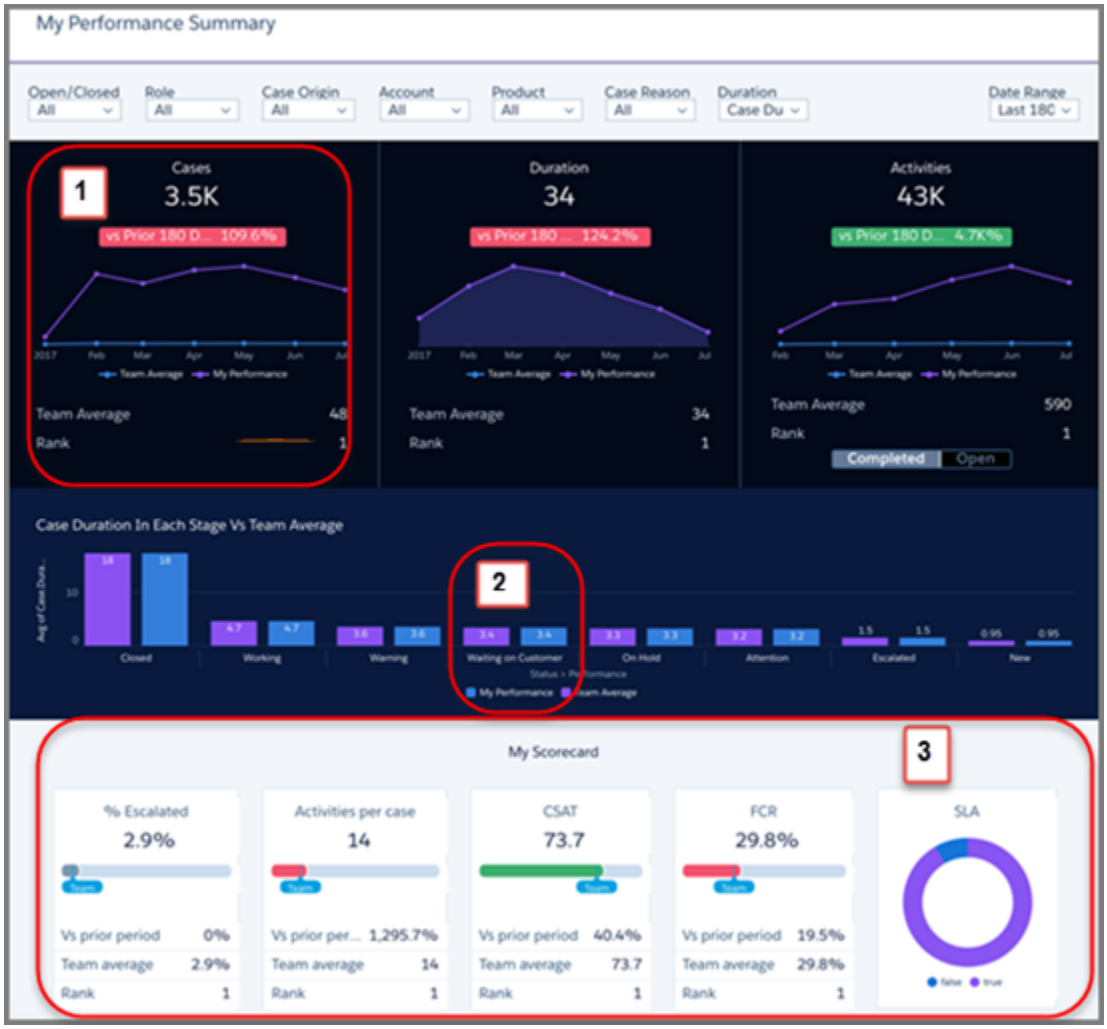
以前は、組織のセキュリティ設定で、Service Analytics アプリケーションを正常に作成するために必要なすべての項目に対する Analytics インテグレーションユーザアクセス権が有効になっているかどうかを知る簡単な方法がありませんでした。アプリケーションを作成中のシステム管理者は、アプリケーションの作成プロセスの一番最後に失敗のメッセージが表示された場合、何を修正すべきかわかりませんでした。

アプリケーションの設定ウィザードは、インテグレーションユーザがウィザードで選択したすべての項目にアクセスできるかどうかを確認するようになりました。アクセスできない場合、どの項目にアクセスできないかを示すエラーメッセージがすぐに表示されます。[設定] に移動し、それらの項目のセキュリティ設定を変更し、アプリケーションを再作成できます。

アプリケーション作成の柔軟性と信頼性を高めるため、ウィザードは上記以外でも機能強化が行われました。アプリケーションを正常に作成するために、サービスレベル契約、初回連絡での解決、およびサポート種別のカスタム項目を選択する必要はなくなりました。また、取引先責任者オブジェクトから場所項目を選択できるようになりました。以前は、場所項目を選択できるのはケースと取引先責任者からのみでした。

アプリケーションコンテンツ側では、再設計された My Performance Summary ダッシュボードを使用して、エージェントがサービス活動の成果を確認できます。これらのインサイトにより、エージェントが自分のパフォーマンスを把握し、レビュー時の評価を予想でき、成績不振による離職率を低下させることができます。

エージェントは自分のパフォーマンス KPI を確認し、前回の期間と総計値を比較し、チーム平均に対するトレンド分析を実行できます (1)。また、チーム平均に対するケースの平均所要時間に関するインサイトを得ることもできます (2)。ウィザードの質問への回答に応じて、エージェントは CSAT、初回連絡での解決、および チャット KPI に関するインサイトを得ることもできます (3)。これらの追加総計値はモジュール形式のレイアウトで表示され、簡単にカスタマイズできます。



Field Service Analytics を使用したモバイル技術者とテリトリーに関する詳細なインサイトの取得

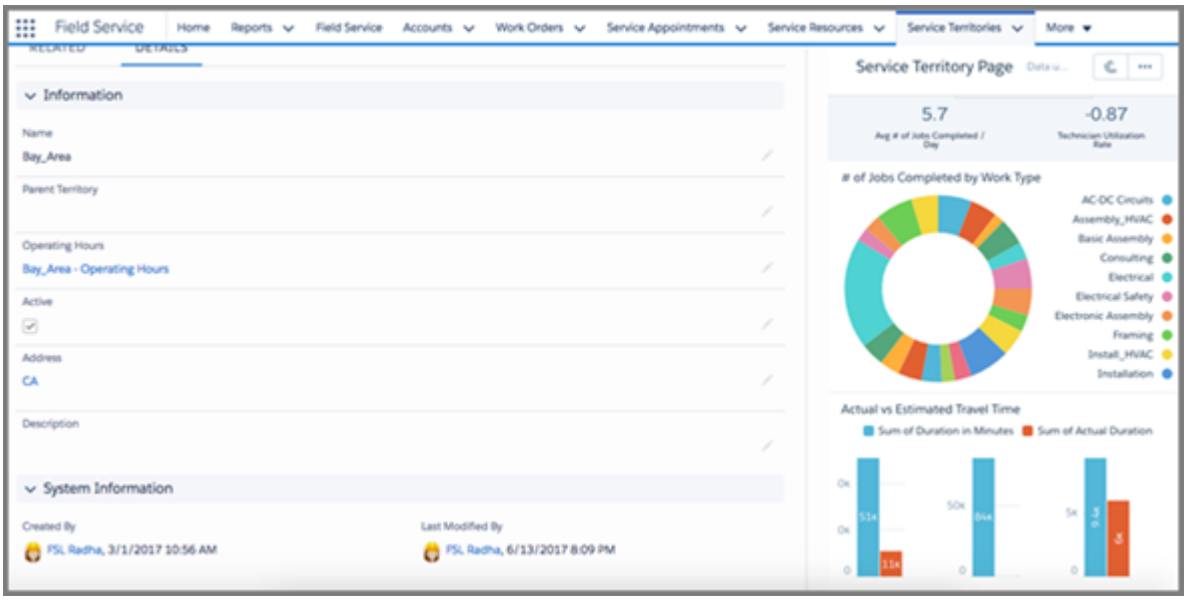
Lightning Experience ページに埋め込み可能な Service Resource ダッシュボードと Service Territory ダッシュボードには、フィールド技術者に関する正確な最新の情報が表示されます。

Service Territory ダッシュボードでは、フィールドサービスマネージャが自分のテリトリーで完了した作業の種別 (冷暖房、電気、配管など) を確認し、チームメンバーが必要なスキルを持っていることを確認できます。完了した作業の 1 日あたりの平均数、技術者の稼働率、および技術者の実際の移動時間と推定移動時間も確認できます。

ユーザ権限

Sales Analytics アプリケーションを使用する

- 「Service Cloud Analytics テンプレートおよびアプリケーションへのアクセス」



Service Resource ダッシュボードには、各作業種別で個々の技術者が費やした時間が表示されるため、技術者の効率を評価できます。特定の日付範囲で技術者が完了した作業の平均数、初回修理率、および技術者の実際の現場までの移動時間と推定移動時間も表示されます。このダッシュボードは、各技術者のページに埋め込むことができます。

Analytics ホーム: グローバル検索、Lightning Experience

Lightning Experience の Analytics ホームでは、アセットの検索と整理、さまざまなチーム向けのインサイトのキュレーションと提供が容易になりました。

このセクションの内容:

チームに適した Analytics 環境のキュレーション
ホームは起点となる場所です。ユーザには、そのニーズに最適な Analytics 環境を提供する必要があります。たとえば、Lightning Experience または Salesforce Classic で作業するビジネスユーザは、[Analytics] タブでキュレーションされたアプリケーション、ダッシュボード、およびレンズを実行します。ビジネスユーザは、Analytics アセットを操作し、インサイトを得ますが、アセットを編集する必要はありません。一方、分析の専門家は、データセットを探索し、アプリケーション、レンズ、およびダッシュボードを作成します。Analytics Studio は、このようなインサイトを生成する Analytics アセットを作成するためのすべてのツールが用意されている場所です。

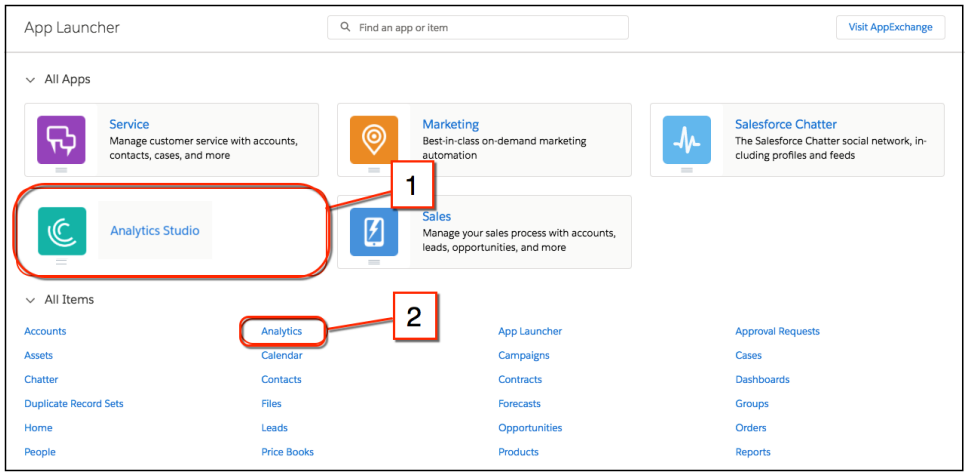
Lightning Experience の Analytics ホームで生産性を向上
Analytics が Lightning Experience に対応し、利点が増えました。新しい Analytics ホームでは、Analytics アセット、新しい検索条件、再設計されたタイルなどに簡単にアクセスできます。Analytics アセットを検索、参照、実行する時間が短縮されるため、インサイトの取得により多くの時間を費やすことができます。新しいインターフェースは、Analytics Studio と Lightning Experience および Salesforce Classic のタブで表示されます。

Lightning Experience グローバル検索によるレンズとダッシュボードの高速検索
よく使用される Lightning Experience 上部のグローバル検索ボックスの検索範囲に Analytics アセットが追加されました。Lightning Experience のどこで作業をしていても、検索ボックスに入力すると、レンズやダッシュボードをすばやく検索して表示できます。

新しい [アプリケーションを参照] および [アプリケーションの詳細] ページで整理された状態を維持
再設計された参照および詳細ページにより、Analytics アセットの検索と整理にかかる時間を短縮して生産性を高めることができます。新しい [アプリケーションを参照] ページは、Analytics Studio と Lightning Experience および Salesforce Classic のタブで使用できます。

チームに適した Analytics 環境のキュレーション

ホームは起点となる場所です。ユーザには、そのニーズに最適な Analytics 環境を提供する必要があります。たとえば、Lightning Experience または Salesforce Classic で作業するビジネスユーザは、[Analytics] タブでキュレーションされたアプリケーション、ダッシュボード、およびレンズを実行します。ビジネスユーザは、Analytics アセットを操作し、インサイトを得ますが、アセットを編集する必要はありません。一方、分析の専門家は、データセットを探索し、アプリケーション、レンズ、およびダッシュボードを作成します。Analytics Studio は、このようなインサイトを生成する Analytics アセットを作成するためのすべてのツールが用意されている場所です。

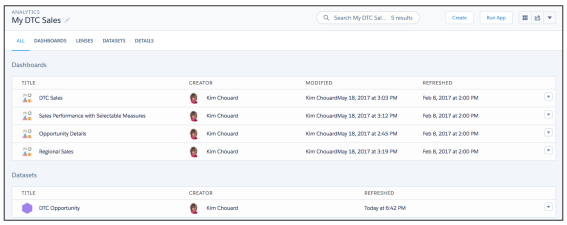
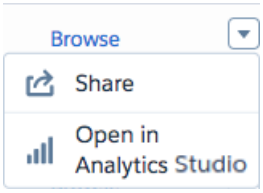
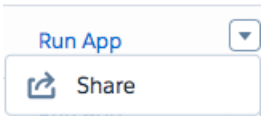
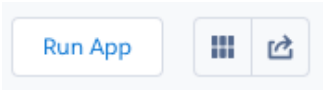
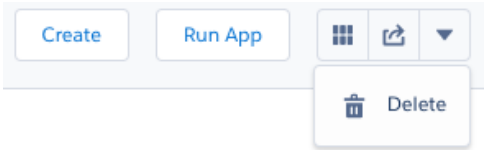


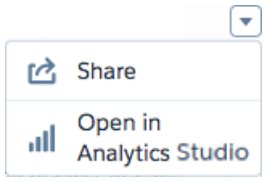
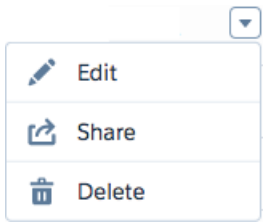
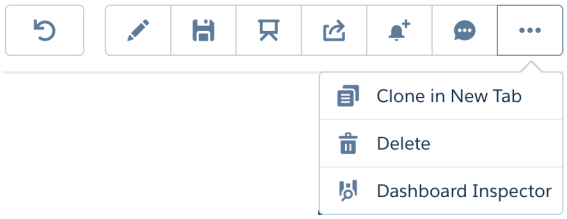
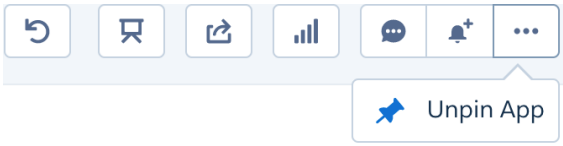
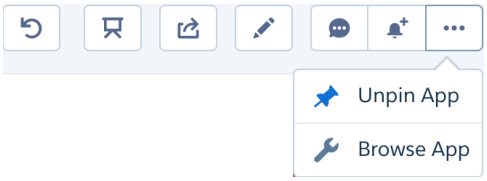
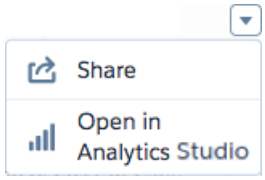
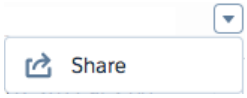
Analytics Studio を開始するには、そのタイル (1) をクリックします。[Analytics] タブで開始するには、Analytics 項目 (2) をクリックします。どちらの環境でも、タブと Studio 間を簡単に移動できます。

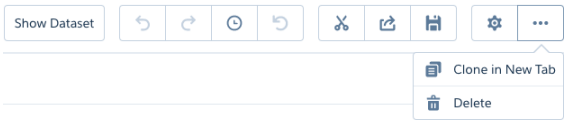
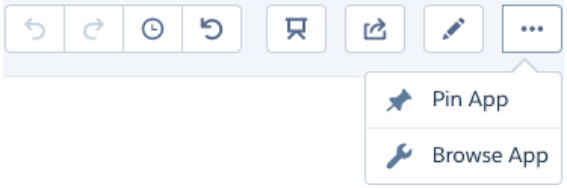
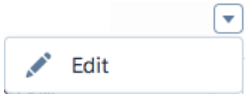
次の表は、Salesforce の [Analytics] タブと完全な Analytics Studio の機能的な違いを示したものです。

アクション	Salesforce タブ (実行とコラボレーション)	Analytics Studio (参照と構築)
作成		✅
アノテーションを追加	✅	✅
通知を設定	✅	✅
アプリケーションを固定	✅	✅
編集		✅
全画面	✅	✅
デザイナにクリップ		✅
新規タブにコピー		✅
保存		✅
共有	✅	✅
削除		✅

次の表は、Salesforce の [Analytics] タブと Analytics Studio の動作と機能の違いの詳細です。

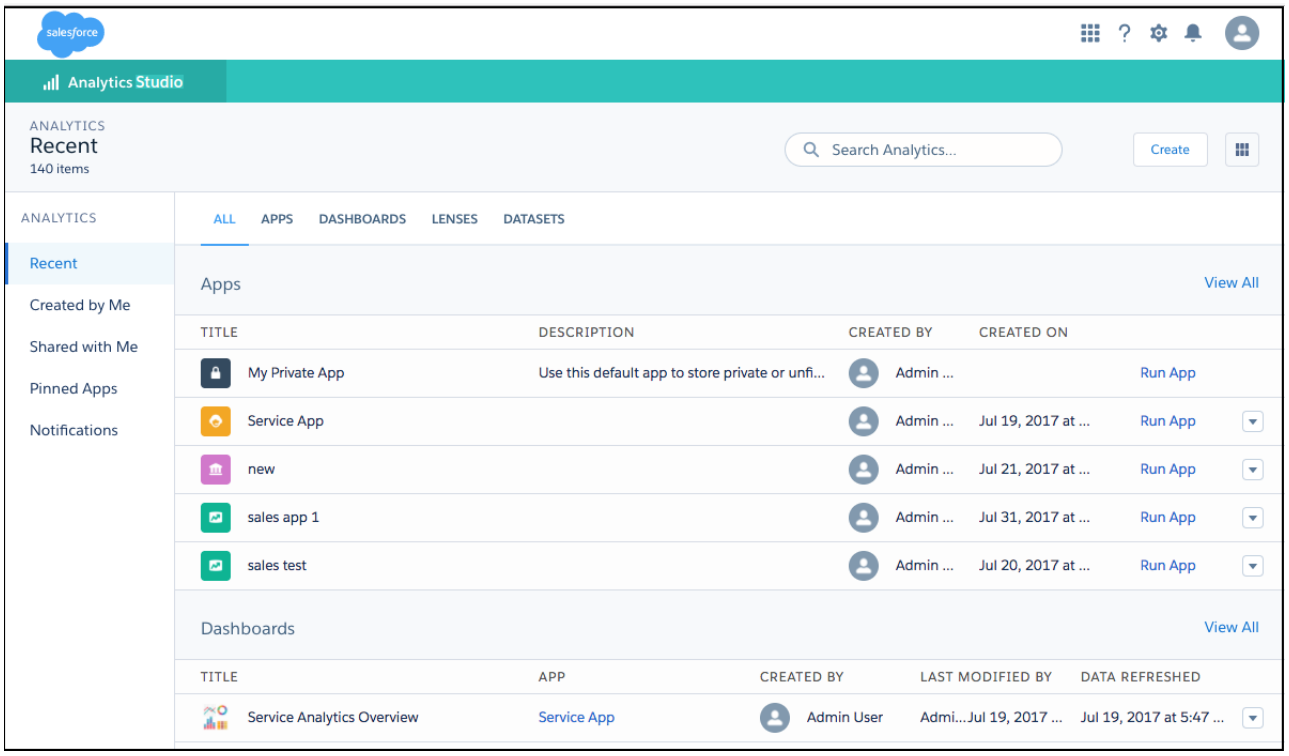
Analytics アセット	Salesforce タブ	Analytics Studio
アプリケーション		
ホームページでアプリケーション名やアイコンをクリックしたときの動作	アプリケーションの実行 	アプリケーションの参照 
ホームページタイルまたはリストエントリのアプリケーションアクション	参照、共有、Analytics Studio で開く 	アプリケーションを実行、共有 
[アプリケーションを参照] ページのアクション	アプリケーションを実行、タイル/リストビュー、共有 	作成、アプリケーションを実行、タイル/リストビュー、共有、削除 
ダッシュボード		メモ: 使用可能なアクションは、ユーザ権限やアプリケーションの共有アクセス権によって異なります。
ホームページタ	共有、Analytics Studio で開く	編集、共有、削除

Analytics アセット	Salesforce タブ	Analytics Studio
イルまたはリストエントリのダッシュボードアクション		
ホームページから開いたときのダッシュボードアクション	フォローする、Analytics Studio で開く、通知を表示 	(ダッシュボードデザイナのプレビューモード) フォローする、リセット、編集、保存、全画面、共有、通知を表示、新規タブにコピー、削除、ダッシュボードインスペクタ 
実行中の Analytics アプリケーションで開いたときのダッシュボードアクション	初期ビューに戻る、全画面、共有、Analytics Studio で開く、アノテーションを表示、通知を表示、アプリケーションを固定 	初期ビューに戻る、全画面、共有、編集、アノテーションを表示、通知を表示、アプリケーションを固定、アプリケーションを参照 
レンズ		メモ: 使用可能なアクションは、ユーザ権限やアプリケーションの共有アクセス権によって異なります。
ホームページタイルまたはリストエントリのレンズアクション	共有、Analytics Studio で開く 	共有 

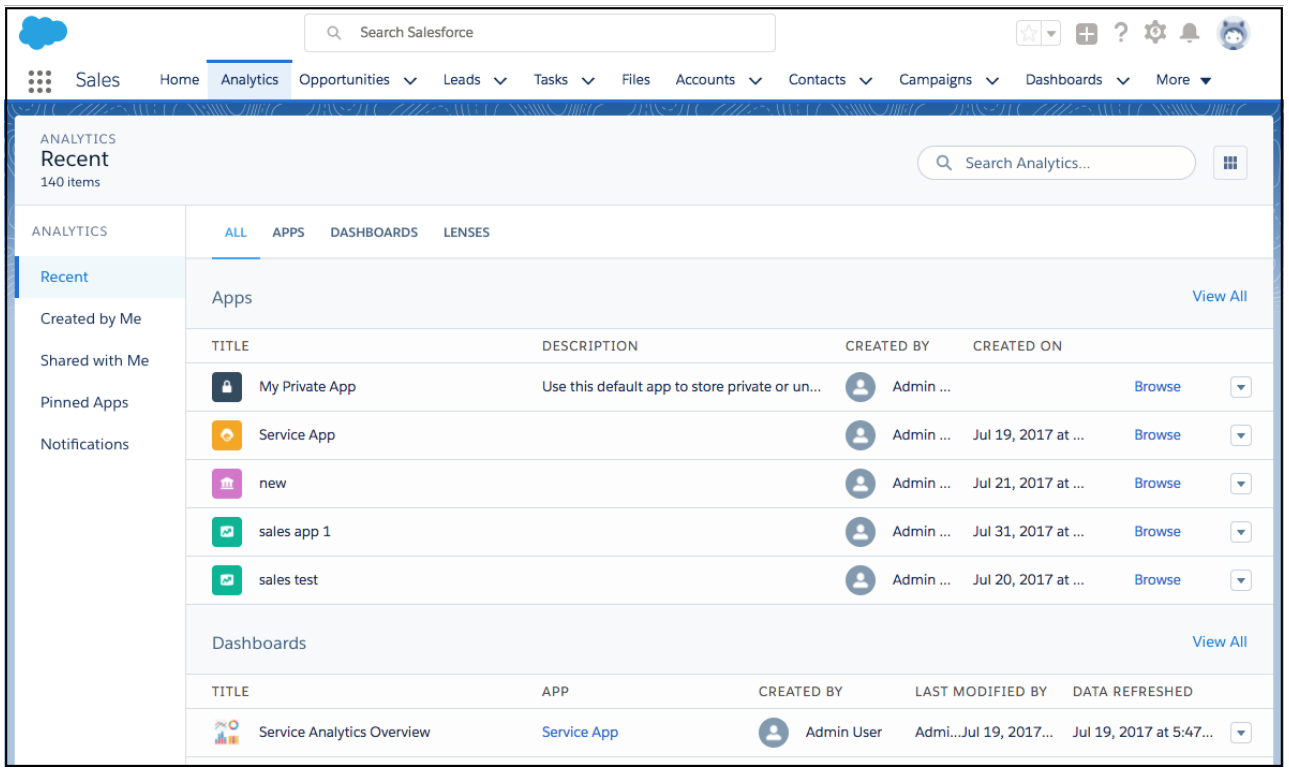
Analytics アセット	Salesforce タブ	Analytics Studio
ホームページから開いたときのレンズアクション	データセットの表示、元に戻す、やり直し、履歴を表示、初期ビューに戻る、Analytics Studio で開く、プロパティ 	(エクスプローラウィンドウ) データセットの表示、元に戻す、やり直し、履歴を表示、初期ビューに戻る、デザイナにクリップ、共有、保存、プロパティ、新規タブにコピー、削除 
実行中の Analytics アプリケーションで開いたときのレンズアクション	元に戻す、やり直し、履歴を表示、初期ビューに戻る、全画面、共有、Analytics Studio で開く、アプリケーションを固定 	元に戻す、やり直し、履歴を表示、初期ビューに戻る、全画面、共有、アプリケーションを固定、アプリケーションを参照 
データセット		メモ: [編集] が使用できるかどうかは、ユーザ権限やアプリケーションの共有アクセス権によって異なります。
ホームページタイルまたはリストエントリのデータセットアクション	N/A	編集 

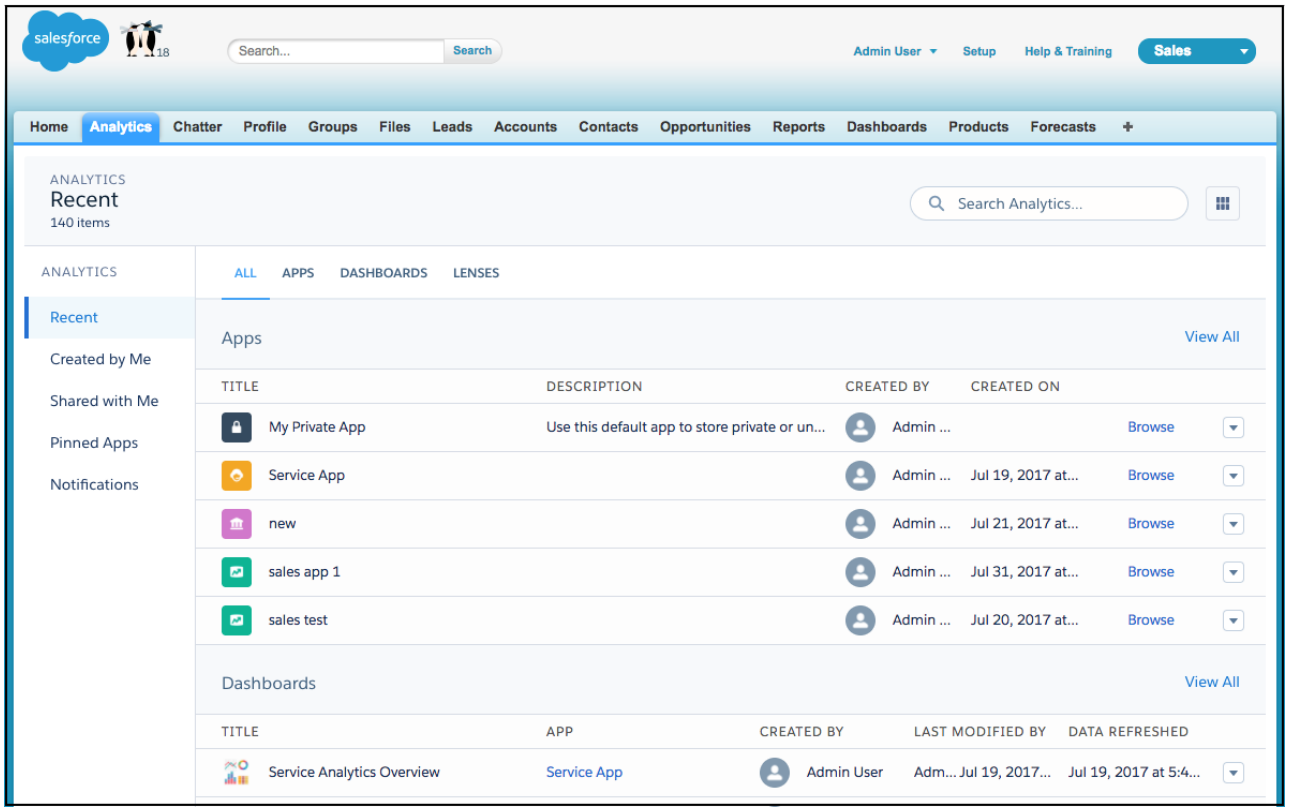
Lightning Experience の Analytics ホームで生産性を向上

Analytics が Lightning Experience に対応し、利点が増えました。新しい Analytics ホームでは、Analytics アセット、新しい検索条件、再設計されたタイルなどに簡単にアクセスできます。Analytics アセットを検索、参照、実行する時間が短縮されるため、インサイトの取得により多くの時間を費やすことができます。新しいインターフェースは、Analytics Studio と Lightning Experience および Salesforce Classic のタブで表示されます。

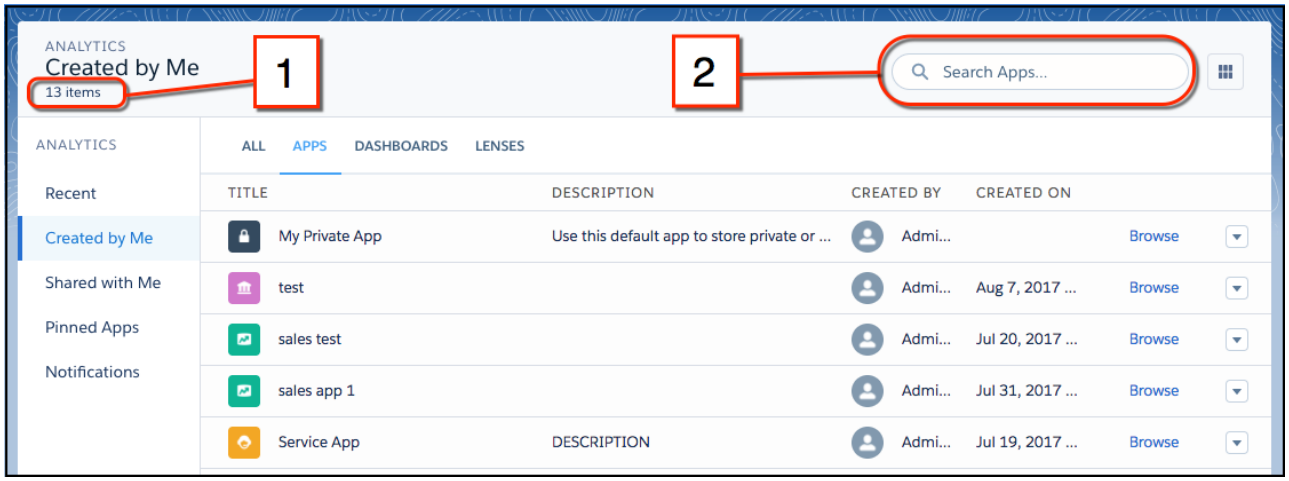


Lightning Experience と Salesforce Classic の [Analytics] タブからアプリケーション、ダッシュボード、レンズへのアクセスが大幅に拡張されました。

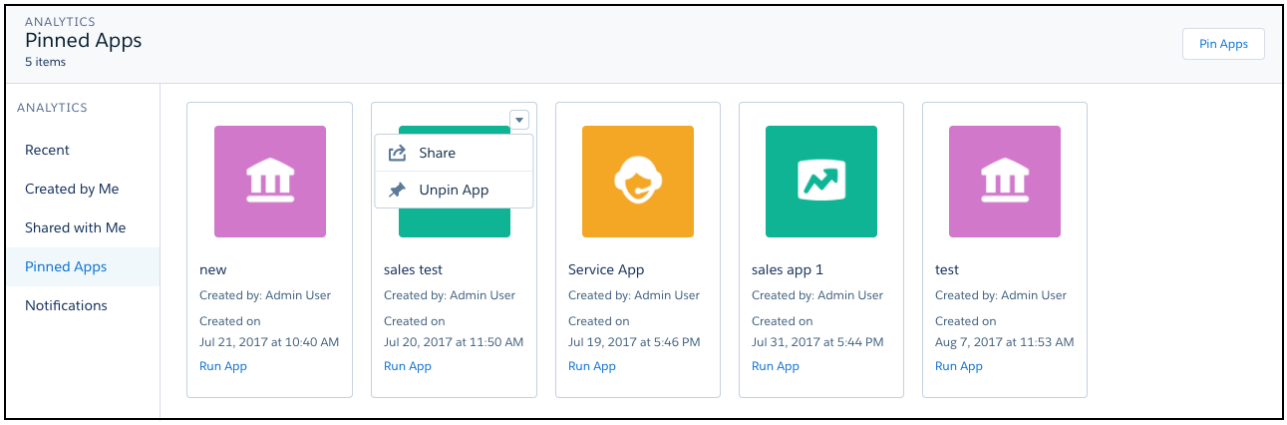




[自分が作成]と[自分と共有]、[アプリケーション]、[ダッシュボード]、および[レンズ]サブタブ(およびAnalytics Studioの[データセット]サブタブ)を使用した絞り込みができるようになりました。項目数には選択した検索条件が反映され(1)、検索ボックスでは絞り込まれた項目のみが検索されます(2)。



固定アプリケーションと通知追跡は別のページになり、左ナビゲーションパネルからアクセスできます。タイルかリストかに関係なく、すべてのビューから1クリックで実行アクション、参照アクション、そのアセットに該当するその他のアクションにアクセスできます。



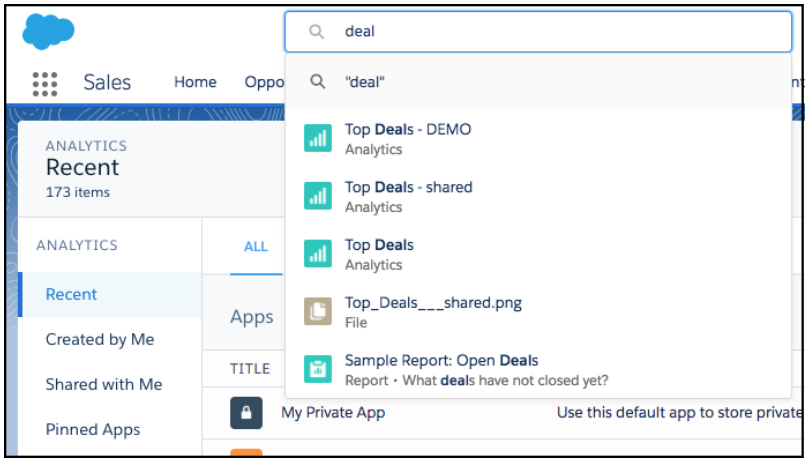
左ナビゲーションページでは前回の選択内容が記憶され、次回 Analytics に戻ったときにその内容が再表示されます。

Lightning Experience グローバル検索によるレンズとダッシュボードの高速検索

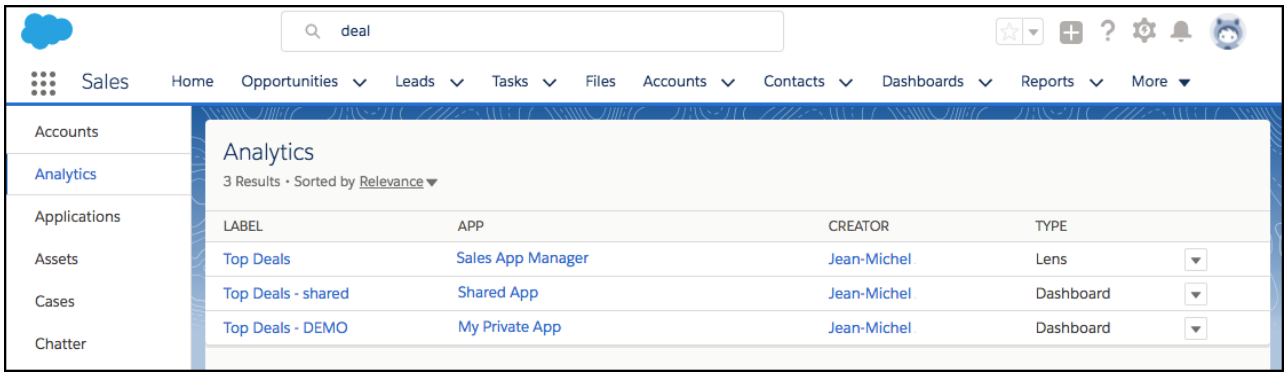
よく使用される Lightning Experience 上部のグローバル検索ボックスの検索範囲に Analytics アセットが追加されました。Lightning Experience のどこで作業をしていても、検索ボックスに入力すると、レンズやダッシュボードをすばやく検索して表示できます。

メモ: グローバル検索は、Salesforce Classic、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web ではなく Lightning Experience フルサイトでのみ機能し、Analytics アプリケーションまたはデータセットを返すことはありません。

検索ボックスのドロップダウンリストには、提案に混じって Analytics アセットも表示されます。リストからアセットを選択すると、[Analytics] タブで実行されます。

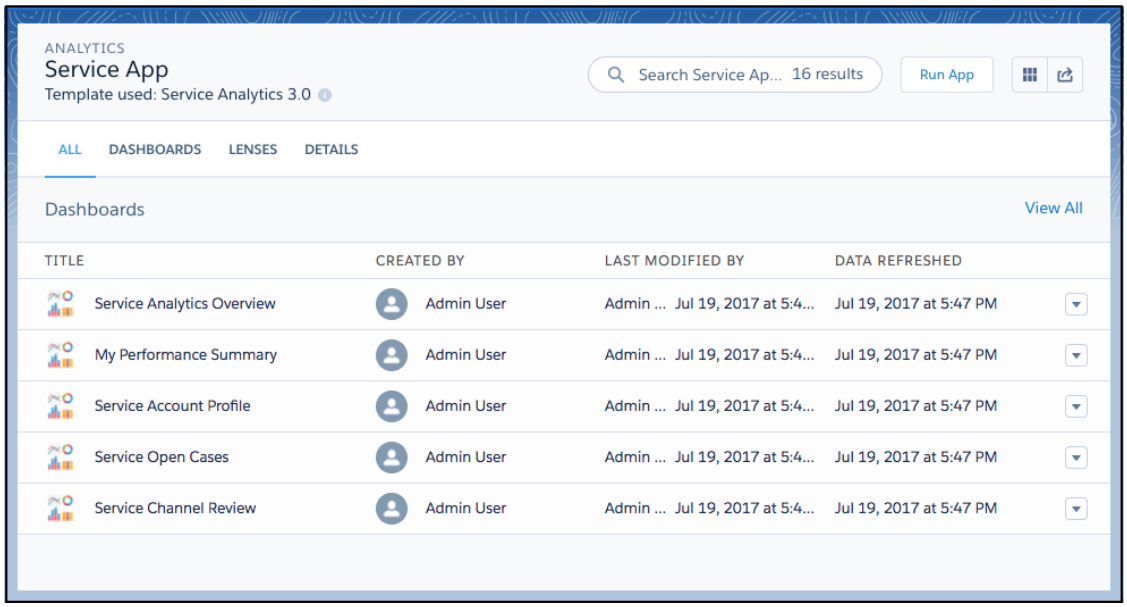


または、入力を開始して Enter キーを押すと、Analytics アセットを含む、検出されたリソースのページが表示されます。検索結果を Analytics レンズおよびダッシュボードのみに絞り込むには、左パネルで **[Analytics]** をクリックします。結果から、アセットまたはそのアプリケーションをクリックして実行できます。

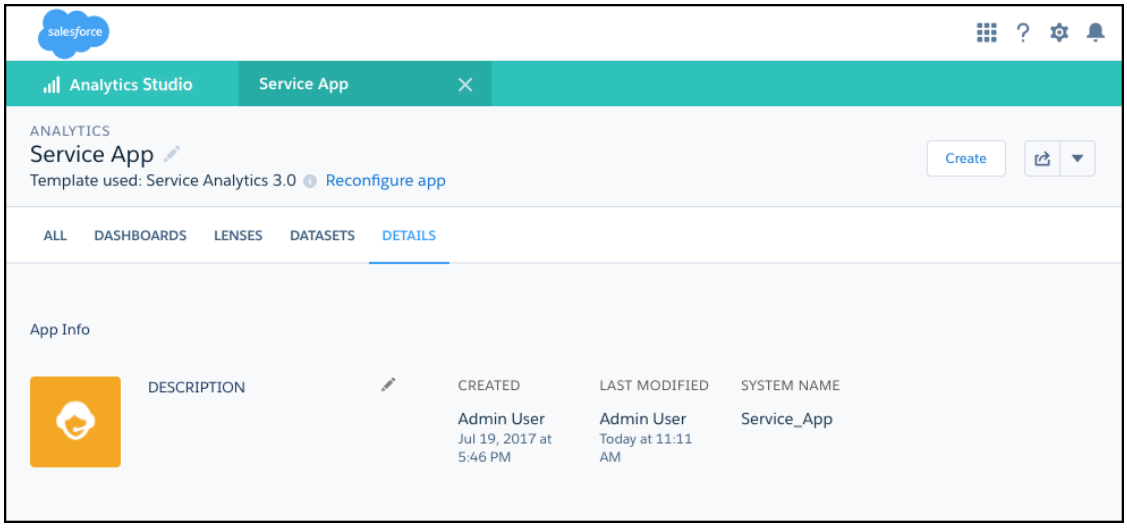


新しい [アプリケーションを参照] および [アプリケーションの詳細] ページで整理された状態を維持

再設計された参照および詳細ページにより、Analytics アセットの検索と整理にかかる時間を短縮して生産性を高めることができます。新しい [アプリケーションを参照] ページは、Analytics Studio と Lightning Experience および Salesforce Classic のタブで使用できます。



アクションボタンは右上に移動し、[詳細] がサブタブに追加されました。[詳細] ページでは、アプリケーションの詳細を見つけるだけでなく、アプリケーションの説明を追加し、アイコンを変更できます。



Analyticsの探索と視覚化: テーブルスタイル、簡単な列の並び替え、データセット項目の制御

テーブル用の新規プロパティおよび機能、データセット項目の表示、スマートなグラフの提案など、より直感的になったエクスプローラウィンドウを使用してすばやくデータを理解できます。

このセクションの内容:

エクスプローラの機能強化で探索がさらに簡単に

より直感的なインターフェースにより、データをすばやく理解できるようになりました。

新しいプロパティを使用したテーブルのスタイル設定

テーブルは無味乾燥で見づらいとは限りません。新しいテーブルのプロパティを使用すれば、セルのスペーシングを制御したり、境界線に色を追加したり、テーマを適用したりできます。テーブルのスタイルは、ギアメニューの [テーブルのプロパティ] にあります。

フォーカスの復活

目的の値のみを表示するフォーカスがグラフやテーブルに戻ってきました。フォーカスは以前と同じように機能します。

ドラッグアンドドロップによる値テーブルの列の並び替え

列を、希望する位置にドラッグアンドドロップして、値テーブルの列を簡単に並び替えることができます。

データセット項目の表示の制御

データセットを使用する他のユーザにどの項目を表示するかを設定して、作業に関係のないデータがユーザに表示されないようにすることができます。

エクスプローラによるデータに合ったグラフの提案

探索結果の視覚化に使用するにはどのグラフが最適か分からず困っていませんか? スマート提案は 1 回クリックするだけで表示されます。エクスプローラが、高度なアルゴリズムを使用してレンズのコンポジションを分析し、データが示す最重要メッセージをより的確に伝達できるグラフの種類を提案します。

サンキーグラフを使用したデータの流れの視覚化

サンキーグラフは、2つのグルーピング間の値の流れを視覚化する場合に特に役立ちます。

折り紙グラフを使用したデータの展開

折り紙グラフは、1つの基準とグルーピングでデータのポップアウト値を表示する優れた方法です。値が連続して減少しないフェーズで可変性を表示するために、折り紙グラフを使用することもできます。

グラフのツールチップのカスタマイズ

ツールチップのあるグラフのデータポイントにマウスポインタを置いたときに表示されるツールチップをカスタマイズできます。ツールチップに表示するグラフのディメンションと基準を選択します。

地図グラフの外観の制御

地図グラフは、選択したデータに基づいて自動ズームされるようになりました。また、地図の描画に使用する投影法の種類も変更できます。

グラフのその他の機能強化

破線の作成、タイトルとサブタイトルで使用するフォントのサイズの設定、trellisグラフのサイズの制御などを行うことができます。

エクスプローラの機能強化で探索がさらに簡単に

より直感的なインターフェースにより、データをすばやく理解できるようになりました。

グラフモードでは、[基準]パネルにある基準を追加するためのプラスボタンが大きくなり、[削除]はコンテキストメニューに移動しました(1)。[グループ化単位]パネルも同様に変更されました(2)。検索条件パネルは、外観が新しくなりましたが、機能はこれまでと同じです(3)。

テーブルモードでは、基準コンテキストメニューが変更されました。[条件を追加]コマンドが追加され、[列を追加] コマンドの名前が [列をコピー] に変更されました。[削除] はコンテキストメニューに移動しました。

探索をテーブルモードに変えると、検索条件は影響を与える基準に移動し、そこで編集できます。この後で、検索条件パネルは使用できません。新しい検索条件を追加するには、検索条件パネルではなく基準コンテキストメニューを使用します。

メモ: 複数列のステップが含まれる既存のレンズおよびダッシュボードは、この変更の影響を受けます。

SAQL エディタに入力されたコメントは、実行、コピー、および編集時に保持されます。

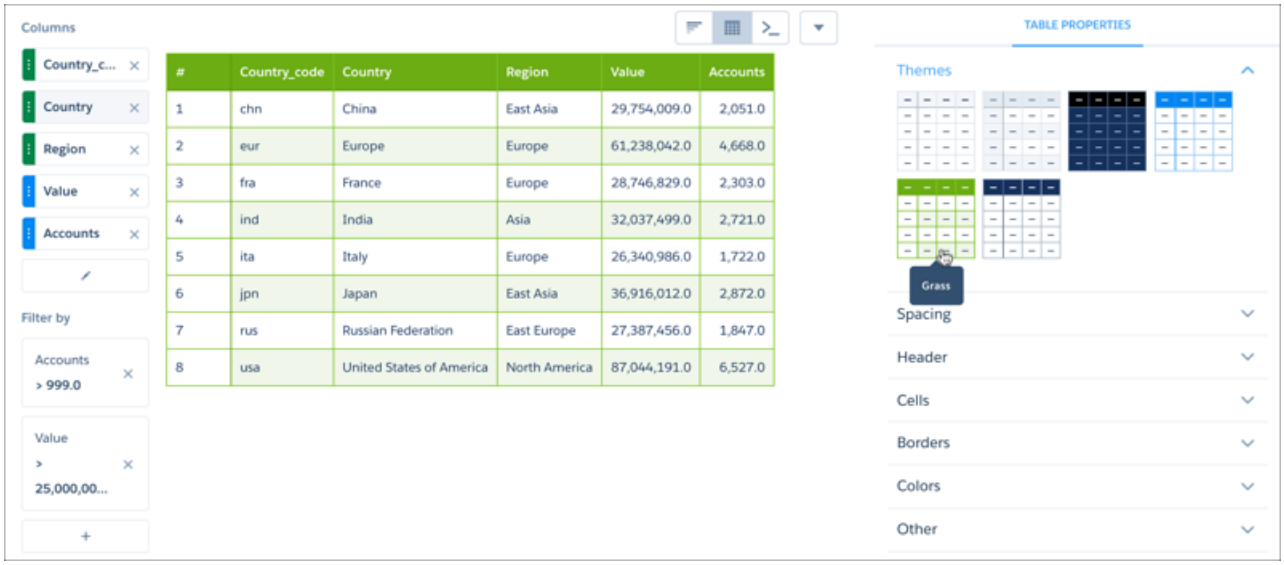
Alt+Shift+2 を入力すると、ユーロ記号を入力できます。

新しいプロパティを使用したテーブルのスタイル設定

テーブルは無味乾燥で見づらいとは限りません。新しいテーブルのプロパティを使用すれば、セルのスペーシングを制御したり、境界線に色を追加したり、テーマを適用したりできます。テーブルのスタイルは、ギアメニューの [テーブルのプロパティ] にあります。

テーマの設定

6 個のパッケージ化されたテーマのいずれかを使用できます。テーブルのスタイルをカスタマイズするには、[テーマ] パネルの下にあるパネルを使用します。



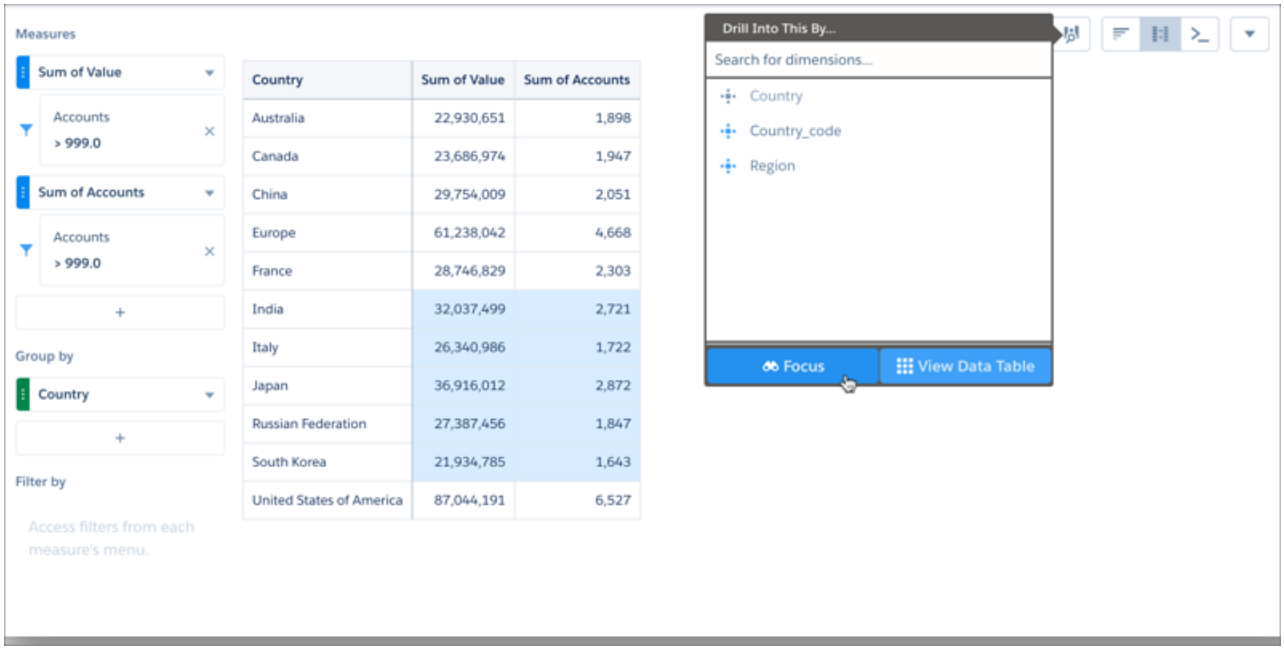
メモ: 既存のすべてのテーブルは、デフォルトのテーマに変更されます。Winter '18 より前のテーブルスタイルを模倣するには、Classic テーマを使用します。

[スペーシング] パネルのプロパティを使用して、セルや列の幅と高さを制御します。[ヘッダー] パネルと [セル] パネルで、テキストサイズと背景色を設定します。[境界線] パネルと [色] パネルで、境界線の太さと色、およびテーブル全体の色を設定します。インデックス列を表示または非表示にするには、[その他] パネルで [行インデックス列を表示] をクリックします。

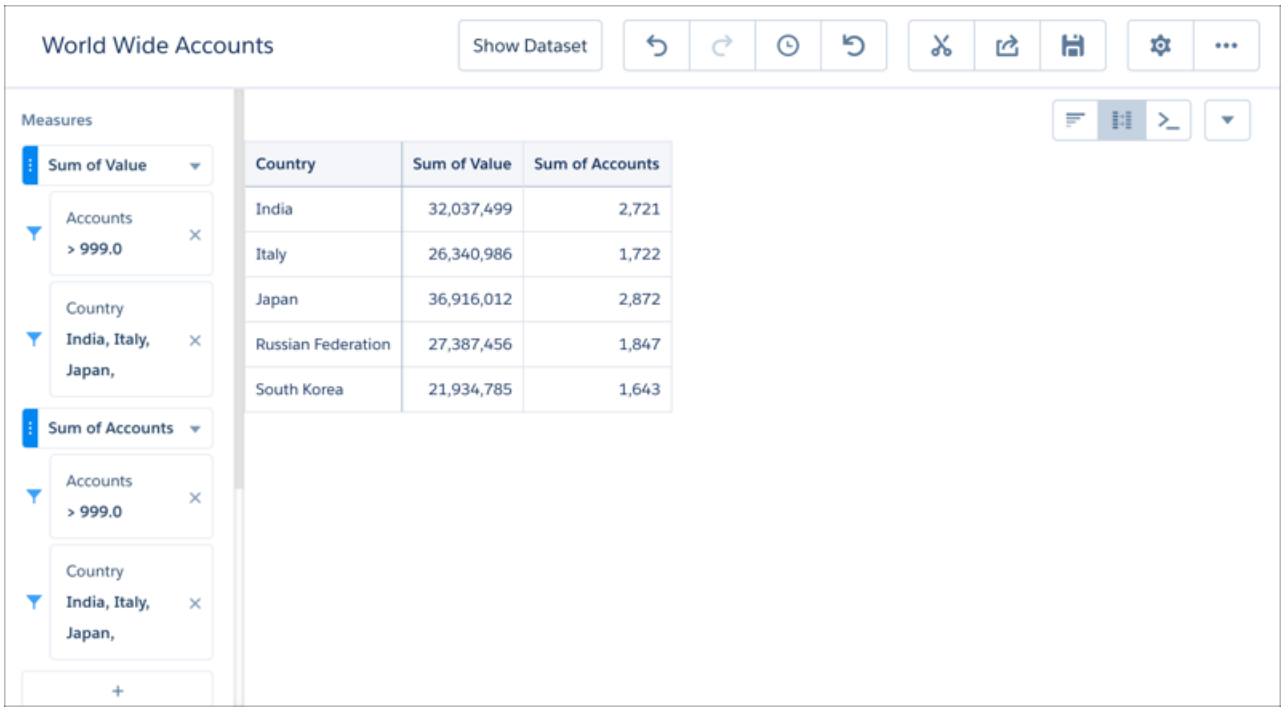
フォーカスの復活

目的の値のみを表示するフォーカスがグラフやテーブルに戻ってきました。フォーカスは以前と同じように機能します。

まず、関心のあるデータを選択し、次にドリルボタンをクリックしてから [フォーカス] をクリックします。



フォーカスでは、選択されたデータのみが、選択されたときと同じ種類のテーブルまたはグラフに表示されます。



ドラッグアンドドロップによる値テーブルの列の並び替え

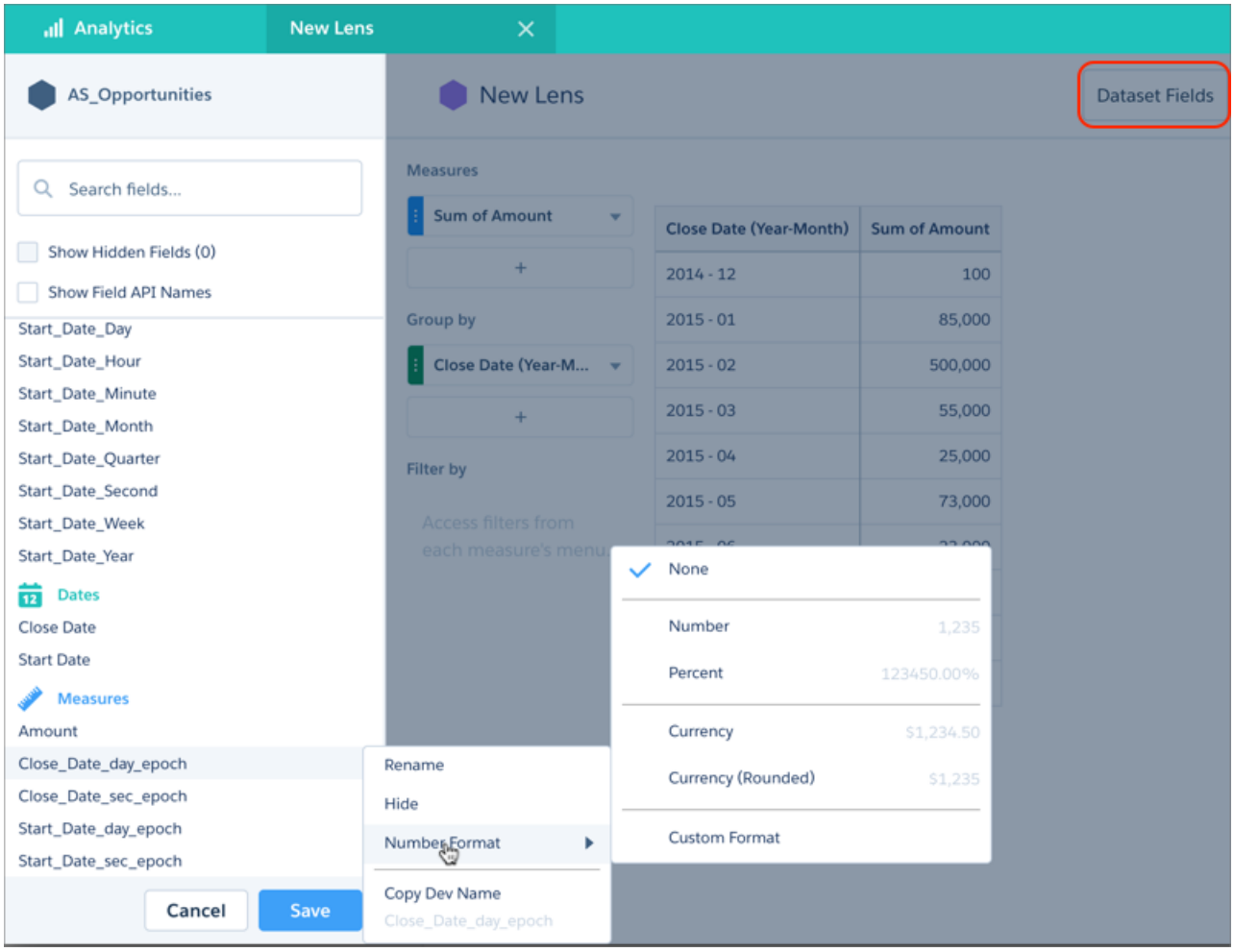
列を、希望する位置にドラッグアンドドロップして、値テーブルの列を簡単に並び替えることができます。

基準またはグルーピングを移動するには、そのタイルをクリックして押したまま、タイルを新しい位置にドラッグします。位置インジケータが正しい位置にあるときに、タイルを放します。

データセット項目の表示の制御

データセットを使用する他のユーザにどの項目を表示するかを設定して、作業に関係のないデータがユーザに表示されないようにすることができます。

データセットの探索時に、[データセット項目]をクリックして、すべての基準、データ、およびディメンション (グルーピング) 項目が表示されるパネルを開きます。



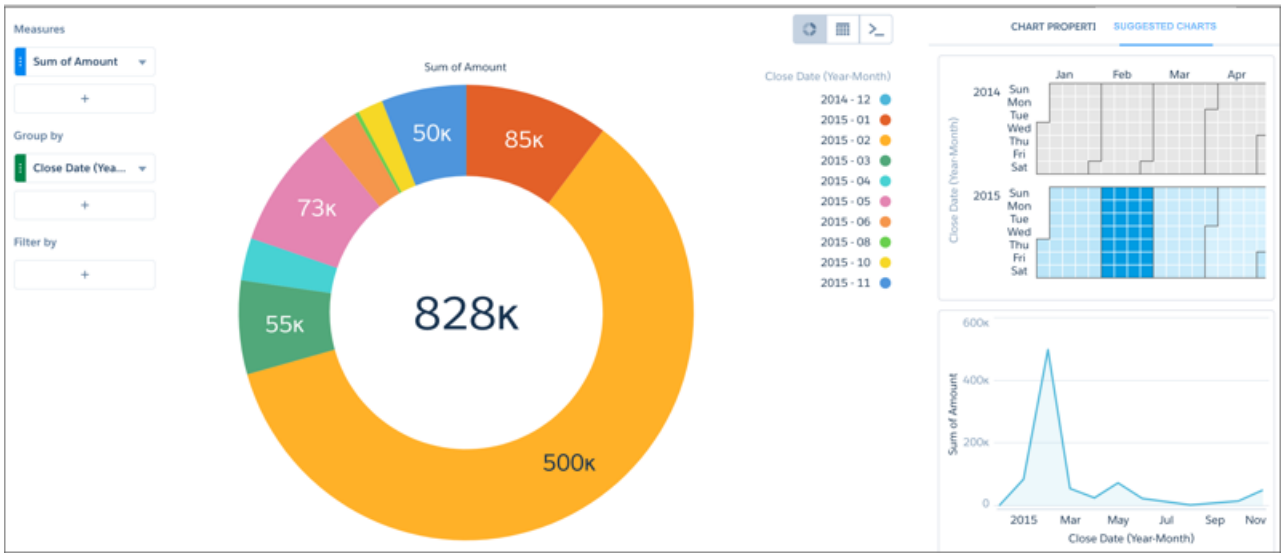
このパネルで、項目の非表示または名前変更、基準項目の数値形式の設定、項目の API 参照名の表示ができます。項目を非表示にすると、データセットを整然と表示できます。ただし、項目には、JSON を使用してアクセスできます。

データセットへの更新アクセス権のないユーザでも [データセット項目] をクリックすれば項目を表示できます。

エクスプローラによるデータに合ったグラフの提案

探索結果の視覚化に使用するにはどのグラフが最適か分からず困っていませんか? スマート提案は 1 回クリックするだけで表示されます。エクスプローラが、高度なアルゴリズムを使用してレンズのコンポジションを分析し、データが示す最重要メッセージをより的確に伝達できるグラフの種類を提案します。

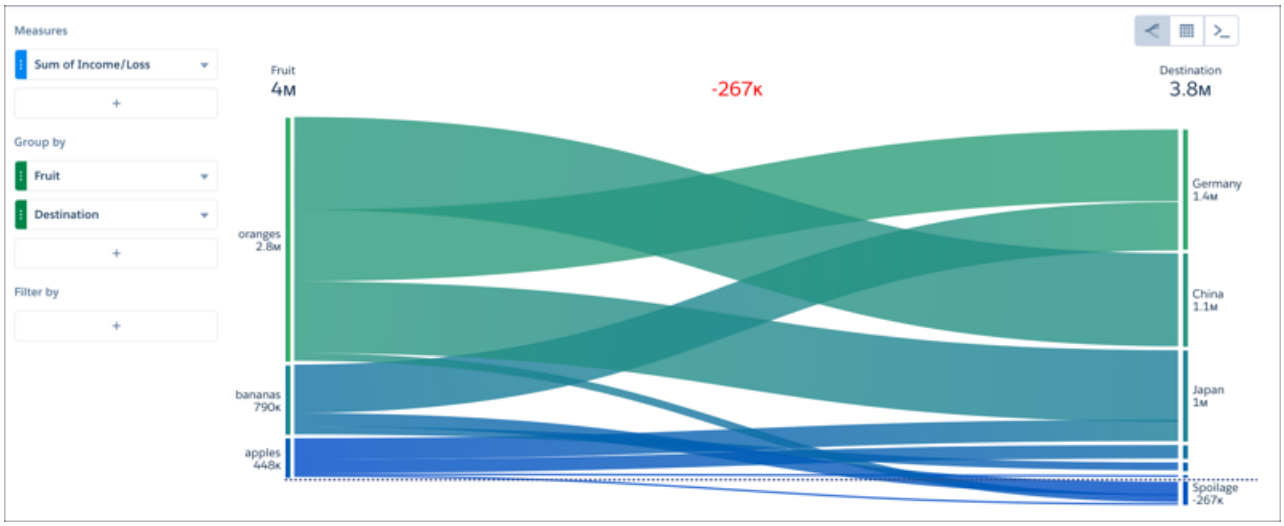
提案されたグラフを表示するには、グラフモードでギアメニューをクリックし、[提案されたグラフ]をクリックします。



サンキーグラフを使用したデータの流れの視覚化

サンキーグラフは、2 つのグルーピング間の値の流れを視覚化する場合に特に役立ちます。

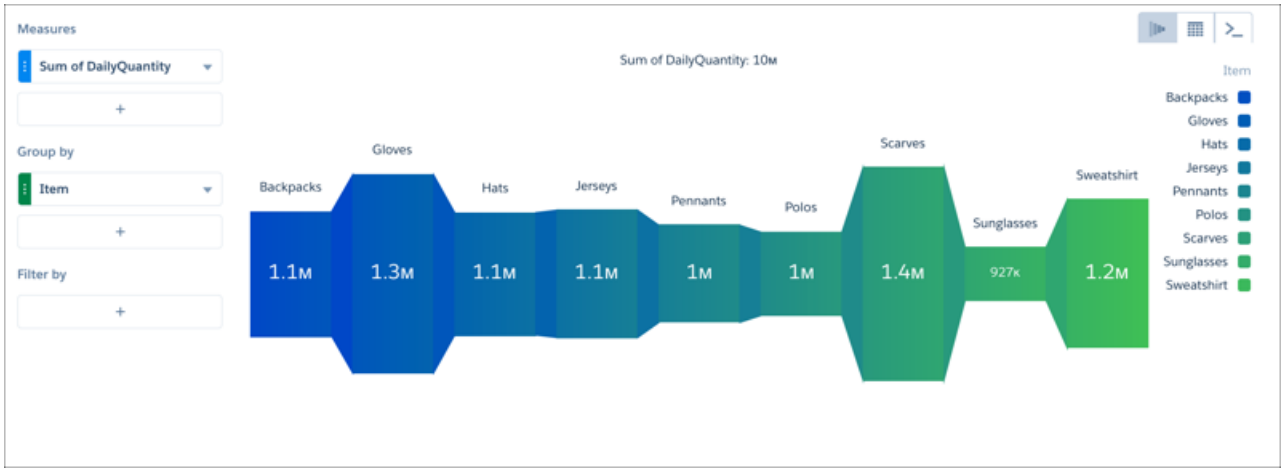
特定のビジネス総計値がグルーピング間を移動するときの分布を表示できます。サンキーグラフでは、負の数値を表示して総計への影響を計算できます。サンキーグラフでは、負の数値を表示して総計への影響を計算できます。



折り紙グラフを使用したデータの展開

折り紙グラフは、1つの基準とグルーピングでデータのポップアウト値を表示する優れた方法です。値が連続して減少しないフェーズで可変性を表示するために、折り紙グラフを使用することもできます。

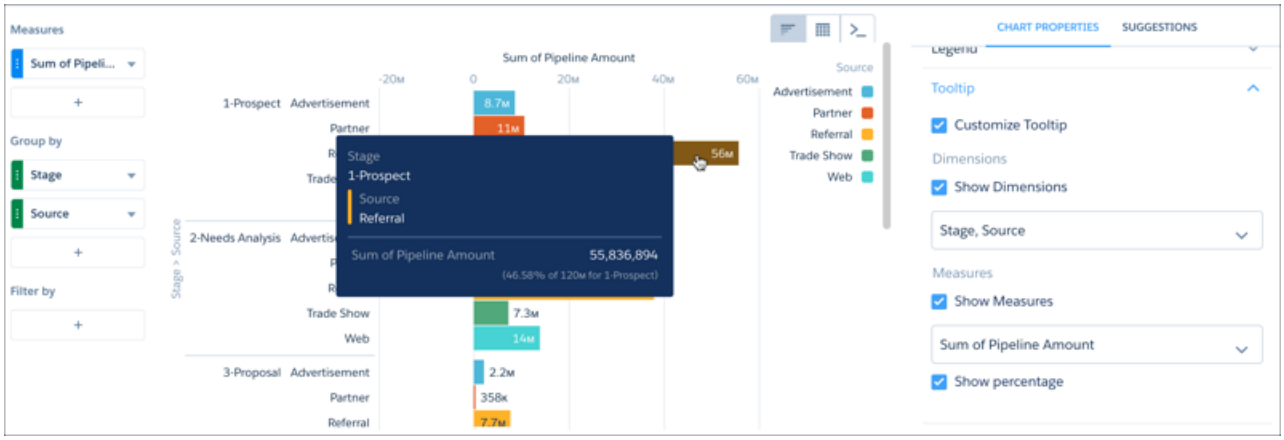
折り紙グラフでは高い値が視覚的にポップアウトされるため、他の商品よりもパフォーマンスの高い商品を簡単に見つけることができます。



グラフのツールチップのカスタマイズ

ツールチップのあるグラフのデータポイントにマウスポインタを置いたときに表示されるツールチップをカスタマイズできます。ツールチップに表示するグラフのディメンションと基準を選択します。

[グラフのプロパティ] で [ツールチップ] パネルを開き、表示するグルーピングと基準を選択します。そのグルーピングについてデータポイントの値が合計に占めるパーセントを表示することさえできます。

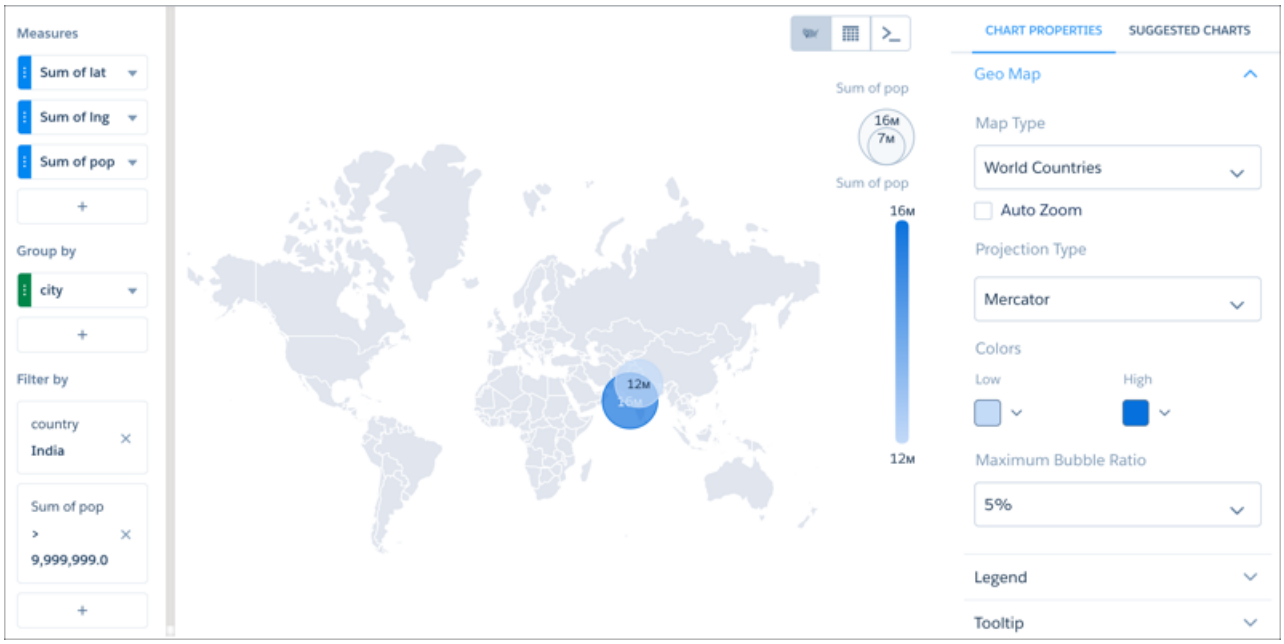


地図グラフの外観の制御

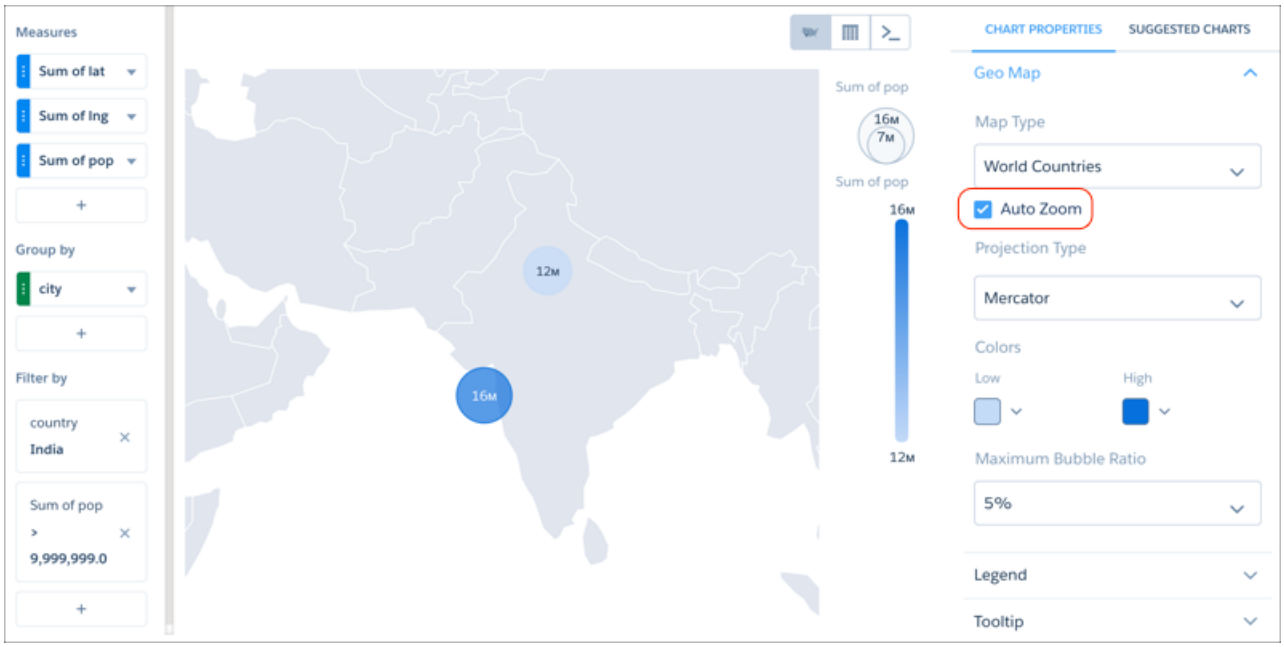
地図グラフは、選択したデータに基づいて自動ズームされるようになりました。また、地図の描画に使用する投影法の種類も変更できます。

選択した領域で自動ズームするように地図を設定

地図グラフで特定の地理的領域のデータポイントを選択すると、その領域のデータが強調表示されます。



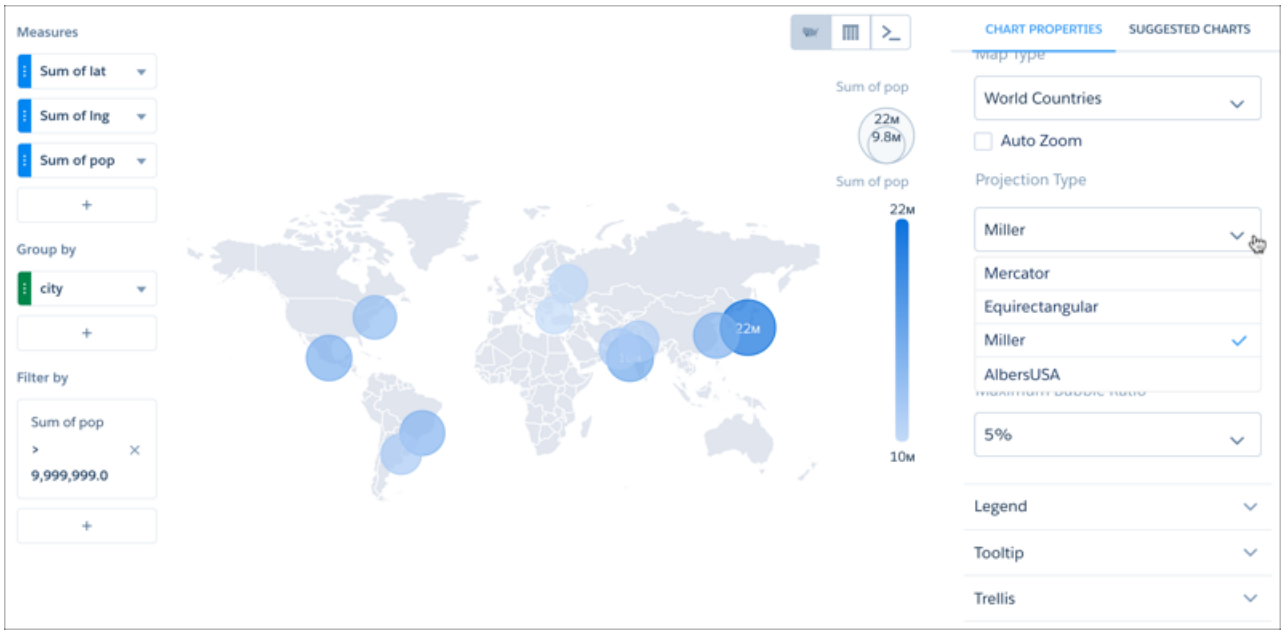
自動ズームを使用すると、地図グラフの地理的領域のデータが強調表示されるだけでなく、拡大されます。



視覚化されたデータ(ダッシュボード内のファセットを含む)の絞り込みによって自動ズームをトリガできるため、さまざまな種類の動的地図を作成できます。

地図グラフの地図投影法の種類の設定

地図投影法とは、平面の形状を使用して地球の曲面 (または他の曲面) の形状を表す方法です。地図投影法には、形状の輪郭を正確に保つ一方で領域サイズが正確に表示されないものや、相対サイズを保つ一方で輪郭がゆがむものがあります。使用する地図グラフにはどちらの投影法の種類が適切でしょうか?新しい[投影法の種類] メニューを使用すれば、自由に選択できます。

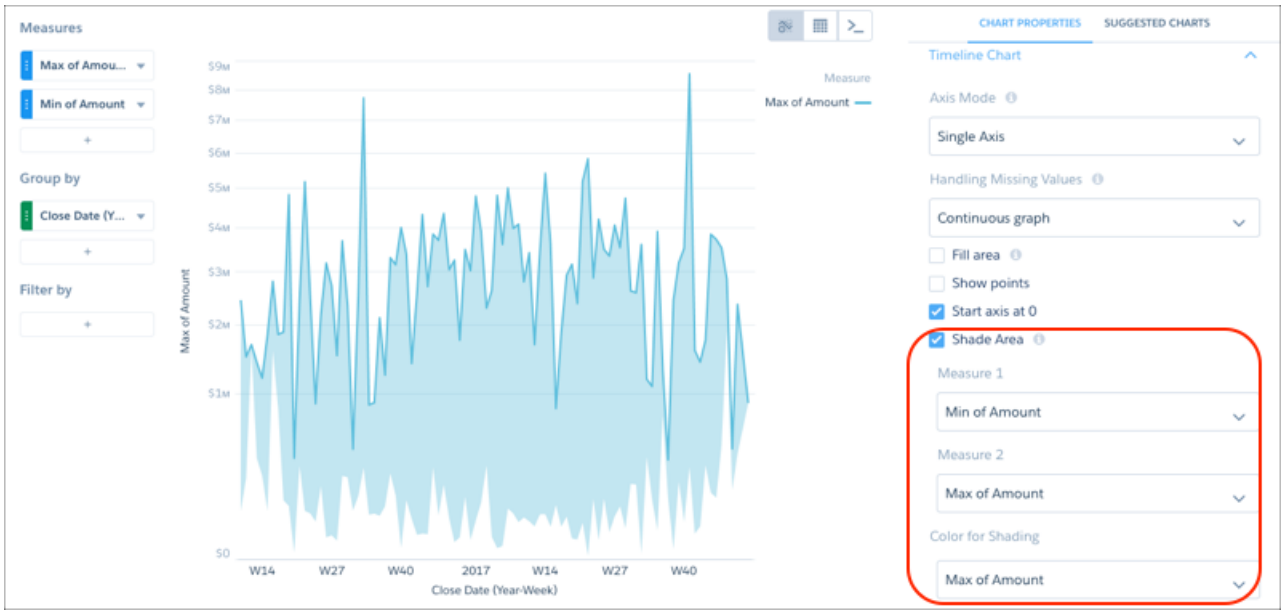


グラフのその他の機能強化

破線の作成、タイトルとサブタイトルで使用するフォントのサイズの設定、trellis グラフのサイズの制御などを行うことができます。

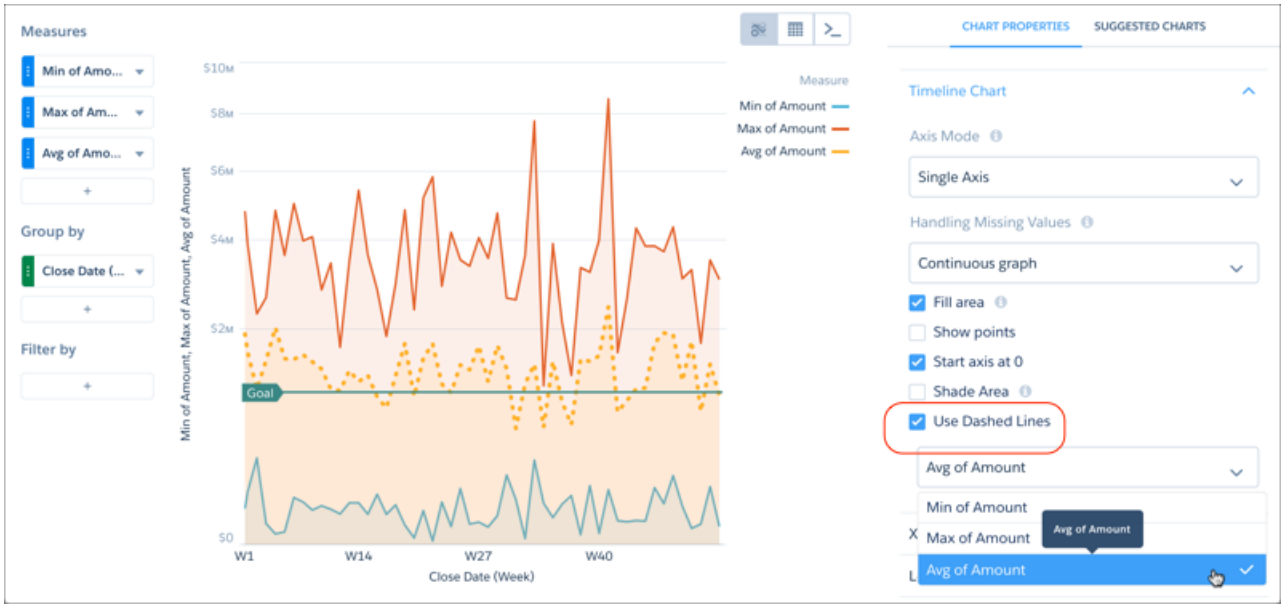
線の間の領域の塗りつぶし

折れ線グラフとタイムライングラフ間の領域を網掛け表示し、2つの基準間の値幅を強調します。たとえば、タイムライングラフで完了した商談の最小値と最大値の幅を表示するには、[領域を網掛け表示]をクリックします。次に、[基準 1] と [基準 2] メニューから基準を選択し、網掛け表示する色を [網掛けの色] から選択します。



破線効果の使用

折れ線グラフまたはタイムライングラフの基準を差別化するには、破線を使用します。たとえば、タイムライングラフで完了した商談の最小値と最大値の平均を表す線を対比させるには、[破線を使用]をクリックし、その下の複数選択メニューから平均の基準を選択します。



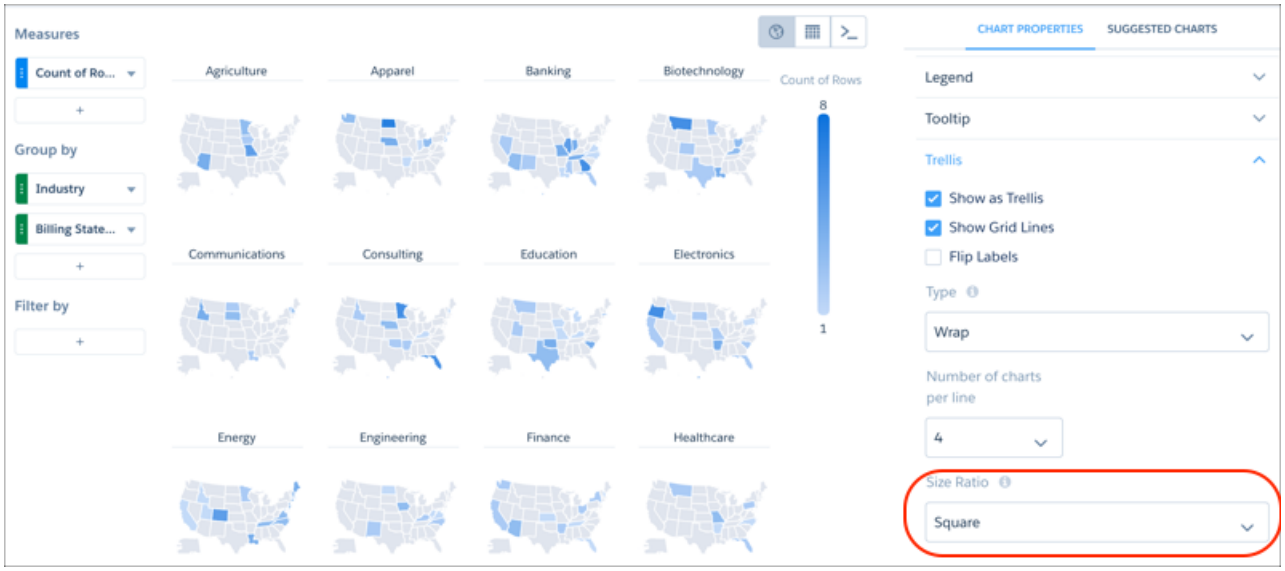
他の基準の線を実線ではなく破線にするには、同じメニューでその線を選択します。

グラフへの複数の基準線の追加

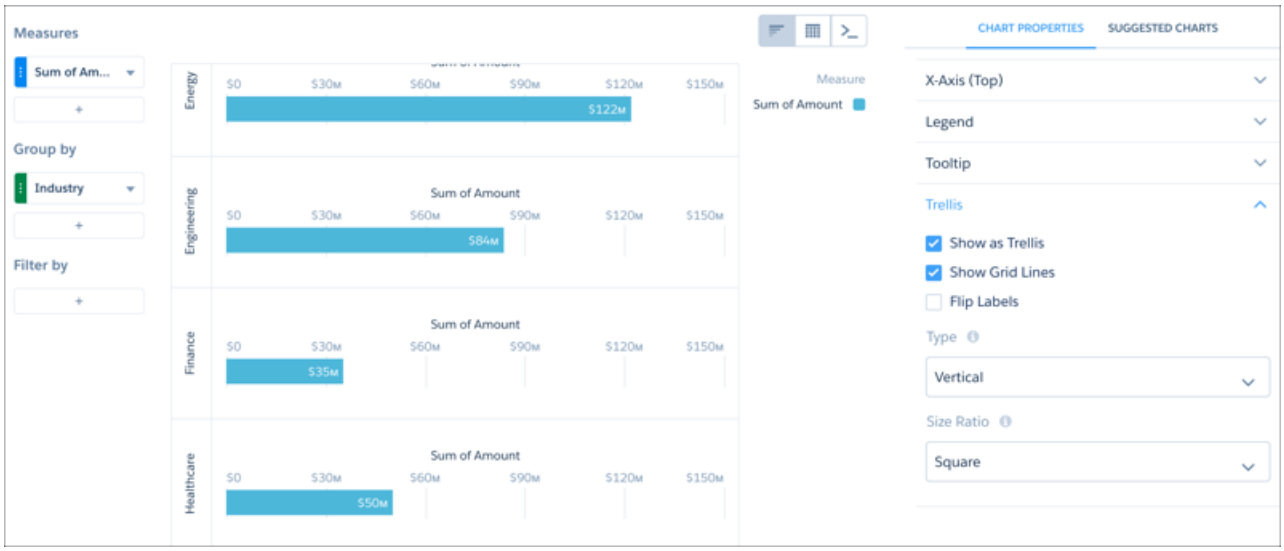
グラフで複数の基準線を使用できるようになりました。タイムラインで予測線の前後の基準点を示す必要がある場合などに、任意の数の基準線を使用してグラフをマークアップできるようになりました。

Trellis の外観の改善

選択したグラフの種類に関わらず、[サイズ比率] メニューを使用して Trellis タイルのサイズを制御し、Trellis 内部グラフの見栄えをよくすることができます。

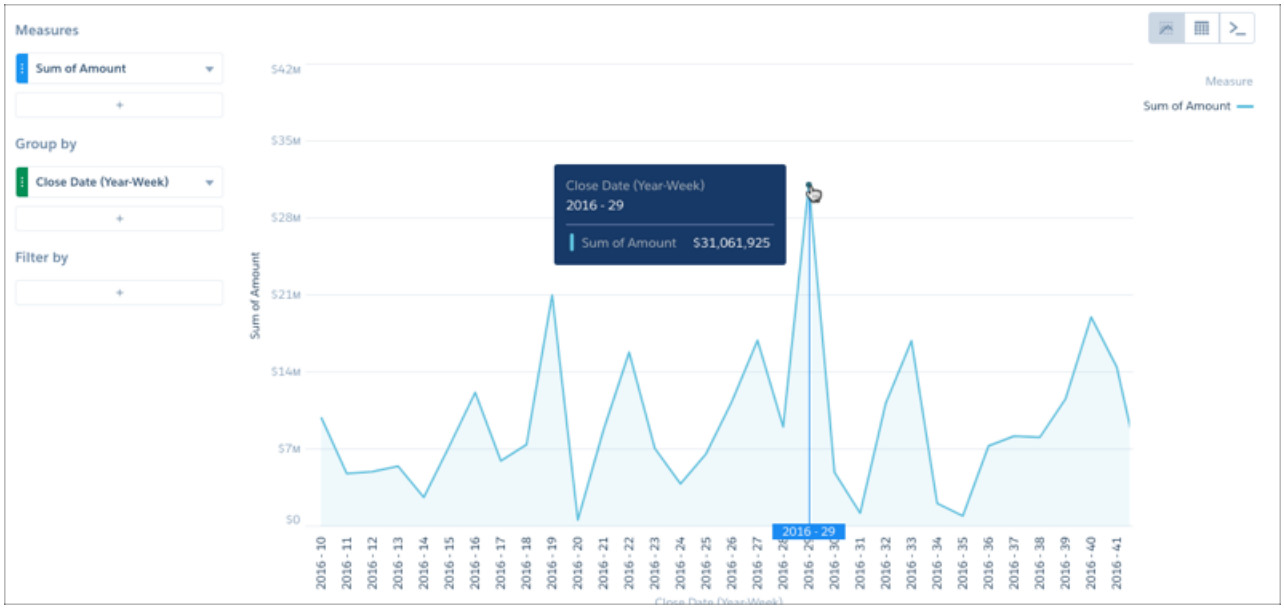


Trellis 全体でグラフ領域が統一されるようになったため、Trellis 内部グラフを直接比較できます。



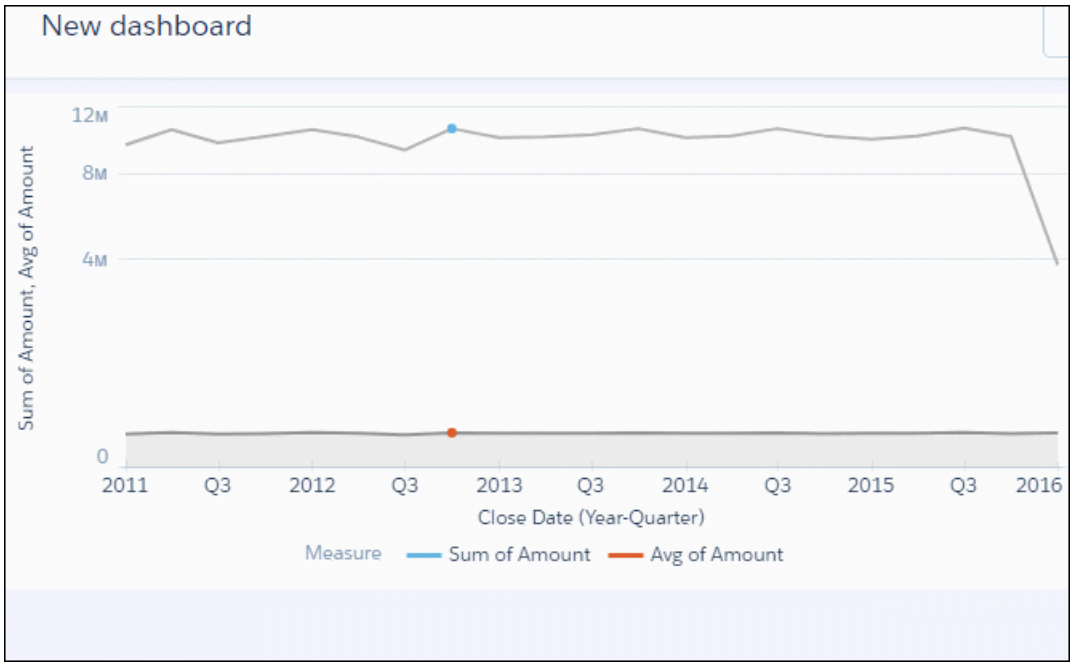
接続データポイントでの軸ラベルの表示

折れ線グラフ、タイムライングラフ、またはドットプロットグラフでデータポイントにマウスポインタを置くと、ラベルの付いた線が表示されるため、強調表示されたポイントの軸ラベルを簡単に確認できます。これにより、軸上でラベルが省略されている場合に、そのポイントの軸ラベルを簡単に確認できます。



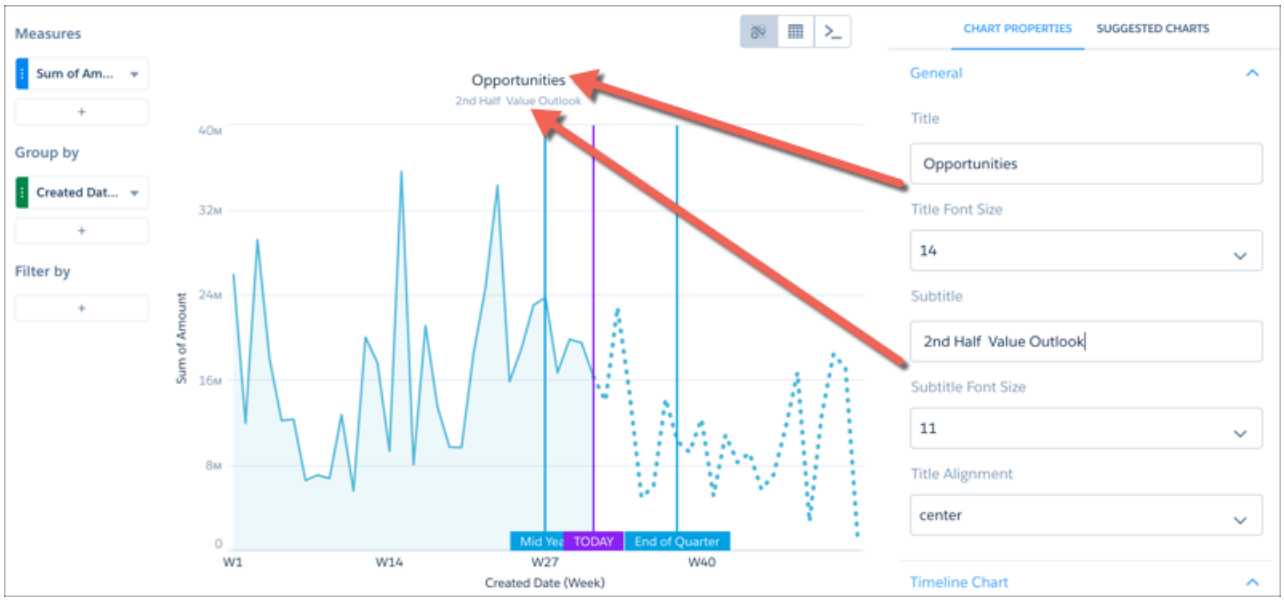
選択したデータポイントに焦点を絞る

折れ線グラフまたはタイムライングラフ内の選択箇所を見やすくするために、選択したデータポイントを除く線全体がグレー表示されます。たとえば、2本の線があるタイムライングラフ内で選択すると、次のように両方の線がグレー表示されます。



グラフスタイルの改善

グラフのタイトルとサブタイトルそれぞれのフォントサイズを設定して、その違いをわかりやすくすることができます。



グラフ領域の端には常に値を示す目盛りがあるため、最大データポイントを超える値を簡単に見つけることができます。

ツリーマップグラフには、ラベルあたり 1 つではなく最大 2 つの線が表示される場合があります。

Analytics ダッシュボード設計: パフォーマンスを改善するための推奨事項、ページ、ステップと検索条件へのアクセスの簡易化

ダッシュボードページのウィジェット、ステップ、およびグローバル検索条件を共有して、迅速に作成できます。ステップを再作成せずに編集して、時間を節約できます。ダッシュボードをより小さいページに分割し、ダッシュボードインスペクタで推奨される変更を実装して、ダッシュボードのパフォーマンスを最適化できます。

このセクションの内容:

インスペクタの推奨に基づくダッシュボードの調整

ダッシュボードインスペクタで、ダッシュボードとそのステップのパフォーマンスを改善するための推奨事項が提供されるようになりました。

大きなダッシュボードの分割によるパフォーマンス改善 (ベータ)

ダッシュボードを複数のページに分割することで、ダッシュボードのパフォーマンスを改善し、モバイルダッシュボードをすっきりさせることができます。ページを表示するとき、Analytics ではそのページのウィジェットについてのみ結果が計算されます。

ステップの編集による時間の節約

これは、お客様のご要望により実現した機能です。ステップを変更する場合、もうコピーする必要はありません。編集するだけです。データセットを除き、ステップのクエリのどの部分も変更できます。たとえば、基準とグループの変更、テーブルを比較するための派生基準の追加、値テーブルの列の順序変更などができます。ステップを変更すると、そのステップを使用するすべてのウィジェットに影響があります。

見つけやすくなったステップ

これまで、必要なステップを見つけるには、長いリストから選び出す必要がありました。それが変わります。パネルでは、ステップがカテゴリに整理され、ステップをより早く見つけられるように検索バーが提供されます。

新しいファセット動作によるダッシュボード検索条件の制御

ファセットをより詳細に制御できるようになりました。他のファセットされたステップを絞り込む選択をブロードキャストするステップを指定できます。また、ファセットとしてブロードキャストされた選択に基づいて、その結果を絞り込むステップを制御することもできます。既存のステップはこの変更の影響を受けず、そのファセット動作が保持されます。

関連 Web コンテンツを使用したダッシュボードの補完

Web ページへのリンクを使用してダッシュボード内に外部環境を取り込みます。たとえば、ダッシュボードをポータルのエントリページとして使用する場合、問題の追跡システムや経費レポートシステムなど、さまざまなシステムへの静的リンクを作成できます。

グローバル検索条件を使用したダッシュボードコントロールの作成

グローバル検索条件の作成と管理がさらに簡単になりました。ダッシュボード閲覧者がグローバル検索条件を変更できるようにすることもできます。

Wave デザイナのダッシュボード JSON の変更

ダッシュボード JSON のパラメータが新規追加および変更されました。これは、JSON を最初から作成するユーザに影響します。

Wave ダッシュボードデザイナのその他の機能強化

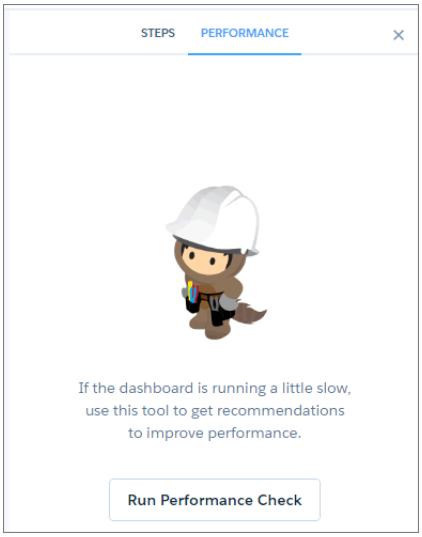
Wave デザイナに対する次の改善点を確認してください。

インスペクタの推奨に基づくダッシュボードの調整

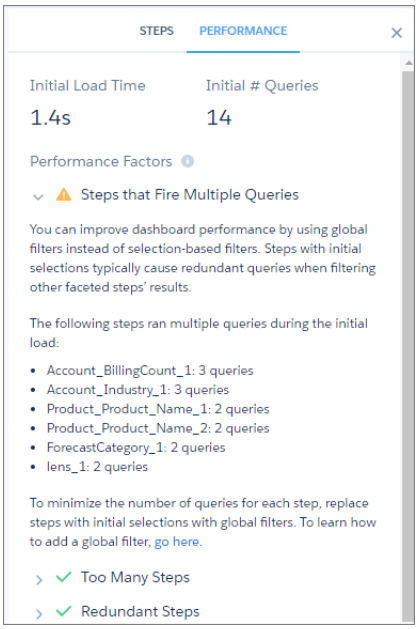
ダッシュボードインスペクタで、ダッシュボードとそのステップのパフォーマンスを改善するための推奨事項が提供されるようになりました。

ダッシュボードのパフォーマンス

ダッシュボードのパフォーマンスを表示するには、ダッシュボードインスペクタで[パフォーマンス]タブを開き、[パフォーマンスチェックを実行]をクリックします。



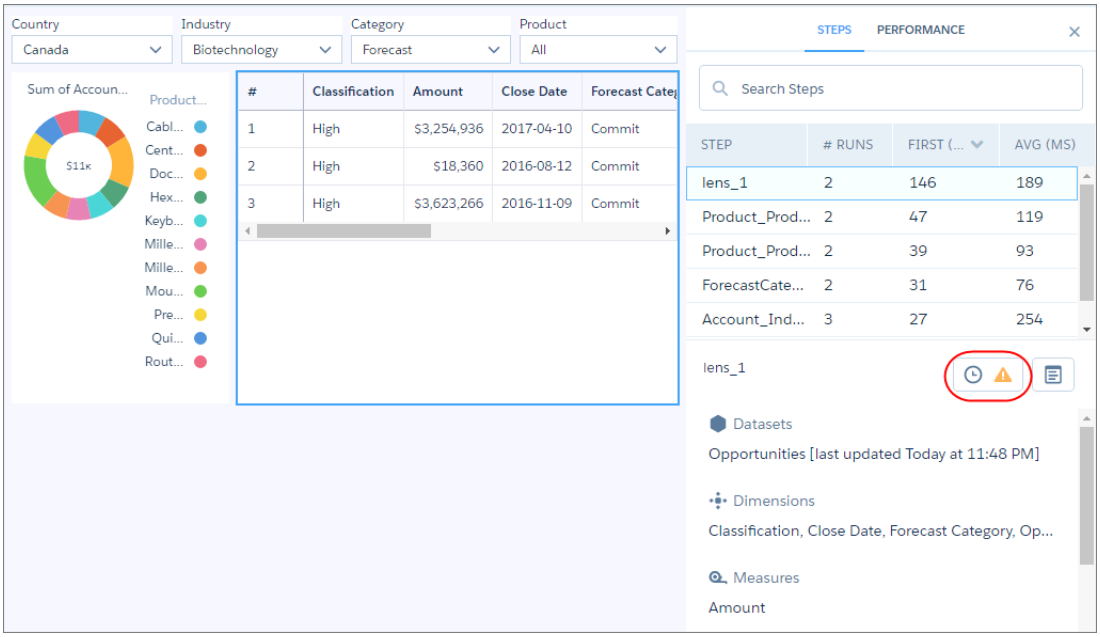
ダッシュボードのパフォーマンス結果が表示されます。ダッシュボードに複数のページが含まれる場合、ダッシュボードインスペクタには参照されている現在のページの結果が表示されます。



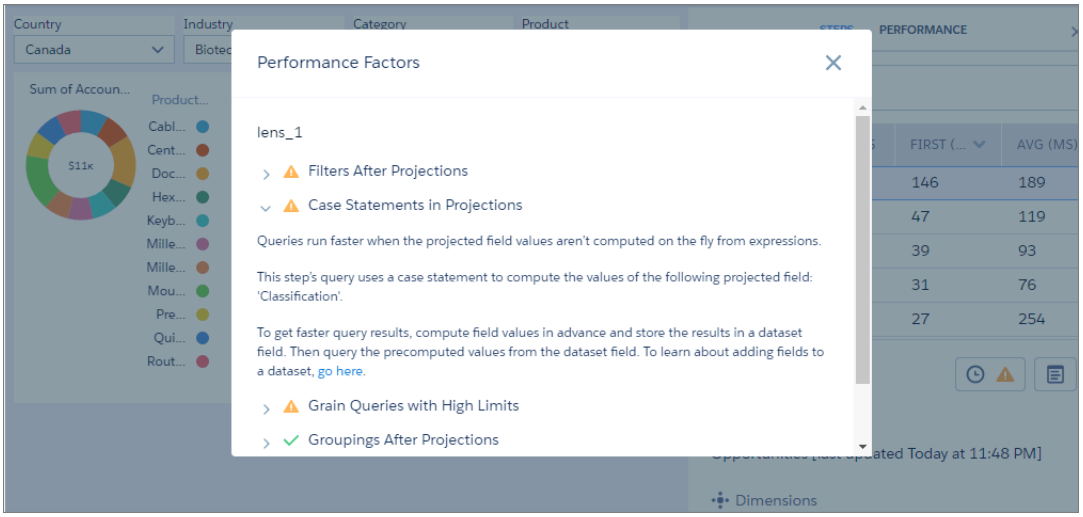
[パフォーマンス要素]セクションには、ダッシュボードが評価されるすべての要素が表示されます。緑のチェックマーク(✓)の問題はダッシュボードに適用されないため、このチェックマークが付いた要素は無視してください。警告アイコン(⚠)が要素の横に表示されている場合は要素を展開し、問題を修正してダッシュボードのパフォーマンスを改善する方法を確認します。

ステップのパフォーマンス

ステップのパフォーマンスを表示するには、ダッシュボードインスペクタで[ステップ]タブを開き、ステップを選択します。[パフォーマンスの詳細を表示]ボタンに警告アイコンが表示される場合、ボタンをクリックしてパフォーマンスの詳細と改善するための推奨事項を表示します。



警告アイコンがある各要素を展開し、ステップのパフォーマンスを改善する方法を確認します。

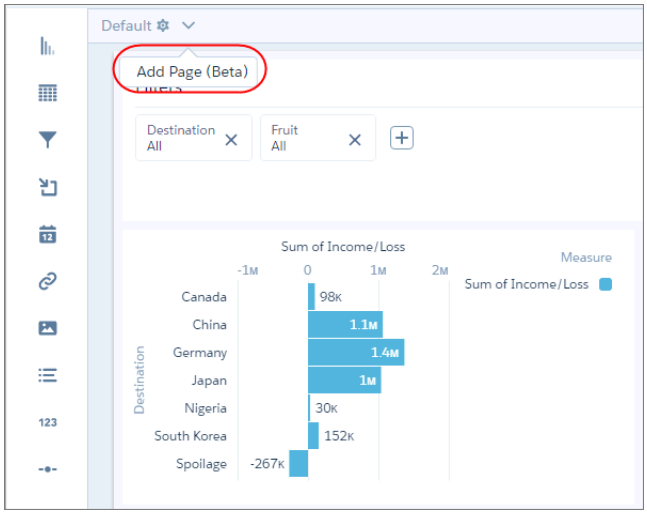


大きなダッシュボードの分割によるパフォーマンス改善 (ベータ)

ダッシュボードを複数のページに分割することで、ダッシュボードのパフォーマンスを改善し、モバイルダッシュボードをすっきりさせることができます。ページを表示するとき、Analytics ではそのページのウィジェットについてのみ結果が計算されます。

メモ: Winter '18 リリースには、ベータバージョンのページ機能が含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。この機能は、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。この機能についてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

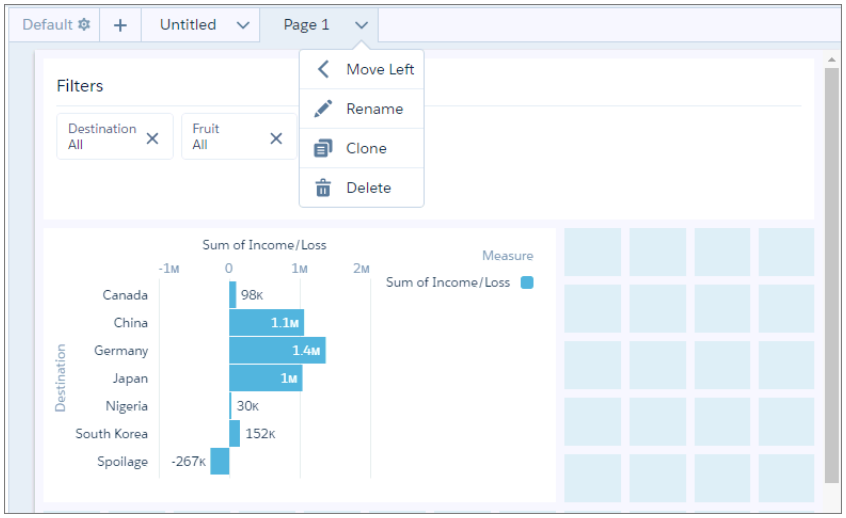
ダッシュボードで複数のページを使用するには、ダッシュボードを編集し、レイアウトメニューから [ページを追加 (ベータ)] をクリックします。ページは、作成されたときのレイアウトに適用されます。ページは有効にすると、そのダッシュボードレイアウトで無効にできません。



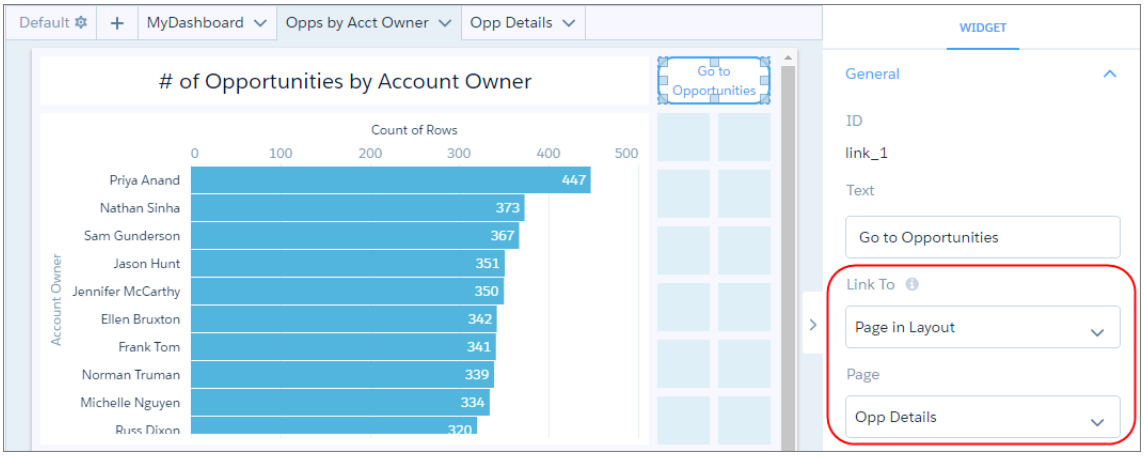
最初のページのタブは、Analytics によって追加されます。さらにページを追加するには、＋をクリックします。1つのレイアウトにつき、ダッシュボードごとに最大5ページを追加できます。ダッシュボードの編集中、各ページはタブとして表示されます(ページをプレビューすると、ダッシュボードのように表示されます)。ページへの変更を保存するには、ダッシュボードを保存します。グローバル検索条件と選択は、ダッシュボードレイアウト内のページ間で共有されます。たとえば、あるページの選択によって、他のページの結果も絞り込まれます。レイアウトを作成すると、現在のレイアウトのすべてのページが新しいレイアウトにコピーされます。

ページの管理

ページ上でさまざまなアクションを実行できます。



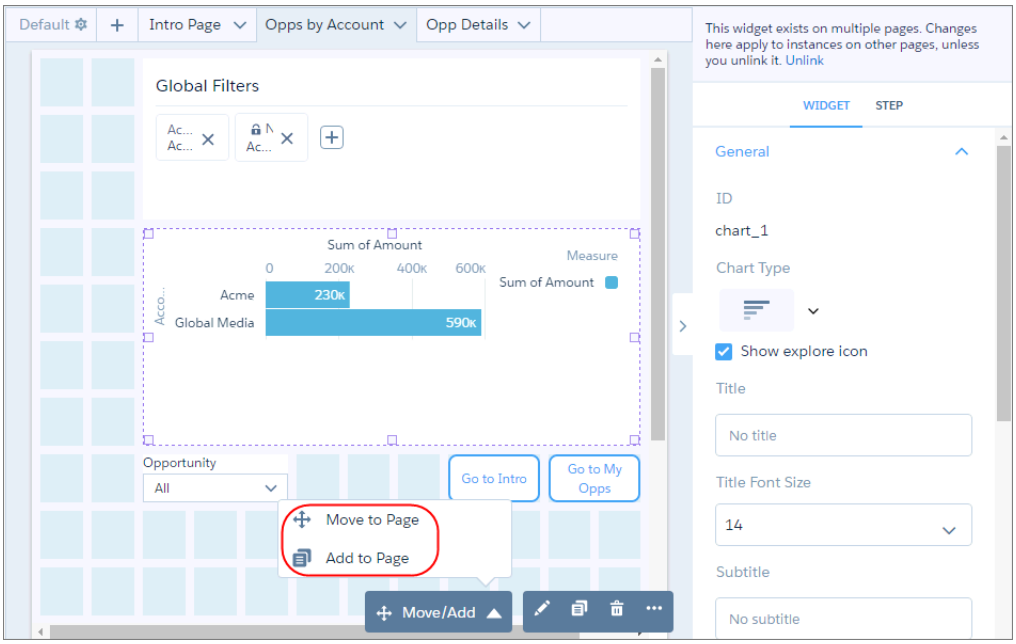
ページは名前変更、コピー、および削除できます。Analytics モバイルアプリケーションでのページの表示順序を変更するには、[左に移動] および [右に移動] を使用します。モバイルダッシュボード閲覧者は、スワイプしてダッシュボードの一連のページを移動できます。ユーザがデスクトップブラウザからダッシュボードを表示する場合、次のようにページの移動に役立つリンクウィジェットをページに追加します。



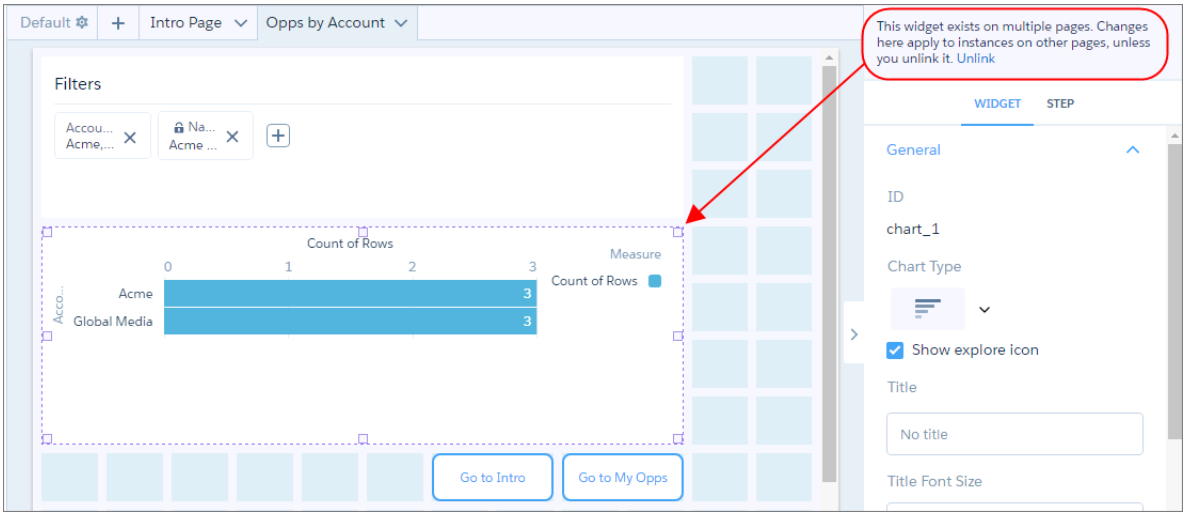
ページを削除すると、他のページまたはレイアウトで使用されていないウィジェットもダッシュボードから削除されます。他のレイアウトで使用されているが、現在のレイアウトの他のページでは使用されていない場合、現在のレイアウトから削除されます。

ページのウィジェットの管理

ウィジェットは、ダッシュボードの他のページに移動または追加できます。ウィジェットを移動するには、ウィジェットを選択し、ウィジェットアクションメニューの [移動/追加] をクリックして [ページに移動] をクリックします。追加するには、[ページに追加] を選択します。



あるページから別のページにウィジェットを追加すると、同じウィジェットのインスタンスが追加されます。あるページでウィジェットのプロパティを変更すると、他のページのすべてのインスタンスに影響があります。ウィジェットが複数のページで使用されていることを示すために、Wave ダッシュボードデザイナでは、ウィジェットを紫で強調表示し、選択されると右ペインにバナーを追加します。



ウィジェットを他のインスタンスから独立して動作させるには、ウィジェットを選択し、バナーの [リンク解除] をクリックします。

ウィジェットをページから削除すると次のようになります。

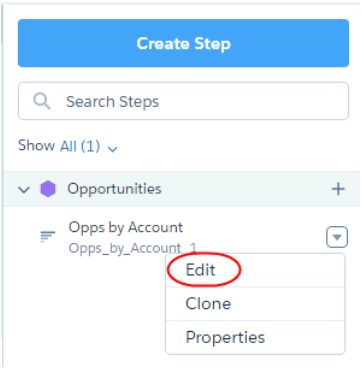
- ウィジェットが他のページで使用されている場合、現在のページからのみ削除されます。
- ウィジェットが他のページで使用されていないが、他のレイアウトで使用されている場合、ページと現在のレイアウトから削除されます。
- ウィジェットが他のページやレイアウトで使用されていない場合、ダッシュボードから削除されます。

ステップの編集による時間の節約

これは、お客様のご要望により実現した機能です。ステップを変更する場合、もうコピーする必要はありません。編集するだけです。データセットを除き、ステップのクエリのどの部分も変更できます。たとえば、基準とグループの変更、テーブルを比較するための派生基準の追加、値テーブルの列の順序変更などができます。ステップを変更すると、そのステップを使用するすべてのウィジェットに影響があります。

ステップを編集するには複数の方法があります。どの方法を使用するかは重要です。

- ステップパネルのステップアクションメニューで [編集] ボタンをクリックする。このメソッドを使用した変更は、これを使用するステップとすべてのウィジェットに影響があります。



- Wave デザイナダッシュボードのウィジェットをダブルクリックするか、ウィジェットアクションメニューの をクリックする。

このメソッドを使用した変更は、ステップと、該当する場合はグラフウィジェットまたはテーブルウィジェットに影響があります。たとえば、クエリ (基準、グルーピング、検索条件など) への変更は、ステップに影響します。ウィジェットプロパティ、表示する列、列の順序に対する変更は、変更したウィジェットにのみ影響します。これらのタイプの変更は、このステップを使用する他のウィジェットに影響しません。

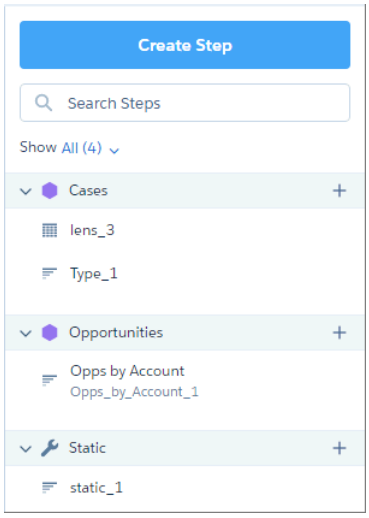
ステップを編集する場合、次の点に注意してください。

- バインドが含まれているステップは編集できません。
- ステップタイプが `aggregate`、`aggregateflex`、`saql`、`grain` のステップは編集できます。`pigql` JSON 属性の SAQL クエリが含まれる `aggregate` または `aggregateflex` ステップタイプを編集する場合、Analytics によってステップタイプが `saql` に変換されます。これらのステップタイプの変換の影響についての詳細は、Salesforce ヘルプの「Aggregate または Aggregateflex ステップタイプから SAQL ステップタイプに変換するときの考慮事項」(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります) を参照してください。
- Winter '18 より前に作成されたグローバル検索条件ウィジェットで使用されているステップは編集できません。これを編集するには、まず更新されたグローバル検索条件に変換します(「グローバル検索条件を使用したダッシュボードコントロールの作成」を参照)。

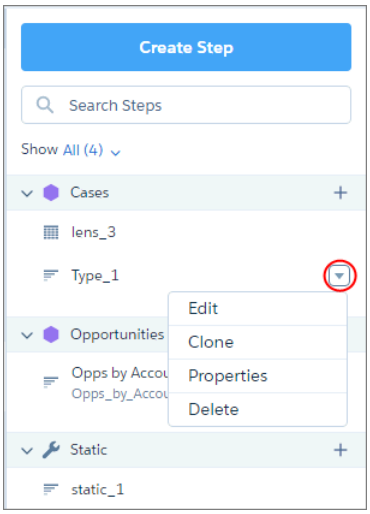
見つけやすくなったステップ

これまで、必要なステップを見つけるには、長いリストから選び出す必要がありました。それが変わります。パネルでは、ステップがカテゴリに整理され、ステップをより早く見つけられるように検索バーが提供されます。

ステップパネルでは、ステップがデータセット名およびステップタイプ別に分類されます。誤りのあるステップ用に特別なカテゴリも含まれます。カテゴリとステップはアルファベット順に一覧で表示されます。各カテゴリは折りたたむことができます。



カテゴリの横にある ＋ をクリックすると、そのタイプのステップを作成できます。この機能は、`apex`、`soql`、および複数データセットのステップを除く、すべてのステップで使用できます。ステップに対して実行できるアクションにアクセスするには、ステップの上にマウスポインタを置き、下矢印をクリックします。



新しいファセット動作によるダッシュボード検索条件の制御

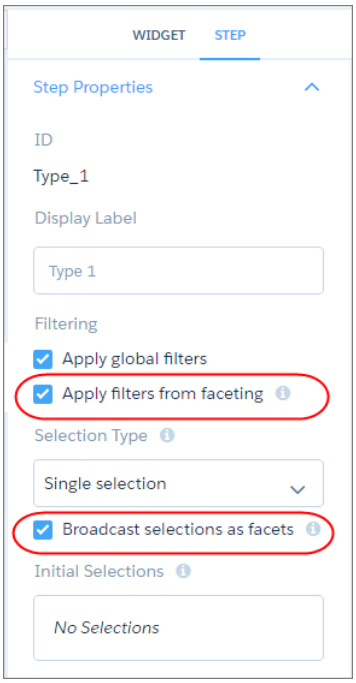
ファセットをより詳細に制御できるようになりました。他のファセットされたステップを絞り込む選択をブロードキャストするステップを指定できます。また、ファセットとしてブロードキャストされた選択に基づいて、その結果を絞り込むステップを制御することもできます。既存のステップはこの変更の影響を受けず、そのファセット動作が保持されます。

ステップのファセット動作を制御するには、ステップのプロパティで次のオプションを設定します。

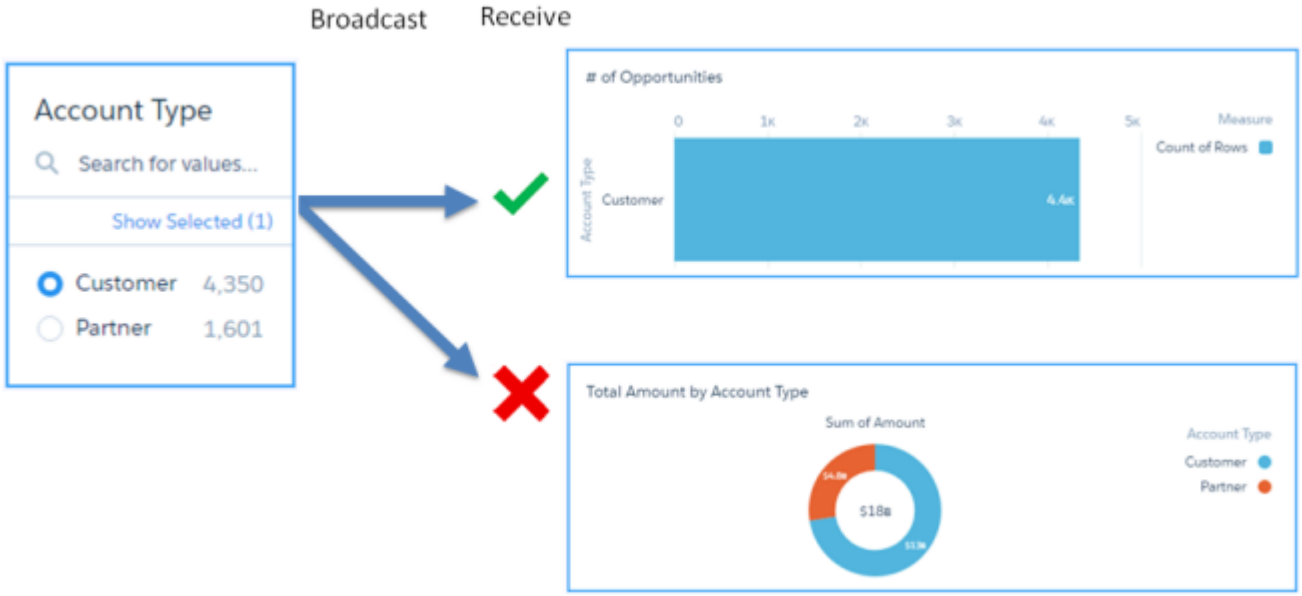
選択内容をファセットとしてブロードキャスト
: ステップの選択がファセットとしてブロードキャストされるかどうかを制御します。これによって他のファセットされたステップが絞り込まれます。

ファセットから検索条件を適用

ブロードキャストされたファセットをステップがリスンし、それらを検索条件として適用するかどうかを制御します。



次の図は、この 2 つのオプションが結果を絞り込むためにどのように連携するかを示しています。[取引先 種別] ウィジェットで選択が行われた場合、Analytics はファセットを受信するすべてのステップにその選択をブロードキャストします。[受信] が有効な場合、Analytics は [商談数] ウィジェットを絞り込みます。[受信] が無効な場合、[取引先種別別総額] ウィジェットは絞り込まれません。



[選択内容をファセットしてブロードキャスト] と [ファセットから検索条件を適用] は、`aggregateflex`、`saql`、`staticflex` ステップタイプに設定できます。このいずれかのステップタイプを作成するとき、デフォルトで両方のオプションが有効になっています。

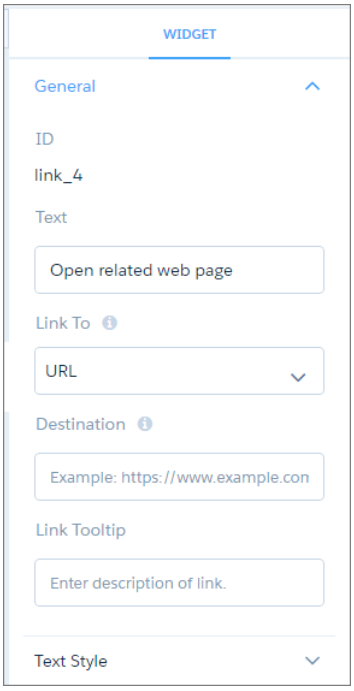
次のステップタイプでは、これらのオプションがサポートされず、参照のみとして表示されます。

- `apex` と `soql`。これらはファセットをサポートしません。
- `aggregate`、`grain`、および `static`。これらのステップタイプのファセット動作を変更するには、ダッシュボード JSON で `isFacet` プロパティを編集します。これらのステップタイプで `broadcastFacet` および `receiveFacet` JSON パラメータを設定しようとすると、エラーが発生します。

各ステップタイプでサポートされるファセット JSON プロパティについては、「Wave デザイナのダッシュボード JSON の変更」を参照してください。

関連 Web コンテンツを使用したダッシュボードの補完

Webページへのリンクを使用してダッシュボード内に外部環境を取り込みます。たとえば、ダッシュボードをポータルのエントリページとして使用する場合、問題の追跡システムや経費レポートシステムなど、さまざまなシステムへの静的リンクを作成できます。



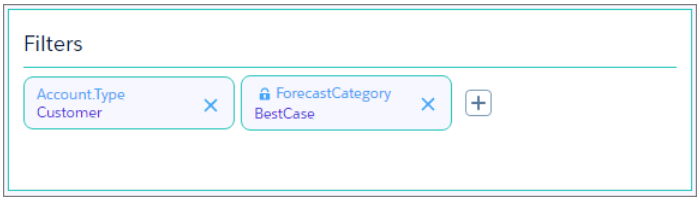
URL 項目では http または https がサポートされます。URL での Salesforce パラメータ (Salesforce オブジェクトや Analytics データセット項目など) の引き渡しはサポートされません。

グローバル検索条件を使用したダッシュボードコントロールの作成

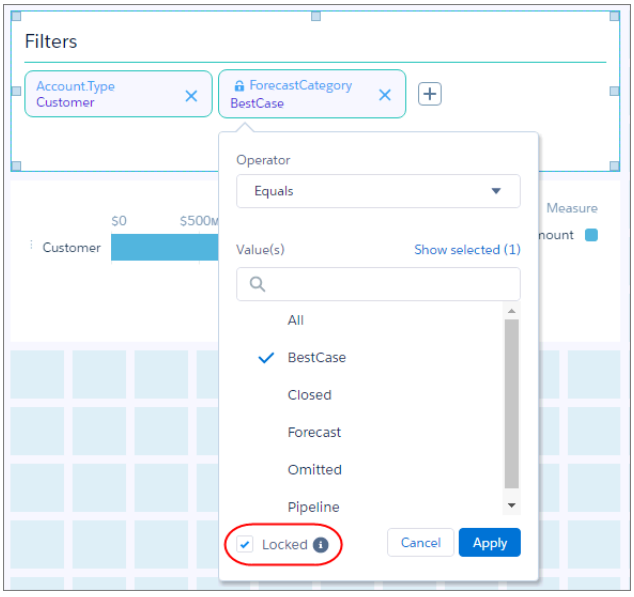
グローバル検索条件の作成と管理がさらに簡単になりました。ダッシュボード閲覧者がグローバル検索条件を変更できるようにすることもできます。

グローバル検索条件の使用

グローバル検索条件を作成するには、ウィジェットツールバーからグローバル検索条件パネルウィジェット（ ）をダッシュボードにドラッグし、＋をクリックします。各検索条件は、Region="West" や Industry= "CPG" のように、複数の項目による複合検索条件ではなく単一項目に基づく必要があります。

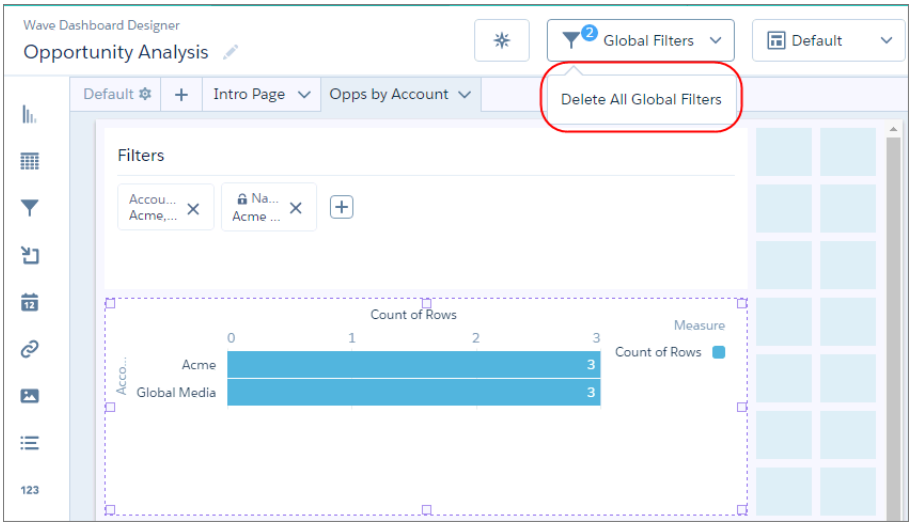


以前のグローバル検索条件とは異なり、新しいグローバル検索条件はダッシュボード閲覧者が一時的に変更できます。その変更は保存されません。閲覧者がグローバル検索条件を変更できないようにするには、検索条件の作成時に [ロック] をクリックします。



グローバル検索条件を変更するには、パネル内のグローバル検索条件をクリックします。パネルからグローバル検索条件を削除するには、× をクリックします。

グローバル検索条件パネルウィジェットを削除する場合、パネルはダッシュボードから削除されますが、グローバル検索条件は引き続き適用されます。ダッシュボードからグローバル検索条件を削除するには、ダッシュボードの編集中に [グローバル検索条件] ボタン内の下矢印をクリックし、[すべてのグローバル検索条件を削除] をクリックします。

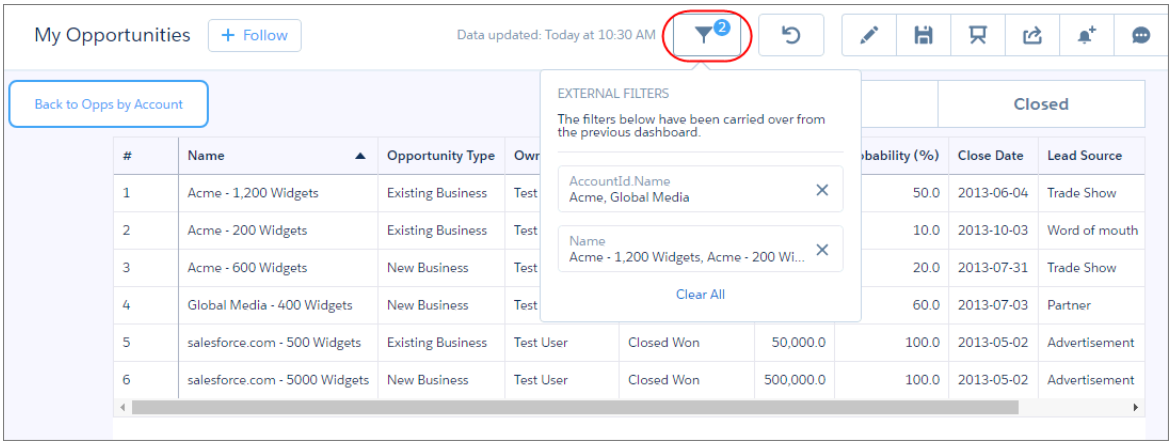


メモ: Winter '18 より前に作成されたグローバル検索条件でダッシュボードを開くと、Analytics によって新バージョンに変換するかどうかを尋ねるポップアップメッセージが表示されます。同意すると、すべてのグローバル検索条件が新デザインに変換され、パネルにすべてのグローバル検索条件が表示されます。変換時に、複合検索条件、存在しないデータセットや項目を参照する無効な検索条件など、サポートされていないグローバル検索条件は新しいグローバル検索条件パネルウィジェットには表示されません。新しいデザインに変換しない場合、引き続き従来のグローバル検索条件を使用できますが、グローバル検索条件をダッシュボードに追加することはできません。

リンクされたダッシュボードからのグローバル検索条件の引き渡し

リンクウィジェットのウィジェットプロパティで [検索条件と選択内容の適用] を選択した場合、現在のダッシュボードの選択内容がリンクされたダッシュボードに渡されます。検索条件が適用されるのであれば、グローバル検索条件もリンクされたダッシュボードに検索条件として渡されます(以前のリリースでは、グローバル検索条件はリンクされたダッシュボードの選択内容として渡されていました)。グローバル検索条件の定義対象であるデータセットがリンクされたダッシュボードで使用されていない場合、そのグローバル検索条件は無視されます。ソースダッシュボードとターゲット(リンク先)ダッシュボードの両方に同じ項目で定義されたグローバル検索条件がある場合、ターゲットグローバル検索条件がロックされているとソースグローバル検索条件は無視されます。ロックされていない場合、ソースグローバル検索条件でターゲットグローバル検索条件が上書きされます。

リンクされたダッシュボードを開くと、渡されたグローバル検索条件が外部検索条件として表示されます。外部検索条件を表示するには、次のスクリーンショットで強調表示されている をクリックします。[外部検索条件]パネルには、リンクされたダッシュボードから渡された検索条件(および埋め込みダッシュボードに事前設定された検索条件)が表示されます。ダッシュボードの表示中に、既存の検索条件を削除できます。



Wave デザイナのダッシュボード JSON の変更

ダッシュボード JSON のパラメータが新規追加および変更されました。これは、JSON を最初から作成するユーザに影響します。

JSON プロパティ	説明
`broadcastFacet` および `receiveFacet`	新しい boolean プロパティ。ファセット動作をより詳細に制御するため、`aggregateflex`、`saql`、および `staticflex` ステップタイプの `isFacet` および `autoFilter` プロパティがこの 2 つのプロパティに置き換えられます。`broadcastFacet` は、ステップの選択がファセットとしてブロードキャストされるかどうかを制御します。`receiveFacet` は、ブロードキャストされたファセットをステップがリスンし、それらを検索条件として適用するかどうかを制御します。 例: `"Amount_1": { "type": "aggregateflex", "query": { "measures": [ [ "sum", "Amount" ] ] }, "useGlobal": true, "isGlobal": false, "broadcastFacet": true, "receiveFacet": true, "selectMode": "single", "visualizationParameters": { ... }, "datasets": [ {`

JSON プロパティ	説明

```
            "id": "0FbB000000017QxKAI",
            "name": "opportunity",
            "label": "Opportunities",
            "url":
"/services/data/v41.0/wave/datasets/0FbB000000017QxKAI"
        }
    ],
},
```

メモ: 次の表に、各ステップタイプに適用される JSON プロパティのファセットをまとめます。

ステップタイプ	isFacet	autoFilter	broadcastFacet	receiveFacet
saql			✓	✓
aggregateflex			✓	✓
staticflex			✓	JSON で表示されますが、このステップタイプはファセットを受信できないため、常に false に設定されます。
apex			JSON で表示されますが、このステップタイプはファセットをブロードキャストできないため、常に false に設定されます。	JSON で表示されますが、このステップタイプはファセットを受信できないため、常に false に設定されます。
soql			JSON で表示されますが、このステップタイプはファセットをブロードキャストできないため、常に false に設定されます。	JSON で表示されますが、このステップタイプはファセットを受信できないため、常に false に設定されます。
aggregate	✓	✓		
grain	✓			
static	✓			

JSON プロパティ	説明
columns	(Wave デザイナダッシュボードのみ)ウィジェットに含まれるステップ項目のリストを指定します。このプロパティを使用して、ウィジェットに特定の項目を含めたり、ウィジェットの項目の順序を変更したりします。このプロパティは、aggregateflex または saql ステップタイプに基づいてウィジェットを編集し、エクスプローラを使用して項目を並び替えまたは非表示にするときに表示されます。他のステップタイプに基づいてウィジェットの項目を指定するか順序を変更するには、JSON でこのプロパティを手動で追加および設定します。 例: ステップは、Id、Name、Amount、Profit という項目のデータを返します。グラフウィジェット (chart_2) で Id 項目および Profit 項目を非表示にするには、"columns" プロパティを設定します。 `"chart_2": { "parameters": { "columns": [ "Name", "Amount" ], "visualizationType": "hbar", "step": "Amount_Prob_1", ... }, "type": "chart", .... }`

destinationType	既存のプロパティ。ダッシュボードページ ("destinationType": "page") または Web サイト ("destinationType": "url") にリンクできるようになりました。URL を設定するには、url パラメータ内で指定します。
	例:
	`"link_to_page": { "type": "link", "parameters": { "destinationType": "page", "includeState": false, "text": "Opportunity Details", "textColor": "#44A2F5", "textAlignment": "center", "fontSize": 12, "destinationLink": { "name": "9c29106c-ec63-45bc-b1c3-d5ceb6663e04" } } }`
	`"link_to_web_site": { "type": "link", "parameters": { "destinationType": "url", "includeState": false, "text": "Salesforce.org Website",`

JSON プロパティ	説明

	<pre>"textColor": "#44A2F5",
	"textAlignment": "center",
	"fontSize": 12,
	"destinationLink": {
	"url": "http://www.salesforce.org/",
	"tooltip": "Learn about Salesforce's 1-1-1 model."
	}
	}
	}</pre>

mobileDisabled	新しいboolean プロパティ。モバイルアプリケーションでダッシュボードにアクセスできるかどうかを指定します。このパラメータは、モバイルデバイス上で適切に動作しないダッシュボードを非表示にする場合に使用します。
	例:
	<pre>{
	"label": "Opps by Account Owner",
	"mobileDisabled": false,
	"state":...
	}</pre>

pages	既存のプロパティ。Analytics で複数のページがサポートされるようになりました。ダッシュボードを複数のページに分割すると、各ページの pages プロパティの下にセクションが含まれます。pages の下の name プロパティは、各ページで必須の新しいプロパティです。
	例:
	<pre>"pages": [
	{
	"label": "Untitled",
	"name": "126228ee-5268-454e-bc15-1c85facc3a29",
	"widgets": [
	{
	"row": 1,
	"column": 0,
	"rowspan": 6,
	"colspan": 10,
	"name": "chart_1",
	"widgetStyle": {}
	},
	{
	"row": 0,
	"column": 0,
	"rowspan": 1,
	"colspan": 10,
	"name": "text_1",
	"widgetStyle": {}
	}</pre>

JSON プロパティ	説明

```
            ]
        },
        {
            "label": "Opps by Acct Owner",
            "name": "8b51af0c-4be6-4924-b67a-5ee49bb118ed",
            "widgets": [
                {
                    "row": 1,
                    "column": 0,
                    "rowspan": 6,
                    "colspan": 10,
                    "name": "chart_1",
                    "widgetStyle": {}
                },
                {
                    "row": 0,
                    "column": 0,
                    "rowspan": 1,
                    "colspan": 10,
                    "name": "text_1",
                    "widgetStyle": {}
                }
            ]
        },
        {
            "label": "Opps Details",
            "name": "9c29106c-ec63-45bc-b1c3-d5ceb6663e04",
            "widgets": [
                {
                    "row": 0,
                    "column": 0,
                    "rowspan": 6,
                    "colspan": 10,
                    "name": "chart_1",
                    "widgetStyle": {}
                },
                {
                    "row": 6,
                    "column": 0,
                    "rowspan": 4,
                    "colspan": 10,
                    "name": "table_1",
                    "widgetStyle": {}
                }
            ]
        }
],
```

JSON プロパティ	説明
type (ステップ)	既存のプロパティ。Analytics で新しい apex ステップタイプのベータサポートが提供されるようになりました。apex ステップには次のプロパティを使用できます。 **body** 省略可能。入力パラメータを含む Blob が Apex コントローラクラスで必要です。 **path** 必須。Apex コントローラクラスのクラスパスと名前を指定します。 例: `"GetStockData": { "query": { "body": { "symbol": "CRM" }, "path": "stocks" }, "type": "apex" }` 詳細は、「Analytics ダッシュボードへの Apex 機能の追加 (ベータ)」を参照してください。
type (ウィジェット)	既存のプロパティ。Analytics で新しいウィジェットタイプ、グローバル検索条件パネルウィジェット ("type":"filterpanel") がサポートされるようになりました。以前のグローバル検索条件ウィジェットタイプ ("type":"globalfilters") がこのウィジェットに置き換えられます。グローバル検索条件パネルウィジェットで、次のパラメータがサポートされるようになりました。 **itemsPerRow** グローバル検索条件パネルで 1 行に表示するグローバル検索条件の数 **filterItemOptions** パネルに表示される各グローバル検索条件の詳細 **propertyColor** 項目名の色 **valueColor** 項目値の色 **backgroundColor** 検索条件の背景の色。 **borderColor** 検索条件の境界線の色。

JSON プロパティ	説明

	borderWidth
	検索条件の境界線の幅。
	borderRadius
	検索条件の境界線の半径。
	title
	グローバル検索条件パネルウィジェットのタイトルの詳細
	visible
	ダッシュボードを参照するときにタイトルが表示されるかどうかを示します
	text
	タイトルの詳細: タイトル (`label`)、タイトルの色 (`color`)、タイトルのフォントサイズ (`fontSize`)、横方向の配置 (`align`)
	separatorColor
	ウィジェットタイトルをグローバル検索条件と分割する線の色
	グローバル検索条件は、新しい `filters` セクションの下に配列として表示されます。各検索条件は、項目、演算子、および項目値 (「都道府県 次の文字列を含む 東京都」など) で構成されます。各検索条件は次のプロパティを使用します。
	label
	グローバル検索条件に表示される項目の表示ラベル
	fields
	レコードを絞り込む項目の API 参照名
	operator
	検索条件演算子。サポートされる演算子は `in` (次の文字列と一致する)、`not in` (次の文字列と一致しない)、および `matches` (次の文字列を含む)
	locked
	ダッシュボード閲覧者がグローバル検索条件を変更できるかどうかを示します
	dataset
	項目を含むデータセットの API 参照名を指定する `name` 項目が含まれます
	value
	レコードを絞り込む項目値の配列
	例:
	`"state": {`
	`"steps": {},`
	`"widgets": {`
	`"filterpanel_1": {`
	`"type": "filterpanel",`
	`"parameters": {`
	`"itemsPerRow": 5,`

JSON プロパティ	説明

```
                "filterItemOptions": {
                    "propertyColor": "#44A2F5",
                    "valueColor": "rgb(80, 27, 217)",
                    "backgroundColor": "#F2F6FA",
                    "borderColor": "#2EC2BA",
                    "borderWidth": 2,
                    "borderRadius": 8
                },
                "title": {
                    "visible": true,
                    "text": {
                        "label": "Filters",
                        "color": "#091A3E",
                        "fontSize": 18,
                        "align": "left"
                    },
                    "separatorColor": "#2EC2BA"
                }
            }
        }
    },
    "filters": [
        {
            "label": "Account.Type",
            "fields": [
                "Account.Type"
            ],
            "operator": "in",
            "locked": false,
            "dataset": {
                "name": "opportunity"
            },
            "value": [
                "Customer"
            ]
        },
        {
            "label": "ForecastCategory",
            "fields": [
                "ForecastCategory"
            ],
            "operator": "in",
            "locked": true,
            "dataset": {
                "name": "opportunity"
            },
            "value": [
                "BestCase"
            ]
        }
    ],
    "gridLayouts": [
```

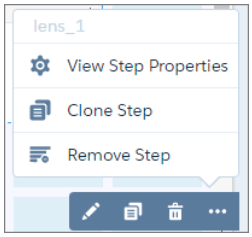
JSON プロパティ	説明

	<pre>...
	],
	"dataSourceLinks": [],
	"widgetStyle": {
	...
	}
	},</pre>

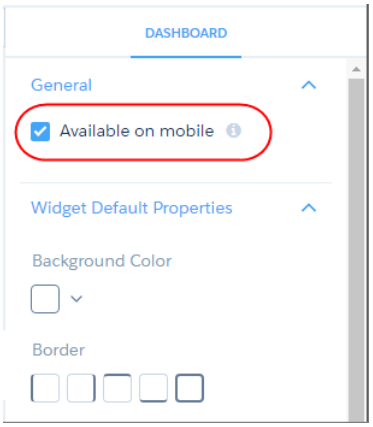
Wave ダッシュボードデザイナのその他の機能強化

Wave デザイナに対する次の改善点を確認してください。

- 未保存のダッシュボード変更が失われないように、ブラウザウィンドウを更新したり、閉じたりするとき、Analytics から保存を促すメッセージが表示されます。
- S ホットキーでダッシュボードをさらにすばやく上書き保存できるようになりました。S キーを押すと、ダッシュボード名とアプリケーションを設定するポップアップが閉じます。
- Wave ダッシュボードデザイナのウィジェットアクションボタンが、オーバーフローメニューを備えた単一バーとして表示されるようになりました。



- デフォルトのウィジェットサイズが小さくなり、より小さな領域にも収まるようになりました。
- より正確に表示するために、数値ウィジェットでは短縮された数値が小数第 1 位に四捨五入されます。たとえば、短縮された 1,111,556 は 1.1 M、111,045 は 111.0 K と表示されます。[値の表示形式] ウィジェットプロパティが [コンパクト数値] に設定されている場合、この新しい動作はグラフおよびテーブルウィジェットでは使用できません。
- Analytics モバイルアプリケーションでダッシュボードを非表示にするには、 ••• をクリックしてから ⚙ をクリックしてダッシュボードのプロパティを開き、[モバイルで利用可能] をクリアします。デフォルトでは、このオプションが選択されています。モバイルデバイス上で適切に動作しないダッシュボードを非表示にできます。



- ダッシュボードを閲覧中に、比較テーブルまたは値テーブルの列をクリックして結果を並び替えることができるようになりました。

#	Close Date	Opportunity Name	Opportunity Owner	Forecast Category	Stage
1	2016-05-17	Opportunity for Wright [2154]	Nathan Sinha	Best Case	Perception Analysis
2	2016-05-22	Opportunity for Jensen [2321]	Bill Johnson	Best Case	Perception Analysis
3	2016-06-13	Opportunity for Hunt [2117]	Jennifer McCarthy	Best Case	Id. Decision Makers
4	2016-06-14	Opportunity for Santos [2257]	Nathan Sinha	Best Case	Proposal/Price Quote
5	2016-06-21	Opportunity for Matthews [2052]	Bill Johnson	Best Case	Id. Decision Makers
6	2016-06-25	Opportunity for Steele [2290]	Sam Gunderson	Best Case	Id. Decision Makers
7	2016-06-28	Opportunity for Vasquez [2151]	Russ Dixon	Best Case	Perception Analysis
8	2016-06-29	Opportunity for Holt [2074]	Valerie Thom	Best Case	Proposal/Price Quote

- ダッシュボードを編集すると、最後に保存した状態に戻ります。ダッシュボードの一部として定義されたグローバル検索条件と初期選択内容は保持されます。ただし、ダッシュボードを閲覧中にユーザが行った選択内容と、リンクされたダッシュボードから渡された、または埋め込みダッシュボードで事前設定された外部検索条件は削除されます。以前は、ダッシュボードを編集すると、閲覧中に適用された選択内容や検索条件は保持されていました。

Analytics データインテグレーション: アップロードウィザード、新しいコネクタ、データを準備するためのスマート提案

データフローエディタ、データセット編集ページ、および複製設定ページの機能強化により、Analyticsへのデータインテグレーションが容易になりました。新しいアップロードウィザードを使用すると、データをアップロードする前にファイルプロパティと項目属性を表示して変更できます。データセットビルダーでは、データフローを選択して新しいデータフローを作成できます。

このセクションの内容:

複製の適切な管理

大量の複製作業に忙殺されていませんか?複製設定ページが更新され、複製の検索と管理が簡単になりました。検索して並び替え、セクションを折りたたんで必要な複製のみに集中できます。複製を設定するときに、表示ラベルやデータ型などの項目属性を変更して、その場でデータを準備します。各複製を個別に実行します。

新しいコネクタで接続範囲が拡大

新しい Microsoft Dynamics CRM コネクタと Google BigQuery コネクタでさらに多くの Web ベースのデータサービスに接続できます。コネクタを使用すると、簡単に Salesforce 組織内外のデータに接続して Analytics で複製できます。今回、2 つの新しいリモートコネクタが追加されました。

データセット作成時の .csv データのインテリジェントな準備

すべてのファイルがまったく同じに作成されることはありません。異なる区切り文字、文字コード、数値形式、通貨記号を使用して、アップロードする .csv データが同じにならないようにしているのではないかと勘ぐりたくなるほどです。そうした状況が改善されます。Analytics でファイルとその項目が細部まで認識されるようになり、アップロードしたファイルプロパティと項目属性を表示して編集できます。数値項目に含まれる数値以外の文字さえ認識されるため、最小限の手間で基準としてアップロードできます。しかも、このすべてが新しいウィザードに含まれており、ユーザは親切なガイドに従いながらプロセスを実行できます。

任意のデータフローでのデータセットの作成

データセットビルダーとデータフローエディタの組み合わせにより、Salesforce データセットの作成をシームレスに処理できます。データセットを作成するデータフローを選択し、そのデータフローを実行する前に編集できるようになりました。すでにデータフローエディタで作業している場合、ボタンをクリックしてデータセットビルダーを開き、その場で新しい Salesforce データセットを追加できます。

データフローの機能強化によるデータのフローの維持

データフローエディタでは、ボタンが新しくなり、機能が追加されました。エディタから直接データセットビルダーを開いて、新しい Salesforce データセットをすばやく追加できます。computeRelative ノードで SAQL 式を使用できます。登録ノードで共有ソースを選択できます。さらに、データフローを遅らせる必要がなくなります。データフローを開始すると、必要に応じて複製が自動的に実行されるようになりました。

export 変換を使用した Einstein Discovery へのデータのエクスポート (ベータ)

データフローで新しい export 変換を使用して、Analytics のデータを Einstein Discovery で使用できるようにすることができます。この変換では、データフローで指定したソースノードのデータからデータファイルとスキーマファイルが作成されます。データフローの実行後、Einstein Discovery ユーザは公開 API を使用してこれらのファイルにアクセスできます。

要点をすぐに把握できる更新されたデータセット編集ページ

データセット編集ページが見やすくなり、必要な情報を簡単に得られるようになりました。情報に焦点を絞るため上部に主要情報がグループ化され、タスクはボタンをクリックしないと表示されません。データセットの最終更新日も表示されます。

データを元に戻す: 以前のバージョンのデータセットの復元

間違いは起こるものです。誰かがデータセット内のデータを置き換えたりデータフローを編集したりすることもあります。レンズに誤ったデータが表示され、ダッシュボードは壊れてしまいます。この窮地を脱しましょう。数分で以前のバージョンのデータセットを復元すれば、Analytics ユーザのヒーローになることができます。

スマート提案と列のプロファイルを使用したデータのインテリジェントな準備とクリーンアップ

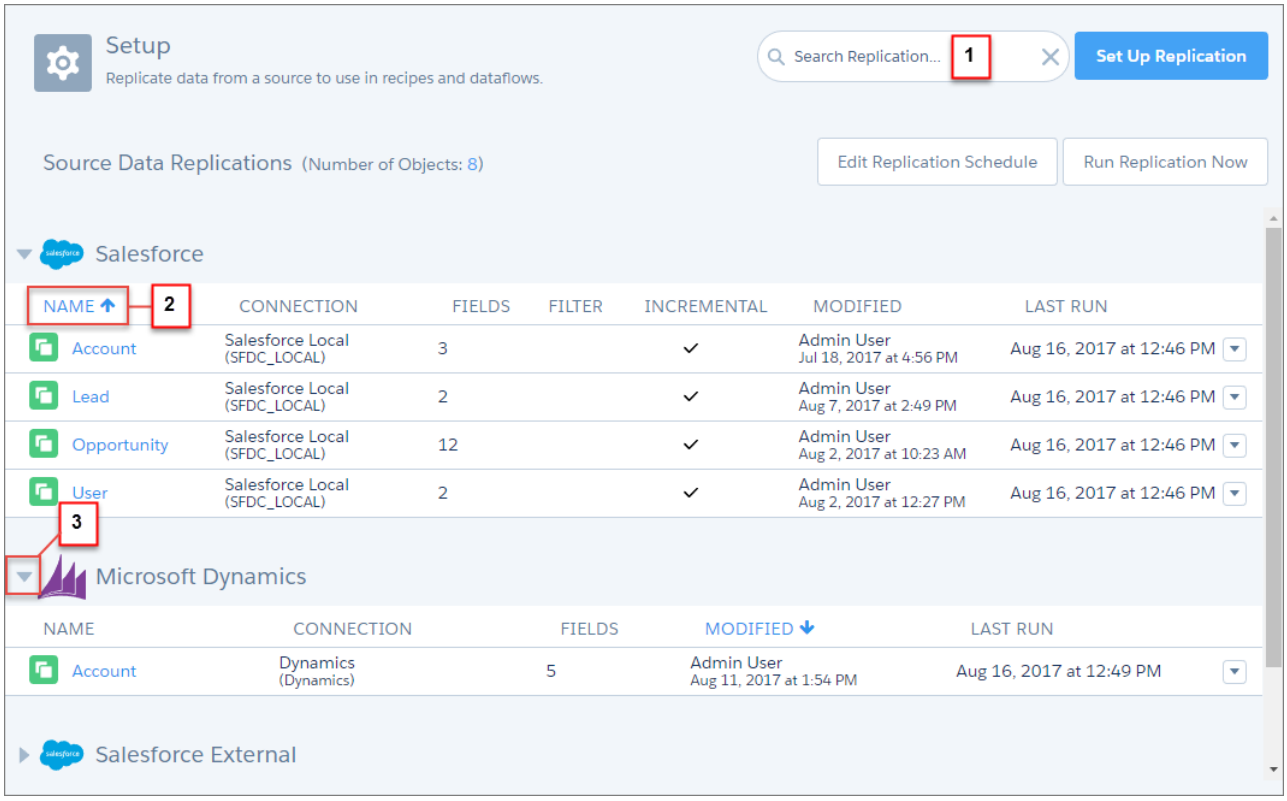
データセットレシピが更新されてスマートになりました。列のプロファイルを使用してデータの品質を評価し、クリーンアップ方法に関するスマート提案を取得します。

セキュリティ述語による共有継承の統合

以前は、セキュリティ述語と共有継承は相互に排他的でした。これらが連携するようになり、完全な範囲へのセキュリティの提供がさらに簡単になりました。

複製の適切な管理

大量の複製作業に忙殺されていませんか?複製設定ページが更新され、複製の検索と管理が簡単になりました。検索して並び替え、セクションを折りたたんで必要な複製のみに集中できます。複製を設定するときに、表示ラベルやデータ型などの項目属性を変更して、その場でデータを準備します。各複製を個別に実行します。



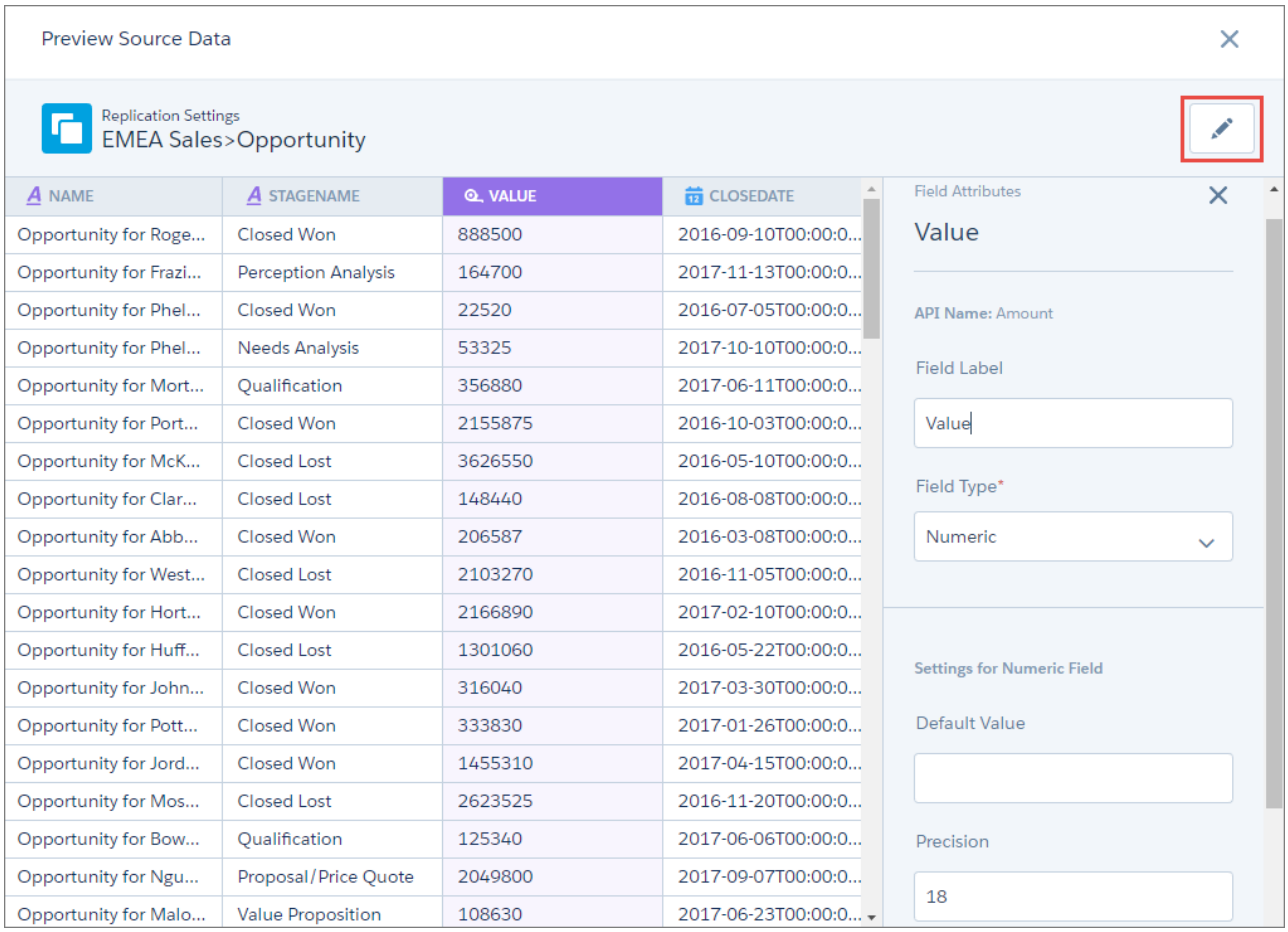
名前、接続名、表示ラベル、データ型で複製を検索します (1)。入力を開始し、一致する複製のみになるようにリストを絞り込みます。検索では大文字と小文字が区別されないため、Shiftキーを使用する必要はありません。任意の列でセクションの複製を並び替えます (2)。列ヘッダーをクリックして並び替えます。再度クリックすると、並び替え順が逆になります。 をクリックして、セクションを折りたたみます (3)。

項目属性の表示および編集

コネクタを使用して異なるソースからのデータを複製する場合、項目の表示ラベル、データ型、形式に一貫性がある保証はありません。データフローまたはレシピでこのデータを組み合わせている場合、この一貫性のなさが悩みの種となる可能性があります。複製を設定または編集するときに、その場でこれらの項目属性を表示および編集できるようになりました。

メモ: ローカル複製の項目属性は参照のみです。

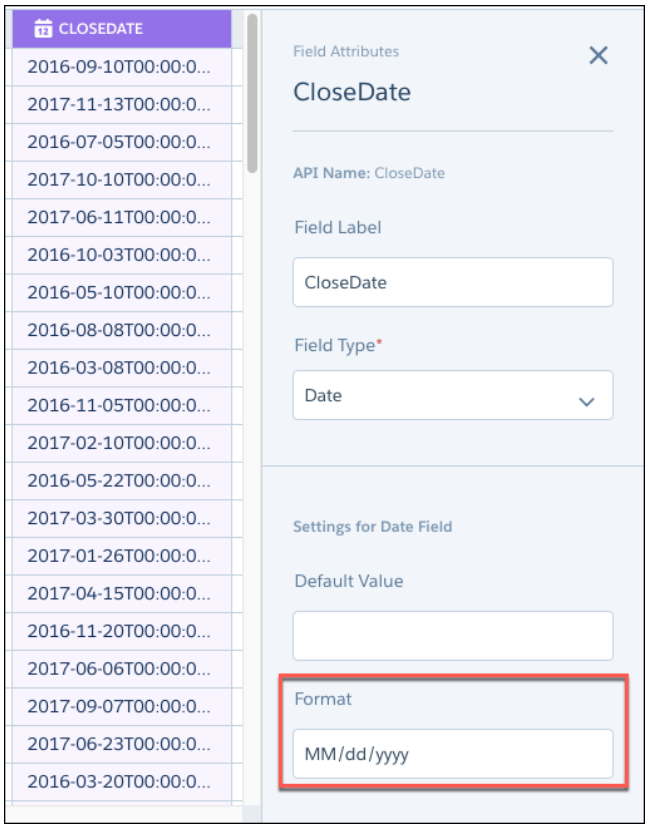
例を見てみましょう。Blue Sky Solar の Analytics システム管理者が、イギリスの Salesforce 組織から商談データを複製するリモート接続を設定しました。この企業は、ローカル米国組織から複製された商談データをこのデータと組み合わせようとしています。システム管理者は イギリスのデータをプレビューしているときに、列ヘッダーをクリックして [編集] ボタン ( ) をクリックすれば、項目属性パネルを開くことができます。



イギリスの組織は項目の表示ラベルとして [Amount (金額)] の代わりに [Value (値)] を使用しており、その値には小数点以下が表示されないことにシステム管理者は気が付きました。ここでそれらをすばやく変更できます。

メモ: プレビューデータには、項目の表示ラベルの変更のみが表示されます。その他の変更は、複製を実行したときに適用されます。

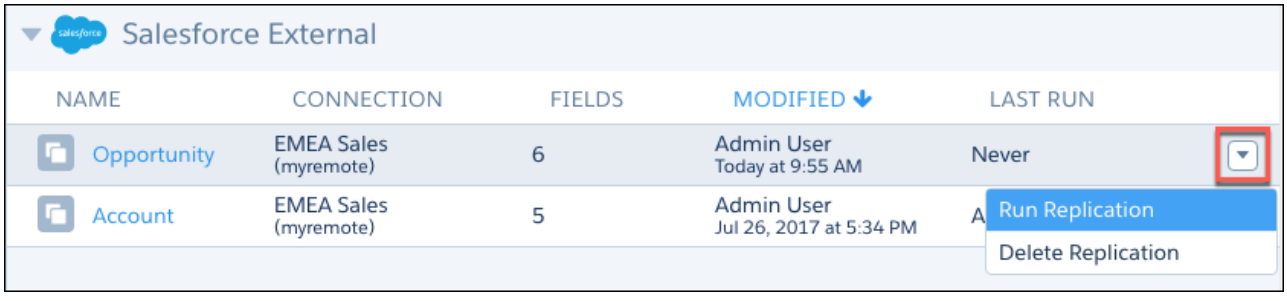
次に、完了予定日列に移動します。イギリスの組織の日付値には米国のデータにはない時間コンポーネントが含まれていました。日付値の一貫性を保つため、形式属性からこれらのコンポーネントを削除します。



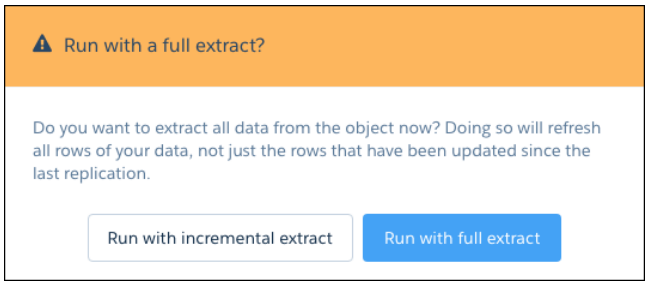
メモ: データ型は、基準項目と日付項目のみでテキストにのみ変更できます。項目のデータ型をテキストに変更した後に元に戻すには、項目の選択画面に戻り、項目を選択解除してから選択します。プレビュー画面に進むと、元のデータ型が復元されています。

個別の複製の実行

以前は、1 つの複製を実行したい場合でもすべての複製の実行が必要でした。Blue Sky Solar の Analytics システム管理者は、リモート Salesforce 組織で商談データの新しい複製を設定しました。この新しい複製を、その他の複製が実行されるのを待たずして実行して、データフローとレシピで使用できるようにしたいと考えているとします。この場合、複製のアクションメニューに直接移動して、複製を実行できるようになりました。つまり、単独で実行できるようになったのです。



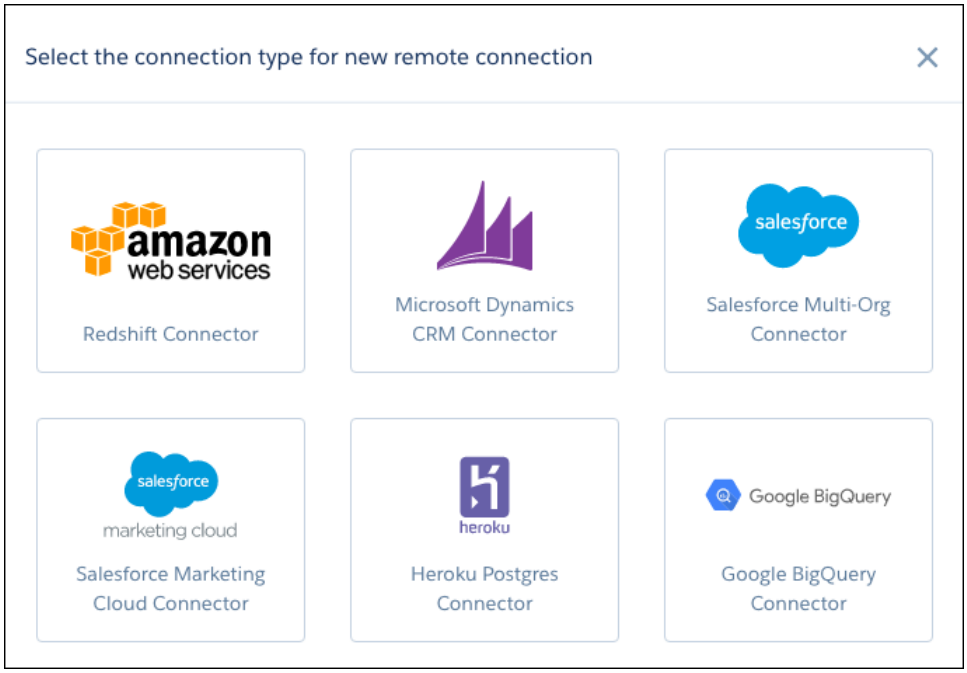
ローカル複製を実行するときに、増分抽出かフル抽出を選択できます。



ボタンをクリックして、増分複製の完全抽出を実行できるようになりました。データフローでオブジェクトの sfdcDigest ノードを変更する必要はもうありません。

新しいコネクタで接続範囲が拡大

新しい Microsoft Dynamics CRM コネクタと Google BigQuery コネクタでさらに多くの Web ベースのデータサービスに接続できます。コネクタを使用すると、簡単に Salesforce 組織内外のデータに接続して Analytics で複製できます。今回、2 つの新しいリモートコネクタが追加されました。



企業の例として、Blue Sky Solar がこれらのコネクタを使用する方法を見てみましょう。Blue Sky Solar は、カリフォルニアとアリゾナでソーラーパネルの販売と設置を行っています。

Microsoft Dynamics CRM コネクタ

Blue Sky Solar は、Salesforce に移行する前にその CRM ソリューションとして Microsoft Dynamics 365 を使用していました。一部のデータは Salesforce で使用できるようになりませんでしたが、新しい Microsoft Dynamics CRM コネクタにより、これが無駄にならずに済みます。同社では、このデータを Analytics で複製して、レンズやダッシュボードで使用できるようになりました。

Google BigQuery コネクタ

毎年数十万もの人々が同社の Web サイトにアクセスしています。マーケティングチームは、Google Analytics を使用して、オンラインエンゲージメントを追跡し、Web サイトのコンテンツを毎日最適化しています。このデータは、各訪問者の重要指標を提供するために、Google BigQuery で使用できる形式にされてから集計されます。同社では、このデータを Analytics で複製して、レンズやダッシュボードで分析できるようになりました。

これらのコネクタを設定するときに提供する必要のあるプロパティについての詳細は、「リモート接続の作成」を参照してください。

メモ: リモート接続では、増分抽出および検索条件は使用できません。

データセット作成時の .csv データのインテリジェントな準備

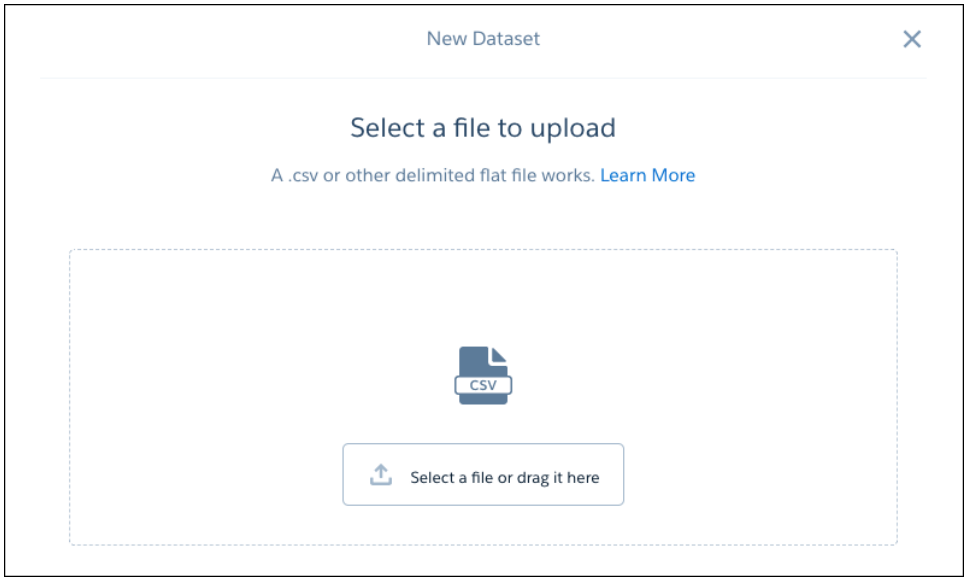
すべてのファイルがまったく同じに作成されることはありません。異なる区切り文字、文字コード、数値形式、通貨記号を使用して、アップロードする .csv データが同じにならないようにしているのではないかと勘ぐりたくなるほどです。そうした状況が改善されます。Analytics でファイルとその項目が細部まで認識されるようになり、アップロードしたファイルプロパティと項目属性を表示して編集できます。数値項目に含まれる数値以外の文字さえ認識されるため、最小限の手間で基準としてアップロードできます。しかも、このすべてが新しいウィザードに含まれており、ユーザは親切なガイドに従いながらプロセスを実行できます。

では、Blue Sky Solar の Analytics システム管理者がフランスオフィスの同僚から受け取った .csv 形式の価格リストを新しいウィザードに従ってアップロードする方法を見ていきましょう。

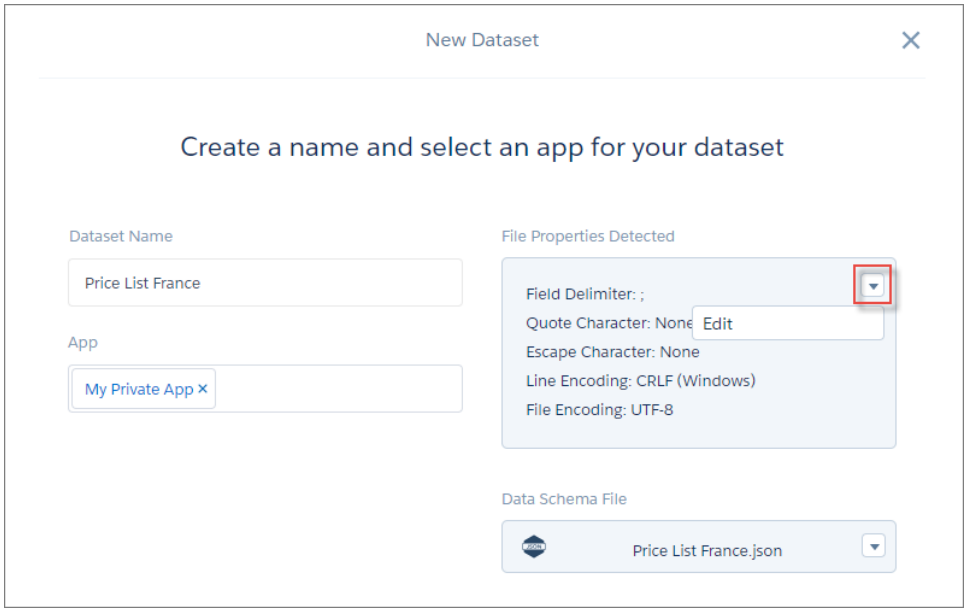
Product	Price
2 Kw Grid-Assisted System	$ 14.793,26
3 Kw Grid-Assisted System	$ 15.583,45
4 Kw Grid-Assisted System	$ 16.368,72
5 Kw Grid-Assisted System	$ 18.932,12
6 Kw Grid-Assisted System	$ 20.792,85

ファイルの価格項目は、通貨記号が含まれており、3 桁区切り文字にピリオド、小数点にカンマを使用するヨーロッパ形式で設定されています。これまでこのシステム管理者は、ファイルを編集して記号を削除し、カンマとピリオドを置き換えて項目が基準として認識されるようにしていました。これが不要になりました。

.csv ファイルからデータセットを作成するには、いつもどおり Analytics ホームに移動し、[作成]をクリックし、[データセット]を選択します。[CSV ファイル]を選択し、[続行]をクリックします。新しいウィザードの最初のステップでは、ファイルを選択するか、アップロード領域にドラッグします。

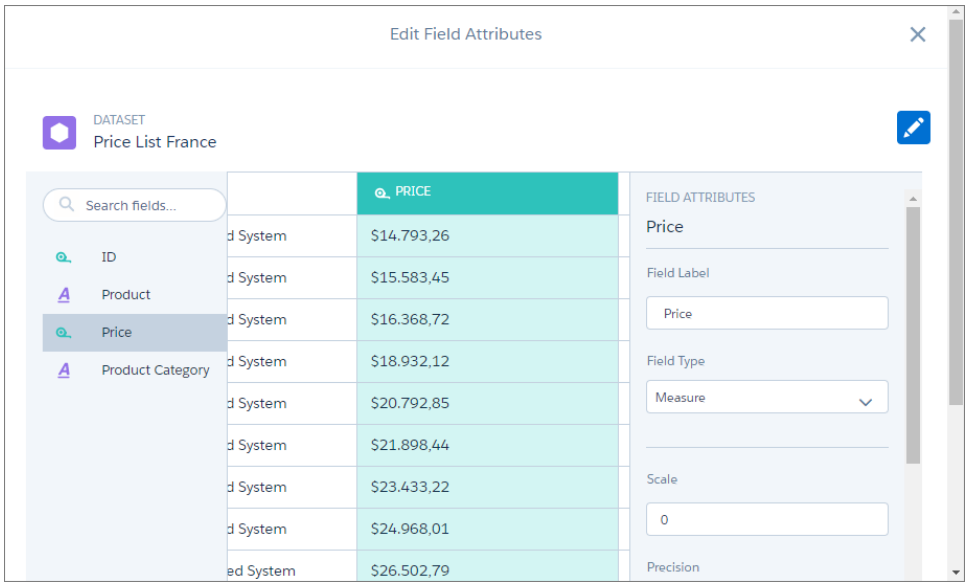


Analytics ではデータセット名としてファイル名を使用し、非公開アプリケーションを選択します。これらの選択は、次のステップで変更できます。

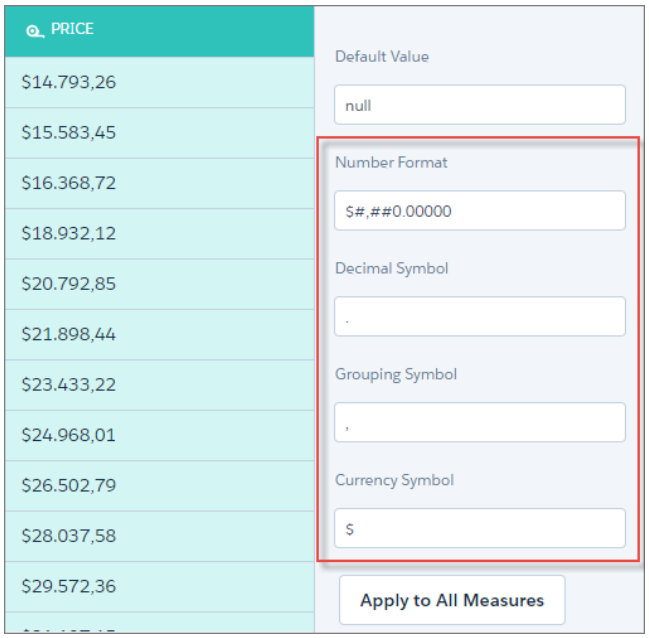


[検出されたファイルプロパティ] セクションに、Analytics がファイルに関して認識した情報が表示されます。Analytics で情報が適切に取得されないことがあります。たとえば、ファイルが ANSI でエンコードされていて、Analytics でそれが UTF-8 だと認識されると、データプレビューに異常な文字が表示されることがあります。これらのプロパティが正しくない場合は、ここで編集します。

ウィザードの最後のステップでは、データをプレビューし、項目属性を確認します。項目の属性を表示するには、左側のリストで項目をクリックするか、その列をクリックします。右側のパネルに属性が表示されます。



Blue Sky Solar の Analytics システム管理者は、通貨記号とカンマが含まれていても価格項目が基準として認識されたかどうかを確認するのを楽しみにしています。Analytics は、4 つの新しい属性を識別して、数値データを基準にアップロードできるようにします。



Blue Sky Solar の Analytics システム管理者は、これらの属性が正しくなるように確認します。

数値形式

この属性は、.csv ファイルの値の形式を示します。この例では、Analytics は小数点の位置から形式を導出しています。システム管理者は、データの実際の形式に合わせて変更します。

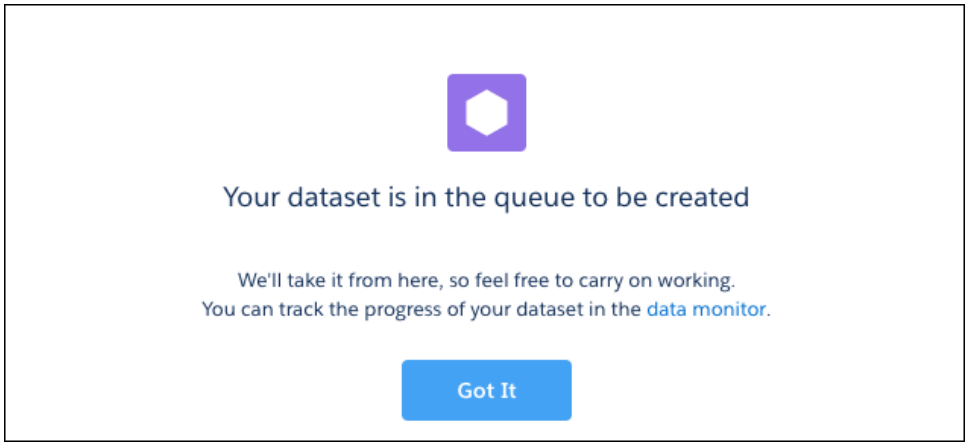
小数点記号
この属性は、小数点として使用される記号を示します。Analyticsでは、この記号を使用して小数点がデータセットの値のどこに現れるかを判別します。この例のデータでは、カンマを小数点として使用するため、システム管理者はこの属性をカンマに変更します。

桁区切り記号
この属性は、3桁区切りに使用する記号を示します。Analyticsでは、データセットの作成時にこの非数値は無視されます。この例のデータではピリオドを使用するため、システム管理者はこの属性をピリオドに変更します。

通貨記号
この属性は、通貨を表すために使用する記号を示します。ここでも、Analyticsでは、データセットの作成時にこの非数値は無視されます。この例では、通貨記号が正しく識別されたので、このままにしておきます。

重要: Analyticsが、基準内にあるこれらの非数値文字を正しく識別できないと、データセットの作成は失敗します。

ウィザードが完了すると、Analyticsがデータジョブを実行してデータセットを作成します。



データマネージャでジョブの進行状況を表示するには、[データ監視] リンクをクリックします。

Blue Sky Solarのシステム管理者は、新しいデータセットを調べ、価格値が正確に読み込まれて形式が設定されたことを確認しました。.csvファイルの編集で時間を浪費せずにすみました!

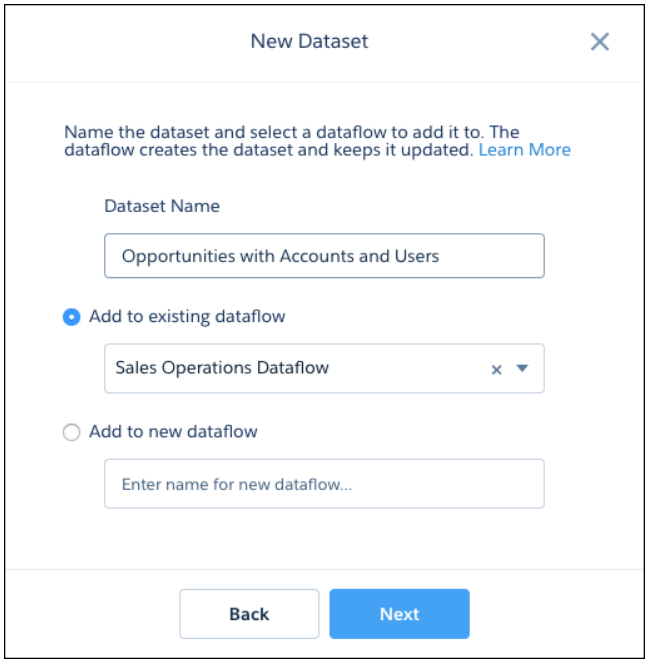
Product	Price
2 Kw Grid-Assisted System	14793.26
3 Kw Grid-Assisted System	15583.45
4 Kw Grid-Assisted System	16368.72
5 Kw Grid-Assisted System	18932.12
6 Kw Grid-Assisted System	20792.85

任意のデータフローでのデータセットの作成

データセットビルダーとデータフローエディタの組み合わせにより、Salesforceデータセットの作成をシームレスに処理できます。データセットを作成するデータフローを選択し、そのデータフローを実行する前に編集できるようになりました。すでにデータフローエディタで作業している場合、ボタンをクリックしてデータセットビルダーを開き、その場で新しいSalesforceデータセットを追加できます。

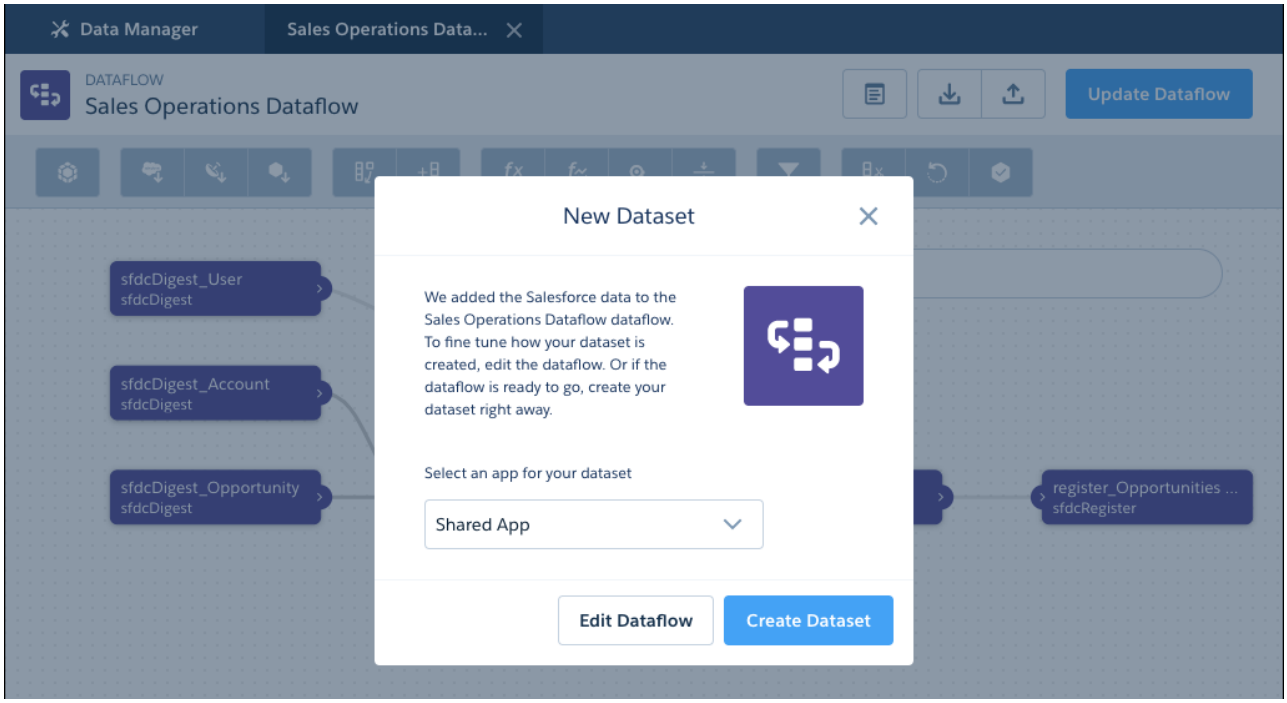
データセットビルダーは、関連Salesforceオブジェクトからデータセットを作成するためのビジュアルツールです。JSON変換を生成してSalesforceオブジェクトデータを抽出および追加し、その結果を新規データセットとして登録します。以前は、これらの変換は自動的にデフォルトのSalesforceデータフローに追加されていました。変換ノードの移動や調整は、その実行前にデータフローで編集作業を行う必要がありました。

Analyticsホームからデータセットビルダーを開いたときに、ノードを追加するデータフローを選択できるようになりました。適切なデータフローが見つからなくても問題ありません。名前を指定して新しいデータフローを作成できます。



メモ: 新しいデータフローに追加するオプションは、複製が有効な場合に使用できます。

データセットのSalesforceオブジェクトを選択すると、選択したデータフローに変換が新規ノードとして追加されます。

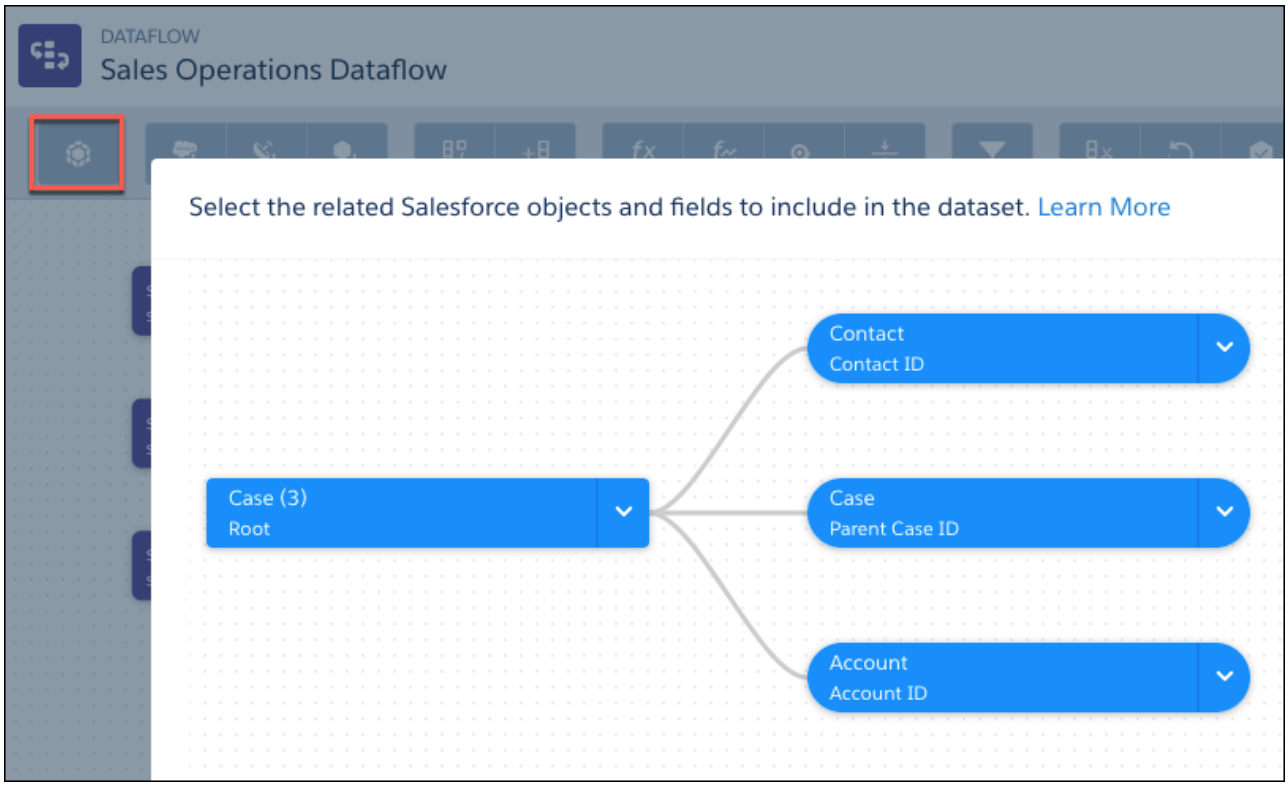


Salesforce データのデータフローで、検索条件や計算などの追加が必要な場合があります。[データフローを編集] をクリックするだけで、データフローエディタが直接表示されます。自由に編集してください!

編集が必要ない場合、新規データセットの作成対象のアプリケーションを選択し、[データセットを作成]をクリックします。データフローが実行キューに追加され、新規データセットが作成されます。

メモ: データフローを編集するには、データセットの共有アプリケーションを選択する必要があります。データフローの実行時に、このアプリケーションにデータセットが作成されます。データセットを編集してこのアプリケーションを変更できます。

すでにデータフローエディタで作業中に Salesforce データを取り込むにはどうすればよいでしょうか。これまでは、慎重に sfdcDigest ノード、追加ノード、登録ノードを追加するか、作業を保存してからデータセットビルダーを実行していました。それが変わります。データフローエディタ内で直接、データセットビルダーを開くボタンを使用できるようになりました。

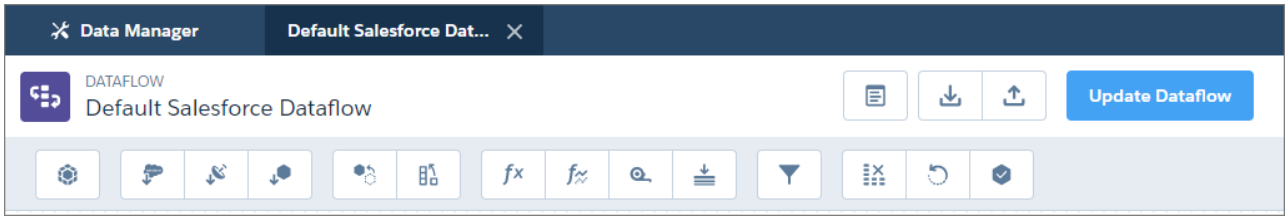


ビルダーでオブジェクトと項目を選択するだけで、データフローに追加できます。

データフローの機能強化によるデータのフローの維持

データフローエディタでは、ボタンが新しくなり、機能が追加されました。エディタから直接データセットビルダーを開いて、新しい Salesforce データセットをすばやく追加できます。computeRelative ノードで SAQL 式を使用できます。登録ノードで共有ソースを選択できます。さらに、データフローを遅らせる必要がなくなります。データフローを開始すると、必要に応じて複製が自動的に実行されるようになりました。

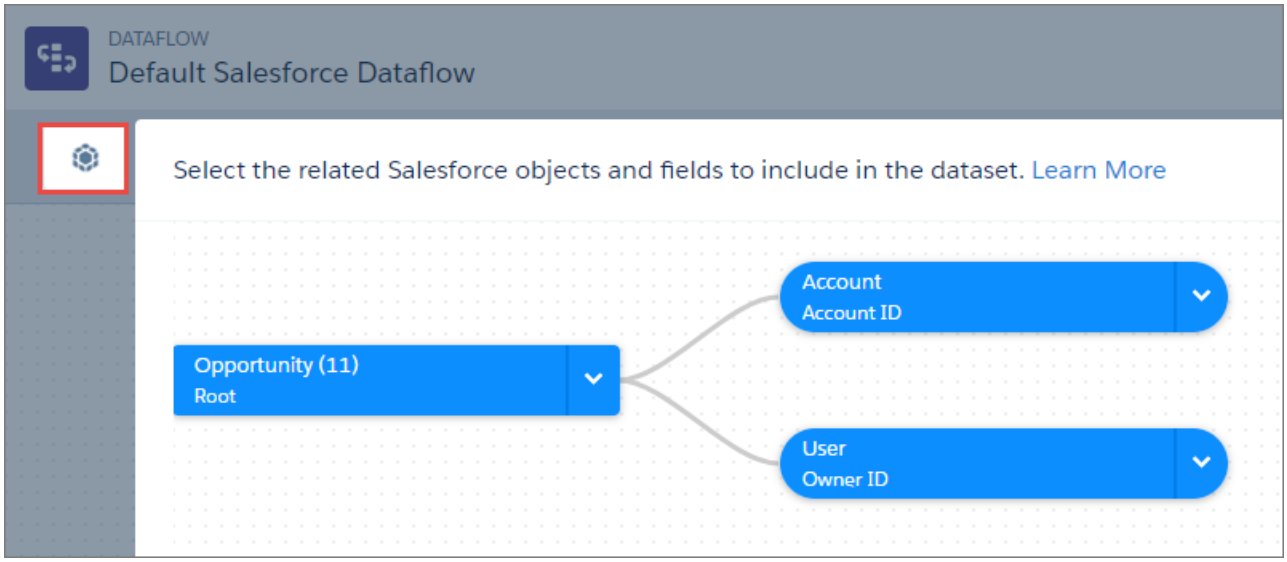
データフローエディタは、JSON で手間取ることなく、データフローを作成および編集するためのビジュアルツールです。ノードボタンが刷新されて、必要な変換が選択しやすくなりました。



キャンバスでノードを操作する方法も変更されました。編集するにはノードをクリックし、削除するにはマウスポインタを置いてごみ箱をクリックします。

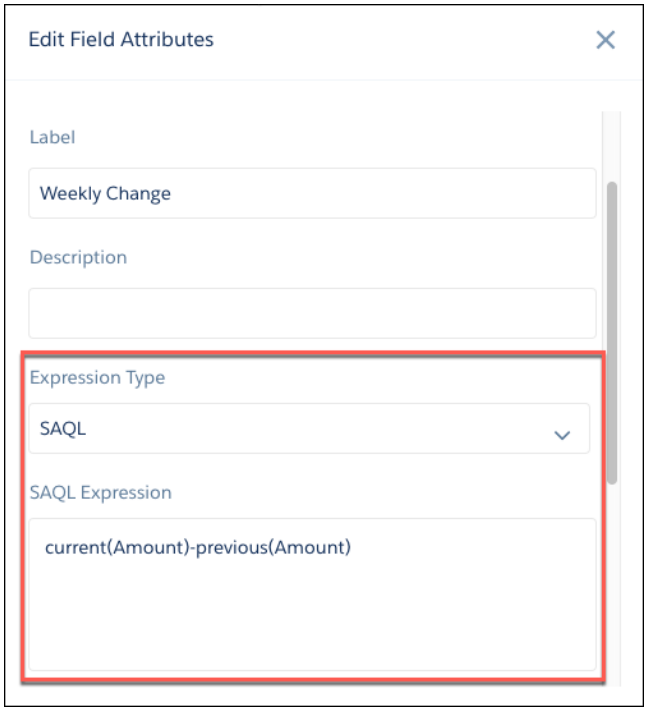
データフローエディタで直接データセットを追加

データフローエディタでノードを追加してSalesforceデータを抽出、追加、および登録するのに時間がかかることがあります。時間を節約できるように、エディタ内からデータセットビルダーを開くボタンが追加されました。データセットに必要なオブジェクトと項目を選択して、Analyticsが必要なノードを追加してデータフローでデータセットを作成します。



データフローエディタの computeRelative ノードでの SAQL 式の使用

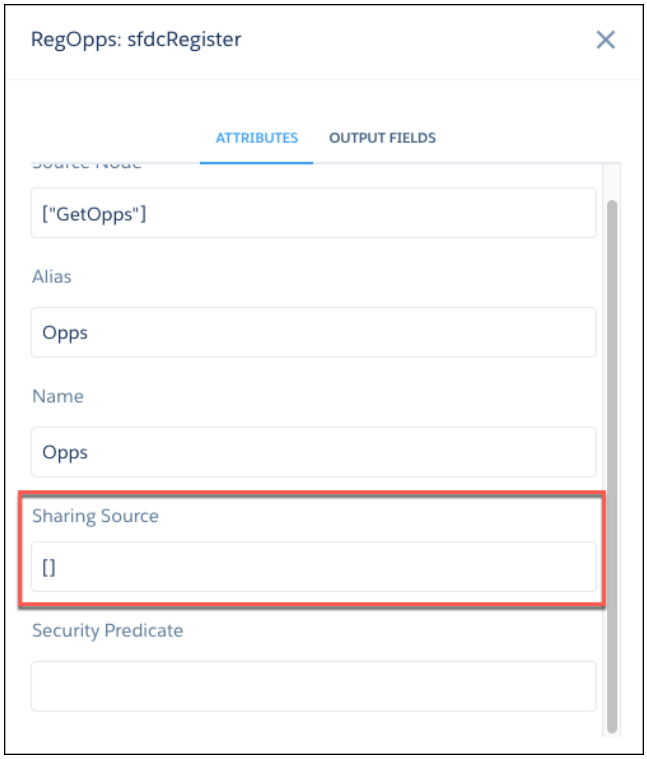
データフローエディタのcomputeRelativeノードに、JSONと同等の機能が追加されました。computeRelativeノードに項目を追加するとき、式の種別としてSAQLを選択し、SAQLを使用して計算を入力できます。



この例では、商談履歴データの現在の行と前の行の金額値の違いを計算しています。

登録ノードでの共有ソースの選択

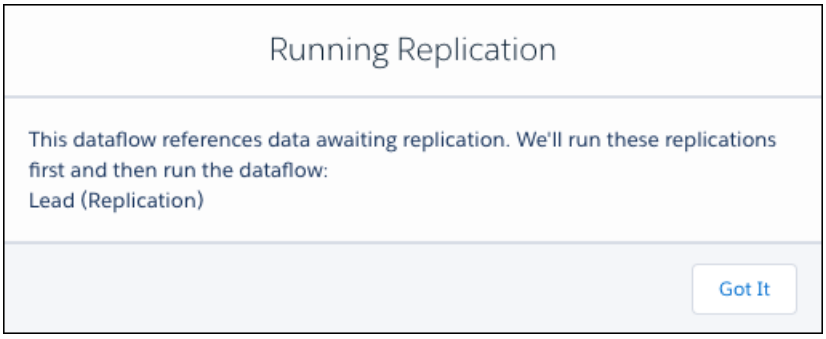
Analyticsで共有継承を有効にしている場合、登録ノードで共有ソースを選択できるようになりました。共有ソースはSalesforceオブジェクトで、そこからデータセットに共有が継承され、ユーザに表示されるデータが決まります。選択できるのは、登録しているデータセットで抽出されているオブジェクトのみです。



重要: 今回のリリースでは、共有ソースを選択するときにセキュリティ述語も入力する必要があります。共有ソースの選択時に[セキュリティ述語]項目が空の場合、Analyticsによってデフォルト値の `false` が入力されます。詳細は、「セキュリティ述語による共有継承の統合」を参照してください。

独立したデータフローの実行時に複製を自動実行

想像してください。あなたは、データフローを編集してリードデータセットの作成を追加したところです。更新したデータフローを急いで実行したために、リードデータの複製を実行するのを忘れてしまいました。コーヒーを取りに行き、戻ってきたらデータフローが失敗していました。それはもう過去の話です。データフローを開始すると、Analytics でまず、複製の実行が必要かどうかがチェックされます。必要な場合、データフローの実行前に複製が自動的に実行されます。



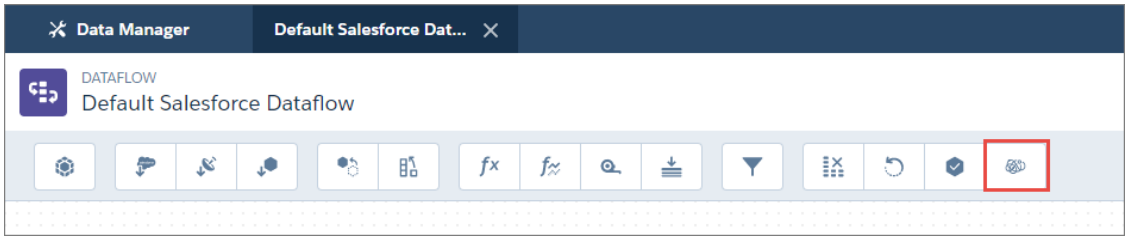
コーヒーを味わいましょう!

export 変換を使用した Einstein Discovery へのデータのエクスポート (ベータ)

データフローで新しい export 変換を使用して、Analytics のデータを Einstein Discovery で使用できるようにすることができます。この変換では、データフローで指定したソースノードのデータからデータファイルとスキーマファイルが作成されます。データフローの実行後、Einstein Discovery ユーザは公開 API を使用してこれらのファイルにアクセスできます。

メモ: このリリースには、export 変換のベータバージョンが含まれています。本番品質ではありますが、既知の制限があります。試用する場合は、Salesforce にお問い合わせください。

JSON データフロー定義またはデータフローエディタのエクスポートボタンを使用して、エクスポートノードを手動で追加できます。

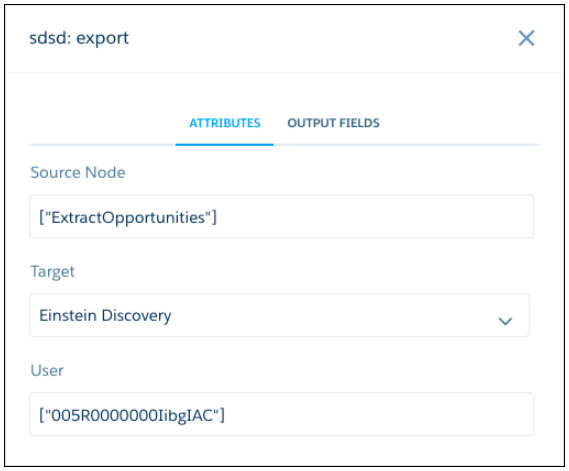


次に例を示します。データフローに sfdcDigest ノードと `ExtractOpportunities` が含まれており、商談オブジェクトからすべての項目を抽出するとします。このデータを Einstein Discovery で使用できるようにするには、ソースノードと `EinsteinDiscovery` のターゲットを指定する export ノードをデータフローに追加します。ユーザ ID を指定することにより、Einstein Discovery のデータにアクセスできるユーザが決まります。

データフロー **JSON** の **export** ノード

```
"ExportOpportunities": {
    "action": "export",
    "parameters": {
      "source": "ExtractOpportunities",
      "target": "EinsteinDiscovery",
      "userId": "005R0000000IibgIAC"
    }
  }
```

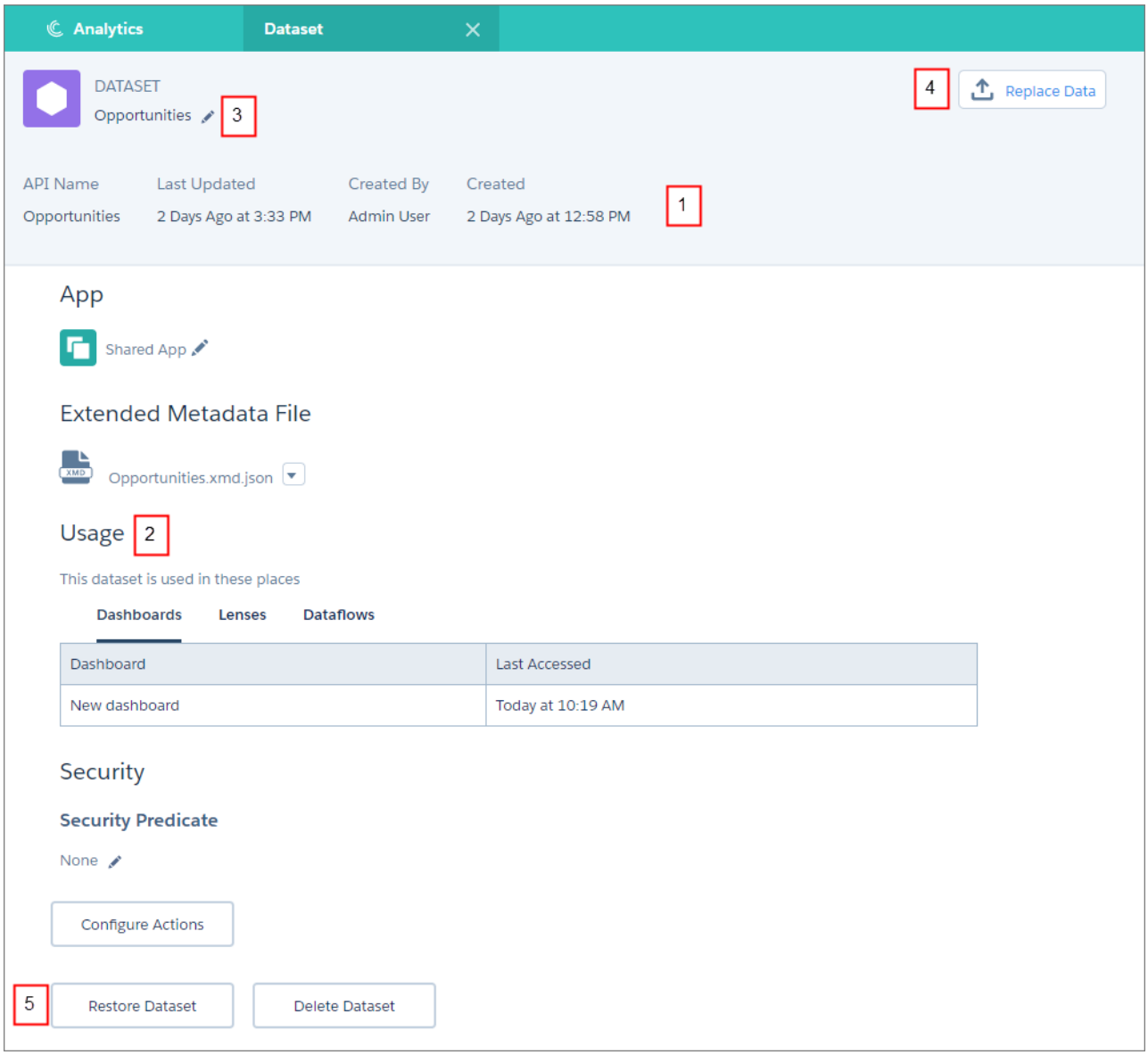
データフローエディタの **export** ノード



メモ: このリリースでは、export ノードで指定できるターゲットは Einstein Discovery のみです。

要点をすぐに把握できる更新されたデータセット編集ページ

データセット編集ページが見やすくなり、必要な情報を簡単に得られるようになりました。情報に焦点を絞るため上部に主要情報がグループ化され、タスクはボタンをクリックしないと表示されません。データセットの最終更新日も表示されます。

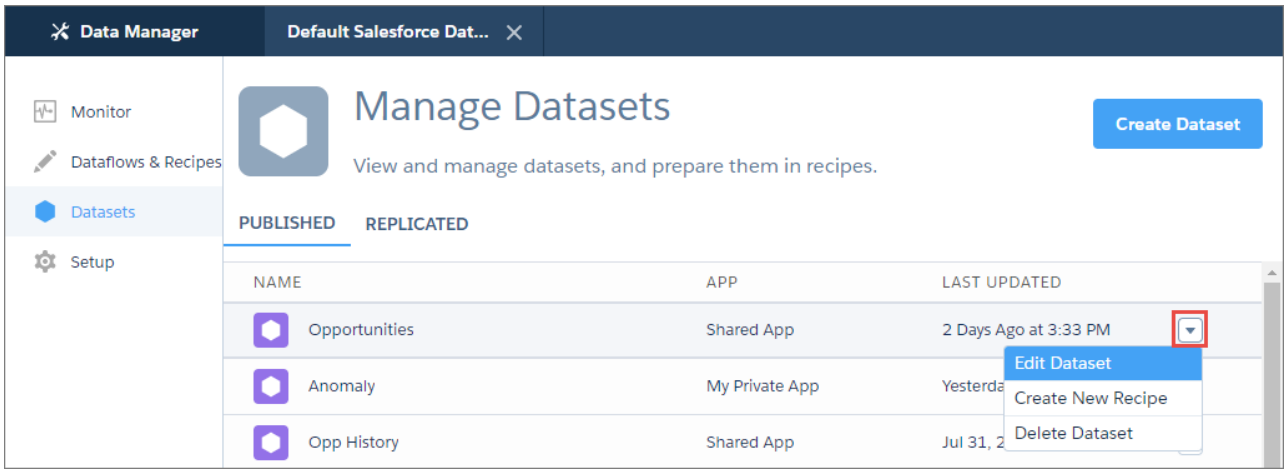


主要情報は編集ページの一番上に表示されます (1)。データセットがどの程度古いか、データがどの程度新しいかなどの重要な情報が得られます。削除対象となる古いデータセットの場合、[利用状況]セクション (2) でそのデータがどこで使用されているかを確認します。また、名前の変更や更新は毎日行われるものでもないため、こうした特定のタスクに関しては、ページのあちこちに表示させるのではなく、ボタン (3) のクリックで表示されるようにしました。

ここには 2 つの新しいボタンもあります。[データを置き換え] (4) では新しい CSV アップロードウィザードが起動し、データセット内のデータを置き換えるために使用できます。[データセットを復元](5)では、データセットを以前の状態に復元して誤った操作を元に戻すことができます。

重要: 利用状況情報には、他のユーザの非公開アプリケーションのレシピ、ダッシュボード、レンズは含まれません。データセットを削除するときは、この点に留意してください。

もう 1 つあります。データセットを編集するたびにデータマネージャを離れる必要がなくなりました。[データセット] タブに移動するだけで、アクションメニューから直接データセットを編集できます。



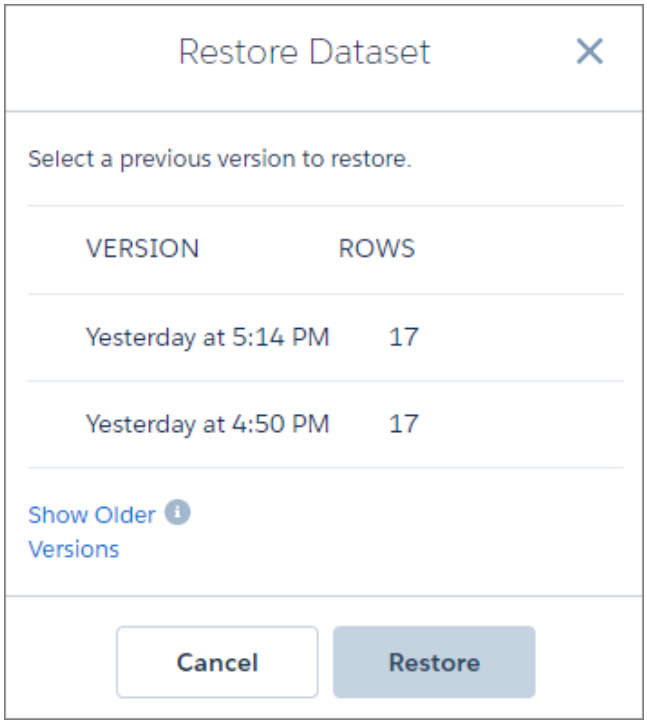
データマネージャ内に直接、データセットの編集ページが新しいタブで開きます。

データを元に戻す: 以前のバージョンのデータセットの復元

間違いは起こるものです。誰かがデータセット内のデータを置き換えたりデータフローを編集したりすることもあります。レンズに誤ったデータが表示され、ダッシュボードは壊れてしまいます。この窮地を脱しましょう。数分で以前のバージョンのデータセットを復元すれば、Analyticsユーザのヒーローになることができます。

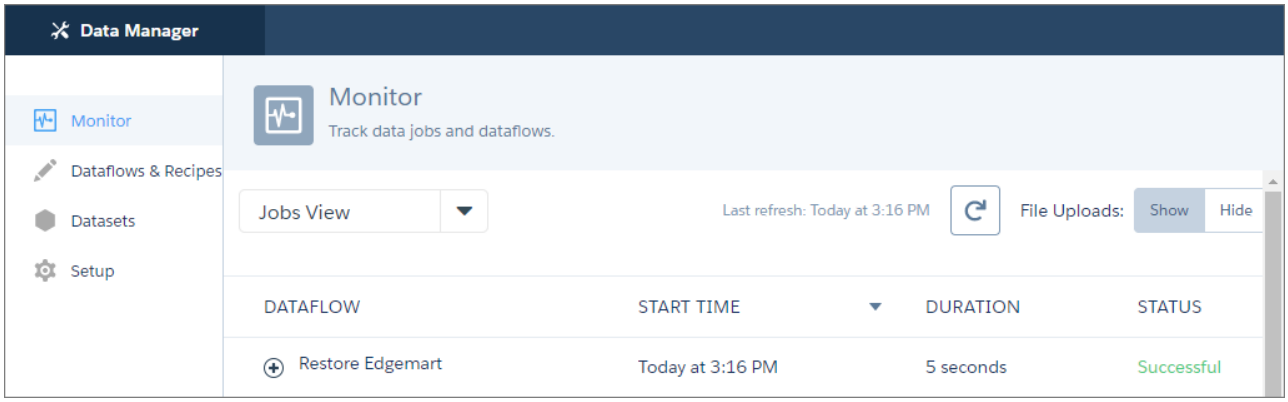
メモ: 「Analytics の管理」権限があれば、データセットを復元できます。

データセットを復元するには、その編集ページに移動し、[データセットを復元] をクリックします。以前の 2 つのバージョンから選択できます。目的のバージョンを選択し、[復元] をクリックします。



より古いバージョンのデータセットがある場合、[古いバージョンを表示]リンクをクリックします。より古いバージョンを選択できますが、Analytics がそれらを復元できるとは限りません。

Analytics は復元をデータジョブとして実行します。そのジョブをデータマネージャの [監視] タブで追跡できます。



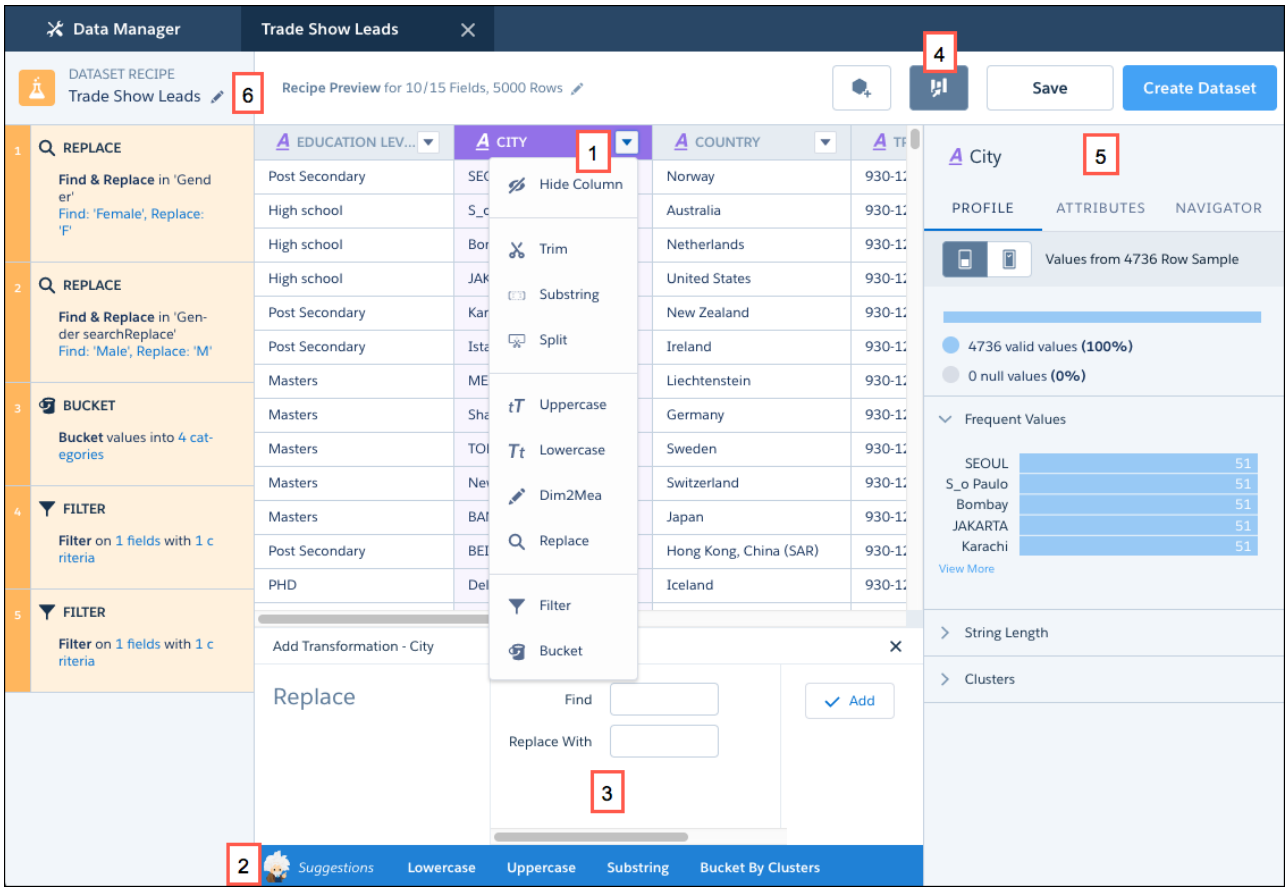
Analyticsがデータセットを復元できない場合、ジョブは失敗します。できるだけ新しいバージョンのデータセットを復元しましょう。

重要: データセットの復元は、そのデータセットを使用するダッシュボード、レンズ、およびデータフローに影響します。復元する前に、そのデータセットの編集ページにある利用状況情報で、影響を受けるアセットを確認してください。

スマート提案と列のプロファイルを使用したデータのインテリジェントな準備とクリーンアップ

データセットレシピが更新されてスマートになりました。列のプロファイルを使用してデータの品質を評価し、クリーンアップ方法に関するスマート提案を取得します。

まずはレシピページに加えられた変更を見てみましょう。



ページ上部のボタンの乱雑さが軽減されました。列メニュー (1) で、その列に使用できる変換にアクセスできるようになりました。選択肢が非常に多いですね。Einstein Analytics は、列内の値に基づいて変換 (2) を提案します。変換の追加または編集は、プレビューデータの下の新しいパネル (3) で行います。

データ品質を確認したいですか? [列のプロファイル] ボタン (4) をクリックすると、列のデータを評価およびクリーンアップするためのツールのパネル (5) が開きます。項目属性と項目ナビゲータも個別のタブでここに表示されます。

レシピで変換とデータを追加していくと、元のレシピ名が適切ではなくなっていることがあります。必要なときにいつでもレシピ名を変更できるようになりました。編集ボタン (6) をクリックするだけです。

メモ: 一度も実行したことがないレシピの名前を変更すると、対象データセットの名前も変更されます。実行したことがあるレシピの名前を変更した場合は、対象データセットの名前は変更されません。

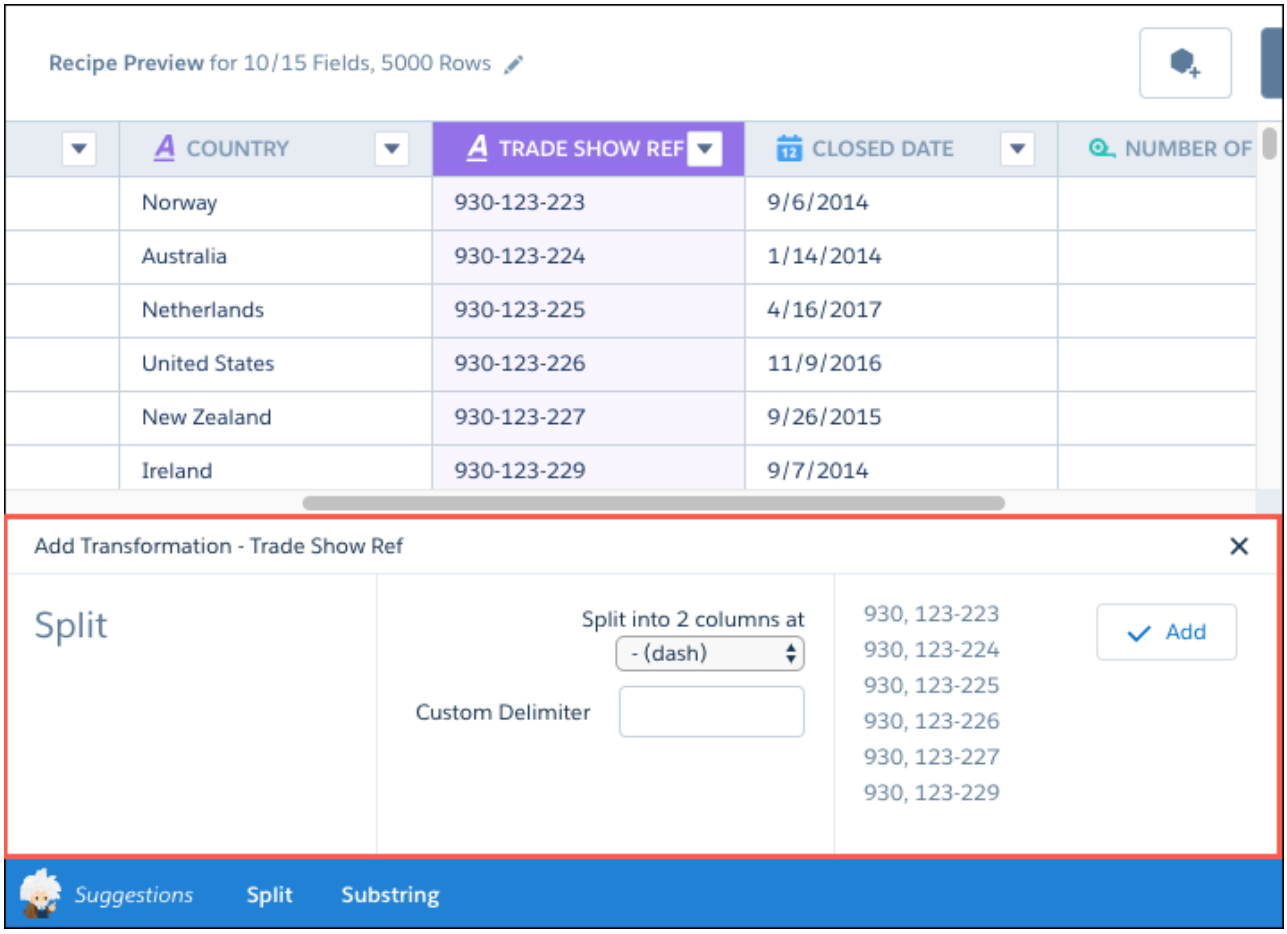
このセクションの内容:

ヒントを得る: データを準備するためのスマート提案の取得
ディメンションまたは日付列を選択すると、Analyticsがプレビューデータの列の値を確認し、提案バーで提案する変換を決定します。
列のプロファイルを使用したデータのインテリジェントなクリーンアップ
列のプロファイルでは、データの品質に関する主要なインサイトを取得し、クリーンアップに役立つ追加の変換を提案できます。異なるソースからのデータを組み合わせている場合は矛盾が発生しがちなため、このプロファイルは特に便利です。

ヒントを得る: データを準備するためのスマート提案の取得

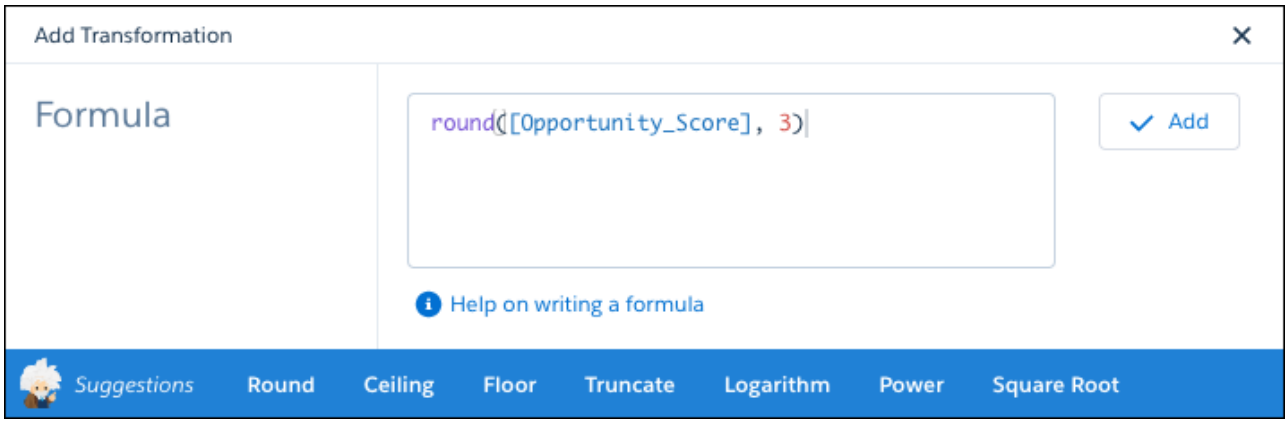
ディメンションまたは日付列を選択すると、Analytics がプレビューデータの列の値を確認し、提案バーで提案する変換を決定します。

Analytics は、使用する変換設定を提案することもできます。たとえば、値にダッシュなどの区切り文字候補がある場合、Analytics は分割変換を提案し、さらに区切り文字も提案します。



[提案]バーに必要な変換が表示されない場合は、列メニューにある完全なリストからその変換を選択します。

基準列で、Analytics は列内の数値に基づいて数式で使用する関数を提案します。たとえば、値に 1 つ以上の小数点以下の桁数がある場合、Analytics は四捨五入や切り捨てなどの関数を提案します。提案された関数を選択すると、Analytics は変換パネルの数式にその関数を追加します。

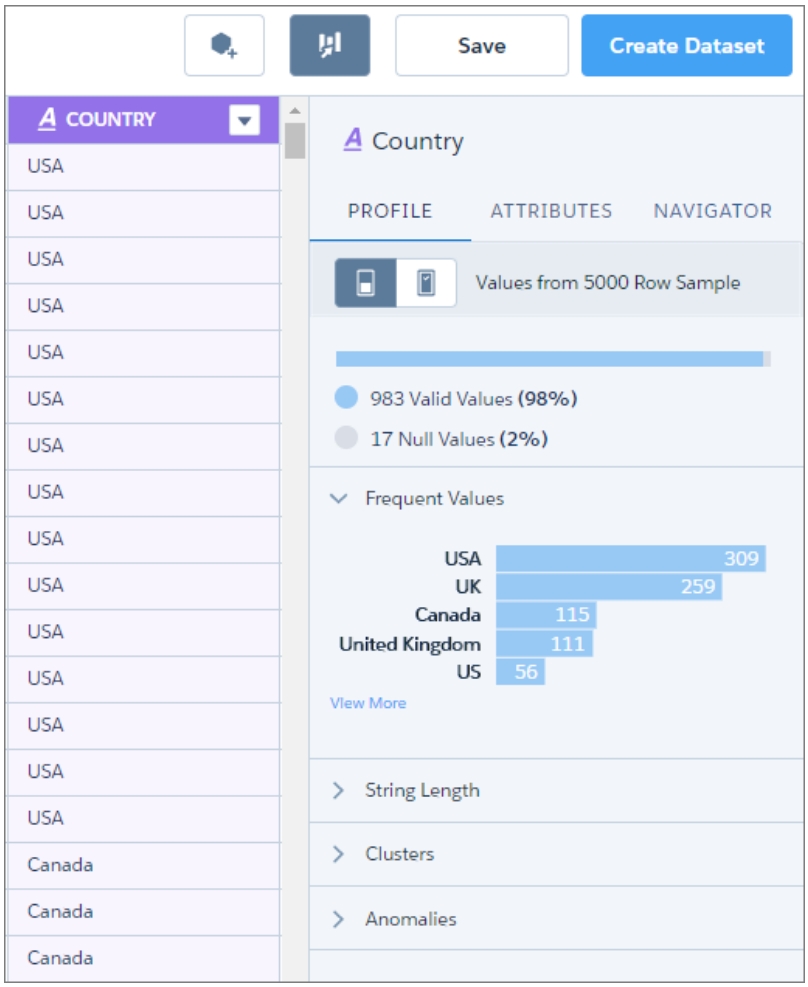


ヒント: 提案された数式は単なる出発点です。そのまま使用したり、追加したり、やり直したりできます。

列のプロファイルを使用したデータのインテリジェントなクリーンアップ

列のプロファイルでは、データの品質に関する主要なインサイトを取得し、クリーンアップに役立つ追加の変換を提案できます。異なるソースからのデータを組み合わせている場合は矛盾が発生しがちなため、このプロファイルは特に便利です。

プロファイルを使用して、一連のリードのデータの品質を確認する例を見てみましょう。分析する列を選択し、 をクリックします。レシピの右に列のプロファイルが開きます。

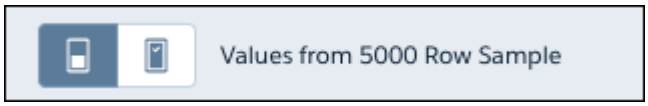


メモ: プロファイルに表示されるセクションは、列の型によって異なります。

次に、列のプロファイルに何が表示されるのかを示します。

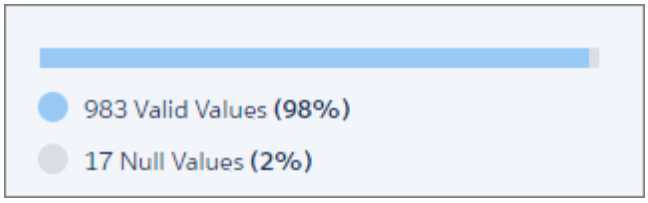
サンプルサイズ

サンプルの行数を表示します。デフォルトでは、プロファイルにレシピのプレビューの行のみが含まれます。より大きいサンプルを使用するには、 をクリックします。



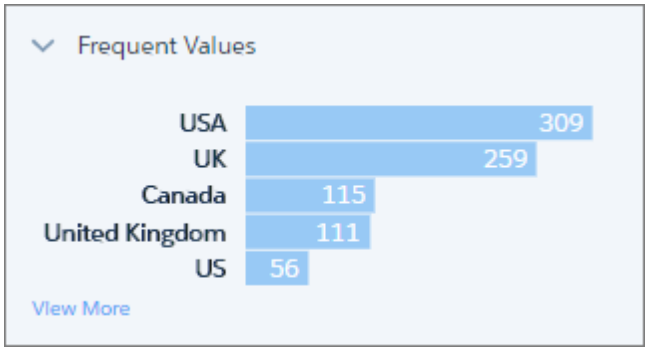
有効な値

列がどのように取り込まれているかを確認できます。null値の割合が高い場合、データの品質が低く、レンズおよびダッシュボードでの有用性が限定的になる可能性があります。



出現頻度の高い値

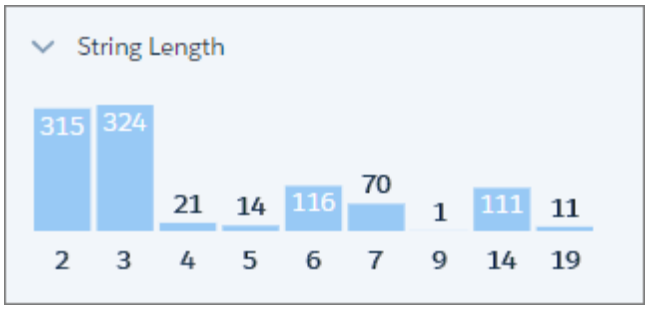
列の上位5つの各値の件数を表示します。サンプルのすべての値の件数を表示するには、[さらに表示]をクリックします。この情報により、データのバリエーションに関するインサイトをすばやく得ることができます。この例では、レンズやダッシュボードでのグループ化と絞り込みに影響する可能性がある同じの国の異なる値が表示されます。



ディメンションおよび日付列の場合、1つ以上のバーをクリックすると、それらの値の提案された変換が表示されます。この例では、US の値を選択すると、Analytics によって置き換えまたは除外が提案されます。

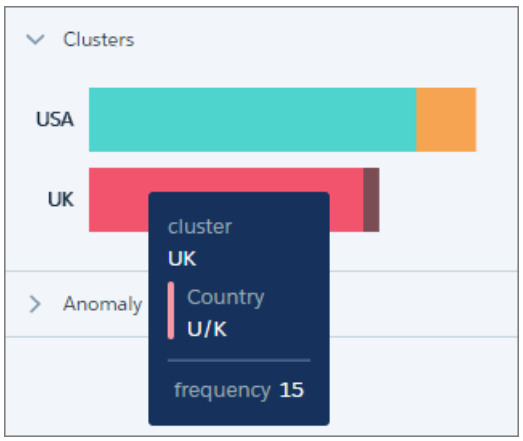
文字列長 (ディメンション列のみ)

ディメンション値の文字数の内訳を表示します。バリエーションが想定よりも多い場合、混在ソースのデータが矛盾している可能性があります。



クラスタ (ディメンション列のみ)

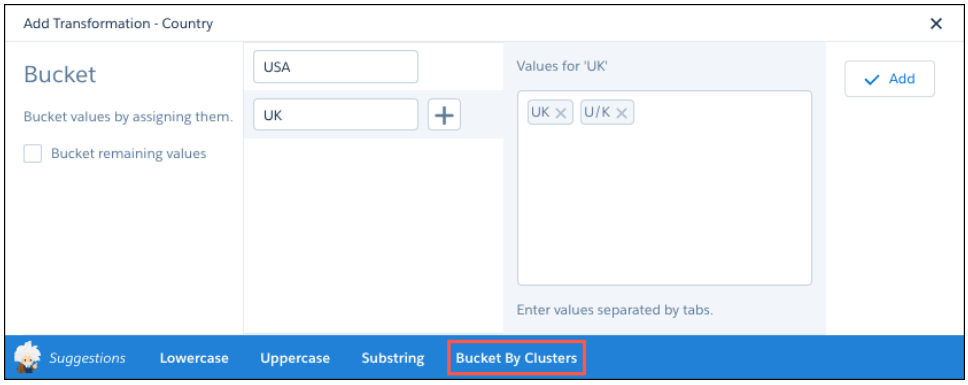
クラスタは、積み上げ横棒グラフで表される類似する値のグルーピングです。セグメントで表される値を確認するには、マウスポインタを置きます。



[国] 列では、Analytics が「USA」と「US」、「UK」と「U/K」を検出しました。これらの値は実際に異なる可能性もありますが、異なるソースからのデータの矛盾、または単なるタイポを示している可能性もあります。

メモ: クラスタ化は、英語の値で最適に動作します。他の言語の値では、予期しない結果になる可能性があります。

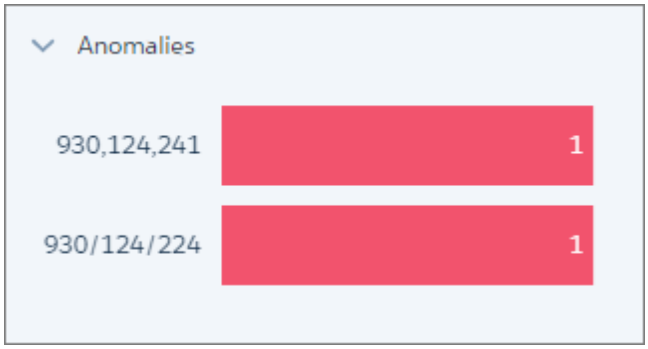
データを整理しやすくするため、Analytics はクラスタを識別するたびに新しいクラスタによるバケット化変換を提案します。この変換は通常のバケット化と同様に機能しますが、最初にバケットと値が提案されます。



変換をそのまま追加するか、バケットと値をさらに追加できます。

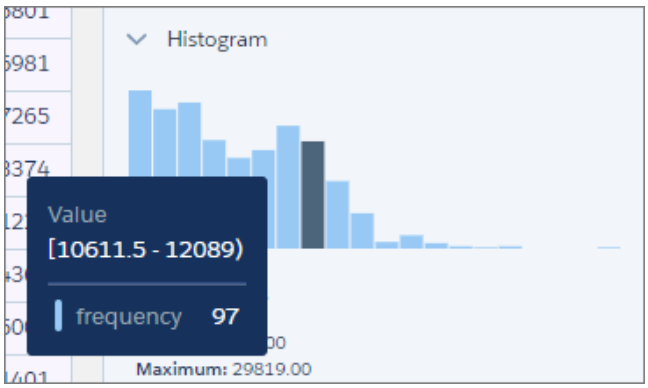
異常 (ディメンション列のみ)

列内の他の値と矛盾する値を表示します。この例では、Analytics は、大部分の値が 123-456-789 形式となっている参照列の 2 つの値を識別しています。



1 つ以上のバーをクリックすると、データをクリーンアップしやすくするために Analytics によって変換が提案されます。たとえば、値の置き換えや除外を行うことができます。

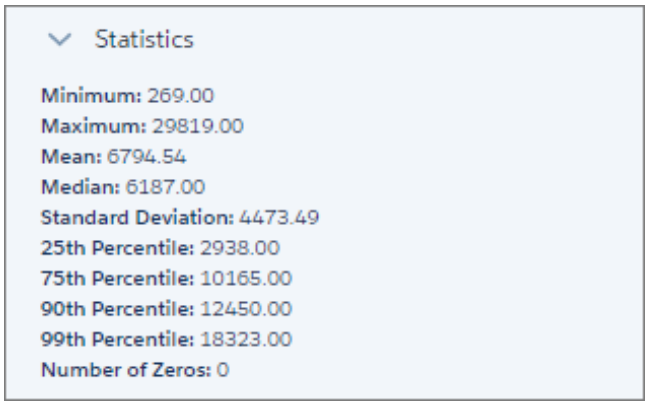
ヒストグラム (基準列および日付列のみ)



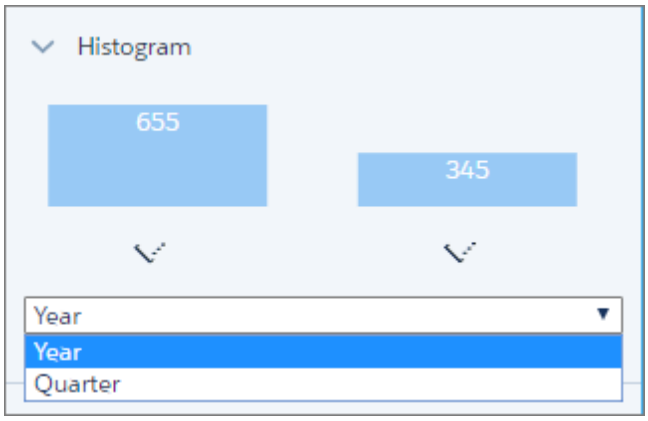
ヒストグラムには、基準または日付列の値の分布が表示されます。各棒は定義済みの範囲を表し、棒の高さはその範囲内の値の出現頻度を表します。棒にマウスポインタを置くと、その棒が表す値の範囲と出現頻度が表示されます。

ヒストグラムを使用して、データが期待される範囲内にあるかどうかを確認します。出現頻度の低い外れ値は、データが矛盾しているか、集計計算に影響するデータを示している可能性があります。

基準列には、データの準備に使用できる統計情報も表示されます。



データ列では、値をグループ化する期間として年別または四半期別を選択できます。



セキュリティ述語による共有継承の統合

以前は、セキュリティ述語と共有継承は相互に排他的でした。これらが連携するようになり、完全な範囲へのセキュリティの提供がさらに簡単になりました。

Analytics での共有継承の最近の導入により、多数の企業が Analytics データセットに Salesforce 共有設定を適用しました。その結果、システム管理者の負担がかなり軽減されました。

共有継承の範囲外のユーザを引き受けるようにセキュリティ述語を指定できるようになりました。また、セキュリティ述語を「false」に設定して、共有の範囲外のすべてのユーザをブロックすることもできます。実際、既存のデータセットで共有が有効になっている場合、この述語がデフォルトになります。

ELT (抽出、読み込み、加工) プロセスの一部として、共有設定を継承するサポート対象ソースオブジェクトを指定します。データセットの作成に使用されたソースオブジェクトの数に関係なく、共有設定は 1 つのオブジェクトからのみ継承できます。ユーザは、特定のソースオブジェクトから最大 2,000 件のレコードを表示できます。

データフローエディタ (または ELT 加工定義の適切なノード)、およびデータセットの編集ページで述語を指定します。共有継承を使用する場合、述語を指定する必要があります。

例

このデータフロー定義ファイルからの抽出では、共有制限を超えたときに、ユーザは自分が所有する商談のみを参照できます。

```
"reg": {
  "action": "sfdcRegister",
  "parameters": {
    "source": "Opportunity_final",
    "name": "Opportunity w/ Account",
    "alias": "Oppty_w_Acct",
    "rowLevelSharingSource": "Opportunity",
    "rowLevelSecurityFilter": "'OwnerId' == \"$User.Id\""
  }
},
```

共有継承とセキュリティ述語についての詳細は、*『データインテグレーションガイド』*を参照してください。

Analytics Einstein Discovery: より多くのデータへのアクセス、的確なストーリー

Einstein Discovery の新機能により、誰でもさらに容易にデータサイエンスの力を引き出すことができます。統計分析と予測分析で、回答、説明、およびおすすめを知ることができます。

このセクションの内容:

Einstein Discovery でさらに容易になった Salesforce データへの接続
Einstein Discovery の Salesforce データコネクタに [私の組織] リンクが追加され、Salesforce 組織に 1 クリックで接続できるようになりました。2 要素認証がサポートされます。

Salesforce オブジェクトでの Einstein Discovery のおすすめの表示 (パイロット)
Salesforce オブジェクトへの Einstein Discovery のおすすめのインポートに対するネイティブサポートは、パイロット運用されています。以前は、管理パッケージをインストールして Writeback 機能を有効にする必要がありました。

ストーリー改善機能による的確なストーリーの作成
Einstein Discovery はストーリーを改善する方法を見つけます。ストーリー改善機能では、極値、同一の値、変動がほとんどない変数、高度に相関する変数が検出されるため、ベストプラクティスに基づいてモデルを簡単に作成できます。

ストーリータイムラインによる経時的な変化を促進する要素の把握
ストーリータイムラインは、何が起きたか、なぜ起きたかを示します。また、さまざまな期間について過去の年との同期比を確認することもできます。たとえば、今年の第 4 四半期を前年の第 4 四半期と比較できます。

ストーリーの更新による分析の最新状態の維持
ストーリーを更新することで最新のデータを取り込み、分析を再実行できます。この機能は Salesforce または CSV データを使用するストーリーでのみ使用できます。

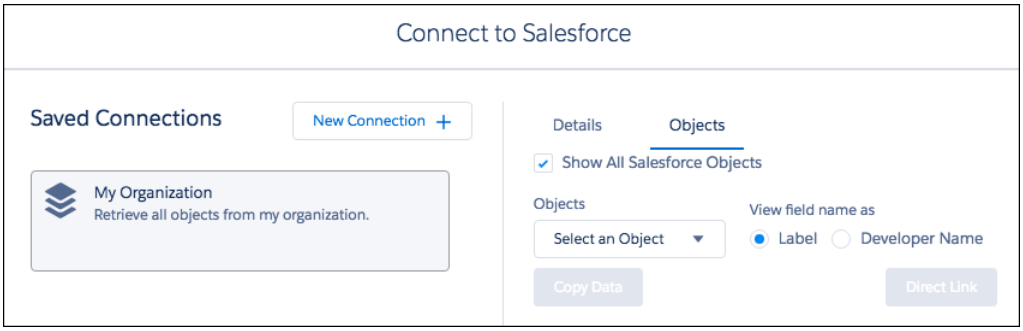
Einstein Analytics データフローからのデータセットの作成 (ベータ)
Einstein Analytics データフローを使用し、Salesforce オブジェクト、複製オブジェクト、または既存のデータセットのデータに基づいて Einstein Discovery データセットを作成できます。

関連トピック:

Trailhead: Einstein Discovery Data Integration (Einstein Discovery データインテグレーション)

Einstein Discovery でさらに容易になった Salesforce データへの接続

Einstein Discovery の Salesforce データコネクタに [私の組織] リンクが追加され、Salesforce 組織に 1 クリックで接続できるようになりました。2 要素認証がサポートされます。

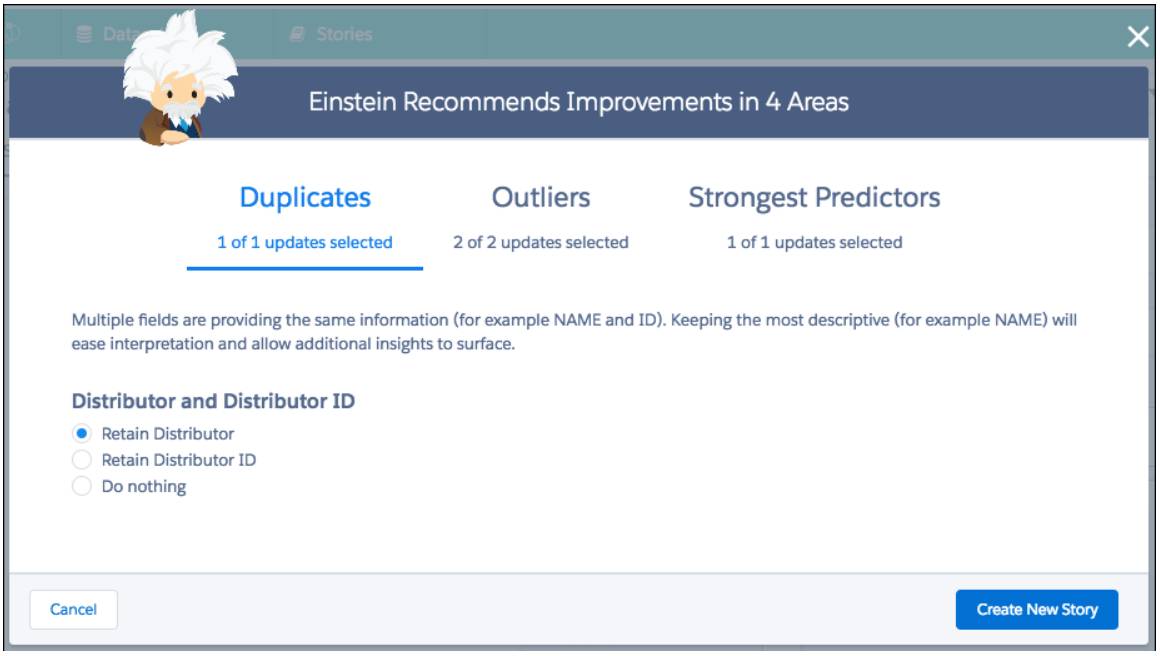


Salesforce オブジェクトでの Einstein Discovery のおすすめの表示 (パイロット)

Salesforce オブジェクトへの Einstein Discovery のおすすめのインポートに対するネイティブサポートは、パイロット運用されています。以前は、管理パッケージをインストールして Writeback 機能を有効にする必要がありました。

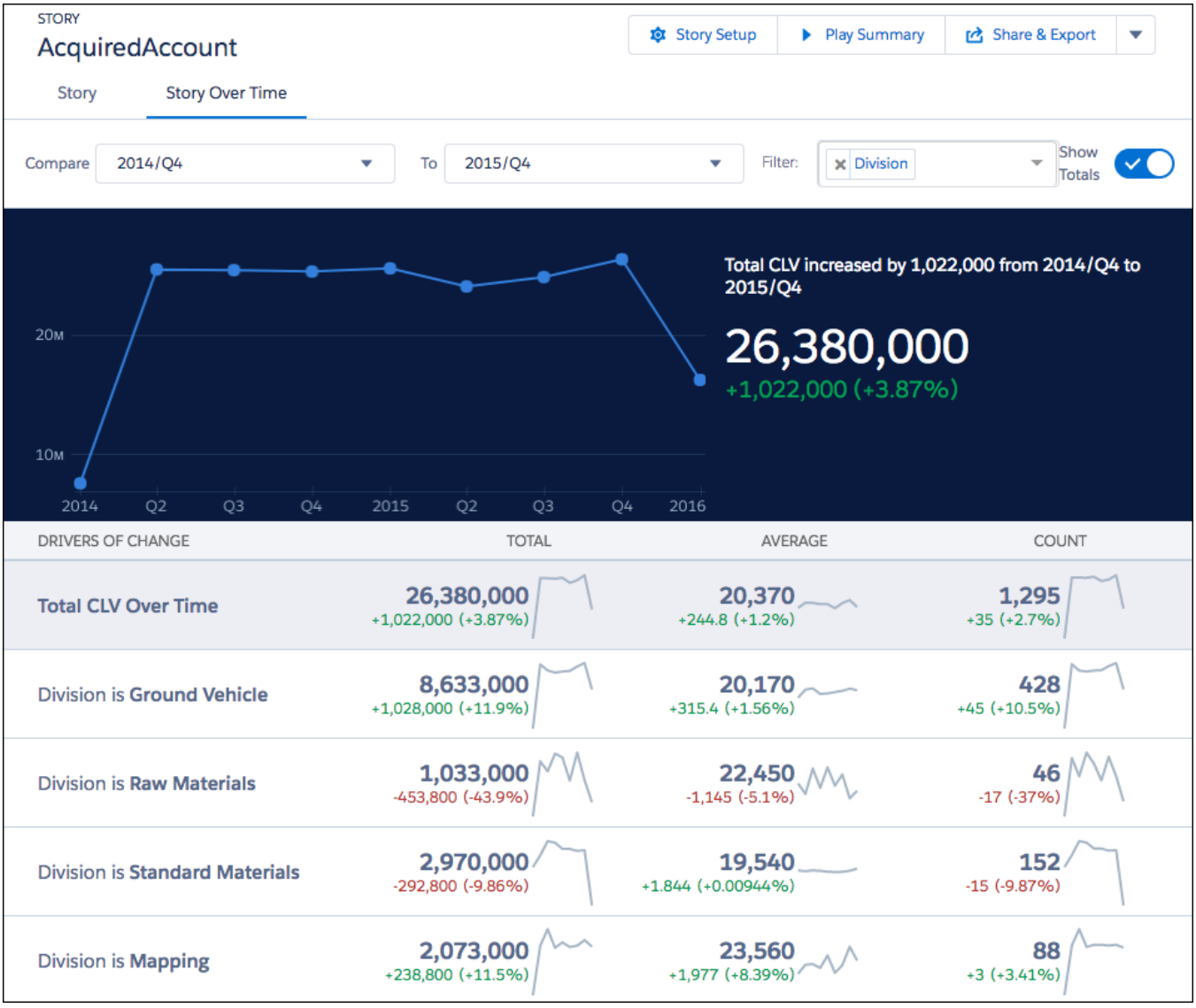
ストーリー改善機能による的確なストーリーの作成

Einstein Discovery はストーリーを改善する方法を見つけます。ストーリー改善機能では、極値、同一の値、変動がほとんどない変数、高度に相関する変数が検出されるため、ベストプラクティスに基づいてモデルを簡単に作成できます。



ストーリータイムラインによる経時的な変化を促進する要素の把握

ストーリータイムラインは、何が起きたか、なぜ起きたかを示します。また、さまざまな期間について過去の年との同期比を確認することもできます。たとえば、今年の第 4 四半期を前年の第 4 四半期と比較できます。



ストーリーの更新による分析の最新状態の維持

ストーリーを更新することで最新のデータを取り込み、分析を再実行できます。この機能は Salesforce または CSV データを使用するストーリーでのみ使用できます。

Einstein Analytics データフローからのデータセットの作成 (ベータ)

Einstein Analytics データフローを使用し、Salesforce オブジェクト、複製オブジェクト、または既存のデータセットのデータに基づいて Einstein Discovery データセットを作成できます。

Analytics Mobile: グラフの増加、カスタム背景画像、ダッシュボードとレンズの更新

デスクトップの Analytics と全く変わらない、洗練されたグラフを含むお気に入りのダッシュボードとレンズを探索して提示できます。

このセクションの内容:

iOS デバイスでの新しいグラフの使用

Analytics for iOS で使用できるスタイリッシュな新しいグラフを使用して、印象的なデータ分析を提示できます。標準の棒グラフと折れ線グラフのデザインが新しくなったことに加えて、マトリックス、ツリーマップ、ピラミッドなどの多数の新しいオプションがあります。

Android デバイスでの最新のダッシュボードとレンズの探索

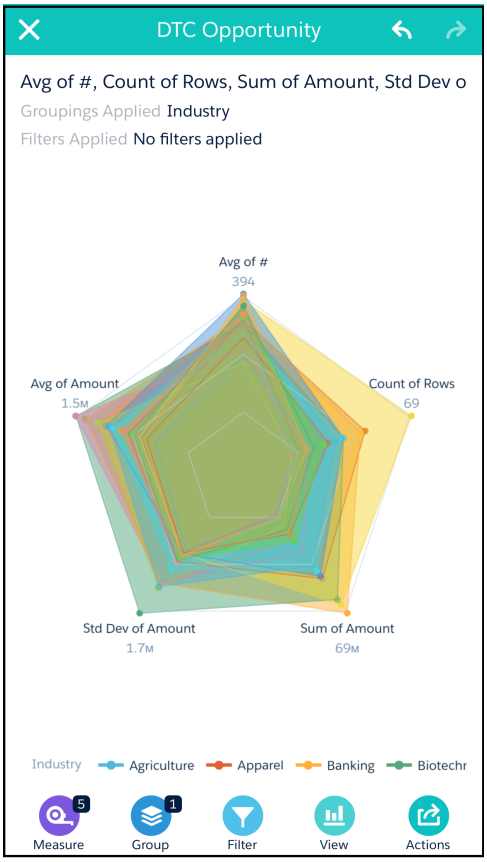
デスクトップの Analytics でのお気に入りのダッシュボードとレンズを、Android デバイスで表示して探索できます。このリリースでは、Android ユーザが外出先で分析するときに Analytics for Android で本領を発揮できます。

iOS デバイスでの新しいグラフの使用

Analytics for iOS で使用できるスタイリッシュな新しいグラフを使用して、印象的なデータ分析を提示できます。標準の棒グラフと折れ線グラフのデザインが新しくなったことに加えて、マトリックス、ツリーマップ、ピラミッドなどの多数の新しいオプションがあります。

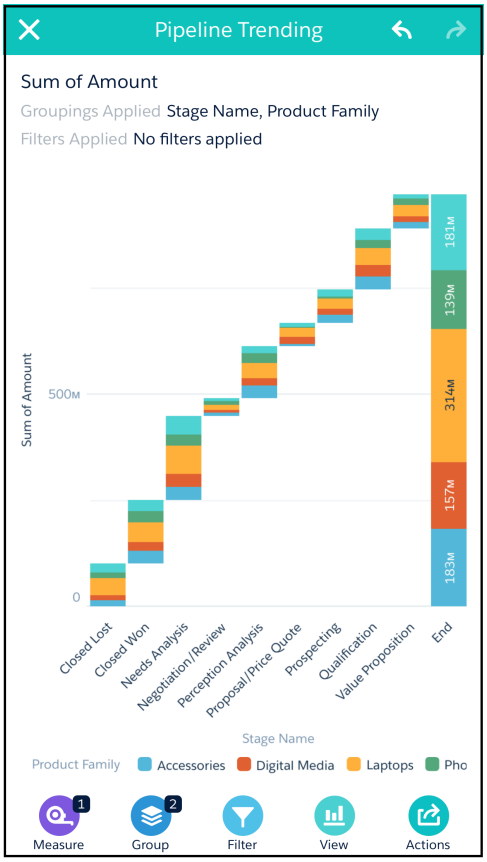
Analytics は iOS 9 以降が実行されているデバイスで使用できます。最新の機能強化を取得するには、App Store から Analytics for iOS をダウンロードします。前回の Salesforce リリース以降の新機能を次に示します。

- 新しい総計値レーダーグラフを使用して、カラフルな基準のレーダーを作成できます。



- 新しいツリーマップグラフを使用して、領域でデータグループを視覚化できます。

- 新しいピラミッドグラフを使用すれば、インフォグラフィックデータを操ることができます。
- デスクトップのAnalyticsと調和する改善されたテキストウィジェットでは、折り返しテキストをタップするとウィジェットが開き、全体のコンテンツが表示されます。
- 独自のカスタム背景画像でブランド設定されたダッシュボードを表示できます。
- 折れ線グラフ、ドーナツグラフ、および棒グラフが一新されました。これらのグラフはデスクトップのAnalyticsと同じになり、Trellis、テーマ、基準線などがサポートされます。
- 予測線のサポートが加わった、新しいタイムライングラフでデータの進化を経時的に解析できます。
- マトリックスグラフでより詳細なデータ比較を実行できます。
- 新しい積み上げ滝グラフを使用して、累積的な変化をよりインテリジェントに理解できます。



- Wave ダッシュボードデザイナの機能 (動的な開始値、クエリのユーザトークン、ネストされたバインドなど) を利用できます。
- デスクトップの Analytics の新しい探索ウィンドウで作成されたレンズで、データ探索を大幅にスピードアップできます。
- SOQL ステップを使用して Salesforce オブジェクトに関するインサイトを得ることができます。

Android デバイスでの最新のダッシュボードとレンズの探索

デスクトップの Analytics でのお気に入りのダッシュボードとレンズを、Android デバイスで表示して探索できます。このリリースでは、Android ユーザが外出先で分析するときに Analytics for Android で本領を発揮できます。

Analytics は Android 5 以降が実行されているデバイスで使用できます。機能強化された最新のものを取得するには、Google Play™ から Analytics for Android をダウンロードします。前回の Salesforce リリース以降の新機能を次に示します。

- 折れ線グラフ、ドーナツグラフ、および棒グラフが一新されました。これらのグラフはデスクトップの Analytics と同じになり、Trellis、テーマ、基準線などがサポートされます。

- 散布図、棒グラフと折れ線グラフの組み合わせ、および滝グラフで、視覚化のレパートリーを広げます。
- デスクトップの Analytics と調和する改善されたテキストウィジェットでは、折り返しテキストをタップするとウィジェットが開き、全体のコンテンツが表示されます。
- 独自のカスタム背景画像でブランド設定されたダッシュボードを表示できます。
- Wave ダッシュボードデザイナの機能 (動的な開始値、クエリのユーザトークン、ネストされたバインドなど) を利用できます。
- デスクトップの Analytics の新しい探索ウィンドウで作成されたレンズで、データ探索を大幅にスピードアップできます。
- SOQL ステップを使用して Salesforce オブジェクトに関するインサイトを得ることができます。

Analytics 開発とカスタマイズ: 新しい SDK イベントと SAQL 機能、埋め込まれたダッシュボードヘッダーの制御

SAQL、REST API、および SDK すべてで継続して機能強化が行われています。新しい関数、エンドポイント、イベントが追加されています。ダッシュボードで Apex を使用できます。テンプレートでカスタムアイコンと接続されたデータセットを使用できます。

このセクションの内容:

Analytics テンプレートによる堅牢なアプリケーション機能の有効化

テンプレートでカスタムアイコンのアップロード、接続されたデータセット、広範な設定ウィザード機能がサポートされるようになりました。

REST API の更新

REST API と関連表現の最新の更新を確認してください。共有継承機能の対象となるデータセットとオブジェクトを見つけるためのエンドポイントが新規追加されました。

新しい SDK 機能によるダッシュボードの検出

使用可能なダッシュボードコンポーネントを検出するイベントが SDK に追加されました。

新しい SAQL 機能の利用

SAQL 機能は継続して強化が行われており、今回、画期的な新しい関数が追加されました。dim2mea データフロー変換に似た文字列と数値の変換が必要ですか?それが可能になりました。その他の変更として、日付からエポック秒への変換、min() および max() の機能強化などがあります。

コミュニティのダッシュボードでのアノテーションを使用したコラボレーション

コミュニティに埋め込まれた Analytics ダッシュボードを活用して率直なコミュニケーションの環境を促進できます。コミュニティの Analytics でアノテーション機能が使用できるようになり、パートナーと顧客は個々のダッシュボードウィジェットの Chatter フィードで意見を交わすことができます。

埋め込みダッシュボードの表示と機能の制御

新しい showHeader 属性により、埋め込み Analytics ダッシュボードのヘッダーバーの表示を制御できます。ヘッダーを非表示にすると、スペースが節約できるだけでなく、[Analytics で開く] アイコンコントロールや検索条件アイコンコントロールも非表示になります。この属性は、Visualforce、Lightning アプリケーションビルダー、コミュニティビルダー、Salesforce Classic の高度なページレイアウトエディタ、Lightning Out の Wave ダッシュボードコンポーネントで使用できます。

Analytics ダッシュボードへの Apex 機能の追加 (ベータ)

`apex` ステップを使用することで、開発者はカスタム Apex 機能をダッシュボードに追加し、Analytics では本来サポートされていない Salesforce Platform 機能にアクセスできるようになりました。たとえば、API を使用したデータの取り込み、Apex クラスを使用したデータの操作、単純な case ステートメントや複雑な機械学習の適用、さらには Twitter と Einstein Analytics の統合などへの AppExchange の利用まで、すべてを使い慣れた方法で行うことができます。

レシピのパッケージ化

パッケージまたは変更セットの作成時に、Analytics レシピを追加できます。

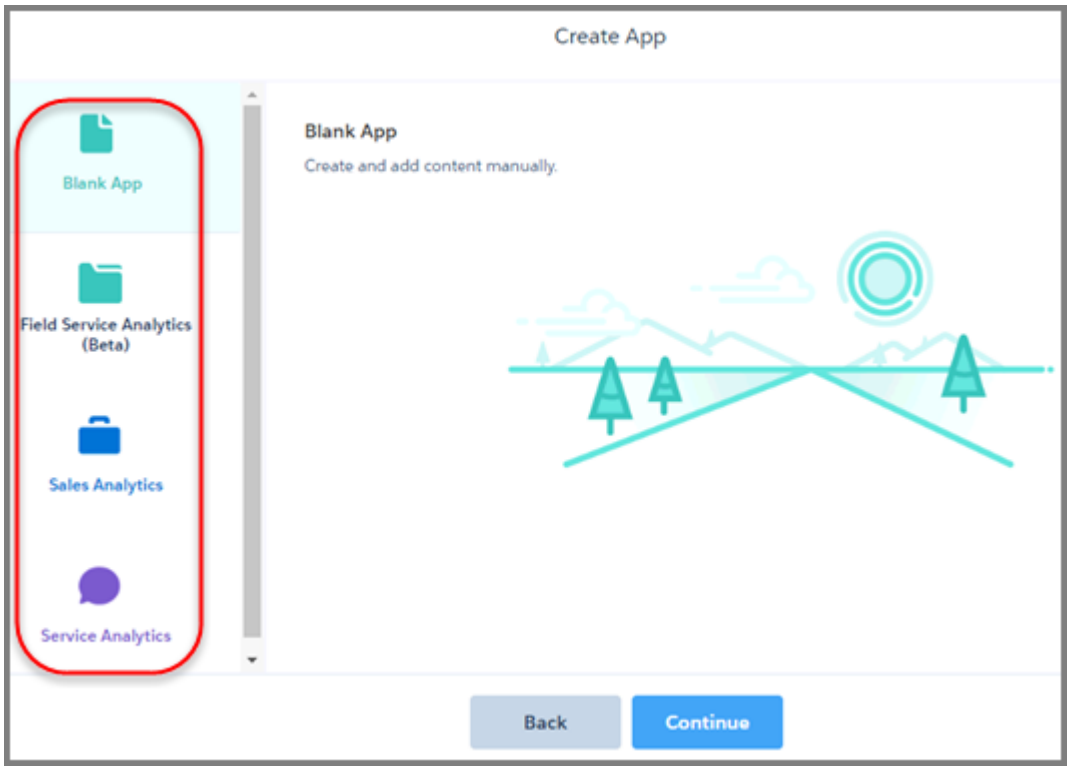
Analytics テンプレートによる堅牢なアプリケーション機能の有効化

テンプレートでカスタムアイコンのアップロード、接続されたデータセット、広範な設定ウィザード機能がサポートされるようになりました。

開発者は、Einstein Analytics を使用して構築されたアプリケーションの Analytics テンプレートを作成できます。顧客は、数回クリックするだけでそのアプリケーションのインスタンスを作成できます。Salesforce が Sales Wave Analytics と Service Wave Analytics の事前作成済みアプリケーションを販売するのと同じ方法で、そのテンプレートを使用してアプリケーションを配布できます。

より堅牢なアプリケーションの開発をサポートするため、Analytics テンプレートは継続的に機能強化されています。最新リリースには次の機能が含まれます。

- アプリケーション作成フローでテンプレートを表すために使用できるカスタムアイコンをアップロードする機能。カスタムアイコンは、Analytics アプリケーション作成ページのテンプレートのリストに表示されます。



- 接続されたデータセットを使用するアプリケーションのサポート。
- 次のような設定ウィザード機能を提供する Visualforce ページの新規イベント。
  - `Close`: ウィザードを閉じる。
  - `Buttons`: アプリケーションウィザードの[戻る]ボタンと[次へ]ボタンのテキストを変更する。それらのボタンを有効または無効にする。
  - `Create`: 最終ウィザード画面の前のアプリケーションを作成する。`POST /wave/folder` をコールし、結果を返す。

REST API の更新

REST API と関連表現の最新の更新を確認してください。共有継承機能の対象となるデータセットとオブジェクトを見つけるためのエンドポイントが新規追加されました。

セキュリティ設定での使用

次の新規エンドポイントを使用すると、開発者はソースオブジェクトに共有継承サポートがあるか、またはデータセットにどのような種類の共有継承サポートがあるかを判別できます。

/wave/security/coverage/objects/${objectApiName}
オブジェクトに共有継承サポートがあるかどうかに関する情報を提供します。objectApiName を指定すると、Analytics がそこから共有設定を継承できるかどうかと、オブジェクトの表示ラベル、名前、名前空間を検出できます。

/wave/security/coverage/datasets/${datasetIdOrApiName}/versions/${versionId}
特定のデータセットバージョンのセキュリティ範囲に関する情報を提供します。この組織にローカルのソースオブジェクトがすべてリストされます(他の組織または他の外部ソースからのオブジェクトは含まれません)。

全般的な更新

更新された表現とプロパティについての詳細は、*『Wave REST API 開発者ガイド』*を参照してください。

新しい SDK 機能によるダッシュボードの検出

使用可能なダッシュボードコンポーネントを検出するイベントが SDK に追加されました。

Analytics SDK の初期リリースで提供されたイベントでは、Analytics ダッシュボードに検索条件を動的に設定し、選択を動的に変更しながらダッシュボードを操作し、関連付けられたデータの選択について通知を受け取ることができます。今回、ダッシュボードのコンテキストを広げるイベントが追加されました。これらのイベントを使用して、ダッシュボードアセットを検出できます。

wave:discoverDashboard

このイベントは、リスンしている Analytics ダッシュボードアセットに対し、*`wave:discoverResponse`* イベントで識別した情報を返すようにグローバル要求を送信します。必要に応じて、独自のパラメータを追加して応答に含めることができます。

これらのイベントは、ダッシュボードが動的にページに追加される場合や、複数のダッシュボードがページにある場合の検出に特に便利です。

```
({
    addDashboard: function(component, event, helper) {
        var selectCmp = component.find("idTextBox");
        component.set("v.dashboardId", selectCmp.get("v.value"));
        var config = {
            "dashboardId": selectCmp.get("v.value"),
            "showHeader": false,
            "height": 400
        };
        $A.createComponent("wave:waveDashboard", config,
            function(dashboard, status, err) {
                if (status === "SUCCESS") {
                    dashboard.set("v.rendered", true);
                    dashboard.set("v.showHeader", false);
                    component.set("v.body", dashboard);

                } else if (status === "INCOMPLETE") {
                    console.log("No response from server or client is offline.")
                } else if (status === "ERROR") {
                    console.log("Error: " + err);
                }
            }
        );
    },
    discoverDashboard: function(component, event, helper) {
```

```
        $A.get("e.wave:discover").fire();
    },
    handleDiscoverResponse: function(cmp, event, helper) {
        var myText = cmp.find("outName");
        myText.set("v.value", event.getParam("id"));
    },
})
```

wave:discoverResponse

このイベントは、*wave:discoverDashboard* イベントへの応答としてリスンしているダッシュボードアセットによって起動されます。これらのイベントは連携して、必要な通知や応答を提供します。

ペイロードには、ダッシュボード識別子、コンポーネントの種類、ダッシュボードのタイトル、ダッシュボードがまだ読み込み中かどうか、要求と一緒に送信されるオプションのパラメータなどが含まれます。

リソース

Analytics SDK イベントについての詳細は、*『Lightning コンポーネント開発者ガイド』* および *『Analytics SDK Developer Guide (Analytics SDK 開発者ガイド)』* を参照してください。

新しい SAQL 機能の利用

SAQL 機能は継続して強化が行われており、今回、画期的な新しい関数が追加されました。dim2mea データフロー変換に似た文字列と数値の変換が必要ですか? それが可能になりました。その他の変更として、日付からエポック秒への変換、min() および max() の機能強化などがあります。

SAQL の文字列と数値の変換

edge-dim2mea データフロー変換を使用して文字列を数値に変換していれば、mea2dim 変換がないことはご存じでしょう。次の SAQL 関数では、両方の変換が可能です。edge-dim2mea の代わりに使用することもできます。

number_to_string(number, number_format)

数値リテラルを文字列リテラルに変換する関数です。Microsoft Excel® と同様の機能がサポートされます。

- <POSITIVE>;<NEGATIVE> 形式
- 0、#、小数点 (.)
- 3 桁ごとの区切り文字
- パーセント (末尾に % を付加)
- 先頭および末尾の文字 ($、+、-、(、)、:、!、^、&、'、~、{、})

元のリテラル	表示されるリテラル	使用するコード
1234.56	1234.6	####.#
8.9	8.900	#.000
.631	0.6	0.#
12	12.0	#.0#

元のリテラル	表示されるリテラル	使用するコード
1234.568	1234.57	#.0#
12000	12,000	#,###
12000	12	#,
12200000	12.2	0.0,,
12	00012	00000
0.03457	3.46%	#.00%
12.3	$12.30	$#.00;($#.00)
-12.3	($12.30)	$#.00;($#.00)
32	+	+;-
-32	-	+;-

string_to_number(string)
文字列リテラルを数値リテラルに変換します。

date_to_string(date, formatString)
既存の toString(date, formatString) 関数の名前が date_to_string(date, formatString) に変更されました。toString(date, formatString) 関数は、今後のリリースで廃止されます。ただし、後方互換性を維持するために、toString(date, formatString) は引き続き動作します。

エポック変換

SAQL では、かなり前から toDate() 関数を使用したエポック (秒数) から日付への変換が可能でした。今後、その逆の変換も可能になります。

date_to_epoch(date)
日付をエポック秒 (1970 年 1 月 1 日 00:00:00.000 GMT を起点とする秒数) に変換します。まず、toDate() 関数を使用して、日付を適切に書式設定します。

全般的な更新

min() および max() 集計関数が更新され、日付型を受け入れるようになりました。min() は日付項目の最も古い値を返すのに対し、max() は最新 (最近) の値を返します。

まず、toDate() 関数を使用して、日付を適切に書式設定します。たとえば、次のようになります。

```
q = load "case";
q = foreach q generate 'ClosedDate_Year' as 'year', toDate(ClosedDate_Year + "-" +
ClosedDate_Month + "-" + ClosedDate_Day, "yyyy-MM-dd") as date;
q = group q by 'year';
q = foreach q generate year, min('date') as 'mindate', max('date') as 'maxdate';
q = limit q 100;
```

更新された関数についての詳細は、『*Analytics SAQL Reference Guide (Analytics SAQL リファレンスガイド)*』を参照してください。

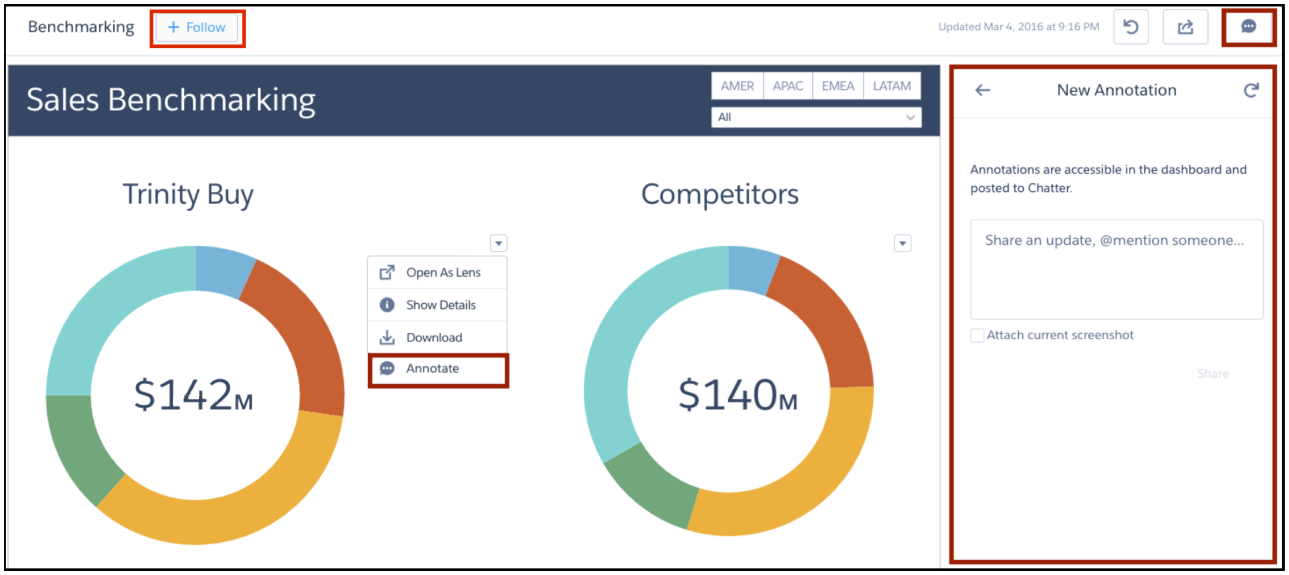
コミュニティのダッシュボードでのアノテーションを使用したコラボレーション

コミュニティに埋め込まれた Analytics ダッシュボードを活用して率直なコミュニケーションの環境を促進できます。コミュニティの Analytics でアノテーション機能が使用できるようになり、パートナーと顧客は個々のダッシュボードウィジェットの Chatter フィードで意見を交わすことができます。

メモ: カスタマーコミュニティプラスまたはパートナーコミュニティのライセンスを有するユーザの場合、この機能はコミュニティではサポートされますが、ポータルではサポートされません。コミュニティの Analytics がまだない場合、この機能の設定が必要です。詳細は、「コミュニティとの Analytics の共有」を参照してください。

アノテーション機能を設定するには、コミュニティユーザでChatterが有効になっていることを確認します。また、Analytics アセットに対するフィード追跡も有効にします(詳細は、「ダッシュボードウィジェットのアノテーションの有効化」を参照してください)。これで完了です。

アノテーションを作成するには、 をクリックして Analytics で埋め込みダッシュボードを開きます。ウィジェットのドロップダウンメニューから [アノテーションを追加] を選択します。



アノテーションパネルで、メッセージを入力し、組織内でダッシュボードへのアクセス権を持つユーザに@メンションできます。ダッシュボードの現在の状態のスクリーンショットを共有することもできます。Analytics ダッシュボードのアノテーションはネイティブに Chatter と統合され、ダッシュボードのコメントも Chatter 投稿として表示されます。ユーザが[フォローする]ボタンをクリックすると、ダッシュボードのすべてのコメントが表示されます。Chatterからダッシュボード画像をクリックして、Analyticsのダッシュボードにあるアノテーションに直接移動し、そこで会話にアノテーションを追加できます。

投稿の表示は、元の投稿を行ったユーザの種別に応じて異なります。セキュリティ目的で、外部のコミュニティユーザには、組織の内部ユーザが発信したアノテーションは表示されません。ただし、外部ユーザが開始

したアノテーションに内部ユーザが返信すると、すべてのユーザにすべての投稿が表示されます。詳細は、『*Chatter REST API 開発者ガイド*』の `visibility` プロパティを参照してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ダッシュボードアノテーションを使用したコラボレーション

埋め込みダッシュボードの表示と機能の制御

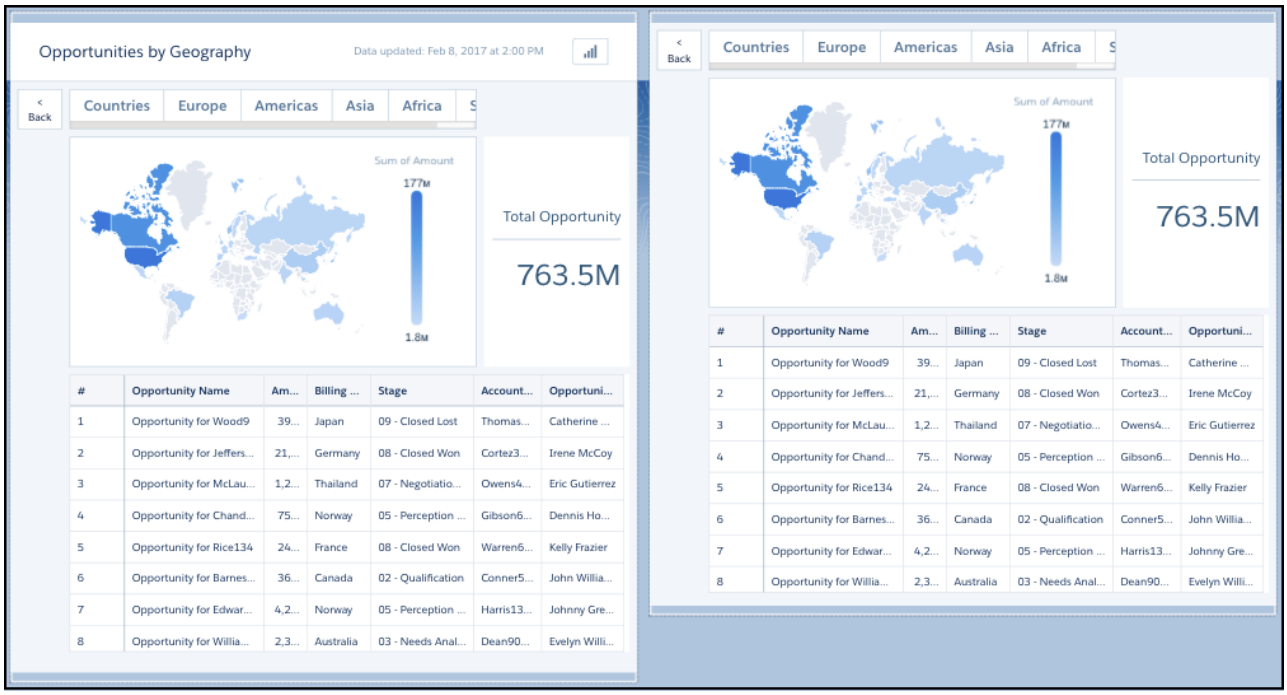
新しい showHeader 属性により、埋め込み Analytics ダッシュボードのヘッダーバーの表示を制御できます。ヘッダーを非表示にすると、スペースが節約できるだけでなく、[Analytics で開く] アイコンコントロールや検索条件アイコンコントロールも非表示になります。この属性は、Visualforce、Lightning アプリケーションビルダー、コミュニティビルダー、Salesforce Classic の高度なページレイアウトエディタ、Lightning Out の Wave ダッシュボードコンポーネントで使用できます。

埋め込みダッシュボードのヘッダーの非表示は、ダッシュボードやデータアクセスの制御を制限する場合に便利です。たとえば、更新されたグローバル検索条件機能では、埋め込みダッシュボードを表示しているすべてのユーザが検索条件を参照および削除できます。セキュリティに関する考慮事項に従って検索条件を設定している場合、ユーザがそれらの検索条件を削除できないようにします。

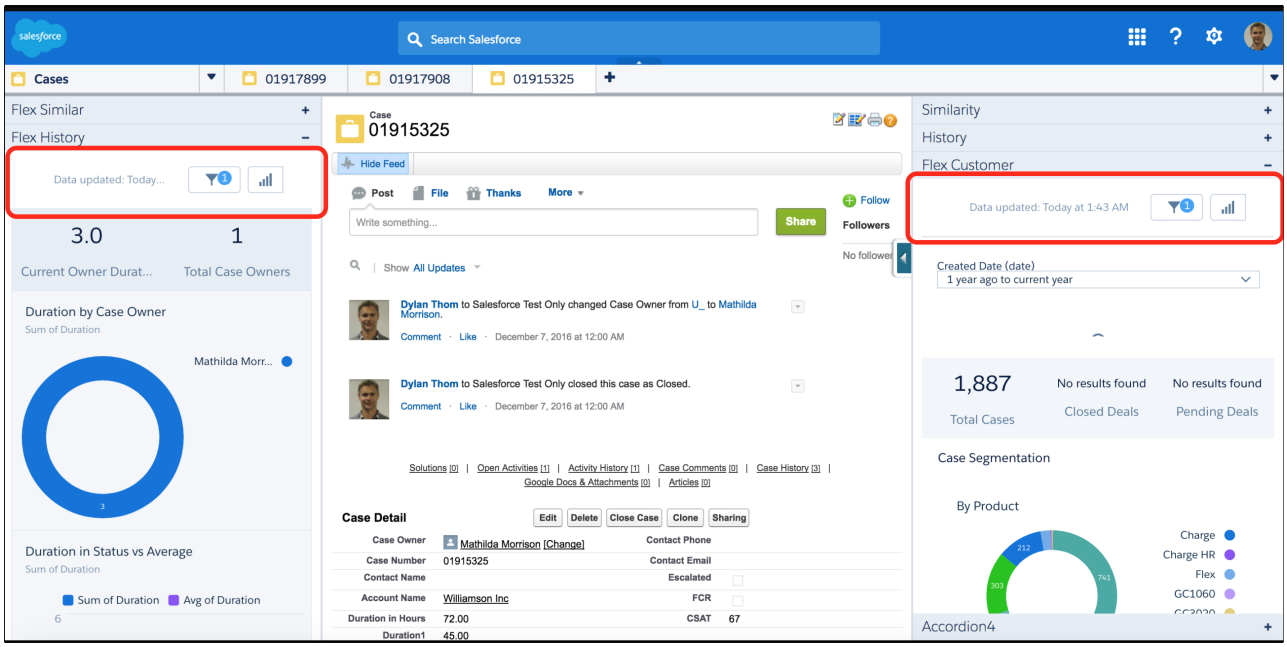
メモ: ダッシュボードインスペクタは、小さなダッシュボードで使いづらいため、埋め込みダッシュボードのヘッダーで使用できなくなりました。

showHeader 属性が true に設定されている場合、ダッシュボードにはダッシュボード情報とコントロールを含むヘッダーバーが表示されます。false に設定されている場合、ダッシュボードはヘッダーバーなしで表示されます。ただし、showSharing または showTitle 属性が true の場合、ヘッダーバーが表示されます。

左側の埋め込みダッシュボードにはヘッダーバーがあります。右側のダッシュボードのヘッダーバーは非表示になっています。



埋め込みダッシュボードのヘッダーには、[Analytics で開く] アイコンとダッシュボードのデータが更新された日時が表示されます。ダッシュボードの設定によっては、検索条件アイコンも表示されます。この Service Analyticsページには、ヘッダーに検索条件アイコンがある2つの埋め込みダッシュボードが表示されています。



Analytics ダッシュボードへの Apex 機能の追加 (ベータ)

`apex` ステップを使用することで、開発者はカスタム Apex 機能をダッシュボードに追加し、Analytics では本来サポートされていない Salesforce Platform 機能にアクセスできるようになりました。たとえば、API を使用したデータの取り込み、Apex クラスを使用したデータの操作、単純な case ステートメントや複雑な機械学習の適用、さらには Twitter と Einstein Analytics の統合などへの AppExchange の利用まで、すべてを使い慣れた方法で行うことができます。

メモ: Winter '18 リリースには、ベータバージョンの `apex` ステップが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。この機能は、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。この機能についてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

`apex` ステップを設定する手順は、次のとおりです。

1. Analytics が利用できる形式でデータを返す Apex クラスを作成します。

   `soql` ステップと同様、Apex コントローラは表形式データを返すことができます。`saql` および `soql` ステップタイプと異なり、`apex` ステップタイプでは、「`strings`」、「`numbers`」、「`groups`」 配列は定義されません。Apex クラスの応答では、これらの列の型を宣言する必要があります。

2. ダッシュボード JSON に `apex` ステップタイプでステップを定義します。ステップは Apex REST エンドポイントをコールして、Apex コントローラクラスのデータを返します。

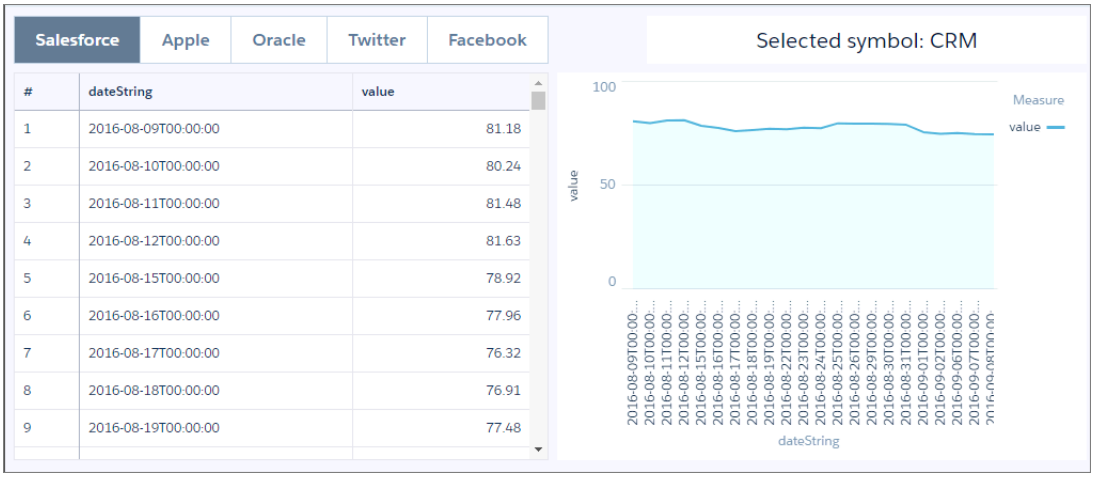
apex ステップタイプは、ステップをサポートするウィジェットに関連付けることができます。エクスプローラでステップの詳細を参照できますが、編集はできません。

apex ステップを定義するとき、ステップ JSON の body パラメータで選択バインドまたは結果バインドを使用できます。結果バインドでもこのステップタイプを参照できます。apex ステップを使用して Analytics REST API クエリを実行する場合、クエリはログインユーザとして実行されます。各 REST API クエリは組織の API 制限にカウントされます。

apex ステップの次の制限に注意してください。

- ダッシュボードをパッケージに含める場合、apex ステップは含まれません。Apex クラスを個別に移行する必要があります。
- Analytics モバイルアプリケーションでは、このタイプのステップはサポートされていません。

例: Web サイトからリアルタイム株データを取り込み、ダッシュボードに表示したいと考えているとします。外部 API からデータを取得し、各株価の時刻を判断するロジックを追加する必要があります。次に、目的のダッシュボードを示します。



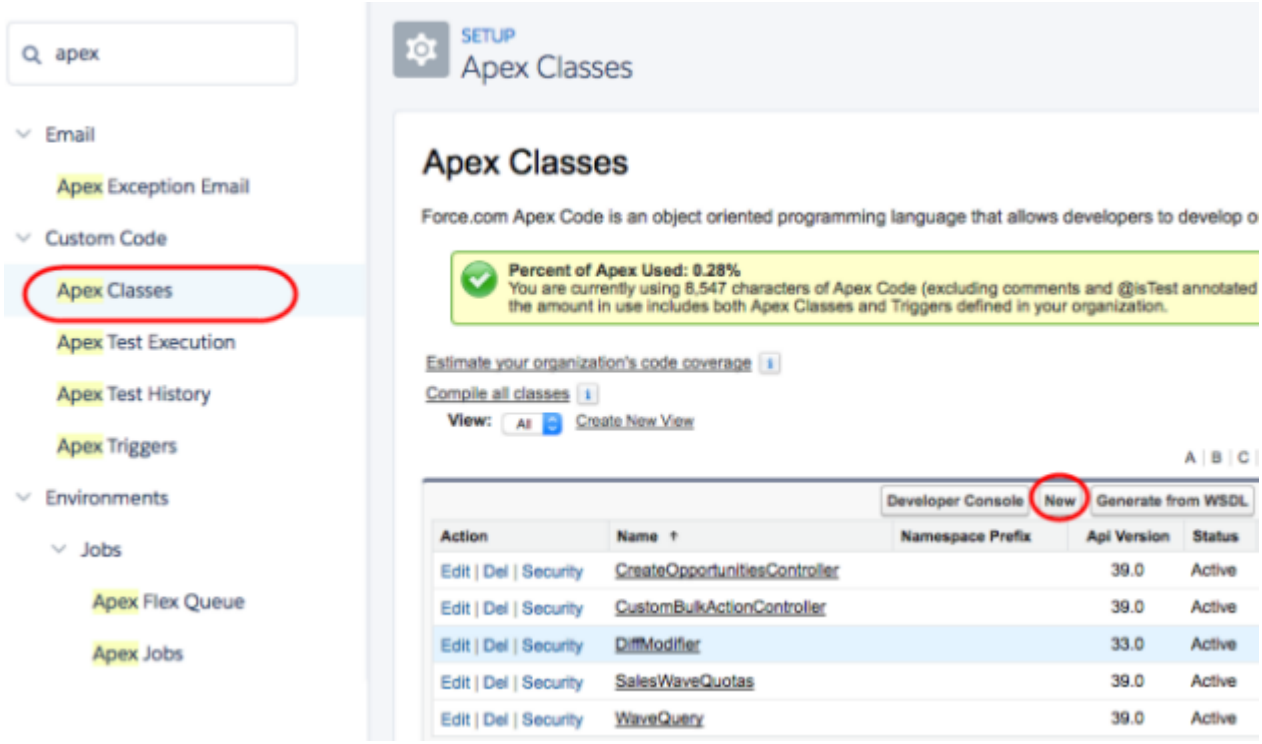
このダッシュボードを作成する手順は、次のとおりです。

1. 株の Web サイトからデータを取得する Apex コントローラクラスを作成します。
2. Salesforce で株の Web サイトをホワイトリストに登録します。
3. その他のダッシュボードウィジェットに加えて、apex ステップを作成します。

Apex クラスの作成

さまざまな会社の経時的な株価を返す、Apex コントローラクラスとメソッドを定義します。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Apex クラス*」と入力し、**[Apex クラス]** を選択します。
2. **[新規]** をクリックします。



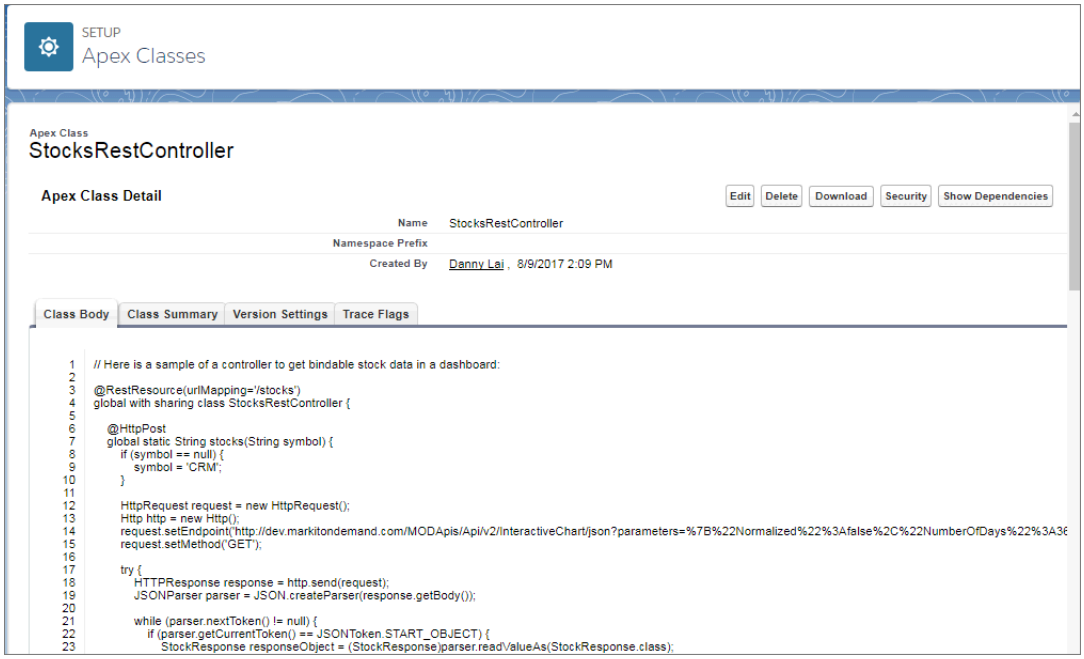
3. 次のコードを追加します。

```
@RestResource(urlMapping='/stocks')
global with sharing class StocksRestController {

    @HttpPost
    global static String stocks(String symbol) {
       // default to CRM stock
      if (symbol == null) {
            symbol = 'CRM';
       }

        // fetch some stock data
        HttpRequest request = new HttpRequest();
        Http http = new Http();
        // make sure this domain is whitelisted in the proxy

request.setEndpoint('http://dev.markitondemand.com/MODApis/Api/v2/InteractiveChart/json?
parameters=%7B%22Normalized%22%3Afalse%2C%22NumberOfDays%22%3A365%2C%22
DataPeriod%22%3A%22Day%22%2C%22Elements%22%3A%5B%7B%22Symbol%22%3A%22' + symbol +
'%22%2C%22Type%22%3A%22price%22%2C%22Params%22%3A%5B%22c%22%5D%7D%5D%7D');
        request.setMethod('GET');

        try {
            HTTPResponse response = http.send(request);
            JSONParser parser = JSON.createParser(response.getBody());

            while (parser.nextToken() != null) {
                // find the stock part of the response
                if (parser.getCurrentToken() == JSONToken.START_OBJECT) {
```

```
                  // parse the stock response and form the response for this controller

                    StockResponse responseObject =
(StockResponse)parser.readValueAs(StockResponse.class);

                    List<ReturnItem> returnItems = new List<ReturnItem>();
                    Integer i = 0;
                    for (String curDate : responseObject.dates) {
                        returnItems.add(new ReturnItem(curDate,
responseObject.elements.get(0).dataSeries.close.values.get(i++)));
                    }

                    // return the serialized response
                    return JSON.serialize(new PackagedReturnItem(returnItems));
                }
            }
        } catch(Exception exp) {
            System.debug('exception '+exp);
        }

        return '';
    }

    // Parse the stock response
    public class StockResponse {

        public List<String> dates;
        public List<StockResponseElement> elements;

        public StockResponse(List<String> dates, List<StockResponseElement> elements)
{
            this.dates = dates;
            this.elements = elements;
        }
    }

    public class StockResponseElement {

        public String type;
        public StockResponseDataSeries dataSeries;

        public StockResponseElement(String type, StockResponseDataSeries dataSeries) {
            this.type = type;
            this.dataSeries = dataSeries;
        }
    }

    public class StockResponseDataSeries {

        public StockResponseDataSeriesValues close;

        public StockResponseDataSeries(StockResponseDataSeriesValues close) {
            this.close = close;
        }
```

```
    }

    public class StockResponseDataSeriesValues {

        public List<Double> values;

        public StockResponseDataSeriesValues(List<Double> values) {
            this.values = values;
        }
    }

    public class ReturnItem {

        public String dateString;
        public Double value;

        public ReturnItem(String dateString, Double value) {
            this.dateString = dateString;
            this.value = value;
        }
    }

    public class ReturnMetadata {

        public List<String> strings;
        public List<String> numbers;
        public List<String> groups;

        public ReturnMetadata(List<String> strings, List<String> numbers, List<String>
 groups) {
            this.strings = strings;
            this.numbers = numbers;
            this.groups = groups;
        }
    }

    public class PackagedReturnItem {

        public List<ReturnItem> data;
        public ReturnMetadata metadata;

        public PackagedReturnItem(List<ReturnItem> data) {
            this.data = data;
            this.metadata = new ReturnMetadata(new List<String>{'dateString'}, new
List<String>{'value'}, new List<String>());
        }
    }
}
```

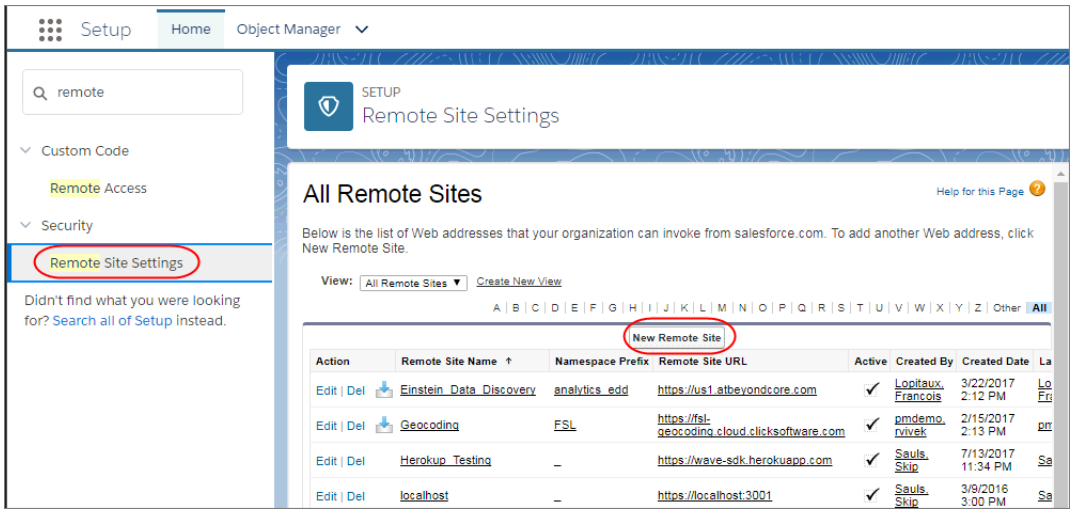
4. [保存] をクリックします。



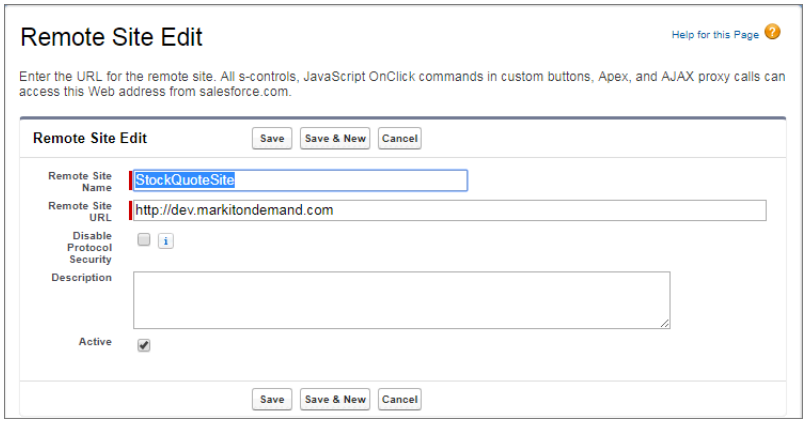
外部 Web サイトのホワイトリスト登録

Apex で外部 REST エンドポイントをクエリできるようにするには、Salesforce でその Web サイトをホワイトリストに登録します。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「リモート」と入力し、[リモートサイトの設定] を選択します。
2. [新規リモートサイト] をクリックします。



3. リモートサイト名と URL を入力します。



4. [保存] をクリックします。

apex ステップの作成

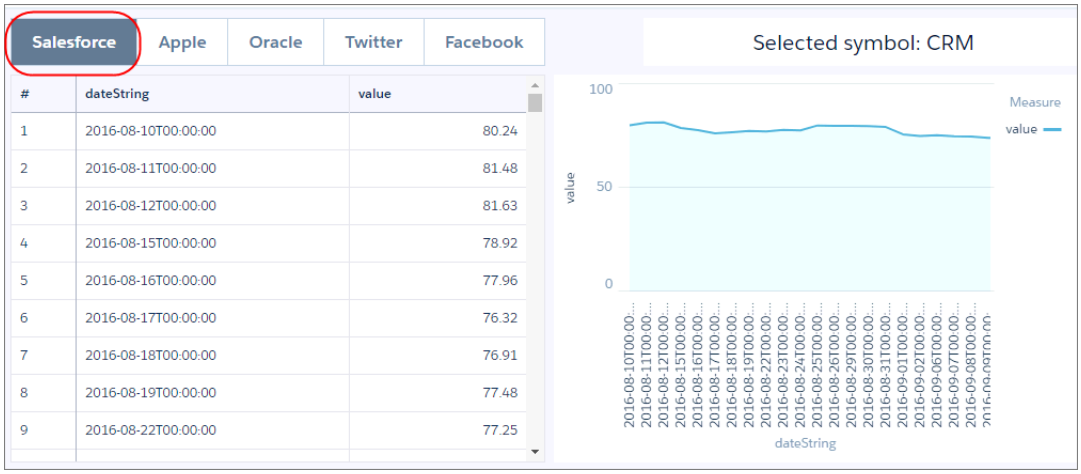
ダッシュボード JSON で `apex` ステップを手動で定義し、前に作成した Apex クラスからの株の結果を取得します。

ダッシュボード JSON で、次の `apex` ステップを追加します。

```
"StockData": {
    "query": {
        "body": {
            "symbol": "{{cell(CompaniesList_1.selection, 0, \"value\").asString()}}"
        },
        "path": "stocks"
    },
    "type": "apex"
}
```

この `apex` ステップクエリには、次のパラメータが含まれます。

`body`
切り替えウィジェットで会社が選択されたときに、バインドで銘柄コードを取得します。



path
Apex コントローラの `RestResource` アノテーションの `urlMapping` に指定された、Apex コントローラへの REST API リソースパスを指定します。

ダッシュボードに 4 つのウィジェットが表示されます。切り替えウィジェットは、定義済みの会社名を銘柄コードに対応付ける静的ステップに基づきます。テーブルウィジェットと折れ線グラフは、`apex` ステップを使用して結果を取得します。テキストウィジェットは、バインドを使用して「Selected symbol:」(選択された銘柄コード:) と切り替えウィジェットで選択された会社の銘柄コードを連結します。

次に、最終的なダッシュボード JSON を示します。

```
{
    "label": "Stock Quotes",
    "mobileDisabled": false,
    "state": {
        "dataSourceLinks": [],
        "filters": [],
        "gridLayouts": [
            {
                "name": "Default",
                "numColumns": 12,
                "pages": [
                    {
                        "label": "Untitled",
                        "name": "b177a6e6-8ab6-4914-af36-09c7fa23e0c8",
                        "widgets": [
                            {
                                "colspan": 6,
                                "column": 0,
                                "name": "pillbox_1",
                                "row": 0,
                                "rowspan": 1,
                                "widgetStyle": {
                                    "borderEdges": []
                                }
                            },
                            {
                                "colspan": 5,
                                "column": 7,
                                "name": "text_1",
                                "row": 0,
                                "rowspan": 1,
                                "widgetStyle": {
                                    "borderEdges": []
                                }
                            },
                            {
                                "colspan": 6,
                                "column": 0,
                                "name": "table_1",
                                "row": 1,
                                "rowspan": 7,
                                "widgetStyle": {
                                    "borderEdges": []
```

```
                            }
                        },
                        {
                            "colspan": 6,
                            "column": 6,
                            "name": "chart_1",
                            "row": 1,
                            "rowspan": 7,
                            "widgetStyle": {
                                "borderEdges": []
                            }
                        }
                    ]
                }
            ],
            "rowHeight": "normal",
            "selectors": [],
            "style": {
                "alignmentX": "left",
                "alignmentY": "top",
                "backgroundColor": "#F2F6FA",
                "cellSpacingX": 8,
                "cellSpacingY": 8,
                "fit": "original",
                "gutterColor": "#C5D3E0"
            },
            "version": 1
        }
    ],
    "layouts": [],
    "steps": {
        "CompaniesList_1": {
            "datasets": [],
            "dimensions": [],
            "groups": [],
            "label": "CompaniesList",
            "numbers": [],
            "selectMode": "singlerequired",
            "strings": [],
            "type": "staticflex",
            "values": [
                {
                    "display": "Salesforce",
                    "value": "CRM"
                },
                {
                    "display": "Apple",
                    "value": "AAPL"
                },
                {
                    "display": "Oracle",
                    "value": "ORCL"
                },
                {
```

```
                        "display": "Twitter",
                        "value": "TWTR"
                    },
                    {
                        "display": "Facebook",
                        "value": "FB"
                    }
                ],
                "broadcastFacet": true
            },
            "StockData": {
                "query": {
                    "body": {
                        "symbol": "{{cell(CompaniesList_1.selection, 0,
\"value\").asString()}}"
                    },
                    "path": "stocks"
                },
                "type": "apex"
            }
        },
        "widgetStyle": {
            "backgroundColor": "#FFFFFF",
            "borderColor": "#E6ECF2",
            "borderEdges": [],
            "borderRadius": 0,
            "borderWidth": 1
        },
        "widgets": {
            "table_1": {
                "parameters": {
                    "borderColor": "#e0e5ee",
                    "borderWidth": 1,
                    "cell": {
                        "backgroundColor": "#ffffff",
                        "fontColor": "#16325c",
                        "fontSize": 12
                    },
                    "columns": [],
                    "customBulkActions": [],
                    "exploreLink": false,
                    "header": {
                        "backgroundColor": "#f4f6f9",
                        "fontColor": "#16325c",
                        "fontSize": 12
                    },
                    "innerMajorBorderColor": "#a8b7c7",
                    "innerMinorBorderColor": "#e0e5ee",
                    "mode": "fittocontainer",
                    "numberOfLines": 1,
                    "step": "StockData",
                    "verticalPadding": 8,
                    "evenRowColor": null,
                    "oddRowColor": null
```

```
                },
                "type": "table"
            },
            "pillbox_1": {
                "parameters": {
                    "compact": false,
                    "exploreLink": false,
                    "step": "CompaniesList_1"
                },
                "type": "pillbox"
            },
            "text_1": {
                "parameters": {
                    "fontSize": 20,
                    "text": "Selected symbol: {{ cell(CompaniesList_1.selection, 0,
\"value\").asString() }}",
                    "textAlignment": "center",
                    "textColor": "#091A3E"
                },
                "type": "text"
            },
            "chart_1": {
                "parameters": {
                    "autoFitMode": "keepLabels",
                    "showPoints": false,
                    "legend": {
                        "showHeader": true,
                        "show": true,
                        "customSize": "auto",
                        "position": "right-top",
                        "inside": false
                    },
                    "axisMode": "multi",
                    "tooltip": {
                        "showBinLabel": true,
                        "measures": "",
                        "showPercentage": false,
                        "showDimensions": true,
                        "showMeasures": true,
                        "customizeTooltip": false,
                        "dimensions": ""
                    },
                    "visualizationType": "line",
                    "dashLine": {
                        "measures": "",
                        "showDashLine": false
                    },
                    "exploreLink": false,
                    "title": {
                        "fontSize": 14,
                        "subtitleFontSize": 11,
                        "label": "",
                        "align": "center",
                        "subtitleLabel": ""
```

```
},
"trellis": {
    "flipLabels": false,
    "showGridLines": true,
    "size": [
        100,
        100
    ],
    "enable": false,
    "type": "x",
    "chartsPerLine": 4
},
"fillArea": true,
"showZero": true,
"measureAxis2": {
    "sqrtScale": false,
    "showTitle": true,
    "showAxis": true,
    "title": "",
    "customDomain": {
        "showDomain": false
    }
},
"measureAxis1": {
    "sqrtScale": false,
    "showTitle": true,
    "showAxis": true,
    "title": "",
    "customDomain": {
        "showDomain": false
    }
},
"theme": "wave",
"step": "StockData",
"dimensionAxis": {
    "showTitle": true,
    "customSize": "auto",
    "showAxis": true,
    "title": "",
    "icons": {
        "useIcons": false,
        "iconProps": {
            "fit": "cover",
            "column": "",
            "type": "round"
        }
    }
},
"drawArea": {
    "measure": "",
    "showDrawArea": false,
    "bounding1": "",
    "bounding2": ""
}
```

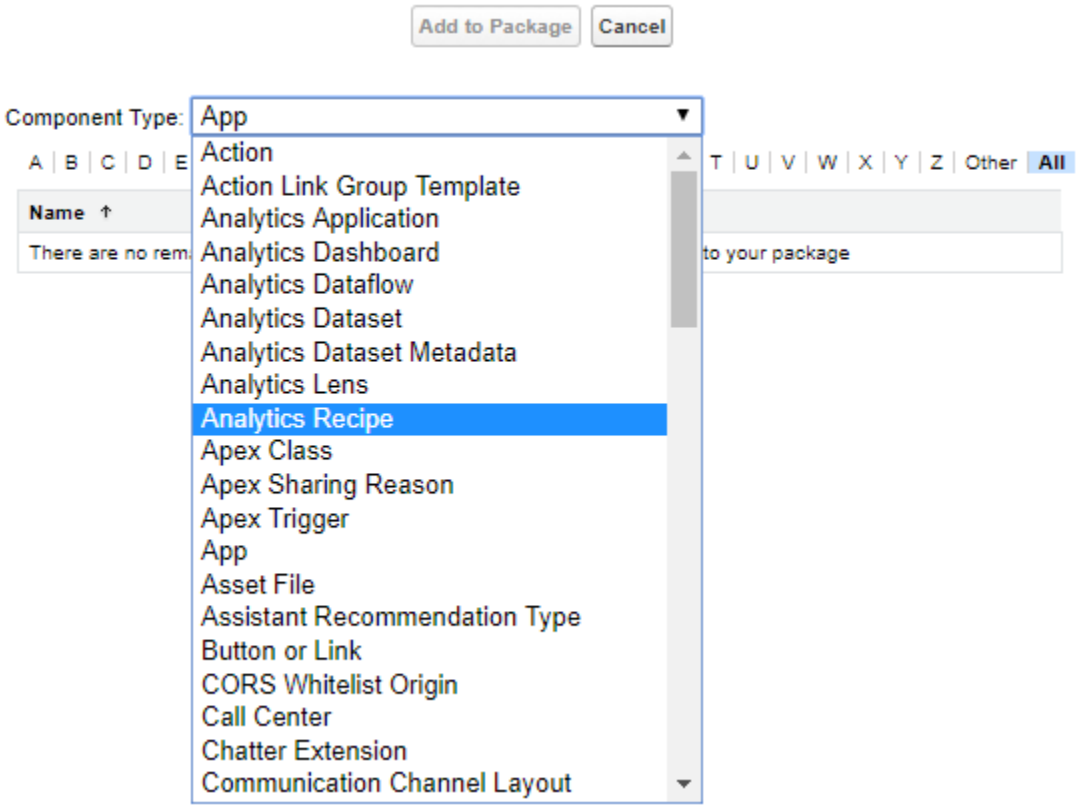
```
                },
                "type": "chart"
            }
        }
    },
    "datasets": []
}
```

レシピのパッケージ化

パッケージまたは変更セットの作成時に、Analytics レシピを追加できます。

パッケージおよび変更セット内のレシピ

パッケージまたは変更セットの作成時に、使用可能なコンポーネントのリストから [Analytics レシピ] を選択します。



レシピをパッケージ化に使用できるようにするには、レシピを使用したデータセットを作成する必要があります。

コミュニティ: カスタマー取引先ポータル、動的ブランド設定、Community Pulse

取引先管理を念頭に置いて設計されたカスタマー取引先ポータルでは、非公開の安全な場所が顧客に提供され、顧客はそこで取引先情報にアクセスし、情報を更新できます。ブランドセットが利用者ターゲティングと連携することで、ページを参照している利用者に応じて、容易にコミュニティのデザインとスタイルを動的に変更できます。また、Community Pulse では、最も重要なコミュニティ総計値がワークスペース領域の中心に表示されます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

ヒント: 今日の Salesforce には多数の Lightning (Lightning Experience、Lightning Bolt、Lightning コンポーネント)が存在しており、コミュニティへの適用方法を理解するのは難しいかもしれません。

Lightning Bolt ソリューションと Lightning テンプレートは、Lightning Experience と同様、Lightning プラットフォームと Lightning コンポーネントを基盤としています。ただし、これらを使用するために Lightning Experience を有効にする必要はありません。

このセクションの内容:

Lightning テンプレートおよび Lightning Bolt ソリューション: 新規、アップグレード、エクスポート可能
動的ブランド設定: 1 つのコミュニティ、利用者ごとに異なるデザイン
利用者ターゲティング: 優先度とユーザ条件を使用して焦点を絞る
CMS Connect: パーソナライズ、JSON、より多くの CMS プロバイダのサポート

Lightning テンプレートおよび Lightning Bolt ソリューション: 新規、アップグレード、エクスポート可能

このリリースでは、カスタマーサービス (Napili) テンプレートと Partner Central テンプレートに多くの改良が加えられました。今すぐアップグレードしてください!カスタマー取引先ポータルテンプレートを使用した専用のコミュニティに顧客は満足することでしょう。「独自作成」テンプレートを使用して自由にコミュニティを構築してください。カスタマイズしたあらゆるテンプレートを Lightning Bolt ソリューションとしてエクスポートしてください。

動的ブランド設定: 1 つのコミュニティ、利用者ごとに異なるデザイン

ブランドセットを使用すると、ページを参照している利用者に応じて、コミュニティページのデザインとスタイルを変更できます。顧客または会社のニーズごとに、個々のコミュニティを作成する必要はありません。コミュニティを一度作成しておけば、あとは利用者ごとに異なるスタイルを設定するだけです。

利用者ターゲティング: 優先度とユーザ条件を使用して焦点を絞る

新しいユーザオブジェクト利用者条件を使用して特定のユーザに焦点を絞り、複数の利用者に属するユーザに何が表示されるかを制御します。

CMS Connect: パーソナライズ、JSON、より多くの CMS プロバイダのサポート

CMS Connect を使用すると、コミュニティをコンテンツ管理システム (CMS) に接続する方法の選択肢が増えます。Web サイトに使用している Adobe Experience Manager (AEM) でコンテンツをパーソナライズしている場合、そのパーソナライズをコミュニティで使用できるようになりました。CMS Connect では、AEM 以外のプロバイダもサポートされるようになりました。さらに、Web サイトに記事やブログなど JSON コンテンツがある場合、JSON コネクタのベータバージョンを使用してそのコンテンツをコミュニティに表示できます。豊富な機能を備えた CMS Connect を利用して、コミュニティと Web サイトのデザインを揃えることができます。

使いやすさとパフォーマンスの向上: 容易になったページとコンポーネントの編集、CDN、キャッシュ、パフォーマンス分析

このリリースで行われた、使いやすさとパフォーマンスの大きな改善をぜひご確認ください。使いやすさの面では、コミュニティビルダーで現在のページを容易に編集したり、[ページ構造] パネルでコンポーネントを容易に削除したりできるようになりました。開発者は、[ページ構造]パネルから直接開発者コンソールを起動できます。パフォーマンスに関しては、コミュニティのページの読み込み時間を短縮する新しい Communities Cloud コンテンツ配信ネットワーク (ベータ) をお試しください。クライアント側のブラウザのキャッシュによってパフォーマンスが向上します。また、コミュニティページオプティマイザが正式にリリースされました。

Lightning コミュニティ: Community 360、人気のあるファイル、更新されたコンポーネント、新しいコンポーネント

Community 360 (Lightning に埋め込まれたフロー) で顧客の活動に関するより多くのインサイトを取得したり、人気のあるファイルを見つけたり、新しい検索コンポーネントを使用して、ピアツーピアコミュニティで必要なものを見つけたりします。

Lightning コミュニティの Chatter: リッチパブリッシャーアプリケーション、質問ボタンの機能強化、ストリーム

独自のカスタムペイロードをディスカッションに追加し、改善された [質問ボタン] コンポーネントでメンバーにより多くのオプションを提供し、ストリームで大規模なフィードを作成します。

Lightning コミュニティのファイル: 外部ファイル、タイルビューのライブラリ、ライブラリのフォルダ

Files Connect を使用した Lightning コミュニティから外部ファイルへのアクセス、タイルビューを使用したライブラリの閲覧、ライブラリ内のフォルダの作成、移動、および削除ができます。

パートナーリレーションの管理:チャネルプログラムおよびレベル、パートナースコアカード、市場開発資金

専門知識のレベルに応じて段階的なコミュニティ環境を提供し、パートナースコアカード (ベータ) で個々のパフォーマンスを監視し、市場開発資金でパートナーの予算を管理します。

コミュニティ分析: Community Pulse およびアノテーション

最も関心のあるコミュニティ統計をワークスペース上部で確認してアクションを実行するのに加えて、ダッシュボード上で直接やりとりします。

モデレーション: Journey Builder とのインテグレーション、メンバーエンゲージメントキュー、より多くのワークスペース

Community Cloud と Marketing Cloud の Journey Builder が一緒になった場合に何が起きるかを確認してください。また、新しいキューと改良されたキューによって作業が容易になることや、ワークスペースをすばやく調べる方法を確認してください。

コミュニティのその他の変更

コミュニティのユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更について説明します。

Lightning テンプレートおよび Lightning Bolt ソリューション: 新規、アップグレード、エクスポート可能

このリリースでは、カスタマーサービス (Napili) テンプレートと Partner Central テンプレートに多くの改良が加えられました。今すぐアップグレードしてください! カスタマー取引先ポータルテンプレートを使用した専用のコミュニティに顧客は満足することでしょう。「独自作成」テンプレートを使用して自由にコミュニティを構築してください。カスタマイズしたあらゆるテンプレートを Lightning Bolt ソリューションとしてエクスポートしてください。

このセクションの内容:

カスタマーサービス (Napili) コミュニティの更新
カスタマーサービス (Napili) コミュニティを内部的に改良しました。改良には、たとえば、検索やナビゲーションの変更や、ブランドオプションの追加などが含まれます。カスタマーサービス (Napili) テンプレートに対する機能の改善は、すべて Winter '18 バージョンで行われますので、乗り遅れないでください。

更新された Partner Central コミュニティでより多くのことを行う
ナビゲーションを拡張し、ライブラリおよびおすすめファイルを含む新しい [リソース] ページを追加しました。また、Partner Central テンプレートのパッケージ化とエクスポートを行うオプションを含めました。テンプレートの改善はすべて、Winter '18 バージョンで行われます。アップグレードの準備はできましたか?

カスタマー取引先のポータルの発表、顧客満足を維持するまったく新しい方法
Community Cloud に標準装備された [カスタマー取引先ポータル] テンプレートを使用して、取引先情報にアクセスして更新するための非公開かつ安全な場所を顧客に提供できます。請求書の確認と支払や、取引先情報の更新を顧客ができるようにするほか、最もよくある質問の回答を顧客が知識ベースで検索できるようにして、カスタマーリレーションを向上し、コストを削減します。

開発者が独自にコミュニティを構築
[独自作成] テンプレートでは、すべてのコミュニティで必要とされる基本ページが提供されます (ホーム、レコードの作成、エラー、レコードの詳細、レコードリスト、関連レコードリスト、検索、パスワードを確認、パスワードを忘れた場合、ログイン、ログインエラー、登録)。さらに、構築している環境にページやコンポーネントを簡単に追加できます。ブランドやテーマをカスタマイズして、コミュニティのデザインを調整します。

際限を知らない Lightning Bolt
今回のリリースでは、複数のテンプレートが新規追加またはアップグレードされました。エクスポートはもうカスタマーサービス (Napili) に制限されなくなったので、この機能を活用するために、ユーザはカスタマイズしたあらゆる Lightning テンプレートを Lightning Bolt ソリューションとしてエクスポートできます。Lightning Bolt を使用すると、容易に業界固有のソリューションを作成し、他のユーザが使用できるようにエクスポートし、パッケージ化して、配布できます。

カスタマーサービス (Napili) コミュニティの更新

カスタマーサービス (Napili) コミュニティを内部的に改良しました。改良には、たとえば、検索やナビゲーションの変更や、ブランドオプションの追加などが含まれます。カスタマーサービス (Napili) テンプレートに対する機能の改善は、すべて Winter '18 バージョンで行われますので、乗り遅れないでください。

メモ: Winter '18 バージョンに更新する前に、「コミュニティの更新」を参照し、更新がコミュニティにどのように影響するのかを確認してください。次に、本番組織で更新する前に、Sandbox 組織でテスト実行を行います。このヘルプトピックはリリースプレビュー時に古くなるか、利用できなくなる可能性があります。そのため、更新のすべての影響を必ず把握しておいてください。

現在のカスタマーサービス (Napili) コミュニティを Winter '18 バージョンに更新する場合、次のようなことが期待されます。

- コミュニティヘッダーから検索ボックスが切り離され、コミュニティ内に独自の検索環境を挿入しやすくなる。

  メモ: カスタマーサービス (Napili) テンプレートの Winter '18 バージョンの検索ページには、見出しコンポーネントは含まれません。コミュニティの検索ページに見出しコンポーネントが含まれている場合は、アップグレードの一環として削除されます。

- すっきりとした見出しコンポーネントで、コミュニティのモバイル環境が改善され、コミュニティで重要なことを表示する領域が確保される。
- テキスト項目のスペースの改善やフォントサイズの更新など、標準の UI の機能強化。
- 新しいピアツーピアコミュニティのグローバル検索コンポーネント。
- スタイル設定オプションが追加され、CSS を上書きする必要がなくなった、アップグレードされた高性能ナビゲーションメニュー。

  CSS カスタマイズを適用した場合は、アップグレードされたナビゲーションメニューに移行します。

  メモ: CSS の上書きは推奨されません。ナビゲーションメニューのスタイル設定を更新する最善の方法は、コミュニティビルダーで [ブランド] パネルを使用することです。CSS カスタマイズを Sandbox 環境でテストし、正常に動作することを確認してください。

- すべてのコンテンツレイアウトにおける Lightning Design System の原理の導入。
- ナビゲーションの背景用とテキストの色用の 2 つの新しいブランドオプション。

このように数多くの変更が加えられています。そのため、コミュニティを公開する前に、Sandbox 環境でアップグレードプロセスをテストすることを強くお勧めします。

関連トピック:

更新されたテンプレートの新しいユーザプロファイルメニュー

更新された Partner Central コミュニティでより多くのことを行う

ナビゲーションを拡張し、ライブラリおよびおすすめファイルを含む新しい [リソース] ページを追加しました。また、Partner Central テンプレートのパッケージ化とエクスポートを行うオプションを含めました。テンプレートの改善はすべて、Winter '18 バージョンで行われます。アップグレードの準備はできましたか?

メモ: Winter '18 バージョンに更新する前に、こちらのコミュニティの更新のトピックを参照し、更新がコミュニティにどのように影響するのかを確認してください。次に、本番組織でテンプレートを更新する前に、Sandbox 組織でテストを実行してください。

アップグレードされた Partner Central コミュニティでは、次の機能が提供されます。

- ライブラリおよびファイルのスマートなおすすめを含む [リソース] ページ

- 販売契約、見積、価格表、注文、マーケティング資金割り当て、マーケティング資金リクエスト、マーケティング資金要求などのキャンペーンおよびカスタムオブジェクトのパスコンポーネント
- スタイル設定オプションが追加され、CSS を上書きする必要がなくなった高性能ナビゲーションメニュー

  メモ: CSS の上書きは推奨されません。ナビゲーションメニューのスタイル設定を更新する最善の方法は、コミュニティビルダーで [ブランド] パネルを使用することです。CSS カスタマイズを Sandbox 環境でテストし、正常に動作することを確認してください。

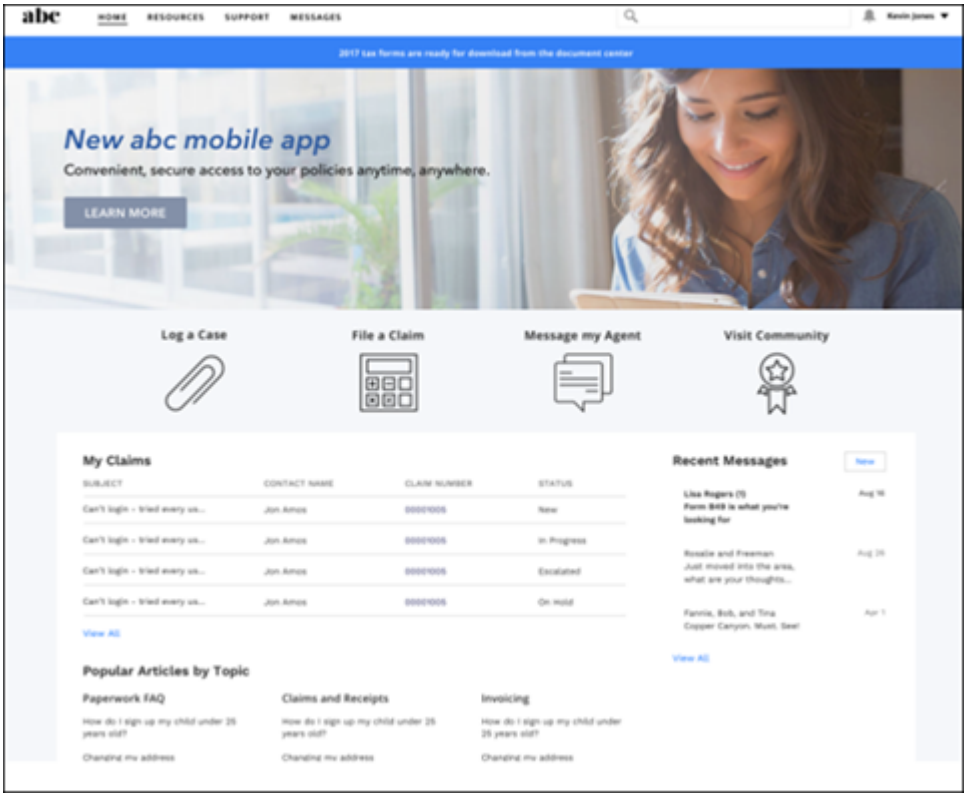
- すべてのコンテンツレイアウトにおける Lightning Design System の原理の導入。

関連トピック:

新しい [リソース] ページでライブラリおよびその他にアクセス

カスタマー取引先のポータルの発表、顧客満足を維持するまったく新しい方法

Community Cloud に標準装備された [カスタマー取引先ポータル] テンプレートを使用して、取引先情報にアクセスして更新するための非公開かつ安全な場所を顧客に提供できます。請求書の確認と支払や、取引先情報の更新を顧客ができるようにするほか、最もよくある質問の回答を顧客が知識ベースで検索できるようにして、カスタマーリレーションを向上し、コストを削減します。



カスタマー取引先ポータルは取引先管理を考慮して設計されているため、作成するとお客様は次のことが可能となります。

- カスタムオブジェクトを含め、任意の Salesforce レコードの重要な情報を作成および更新するためのアクセス権を顧客に付与する。アクセス権を付与することで、電話番号や住所の更新など、容易に解決できる問題に関するコールセンターへの問い合わせが減ります。

- Salesforce Connect を使用して、ERP や E コマースなどのサードパーティシステムからデータとプロセスを統合および公開します。
- 最も重要な情報をメンバープロファイルで顧客に表示します。
- Salesforce ナレッジを使用して、製品およびブランドに関する緊急の質問の回答を顧客に提供する。請求書や要求などのファイルを顧客がアップロードできるようにする。

カスタマー取引先のポータルには使い慣れた他の Lightning コミュニティと同じ柔軟性と拡張性もあるため、次の作業を容易に実行できます。

- カスタムページを作成してカスタムブランドを使用する。
- ビジネスニーズに適合するより多くの CRM オブジェクトとデータを公開する。
- 地理位置情報による利用者のターゲティングを使用し、地理的な場所により顧客向けにパーソナライズされたコンテンツを作成する。

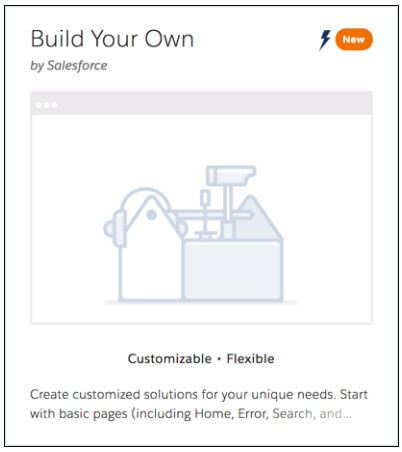
カスタマーポータルをすぐにでも利用開始したくなりましたね。では早速作成してみましょう。ほんの数クリックで、リッチな最新の応答型の環境を実現できます。夢は本当にかないます。

関連トピック:

タイルメニューを使用したより直感的なナビゲーション環境の導入 (ベータ)
自分のプロファイルを編集するためのアクセス権をポータルメンバーに付与

開発者が独自にコミュニティを構築

[独自作成] テンプレートでは、すべてのコミュニティで必要とされる基本ページが提供されます (ホーム、レコードの作成、エラー、レコードの詳細、レコードリスト、関連レコードリスト、検索、パスワードを確認、パスワードを忘れた場合、ログイン、ログインエラー、登録)。さらに、構築している環境にページやコンポーネントを簡単に追加できます。ブランドやテーマをカスタマイズして、コミュニティのデザインを調整します。

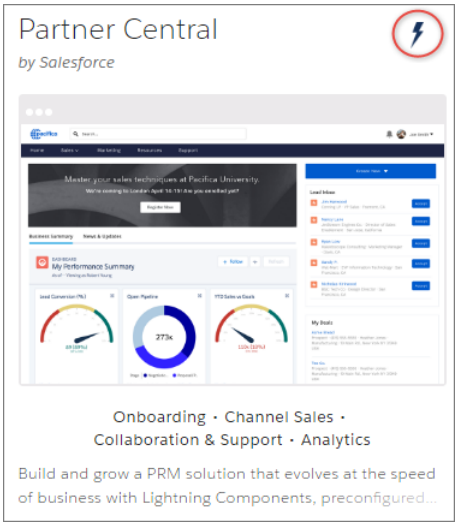


コンポーネントパネルですべてのコンポーネントを表示するには、[設定] > [詳細] を選択し、[コンポーネントパネル] 領域で [すべてのコンポーネントを表示] をクリックします。

際限を知らない Lightning Bolt

今回のリリースでは、複数のテンプレートが新規追加またはアップグレードされました。エクスポートはもうカスタマーサービス(Napili)に制限されなくなったので、この機能を活用するために、ユーザはカスタマイズしたあらゆるLightningテンプレートをLightning Boltソリューションとしてエクスポートできます。Lightning Boltを使用すると、容易に業界固有のソリューションを作成し、他のユーザが使用できるようにエクスポートし、パッケージ化して、配布できます。

どのテンプレートがエクスポート可能であるのかわかりませんか?コミュニティ作成ウィザードで、テンプレートの横にあるLightningアイコンを探してください。⚡のマークが付いたテンプレートはすべてエクスポート可能です。



既存のコミュニティをエクスポートするには、[設定] > [更新] で、テンプレートを最新バージョンに更新する必要があります。

カスタマイズしたカスタマー取引先ポータルテンプレートをLightning Boltソリューションとしてエクスポートする場合、タイルメニューコンポーネントは含まれません。ソリューションからコミュニティを作成したら、コンポーネントを手動で追加します。

メモ: KoaまたはKokuaは、廃止されるため、エクスポートできません。

動的ブランド設定: 1つのコミュニティ、利用者ごとに異なるデザイン

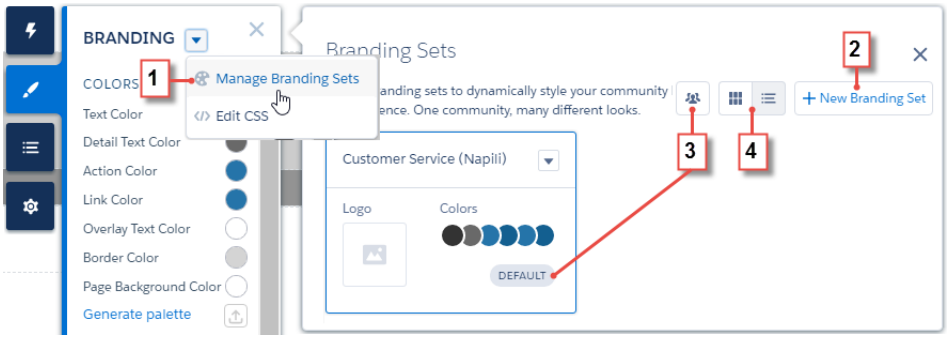
ブランドセットを使用すると、ページを参照している利用者に応じて、コミュニティページのデザインとスタイルを変更できます。顧客または会社のニーズごとに、個々のコミュニティを作成する必要はありません。コミュニティを一度作成しておけば、あとは利用者ごとに異なるスタイルを設定するだけです。

ページのバリエーションと同じく、ブランドセットでは条件に基づく利用者を活用します。複数のページバリエーションを作成して、それらを利用者ごとに割り当てられるのと同様に、さまざまなブランドプロパティセットを作成して、特定の利用者に固有のデザインを作成できます。

メモ: ブランドセットを使用するには、[設定] > [更新] で、テンプレートを最新バージョンに更新する必要があります。

コミュニティビルダーでは、次のことができます。

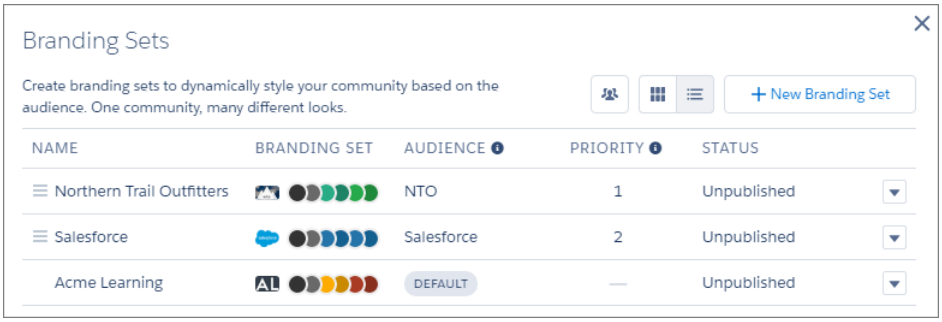
- [ブランド] パネルでブランドセットを管理する (1)。
- ブランドプロパティセットを作成する (2)。
- 利用者を作成したり、ブランドセットに利用者を割り当てたりする (3)。
- ブランドセットのタイルビューとリストビューを切り替える (4)。



メモ: コミュニティごとに、デフォルトの利用者に割り当てられたブランドセットが必要です。これは代替ブランドとして機能します。代替ブランドは、特定の利用者に属していないユーザに表示されるブランドです。テンプレートをエクスポートする場合、デフォルトのブランドセットのみがエクスポートされます。

例: Acme Learning は、大企業の従業員向けおよび一般向けのプロフェッショナルトレーニングコースを提供しています。Acme Learning は、企業ごとにターゲットブランディング環境、つまり Acme Learning のブランドと企業のブランドを結合したブランド環境を提供したいと考えています。また、企業以外の顧客には、標準の Acme Learning ブランドを表示したいと考えています。

Acme Learning は 1 つのコミュニティを使用して一連のブランド設定を作成し、利用者を作成して各ブランド設定に割り当てます。これで、Salesforce 従業員が Acme Learning コミュニティにアクセスすると、Salesforce のロゴ、色、フォントでスタイル設定されたページが表示されます。同様に、Northern Trail Outfitters の従業員がホームページにアクセスすると、同じコンテンツが表示されますが、そのフォント、色、ロゴは異なっています。一般のメンバー (デフォルトの利用者) には、Acme Learning の標準ブランドでスタイル設定されたページが表示されます。



利用者ターゲティング: 優先度とユーザ条件を使用して焦点を絞る

新しいユーザオブジェクト利用者条件を使用して特定のユーザに焦点を絞り、複数の利用者に属するユーザに何が表示されるかを制御します。

このセクションの内容:

ユーザ条件に基づいた利用者の作成
新しいユーザオブジェクト条件種別で利用者をさらに絞り込みます。市区町村、会社名、役職などのユーザ情報に基づいて対象の利用者を絞り込み、コミュニティで誰に何を表示するかを微調整します。

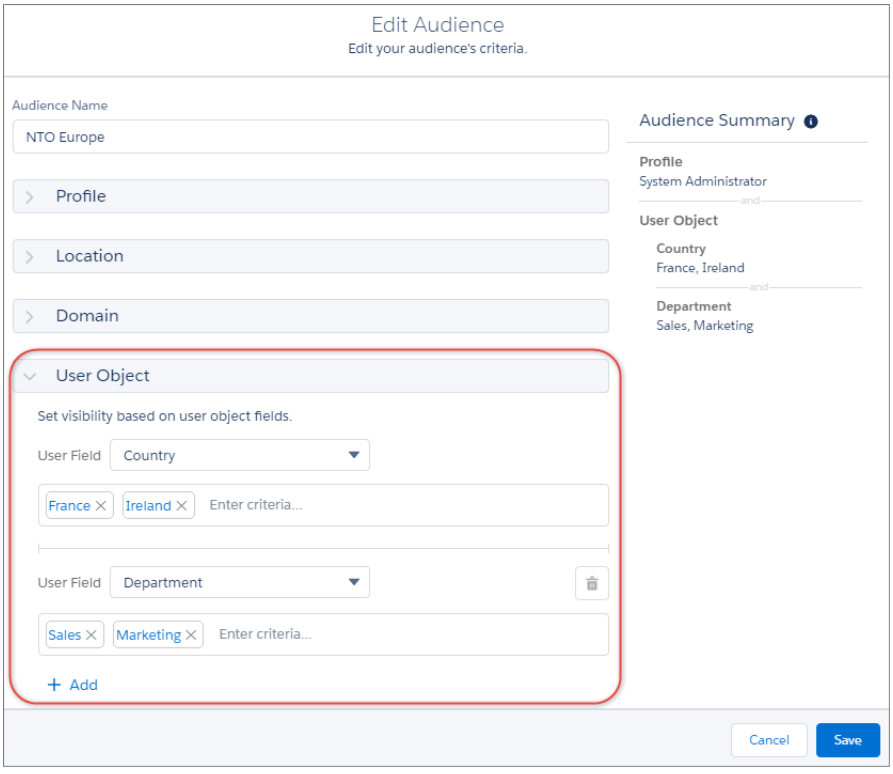
利用者への表示の優先度設定
ユーザが複数の利用者に属している場合に表示するブランドセットまたはページバリエーションの優先度を設定します。誰が何を参照するかについて推測を巡らせるのではなく、優先すべきブランドセットとページを選択します。

ユーザ条件に基づいた利用者の作成

新しいユーザオブジェクト条件種別で利用者をさらに絞り込みます。市区町村、会社名、役職などのユーザ情報に基づいて対象の利用者を絞り込み、コミュニティで誰に何を表示するかを微調整します。

たとえば、居住地の国に基づいて対象の利用者を絞り込むには、ユーザオブジェクトの [国] 項目を使用すると、場所条件種別よりも正確な結果が得られます。場所条件種別ではユーザのIPアドレスによってユーザの場所が決まりますが、ユーザの IP アドレスはユーザが移動するにつれて変わります。

利用者を作成または編集するときには、ユーザオブジェクトの複数のテキスト項目または選択リスト項目から選択し、適切な条件を入力します。



利用者への表示の優先度設定

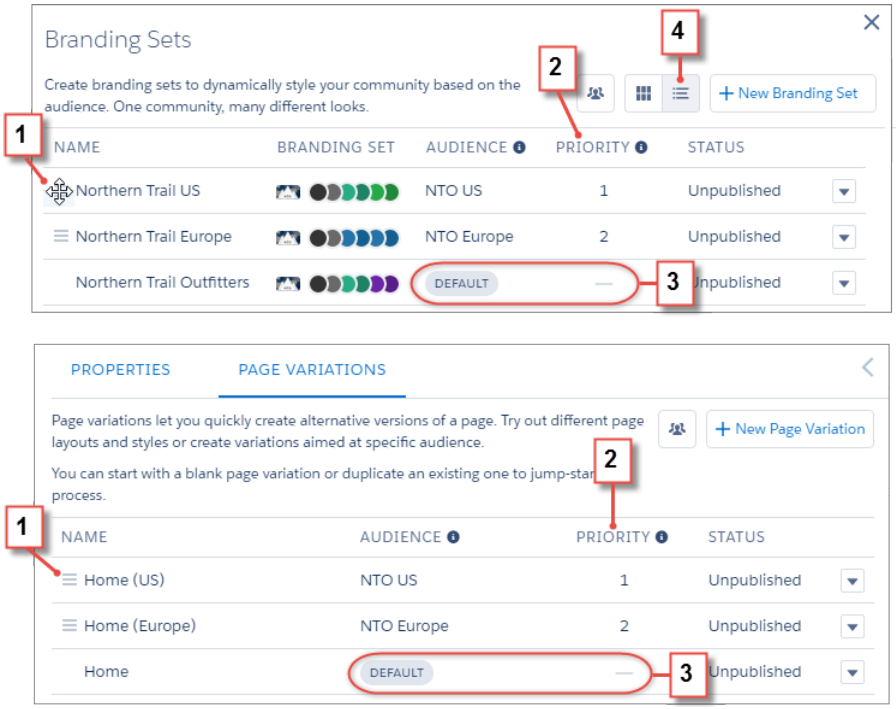
ユーザが複数の利用者に属している場合に表示するブランドセットまたはページバリエーションの優先度を設定します。誰が何を参照するかについて推測を巡らせるのではなく、優先すべきブランドセットとページを選択します。

ヒント: ブランドセットとは、利用者ターゲティングという矢筒に入れるもう 1 本の矢のようなものです。詳細はこちらで確認できますが、ここではこのまま説明を続けます。

複数の利用者に属するユーザに表示する内容に優先度を設定するには、ページバリエーションまたはブランドセット (1) を適切な位置にドラッグしてその優先度 (2) を設定します。

ユーザが特定の利用者に属していない場合、デフォルトの利用者 (3) に割り当てられたブランドセットまたはページバリエーションが表示されます。デフォルトは代替のブランドまたはページとして機能するため、優先度を持ちません。

ブランドセットの優先度を設定するには、[ブランドセット]領域のリストビュー(4)が表示されていることを確認してください。デフォルトの利用者以外に、割り当てられた利用者が複数存在する場合、[優先度]列が表示されます。



CMS Connect: パーソナライズ、JSON、より多くの CMS プロバイダのサポート

CMS Connect を使用すると、コミュニティをコンテンツ管理システム (CMS) に接続する方法の選択肢が増えます。Web サイトに使用している Adobe Experience Manager (AEM) でコンテンツをパーソナライズしている場合、そのパーソナライズをコミュニティで使用できるようになりました。CMS Connect では、AEM 以外のプロバイダもサポートされるようになりました。さらに、Web サイトに記事やブログなど JSON コンテンツがある場合、JSON コネクタのベータバージョンを使用してそのコンテンツをコミュニティに表示できます。豊富な機能を備えた CMS Connect を利用して、コミュニティと Web サイトのデザインを揃えることができます。

メモ: このリリースには、CMS Connect のいくつかの機能のベータバージョンが含まれています。ベータバージョンは機能の品質は高いですが、既知の制限があります。CMS Connect は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。CMS Connect に関するフィードバックや提案は、Trailblazer コミュニティの Community Cloud グループに投稿してください。

このセクションの内容:

CMS Connect を使用したコミュニティのパーソナライズ
JSON コンテンツでコミュニティページを強化 (ベータ)
さらに多くの CMS プロバイダのサポートによりコミュニティと Web サイトのコンテンツのデザインを揃える (ベータ)
相対 URL から絶対 URL への自動変換 (ベータ)

CMS Connect を使用したコミュニティのパーソナライズ

パーソナライズを含む Adobe Experience Manager を使用して Web サイトのコンテンツを維持しますか? コミュニティの CMS Connect でパーソナライズされたコンテンツがサポートされるようになったため、誰に何を表示するかを決定できます。AEM でパーソナライを設定するのに費やした作業はすべて、パーソナライズしたコンテンツをコミュニティに表示することで活用できます。地理位置情報や言語などの条件に基づいて、さまざまな区分に従ってコンテンツを表示します。

JSON コンテンツでコミュニティページを強化 (ベータ)

CMS の JSON コンテンツでコミュニティのページをさらに肉付けします。CMS Connect を使用して JSON コンテンツ (記事、ブログなど) を表示します。コミュニティビルダーのプロパティエディタを使用すると、レイアウトをカスタマイズしてコンテンツを自分好みに表示できます。

さらに多くの CMS プロバイダのサポートによりコミュニティと Web サイトのコンテンツのデザインを揃える (ベータ)

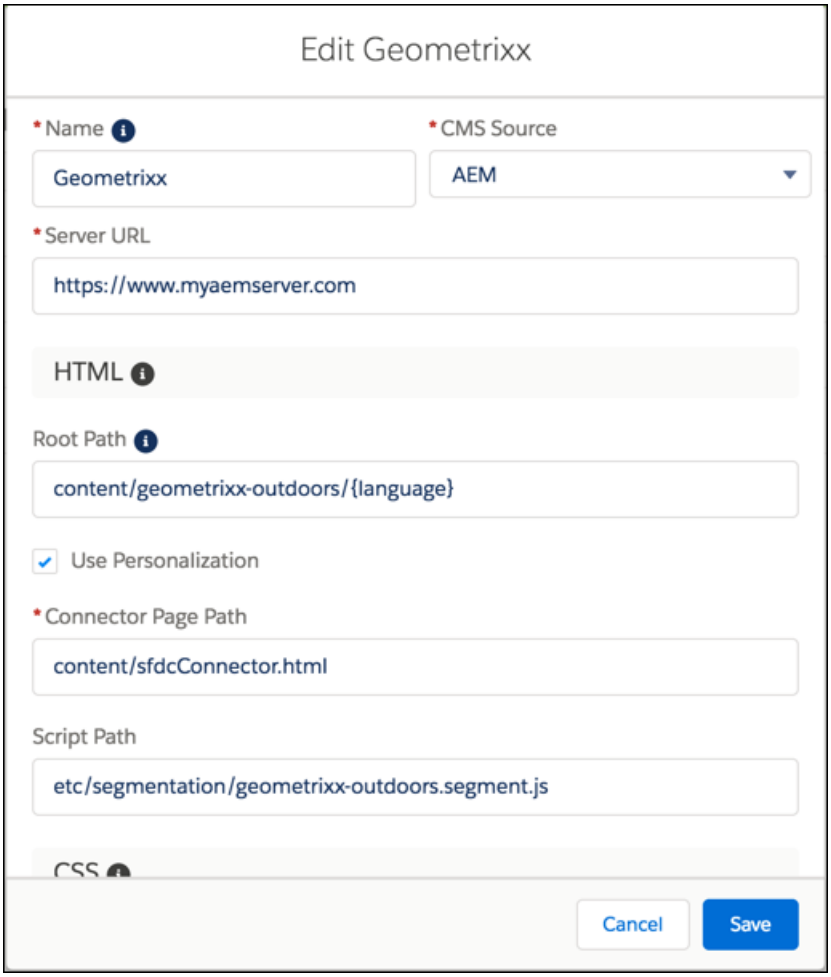
Web サイトのコンテンツを Drupal、SDL、Sitecore、または WordPress で管理しているユーザに良いお知らせです。Adobe Experience Manager の既存のサポートに加えて、CMS Connect がユーザのコンテンツを完全にサポートするようになりました。これにより、作業を重複することなく、コミュニティと Web サイトのデザインを揃えることができます。

相対 URL から絶対 URL への自動変換 (ベータ)

相対 URL が望ましくない場合もあります。CMS Connect では HTML フラグメント内で絶対 URL のみが許可されるため、相対 URL が自動的に変換されるようになりました。変換はバックグラウンドで実行されるため、心配する必要はありません。

CMS Connect を使用したコミュニティのパーソナライズ

パーソナライズを含む Adobe Experience Manager を使用して Web サイトのコンテンツを維持しますか? コミュニティの CMS Connect でパーソナライズされたコンテンツがサポートされるようになったため、誰に何を表示するかを決定できます。AEM でパーソナライを設定するのに費やした作業はすべて、パーソナライズしたコンテンツをコミュニティに表示することで活用できます。地理位置情報や言語などの条件に基づいて、さまざまな区分に従ってコンテンツを表示します。



これはどのように機能するのでしょうか。魔法のおかげです、と言いたいところですが、ユーザの事前作業がいくつか必要です。コネクタの JSP ページを作成、インストールして、AEM で HTML ページから公開する必要があります。コネクタページには、Web サイトのパーソナライズの対応付けロジックを持つ JSP が含まれます。スクリプトの実行方法によっては、コードを追加する必要があります。次に、コミュニティの CMS 接続を設定するときに、AEM 内のこのコネクタページへのパスを指定します。CMS 接続では、スクリプトを JSP ファイル内で動的に実行する場合、JavaScript ファイルへのパスを追加することもできます。

この初期作業が完了すると、パーソナライズをコミュニティに簡単に適用することができます。接続内でパーソナライズを有効にしたら、コミュニティビルダーで、パーソナライズする各 CMS Connect (HTML) コンポーネントに対しても有効にします。必要な場合は、コミュニティビルダー設定でヘッダーおよびフッターに対してパーソナライズを有効にします。詳細は、『CMS Connect Developer Guide (CMS Connect 開発者ガイド)』を参照してください。

JSON コンテンツでコミュニティページを強化 (ベータ)

CMS の JSON コンテンツでコミュニティのページをさらに肉付けします。CMS Connect を使用して JSON コンテンツ (記事、ブログなど) を表示します。コミュニティビルダーのプロパティエディタを使用すると、レイアウトをカスタマイズしてコンテンツを自分好みに表示できます。

WordPress および Drupal からの JSON コンテンツをコミュニティに表示できるようになりました。CMS 接続を設定して JSON へのパスを追加した後、コミュニティビルダーを使用して JSON の表示方法を設定します。

ブログ投稿と記事の表示

ブログ投稿やその他の各コンテンツ項目をカスタムコミュニティページに表示するには、JSON をコンテンツ項目として設定します。次に、CMS Connect の JSON コンポーネントをページにドラッグするときに、プロパティエディタを使用してそのすべての属性を設定します。タイトル、著者、画像ソースなどに JSON 式や静的値を使用できます。コンテンツを表示するための組み込みレイアウトが用意されています。

メモ: 検索エンジン最適化 (SEO) は、コンテンツ項目のページへのナビゲーションをサポートする CMS Connect (JSON) コンポーネントには対応しません。ページが公開されている場合も同様です。

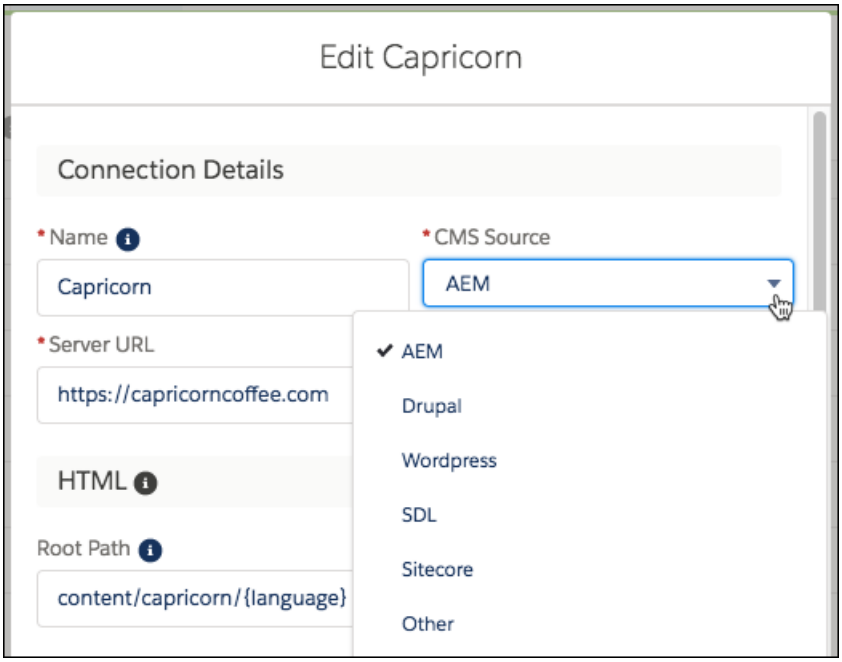
コンテンツのリストの表示

コンテンツリストコンポーネントを作成し、コンテンツ項目のリストをグリッドレイアウトで表示します。各項目はフルビューにリンクされています。プロパティエディタでは、表示方法を制御できます。コンテンツリストとリスト内の項目の標準レイアウトを使用して、各項目を値または JSON 式でカスタマイズします。

さらに多くの CMS プロバイダのサポートによりコミュニティと Web サイトのコンテンツのデザインを揃える (ベータ)

Web サイトのコンテンツを Drupal、SDL、Sitecore、または WordPress で管理しているユーザに良いお知らせです。Adobe Experience Manager の既存のサポートに加えて、CMS Connect がユーザのコンテンツを完全にサポートするようになりました。これにより、作業を重複することなく、コミュニティと Web サイトのデザインを揃えることができます。

新しい CMS 接続を設定するときに CMS ソースのリストから選択できるようになりました。



相対 URL から絶対 URL への自動変換 (ベータ)

相対 URL が望ましくない場合もあります。CMS Connect では HTML フラグメント内で絶対 URL のみが許可されるため、相対 URL が自動的に変換されるようになりました。変換はバックグラウンドで実行されるため、心配する必要はありません。

CMS のバナー、ヘッダー、フッターなどの HTML コンポーネントは、相対 URL を含むことができます (たとえば、`/content/capricorn/en/rootlink`)。問題ありません。CMS Connect は、次の HTML タグと属性の相対 URL を、絶対 URL に変換します。

- *<img>* タグ *src* 属性
- *<audio>* タグ *src* 属性
- *<input>* タグ
- *<button>* タグ *formaction* 属性
- *<video>* タグ *src* および *poster* 属性
- *<a>* および *<area>* タグ *href* 属性
- *<form>* タグ *action* 属性
- *<del>*、*<ins>*、*<blockquote>*、*<q>* タグ *cite* 属性
- *<script>* タグ *src* 属性

メモ: URL 変換は、HTML フラグメントでのみ機能します。接続で提供される JavaScript または CSS の相対 URL は、変換されません。

使いやすさとパフォーマンスの向上: 容易になったページとコンポーネントの編集、CDN、キャッシュ、パフォーマンス分析

このリリースで行われた、使いやすさとパフォーマンスの大きな改善をぜひご確認ください。使いやすさの面では、コミュニティビルダーで現在のページを容易に編集したり、[ページ構造]パネルでコンポーネントを容易に削除したりできるようになりました。開発者は、[ページ構造]パネルから直接開発者コンソールを起動できます。パフォーマンスに関しては、コミュニティのページの読み込み時間を短縮する新しいCommunities Cloudコンテンツ配信ネットワーク(ベータ)をお試しください。クライアント側のブラウザのキャッシュによってパフォーマンスが向上します。また、コミュニティページオプティマイザが正式にリリースされました。

このセクションの内容:

無料のコンテンツ配信ネットワークを使用したコミュニティパフォーマンスの高速化 (ベータ)
無料のコンテンツ配信ネットワーク(CDN)を設定してコミュニティのページ読み込み時間を短縮できます。この機能は、Lightning と Salesforce タブ + Visualforce コミュニティで使用できます。

ナビゲーションの背景色とテキスト色のカスタマイズ
コミュニティビルダーの[ブランド]パネルにある背景色およびテキスト色の設定を使用して、コミュニティのナビゲーションの背景色とテキスト色を微調整できます。テンプレートやブランドスタイルを独自のカスタマイズで上書きしなくても、これらの設定によりカスタマイズを行うことができます。

カスタムフォントファミリをより容易に追加
朗報です。コミュニティビルダーでカスタムフォントを使用するためのプロセスにとても簡単なアップロードが追加されました。コミュニティ全体で主要フォントとヘッダーフォントに使用するカスタムフォントファミリ名を指定できるようになりました。

ブラウザキャッシュによるコミュニティのパフォーマンスの向上
Lightning コミュニティで多数のコンポーネントを使用する場合、ブラウザキャッシュでコミュニティのパフォーマンスを向上させることができます。最初のページ読み込みのパフォーマンスはあまり変わりませんが、その後のページ読み込みが比較的速くなります。キャッシュは暗号化されており、安全です。

Salesforce コミュニティページオプティマイザによるパフォーマンス情報の取得 (正式リリース)
無料の Salesforce コミュニティページオプティマイザは、コミュニティを分析してパフォーマンスに影響する問題を識別します。この情報を使用して設計を調整し、メンバーのコミュニティパフォーマンスを向上させます。

[ページ構造] パネルからコンポーネントを削除
コンポーネントを削除したいけれど、それを見つけるのにコミュニティのすべてのページを確認するのはいやだと思ったことはありませんか?問題ありません。コンポーネントがどの場所にあるかに関係なく、コンポーネントを [ページ構造] パネルからすばやく削除できるようになりました。

開発者コンソールでのカスタムコンポーネントの編集
カスタムコンポーネントを [ページ構造] パネルからすばやく表示および編集できるようになりました。

コミュニティビルダーで現在の公開済みページを編集
公開済みコミュニティを参照しているときに、必要な変更に気づきましたか?コミュニティプロファイルメニューからコミュニティビルダーに移動するだけで、現在のページを編集できます。プレビューした後、変更した内容を公開します。

現在のページを更新して変化を確認

コミュニティビルダーでページを変更した場合、ブラウザページ全体を再読み込みする必要がなく、時間を節約できます。現在のページを更新するだけです。

無料のコンテンツ配信ネットワークを使用したコミュニティパフォーマンスの高速化 (ベータ)

無料のコンテンツ配信ネットワーク (CDN) を設定してコミュニティのページ読み込み時間を短縮できます。この機能は、Lightning と Salesforce タブ + Visualforce コミュニティで使用できます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンの Community Cloud CDN が含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。Community Cloud CDN は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

このベータ機能を有効にした場合、このドメインは、サードパーティの CDN サービスである Akamai を使用してコンテンツ配信を最適化します。このドメインとの間で送受信されるすべての情報 (ドメインに送信されたデータ、ドメインから返された Web ページのコンテンツ、それらのページのデータテーブル、画像、ファイル、JavaScript コード、スタイルシート、静的リソースなど) は、Akamai によって保存され転送されます。このデータに対して Akamai が提供するプライバシーとセキュリティ保護は、Salesforce が提供するものと異なる場合があります。このベータ機能の有効化に際するお客様の意志決定の結果である、Akamai と共有されるデータのプライバシーとセキュリティについて、Salesforce は責任を負いません。Salesforce は、このベータ機能のパフォーマンス (アップタイムおよびサービス可用性を含むがこれらに限定されない) に関して、いかなる表明または保証も行いません。将来、この機能が正式リリースされた場合、その時点で文書化されている制限を超える CDN 帯域用ユニットの購入が必要になる可能性があります。

ページ読み込み時間のパフォーマンスを向上させるために、Community Cloud CDN で次のリソースがキャッシュされます。

- 公開コミュニティ内の認証なしでアクセスできるリソース (HTML、JavaScript、CSS、画像、フォントファイルを含む)。
- public でキャッシュを可能にされたリソース ([キャッシュコントロール] が [公開] に設定された Salesforce 静的リソースなど)。

始めましょう

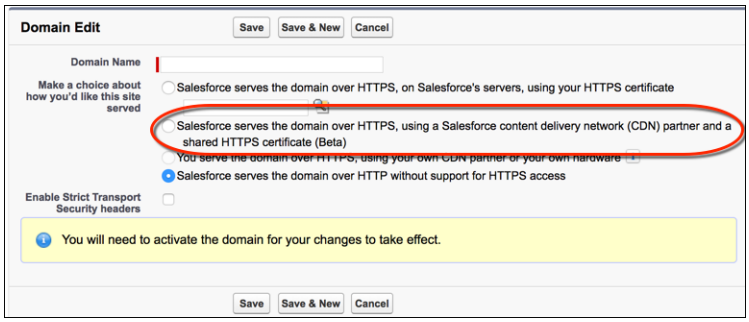
1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「コミュニティ設定」と入力し、[コミュニティ設定] を選択します。[コミュニティを有効化] をクリックし、ドメイン名を入力します (MyCompany.force.com など)。
2. カスタムドメイン (Salesforce の外部) を取得して組織にドメインレコードとして追加します。

3. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「カスタム *URL*」と入力し、[カスタム URL] を選択します。カスタムドメインをコミュニティサイトの URL に関連付けます。

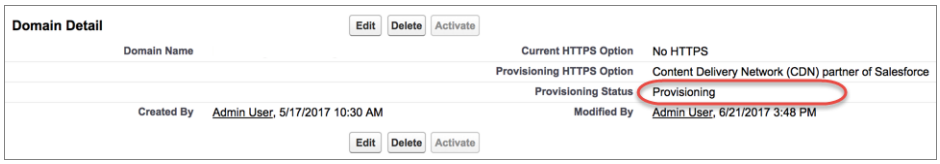
コミュニティ CDN のプロビジョニングと有効化

1. カスタムドメインを編集し、[Salesforce が Salesforce コンテンツ配信ネットワーク (CDN) パートナーと共有 HTTPS 証明書を使用して、HTTPS を介してドメインを提供する] を選択して、[保存] をクリックします。

   Akamai は CDN パートナーです。

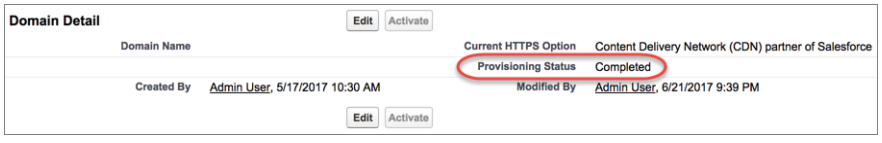


   Community Cloud CDN のプロビジョニングプロセスは 2 ～ 6 時間かかる可能性があります。完了すると、[プロビジョニング状況] 項目が [プロビジョニング] から [有効化の待機中] に変わります。プロセスが完了すると、メールで通知されます。プロビジョニングプロセス中に予期されるダウンタイムまたは中断はありません。



2. ドメインを有効化します。

   10 ～ 15 分間コミュニティを使用できなくなる可能性があるため、Community Cloud CDN は、コミュニティのトラフィックが少ない時間にプロビジョニングおよび有効化してください。[プロビジョニング状況] 項目が [有効化の待機中] から [完了] に変わります。

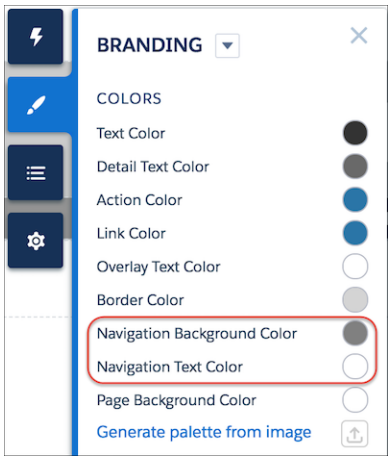


関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Set Up a Content Delivery Network (コンテンツ配信ネットワークの設定) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ナビゲーションの背景色とテキスト色のカスタマイズ

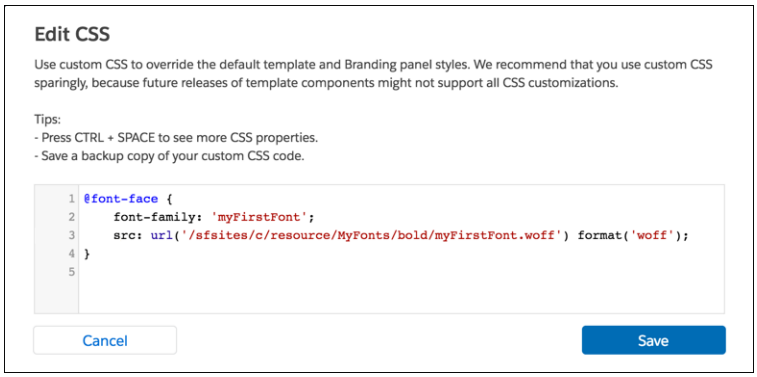
コミュニティビルダーの[ブランド]パネルにある背景色およびテキスト色の設定を使用して、コミュニティのナビゲーションの背景色とテキスト色を微調整できます。テンプレートやブランドスタイルを独自のカスタマイズで上書きしなくても、これらの設定によりカスタマイズを行うことができます。



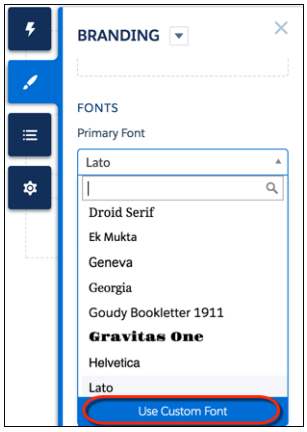
カスタムフォントファミリをより容易に追加

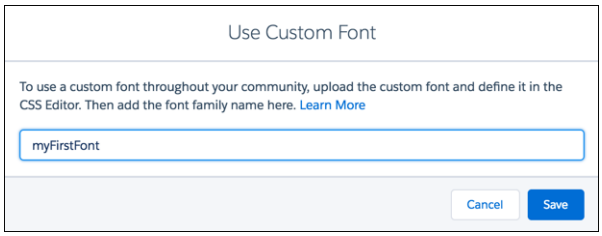
朗報です。コミュニティビルダーでカスタムフォントを使用するためのプロセスにとても簡単なアップロードが追加されました。コミュニティ全体で主要フォントとヘッダーフォントに使用するカスタムフォントファミリ名を指定できるようになりました。

主要フォントとヘッダーフォントのリストにフォントを追加するには、静的リソースとしてアップロードし、CSSエディタで定義するだけです。複数のフォントファイルをアップロードする場合は、.zipファイルを使用します。



[ブランド] パネルの [フォント] の下で [カスタムフォントを使用] をクリックし、フォントファミリ名を追加します。

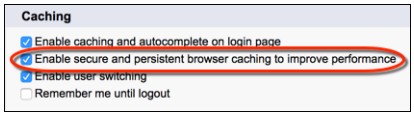




ブラウザキャッシュによるコミュニティのパフォーマンスの向上

Lightningコミュニティで多数のコンポーネントを使用する場合、ブラウザキャッシュでコミュニティのパフォーマンスを向上させることができます。最初のページ読み込みのパフォーマンスはあまり変わりませんが、その後のページ読み込みが比較的速くなります。キャッシュは暗号化されており、安全です。

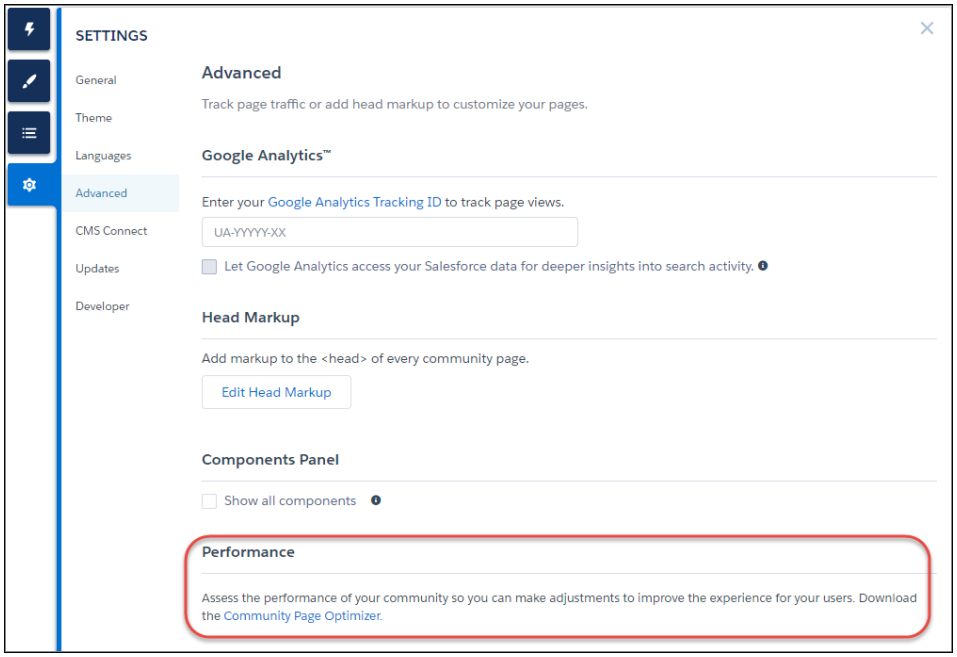
[パフォーマンスを向上させるためにブラウザの安全で永続的なキャッシュを有効にする]キャッシュ設定はデフォルトで有効になっています。この設定が有効になっていることを確認するには、[設定]から、[クイック検索] ボックスに「セッションの設定」と入力し、[セッションの設定] を選択します。



Salesforce コミュニティページオプティマイザによるパフォーマンス情報の取得 (正式リリース)

無料の Salesforce コミュニティページオプティマイザは、コミュニティを分析してパフォーマンスに影響する問題を識別します。この情報を使用して設計を調整し、メンバーのコミュニティパフォーマンスを向上させます。

Salesforce コミュニティページオプティマイザは、Chrome ウェブストアから入手できる無料のプラグインです。他の Chrome 拡張機能と同様にこのプラグインをダウンロードしてインストールします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Analyze and Improve Community Performance (コミュニティパフォーマンスの分析と向上)

[ページ構造] パネルからコンポーネントを削除

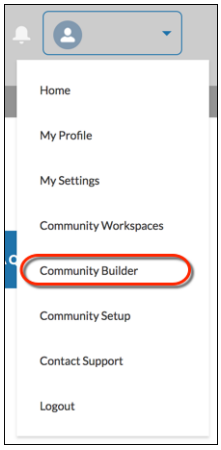
コンポーネントを削除したいけれど、それを見つけるのにコミュニティのすべてのページを確認するのはいやだと思ったことはありませんか? 問題ありません。コンポーネントがどの場所にあるかに関係なく、コンポーネントを [ページ構造] パネルからすばやく削除できるようになりました。

開発者コンソールでのカスタムコンポーネントの編集

カスタムコンポーネントを [ページ構造] パネルからすばやく表示および編集できるようになりました。

コミュニティビルダーで現在の公開済みページを編集

公開済みコミュニティを参照しているときに、必要な変更に気づきましたか? コミュニティプロファイルメニューからコミュニティビルダーに移動するだけで、現在のページを編集できます。プレビューした後、変更した内容を公開します。



現在のページを更新して変化を確認

コミュニティビルダーでページを変更した場合、ブラウザページ全体を再読み込みする必要がなく、時間を節約できます。現在のページを更新するだけです。

Lightning コミュニティ: Community 360、人気のあるファイル、更新されたコンポーネント、新しいコンポーネント

Community 360 (Lightning に埋め込まれたフロー) で顧客の活動に関するより多くのインサイトを取得したり、人気のあるファイルを見つけたり、新しい検索コンポーネントを使用して、ピアツーピアコミュニティで必要なものを見つけたりします。

このセクションの内容:

タイルメニューを使用したより直感的なナビゲーション環境の導入 (ベータ)
コミュニティビルダーの新しいタイルメニューコンポーネントで、カスタマー取引先のポータルに直感的で視覚的にインパクトのあるナビゲーション環境を追加できます。顧客は画像を使用して外部サイト、コミュニティページ、レコード、グローバルアクションにアクセスできます。たとえば、顧客は画像を使用してケースを登録したり、要求を送信したりできます。これは、画像とアクションを合体させたまったく新しい概念です。

自分のプロファイルを編集するためのアクセス権をポータルメンバーに付与
合理化されたメンバープロファイルコンポーネントを使用して、コミュニティメンバーは自分の取引先情報を容易に編集できます。何よりもよい点は、メンバーの重要な情報が1つの場所にすべてあることです。プロファイル情報とさまざまな設定が 1 つの便利なコンポーネントに含まれています。これはユーザとその会社にとってどのような意味があるのでしょうか?ユーザが更新に関する簡単な問い合わせをコールセンターに行う頻度が減るでしょう。

Community 360 を使用した顧客のコミュニティ活動の表示 (正式リリース)
今回のリリースのCommunity 360 (顧客のコミュニティ活動を確認するためにコンソールに追加できるLightning アプリケーションビルダーコンポーネント)には、驚くような事実がいくつかあります。まずお伝えしたいのは、この機能がパイロットのマントを脱いで正式リリースされた、ということです。また、顧客の全体像をエージェントが把握するのに役立つ多くの機能が追加されました。すべては素晴らしいカスタマーサービスのためです。この機能は、Salesforce Classic および Lightning Experience で使用できます。

ピアツーピアコミュニティでグローバル検索を使用して必要なものを検索
ピアツーピアコミュニティのグローバル検索は、Community Cloud の最新の検索コンポーネントであり、カスタマーサービス (Napili) テンプレートで使用できます。検索パブリッシャーと投稿パブリッシャーのこの簡易版を使用すると、コミュニティ管理者は、コンポーネント内の検索機能を公開機能から分離できます。さらに、この新しいコンポーネントはヘッダー全体から分離して独立しているため、コミュニティの特定のニーズに合わせて容易にカスタマイズできます。

更新されたテンプレートの新しいユーザプロファイルメニュー
ユーザプロファイルメニューコンポーネントには、ユーザの名前 (またはニックネーム) とプロファイル写真が表示されます。また、ユーザがプロファイルに移動したり、ケースを開いたり、ロケールおよびメール通知設定にアクセスしたり、コミュニティからログアウトしたりするためのドロップダウンも表示されます。外部ユーザも、アカウント (取引先情報) にアクセスしてアカウントを管理できます。ユーザがログインしていない場合は、ヘッダーに[ログイン]ボタンが表示されます。このコンポーネントはコミュニティビルダーのプロファイルヘッダーコンポーネントに似ていますが、これは Winter '18 バージョン以降のカスタマーサービス(Napili)、カスタマー取引先ポータル、およびPartner Central で構築されたコミュニティでのみ使用できます。Winter '18 のコミュニティを更新すると、このコンポーネントが自動的に追加されます。

新しい [リソース] ページでライブラリおよびその他にアクセス

さらに充実したコンテンツの領域を確保するために、ライブラリを Partner Central コミュニティの新しい [リソース] ページへ移動しました。ライブラリの他に、コミュニティで最も人気のあるファイルへアクセスすることもできます。[リソース] ページでは公開リンクがサポートされるため、リソースをパートナーと共有できます。

人気のあるファイルの検出

Partner Central コミュニティの新しいおすすめコンポーネントを使用して、メンバーに人気のあるファイルを表示します。人気度は、ファイルを最近参照したユーザ数、ファイルにテキストが含まれるか、およびファイルがライブラリ内にあるかによって決定されます。

契約、注文、見積、カスタムオブジェクトでパスを使用

パスは、プロセスの手順に沿ってユーザを誘導するものです。たとえば、ユーザーはパスに従って新規リードの対応から商談の成立まで商談に関する作業を行うことができます。このパスコンポーネントを、リードや商談のほか、コミュニティ内の契約、注文、見積、およびカスタムオブジェクトで使用できるようになりました。

Lightning コミュニティページへのフローの埋め込み

フローは、Salesforce 情報を収集、更新、編集、作成するプロセスを自動化します。コミュニティビルダーのフローコンポーネントを使用して、ページにフローを追加できるようになりました。他のコンポーネントと同じようにフローコンポーネントをコミュニティページに追加します。

ナビゲーションメニューへのグローバルアクションの追加

グローバルアクションをコミュニティのナビゲーションメニューのメニュー項目の1つとして追加します。新しいメニュー項目を追加する場合、[種別] ドロップダウンメニューから [グローバルアクション] を選択します。次に、メニュー項目に関連付ける、組織の既存のグローバルアクションを選択します。たとえば、メニュー項目に [新規ケース] グローバルアクションを関連付けた場合、顧客はナビゲーションメニューから新しいケースを容易に作成できます。

新しいコミュニティでは Koa および Kokua テンプレートを使用不可

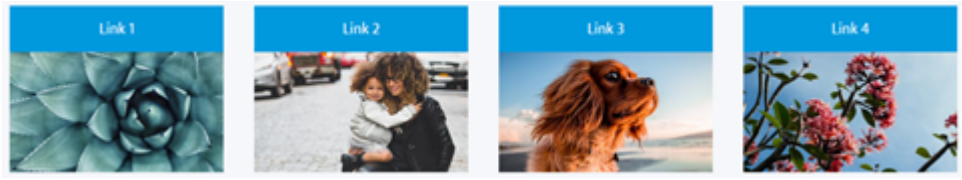
Koa および Kokua テンプレートは、引き続き段階的な廃止が行われています。コミュニティの作成でこれらのテンプレートが使用できなくなりました。Koa および Kokua を使用して作成された既存のコミュニティは引き続きサポートされます。依然として Koa または Kokua に基づいてコミュニティを作成する必要がある場合は、Salesforce サポートにお問い合わせください。ただし、Salesforce サポートと協力して、既存の Koa および Kokua コミュニティを置き換える計画を立てることをお勧めします。新しい Lightning コミュニティでは、ナレッジとケース管理のサポートが強化されています。

タイルメニューを使用したより直感的なナビゲーション環境の導入 (ベータ)

コミュニティビルダーの新しいタイルメニューコンポーネントで、カスタマー取引先のポータルに直感的で視覚的にインパクトのあるナビゲーション環境を追加できます。顧客は画像を使用して外部サイト、コミュニティページ、レコード、グローバルアクションにアクセスできます。たとえば、顧客は画像を使用してケースを登録したり、要求を送信したりできます。これは、画像とアクションを合体させたまったく新しい概念です。

今回のリリースには、ベータバージョンのタイルメニューが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。タイルメニューは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リ

リースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。



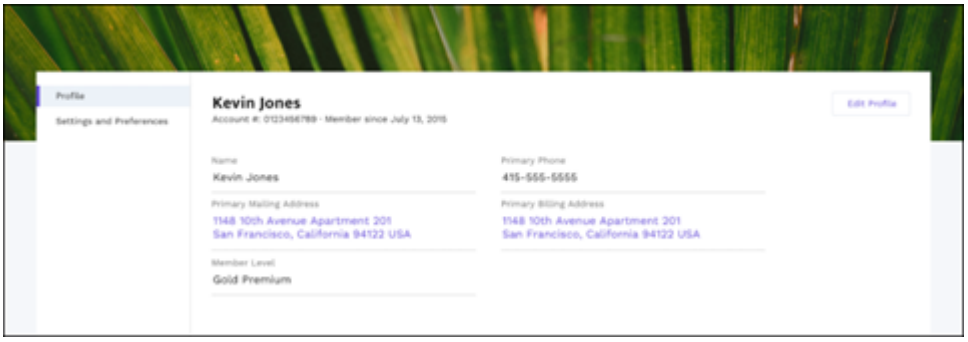
メモ: タイルメニューは、パッケージ化可能な Bolt ソリューションでは使用できません。

関連トピック:

更新された Partner Central コミュニティでより多くのことを行う

自分のプロファイルを編集するためのアクセス権をポータルメンバーに付与

合理化されたメンバープロファイルコンポーネントを使用して、コミュニティメンバーは自分の取引先情報を容易に編集できます。何よりもよい点は、メンバーの重要な情報が 1 つの場所にすべてあることです。プロファイル情報とさまざまな設定が1つの便利なコンポーネントに含まれています。これはユーザとその会社にとってどのような意味があるのでしょうか? ユーザが更新に関する簡単な問い合わせをコールセンターに行う頻度が減るでしょう。



新しいカスタマー取引先ポータルテンプレートの [ユーザプロファイル] ページでメンバープロファイルコンポーネントを使用します。

メンバープロファイルコンポーネントのヘッダーにはデフォルト画像が含まれます。コミュニティビルダーでコンポーネントのプロパティを変更し、このデフォルト画像を表示しないように選択できます。

メンバープロファイルコンポーネントに表示する項目は、[設定] > [ユーザ] > [ページレイアウト] > [ユーザプロファイルページレイアウト] で設定します。

関連トピック:

更新された Partner Central コミュニティでより多くのことを行う

Community 360 を使用した顧客のコミュニティ活動の表示 (正式リリース)

今回のリリースの Community 360 (顧客のコミュニティ活動を確認するためにコンソールに追加できる Lightning アプリケーションビルダーコンポーネント) には、驚くような事実がいくつかあります。まずお伝えしたいのは、この機能がパイロットのマントを脱いで正式リリースされた、ということです。また、顧客の全体像をエージェントが把握するのに役立つ多くの機能が追加されました。すべては素晴らしいカスタマーサービスのためです。この機能は、Salesforce Classic および Lightning Experience で使用できます。

サポート担当者は Community 360 を使用して、顧客が属しているすべてのコミュニティでの顧客の活動を集約的に確認できます。担当者は最大 15 か月間の顧客の活動を時系列で新しい順に表示できます。

顧客が組織の複数のコミュニティのメンバーになっている場合、サポート担当者はポップアップからメンバーのコミュニティプロファイルを選択できます。

サポート担当者は、記事とケースに対する活動にアクセスできます。活動には、記事とケースの参照や、コミュニティでの投稿またはコメントが含まれます。たとえば、コミュニティに属しているフィールドサービスエージェントがカスタマーサービスに電話し、会社電話にインターネットサービスがないことに不満があると伝えたとします。カスタマーサポート担当者は、このフィールドサービスエージェントがインターネットサービスに関する 3 つの記事をすでに調べたこと、ケースを登録したこと、ケースにアクセスして情報が正しく登録されていることを確認したことに気づきます。

サポート担当者は、ケースを解決するための対応策としてこれらのオプションを提案せずに、別の方法を提案します。ストレスが軽減され、すでに試された解決策の時間が節約されることで、お客様の満足が得られます。Community 360 のおかげです。

メモ: 活動情報を利用できるのは、次のいずれかのライセンスでコミュニティにアクセスするメンバーです。

- パートナーコミュニティ
- パートナーコミュニティログイン
- Gold Partner、Silver Partner、Bronze Partner
- カスタマーコミュニティ
- 大規模カスタマーポータル
- カスタマーポータルユーザ
- カスタマーコミュニティプラス
- カスタマーコミュニティプラスログイン

ピアツーピアコミュニティでグローバル検索を使用して必要なものを検索

ピアツーピアコミュニティのグローバル検索は、Community Cloud の最新の検索コンポーネントであり、カスタマーサービス (Napili) テンプレートで使用できます。検索パブリッシャーと投稿パブリッシャーのこの簡易版を使用すると、コミュニティ管理者は、コンポーネント内の検索機能を公開機能から分離できます。さらに、この新しいコンポーネントはヘッダー全体から分離して独立しているため、コミュニティの特定のニーズに合わせて容易にカスタマイズできます。

また、この新しい「ピアツーピアコミュニティのグローバル検索」は、設定するプロパティが少ない点で「検索パブリッシャーと投稿パブリッシャー」コンポーネントとは異なります。[パブリッシャーに投稿] プロパティが簡易化のために削除されました。

メモ: 検索コンポーネントが特定のテンプレートでの使用に合わせて最適化されました。各コミュニティテンプレートには、最適化された検索コンポーネントが標準で含まれます。テンプレートの付属先の検索コンポーネントを保持することをお勧めします。最良の結果が保証されるためです。コミュニティで使用する独自のカスタム検索コンポーネントをいつでも構築できます。

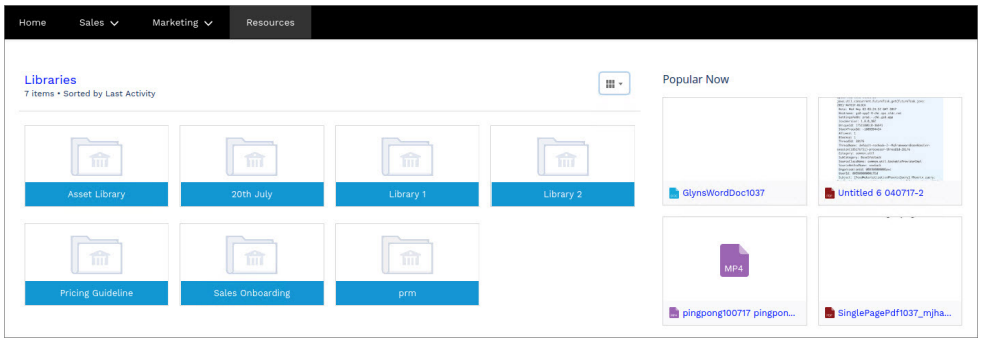
更新されたテンプレートの新しいユーザプロファイルメニュー

ユーザプロファイルメニューコンポーネントには、ユーザの名前(またはニックネーム)とプロファイル写真が表示されます。また、ユーザがプロファイルに移動したり、ケースを開いたり、ロケールおよびメール通知設定にアクセスしたり、コミュニティからログアウトしたりするためのドロップダウンも表示されます。外部ユーザも、アカウント(取引先情報)にアクセスしてアカウントを管理できます。ユーザがログインしていない場合は、ヘッダーに [ログイン] ボタンが表示されます。このコンポーネントはコミュニティビルダーのプロファイルヘッダーコンポーネントに似ていますが、これは Winter '18 バージョン以降のカスタマーサービス (Napili)、カスタマー取引先ポータル、および Partner Central で構築されたコミュニティでのみ使用できます。Winter '18 のコミュニティを更新すると、このコンポーネントが自動的に追加されます。

新しい [リソース] ページでライブラリおよびその他にアクセス

さらに充実したコンテンツの領域を確保するために、ライブラリを Partner Central コミュニティの新しい [リソース] ページへ移動しました。ライブラリの他に、コミュニティで最も人気のあるファイルへアクセスすることもできます。[リソース] ページでは公開リンクがサポートされるため、リソースをパートナーと共有できます。

コンテンツはタイルで表示されるため、コンテンツを容易に見つけることができます。最も頻繁に参照されるファイルが絞り込まれて、[現在人気がある] セクションに表示されます。



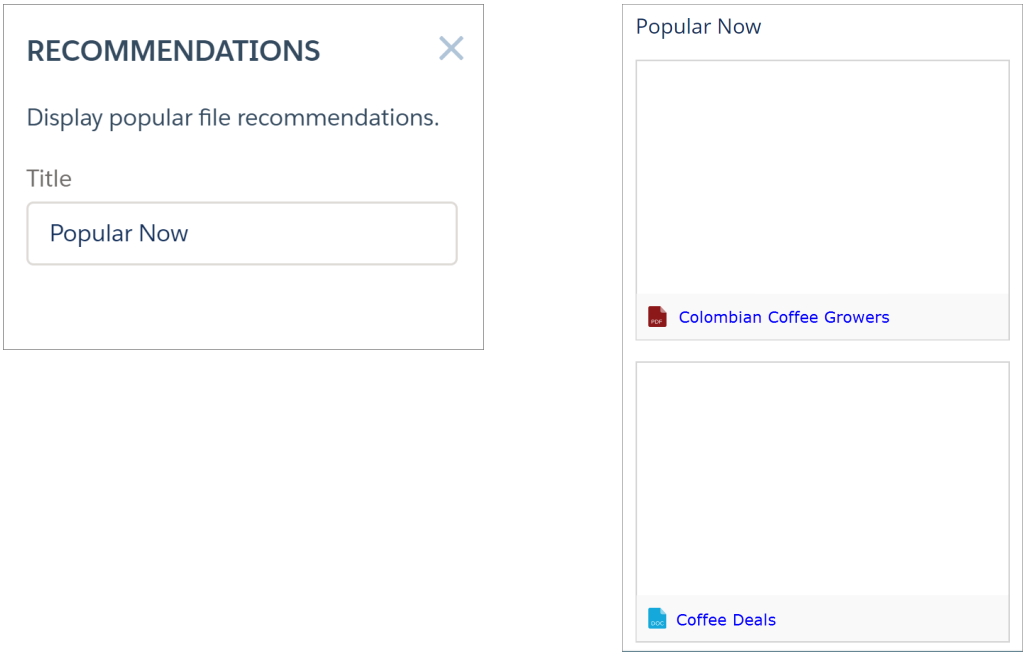
人気のあるファイルの検出

Partner Central コミュニティの新しいおすすめコンポーネントを使用して、メンバーに人気のあるファイルを表示します。人気度は、ファイルを最近参照したユーザ数、ファイルにテキストが含まれるか、およびファイルがライブラリ内にあるかによって決定されます。

メモ: おすすめコンポーネントを「おすすめのカルーセル」という名前に変更しました。おすすめのカルーセルでは引き続き、カスタマーサービス (Napili) と Partner Central コミュニティにカスタムのおすすめおよびシステム生成のトピックのおすすめを提供します。

コミュニティビルダーでは、おすすめコンポーネントはデフォルトで[リソース]ページに表示されます。プロパティエディタで、コンポーネントのタイトルをカスタマイズできます。

例: プロパティエディタとコミュニティ内のおすすめコンポーネントの例



契約、注文、見積、カスタムオブジェクトでパスを使用

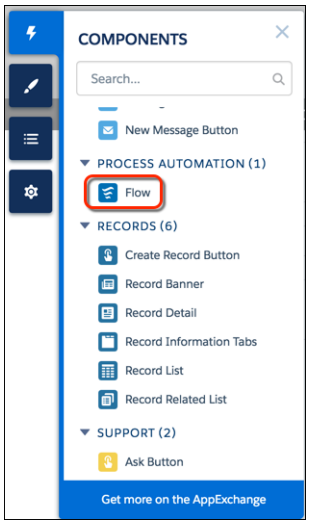
パスは、プロセスの手順に沿ってユーザを誘導するものです。たとえば、ユーザーはパスに従って新規リードの対応から商談の成立まで商談に関する作業を行うことができます。このパスコンポーネントを、リードや商談のほか、コミュニティ内の契約、注文、見積、およびカスタムオブジェクトで使用できるようになりました。

Lightning コミュニティページへのフローの埋め込み

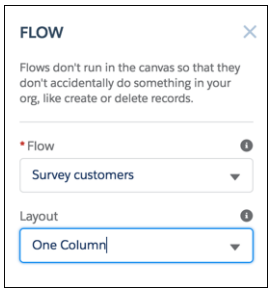
フローは、Salesforce情報を収集、更新、編集、作成するプロセスを自動化します。コミュニティビルダーのフローコンポーネントを使用して、ページにフローを追加できるようになりました。他のコンポーネントと同じようにフローコンポーネントをコミュニティページに追加します。

コミュニティでフローを使用するには、まずCloud Flow Designerでフローを定義し、その後で有効化します。フローコンポーネントをコミュニティのページに追加し、フローを参照するように設定します。

1. フローコンポーネントをコミュニティページの所定の位置にドラッグします。

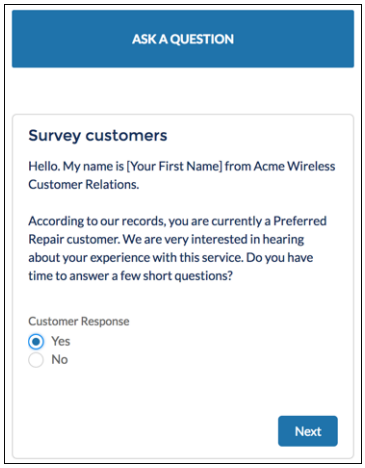


2. プロパティエディタで、使用するフローを選択します。



フローで操作対象のレコードの ID が必要になる場合があります。レコードページのフローコンポーネントを設定するときに、レコード ID を渡すテキスト変数を識別できます。

コミュニティの [Survey customers (顧客アンケート)] というフローを次に示します。



ユーザは、Lightning コミュニティから一時停止したフローを再開できないため、Lightning コミュニティで配布されるフローから [一時停止] ボタンを削除することをお勧めします。

Lightning コミュニティのフローは、Lightning のフローコンポーネントでのみサポートされます。

フローの作成者は、独自のコンテンツでエラーメッセージを上書きできます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Flow (フロー)(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ナビゲーションメニューへのグローバルアクションの追加

グローバルアクションをコミュニティのナビゲーションメニューのメニュー項目の1つとして追加します。新しいメニュー項目を追加する場合、[種別] ドロップダウンメニューから [グローバルアクション] を選択します。次に、メニュー項目に関連付ける、組織の既存のグローバルアクションを選択します。たとえば、メニュー項目に [新規ケース] グローバルアクションを関連付けた場合、顧客はナビゲーションメニューから新しいケースを容易に作成できます。

新しいコミュニティでは Koa および Kokua テンプレートを使用不可

Koa および Kokua テンプレートは、引き続き段階的な廃止が行われています。コミュニティの作成でこれらのテンプレートが使用できなくなりました。Koa および Kokua を使用して作成された既存のコミュニティは引き続きサポートされます。依然として Koa または Kokua に基づいてコミュニティを作成する必要がある場合は、Salesforce サポートにお問い合わせください。ただし、Salesforce サポートと協力して、既存の Koa および Kokua コミュニティを置き換える計画を立てることをお勧めします。新しい Lightning コミュニティでは、ナレッジとケース管理のサポートが強化されています。

Lightning コミュニティの Chatter: リッチパブリッシャーアプリケーション、質問ボタンの機能強化、ストリーム

独自のカスタムペイロードをディスカッションに追加し、改善された [質問ボタン] コンポーネントでメンバーにより多くのオプションを提供し、ストリームで大規模なフィードを作成します。

このセクションの内容:

Chatter パブリッシャーへのリッチパブリッシャーアプリケーションの埋め込み (正式リリース)

イノベーションは組織の成功に必要不可欠であり、カスタマイズはその手段です。ビジネスプロセスに固有のペイロードを使用して Chatter パブリッシャーをカスタマイズできるようになりました。投稿にフォームを追加したり、役に立つ動画を配置したり、意義深い言葉を引用したりしてインスピレーションを加えたりできます。リッチパブリッシャーアプリケーションを使用すると、可能性は無限大です。さらに、他のユーザがあなたのイノベーションを利用できるように、アプリケーションをパッケージ化して AppExchange にアップロードすることもできます。

質問ボタンの活用

コミュニティビルダーの [質問ボタン] コンポーネントには、[トピックを表示] と [詳細の表示] の 2 つのオプションがあります。これらのオプションを使用すると、[問い合わせる] ダイアログのデザインを詳細に制御でき、メンバーに最適な環境を提供できます。この変更は、Lightning コミュニティで使用できます。

ストリームを使用した独自のメガフィードの作成

会社のメンバーはストリーム内で複数のフィードを結合し、関連情報への 単一のアクセスポイントを作成できます。上位の寄稿者のフィードや、特定の製品ラインに関するディスカッションを結合します。ディスカッション、グループ、トピック、プロファイルのほか、あらゆる種類のオブジェクト (ケース、商談、取引先など) からのフィードを結合するストリームを作成します。誰かが言ったことを見つけ出すのにフィード間を移動する必要はありません。

Salesforce でのすべてのコミュニティストリームの表示 (パイロット)

クロスコミュニティストリームでは、コンテキストを何度も切り替えることなく、すべてのストリームにシームレスにアクセスできます。内部 Salesforce 組織で、内部であるかコミュニティベースであるかに関わらずすべてのストリームに簡単にアクセスできるようになりました。

固定表示投稿による重要な情報の可視性の向上 (ベータ)

投稿の固定を使用して、最も重要な情報が最も目立つようにします。Chatter グループおよびトピックのフィードでは、メンバーが重要な情報を投稿したときに、権限のあるユーザがその投稿をフィードの最上部に固定できます。承認されたユーザが固定を解除するまで、投稿はその場所に表示され続けます。投稿の固定化は、Lightning コミュニティで使用できます。

ユーザプロファイルへのデフォルトコミュニティの割り当て

複数のコミュニティと内部組織にアクセスするユーザはいますか? ケース、商談、取引先のようにネットワーク化されていないオブジェクトに関するメール通知をこのユーザが受信するとき、新しいデフォルトコミュニティ設定が機能します。デフォルトコミュニティは、このような通知をブランド化する方法と、通知リンクをデフォルトコミュニティに直結する場所を制御します。レコード通知にコンテキストを与えます。

絵文字によるコミュニティの活性化

絵文字を使用できるようになりました!フィードに活力を与えて利用者をエンゲージさせましょう。投稿、コメント、質問への詳細の追加を行うとき、または質問に答えるときに、Chatter パブリッシャーに絵文字アイコンが表示されます。絵文字は Lightning コミュニティで使用できます。

コミュニティでの最適なソリューションの強調表示

クラウドソーシングは最も強力なリソースの 1 つです。質問がございますか? 質問をコミュニティに投稿し、集まってくる情報をお待ちください。コミュニティ全体を巻き込んで回答の価値を評価できるようになりました。質問と回答の機能強化は Lightning コミュニティで使用できます。

組織およびコミュニティごとにトピックの提案を有効化

トピックの提案は、ユーザに投稿と質問にトピックを追加するように勧める場合に役立ちます。それと同時に、トピックの提案を無効にする柔軟性があることも重要です。トピックの提案を組織に対して無効にするか (Salesforce カスタマーサポートに連絡) か、コミュニティ単位で無効にするか (コミュニティ名 > [ワークスペース] > [管理] > [設定] で [コミュニティの新規投稿でトピックを提案] 設定を有効にする) を選択できるようになりました。

コミュニティでハッシュタグ付きトピックの追加

トピックを手動で追加するのではなく、ハッシュタグを使用して Lightning コミュニティにトピックを追加できるようになりました。

ランキング上位のグループを表示するカスタムレポートタイプの作成

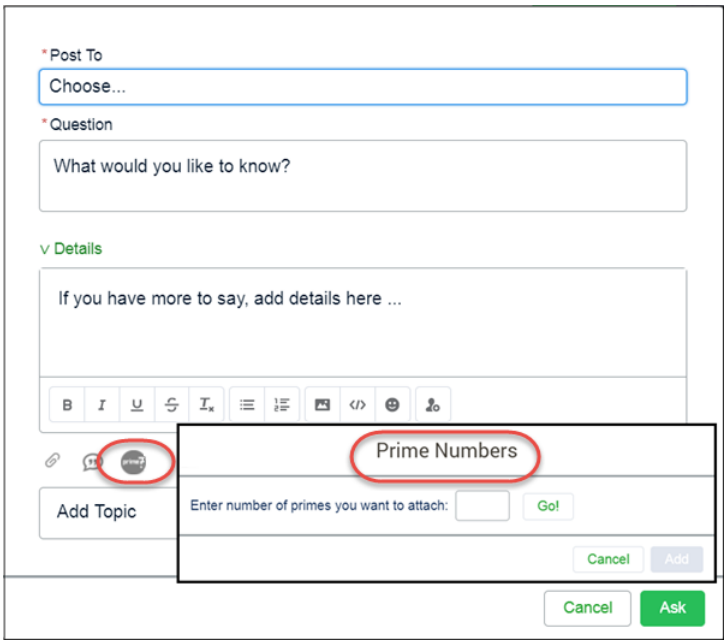
新しいカスタムレポートタイプを使用して、組織またはコミュニティで最も活動の多いグループを確認します。グループを主オブジェクトとして使用してカスタムレポートタイプを作成し、グループのランキングを適宜監視します。

コミュニティ内のトピックについてディスカッションしているユーザ数を確認

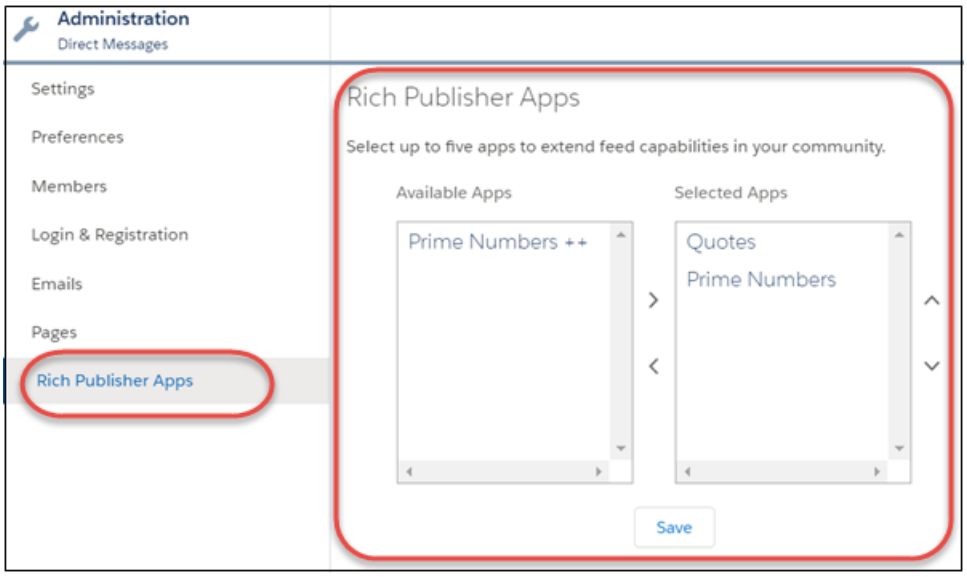
コミュニティ内の投稿にトピックを追加すると、オートコンプリートの結果にそのトピックについてディスカッションを行っているユーザ数が表示されるようになりました。[コミュニティ名]>[ワークスペース]>[管理] > [設定] の下の、[提案されたトピックについてディスカッションを行っているユーザ数を表示] 設定を有効にします。

Chatter パブリッシャーへのリッチパブリッシャーアプリケーションの埋め込み (正式リリース)

イノベーションは組織の成功に必要不可欠であり、カスタマイズはその手段です。ビジネスプロセスに固有のペイロードを使用して Chatter パブリッシャーをカスタマイズできるようになりました。投稿にフォームを追加したり、役に立つ動画を配置したり、意義深い言葉を引用したりしてインスピレーションを加えたりできます。リッチパブリッシャーアプリケーションを使用すると、可能性は無限大です。さらに、他のユーザがあなたのイノベーションを利用できるように、アプリケーションをパッケージ化して AppExchange にアップロードすることもできます。



コミュニティ管理者設定ページで、表示するアプリケーションを 5 個まで選択できます。

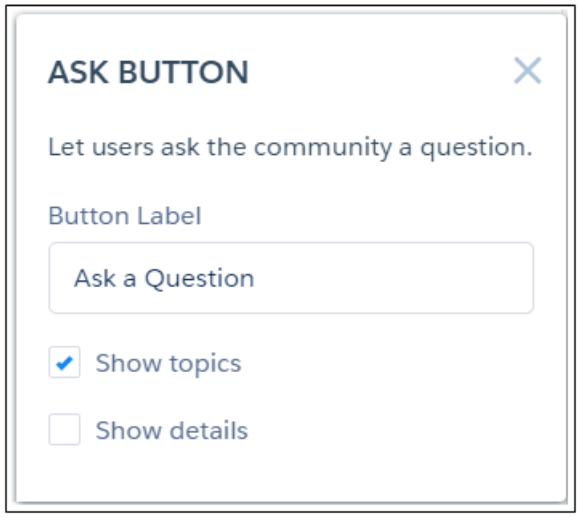


関連トピック:

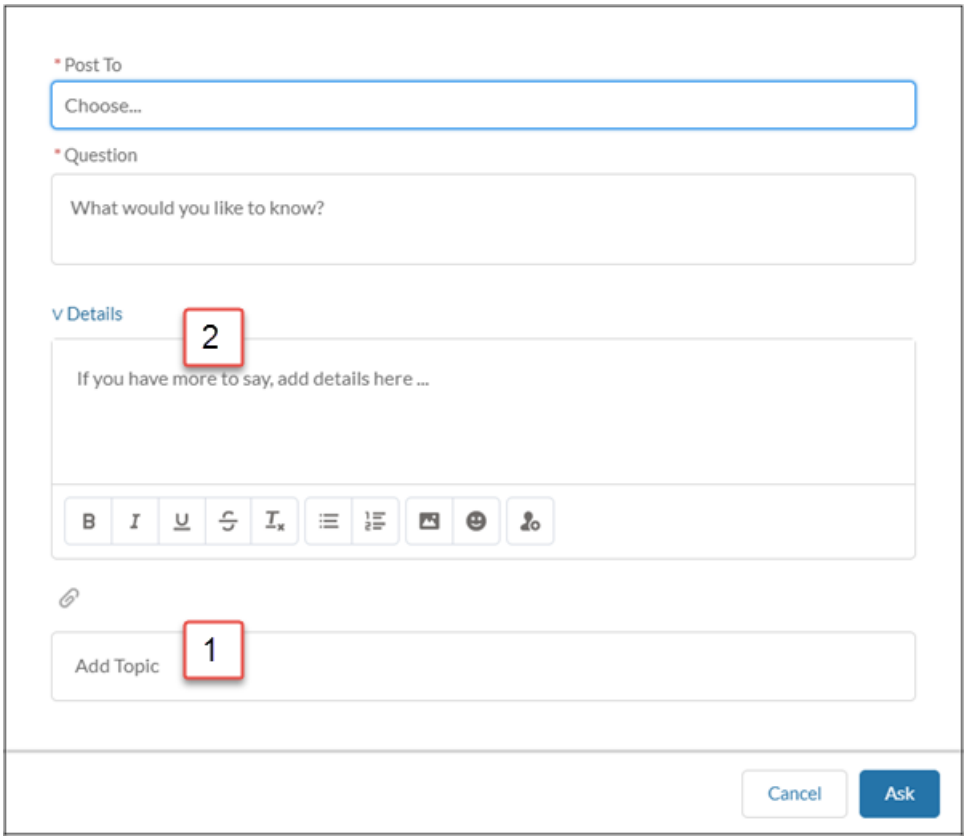
- *メタデータ API 開発者ガイド*: Integrate Your Custom Apps into the Chatter Publisher (Chatter パブリッシャーへのカスタムアプリケーションの統合)
- *Lightning コンポーネント開発者ガイド*: ChatterExtension
- *Lightning コンポーネント開発者ガイド*: lightning:availableForChatterExtensionComposer
- *メタデータ API 開発者ガイド*: lightning:availableForChatterExtensionRenderer
- *Lightning コンポーネント開発者ガイド*: lightning:sendChatterExtensionPayload

質問ボタンの活用

コミュニティビルダーの[質問ボタン]コンポーネントには、[トピックを表示]と[詳細の表示]の2つのオプションがあります。これらのオプションを使用すると、[問い合わせる]ダイアログのデザインを詳細に制御でき、メンバーに最適な環境を提供できます。この変更は、Lightning コミュニティで使用できます。



[トピックを表示] は、質問の [詳細] セクション (1) の下に [トピックを追加] 項目を表示するかどうかを制御します。

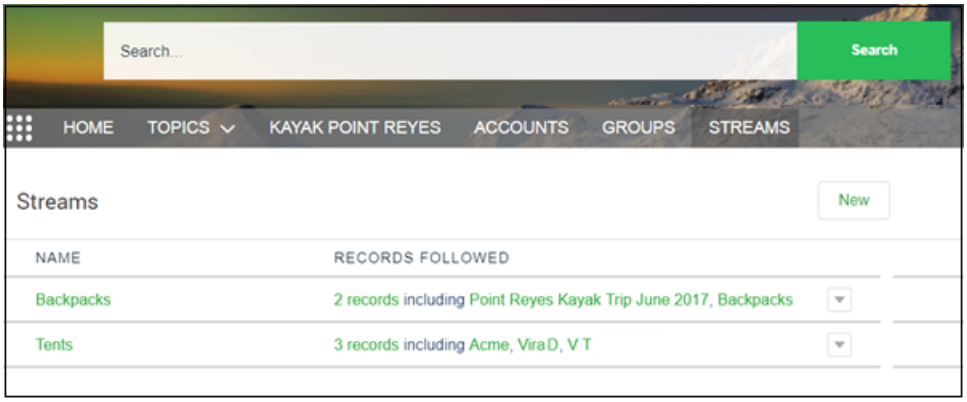


[詳細の表示] は、ダイアログを開いたときにダイアログの [詳細] セクション (2) を折りたたむか展開するかを制御します。詳細を折りたたむように選択した場合 (デフォルト)、メンバーは [詳細] の左にある矢印をクリックしてセクションを展開できます。

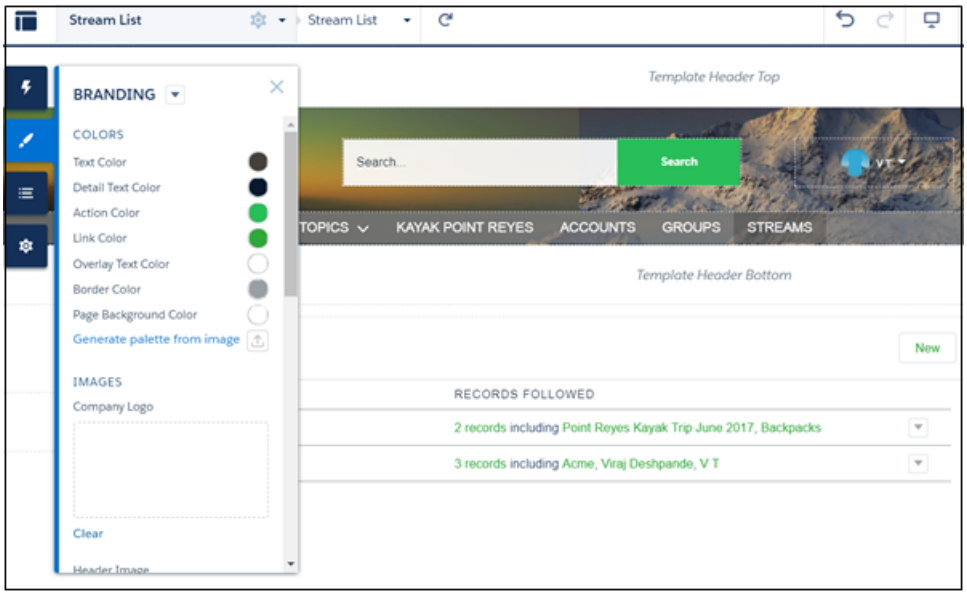
ストリームを使用した独自のメガフィードの作成

会社のメンバーはストリーム内で複数のフィードを結合し、関連情報への 単一のアクセスポイントを作成できます。上位の寄稿者のフィードや、特定の製品ラインに関するディスカッションを結合します。ディスカッション、グループ、トピック、プロファイルのほか、あらゆる種類のオブジェクト (ケース、商談、取引先など) からのフィードを結合するストリームを作成します。誰かが言ったことを見つけ出すのにフィード間を移動する必要はありません。

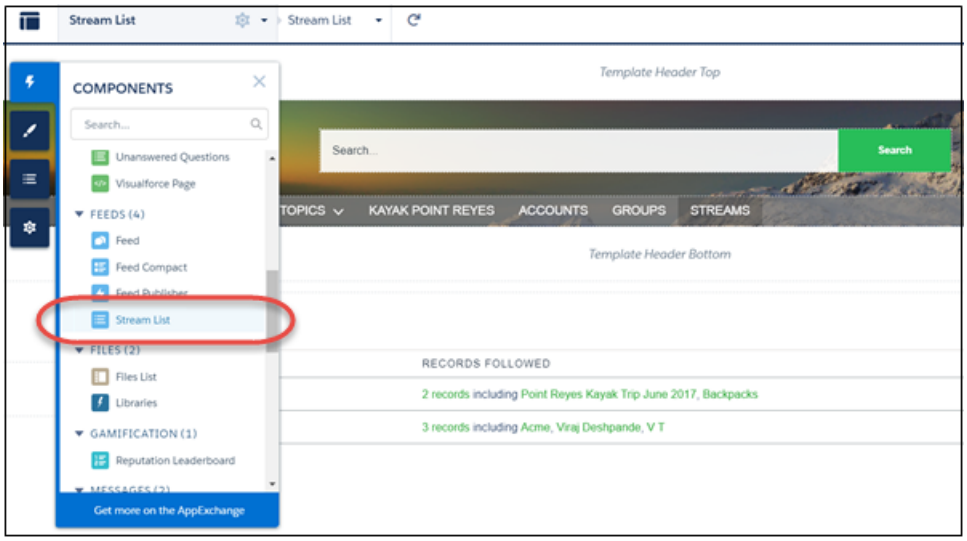
各コミュニティメンバーは最大 100 個のストリームを作成できます。



メンバーがストリームを使用できるようにするには、ストリームリストページを追加し、そのページへのリンクをナビゲーションバーに追加します。コミュニティのブランドを追加することもできます。



コミュニティビルダーのストリームリストページやストリーム詳細ページで作業しているときに、重要なコンポーネントを誤って削除してしまっても心配はいりません。コミュニティビルダーのストリームリストおよびストリーム詳細コンポーネントをバックアップとして使用できます。



関連トピック:

Salesforce でのすべてのコミュニティストリームの表示 (パイロット)

Salesforce でのすべてのコミュニティストリームの表示 (パイロット)

クロスコミュニティストリームでは、コンテキストを何度も切り替えることなく、すべてのストリームにシームレスにアクセスできます。内部Salesforce組織で、内部であるかコミュニティベースであるかに関わらずすべてのストリームに簡単にアクセスできるようになりました。

メモ: クロスコミュニティストリームは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されます。このプログラムに参加する方法については、Salesforceにお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。クロスコミュニティストリームは、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。クロスコミュニティストリームに関するフィードバックと提案は、Trailblazer コミュニティからお寄せください。

パイロットの制限事項

Salesforce でコミュニティストリームを表示中に、投稿へのコメント、投稿の編集、および投稿のいいね! といいね! の取り消しを行うことができます。ただし、現時点では実行できないアクションがいくつかあります。

- ファイルを添付する
- 投稿を共有する
- プラス/マイナス投票、または会社の検証を使用する
- @メンションからそれが表示されるコミュニティディスカッションに移動する
- フィード項目の詳細にドリルダウンする

Chatter REST API および Chatter in Apex では、クロスコミュニティストリームがサポートされます。

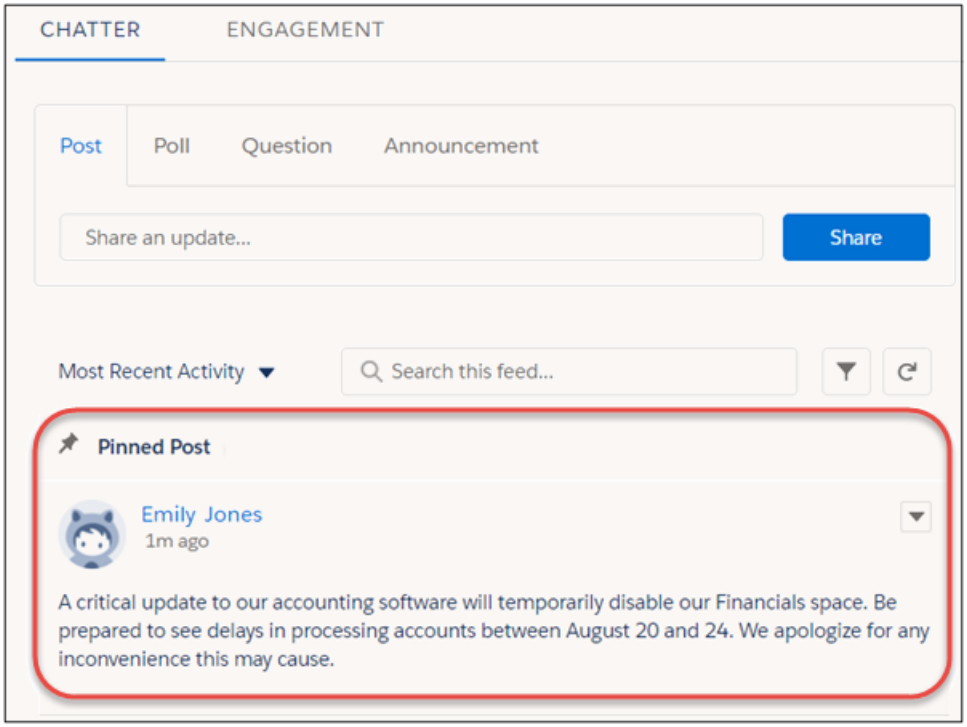
関連トピック:

ストリームを使用した独自のメガフィードの作成

固定表示投稿による重要な情報の可視性の向上 (ベータ)

投稿の固定を使用して、最も重要な情報が最も目立つようにします。Chatter グループおよびトピックのフィードでは、メンバーが重要な情報を投稿したときに、権限のあるユーザがその投稿をフィードの最上部に固定できます。承認されたユーザが固定を解除するまで、投稿はその場所に表示され続けます。投稿の固定化は、Lightning コミュニティで使用できます。

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンの固定表示投稿が含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。投稿の固定は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。固定された投稿に関するフィードバックと提案は、Trailblazer コミュニティからお寄せください。



システム管理者、コミュニティマネージャ、およびグループ所有者またはマネージャが投稿を固定できます。システム管理者は、固定権限を割り当てることもできます。組織で「フィードでの投稿の固定」を有効にして、選択したユーザに「フィードでの投稿の固定」権限を割り当てます。

固定表示投稿はお知らせと似ていますが、次の違いがあります。

- お知らせは、グループフィードのみに使用できます。投稿の固定は、グループフィードとトピックフィードに使用できます。

- お知らせは線形タイムラインに従うため、お知らせを投稿すればそのままで有効期限が切れます。固定表示投稿は柔軟性が高く、自分のフィードを取り出して過去または現在の投稿を固定できます。
- より幅広い承認されたユーザが固定できます。
- リッチテキストエディタで固定表示投稿にスタイルを追加できます。
- お知らせは、設定された日付で期限切れになります。固定表示投稿は、承認されたユーザが固定を解除するまで固定され続けます。

ベータの制限事項

ベータバージョンでは、コンパクトフィードのユーザインターフェースで、固定する投稿を選択できません。

Chatter REST API および Chatter in Apex では、固定表示投稿がサポートされます。

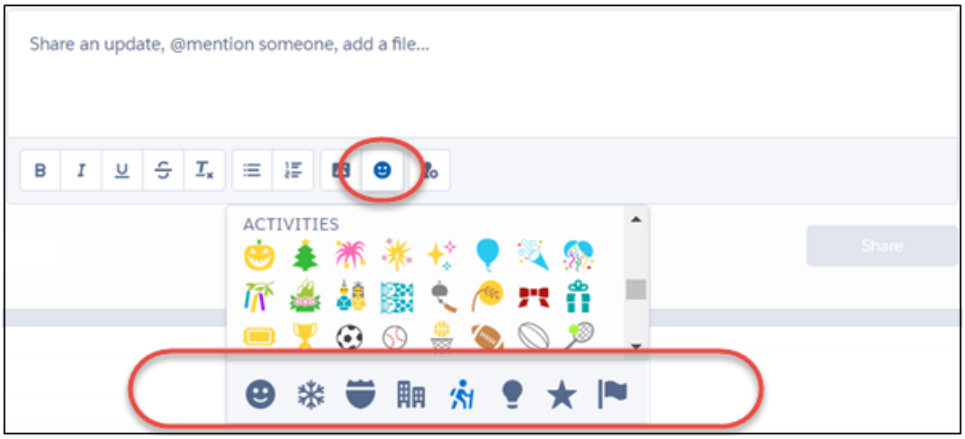
ユーザプロファイルへのデフォルトコミュニティの割り当て

複数のコミュニティと内部組織にアクセスするユーザはいますか? ケース、商談、取引先のようにネットワーク化されていないオブジェクトに関するメール通知をこのユーザが受信するとき、新しいデフォルトコミュニティ設定が機能します。デフォルトコミュニティは、このような通知をブランド化する方法と、通知リンクをデフォルトコミュニティに直結する場所を制御します。レコード通知にコンテキストを与えます。

デフォルトコミュニティ設定は、ユーザプロファイルの下にある [設定] で使用できます。

絵文字によるコミュニティの活性化

絵文字を使用できるようになりました! フィードに活力を与えて利用者をエンゲージさせましょう。投稿、コメント、質問への詳細の追加を行うとき、または質問に答えるときに、Chatterパブリッシャーに絵文字アイコンが表示されます。絵文字は Lightning コミュニティで使用できます。



カテゴリを変更するには、絵文字セレクタの下にあるアイコンをクリックします。または、セレクタにカーソルがあるときに、キーボードを使用してカテゴリ間をタブで移動して選択します。

仕事中でも、ジャック・オー・ランタンを使う機会はあります。

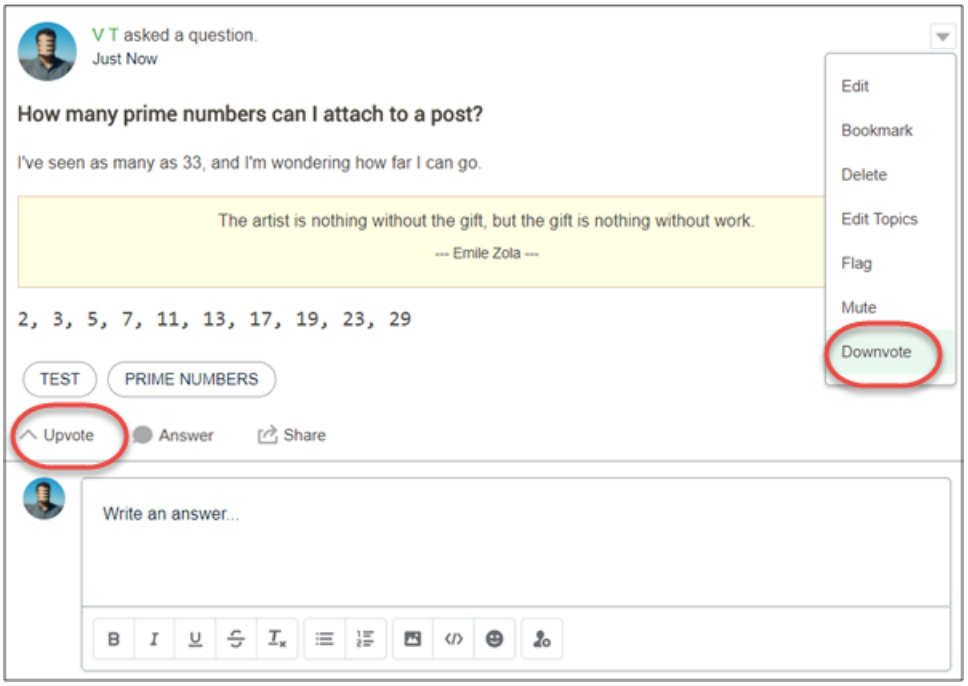
メモ: 絵文字セレクタの絵文字は、ホストオペレーティングシステムのデフォルトフォントから取得されます。一部のオペレーティングシステムは他よりも遊び心のある絵柄になっています。現在の絵文字がさえないと思う場合は、emojipedia.orgにアクセスして各OSで提供される絵文字を確認してみてください。

コミュニティでの最適なソリューションの強調表示

クラウドソーシングは最も強力なリソースの 1 つです。質問がございますか? 質問をコミュニティに投稿し、集まってくる情報をお待ちください。コミュニティ全体を巻き込んで回答の価値を評価できるようになりました。質問と回答の機能強化は Lightning コミュニティで使用できます。

回答に応答する方法は 3 つあります。

いいね! ではなくプラス投票とマイナス投票を使用して、コミュニティを巻き込んで回答の価値を評価します。コミュニティのメンバーであれば誰でも投票できます。プラス投票は質問または回答の下にありますが、[マイナス投票] は質問または回答のオーバーフローメニューに表示されます。プラス投票とマイナス投票はこのリリースの新機能です。

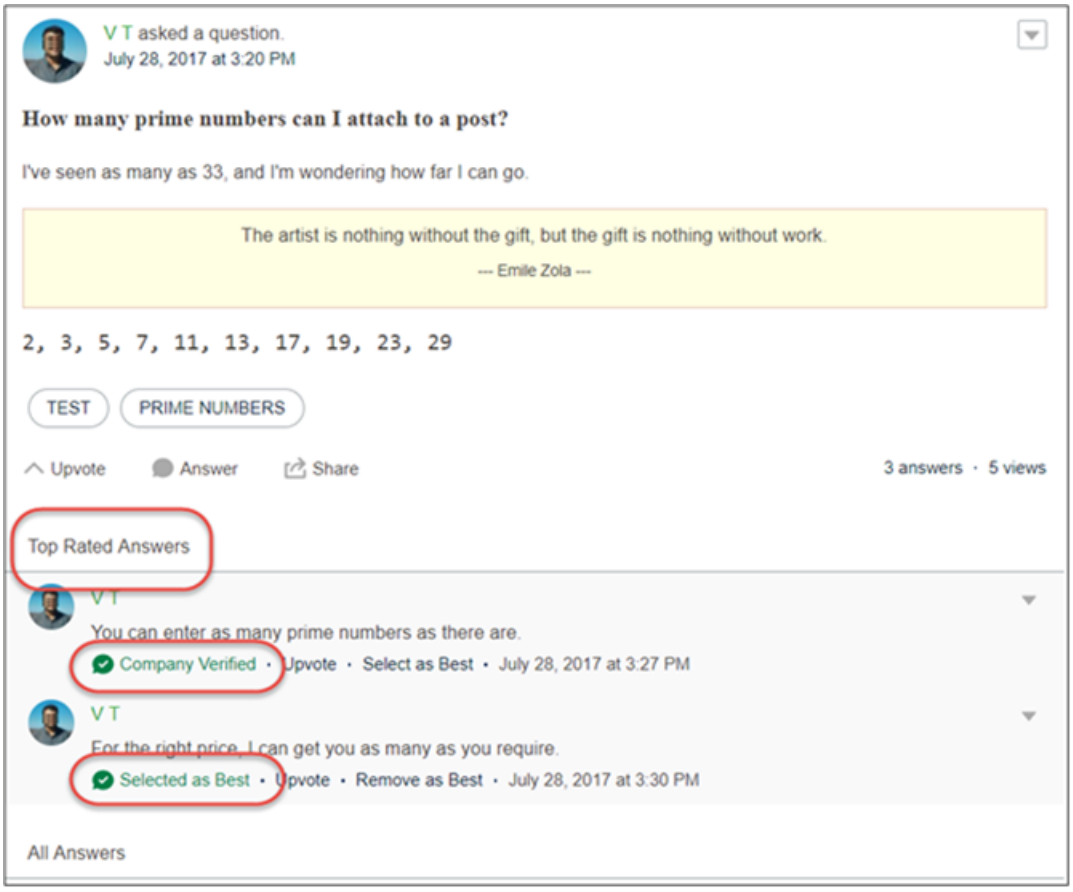


メモ: いいね! とは異なり、プラス投票とマイナス投票はユーザのランキング表のスコアにはカウントされません。

[最良の回答として選択] を選択し、回答によって必要な解決策、情報、または確認が得られたことを示します。質問の投稿者、モデレータ、または Salesforce システム管理者のみが回答を最良として選択できます。最良の回答は質問ごとに 1 つのみ選択できます。

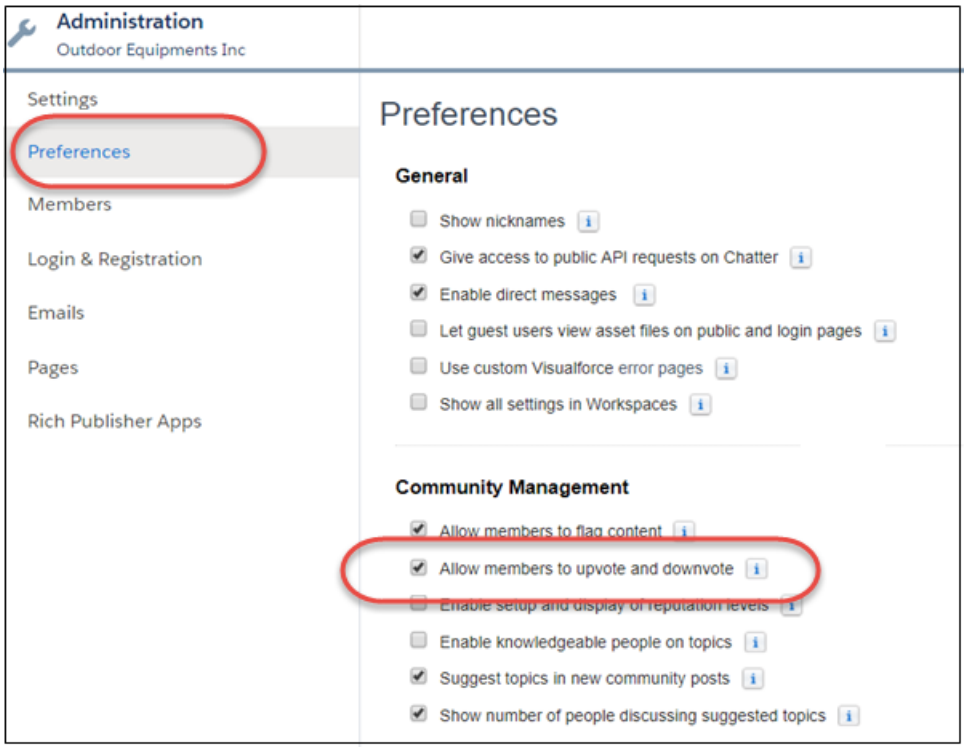
もう 1 つの新しいオプションとして [会社検証済み] があります。システム管理者は、会社が推奨する内容と最も近い回答にマークを付ける権限を、厳選したメンバーに割り当てることができます。権限のあるメンバーのみが会社の承認スタンプを回答に押すことができます。システム管理者は、この権限をデフォルトで持っています。

会社によって最良であると検証されたまたは選ばれた回答は、スレッドの最上部の [最も評価の高い回答] セクションに移動します。



いいね! からプラス投票とマイナス投票に切り替えるための新しい設定と権限、および、会社検証済みとしてメンバーが回答をマークできるようにするための新しい設定と権限を使用できます。

いいね! を置き換えるには、会社の一般的な設定の下で [メンバーにプラス投票とマイナス投票を許可] を選択します。



「**Chatter の質問への回答の確認**」権限をユーザプロファイルまたは権限セットに割り当てます。次に、プロファイルまたは権限セットを、選択したメンバーに割り当てます。

Chatter REST API および Chatter in Apex では、プラス投票およびマイナス投票と回答の確認がサポートされます。

組織およびコミュニティごとにトピックの提案を有効化

トピックの提案は、ユーザに投稿と質問にトピックを追加するように勧める場合に役立ちます。それと同時に、トピックの提案を無効にする柔軟性があることも重要です。トピックの提案を組織に対して無効にするか (Salesforce カスタマーサポートに連絡) か、コミュニティ単位で無効にするか (*コミュニティ名* > [ワークスペース] > [管理] > [設定] で [コミュニティの新規投稿でトピックを提案] 設定を有効にする) を選択できるようになりました。

コミュニティでハッシュタグ付きトピックの追加

トピックを手動で追加するのではなく、ハッシュタグを使用して Lightning コミュニティにトピックを追加できるようになりました。

ランキング上位のグループを表示するカスタムレポートタイプの作成

新しいカスタムレポートタイプを使用して、組織またはコミュニティで最も活動の多いグループを確認します。グループを主オブジェクトとして使用してカスタムレポートタイプを作成し、グループのランキングを適宜監視します。

グループのランキングは、その投稿数、コメント数、およびいいね!数に基づきます。Salesforce が週 1 回日曜日に件数を集計し、そのランキングを更新します。ランキングは毎週計算されるため、この機能は Winter '18 リリースの 1 週間後に使用できます。

コミュニティ内のトピックについてディスカッションしているユーザ数を確認

コミュニティ内の投稿にトピックを追加すると、オートコンプリートの結果にそのトピックについてディスカッションを行っているユーザ数が表示されるようになりました。[コミュニティ名] > [ワークスペース] > [管理] > [設定] の下の、[提案されたトピックについてディスカッションを行っているユーザ数を表示] 設定を有効にします。

Lightning コミュニティのファイル: 外部ファイル、タイルビューのライブラリ、ライブラリのフォルダ

Files Connect を使用した Lightning コミュニティから外部ファイルへのアクセス、タイルビューを使用したライブラリの閲覧、ライブラリ内のフォルダの作成、移動、および削除ができます。

このセクションの内容:

コミュニティでの外部ファイルの取得

外部ファイルは重要なコンテンツリソースであるため、当然、コミュニティからアクセスできることが求められます。これまでアクセスは Salesforce タブと Visualforce コミュニティのみで可能でしたが、Lightning コミュニティで Files Connect を使用して外部ファイルにアクセスできるようになりました。Quip、Google Drive、SharePoint、Box、OneDrive for Business のファイルにアクセスできます。

ライブラリとフォルダの内容をタイルビューで表示 (ベータ)

ライブラリは非常に貴重なものです。そのライブラリをもっと華やかにしましょう。ユーザはライブラリをタイルビューに切り替えて、ファイルをグリッド表示させることが可能となりました。ライブラリとフォルダの内部をドリルダウンすると、ファイルがサムネイルとして表示され、カラフルなスプレッドシートや美しい写真を容易に見つけることができます。この機能は、Lightning コミュニティで使用できます。

コミュニティのライブラリの整理

コミュニティで、ライブラリマネージャがライブラリのフォルダの作成、名前変更、削除、ライブラリのフォルダ間のファイルの移動を実行できるようになりました。複数のレベルのサブフォルダを作成できます。ライブラリへのアクセス権を持つすべてのユーザがフォルダを表示できます。

パートナーによるファイルのコンテンツ配信および公開リンクの作成を許可

パートナーは、コンテンツ配信と公開リンクを使用してコミュニティファイルを顧客、リード、および同僚と共有できます。どちらのツールも暗号化された URL を作成して Web ベースバージョンのファイルを共有します。コンテンツ配信は、追加のセキュリティおよび追跡機能を提供します。

カスタムファイルプレビューコンポーネントの作成

新しい Lightning コンポーネントであるファイルプレビューにより、ユーザはファイルを容易にプレビューし、ファイルに対してクイックアクションを実行できます。ファイルプレビューコンポーネントには、ファイルのプレビューが表示され、上部にはファイルアクションがわかりやすく表示されています。ファイルがプレビューできない場合は、プレビューにファイル種別のアイコンが表示されます。

ファイルのアップロードコンポーネントによるアップロード操作の改善

新しいファイルのアップロードコンポーネントでは、ファイルセレクタおよびファイルアップローダの機能をカスタムコンポーネントに埋め込むことができます。開発者は、[ファイルをアップロードまたはファイルをドロップ]ボタンを表示し、レコードにアップロード可能なファイルの種類を指定できます。ユーザは、アップロードボタンを使用して複数のファイルを一度に追加したり、ドラッグアンドドロップしたりできます。ユーザはファイルアップロードの進行状況を表示できます。また、すべてのファイルがアップロードされると確認メッセージが表示されます。

レコード上のファイルを非公開にしておく

ファイルをレコードに添付して、非公開のままにするか、選択したユーザやグループと共有します。これまで、レコードのすべてのファイルは、レコードへのアクセス権を持つすべてのユーザに表示されていました。今回のリリースでは、ファイルが表示されるユーザを選択できるようになりました。

Quip を使用した Salesforce 内のドキュメントの作成とコラボレーション

Quip を使用すると、Salesforce でドキュメントやスプレッドシートの作成、共有、コラボレーションを行うことができます。外部ファイルプロバイダは必要ありません。Lightning Experience では、レコード上の Quip コンポーネントを使用して、新しい Quip ドキュメントを作成したり、既存の Quip ドキュメントを操作したりします。Quip ドキュメントは、Chatter、[ファイル] ホーム、ファイル関連リストで操作できます。

コミュニティでの外部ファイルの取得

外部ファイルは重要なコンテンツリソースであるため、当然、コミュニティからアクセスできることが求められます。これまでアクセスは Salesforce タブと Visualforce コミュニティのみで可能でしたが、Lightning コミュニティで Files Connect を使用して外部ファイルにアクセスできるようになりました。Quip、Google Drive、SharePoint、Box、OneDrive for Business のファイルにアクセスできます。

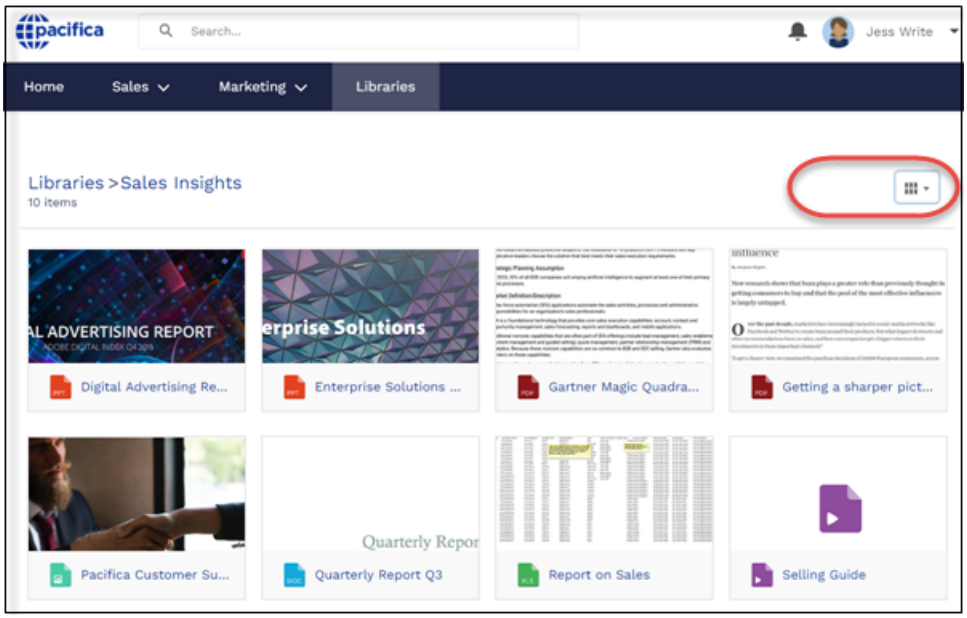
外部ファイル参照を Chatter フィードで投稿し、[ファイル] ホームで閲覧し、ファイルセレクタで選択して、検索結果で外部ファイルを表示できます。外部ファイルは、認証されたコミュニティユーザのみが使用できます。認証されていないゲストユーザは、システムが指定ユーザでユーザを認証するように設定されていても、外部ファイルの表示やアクセスはできません。

認証を要求する場合、ユーザは左で外部ソースをクリックし、接続するためのボタンをクリックし、ログイン情報を入力できます。

Quip には、自動ドメイン認証が設定されています。ユーザが **[Quip に接続]** をクリックすると、コミュニティが表示され、そこから閲覧を開始できます。

ライブラリとフォルダの内容をタイルビューで表示 (ベータ)

ライブラリは非常に貴重なものです。そのライブラリをもっと華やかにしましょう。ユーザはライブラリをタイルビューに切り替えて、ファイルをグリッド表示させることが可能となりました。ライブラリとフォルダの内部をドリルダウンすると、ファイルがサムネイルとして表示され、カラフルなスプレッドシートや美しい写真を容易に見つけることができます。この機能は、Lightning コミュニティで使用できます。



タイルビューのスイッチャはデフォルトで有効になっていますが、Salesforce に連絡してこれを無効にできます。

メモ: 任意のページでライブラリコンポーネントまたはファイルリストを選択します。同じページでこの両方を使用しないでください。

例: パートナーコミュニティのマネージャは、最新のプレゼンテーション、マーケティングカタログ、商品情報など、パートナーにとって価値のあるリソースをコミュニティに蓄えることに取り組みます。商品の販売と商談の成立に不可欠なリソースをパートナーがこれまでになく容易に見つけることができるようになりました。

関連トピック:

Analytics Einstein Discovery: より多くのデータへのアクセス、的確なストーリー

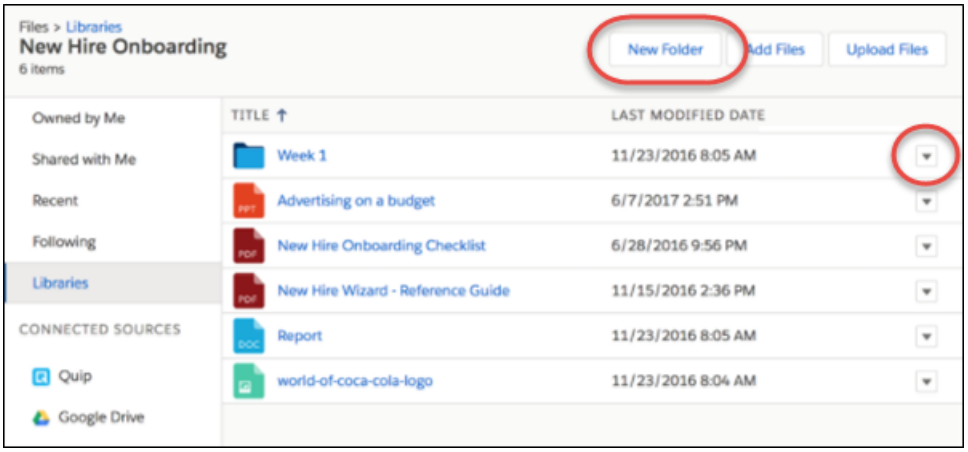
パートナーによるファイルのコンテンツ配信および公開リンクの作成を許可

Salesforce ヘルプ: コンテンツ配信の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コミュニティのライブラリの整理

コミュニティで、ライブラリマネージャがライブラリのフォルダの作成、名前変更、削除、ライブラリのフォルダ間のファイルの移動を実行できるようになりました。複数のレベルのサブフォルダを作成できます。ライブラリへのアクセス権を持つすべてのユーザがフォルダを表示できます。

ライブラリで、[新規フォルダ]をクリックしてライブラリにフォルダを追加したり、フォルダ内にサブフォルダを作成したりできます。ライブラリ内のフォルダおよびサブフォルダ間でファイルを移動するには、行レベルの[移動]アクションをクリックします。ライブラリのサイズによっては、フォルダの有効化に数分かかることがあります。



- 新規コミュニティでは、新規作成するすべてのライブラリでフォルダはデフォルトで有効になっています。既存のコミュニティのライブラリでは、フォルダはデフォルトで無効になっています。
- フォルダは、5,000 を超えるファイルがあるライブラリで有効にできます。

パートナーによるファイルのコンテンツ配信および公開リンクの作成を許可

パートナーは、コンテンツ配信と公開リンクを使用してコミュニティファイルを顧客、リード、および同僚と共有できます。どちらのツールも暗号化された URL を作成して Web ベースバージョンのファイルを共有します。コンテンツ配信は、追加のセキュリティおよび追跡機能を提供します。

パートナーユーザがコンテンツ配信と公開リンクを作成できるようにするユーザ権限は、デフォルトで無効になっています。プロファイルでこれらのユーザ権限を有効にするか、権限セットを作成するには、「コンテンツ配信」と「公開リンク」のためのシステム権限を検索します。

パートナーユーザがライブラリで管理されるファイルのコンテンツ配信または公開リンクを作成できるようにするには、まず、[設定]メニューで「コンテンツ配信と公開リンク」を検索し、[コンテンツ配信と公開リンクを有効化] を選択します。次に、ライブラリでそのユーザの [コンテンツの配信] を有効にします。ユーザが公開リンクを作成できるようにするには、公開リンクのユーザ権限を有効にします。

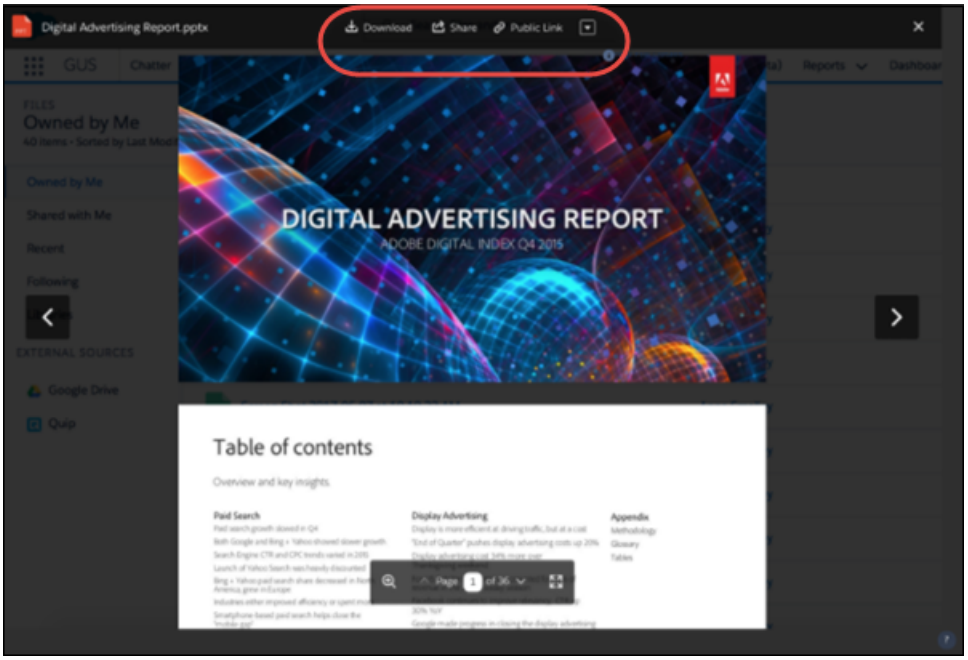
関連トピック:

Salesforce ヘルプ: コンテンツ配信の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: リンクを使用したファイルの共有 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

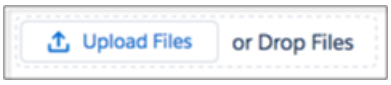
カスタムファイルプレビューコンポーネントの作成

新しい Lightning コンポーネントであるファイルプレビューにより、ユーザはファイルを容易にプレビューし、ファイルに対してクイックアクションを実行できます。ファイルプレビューコンポーネントには、ファイルのプレビューが表示され、上部にはファイルアクションがわかりやすく表示されています。ファイルがプレビューできない場合は、プレビューにファイル種別のアイコンが表示されます。



ファイルのアップロードコンポーネントによるアップロード操作の改善

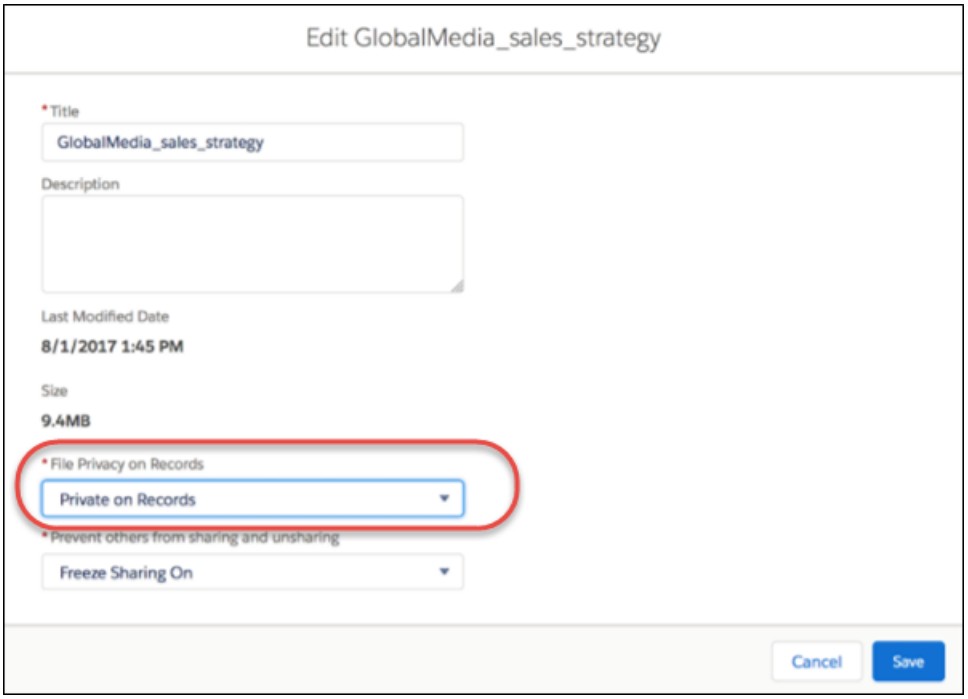
新しいファイルのアップロードコンポーネントでは、ファイルセレクタおよびファイルアップローダの機能をカスタムコンポーネントに埋め込むことができます。開発者は、[ファイルをアップロードまたはファイルをドロップ] ボタンを表示し、レコードにアップロード可能なファイルの種類を指定できます。ユーザは、アップロードボタンを使用して複数のファイルを一度に追加したり、ドラッグアンドドロップしたりできます。ユーザはファイルアップロードの進行状況を表示できます。また、すべてのファイルがアップロードされると確認メッセージが表示されます。



レコード上のファイルを非公開にしておく

ファイルをレコードに添付して、非公開のままにするか、選択したユーザやグループと共有します。これまで、レコードのすべてのファイルは、レコードへのアクセス権を持つすべてのユーザに表示されていました。今回のリリースでは、ファイルが表示されるユーザを選択できるようになりました。

[レコードのファイルプライバシー] の値を変更できるのはファイル所有者とシステム管理者のみです。



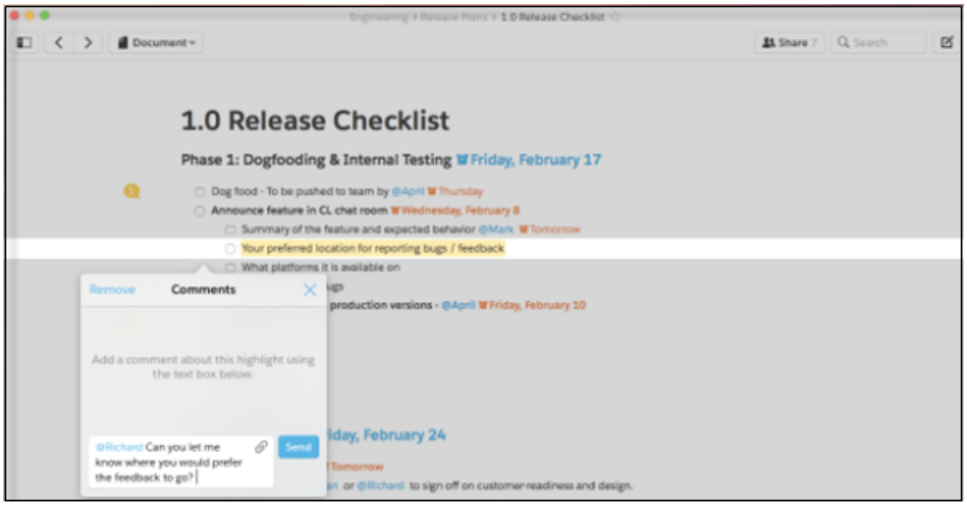
Chatter REST API では、レコード上の非公開ファイルがサポートされます。

関連トピック:

- レコード上のファイルを非公開にしておく

Quip を使用した Salesforce 内のドキュメントの作成とコラボレーション

Quip を使用すると、Salesforce でドキュメントやスプレッドシートの作成、共有、コラボレーションを行うことができます。外部ファイルプロバイダは必要ありません。Lightning Experience では、レコード上の Quip コンポーネントを使用して、新しい Quip ドキュメントを作成したり、既存の Quip ドキュメントを操作したりします。Quip ドキュメントは、Chatter、[ファイル] ホーム、ファイル関連リストで操作できます。



関連トピック:

Salesforce での Quip ドキュメントの作成とコラボレーション

パートナーリレーションの管理: チャネルプログラムおよびレベル、パートナースコアカード、市場開発資金

専門知識のレベルに応じて段階的なコミュニティ環境を提供し、パートナースコアカード(ベータ)で個々のパフォーマンスを監視し、市場開発資金でパートナーの予算を管理します。

このセクションの内容:

チャネルプログラムとレベルを使用したパートナーの管理

分散した場所にある再販業者、VAR、流通業者、MSP との複数のチャネルプログラムを実行していますか? この場合、チャネルプログラムとレベルを利用してチャネルパートナーを整理することをお勧めします。これにより、リソースと機能へのアクセスをパートナーのプログラムレベルに基づいて提供することが可能となります。各プログラム内でパートナーをさまざまなレベル (ブロンズ、シルバー、ゴールドなど) にグループ化し、パフォーマンスに基づいてパートナーを昇格させられます。

市場開発資金によるパートナーの認知度の向上

チャネルマーケティングプログラムの一環として市場開発資金を提供することで、商品の需要を喚起し、パートナーにインセンティブを提供します。マーケティング予算の作成、チャネルパートナーへのマーケティング資金や協働(未払)資金の配分、資金リクエストの合理化、市場開発資金(MDF)機能を使用した資金要求処理を行います。チャネル取引先マネージャは、資金リクエストや資金要求の承認などといった MDF 活動を全面的に監査することが可能です。

簡単な手順とガイド付き設定に従って機能を設定

コミュニティの機能の設定方法に確信が持てませんか? ガイド付き設定に従って、パートナーコミュニティを最適化する各種機能の表示、プロセス、ワークフロー、レコードタイプ、レイアウト、および割り当てルールを設定します。最初から最後までガイド付き設定に従うことで、うまく設定することが可能となります。

パートナースコアカードでパフォーマンスを監視 (ベータ)

チャネル取引先マネージャ (CAM) はパートナースコアカードを使用して個々のパフォーマンスを測定し、チャネルプログラムのベンチマークを確立できます。CAM や経営陣が必要とするレポート集計結果を表示するようにパートナースコアカードをカスタマイズできます。

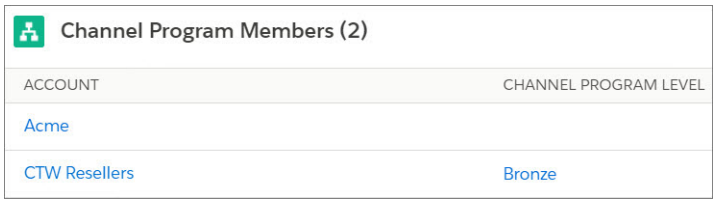
Distributed Marketing を使用したパートナーキャンペーンの作成 (パイロット)

AppExchange から Distributed Marketing をインストールし、Journey Builder を使用して Partner Central コミュニティからキャンペーンを作成します。チャネルパートナーは、Journey Builder のメールメッセージをプレビューしてパーソナライズし、リードと取引先責任者をキャンペーンジャーニーに追加できます。

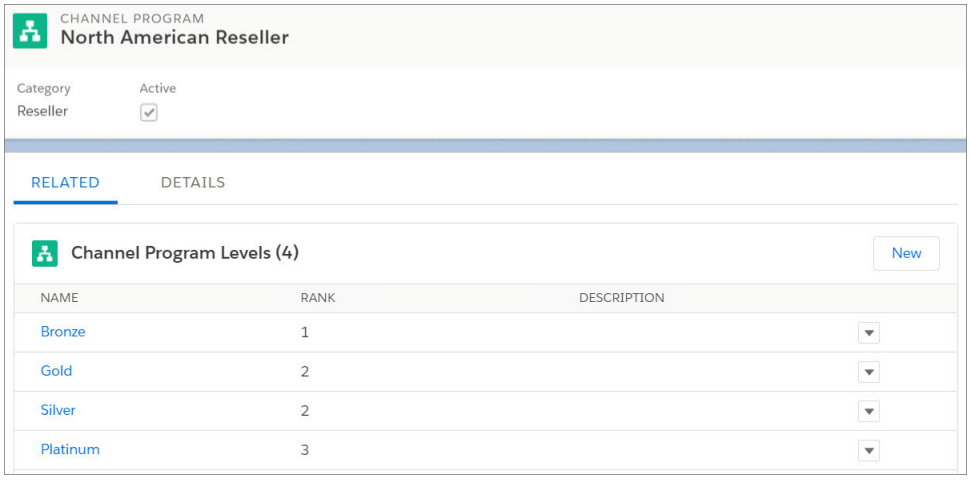
チャネルプログラムとレベルを使用したパートナーの管理

分散した場所にある再販業者、VAR、流通業者、MSP との複数のチャネルプログラムを実行していますか? この場合、チャネルプログラムとレベルを利用してチャネルパートナーを整理することをお勧めします。これにより、リソースと機能へのアクセスをパートナーのプログラムレベルに基づいて提供することが可能となります。各プログラム内でパートナーをさまざまなレベル(ブロンズ、シルバー、ゴールドなど)にグループ化し、パフォーマンスに基づいてパートナーを昇格させられます。

太平洋岸北西部に、あなたの商品の1つを販売しているチャネルパートナーがあるとします。あなたは、このチャネルパートナーが地域市場で優位に立てるようにしたり、ブランド認知の向上の機会を意識できたりするようにしたいと考えます。プログラムとレベルを使用してパートナーを管理します。まず、パートナーに対象地域内のリード、地域のマーケティングイベント、および共有リソースへのアクセスを提供するプログラムを作成します。別のパートナー取引先がチームに参加する場合は、いつでもチャネルパートナープログラムに追加できます。



これで、ユーザにプログラムを提供し、KPI を満たすためのやる気をかき立てることができます。このフェーズではいくつかのレベルが関与します。プログラム内で複数のレベルを作成し、各パートナー取引先をパフォーマンスに基づいて1つのレベルに割り当てることができます。レベルごとに異なるインセンティブを提供できます。たとえば、ゴールドレベルでは、パートナーの売り上げの増加に役立つ可能性がある市場開発資金へのアクセスを提供できます。



各レベル内の個々のパフォーマンスを、パートナースコアカードを使用して追跡できます。パートナー取引先が該当のレベルのKPIを超えた場合、そのパートナーを次のレベルに昇格させられます。これによりパートナーは新しいプログラムの機能と利点を利用できます。

各プログラムレベルはチャネルグループに関連付けられます。プログラムに参加するまたはプログラムから離れるパートナーのチャネルグループメンバーシップを自動的に管理できます。レベル内で昇格または降格を容易に管理できます。グループ、共有ルール、公開キュー、リストビュー、フォルダを使用して、プログラムとレベル内のパートナーのアクセスを管理できます。

ヒント: チャネル管理アプリケーションを作成し、チャネルプログラムタブを追加して、チャネル取引先マネージャがプログラム、レベル、メンバーシップを容易に管理できるようにします。[チャネルプログラムメンバー] 関連リストを [取引先] ページレイアウトに追加することもできます。チャネルプログラムオブジェクトは Lightning Experience のアプリケーションを介して使用できます。

関連トピック:

- 市場開発資金によるパートナーの認知度の向上
- パートナースコアカードでパフォーマンスを監視 (ベータ)

市場開発資金によるパートナーの認知度の向上

チャネルマーケティングプログラムの一環として市場開発資金を提供することで、商品の需要を喚起し、パートナーにインセンティブを提供します。マーケティング予算の作成、チャネルパートナーへのマーケティング資金や協働 (未払) 資金の配分、資金リクエストの合理化、市場開発資金 (MDF) 機能を使用した資金要求処理を行います。チャネル取引先マネージャは、資金リクエストや資金要求の承認などといった MDF 活動を全面的に監査することが可能です。

ガイド付き設定で使用できる MDF レポートを使用すると、パートナの採用、資金、使用状況、およびマーケティング ROI を容易に把握できます。MDF はパートナーコミュニティで標準で使用できます。

チャネル取引先マネージャは、ブランド認知を高めて売り上げを促進するための資金を配分することができます。

パートナーは資金をリクエストし、要求を送信できます。チャネル取引先マネージャは、承認ワークフローに従ってリクエストおよび要求を効率的に処理できます。

チャネル取引先マネージャと財務部門は、MDF レポートを使用して、採用および資金の使用状況を追跡できます。

市場開発オブジェクトは Lightning Experience のアプリケーションを介して使用することもできます。

ヒント: 市場開発資金の設定にサポートが必要ですか? [コミュニティワークスペース] > [ガイド付き設定] に移動して、[市場開発資金] から [ガイド付き設定] をクリックします。手順に従ってプロセスを進めます。

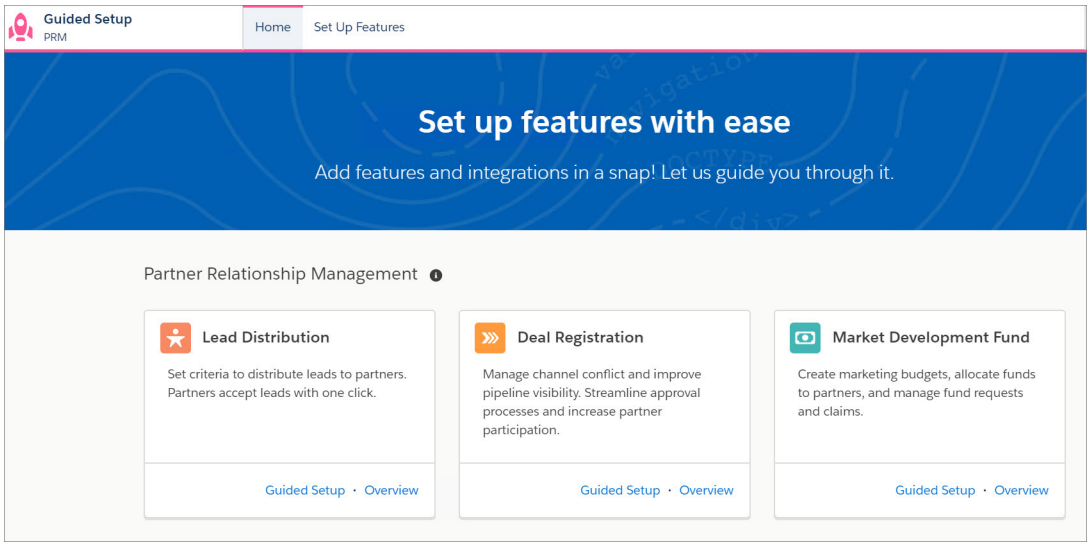
関連トピック:

- パートナーへの市場開発資金の提供
- チャネルプログラムとレベルを使用したパートナーの管理

簡単な手順とガイド付き設定に従って機能を設定

コミュニティの機能の設定方法に確信が持てませんか? ガイド付き設定に従って、パートナーコミュニティを最適化する各種機能の表示、プロセス、ワークフロー、レコードタイプ、レイアウト、および割り当てルールを設定します。最初から最後までガイド付き設定に従うことで、うまく設定することが可能となります。

パートナーライセンスがあればガイド付き設定にコミュニティワークスペースからアクセスできます。[ガイド付き設定] タイルをクリックし、設定する必要がある機能を選択して、設定を開始します。



このセクションの内容:

パートナー独自の商談をパートナーが登録
パートナーはガイド付き設定を使用して商談登録をすばやく設定できます。これにより、パートナーはボタンをクリックするだけで独自の商談を登録できます。承認プロセスは、チャネルマネージャが商談をすばやく承認してセールスパスを前に進めるのに役立ちます。

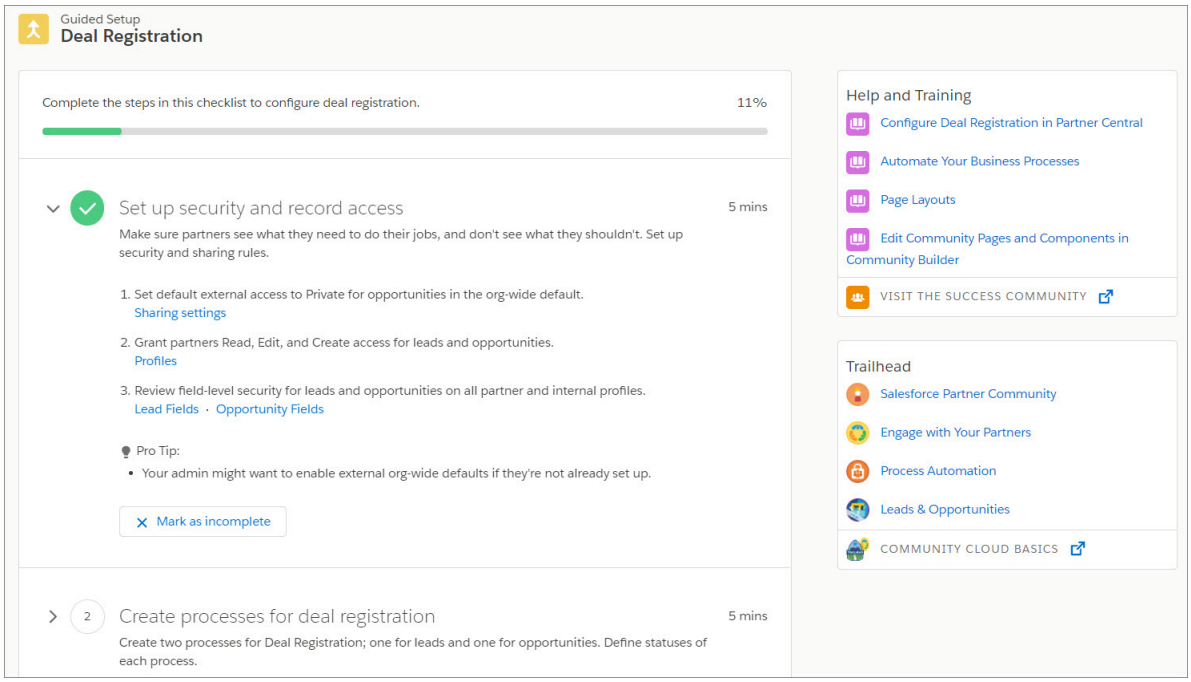
リードの簡単な配布
パートナーはチャネル取引先マネージャからリードを容易に引き受けることができます。あなたはリードの配布の設定を容易に行うことができます。ガイド付き設定に従って、表示、リードキュー、リードプロセス、リードレコードタイプ、割り当てルール、およびページレイアウトを設定します。

パートナーへの市場開発資金の提供
パートナーにインセンティブを提供する方法をお探しですか?市場開発資金は、ブランド認知の確立と商品需要の喚起を行うマーケティングキャンペーンを実行するための資金サポートをパートナーに提供します。わかりやすい手順を通して、システム管理者は権限を設定することや、チャネルマネージャの予算管理を最適することができます。また、パートナーが容易に資金をリクエストおよび要求できるようにします。

パートナー独自の商談をパートナーが登録

パートナーはガイド付き設定を使用して商談登録をすばやく設定できます。これにより、パートナーはボタンをクリックするだけで独自の商談を登録できます。承認プロセスは、チャネルマネージャが商談をすばやく承認してセールスパスを前に進めるのに役立ちます。

[コミュニティワークスペース]>[ガイド付き設定]に移動して、[商談登録]から[ガイド付き設定]をクリックして、手順に従います。

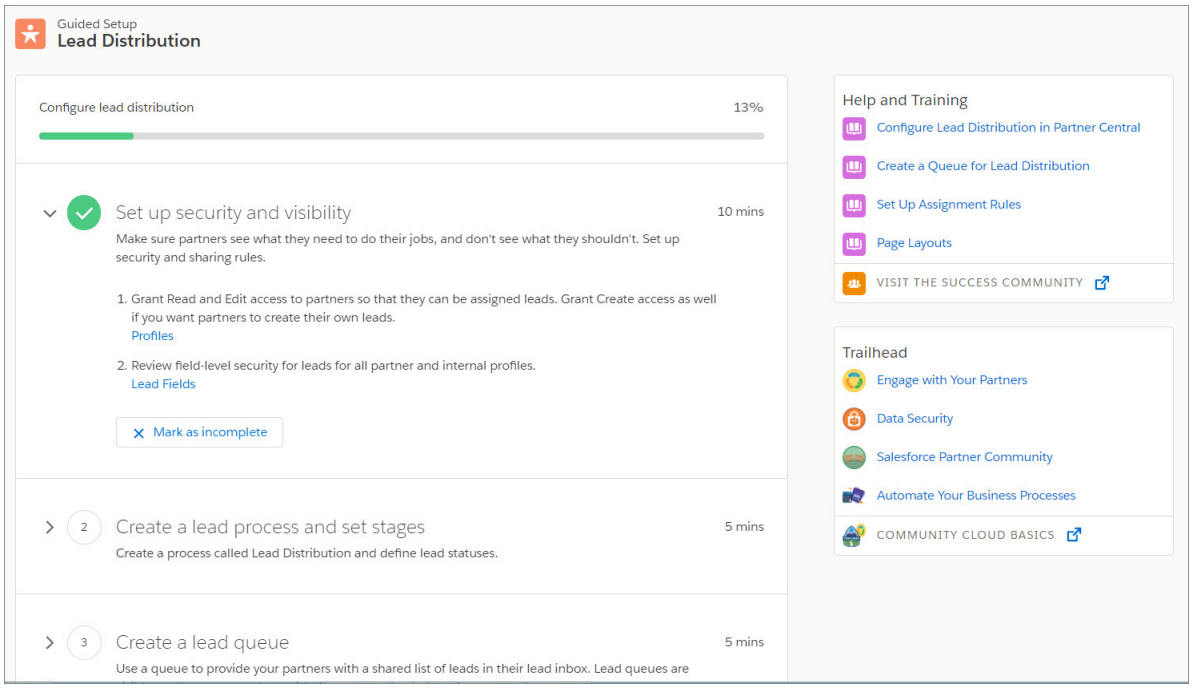


商談登録の設定が完了したら、パートナーはコミュニティで商談登録ウィジェットから独自の商談を登録できます。

リードの簡単な配布

パートナーはチャネル取引先マネージャからリードを容易に引き受けることができます。あなたはリードの配布の設定を容易に行うことができます。ガイド付き設定に従って、表示、リードキュー、リードプロセス、リードレコードタイプ、割り当てルール、およびページレイアウトを設定します。

[コミュニティワークスペース]>[ガイド付き設定]に移動して、[リードの配布]から[ガイド付き設定]をクリックして、残りの手順に従います。

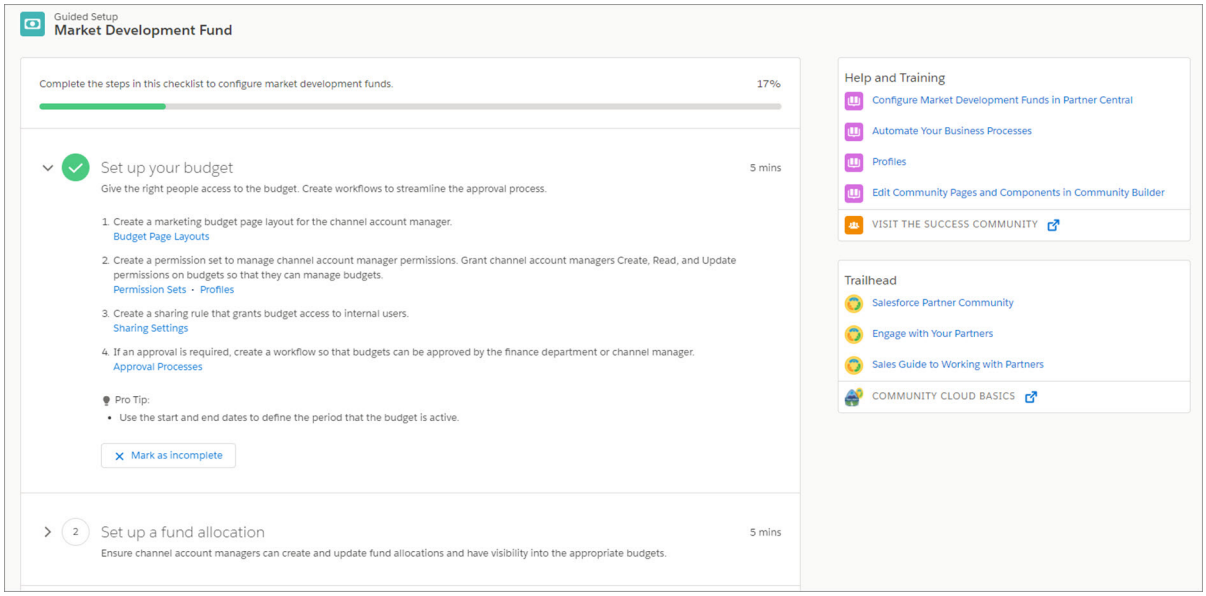


リードの配布の設定が完了したら、パートナーは、パートナーコミュニティのリード受信箱からリードを引き受けることができます。

パートナーへの市場開発資金の提供

パートナーにインセンティブを提供する方法をお探しですか? 市場開発資金は、ブランド認知の確立と商品需要の喚起を行うマーケティングキャンペーンを実行するための資金サポートをパートナーに提供します。わかりやすい手順を通して、システム管理者は権限を設定することや、チャネルマネージャの予算管理を最適することができます。また、パートナーが容易に資金をリクエストおよび要求できるようにします。

[コミュニティワークスペース] > [ガイド付き設定] に移動して、[市場開発資金] から [ガイド付き設定] をクリックして、残りの手順に従います。



市場開発資金の設定が完了したら、チャネル取引先マネージャは予算を作成し、資金を配分することができます。パートナーは資金をリクエストし、要求を送信できます。

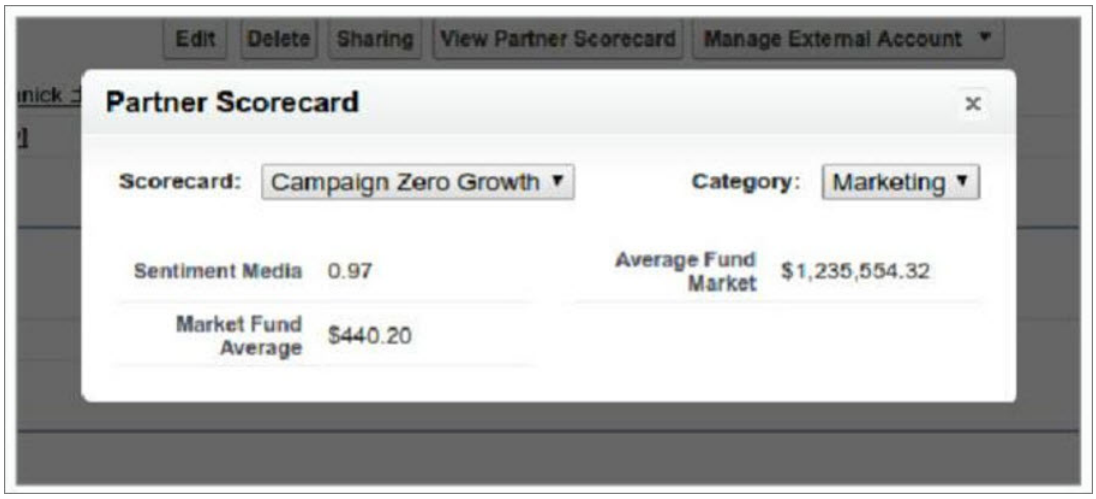
パートナースコアカードでパフォーマンスを監視 (ベータ)

チャネル取引先マネージャ (CAM) はパートナースコアカードを使用して個々のパフォーマンスを測定し、チャネルプログラムのベンチマークを確立できます。CAMや経営陣が必要とするレポート集計結果を表示するようにパートナースコアカードをカスタマイズできます。

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンのパートナースコアカードが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。パートナースコアカードは、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

各スコアカードには、システム管理者が定義した総計値が表示されます。この総計値を使用して、特定のプログラムでのパートナーのレベルに基づいてそのパフォーマンスを監視します。追跡するカテゴリを選択し、表示する総計値を追加または再配置します。スコアカードはSalesforce上に構築され、タブとして追加できます。

ヒント: カテゴリを使用して、KPIを論理バケット (営業、マーケティング、項目の有効化など) にグループ化できます。



Distributed Marketing を使用したパートナーキャンペーンの作成 (パイロット)

AppExchange から Distributed Marketing をインストールし、Journey Builder を使用して Partner Central コミュニティからキャンペーンを作成します。チャネルパートナーは、Journey Builder のメールメッセージをプレビューしてパーソナライズし、リードと取引先責任者をキャンペーンジャーニーに追加できます。

たとえば、新しい年金保険プログラムの開始を支援する複数の保険ブローカーがいるとします。すべての顧客に対する商品のメッセージを同じにする必要があります。また、メッセージの送信方法をブローカーが制御できるようにする必要もあります。Distributed Marketing では、新しいプログラムのマーケティングを担当するブローカーに事前設定済みキャンペーンを提供できます。ブローカーはメッセージをパーソナライズし、その送信先を決定できます。

メモ: Distributed Marketing は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があるため、参加は保証されません。Distributed Marketing は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

コミュニティ分析: Community Pulse およびアノテーション

最も関心のあるコミュニティ統計をワークスペース上部で確認してアクションを実行するのに加えて、ダッシュボード上で直接やりとりします。

このセクションの内容:

Community Pulse で統計を前面中央に配置
最も重要なコミュニティ統計をワークスペースに表示したいというユーザの希望にお応えして、Salesforce は Community Pulse をご用意しました。Community Pulse は、ユーザが選択した最大 6 個の総計値をワークスペースの上部に表示します。総計値をクリックすると、関連するモデレーションまたはエンゲージメントのレポートまたはダッシュボードに移動します。そこで、対応策を実行したり、詳細情報を取得したりできます。

Analytics ダッシュボードでのアノテーションを使用したコラボレーション
コミュニティに埋め込まれた Analytics ダッシュボードによって始まるオープンなコミュニケーションの環境を促進します。アノテーション機能を使用すると、パートナーと顧客は、個々のダッシュボードウィジェットの Chatter フィードで会話を行うことができます。

Community Pulse で統計を前面中央に配置

最も重要なコミュニティ統計をワークスペースに表示したいというユーザの希望にお応えして、Salesforce は Community Pulse をご用意しました。Community Pulse は、ユーザが選択した最大 6 個の総計値をワークスペースの上部に表示します。総計値をクリックすると、関連するモデレーションまたはエンゲージメントのレポートまたはダッシュボードに移動します。そこで、対応策を実行したり、詳細情報を取得したりできます。

Community Pulse を設定するには、レポートとダッシュボードを特定のコミュニティのワークスペースに対応付ける必要があります。対応付けを手動で作成できますが、その必要はありません。対応付けを取得するための最良の方法は、Winter '18 Salesforce Community Management パッケージをインストールするか、このパッケージにアップグレードすることです。これには、事前入力された総計値も含まれています。コミュニティ管理パッケージは、リリース直後に AppExchange から入手できます。

Chatter を備えたコミュニティがある場合、AppExchange パッケージと共に 4 つの Community Pulse 総計値タイルが提供されます ([メンバー]、[新規メンバー]、[未回答の質問]、および [フラグ付きディスカッション])。[新規メンバー] タイルをクリックすると、新しいメンバーエンゲージメントキューに移動し、そこで数回クリックすれば新規メンバー全員に挨拶することができます。

別の総計値が必要ですか? Community Pulse は完全にカスタマイズ可能です。どのような種類のコミュニティがあっても、あなたにとって完璧な総計値を作成できます。[総計値を編集] をクリックして、Community Pulse に表示する総計値の追加、更新、削除、並び替えを行います。

Community Pulse 総計値をクリックして、詳細なレポートを表示したり、幅広い視点のダッシュボードを表示したりします。

関連トピック:

- メンバーエンゲージメントキューですべてを実行
- *Salesforce ヘルプ*: コミュニティマネージャのダッシュボードの有効化および対応付け
- *Salesforce ヘルプ*: コミュニティマネージャのインサイトの有効化および対応付け

Analytics ダッシュボードでのアノテーションを使用したコラボレーション

コミュニティに埋め込まれた Analytics ダッシュボードによって始まるオープンなコミュニケーションの環境を促進します。アノテーション機能を使用すると、パートナーと顧客は、個々のダッシュボードウィジェットの Chatter フィードで会話を行うことができます。

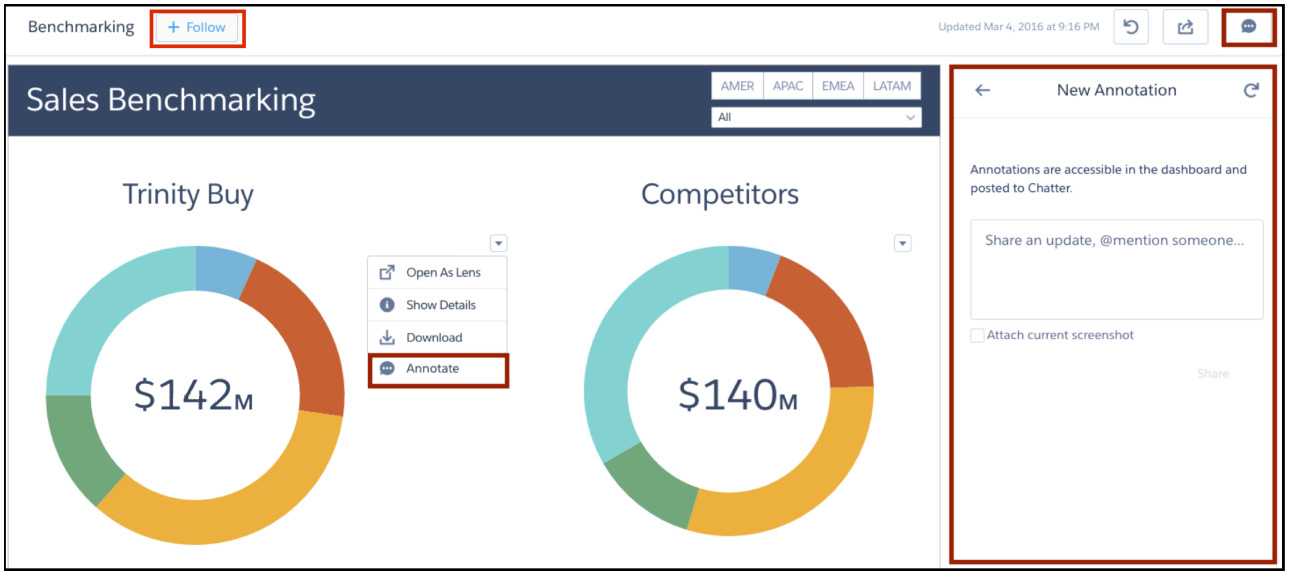
エディション

有料オプションで Analytics を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

Analytics は **Developer** Edition でも使用可能

メモ: カスタマーコミュニティプラスまたはパートナーコミュニティのライセンスを有するユーザの場合、この機能はコミュニティではサポートされますが、ポータルではサポートされません。コミュニティの Analytics がまだない場合、この機能の設定が必要です。詳細は、「コミュニティとの Analytics の共有」を参照してください。

コミュニティユーザは、ダッシュボードと Chatter に投稿されたコメントでダッシュボードウィジェットにアノテーションを付加できます。アノテーションを使用すると、目の前のダッシュボードを参照しながら、ユーザのデータやその視覚化の方法について、ユーザは会話を進めることができます。



ユーザが[フォローする]ボタンをクリックすると、ダッシュボードのすべてのコメントが表示されます。Chatter からダッシュボード画像をクリックして、Analytics のダッシュボードにあるアノテーションに直接移動し、そこで会話にアノテーションを追加できます。

関連トピック:

コミュニティのダッシュボードでのアノテーションを使用したコラボレーション

モデレーション: Journey Builder とのインテグレーション、メンバーエンゲージメントキュー、より多くのワークスペース

Community Cloud と Marketing Cloud の Journey Builder が一緒になった場合に何が起きるかを確認してください。また、新しいキューと改良されたキューによって作業が容易になることや、ワークスペースをすばやく調べる方法を確認してください。

このセクションの内容:

Community Cloud と Marketing Cloud のインテグレーションによりエンゲージメントを促進 (ベータ)
Salesforce は Marketing Cloud の Journey Builder の機能を活用しました。これにより、ユーザはメンバーに容易に連絡を取ることができ、コミュニティを強力なマーケティングチャネルに変換できます。Journey Builder では、メール、モバイル、広告、および Web にまたがるカスタマージャーニーを作成できます。クラウドインテグレーションを使用すると、コミュニティおよびマーケティングのマネージャは、メンバーをリッチなメールジャーニーに乗せて、エンゲージメントを促進し、コミュニティでの活動を推進できます。この機能を使用するには、Community Cloud ライセンスと Marketing Cloud ライセンスの両方が必要です。

メンバーエンゲージメントキューですべてを実行
コミュニティメンバーを検索してメンバーと容易にやり取りできる良い方法はないかというユーザからの要望にSalesforceは応えました。メンバーエンゲージメントキューという新しい機能を使用すると、メンバーの並び替え、投稿したユーザとその評価スコアの確認、プロファイル写真を設定済みのユーザの確認、検索条件の作成、メンバーの詳細の参照などができます。

よりきれいに整理され、強力になった待機中のディスカッションキュー
コミュニティを容易にモデレートできるように待機中のディスカッションキューを改良しました。その合理化されたデザインは Lightning 技術により生み出されたものです。ただし、私たちはそこで止まることはありません。ディスカッションに関する一括アクションと、新しい並び替え機能を追加しました。また、メンバーの詳細パネルも追加したため、ユーザはページを離れることなく必要な情報を取得できます。

ワークスペースに切り替えて、コミュニティでより多くのことを行う
コミュニティ管理コンソールに移動すると、ワークスペースへの切り替えを求めるバナーが表示されるようになりました。これについて深く考えないでください。コンソールでできることはワークスペースでもすべてできます。またワークスペースでは、それ以上のことができます。ワークスペースはすべての新しい機能が提供される場所であり、それらを使用するための唯一の場所です。興味はあるが、実際に使うべきか判断できかねていますか?ご安心ください。コミュニティ設定で、いつでも元に戻ることができます。

Community Cloud と Marketing Cloud のインテグレーションによりエンゲージメントを促進 (ベータ)

Salesforce は Marketing Cloud の Journey Builder の機能を活用しました。これにより、ユーザはメンバーに容易に連絡を取ることができ、コミュニティを強力なマーケティングチャネルに変換できます。Journey Builder では、メール、モバイル、広告、および Web にまたがるカスタマージャーニーを作成できます。クラウドインテグレーションを使用すると、コミュニティおよびマーケティングのマネージャは、メンバーをリッチなメールジャーニーに乗せて、エンゲージメントを促進し、コミュニティでの活動を推進できます。この機能を使用するには、Community Cloud ライセンスと Marketing Cloud ライセンスの両方が必要です。

メモ: 今回のリリースには、Community Cloud と Marketing Cloud の Journey Builder インテグレーション (ベータバージョン) が含まれています。機能は高品質ですが、既知の制限があります。この Journey Builder インテグレーションは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。Journey Builder インテグレーションに関するフィードバックや提案は、IdeaExchange または Trailblazer コミュニティに投稿してください。

たとえば、あなたは新しいメンバーをコミュニティにより深く関与させたいと考えたとします。Journey Builder を使用して、メンバーがコミュニティに参加したときにトリガするオンボーディングジャーニーを作成します。このジャーニーでは、オンボーディングを通じて、新規メンバーがプロファイル写真のアップロードなど、いくつかの手順を講じてコミュニティにより深く関与できるよう、導き促します。あなたは、コミュニティからトレンドコンテンツを送信し、新規メンバーに常に関与させることができます。

多くのメンバー、たとえば 1,000 人を超えるメンバーを追加する予定ですか? Journey Builder の作業を深夜に実行することをお勧めします。ジャーニーをトリガすると、コミュニティへのメンバーの追加が遅くなるためです。

カスタマイズしたメールジャーニーをイベントでトリガしたり、特定の利用者を選択したりできます。たとえば、まだ MVP ではないコミュニティメンバーを特定します。このメンバーを MVP になるためのジャーニーに乗せて、必要なトレーニングを提供します。または、サポートプロセスに通じるケースを開いた顧客のジャーニーを開始します。ジャーニーが特に優れている理由の 1 つは、それがスマートであることです。ジャーニーは、ユーザの状況を確認し、適切なメールを適切な間隔で送信できます。

使用を開始するには、2 つのクラウドが連携できるように Marketing Cloud Connect を設定していることを確認します。その後はすべて Journey Builder の作業です。メールとジャーニーを作成し、それらをトリガするイベントまたは条件を指定します。具体的な開始方法については、「関連トピック」リンクを参照してください。

ベータ版に関する考慮事項

コミュニティと Marketing Cloud がある場合、インテグレーションは、連携するように設計されています。ただし、この場合は Salesforce に連絡して公式のベータ版の使用者になることをお勧めします。利点を次に示します。

- ユーザは追加のメール設定機能を提供する組織権限を有効にできます。
- ユーザにはアドバイスとガイダンスが提供されます。
- Salesforce はフィードバックと提案を得ることができます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Connect the Clouds (クラウドへの接続)

Salesforce ヘルプ: Journey Builder (ジャーニービルダー)

Salesforce ヘルプ: Get Started With Journey Builder (ジャーニービルダーの使用開始)

メンバーエンゲージメントキューですべてを実行

コミュニティメンバーを検索してメンバーと容易にやり取りできる良い方法はないかというユーザからの要望にSalesforceは応えました。メンバーエンゲージメントキューという新しい機能を使用すると、メンバーの並び替え、投稿したユーザとその評価スコアの確認、プロファイル写真を設定済みのユーザの確認、検索条件の作成、メンバーの詳細の参照などができます。

週に1度、新規メンバーのプロファイルに親しみを込めた投稿をして、新規メンバーを歓迎したいと思ったことはありませんか?この機能ではそれが簡単にできます。検索を絞り込み、特定のユーザリストを作成したら、メンバーのプロファイルに直接投稿するか、ダイレクトメッセージを送信します(ダイレクトメッセージは、Lightning Experience コミュニティでのみ使用できます)。メンバーの名前をクリックすると、メンバーの詳細パネルが表示されます。そこで、投稿を作成します。1回のクリックで、あなたが書いたことがメンバーのページに投稿されます。

コミュニティが非常に大きいためにこのメンバーエンゲージメントキューを使用してもメンバーに連絡することが難しい場合は、Community Cloud と Marketing Cloud のインテグレーションおよび Journey Builder を確認してください。

メンバーエンゲージメントキューを利用するには、Winter '18 Salesforce Community Management Package が必要です。Winter '18 パッケージは、リリース直後に AppExchange パッケージから入手できます。

よりきれいに整理され、強力になった待機中のディスカッションキュー

コミュニティを容易にモデレートできるように待機中のディスカッションキューを改良しました。その合理化されたデザインはLightning技術により生み出されたものです。ただし、私たちはそこで止まることはありません。ディスカッションに関する一括アクションと、新しい並び替え機能を追加しました。また、メンバーの詳細パネルも追加したため、ユーザはページを離れることなく必要な情報を取得できます。

ワークスペースに切り替えて、コミュニティでより多くのことを行う

コミュニティ管理コンソールに移動すると、ワークスペースへの切り替えを求めるバナーが表示されるようになりました。これについて深く考えないでください。コンソールでできることはワークスペースでもすべてできます。またワークスペースでは、それ以上のことができます。ワークスペースはすべての新しい機能が提供される場所であり、それらを使用するための唯一の場所です。興味はあるが、実際に使うべきか判断できかねていますか? ご安心ください。コミュニティ設定で、いつでも元に戻ることができます。

メモ: いずれにしても Spring '18 では、一部のユーザはワークスペースに移行しますが、それまで待たずにぜひ今すぐお試しください。

コミュニティのその他の変更

コミュニティのユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更について説明します。

このセクションの内容:

拡張された変更セットサポートでさらに容易になったコミュニティの移行
コミュニティの変更セットサポートが改善され、リリース接続がある組織間でコミュニティを移行した後の設定が少なくなりました。

Lightning Experience で外部コミュニティユーザを管理

外部コミュニティメンバーを管理するのに Lightning Experience と Salesforce Classic を切り替える必要はありません。Lightning Experience 内から、パートナー取引先、カスタマー取引先、ユーザを作成および無効化でき、またコミュニティユーザとしてログインできます。

より多くのオブジェクトをコミュニティで使用

コミュニティおよびポータルで契約、注文、価格表、および見積を使用できるようになりました、

Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition でコミュニティを作成 - コミュニティライセンスは不要

コミュニティライセンスを購入しなくても、カスタマーサービス (Napili)、カスタマー取引先ポータル、Salesforce タブ + Visualforce、または Aloha テンプレートを使用して、Enterprise 組織、Performance 組織、および Unlimited 組織で最大 100 個のコミュニティを作成できるようになりました。Partner Central を使用してコミュニティを作成するには、パートナーコミュニティライセンスを購入する必要があります。コミュニティの作成を開始するには、まず組織でコミュニティを有効にします。新しく作成したコミュニティでは、ライセンスを持たないゲストユーザのアクセスは制限されます。ビジネスニーズに合わせて Community Cloud ライセンスを購入して、メンバーのログインや Salesforce オブジェクトへのアクセスを可能にしたり、使用するページビューを増やしたりできます。

ケース、ダッシュボード、グループ、レポートの詳細ページの SEO 対応 URL

前回のリリースでは、多くのオブジェクト詳細ページに対して SEO 対応 URL のリダイレクトが導入されましたが、ケース、ダッシュボード、グループ、およびレポートについては対象外でした。これらのオブジェクトにもこの機能を適用します。

記事の URL にレコード ID を含めない

コミュニティの SEO ランキングの向上のため、記事の URL にレコード ID が含まれなくなりました。記事が再公開されるたびにそのレコード ID も更新されます。以前は、既存の記事が更新されると、既存の記事の新しい URL が、レコード ID を組み込む形で作成されていました。記事が更新されるたびに、検索エンジンはそのページを新しいページであると認識するため、SEO ランキングが下がっていました。

ユーザに基づいたコミュニティのログイン環境のカスタマイズ

ユーザがコミュニティにログインするときのユーザの環境を詳細に制御できるようになりました。ユーザが従業員か顧客かに応じてログインページのロゴを変えたくありませんか? または、ユーザの国コードに基づいて特定のセルフ登録ページを表示するのはどうですか? どのユーザがどこからログインしたかに応じて、ブランド設定が動的に変わります。

トピック別上位の記事コンポーネントのタイトルの表示または非表示

タイトルを表示または非表示にするには、コンポーネントのプロパティエディタで [タイトルを表示] を選択します。以前は、タイトルは列の幅が 300 ピクセルより大きい場合にのみ表示されました。

外部のコミュニティモデレータがグループ情報を参照可能

組織の外部の人にコミュニティをモデレートしてもらうことは、リソースを解放するための素晴らしい方法ですが、モデレータが重要なコミュニティレポートを参照できない場合はあまり有益とは言えません。この問題が解消されました。今後は、モデレータ権限のある外部ユーザは、所属するグループとコミュニティに関するレポートと情報を参照できます。

表示しているページでレポートを開く
以前は、レポートをクリックすると新しいタブが開き、作業している場所から離れた所に移動していました。それが変わります。今後は同じページでレポートが開き、ダッシュボードに戻るためのリンクが表示されるため、タブ数が、管理可能な最小数に維持されます。

拡張された変更セットサポートでさらに容易になったコミュニティの移行

コミュニティの変更セットサポートが改善され、リリース接続がある組織間でコミュニティを移行した後の設定が少なくなりました。

変更セットでは、追加で次のコミュニティワークスペース(またはコミュニティ管理)設定がサポートされるようになりました。

- 以下を除く [管理] ワークスペースのすべての設定:
  - [ログイン & 登録] 領域の [登録] セクションの [取引先] 項目
  - [設定] 領域
  - リッチパブリッシャーアプリケーション領域
- [モデレーション] ワークスペースのすべての設定
- [コンテンツターゲティング] ワークスペースのすべての [おすすめ] および [利用者] 設定ただし、おすすめの画像は除外されます。

ヒント: まだコミュニティワークスペースではなく、コミュニティ管理を使用している場合は、切り替えて複数の新機能を利用してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Considerations for Migrating Communities with Change Sets (変更セットを使用したコミュニティの移行に関する考慮事項) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Experience で外部コミュニティユーザを管理

外部コミュニティメンバーを管理するのに Lightning Experience と Salesforce Classic を切り替える必要はありません。Lightning Experience内から、パートナー取引先、カスタマー取引先、ユーザを作成および無効化でき、またコミュニティユーザとしてログインできます。

朗報です。Salesforce Classic の個人取引先に対して実行できるアクションはすべて Lightning Experience で使用できます。

それだけではありません。Salesforce Classic で使用できるログインアクションもすべて Lightning Experience で実行できます。

より多くのオブジェクトをコミュニティで使用

コミュニティおよびポータルで契約、注文、価格表、および見積を使用できるようになりました、

Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition でコミュニティを作成 - コミュニティライセンスは不要

コミュニティライセンスを購入しなくても、カスタマーサービス (Napili)、カスタマー取引先ポータル、Salesforce タブ + Visualforce、または Aloha テンプレートを使用して、Enterprise 組織、Performance 組織、および Unlimited 組織で最大 100 個のコミュニティを作成できるようになりました。Partner Central を使用してコミュニティを作成するには、パートナーコミュニティライセンスを購入する必要があります。コミュニティの作成を開始するには、まず組織でコミュニティを有効にします。新しく作成したコミュニティでは、ライセンスを持たないゲストユーザのアクセスは制限されます。ビジネスニーズに合わせて Community Cloud ライセンスを購入して、メンバーのログインや Salesforce オブジェクトへのアクセスを可能にしたり、使用するページビューを増やしたりできます。

ケース、ダッシュボード、グループ、レポートの詳細ページの SEO 対応 URL

前回のリリースでは、多くのオブジェクト詳細ページに対して SEO 対応 URL のリダイレクトが導入されましたが、ケース、ダッシュボード、グループ、およびレポートについては対象外でした。これらのオブジェクトにもこの機能を適用します。

オブジェクトの詳細ページの URL をユーザが読み取れるようにするため、オブジェクトの [名前] 項目の値を URL に追加します。たとえば、AW Computing の [グループの詳細] ページの場合、`https://mycommunity.com/s/group/001R0000002NzuaIAC` が `https://mycommunity.com/s/group/001R0000002NzuaIAC/aw-computing` にリダイレクトされます。

オブジェクトの [名前] 項目を使用できない場合、[件名] または [役職] 項目の値を使用します。いずれも該当しない場合、URL に「detail」が追加されます。

メモ: SEO 対応 URL は、ストリームおよびユーザプロファイルの詳細ページではサポートされません。これらは対象外です。

記事の URL にレコード ID を含めない

コミュニティの SEO ランキングの向上のため、記事の URL にレコード ID が含まれなくなりました。記事が再公開されるたびにそのレコード ID も更新されます。以前は、既存の記事が更新されると、既存の記事の新しい URL が、レコード ID を組み込む形で作成されていました。記事が更新されるたびに、検索エンジンはそのページを新しいページであると認識するため、SEO ランキングが下がっていました。

これまで、記事の URL は `/article/:recordId/:urlName` にリダイレクトされていましたが、これからは `/article/:urlName` の形式を使用するようになります。

たとえば、`https://mycommunity.com/s/article/kavB0000007qtP7KAI/some_article` は `https://mycommunity.com/s/article/some_article` にリダイレクトされます。

ユーザに基づいたコミュニティのログイン環境のカスタマイズ

ユーザがコミュニティにログインするときのユーザの環境を詳細に制御できるようになりました。ユーザが従業員か顧客かに応じてログインページのロゴを変えたくありませんか? または、ユーザの国コードに基づいて特定のセルフ登録ページを表示するのはどうですか? どのユーザがどこからログインしたかに応じて、ブランド設定が動的に変わります。

デフォルトおよびカスタムの Visualforce ログインページでは動的ロゴが、ログインページの右側では動的 URL がサポートされます。Lightning ログインページでは、動的ロゴがサポートされます。ユーザがコミュニティにログインすると、ワークスペースまたはコミュニティ管理の [管理] > [ブランド] で指定されたブランドが優先されます。

関連トピック:

動的ブランド設定によるユーザのログイン環境の変更

トピック別上位の記事コンポーネントのタイトルの表示または非表示

タイトルを表示または非表示にするには、コンポーネントのプロパティエディタで[タイトルを表示]を選択します。以前は、タイトルは列の幅が 300 ピクセルより大きい場合にのみ表示されました。

外部のコミュニティモデレータがグループ情報を参照可能

組織の外部の人にコミュニティをモデレートしてもらうことは、リソースを解放するための素晴らしい方法ですが、モデレータが重要なコミュニティレポートを参照できない場合はあまり有益とは言えません。この問題が解消されました。今後は、モデレータ権限のある外部ユーザは、所属するグループとコミュニティに関するレポートと情報を参照できます。

表示しているページでレポートを開く

以前は、レポートをクリックすると新しいタブが開き、作業している場所から離れた所に移動していました。それが変わります。今後は同じページでレポートが開き、ダッシュボードに戻るためのリンクが表示されるため、タブ数が、管理可能な最小数に維持されます。

Chatter: Chatter の暗号化、固定された投稿、上位グループ、Trailhead テーマ

Chatter の暗号化が正式リリースされ、項目が追加されました。投稿をグループまたはトピックフィードの最上部に固定 (ベータ) し、活動が最も多いグループを判断できます。グループおよびユーザプロファイルが Trailhead のような新しい外観になりました。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Contact Manager** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

Chatter フィード: Chatter の暗号化、ストリーム、固定表示投稿

Chatter の暗号化が正式リリースされ、多数の項目が追加されました。Salesforce 組織で内部ストリームと共にコミュニティストリームを 1 か所で簡単に表示できます (パイロット)。重要な投稿をグループまたはトピックフィードの最上部に固定できます (ベータ)。

グループ: 上位グループおよび Trailhead テーマ

活動が最も多いグループを確認できます。また、新しいデフォルトのバナー画像やアバターによって Trailhead の雰囲気を堪能できます。

ユーザプロファイル: Trailhead テーマと拡張された [オフィス不在]

ユーザプロファイルの外観が新しくなり、Trailhead をテーマにしたデフォルトバナー画像、Trailhead カード、デフォルトの Astro 画像が表示される場所が増え、[自己紹介] セクションが強調表示されるようになりました。[オフィス不在] が拡張されて、正式リリースされました。

関連トピック:

Salesforce Chatter: Windows 10 を操作する新しい方法

Chatter フィード: Chatter の暗号化、ストリーム、固定表示投稿

Chatter の暗号化が正式リリースされ、多数の項目が追加されました。Salesforce 組織で内部ストリームと共にコミュニティストリームを 1 か所で簡単に表示できます (パイロット)。重要な投稿をグループまたはトピックフィードの最上部に固定できます (ベータ)。

このセクションの内容:

Chatter の暗号化によるセキュリティの強化 (正式リリース)

Chatter データの一括暗号化および復号化が正式リリースされました。Chatter の暗号化を使用すると、Chatter データを処理するために、プライバシーポリシー、規制要件、契約義務に確実に準拠できます。暗号化項目は Salesforce ユーザインターフェース、ビジネスプロセス、API のすべてで正常に機能します。この機能は、Lightning Experience、Lightning コミュニティ、Salesforce Classic、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web で使用できます。

Salesforce でのすべてのコミュニティストリームの表示 (パイロット)

クロスコミュニティストリームでは、コンテキストを何度も切り替えることなく、すべてのストリームにシームレスにアクセスできます。内部 Salesforce 組織で、内部であるかコミュニティベースであるかに関わらずすべてのストリームに簡単にアクセスできるようになりました。クロスコミュニティストリームは、Lightning Experience と Lightning コミュニティで使用できます。

固定表示投稿による重要な情報の可視性の向上 (ベータ)

投稿の固定を使用して、最も重要な情報が最も目立つようにします。Chatter グループとトピックフィードでは、誰かが重要な情報を投稿したときに、承認されたユーザがその投稿をフィードの最上部に固定できます。承認されたユーザが固定を解除するまで、投稿はその場所に表示され続けます。投稿の固定は、Lightning Experience と Lightning コミュニティで使用できます。

絵文字による会話の活性化

絵文字を使用できるようになりました!フィードに活力を与えて利用者をエンゲージさせましょう。投稿、コメント、質問への詳細の追加を行うとき、または質問に答えるときに、Chatter パブリッシャーに絵文字アイコンが表示されます。絵文字は、Lightning Experience と Lightning コミュニティで使用できます。

組織のトピックの提案の有効化

トピックの提案は、ユーザに投稿と質問にトピックを追加するように勧める場合に役立ちます。それと同時に、トピックの提案を無効にする柔軟性があることも重要です。組織のトピックの提案を無効するオプションが追加されました。この権限はデフォルトで有効になるため、トピックの提案を無効にするには、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Chatter の暗号化によるセキュリティの強化 (正式リリース)

Chatter データの一括暗号化および復号化が正式リリースされました。Chatter の暗号化を使用すると、Chatter データを処理するために、プライバシーポリシー、規制要件、契約義務に確実に準拠できます。暗号化項目は Salesforce ユーザインターフェース、ビジネスプロセス、API のすべてで正常に機能します。この機能は、Lightning Experience、Lightning コミュニティ、Salesforce Classic、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web で使用できます。

Chatter の暗号化を有効にする場合は、サポートにお問い合わせください。設定をサポートします。

メモ: 項目を暗号化しても、既存の値はすぐに暗号化されません。データは、追加されたときや使用されたとき (項目内容の追加や編集などの操作を行った後) に暗号化されます。

何が暗号化されますか?

- フィード投稿とコメント
- フィードの質問と回答
- リンクの表示ラベルと URL
- フィードのアンケートとアンケート選択肢
- カスタムリッチパブリッシャーアプリケーションのコンテンツ (このリリースで新規追加)

暗号化された項目を絞り込むことはできません。

メモ: パイロットに参加していた場合に新しい項目を含めるには、Chatter の暗号化を無効にしてから再度有効にします。以前に作成したすべてのデータを暗号化するのに支援が必要な場合は、Salesforce にお問い合わせください。

関連トピック:

Chatter パブリッシャーへのリッチパブリッシャーアプリケーションの埋め込み (正式リリース)

Salesforce ヘルプ: Shield Platform Encryption でのデータのセキュリティの強化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Chatter のデータの暗号化 (正式リリース)

Salesforce でのすべてのコミュニティストリームの表示 (パイロット)

クロスコミュニティストリームでは、コンテキストを何度も切り替えることなく、すべてのストリームにシームレスにアクセスできます。内部 Salesforce 組織で、内部であるかコミュニティベースであるかに関わらずすべてのストリームに簡単にアクセスできるようになりました。クロスコミュニティストリームは、Lightning Experience と Lightning コミュニティで使用できます。

メモ: クロスコミュニティストリームは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されます。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。クロスコミュニティストリームは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。クロスコミュニティストリームに関するフィードバックと提案は、Trailblazer コミュニティからお寄せください。

パイロットの制限事項

Salesforce でコミュニティストリームを表示中に、投稿へのコメント、投稿の編集、および投稿のいいね! といいね! の取り消しを行うことができます。ただし、現時点では実行できないアクションがいくつかあります。

- ファイルを添付する
- 投稿を共有する
- プラス/マイナス投票、または会社の検証を使用する
- @メンションからそれが表示されるコミュニティディスカッションに移動する
- フィード項目の詳細にドリルダウンする

Chatter REST API および Chatter in Apex では、クロスコミュニティストリームがサポートされます。

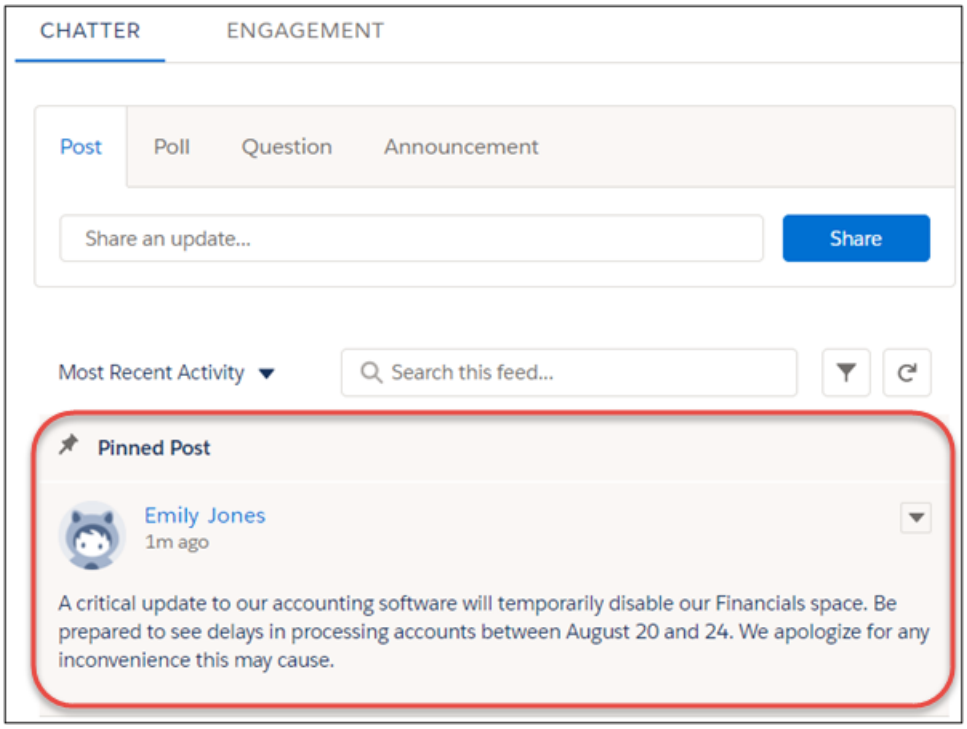
関連トピック:

ストリームを使用した独自のメガフィードの作成

固定表示投稿による重要な情報の可視性の向上 (ベータ)

投稿の固定を使用して、最も重要な情報が最も目立つようにします。Chatter グループとトピックフィードでは、誰かが重要な情報を投稿したときに、承認されたユーザがその投稿をフィードの最上部に固定できます。承認されたユーザが固定を解除するまで、投稿はその場所に表示され続けます。投稿の固定は、Lightning Experience と Lightning コミュニティで使用できます。

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンの固定表示投稿が含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。投稿の固定は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。固定された投稿に関するフィードバックと提案は、Trailblazer コミュニティからお寄せください。



システム管理者、コミュニティマネージャ、およびグループ所有者またはマネージャが投稿を固定できます。システム管理者は、固定権限を割り当てることもできます。組織で[フィードでの投稿の固定]を有効にしてから、選択したユーザに「フィードでの投稿の固定」権限を割り当てます。

固定表示投稿はお知らせと似ていますが、次の違いがあります。

- お知らせは、グループフィードのみに使用できます。投稿の固定は、グループフィードとトピックフィードに使用できます。
- お知らせは線形タイムラインに従うため、お知らせを投稿すればそのままで有効期限が切れます。固定表示投稿は柔軟性が高く、自分のフィードを取り出して過去または現在の投稿を固定できます。
- より幅広い承認されたユーザが固定できます。
- リッチテキストエディタで固定表示投稿にスタイルを追加できます。
- お知らせは、設定された日付で期限切れになります。固定表示投稿は、承認されたユーザが固定を解除するまで固定され続けます。

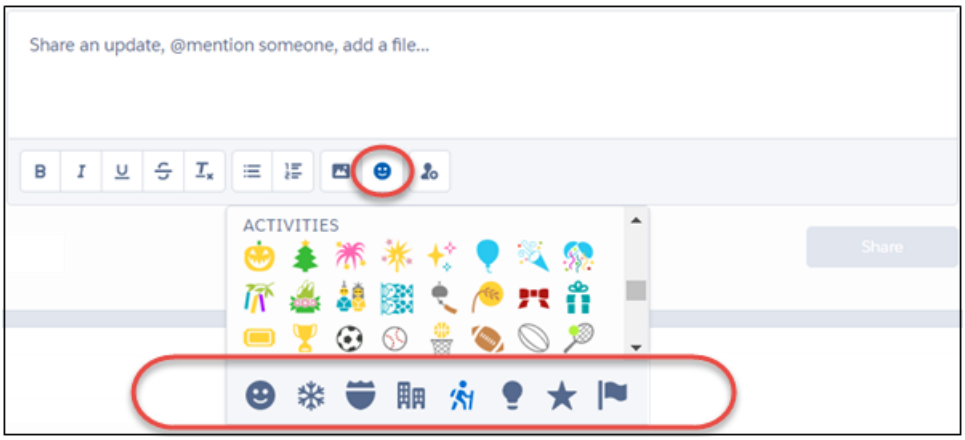
ベータの制限事項

ベータバージョンでは、コンパクトフィードのユーザインターフェースで、固定する投稿を選択できません。

Chatter REST API および Chatter in Apex では、固定表示投稿がサポートされます。

絵文字による会話の活性化

絵文字を使用できるようになりました! フィードに活力を与えて利用者をエンゲージさせましょう。投稿、コメント、質問への詳細の追加を行うとき、または質問に答えるときに、Chatter パブリッシャーに絵文字アイコンが表示されます。絵文字は、Lightning Experience と Lightning コミュニティで使用できます。



カテゴリを変更するには、絵文字セレクタの下にあるアイコンをクリックします。または、セレクタにカーソルがあるときに、キーボードを使用してカテゴリ間をタブで移動して選択します。

仕事中でも、ジャック・オー・ランタンを使う機会はあります。

メモ: 絵文字セレクタの絵文字は、ホストオペレーティングシステムのデフォルトフォントから取得されます。一部のオペレーティングシステムは他よりも遊び心のある絵柄になっています。現在の絵文字がさえないと思う場合は、emojipedia.orgにアクセスして各OSで提供される絵文字を確認してみてください。

組織のトピックの提案の有効化

トピックの提案は、ユーザに投稿と質問にトピックを追加するように勧める場合に役立ちます。それと同時に、トピックの提案を無効にする柔軟性があることも重要です。組織のトピックの提案を無効するオプションが追加されました。この権限はデフォルトで有効になるため、トピックの提案を無効にするには、Salesforceカスタマーサポートにお問い合わせください。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

グループ: 上位グループおよび Trailhead テーマ

活動が最も多いグループを確認できます。また、新しいデフォルトのバナー画像やアバターによって Trailhead の雰囲気を堪能できます。

このセクションの内容:

ランキング上位のグループを表示するカスタムレポートタイプの作成
新しいカスタムレポートタイプを使用して、組織で活動が最も多いグループを確認します。グループを主オブジェクトとして使用してカスタムレポートタイプを作成し、グループのランキングを適宜監視します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方の新機能です。

Trailhead のような外観に刷新されたグループ
新しいデフォルトのバナー画像やアバターによってグループが Trailhead によく似た外観になりました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

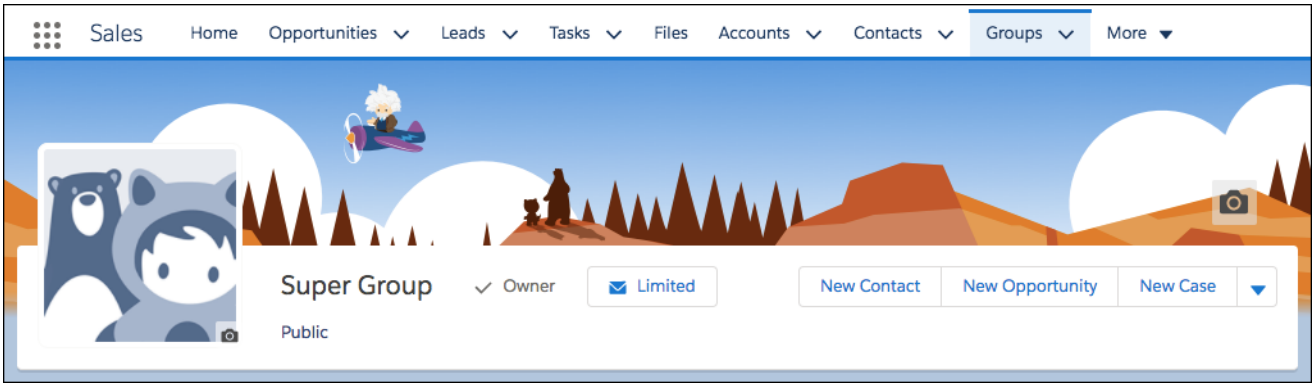
ランキング上位のグループを表示するカスタムレポートタイプの作成

新しいカスタムレポートタイプを使用して、組織で活動が最も多いグループを確認します。グループを主オブジェクトとして使用してカスタムレポートタイプを作成し、グループのランキングを適宜監視します。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方の新機能です。

グループのランキングは、その投稿数、コメント数、およびいいね!数に基づきます。Salesforce が週 1 回日曜日に件数を集計し、そのランキングを更新します。ランキングは毎週計算されるため、この機能は Winter '18 リリースの 1 週間後に使用できます。

Trailhead のような外観に刷新されたグループ

新しいデフォルトのバナー画像やアバターによってグループが Trailhead によく似た外観になりました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。



グループの新しいデフォルトバナー画像により、ユーザは Trailhead の雰囲気を堪能できます。もちろん、グループ所有者は引き続き画像を自由に変更できます。

まだグループページに写真がありませんか? Astro と Codey が救いの手を差し伸べます。写真を探す間、彼らがデフォルトのグループアバターとして快くスポットライトを浴びてくれます。

ユーザプロファイル: Trailhead テーマと拡張された [オフィス不在]

ユーザプロファイルの外観が新しくなり、Trailhead をテーマにしたデフォルトバナー画像、Trailhead カード、デフォルトの Astro 画像が表示される場所が増え、[自己紹介] セクションが強調表示されるようになりました。[オフィス不在] が拡張されて、正式リリースされました。

このセクションの内容:

Trailhead のような外観に刷新されたユーザプロファイル

冒険心をイメージさせるデフォルトバナー画像などによってユーザプロファイルがより Trailhead に近い外観になりました。ユーザプロファイルの強調表示パネルコンポーネントに [自己紹介] と Trailhead カードが含まれるようになりました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Astro アバター をデフォルトとして表示可能な場所の増加

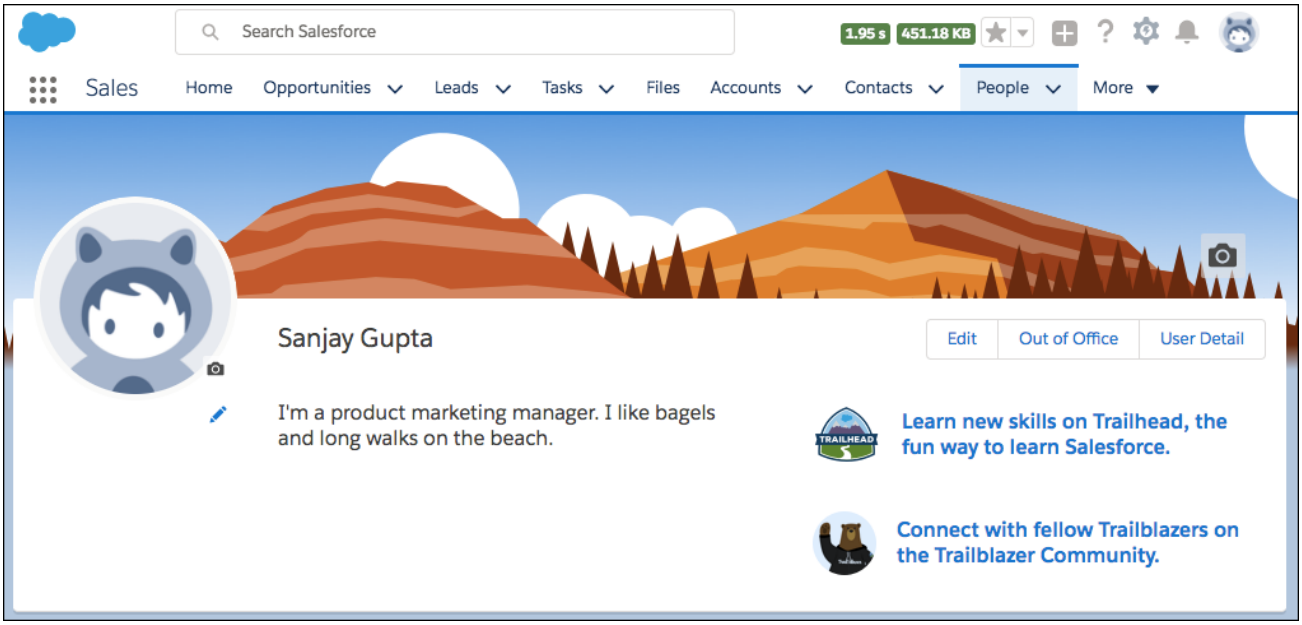
プロファイル写真の準備がまだできていませんか? 代わりに Astro を使用できます。Astro をプロファイルバナーと Salesforce ヘッダー以外にも表示できるようになりました。関連リスト、Chatter 投稿、ToDo 割り当てなど、プロファイル写真が表示されるほとんどすべての場所で、独自の魅力的な画像がアップロードされるまで、有能な Astro が代役を務めます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

[オフィス不在] 機能を使用して心おきなく休暇を取得 (正式リリース)

休暇などを取得する場合に不在期間を全員に知らせたいと思いますか? 新たに拡張された [オフィス不在] 機能があります。不在になる日付を設定して、カスタムメッセージを追加できます。メッセージと日付は、Chatter の対象者の名前の横に目立つように表示されます。これは、プロファイルだけでなく、対象者の名前が表示されるほぼすべての場所に表示されます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Trailhead のような外観に刷新されたユーザプロファイル

冒険心をイメージさせるデフォルトバナー画像などによってユーザプロファイルがより Trailhead に近い外観になりました。ユーザプロファイルの強調表示パネルコンポーネントに [自己紹介] と Trailhead カードが含まれるようになりました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。



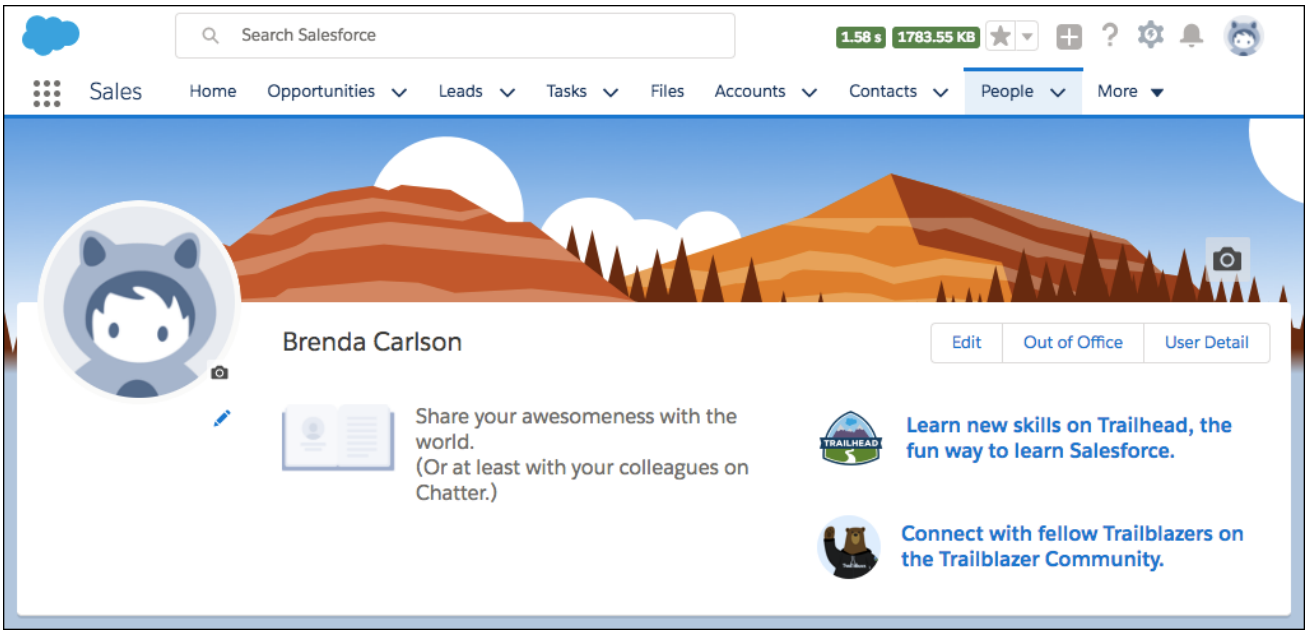
ユーザプロファイルのデフォルトバナー画像がベーシックなブルーマウンテン山脈から活気的な Trailhead テーマになりました。バナー画像は引き続き独自の画像に自由に変更できます。

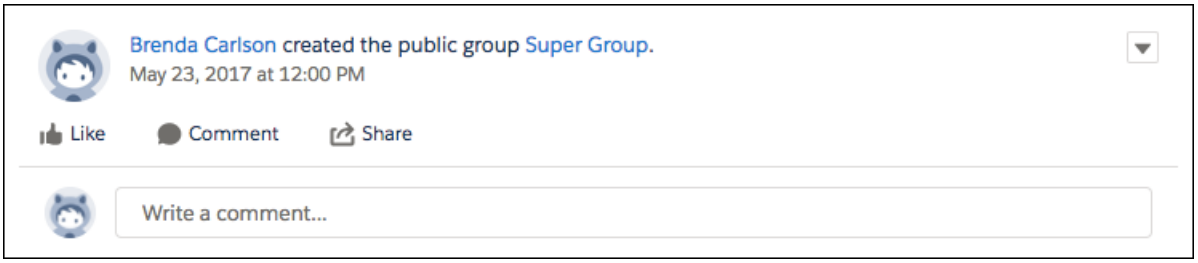
自身のプロファイルを参照しているユーザに Trailhead カードが表示されるようになり、学習やディスカッションにすばやくアクセスできます。ユーザはプロファイルから直接 Trailhead や Trailblazer コミュニティに移動できます。Trailhead カードは、強調表示パネル Lightning コンポーネントの一部です。

[自己紹介] は、ユーザプロファイルの最上部 (名前の直下) に表示されます。何も作成していないユーザでも、楽しいプロンプトテキストが表示されます。これは、そのユーザにしか表示されません。[自己紹介] は、強調表示パネルコンポーネントに含まれるようになりました。ユーザプロファイルページレイアウトの [ユーザの詳細] セクションに [自己紹介] が含まれている場合、そのセクションから削除してください。こうすることで、2 つの場所に表示されなくなります。

Astro アバター をデフォルトとして表示可能な場所の増加

プロファイル写真の準備がまだできていませんか?代わりに Astro を使用できます。Astro をプロファイルバナーと Salesforce ヘッダー以外にも表示できるようになりました。関連リスト、Chatter 投稿、ToDo 割り当てなど、プロファイル写真が表示されるほとんどすべての場所で、独自の魅力的な画像がアップロードされるまで、有能な Astro が代役を務めます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。



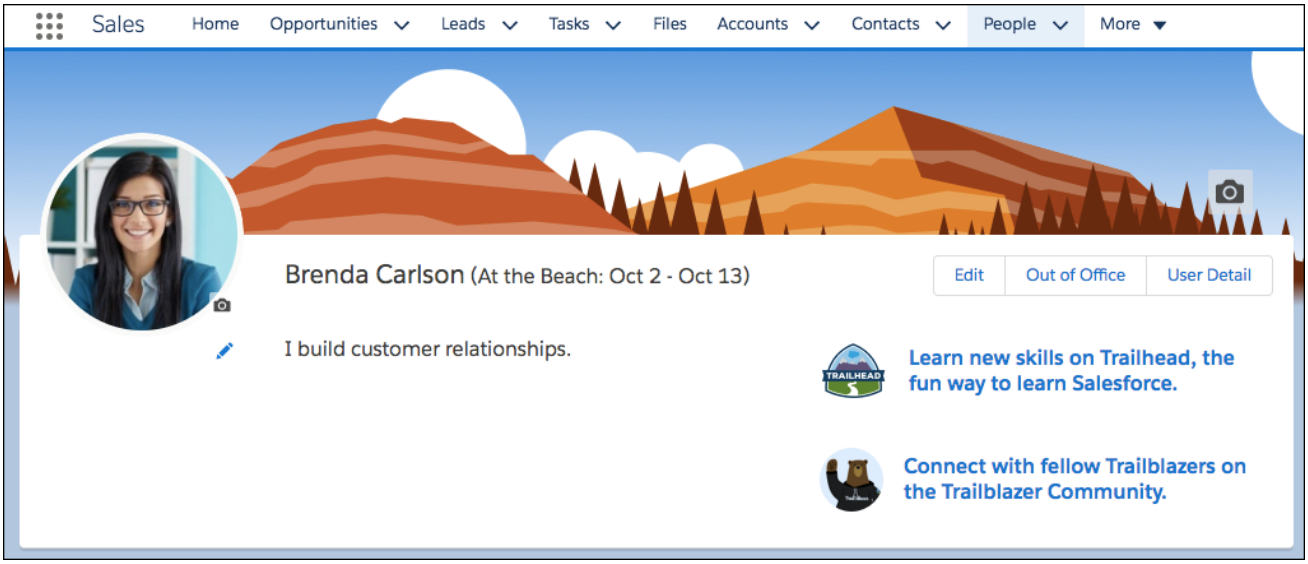


時間をかけて魅力的な顔写真やクールな自撮り写真を撮ってください。Astro がお留守番をしているので、焦らなくても大丈夫です。

[オフィス不在] 機能を使用して心おきなく休暇を取得 (正式リリース)

休暇などを取得する場合に不在期間を全員に知らせたいと思いますか? 新たに拡張された [オフィス不在] 機能があります。不在になる日付を設定して、カスタムメッセージを追加できます。メッセージと日付は、Chatter の対象者の名前の横に目立つように表示されます。これは、プロファイルだけでなく、対象者の名前が表示されるほぼすべての場所に表示されます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

デフォルトのオフィス不在メッセージは [オフィス不在] で、選択した開始日と終了日が表示されます。「ビーチ」や「イルカと戯れています。」など、さらに楽しいメッセージに変更できます。



[オフィス不在] はパイロットバージョンからどのような点が新しくなりましたか?

- ユーザが [オフィス不在] 機能を使用できるかどうかを制御できます。これは、[設定] > [Chatter 設定] の新しい [オフィス不在] セクションで設定します。この組織設定は、デフォルトで有効になっています。

- 終了日が経過すると、オフィス不在メッセージは期限切れになります。無効にする必要はありません。
- メッセージが表示される場所が増えました。ユーザプロファイルヘッダーや Chatter 投稿の @メンションの横だけでなく、関連リストのユーザ名 (フロート表示の状態) やユーザプロファイルのマネージャ名などの横にも表示されます。

ファイル: Quip、レコード上の非公開ファイル、検索の向上

Quip を使用して、外部ファイルプロバイダなしでドキュメントの作成、共有、コラボレーションを行います。また、ファイルをレコードに添付して非公開のままにするか、選択したユーザやグループと共有します。ファイル検索結果は、並び替え可能になり、項目が増えました。

エディション

クラウドベースの外部データソース用のファイルおよび Files Connect を使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

社内の外部データソース用 Files Connect は、同じエディションの有料オプションで使用できます。

このセクションの内容:

Salesforce での Quip ドキュメントの作成とコラボレーション
レコード上のファイルを非公開にしておく
新しい項目を使用したファイル検索結果の並び替え
コンテンツ配信公開リンク作成の権限名の変更
カスタムファイルプレビューコンポーネントの作成

Salesforce での Quip ドキュメントの作成とコラボレーション

Quip を使用すると、Salesforce でドキュメントやスプレッドシートの作成、共有、コラボレーションを行うことができます。外部ファイルプロバイダは必要ありません。Lightning Experience では、レコード上の Quip コンポーネントを使用して、新しい Quip ドキュメントを作成したり、既存の Quip ドキュメントを操作したりします。Quip ドキュメントは、Chatter、[ファイル] ホーム、ファイル関連リストで操作できます。Quip は、Lightning Experience、Salesforce Classic、コミュニティで使用できます。

レコード上のファイルを非公開にしておく

ファイルをレコードに添付して、非公開のままにするか、選択したユーザやグループと共有します。以前は、Lightning Experience ではレコード上のすべてのファイルは、そのレコードに対するアクセス権を持つ全員に表示されていました。今回のリリースでは、ファイルが表示されるユーザを選択できるようになりました。これは、Lightning Experience とコミュニティの新機能です。

新しい項目を使用したファイル検索結果の並び替え

お客様のご要望により、ファイル検索機能が改善されました。ファイル検索結果の項目が増え、並び替え可能になり、探しているファイルをすばやく見つけられるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Lightning コミュニティで使用できます。

コンテンツ配信公開リンク作成の権限名の変更

2つのユーザ権限名が明確になるよう変更されました。「コンテンツ配信の作成」ユーザ権限は、旧称「アップロード済みファイルおよび個人コンテンツの配信」です。「公開リンクの作成」ユーザ権限は、旧称「Salesforce Files のコンテンツ配信の作成および共有」です。コンテンツ配信は、Salesforce Classic で使用できます。公開リンクは、Salesforce Classic および Lightning Experience で使用できます。

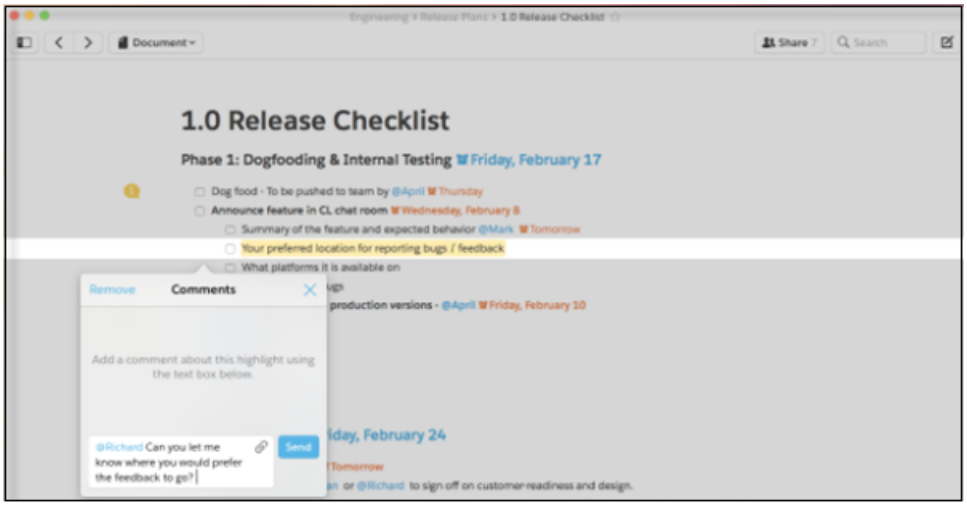
カスタムファイルプレビューコンポーネントの作成

ファイルプレビューコンポーネントを使用すると、ユーザがファイルをプレビューし、それに対してアクションを実行しやすくなります。開発者は、アップロードしたファイルのリッチプレビューを表示するカスタムファイルプレビューコンポーネントを作成できます。ファイルプレビューコンポーネントは、Lightning Experience と Lightning コミュニティで使用できます。

Salesforce での Quip ドキュメントの作成とコラボレーション

Quip を使用すると、Salesforce でドキュメントやスプレッドシートの作成、共有、コラボレーションを行うことができます。外部ファイルプロバイダは必要ありません。Lightning Experience では、レコード上の Quip コンポーネントを使用して、新しい Quip ドキュメントを作成したり、既存の Quip ドキュメントを操作したりします。Quip ドキュメントは、Chatter、[ファイル] ホーム、ファイル関連リストで操作できます。Quip は、Lightning Experience、Salesforce Classic、コミュニティで使用できます。

既存の Quip ドキュメントやスプレッドシートをレコードや Chatter 投稿に添付したり、Salesforce から直接ドキュメントを作成したりできます。Chatter 投稿で Quip リンクを貼り付けると、Salesforce 内に Quip ファイル参照が作成されます。Quip ドキュメントやスプレッドシートは、ファイルセレクタからレコード、グループ、フィードに共有できます。



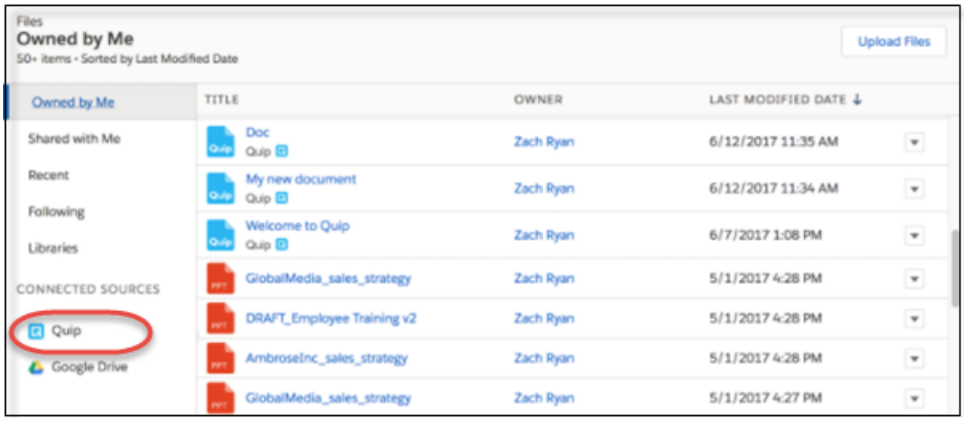
Lightning Experience では、専用の Quip コンポーネントがレコード上に用意されています。このコンポーネントから、ユーザは、そのレコードに関連付けられている Quip ドキュメントやシートを参照したり、Quip を追加および作成したりできます。Quip コンポーネントは、ユーザレコードを除くすべての標準オブジェクトおよびカスタムオブジェクトのページレイアウトでサポートされています。

メモ: コミュニティでは Quip コンポーネントを使用できません。Quip コンポーネントを含むページレイアウトがコミュニティで表示される場合、Quip カードは表示されません。

Quip ドキュメント内で同僚に @メンションし、作業している箇所に会話をそのまま表示することができます。テキストの言葉または文を強調表示してドキュメント内のインラインコメントの対象を示したり、スプレッド内の個別のセルについてコメントしたりできます。コメントは表示または非表示にでき、コンテンツで何が必要なのか、何に重点を置くべきなのかを確認できます。会話はサイドバーに表示され、これらのコメントスレッドは充実した活気あるものになります。コメントスレッドには @メンション、ファイル、画像、リンクプレビュー、絵文字、さらにアニメーション GIF まで含めることができます。サイドバーには変更履歴も表示されるため、ドキュメントに対して行われたすべての変更を参照できます。

Quip ではオフラインアクセスが可能です。オフラインですべて使用できるため、事前にドキュメントをオフライン使用のためにマークする必要はありません。ドキュメントはオンラインに戻ったときに同期され、ドキュメント上でコラボレーションしている他のユーザが行った変更が取得されます。

Quip は、[ファイル] ホーム左側の [接続済みソース] の下にあります。



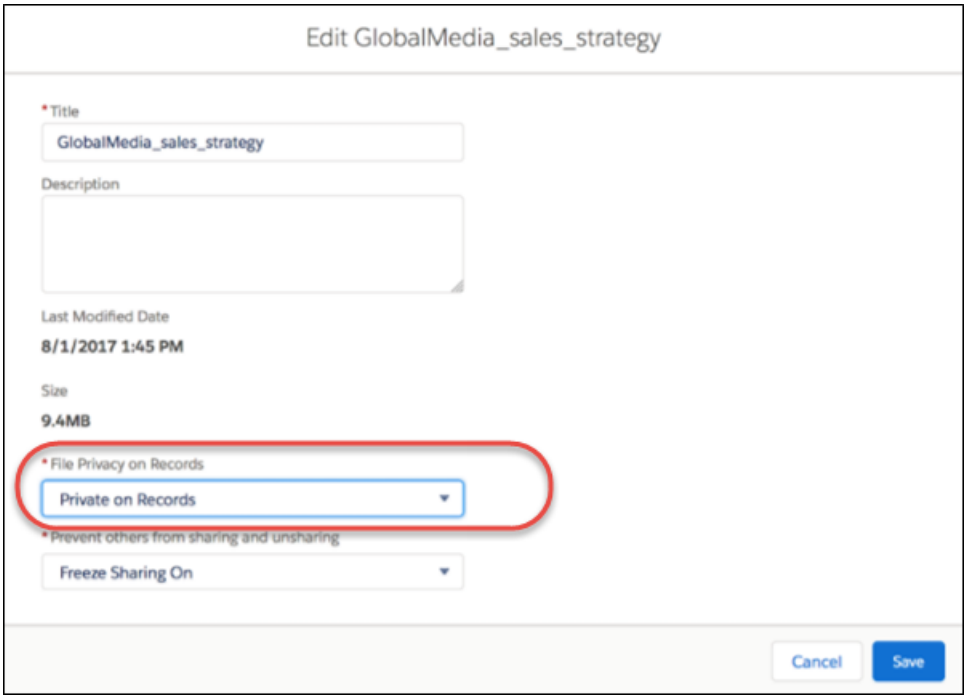
組織の接続済みファイルソースとして Quip を設定する手順は、Files Connect 外部ソースの設定に類似しています。認証プロバイダを作成し、Quip をデータソースとして定義します。

メモ: Salesforce 内の Quip ファイル参照は検索の対象になりますが、外部 Quip ドキュメントは対象になりません。

レコード上のファイルを非公開にしておく

ファイルをレコードに添付して、非公開のままにするか、選択したユーザやグループと共有します。以前は、Lightning Experience ではレコード上のすべてのファイルは、そのレコードに対するアクセス権を持つ全員に表示されていました。今回のリリースでは、ファイルが表示されるユーザを選択できるようになりました。これは、Lightning Experience とコミュニティの新機能です。

[レコードのファイルプライバシー] の値を変更できるのはファイル所有者とシステム管理者のみです。



この機能はデフォルトで有効になっています。ファイルページレイアウト ([設定] メニューでは [コンテンツバージョン] ページレイアウトと表示されます) に [レコードのファイルプライバシー] 項目を追加するだけで使用できます。ページレイアウトに項目が追加されると、Lightning Experience のファイルの詳細ページと編集パネルではファイルプライバシー項目がユーザに表示されます。また、Salesforce Classic のコンテンツ詳細ページとコンテンツ編集ダイアログにも表示されます。Lightning Experience で非公開とマークされたファイルは、Salesforce Classic でも非公開になります。

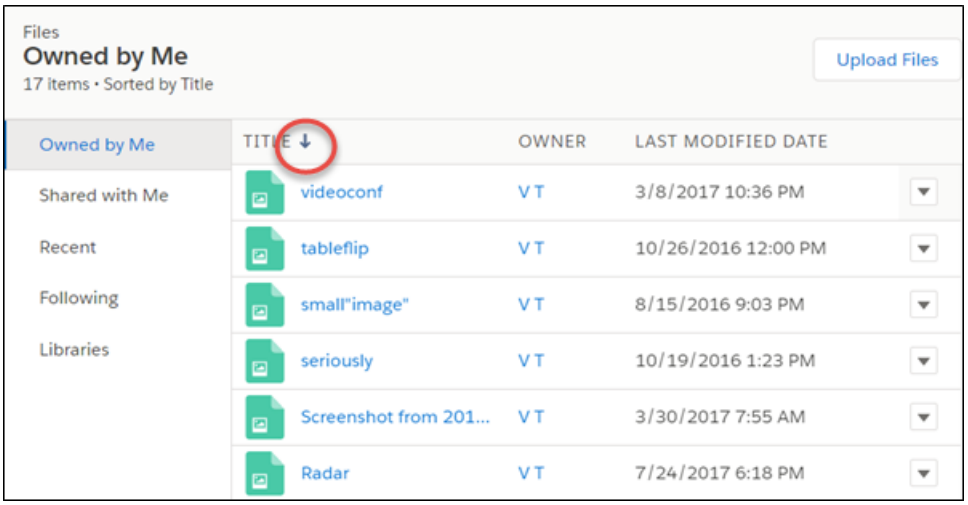
Chatter REST API では、レコード上の非公開ファイルがサポートされます。

新しい項目を使用したファイル検索結果の並び替え

お客様のご要望により、ファイル検索機能が改善されました。ファイル検索結果の項目が増え、並び替え可能になり、探しているファイルをすばやく見つけられるようになりました。この機能は、Lightning Experience と Lightning コミュニティで使用できます。

新しい検索レイアウトでは、検索結果を以前よりも詳細に制御できます。ファイル検索結果レイアウトには、新しい [最終更新日] 項目が含まれています。関連性、タイトル、サイズ、ファイル拡張子、最終更新日、所有者で結果を並び替えることができます。デフォルトではレイアウトに追加されていませんが、[作成日] を追加して、ファイルが作成された日付で検索することもできます。

並び替え順を選択するときには、列ヘッダーの矢印を切り替えて、昇順または降順で並び替えられます。



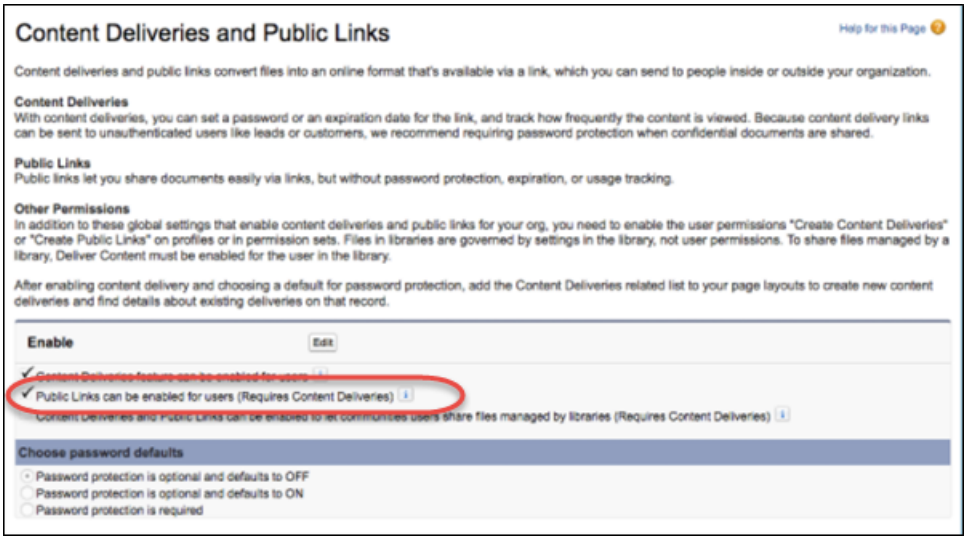
検索レイアウトの有効化と変更は [設定] で行います。更新された検索項目は自動的に表示されます。Lightning Experience の [設定] で「オブジェクトマネージャ」を検索します。[コンテンツバージョン]、[ページレイアウト] の順に選択します。

コンテンツ配信公開リンク作成の権限名の変更

2 つのユーザ権限名が明確になるよう変更されました。「コンテンツ配信の作成」ユーザ権限は、旧称「アップロード済みファイルおよび個人コンテンツの配信」です。「公開リンクの作成」ユーザ権限は、旧称「Salesforce Files のコンテンツ配信の作成および共有」です。コンテンツ配信は、Salesforce Classic で使用できます。公開リンクは、Salesforce Classic および Lightning Experience で使用できます。

コンテンツ配信と公開リンクでは、リンク経由で使用できるオンライン形式にファイルが変換されます。リンクは組織内外のユーザに送信できます。コンテンツ配信には、セキュリティ機能と追跡機能もあります。

これらのファイル共有ツールをまだ使用したことがない場合、開始するのは簡単です。まず、組織でコンテンツ配信と公開リンクを有効にします。[設定]メニューで「コンテンツ配信と公開リンク」を検索します。[コンテンツ配信機能をユーザに対して有効化可能]を選択してコンテンツ配信を有効にします。[公開リンクをユーザに対して有効化可能 (コンテンツ配信が必要)] を選択して公開リンクを有効にします。



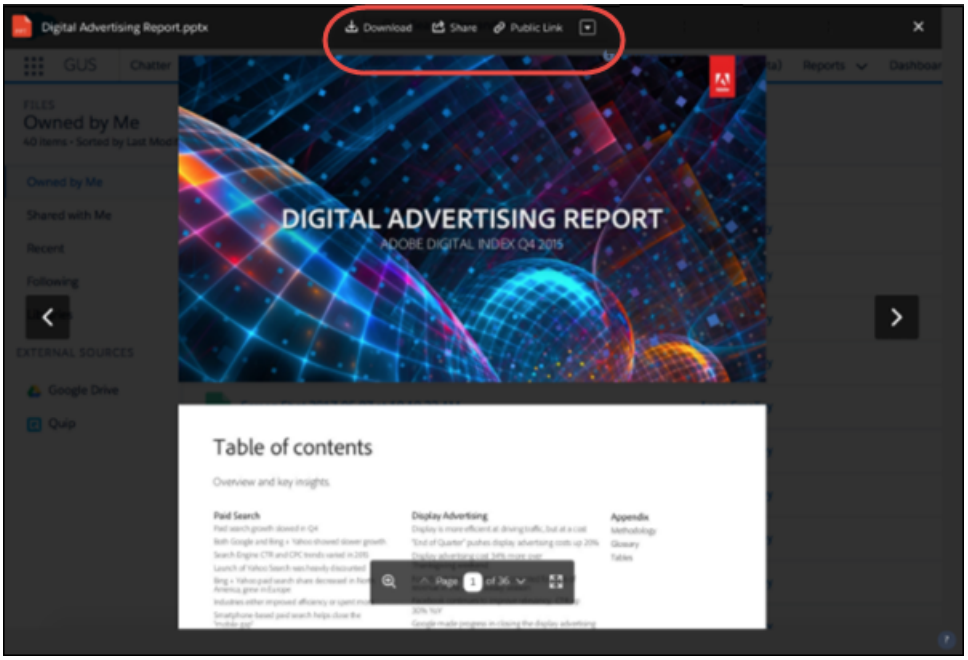
プロファイルまたは権限セットで「コンテンツ配信」と「公開リンク」のシステム権限を検索して、そのユーザ権限を有効にします。

メモ: ライブラリ内のファイルは、ライブラリ内の設定によって管理されるため、ユーザ権限とは別に追加設定が必要です。ライブラリによって管理されているファイルをユーザが共有できるようにするには、ライブラリでそのユーザの [コンテンツの配信] を有効にします。

カスタムファイルプレビューコンポーネントの作成

ファイルプレビューコンポーネントを使用すると、ユーザがファイルをプレビューし、それに対してアクションを実行しやすくなります。開発者は、アップロードしたファイルのリッチプレビューを表示するカスタムファイルプレビューコンポーネントを作成できます。ファイルプレビューコンポーネントは、Lightning Experience と Lightning コミュニティで使用できます。

ファイルプレビューコンポーネントには、ファイルのプレビューが表示され、上部にはファイルアクションがわかりやすく表示されています。ファイルがプレビューできない場合は、プレビューにファイル種別のアイコンが表示されます。



Salesforce とのインテグレーション: Cisco Spark、Microsoft および Google アプリケーション

業界をリードするいくつかのビジネスアプリケーションに Salesforce を接続することによって、営業およびサービス担当の生産性を高めます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

Cisco Spark for Salesforce: Salesforce を離れずに顧客や営業担当とつながる (正式リリース)
Google インテグレーション: レコードの柔軟な照合、多くのテンプレートオプション、行動の双方向同期、Lightning Sync 設定の必須変更

Cisco Spark for Salesforce: Salesforce を離れずに顧客や営業担当とつながる (正式リリース)

営業担当が Cisco Spark™ アカウントを Salesforce にリンクすると、誰がオンラインになっているのかを確認したり、ビデオミーティングを開始したり、インスタントメッセージを送受信したりできます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Google インテグレーション: レコードの柔軟な照合、多くのテンプレートオプション、行動の双方向同期、Lightning Sync 設定の必須変更

営業担当は Gmail™ と Google カレンダー™ で Salesforce の商談の作業ができます。Lightning for Gmail を使用すると、メール受信者を関連する Salesforce レコードと照合するときの柔軟性が高まります。より多くのメールテンプレートオプション、Einstein リードスコアリング、および Salesforce ToDo によって、営業担当の作業がより難しくなるのではなく、よりスマートになります。Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web ユーザのための行動の双方向同期が Lightning Sync に含まれるようになりました。また、Google カレンダーから Salesforce に行動を同期しているユーザは、Winter '18 で引き続き行動を同期するために Lightning Sync の設定を更新する必要があります。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

Skype for Salesforce: チャットとインスタントメッセージの送信 (正式リリース)

営業担当およびサービス担当は Skype for Salesforce を使用して、Salesforce から離れることなく、インスタントメッセージを送信したり、誰がオンラインであるかを確認したりできます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Microsoft® とのインテグレーション: ToDo 管理、Pardot Engagement、一括同期

営業担当は Outlook メールとカレンダーで商談の作業ができます。Salesforce ToDo へのアクセスや、より多くのメールテンプレートオプション、さらに Pardot Engage の機能によって、営業担当は営業プロセスを自由に操れるようになります。Lightning Sync の新機能。Service および Force.com ライセンス。お読みください!

Cisco Spark for Salesforce: Salesforce を離れずに顧客や営業担当とつながる (正式リリース)

営業担当が Cisco Spark™ アカウントを Salesforce にリンクすると、誰がオンラインになっているのかを確認したり、ビデオミーティングを開始したり、インスタントメッセージを送受信したりできます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

Cisco Spark for Salesforce は、次の Lightning コンポーネントを含む一連のツールです。

- Cisco Spark の会話 — レコードページのユーザは、レコードから直接ビデオミーティングを開始したり、インスタントメッセージを送信したりできます。Lightning アプリケーションビルダーを使用して、このコンポーネントを Lightning レコードページに追加します。
- Cisco Spark のグループ会話 — レコードページのユーザは、どの Cisco Spark ワークスペースがレコードに関連付けられているのかを確認したり、スペースを作成したり、スペースを検索したり、レコードのスペースのリンクおよびリンク解除を行ったりできます。Lightning アプリケーションビルダーを使用して、このコンポーネントを Lightning レコードページに追加します。
- Cisco Spark — このコンポーネントは、Lightning アプリケーションのユーティリティバーで機能し、ユーザがやりとりした最新のスペースや人を表示します。[設定] でアプリケーションマネージャを使用して、このコンポーネントをアプリケーションに追加します。

営業担当が Cisco Spark for Salesforce と通信できるようにするには、Cisco Spark ユーザ用の権限セットを作成し、ユーザに割り当てます。次に、前述の Lightning コンポーネントを営業担当が最もよく使用する Lightning ページとアプリケーションに追加します。

Cisco Spark for Salesforce を使用すると、営業担当は次の作業を実行できます。

- 他の営業担当の対応可能状況を確認する
- インスタントメッセージを送受信する
- ビデオ通話を受発信する
- インスタントメッセージの会話のトランスクリプトを Salesforce に保存する
- 最近の会話を表示する
- Salesforce レコードの Cisco Spark チームワークスペースを作成する
- Salesforce レコードにリンクされているすべての Cisco Spark スペースを表示する

- Cisco Spark スペースと Salesforce レコードのリンクおよびリンク解除を行う

メモ: Cisco Spark for Salesforce を使用するには、営業担当は最新バージョンの Google Chrome または Mozilla Firefox を使用する必要があります。

関連トピック:

Cisco Spark for Salesforce でのユーザによる共有ワークスペースの管理

Cisco Spark のグループ会話コンポーネントを使用してユーザがビデオミーティングの開催やインスタントメッセージの送信をレコードから直接行う

Google インテグレーション: レコードの柔軟な照合、多くのテンプレートオプション、行動の双方向同期、Lightning Sync 設定の必須変更

営業担当は Gmail™ と Google カレンダー™ で Salesforce の商談の作業ができます。Lightning for Gmail を使用すると、メール受信者を関連する Salesforce レコードと照合するときの柔軟性が高まります。より多くのメールテンプレートオプション、Einstein リードスコアリング、および Salesforce ToDo によって、営業担当の作業がより難しくなるのではなく、よりスマートになります。Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web ユーザのための行動の双方向同期が Lightning Sync に含まれるようになりました。また、Google カレンダーから Salesforce に行動を同期しているユーザは、Winter '18 で引き続き行動を同期するために Lightning Sync の設定を更新する必要があります。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

Lightning for Gmail: 時間の節約につながる機能および新しいインサイト

Lightning for Gmail で Salesforce Classic のテンプレートを使用できるようになりました。Lightning for Gmail に新しく導入される ToDo によって、営業チームは ToDo リストを容易に把握できます。メールでリードに関する Einstein リードスコアの人工知能を体験してください。

Lightning Sync for Google: Lightning Sync の設定、行動の双方向同期、サポートされるライセンスの追加に必要な変更

Google カレンダー™ と Salesforce 間で双方向に同期するように行動 (予定) を設定して、チームの生産性を向上させます。この機能を設定すると、Lightning Sync と連動するように設計された Salesforce カレンダー機能への排他アクセス権が付与されます。Service Cloud および Force.com のライセンスを持つユーザもサポートされるようになったので、さらに多くのユーザが Salesforce と Google アプリケーション間の同期を実行できるようになります。また、Google カレンダーから Salesforce に行動を同期しているユーザは、Winter '18 で引き続き行動を同期するために Lightning Sync の設定を更新する必要があります。

Skype for Salesforce: チャットとインスタントメッセージの送信 (正式リリース)

営業担当およびサービス担当は Skype for Salesforce を使用して、Salesforce から離れることなく、インスタントメッセージを送信したり、誰がオンラインであるかを確認したりできます。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Skype for Salesforce を使用するには、Skype for Business Online アカウント、または Skype for Business Online を含む Microsoft Office 365® Enterprise プランを有効化します。

メモ: 以前のベータバージョンの Skype for Salesforce には、音声およびビデオチャット機能が含まれています。ただし、現在 Microsoft では Skype の音声およびビデオ通話のサポートが再検討されています。そのため、Skype for Salesforce の正式リリースバージョンで音声およびビデオ通話は現在サポートされていません。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

Microsoft® とのインテグレーション: ToDo 管理、Pardot Engagement、一括同期

営業担当は Outlook メールとカレンダーで商談の作業ができます。Salesforce ToDo へのアクセスや、より多くのメールテンプレートオプション、さらに Pardot Engage の機能によって、営業担当は営業プロセスを自由に操れるようになります。Lightning Sync の新機能。Service および Force.com ライセンス。お読みください!

Lightning for Outlook: 時間の節約につながる機能および新しいインサイト

Lightning for Outlook で Salesforce Classic のテンプレートを使用できるようになりました。Lightning for Outlook に導入される ToDo によって、営業チームは ToDo リストを容易に把握できます。メールでリードに関する Einstein リードスコアの人工知能を体験してください。

Lightning Sync for Microsoft Exchange: Service Cloud および Force.com ユーザの設定

Lightning Sync は、Service Cloud および Force.com ユーザライセンスで使用できます。ライセンスでどのオブジェクトを使用できるかに応じて、営業担当は取引先責任者や行動、またはその両方を Microsoft® アプリケーションと Salesforce 間で同期できます。

モバイル: 外出先で実行できる操作の増加

Salesforce モバイルアプリケーションでは、場所を問わず、ユーザが多忙なときでも生産性を維持できます。Salesforce は、オフィスの外にいるユーザをサポートする新しい方法を追加するために懸命に取り組んでいます。Salesforce では、Chatter、ToDo、その他多くのセールス機能の改善が提供されるため、営業担当は携帯電話からさらに多くの業務を実行できます。

このセクションの内容:

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web: ToDo 管理と Chatter 環境の改善
Salesforce により、チームの生産性が向上します。アラームを設定できるようになったので、ToDo の実行し忘れは二度とないでしょう。ToDo に関するアラームを表示、作成、および編集して、常に状況を把握して管理できます。Salesforce for iOS ユーザ向けに、Chatter のデザインが改良されました。フィードからインライン画像や複数の添付ファイルを表示したり、フォロワーと投稿を共有したりできます。また、スクロールやパフォーマンスが高速化され、新しい投稿コンポーザも追加されました。

Salesforce Authenticator: アクセシビリティ更新、バックアップおよび復元の通知の改善
Salesforce Authenticator v2.10.1 では、iOS と Android 向けのアクセシビリティが改善されています。ボタンおよび項目の表示ラベル付けを改善し、Salesforce Authenticator の表示が明確になりました。バックアップの期限切れが通知されるまでの、バックアップおよび復元の同期の設定時間が長くなりました。

Salesforce Chatter: Windows 10 を操作する新しい方法
Salesforce Chatter のバージョン 1.1 が 2017 年 8 月 28 日の週に Windows Store で正式リリースされました。このアプリケーションは、Chatter へのアクセスや同僚とのコラボレーションを行うための新しい使いやすい方法を Windows 10 Anniversary Edition ユーザに提供します。

Salesforce Mobile Classic アプリケーションは 2017 年 12 月に廃止
モバイルユーザ、開発者、およびリリース環境全体を改善するため、Salesforce は Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web でのモバイル開発に焦点を絞っています。その結果、Salesforce Mobile Classic アプリケーションは 2017 年 12 月 1 日に廃止されます。また、iOS 10 および Android 7.0 が Salesforce Mobile Classic の互換性テストに使用される最後のモバイル OS バージョンになります。Salesforce for iOS/Android のロールアウト、現在と今後のモバイルニーズに対応するカスタムモバイルアプリケーションのリリースなど、代替環境へのモバイルユーザの移行を開始することをお勧めします。

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web: ToDo 管理と Chatter 環境の改善

Salesforce により、チームの生産性が向上します。アラームを設定できるようになったので、ToDo の実行し忘れは二度とないでしょう。ToDo に関するアラームを表示、作成、および編集して、常に状況を把握して管理できます。Salesforce for iOS ユーザ向けに、Chatter のデザインが改良されました。フィードからインライン画像や複数の添付ファイルを表示したり、フォロワーと投稿を共有したりできます。また、スクロールやパフォーマンスが高速化され、新しい投稿コンポーザも追加されました。

エディション

使用可能なエディション: Database.com Edition を除くすべてのエディション

このセクションの内容:

モバイルでの Salesforce の使用
プラットフォームの要件を満たすモバイルデバイスで Salesforce にアクセスする方法は複数あります。

最新バージョンの Salesforce for Android と Salesforce for iOS の新機能
Salesforce for Android と Salesforce for iOS の最新リリースはバージョン 14.0 です。バージョン 14.0 アプリケーションの新機能の概要は次のとおりです。

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web のすべての新機能

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforece モバイル Web の一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の異なるまたは使用できない Winter '18 の機能

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web には、組織で Lightning Experience と Salesforce Classic のいずれを使用している場合でも、Salesforce フルサイトの一部の機能が含まれていません。ここでは、使用できない、フルサイトで使用する場合と機能上の差異がある、または動作が異なる Winter '18 Salesforce の拡張機能について説明します。

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web 開発の概要

Force.com プラットフォームのいくつかの機能強化により、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の開発がサポートされます。

モバイルでの Salesforce の使用

プラットフォームの要件を満たすモバイルデバイスで Salesforce にアクセスする方法は複数あります。

- Salesforce for Android/iOS をインストールします。ユーザは Google Play または App Store からアプリケーションをダウンロードできます。
- サポートされる Android、iOS、Windows デバイスのサポート対象モバイルブラウザから Salesforce モバイル Web にアクセスします。この方法では、何もインストールする必要はありません。

最新バージョンの Salesforce for Android と Salesforce for iOS の新機能

Salesforce for Android と Salesforce for iOS の最新リリースはバージョン 14.0 です。バージョン 14.0 アプリケーションの新機能の概要は次のとおりです。

Salesforce for iOS バージョン 14.0

2017 年 10 月 16 日の週初めに、App Store で Salesforce for iOS バージョン 14.0 の提供が開始されます。

Salesforce for iOS の新機能を次に示します。

- Salesforce for iOS の最新の Chatter 環境
- 新しい Chatter 投稿コンポーザでのコンテンツの共有
- Chatter フィード内でのインライン画像と複数の添付ファイルの表示
- Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の更新されたヘルプでより迅速に回答を取得

Salesforce for Android バージョン 14.0

Salesforce for Android のバージョン 14.0 は、2017 年 10 月 16 日の週に Google Play にリリースされ、数週間で徐々にお客様にロールアウトされます。

Salesforce for Android の新機能を次に示します。

- Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の更新されたヘルプでより迅速に回答を取得

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web のすべての新機能

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforece モバイル Web の一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web は、Database.com 以外のすべてのエディションで追加ライセンスなしで使用できます。組織の Salesforce エディションとライセンス、およびユーザに割り当てられたプロファイルと権限セットによって、各ユーザが使用できる Salesforce データおよび機能が決定されます。

機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesfoce for iOS	Salesforce モバイル Web	フルサイトの [設定]
デバイスおよびブラウザのサポート				
Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の要件の更新	✔	✔	✔	
検索				
[最近] セクションでの関連性の高いオブジェクトの表示	✔		✔	
セールス機能				
Lightning Experience を使用した取引先責任者からの商談の取引先責任者の役割の作成	✔	✔	✔	
商談の売上予測分類の変更	✔	✔	✔	
外出先でのテリトリーの管理	✔	✔	✔	
生産性機能				
Lightning Sync for Google を使用して Salesforce に行動の被招集者の詳細を取り込む	✔	✔	✔	✔
Lightning Sync for Google: Service Cloud および Force.com ユーザの設定	✔	✔	✔	✔
Lightning Sync for Microsoft Exchange: Service Cloud および Force.com ユーザの設定	✔	✔	✔	✔
営業担当が忘れないように ToDo アラームを使用	✔	✔	✔	✔
活動タイムラインでのリストメールの追跡	✔	✔	✔	✔
カスタマーサービス機能				

機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesfoce for iOS	Salesforce モバイル Web	フルサイトの [設定]
Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web のサービス契約の管理	✔	✔	✔	
外出先でケースマイルストンにアクセス	✔	✔	✔	✔
関連リストからのケースコメントの追加	✔	✔	✔	✔
ケースのシームレスなコピー	✔	✔	✔	✔
レポートとダッシュボード				
Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の従来のグラフは Spring '18 で廃止 (段階的廃止)	✔	✔	✔	✔
Chatter				
Chatter の暗号化によるセキュリティの強化 (正式リリース)			✔	✔
コミュニティでの最適なソリューションの強調表示			✔	✔
固定表示投稿による重要な情報の可視性の向上 (ベータ)			✔	✔
Chatter パブリッシャーへのリッチパブリッシャーアプリケーションの埋め込み (正式リリース)			✔	✔
ユーザプロファイルへのデフォルトコミュニティの割り当て			✔	✔
Salesforce for iOS の最新の Chatter 環境		✔		
新しい Chatter 投稿コンポーザでのコンテンツの共有		✔		
Chatter フィード内でのインライン画像と複数の添付ファイルの表示		✔		
ビジネスロジックおよびプロセスの自動化				
トランスレーションワークベンチからのフローの翻訳	✔	✔	✔	✔
オブジェクト固有のアクションからのフローの起動 (ベータ)	✔	✔	✔	✔
フローコンポーネントの変数値の増加	✔	✔	✔	✔
フローでの暗号化データへのアクセス (正式リリース)	✔	✔	✔	✔
その他の機能強化				
Salesforce1 から Salesforce への名称変更	✔	✔	✔	
Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の更新されたヘルプでより迅速に回答を取得	✔	✔	✔	

[最近] セクションでの関連性の高いオブジェクトの表示

ユーザが Salesforce for Android、Salesforce for iOS、または Salesforce モバイル Web の使用を初めて開始する場合、ナビゲーションメニューの [最近] セクションには Lightning Experience ナビゲーションバーと同じ項目が含まれます。グローバル検索を行った場合、[最近]セクションに表示されるオブジェクトの結果のみが表示されます。ユーザが検索履歴の構築を開始すると、デフォルトリストは、よく使用されるオブジェクトで置き換えられます。この変更は、Salesforce for Android および Salesforce モバイル Web にのみ適用されます。

ユーザがグループと人を使用する場合、メニューにそれらのオブジェクトを必ず含めてください。

権限の問題により、作成した Lightning アプリケーションにユーザがアクセスできない場合、デフォルトの [最近] 項目には、取引先、取引先責任者、商談、ケース、リード、人 (ユーザ)、およびグループの各オブジェクトが含まれます。

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の要件の更新

Salesforce は、多くの一般的なモバイルプラットフォームで使用できます。Salesforce は、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web を使用するための要件を改訂しています。モバイルプラットフォーム要件と、Salesforce 環境を継続的に改善するための機能テストとパフォーマンステストに使用するデバイスについて説明します。

モバイルプラットフォーム要件

ユーザは、次のモバイルプラットフォーム要件を満たすモバイルデバイスで Salesforce を実行できます。

オペレーティングシステムおよびバージョン要件	モバイルブラウザ要件*
Android 4.4 以降	Android の Google Chrome
iOS 10.0 以降	iOS の Apple Safari
Windows 10 *(モバイル Web のみ)*	Windows 10 の Microsoft Edge
Windows 8.1 *(モバイル Web のみ)*	Windows 8.1 の Internet Explorer 11 *(2017 年 12 月 17 日でサポートを終了)*

* モバイルブラウザの最新バージョンが必要です。モバイルブラウザ要件は、Salesforce モバイル Web にのみ適用されます。

急速に進化し続けるモバイル市場でイノベーションを行い、Salesforce を最新の状態に保つために、プラットフォームの最小要件は事前通知の有無に関わらず、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce テストに使用されるモバイルデバイス

Salesforce は、選択した一連のモバイルデバイスで Salesforce for iOS/Android および Salesforce モバイル Web の自動テストや手動テストを実行します。次に、Winter '18 リリースのテストに使用されるデバイスのリストを示します。

プラットフォーム	携帯電話	タブレット
Android	• Google Pixel XL • Google Pixel • Google Nexus 6P • Samsung Galaxy S7 • Samsung Galaxy S6 • Samsung Galaxy S5 • Samsung Galaxy Note 5 • Samsung Galaxy Note 4	• Samsung Galaxy Note 10.1 • Samsung Tab A 9.7 • Samsung Tab A 8.0 • Samsung Tab S2
iOS	• iPhone 7/7 Plus • iPhone 6S/6S Plus • iPhone 6/6 Plus • iPhone 5S • iPhone SE	• iPad Pro 12.9″ • iPad Pro 9.7″ • iPad Air 2 • iPad Mini 4
Windows (*モバイル Web のみ*)	• Nokia 1020 (Windows 8.1 搭載) • Lumia 950 (Windows 10 搭載)	• N/A

お客様は、現在のプラットフォーム要件を満たしていればテスト対象外デバイスでも Salesforce を使用できます。デバイスメーカー固有のカスタマイズが原因で、Salesforce は、テスト対象外デバイスで Salesforce を使用するお客様の問題を再現できない場合があります。

急速に進化し続けるモバイル市場でイノベーションを行い、Salesforce を最新の状態に保つために、Salesforce テスト対象デバイスのリストは事前通知の有無に関わらず、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce の更新

お客様のデバイスが現在のプラットフォームの最小要件を満たしていれば、Salesforce 機能の更新および修正を利用できます。

弊社の目標は、Salesforce の各メジャーリリースに合わせて Salesforce モバイル機能の更新をリリースすることです。この情報は、お客様のリリース計画を支援するために提供されていますが、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce モバイル Web
拡張機能は、Salesforce の各メジャーリリースで自動的に使用できるようになります。

Salesforce for Android および Salesforce for iOS
拡張機能は、メジャーバージョンの更新で提供されます。すべての本番インスタンスに対する Salesforce の各メジャーリリースが完了してから Salesforce for Android および Salesforce for iOS の新しいメジャーバージョンがリリースされる予定です。新しいメジャーバージョンがリリースされる期間は変動し、Apple や Google の

新しい要件または iOS や Android のオペレーティングシステムの変更など、Salesforce が制御できない要素の影響を受ける可能性があります。

お客様のモバイルデバイスが Salesforce の現在のモバイルオペレーティングシステムの最小要件を満たしていれば、App Store や Google Play から新しいメジャーバージョンとバグ修正バージョンをインストールできます。デバイスで古いオペレーティングシステムが実行されている場合、Salesforce の更新バージョンは App Store に表示されません。

Salesforce のカスタマーサポートサービス

Salesforce カスタマーサポートは、次の場合に Salesforce の問題のトラブルシューティングを行うよう商業上合理的な努力を行うものとします。

- ユーザのデバイスが現在のプラットフォームの最小要件を満たしている
- Salesforce for iOS/Android ユーザが最新バージョンをインストールしている

お客様が Salesforce テスト対象デバイスで Salesforce を実行している場合、問題をより効率的にトラブルシューティングできます。お客様がテスト対象外デバイスを使用している場合、プラットフォームの最小要件を満たしていても、デバイスメーカー固有のカスタマイズのために一部の問題を再現できない可能性があります。

古いデバイスや計算およびメモリ機能が低いデバイスで Salesforce を実行すると、Salesforce テスト対象デバイスと比較して、パフォーマンスが低くなることがあります。

外出先でのテリトリーの管理

モバイル営業担当が自分の営業テリトリーを参照できるようになりました。Salesforce では、エンタープライズテリトリー管理ユーザは、割り当てられたテリトリーを商談の詳細で変更できます。ユーザは、参照のみの、取引先の [割り当てられたテリトリー] 関連リストを表示することもできます。これらの変更は、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web に適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Developer** Edition および **Performance** Edition と、Sales Cloud が付属した **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web のサービス契約の管理

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web でサービス契約および契約品目名の表示、作成、管理を行います。顧客を訪問している間や、フィールドサービス予定を完了している間にチームは契約条件をすばやく確認または変更できます。

組織でエンタイトルメント管理を有効にしている場合、サービス契約が Salesforce ナビゲーションメニューに表示されるようになりました。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

メモ: Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web では、契約品目名の削除と編集はできますが、作成はできません。

関連トピック:

Lightning Experience でのサービス契約の管理 (正式リリース)

外出先でケースマイルストンにアクセス

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition (Service Cloud 付属)

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web でエージェントは、ケースフィードでケースマイルストンの更新を表示し、ケースマイルストンレコードページを開き、[ケースマイルストン]関連リストを表示できます。

この機能を使用するには、組織でエンタイトルメント、エンタイトルメントプロセス、およびマイルストンを設定する必要があります。その後、Lightning アプリケーションビルダーでマイルストンコンポーネントをケースレコードページに追加できます。マイルストンコンポーネントでは、ケースのみがサポートされています。このコンポーネントを他のオブジェクトページに追加することはできません。

メモ: Salesforce for Android、Salesforce for iOS、または Salesforce モバイル Web では、トラッカーを含むマイルストンコンポーネントが表示されません。

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web のケースマイルストンレコードページに表示される項目をカスタマイズするには、Salesforce Classic の [設定] でケースマイルストンオブジェクトのコンパクトレイアウトを編集します。

詳細は、「Lightning Experience でのケースマイルストンの追跡」を参照してください。

関連リストからのケースコメントの追加

エージェントは、ボタンをクリックして[ケースコメント]関連リストから直接ケースコメントを追加できるようになりました。この変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

すでにレコードページに [ケースコメント] 関連リストがある場合は、何も実行する必要はありません。エージェントの関連リストのドロップダウンには [新規] ボタンが表示されます。[ケースコメント] 関連リストをページに追加するには、Lightning アプリケーションビルダーで [関連リスト - 1 つ] コンポーネントをページに追加します。

関連リストを更新すると、エージェントは関連リストのドロップダウンメニューから[新規]ボタンをクリックできます。その後、エージェントはコメントの入力を求められます。[ケースコメント]ウィンドウの外観は、設定によって異なる可能性があります。

メモ: ケースコメントを作成するためのクイックアクションは引き続き作成できます。

ケースのシームレスなコピー

エージェントは、顧客に関する複数の問題を簡単に記録したり、既存のケースの情報を使用したりできます。[コピー]ボタンをクリックして情報を入力し、ケースを割り当てて保存するだけです。これまで、ケースのコピーは Salesforce Classic でしか使用できませんでした。この変更は、Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

新しい組織では、デフォルトでケースページレイアウトで[コピー]ボタンを使用できます。既存の組織では、[コピー] クイックアクションをページレイアウトに追加します。

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の従来のグラフは Spring '18 で廃止 (段階的廃止)

エディション

拡張グラフを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

従来のグラフは長い間 Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web 環境に含まれていましたが、廃止されることになりました。Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web で、従来のグラフは拡張グラフ (Lightning Experience グラフのモバイルバージョン) に置き換えられました。切り替える準備がまだ整っていない場合は、[設定]から従来のグラフに戻してください。ただし、従来のグラフは Spring '18 で廃止されるため、今のうちに拡張グラフに慣れておくことをお勧めします。この変更は、すべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

従来のグラフが組織で廃止されたことにより、次が変更になります。

- Spring '18 では、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web には拡張グラフのみが含まれ、従来のグラフに切り替えることはできません。
- Summer '16 リリース以降で作成した組織の Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web ではすでに拡張グラフになっており、拡張グラフ以外は使用できません。これらの組織では、拡張グラフを無効にするオプションは [設定] に表示されません。
- Salesforce フルサイトでは従来のグラフが廃止になってもグラフに影響はありません (Salesforce Classic と Lightning Experience)。

詳細は、「Legacy Charts Retirement」(英語のみ) のお知らせを参照してください。拡張グラフと従来のグラフを切り替えるには、Salesforce ヘルプの「Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web での拡張グラフの表示」を参照してください。

メモ: 従来のグラフは段階的廃止の一環として廃止されるため、全面廃止の日付は今後のリリースにずれ込む可能性があります。リリースノートと従来のグラフの廃止のお知らせは、情報が有効になり次第、常に更新されます。

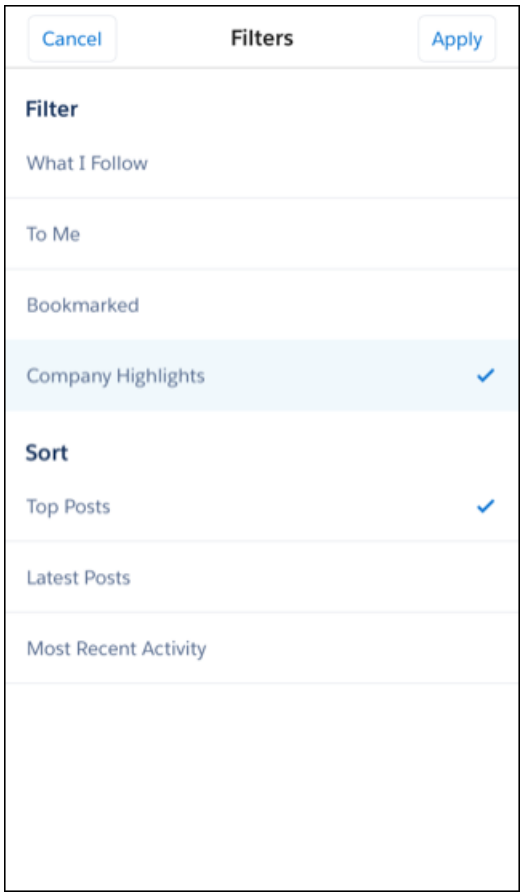
Salesforce for iOS の最新の Chatter 環境

新しい Chatter 環境で、スムーズなスクロールと直感的なユーザエクスペリエンスを体感してください。関連性の高い最新情報をすばやく取得できるように、[会社の注目] フィードと [新規投稿] ボタンを追加しました。この新環境は、Salesforce for iOS のバージョン 14.0 以降で使用できます。

新しい Chatter フィード環境で高速かつ最新のフィードを使用して、同僚や顧客とコラボレーションできます。

[会社の注目] フィード

[会社の注目]フィードを使用して、社内のトレンドな会話を把握します。時間のないときでも、上位の投稿に対してエンゲージしたり、会社の最新情報を把握したりできます。フィードの上部をタップして、優先度に基づいて投稿を並べ替えたり絞り込んだりします。最新情報を見逃さないように、必要に応じて頻繁に検索条件を変更します。

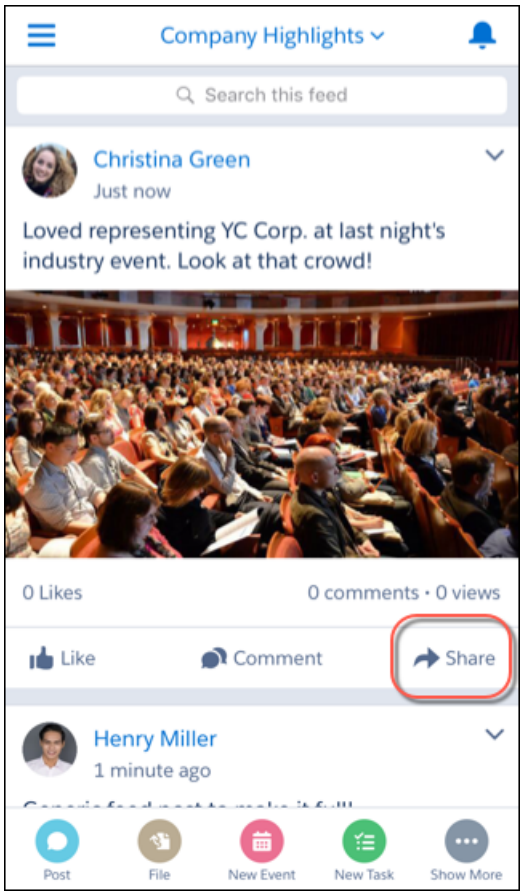


[新規投稿] ボタン

フィードに新しいコンテンツがあるときは、[新規投稿]ボタンが表示されるので、最新情報を見逃すことはありません。このボタンを使えば、最新投稿を表示するためだけにフィード全体をスクロールする必要がなくなり、時間の節約になります。

Chatter フィードから共有

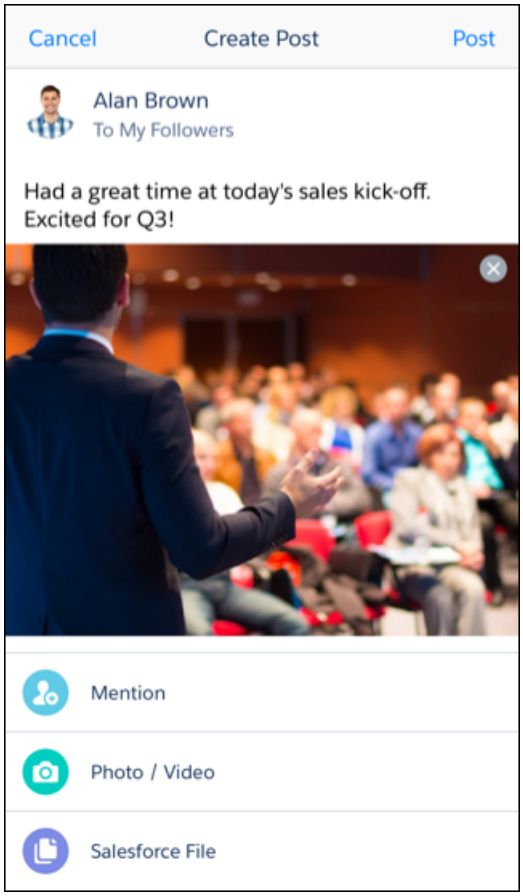
フィードから直接、フォロワーまたはグループと投稿を共有し、自分の意見を付け加え、会話に参加します。フォロワーやグループと投稿を共有するためにフィードの詳細ページをタップする必要はなくなりました。スクロールして共有するだけで、あとは自分の仕事に戻ることができます。



新しい Chatter 投稿コンポーザでのコンテンツの共有

投稿の作成、画像やファイルの添付、ユーザまたはグループへのメンションには、最新の Chatter 投稿コンポーザを使用してください。新しいコンポーザでは、最新情報の共有をさらに簡単に、そして新しいデザインとフルサイズの画像プレビューによりさらに快適に使用できます。新しい Chatter 投稿コンポーザは、Salesforce for iOS のバージョン 14.0 以降で使用できます。

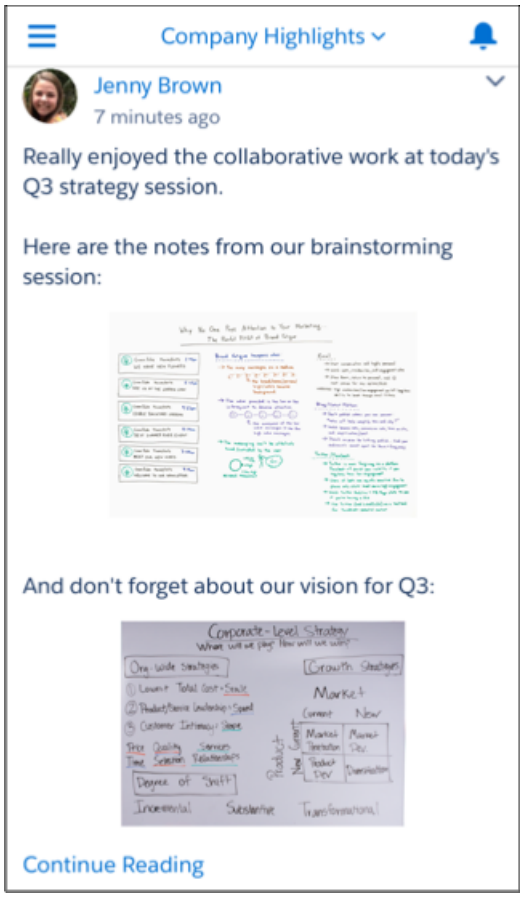
コンポーザにはフルサイズの画像および添付ファイルが表示されるため、イベントの一番良い写真やプレゼンテーションの特に重要なスライドを簡単に共有できます。投稿の文章の作成前または作成後に、画像またはファイルをすばやく削除し、新しいものを添付できます。



Chatter フィード内でのインライン画像と複数の添付ファイルの表示

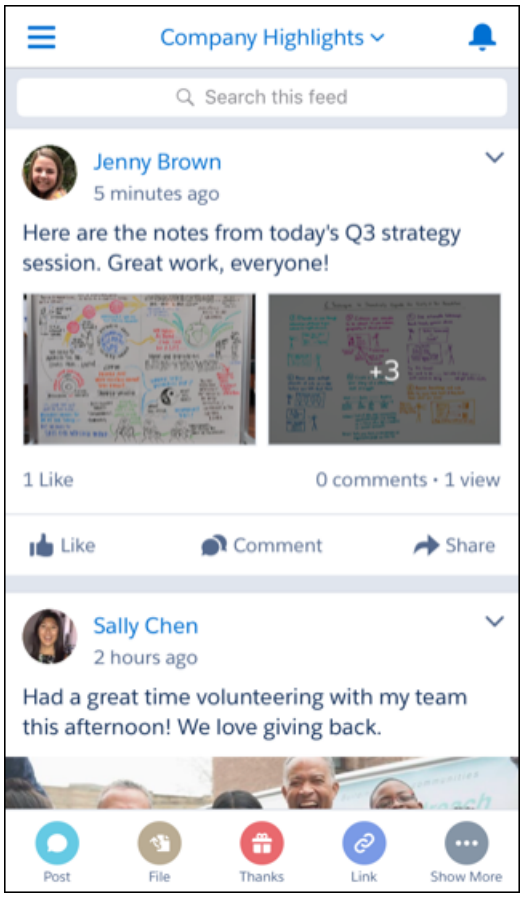
Chatter環境の一新に伴い、インライン画像と複数の添付ファイルがフィード内の各投稿に表示されるようになりました。インライン画像を見るために各投稿をタップする必要がなくなり、Chatterフィードをスクロールしながら詳しいコンテキストを把握できます。この新機能は、Salesforce for iOS のバージョン 14.0 以降で使用できます。

インライン画像は Chatter フィードとフィードの詳細ページに表示されます。



メモ: ユーザはインライン画像を表示できますが、Salesforce for iOS からインライン画像を投稿することはできません。

複数の添付ファイルがある投稿では、最初の 2 つのアイテムが横並びになったプレビューが表示されます。3 つ以上が添付されている場合は、フィードの詳細を開く [+] ボタンが表示されます。



メモ: Salesforce for iOS から各投稿に添付できる画像またはファイルは 1 つのみです。

Salesforce1 から Salesforce への名称変更

Salesforce1 は、シンプルに Salesforce と呼ばれるようになります。この変更により、すべてのデバイスや App Store で従来よりも簡単に Salesforce を検索できます。この変更は、すべてのデバイスの Salesforce 環境を合理化するために行われました。製品とドキュメント全体の新しい名前の更新は Winter '18 から始まりますが、Spring '19 でも引き続き注力していきます。

2017 年 10 月 23 日の週から App Store に新しい名前が表示されます。また、Salesforce バージョン 14.1 に更新するとブランドも更新されます。

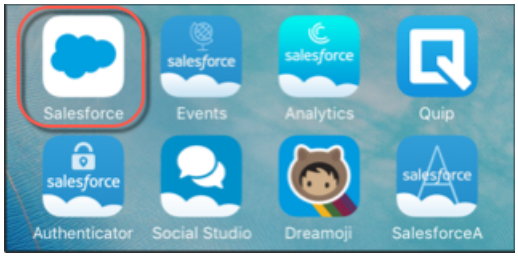
削除されるのは「1」のみですが、この更新によって、使用するすべてのデバイスの Salesforce 環境が簡単になり、ビジネスを継続的に進めることができます。Salesforce は、どこで作業しても、どのようなデバイスを使用しても常に Salesforce です。この変更には最新の Salesforce 環境が反映されています。

新しい名称

以前の名称	新しい名称
Salesforce1 for iOS ダウンロード可能アプリケーション	Salesforce for iOS

以前の名称	新しい名称
Salesforce1 for Android ダウンロード可能アプリケーション	Salesforce for Android
Salesforce1 モバイルブラウザアプリケーション	Salesforce モバイル Web

新しいブランド



Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の更新されたヘルプでより迅速に回答を取得

ヘルプセットが改善され、ユーザはより多くの問題をトラブルシューティングでき、外出先でより効率的に作業できます。ヘルプポータルへのアクセス方法はいつもどおりです。ユーザは Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web ナビゲーションメニューで [ヘルプ] をタップするだけです。この変更は、すべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

次のような重要な変更があります。

- 組織の改善
- 実際の使用事例に基づいた情報の凝縮
- アイコンおよび機能情報の更新

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の異なるまたは使用できない Winter '18 の機能

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web には、組織で Lightning Experience と Salesforce Classic のいずれを使用している場合でも、Salesforce フルサイトの一部の機能が含まれていません。ここでは、使用できない、フルサイトで使用する場合と機能上の差異がある、または動作が異なる Winter '18 Salesforce の拡張機能について説明します。

メモ: Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web と Salesforce フルサイトの相違点を網羅したリストは、Salesforce ヘルプの「Salesforce アプリケーションで使用できない機能とその新機能」を参照してください。

セールス機能

エンタープライズテリトリー管理

- 取引先の[割り当てられたテリトリー]関連リストは、「テリトリーの管理」権限のあるユーザであっても参照のみです。
- 取引先の [割り当てられたテリトリー内のユーザ] 関連リストは使用できません。

生産性機能

行動とカレンダー

- Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の行動の被招集者には、同期方向が [双方向同期] の Lightning Sync と、Microsoft® Office 365® または Google G Suite のアカウントが必要です。また、行動主催者は、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web で行動を作成または編集する必要があります。それにより、主催者は、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web から行動の取引先責任者、リード、その他の Salesforce ユーザの表示、招待、または削除を行うことができます。行動の被招集者は、取引先責任者、リード、その他の Salesforce ユーザを表示できます。双方向同期を選択すると、一部の Salesforce Classic 機能が制限されます。
- 営業担当が被招集者にアクセスできるようにするには、行動の [行動] ページレイアウトに [被招集者] 項目を追加します。[被招集者] 項目は、コンパクトレイアウトではサポートされません。
- 被招集者は、詳細タブの[被招集者]項目から他の被招集者の返答を表示できますが、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、または Salesforce モバイル Web の関連タブから返答を表示することはできません。
- ミーティングの被招集者は、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、または Salesforce モバイル Web から行動の招待に返答することができません。ユーザは、Microsoft Office 365 カレンダーまたは Google カレンダーからのみ承諾または拒否できます。
- 営業担当が Salesforce for Android、Salesforce for iOS、または Salesforce モバイル Web からカレンダーを同僚と共有したり、同僚のカレンダーを表示したりすることはできません。

ToDo と活動

- Salesforce for Android、Salesforce for iOS、または Salesforce モバイル Web では [すべての活動履歴] タブを使用できません。
- Salesforce for Android または Salesforce for iOS では、ToDo アラームの通知は転送通知として配信されないため、営業担当のモバイルデバイスのロック画面に通知またはポップアップは表示されません。代わりに、営業担当が Salesforce for Android、Salesforce for iOS、または Salesforce モバイル Web を開いたとき、通知トレイにアラームが表示されます。
- 営業担当が Salesforce for Android、Salesforce for iOS、または Salesforce モバイル Web でアラーム付きの ToDo を作成するには、[簡単な新規 ToDo フォームを Salesforce1 に表示] 設定をオフにする必要があります。[設定]から、[クイック検索]ボックスに「*活動設定*」と入力し、[活動設定]を選択します。[簡単な新規ToDoフォームを Salesforce1 に表示] をオフにします。

メール

- Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web ではリストメールを使用できません。ただし、ユーザは活動タイムラインで完了したリストメール活動を表示できます。

カスタマーサービス機能

ケースマイルストン

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web では、トラッカーを含むマイルストンコンポーネントが表示されません。

サービス契約

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web では契約品目名を編集および削除できますが、作成することはできません。

検索

[最近] セクションのデフォルトオブジェクト

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、または Salesforce モバイル Web でグローバル検索を行う場合、ナビゲーションメニューの [最近] セクションにのみ表示されるオブジェクトのレコードを検索できます。Salesforce for iOS では、Salesforce を使用し始めたばかりで、まだ最近のオブジェクトの履歴がない場合、取引先、ケース、取引先責任者、ファイル、リード、商談の各オブジェクトを検索できます。グループおよび人が [最近] セクションに表示されている場合は、それらも検索できます。グループや人がナビゲーションメニューの他の領域に表示されている場合は、検索できません。Salesforce for Android および Salesforce モバイル Web では、オブジェクトのデフォルトセットは、システム管理者が Lightning アプリケーション用に設定した Lightning Experience ナビゲーションバーと一致しています。ユーザに Lightning アプリケーションへのアクセス権または権限がない場合、ユーザが最も頻繁に使用するオブジェクトが決まるまで、デフォルトセットには取引先、取引先責任者、商談、ケース、リード、人(ユーザ)、およびグループの各オブジェクトが含まれます。Salesforce for Android、Salesforce モバイル Web、および Salesforce フルサイト (Salesforce Classic と Lightning Experience) をしばらく使用していると、[最近] セクションのデフォルトのオブジェクトが最も使用するオブジェクトに置き換えられ、それらのオブジェクトをグローバル検索で使用できるようになります。

Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web 開発の概要

Force.com プラットフォームのいくつかの機能強化により、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web の開発がサポートされます。

Salesforce Authenticator: アクセシビリティ更新、バックアップおよび復元の通知の改善

Salesforce Authenticator v2.10.1 では、iOS と Android 向けのアクセシビリティが改善されています。ボタンおよび項目の表示ラベル付けを改善し、Salesforce Authenticator の表示が明確になりました。バックアップの期限切れが通知されるまでの、バックアップおよび復元の同期の設定時間が長くなりました。

このセクションの内容:

アクセシビリティの更新により Salesforce Authenticator をより簡単に操作

Salesforce Authenticator があらゆるユーザに優れたエクスペリエンスを提供することが重要なのです。アプリケーションを変更し、全ユーザ向けにアクセシビリティを改善しました。

バックアップと復元の通知が表示されるまでの時間の延長
アカウントを追加または変更した場合にバックアップの期限切れが通知されるまでの、Salesforce Authenticator の設定時間が長くなりました。

アクセシビリティの更新により Salesforce Authenticator をより簡単に操作

Salesforce Authenticator があらゆるユーザに優れたエクスペリエンスを提供することが重要なのです。アプリケーションを変更し、全ユーザ向けにアクセシビリティを改善しました。

- 以前はアカウントページでアカウント名およびユーザ名を編集することはできるものの、テキスト編集ボックスと [キャンセル] ボタンに表示ラベルがありませんでした。この点が修正され、iOS と Android の両方で明確な表示ラベルが付きました。
- Salesforce Authenticator は [信頼できる場所] に 1 つの住所しか表示しません。また、他の無関係な場所を地図に表示しなくなりました。この変更は iOS に適用されます。
- iOS のバックアップおよび復元の切り替えボタンに表示ラベルが付き、バックアップと復元がオンであるかオフであるかも表示されます。オンまたはオフを切り替えるには、ダブルタップします。
- 画面がポップアップしたときの後ろのテキストが無効になるようになりました。
- ロック画面から通知を開いたとき、要求の詳細がすべて表示されるようになります。
- Android のすべてのボタンに表示ラベルが付きます。

バックアップと復元の通知が表示されるまでの時間の延長

アカウントを追加または変更した場合にバックアップの期限切れが通知されるまでの、Salesforce Authenticator の設定時間が長くなりました。

Salesforce Authenticator は、ユーザがアカウントを追加または削除したとき、バックアップのオンとオフを切り替えたとき、パスコードを変更したときに、バックアップを同期します。バックアップが期限切れの場合は、通知されます。Salesforce では、アカウントを復元できます。アカウントを追加または既存のアカウントを変更し、バックアップの同期が完了していない場合、バックアップの期限切れの通知が表示されることがあります。Salesforce Authenticator v2.10.1 では、以前よりも長い時間バックアップの同期を試みてから、期限切れの通知を表示します。

関連トピック

Salesforce Authenticator (バージョン 2 以降) へのアカウントの接続

Salesforce Authenticator モバイルアプリケーションでの接続済みアカウントのバックアップ作成

Salesforce Authenticator モバイルアプリケーションでの接続済みアカウントの復元

Salesforce Authenticator (バージョン 2 以降) からのアカウントの削除

Salesforce Chatter: Windows 10 を操作する新しい方法

Salesforce Chatter のバージョン 1.1 が 2017 年 8 月 28 日の週に Windows Store で正式リリースされました。このアプリケーションは、Chatter へのアクセスや同僚とのコラボレーションを行うための新しい使いやすい方法を Windows 10 Anniversary Edition ユーザに提供します。

Salesforce Chatter は、Chatter で同僚とコラボレーションするためのインストール可能なアプリケーションを提供します。ダウンロード可能アプリケーションの機能を使用して、Chatter フィードおよび投稿機能にアクセスできます。

再認証することなくアプリケーションから直接 Salesforce フルサイトを起動できます。一度認証すれば良いので貴重な時間を節約できます。これにより、作業に戻って必要な Salesforce データにすばやくアクセスできます。

また、タッチ対応 Windows デバイスで、スタイラスペンで作成した図やメモを直接同僚に投稿したり、Chatter フィードに投稿したりできます。

このセクションの内容:

サポート対象デバイスと Salesforce Chatter のインストール
Windows 10 Anniversary Edition ユーザは、Windows ストアから Salesforce Chatter を入手できます。

Salesforce Chatter で使用可能な機能
Salesforce Chatter を使用すると、従来よりも多くの方法で Chatter を介して同僚とコラボレーションできます。図を作成して投稿したり、1 回のログインのみで Salesforce フルサイトを起動したり、デスクトップアプリケーションから直接 Chatter にアクセスしたりできます。

サポート対象デバイスと Salesforce Chatter のインストール

Windows 10 Anniversary Edition ユーザは、Windows ストアから Salesforce Chatter を入手できます。

Salesforce は、Windows 10 Anniversary Edition で実行されているデバイスの Salesforce Chatter アプリケーションに対してのみ自動テストと手動テストを実行します。

お客様は、テストされていないオペレーティングシステムでも Salesforce Chatter を使用できます。テスト済みのオペレーティングシステムは、通知の有無に関わらず変更される場合があります。

Salesforce Chatter で使用可能な機能

Salesforce Chatter を使用すると、従来よりも多くの方法で Chatter を介して同僚とコラボレーションできます。図を作成して投稿したり、1 回のログインのみで Salesforce フルサイトを起動したり、デスクトップアプリケーションから直接 Chatter にアクセスしたりできます。

認証

Salesforce Chatter アプリケーションを使用すると、Chatter で作業しているときに直接 Salesforce フルサイトを起動できます。1 回ログインするだけでアプリケーションから Salesforce のフルデスクトップ環境に移動できるため、時間を節約でき、Salesforce のあらゆる作業が迅速化されます。

通知

Salesforce Chatter には独自のアクション可能な転送通知があります。ユーザには新しい Chatter 活動が即座に通知され、通知自体から返信したり、投稿を簡単に開いたりできます。デスクトップ通知によって、重要な会話にリアルタイムで参加することがかつてなく簡単になりました。

投稿

Salesforce Chatter アプリケーションで直接画像やファイルを添付できます。Salesforce Chatter に固有の機能として、指またはスタイラスペンで作成した図を投稿するためのキャンバスが挙げられます。この独自機能を使用して、次のプロジェクトのデザインアイデアをモックアップしたり、手書きのミーティングメモを簡単に共有し

たりできます。アプリケーション内で描画して Chatter 投稿に直接添付できるため、同僚と簡単に共有できます。

Salesforce フルサイトの Chatter 環境と同様に、ディスカッション、グループ、他のユーザなどにテキストコメントを投稿できます。アンケートへの投票や、Chatter の質問への回答もできます。

フィード機能

Chatter フィードを並び替えて最も関連性の高い情報を常に上部に表示します。Chatter フィード上部から、[私がフォローするもの]、[自分宛]、[ブックマーク済み]、[すべて]のいずれかの並び替え基準を選択できます。いつでも数回クリックするだけで設定を変更できます。

人、グループ、取引先、取引先責任者、商談などをフィードで簡単に検索することもでき、重要なビジネスタスクをより少ない手順で実行できます。

Salesforce Mobile Classic アプリケーションは 2017 年 12 月に廃止

モバイルユーザ、開発者、およびリリース環境全体を改善するため、Salesforce は Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web でのモバイル開発に焦点を絞っています。その結果、Salesforce Mobile Classic アプリケーションは 2017 年 12 月 1 日に廃止されます。また、iOS 10 および Android 7.0 が Salesforce Mobile Classic の互換性テストに使用される最後のモバイル OS バージョンになります。Salesforce for iOS/Android のロールアウト、現在と今後のモバイルニーズに対応するカスタムモバイルアプリケーションのリリースなど、代替環境へのモバイルユーザの移行を開始することをお勧めします。

2017 年 12 月 1 日をもって、Salesforce Mobile Classic は App Store および Google Play から削除され、現在インストールされている Salesforce Mobile Classic アプリケーションへのアクセスはすべてのユーザと組織で直ちに無効になります。

Salesforce Mobile Classic の廃止および移行オプションについての詳細は、「Salesforce Classic Mobile アプリケーションは 2017 年 12 月 1 日をもって廃止されます。」を参照するとともに、Trailblazer コミュニティのこのグループのディスカッションにご参加ください。

Financial Services Cloud: 銀行向けのデータモデル拡張と Lightning アプリケーション、インテリジェントなニーズベースの紹介とスコアリングなど

パーソナルバンカーやファイナンシャルアドバイザーは、銀行向けのデータモデル拡張と Financial Services Cloud に合わせて調整された 3 つの Lightning アプリケーション (Retail Banking、Retail Banking コンソール、Wealth Management) を使用して、顧客との関係を深め、生産性を向上させることができるようになりました。インテリジェントなニーズベースの紹介とスコアリングによって、簡単なフローで容易に、ユーザは紹介を作成、追跡、管理できます。金融口座 UI コンポーネントや積み上げ集計項目を設定する方法が新しくなり、Financial Services Cloud をさらに高度にカスタマイズできるようになりました。また、金融口座残高を複数の共同所有者に積み上げ集計できるようになりました。加えて、新しい Lightning コンポーネント、プロファイル (4 つ)、権限セットを使用して、カスタマーコミュニティやパートナーコミュニティをすぐに開始できます。その他の機能強化については、操作性の向上についてを網羅したリストを参照してください。

エディション

Financial Services Cloud は、Lightning Experience で使用できます。使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

Retail Banking アプリケーションと Retail Banking コンソールによる生産性の向上
銀行員は、Financial Services Cloud Lightning アプリケーションの Retail Banking を使用して、顧客をあらゆる角度から把握できるようになりました。また、Retail Banking コンソールを使用して 1 つの画面で大量のトランザクションを簡単に管理できます。さらに、ローンや預金などの新しいオブジェクト、項目、レコードタイプでデータモデルが拡張され、銀行員が必要とする情報が提供されます。

新しい Lightning アプリケーション、Wealth Management による Financial Services Cloud 環境の最適化
カスタムの色やロゴを使用してアプリケーションをブランド設定したいとお考えですか?あるいは、タブを追加したり、削除したり、カスタマイズするのはいかがですか? 新しい Lightning アプリケーションの Wealth Management にアップグレードすれば、そのすべてとさらにその他の機能も実現できます。Wealth Management アプリケーションは、Financial Services Cloud アプリケーションのすべての機能と、Lightning の機能強化、紹介管理ワークフロー、金融口座の積み上げ集計をサポートするカスタマイズ可能なコンポーネントを備えています。

インテリジェントなニーズベースの紹介とスコアリングによる紹介の作成および管理
インテリジェントなニーズベースの紹介とスコアリングを使用すれば、ビジネス部門を超えて内外で簡単に紹介の情報を見つけることができます。ユーザは自分に割り当てられた紹介を管理し、Einstein リードスコアリングを使用して、迅速に紹介を取引開始につなげることができます。自動メール通知により、ユーザは新しい紹介の割り当てについて最新情報を把握できます。また、ユーザは標準ダッシュボードおよびレポートを使用して、紹介ネットワークの強化、関係の育成、報奨上位の紹介者の識別を簡単に行うことができます。

カスタマイズ可能なビューと積み上げ集計による金融口座の大幅な向上

金融口座を的確に把握するために、金融口座を設定してユーザにとって最も関連性の高い情報を表示できるようになりました。さらに、金融口座ロールを使用して、プライマリ所有者とすべての共同所有者に口座残高が積み上げ集計されるように、ルックアップによる積み上げ集計フレームワークが再設計されました。これにより、口座の所有権を適切に可視化できます。

カスタマーコミュニティやパートナーコミュニティの迅速な開始

顧客やパートナーは Financial Services Cloud コミュニティを使用できるようになりました。カスタマーコミュニティライセンスに対応付けられる新しい「参照のみ」権限セットと4つの標準プロファイルを使用して、カスタマーコミュニティメンバーにアクセス権を付与します。カスタマーコミュニティメンバーやパートナーコミュニティメンバーは、新たにアクセス可能になった Lightning コンポーネントを使用して、個人のファイナンスプロファイル (口座情報や目標など) の今まで以上に明確な全体像を把握できるようになりました。さらに、新しい紹介コンポーネントにより、カスタマーコミュニティメンバーやパートナーコミュニティメンバーは簡単に紹介を作成できます。

Financial Services Cloud の操作性の向上

次のその他の機能強化をご覧ください。

Financial Services Cloud のその他の機能強化

Financial Services Cloud の新規オブジェクトおよび項目

新しい Financial Services Cloud オブジェクトおよび項目の機能が強化されました。

Financial Services Cloud レコードタイプの新規追加

Retail Banking アプリケーションと Retail Banking コンソールによる生産性の向上

銀行員は、Financial Services Cloud Lightning アプリケーションの Retail Banking を使用して、顧客をあらゆる角度から把握できるようになりました。また、Retail Banking コンソールを使用して1つの画面で大量のトランザクションを簡単に管理できます。さらに、ローンや預金などの新しいオブジェクト、項目、レコードタイプでデータモデルが拡張され、銀行員が必要とする情報が提供されます。

- 銀行員の稼働—パーソナルバンカープロファイルと「パーソナルバンカーアクセス」権限セットにより、銀行員は、開始に必要なデフォルトの権限と項目レベルセキュリティ設定を得られます。他の銀行員のプロファイルを設定するには、権限を変更して適切なアクセスレベルを提供します。
- **Retail Banking** コンソールによる効率化 — Retail Banking コンソールを使用すると、銀行員は大量のトランザクションを1つの画面で管理できます。また、ホームページ、個人プロファイル、世帯プロファイル、ユーザプロファイルがパーソナルバンカーに合わせて調整されました。Retail Banking および紹介管理ワークフローに合わせて調整されたページレイアウトとカスタムコンポーネントを使用して、ホームページをカスタマイズします。
- 銀行固有の顧客の詳細の強調表示—銀行員は、誰が顧客で何を必要としているのかを把握したいと考えています。新しいカスタムオブジェクトおよび項目では、顧客の包括的なビュー(信用等級、学歴、職業、支社の所属、コミュニケーションの好みなど) を得られます。
- 顧客の金融口座の全体像の把握 — 自社のバンキングシステムと統合すれば、銀行員は Financial Services Cloud から移動せずにドリルダウンして口座の詳細を確認できます。

- 紹介管理ワークフローの簡略化—銀行員は紹介管理ワークフローを使用して、内外のソースからの紹介の作成、受け入れ、追跡、割り当て、管理を簡単に行うことができます。「インテリジェントなニーズベースの紹介とスコアリングによる紹介の作成および管理」も参照してください。
- 銀行員に関連する口座情報の表示—顧客の金融口座情報のスナップショットを提供するには、パッケージ化された新しい一連のルックアップによる積み上げ集計ルールとカスタム項目を使用して、金融口座の積み上げ集計をカスタマイズし、預金総額、合計口座数、預金残高などを表示します。「カスタマイズ可能なビューと積み上げ集計による金融口座の大幅な向上」も参照してください。

新しい Lightning アプリケーション、Wealth Management による Financial Services Cloud 環境の最適化

カスタムの色やロゴを使用してアプリケーションをブランド設定したいとお考えですか? あるいは、タブを追加したり、削除したり、カスタマイズするのはいかがですか? 新しい Lightning アプリケーションの Wealth Management にアップグレードすれば、そのすべてとさらにその他の機能も実現できます。Wealth Management アプリケーションは、Financial Services Cloud アプリケーションのすべての機能と、Lightning の機能強化、紹介管理ワークフロー、金融口座の積み上げ集計をサポートするカスタマイズ可能なコンポーネントを備えています。

そう聞いて、「Financial Services Cloud はすでに Lighting Experience で使用できるではないか」ときっとお思いでしょう。そのとおりです。Financial Services Cloud は Lightning 向けに最適化されていましたが、アプリケーションは Salesforce Classic で構築されていました。アップグレードするだけの価値があります。Financial Services Cloud アプリケーションはどこにも行きませんのでご安心ください。引き続き利用可能で、カスタマイズを維持することができます。アップグレード後に簡単な手順を実行すれば、カスタマイズを Wealth Management アプリケーションに移行して、Financial Services Cloud (Classic) アプリケーションが Classic でのみ表示されるようにできます。

インテリジェントなニーズベースの紹介とスコアリングによる紹介の作成および管理

インテリジェントなニーズベースの紹介とスコアリングを使用すれば、ビジネス部門を超えて内外で簡単に紹介の情報を見つけることができます。ユーザは自分に割り当てられた紹介を管理し、Einstein リードスコアリングを使用して、迅速に紹介を取引開始につなげることができます。自動メール通知により、ユーザは新しい紹介の割り当てについて最新情報を把握できます。また、ユーザは標準ダッシュボードおよびレポートを使用して、紹介ネットワークの強化、関係の育成、報奨上位の紹介者の識別を簡単に行うことができます。

ユーザは、リードオブジェクトの紹介レコードタイプと新しい Lightning コンポーネントを使用して、顧客が興味を示した項目 (普通預金口座から住宅ローンまで) に基づいて紹介を作成し、自動的に転送できます。さらに、新しい紹介コンポーネントにより、パートナーコミュニティメンバーやカスタマーコミュニティメンバーは簡単に紹介を作成できます。

カスタマイズ可能なビューと積み上げ集計による金融口座の大幅な向上

金融口座を的確に把握するために、金融口座を設定してユーザにとって最も関連性の高い情報を表示できるようになりました。さらに、金融口座ロールを使用して、プライマリ所有者とすべての共同所有者に口座残高が積み上げ集計されるように、ルックアップによる積み上げ集計フレームワークが再設計されました。これにより、口座の所有権を適切に可視化できます。

また、新しい一連のルックアップによる積み上げ集計ルールがパッケージ化されて、複数の共同所有者への積み上げ集計がサポートされるようになりました。さらに、2つの新しいコンポーネント(金融口座リストと金融口座ロールリスト)を使用して、表示をカスタマイズできます。

カスタマーコミュニティやパートナーコミュニティの迅速な開始

顧客やパートナーはFinancial Services Cloudコミュニティを使用できるようになりました。カスタマーコミュニティライセンスに対応付けられる新しい「参照のみ」権限セットと4つの標準プロファイルを使用して、カスタマーコミュニティメンバーにアクセス権を付与します。カスタマーコミュニティメンバーやパートナーコミュニティメンバーは、新たにアクセス可能になったLightningコンポーネントを使用して、個人のファイナンスプロファイル(口座情報や目標など)の今まで以上に明確な全体像を把握できるようになりました。さらに、新しい紹介コンポーネントにより、カスタマーコミュニティメンバーやパートナーコミュニティメンバーは簡単に紹介を作成できます。

Financial Services Cloud の操作性の向上

次のその他の機能強化をご覧ください。

- 定期的な**ToDo**と行動のサポート — ユーザは個人またはグループに関連する定期的なToDoと行動を作成し、活動タイムラインで表示できます。また、定期的なToDoと行動がグループ/世帯プロファイルに積み上げ集計されるように個人の積み上げ集計を定義することもできます。
- 口座のメンバーシップと世帯のリレーションの削除—家族またはグループのリレーションの変更を反映させるために、世帯のメンバーシップとリレーションをSalesforceからすばやく削除できます。
- **Lightning**アプリケーションビルダーでの**Financial Services Cloud**コンポーネント
  - 表示のコンテキスト化—Lightningアプリケーションビルダーでホームページ、クライアントページ、または金融口座ページをカスタマイズするときは、そのページに関連するコンポーネントのみが表示されます。
  - フロート表示 — ユーザは、詳細のフロート表示からレコードに関する情報をすばやく確認した後、クリックして表示または編集できます。各オブジェクトのミニページレイアウトで詳細のフロート表示を管理できます。
  - コンポーネントの名称変更 — Lightningアプリケーションビルダーやコミュニティビルダーで Financial Services Cloud Lightningコンポーネントを簡単に区別できるように、各Financial Services Cloud Lightningコンポーネントに「Financial Services Cloud」というサフィックスが追加されました。

Financial Services Cloud のその他の機能強化

- ローカライズ— Financial Services Cloud は、デンマーク語、オランダ語、イタリア語で使用できるようになりました。

Financial Services Cloud の新規オブジェクトおよび項目

新しい Financial Services Cloud オブジェクトおよび項目の機能が強化されました。

Financial Services Cloud オブジェクトの新規追加

次のカスタムオブジェクトが新規追加されました。

BillingStatement__c
個人の金融口座の請求明細書を表します。

Card__c
この金融口座に関連付けられたクレジットまたはデビットカードを表します。

ChargesAndFees__c
個人の金融口座に対して請求される同意済みの手数料や料金を表します。

Education__c
個人の学歴を表します。

Employment__c
個人の職歴に関する情報を表します。

FinancialAccountTransaction__c
1 つの金融口座のトランザクションに関する情報を表します。

IdentificationDocument__c
個人の本人確認のために使用される書類に関する情報を表します。

Financial Services Cloud オブジェクトの新規カスタム項目

次のカスタム項目が標準オブジェクトおよびカスタムオブジェクトに新規追加されました。

Account 標準オブジェクトにカスタム項目が新規追加されました。

BankNumber__c
電子的な目的で金融企業を識別します。

BorrowingHistory__c
この個人の借入履歴の評価。

BorrowingPriorities__c
ローンアプリケーションの主要目的。

BranchCode__c
金融企業のオフィスまたはビルを識別します。コード形式は、金融企業に基づきます。

BranchName__c
金融企業のオフィスの所在地名。

CreditRating__c
信用度の評価。

CreditScore__c
借り手の信用度の数値による評価。

CustomerID__c
金融企業におけるこの個人の識別番号 (80 文字)。

CustomerSegment__c
個人の市場セグメント。

CustomerType__c
個人の金融カテゴリ。

KYCDate__c
この個人について「お客様を知る」コンプライアンスプログラムが完了した日付。

LastUsedChannel__c
最後に使用した連絡チャネル。

LastTransactionDate__c
最終トランザクションの日付。

LastTransactionDateJointOwner__c
最終トランザクションの日付 - 共同所有者。

LastTransactionDatePrimaryOwner__c
最終トランザクションの日付 - プライマリ所有者。

LengthOfRelationship__c
金融機関における個人の借入期間。

LifetimeValue__c
金融企業にとっての個人の生涯純資産価値。

ReferredByContact__c
この個人を紹介した外部取引先責任者。

ReferredByUser__c
紹介した内部 Salesforce ユーザ。

RelationshipStartDate__c
この個人が会社の顧客になった日付。

BillingStatement__c にカスタムオブジェクト項目が新規追加されました。

BalanceTransfers__c
残高移行の詳細。

BillingPeriodEnd__c
請求期間の終了日。

BillingPeriodStart__c
請求期間の開始日。

CashAdvances__c
請求期間のキャッシングサービス金額。

Deposits__c
請求期間中の口座への預入金額。

EndingBalance__c
請求期間中の口座の不足額。

FeesCharged__c
請求期間中に請求された手数料。

FinancialAccount__c
この請求明細書に関連付けられた金融口座。

InterestThisPeriod__c
請求期間中の口座の発生利息。

InterestYTD__c
発生利息 (年度累計)。

LastPaymentDate__c
口座の最終支払日。

MinimumPaymentDue__c
期日までに必要な最低支払額。

OtherCredits__c
請求期間中に行われたその他のクレジット。

PastDueAmount__c
明細書の日付時点の期日経過未払額。

PaymentDueDate__c
支払期日。

Payments__c
前回明細書以降の受領支払額。

PreviousBalance__c
前評価期間終了時の口座残高。

Purchases__c
請求期間中に行われたその他の購入合計。

SourceSystemId__c
外部データソースで個人を一意に識別する ID。

StatementDate__c
現在の明細書が作成された日付。

Withdrawals__c
請求期間中に行われた現金引き出し。

Card__c にカスタムオブジェクト項目が新規追加されました。

AccountHolder__c
このカードに関連付けられた個人のクレジットまたはデビットの所有者を表します。

Active__c
口座が有効か (true)、否か (false) を示します。デフォルトは true です。

BinNumber__c
この口座の銀行識別番号。

FinancialAccount__c
このカードに関連付けられた金融口座。

OwnershipType__c
このカードの所有権の種別。

SourceSystemId__c
外部データソースの金融口座を一意に識別する ID。

ValidUntil__c
カードが無効になる日付。

ChargesAndFees__c にカスタムオブジェクト項目が新規追加されました。

AnnualAccountCharge__c
年間口座管理手数料。

AnnualMembershipFee__c
クレジットカードの年会費。

APR__c
APR。

APRType__c
APR の種類。

ATMFee__c
ATM 手数料。

BalanceTransferAPR__c
残高移行の APR。

CashAPR__c
現金引き出しに適用される APR。

CashAPRType__c
クレジットカード口座からのキャッシングサービスに適用される APR。

CashAdvanceFee__c
クレジットカード口座からのキャッシングサービスに対する手数料。

ForeignTransactionFee__c
外貨でのクレジットカード購入の手数料。

InsufficientFundsFee__c
残高不足の口座から購入または支払を行おうとした場合の手数料。

InterestRate__c
ローン口座の利率 (APR %).

LatePaymentFee__c
期日までに最低支払額を支払わなかった場合の手数料。

MaximumTransactionFee__c
月間トランザクション上限を超過した場合の手数料。

MonthlyServiceFee__c
月間口座管理手数料。

OverdraftFees__c
利用可能な残高を超える引き出しに対する手数料。

ReplacementCardFee__c
クレジットカードまたはデビットカードの交換手数料。

ReturnedCheckFee__c
残高不足のために拒否された小切手の支払または受領に対する手数料。

SourceSystemId__c
外部データソースで個人を一意に識別する ID。

StatementFee__c
口座明細書の郵送料金。

StopPaymentFee__c
小切手への支払または未処理の支払の停止を要求するための手数料。

Contact 標準オブジェクトにカスタム項目が新規追加されました。

Affiliations__c
クラブ、組織、または同窓会のメンバーシップ。

CommunicationPreferences__c
優先コミュニケーションチャネル。

ContactPreference__c
優先コミュニケーション方法。

CustomerTimezone__c
主タイムゾーン

EmailVerified__c
個人のメールアドレスが検証済みか (true)、否か (false) を示します。

FaxVerified__c
個人の Fax 番号が検証済みか (true)、否か (false) を示します。

HomeOwnership__c
主居住地に対する関係。

HomePhoneVerified__c
自宅の電話番号が検証済みか (true)、否か (false) を示します。

LastFourDigitSSN__c
個人の社会保障番号の下 4 桁。この項目は暗号化されます。

MarketingOptOut__c
個人がマーケティング資料を送信除外しているか (true)、否か (false) を示します。

MobileVerified__c
携帯電話番号が検証済みか (true)、否か (false) を示します。

MostUsedChannel__c
最も頻繁に使用するコミュニケーションチャネル。

MotherMaidenName__c
個人の母親の旧姓。

NextLifeEvent__c
次の大きなライフイベント。

NumberOfChildren__c
子供の数。

PrimaryCitizenship__c
主たる国籍の国。

ReferredByContact__c
この個人を紹介した外部取引先責任者。

ReferredByUser__c
紹介した内部 Salesforce ユーザ。

ReferrerScore__c
0 ～ 100 の値。紹介取引開始率が高いほどスコアが高くなります。

SecondaryCitizenship__c
補助的な国籍の国。

Education__c にカスタムオブジェクト項目が新規追加されました。

Contact__c
個人の名前。

EducationLevel__c
教育のレベル。

GraduationDate__c
対応する教育レベルからの卒業日。

Institution__c
学位を授与した教育機関の名前。

SourceSystemId__c
外部データソースで個人を一意に識別する ID。

Employment__c にカスタムオブジェクト項目が新規追加されました。

AnnualIncome__c
最新の納税申告書で報告された年間総収入。

Contact__c
個人の名前。

EmployerAddress__c
個人の雇用主の住所。

EmployerPhoneNumber__c
雇用主の電話番号。

EmploymentStatus__c
雇用状況。

前雇用主の終了日。
前雇用主での終了日。

LengthOfEmployment__c
雇用年数 (小数点以下第 2 位まで)。

Occupation__c
職種。

Position__c
役職。

SourceSystemId__c
外部データソースで個人を一意に識別する ID。

StartDate__c
個人が現在の雇用主で勤務を開始した日付。

FinancialAccount__c カスタムオブジェクトに新規項目が追加されました。

APY__c
年利 (APY)(分数の場合あり)。

AvailableCredit__c
この金融口座の現在の貸付限度額合計。

BalanceLastStatement__c
前回の明細書に記載された口座残高。

BookedDate__c
手数料またはクレジットが口座に記載された日付。

CashLimit__c
現金引き出しまたはキャッシングの上限額。

CollateralDesc__c
ローンの担保の説明。

CurrentPostedBalance__c
口座の現在の記載残高。

DailyWithdrawalLimit__c
1 日の引き出し可能額。

DrawPeriodMonths__c
個人がクレジット口座から現金を引き出せる期間 (月単位)。

EscrowBalance__c
エスクロー口座の現在の残高。

ExpectedCloseDate__c
引き落とし口座またはローンの予定終了日。

FinancialAccountChargesAndFees__c
口座の Charges および Fees レコードへの参照。

InterestRate__c
利率 (パーセント)。

LastTransactionDate__c
口座の最終トランザクションのタイムスタンプ。

LienHolder__c
金融口座の先取特権者の名前。

LoanAmount__c
ローン金額。

LoanEndDate__c
ローン終了日。

LoanTermMonths__c
ローン期間 (月単位)。

MinimumPayment__c
口座の月間最低支払額。

Nickname__c
金融口座のニックネーム。

OverdraftAllowed__c
口座で当座貸越が許可されるか (true)、否か (false) を示します。

OverdraftLinkedAccount__c
連結先の当座貸越口座への参照。

PaymentAmount__c
口座の月間最低支払額。

PaymentDueDate__c
口座の支払期日。

PaymentFrequency__c
口座の支払頻度。

PendingDeposits__c
口座の保留中の預入。

PendingWithdrawals__c
口座の保留中の引き出し。

PrincipalBalance__c
ローン口座の未払い残高。

RepaymentPeriodMonths__c
返済期間 (月単位)。

RoutingNumber__c
銀行の支店コード。

StatementFrequency__c
明細書の発行頻度。

TotalCreditLimit__c
クレジット総額限度。

Type__c
口座の種類。

FinancialAccountTransaction__c にカスタムオブジェクト項目が新規追加されました。

Amount__c
トランザクションの金額。

BillingStatement__c
この口座に関連付けられた請求明細書レコード。

CardAccountID__c
トランザクションに関連付けられたカード番号。

Description__c
トランザクションの説明。

FinancialAccount__c
トランザクションが関連する金融口座。

MerchantCategoryCode__c
マーチャントカテゴリコード。

PostDate__c
トランザクションが口座に記載された日。

RunningBalance__c
ある時点のトランザクション残高。

SourceSystemId__c
外部データソースのレコード ID。

SourceTransactionType__c
外部データソースのソーストランザクション種別。

TransactionDate__c
トランザクションの日付。

TransactionId__c
外部データソースのトランザクションを一意に識別する ID。

TransactionStatus__c
トランザクションの状況 (保留中または記載済み)。

TransactionType__c
トランザクションの種別 (クレジットまたはデビット)。

IdentificationDocument__c にカスタムオブジェクト項目が新規追加されました。

Account__c
本人確認書類に関連する取引先オブジェクト。

DocumentNumber__c
本人確認書類に記載された番号。

DocumentType__c
個人の本人確認に使用する書類の種類。

ExpirationDate__c
書類の有効期限。

IssueDate__c
書類の発行日。

IssuingCountry__c
書類の発行国。

SourceSystemId__c
外部データソースの金融口座を一意に識別する ID。

VerifiedBy__c
書類を確認した人物の名前。

VerifiedOn__c
本人確認書類が確認された日付。

Lead 標準オブジェクトにカスタム項目が新規追加されました。

CreatedByMe__c
ユーザ取引先責任者がこのリードから取引を開始したかどうかを示します。

ExpressedInterest__c
リードが示している関心領域。

Household__c
リードレコードに関連付けられた世帯レコードの ID。

PotentialValue__c
リードの取引開始による潜在的な価値。

ReferredByContact__c
紹介した外部取引先。

ReferredByUser__c
紹介した内部 Salesforce ユーザ。

ReferrerScore__c
0 ～ 100 の値。紹介取引開始率が高いほどスコアが高くなります。

Opportunity 標準オブジェクトにカスタム項目が新規追加されました。

ReferredByContact__c
この商談を紹介した外部取引先責任者。

ReferredByUser__c
この商談を紹介した内部ユーザ。

User 標準オブジェクトにカスタム項目が新規追加されました。

ReferrerScore__c
0 ～ 100 の値。紹介取引開始率が高いほどスコアが高くなります。

WealthAppConfig__c カスタムオブジェクトに新規項目が追加されました。

RejectedReferralStatus__c
却下された紹介の識別に使用するリード状況。

Financial Services Cloud レコードタイプの新規追加

次のオブジェクトに新規レコードタイプが追加されました。

- BillingStatement: `Credit`、`Debit`

- ChargesAndFees: `Credit`、`Debit`
- FinancialAccount: `Auto Loan`、`Checking Account`、`Credit Card`、`HELOC`、`Loan Account`、`Mortgage`、`Savings Account`
- Lead: `Referral`

Health Cloud: コンソールへの Lightning Experience の導入、Health Cloud によるタイムラインコンポーネントの強化、世帯マップなど

Health Cloud では、ケアコーディネータ、ケア担当者、患者が必要とするツールの提供が大幅に強化されました。ケアコーディネータは、Lightning Experience の素晴らしいユーザインターフェースとコンポーネントを気に入るでしょう。世帯マップによって患者の世帯とリレーションを全体的に把握できることにも満足するに違いありません。患者は、コミュニティにログインし、自分の過去、現在、将来のヘルスケアに関する行動のタイムラインを参照できます。さらに、絞り込み可能なタイムラインや個人アカウントのサポートなど、他にも患者ケアをサポートする多くの機能があります。

エディション

Health Cloud は、Salesforce Classic と Lightning Experience で使用できます。

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

Health Cloud コンソールへの Lightning Experience の導入
患者がコミュニティからタイムラインを参照可能に
世帯マップを使用した患者のリレーションの管理
Health Cloud コンソールと Health Cloud Empower コミュニティタイムラインに表示されるレコードの決定
Health Cloud での個人アカウントのサポート
新規追加または変更された Health Cloud Lightning コンポーネント

Health Cloud コンソールへの Lightning Experience の導入

Health Cloud に新しいコンソールアプリケーションが導入され、Lightning Experience の優れた機能を使用できるようになりました。カスタマイズのサポートやパフォーマンスが向上し、フレームワークには Salesforce や AppExchange からの他の Lightning コンポーネントを組み込めます。

患者がコミュニティからタイムラインを参照可能に

Health Cloud Empower コンポーネントのタイムラインでは、コミュニティにログインしている患者やケア担当者が自分の過去、現在、将来のヘルスケアに関する行動を参照できます。

世帯マップを使用した患者のリレーションの管理

世帯マップには、患者、ケアプラン、ケア担当者、世帯、ビジネス、その他の個人がまとめられ、ケアコーディネータが患者を全体的に把握できます。

Health Cloud コンソールと Health Cloud Empower コミュニティタイムラインに表示されるレコードの決定

検索条件を使用してタイムラインにどのレコードを表示するかを絞り込み、その設定をどのタイムラインに適用するかを指定できるようになりました。

Health Cloud での個人アカウントのサポート

組織で個人アカウントを使用して人を管理している場合に、患者データを個人データモデルに移行することなく Health Cloud を使用できるようになりました。新規のお客様のデフォルトは個人データモデルを使用することですが、すでに個人アカウントを使用しているお客様は、Health Cloud のすべての機能にアクセスできるようになりました。

新規追加または変更された Health Cloud Lightning コンポーネント

患者コミュニティの作成に使用する Health Cloud コンポーネントに新しいコンポーネントが 1 つ追加され、また既存のコンポーネントが改善されました。

Health Cloud オブジェクトの変更

次の Health Cloud オブジェクトが変更されました。

Health Cloud コンソールへの Lightning Experience の導入

Health Cloud に新しいコンソールアプリケーションが導入され、Lightning Experience の優れた機能を使用できるようになりました。カスタマイズのサポートやパフォーマンスが向上し、フレームワークには Salesforce や AppExchange からの他の Lightning コンポーネントを組み込めます。

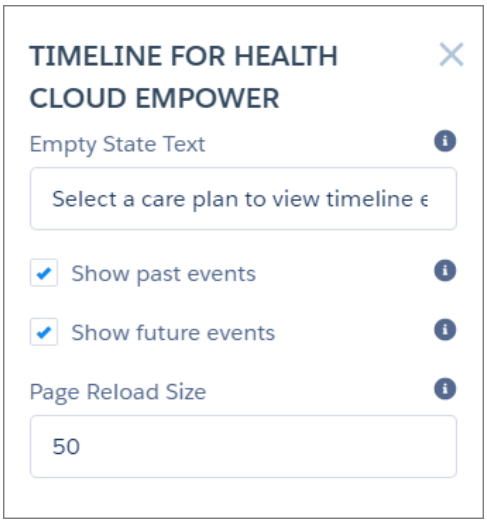
Salesforce Classic の Health Cloud コンソールはまだ使用可能であり、Lightning Experience ユーザは新旧インターフェース間を簡単に移動できます。そのため、Lightning Experience が現時点では最適でなくても、システム管理者やユーザは失敗なく適合性を試してみることができます。

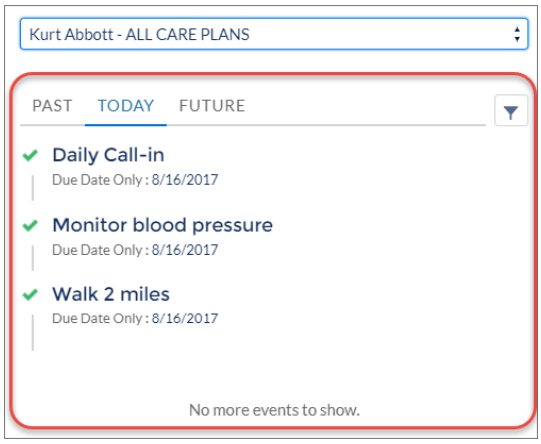
患者がコミュニティからタイムラインを参照可能に

Health Cloud Empower コンポーネントのタイムラインでは、コミュニティにログインしている患者やケア担当者が自分の過去、現在、将来のヘルスケアに関する行動を参照できます。

[タイムラインビューの設定] タブを使用すれば、検索条件を作成して、特定のレコードからのタイムラインに表示される項目を指定できます。必ず、対象設定レコードとして **[Health Cloud Empower のタイムライン]** を選択してください。

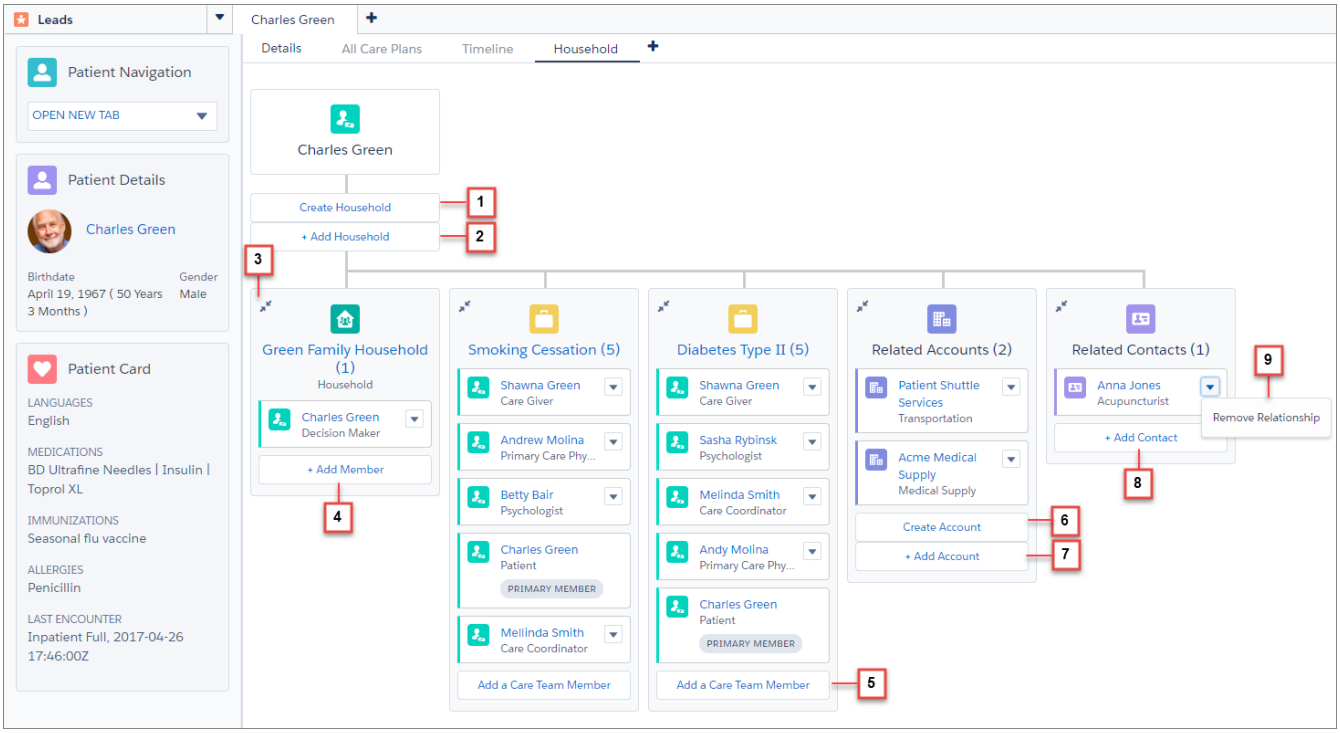
例: Health Cloud Empower のタイムラインの例 (プロパティエディタとコンポーネント)





世帯マップを使用した患者のリレーションの管理

世帯マップには、患者、ケアプラン、ケア担当者、世帯、ビジネス、その他の個人がまとめられ、ケアコーディネータが患者を全体的に把握できます。



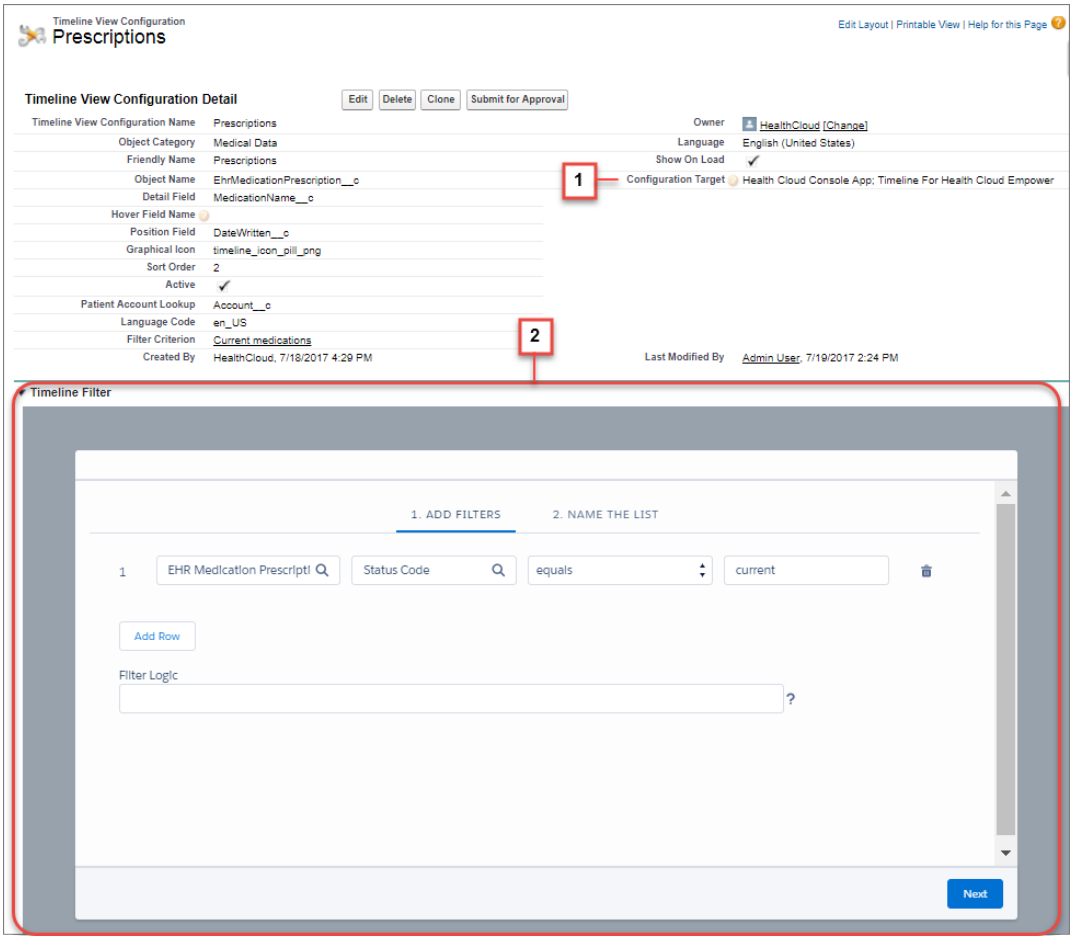
基本マップはすべての患者に作成されます。基本マップには、ケアプランとブランチが表示され、ブランチには関連アカウントや連絡先を追加できます。ケアコーディネータは、情報を追加して次のようにマップを変更できます。

- 世帯を作成し (1)、それをマップに追加する (2)。
- 各リストの項目を見やすいように折りたたんだり展開したりする (3)。
- 世帯に家族やその他の人を追加する (4)。
- メンバーを追加または削除してケアチームを管理する (5)。[ケアプラン] タブおよび [世帯] タブから行った変更は、どちらのタブにも表示されます。
- 医療用品企業や患者搬送企業などのビジネスアカウント (6) を作成し、それらをマップに追加する (7)。
- 患者と同居しておらず、ケアチームの一員でもないが、患者のヘルスケアに関与する人を追加する (8)。
- 患者のヘルスケアに関与しない人やビジネスを削除する (9)。

Health Cloud コンソールと Health Cloud Empower コミュニティタイムラインに表示されるレコードの決定

検索条件を使用してタイムラインにどのレコードを表示するかを絞り込み、その設定をどのタイムラインに適用するかを指定できるようになりました。

優先度が中程度以上の ToDo のみを表示して重要な問題に焦点を絞ることができます。または、表示場所がコミュニティ、Lightning アプリケーション、アカウントレコードページ、ケースレコードページのいずれでも、投薬を Health Cloud コンソールのタイムラインには含め、Health Cloud Empower コンポーネントのタイムラインからは除外することもできます。



項目を表示するタイムラインを選択します (1)。タイムライン設定レコードを Health Cloud コンソールのみに表示するか、Health Cloud Empower コンポーネントのタイムラインのみに表示するか、両方に表示するかを選択できます。その後、タブの下部にある [タイムライン検索条件] コンポーネント (2) を使用して、設定用の検索条件ロジックを作成します。

Health Cloud での個人アカウントのサポート

組織で個人アカウントを使用して人を管理している場合に、患者データを個人データモデルに移行することなく Health Cloud を使用できるようになりました。新規のお客様のデフォルトは個人データモデルを使用することですが、すでに個人アカウントを使用しているお客様は、Health Cloud のすべての機能にアクセスできるようになりました。

新規追加または変更された Health Cloud Lightning コンポーネント

患者コミュニティの作成に使用する Health Cloud コンポーネントに新しいコンポーネントが 1 つ追加され、また既存のコンポーネントが改善されました。

次のコンポーネントが新規追加されました。

Health Cloud Empower のタイムライン
Health Cloud Empower のタイムラインコンポーネントでは、コミュニティにログインした患者が過去、現在、将来のヘルスケアに関する行動を確認できます。

次のコンポーネントが変更されました。

Health Cloud Empower のケアプランセレクタ
次のプロパティが新規追加されました。

- **Show all care plans (すべてのケアプランを表示)** — ユーザが参照権限を持つ患者のすべてのケアプランを表示できるようにします。このオプションは、組織で複数のケアプランが有効な場合にのみ使用できます。
- **Include birth year (誕生年を含める)** — 選択リストに患者の生まれた年を表示します。
- **Show birth month as text (誕生月をテキストとして表示)** — 患者の生まれた月をテキスト (1 月、2 月など) で表示します。

Health Cloud Empower のケアチーム
次のプロパティが新規追加されました。

- **Include care plan owner in list (リストにケアプラン所有者を含める)** — 内部ユーザの場合、ケアチームメンバーのリストにケアプラン所有者を表示します。
- **Care Plan Owner Role Name (ケアプラン所有者ロール名)** — ケアプラン所有者ロールの名前の表示ラベルテキストをカスタマイズできます。たとえば、ナースプラクティショナーがケアプランを作成して所有する場合、デフォルトの代わりにロールとして [Nurse Practitioner (ナースプラクティショナー)] と表示できます。

Health Cloud オブジェクトの変更

次の Health Cloud オブジェクトが変更されました。

TimelineViewConfiguration__c
次の項目が追加されました。

`Configuration_Target__c`
レコードの対象となるタイムラインの選択に使用する選択リスト。患者コミュニティ用と Health Cloud コンソール用にそれぞれ 1 つずつ設定レコードを作成できます。Health Cloud コンソールとコミュニティに同じ項目を表示するには、両方のオプションを選択します。

`FilterCriterion__c`
この設定に適用される検索条件のコレクションの名前。

`Configuration_Target__c`
Account (Patient) を参照する項目の API 参照名。この項目のデフォルトは Account__c です。

> メモ: Contact や Task などの標準オブジェクトに対して配布された Account ルックアップを使用するには、参照項目名に *`Id`* を付加する必要があります。たとえば、Contact から Account へのルックアップを設定するには、この項目に *`AccountId`* を使用します。同様に、Task から What へのルックアップの場合、**WhatId** を使用します。

カスタマイズ: 動的 Lightning ページ、翻訳可能なフロー、カスタム Lightning ページテンプレート

特定のコンポーネントをいつ表示するのかを選択して、Lightningページを動的にします。レコードの変更以外のことが組織内外で発生したとき、プロセスを開始することができます。また、トランスレーションワークベンチを使用して、言語にかかわらず、全ユーザに同じフローを配布することができます。すでにコードを使用しているのであれば、カスタム Lightning ページテンプレートをお試しください。

このセクションの内容:

Lightning アプリケーションビルダー: 動的 Lightning ページ、カスタムテンプレート、カスタムページのコピー

コンポーネントがいつ表示されるのかを制御するルールを設定して、Lightning ページを動的にします。特定のビジネスニーズに合うカスタム Lightning ページテンプレートを作成します。すでに組織内にあるカスタム Lightning ページをコピーすることで時間を節約します。Lightning アプリケーションビルダーは、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。別途記載がない限り、機能の変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Visual Workflow: 翻訳のサポート、新しい待機イベント種別、フローの配布方法の増加

任意の数の言語でフローを翻訳できます。プラットフォームイベントを作成している場合、そのイベントが発生するまで待機するようにフローを設定できます。また、複数の新しいフロー配布方法(カスタムオブジェクト固有のアクション、コミュニティビルダーのコンポーネント、カスタム Lightning コンポーネントまたはアプリケーションのコンポーネント)を利用できます。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

プロセスビルダー: イベントプロセス、ユーザ選択、暗号化サポート

新しい種別のプロセスが導入されました。イベントプロセスは、レコード変更以外のことが発生したときに開始できます。すべてのプロセス種別で、特定のユーザやキューを参照しやすくなりました。さらに、プロセスで暗号化データを参照する機能が正式にリリースされました。

グローバリゼーション: いっそう簡単になった複数通貨の有効化、トランスレーションワークベンチでの XLIFF 形式およびフローのサポート

会社で複数の通貨がサポートされている場合、カスタマーサポートに連絡することなく、マルチ通貨機能を有効化できるようになりました。会社で複数の言語がサポートされている場合、翻訳のインポートおよびエクスポートで XLIFF ファイル形式が新しくサポートされるようになりました。また、トランスレーションワークベンチを使用して組織のフローを翻訳できるようになりました。

Salesforce Connect: Apex の一括処理、外部オブジェクト検証、コールアウト追跡のパイロット継続

Apex 一括処理を使用して、大量の外部オブジェクトデータセットを処理します。Salesforce Connect Validator を使用して、ユーザおよびコードと外部オブジェクトとの一般的なやりとりをすばやくテストします。イベントログファイルによる外部オブジェクトデータコールアウト追跡のパイロット継続についてご意見をお聞かせください。

選択リスト: 選択リスト値の管理の機能強化

選択リスト値の管理が改善されました。

共有: 個人取引先を使用する組織での取引先責任者の手動共有、無効な共有の非同期削除

個人取引先を使用する組織で、取引先責任者の組織の共有設定を変更できるようになりました。これにより、取引先責任者の共有ルールを定義することや、法人取引先責任者を手動で共有することが可能になり、法人取引先責任者を柔軟に共有できるようになりました。無効な共有は非同期で削除されるため、共有が削除されるまで待機せずに他の操作を続行できるようになりました。

AppExchange: 再設計された Web サイト、新しいソリューションタイプ

AppExchange Web サイトが徹底的に再設計され、安全な事前作成済み Salesforce ソリューションを簡単に検索できるようになりました。また、追加された Bolt ソリューションと Lightning データを使用して、さまざまなビジネス上の課題に取り組むことができます。

一般設定: 外部サービスの Swagger、1 時間あたりのワークフロータイムトリガの増加

外部サービスがいくつか改善され、Swagger がサポートされるようになりました。1 時間あたりに要求できるワークフロータイムトリガが増加しました。また、ページレイアウトで使用されているアクションは削除できなくなりました。

Lightning アプリケーションビルダー: 動的 Lightning ページ、カスタムテンプレート、カスタムページのコピー

コンポーネントがいつ表示されるのかを制御するルールを設定して、Lightning ページを動的にします。特定のビジネスニーズに合うカスタム Lightning ページテンプレートを作成します。すでに組織内にあるカスタム Lightning ページをコピーすることで時間を節約します。Lightning アプリケーションビルダーは、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方で使用できます。別途記載がない限り、機能の変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

動的な Lightning ページの作成

条件とロジックをプロパティに追加して、コンポーネントがレコードページに表示される条件を制御できるようになりました。カスタムコンポーネントには何も追加する必要はありません。すべて Lightning アプリケーションビルダーで処理されます。たとえば、[金額]が100万ドルよりも大きいとき、商談ページにリッチテキストコンポーネントを表示する条件を作成します。

カスタムページテンプレートで Lightning ページのカスタマイズをまったく新たなレベルに

Lightning レコードやアプリケーション、ホームページに、標準テンプレート以外を使用できるようになりました。ビジネスニーズに合わせて、構造やコンポーネントを定義して独自のカスタムページテンプレートを作成できます。領域は必要に応じて追加でき、カスタムスタイル設定も可能です。この機能は、Lightning Experience および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

既存のカスタム Lightning ページのコピーによるカスタム Lightning ページの作成

なぜ同じページを何度も作成しなければならないのでしょう? Lightning ページのリストビューまたは詳細ページから Lightning ページをコピーして時間と労力を節約できます。

関連リストのクイックリンクを使用した関連リストデータのすばやい表示

関連リストの列を全部表示するために [すべて表示] をクリックすることに、ユーザがうんざりしていませんか? [関連リストのクイックリンク] コンポーネントを使用すれば、リンクの上にマウスポインタを置くだけで、連続してすばやく、複数の関連リストを表示できます。さらに、フロート表示ペインから直にアクションを実行することもできます。

Cisco Spark のグループ会話コンポーネントを使用してユーザがビデオミーティングの開催やインスタントメッセージの送信をレコードから直接行う

新しい Cisco Spark for Salesforce 機能の一環として、Lightning アプリケーションビルダーで [Cisco Spark のグループ会話] コンポーネントが使用できるようになりました。レコードページにこのコンポーネントを追加すると、アクセスしているレコードから直接、ユーザはビデオミーティングを開始したり、インスタントメッセージの送受信を行ったりすることができます。

Cisco Spark for Salesforce でのユーザによる共有ワークスペースの管理

新しい Cisco Spark for Salesforce 機能の一環として、Lightning アプリケーションビルダーで [Cisco Spark の会話] コンポーネントが使用できるようになりました。このコンポーネントをレコードページに追加すると、ユーザが、レコードへの Cisco Spark ワークスペースのリンクおよびリンク解除、レコードに関連付けられているスペースの表示、スペースの作成、スペースの検索を行うことができます。

更新された検索条件リストコンポーネントの操作習得

検索条件リストコンポーネントがさらに堅牢に、わかりやすくなりました。その過程で、Lightning アプリケーションビルダーの検索条件リストコンポーネントがリストビューという名称に変更され、デザインとプロパティが新しくなりました。

リッチテキストコンポーネントの新しいスタイル

Lightning ページで表示されるときのリッチテキストコンテンツの背景を制御する属性が、リッチテキストコンポーネントに追加されました。この属性はデフォルトで有効になっており、Lightning アプリケーションビルダーでリッチテキストコンポーネントを選択するときにプロパティペインからアクセスできます。この属性が有効になっていると、透明な背景ではなく白い背景のカードとしてリッチテキストが表示されます。この変更により、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web のテキストが読みやすくなります。

カスタムコンポーネントを使用した Lightning ページの設定の簡易化と [私のドメイン] の制限の緩和

カスタムコンポーネントが含まれる Lightning ページの操作に関連する [私のドメイン] の制限が緩和されました。組織で [私のドメイン] が有効になっていない場合でも、Lightning アプリケーションビルダー内外で、カスタムコンポーネントが含まれる Lightning ページを保存および設定できるようになりました。この変更は、カスタム Lightning ページテンプレートとして設定されたコンポーネントには適用されません。

ケースレコードページへのマイルストンの追加

Lightning Experience でマイルストンコンポーネントをケースレコードページに追加できるようになりました。このコンポーネントでユーザは、ケースの有効なマイルストン、完了したマイルストン、違反したマイルストンを確認できます。これまで、ケースマイルストントラッカーは Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

関連レコードコンポーネントで参照のみの項目の表示

関連レコードの詳細が表示される関連レコードコンポーネントに、参照のみの項目が表示されるようになりました。また、関連レコードコンポーネントに関連付けるアクションの設定ページにアクセスできるリンクが Lightning アプリケーションビルダーに追加されました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

フローコンポーネントの変数値の増加

プロパティペインから直接、選択リスト変数と複数選択リスト変数の値を設定できるようになりました。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

[関連リスト – 1 つ] となった関連リストコンポーネント

混乱を避けるために、「–1つ」が関連リストコンポーネントに追加されました。これにより、複数の同階層の関連リストと明確に区別できます。

四半期パフォーマンスコンポーネントからパフォーマンスへの名称変更

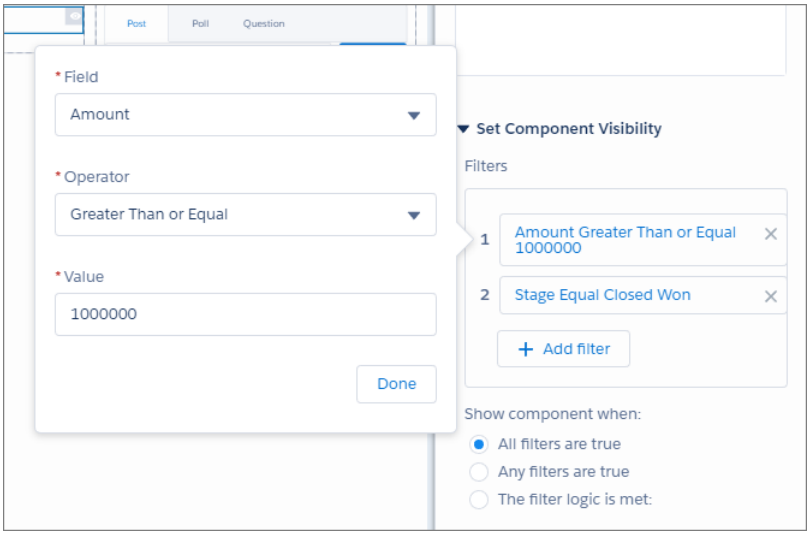
四半期パフォーマンスコンポーネントの名称がパフォーマンスに変更されました。ユーザは引き続き、チームの四半期パフォーマンスを表した、以前と変わらない素晴らしいスナップショットを取得できます。新しい名称になったことで、今後は他のパフォーマンス測定値を表示するために、このコンポーネントを使用できます。誰か「安全策」と言いましたか?

リストビューコンポーネントでサポートされなくなったカスタム設定

リストビュー Lightning コンポーネントの許可されたオブジェクトのリストから CustomSettings が削除されました。CustomSettings を参照するリストビューコンポーネントを含んだ Lightning ページがある場合、別のオブジェクトを参照するようにコンポーネントを設定するか、ページから削除します。

動的な Lightning ページの作成

条件とロジックをプロパティに追加して、コンポーネントがレコードページに表示される条件を制御できるようになりました。カスタムコンポーネントには何も追加する必要はありません。すべて Lightning アプリケーションビルダーで処理されます。たとえば、[金額] が 100 万ドルよりも大きいとき、商談ページにリッチテキストコンポーネントを表示する条件を作成します。



コンポーネントの表示条件は、標準コンポーネント、カスタムコンポーネント、AppExchange のコンポーネントでサポートされています。条件を定義していない場合、コンポーネントは通常どおり Lightning レコードページに表示されます。1つ以上の条件を定義して、コンポーネントの条件ロジックを設定すると、条件ロジックが満たされるまでコンポーネントは非表示になります。

カスタムページテンプレートで Lightning ページのカスタマイズをまったく新たなレベルに

Lightning レコードやアプリケーション、ホームページに、標準テンプレート以外を使用できるようになりました。ビジネスニーズに合わせて、構造やコンポーネントを定義して独自のカスタムページテンプレートを作成できます。領域は必要に応じて追加でき、カスタムスタイル設定も可能です。この機能は、Lightning Experience および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

これらはすべて、Lightning コンポーネントを使用することで実現します。

すべての Lightning ページには、ページの領域とそこに含まれるコンポーネントを定義するテンプレートコンポーネントが用意されています。今回のリリースでは、カスタム Lightning ページテンプレートコンポーネントを作成して、Lightning アプリケーションビルダーの新規ページウィザードで、カスタムページテンプレートとして使用できるようになりました。

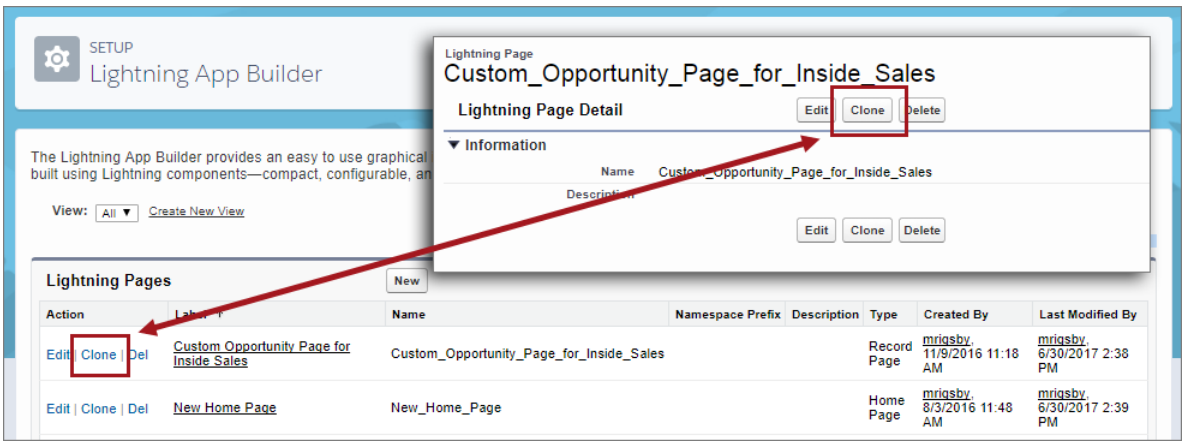
`.cmp` ファイルと `.design` ファイルに使用する新しいインターフェースとタグがあり、テンプレートの構造、領域、そこに含めるコンポーネントを定義するのに役立ちます。テンプレートコンポーネントが実装する必要のあるインターフェースは、ページ種別によって異なります。

- `lightning:appHomeTemplate`
- `lightning:homeTemplate`
- `lightning:recordHomeTemplate`

カスタムページテンプレートコンポーネントを作成する手順と完全なサンプルコードについては、*『Lightning コンポーネント開発者ガイド』*を参照してください。

既存のカスタム Lightning ページのコピーによるカスタム Lightning ページの作成

なぜ同じページを何度も作成しなければならないのでしょう? Lightning ページのリストビューまたは詳細ページから Lightning ページをコピーして時間と労力を節約できます。

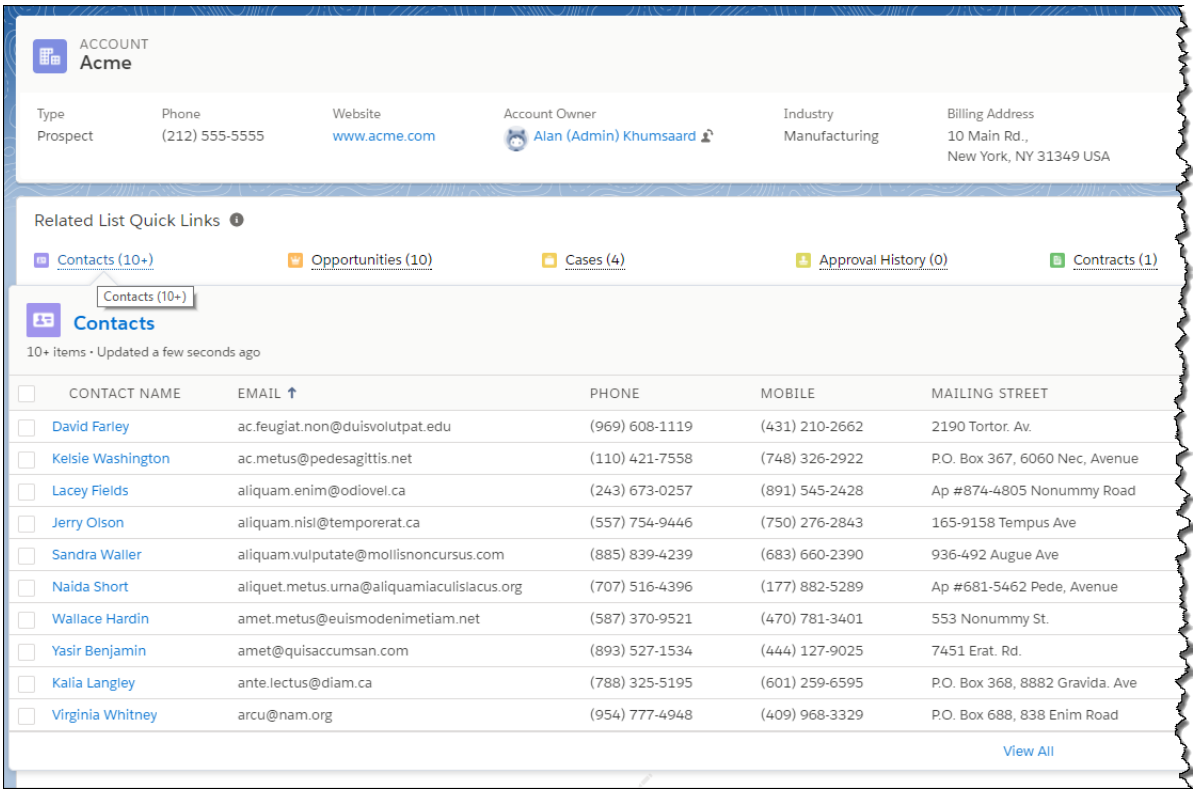


関連リストのクイックリンクを使用した関連リストデータのすばやい表示

関連リストの列を全部表示するために [すべて表示] をクリックすることに、ユーザがうんざりしていませんか?[関連リストのクイックリンク]コンポーネントを使用すれば、リンクの上にマウスポインタを置くだけで、連続してすばやく、複数の関連リストを表示できます。さらに、フロート表示ペインから直にアクションを実行することもできます。

[関連リストのクイックリンク] コンポーネントはレコードページでのみ使用できます。

このコンポーネントには、「大」または「中」のページ領域では 2 行、「小」のページ領域では 6 行の関連リストリンクが表示されます。ユーザは、[すべて表示]をクリックすることで、コンポーネントを展開して残りの関連リストリンクを表示できます。ユーザが関連リストのクイックリンク上にマウスポインタを置くと、関連リストの最初の 10 項目が表示されます。



フロート表示ペインでは、ヘッダーアクション、一括アクション、行アクション、テキストの折り返しをすべて使用できます。Winter '18 時点では、関連リストにドリルインすると、サイズ変更可能な列は固定されますが、フロート表示ペインでは固定されません。

このコンポーネントのコンテンツは、オブジェクトのページレイアウトの関連リストのセットおよびユーザの設定に基づきます。ユーザは、[クイック検索] ボックスに「ページのカスタマイズ」と入力し、[ページのカスタマイズ]を選択してからオブジェクトをクリックすることで、クイックリンクの順序をカスタマイズしたり、表示しないクイックリンクを個人設定から除外したりできます。

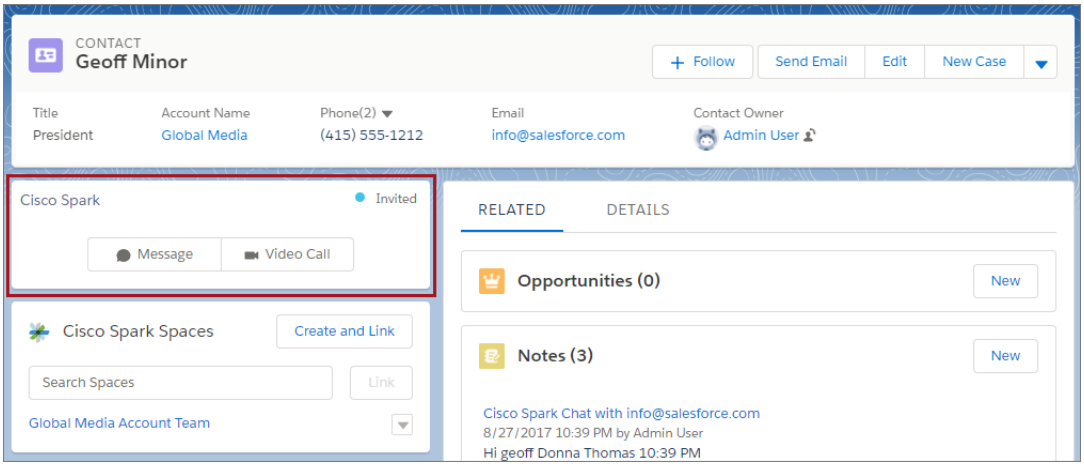
関連トピック:

IdeaExchange: Lightning Experience での 5 項目以上の関連リスト

Cisco Spark のグループ会話コンポーネントを使用してユーザがビデオミーティングの開催やインスタントメッセージの送信をレコードから直接行う

新しい Cisco Spark for Salesforce 機能の一環として、Lightning アプリケーションビルダーで [Cisco Spark のグループ会話] コンポーネントが使用できるようになりました。レコードページにこのコンポーネントを追加すると、アクセスしているレコードから直接、ユーザはビデオミーティングを開始したり、インスタントメッセージの送受信を行ったりすることができます。

メモ: [Cisco Spark のグループ会話] コンポーネントは Lightning ページ上では「Cisco Spark」として表示されます。



[Cisco Spark のグループ会話] コンポーネントがページ上にある場合、ページ上のリンクされた名前の上にユーザがマウスポインタを置くと、追加情報が表示されます。通常のフロート表示情報に加えて、そのユーザの状況 (有効または無効など) も表示されます。

顧客やリードなど、組織外のユーザおよび無料アカウントのユーザの場合、コンポーネントには [組織外] メッセージが表示されます。ただし、その場合でもメッセージとビデオボタンは表示されます。ユーザが Spark アカウントを持っていない場合、コンポーネントには [Spark に招待] が表示され、ボタンが [招待する] に変更されます。ユーザが [招待する] をクリックすると、コンポーネントには会話ウィンドウが表示され、ユーザはメッセージを入力できます。その後、招待されたユーザに、メッセージと Spark アカウントを作成する手順が記載されたメールが送信されます。

[Cisco Spark のグループ会話] コンポーネントはレコードページでのみ使用でき、メール項目を含むページでのみ機能します。このコンポーネントは、Lightning Experience でサポートされるほぼすべての標準オブジェクトとカスタムオブジェクトでサポートされていますが、取引先やリードなど、人に関するページ上で最も有効に機能します。

このコンポーネントは、アプリケーションユーティリティーバーで使用できる [Cisco Spark] コンポーネントと連携して動作します。

このコンポーネントを使用して Lightning アプリケーションビルダーで表示するには、[設定] で [Cisco Spark のメッセージとミーティング] 組織設定を有効にする必要があります。ページにこのコンポーネントを追加するときは、それに関連付けるメールアドレスを選択する必要があります。

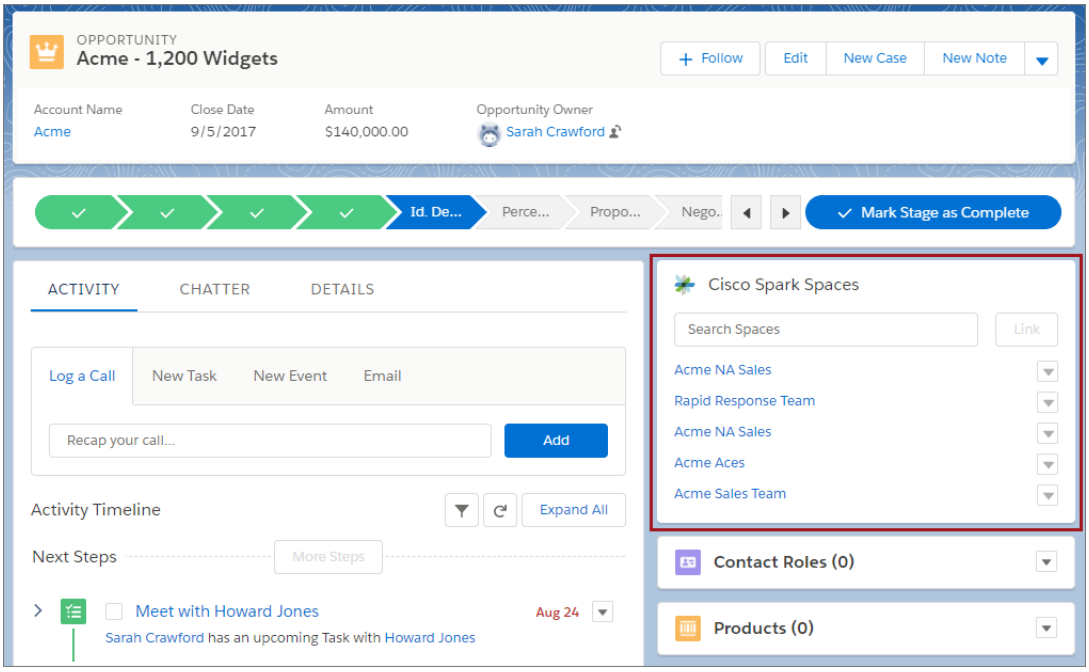
ユーザが「Cisco Spark」ユーザ権限を持っていない場合は、ページにこのコンポーネントが表示されません。

Cisco Spark for Salesforce についての詳細は、「Cisco Spark for Salesforce: Salesforce を離れずに顧客や営業担当とつながる (正式リリース)」を参照してください。

Cisco Spark for Salesforce でのユーザによる共有ワークスペースの管理

新しい Cisco Spark for Salesforce 機能の一環として、Lightning アプリケーションビルダーで [Cisco Spark の会話] コンポーネントが使用できるようになりました。このコンポーネントをレコードページに追加すると、ユーザが、レコードへの Cisco Spark ワークスペースのリンクおよびリンク解除、レコードに関連付けられているスペースの表示、スペースの作成、スペースの検索を行うことができます。

メモ: [Cisco Spark の会話] コンポーネントは Lightning ページ上では「Cisco Spark スペース」として表示されます。



レコードには最大 5 つのスペースをリンクできます。

このコンポーネントは、アプリケーションユーティリティーバーで使用できる [Cisco Spark] コンポーネントと連携します。ユーザがスペースを作成すると、そのスペースは直ちに [Cisco Spark] コンポーネントで使用できるようになります。

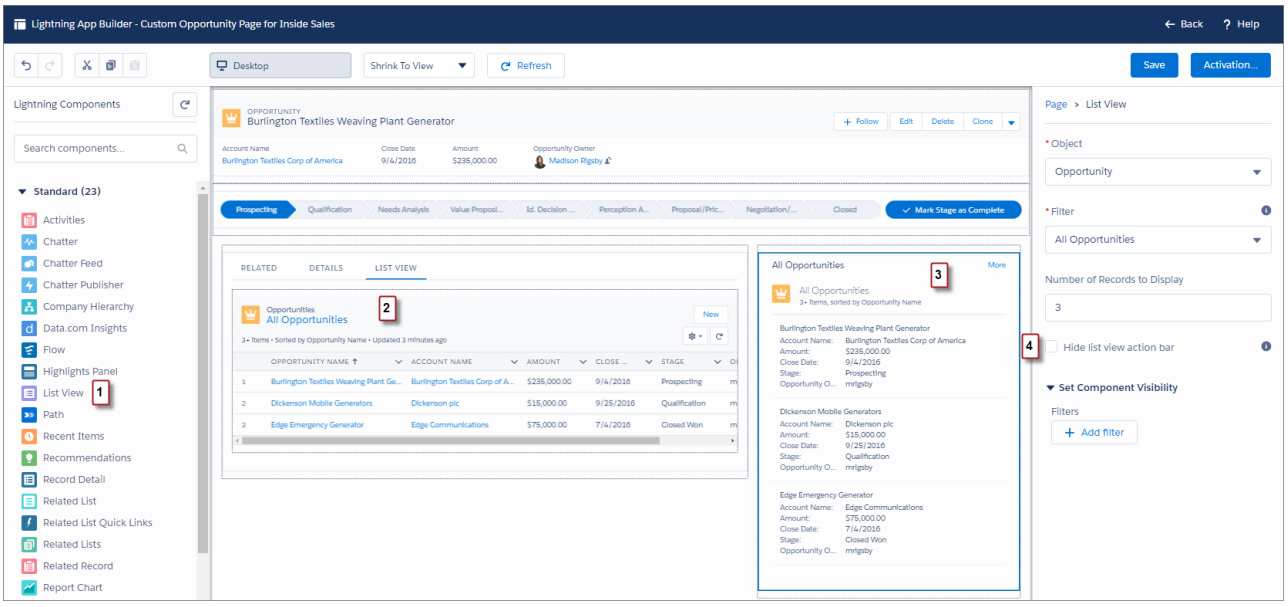
[Cisco Spark の会話] コンポーネントはレコードページでのみ使用できます。

このコンポーネントを使用して Lightning アプリケーションビルダーで表示するには、[設定] で [Cisco Spark のメッセージとミーティング] 組織設定を有効にする必要があります。ユーザが「Cisco Spark」ユーザ権限を持っていない場合は、ページにこのコンポーネントが表示されません。

Cisco Spark for Salesforce についての詳細は、「Cisco Spark for Salesforce: Salesforce を離れずに顧客や営業担当とつながる (正式リリース)」を参照してください。

更新された検索条件リストコンポーネントの操作習得

検索条件リストコンポーネントがさらに堅牢に、わかりやすくなりました。その過程で、Lightning アプリケーションビルダーの検索条件リストコンポーネントがリストビューという名称に変更され、デザインとプロパティが新しくなりました。



新しい名称

コンポーネントが持つ実際の機能を適切に反映するため、リストビューという名前に変更されました (1)。

新しいデザイン

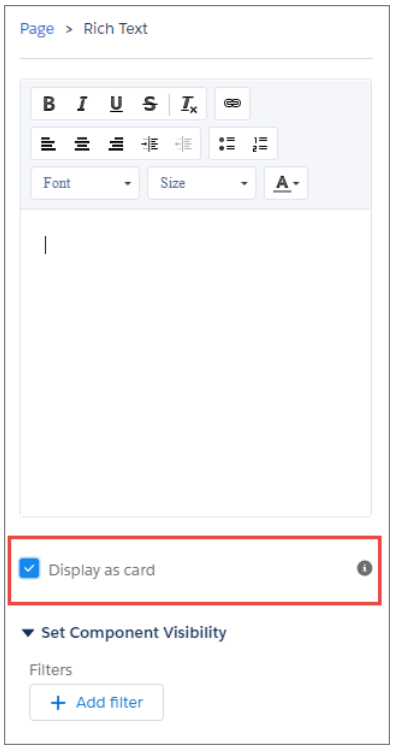
ページ領域が「特大」「大」「中」の場合、リストビューコンポーネントは、オブジェクトのホームページのように、実際のリストビューとして表示されます (2)。ページ領域が「小」の場合、コンポーネントは以前と同じように表示されます (3)。

新しいプロパティ

コンポーネントが完全なリストビューとして表示されている場合、アクションバーを非表示にできます (4)。ページ領域が「小」の場合、または Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web でコンポーネントが表示されている場合、この設定は適用されません。

リッチテキストコンポーネントの新しいスタイル

Lightning ページで表示されるときのリッチテキストコンテンツの背景を制御する属性が、リッチテキストコンポーネントに追加されました。この属性はデフォルトで有効になっており、Lightning アプリケーションビルダーでリッチテキストコンポーネントを選択するときにプロパティペインからアクセスできます。この属性が有効になっていると、透明な背景ではなく白い背景のカードとしてリッチテキストが表示されます。この変更により、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web のテキストが読みやすくなります。



カスタムコンポーネントを使用した Lightning ページの設定の簡易化と [私のドメイン] の制限の緩和

カスタムコンポーネントが含まれる Lightning ページの操作に関連する [私のドメイン] の制限が緩和されました。組織で [私のドメイン] が有効になっていない場合でも、Lightning アプリケーションビルダー内外で、カスタムコンポーネントが含まれる Lightning ページを保存および設定できるようになりました。この変更は、カスタム Lightning ページテンプレートとして設定されたコンポーネントには適用されません。

組織で [私のドメイン] が有効化されていない場合に該当する内容を次に示します。

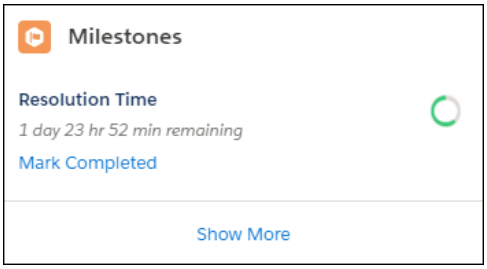
- Tooling API およびメタデータ API を介して、カスタムコンポーネントが含まれる Lightning ページを保存できるようになりました。
- カスタムコンポーネントを持つ Lightning ページが含まれるパッケージをインストールまたはアップグレードできるようになりました。
- カスタムコンポーネントが含まれる Lightning ページを有効化すると、コンポーネントは実行時にページからドロップされます。
- Lightning アプリケーションビルダーの左ペインにあるコンポーネントリストでは、カスタムコンポーネントを使用できません。
- パッケージ経由でインストールまたは API 経由で保存され、カスタムコンポーネントを含んだ Lightning ページは、Lightning アプリケーションビルダーで適切に表示され、保存されます。Lightning アプリケーションビルダーキャンバスで表示する場合、これらのページには [私のドメイン] がないと使用できないことを警告するプレースホルダメッセージと共に、カスタムコンポーネントが表示されます。キャンバスでコンポーネントを選択したり、プロパティペインでそのプロパティを設定したりできます。

所有している管理パッケージの Lightning ページにカスタムコンポーネントが含まれている場合、[私のドメイン] が有効化されていない登録者に対してパッケージの転送アップグレードを行うことができます。

ケースレコードページへのマイルストンの追加

Lightning Experience でマイルストンコンポーネントをケースレコードページに追加できるようになりました。このコンポーネントでユーザは、ケースの有効なマイルストン、完了したマイルストン、違反したマイルストンを確認できます。これまで、ケースマイルストントラッカーは Salesforce Classic でしか使用できませんでした。

メモ: マイルストンコンポーネントは、ケースのレコードページにのみ追加できます。マイルストンコンポーネントは、すべての Lightning アプリケーション (標準アプリケーションとコンソールアプリケーション) で機能します。マイルストンコンポーネントには、Lightning アプリケーションビルダーでカスタマイズするプロパティはありません。[設定] でマイルストンを設定する必要があります。そのため、Lightning アプリケーションビルダーでコンポーネントを追加する前に、エンタイトルメント、エンタイトルメントプロセス、マイルストンが設定されていることを確認してください。



関連トピック:

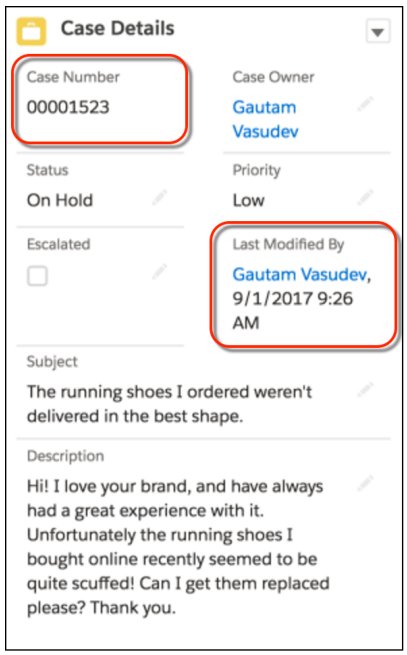
Lightning Experience でのケースマイルストンの追跡

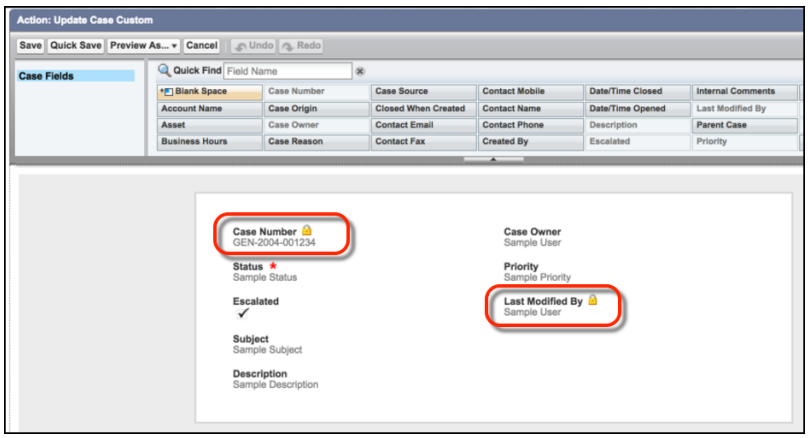
関連レコードコンポーネントで参照のみの項目の表示

関連レコードの詳細が表示される関連レコードコンポーネントに、参照のみの項目が表示されるようになりました。また、関連レコードコンポーネントに関連付けるアクションの設定ページにアクセスできるリンクが Lightning アプリケーションビルダーに追加されました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

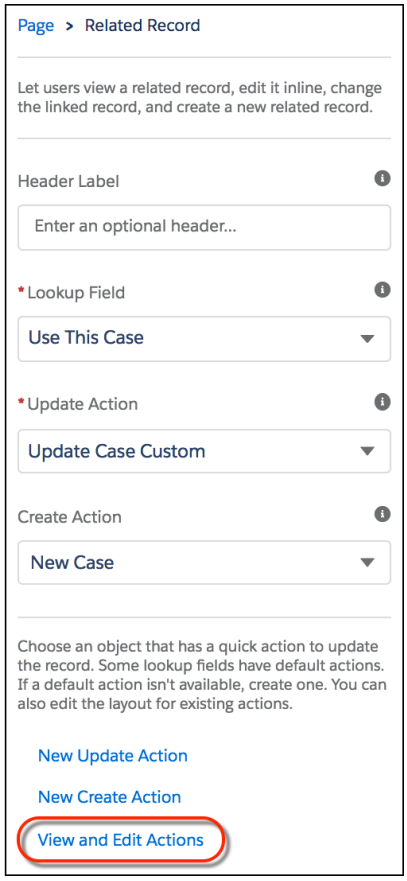
このコンポーネントには、参照のみの [ケース番号] 項目と [最終更新者] 項目が表示されます。

関連付けられているアクションレイアウトを次に示します。





Lightning アプリケーションビルダーで、コンポーネントのプロパティで [アクションを表示および編集] リンクを探します。このリンクを使用して、オブジェクトのクイックアクションの設定ページにアクセスします。そこから、そのアクションで表示されるアクションの編集と項目のカスタマイズができます。



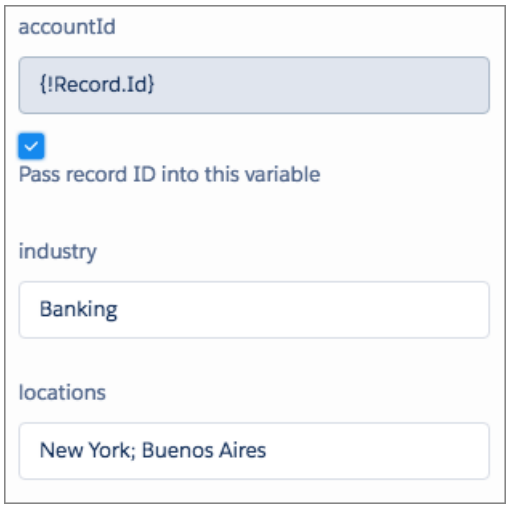
フローコンポーネントの変数値の増加

プロパティペインから直接、選択リスト変数と複数選択リスト変数の値を設定できるようになりました。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

例: Lightning アプリケーションビルダーでのフローコンポーネントで、選択リスト変数 (`industry`) を Banking に、複数選択リスト変数 (`locations`) を New York と Buenos Aires に設定しています。



関連トピック:

選択リスト変数と複数選択リスト変数の値の設定

[関連リスト – 1 つ] となった関連リストコンポーネント

混乱を避けるために、「– 1 つ」が関連リストコンポーネントに追加されました。これにより、複数の同階層の関連リストと明確に区別できます。

四半期パフォーマンスコンポーネントからパフォーマンスへの名称変更

四半期パフォーマンスコンポーネントの名称がパフォーマンスに変更されました。ユーザは引き続き、チームの四半期パフォーマンスを表した、以前と変わらない素晴らしいスナップショットを取得できます。新しい名称になったことで、今後は他のパフォーマンス測定値を表示するために、このコンポーネントを使用できます。誰か「安全策」と言いましたか?

リストビューコンポーネントでサポートされなくなったカスタム設定

リストビュー Lightning コンポーネントの許可されたオブジェクトのリストから CustomSettings が削除されました。CustomSettings を参照するリストビューコンポーネントを含んだ Lightning ページがある場合、別のオブジェクトを参照するようにコンポーネントを設定するか、ページから削除します。

Visual Workflow: 翻訳のサポート、新しい待機イベント種別、フローの配布方法の増加

任意の数の言語でフローを翻訳できます。プラットフォームイベントを作成している場合、そのイベントが発生するまで待機するようにフローを設定できます。また、複数の新しいフロー配布方法(カスタムオブジェクト固有のアクション、コミュニティビルダーのコンポーネント、カスタム Lightning コンポーネントまたはアプリケーションのコンポーネント)を利用できます。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

トランスレーションワークベンチからのフローの翻訳
オブジェクト固有のアクションからのフローの起動 (ベータ)
プラットフォームイベントが発生するまで待機するためのフローの設定
フロー Lightning コンポーネントによる Salesforce 内の任意の場所へのフローの追加
Lightning コミュニティへのフローの追加
選択リスト変数と複数選択リスト変数の値の設定

トランスレーションワークベンチからのフローの翻訳

複数の言語をサポートできるようフローをコピーすることにうんざりしていませんか?トランスレーションワークベンチを使用してフローを翻訳し、フローバージョン間で翻訳を保持できるようになりました。UI でフローを手動翻訳することも、フローをエクスポートおよびインポートして一括翻訳することもできます。

オブジェクト固有のアクションからのフローの起動 (ベータ)

フローの URL を調べることなく Lightning ページのアクションメニューにフローを追加できます。フローアクションを作成する場合、フロー URL を手動で入力するのではなく、使用可能なフローのリストから選択できます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

プラットフォームイベントが発生するまで待機するためのフローの設定

フローの待機要素でプラットフォームイベントを登録できるようになりました。プラットフォームイベントを使用すると、フローは Salesforce 組織の内外で何かが発生するまで待機できます。これまで、フローは相対または絶対日時値でしか待機できませんでした。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方の新機能です。

フロー Lightning コンポーネントによる Salesforce 内の任意の場所へのフローの追加

フロー Lightning コンポーネントが、Lightning アプリケーションビルダーなどの Salesforce ツールに限定されなくなりました。`lightning:flow` Lightning コンポーネントを使用して、カスタムコンポーネントやアプリケーションにフローを追加できます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

Lightning コミュニティへのフローの追加

コミュニティビルダーに新しいコンポーネントが追加されました。フローコンポーネントを使用して、有効なフローを Lightning コミュニティに埋め込みます。

選択リスト変数と複数選択リスト変数の値の設定

Lightning ランタイムで URL から直接、選択リスト変数と複数選択リスト変数の値を設定できるようになりました。この変更により、Lightning フローランタイムは Classic フローランタイムと同等になるため、どちらのランタイム環境を使用していても URL は同じように機能します。この機能は、Lightning アプリケーションビルダーのフローコンポーネントにも追加されました。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

REST API によるフローインタビューのデザインのカスタマイズ (パイロット)

フローとそのインタビューにフルアクセスできる REST API リソースのパイロットを継続します。独自のフローランタイム環境を構築するには、この REST API を使用します。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

フローでの暗号化データへのアクセス (正式リリース)

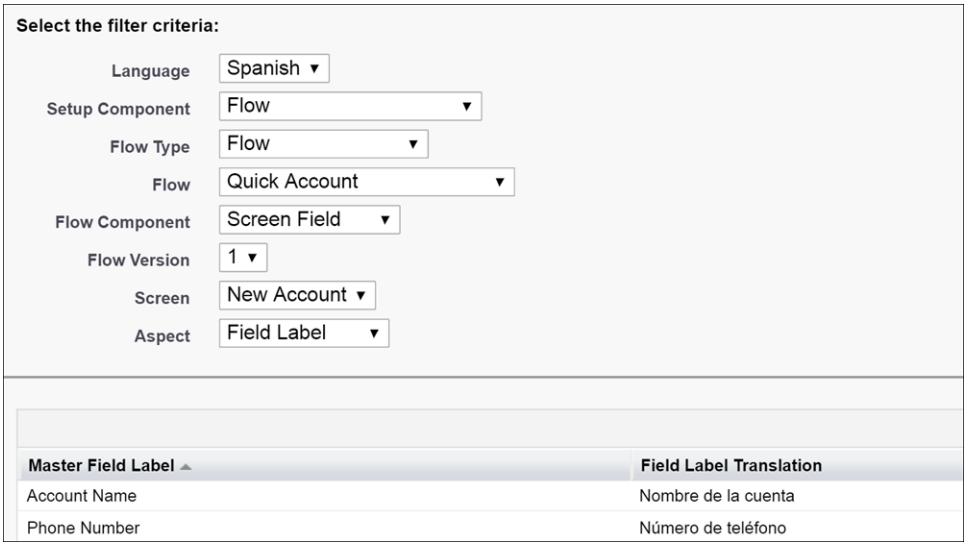
フローで暗号化項目がサポートされるようになりました (ただし、検索条件と並び替え内ではサポートされません)。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

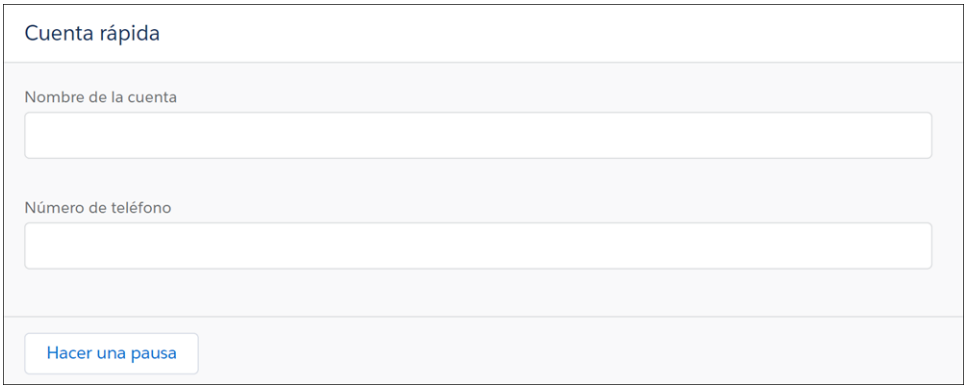
トランスレーションワークベンチからのフローの翻訳

複数の言語をサポートできるようフローをコピーすることにうんざりしていませんか? トランスレーションワークベンチを使用してフローを翻訳し、フローバージョン間で翻訳を保持できるようになりました。UI でフローを手動翻訳することも、フローをエクスポートおよびインポートして一括翻訳することもできます。

フローの次の部分を翻訳できます。

- フロー定義名
- フローバージョン名
- 画面レベルのヘルプテキストと一時停止メッセージ
- 画面入力項目と画面出力項目: 表示ラベル、エラーメッセージ、ヘルプテキスト
- 選択肢: 表示ラベル、エラーメッセージ、入力ラベル





別のフローバージョンを作成したり、新規フローとして保存したりするとき、翻訳が失われることを心配する必要はありません。フローの翻訳は、Salesforce によって新しいバージョンまたはフローにコピーされます。

関連トピック:

IdeaExchange: Visual Workflow / Flow translation for labels and fields (Visual Workflow / フローの表示ラベルおよび項目の翻訳)

オブジェクト固有のアクションからのフローの起動 (ベータ)

フローの URL を調べることなく Lightning ページのアクションメニューにフローを追加できます。フローアクションを作成する場合、フロー URL を手動で入力するのではなく、使用可能なフローのリストから選択できます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンのフローアクションが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。フローアクションは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。フローアクションについてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

フローアクションは、単に組織のフローをコールすることはできません。フローアクションとして機能させるには、フローを有効化して、その画面を設定する必要があります。

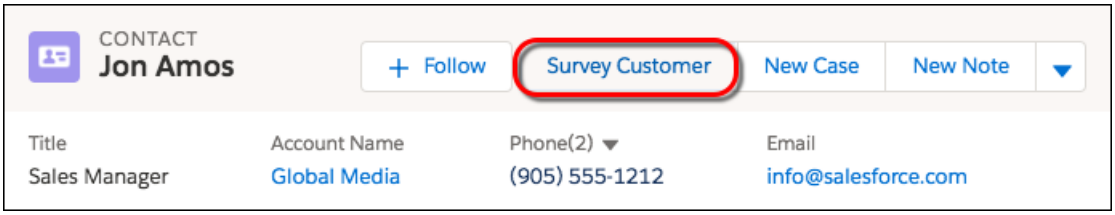
フローアクションを作成するには、オブジェクト固有のアクションを作成するときに [アクション種別] ドロップダウンから [フロー] (ベータ) を選択します。ページレイアウトエディタを使用して、フローアクションをオブジェクトのページレイアウトに追加できます。ページレイアウトエディタで組織のフローアクションを確認するには、パレットの [Salesforce1 および Lightning のアクション] カテゴリを参照します。

ヒント: フローで操作対象のレコードの ID が必要になる場合でも、心配はいりません。`recordId` というテキスト入力変数があれば、Salesforce によってレコード ID がフローに送信されます。

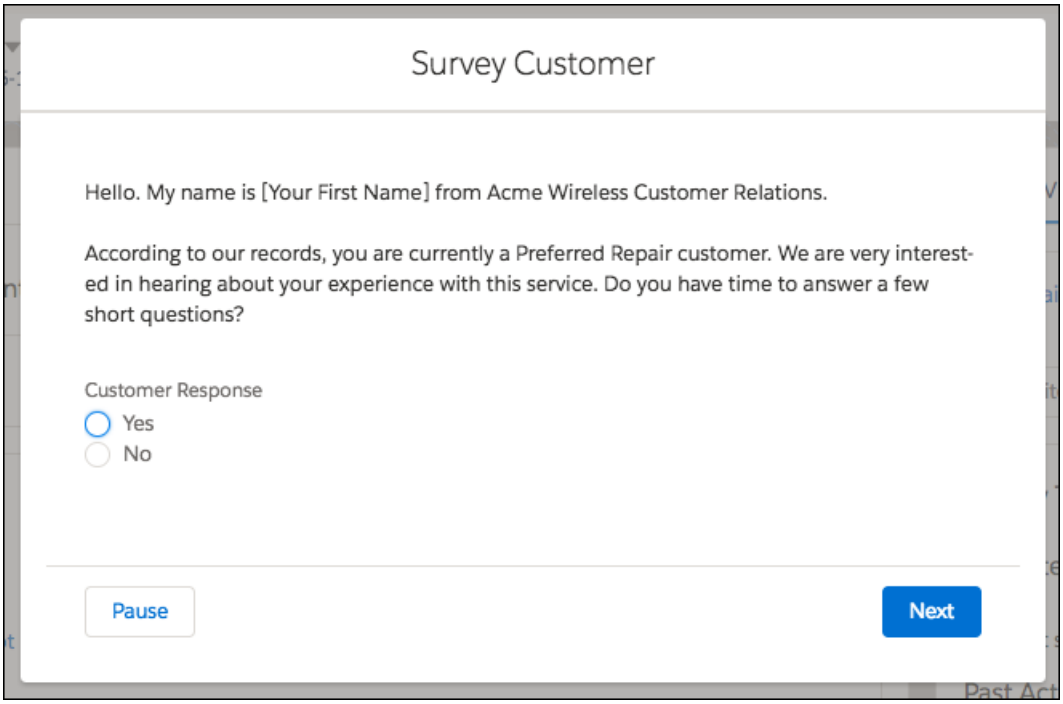
フローアクションをグローバルアクションにすることはできません。また、パッケージ化などを使用して他の組織にリリースすることもできません。

例: [Survey Customer (顧客調査)] フローのフローアクションを作成して、取引先責任者ページレイアウトに追加するとします。

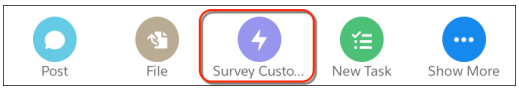
このアクションは Lightning Experience の取引先責任者では次のように表示されます。



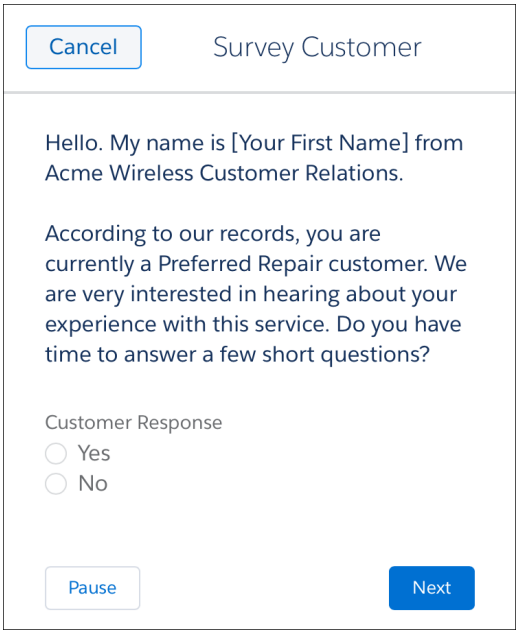
次に、ユーザが [Survey Customer (顧客調査)] フローアクションをクリックすると、フローがどのように表示されるのかを示します。



このアクションは取引先責任者の Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web アクションバーでは次のように表示されます。



ユーザが Salesforce for Android、Salesforce for iOS、および Salesforce モバイル Web で [Survey Customer (顧客調査)] フローアクションをタップすると、フローは次のように表示されます。

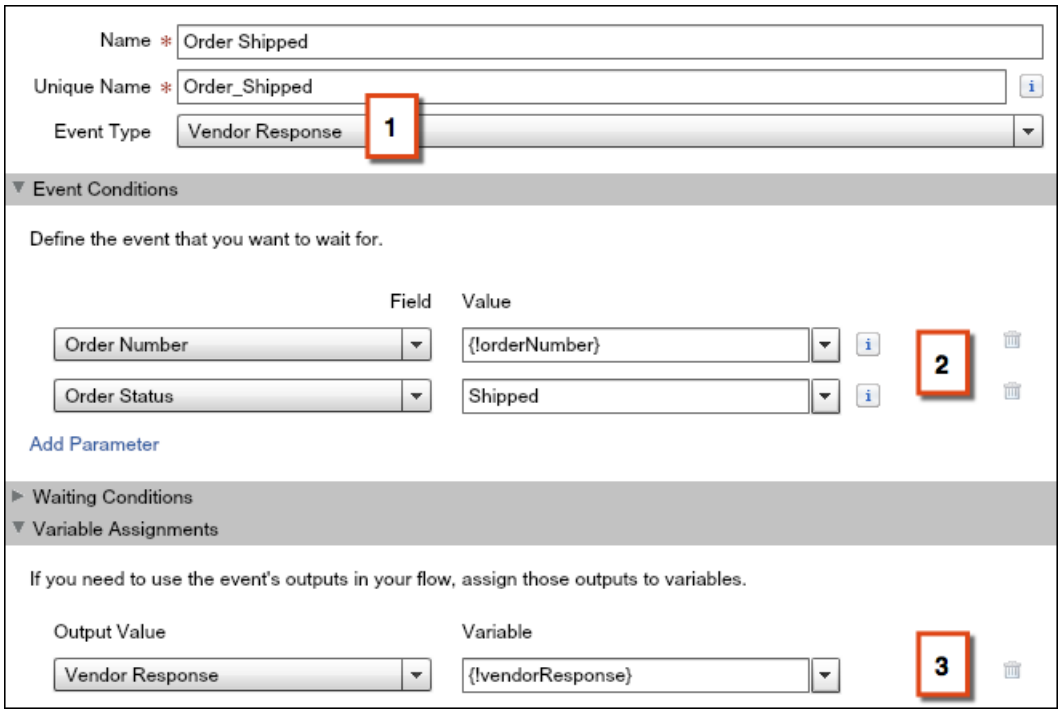


プラットフォームイベントが発生するまで待機するためのフローの設定

フローの待機要素でプラットフォームイベントを登録できるようになりました。プラットフォームイベントを使用すると、フローはSalesforce組織の内外で何かが発生するまで待機できます。これまで、フローは相対または絶対日時値でしか待機できませんでした。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方の新機能です。

例: [Order Printer Supplies (プリンタ用品の注文)] フローで、インクや用紙の補充のために注文を送信します。プリンタ用品が発送されると、推定配送日の翌日にプリンタ用品を設置するタスクがフローで作成されます。

次の例では、[Vendor Response (ベンダー応答)] プラットフォームイベントが公開されるまで待機するようにフローを設定します (1)。イベントに適切な注文番号が設定されており、その状況は [発送済み] である必要があります (2)。イベントのデータを sObject 変数に渡して、フローの別の部分で推定配送日を参照します (3)。



関連トピック:

プラットフォームイベントが発生したときのプロセスの開始

フロー Lightning コンポーネントによる Salesforce 内の任意の場所へのフローの追加

フロー Lightning コンポーネントが、Lightning アプリケーションビルダーなどの Salesforce ツールに限定されなくなりました。`lightning:flow` Lightning コンポーネントを使用して、カスタムコンポーネントやアプリケーションにフローを追加できます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

ヒント: Visualforce ページに Lightning ランタイムでフローを表示したいと思いませんか? Visualforce ページにフロー Lightning コンポーネントを埋め込むことで、それが可能になりました。

例: 次の例では「Calculate Discounts (商談の割引計算)」フロー (「割引計算機能の構築」Trailhead プロジェクトのもの) を表示します。`inputVariables` 属性は `Opportunity.Id` と `Opportunity.AccountId` をフローの入力変数に渡します。

```
<aura:component>
   <aura:handler name="init" value="{!this}" action="{!c.init}"/>
   <lightning:flow aura:id="flow" onstatuschange="{!c.statusChange}"/>
</aura:component>
```

クライアント側コントローラでインタビューの入力変数を初期化した後、インタビューを開始して、インタビューの完了時に何を行うのかを決定します。

```
({
  init : function (cmp) {
    var flow = cmp.find("flow");
    var inputVariables = [
      {
        name : 'OpportunityID',
        type : 'String',
        value : 'Opportunity.Id'
      },
      {
        name : 'AccountID',
        type : 'String',
        value : 'Opportunity.AccountId'
      }
    ];
    flow.startFlow("Calculate_discounts", inputVariables);
  },

  statusChange : function (cmp, event) {
    if(event.getParam('status') === "FINISHED") {
      //Do something
    }
  }
})
```

関連トピック:

IdeaExchange: Add attribute to flow:interview component to render flow in the Lightning UX (flow:interview コンポーネントに属性を追加して Lightning UX にフローを表示する)

IdeaExchange: Support for Flows in Lightning and the Salesforce app (Lightning および Salesforce アプリケーションでのフローのサポート)

Lightning コミュニティへのフローの追加

コミュニティビルダーに新しいコンポーネントが追加されました。フローコンポーネントを使用して、有効なフローを Lightning コミュニティに埋め込みます。

関連トピック:

Lightning コミュニティページへのフローの埋め込み

選択リスト変数と複数選択リスト変数の値の設定

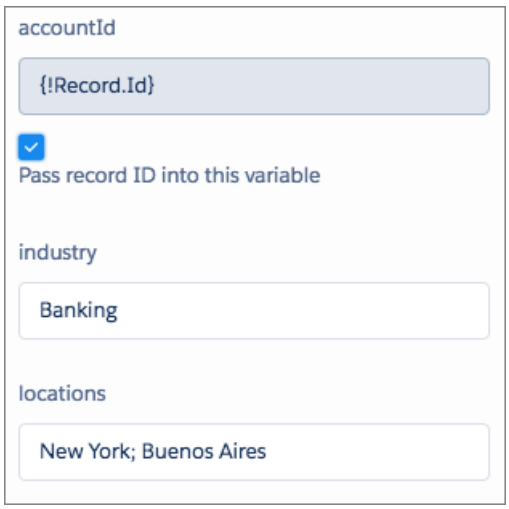
Lightning ランタイムで URL から直接、選択リスト変数と複数選択リスト変数の値を設定できるようになりました。この変更により、Lightning フローランタイムは Classic フローランタイムと同等になるため、どちらのランタイム環境を使用していても URL は同じように機能します。この機能は、Lightning アプリケーションビルダーのフローコンポーネントにも追加されました。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

メモ: Lightning ランタイムと Classic ランタイムは、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方のデスクトップ環境で使用できます。

例: 次に、選択リスト変数 (`industry`) を Banking に、複数選択リスト変数 (`locations`) を New York と Buenos Aires に設定するフロー URL を示します。

```
/flow/flowName?accountId={!Account.Id}&industry=Banking&locations=New York; Buenos
      Aires
```

次に、Lightning アプリケーションビルダーで同様の例を示します。



関連トピック:

フローコンポーネントの変数値の増加

REST API によるフローインタビューのデザインのカスタマイズ (パイロット)

フローとそのインタビューにフルアクセスできる REST API リソースのパイロットを継続します。独自のフローランタイム環境を構築するには、この REST API を使用します。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

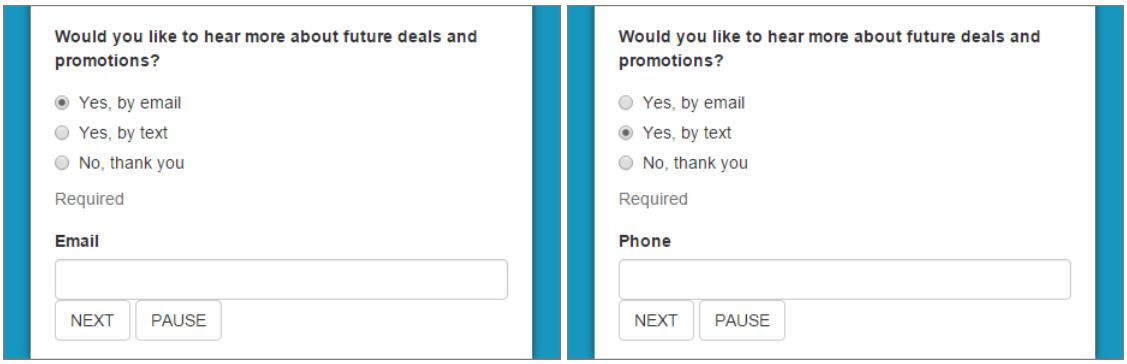
メモ: フローランタイム REST API は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。フローランタイム

REST API は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。フローランタイム REST API についてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

この API を使用して実行できることを次にいくつか示します。

- 会社のブランド設定を適用する
- 2 列のレイアウトを作成する
- 選択ボタンを作成する。ユーザは選択を行ってから [次へ] をクリックする必要がありません。
- ユーザの応答に基づいて画面を動的に更新する

例: この画面では、最初の項目の回答に基づいてテキストボックスが変わります。[はい (メールによる)] を選択すると、テキストボックスはメールアドレスの入力を要求します。[はい (テキストによる)] を選択すると、テキストボックスは代わりに電話番号の入力を要求します。



Summer '17 以降の変更点を次に示します。

このセクションの内容:

XML でのフローランタイム REST API 要求の実行 (パイロット)
フローランタイム REST API のすべてのリソースで、JSON だけでなく XML 形式もサポートされるようになりました。

新しいインタビューのリクエストボディで想定されるようになった対応付け (パイロット)
インタビューの作成で想定されるリクエストボディが変更されました。これまで、リストが想定されていましたが、対応付けが想定されるようになりました。この変更は `POST /services/data/v***XX.X***/process/interviews/***flowName***` に適用されます。

すべてのフローランタイム REST リソースでの末尾のスラッシュの使用 (パイロット)
フローランタイム REST API のすべてのリソースで、要求の末尾のスラッシュがサポートされるようになりました。そのため、`/services/data/v***XX.X***/process/interviews/` と `/services/data/v***XX.X***/process/interviews` は同じように機能します。

関連トピック:

新しいリソース: Flows と Flow Interviews (パイロット)

XML でのフローランタイム REST API 要求の実行 (パイロット)

フローランタイム REST API のすべてのリソースで、JSON だけでなく XML 形式もサポートされるようになりました。

メモ: フローランタイム REST API は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。フローランタイム REST API は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。フローランタイム REST API についてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

例: 次に、フローインタビューを一時停止するための XML 応答を示します。

```
<NavigateFlowInterviewResults xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <NavigateFlowInterviewResult>
    <availableActions>
      <id>RESUME</id>
      <label>Resume</label>
    </availableActions>
    <flowLabel/>
    <guid/>
    <helpText xsi:nil="true"/>
    <interviewStatus>WAITING</interviewStatus>
    <pausedText>This flow interview is paused. You can resume it from the Home
tab.</pausedText>
    <screenName>StartScreenName</screenName>
    <state/>
  </NavigateFlowInterviewResult>
</NavigateFlowInterviewResults>
```

新しいインタビューのリクエストボディで想定されるようになった対応付け (パイロット)

インタビューの作成で想定されるリクエストボディが変更されました。これまで、リストが想定されていましたが、対応付けが想定されるようになりました。この変更は `POST /services/data/v***XX.X***/process/interviews/***flowName***` に適用されます。

メモ: フローランタイム REST API は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。フローランタイム REST API は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。フローランタイム REST API についてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

例: 空のリクエストボディ

入力変数を設定せずにインタビューを開始するには、空のリストではなく、空の対応付けを使用します。

Summer '17 以前	Winter '18 以降
`[ ]`	`{ }`

例: 入力変数を設定するリクエストボディ

Summer '17 以前	Winter '18 以降

`[ { "inputs" : {`
`"accountId" : "001D000000K2Fut",`
`"opptyId" : "006D000000CzKuI"`
`}`
`} ]`
	`{ "inputs" : {`
	`"accountId" : "001D000000K2Fut",`
	`"opptyId" : "006D000000CzKuI"`
	`}`
	`}`

すべてのフローランタイム REST リソースでの末尾のスラッシュの使用 (パイロット)

フローランタイム REST API のすべてのリソースで、要求の末尾のスラッシュがサポートされるようになりました。そのため、`/services/data/v`***`XX.X`***`/process/interviews/` と `/services/data/v`***`XX.X`***`/process/interviews` は同じように機能します。

メモ: フローランタイム REST API は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。フローランタイム REST API は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。フローランタイム REST API についてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

フローでの暗号化データへのアクセス (正式リリース)

フローで暗号化項目がサポートされるようになりました (ただし、検索条件と並び替え内ではサポートされません)。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

例: [取引先名] を暗号化している場合、その項目の値を更新することはできますが、その項目に基づいて絞り込みまたは並び替えを行うことはできません。

関連トピック:

フローおよびプロセスビルダーを使用した暗号化データへのアクセス (正式リリース)

プロセスビルダー: イベントプロセス、ユーザ選択、暗号化サポート

新しい種別のプロセスが導入されました。イベントプロセスは、レコード変更以外のことが発生したときに開始できます。すべてのプロセス種別で、特定のユーザやキューを参照しやすくなりました。さらに、プロセスで暗号化データを参照する機能が正式にリリースされました。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

プラットフォームイベントが発生したときのプロセスの開始
Salesforce 組織のレコードの変更に基づいてビジネスプロセスを自動化することの効果はすでにご存じだと思いますが、ビジネスに欠かせないイベントが Salesforce データベース内で発生しない場合はどうすればよいのでしょうか?問題ありません。プラットフォームイベントが発生したときに開始するプロセスを作成します。 この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方の新機能です。

プロセスでの特定のユーザやキューの迅速な参照
直感的な方法によって、ユーザをプロセスで参照できるようになりました。ユーザ ID を手動で入力するのではなく、そのユーザを名前のみで検索します。また、キューを検索することもできます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

プロセスビルダーでの暗号化データへのアクセス (正式リリース)
プロセスビルダーで暗号化項目がサポートされるようになりました ([レコードを更新] アクションの検索条件の場合を除く)。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方の新機能です。

プラットフォームイベントが発生したときのプロセスの開始

Salesforce 組織のレコードの変更に基づいてビジネスプロセスを自動化することの効果はすでにご存じだと思いますが、ビジネスに欠かせないイベントが Salesforce データベース内で発生しない場合はどうすればよいのでしょうか?問題ありません。プラットフォームイベントが発生したときに開始するプロセスを作成します。 この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方の新機能です。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

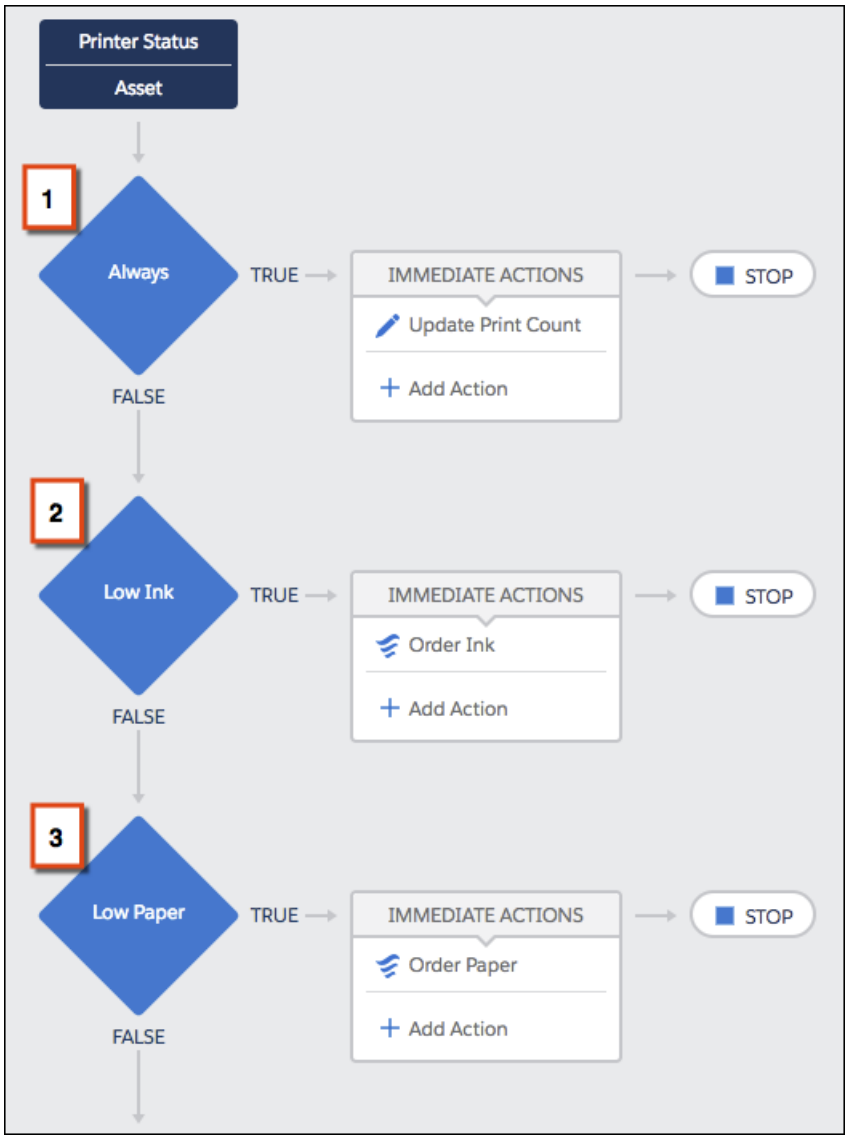
最も基本的なレベルでは、プロセスは if/then ステートメントと類似しています。これまで「if」は、「作成または編集されたレコードに、ある値が含まれている場合」をはじめとした定型的な条件にすぎませんでした。プラットフォームイベントでは「if」を完全に制御できます。レコードの作成時または更新時にプロセスをトリガすることに限定されません。Salesforce でイベントに関する REST コールを受信できれば、プロセスを開始できます。

1. プラットフォームイベントが発生したときに開始するプロセスを作成します。
2. トリガとしてプラットフォームイベントを選択し、イベントを組織のレコードと照合します。
3. 残りのプロセスを設定します。

例: プラットフォームイベントと Salesforce REST API を使用して、営業時間の最後にプリンタで [Printer Status (プリンタの状況)] イベントを公開します。このイベント通知には、プリンタのシリアル番号、インクや用紙の量、合計印刷ページ数が含まれます。

Salesforce で [Printer Status (プリンタの状況)] イベントを受信すると、プリンタ管理プロセスはシリアル番号を使用して、Salesforce組織の一致する納入商品を検索します。一致を見つけた場合、プロセスはイベントのデータを評価します。

1. 常に納入商品の印刷数を更新する。
2. インクが少なくなったら、追加のインクを注文して、インクカートリッジを設置するサービス技術者を割り当てるためのフローを起動する。
3. 用紙が少なくなったら、追加の用紙を注文して、用紙を追加するサービス技術者を割り当てるためのフローを起動する。



関連トピック:

プラットフォームイベントが発生するまで待機するためのフローの設定

プロセスでの特定のユーザやキューの迅速な参照

直感的な方法によって、ユーザをプロセスで参照できるようになりました。ユーザ ID を手動で入力するのではなく、そのユーザを名前のみで検索します。また、キューを検索することもできます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

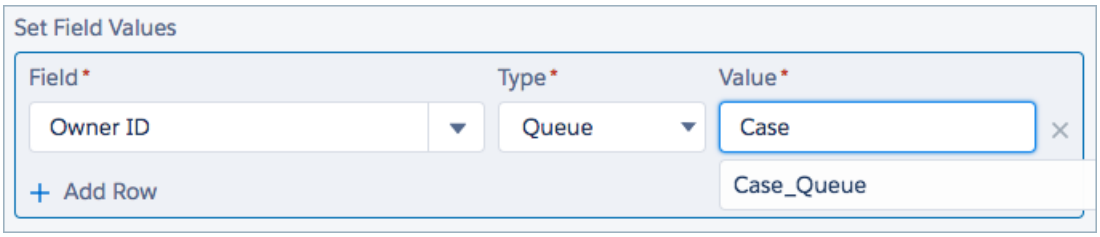
ID や参照値の種別を使用できなくなったわけではありません。引き続きユーザ ID やキュー ID を手動で入力したり、関連レコードの項目値を参照したりできます。

メモ: Winter '18 より前に作成された条件またはアクション行では、ユーザとキューは使用できません。既存のプロセスでこの新しい種別のいずれかを使用するには、新しい行を作成します。

例: ケースを作成するアクションを設定する場合、この値の種別のいずれかを、所有者 ID 用に選択できます。ケースに対して少なくとも 1 つのキューが有効になっていることを前提としています。

- ID
- 参照
- グローバル定数
- 数式
- ユーザ
- キュー

ケースをキューに割り当てるには、[種別] で [キュー] を選択し、[値] で入力を開始して適切なケースを検索します。



プロセスビルダーでの暗号化データへのアクセス (正式リリース)

プロセスビルダーで暗号化項目がサポートされるようになりました ([レコードを更新] アクションの検索条件の場合を除く)。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方の新機能です。

例: [取引先名] を暗号化している場合、その項目の値は更新できますが、その項目に基づいて絞り込むことはできません。

関連トピック:

フローおよびプロセスビルダーを使用した暗号化データへのアクセス (正式リリース)

グローバリゼーション: いっそう簡単になった複数通貨の有効化、トランスレーションワークベンチでの XLIFF 形式およびフローのサポート

会社で複数の通貨がサポートされている場合、カスタマーサポートに連絡することなく、マルチ通貨機能を有効化できるようになりました。会社で複数の言語がサポートされている場合、翻訳のインポートおよびエクスポートで XLIFF ファイル形式が新しくサポートされるようになりました。また、トランスレーションワークベンチを使用して組織のフローを翻訳できるようになりました。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

サポートへ連絡せずにマルチ通貨を有効化
Salesforce カスタマーサポートに連絡したり、組織をロックしたりせずに、マルチ通貨を直ちに有効化できるようになりました。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

XLIFF 形式での翻訳ファイルのインポートとエクスポート
ローカライズがいっそう簡単になりました。トランスレーションワークベンチで翻訳ファイルの作業をするとき、希望する翻訳ファイル形式として、XML Localization Interchange File Format (XLIFF) または Salesforce 翻訳形式 (STF) を選択できます。

トランスレーションワークベンチでのフローのサポート
トランスレーションワークベンチに新しい設定コンポーネントのフローが追加されました。これを使用すると、フロー内のほとんどの表示ラベルに、翻訳済みの表示ラベルを提供できます。

サポートへ連絡せずにマルチ通貨を有効化

Salesforce カスタマーサポートに連絡したり、組織をロックしたりせずに、マルチ通貨を直ちに有効化できるようになりました。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

この機能を有効化するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*組織情報*」と入力します。次に、[組織情報] を選択し、[編集] をクリックします。[マルチ通貨の有効化] を有効化して、変更を保存します。

警告: マルチ通貨を有効化すると、組織に永続的な変更が適用されます。この機能は無効化できません。有効化する前に「マルチ通貨の有効化による影響」を確認しておいてください。

XLIFF 形式での翻訳ファイルのインポートとエクスポート

ローカライズがいっそう簡単になりました。トランスレーションワークベンチで翻訳ファイルの作業をするとき、希望する翻訳ファイル形式として、XML Localization Interchange File Format (XLIFF) または Salesforce 翻訳形式 (STF) を選択できます。

トランスレーションワークベンチでのフローのサポート

トランスレーションワークベンチに新しい設定コンポーネントのフローが追加されました。これを使用すると、フロー内のほとんどの表示ラベルに、翻訳済みの表示ラベルを提供できます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

関連トピック:

- トランスレーションワークベンチからのフローの翻訳

Salesforce Connect: Apex の一括処理、外部オブジェクト検証、コールアウト追跡のパイロット継続

Apex 一括処理を使用して、大量の外部オブジェクトデータセットを処理します。Salesforce Connect Validator を使用して、ユーザおよびコードと外部オブジェクトとの一般的なやりとりをすばやくテストします。イベントログファイルによる外部オブジェクトデータコールアウト追跡のパイロット継続についてご意見をお聞かせください。

エディション

使用可能なエディション: **Developer** Edition

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

- Apex 一括処理を使用した大量の外部オブジェクトデータセットの処理
- 外部オブジェクトデータへのアクセスの検証

Apex 一括処理を使用した大量の外部オブジェクトデータセットの処理

`Database.QueryLocator` を使用して Apex の一括処理から外部オブジェクトにアクセスできるようになりました。以前は、`Iterable<sObject>` のみがサポートされていました。`QueryLocator` オブジェクトでは、単純なクエリ (`SELECT`) を使用して、一括処理ジョブのオブジェクト範囲を生成できます。また、`QueryLocator` オブジェクトを使用する場合、SOQL クエリによって取得されるレコード合計数の制限は無視されます。ただし、Salesforce Connect の OData アダプタには、いくつかの要件と特殊な動作が適用されます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

外部オブジェクトデータへのアクセスの検証

ユーザやコードと新規または変更された外部オブジェクトのやりとりを行う前に、外部データにアクセスするときの潜在的な問題を明らかにします。AppExchange の Salesforce Labs から入手できる Salesforce Connect Validator アプリケーションを使用して、組織が外部オブジェクトデータと適切にやりとりを行えるかどうかをすばやく検証します。このツールでは一般的なクエリを実行して、ID のユニーク性や、結果の並び替えと絞り込み機能をテストします。書き込み可能な外部オブジェクトの場合、このツールでは、レコードを作成および削除する機能をテストできます。また、独自のクエリを作成することもできます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic で使用できます。

Apex 一括処理を使用した大量の外部オブジェクトデータセットの処理

`Database.QueryLocator` を使用して Apex の一括処理から外部オブジェクトにアクセスできるようになりました。以前は、`Iterable<sObject>` のみがサポートされていました。`QueryLocator` オブジェクトでは、単純なクエリ (`SELECT`) を使用して、一括処理ジョブのオブジェクト範囲を生成できます。また、`QueryLocator` オブジェクトを使用する場合、SOQL クエリによって取得されるレコード合計数の制限は無視されます。ただし、Salesforce Connect の OData アダプタには、いくつかの要件と特殊な動作が適用されます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

`Database.QueryLocator` で Apex 一括処理を使用して、Salesforce Connect の OData アダプタ経由で外部オブジェクトにアクセスする場合、次の点に注意してください。

- 外部データソースで [要求の行数] を有効にして、外部システムからの各応答に結果セットの合計行数を含める必要があります。
- 外部データソースで [サーバ駆動のページ設定] を有効にして、大きな結果セットのページサイズとバッチの区切りを外部システムで決定することをお勧めします。通常、サーバ駆動ページングはバッチの区切りを調節して、データセットの変更にクライアント駆動ページングよりも効率的に対応できます。

  外部データソースで [サーバ駆動のページ設定] が無効になっている場合、OData アダプタでページングの動作を制御します (クライアント駆動)。ジョブの実行中に外部オブジェクトレコードが外部システムに追加されると、他のレコードが 2 回処理される可能性があります。ジョブの実行中に外部オブジェクトレコードが外部システムから削除されると、他のレコードがスキップされる可能性があります。
- 外部データソースで [サーバ駆動のページ設定] が有効になっている場合、実行時のバッチサイズは次のサイズよりも小さくなります。
  - `Database.executeBatch` の `scope` パラメータで指定したバッチサイズ。デフォルトは 200 レコードです。
  - 外部システムから返されるページサイズ。200 レコード以下のページサイズが返されるように外部システムを設定することをお勧めします。

関連トピック:

Apex 開発者ガイド: Apex 一括処理の使用

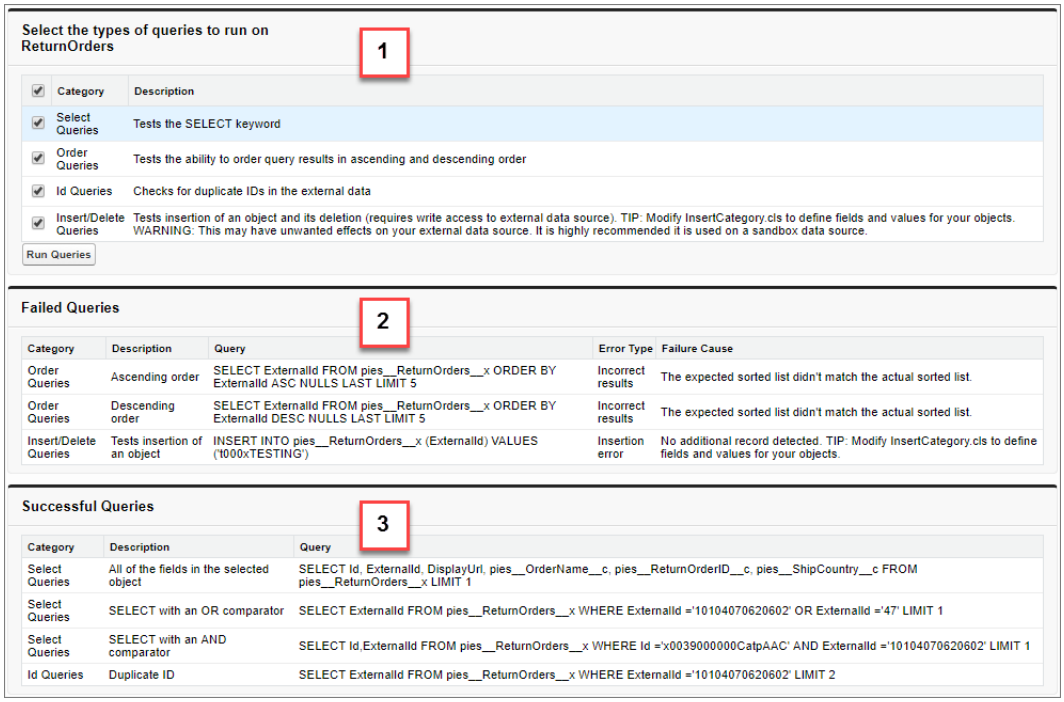
外部オブジェクトデータへのアクセスの検証

ユーザやコードと新規または変更された外部オブジェクトのやりとりを行う前に、外部データにアクセスするときの潜在的な問題を明らかにします。AppExchange の Salesforce Labs から入手できる Salesforce Connect Validator アプリケーションを使用して、組織が外部オブジェクトデータと適切にやりとりを行えるかどうかをすばやく検証します。このツールでは一般的なクエリを実行して、ID のユニーク性や、結果の並び替えと絞り込み機能をテストします。書き込み可能な外部オブジェクトの場合、このツールでは、レコードを作成および削除する機能をテストできます。また、独自のクエリを作成することもできます。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic で使用できます。

警告: 不要なデータの損失や作成を回避するには、本番以外の外部システムに対してのみ外部オブジェクトレコードを作成および削除するクエリを実行します。本番システムに対してクエリを実行する必要がある場合、まず本番以外のシステムに対してクエリを実行することで明らかになったすべての問題を解決します。

Salesforce Connect の組織間アダプタのみを使用して、外部オブジェクトにアクセスする場合、Salesforce Connect Validator をインストールする必要はありません。組織間アダプタでは、アプリケーションの組み込みクエリは必ず成功します。

例: 使用できるクエリがすべて ReturnOrders 外部オブジェクトに対して実行されました (1)。結果として、失敗したクエリ (2) と成功したクエリ (3) が表示されています。



関連トピック:

AppExchange: Salesforce Connect Validator

選択リスト: 選択リスト値の管理の機能強化

選択リスト値の管理が改善されました。

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション

このセクションの内容:

ページネーションを使用した無効な選択リスト値の容易な管理

ページネーションを使用することで、無効な選択リスト値が何千とあっても適切に追跡できます。また、ページネーションにより、値を表示するページの読み込みが速くなります。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方の新機能です。

関連トピック:

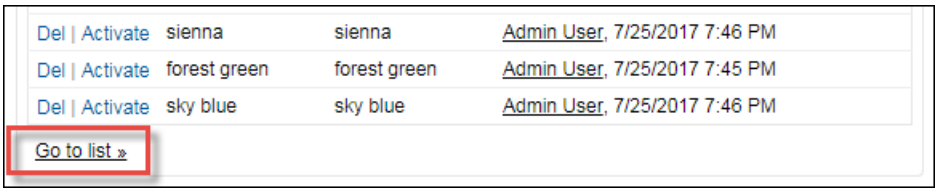
管理パッケージ更新での無効化および再有効化されたグローバル値セットの値の保持

ページネーションを使用した無効な選択リスト値の容易な管理

ページネーションを使用することで、無効な選択リスト値が何千とあっても適切に追跡できます。また、ページネーションにより、値を表示するページの読み込みが速くなります。この機能は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方の新機能です。

無効な値を多く含んだ選択リストがある場合、特定の値を見つけることに苦労していると思われます。リストは長くなり、一部は表示から切り捨てられます。

今回のリリースでは、無効な値のリストに含まれている項目が 30 個を超える場合、自動的にページネーションが発生し、最後に更新された項目が最初に表示されます。最初の 30 個のエントリの下部に [一覧を表示] オプションが表示されます。このオプションをクリックすると、すべての値が 1 ページずつ (各ページに 30 個) 表示されます。



共有: 個人取引先を使用する組織での取引先責任者の手動共有、無効な共有の非同期削除

個人取引先を使用する組織で、取引先責任者の組織の共有設定を変更できるようになりました。これにより、取引先責任者の共有ルールを定義することや、法人取引先責任者を手動で共有することが可能になり、法人取引先責任者を柔軟に共有できるようになりました。無効な共有は非同期で削除されるため、共有が削除されるまで待機せずに他の操作を続行できるようになりました。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

無効な共有の非同期削除による操作の続行 (正式リリース)
個人取引先を使用する組織での法人取引先責任者の手動共有 (正式リリース)

無効な共有の非同期削除による操作の続行 (正式リリース)

無効な共有は非同期で削除されるようになり、共有が削除されるまで待機せずに他の操作を続行できるようになりました。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

個人取引先を使用する組織での法人取引先責任者の手動共有 (正式リリース)

個人取引先を使用する組織で、取引先責任者の組織の共有設定を変更できるようになりました。これにより、取引先責任者の共有ルールを定義することや、法人取引先責任者を手動で共有することが可能になり、法人取引先責任者を柔軟に共有できるようになりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

無効な共有の非同期削除による操作の続行 (正式リリース)

無効な共有は非同期で削除されるようになり、共有が削除されるまで待機せずに他の操作を続行できるようになりました。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

メモ: 無効な共有の非同期削除を有効にするには、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。この機能はデフォルトでは無効になっています。

多くの共有操作は、システム内のレコードの表示に直ちに影響します。たとえば、グループを削除すると、共有ルールまたは共有の直接設定でそのグループに付与されたアクセス権は取り消されます。次のグループのメンバーは、レコードへのアクセス権を直ちに失います。ロール階層でこれらのメンバーよりも上位のユーザも、レコードにアクセスできなくなります。

- 公開グループ
- キュー
- ロール
- テリトリー

グループを削除すると、グループへの共有も無効になります。無効な共有は、この操作の待機時間を最小限に抑えるために、ピーク時間以外に非同期で削除されます。

ユーザを無効化すると、そのユーザに関連付けられた共有の直接設定およびチーム共有は非同期で削除されます。ロール階層で上位のユーザは、無効な共有が削除されるまで、これらの共有に関連付けられたレコードに引き続きアクセスできます。このレコード表示に懸念がある場合は、取引先を無効化する前にユーザに付与されたレコードアクセス権を削除してください。他のユーザ関連の共有種別は、ユーザが無効化された直後にすべて削除されます。

個人取引先を使用する組織での法人取引先責任者の手動共有 (正式リリース)

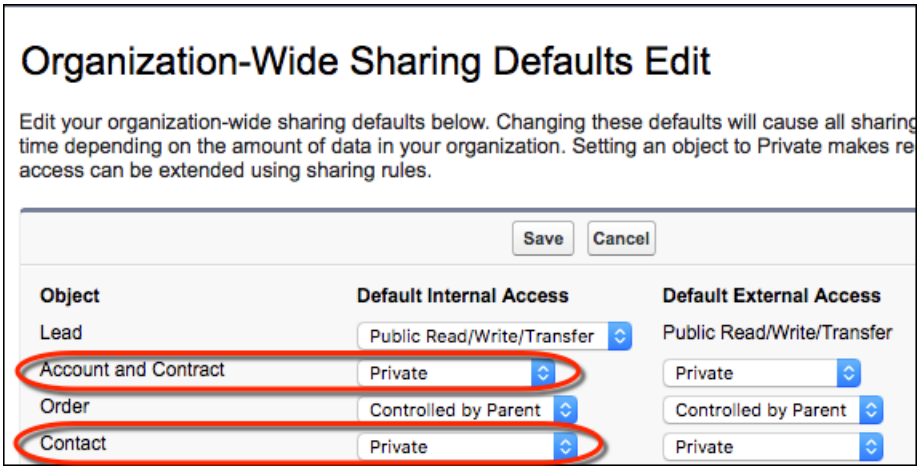
個人取引先を使用する組織で、取引先責任者の組織の共有設定を変更できるようになりました。これにより、取引先責任者の共有ルールを定義することや、法人取引先責任者を手動で共有することが可能になり、法人取引先責任者を柔軟に共有できるようになりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

メモ: Winter '18 リリースより前に個人取引先を有効化している場合は、Salesforce カスタマーサポートに連絡して、法人取引先責任者の共有を有効化してください。Winter'18以降、お客様が個人取引先を有効化している場合、この機能もデフォルトで有効化されるようになりました。

個人取引先には取引先責任者がないため、手動で共有された取引先責任者は法人取引先責任者にのみ適用されます。個人取引先に関する情報を共有するには、取引先全体を共有する必要があります。

この機能を使用するには、共有設定を編集します。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力します。
2. [取引先および契約] で [非公開] を選択します。
3. [連絡先] で [非公開] を選択します。



AppExchange: 再設計された Web サイト、新しいソリューションタイプ

AppExchange Web サイトが徹底的に再設計され、安全な事前作成済み Salesforce ソリューションを簡単に検索できるようになりました。また、追加された Bolt ソリューションと Lightning データを使用して、さまざまなビジネス上の課題に取り組むことができます。

このセクションの内容:

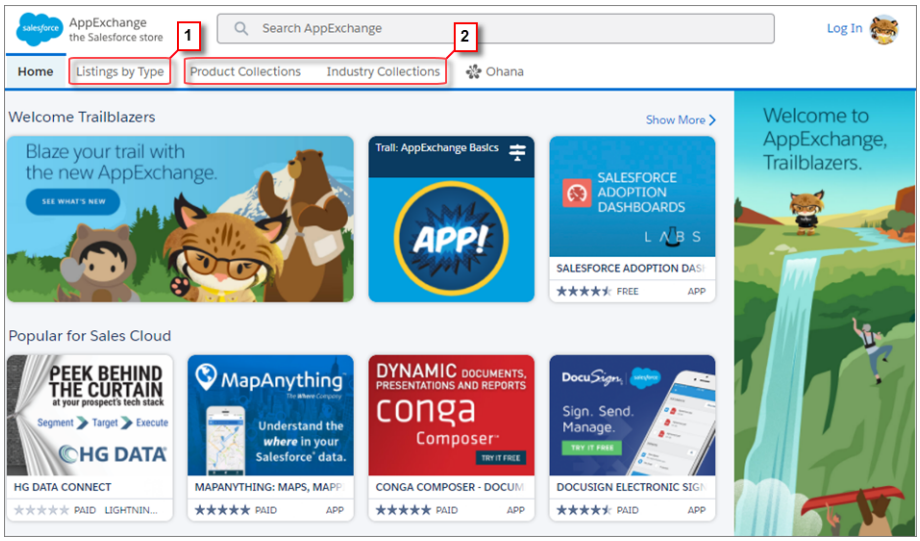
新しいインテリジェントな AppExchange での最適なソリューションの迅速な検索
新しい AppExchange を導入することで、ストアがすべて Salesforce で統一されます。Trailhead や Lightning Experience からヒントを得た、まったく新しい概念のインターフェースにより、効率的に参照できます。外観が新しくなっただけでなく、改善された検索環境や Salesforce の使用方法に合った提案によって AppExchange はよりインテリジェントになっています。また、あなたのような Salesforce コミュニティメンバー専用の新しい領域で AppExchange を改善するユーザにスポットライトが当たるようになっています。

AppExchange で利用できるようになった Bolt ソリューションと Lightning データ
Bolt ソリューションと Lightning データが AppExchange に導入され、すぐに使用できる Salesforce パートナー製品でビジネスの問題を解決する新しい手段が提供されます。Bolt ソリューションは、各業種向けにカスタマイズされたテンプレートを使用してコミュニティやポータルをすばやく立ち上げるのに役立ちます。Lightning データのソリューションでは、信頼できるサードパーティデータソースに対して CRM データを比較および検証できます。

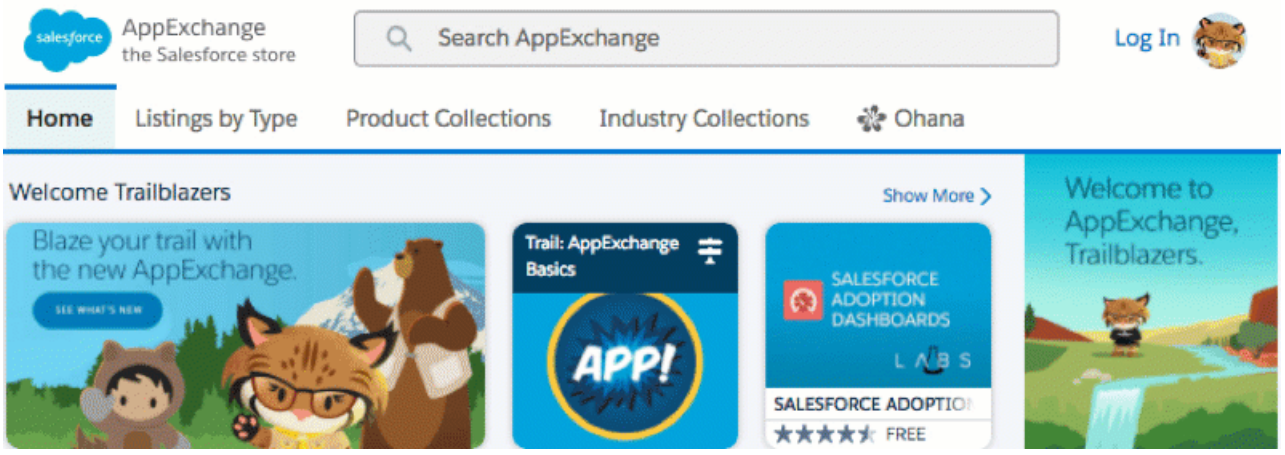
新しいインテリジェントな AppExchange での最適なソリューションの迅速な検索

新しい AppExchange を導入することで、ストアがすべて Salesforce で統一されます。Trailhead や Lightning Experience からヒントを得た、まったく新しい概念のインターフェースにより、効率的に参照できます。外観が新しくなっただけでなく、改善された検索環境や Salesforce の使用方法に合った提案によって AppExchange はよりインテリジェントになっています。また、あなたのような Salesforce コミュニティメンバー専用の新しい領域で AppExchange を改善するユーザにスポットライトが当たるようになっています。

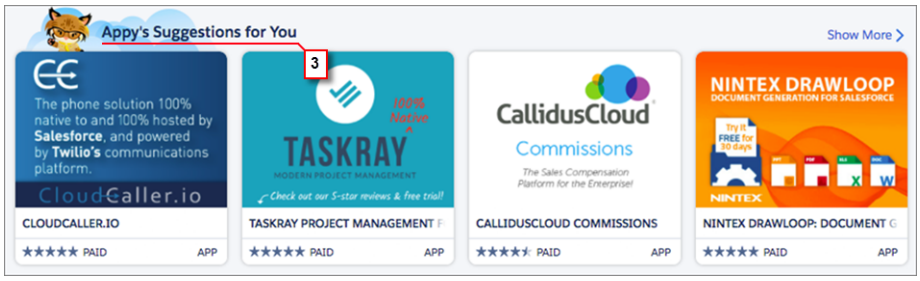
AppExchange のまったく新しい概念のインターフェースは、新しい移動方法から始まります。[タイプ別リスト] カテゴリ (1) を使用して、アプリケーションや Lightning コンポーネントなど、目的のソリューション別に参照します。[業種別コレクション] (2) は、AppExchange エキスパートが選定したリストで、各自の Salesforce 製品または業種向けの厳選された製品のみをすばやく参照するのに便利です。



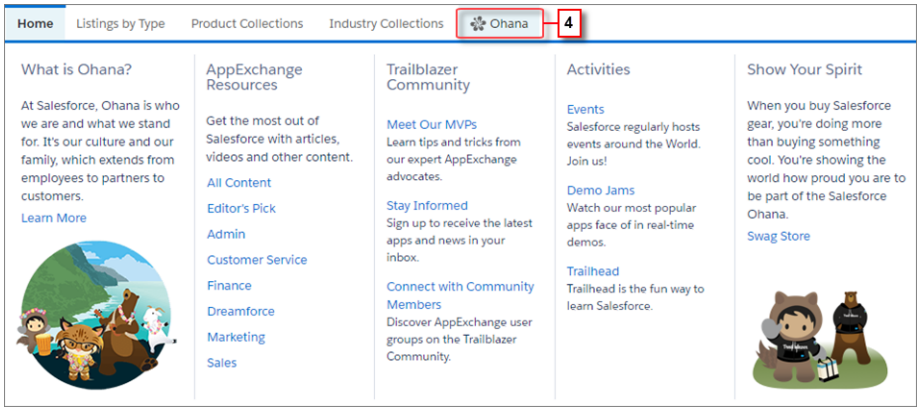
AppExchange の検索環境もアップグレードされています。検索ボックスで入力を開始すると、入力しているキーワードに基づいて、最近参照したリストと共にクエリが提案されます。検索を開始すると、新しい検索エンジンによって関連するリストがより適切に検索されます。



また、信頼性の高い AppExchange 環境にインテリジェンスも追加されています。ログインすると、Appy (AppExchange のエキスパートガイド) のパーソナライズされたリスト (3) が表示されます。Appy の提案は、役割、従事している業種、および Salesforce 環境のその他の要素に基づいています。AppExchange を使用するほど、提案が改善されていきます。



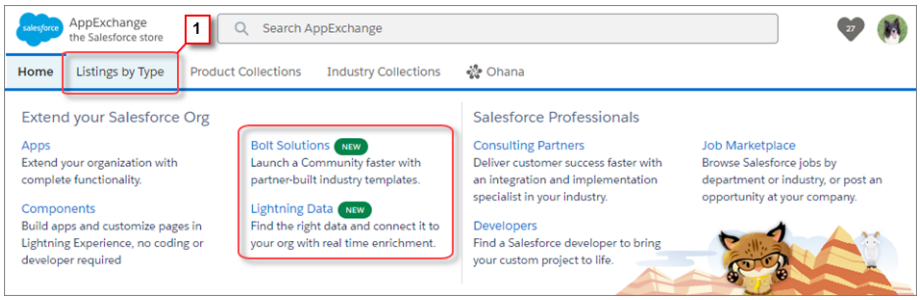
コミュニティメンバー用の新しい [Ohana] セクション (4) も確認してください。Ohana は、会話、行動、および AppExchange の Trailblazer 間で行われるその他の活動に関するすべてです。[Ohana] セクションは、AppExchange エキスパートのチームからヒント、動画、およびその他のコンテンツを取得する場所でもあります。



AppExchange で利用できるようになった Bolt ソリューションと Lightning データ

Bolt ソリューションと Lightning データが AppExchange に導入され、すぐに使用できる Salesforce パートナー製品でビジネスの問題を解決する新しい手段が提供されます。Bolt ソリューションは、各業種向けにカスタマイズされたテンプレートを使用してコミュニティやポータルをすばやく立ち上げるのに役立ちます。Lightning データのソリューションでは、信頼できるサードパーティデータソースに対して CRM データを比較および検証できます。

Bolt ソリューションおよび Lightning データの製品を表示するには、AppExchange で [タイプ別リスト] カテゴリ (1) に移動します。



一般設定: 外部サービスの Swagger、1 時間あたりのワークフロータイムトリガの増加

外部サービスがいくつか改善され、Swagger がサポートされるようになりました。1 時間あたりに要求できるワークフロータイムトリガが増加しました。また、ページレイアウトで使用されているアクションは削除できなくなりました。

このセクションの内容:

外部サービスでサポートされるようになった Swagger (ベータ)

外部サービスを確認した経験があれば、サービス内で Interagent ハイパースキーマを使用できることをご存じだと思いますが、外部サービスで Swagger / Open API 2.0 もサポートされるようになりました。さらに、すべての定義 (エラーメッセージのある定義を含む) で対応付けが行われるようになりました。これまでは、応答と、提供されたスキーマの応答とを一致させる必要がありました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

1 時間で実行できるワークフロータイムトリガの増加

Winter '18 以降に作成された組織では、ワークフロータイムトリガ数が増加しています。デフォルトでは、新しい組織は 1 時間あたり最大 1,000 個のワークフロータイムトリガを実行できます。1 時間あたりのタイムトリガの制限を緩和するには、制限を変更するように Salesforce の担当者に依頼してください。

HYPERLINK 関数内で実行される JavaScript のブロックが適用 (重要な更新)

HYPERLINK 関数での JavaScript の実行のブロックは Summer '17 の重要な更新でしたが、2017 年 10 月 30 日にすべての組織で自動的に有効化されます。この変更は複数のリリースで段階的に行われました。これは、HYPERLINK 関数の URL 引数で JavaScript を使用するときに発生するセキュリティの脆弱性に対応します。JavaScript はクロスサイトスクリプティングを含むことができ、ユーザに代わって URL を実行できます。

[レコードを更新] クイックアクションで参照のみの項目と数式項目の表示

以前は、数式項目と参照のみの項目を [レコードを更新] クイックアクションのレイアウトに追加すると、ユーザがこのアクションを起動しても編集画面に項目が表示されませんでした。それが表示されるようになりました。アクションレイアウトに参照のみの項目と数式項目を含めることにより、ユーザが項目に入力するときにアクションについての詳細が表示されます。ユーザはデータを編集できませんが、レコードに他の情報を入力するときにこれらの項目を参照できます。この変更は、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

削除できなくなったページレイアウトに含まれるアクション

ページレイアウトに含まれるアクションを削除すると、パブリッシャー、ページの他のアクション、またはページ全体が破損する可能性があります。ミスを回避するために、ページレイアウトで使用されているアクションは削除できなくなりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

カスタムアクションの高速クリックにより複数のインスタンスが起動する問題の修正

以前は、Visualforce および Lightning コンポーネントアクションを繰り返しクリックすると複数回起動されました。この動作は修正されました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

「バックグラウンドで行われたレコードの承認申請の適切な承認プロセスへの転送」(重要な更新) の延期

この重要な更新は、Summer '16 でリリースされ、Spring '18 で自動的に有効化される予定でしたが、Winter '19 に延期されました。

Lightning Sync 用に Force.com ライセンスのユーザを設定

Lightning Sync は、Service Cloud および Force.com ユーザライセンスで使用できます。どのオブジェクトが使用できるライセンスなのかに応じて、営業担当は、取引先責任者や行動を Microsoft® またはグーグルアプリケーションと Salesforce との間で同期できます。この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

システム権限を使用したレコードページのアクションの表示の制御

新しい「Tooling API 経由の WebLink アクセスの許可」権限では、ユーザがレコードページを表示したときに、オブジェクトのページレイアウトからカスタマイズされたアクションがユーザに表示されるかどうかを制御できるため、Lightning Experience および Salesforce モバイル Web のセキュリティが向上します。この変更は、Lightning Experience および Salesforce モバイル Web に適用されます。

外部サービスでサポートされるようになった Swagger (ベータ)

外部サービスを確認した経験があれば、サービス内で Interagent ハイパースキーマを使用できることをご存じだと思いますが、外部サービスで Swagger / Open API 2.0 もサポートされるようになりました。さらに、すべての定義(エラーメッセージのある定義を含む)で対応付けが行われるようになりました。これまでは、応答と、提供されたスキーマの応答とを一致させる必要がありました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

1 時間で実行できるワークフロータイムトリガの増加

Winter '18 以降に作成された組織では、ワークフロータイムトリガ数が増加しています。デフォルトでは、新しい組織は 1 時間あたり最大 1,000 個のワークフロータイムトリガを実行できます。1 時間あたりのタイムトリガの制限を緩和するには、制限を変更するように Salesforce の担当者に依頼してください。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

HYPERLINK 関数内で実行される JavaScript のブロックが適用 (重要な更新)

HYPERLINK 関数での JavaScript の実行のブロックは Summer '17 の重要な更新でしたが、2017 年 10 月 30 日にすべての組織で自動的に有効化されます。この変更は複数のリリースで段階的に行われました。これは、HYPERLINK 関数の URL 引数で JavaScript を使用するときに発生するセキュリティの脆弱性に対応します。JavaScript はクロスサイトスクリプティングを含むことができ、ユーザに代わって URL を実行できます。

エディション

使用可能なエディション: **Personal** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition、**Contact Manager** Edition、および **Database.com** Edition

この重要な更新が適用された後は、HYPERLINK 関数の URL 内で JavaScript を追加または実行できなくなります。ただし、関数を編集して URL から JavaScript を削除し、JavaScript を含まない URL に置き換えることはできます。

この更新が適用される前に、Salesforce 組織の HYPERLINK 関数で JavaScript が使用されているかどうかを確認して、代替ソリューションへ移行してください。次に、いくつかの可能な回避策を示します。

- onClick JavaScript を実行するカスタムボタンまたはリンク。「カスタムボタンまたはカスタムリンク」を参照してください。Salesforce Classic でのみサポートされます。
- Lightning Experience の [クイックアクション] ボタン。[クイックアクション] ボタンを使用して実行される Lightning Experience コンポーネントで JavaScript を作成します。Lightning Experience でのみサポートされます。
- 正しい URL にリダイレクトする Apex コントローラを使用するカスタム Visualforce ページ。ユーザを任意の場所にリダイレクトするクライアント側の条件ロジックを実行できる場合、このアプローチを取ります。空の Visualforce ページと Apex コントローラを作成します。必要な値をリンクからコントローラに渡します。次に、コントローラメソッドで URL を判断するロジックを実行し、リダイレクトを実行します。

この更新を Sandbox または Developer Edition 組織でテストすることをお勧めします。数式項目で HYPERLINK 関数の動作を確認します。この重要な更新は、自動有効化日付にすべての組織で有効になります。

この重要な更新の影響を受ける数式項目を見つける方法については、「JavaScript を見つけるために Workbench で Apex コードを使用」を参照してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: テキスト数式項目の使用のヒント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 数式の演算子と関数 A – H (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

[レコードを更新] クイックアクションで参照のみの項目と数式項目の表示

以前は、数式項目と参照のみの項目を [レコードを更新] クイックアクションのレイアウトに追加すると、ユーザがこのアクションを起動しても編集画面に項目が表示されませんでした。それが表示されるようになりました。アクションレイアウトに参照のみの項目と数式項目を含めることにより、ユーザが項目に入力するときにアクションについての詳細が表示されます。ユーザはデータを編集できませんが、レコードに他の情報を入力するときにこれらの項目を参照できます。この変更は、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

エディション

クイックアクションを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Contact Manager** Edition、**Database.com** Edition、および **Developer** Edition

削除できなくなったページレイアウトに含まれるアクション

ページレイアウトに含まれるアクションを削除すると、パブリッシャー、ページの他のアクション、またはページ全体が破損する可能性があります。ミスを回避するために、ページレイアウトで使用されているアクションは削除できなくなりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

エディション

クイックアクションを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Contact Manager** Edition、**Database.com** Edition、および **Developer** Edition

カスタムキャンバスを使用可能なエディション: **Professional** Edition (Force.com Canvas が有効な場合)、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition

カスタムアクションの高速クリックにより複数のインスタンスが起動する問題の修正

以前は、Visualforce および Lightning コンポーネントアクションを繰り返しクリックすると複数回起動されました。この動作は修正されました。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

エディション

クイックアクションを使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Contact Manager** Edition、**Database.com** Edition、および **Developer** Edition

「バックグラウンドで行われたレコードの承認申請の適切な承認プロセスへの転送」(重要な更新) の延期

この重要な更新は、Summer '16 でリリースされ、Spring '18 で自動的に有効化される予定でしたが、Winter '19 に延期されました。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

関連トピック:

Summer '16 リリースノート: バックグラウンドで行われたレコードの承認申請の適切な承認プロセスへの転送 (重要な更新)

重要な更新

Lightning Sync 用に Force.com ライセンスのユーザを設定

Lightning Sync は、Service Cloud および Force.com ユーザライセンスで使用できます。どのオブジェクトが使用できるライセンスなのかに応じて、営業担当は、取引先責任者や行動を Microsoft® またはグーグルアプリケーションと Salesforce との間で同期できます。この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Sync (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Sync ユーザライセンスサポート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

システム権限を使用したレコードページのアクションの表示の制御

エディション

使用可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Contact Manager** Edition、および **Developer** Edition

新しい「Tooling API 経由の WebLink アクセスの許可」権限では、ユーザがレコードページを表示したときに、オブジェクトのページレイアウトからカスタマイズされたアクションがユーザに表示されるかどうかを制御できるため、Lightning Experience および Salesforce モバイル Web のセキュリティが向上します。この変更は、Lightning Experience および Salesforce モバイル Web に適用されます。

「Tooling API 経由の WebLink アクセスの許可」権限は、Chatter Free ユーザ、Chatter External ユーザ、クラウドインテグレーションユーザ、およびこれらのユーザからコピーされたカスタムプロファイルを除き、すべてのプロファイルでデフォルトで有効になっています。

プロファイルで次の 2 つの条件を満たしている場合、そのプロファイルのユーザの Lightning Experience および Salesforce モバイル Web のオブジェクトレコードページには、一連のシステム定義のデフォルトアクションが表示されます。次の場合、オブジェクトのページレイアウトからカスタマイズされたアクションは表示されません。

- 「Tooling API 経由の WebLink アクセスの許可」権限が無効になっている
- 「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」、「設定・定義の参照」管理者権限が無効になっている

プロファイルで管理者権限が有効になっている場合、「Tooling API 経由の WebLink アクセスの許可」権限が無効になっていても、オブジェクトのページレイアウトからカスタマイズされたアクションはユーザに表示されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce アプリケーションのアクションバーおよびリスト項目アクションでの定義済みアクションの順序(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

セキュリティと ID: シングルログアウト、ブランド情報入りログインページ、Chatter の暗号化

Salesforce が ID プロバイダまたはサービスプロバイダである場合、ユーザはシングルログアウトを使用して複数のアプリケーションから同時にログアウトすることができます。誰がどこからログインするのかに基づいて、実行時のログインページにブランドを設定し、Lightning のデザインをログインフローに取り入れることができます。また、Chatter フィードをはじめとした、さらに多くのデータを暗号化できます。

このセクションの内容:

認証と ID: 動的ブランド設定、シングルログアウト、指定ログイン情報、ログインフロー
コミュニティに動的ブランド設定を適用して、特定のユーザのログインページをカスタマイズできます。新しい GA シングルログアウトで、複数のアプリケーションからすばやくログアウトします。API を介して指定ログイン情報に Apex コールアウトオプションを設定し、作成された方法または呼び出された方法に関係なく、Lightning Experience または Salesforce Classic にログインフローを表示します。また、SAML シングルサインオンのプロキシ証明書は廃止されました。

Salesforce Shield: **暗号化および監視対象イベントの強化**

暗号化できる項目が増えて、暗号化戦略をいっそう詳細にコントロールできるようになりました。検索やナレッジ記事ビューなど、表示できるユーザ活動が増えました。

その他のセキュリティの変更:ハッカー耐性セキュリティヘッダーとヘルスチェックのデフォルトベースライン

セキュリティヘルスチェックでは、デフォルトベースラインを選択し、一部の項目を編集できるようになりました。またベースラインのインポートプロセスが若干変更されました。Visualforce、サイト、コミュニティページのヘッダーのクロスサイトスクリプティング保護など、セキュリティに影響する設定が追加されました。

認証と ID: 動的ブランド設定、シングルログアウト、指定ログイン情報、ログインフロー

コミュニティに動的ブランド設定を適用して、特定のユーザのログインページをカスタマイズできます。新しい GA シングルログアウトで、複数のアプリケーションからすばやくログアウトします。API を介して指定ログイン情報に Apex コールアウトオプションを設定し、作成された方法または呼び出された方法に関係なく、Lightning Experience または Salesforce Classic にログインフローを表示します。また、SAML シングルサインオンのプロキシ証明書は廃止されました。

このセクションの内容:

動的ブランド設定によるユーザのログイン環境の変更

外部 ID パートナーとお客様は、ユーザがコミュニティにログインするときにまず使用することになるログイン環境を細かく制御できるようになりました。ユーザが従業員か顧客かに応じてログインページのロゴを変えたくありませんか?または、ユーザの国コードに基づいて特定のセルフ登録ページを表示するのはどうですか? どのユーザがどこからログインしたかに応じて、ブランド設定が動的に変わります。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

シングルログアウトですべてのアプリケーションから同時にログアウトできる (正式リリース)

シングルログアウト (SLO) では、ユーザが ID プロバイダからログアウトすると、すべての接続アプリケーション (サービスプロバイダまたは証明書利用者) からログアウトされます。同様に、ユーザが接続アプリケーションからログアウトすると、ID プロバイダおよび登録されたすべての接続アプリケーションからログアウトされます。この機能を使用するには、シングルサインオンが使用できるように ID プロバイダおよびすべての接続アプリケーションを設定し、SLO に登録する必要があります。SLO によって、セキュリティと使いやすさが向上します。これまで、ユーザは各アプリケーションから個別にログアウトする必要がありました。

ログインフローの更新

Lightning Experience を使用し続けていると、Salesforce Classic で作成されたログインフローを古く感じることもあるでしょう。ログインフローを、Lightning Experience のようなわかりやすい外観にできればよいと思いませんか? 次のとおり変更できます。システム管理者は、Lightning Experience UI に類似したログインフローと Salesforce Classic UI に類似したログインフローのどちらをユーザに表示するのか、コントロールできるようになりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

SAML 署名証明書の廃止

以前「デフォルトの証明書が 2017 年 8 月 7 日で廃止」で通知のとおり、proxy.salesforce.com のデフォルトの証明書が、有効期限に達したことおよびセキュリティのベストプラクティスにより廃止されました。Salesforce 組織の SAML シングルサインオン (SSO) 設定でこの証明書 (「デフォルトの証明書」) を使用している場合は、サービスが中断されないように今すぐ対応してください。

指定ログイン情報: リリースオプションの追加、URL スキームの適用

変更セット、パッケージ、またはメタデータ API を通じてコールアウトオプションをリリースします。外部システムに対して認証するために設定されている指定ログイン情報では、URL が `https://` で始まる必要があります。

ユーザのメール情報を取得するための Facebook 認証プロバイダの更新

Facebook API の最近の変更により、ユーザのメールアドレスが含まれるように Facebook ソーシャルサインオン用の Salesforce のデフォルト認証プロバイダが更新されました。これまでは、認証プロバイダでユーザの ID と氏名のみが返されていました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

UserInfo エンドポイントおよび ID URL レスポンスの Email_Verified 値の更新

ユーザがメールの確認メッセージのリンクをクリックしてメールアドレスを正常に検証したかどうかが UserInfo エンドポイントと ID URL の `email_verified` 属性に反映されるようになりました。これまで、組織でメールの確認が有効になっているかどうかのみが反映されていました。

動的ブランド設定によるユーザのログイン環境の変更

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

外部 ID パートナーとお客様は、ユーザがコミュニティにログインするときにまず使用することになるログイン環境を細かく制御できるようになりました。ユーザが従業員か顧客かに応じてログインページのロゴを変えたくありませんか? または、ユーザの国コードに基づいて特定のセルフ登録ページを表示するのはどうですか? どのユーザがどこからログインしたかに応じて、ブランド設定が動的に変わります。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

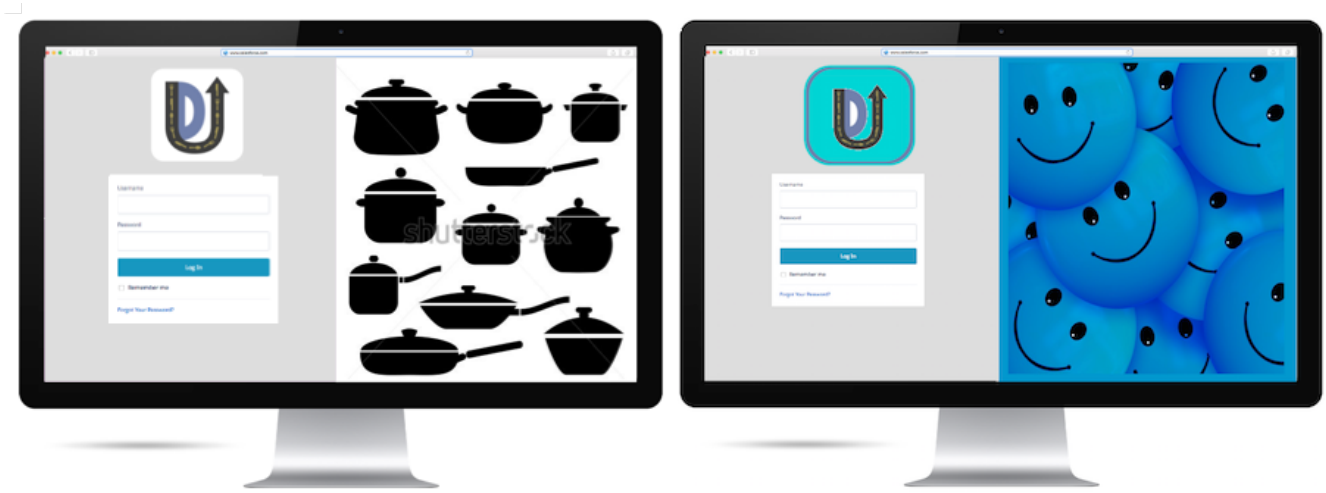
メモ: この機能では、ログインページの動的ブランド設定をサポートするために Salesforce Summer '17 で開始された取り組みを継続しています。Summer '17 では、プログラムで動的パラメータを使用して URL を作成することができました。今回から、[コミュニティワークスペース管理] | [ログイン & 登録] 設定ページの UI から動的パラメータを設定できるようになりました。

ログイン時のやり取り全体を指すとき、Salesforce では多くの場合、「ログインページ」ではなく「ログイン環境」という言葉を使用します。ログイン環境とは、最初のログインページおよびログインをカスタマイズするために追加するセカンダリページを指します。たとえば、2FA 認証、契約条件、またはログインフローを追加できます。

動的ブランド設定とは何でしょうか? これまでは、ロゴ、背景色、右フレーム URL というログインページのブランドオプションを変更することができました。今回から、ユーザは誰か、またはユーザはどこからログインしているのかなどの特定の条件に応じて、ブランド設定を*動的に*カスタマイズできるようになりました。

たとえば、Universal Distributing 社のシステム管理者は、ユーザが内部の従業員であるのか、外部の顧客またはパートナーであるのかに応じて、ログインページにブランド設定したいと考えています。各ユーザ種別のログ

インページには、異なるロゴと右フレーム URL があります。どちらのグループへも、同じ Visualforce ログインページから配信されます。



デフォルトのログインページを使用する場合、異なるロゴと右フレーム URL を動的に提供できます。カスタムログインページがある場合、Visualforce および Apex コントローラを使用して、ロゴ、右フレーム URL、背景色の設定を含む動的ログイン環境を実装します。

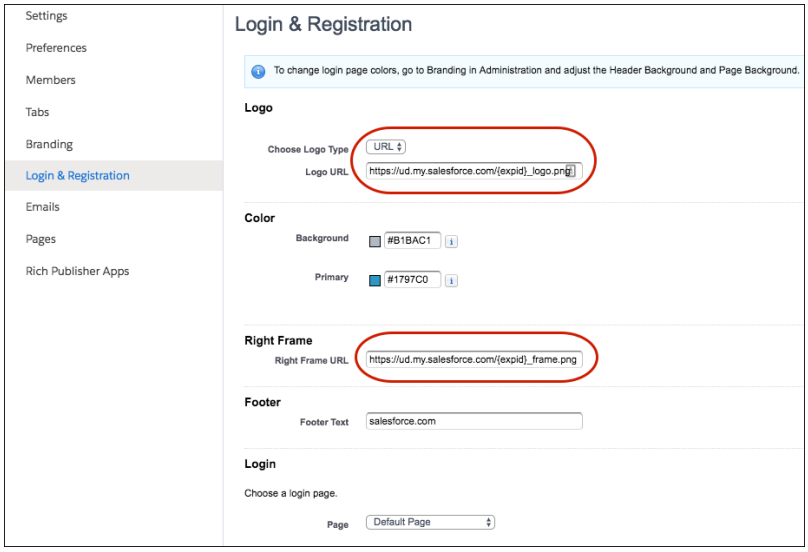
ユーザがログインすると、URL にはエクスペリエンス ID パラメータ `{expid}` が含まれます。ブラウザ Cookie に保存されるエクスペリエンス ID 値によって、ユーザ環境が決定します。たとえば、このロゴには、`{expid}` パラメータ、`https://universaldistributing.com/{expid}_logo.png` が含まれています。

エクスペリエンス ID の値が内部向けの場合、`{expid}` は実行時に `internal_logo.png` になります。

`https://universaldistributing.com/internal_logo.png`

エクスペリエンス ID の値が外部向けの場合、`{expid}` は実行時に `external_logo.png` になります。

デフォルトのログインページの場合は、[コミュニティワークスペース] または [コミュニティワークスペース管理] | [ログイン & 登録] ページから、URL にエクスペリエンス ID パラメータを指定します。



動的なカスタムログインページの場合は、Visualforce および Apex `System.Site` クラスメソッド `getExperienceId` と `setExperienceId` を使用します。

次のエンドポイントを expid 値で拡張することもできます。

- *community-url*`/services/oauth2/authorize/`*expid_value*
- *community-url*`/idp/endpoint/HttpPost/`*expid_value*
- *community-url*`/idp/endpoint/HttpRedirect/`*expid_value*
- *community-url*`_login_page?expid=`*{value}*
- *community-url*`/CommunitiesSelfReg?expid=`*{value}*
- secur/forgotpassword.jsp?expid=*{value}*

この動的ブランド設定機能は、すべてのログインページに適用されます。デフォルトのログインページでは、動的ロゴと右フレーム URL がサポートされます。Lightning ログインページでは、動的ロゴがサポートされています。カスタムログインページでは、選択した任意の動的環境を実装できます。

シングルログアウトですべてのアプリケーションから同時にログアウトできる (正式リリース)

シングルログアウト (SLO) では、ユーザが ID プロバイダからログアウトすると、すべての接続アプリケーション (サービスプロバイダまたは証明書利用者) からログアウトされます。同様に、ユーザが接続アプリケーションからログアウトすると、ID プロバイダおよび登録されたすべての接続アプリケーションからログアウトされます。この機能を使用するには、シングルサインオンが使用できるように ID プロバイダおよびすべての接続アプリケーションを設定し、SLO に登録する必要があります。SLO によって、セキュリティと使いやすさが向上します。これまで、ユーザは各アプリケーションから個別にログアウトする必要がありました。

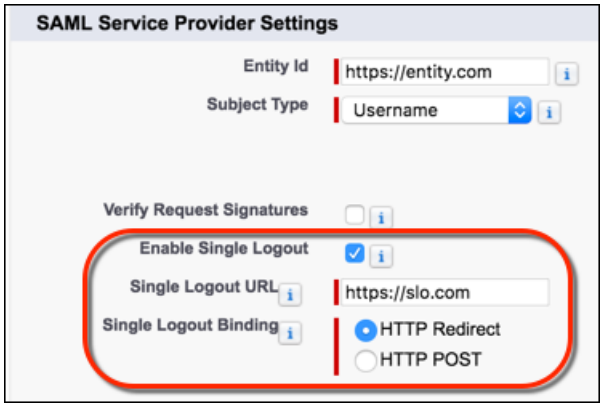
使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience の両方

シングルログアウトを作成可能なエディション: **Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

Salesforce では、フロントチャネル SLO がサポートされます。つまり、ユーザがブラウザを使用して登録済みアプリケーションから明示的にログアウトする場合にのみ、登録済みアプリケーションからログアウトされます。セッションが期限切れになっても、SLO に登録されている他のアプリケーションからはログアウトされません。

これまでは、Salesforce が ID プロバイダであるフロントチャネル SAML SLO のみがサポートされていました。今回、次の SLO シナリオを含め、ID プロバイダ、サービスプロバイダ、証明書利用者に関係なく、OpenID Connect および SAML SLO がサポートされるようになりました。

- Salesforce が ID プロバイダであり、登録済みの接続アプリケーションがサービスプロバイダである SAML SLO
- Salesforce が外部 SAML ID プロバイダに接続するサービスプロバイダである SAML SLO
- Salesforce が ID プロバイダであり、登録済みの接続アプリケーションがサービスプロバイダである OpenID Connect SLO
- Salesforce が外部 OpenID Connect プロバイダに接続する証明書利用者である OpenID Connect SLO



[セッションの設定] で **[LogoutEventStream を有効化]** を選択すると、Salesforce がログアウトイベントを公開するときに起動する Apec トリガを設定できます。

例: あなたは Salesforce、Gmail、Facebook にログインしていて、これらはすべて SLO の対象として設定されているとします。上司からすぐにミーティングに来るように呼ばれ、Salesforce からログアウトしますが、接続アプリケーションからログアウトし忘れました。さらに悪いことに、会議室まで急いでいたあなたは、画面をロックすることも忘れます。血の気が引いてしまうのも無理はありませんが、今回は大丈夫です。組織に SLO が設定されているので、1 つのアプリケーションからログアウトすると、3 つすべてのアプリケーションから自動的にログアウトされています。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: シングルログアウト

ログインフローの更新

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

Lightning Experience を使用し続けていると、Salesforce Classic で作成されたログインフローを古く感じることもあるでしょう。ログインフローを、Lightning Experience のようなわかりやすい外観にできればよいと思いませんか?次のとおり変更できます。システム管理者は、Lightning Experience UI に類似したログインフローと Salesforce Classic UI に類似したログインフローのどちらをユーザに表示するのか、コントロールできるようになりました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

ログインフローを通じて、ログイン中のビジネスプロセスを導入できます。たとえば、ログインフローを利用して、認証の2次要素やサービスの利用規約同意を求めたり、ユーザ情報を収集したりします。ユーザはログインフローを完了すると、Salesforce にログインします。

メモ: ログインフローは、ユーザが使用する UI (Lightning Experience または Salesforce Classic) の影響を受けません。ユーザが Salesforce Classic にログインする場合でも、Lightning Experience に似たログインフローを設定できます。同様に、ユーザが Lightning Experience にログインする場合でも、ログインフローを Salesforce Classic に設定できます。

ログインフローの表示 UI をコントロールする手順は、次のとおりです。

1. [クイック検索] ボックスに「*ログインフロー*」と入力し、[ログインフロー] を選択します。
2. 変更するログインフローの横にある [編集] をクリックします。
3. Lightning Experience UI のログインフローを表示するには、[**Lightning** ランタイムで表示] を選択します。このオプションを選択しない場合、ログインフローは Salesforce Classic UI で表示されます。

SAML 署名証明書の廃止

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション

以前「デフォルトの証明書が 2017 年 8 月 7 日で廃止」で通知のとおり、proxy.salesforce.com のデフォルトの証明書が、有効期限に達したことおよびセキュリティのベストプラクティスにより廃止されました。Salesforce 組織の SAML シングルサインオン (SSO) 設定でこの証明書 (「デフォルトの証明書」) を使用している場合は、サービスが中断されないように今すぐ対応してください。

どのような点が変更になるのですか?

Winter '18 以降、Salesforce ではデフォルトのプロキシ証明書を切り替えます (この証明書を使用中であっても切り替わります)。Winter '18 リリースまでは、サービスの中断を回避するために、手動で自己署名証明書に移行して ID プロバイダを更新します。SAML 要求の署名が ID プロバイダで検証されない場合も、デフォルトの証明書から切り替えることをお勧めします。

影響があるかどうかを確かめる方法は何ですか?

Salesforce に SP-init の SAML ログインを使用している組織で、SAML 要求の署名が ID プロバイダ (IdP) で検証される場合は、この変更の影響を受けます。Winter '18 リリースまでに対応策を講じなければ、ユーザがシングルサインオンで Salesforce にログインできなくなります。

また、次のいずれかを使用している場合も、この変更によって直ちにまたは将来的に影響を受ける可能性があります。

- シングルサインオンの SAML

- SP-init の SAML シングルサインオン (SAML 要求の証明が IdP で検証されない)

何をすべきですか?

Salesforce に SP-init の SAML ログインを使用している組織で、SAML 要求の署名が ID プロバイダ (IdP) で検証される場合は、Salesforce サービスの中断を回避するために今すぐ対応してください。Winter '18 リリースまでに、自己管理のクライアント証明書に切り替えます。

Salesforce に SP-init の SAML ログインを使用している組織で、SAML 要求の署名が ID プロバイダ (IdP) で検証されない場合も、将来的な問題を回避するために自己管理のクライアント証明書に切り替えることをお勧めします。

組織で複数の SAML 設定を使用している場合は、証明書の署名要求をデフォルトの証明書から自己管理証明書に変更します。新しい証明書を IdP にアップロードして SAML 要求の検証に使用できるようにします。

組織で複数の SAML 設定を使用していない場合は、[シングルサインオン設定] の [複数の設定を有効化] をクリックして、複数の SAML 設定に移行します。この操作は必ず移行ページの情報を読み、理解した上で実行してください。移行したら、IdP を更新して、アサーションコンシューマサービス URL を変更し、新しい証明書をアップロードして SAML 要求の検証に使用できるようにします。

詳しい情報はどこで確認できますか?

シングルサインオン向けの SAML の設定およびデフォルトの証明書の交換についての詳細は、ヘルプトピックのリンクを参照してください。Trailblazer コミュニティの「Official: Salesforce Infrastructure」グループに参加して、この影響に関する最新情報やディスカッションを確認してください。

上記以外にも質問がある場合は、Salesforce カスタマーサポートまでお問い合わせください。

指定ログイン情報: リリースオプションの追加、URL スキームの適用

変更セット、パッケージ、またはメタデータ API を通じてコールアウトオプションをリリースします。外部システムに対して認証するために設定されている指定ログイン情報では、URL が `https://` で始まる必要があります。

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション

このセクションの内容:

変更セット、パッケージ、メタデータ API を通じた指定ログイン情報のコールアウトオプションのリリース
指定ログイン情報を定義するとき、その指定ログイン情報を使用する Apex コールアウトのヘッダーとボディをカスタマイズするかどうかを指定できます。これらのコールアウトオプションは、これまでユーザインターフェース経由でしか設定されませんでした。今回、変更セット、パッケージ、またはメタデータ API を通じてリリースできるようになったため、リリース後にコールアウトオプションを手動で設定する必要がなくなります。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

指定ログイン情報 URL の不正なスキームの回避
外部システムに対して認証する指定ログイン情報を設定する場合、`https://` で始まる URL を入力する必要があります。組織で Winter '18 を稼働する前に、既存のすべての指定ログイン情報がこの要件を満たしていることを確認してください。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

変更セット、パッケージ、メタデータ API を通じた指定ログイン情報のコールアウトオプションのリリース

指定ログイン情報を定義するとき、その指定ログイン情報を使用する Apex コールアウトのヘッダーとボディをカスタマイズするかどうかを指定できます。これらのコールアウトオプションは、これまでユーザインターフェース経由でしか設定されませんでした。今回、変更セット、パッケージ、またはメタデータ API を通じてリリースできるようになったため、リリース後にコールアウトオプションを手動で設定する必要がなくなります。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

指定ログイン情報のこれらの項目は、セット、パッケージ、メタデータ API の変更を通じてリリースできるようになりました。

- 認証ヘッダーを生成
- HTTP ヘッダーの差し込み項目を許可
- HTTP 本文の差し込み項目を許可

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 指定ログイン情報の定義

指定ログイン情報 URL の不正なスキームの回避

外部システムに対して認証する指定ログイン情報を設定する場合、`https://` で始まる URL を入力する必要があります。組織で Winter '18 を稼働する前に、既存のすべての指定ログイン情報がこの要件を満たしていることを確認してください。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

指定ログイン情報の ID 種別が [匿名] に設定されている場合は、`http://` で始まる URL を使用できます。それ以外の場合は、URL は `https://` で始まる必要があります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 指定ログイン情報の定義

ユーザのメール情報を取得するための Facebook 認証プロバイダの更新

Facebook API の最近の変更により、ユーザのメールアドレスが含まれるように Facebook ソーシャルサインオン用の Salesforce のデフォルト認証プロバイダが更新されました。これまでは、認証プロバイダでユーザの ID と氏名のみが返されていました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

認証プロバイダを使用すると、ユーザは他のログイン情報 (Facebook アカウントなど) を使用して組織にログインできます。独自の認証プロバイダを作成して Facebook からのソーシャルサインオンを有効にしている場合、カスタム userinfo エンドポイントに次の Facebook API URL を使用してください。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

```
https://graph.facebook.com/me?fields=id,name,email
```

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: UserInfo エンドポイント

Salesforce ヘルプ: 認証プロバイダの設定ページでの Salesforce 管理値の使用

UserInfo エンドポイントおよび ID URL レスポンスの Email_Verified 値の更新

エディション

使用可能なエディション: すべてのエディション

ユーザがメールの確認メッセージのリンクをクリックしてメールアドレスを正常に検証したかどうかが UserInfo エンドポイントと ID URL の `email_verified` 属性に反映されるようになりました。これまで、組織でメールの確認が有効になっているかどうかのみが反映されていました。

次の操作を行った後に送信されるメールのリンクを組織やコミュニティのユーザがクリックしたときに `email_verified` 属性の値が `true` に設定されます。

- ユーザがメールアドレスを変更する
- ユーザがパスワードを変更するか、Salesforce システム管理者がパスワードをリセットする
- ユーザが 2 要素認証などの ID を検証する
- Salesforce システム管理者がユーザを新規作成する

たとえば、Salesforce システム管理者が Roberta Smith というユーザを作成します。アカウントを検証するためのリンクが記載された「Salesforce にようこそ」というメールメッセージが Roberta に送信されます。彼女がリンクをクリックすると、`email_verified` の値が `true` に設定されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: UserInfo エンドポイント

Salesforce ヘルプ: ID URL

Salesforce Shield: 暗号化および監視対象イベントの強化

暗号化できる項目が増えて、暗号化戦略をいっそう詳細にコントロールできるようになりました。検索やナレッジ記事ビューなど、表示できるユーザ活動が増えました。

このセクションの内容:

プラットフォームの暗号化: 暗号化データの絞り込み (パイロット)、鍵イベントの監視、スキニーテーブルの使用

Shield Platform Encryption に、暗号化データへのアクセス方法および操作方法が追加されました。スキニーテーブル、Chatter、フロー、プロセス、および多数の新しい標準項目との互換性が提供されます。新しい機能には、鍵の管理タスクの 2 要素認証、イベント監視サービスによる鍵使用の追跡、暗号化データの統計ダッシュボードがあります。新しい絞り込み対応の暗号化スキームを選択することもできます。

イベント監視: 検索、ナレッジ記事、プラットフォームの暗号化向けの新しいイベント種別

新しいイベント種別によって、Salesforce 組織でユーザが検索している語句、参照回数が最も多いナレッジ記事、データへのアクセスに使用された鍵およびテナントの秘密の詳細を追跡します。

プラットフォームの暗号化: 暗号化データの絞り込み (パイロット)、鍵イベントの監視、スキニーテーブルの使用

Shield Platform Encryption に、暗号化データへのアクセス方法および操作方法が追加されました。スキニーテーブル、Chatter、フロー、プロセス、および多数の新しい標準項目との互換性が提供されます。新しい機能には、鍵の管理タスクの 2 要素認証、イベント監視サービスによる鍵使用の追跡、暗号化データの統計ダッシュボードがあります。新しい絞り込み対応の暗号化スキームを選択することもできます。

このセクションの内容:

確定的暗号化を使用した暗号化データの絞り込み (パイロット)

Shield Platform Encryption では、データに追加の保護レイヤを提供するために、強力な対称暗号化が使用されてきました。新しい確定的暗号化スキームでは、Shield Platform Encryption サービスの強みと、データの絞り込みに必要な柔軟性が組み合わさりました。このスキームにより、レポート、リストビュー、SOQL クエリの WHERE 句の暗号化データを絞り込むことができます。また、[ユニーク] 項目および [外部 ID] 項目やカスタムインデックスとも互換性があります。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

プラットフォームの暗号化と鍵の管理のパブリッククラウドへの拡張 (正式リリース)

Shield Platform Encryption が、カナダとオーストラリアの AWS データセンターに保存されているデータにまで拡張されます。システム管理者のコンプライアンスニーズに対応できるように、ハードウェアセキュリティモジュール (HSM) から AWS CloudHSM 鍵管理マシンに移行しました。

Chatter のデータの暗号化 (正式リリース)

Shield Platform Encryption は、Chatter フィードに投稿されるデータに追加のセキュリティを引き続き提供します。Chatter の暗号化を有効にする場合は、サポートにお問い合わせください。設定をサポートします。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

フローおよびプロセスビルダーを使用した暗号化データへのアクセス (正式リリース)

フローおよびプロセスに対する Shield Platform Encryption のサポートを、すべての Shield Platform Encryption ユーザが使用できるようになりました。レコードの絞り込みまたは並び替えを実行する場合を除き、フローおよびプロセスのほとんどの要素から暗号化データにアクセスできます。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

鍵の管理タスクでの高保証セッションの必要性 (ベータ)

Shield Platform Encryption は、信頼性の高いデータ暗号化サービスを実現します。鍵と証明書の生成、ローテーション、アップロードなどの鍵の管理タスクに、2 要素認証を適用できるようになりました。システム管理者がこれらのタスクのいずれかを実行しようとするとき、Salesforce Authenticator アプリケーションや U2F セキュリティキーなどの 2 つ目の認証方法を使用する必要があります。鍵を扱っているセキュリティ管理者が、実際にその業務を目的として雇用された (信頼できる) 人物であることを確認できるため、安心です。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

取引先、個人取引先、取引先責任者、リードに関する多くの PII 項目の暗号化 (正式リリース)

取引先、取引先責任者、リードの標準項目に含まれている個人識別情報 (PII) を保護できる数が増えました。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

[商談名] 項目の暗号化 (パイロット)

Sandbox 環境および Deleloper Edition 環境でのみ、[商談名] 項目を暗号化できます。このパイロットプログラムに参加するには、Salesforce のアカウントエグゼクティブまたはサクセスマネージャにお問い合わせください。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

スキニーテーブルとの暗号化互換性 (ベータ)

レポート、リストビュー、SOQL クエリなどの機能のパフォーマンス最適化を目的として組織が「スキニーテーブル」を使用している場合、それらのテーブルを暗号化項目に含めることができるようになりました。この機能を有効にするには、Salesforce に連絡してください。

最終通知: 重要な更新「暗号化されたデータのマスクを無効化」の自動有効化

2017 年 11 月 29 日に、重要な更新「暗号化されたデータのマスクを無効化」が Shield Platform Encryption を使用するすべての組織に適用されます。この重要な更新を経て、Shield Platform Encryption の新しい機能および更新された機能にアクセスできるようになります。また、暗号化データにアクセスしたときの操作感の一貫性が向上し、マスクされたデータと暗号化されたデータを混同しにくくなります。この重要な更新をまだ有効化していない場合、すぐに有効化することをお勧めします。

イベント監視ログの暗号化鍵の管理使用の追跡

システム管理者が鍵の管理義務を把握していることは間違いありませんが、証拠の提示を求められる場合もあります。鍵使用の監査、コンプライアンス、セキュリティ義務を満たすために、プラットフォームの暗号化のイベントデータ型を利用できるようになりました。イベント監視サービスを使用して鍵使用についての詳細な情報にアクセスします。これは、設定変更履歴からアクセスできる主要な鍵ライフサイクルのイベント情報を補足するものです。

確定的暗号化を使用した暗号化データの絞り込み (パイロット)

Shield Platform Encryption では、データに追加の保護レイヤを提供するために、強力な対称暗号化が使用されてきました。新しい確定的暗号化スキームでは、Shield Platform Encryption サービスの強みと、データの絞り込みに必要な柔軟性が組み合わさりました。このスキームにより、レポート、リストビュー、SOQL クエリの WHERE 句の暗号化データを絞り込むことができます。また、[ユニーク] 項目および [外部 ID] 項目やカスタムインデックスとも互換性があります。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

> メモ: この機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があるため、参加は保証されません。このドキュメント、プレスリリース、または公式声明で参照されているこのパイロット機能は正式リリースされていません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている機能に基づいて購入をご決定ください。

このパイロットプログラムに参加する方法については、Salesforce のアカウントエグゼクティブまたはサクセスマネージャにお問い合わせください。

標準項目またはカスタム項目を暗号化するとき、データは*確率的暗号化*スキームを使用して保護されます。確率的暗号化では、データは暗号化されるたびに、完全に一意の暗号文字列に変換されます。データベース内の同じデータは、暗号化のたびにそれぞれ異なる見た目になるため、暗号化データの絞り込みはユニークな数学的課題であるといえます。

*確定的暗号化*では、静的初期化ベクトル (IV) を使用して、この課題を解決します。静的 IV では、暗号化された (判読不能な) データを特定の項目値に属するものとして識別します。特定組織の特定項目の IV は一意であり、組織固有の暗号化鍵でしか復号化できません。

項目への確定的暗号化の適用は、暗号化を有効にするのと同じく簡単です。項目で暗号化を有効にし、リストから [確定的] を選択します。

すでに暗号化されているデータにこの暗号化スキームを適用する場合は、サポートにお問い合わせください。

メモ: この機能を使用するには、重要な更新「暗号化されたデータのマスクを無効化」を有効化する必要があります。

プラットフォームの暗号化と鍵の管理のパブリッククラウドへの拡張 (正式リリース)

Shield Platform Encryption が、カナダとオーストラリアの AWS データセンターに保存されているデータにまで拡張されます。システム管理者のコンプライアンスニーズに対応できるように、ハードウェアセキュリティモジュール (HSM) から AWS CloudHSM 鍵管理マシンに移行しました。

関連トピック:

https://www.salesforce.com/blog/2016/05/salesforce-aws-public-cloud-infrastructure.html

Chatter のデータの暗号化 (正式リリース)

Shield Platform Encryption は、Chatter フィードに投稿されるデータに追加のセキュリティを引き続き提供します。Chatter の暗号化を有効にする場合は、サポートにお問い合わせください。設定をサポートします。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

Chatter の暗号化に関するフィードバックや提案は、Trailblazer コミュニティの「Chatter Product」グループに投稿してください。

メモ: この機能を使用するには、重要な更新「暗号化されたデータのマスクを無効化」を有効化する必要があります。

関連トピック:

Chatter の暗号化によるセキュリティの強化 (正式リリース)

フローおよびプロセスビルダーを使用した暗号化データへのアクセス (正式リリース)

フローおよびプロセスに対する Shield Platform Encryption のサポートを、すべての Shield Platform Encryption ユーザが使用できるようになりました。レコードの絞り込みまたは並び替えを実行する場合を除き、フローおよびプロセスのほとんどの要素から暗号化データにアクセスできます。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

暗号化項目の値を更新したりロジックで暗号化項目を参照したりできますが、暗号化項目の特定の値に基づいてレコードを検索することはできません。

メモ: この機能を使用するには、重要な更新「暗号化されたデータのマスクを無効化」を有効化する必要があります。

関連トピック:

フローでの暗号化データへのアクセス (正式リリース)

プロセスビルダーでの暗号化データへのアクセス (正式リリース)

鍵の管理タスクでの高保証セッションの必要性 (ベータ)

Shield Platform Encryption は、信頼性の高いデータ暗号化サービスを実現します。鍵と証明書の生成、ローテーション、アップロードなどの鍵の管理タスクに、2 要素認証を適用できるようになりました。システム管理者がこれらのタスクのいずれかを実行しようとするとき、Salesforce Authenticator アプリケーションや U2F セキュリティキーなどの 2 つ目の認証方法を使用する必要があります。鍵を扱っているセキュリティ管理者が、実際にその業務を目的として雇用された (信頼できる) 人物であることを確認できるため、安心です。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンの鍵の管理の 2 要素認証が含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。鍵の管理の 2 要素認証は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

この機能を有効にする場合は、組織で 2 要素認証を有効にし、適切なシステム管理者に「暗号化鍵の管理」権限を割り当てた上で、Salesforce にお問い合わせください。まず Sandbox 組織で有効にして、準備を整えてから本番組織にロールアウトできます。

メモ: この機能を使用するには、重要な更新「暗号化されたデータのマスクを無効化」を有効化する必要があります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 2 要素認証の設定

取引先、個人取引先、取引先責任者、リードに関する多くの PII 項目の暗号化 (正式リリース)

取引先、取引先責任者、リードの標準項目に含まれている個人識別情報 (PII) を保護できる数が増えました。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

リードの暗号化可能な情報

- 住所 (町名・番地、市区郡)
- 会社名
- 説明
- メール
- Fax
- 携帯電話
- 名前 (名、ミドルネーム、および姓)
- 電話
- 役職
- Web サイト

取引先と個人取引先の暗号化可能な情報

- 請求先 (町名・番地、市区群)
- 納入先 (町名・番地、市区郡)
- サイト

取引先責任者の暗号化可能な情報

- アシスタント
- アシスタント 電話
- その他の住所 (町名・番地、市区郡)
- 役職

メモ: これは、個人取引先にも適用されます。

この機能を使用するには、重要な更新「暗号化されたデータのマスクを無効化」を有効化する必要があります。

[商談名] 項目の暗号化 (パイロット)

Sandbox 環境および Deleloper Edition 環境でのみ、[商談名] 項目を暗号化できます。このパイロットプログラムに参加するには、Salesforce のアカウントエグゼクティブまたはサクセスマネージャにお問い合わせください。この機能は、Lightning Experience、Salesforce Classic、および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

メモ: この機能を使用するには、重要な更新「暗号化されたデータのマスクを無効化」を有効化する必要があります。

この機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforceにお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があるため、参加は保証されません。このドキュメント、プレスリリース、または公式声明で参照されているこのパイロット機能は正式リリースされていません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている機能に基づいて購入をご決定ください。

スキニーテーブルとの暗号化互換性 (ベータ)

レポート、リストビュー、SOQLクエリなどの機能のパフォーマンス最適化を目的として組織が「スキニーテーブル」を使用している場合、それらのテーブルを暗号化項目に含めることができるようになりました。この機能を有効にするには、Salesforce に連絡してください。

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンのスキニーテーブルの暗号化サポートが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。暗号化されたスキニーテーブルの絞り込みのほか、ハッシュパーティション化、ネイティブスキニーインデックスのような高度な機能は、完全にはサポートされていません。スキニーテーブルの暗号化サポートは、Salesforceがドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

メモ: この機能を使用するには、重要な更新「暗号化されたデータのマスクを無効化」を有効化する必要があります。

関連トピック:

https://developersalesforce.com/docs/atlasen-ussalesforce_large_data_volumes_bp.meta/salesforce_large_data_volumes_bp/ldv_deployments_infrastructure_skinny_tables.htm

https://developer.salesforce.com/blogs/engineering/2013/03/long-and-short-term-approaches-for-tuning-force-com-performance.html

最終通知: 重要な更新「暗号化されたデータのマスクを無効化」の自動有効化

2017 年 11 月 29 日に、重要な更新「暗号化されたデータのマスクを無効化」が Shield Platform Encryption を使用するすべての組織に適用されます。この重要な更新を経て、Shield Platform Encryption の新しい機能および更新された機能にアクセスできるようになります。また、暗号化データにアクセスしたときの操作感の一貫性が向上し、マスクされたデータと暗号化されたデータを混同しにくくなります。この重要な更新をまだ有効化していない場合、すぐに有効化することをお勧めします。

この重要な更新を有効化すると、暗号化データが画面上に表示されるようになります。暗号化データはマスク文字によって非表示にならないということです。未承認ユーザにデータを表示しないようにするには、データが暗号化されているかどうかに関係なく、項目レベルおよびオブジェクトレベルのセキュリティを使用する必要があります。

この重要な更新は Winter '17 で導入されたため、一部の組織はこの更新を受信する必要がありません。Spring '17 リリース以降でテナントの秘密の生成を開始している場合、「暗号化されたデータの参照」権限は、テナントの秘密を最初に生成したときに、マスクから自動的に分離されます。自動有効化は、まだ更新を有効化していないお客様にのみ適用されます。

重要な更新を有効化するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに *「重要な更新」* と入力して、[重要な更新] をクリックします。[暗号化されたデータのマスクを無効化] 更新の横にある [有効化] をクリックします。

この重要な更新を有効化すると「暗号化されたデータの参照」権限は従来の暗号化にのみ適用されます。

イベント監視ログの暗号化鍵の管理使用の追跡

システム管理者が鍵の管理義務を把握していることは間違いありませんが、証拠の提示を求められる場合もあります。鍵使用の監査、コンプライアンス、セキュリティ義務を満たすために、プラットフォームの暗号化のイベントデータ型を利用できるようになりました。イベント監視サービスを使用して鍵使用についての詳細な情報にアクセスします。これは、設定変更履歴からアクセスできる主要な鍵ライフサイクルのイベント情報を補足するものです。

EventLogFile オブジェクトの PlatformEncryption イベント種別は、鍵関連イベントに関するホストの詳細を提供します。これらのイベントは、派生した暗号化鍵の情報に加えて、Salesforce が生成したテナントの秘密と顧客が提供したテナントの秘密とに対応する重要な鍵使用タスクを扱います。

例

金融機関のセキュリティ管理者のチームの一員として、会社の暗号化鍵の管理を担当しているとします。業界の情報セキュリティ規制に準拠しているかどうかの確認のために、会社が監査を受けるとマネージャから聞かされました。内部の鍵使用の履歴を提供し、アクセスされたデータとの相関を示すように依頼されました。イベント監視サービスを使用して、イベントログファイルにアクセスし、鍵使用イベントとアクセスされたデータを示すログとを関連付けます。これにより、セキュリティと規制の要求に対応できる、詳細で正確なレポートを準備できます。

関連トピック:

https://trailhead.salesforce.com/modules/event_monitoring

変更されたオブジェクト

イベント監視: 検索、ナレッジ記事、プラットフォームの暗号化向けの新しいイベント種別

新しいイベント種別によって、Salesforce 組織でユーザが検索している語句、参照回数が最も多いナレッジ記事、データへのアクセスに使用された鍵およびテナントの秘密の詳細を追跡します。

このセクションの内容:

イベントログファイルによるユーザ検索とクリックの追跡

EventLogFile 標準オブジェクトに検索クエリ向けのイベント種別が追加されました。これにより、ユーザが使用する検索語と、ユーザがクリックする個別のレコードを監査できるようになりました。クエリごとに検索語とプレフィックスを確認できます。Salesforce コミュニティでも、検索を追跡するために、ユーザがクリックしたレコードと検索結果内のランクを確認します。記事を検索、閲覧するサービス担当を監視することで、Salesforce ナレッジの採用を促進します。サポートチーム、トレーニングチーム、新入社員研修チームにとって、どの記事が最も役に立つのかを調べます。これらのイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

イベントログファイルによるナレッジ記事ビューの追跡

イベント追跡を使用して、知識ベースのコンテンツについてデータに基づく決定を下します。EventLogFile 標準オブジェクトに、記事ビュー向けの KnowledgeArticleView イベント種別が追加されました。誰が記事を参照しているのかを確認して、組織内でユーザがどのようにナレッジを利用しているのかを把握できます。このイベント種別は API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

イベントログファイルでテナントの秘密の使用状況を参照

システム管理者が鍵の管理義務を把握していることは間違いありませんが、証拠の提示を求められる場合もあります。イベントログには、Salesforce が生成したテナントの秘密、顧客が提供したテナントの秘密、派生した暗号化鍵の使用状況を監視できる鍵関連イベントの詳細が含まれるようになりました。これらのイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

クライアント IP 項目に含まれるようになった文字列値

`CLIENT_IP` 項目のデータ型が IP から String に変更されました。また、値「Salesforce.com IP」が、Saleforce 内部 IP (Salesforce ワークベンチまたは AppExchange からのログインなど) を示すために使用されるようになりました。

Event Monitoring Analytics アプリケーションの新しい名前とこれまでと同じ優れたデータ

Summer '17 で、Event Monitoring Wave アプリケーションの名前が Event Monitoring Analytics に変更されました。Analytics という名前は、設定ウィザード、標準権限セット、権限セットライセンス、事前作成済みダッシュボードなど、すべてのアプリケーション関連ページに表示されるようになりました。Wave 変更、Wave インタラクション、Wave パフォーマンスのイベント種別名は変更されません。

UI 追跡イベント種別の廃止

以前「Shield Monitoring の新しいイベント種別」で通知したとおり、UI 追跡イベント種別が削除されました。Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web の Web クリック、パフォーマンス、エラーのデータは、代わりに Lightning Experience イベント種別を使用します。

イベントログファイルによるユーザ検索とクリックの追跡

EventLogFile 標準オブジェクトに検索クエリ向けのイベント種別が追加されました。これにより、ユーザが使用する検索語と、ユーザがクリックする個別のレコードを監査できるようになりました。クエリごとに検索語とプレフィックスを確認できます。Salesforce コミュニティでも、検索を追跡するために、ユーザがクリックしたレコードと検索結果内のランクを確認します。記事を検索、閲覧するサービス担当を監視することで、Salesforce ナレッジの採用を促進します。サポートチーム、トレーニングチーム、新入社員研修チームにとって、どの記事が最も役に立つのかを調べます。これらのイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

この情報とともに、EventFileLog オブジェクトに次の 2 つのイベント種別が追加されました。

- 検索 — 検索クエリの詳細
- 検索クリック — 検索結果の詳細

関連トピック:

変更されたオブジェクト

イベントログファイルによるナレッジ記事ビューの追跡

イベント追跡を使用して、知識ベースのコンテンツについてデータに基づく決定を下します。EventLogFile 標準オブジェクトに、記事ビュー向けの KnowledgeArticleView イベント種別が追加されました。誰が記事を参照しているのかを確認して、組織内でユーザがどのようにナレッジを利用しているのかを把握できます。このイベント種別は API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

関連トピック:

- 変更されたオブジェクト
- *IdeaExchange:* Track Knowledge Article Searches and / or Views by User (ユーザが実行したナレッジ記事の検索や表示の追跡)
- *IdeaExchange:* Knowledge Article Viewed Date / Voted Date Filter in Reports (レポートのナレッジ記事の参照日/投票日の検索条件)

イベントログファイルでテナントの秘密の使用状況を参照

システム管理者が鍵の管理義務を把握していることは間違いありませんが、証拠の提示を求められる場合もあります。イベントログには、Salesforce が生成したテナントの秘密、顧客が提供したテナントの秘密、派生した暗号化鍵の使用状況を監視できる鍵関連イベントの詳細が含まれるようになりました。これらのイベントは API で使用できますが、Event Monitoring Analytics アプリケーションでは使用できません。

EventLogFile オブジェクトにプラットフォームの暗号化イベント種別が追加されました。鍵使用の監査、コンプライアンス、セキュリティ義務を満たすために、このイベント種別を使用する方法について見てみましょう。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

例: 金融機関のセキュリティ管理者のチームの一員として、会社の暗号化鍵の管理を担当しているとします。業界の情報セキュリティ規制に準拠しているかどうかの確認のために、会社が監査を受けるとマネージャから聞かされました。内部の鍵使用の履歴を提供し、アクセスされたデータとの相関を示すように依頼されました。イベント監視を使用して、イベントログファイルをダウンロードし、鍵使用イベントとアクセスされたデータを示すログとを関連付けます。これにより、セキュリティと規制の要求に対応できる、詳細で正確なレポートを準備できます。

関連トピック:

- 変更されたオブジェクト

クライアント IP 項目に含まれるようになった文字列値

CLIENT_IP 項目のデータ型が IP から String に変更されました。また、値「Salesforce.com IP」が、Saleforce 内部 IP (Salesforce ワークベンチまたは AppExchange からのログインなど) を示すために使用されるようになりました。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

	A	B	C	D	E	F	G
1	EVENT_TYPE	TIMESTAMP	USER_ID	CLIENT_IP	URI_ID_DERIVED	REPORT_ID_DERIVED	
2	Report	2.01501E+13	001xx0000000use	Salesforce.com IP	005B0000000GSwOIAW	001xx0000000repAAA	
3	Report	2.01501E+13	001xx0000000use	Salesforce.com IP	005B0000000GSwOIAD	001xx0000000repAAA	
4	Report	2.01501E+13	001xx0000000use	127.0.0.1	005B0000000GSwOIXX	001xx0000000repAAA	

この変更は、CLIENT_IP が含まれるすべてのイベント種別に影響を与えます。

- Apex コールアウト
- Apex 実行
- Apex SOAP
- Apex トリガ
- API
- 非同期レポート実行
- Bulk API
- 変更セット操作
- コンソール
- ダッシュボード
- Lightning エラー
- Lightning インタラクション
- Lightning ページビュー
- Lightning パフォーマンス
- ログイン
- 別名でログイン
- ログアウト
- メタデータ API 操作
- マルチブロックレポート
- パッケージのインストール
- キューにある実行
- レポート
- レポートのエクスポート
- REST API

- サイト
- トランザクションセキュリティ
- URI
- Visualforce 要求
- Wave Change
- Wave Interaction
- Wave Performance

関連トピック:

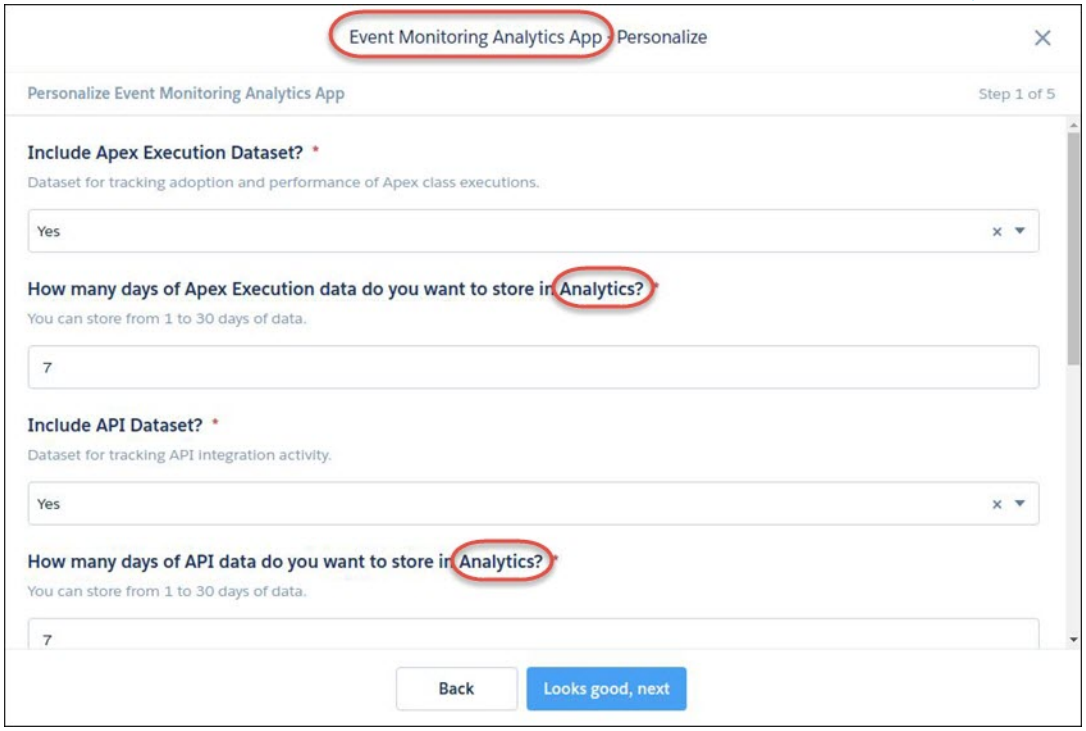
変更されたオブジェクト

Event Monitoring Analytics アプリケーションの新しい名前とこれまでと同じ優れたデータ

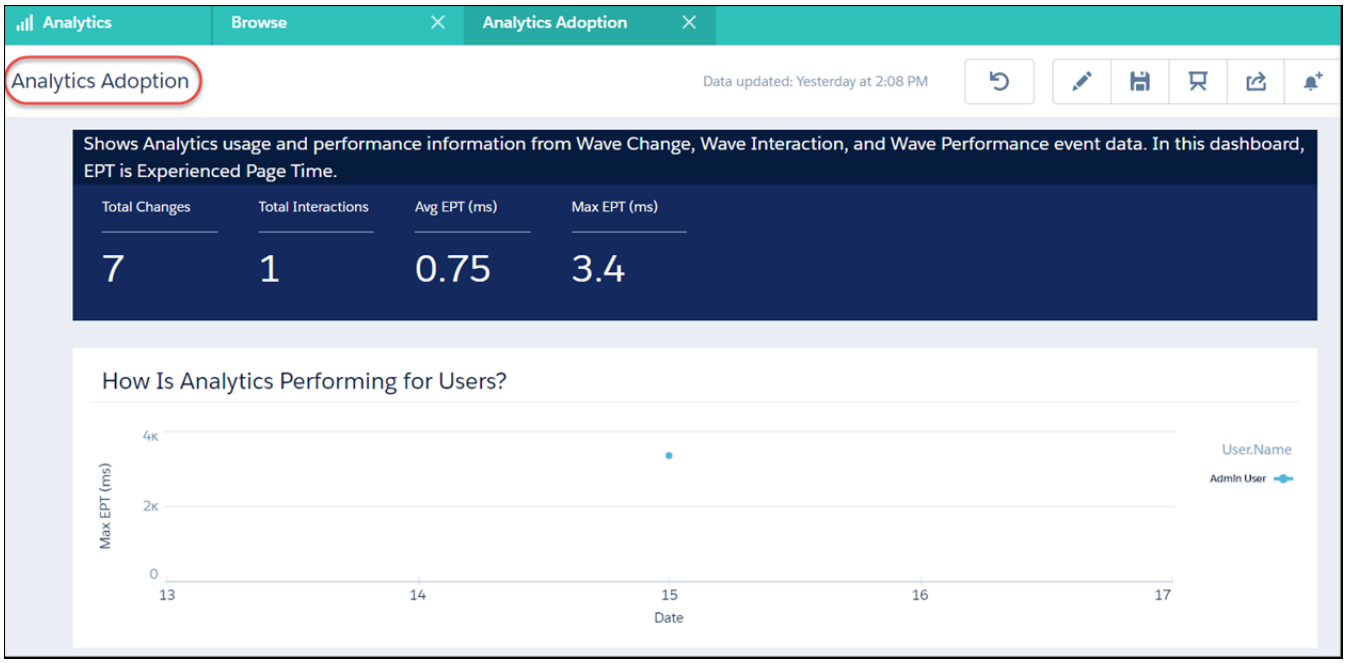
Summer '17 で、Event Monitoring Wave アプリケーションの名前が Event Monitoring Analytics に変更されました。Analytics という名前は、設定ウィザード、標準権限セット、権限セットライセンス、事前作成済みダッシュボードなど、すべてのアプリケーション関連ページに表示されるようになりました。Wave 変更、Wave インタラクション、Wave パフォーマンスのイベント種別名は変更されません。たとえば、設定ウィザードは変更後の名称と共に、次のように表示されます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition



また、以前の Wave Adoption 事前作成済みダッシュボードは、名称変更後、次のように表示されます。



関連トピック:

Salesforce Einstein: 人工知能を備えた世界で最もスマートな CRM をすべてのユーザへ

UI 追跡イベント種別の廃止

以前「Shield Monitoring の新しいイベント種別」で通知したとおり、UI 追跡イベント種別が削除されました。Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web の Web クリック、パフォーマンス、エラーのデータは、代わりに Lightning Experience イベント種別を使用します。

この変更に向けて準備を整えるには、次のことを実行します。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

- 保管やクエリのためにイベントログファイルをデータベース (Apache HBase など) に取り込んでいる場合、Lightning UI イベントとモバイル UI イベントの新しい Lightning Experience イベント種別を確認します。
- イベント監視データの視覚化のために事前構築されたサードパーティインテグレーションを使用している場合、Salesforce がこれらのパートナーと連携して各アプリケーションを更新します。
- カスタム視覚化を構築している場合、インテグレーションを更新して新しい Lightning Experience イベント種別を取り込みます。イベント監視についての詳細は、「イベント監視」Trailhead モジュールまたは『Force.com REST API 開発者ガイド』を参照してください。

関連トピック:

ナレッジ記事: Shield Monitoring の新しいイベント種別

その他のセキュリティの変更:ハッカー耐性セキュリティヘッダーとヘルスチェックのデフォルトベースライン

セキュリティヘルスチェックでは、デフォルトベースラインを選択し、一部の項目を編集できるようになりました。またベースラインのインポートプロセスが若干変更されました。Visualforce、サイト、コミュニティページのヘッダーのクロスサイトスクリプティング保護など、セキュリティに影響する設定が追加されました。

このセクションの内容:

Visualforce ページ、サイト、コミュニティのブラウザ保護の改善
新しい設定によってブラウザセキュリティが強化され、Visualfoce ページ、Force.com サイト、コミュニティへのクロスサイトスクリプティングや悪意のあるファイルに対して保護されます。

HSTS (HTTP Strict Transport Security) によって HTTPS を使用するようにブラウザをリダイレクト
HSTS はすべての Visualforce ページで有効になっており、無効にすることはできません。コミュニティおよび Force.com サイトで HSTS を有効にすることができます。サブドメインで HSTS を有効にすると、そのサブドメインを共有するコミュニティまたは Force.com サイトにも適用されます。

ヘルスチェック: デフォルトベースラインの選択と必要に応じたベースラインの名称変更
ページの読み込み時にセキュリティヘルスチェックを開くデフォルトベースラインを設定できるようになりました。ベースライン名、API参照名、デフォルトベースラインを、[ベースラインコントロール]メニューの [編集] 機能を使用して変更できます。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Visualforce ページ、サイト、コミュニティのブラウザ保護の改善

新しい設定によってブラウザセキュリティが強化され、Visualfoceページ、Force.comサイト、コミュニティへのクロスサイトスクリプティングや悪意のあるファイルに対して保護されます。

コンテンツ盗聴保護
: ブラウザでドキュメントコンテンツからMIMEタイプが推定されないようにします。また、悪意のあるファイルが動的コンテンツ (JavaScript、スタイルシート) として実行されないようにします。

クロスサイトスクリプティング保護
: 反射型クロスサイトスクリプティング攻撃が検出されると、コンテンツのない空白のページがブラウザに表示されます。

参照元 URL 保護
: ページを読み込むとき、参照元ヘッダーには URL 全体ではなく Salesforce.com のみが表示されます。この機能により、完全な URL だと公開されてしまう可能性のある機密情報 (組織 ID など) が参照元ヘッダーに表示されなくなります。この機能は、Chrome と Firefox でのみサポートされています。

これらのセキュリティ機能を有効にする手順は、次のとおりです。

Visualforce
: Visualforce と Salesforce ではこれらのセキュリティ機能が共有されます。これらのセキュリティ機能を有効にすると、Visualforce と Salesforce.com の両方に適用されます。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*セッションの設定*」と入力します。有効にするセキュリティ設定を選択します。

Force.com サイト

[設定] から、[クイック検索] ボックスに「サイト」と入力します。Force.com サイトで [編集] をクリックし、有効にするセキュリティ設定を選択します。

Lightning コミュニティ

Site.com アプリケーションの [Site.com] タブで、Site.com Studio を起動します。[サイトの設定] を選択し、有効にするセキュリティ設定を選択します。

HSTS (HTTP Strict Transport Security) によって HTTPS を使用するようにブラウザをリダイレクト

HSTS はすべての Visualforce ページで有効になっており、無効にすることはできません。コミュニティおよび Force.com サイトで HSTS を有効にすることができます。サブドメインで HSTS を有効にすると、そのサブドメインを共有するコミュニティまたは Force.com サイトにも適用されます。

HSTS を有効にした後、ブラウザでは HTTPS のみがドメインで使用できるようにキャッシュされます。HSTS のロールアウト時に、キャッシュの有効期限は 1 年まで増加していき、その後は 1 年が引き続き使用されます。

Sandbox 環境の HSTS ロールアウト

日付	キャッシュの有効期限
9/9	1 時間
9/16	1 日
9/30	1 年

本番環境の HSTS ロールアウト

日付	キャッシュの有効期限
10/14	1 時間
10/21	1 日
10/28	1 年

HSTS の有効化

Lightning コミュニティ

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「セッションの設定」と入力し、[セッションの設定] を選択します。
2. [サイトとコミュニティの HSTS] を選択して、[保存] をクリックします。
3. Site.com アプリケーションの [Site.com] タブで、Site.com Studio を起動します。
4. [サイトの設定] を選択し、[セキュアな接続 (HTTPS) が必要] を選択して、[保存] をクリックします。

Force.com サイト

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*セッションの設定*」と入力し、[セッションの設定] を選択します。
2. **[サイトとコミュニティの HSTS]** を選択して、**[保存]** をクリックします。
3. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*サイト*」と入力し、[サイト] を選択します。
4. Force.com サイトで **[編集]** を選択し、**[セキュアな接続 (HTTPS) が必要]** を選択して、**[保存]** をクリックします。

カスタムドメインを使用するコミュニティおよび **Force.com** サイト

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*セッションの設定*」と入力し、[セッションの設定] を選択します。
2. **[サイトとコミュニティの HSTS]** を選択して、**[保存]** をクリックします。
3. Lightning コミュニティのカスタムドメインの場合:
   a. Site.com アプリケーションの [Site.com] タブで、Site.com Studio を起動します。
   b. **[サイトの設定]** を選択し、**[セキュアな接続 (HTTPS) が必要]** を選択して、**[保存]** をクリックします。
4. Force.com サイトのカスタムドメインの場合:
   a. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*サイト*」と入力し、[サイト] を選択します。
   b. Force.com サイトで **[編集]** をクリックし、**[セキュアな接続 (HTTPS) が必要]** を選択して、**[保存]** をクリックします。
5. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*ドメイン*」と入力し、[ドメイン] を選択します。
6. ドメインで、**[編集]** をクリックします。**[Strict Transport Security ヘッダーを有効化]** を選択し、**[保存]** をクリックします。

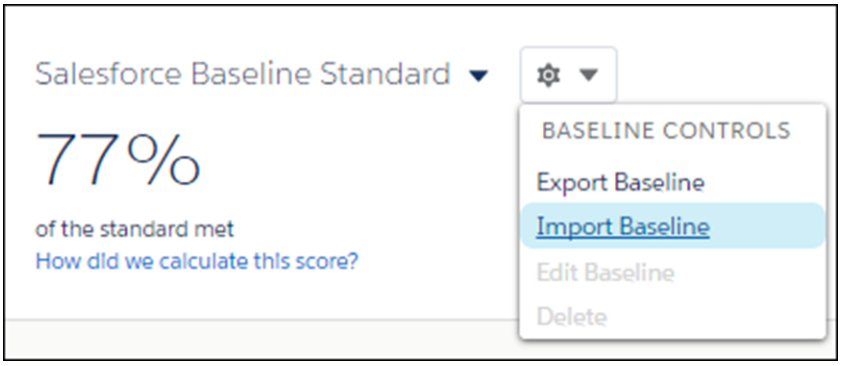
ヘルスチェック: デフォルトベースラインの選択と必要に応じたベースラインの名称変更

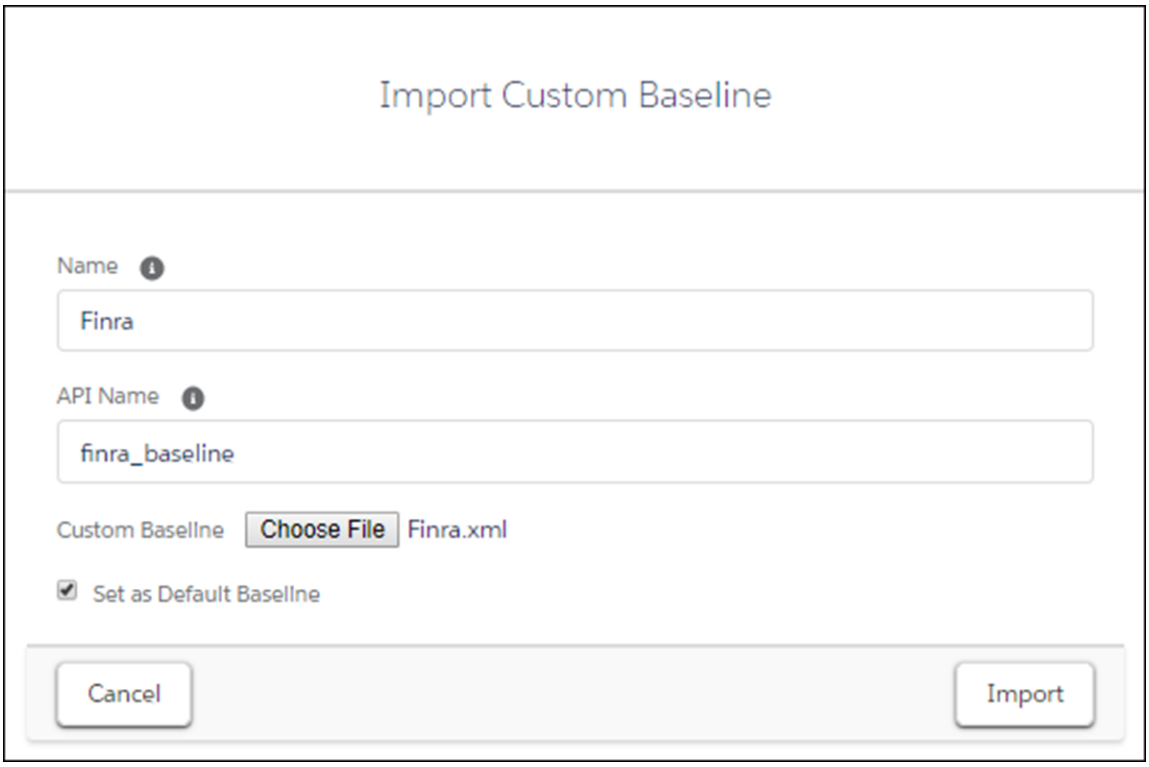
ページの読み込み時にセキュリティヘルスチェックを開くデフォルトベースラインを設定できるようになりました。ベースライン名、API 参照名、デフォルトベースラインを、[ベースラインコントロール] メニューの [編集] 機能を使用して変更できます。これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

XML ファイルをインポートしてカスタムベースラインとして使用する場合に、ベースライン名と一意の API 参照名を入力するプロンプトが表示されるようになりました。これまでその情報は、XML ファイルに含めるものでした。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition





開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

Salesforce DX は、Salesforce アプリケーション開発の可能性を大きく広げるものであり、個人開発者と開発チームの両方に、高パフォーマンスのアジャイル開発向けに設計されたエンドツーエンドの統合ライフサイクルを提供します。Lightning コンポーネント、Visualforce、または Apex を使用する、あるいはお気に入りのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれであっても、Force.com の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージを開発するのに役立ちます。

このセクションの内容:

Salesforce DX: Salesforce アプリケーション開発の新境地

ソース駆動開発に焦点を当てた Salesforce Developer Experience (Salesforce DX) の新機能によって、開発者の共同構築や継続的な配信が容易になります。これらの機能は、Git、Selenium、VS Code、Eclipse など、オープンソースの標準的なツールで使用します。

Einstein Platform Services: 画像認識および自然言語処理

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが望まれる場合があります。Einstein Platform Services API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、独自のカスタム分類子をトレーニングして、あらゆる専門分野の画像認識事例を解決します。Einstein Language (ベータ) API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

Lightning コンポーネント: セキュリティ、開発者の生産性、UI の機能と柔軟性

Lightning コンポーネントフレームワークによって、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web が強化されます。このフレームワークを使用すると、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web、Lightning Experience、Salesforce Classic およびコミュニティで、モバイルアプリケーションやページを構築できます。

Visualforce: Lightning Experience の準備状況とスタイル設定

Visualforce を使用して、組織のカスタムページを開発します。このリリースでの変更は、Lightning Experience で Visualforce ページがシームレスに使えるよう改善することに焦点を絞っています。この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

Apex

Apex は、Java に似た構文を使用し、データベースのストアドプロシージャのように動作するプログラミング言語です。Apex では開発者がビジネスロジックを、ボタンのクリック、関連レコードの更新、Visualforce ページなどのシステムイベントに追加できます。

ISVforce: 研修期間の短縮、ビジネス計画の簡易化、パッケージ化の機能拡張

AppExchange Trailblazer チェックリストを使用して、パートナージャーニーを迅速に進めます。他のリストの詳細を管理するためによく使用するアプリケーション (AppExchange 公開コンソール) のビジネスプランを管理します。機能パラメータを使用して、各機能への登録者のアクセスを制御します。また、登録者組織の管理パッケージの動作も改善されています。

デバッグ: デバッグログ保持の標準化

デバッグログが以前よりも予測しやすいスケジュールで削除されるようになり、保持できる量も増加しました。新しいデバッグログイベントも追加されました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

API

API バージョン 41.0 では、より多くのメタデータ型とデータオブジェクトにアクセスできます。SOSL およびデータサービスの新機能を使用して、検索を改善します。ユーザインターフェース API を使用して、ネイティブのモバイルアプリケーションとカスタム Web アプリケーションを作成します。Bulk API 2.0 を使用して、簡潔なユーザインターフェースで大量のレコードを処理します。

Salesforce DX: Salesforce アプリケーション開発の新境地

ソース駆動開発に焦点を当てた Salesforce Developer Experience (Salesforce DX) の新機能によって、開発者の共同構築や継続的な配信が容易になります。これらの機能は、Git、Selenium、VS Code、Eclipse など、オープンソースの標準的なツールで使用します。

次の基本原則に従えば、Salesforce プラットフォームで開発するためのオープンで統合された環境が整います。

- 何よりも重要なのはソースコードである。
- メタデータとコードはモジュールである。
- 環境は容易に作成および破棄できる。
- 開発はチームコラボレーションを中心に編成される。
- 開発はオープン標準および拡張性に基づく。
- 柔軟なパッケージでアジャイル配布モデルをサポートする。
- プロセスとツールにより継続的インテグレーションと継続的配信を促進する。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience

Dev Hub を使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

スクラッチ組織を使用可能なエディション: **Developer** Edition、**Enterprise** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition

個人開発者であるのか、大きなチームの一員として働いている開発者であるのかを問わず、Salesforce DX は、高性能なアジャイル開発向けに設計された、統合されたエンドツーエンドのライフサイクルを提供します。何よりも際立つのは、開発者が使い慣れたツールと手法を使用して構築できるように、オープンで柔軟な設計になっていることです。

このセクションの内容:

Salesforce DX を試す

Salesforce DX の新しい機能やツールは数通りの方法で学習できます。

Salesforce CLI による生産性の向上 (正式リリース)

Salesforce コマンドラインインターフェース (CLI) では、複数の Salesforce API から多数の機能が組み合わされています。Force.com 移行ツールや Salesforce ワークベンチなど、その他の Salesforce ツールの機能も組み込まれています。すべてが 1 つの場所で実行できます。開発およびテスト環境の容易な作成、ソースコードの同期、テストの作成および実行、アプリケーションライフサイクル全体の制御ができます。そして、すべての CLI 同様にスクリプト実行が可能です。Salesforce CLI は、2017 年 10 月中旬に正式リリースされます。

スクラッチ組織を使用した開発ライフサイクルの短縮 (正式リリース)

スクラッチ組織とは、Salesforce コードおよびメタデータの破棄可能なソース駆動型ランタイムであり、自分専用の開発環境です。スクラッチ組織ではあらゆる設定が可能なため、開発者は、機能や設定の異なるさまざまなエディションをエミュレートできます。Salesforce DX スクラッチ組織は、2017 年 10 月中旬に正式リリースされます。

開発者ハブを使用したスクラッチ組織の管理 (正式リリース)

開発者ハブ (Dev Hub) を使用して Salesforce スクラッチ組織の作成、削除、管理ができます。ローカルコンピュータにプロジェクトを設定した後、Salesforce CLI を使用して Dev Hub 組織を承認します。Dev Hub は、2017 年 10 月中旬に正式リリースされます。

ソースの追跡および同期 (正式リリース)

Salesforce DX では、Salesforce DX プロジェクトとスクラッチ組織間でのソースの追跡および同期をサポートしています。

Visual Studio Code 向け Salesforce 開発ツールを使用した迅速な構築 (正式リリース)

Visual Studio Code 向け Salesforce 開発ツールは、Salesforce Platform の開発ツールを含むオープンソースの拡張機能パックです。このパックを使用して、軽量で拡張可能な VS Code エディタにソース駆動の Salesforce DX 開発フローを表示します。これらの機能拡張には、スクラッチ組織、Apex、Lightning コンポーネント、Visualforce を操作する機能が備わっています。Visual Studio Code 向け Salesforce 開発ツールは、Apex デバッガなどの機能を追加して 2017 年 10 月中旬に正式リリースされます。

第二世代パッケージ (ベータ) のポテンシャル

第二世代パッケージによって、パートナーおよびエンタープライズのお客様がアプリケーションやメタデータを開発、配布、管理する新しい手法が切り開かれます。組織ベースではない、ソース駆動パッケージを使用したアジャイルなアプリケーション開発を希望する場合は、この新しい機能が役立つでしょう。第二世代パッケージのベータプログラムにご参加ください。

スクラッチ組織のシェイプ処理 (パイロット)

Winter '18 では、本番組織の「シェイプ」をスクラッチ組織に再現する、Salesforce DX のパイロットが導入されています。スクラッチ組織の定義ファイルで、指定するべき機能や設定に迷ったことはありませんか?あるいは、本番組織の機能や制限、設定を備えたスクラッチ組織が瞬時に作成されたら便利なのに、と思ったことはありませんか?この機能を使用すると、別の組織のシェイプを復元したスクラッチ組織をすばやく作成できます。

Salesforce DX を試す

Salesforce DX の新しい機能やツールは数通りの方法で学習できます。

Salesforce DX の Trailhead

バッジを獲得したいですか? Trailhead で「Salesforce DX の使用開始」トレイルを参照してください。このトレイルを完了し、4 つすべてのバッジを獲得して、Salesforce DX の熟練者になりましょう。

Salesforce DX 開発モデル

ソース駆動開発によって、開発パラダイムが組織ベースからアイテムベースにどのようにシフトするのかを学習します。

Salesforce DX を使用したアプリケーション開発

実際に開発してみましょう。Salesforce コマンドラインインターフェースを使用して、アプリケーションを作成およびリリースします。

Salesforce DX を使用した継続的インテグレーション

Git と Travis CI を併用して、迅速かつ簡易な継続的インテグレーションソリューションを準備する方法を確認します。

Git と GitHub の基本

多くの例では Git および GitHub が使用されています。バージョン管理システムについて、および Git と GitHub がどのように開発ライフサイクルに取り込まれるのかについて学習します。

Salesforce DX のドキュメント

Salesforce DX について、従来的な方法で、つまりドキュメントを熟読して学習します。

Salesforce DX 設定ガイド
このガイドは、Salesforce DX ジャーニーの開始点です。環境を設定するための詳細がすべて記載されています。

Salesforce CLI コマンドリファレンス
このガイドには、各 Salesforce CLI コマンドの包括的な説明が記載されています。

Salesforce DX 開発者ガイド
このガイドでは、開発ライフライクルで Salesforce DX を使用する基本シナリオについて説明します。日常的に使用する Salesforce CLI コマンドの多くが紹介されています。

Visual Studio Code 向け Salesforce 開発ツール
Salesforce DX 向け Visual Studio Code 拡張機能パックのドキュメントは、Visual Studio Code Marketplace に含まれています。改良できる点がありますか? GitHub で GitHub の問題を登録し、`README.md` ファイルを変更するプル要求を送信してください。

Salesforce CLI による生産性の向上 (正式リリース)

Salesforce コマンドラインインターフェース (CLI) では、複数の Salesforce API から多数の機能が組み合わされています。Force.com 移行ツールや Salesforce ワークベンチなど、その他の Salesforce ツールの機能も組み込まれています。すべてが1つの場所で実行できます。開発およびテスト環境の容易な作成、ソースコードの同期、テストの作成および実行、アプリケーションライフサイクル全体の制御ができます。そして、すべての CLI 同様にスクリプト実行が可能です。Salesforce CLI は、2017 年 10 月中旬に正式リリースされます。

Salesforce CLI についてはその変更内容が定期的にリリースされます。Salesforce CLI のバージョン 41、または『Salesforce CLI Command Reference』(ベータ) のバージョン 40 の公開後の週次更新で以下のコマンドおよびパラメータが変更されています。詳細は『Salesforce CLI Command Reference』のバージョン 41 を参照してください。

新しいコマンド

`lightning:test:install`
Lightning Testing Service (LTS) 未管理パッケージを組織にインストールします。

`mdapi:deploy:report`
メタデータの非同期リリースの状況を確認します。

`mdapi:retrieve:report`
メタデータの非同期取得の状況を確認します。

`org:shape:create` (パイロット)
招待によってのみ参加できるパイロットプログラムの参加者が使用できます。スクラッチ組織の作成に使用する組織のエディション、機能、ライセンスのスナップショットを作成して、テスト用にスクラッチ組織を別の組織のように表示します。

`org:shape:delete` (パイロット)
招待によってのみ参加できるパイロットプログラムの参加者が使用できます。Salesforce CLI を使用して組織に作成した組織シェイプをすべて削除します。

org:shape:list (パイロット)
招待によってのみ参加できるパイロットプログラムの参加者が使用できます。Salesforce CLI を使用して作成した組織シェイプをすべてリストします。

package:installed:list
ターゲット組織にインストールされたパッケージをすべてリストします。

package:uninstall
ターゲット組織の第二世代パッケージをアンインストールします。

package:uninstall:get
パッケージのアンインストール要求の状況を取得します。

package2:update (ベータ)
第二世代パッケージを更新します。

user:create
スクラッチ組織のユーザを作成します。

user:display
Salesforce CLI で作成または認証されたスクラッチ組織のユーザに関する情報を表示します。

user:list
Salesforce CLI で作成または認証されたスクラッチ組織のユーザをすべてリストします。

削除されたパイロットコマンド

package2:installed:list
第二世代パッケージに `package:installed:list` コマンドを使用できるようになりました。

package2:manifest:create

package2:members:list

package2:version:install
第二世代パッケージに `package:install` コマンドを使用できるようになりました。

package2:version:uninstall
第二世代パッケージに `package:uninstall` コマンドを使用できるようになりました。

新しいパラメータ

data:record:create: -t | --usetoolingapi
省略可能。Tooling API オブジェクトのレコードを作成します。

data:record:delete: -t | --usetoolingapi
省略可能。Tooling API オブジェクトのレコードを削除します。

data:record:get: -t | --usetoolingapi
省略可能。Tooling API オブジェクトのレコードを取得します。

data:record:update: -t | --usetoolingapi
省略可能。Tooling API オブジェクトのレコードを更新します。

data:record:update: -v | --targetdevhubusername
省略可能。ターゲットの Dev Hub 組織のユーザ名。デフォルトの Dev Hub 組織を上書きします。

mdapi:deploy

-o | --ignoreerrors
省略可能。リリースエラーを無視して、リリース操作を続行します。デフォルトは `false` です。本番組織にリリースするとき、このパラメータは `false` に設定されたままとなります。`true` に設定されている場合、エラーのないコンポーネントはリリースされ、エラーのあるコンポーネントはスキップされます。

-g | --ignorewarnings
省略可能。警告が発生し、`ignoreWarnings` が `true` に設定されている場合は、`DeployMessage` の `success` 項目が `true` です。`ignoreWarnings` が `false` に設定されているときは、`success` が `false` に設定され、警告がエラーのように処理されます。

org:create

-c | --noancestors
省略可能。スクラッチ組織に上位の第二世代パッケージが含まれないようにします。

-d | --durationdays
省略可能。スクラッチ組織の期間を設定します (日単位)。有効な値は 1 ～ 30 です。デフォルトは 7 日です。

package:install: -p | --publishwait
省略可能。ターゲット組織に複製する登録者パッケージバージョン ID を待機する最長時間 (分単位)。この時間を経過するとインストール要求がキャンセルされます。デフォルトは 0 です。

package2:create (beta): -o | --containeroptions
省略可能。第二世代パッケージのアップグレードルールおよび編集権限ルールを判断します。

package2:version:create (beta): -k | --installationkey
省略可能。キーで保護されたパッケージを作成するためのインストールキー。デフォルトは null です。

package2:version:update (beta): -k | --installationkey
省略可能。キーで保護されたパッケージのインストールキー。デフォルトは null です。

user:password:generate: -o | --onbehalfof
省略可能。パスワード生成の対象となるユーザ名のカンマ区切りのリスト。

user:permset:assign: -o | --onbehalfof
省略可能。権限セットの割り当て先となるユーザ名のカンマ区切りのリスト。

変更されたパラメータ

package2:version:create (beta): -d | --directory
必須から省略可能に変更されました。Package2 バージョンのコンテンツを含むディレクトリへのパス。

スクラッチ組織を使用した開発ライフサイクルの短縮 (正式リリース)

スクラッチ組織とは、Salesforce コードおよびメタデータの破棄可能なソース駆動型ランタイムであり、自分専用の開発環境です。スクラッチ組織ではあらゆる設定が可能なため、開発者は、機能や設定の異なるさまざまなエディションをエミュレートできます。Salesforce DX スクラッチ組織は、2017 年 10 月中旬に正式リリースされます。

メモ: Winter '18 では、Government Cloud およびパブリッククラウドのお客様は開発者ハブやスクラッチ組織をはじめとした Salesforce DX の一部の機能を使用できません。

スクラッチ組織の作成数: 有効な組織数および1日に作成可能な割り当て数の増加

エディション	スクラッチ組織の日次割り当て	有効なスクラッチ組織の割り当て
Enterprise Edition	80	40
Unlimited Edition	200	100
Performance Edition	200	100
Dev Hub のトライアル	40	20

スクラッチ組織の期間の指定

Salesforce はみなさんのご要望にお応えします。スクラッチ組織の期間は各自が指定でき、期限が切れるときに通知されます。スクラッチ組織のデフォルトの有効期間は 7 日間です。

十分な機能を備えた軽量なスクラッチ組織

デフォルトのスクラッチ組織は空です。無関係のサンプルデータやダッシュボード、レポート、ワークフロー、その他のメタデータが散乱しているということはありません。スクラッチ組織の定義ファイルで指定した機能や組織設定によって、スクラッチ組織に表示される内容が決まります。

また、サンプルデータやメタデータを備えたスクラッチ組織の作成を希望する場合であっても (通常は組織にサインアップ時にデータが追加される) 問題ありません。スクラッチ組織の定義ファイルに `hasSampleData` オプションを追加するだけです。

```
{
  "orgName": "Acme",
  "country": "US",
  "edition": "Enterprise",
  "features": ["MultiCurrency;AuthorApex"],
  "hasSampleData": "true",
  "orgPreferences": {
    "enabled": ["S1DesktopEnabled", "ChatterEnabled"],
     "disabled": ["SelfSetPasswordInApi"]
   }
}
```

Salesforce CLI を使用したスクラッチ組織の割り当て情報のリスト

`sfdx force:limits:api:display -u` ***<Dev Hub のユーザ名または別名>*** を実行すると、割り当てたスクラッチ組織の数と残りの数をリストできます。

Sコントロールは現在、スクラッチ組織でサポートされていません。

スクラッチ組織の Sコントロールに対するサポートは廃止されました。

開発者ハブを使用したスクラッチ組織の管理 (正式リリース)

開発者ハブ (Dev Hub) を使用して Salesforce スクラッチ組織の作成、削除、管理ができます。ローカルコンピュータにプロジェクトを設定した後、Salesforce CLI を使用して Dev Hub 組織を承認します。Dev Hub は、2017 年 10 月中旬に正式リリースされます。

スクラッチ組織の作成を開始するには、Dev Hub として機能させる有料組織を選択します。Dev Hub および環境を本番組織外で試用するには、Dev Hub トライアル組織にサインアップしてください。Dev Hub トライアル組織の期限は 30 日間ですが、「Salesforce DX の使用開始」トレイルを実行する時間は十分に取れるでしょう。

Winter '18 以降は、Performance Edition 組織で Dev Hub を有効にできます。

ソースの追跡および同期 (正式リリース)

Salesforce DX では、Salesforce DX プロジェクトとスクラッチ組織間でのソースの追跡および同期をサポートしています。

メタデータ API の型に対するサポートの拡張

Salesforce DX プロジェクトとスクラッチ組織間でのソースの追跡および同期では、メタデータ API の非常に多くの型がサポートされています。

静的リソースに使用される MIME 拡張

静的リソースは従来、`.resource` 拡張子が付いたバイナリオブジェクトとしてファイルシステムに格納されていました。Salesforce DX では、コンテンツの MIME タイプをサポートするという別の方法で静的リソースを処理します。たとえば、`.gif` ファイルは、`.resource` ファイルではなく `.gif` として格納されます。MIME 拡張子が付いているファイルを格納すれば、システム上の関連するエディタを使用してファイルを管理および編集できます。

メタデータソースのサーバ側追跡の向上

カスタムオブジェクトの子と Aura バンドルは、サーバ側で個別に追跡されます。以前は、パーツオブジェクトまたは親 Aura バンドルへの変更に基づいて追跡されていました。

関連トピック:

Salesforce DX 開発者ガイド: サポートされているメタデータ API 型

Salesforce DX 開発者ガイド: Salesforce DX プロジェクトの構造およびソースファイル形式

Visual Studio Code 向け Salesforce 開発ツールを使用した迅速な構築 (正式リリース)

Visual Studio Code 向け Salesforce 開発ツールは、Salesforce Platform の開発ツールを含むオープンソースの拡張機能パックです。このパックを使用して、軽量で拡張可能な VS Code エディタにソース駆動の Salesforce DX 開発フローを表示します。これらの機能拡張には、スクラッチ組織、Apex、Lightning コンポーネント、Visualforce を操作する機能が備わっています。Visual Studio Code 向け Salesforce 開発ツールは、Apex デバッガなどの機能を追加して 2017 年 10 月中旬に正式リリースされます。

Visual Studio Code 向け Salesforce 開発ツールを使用するには、salesforcedx-vscode 拡張機能パックをインストールします。必要な拡張機能がすべてインストールされます。

salesforcedx-vscode 拡張機能パックに含まれている拡張機能は、次のとおりです。

salesforcedx-vscode-core
この拡張機能は、Salesforce CLI とやり取りし、基本的な Salesforce DX 機能を提供します。

salesforcedx-vscode-apex
この拡張機能は、Apex 言語サーバを使用し、構文の強調表示やコード補完などの機能を提供します。

salesforcedx-vscode-apex
この機能拡張により、Apex デバッガライセンスを使用して、スクラッチ組織の問題をインタラクティブにデバッグできます。

salesforcedx-vscode-lightning
この拡張機能は、Lightning コンポーネントバンドルをサポートします。VS Code から HTML 言語サーバを使用します。

salesforcedx-vscode-visualforce
この拡張機能は、Visualforce ページとコンポーネントをサポートします。VS Code から HTML 言語サーバを使用します。

Visual Studio Code 向け Salesforce 開発ツールの詳細と使用開始方法は、Visual Studio Code Marketplace を参照してください。

拡張機能バンドルのソースコードを詳しく調べる、問題を報告する、または寄稿するには、GitHub をご覧ください。

Visual Studio Code 向け Salesforce 開発ツールは定期的にリリースされます。これらの継続的リリースでの変更に関する詳細は、拡張機能パックの変更ログを参照してください。

第二世代パッケージ (ベータ) のポテンシャル

第二世代パッケージによって、パートナーおよびエンタープライズのお客様がアプリケーションやメタデータを開発、配布、管理する新しい手法が切り開かれます。組織ベースではない、ソース駆動パッケージを使用したアジャイルなアプリケーション開発を希望する場合は、この新しい機能が役立つでしょう。第二世代パッケージのベータプログラムにご参加ください。

メモ: このリリースには、第二世代パッケージのベータバージョンが含まれています。ベータバージョンは機能の品質は高いですが、既知の制限があります。第二世代パッケージは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

開発者が管理する新しいパッケージとして、ロック状態とロック解除状態の2種類が提供されます。これらのパッケージ種別はパイロット機能として使用できます。このどちらのパッケージ種別も、インストールできるのはスクラッチ組織と Sandbox 組織のみです。これらのパッケージ種別のコマンド、パラメータ、その他の属性はすべて、通知の有無に関係なく、任意の時点で変更または廃止されることがあります。これらのパッケージ種別を使用して開発した機能を本番組織に実装しないでください。

AppExchange でアプリケーションをリリースおよび配布するためにパッケージを使用している経験豊富な ISV の方にも、カスタムアプリケーションをもっと簡単に管理したいと考えている初心者の方にも、朗報があります。Salesforce DX の開発モデルでは、第二世代パッケージを使用して、ソースを整理し VCS と統合して、カスタム Apex コードをさらに活用することができます。

第二世代パッケージによって開発方法に変革が訪れます。以下に、エンタープライズのお客様にもたらされる主なメリットを示します。

- ソース駆動開発に Salesforce DX コマンドラインインターフェース (CLI) の機能を使用する。
- パッケージをスクラッチ組織にインストールする。
- 開発者が管理するパッケージを使用して、メタデータやアプリケーションを整理してリリースする。

ISV にも次のようなメリットがあります。

- 機能ブランチの開発およびテストを実行する。
- CLI を使用して完全 API 駆動の開発が可能になる。
- 組織ベースではない、ソース駆動のパッケージを開発する。
- グローバル Apex クラスではなく、公開 Apex クラスを使用してパッケージ間でコードを共有する。
- 連動パッケージを簡単に開発して配布できる。
- 単一の名前空間内で複数のパッケージを定義する。

ベータの新機能

第二世代パッケージのパイロットに参加した場合は、ベータで以下の機能が導入されます。

第二世代パッケージの UI のインストールおよび表示
Salesforce UI でさまざまな CLI オプションを処理できるようになります。第二世代パッケージのインストール、表示、アンインストールをすべてクリック操作で行います。

パッケージ化できるメタデータ型の増大
ベータリリースでは、ワークフロー、フロー、ダッシュボード、記事タイプなど、サポートされるメタデータ型が増大しています。第二世代パッケージにこれらの型を追加します。

管理可能性オプションの増大 (パイロット)
ロック状態とロック解除状態という 2 種類の第二世代パッケージが新たに導入されました。これらのパッケージ種別はパイロットリリースで使用できます。この2つの種別はスクラッチ組織と Sandbox 組織にインストールできますが、本番組織にはインストールできません。

パイロットの参加者に対する重要な情報

パイロットで第二世代パッケージを試行した場合は、ベータリリースの使用を開始する前に、以下の重要事項を確認しておいてください。

新しい Dev Hub 組織の取得
パイロット中に取得した Dev Hub 組織は期限が切れています。使用できる Dev Hub 組織は Winter '18 以降のものです。ベータに参加する場合は、その組織で Dev Hub を有効にするときに、第二世代パッケージも有効にします。パイロットで使用したものと同じ名前空間を使用できますが、Developer Edition 組織からベータ用の新しい名前空間を取得することも可能です。

新しい CLI のインストール
ベータを使用する前に、Salesforce CLI をアンインストールします。次に『*Salesforce DX 設定ガイド*』の説明に従って CLI をインストールします。

パッケージ記述子を sfdx-project.json に追加
`package2-descriptor.json` ファイルは削除されています。パッケージ記述子をはじめとするプロジェクト設定の詳細はすべて `sfdx-project.json` ファイルで指定します。

新規および変更された CLI コマンドの確認
パイロットで使用可能であったコマンドに慣れている場合は、次の相違点に注意します。

- ベータでは `force:package2:version:install` の代わりに `force:package:install` を使用します。以下も同様です。
  - ベータでは `force:package2:install:get` の代わりに `force:package:install:get` を使用します。
  - ベータでは `force:package2:installed:list` の代わりに `force:package:installed:list` を使用します。
  - ベータでは `force:package2:uninstall` の代わりに `force:package:uninstall` を使用します。
- パッケージマニフェストを作成する必要がなくなったため、ベータでは CLI に `force:package2:manifest:create` コマンドがありません。
- `force:package2:member:list` コマンドは削除されています。登録者組織にパッケージのメンバーを表示する場合は、Salesforce の [設定] メニューにある [インストール済みパッケージ] オプションを使用して、登録者組織にパッケージのメンバーを表示します。

第二世代パッケージに関する考慮事項

第二世代パッケージを使用するときは次の点に注意してください。

バージョン 41.0 以降の API が必要
説明: 第二世代パッケージでは、バージョン 41.0 より前の API はサポートされていません。

対応策: 第二世代パッケージを作成する前に、`sfdx-project.json` の `sourceApiVersion` が 41.0 以降に設定されていることを確認します。

ロック解除状態およびロック状態のパッケージはスクラッチまたは Sandbox 組織にのみインストール可能
説明: 3 種類の第二世代パッケージを作成できます。管理対象の第二世代パッケージはどの組織にもインストール可能です。ロック状態およびロック解除状態のパッケージはパイロット機能で、Sandbox 組織またはスクラッチ組織にのみインストールできます。

対応策: なし

パッチバージョンは指定不可

説明:パッケージのバージョン番号は major.minor.patch.build の 4 つの部分で構成されており、パッチセグメントはその一部です。ただし、第二世代パッケージの場合はパッチを作成できません。パッケージ記述子にパッチ番号を設定すると、パッケージの作成に失敗します。パッチのバージョンについては今後のリリースでご案内します。

対応策:バージョン番号のパッチセグメントは常に 0 に設定します。たとえば、1.2.0.1 は有効ですが、1.2.1.1 は無効です。

インストール済みパッケージで名前空間を共有する場合、開発者は、スクラッチ組織で保護されているカスタムメタデータやカスタム設定を表示可能

説明:保護されているカスタムメタデータやカスタム設定を使用して、シークレットを第二世代パッケージに保存するときは注意が必要です。同一の名前空間で複数の第二世代パッケージを作成できます。ただし、これらのパッケージをスクラッチ組織にインストールする場合は、名前空間を共有しているスクラッチ組織で作業している開発者全員にシークレットが表示されます。今後、こうした状況でパッケージのシークレットにアクセスできないようにするために「パッケージで保護された」というキーワードが追加される可能性があります。

対応策:なし

スクラッチ組織のシェイプ処理 (パイロット)

Winter'18 では、本番組織の「シェイプ」をスクラッチ組織に再現する、Salesforce DX のパイロットが導入されています。スクラッチ組織の定義ファイルで、指定するべき機能や設定に迷ったことはありませんか?あるいは、本番組織の機能や制限、設定を備えたスクラッチ組織が瞬時に作成されたら便利なのに、と思ったことはありませんか? この機能を使用すると、別の組織のシェイプを復元したスクラッチ組織をすばやく作成できます。

重要: Salesforce DX の組織シェイプ機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて、一部のお客様に提供されます。組織シェイプ機能は変更される可能性があり、Salesforce が、ドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。すべてのコマンド、パラメータ、その他の機能は、通知の有無に関係なく、いつでも変更または廃止される可能性があります。これらのコマンドまたはツールを使用して開発した機能を実装しないでください。

このパイロットは、Salesforce DX を積極的に使用し、建設的なフィードバックの提供することに前向きなお客様に適しています。まずはこの機能をごく一部のお客様にロールアウトして、対象を順次拡大していく予定です。早期の利用をご希望の場合は、チームごとに指定のフォーム (https://goo.gl/forms/lJGjXwU5wSYunp7q1) を記入してください。

Einstein Platform Services: 画像認識および自然言語処理

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが望まれる場合があります。Einstein Platform Services API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、独自のカスタム分類子をトレーニングして、あらゆる専門分野の画像認識事例を解決します。Einstein Language (ベータ) API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

このセクションの内容:

Einstein Language (ベータ): アプリケーションの自然言語処理の作成
Einstein Language API を使用して、アプリケーションの自然言語処理を作成し、テキスト内の強力なインサイトを得ます。Language API には、Einstein Intent API と Einstein Sentiment API が含まれます。

Einstein Vision: マルチ表示ラベルモデル、モデルフィードバック、およびグローバルデータセット
Einstein Vision バージョン 2.0 がリリースされました。このバージョンで、Einstein Vision がすべての画像認識 API の総称となりました。Einstein Vision API は、Image Classification API という名前に変更されました。Image Classification API には、マルチ表示ラベルモデル、モデルにフィードバックを追加する機能、グローバルデータセットなどの新機能が含まれています。

Einstein Language (ベータ): アプリケーションの自然言語処理の作成

Einstein Language API を使用して、アプリケーションの自然言語処理を作成し、テキスト内の強力なインサイトを得ます。Language API には、Einstein Intent API と Einstein Sentiment API が含まれます。

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンの Einstein Language が含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。Einstein Language は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。Einstein Language に関するフィードバックや提案は、Trailblazer コミュニティの IdeaExchange に投稿してください。

Einstein Intent API は、ユーザが何をしようとしているかを明確に把握するため、非構造化データをユーザ定義の表示ラベルに分類します。この API を使用して、メール、チャット、または Web フォームのテキストを分析し、次のことができます。

- 商品に関心を持っている見込み客を判断し、顧客からの問い合わせを適切な営業担当に送信する。
- サービスケースを適切なエージェントまたは部署に転送するか、セルフサービスオプションを提供する。
- 顧客の投稿を理解し、コミュニティでパーソナライズされたセルフサービスを提供する。

Einstein Sentiment API は、テキストをポジティブクラス、ネガティブクラス、ニュートラルクラスに分類し、テキストの意図を理解します。この API を使用して、メール、ソーシャルメディア、チャットのテキストを分析し、次のことができます。

- 見込み客のメールのセンチメントを識別し、リードまたは商談の増加や減少をトレンド分析する。
- 不満のある顧客に最初に対応したり、満足した顧客へのプロモーションオファーを延長したりして、プロアクティブなサービスを提供する。
- ソーシャルメディアチャネル全体のブランド認知を監視し、ブランドエバンジェリストを特定し、顧客満足度に注目する。

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Introduction to Salesforce Einstein Language (Beta) (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Salesforce Einstein 言語の導入 (ベータ))

Einstein Vision: マルチ表示ラベルモデル、モデルフィードバック、およびグローバルデータセット

Einstein Vision バージョン 2.0 がリリースされました。このバージョンで、Einstein Vision がすべての画像認識 API の総称となりました。Einstein Vision API は、Image Classification API という名前に変更されました。Image Classification API には、マルチ表示ラベルモデル、モデルにフィードバックを追加する機能、グローバルデータセットなどの新機能が含まれています。

このセクションの内容:

- 新しい API エンドポイントへの切り替え
- フィードバックを使用したモデルの最適化
- マルチ表示ラベルモデルによる複数のオブジェクトの識別
- 事前作成済みモデルを使用した画像の分類
- グローバルデータセットによるモデルへのデータの追加
- データセットの作成にデータセット種別が必要
- 廃止された Einstein Image Classification API コール

新しい API エンドポイントへの切り替え

API エンドポイントが新しくなりました。API は、`https://api.einstein.ai` エンドポイントを使用するようになりました。Einstein Platform Services API にアクセスする場合、この新しいエンドポイントを使用します。古い `api.metamind.io` エンドポイントも今のところまだ機能しますが、古いエンドポイントはいずれ廃止されるため、新しいエンドポイントを使用するようにコードを更新してください。

フィードバックを使用したモデルの最適化

モデルが画像を誤って分類している場合、その画像をデータセットの正しい表示ラベルに追加できます。その後データセットをトレーニングし、モデルを更新できます。このフィードバックサイクルでは、新しいデータを追加してモデルを改善します。

マルチ表示ラベルモデルによる複数のオブジェクトの識別

Image Classification API を使用して、マルチ表示ラベルモデルを作成できます。マルチ表示ラベルモデルは、1 つの画像で複数のクラスを予測します。たとえば、スポーツ用品のマルチ表示ラベルモデルがあり、野球のグラブとバットが含まれる画像を分類するとします。予測レスポンスには baseball-bat クラスと baseball-glove クラスの高い確率が含まれます。

事前作成済みモデルを使用した画像の分類

Einstein Vision では、すぐに予測を開始できるように 2 つの事前作成済みモデルが用意されています。

グローバルデータセットによるモデルへのデータの追加

グローバルデータセットは、カスタムモデルに追加できるデータが含まれた公開データセットです。データセットをトレーニングしてモデルを作成するときに、グローバルデータセットのデータを含めることができます。モデルのネガティブクラスまたは「その他」のクラスの作成にグローバルデータセットを使用することを検討してください。ネガティブクラスは、予測で画像が他のクラスと一致しない場合に返されます。

データセットの作成にデータセット種別が必要

データセットをトレーニングしてモデルを作成するときに、モデル種別がデータセット種別から継承されます。必要なモデル種別は、モデルに送信する画像、およびモデルでそららの画像の何を識別するかによって異なります。

廃止された Einstein Image Classification API コール

次のコールは、Einstein Image Classification API バージョン 2.0 で廃止されました。

Einstein Object Detection を使用した画像オブジェクトの特定 (ベータ)

Einstein Object Detection API を使用して画像内の複数の個別のオブジェクトを分類およびカウントするために深層学習モデルをトレーニングします。API は、画像内のオブジェクトを識別し、各オブジェクトのサイズや場所などの詳細を提供します。

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド)

新しい API エンドポイントへの切り替え

API エンドポイントが新しくなりました。API は、`https://api.einstein.ai` エンドポイントを使用するようになりました。Einstein Platform Services API にアクセスする場合、この新しいエンドポイントを使用します。古い `api.metamind.io` エンドポイントも今のところまだ機能しますが、古いエンドポイントはいずれ廃止されるため、新しいエンドポイントを使用するようにコードを更新してください。

たとえば、データセットを取得するエンドポイントは `https://api.einstein.ai/v2/vision/datasets/<DATASET_ID>` です。

フィードバックを使用したモデルの最適化

モデルが画像を誤って分類している場合、その画像をデータセットの正しい表示ラベルに追加できます。その後データセットをトレーニングし、モデルを更新できます。このフィードバックサイクルでは、新しいデータを追加してモデルを改善します。

フィードバック API コールでは、次のことができます。

- 誤って分類された画像を正しい表示ラベルでデータセットに追加する。
- フィードバックとしてデータセットに追加された画像のリストを取得する。
- フィードバック画像を使用して、モデルを作成するか既存のモデルを更新する。

ビーチと山を分類するモデルがあるとします。画像 `alps.jpg` をモデルに送信して予測を取得します。モデルは画像がビーチ (Beaches クラス) である確率が高いと応答します。ただし、あなたはこの画像は山 (Mountains クラス) の確率が高いことを期待していました。画像が誤って分類されています。いずれかのフィードバック API コールを使用して、誤って分類された画像を正しい表示ラベルでモデルの作成元データセットに追加します。

次の cURL コールは、`alps.jpg` を新しい例としてデータセットに追加します。要求パラメータ `expectedLabel=Mountains` は、画像がデータセットの正しいクラスに追加されたことを示します。

```
curl-X POST -H "Authorization: Bearer <TOKEN>" -H "Cache-Control: no-cache" -H "Content-Type:
 multipart/form-data" -F "modelId=3CMCRC572BD3OZTQSTTUU4733Y" -F "data=@c:\data\alps.jpg"
 -F "expectedLabel=Mountains" https://api.einstein.ai/v2/vision/feedback
```

フィードバック画像をデータセットに追加したら、そのデータセットをもう一度トレーニングしてモデルを更新できます。

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Add Feedback to a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットへのフィードバックの追加)

マルチ表示ラベルモデルによる複数のオブジェクトの識別

Image Classification API を使用して、マルチ表示ラベルモデルを作成できます。マルチ表示ラベルモデルは、1 つの画像で複数のクラスを予測します。たとえば、スポーツ用品のマルチ表示ラベルモデルがあり、野球のグラブとバットが含まれる画像を分類するとします。予測レスポンスには baseball-bat クラスと baseball-glove クラスの高い確率が含まれます。

データセットから開始

マルチ表示ラベルモデルを作成するには、データセットから開始します。データセットを作成するときに、`image-multi-label` の種別を指定します次の cURL コールはデータセットを作成します。

```
curl-X POST -H "Authorization: Bearer <TOKEN>" -H "Cache-Control: no-cache" -H "Content-Type:
 multipart/form-data" -F "path=http://einstein.ai/images/sports.zip" -F
"type=image-multi-label" https://api.einstein.ai/v2/vision/datasets/upload
```

マルチ表示ラベルモデルを作成するには、標準の分類モデルと同じエンドポイント `https://api.einstein.ai/v2/vision/train` を使用してマルチ表示ラベルデータセットをトレーニングします。

モデルの総計値の取得

マルチ表示ラベルモデルを作成したら、モデルの総計値を取得してモデルの精度とパフォーマンスを理解できます。マルチ表示ラベルモデルの総計値は標準の分類モデルの総計値と同じ方法で取得しますが、レスポンス形式は異なります。次の cURL はモデルの総計値を取得します。

```
curl-X GET -H "Authorization: Bearer <TOKEN> "-H" Cache-Control: no-cache"
https://api.einstein.ai/v2/vision/models/<MODEL_ID>
```

画像の分類

画像の分類には、標準の画像分類モデルと同じコールを使用しますが、レスポンスは異なります。

```
curl -X POST -H "Authorization: Bearer <TOKEN>" -H "Cache-Control: no-cache" -H
"Content-Type: multipart/form-data" -F "modelId=<YOUR_MODEL_ID>" -F
"sampleLocation=http://web.yoursite.com/<IMAGE_FILE>.png"
https://api.einstein.ai/v2/vision/predict
```

レスポンスはモデル内のすべてのクラスを返します。各確率の値は 0 ～ 1 で、確率が最も高いモデルが最上位になります。スポーツのマルチ表示ラベルモデルからのレスポンス例を次に示します。

```
{
  "probabilities": [
    {
      "label": "baseball-bat",
      "probability": 0.7356758
    },
    {
      "label": "baseball-glove",
      "probability": 0.74909562
    },
    {
```

```
      "label": "basketball-hoop",
      "probability": 0.112600096
    },
    {
      "label": "tennis-ball",
      "probability": 0.088070825
    },
    {
      "label": "tennis-racket",
      "probability": 0.0854089
    },
    {
      "label": "tennis-court",
      "probability": 0.0007318517
    }
  ],
  "object": "predictresponse"
}
```

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Determine the Model Type You Need (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 必要なモデル種別の決定)

Einstein Platform Services Developer Guide: Create a Dataset From a Zip File Asynchronously (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: zip ファイルからデータセットを非同期的に作成する)

Einstein Platform Services Developer Guide: Add Feedback to a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットのトレーニング)

Einstein Platform Services Developer Guide: Get Multi-Label Model Metrics (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 複数表示ラベルモデルの総計値の取得)

事前作成済みモデルを使用した画像の分類

Einstein Vision では、すぐに予測を開始できるように 2 つの事前作成済みモデルが用意されています。

- 複数表示ラベル画像モデル—さまざまなオブジェクトが含まれる画像を分類します。このモデルを使用して画像を分類すると、モデルの各クラスの予測と各クラスの確度が返されます。このモデルでは、画像の複数のオブジェクトが検出されるため、確度の合計は 1 に達しません。
- シーン画像モデル—屋内シーンと野外シーンの画像を分類します。このモデルでは、確度の高い順に上位 5 つのクラスが返されます。シーン画像モデルは標準分類モデルであるため、すべての確度を合計すると 1 に達します。

次の cURL コマンドは、シーン画像モデルに対する予測を行います。

```
curl-X POST -H "Authorization: Bearer <TOKEN>" -H "Cache-Control: no-cache" -H "Content-Type:
 multipart/form-data" -F "sampleLocation=http://einstein.ai/images/gym.jpg" -F
"modelId=SceneClassifier" https://api.einstein.ai/v2/vision/predict
```

このモデルでは、次の JSON のような応答が返されます。

```
{
  "probabilities": [
```

```
    {
      "label": "Gym interior",
      "probability": 0.996387
    },
    {
      "label": "Airport terminal",
      "probability": 0.0025247275
    },
    {
      "label": "Office or Cubicles",
      "probability": 0.00049142947
    },
    {
      "label": "Bus or train interior",
      "probability": 0.00019321487
    },
    {
      "label": "Restaurant patio",
      "probability": 0.000069430374
    }
  ],
  "object": "predictresponse"
}
```

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Use the Prebuilt Models (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 事前作成済みモデルの使用)

Einstein Platform Services Developer Guide: Scene Image Model Class List (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: シーン画像モデルクラスリスト)

Einstein Platform Services Developer Guide: Scene Image Model Class List (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 複数表示ラベル画像モデルクラスリスト)

グローバルデータセットによるモデルへのデータの追加

グローバルデータセットは、カスタムモデルに追加できるデータが含まれた公開データセットです。データセットをトレーニングしてモデルを作成するときに、グローバルデータセットのデータを含めることができます。モデルのネガティブクラスまたは「その他」のクラスの作成にグローバルデータセットを使用することを検討してください。ネガティブクラスは、予測で画像が他のクラスと一致しない場合に返されます。

データセットをトレーニングするときに、グローバルデータセットの ID を指定して、トレーニングプロセスで作成されたモデルにそのデータを含めます。次の cURL コマンドは、`trainParams` 要求パラメータで `withGlobalDatasetId` を指定します。

```
curl -X POST -H "Authorization: Bearer <TOKEN>" -H "Cache-Control: no-cache" -H
"Content-Type: multipart/form-data" -F "name=Beaches and Mountains w/Global Other Dataset"
 -F "datasetId=<DATASET_ID>" -F "trainParams={\"withGlobalDatasetId\" : 1005161}"
https://api.einstein.ai/v2/vision/train
```

分類の画像を送信して画像がデータセットのクラスと一致しない場合、結果は次の JSON のようになります。

```
{
    "probabilities": [
        {
            "label": "other",
            "probability": 0.99999857
        },
        {
            "label": "Beaches",
            "probability": 8.929781e-7
        },
        {
            "label": "Mountains",
            "probability": 5.91046e-7
        }
    ],
    "object": "predictresponse"
}
```

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Add Feedback to a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: グローバルデータセットの使用)

データセットの作成にデータセット種別が必要

データセットをトレーニングしてモデルを作成するときに、モデル種別がデータセット種別から継承されます。必要なモデル種別は、モデルに送信する画像、およびモデルでそららの画像の何を識別するかによって異なります。

Einstein Image Classification API バージョン 2.0 では、データセットを作成するときに `type` パラメータが必要になりました。有効な値は、次のとおりです。

- `image` — 標準の分類データセット。このデータセット種別から作成されたモデルは、画像を 1 つのクラスに分類します。
- `image-multi-label` — マルチ表示ラベル分類データセット。このデータセット種別から作成されたモデルは、画像を複数のクラスに分類します。

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Determine the Model Type You Need (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 必要なモデル種別の決定)

Einstein Platform Services Developer Guide: Create a Dataset From a Zip File Asynchronously (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: zip ファイルからデータセットを非同期的に作成する)

Einstein Platform Services Developer Guide: Create a Dataset From a Zip File Asynchronously (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: zip ファイルからデータセットを同期的に作成する)

廃止された Einstein Image Classification API コール

次のコールは、Einstein Image Classification API バージョン 2.0 で廃止されました。

/vision/datasets/<DATASET_ID>/labels

表示ラベルを作成します。データセットを作成するときに、表示ラベルで渡すことが必要になりました。

/vision/datasets/<DATASET_ID>/labels/<LABEL_ID>

表示ラベルを取得します。

/vision/datasets/<DATASET_ID>/examples/<EXAMPLE_ID>

提案を取得します。

/vision/datasets/<DATASET_ID>/examples/<EXAMPLE_ID>

例を削除します。

Einstein Object Detection を使用した画像オブジェクトの特定 (ベータ)

Einstein Object Detection API を使用して画像内の複数の個別のオブジェクトを分類およびカウントするために深層学習モデルをトレーニングします。API は、画像内のオブジェクトを識別し、各オブジェクトのサイズや場所などの詳細を提供します。

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンの Einstein Object Detection が含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。Einstein Object Detection は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。Einstein Object Detection に関するフィードバックや提案は、Trailblazer コミュニティの IdeaExchange に投稿してください。

API は、画像で識別されるオブジェクトまたはオブジェクトセットごとにオブジェクトの境界ボックスの座標やクラスの表示ラベルを返します。また、オブジェクトがクラスの表示ラベルに一致している確度も返します。Object Detection API は、画像内の商品ロゴを特定したり、棚の商品をカウントしたりする場合に使用します。

Einstein Object Detection は Einstein Vision の一部であるため、実行するコールは画像およびマルチ表示ラベルモデルのコールと類似しています。ただし、オブジェクト検出モデルはマルチ表示ラベルモデルとは異なります。マルチ表示ラベルモデルは、特定のオブジェクトが画像に含まれている確度を返しますが、オブジェクト検出モデルは、画像内の特定のオブジェクトの場所を識別します。

データセットから開始

検出モデルを作成するには、データセットから開始します。データセットを作成する場合、種別として `image-detection` を指定します。次の cURL コールはデータセットを作成します。

```
curl-X POST -H "Authorization: Bearer <TOKEN>" -H "Cache-Control: no-cache" -H "Content-Type:
 multipart/form-data" -F "path=http://<DATA_URL>/products.zip" -F "type=image-detection"
https://api.einstein.ai/v2/vision/datasets/upload
```

モデルを作成するには、標準の分類モデルと同じエンドポイント `https://api.einstein.ai/v2/vision/train` を使用して検出データセットをトレーニングします。

画像の分類

画像の分類には、新しい /detect エンドポイントを使用します。渡す画像は、ローカルドライブに配置しておくことも、URL で参照することもできます。

```
curl -X POST -H "Authorization: Bearer <TOKEN>" -H "Cache-Control: no-cache" -H
"Content-Type: multipart/form-data" -F "modelId=<YOUR_MODEL_ID>" -F
"sampleLocation=http://web.yoursite.com/<IMAGE_FILE>.png"
https://api.einstein.ai/v2/vision/detect
```

会社で API を使用して店舗の棚にある商品を検出するとします。検出するために画像を送信すると、次のような JSON の応答が返されます。表示される表示ラベルは、モデルの表示ラベルによって異なります。応答では、境界ボックスの表示ラベル、確度、座標が返されます。これらの座標は、項目が画像のどこで検出されたのかを示します。

```
{
        "probabilities": [
            {
                "label": "Bran Cereal",
                "probability": 0.9994634,
                "boundingBox": {
                    "minX": 325,
                    "minY": 300,
                    "maxX": 483,
                    "maxY": 402
                }
            },
            {
                "label": "Out of Stock",
                "probability": 0.99834275,
                "boundingBox": {
                    "minX": 536,
                    "minY": 322,
                    "maxX": 647,
                    "maxY": 385
                }
            },
            {
                "label": "Oat Cereal",
                "probability": 0.9977386,
                "boundingBox": {
                    "minX": 697,
                    "minY": 356,
                    "maxX": 789,
                    "maxY": 395
                }
            },
            {
                "label": "Protein Mix",
                "probability": 0.99745244,
                "boundingBox": {
                    "minX": 40,
                    "minY": 289,
                    "maxX": 150,
                    "maxY": 332
```

```
            }
        },
        {
            "label": "Corn Flakes",
            "probability": 0.9832312,
            "boundingBox": {
                "minX": 390,
                "minY": 101,
                "maxX": 431,
                "maxY": 134
            }
        },
        {
            "label": "Other",
            "probability": 0.94256777,
            "boundingBox": {
                "minX": 368,
                "minY": 350,
                "maxX": 447,
                "maxY": 408
            }
        }
    ] }
```

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Determine the Model Type You Need (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 必要なモデル種別の決定)

Einstein Platform Services Developer Guide: Create a Dataset From a Zip File Asynchronously (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: zip ファイルからデータセットを非同期的に作成する)

Lightning コンポーネント: セキュリティ、開発者の生産性、UI の機能と柔軟性

Lightning コンポーネントフレームワークによって、Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web が強化されます。このフレームワークを使用すると、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web、Lightning Experience、Salesforce Classic およびコミュニティで、モバイルアプリケーションやページを構築できます。

すぐに使えるコンポーネントを使用するか、JavaScript、HTML、CSS、Apex、その他の Web 対応コードを使用して独自のコンポーネントを構築します。

AppExchange では、Salesforce パートナーが作成したコンポーネントをインストールしたり、独自のコンポーネントを公開したりすることができます。

詳細は、*『Lightning コンポーネント開発者ガイド』*を参照してください。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

UI を使用して Lightning コンポーネントを作成するエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition、または Sandbox。

このセクションの内容:

厳格な CSP 制限の重要な更新
新しい Lightning 基本コンポーネントで画期的なユーザインターフェースを構築
新しいコンポーネントライブラリの紹介 (ベータ)
更新された LockerService API ビューアの紹介
コンポーネントコードの保存時の自動検証

厳格な CSP 制限の重要な更新

コンテンツセキュリティポリシー (CSP) の厳格化の制限が LockerService から切り離されました。この制限は、Winter '18 の本番組織では適用されません。代わりに、Sandbox および Developer Edition のみに影響する 2 つの重要な更新で、CSP の厳格化に関する変更を利用できます。CSP の厳格化に対応するコードの更新により多くの時間を費やすことができます。

新しい Lightning 基本コンポーネントで画期的なユーザインターフェースを構築

30 個の新しい組み込み Lightning コンポーネント群を使用して開発を促進できます。新しいコンポーネントでは、幅広いユーザインターフェース要素を使用でき、まったく新しい開発ツール群が提供されます。

新しいコンポーネントライブラリの紹介 (ベータ)

検索可能なコンポーネントライブラリでコンポーネントの検索がさらに簡単になります。対話型の例を使用してコンポーネントのデザインをプレビューできます。

更新された LockerService API ビューアの紹介

LockerService API ビューアのユーザインターフェースが合理化され、Salesforce Lightning Design System に基づいた視覚的デザインになりました。この API ビューアを使用すると、重要な JavaScript DOM API (`window` など) のセキュアなバージョンで使用可能なプロパティを探索できます。API ビューアを使用して、ブラウザでサポートされるオブジェクトをそのセキュアなバージョンと比較し (たとえば、`window` と `SecureWindow` など)、互換性に関する考慮事項を明らかにすることができます。

コンポーネントコードの保存時の自動検証

Lightning コンポーネントの JavaScript コードは、保存時に検証されます。検証によって、コンポーネントがベストプラクティスを使用して記述されていることを確認し、一般的な落とし穴によって LockerService と非互換になることを避けることができます。検証は、ユーザが開発者コンソールで Lightning コンポーネントリソースを保存すると、任意の IDE でまたは API を介して自動的に実行されます。

$Label 式の処理の変更

JavaScript 文字列内の式は、自動的に参照解決(評価および解決)されなくなりました。これは、主に `$Label` グローバル値プロバイダの使用に影響します。JavaScript 文字列内で "{!$Label.c.someLabel}" などの表示ラベルの式をこれまで使用していた場合、実際のカスタム表示ラベルテキストには解決されなくなりました。その代わりに、表示ラベルの式自体が表示されます。

Lightning コンポーネントを使用したカスタムページテンプレートの作成

Lightning レコードやアプリケーション、ホームページに、標準テンプレート以外を使用できるようになりました。ビジネスニーズに合わせて、構造やコンポーネントを定義して独自のカスタムページテンプレートを作成できます。領域は必要に応じて追加でき、カスタムスタイル設定も可能です。

lightning:container での Apex サービスの使用 (正式リリース)

Lightning コンテナコンポーネントを使用すると、iframe コンテンツのコンテンツセキュリティポリシー (CSP) を指定できます。これまで、設定できる CSP は、`minimum`、`Lightning`、または `custom` でした (デフォルトは `Lightning`)。今後、CSP レベル `low`、`high`、または `custom` を設定できます (デフォルトは `low`)。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Apex コードなしで Lightning データサービスを使用したレコード操作の実行 (正式リリース)

Apex コードは使用せずに Lightning データサービスを使用して、コンポーネントのレコードの読み込み、作成、編集、または削除を行います。Lightning データサービスは、コンポーネント全体にわたってパフォーマンスとデータの一貫性を高めます。

aura:method から結果を返す

親コンポーネントからそこに含まれる子コンポーネントに通信するために使用される `aura:method` から結果を返すのがより簡単になりました。同期 JavaScript コードから値を返すには、`return` ステートメントを使用します。

クライアントペイロードデータ制限の 4 MB への増加

フレームワークでは、キュー内にあるサーバ側アクションを1つのサーバ要求にまとめます。要求ペイロードには、すべてのアクションとそのデータが JSON として逐次化されます。この要求ペイロードの制限が 4 MB に増加しました。これまでは 1 MB でした。

Lightning コンポーネントタブの翻訳

トランスレーションワークベンチでは、他のタブと同様に Lightning コンポーネントタブの名前の翻訳がサポートされます。組織やコンポーネントでサポートするすべての言語で Lightning コンポーネントタブの名前を翻訳することで、ユーザと顧客は希望する言語で作業できます。翻訳バージョンが使用可能な場合、Lightning コンポーネントタブ名は、現在のユーザの言語で表示されます。

aura:dependency でのワイルドカード照合は非推奨

ワイルドカード照合では、一致するリソースがない場合に保存規則エラーが発生します。また、ワイルドカード照合ではクライアントに必要以上の定義を送信するため、ページ読み込み時間が長くなることがあります。代わりに、コンポーネントのマークアップで直接参照されない各リソースに `<aura:dependency>` タグを追加します。

新規追加または変更された Lightning コンポーネント

さまざまな新しいコンポーネントを使用することで、すばやくユーザインターフェースを構築できます。

新規追加または変更された Lightning イベント

Lightning イベントはコンポーネント間のコミュニケーションを容易にし、アプリケーションのインタラクションを向上させます。

新規追加または変更された Lightning インターフェース

Lightning インターフェースを使用すると、コンポーネントをさまざまなコンテキストで使用したり、コンポーネントで追加のコンテキストデータを受信したりできます。

厳格な CSP 制限の重要な更新

コンテンツセキュリティポリシー (CSP) の厳格化の制限が LockerService から切り離されました。この制限は、Winter '18 の本番組織では適用されません。代わりに、Sandbox および Developer Edition のみに影響する 2 つの重要な更新で、CSP の厳格化に関する変更を利用できます。CSP の厳格化に対応するコードの更新により多くの時間を費やすことができます。

次の 2 つの重要な更新 (コミュニティ用に 1 つ、他のコンテキスト用に 1 つ) があります。

- Lightning コンポーネントの厳格なコンテンツセキュリティポリシーの有効化
- コミュニティでの Lightning コンポーネントの厳格なコンテンツセキュリティポリシーの有効化

Lightning コンポーネントフレームワークでは、すでに W3C 標準の CSP を使用して、ページに読み込むことができるコンテンツのソースを制御しています。これらの重要な更新は、CSP を強化して、クロスサイトスクリプティング攻撃のリスクを軽減します。

厳格な CSP には聞き覚えがあるかもしれません。Spring '17 の LockerService の重要な更新で、インラインスクリプト (`script-src`) の `unsafe-inline` および `unsafe-eval` キーワードを禁じるために厳格な CSP が導入されました。これらの CSP の変更は、Sandbox 組織と Developer Edition 組織にのみ適用されていました。

重要な更新のスケジュール

厳格な CSP は、他の組織でも段階的に使用可能になります。予定されているスケジュールを次に示しますが、このスケジュールは今後のリリースで変更される可能性があります。

<table>
<tr><th></th><th>重要な更新</th><th>Summer '17</th><th>Winter '18</th><th>Spring '18 (2018 年 2 月)</th><th>Summer '18</th><th>Winter '19 (2018 年 10 月)</th></tr>
<tr><td rowspan="2">Sandbox 組織と DE 組織</td><td>Lightning コンポーネントの厳格な CSP の有効化</td><td colspan="3">LockerService が Spring '17 で有効化されていない限りデフォルトで無効</td><td rowspan="4">すべての組織で有効</td></tr>
<tr><td>コミュニティでの Lightning コンポーネントの厳格な CSP の有効化</td><td colspan="3">デフォルトで無効</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本番組織</td><td>Lightning コンポーネントの厳格な CSP の有効化</td><td colspan="2">N/A</td><td colspan="2">デフォルトで有効</td></tr>
<tr><td>コミュニティでの Lightning コンポーネントの厳格な CSP の有効化</td><td colspan="2">N/A</td><td colspan="2">デフォルトで無効</td></tr>
</table>

Winter '18
これらの重要な更新は、Sandbox 組織と Developer Edition 組織でのみ適用されます。このリリースの本番組織では厳格な CSP は適用されません。

Spring '18 (将来の計画)
これらの重要な更新は、本番組織を含むすべての組織に適用されます。

- 「Lightning コンポーネントの厳格なコンテンツセキュリティポリシーの有効化」はデフォルトで有効になります。
- 「コミュニティでの Lightning コンポーネントの厳格なコンテンツセキュリティポリシーの有効化」はデフォルトで無効になります。

いつでも必要に応じて、テスト目的で両方の重要な更新の有効化と無効化を行うことができます。

Winter '19 (将来の計画)
重要な更新が期限切れになったときに、両方の重要な更新がすべての組織で自動的に有効化されます。

「Lightning コンポーネントの厳格なコンテンツセキュリティポリシーの有効化」の有効化

厳格な CSP は、重要な更新「Lightning LockerService セキュリティの有効化」が以前に有効化されている Sandbox 組織と Developer Edition 組織でデフォルトで有効になります。その他すべての Sandbox 組織と Developer Edition 組織では、厳格な CSP はデフォルトで無効になります。

厳格な CSP を有効にする手順は、次のとおりです。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに *「重要な更新」* と入力して、[重要な更新] を選択します。
2. [Lightning コンポーネントの厳格なコンテンツセキュリティポリシーの有効化] で、[有効化] をクリックします。
3. ブラウザページを更新して、厳格な CSP の有効化に進みます。

この重要な更新による影響

この重要な更新は、次の Sandbox 組織と Developer Edition 組織で厳格な CSP を有効にします。

- Lightning Experience
- Salesforce アプリケーション
- 独自に作成したスタンドアロンアプリケーション (`myApp.app` など)

この重要な更新は次には影響しません。

- Salesforce Classic
- Salesforce Classic のアプリケーション (Salesforce Classic の Salesforce コンソールなど)
- Lightning アプリケーション外のコンテナにある Lightning コンポーネント (Visualforce や Visualforce ベースのコミュニティの Lightning コンポーネントなど) を実行できる Lightning Out。そのコンテナで CSP ルールが定義されます。

「コミュニティでの Lightning コンポーネントの厳格なコンテンツセキュリティポリシーの有効化」の有効化

厳格な CSP は、Sandbox 組織と Developer Edition 組織ではデフォルトで無効になっています。

厳格な CSP を有効にすると、カスタム Lightning コンポーネントだけでなく、コミュニティのページの `<head>` で使用されるマークアップにも影響します。インラインスクリプトは許可されず、コミュニティビルダーの [設定] > [詳細] でサポートされていないマークアップを入力すると警告が表示されます。

コミュニティで厳格な CSP を有効にする手順は、次のとおりです。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。
2. 「コミュニティでの Lightning コンポーネントの厳格なコンテンツセキュリティポリシーの有効化」で、[有効化] をクリックします。
3. ブラウザページを更新して、厳格な CSP の有効化に進みます。

この重要な更新による影響

この重要な更新は、Sandbox 組織と Developer Edition 組織のコミュニティのみで厳格な CSP を有効にします。

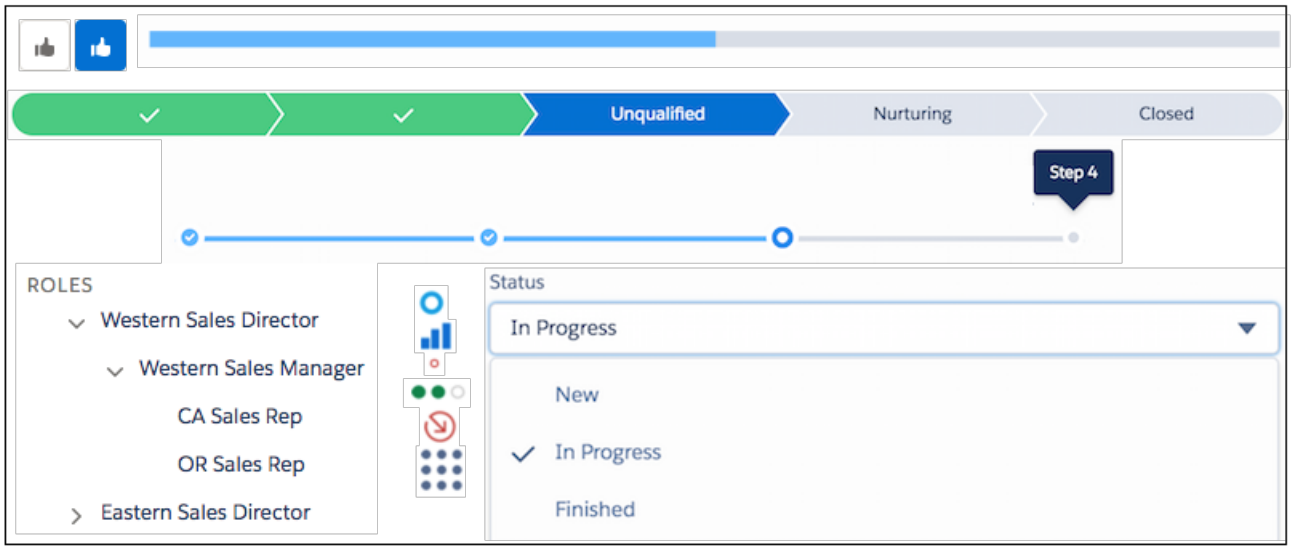
この重要な更新は次には影響しません。

- Salesforce Classic
- Salesforce Classic のアプリケーション (Salesforce Classic の Salesforce コンソールなど)
- Lightning アプリケーション外のコンテナにある Lightning コンポーネント (Visualforce や Visualforce ベースのコミュニティの Lightning コンポーネントなど) を実行できる Lightning Out。そのコンテナで CSP ルールが定義されます。

新しい Lightning 基本コンポーネントで画期的なユーザインターフェースを構築

30 個の新しい組み込み Lightning コンポーネント群を使用して開発を促進できます。新しいコンポーネントでは、幅広いユーザインターフェース要素を使用でき、まったく新しい開発ツール群が提供されます。

Salesforce では、Lightning Design System コンポーネントと同等の機能を目指して取り組んでおり、今回のリリースではその目標に近づいています。用意された機能の視覚的な概要は以下をご覧ください。



このスクリーンショットが正しく表示されない場合は、豊富なスクリーンショットを含む詳細は、「新規追加または変更された Lightning コンポーネント」を参照してください。

関連トピック:

Lightning コンポーネント開発者ガイド: コンポーネントの参照

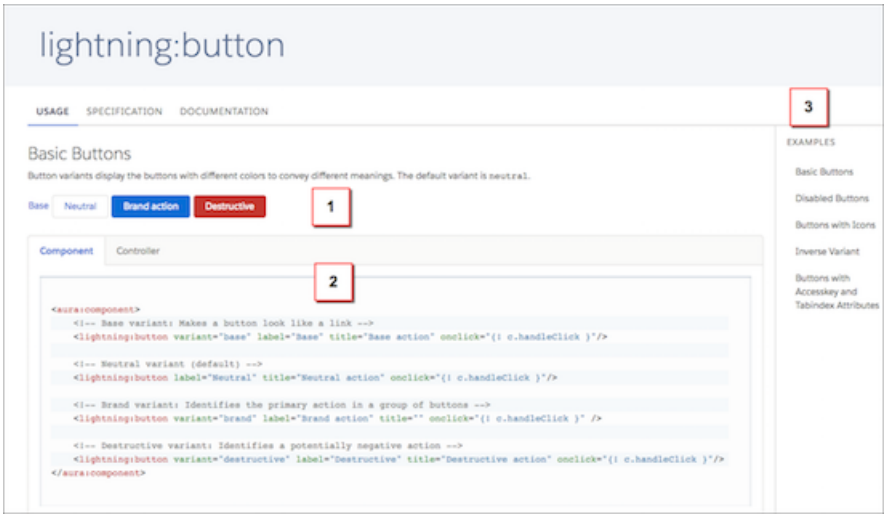
新しいコンポーネントライブラリの紹介 (ベータ)

検索可能なコンポーネントライブラリでコンポーネントの検索がさらに簡単になります。対話型の例を使用してコンポーネントのデザインをプレビューできます。

新しいコンポーネントライブラリを探索するには、`https://<myDomain>.lightning.force.com/componentReference/suite.app` に移動します。`<myDomain>` は、カスタム Salesforce ドメインの名前です。組織で引き続き `/auradocs/reference.app` を使用することもできます。さらに、『Lightning コンポーネント開発者ガイド』の「コンポーネントの参照」セクションを今後も使用できます。

メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンのコンポーネントライブラリが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。コンポーネントライブラリは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

いくつかの特長を見てみましょう。Lightning コンポーネントがブラウザでどう表示され、動作するかを想像しなければならない時代はもう終わりです。多くのコンポーネントで、一般的なパターンについて対話型の例 (1) とソースコード (2) が提供されています。例のリスト (3) でコンポーネントの使用方法についても学ぶことができます。



探しているコンポーネントの検索がさらに簡単になりました。すべてのコンポーネント名と説明を検索できるようになりました。

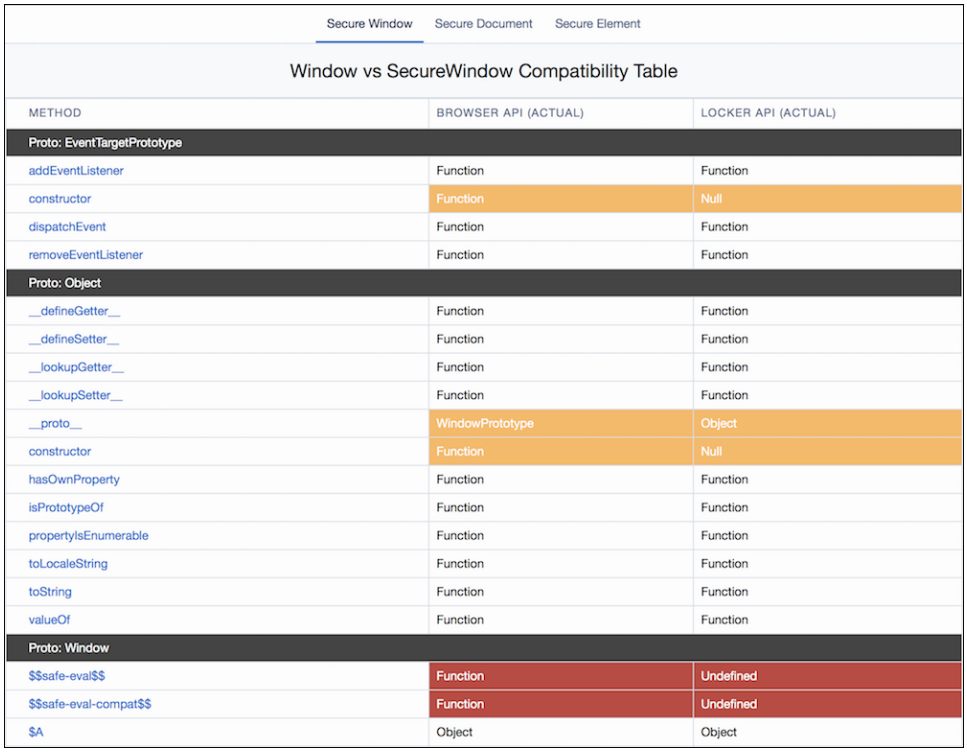
使用上の考慮事項

コンポーネントライブラリには次の制限があります。

- コンテンツライブラリは認証された環境としてのみ使用できるため、表示するにはログインしている必要があります。
- JavaScript API のドキュメントは提供されていません。
- インターフェースとイベントでは属性名と説明のみが提供されます。インターフェースとイベントについての詳細は、『Lightning コンポーネント開発者ガイド』を参照してください。

更新された LockerService API ビューアの紹介

LockerService API ビューアのユーザインターフェースが合理化され、Salesforce Lightning Design System に基づいた視覚的デザインになりました。この API ビューアを使用すると、重要な JavaScript DOM API (`window` など) のセキュアなバージョンで使用可能なプロパティを探索できます。API ビューアを使用して、ブラウザでサポートされるオブジェクトをそのセキュアなバージョンと比較し (たとえば、`window` と `SecureWindow` など)、互換性に関する考慮事項を明らかにすることができます。



Secure Window | Secure Document | Secure Element

Window vs SecureWindow Compatibility Table

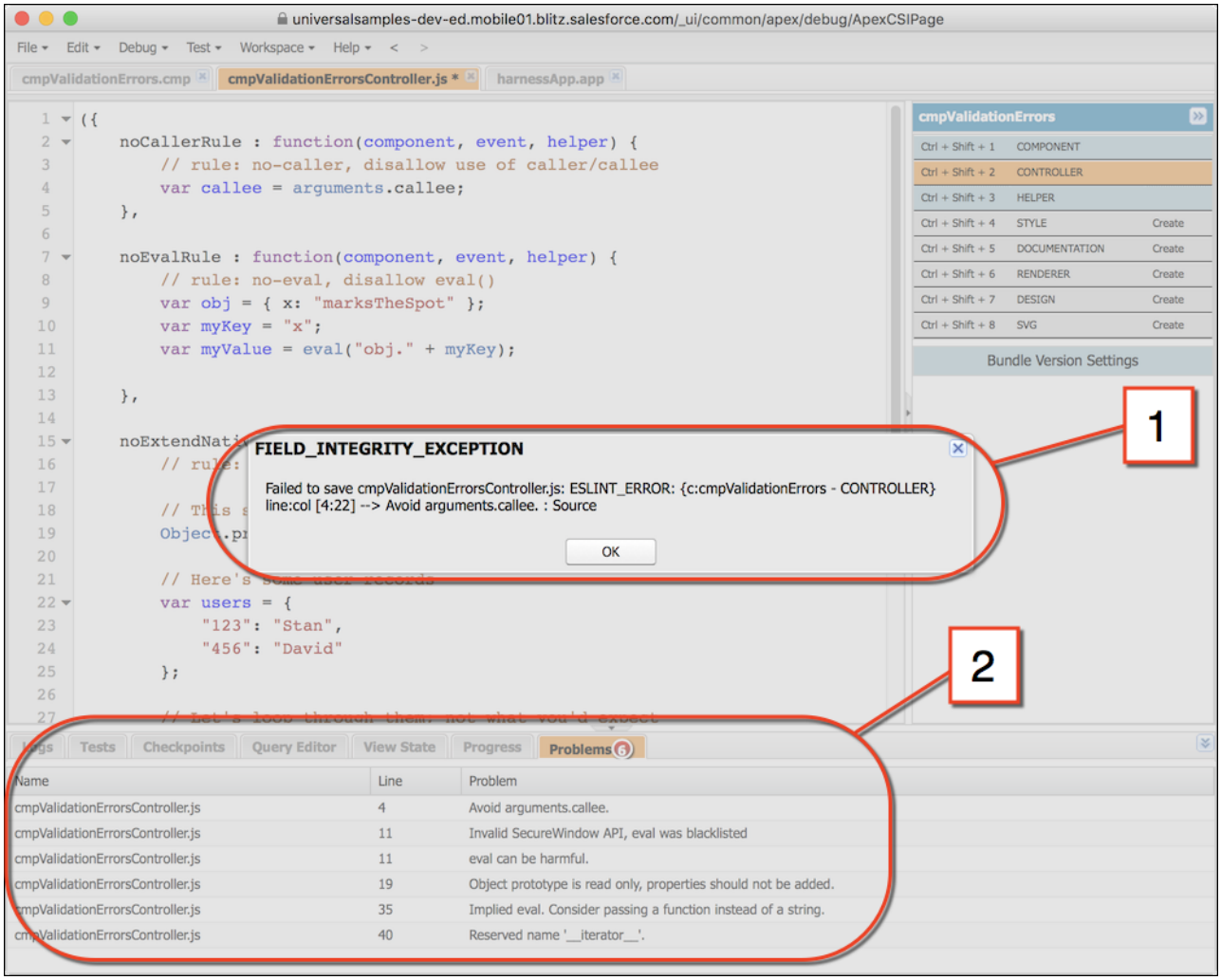
METHOD	BROWSER API (ACTUAL)	LOCKER API (ACTUAL)
Proto: EventTargetPrototype		
addEventListener	Function	Function
constructor	Function	Null
dispatchEvent	Function	Function
removeEventListener	Function	Function
Proto: Object		
__defineGetter__	Function	Function
__defineSetter__	Function	Function
__lookupGetter__	Function	Function
__lookupSetter__	Function	Function
__proto__	WindowPrototype	Object
constructor	Function	Null
hasOwnProperty	Function	Function
isPrototypeOf	Function	Function
propertyIsEnumerable	Function	Function
toLocaleString	Function	Function
toString	Function	Function
valueOf	Function	Function
Proto: Window		
$$safe-eval$$	Function	Undefined
$$safe-eval-compat$$	Function	Undefined
$A	Object	Object

LockerService API ビューアには、オープンソースの Aura フレームワークドキュメントサイト (http://documentation.auraframework.org) でアクセスできます。

コンポーネントコードの保存時の自動検証

Lightning コンポーネントの JavaScript コードは、保存時に検証されます。検証によって、コンポーネントがベストプラクティスを使用して記述されていることを確認し、一般的な落とし穴によって LockerService と非互換になることを避けることができます。検証は、ユーザが開発者コンソールで Lightning コンポーネントリソースを保存すると、任意の IDE でまたは API を介して自動的に実行されます。

検証の失敗はエラーとして扱われ、変更は保存されません。エラーメッセージで失敗が説明されます。使用しているツールによって、これらのエラーの表示方法は異なります。たとえば、開発者コンソールに最初に発生したエラーのアラート (1) が表示され、検出されたすべての検証エラーが [問題] タブ (2) にリストされます。



検証は、API バージョン 41.0 以降に設定されたコンポーネントにのみ適用されます。検証サービスによって重要な変更が保存されない場合、コンポーネントのバージョンを API 40.0 以前に設定して一時的に検証を無効化してください。コーディングエラーを修正してから、コンポーネントを API 41.0 以降に戻すと、検証に合格して保存することができます。

検証サービスは、オープンソースの JavaScript リンティングツールである ESLint を使用して実装されます。ESLint では、何十件もの異なるエラーや適切でない方法についてコードをチェックできます。LockerService 互換性に焦点を絞るため、Lightning コンポーネント検証サービスでは、これらのルールのうち、コードが `eval()` をコールしていないことを確認するチェックなど、数個のみが採用されています。また、LockerService に固有のカスタムルールもいくつか追加されています。たとえば、コードが公開 API のみをコールしていることを確認するチェックなどです。検証サービスによって適用されるルールの完全なリストは、*『Lightning コンポーネント開発者ガイド』*を参照してください。

メモ: Lightning コンポーネント検証サービスと Salesforce DX コマンドラインツール (`force:lightning:lint`) はいずれも、ESLint を使用してコードの静的分析を実行します。ただし、この 2 つのツールでは使用されるルールが異なります。検証サービスでは、CLI ツールのルールの小さなサブセットが使用され、すべて

の失敗はエラーとして扱われます。CLI ツールでは、より包括的な分析が提供されますが、失敗してもコードの保存は防止されません。

この新しい検証サービスは、LockerService の使用に必要なコーディングのベストプラクティスを採用するために重要なツールです。検証によって、特定の設計や実装に大きな投資を行う前に違反を見つけられるようになります。ただし、検証サービスは、焦点を絞った厳密なルールセットのみを適用するため、バグや不適切なソフトウェア設計を防ぐことはできません。検証サービスは、コードが適切に記述されていることの証明でなく、その目標に到達するための開始点であると考えてください。

関連トピック:

Lightning コンポーネント開発者ガイド: Validations for Lightning Component Code (Lightning コンポーネントコードの検証)

$Label 式の処理の変更

JavaScript 文字列内の式は、自動的に参照解決 (評価および解決) されなくなりました。これは、主に `$Label` グローバル値プロバイダの使用に影響します。JavaScript 文字列内で "{!$Label.c.someLabel}" などの表示ラベルの式をこれまで使用していた場合、実際のカスタム表示ラベルテキストには解決されなくなりました。その代わりに、表示ラベルの式自体が表示されます。

以前のリリースでは、ドキュメントに記載されていない表示ラベルの評価メソッドが機能する場合がありました。今回のリリースでは、表示ラベルの式の評価はドキュメントに記載されているとおりに動作します。厳格な式の評価によって、セキュリティが機能強化され、表示ラベルを操作する一部のアンチパターンが排除されます。

メモ: ただし、引き続き `.cmp` リソースのコンポーネントのマークアップで label 式を静的に使用することもできます。つまり、`.cmp` および `.app` マークアップでは、引き続き `{!$Label.c.someLabel}` が機能します。

JavaScript で表示ラベルの参照を解決する正しい方法は、`$A.get(`***`labelReference`***`)` ユーティリティ関数を使用することです。

正: `cmp.set("v.myLabel", $A.get("$Label.c.someLabel"));`

誤: `cmp.set("v.myLabel", "{!$Label.c.someLabel}");`

`$A.get()` では通常、表示ラベルの参照が静的、つまりコンパイル時に既知であることが必要です。たとえば、文字列連結を使用して実行時に表示ラベルの参照を作成することはできません。参照する特定のカスタム表示ラベルが実行時まで不明な場合、表示ラベルを動的に検索する方法は 2 通りありますが、このうち 1 つの手法は、この変更の影響を受けます。

- `$A.getReference("$Label.c."+ `***`labelKey`***`)` ユーティリティ関数を使用して、フレームワークが表示ラベルを取得できるようにします。この手法は、以前のリリースと同じです。

  返される値は参照であり、文字列や式ではありません。参照を使用した UI 表示ラベルの設定の詳細については、『*Lightning コンポーネント開発者ガイド*』の「JavaScript での表示ラベルの取得」を参照してください。

- `System.Label` を使用して表示ラベルを検索して返す独自の Apex コントローラメソッドをコールします。この手法をどのように実装するかによって、今回のリリースでの動作が変わる可能性があります。

この手法を使用する場合、コントローラメソッドは Apex でサーバー上の表示ラベル値を解決し、クライアントコードに文字列を返す必要があります。この値は、実際の表示ラベル文字列であることが必要です。文字列形式の式を返すことはできません。

正:

```
String theLabel = System.Label.someLabel;
return theLabel;
```

誤:

```
String theLabel = "{!$Label.c.someLabel}";
return theLabel;
```

JavaScript および Apex でカスタム表示ラベルにアクセスするメソッドに変更はありません。これは『*Lightning コンポーネント開発者ガイド*』に記載されています。カスタム表示ラベルを参照する正しいメソッドを使用するには、コードを更新する必要があります。

Lightning コンポーネントを使用したカスタムページテンプレートの作成

Lightning レコードやアプリケーション、ホームページに、標準テンプレート以外を使用できるようになりました。ビジネスニーズに合わせて、構造やコンポーネントを定義して独自のカスタムページテンプレートを作成できます。領域は必要に応じて追加でき、カスタムスタイル設定も可能です。

詳細は、「カスタムページテンプレートで Lightning ページのカスタマイズをまったく新たなレベルに」を参照してください。

`lightning:container` での Apex サービスの使用 (正式リリース)

Lightning コンテナコンポーネントを使用すると、iframe コンテンツのコンテンツセキュリティポリシー (CSP) を指定できます。これまで、設定できる CSP は、`minimum`、`Lightning`、または `custom` でした (デフォルトは `Lightning`)。今後、CSP レベル `low`、`high`、または `custom` を設定できます (デフォルトは `low`)。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Lightning コンテナコンポーネントでは、Lightning ページ内の iframe でサードパーティのフレームワークを使用できます。

CSP レベル `high` では、Lightning ドメインからの上位フレームのみが許可され、CSP レベル `low` では、他の発生元からのコンテンツが許可されます。CSP レベル `custom` では、独自の CSP ヘッダーを定義できます。

CSP レベル `low` を使用すると、Lightning コンテナコンポーネント内からストリーミング API にアクセスし、Apex メソッドをコールできます。

Apex コードなしで Lightning データサービスを使用したレコード操作の実行 (正式リリース)

Apex コードは使用せずに Lightning データサービスを使用して、コンポーネントのレコードの読み込み、作成、編集、または削除を行います。Lightning データサービスは、コンポーネント全体にわたってパフォーマンスとデータの一貫性を高めます。

Lightning データサービス (LDS) は、Visualforce の標準コントローラに対応する Lightning コンポーネントであり、ページに表示されたデータへのアクセスを提供します。LDS がない場合、アプリケーションのすべてのコンポーネントが同じレコードデータからデータを取得していても、アプリケーションの各コンポーネントが個々にサーバをコールしてレコードの CRUD 操作を実行します。それぞれが重複したサーバコールを実行すると、パフォーマンスが低下するうえに、サーバコールによってあるコンポーネントが更新され、他のコンポーネントが古いまま残るという状況になり、不整合が発生する可能性があります。

LDS は、同じレコードデータを含む要求を特定および除外して、関連するすべてのコンポーネントを更新する 1 つの共有されたデータ要求を送信します。これにより、コンポーネントのデータが不整合になる状況を排除するだけでなく、コンポーネントにデータの変更を通知するパブリッシャーハブとしても機能します。

LDS では、カスタムオブジェクトと次のオブジェクトをサポートします。

- Account
- AccountTeamMember
- Asset
- AssetRelationship
- AssignedResource
- AttachedContentNote
- BusinessAccount
- Campaign
- CampaignMember
- Case
- Contact
- ContentDocument
- ContentNote
- ContentVersion
- ContentWorkspace
- Contract
- ContractContactRole
- ContractLineItem
- Entitlement
- EnvironmentHubMember
- Lead
- LicensingRequest
- MaintenanceAsset
- MaintenancePlan
- MarketingAction
- MarketingResource
- Note
- OperatingHours
- Opportunity
- OpportunityLineItem
- OpportunityTeamMember
- Order
- OrderItem
- PersonAccount
- Pricebook2
- PricebookEntry
- ProcessInstanceHistory
- Product2
- Quote
- QuoteDocument
- QuoteLineItem
- ResourceAbsence
- ServiceAppointment
- ServiceContract
- ServiceCrew
- ServiceCrewMember
- ServiceResource
- ServiceResourceCapacity
- ServiceResourceSkill
- ServiceTerritory
- ServiceTerritoryLocation
- ServiceTerritoryMember
- Shipment
- SkillRequirement
- SocialPost
- Tenant
- TimeSheet
- TimeSheetEntry
- TimeSlot
- UsageEntitlement
- UsageEntitlementPeriod
- User
- WorkOrder
- WorkOrderLineItem
- WorkType

`aura:method` から結果を返す

親コンポーネントからそこに含まれる子コンポーネントに通信するために使用される `aura:method` から結果を返すのがより簡単になりました。同期 JavaScript コードから値を返すには、`return` ステートメントを使用します。

`aura:method` は同期して実行されます。同期コードは、返す前に実行を終了します。

サーバ側のアクションをコールする JavaScript コードは非同期です。非同期コードは返した後も実行を続けることができます。

`aura:method` は非同期コードが終了する前に返すため、`return` ステートメントを使用して、非同期コールの結果を返すことはできません。非同期コードの場合は、`return` ステートメントではなくコールバックを使用します。

コードの例については、*『Lightning コンポーネント開発者ガイド』* の Winter '18 バージョンを参照してください。

クライアントペイロードデータ制限の 4 MB への増加

フレームワークでは、キュー内にあるサーバ側アクションを 1 つのサーバ要求にまとめます。要求ペイロードには、すべてのアクションとそのデータが JSON として逐次化されます。この要求ペイロードの制限が 4 MB に増加しました。これまでは 1 MB でした。

サーバ側コントローラに渡すアクションのデータを設定するには、JavaScript で `action.setParams()` を使用します。

関連トピック:

Lightning コンポーネント開発者ガイド: サーバ側のアクションのコール

Lightning コンポーネントタブの翻訳

トランスレーションワークベンチでは、他のタブと同様に Lightning コンポーネントタブの名前の翻訳がサポートされます。組織やコンポーネントでサポートするすべての言語で Lightning コンポーネントタブの名前を翻訳することで、ユーザと顧客は希望する言語で作業できます。翻訳バージョンが使用可能な場合、Lightning コンポーネントタブ名は、現在のユーザの言語で表示されます。

個々のタブを翻訳するには、[トランスレーションワークベンチ] > [翻訳] を使用します。最初に言語を選択し、次に設定コンポーネントの [**Web** タブ] を選択します。翻訳可能な Lightning コンポーネントタブがリストに表示されます。

翻訳対象として複数のタブ名を送信するには、[トランスレーションワークベンチ] > [エクスポート] を対応するインポート機能と一緒に使用します。エクスポート時、Lightning コンポーネントタブが翻訳ファイルに含まれるようにするには、[バイリンガル] を選択します。Lightning コンポーネントタブが、ファイルの WebTab セクションにリストされます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 翻訳可能なカスタマイズ

Salesforce ヘルプ: 翻訳ファイル

aura:dependency でのワイルドカード照合は非推奨

ワイルドカード照合では、一致するリソースがない場合に保存規則エラーが発生します。また、ワイルドカード照合ではクライアントに必要以上の定義を送信するため、ページ読み込み時間が長くなることがあります。代わりに、コンポーネントのマークアップで直接参照されない各リソースに `<aura:dependency>` タグを追加します。

このフレームワークでは、マークアップで定義されたコンポーネントなどの定義間の連動関係が追跡されます。この追跡により、フレームワークが定義をブラウザに送信できるようになります。ただし、コンポーネントの Javascript コードによって、別のコンポーネントが動的にインスタンス化されたり、コンポーネントのマークアップで直接参照されないイベントが起動されたりする場合は、コンポーネントのマークアップで `<aura:dependency>` を使用して、連動関係についてフレームワークに明示的に指示します。

新規追加または変更された Lightning コンポーネント

さまざまな新しいコンポーネントを使用することで、すばやくユーザインターフェースを構築できます。

新しいコンポーネント

次のコンポーネントは新規追加されたもので、API バージョン 41.0 以降が必要です。

メモ: 開発者コンソールでの API バージョンの設定についての詳細は、「コンポーネントを最新の API バージョンに更新して、新しい lightning: コンポーネントを使用」を参照してください。

lightning:accordion

複数のコンテンツ領域を含むセクションを縦に積み上げたコレクションを表示します。同時に展開されるのは 1 つのみです。セクションを選択すると、展開されるか折りたたまれます。各セクションには、1 つ以上の Lightning コンポーネントを含めることができます。

このコンポーネントは、次のサブコンポーネントと共に使用されます。

- `lightning:accordionSection` — 関連コンテンツを 1 つのコンテナに保持します。

lightning:buttonIconStateful

状態を保持するアイコンのみのボタンです。ボタンを押すと状態が変更されます。

lightning:checkboxGroup

単一または複数のチェックボックスの選択を有効にするチェックボックスグループです。

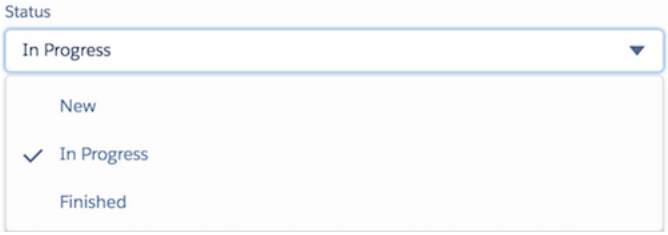
lightning:clickToDial

Open CTI または Salesforce Call Center 用に有効化されたクリック-to-ダイヤルとして有効な電話番号を表示するコンポーネントです。この項目では、Salesforce とのコンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI) の既存のクリック-to-ダイヤルコマンドが優先されます。

詳細は、「lightning:clickToDial コンポーネントを使用したクリック-to-ダイヤル電話番号の作成」を参照してください。

lightning:combobox

選択可能なオプションのドロップダウンリストが含まれる参照のみの入力項目です。複数選択は現在サポートされていません。



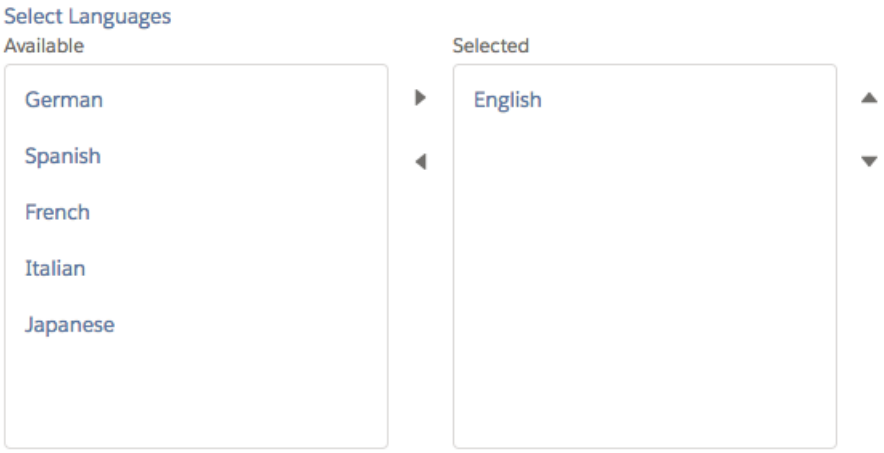
lightning:datatable

型に応じて書式設定されたデータの列を表示するテーブルです。

OPPORTUNITY ...	ACCOUNT NAME	CLOSE DATE	CONFIDENCE	AMOUNT
Schimmel, Schim...	Myra	7/23/2017	93%	€73,640.00
McKenzie, McKen...	Kaley	7/18/2017	29%	€29,027.00
Bartoletti-Bartoletti	Letitia	7/15/2017	80%	€13,000.00
Pagac-Pagac	Beryl	7/17/2017	37%	€70,094.00
Emard LLC	Myron	7/23/2017	35%	€90,457.00

lightning:dualListbox

横に並んだ 2 つのリストボックスを表します。左側のリストで 1 つ以上のオプションを選択します。選択したオプションを右側のリストに移動します。選択されたオプションの順序は維持され、オプションは並び替えられます。また、必須オプションを指定することもできます。



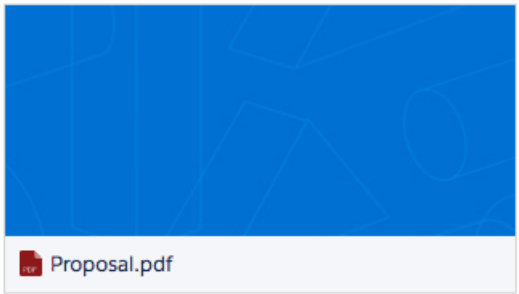
lightning:dynamicIcon

異なる状態のさまざまな動的アイコンを表します。たとえば、このコンポーネントを使用して、読み込み中のグラフなど、処理中のイベントを視覚的に表示できます。次のオプションを使用できます。

- Ellie : 鼓動する青い円、鼓動して 1 つのアニメーションサイクルの後に停止する
- EQ : ランダムに上下する 3 本のバーを含むアニメーショングラフ
- スコア : 緑で塗りつぶされた円または赤の塗りつぶされていない円
- 強み : 横に並んだ 3 つの緑または赤のアニメーションの円
- トレンド: 上、下、または横を指すアニメーションの矢印
- ワッフル: マウスポインタを置くとアニメーションになる、3 x 3 の円のグリッドで構成される正方形

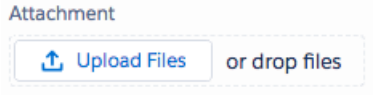
lightning:fileCard

添付ファイルとしてアップロードされたコンテンツの表現を表示します。



lightning:fileUpload (ベータ)

複数のファイルをレコードにアップロードできるようにします。ファイルアップローダには、ドラッグアンドドロップ機能とファイル種別による絞り込みが含まれています。

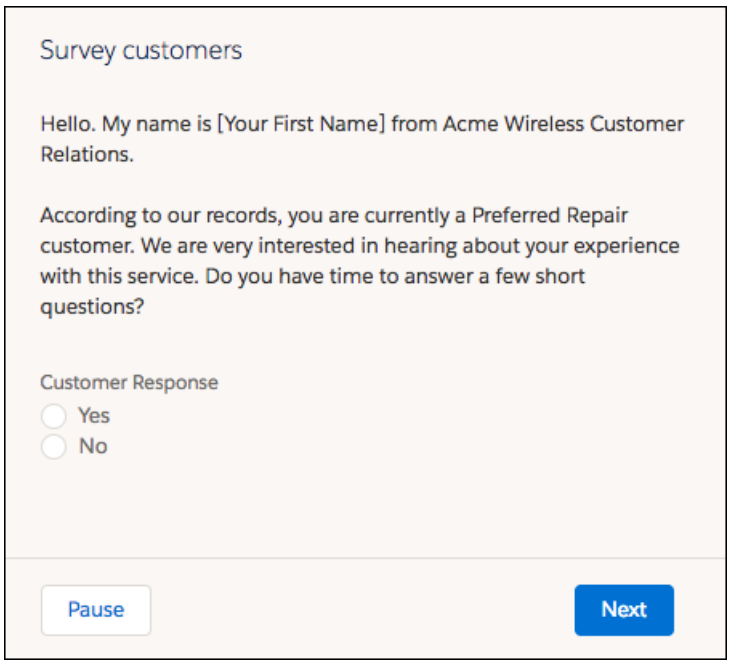


lightning:flexipageRegionInfo

上位のコンポーネントに Lightning ページ領域の幅情報を提供するサブコンポーネント。
「lightning:flexipageRegionInfo を使用して Lightning ページコンポーネントで幅を認識」を参照してください。

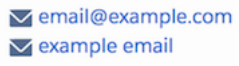
lightning:flow

Lightning ランタイムでのフローインタビューを表します。



lightning:formattedEmail

`mailto:` URL スキームが付いているハイパーリンクとしてメールアドレスを表示します。

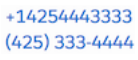


lightning:formattedLocation

[緯度, 経度] の形式を使用して 10 進数の度数で地理位置情報を表示します。

lightning:formattedPhone

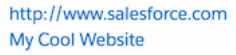
`tel:` URL スキームが付いているハイパーリンクとして、書式設定された電話番号を表示します。現在サポートされているのは、北米の電話番号のみです。



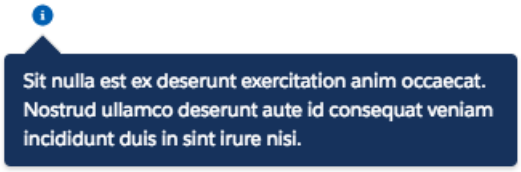
lightning:formattedRichText
ホワイトリストに登録されているタグと属性を使用して書式設定されたリッチテキストを表示します。その他のタグと属性は削除され、そのテキストコンテンツのみが表示されます。

lightning:formattedText
テキストを表示します。改行の newline は line break に置き換えられ、テキストブロック内でハイパーリンクが作成されます。

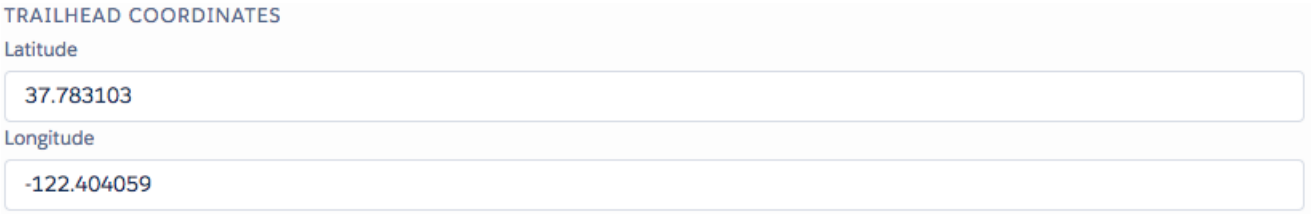
lightning:formattedUrl
URL をハイパーリンクとして表示します。



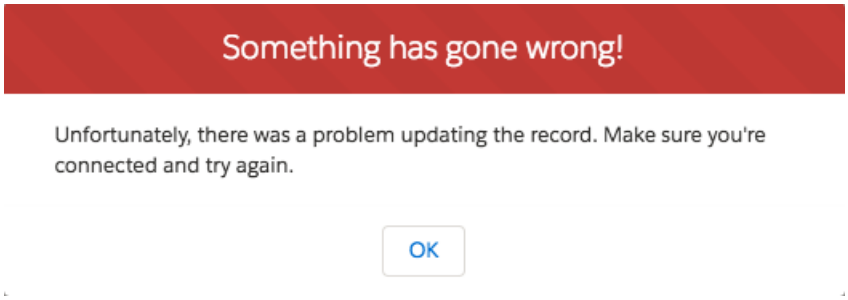
lightning:helptext
テキストのポップオーバーがあるアイコンです。ポップオーバーは、関連付けられているアイコンにユーザがマウスポインタまたはフォーカスを置くと表示されます。ポップアップオーバーの手動での位置設定は現在サポートされていません。



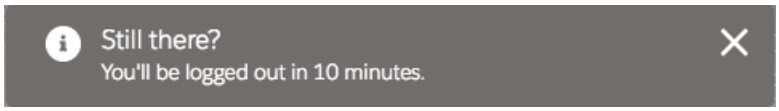
lightning:inputLocation
緯度値と経度値を受け入れる地理位置情報の複合項目を表します。



lightning:notificationsLibrary
通知およびトーストを使用したメッセージ機能を提供します。通知は、ユーザにシステム関連の問題と更新をアラートで伝えます。



トーストでは、ユーザがアクションを実行した後に、フィードバックを提供でき、確認メカニズムとして使用できます。

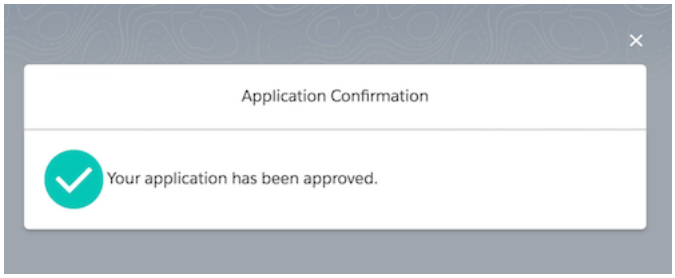


lightning:omniToolkitAPI (ベータ)

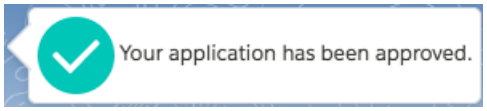
オムニチャネルのユーティリティバーで Lightning コンポーネントから使用可能なメソッドを提供します。このコンポーネントは UI には影響しません。

lightning:overlayLibrary

メッセージをモーダルおよびポップオーバーで表示できます。モーダルでは、アプリケーションの前面にダイアログを表示し、ユーザのワークフローを中断してメッセージに注意を引き付けます。

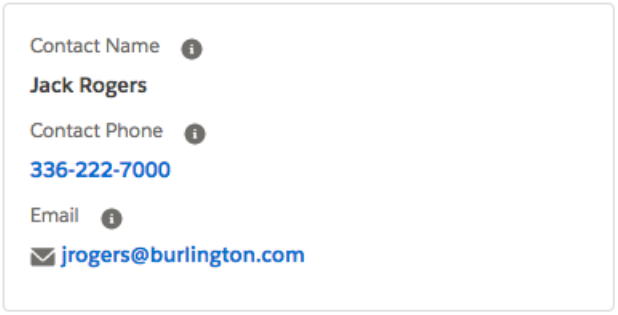


ポップオーバーでは、参照要素にマウスポインタが置かれると、関連情報を表示します。

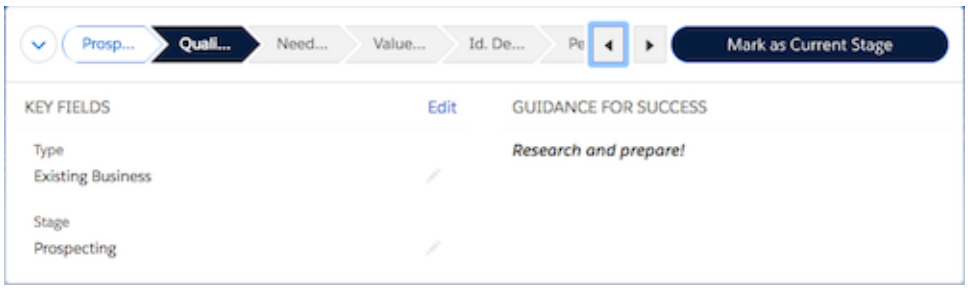


lightning:outputField

Salesforce オブジェクトの項目の表示ラベル、ヘルプテキスト、値の参照のみ表示を表します。ラッパー `lightning:recordViewForm` コンポーネントでレコード ID を指定する必要があります。



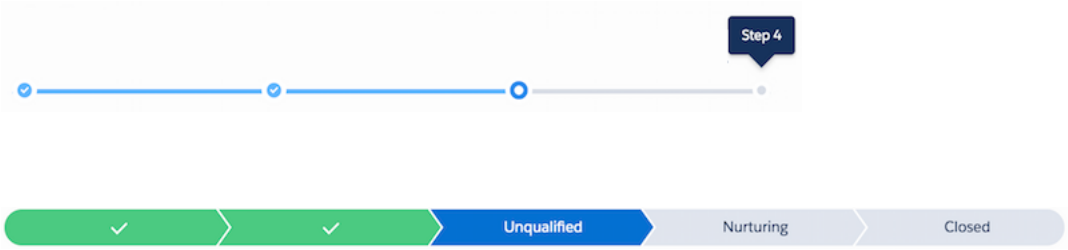
lightning:path (ベータ)
設定でシステム管理者が指定した選択リストから派生したパス。重要な項目、ガイダンス、および[完了をマーク]アクションボタンが含まれます。



lightning:picklistPath (ベータ)
選択リストから派生したパス。`picklistFieldApiName` 属性によって指定され、重要な項目、ガイダンス、アクションボタンが含まれません。

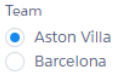
lightning:progressBar
横方向の進行状況バーです。ファイルのダウンロードやアップロードなど、操作の進行状況を左から右へ示します。

lightning:progressIndicator (ベータ)
特定のプロセスの進行状況を視覚的に示します。`base` (デフォルト) と `path` の 2 種類のインジケータを作成できます。



lightning:radioGroup

1 つのオプションを選択できるラジオボタンのセットです。



lightning:recordViewForm

`lightning:outputField` によって指定された、項目種別に基づいて 1 つ以上の項目を表示するレコードビューを表します。

lightning:slider

2 つの指定された数値の間で数値入力を可能にするスライダーです。

lightning:tree

階層構造を視覚化します。ツリー項目 (ブランチ) は、展開したり折りたたんだりできます。

lightning:verticalNavigation

縦方向のリンクのリストです。ユーザは別のページまたは現在のページの別の部分に移動できます。

このコンポーネントは、次のサブコンポーネントと共に使用されます。

- `lightning:verticalNavigationItem` — `lightning:verticalNavigationSection` または `lightning:verticalNavigationOverflow` 内のテキストのみのリンク。
- `lightning:verticalNavigationItemBadge` — `lightning:verticalNavigationSection` または `lightning:verticalNavigationOverflow` 内のリンクとバッジ。
- `lightning:verticalNavigationItemIcon` — `lightning:verticalNavigationSection` または `lightning:verticalNavigationOverflow` 内のリンクとアイコン。
- `lightning:verticalNavigationOverflow` — 展開したり折りたたんだりできる項目のオーバーフロー。オーバーフローセクションはビューポートに基づいて自動的に調節されません。
- `lightning:verticalNavigationSection` — `lightning:verticalNavigation` 内のセクション。

次の例は、[レポート] および [フォルダ] セクションのある `lightning:verticalNavigation` コンポーネントを示しています。

変更されたコンポーネント

次のコンポーネントが変更されました。

forceCommunity:waveDashboard

次の属性が新規追加されました。

- `showHeader` — 埋め込み Analytics ダッシュボードのヘッダーの表示を制御します。true の場合、ダッシュボードにはダッシュボード情報とコントロールを含むヘッダーバーが表示されます。false の場合、ダッシュボードはヘッダーバーなしで表示されます。showSharing または showTitle が true の場合、ヘッダーバーは自動的に表示されます。

lightning:button
次の属性が変更されています。

- `variant` — `success` バリエーションが追加されました。このバリエーションで緑のボタンが作成されます。

lightning:buttonStateful
次の属性が変更されています。

- `variant` — `destructive` および `success` バリエーションが追加されました。

lightning:datatable
次の属性が変更されています。

- `columns` — `cellAttributes` プロパティ名は `typeAttributes` に変更されました。

lightning:formattedDateTime (ベータ)
次の属性が変更されています。

- `value` — ISO 8601 日付形式がサポートされるようになりました。Salesforce レコードで日付項目を扱うときに ISO 文字列を Date オブジェクトやタイムスタンプに変換する必要がなくなりました。

lightning:input (ベータ)
次の種別が新規追加されました。

- `checkbox-button` — 代替ビジュアルデザインがある 1 つ以上のオプションを選択できるようにします。

lightning:tabset (ベータ)
次のバリエーションが新規追加されました。

- `vertical` — タブをコンテンツ領域の左側に縦方向に表示します。

lightning:utilityBarAPI
このコンポーネントは、`force` 名前空間から `lightning` 名前空間に移されました。

lightning:verticalNavigation
次の属性が新規追加されました。

- `onbeforeselect` — 項目が選択される前に起動されるアクション。イベントパラメータには、選択された項目の `name` が含まれます。`onselect` ハンドラを実行しないようにするには、`onbeforeselect` ハンドラ内で `event.preventDefault()` をコールします。

lightning:workspaceAPI
このコンポーネントは、`force` 名前空間から `lightning` 名前空間に移されました。

ui:outputNumber
`ui:outputNumber` は、非数値を無視して何も出力しません。これまで、`ui:outputNumber` では、非数値の場合はデバッグしづらいエラーを表示していました (例: `<ui:outputNumber value="abc" />` など)

wave:waveDashboard
次の属性が新規追加されました。

- `showHeader` — 埋め込み Analytics ダッシュボードのヘッダーの表示を制御します。true の場合、ダッシュボードにはダッシュボード情報とコントロールを含むヘッダーバーが表示されます。false の場合、ダッシュボードはヘッダーバーなしで表示されます。showSharing または showTitle が true の場合、ヘッダーバーは自動的に表示されます。

このセクションの内容:

コンポーネントを最新の API バージョンに更新して、新しい lightning: コンポーネントを使用
このリリースで追加された Lightning コンポーネントを使用するコンポーネントは、API バージョン 41.0 以降に設定されている必要があります。

lightning:flexipageRegionInfo による Lightning ページコンポーネントでの幅の認識
Lightning アプリケーションビルダーでページの範囲にコンポーネントを追加するときに、`lightning:flexipageRegionInfo` サブコンポーネントが親コンポーネントにその範囲の幅を渡します。`lightning:flexipageRegionInfo` といくつかの戦略的 CSS を使用すれば、実行時、範囲ごとに異なる表示で親コンポーネントに表示できます。

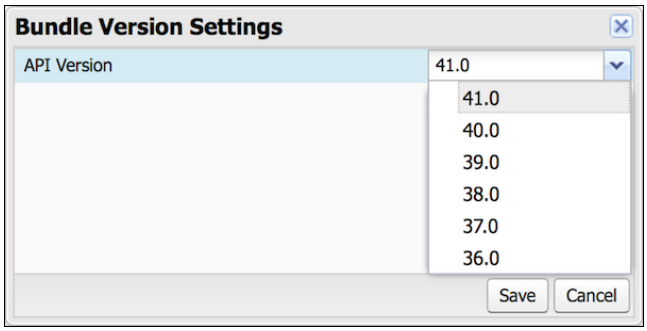
コンポーネントを最新の API バージョンに更新して、新しい `lightning:` コンポーネントを使用

このリリースで追加された Lightning コンポーネントを使用するコンポーネントは、API バージョン 41.0 以降に設定されている必要があります。

重要: API バージョン 40.0 以降に設定されたカスタムコンポーネントは LockerService が有効な状態で実行されます。コンポーネントの API バージョンを更新して新しいコンポーネントにアクセスできるようにする前に、コンポーネントの LockerService 互換性をテストしてください。

組み込みコンポーネントを使用するために必要な最小の API バージョンは、『*Lightning コンポーネント開発者ガイド*』のコンポーネントの参照ページに記載されています。最小 API バージョンが指定されていないコンポーネントは、Lightning コンポーネントでサポートされているすべての API バージョンで使用できます。

コンポーネントの API バージョンは、開発者コンソールまたは Force.com IDE で設定するか、API を介して設定できます。



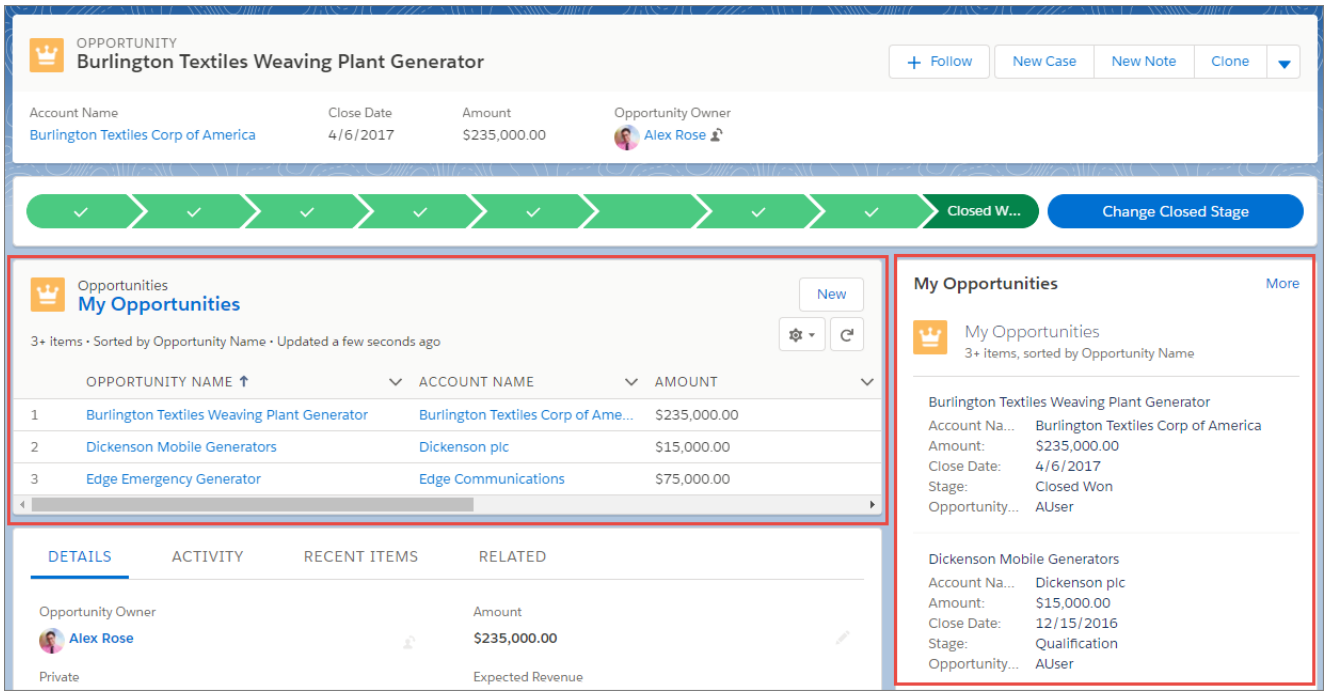
関連トピック:

Lightning コンポーネント開発者ガイド: Components with Minimum API Version Requirements (最小 API バージョン要件のあるコンポーネント)
Lightning コンポーネント開発者ガイド: コンポーネントのバージョン設定
Lightning コンポーネント開発者ガイド: Don't Mix Component API Versions (コンポーネントの API バージョンを混在させない)

`lightning:flexipageRegionInfo` による Lightning ページコンポーネントでの幅の認識

Lightning アプリケーションビルダーでページの範囲にコンポーネントを追加するときに、`lightning:flexipageRegionInfo` サブコンポーネントが親コンポーネントにその範囲の幅を渡します。`lightning:flexipageRegionInfo` といくつかの戦略的 CSS を使用すれば、実行時、範囲ごとに異なる表示で親コンポーネントに表示できます。

たとえば、リストビューコンポーネントは幅認識コンポーネントであるため、小さい範囲と大きい範囲で異なって表示されます。



有効な範囲幅の値は、`Small`、`Medium`、`Large`、`Xlarge` です。

CSS を使用してコンポーネントをスタイル設定し、コンポーネントが表示される方法を判断できます。次に例を示します。

この単純なコンポーネントには、field1 と field2 の 2 つの項目があります。このコンポーネントが Small の範囲内にない場合、その範囲の幅の 50% を使用して項目が横並びで表示されます。このコンポーネントが Small の範囲内にある場合、その範囲の幅の 100% を使用して項目がリストとして表示されます。

```
<aura:component implements="flexipage:availableForAllPageTypes">
    <aura:attribute name="width" type="String"/>
    <lightning:flexipageRegionInfo width="{!v.width}"/>
    <div class="{! 'container' + (v.width=='SMALL'?' narrowRegion':'')}">
        <div class="{! 'eachField f1' + (v.width=='SMALL'?' narrowRegion':'')}">
            <lightning:input name="field1" label="First Name"/>
        </div>
        <div class="{! 'eachField f2' + (v.width=='SMALL'?' narrowRegion':'')}">
            <lightning:input name="field2" label="Last Name"/>
        </div>
```

```
    </div>
</aura:component>
```

このコンポーネントで使用する CSS ファイルを次に示します。

```
.THIS .eachField.narrowRegion{
    width:100%;
}
.THIS .eachField{
    width:50%;
    display:inline-block;
}
```

新規追加または変更された Lightning イベント

Lightning イベントはコンポーネント間のコミュニケーションを容易にし、アプリケーションのインタラクションを向上させます。

新しいイベント

次のイベントが新規追加されました。

wave:discoverDashboard
このイベントは、Analytics ダッシュボードに対し、アセット識別要求を送信します。

wave:discoverResponse
このイベントは、Analytics ダッシュボードに対するアセット識別要求の後に応答を提供します。

新規追加または変更された Lightning インターフェース

Lightning インターフェースを使用すると、コンポーネントをさまざまなコンテキストで使用したり、コンポーネントで追加のコンテキストデータを受信したりできます。

新しいインターフェース

次のインターフェースが新規追加されました。

`lightning:appHomeTemplate`
コンポーネントを、ページ種別がアプリケーションページのカスタム Lightning ページテンプレートとして使用できるようにします。

`lightning:homeTemplate`
コンポーネントを、Lightning Experience ホームページのカスタム Lightning ページテンプレートとして使用できるようにします。

`lightning:recordHomeTemplate`
コンポーネントを、レコードページのカスタム Lightning ページテンプレートとして使用できるようにします。

変更されたインターフェース

次のインターフェースが変更されています。

`force:hasRecordId`
このインターフェースは、ユーティリティバーに追加された Lightning コンポーネントでの使用がサポートされるようになりました。

Visualforce: Lightning Experience の準備状況とスタイル設定

Visualforce を使用して、組織のカスタムページを開発します。このリリースでの変更は、Lightning Experience で Visualforce ページがシームレスに使えるよう改善することに焦点を絞っています。この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

これらの機能強化の影響を受ける機能についての詳細は、*『Visualforce 開発者ガイド』*を参照してください。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience

使用可能なエディション: **Contact Manager** Edition、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

「Visualforce ページに対する GET 要求の CSRF 保護を許可」の適用 (重要な更新)
Lightning Experience のスタイルシートを使用して既存の Visualforce ページを自動的にスタイル設定
Lightning Experience のためのページの準備
Visualforce グローバル変数を使用したプラットフォームキャッシュの組織キャッシュの値へのアクセス
JavaScript Remoting 要求のデータ制限が 4 MB に増加
Visualforce のその他の変更

「Visualforce ページに対する GET 要求の CSRF 保護を許可」の適用 (重要な更新)

「Visualforce ページに対する GET 要求の CSRF 保護を許可」は Spring '17 の重要な更新でしたが、2017 年 10 月 15 日にすべての組織に適用されます。この重要な更新により、Visualforce ページが GET 要求で確実に CSRF トークンを受け取るオプションを使用できるようになります。

Lightning Experience のスタイルシートを使用して既存の Visualforce ページを自動的にスタイル設定

`lightningStylesheets` 属性を使用して Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web でページを表示するとき、ページのスタイルに Lightning Experience のデザインを使用するかどうかを簡単に制御します。これまで、Lightning Experience のページのスタイルを再設定するには、SLDS リファレンスサイトで一致するコンポーネントを検索し、コードを変更する必要がありました。新しい属性により、スタイルが未設定の Visualforce ページに Lightning Experience のデザインが自動的に適用されます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

Lightning Experience のためのページの準備

組織の Visualforce ページを Lightning Experience で使用する準備ができているかどうかを確認したいですか? Lightning Experience の本番で使用する前に、Lightning Experience Visualforce チェックを使用して、変更が必要なページにフラグを付けるレポートを生成します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Visualforce グローバル変数を使用したプラットフォームキャッシュの組織キャッシュの値へのアクセス

`$Cache.Org` グローバル変数を使用して、Visualforce ページからプラットフォームキャッシュの組織キャッシュに保存されている値にアクセスできるようになりました。これまで、Visualforce グローバル変数を使用してアクセスできるのは、セッションキャッシュに保存されている値のみでした。

JavaScript Remoting 要求のデータ制限が 4 MB に増加

この要求ペイロードの制限が 4 MB に増加しました。これまでは 1 MB でした。

Visualforce のその他の変更

Visualforce コンポーネントのスタイル設定および HTML 出力に影響する変更が他にもあります。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

「Visualforce ページに対する GET 要求の CSRF 保護を許可」の適用 (重要な更新)

「Visualforce ページに対する GET 要求の CSRF 保護を許可」は Spring '17 の重要な更新でしたが、2017 年 10 月 15 日にすべての組織に適用されます。この重要な更新により、Visualforce ページが GET 要求で確実に CSRF トークンを受け取るオプションを使用できるようになります。

[設定] で Visualforce ページを作成するときに、**[GET 要求の CSRF 保護が必要]** を選択できます。このオプションを選択すると、Visualforce ページのセキュリティが強化され、クロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) を防ぐことができます。これまで、このオプションは削除アクションの上書きに使用される Visualforce ページに適用される場合にのみ有効になっていました。任意の Visualforce ページで CSRF 保護を有効にできますが、この重要な更新によってすべてのページの保護が有効になるわけではありません。

Visualforce ページでこのオプションが有効な場合、その URL (`/apex/PageName`) を入力してページにアクセスすることはできません。また、`<a>` タグを使用したそのページへのプレーンリンクも機能しません。

CSRF 保護があるページからのプレーンリンクは機能しますが、そのページへのリンクは機能しません。たとえば、ページの名前が `PageName` の場合、リンク `<a href="/apex/PageName">Link</a>` は機能しません。代わりに、`URLFOR()` 数式関数、`$Page` グローバル変数、または `apex:outputLink` コンポーネントを使用します。

```
<apex:outputLink value="/apex/PageName">Link using apex:outputlink</apex:outputlink>
<a href="{!$Page.PageName}">Link using $Page</a>
<a href="{!URLFOR($Page.PageName)}">Link using URLFOR()</a>
```

GET 要求の CSRF チェックは、Visualforce ページが Apex コントローラから参照される方法にも影響します。ナビゲーションの目的で CSRF で保護されたページの URL を返すメソッドは機能しません。

```
public String getPage(){
  return '/apex/PageName';
}
```

代わりに、URL ではなく Visualforce ページへの参照を返すメソッドを使用します。

```
public class customController {
    public PageReference getPage() {
    return new PageReference('/apex/PageName');
  }

  public PageReference getPage1() {
    return Page.PageName;
  }
}
```

このいずれかのメソッドを使用してページにリンクすると、Visualforce が必要な CSRF トークンを URL に追加します。ページで CSRF 保護が有効になっているかどうかにかかわらず、Visualforce ページへのリンクにはこれらのメソッドが優先されます。Visualforce ページの URL に CSRF トークンを追加する場合は、これらのメソッドのみを使用できます。

重要な更新のテスト

この更新は、あらゆる場所の自動有効化日付で有効となります。最初に Developer Edition 組織で Visualforce コードをテストしてから、CSRF 保護を使用するすべての Visualforce ページへのリンクが機能するかどうか確認することをお勧めします。本番組織で作業する必要がある場合は、ピーク時を避けて行います。

この重要な更新を有効化する手順は、次のとおりです。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。
2. [Visualforce ページに対する GET 要求の CSRF 保護を許可] の [有効化] をクリックします。
3. GET 要求の CSRF 保護が有効になっている Visualforce ページへのリンクをテストします。

Lightning Experience のスタイルシートを使用して既存の Visualforce ページを自動的にスタイル設定

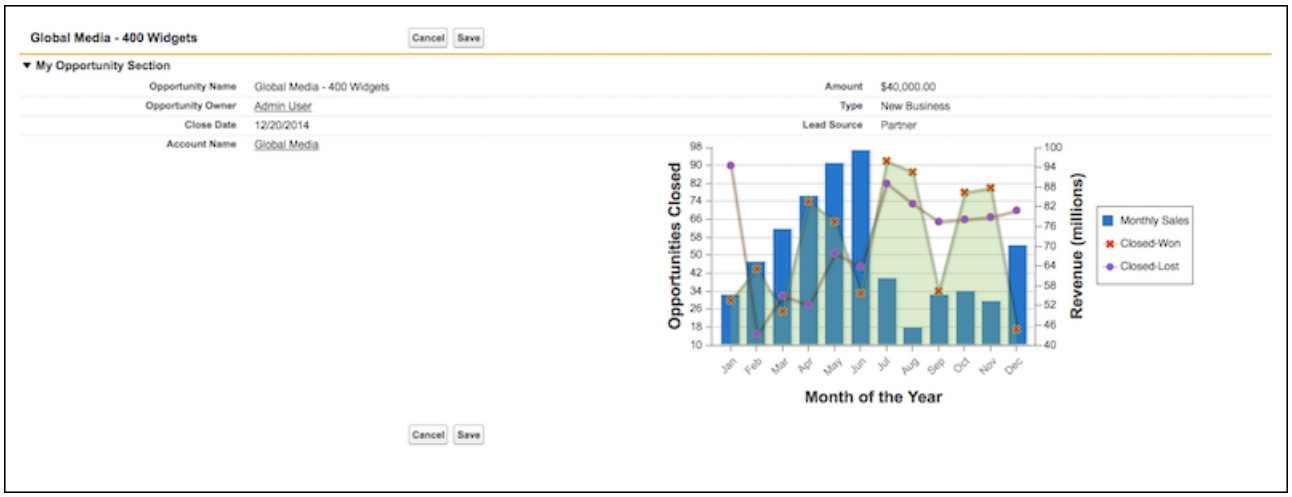
`lightningStylesheets` 属性を使用して Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web でページを表示するとき、ページのスタイルに Lightning Experience のデザインを使用するかどうかを簡単に制御します。これまで、Lightning Experience のページのスタイルを再設定するには、SLDS リファレンスサイトで一致するコンポーネントを検索し、コードを変更する必要がありました。新しい属性により、スタイルが未設定の Visualforce ページに Lightning Experience のデザインが自動的に適用されます。この機能は、Lightning Experience および Salesforce アプリケーションのすべてのバージョンで使用できます。

メモ: 今回のリリースには、Visualforce 用の Lightning Experience スタイルシートのベータバージョンが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。Visualforce 用の Lightning Experience スタイルシートは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

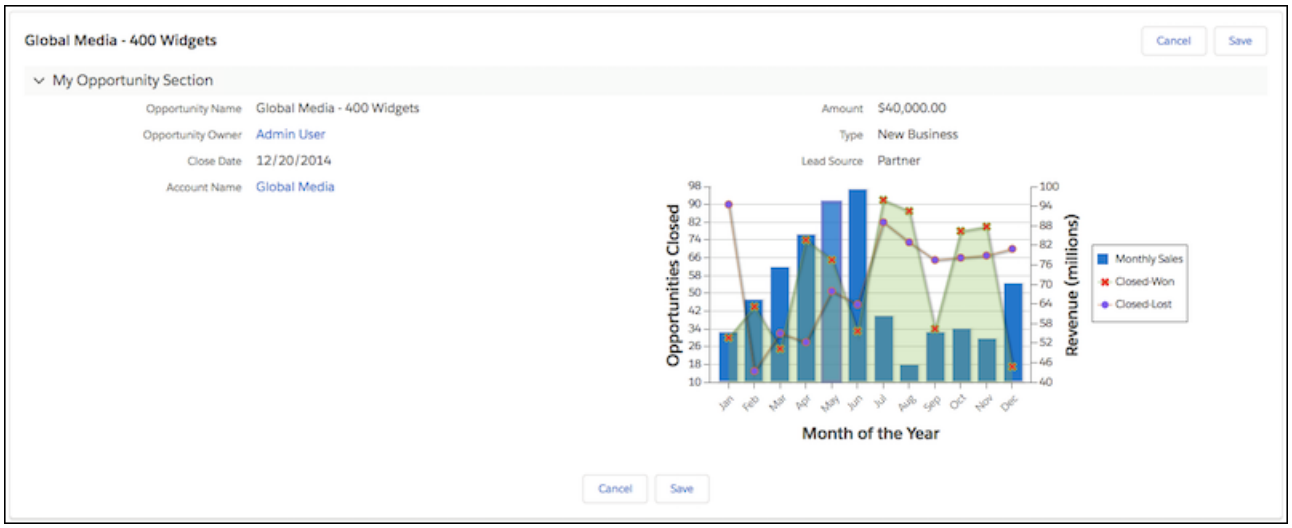
Lightning Experience、Salesforce for Android、Salesforce for iOS、Salesforce モバイル Web で Visualforce ページが表示されるとき、ページのスタイルが Lightning Experience UI と一致するように設定する場合は、`<apex:page>` タグで `lightningStylesheets="true"` に設定します。ページが Salesforce Classic で表示される場合、Lightning Experience のスタイル設定は適用されません。

```
<apex:page lightningStylesheets="true">
```

`lightningStylesheets` 属性を使用しない標準の Visualforce ページは次のようになります。ページには、Classic UI のスタイル設定が使用されます。



`lightningStylesheets` 属性が `true` に設定された同一の Visualforce ページは次のようになります。



`lightningStylesheets` 属性を使用して、よく使用される Visualforce コンポーネントのスタイルを設定できます。ただし、一部のコンポーネントのスタイルは Lightning Experience と若干異なります。たとえば、`<apex:selectOptions>`、`<apex:selectRadio>`、`<apex:inputFile>`、および一部の `<apex:inputField>` 要素では、代わりにブラウザのデフォルトのスタイル設定が使用されます。`<apex:form>`、`<apex:outputText>`、`<apex:param>` など、スタイル設定を必要としない、よく使用される Visualforce コンポーネントは引き続きサポートされます。

Lightning Experience のためのページの準備

組織の Visualforce ページを Lightning Experience で使用する準備ができているかどうかを確認したいですか? Lightning Experience の本番で使用する前に、Lightning Experience Visualforce チェックを使用して、変更が必要なページにフラグを付けるレポートを生成します。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Lightning 準備状況レポート PDF から直接 Lightning Experience Visualforce レポートを実行します。Visualforce レポートは、組織の過去 90 日間のすべてのページを確認し、Lightning Experience で使用できない機能を識別します。

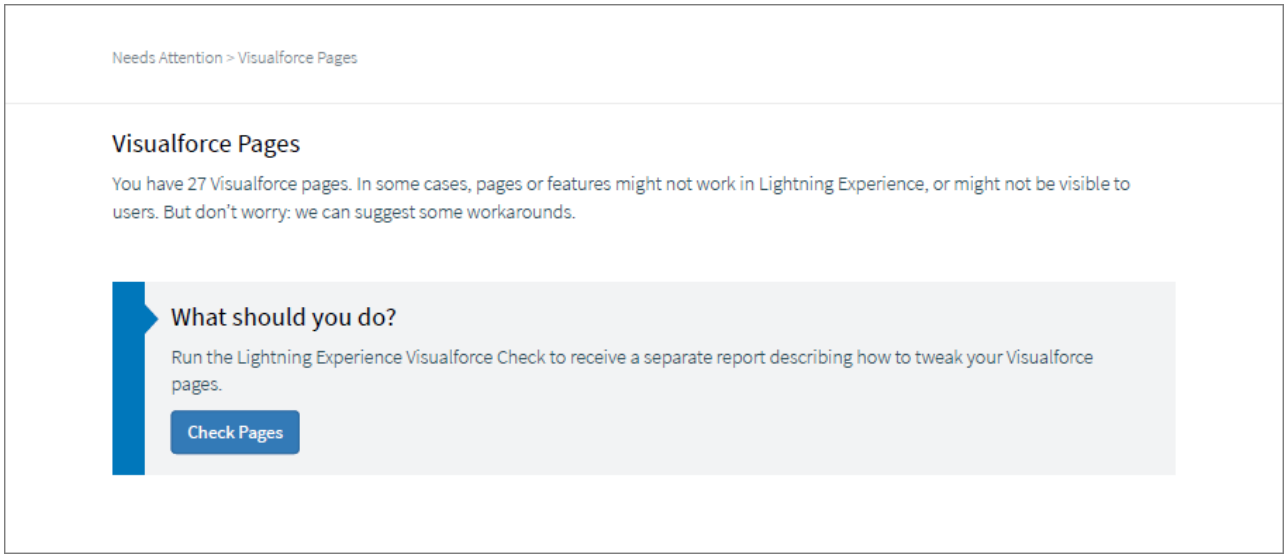
ユーザ権限

Lightning Experience Visualforce レポートを実行する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの編集」

Visualforce レポートをメールで受信する

- Salesforce の設定で、[メール送信] が [すべてのメール] のアクセスレベルに設定されている



Lightning Experience でも設計どおりに動作する Visualforce ページは多数ありますが、Salesforce Classic の一部の機能と属性はサポートされていません。Visualforce レポートの推奨事項を確認し、ページの準備を整えるためにどのような調整ができるかを把握してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience 準備状況チェック)

Visualforce グローバル変数を使用したプラットフォームキャッシュの組織キャッシュの値へのアクセス

`$Cache.Org` グローバル変数を使用して、Visualforce ページからプラットフォームキャッシュの組織キャッシュに保存されている値にアクセスできるようになりました。これまで、Visualforce グローバル変数を使用してアクセスできるのは、セッションキャッシュに保存されている値のみでした。

JavaScript Remoting 要求のデータ制限が 4 MB に増加

この要求ペイロードの制限が 4 MB に増加しました。これまでは 1 MB でした。

Visualforce のその他の変更

Visualforce コンポーネントのスタイル設定および HTML 出力に影響する変更が他にもあります。これらの変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

HTML とは異なって表示される `analytics:reportChart` と `wave:Dashboard`

Visualforce ページで `analytics:reportChart` または `wave:Dashboard` を使用すると、Lightning Out を使用して必要なリソースが読み込まれるようになりました。その結果、`analytics:reportChart` と `wave:Dashboard` を使用するページの初期ダウンロードが小さくなり、コンテンツが動的に読み込まれま

す。この変更は、これらのコンポーネントの HTML 出力にも影響します。任意のページでカスタム CSS を使用してこれらのコンポーネントのスタイルを設定する場合は、新しい HTML 出力に一致するようにスタイルを更新しなければならない場合があります。

`standardStylesheets` 属性によって含まれるスタイルシートの減少

`apex:page` コンポーネントで `standardStylesheets="false"` に設定すると、Salesforce から提供されるスタイルシートではなく、独自のスタイルシートを使用できます。これまでは、`standardStylesheets` を `false` に設定しても、ページに一部の Salesforce スタイルシートが含まれていました。今回から、API バージョン 41.0 の `apex:page` と `false` に設定された `standardStylesheets` では、Salesforce のスタイルは一切使用されなくなりました。

Apex

Apex は、Java に似た構文を使用し、データベースのストアドプロシージャのように動作するプログラミング言語です。Apex では開発者がビジネスロジックを、ボタンのクリック、関連レコードの更新、Visualforce ページなどのシステムイベントに追加できます。

今回のリリースの変更には、新しいテストオプションとリリースの機能強化が含まれます。プラットフォームキャッシュも更新され、Apex の一括処理からの外部オブジェクトへのアクセスが改善されました。

Apex についての詳細は、*『Apex 開発者ガイド』* を参照してください。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition、および **Database.com** Edition

このセクションの内容:

- @isTest アノテーションの新しいオプションを使用した並列テストの実行
- API でのクラス名を使用した Apex テストの実行
- Apex テストの同期実行時にケースの割り当てルールを起動しない
- リリースでのすべての Apex コードの再コンパイル

@isTest アノテーションの新しいオプションを使用した並列テストの実行

`@isTest(isParallel=true)` アノテーションを使用して、テストクラスを並列実行できること、およびテストクラスが同時テスト数のデフォルト制限に制約されないことを示します。これにより、より多くのテストを並列実行できるため、テストクラスをより効率的に実行できます。

API でのクラス名を使用した Apex テストの実行

クラス ID の代わりにクラス名を使用して、Apex クラスの個別のテストメソッドを実行できるようになりました。Apex クラス ID は組織に固有であるため、この変更によりソース駆動型の開発が容易になります。

Apex テストの同期実行時にケースの割り当てルールを起動しない

Tooling API REST インターフェースを使用して Apex テストを同期実行したときに、ケースの割り当てルールが起動されるバグが修正されました。このバグは、開発者コンソール、および Tooling API の `/runTestsSynchronous/` リソースで 1 つの Apex クラスからテストメソッドを実行した場合に影響していました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

リリースでのすべての Apex コードの再コンパイル

メタデータのリリース、変更セット、パッケージのインストール、またはパッケージのアップグレード (転送アップグレードを含む) を完了する前に、組織のすべての Apex コードが自動的に再コンパイルされるようになりました。

重複レコードを検索および表示する新しい方法

SOAP API を使用して、ユーザがレコードを作成または編集したときに重複を検出および表示することはすでに可能でした。Apex で `FindDuplicates`、`FindDuplicatesByIds`、`FindDuplicatesResult` の 3 つの新しい Datacloud クラスを使用して、フローまたは UI で他の時点での重複を検索および表示できるようになりました。たとえば、レコードが作成される前の重複のカスタム検索を作成できます。または、これらの Apex クラスを使用して、サービスデスク実装の解決策を特定します。 この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

Visualforce グローバル変数を使用したプラットフォームキャッシュの組織キャッシュの値へのアクセス

`$Cache.Org` グローバル変数を使用して、Visualforce ページからプラットフォームキャッシュの組織キャッシュに保存されている値にアクセスできるようになりました。これまで、Visualforce グローバル変数を使用してアクセスできるのは、セッションキャッシュに保存されている値のみでした。

Cache.Org.put の有効期間値とドキュメントの一致

プラットフォームキャッシュクラス `Cache.Org` には、キャッシュ値が組織キャッシュ内で存続する時間についてデフォルトを使用する 2 つの `put` メソッドがあります。 *『Apex 開発者ガイド』* の Summer '17 以前のバージョンに記載されているデフォルト値は 86,400 秒 (24 時間) でしたが、実際のデフォルトは 43,200 秒 (12 時間) でした。実際のデフォルト値がドキュメントと同じになりました。

変更セットのリリースおよび管理パッケージのアップグレードでリセットされなくなったプラットフォームキャッシュ割り当て

変更セットをリリースするときに、対象組織のプラットフォームキャッシュ割り当ては変更セットに含まれる値に設定されます。以前は、キャッシュパーティションをリリースする場合、変更セットの割り当て値に関係なく、組織キャッシュとセッションキャッシュの割り当てが 0 に設定されていました。この新しい動作は、メタデータのリリースにも適用されます。

Apex の一括処理からの外部サービスへのアクセスの改善

`Database.QueryLocator` を使用して Apex の一括処理から外部オブジェクトにアクセスできるようになりました。以前は、`Iterable<sObject>` のみがサポートされていました。

Apex REST サービスへのアクセスの制御

新しい「Apex Rest サービス」システム管理者権限を使用して、Apex REST サービスへのアクセスを制御できるようになりました。

参照のみモード中の Apex コールアウトの防止

サイト切り替え中は、Salesforce 組織が参照のみモードとなり、Salesforce での書き込み操作は許可されません。ただし、外部サービスへの Apex コールアウトは参照のみモードではブロックされません。不正なプログラム動作を避けるために、参照のみモードでのコールアウトを防止することをお勧めします。組織が参照のみモードであるかどうかを確認するために、`System.getApplicationReadWriteMode()` をコールします。

Apex: 新規および変更されたクラス

次のクラスが新規追加または変更されました。

ConnectApi (Chatter in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum

Chatter in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。このリリースでは、プラス投票と回答の検証が導入されています。

`@isTest` アノテーションの新しいオプションを使用した並列テストの実行

`@isTest(isParallel=true)` アノテーションを使用して、テストクラスを並列実行できること、およびテストクラスが同時テスト数のデフォルト制限に制約されないことを示します。これにより、より多くのテストを並列実行できるため、テストクラスをより効率的に実行できます。

このアノテーションは、並列テストを無効にするデフォルト設定よりも優先されます。このアノテーションを持たないテストクラスは、同時テスト数のデフォルト制限に制約されます。

API でのクラス名を使用した Apex テストの実行

クラス ID の代わりにクラス名を使用して、Apex クラスの個別のテストメソッドを実行できるようになりました。Apex クラス ID は組織に固有であるため、この変更によりソース駆動型の開発が容易になります。

Tooling API REST リソース: `/runTestsAsynchronous/`

`/runTestsAsynchronous/` REST リソースは、Apex テストクラスの名前 (名前空間が含まれる名前など) を受け入れます。以前は、このリソースはクラス ID のみを受け入れていました。この変更は、すべての API バージョンに適用されます。

Tooling API REST リソース: `/runTestsSynchronous/`

`/runTestsSynchronous/` REST リソースは、Apex テストクラスの名前 (名前空間が含まれる名前など)を受け入れます。以前は、このリソースはクラスIDのみを受け入れていました。この変更は、すべてのAPIバージョンに適用されます。

SOAP API: RunTestsRequest

`tests` プロパティが `runTests()` コールで使用される RunTestsRequest 型に追加されました。このプロパティのデータ型は TestsNode[] です。現在、TestsNode 配列に含めることができるエントリは 1 つのみです。

TestsNode

RunTestsRequest の新しい下位型。Apex テストクラスの個々のメソッドを実行できます。テストノードには、クラス ID またはクラス名、およびテストメソッドの配列が含まれます。

Tooling API SOAP コール: `runTests()`

`runTests()` コールに渡す RunTestsRequest オブジェクトには、API バージョン 41.0 以降の `runTests()` コールで必要な `tests` プロパティが含まれるようになりました。このプロパティは TestsNode 型の配列です。

Tooling API SOAP コール: `runTestsAsynchronous()`

`tests` パラメータは、API バージョン 41.0 以降で使用可能な必須のパラメータです。このプロパティは TestsNode 型の配列です。

関連トピック:

Force.com Tooling API: REST リソース

Force.com Tooling API: SOAP コール

Apex 開発者ガイド: RunTestsRequest

Force.com Tooling API: ApexTestQueueItem

Apex テストの同期実行時にケースの割り当てルールを起動しない

Tooling API REST インターフェースを使用して Apex テストを同期実行したときに、ケースの割り当てルールが起動されるバグが修正されました。このバグは、開発者コンソール、および Tooling API の `/runTestsSynchronous/` リソースで 1 つの Apex クラスからテストメソッドを実行した場合に影響していました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

関連トピック:

既知の問題: 同期 Apex テストでケースを作成するときに、REST Tooling API を介した RunTestSynchronous で割り当てルールが起動される

リリースでのすべての Apex コードの再コンパイル

メタデータのリリース、変更セット、パッケージのインストール、またはパッケージのアップグレード (転送アップグレードを含む) を完了する前に、組織のすべての Apex コードが自動的に再コンパイルされるようになりました。

以前は、リリース、インストール、アップグレードで組織の無効なコードがそのままになっていました。そのため、多くの Apex トランザクションが発生した場合に再コンパイルエラーになることがありました。この動作の変更により、メタデータのリリースおよびパッケージの更新後のパフォーマンスが改善されます。

重複レコードを検索および表示する新しい方法

SOAP API を使用して、ユーザがレコードを作成または編集したときに重複を検出および表示することはすでに可能でした。Apex で `FindDuplicates`、`FindDuplicatesByIds`、`FindDuplicatesResult` の 3 つの新しい Datacloud クラスを使用して、フローまたは UI で他の時点での重複を検索および表示できるようになりました。たとえば、レコードが作成される前の重複のカスタム検索を作成できます。または、これらの Apex クラスを使用して、サービスデスク実装の解決策を特定します。 この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

FindDuplicates と FindDuplicatesByIds を使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition
FindDuplicatesResult を使用可能なエディション: すべてのエディション

関連トピック:

新規 Apex クラス

Visualforce グローバル変数を使用したプラットフォームキャッシュの組織キャッシュの値へのアクセス

`$Cache.Org` グローバル変数を使用して、Visualforce ページからプラットフォームキャッシュの組織キャッシュに保存されている値にアクセスできるようになりました。これまで、Visualforce グローバル変数を使用してアクセスできるのは、セッションキャッシュに保存されている値のみでした。

Cache.Org.put の有効期間値とドキュメントの一致

プラットフォームキャッシュクラス Cache.Org には、キャッシュ値が組織キャッシュ内で存続する時間についてデフォルトを使用する 2 つの put メソッドがあります。『*Apex 開発者ガイド*』の Summer '17 以前のバージョンに記載されているデフォルト値は 86,400 秒 (24 時間) でしたが、実際のデフォルトは 43,200 秒 (12 時間) でした。実際のデフォルト値がドキュメントと同じになりました。

次の put メソッドの署名は、デフォルトの有効期間値を使用します。

- `put(key, value)`
- `put(key, value, visibility)`

Apex コードがデフォルトの有効期間値に依存する場合は、このリリースでもコードが期待どおりに動作することを確認してください。

キャッシュ値の有効期間を変更するには、署名に ttlSecs パラメータが含まれる次の put メソッドを使用します。

- `put(key, value, ttlSecs)`
- `put(key, value, ttlSecs, visibility, immutable)`

変更セットのリリースおよび管理パッケージのアップグレードでリセットされなくなったプラットフォームキャッシュ割り当て

変更セットをリリースするときに、対象組織のプラットフォームキャッシュ割り当ては変更セットに含まれる値に設定されます。以前は、キャッシュパーティションをリリースする場合、変更セットの割り当て値に関係なく、組織キャッシュとセッションキャッシュの割り当てが0に設定されていました。この新しい動作は、メタデータのリリースにも適用されます。

管理パッケージのアップグレードでキャッシュ割り当ての登録者の設定が上書きされることもありません。以前は、管理パッケージのアップグレードで、名前空間パーティションのキャッシュ割り当てが0にリセットされていました。キャッシュ割り当てを元の値のままにすることで、登録者が変更した割り当てが保持されます。登録者が AppExchange を実行してアプリケーションのパフォーマンスを観察するときに、組織キャッシュとセッションキャッシュの割り当てを調整できます。

メモ: 管理パッケージと未管理パッケージのインストール、および未管理パッケージのアップグレードでは、常に組織キャッシュとセッションキャッシュの割り当てが0に設定されます。この動作は、パッケージパーティションの割り当て値に関係なく発生します。登録者は、Salesforce パートナーの推奨値に基づいて組織キャッシュとセッションキャッシュを割り当てることができます。

Apex の一括処理からの外部サービスへのアクセスの改善

`Database.QueryLocator` を使用して Apex の一括処理から外部オブジェクトにアクセスできるようになりました。以前は、`Iterable<sObject>` のみがサポートされていました。

詳細は、「Apex 一括処理を使用した大量の外部オブジェクトデータセットの処理セットの処理」を参照してください。

エディション

使用可能なエディション: **Developer** Edition

有料オプションで使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

Apex REST サービスへのアクセスの制御

新しい「Apex Rest サービス」システム管理者権限を使用して、Apex REST サービスへのアクセスを制御できるようになりました。

Apex REST サービスをコールするために「API の有効化」システム管理者権限を有効にする必要はなくなりました。「Apex REST サービス」権限を使用して、SOAP API などの API へのアクセス権なしで Apex REST サービスにアクセスする必要があるユーザの権限セットを作成します。

ユーザには、Apex REST サービスを提供する Apex クラスへのアクセス権も必要です。Salesforce の [Apex クラス] 設定ページから、Apex クラスのセキュリティ設定を制御できます。

組織でこの権限を使用する場合は、Salesforce にお問い合わせください。

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

参照のみモード中の Apex コールアウトの防止

サイト切り替え中は、Salesforce 組織が参照のみモードとなり、Salesforce での書き込み操作は許可されません。ただし、外部サービスへの Apex コールアウトは参照のみモードではブロックされません。不正なプログラム動作を避けるために、参照のみモードでのコールアウトを防止することをお勧めします。組織が参照のみモードであるかどうかを確認するために、`System.getApplicationReadWriteMode()` をコールします。

Salesforce 組織は、計画的なサイト切り替えやインスタンス更新など、Salesforce のメンテナンアクティビティ中に参照のみモードになります。継続的サイト切り替えの一環として、Salesforce 組織はほぼ 6 か月おきに準備サイトに切り替えられます。サイト切り替えについての詳細は、「継続的サイト切り替え」を参照してください。

通常、コールアウトから応答を受信後、同じトランザクションでフォローアップ操作を実行する場合があります。たとえば、DML コールを実行して Salesforce レコードを更新する場合があります。参照のみモードでは、レコードの更新など Salesforce での書き込み操作がブロックされますが、コールアウトはブロックされません。この参照のみモードの動作の矛盾によって、Salesforce でのプログラムフローが壊れたり、問題が発生する可能性があります。`System.getApplicationReadWriteMode()` を使用して組織が参照のみモードであるかどうかを確認し、参照のみモード中はコールアウトを実行しないことをお勧めします。

次の例では、`System.getApplicationReadWriteMode()` の戻り値を確認します。戻り値が `ApplicationReadWriteMode.READ_ONLY` Enum 値と等しい場合、組織は参照のみモードで、コールアウト

がスキップされます。それ以外の場合 (`ApplicationReadWriteMode.DEFAULT` 値)は、コールアウトが実行されます。

メモ: このクラスでは、例として Apex HTTP クラスを使用してコールアウトを実行します。WSDL2Apex からインポートした WSDL を使用してコールアウトを実行することもできます。参照のみモードを確認するプロセスは、どちらの場合でも同じです。

```
public class HttpCalloutSampleReadOnly {
    public class MyReadOnlyException extends Exception {}

    // Pass in the endpoint to be used using the string url
    public String getCalloutResponseContents(String url) {

        // Get Read-only mode status
        ApplicationReadWriteMode mode = System.getApplicationReadWriteMode();
        String returnValue = '';

        if (mode == ApplicationReadWriteMode.READ_ONLY) {
            // Prevent the callout
            throw new MyReadOnlyException('Read-only mode. Skipping callouts!');
        } else if (mode == ApplicationReadWriteMode.DEFAULT) {
            // Instantiate a new http object
            Http h = new Http();

            // Instantiate a new HTTP request, specify the method (GET)
            // as well as the endpoint.
            HttpRequest req = new HttpRequest();
            req.setEndpoint(url);
            req.setMethod('GET');

            // Send the request, and return a response
            HttpResponse res = h.send(req);
            returnValue = res.getBody();
        }
        return returnValue;
    }
}
```

Sandbox で参照のみモードをテストするには、Salesforce に連絡して参照のみモードのテストオプションを有効化してください。テストオプションが有効化されたら、参照のみモードをオンに切り替えてアプリケーションを検証できます。

Apex: 新規および変更されたクラス

次のクラスが新規追加または変更されました。

このセクションの内容:

新規 Apex クラス

今回のリリースでこれらのクラスが導入されました。

変更された Apex クラス

次の既存のクラスで、メソッドまたは定数が新規追加または変更されました。

新規 Apex クラス

今回のリリースでこれらのクラスが導入されました。

Datacloud 名前空間のクラス

FindDuplicates クラス
ルールに基づいて、重複レコードの検索を実行します。入力は sObject の配列です。各 sObject は、重複を検索するレコードを表します。指定されたオブジェクトで有効な重複ルールに基づき、入力 sObject オブジェクトごとに検出された重複が出力で識別されます。

FindDuplicatesByIds クラス
ルールに基づいて、重複レコードの検索を実行します。入力は ID の配列です。各 ID は、重複を検索するレコードを示します。入力 ID に対応するオブジェクト種別に適用される有効な重複ルールに基づき、重複が検出されます。

FindDuplicatesResult クラス
ルールに基づく重複レコードの検索の出力。`FindDuplicatesResult` には、`FindDuplicates` または `FindDuplicatesByIds` クラスのインスタンスを使用して重複を検出した結果が含まれます。

System 名前空間の FeatureManagement クラス
`System.FeatureManagement` クラスのメソッドを使用して、機能パラメータの値を確認および変更し、登録者の組織でカスタムオブジェクトとカスタム権限を表示または非表示にします。機能パラメータについての詳細は、*『ISVforce ガイド』* の「機能管理アプリケーションの使用開始」を参照してください。

changeProtection(apiName, typeApiName, protection)
登録者の組織で、カスタム権限を非表示または表示するか、カスタムオブジェクトを表示します。

checkPackageBooleanValue(apiName)
登録者の組織の機能パラメータで `FeatureParameterBoolean__c` レコードの `value__c` の値を確認します。`setPackageBooleanValue(apiName, value)` を使用してレコードの値を設定します。

checkPackageDateValue(apiName)
登録者の組織の機能パラメータで `FeatureParameterDate__c` レコードの `value__c` の値を確認します。`setPackageDateValue(apiName, value)` を使用してレコードの値を設定できます。

checkPackageIntegerValue(apiName)
登録者の組織の機能パラメータで `FeatureParameterInteger__c` レコードの `value__c` の値を確認します。`setPackageIntegerValue(apiName, value)` を使用してレコードの値を設定できます。

checkPermission(apiName)
カスタム権限が有効化されているかどうかを確認します。

setPackageBooleanValue(apiName, value)
登録者の組織の subscriber-to-LMO 機能パラメータで `FeatureParameterBoolean__c` レコードの `value__c` の値を設定します。`checkPackageBooleanValue(apiName)` を使用してレコードの値を確認できます。

setPackageDateValue(apiName, value)
登録者の組織の subscriber-to-LMO 機能パラメータで `FeatureParameterDate__c` レコードの `value__c` の値を設定します。`checkPackageDateValue(apiName)` を使用してレコードの値を確認できます。

setPackageIntegerValue(apiName, value)
登録者の組織の subscriber-to-LMO 機能パラメータで FeatureParameterInteger__c レコードの value__c の値を設定します。checkPackageIntegerValue(apiName) を使用してレコードの値を確認できます。

変更された Apex クラス

次の既存のクラスで、メソッドまたは定数が新規追加または変更されました。

Auth.AuthConfiguration クラス

新しいメソッド

getRightFrameUrl()
コミュニティログインページの右側に表示される右フレームのコンテンツの URL を返します。システム管理者が URL を指定します。

QuickAction.DescribeQuickActionResult クラス

新しいメソッド

getFlowDevName()
カスタムアクションがフローを呼び出す場合、そのカスタムアクションが呼び出すフローの完全修飾名を返します。

getFlowRecordIdVar()
カスタムアクションがフローを呼び出す場合、そのカスタムアクションがレコードの ID を渡す先の入力変数を返します。

新しい定数

flowdevname
カスタムアクションがフローを呼び出す場合、そのフローの完全修飾名。

flowrecordidvar
カスタムアクションがフローを呼び出す場合、そのカスタムアクションがレコードの ID を渡す先の入力変数。

Schema.RecordTypeInfo クラス

新しいメソッド

isActive()
このレコードタイプが有効な場合は true、有効ではない場合は false を返します。

System.Site クラス

新しいメソッド

getExperienceId()
エクスペリエンス ID (expid) の値を返します。この expid 値は、ユーザの Web ブラウザの Cookie から取得されます。

setExperienceId(expIdValue)
現在のユーザのエクスペリエンス ID を設定します。ユーザの Web ブラウザのエクスペリエンス ID (expid) の値を入力するには、このメソッドを使用します。

`Schema.FieldSet` クラス

変更されたメソッド

`getLabel()`
このメソッドは、テキスト表示ラベル自体ではなく、テキスト表示ラベルの翻訳を返すように更新されました。

ConnectApi (Chatter in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum

Chatter in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。このリリースでは、プラス投票と回答の検証が導入されています。

`ConnectApi` 名前空間の Apex クラスでは、多くの Chatter REST API リソースアクションが静的メソッドとして公開されています。これらのメソッドでは、情報を入力したり返したりするために他の `ConnectApi` クラスが使用されます。`ConnectApi` 名前空間は、*Chatter in Apex* と呼ばれます。

Apex では、SOQL クエリとオブジェクトを使用して、一部の Chatter データにアクセスできます。ただし、`ConnectApi` クラスでは Chatter データがより単純な方法で公開されます。データは、表示用にローカライズされ、構成されます。たとえば、フィードへのアクセスや作成を、多くのコールではなく 1 回のコールで行うことができます。

メモ: モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Chatter やコミュニティに統合するには、Chatter REST API を使用します。

このセクションの内容:

新規および変更された Chatter in Apex クラス
次に、このリリースで新しく追加または変更されたクラスを示します。

新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス
次に、このリリースで新しく追加または変更された入力クラスを示します。

新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス
次に、このリリースで新しく追加または変更された出力クラスを示します。

新規および変更された Chatter in Apex Enum
次に、このリリースで新しく追加または変更された Enum を示します。

新規および変更された Chatter in Apex クラス

次に、このリリースで新しく追加または変更されたクラスを示します。

Chatter フィード

これらのメソッドは、`ConnectApi.ChatterFeeds` クラスに含まれます。

コンテキストコミュニティに関係なく Chatter ストリームを取得または検索 (パイロット)

メモ: `globalScope` パラメータは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されます。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせ

ください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。globalScope パラメータは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

- `getStream(communityId, streamId, globalScope)` (パイロット)
- `getStreams(communityId, pageParam, pageSize, sortParam, globalScope)` (パイロット)
- `searchStreams(communityId, q, pageParam, pageSize, sortParam, globalScope)` (パイロット)

このメソッドには一致する set test メソッドがあります。

グループまたはトピックフィードからの固定されたフィード要素の取得 (ベータ)

> メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンの固定された投稿が含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。投稿の固定は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。固定された投稿に関するフィードバックと提案は、Trailblazer コミュニティからお寄せください。

- `getPinnedFeedElementsFromFeed(communityId, feedType, subjectId)`

グループまたはトピックフィードへのフィード要素の固定または固定解除 (ベータ)

- `updatePinnedFeedElements(communityId, feedType, subjectId, pin)`

コメントまたはフィード要素のプラス投票またはマイナス投票

- `setCommentVote(communityId, commentId, upDownVote)`
- `setFeedElementVote(communityId, feedElementId, upDownVote)`

回答を検証済みまたは未検証とマーク

- `setCommentIsVerified(communityId, commentId, isVerified)`

フィード要素のコメントの並び替え

- `getCommentsForFeedElement(communityId, feedElementId, sortParam)`
- `getFeedElement(communityId, feedElementId, commentSort)`
- `getFeedElement(communityId, feedElementId, recentCommentCount, elementsPerBundle, commentSort)`

ナレッジ

これらのメソッドは、`ConnectApi.Knowledge` クラスに含まれます。

トピックの最多参照記事の取得

- `getTopViewedArticlesForTopic(communityId, topicId, maxResults)`

新規および変更された Chatter in Apex 入力クラス

次に、このリリースで新しく追加または変更された入力クラスを示します。

Chatter フィード

ConnectApi.ExtensionsCapabilityInput
この入力クラスには、次の新しいプロパティがあります。

- itemsToRemove — フィード要素から削除する添付ファイル ID のリスト。

ConnectApi.PinCapabilityInput (ベータ)
この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- entityId — 固定または固定解除するエンティティの ID。バージョン 41.0 では、entityId をフィード項目 ID にする必要があり、フィードあたり 1 つのフィード項目のみを固定できます。
- isPinned — エンティティを固定するか (true) 固定解除するか (false) を指定します。

ConnectApi.UpDownVoteCapabilityInput
この新しい入力クラスには、次の 1 つのプロパティがあります。

- vote — フィード要素またはコメントの投票の値を指定します。値は次のとおりです。
  - Down
  - None
  - Up

新規および変更された Chatter in Apex 出力クラス

次に、このリリースで新しく追加または変更された出力クラスを示します。

Chatter フィード

ConnectApi.CandidateAnswersStatus
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- hasCandidateAnswers — 質問の回答候補があるかどうかを示します。
- hasCandidateAnswersPublished — 回答候補が公開されているかどうかを示します。
- hasCandidateAnswersPublished — 回答候補が評価されているかどうかを示します。

ConnectApi.ChatterStream
この出力クラスには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- community — ストリームのコミュニティ概要。

ConnectApi.CommentCapabilities
この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- upDownVote — コメントにこの機能がある場合、ユーザはプラス投票またはマイナス投票できます。
- verified — コメントにこの機能がある場合、権限を持つユーザはコメントを検証済みまたは未検証とマークできます。

ConnectApi.CommunitySummary
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- id — コミュニティの 18 文字の ID。
- name — コミュニティのローカライズされた名前。

ConnectApi.Extension
この出力クラスには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- attachmentId — 拡張機能の添付 ID。

ConnectApi.ExtensionDefinition
この出力クラスには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- position — パブリッシャーで拡張機能が表示される位置。

この出力クラスには、次のプロパティが含まれなくなりました。

- isEnabledInCommunity
- isEnabledInLightningPublisher

ConnectApi.Feed
この出力クラスには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- pinnedFeedElementsUrl (ベータ) — 固定表示フィード項目の URL。

ConnectApi.FeedElementCapabilities
この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- mediaReferences — フィード要素にこの機能がある場合、1 つ以上のメディア参照があります。
- pin (ベータ) — フィード要素にこの機能がある場合、権限を持つユーザはフィードにフィード要素を固定できます。
- upDownVote — フィード投稿またはコメントにこの機能がある場合、ユーザはプラス投票またはマイナス投票できます。

ConnectApi.FeedItem
この出力クラスには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- hasVerifiedComment — フィード項目に検証済みコメントがある場合は true、それ以外の場合は false。

ConnectApi.InlineImageSegment
この出力クラスには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- imageDetails — 画像の詳細。ファイルが画像でない場合は null。

ConnectApi.MediaReference
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- mediaUrl — メディアをストリーミングまたはダウンロードする URL。
- thumbnailUrl — メディアのサムネイルの URL (存在する場合)。

ConnectApi.MediaReferenceCapability
この新しい出力クラスは、ConnectApi.FeedCapability のサブクラスです。次の 1 つのプロパティがあります。

- media — メディア参照のコレクション。

ConnectApi.PinCapability (ベータ)
この新しい出力クラスは、ConnectApi.FeedCapability のサブクラスです。次のプロパティがあります。

- isPinnableByMe — コンテキストユーザがフィードにエンティティを固定または固定解除できるか (true)、否か (false) を示します。
- isPinned — エンティティがフィードに固定されているか (true)、否か (false) を示します。

ConnectApi.PinnedFeedElements (ベータ)
この新しい出力クラスには、次の 1 つのプロパティがあります。

- elements — 固定表示フィード要素のリスト。

ConnectApi.QuestionAndAnswersCapability
この出力クラスには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- candidateAnswers — 質問の回答候補の状況。

ConnectApi.SocialPostCapability
この出力クラスには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- hiddenBy — ソーシャル投稿を非表示にしたユーザ。

ConnectApi.UpDownVoteCapability
この新しい出力クラスは、ConnectApi.FeedElementCapability のサブクラスです。次のプロパティがあります。

- downVoteCount — マイナス投票の数。
- myVote — コンテキストユーザの投票を示します。値は次のとおりです。
  - Down
  - None
  - Up
- upVoteCount — プラス投票の数。

ConnectApi.VerifiedCapability
この新しい出力クラスは、ConnectApi.FeedElementCapability のサブクラスです。次のプロパティがあります。

- isVerifiableByMe — コンテキストユーザがコメントを検証済みまたは未検証としてマークする権限を持っているか (true)、否か (false) を示します。
- isVerified — コメントが検証済みとマークされている場合は true、それ以外の場合は false。
- lastVerifiedByUser — コメントを検証済みまたは未検証として最後にマークしたユーザ。該当するユーザがいない場合は null。コンテキストユーザがコメントを検証済みまたは未検証としてマークする権限を持たない場合も null。
- lastVerifiedDate — コメントが検証済みまたは未検証として最後にマークされた日付。該当する日付がない場合は null。コンテキストユーザがコメントを検証済みまたは未検証としてマークする権限を持たない場合も null。

コミュニティ

ConnectApi.Community
この出力クラスには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- siteAsContainerEnabled — コミュニティが Site.com ページを使用するか (true)、Visualforce タブを使用するか (false) を示します。

フィールドサービス

ConnectApi.Features

この出力クラスには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- `liveAgentHostName` — 組織で設定された Live Agent ホスト名。

ConnectApi.UserSettings

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `hasFieldServiceLocationTracking` — ユーザが Field Service Lightning GPS 追跡を有効にしていることを示します。
- `hasFieldServiceMobileAccess` — ユーザが Field Service Lightning モバイルアプリケーションへのアクセス権を持つことを示します。

ファイル

ConnectApi.File

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `createdDate` — ファイルが作成された ISO8601 日付文字列。
- `sharingPrivacy` — ファイルの共有プライバシーを指定します。値は次のとおりです。
  - `None` — ファイルはレコードアクセス権のある全員に表示されます、
  - `PrivateOnRecords` — ファイルはレコードで非公開になります。
- `systemModstamp` — ユーザまたは自動システムプロセス (トリガなど) がファイルを更新したタイミングを示す ISO8601 日付文字列。

ConnectApi.FileSummary

この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `createdDate` — ファイルが作成された ISO8601 日付文字列。
- `sharingPrivacy` — ファイルの共有プライバシーを指定します。値は次のとおりです。
  - `None` — ファイルはレコードアクセス権のある全員に表示されます、
  - `PrivateOnRecords` — ファイルはレコードで非公開になります。
- `systemModstamp` — ユーザまたは自動システムプロセス (トリガなど) がファイルを更新したタイミングを示す ISO8601 日付文字列。

新規および変更された Chatter in Apex Enum

次に、このリリースで新しく追加または変更された Enum を示します。

これらの Enum についての詳細は、『*Apex 開発者ガイド*』の「ConnectApi Enum」を参照してください。

ConnectApi.FeedCommentSortOrder

この新しい Enum には次の値があります。

- `CreatedDateLatestAsc` — 最近作成されたコメントを昇順で並び替えます。
- `Relevance` — 最も関連性の高いコンテンツで並び替えます。

ConnectApi.FeedElementCapabilityType
この Enum には次の新しい値があります。

- MediaReferences — フィード要素に 1 つ以上のメディア参照があることを示します。
- Pin (ベータ) — 権限を持つユーザはフィード要素を固定できます。
- UpDownVote — ユーザはフィード要素をプラス投票またはマイナス投票できます。
- Verified — 権限を持つユーザはコメントを検証済みまたは未検証としてマークできます。

ConnectApi.FeedFilter
この Enum には次の新しい値があります。

- QuestionsWithCandidateAnswers — 回答候補が関連付けられている質問のフィード要素。
- QuestionsWithCandidateAnswersReviewedPublished — レビュー済みまたは公開済みの回答候補がある質問のフィード要素。
- UnansweredQuestionsWithCandidateAnswers — 回答はないものの回答候補が関連付けられている質問のフィード要素。

ConnectApi.FileSharingPrivacy
この新しい Enum には次の値があります。

- None — ファイルはレコードアクセス権のある全員に表示されます、
- PrivateOnRecords — ファイルはレコードで非公開になります。

ConnectApi.SocialPostStatusType
この Enum には、次の 1 つの新しい値があります。

- Hidden — ソーシャル投稿が非表示。

ConnectApi.UpDownVoteValue
この新しい Enum には次の値があります。

- Down
- None
- Up

ISVforce: 研修期間の短縮、ビジネス計画の簡易化、パッケージ化の機能拡張

AppExchange Trailblazer チェックリストを使用して、パートナージャーニーを迅速に進めます。他のリストの詳細を管理するためによく使用するアプリケーション (AppExchange 公開コンソール) のビジネスプランを管理します。機能パラメータを使用して、各機能への登録者のアクセスを制御します。また、登録者組織の管理パッケージの動作も改善されています。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

AppExchange Trailblazer チェックリストを使用した ISV ビジネスの迅速な構築

AppExchange Trailblazer チェックリストを使用することで、ISV を構築するときに情報を常に整理できます。チェックリストでは、パートナージャーニーが 10 個のステップ (Trailhead のガイド付き学習から AppExchange の公開リストまで) に分かれています。各ステップは、パートナーコミュニティの新しいサポートコンテンツとペアになっています。

AppExchange 公開コンソールでのビジネスプランの管理

これまで、アプリケーションのビジネスプランを共有することは、メールや FAX を Salesforce と結び付けることを意味していました。整理されていない受信箱やピーピーうるさい 90 年代のダイヤルトーンには別れを告げましょう。AppExchange 公開コンソールでビジネスプランを作成、管理、送信できるようになりました。また、プランの承認状況を確認したり、校閲者からのコメントを参照したりすることもできます。

機能パラメータによるアプリケーションへのアクセスの制御と追跡 (正式リリース)

2017 年 10 月中旬時点で、機能パラメータは正式リリースされます。登録者組織での機能アクセスを制御し、機能が本番環境でどのように動作するのかを確認するためにダークローンチして、有効化総計値を追跡します。これらはすべて、機能管理アプリケーション (FMA) から実行できます。FMA は、ライセンス管理組織 (LMO) の値と登録者組織の値をリンクします。Apex コードを使用して、それらの値を確認および変更することができます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

管理パッケージ更新での無効化および再有効化されたグローバル値セットの値の保持

管理パッケージのインストール前に登録者組織でグローバル値セットの値が [有効] に設定されていても、管理パッケージでグローバル値セットの値の設定が [無効] に変更されるバグが修正されました。

パッチ組織で [私のドメイン] が自動的に有効化

[私のドメイン] が有効化されているパッケージ化組織からパッチ組織を作成すると、そのパッチ組織でも [私のドメイン] が有効化されます。パッチ組織のカスタムサブドメインの名前はランダムに生成されます。以前まで、パッチ組織では [私のドメイン] が有効化されておらず、パッケージ化組織のアップロードされた「管理-リリース済み」パッケージにサブドメインが必要な場合は、エラーが発生していました。

変更セットのリリースおよび管理パッケージのアップグレードでリセットされなくなったプラットフォームキャッシュ割り当て

変更セットをリリースするときに、対象組織のプラットフォームキャッシュ割り当ては変更セットに含まれる値に設定されます。以前は、キャッシュパーティションをリリースする場合、変更セットの割り当て値に関係なく、組織キャッシュとセッションキャッシュの割り当てが 0 に設定されていました。この新しい動作は、メタデータのリリースにも適用されます。

「管理-リリース済み」パッケージからの S コントロールの削除

新しいバージョンの「管理-リリース済み」パッケージから S コントロールを削除できるようになりました。登録者組織のシステム管理者は、登録者が新しいパッケージバージョンにアップグレードしたときにも S コントロールを削除できます。登録者がパッケージの新しいバージョンを初めてインストールする場合は、S コントロールはインストールされません。

CustomTab 型を S コントロールから Visualforce ページへ変更

メタデータ API を使用して組織にメタデータをリリースすると、CustomTab 型を S コントロールから Visualforce ページまたはカスタムオブジェクト以外の種別に変更できます。カスタムオブジェクトタブも同様で、他の種別に変更することはできません。

パートナー用の Salesforce DX 機能 (正式リリース)

Salesforce DX には、パートナー用に特別に設計された機能がいくつか含まれています。Salesforce DX は、2017 年 10 月中旬に正式リリースされます。

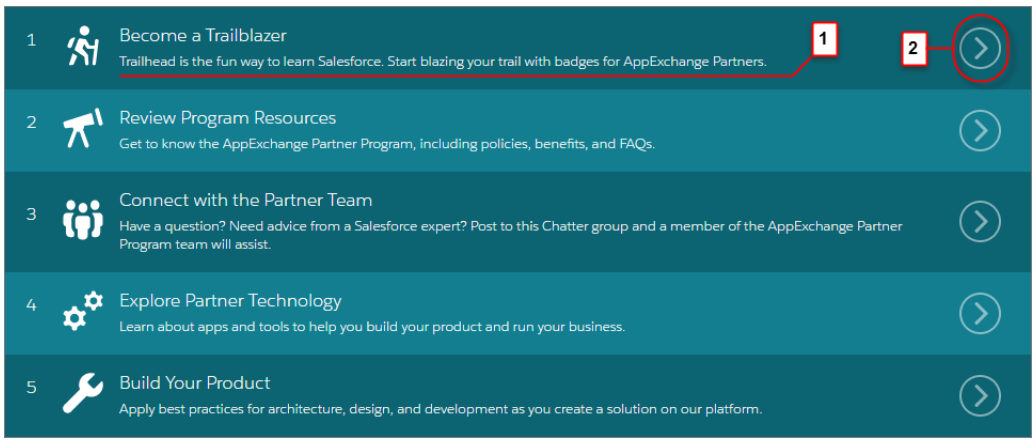
AppExchange 公開コンソールのその他の変更

AppExchange 公開コンソールが変更されて、AppExchange リストのカスタマーエクスペリエンスが改善されました。最低価格を指定していない場合、AppExchange の有料リストに記載されるソリューションの最低価格を指定することが求められるようになりました。

AppExchange Trailblazer チェックリストを使用した ISV ビジネスの迅速な構築

AppExchange Trailblazer チェックリストを使用することで、ISV を構築するときに情報を常に整理できます。チェックリストでは、パートナージャーニーが 10 個のステップ (Trailhead のガイド付き学習から AppExchange の公開リストまで) に分かれています。各ステップは、パートナーコミュニティの新しいサポートコンテンツとペアになっています。

パートナージャーニー全体を一目で確認したいという要望に応え、概要が記載されたチェックリストを用意しました。これで、内容をおおまかに確認することや進行することが容易になります (1)。詳細を確認する準備が整ったら、いずれかの新しいパートナーコミュニティページに移動します (2)。Trailhead、パートナーコミュニティ、Salesforce の [ヘルプ & トレーニング] でガイダンス、ヒント、およびリソースのリストを取得します。



パートナープログラムを初めて使用する場合、パートナーコミュニティプロファイルを作成するときにチェックリストが表示されます。コミュニティの [Education (教育)] セクションでいつでもチェックリストに戻ることができます。

AppExchange 公開コンソールでのビジネスプランの管理

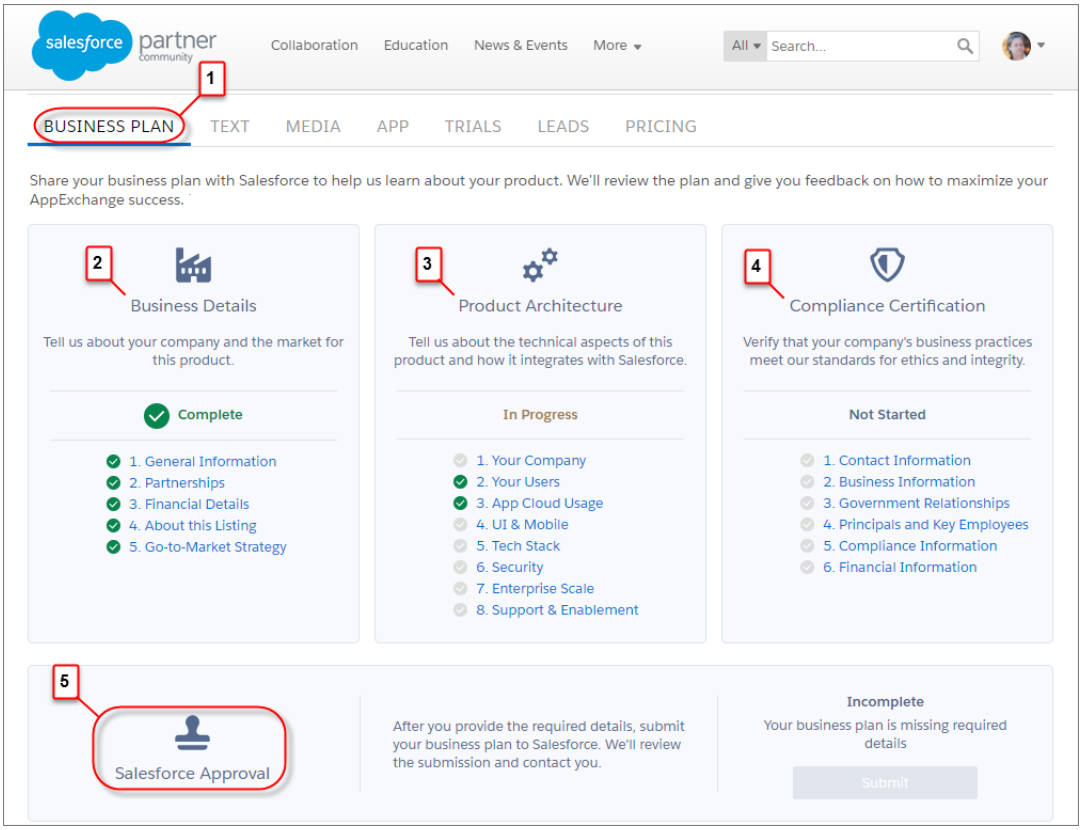
これまで、アプリケーションのビジネスプランを共有することは、メールや FAX を Salesforce と結び付けることを意味していました。整理されていない受信箱やピーピーうるさい 90 年代のダイヤルトーンには別れを告げましょう。AppExchange 公開コンソールでビジネスプランを作成、管理、送信できるようになりました。また、プランの承認状況を確認したり、校閲者からのコメントを参照したりすることもできます。

メモ: この機能は使用資格のある Salesforce パートナー向けです (英語のみ)。資格要件を含む、パートナープログラムの詳細は、www.salesforce.com/partners を参照してください。

コンソールで AppExchange リストを開くと、公開フローの最初のステップとして新しい [Business Plan (ビジネスプラン)] タブ (1) が表示されます。ここから、次の操作が可能です。

- 会社や業務に関する情報を入力する (2)。
- リストする商品に関する技術的な詳細を共有する (3)。
- 会社のコンプライアンス証明書に署名し、関連資料を提供する (4)。

Salesforce とビジネスプランを共有すると、申請が確認され、承認状況が常時通知されます (5)。プランについてコメントがある場合や変更が必要な場合は、ここでお知らせします。プランが承認されたら、商品のセキュリティレビューを申請できます。



AppExchange リストを公開している既存のパートナーの場合、すでにそのビジネスプランが用意されているため、リストを更新する必要はありません。新規商品をリストする既存のパートナーの場合、ビジネスの詳細と商品のアーキテクチャを入力します。コンプライアンスの詳細は、パートナープログラムに参加したときに提供された情報をもとに入力されます。

機能パラメータによるアプリケーションへのアクセスの制御と追跡(正式リリース)

2017 年 10 月中旬時点で、機能パラメータは正式リリースされます。登録者組織での機能アクセスを制御し、機能が本番環境でどのように動作するのかを確認するためにダークローンチして、有効化総計値を追跡します。これらはすべて、機能管理アプリケーション (FMA) から実行できます。FMA は、ライセンス管理組織 (LMO) の値と登録者組織の値をリンクします。Apex コードを使用して、それらの値を確認および変更することができます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

Salesforce では、機能管理を導入したときのような、パイロットプログラムを実施することがあります。また、お客様に提供する前に機能をダークローンチして、その機能が本番環境でどのように動作するのかを確認することや、一部の組織に期間限定のトライアルとして機能を提供することもあります。そして時には、それらの機能の有効化総計値を追跡する必要があります。

機能パラメータを使用することで、今まで公開されていなかったこの機能を、パートナー Ohana の皆様にご提供することになりました。FMA をライセンス管理組織 (LMO) にインストールします。FMA はライセンス管理アプリケーションを拡張するもので、LMA と同様に管理パッケージとして配布されます。

機能パラメータ

機能パラメータは、メタデータ API の型として表され、パッケージ化組織内で操作できます。`FeatureParameterBoolean`、`FeatureParameterDate`、`FeatureParameterInteger` 型には、値の 3 つの型 (ブール、整数、日付) が保存されます。これらの型を使用して、各機能パラメータの `defaultValue` を保存できます。その値は、顧客の組織内の他の値を参照するように、コード内で参照できます。各機能パラメータには `dataFlowDirection` 値 (`LMO to Subscriber` または `Subscriber to LMO`) もあります。機能パラメータは管理パッケージ内のみで使用できます。

登録者が最初にパッケージをインストールすると、各機能パラメータの LMO 内に `FeatureParameter__c` レコードが作成されます。機能パラメータレコードでは、次の項目に値が保存されます: `FullName__c`、`DataType__c` (`Boolean`、`Integer`、`Date`)、`DataFlowDirection__c`、`Package__c`、`IntroducedInPackageVersion__c`、および Winter '18 で新しく追加された `Namespace_Prefix__c`。

LMO 内および登録者の組織内で、カスタム連結オブジェクトのレコードは機能パラメータを表します。`FeatureParameterBoolean__c`、`FeatureParameterDate__c`、`FeatureParameterInteger__c` のレコードです。登録者がパッケージをインストールすると、FMA は、LMO 内および顧客の組織にこれらの連結オブジェクトのレコードを作成します。このレコードによって、機能パラメータは登録者のライセンスと機能パラメータの値セットに関連付けられます。LMO 内および登録者の組織内のそれらの値はリンクされます。各レコードには、`FeatureParameter__r`、`License__c`、`Value__c` の 3 つの値が保存されます。

Apex メソッド

機能パラメータの値を確認および変更するには、次の Apex メソッドを使用します。

- `System.FeatureManagement.checkPackageBooleanValue(apiName)`
- `System.FeatureManagement.checkPackageDateValue(apiName)`
- `System.FeatureManagement.checkPackageIntegerValue(apiName)`
- `System.FeatureManagement.setPackageBooleanValue(apiName, value)`
- `System.FeatureManagement.setPackageDateValue(apiName, value)`

- `System.FeatureManagement.setPackageIntegerValue(apiName, value)`

カスタムオブジェクトとカスタム権限の保護を表示、非表示、保護するには、次の Apex メソッドを使用します。

- `System.FeatureManagement.changeProtection(apiName, typeApiName, protection)`
- `System.FeatureManagement.checkPermission(apiName)`

使用開始

機能パラメータと FMA についての詳細は、『*ISVforce ガイド*』の「Get Started with the Feature Management App (機能管理アプリケーションの使用開始)」を参照してください。

`System.FeatureManagement` クラスについての詳細は、『*Apex 開発者ガイド*』の「FeatureManagement Class (FeatureManagement クラス)」を参照してください。

管理パッケージ更新での無効化および再有効化されたグローバル値セットの値の保持

管理パッケージのインストール前に登録者組織でグローバル値セットの値が[有効]に設定されていても、管理パッケージでグローバル値セットの値の設定が [無効] に変更されるバグが修正されました。

管理パッケージのグローバル値セットでは [有効] と [無効] の両方の値を指定できます。登録者組織のシステム管理者が管理パッケージの値を[有効]に設定するとします。登録者組織が管理パッケージの更新をインストールすると、変更を意図しない場合であっても、管理パッケージによって値が[無効]に設定されていました。今回のリリースでは、管理パッケージを更新しても、登録者組織の [有効] および [無効] の値設定が保持されるようになりました。

関連トピック:

選択リスト: 選択リスト値の管理の機能強化

パッチ組織で [私のドメイン] が自動的に有効化

[私のドメイン] が有効化されているパッケージ化組織からパッチ組織を作成すると、そのパッチ組織でも [私のドメイン] が有効化されます。パッチ組織のカスタムサブドメインの名前はランダムに生成されます。以前まで、パッチ組織では[私のドメイン]が有効化されておらず、パッケージ化組織のアップロードされた「管理-リリース済み」パッケージにサブドメインが必要な場合は、エラーが発生していました。

[私のドメイン]が有効化されているパッチ組織を作成するときは、ランダムに生成されたサブドメインが登録されるまで、数分かかる場合があります。

変更セットのリリースおよび管理パッケージのアップグレードでリセットされなくなったプラットフォームキャッシュ割り当て

変更セットをリリースするときに、対象組織のプラットフォームキャッシュ割り当ては変更セットに含まれる値に設定されます。以前は、キャッシュパーティションをリリースする場合、変更セットの割り当て値に関係なく、組織キャッシュとセッションキャッシュの割り当てが0に設定されていました。この新しい動作は、メタデータのリリースにも適用されます。

管理パッケージのアップグレードでキャッシュ割り当ての登録者の設定が上書きされることもありません。以前は、管理パッケージのアップグレードで、名前空間パーティションのキャッシュ割り当てが0にリセットされていました。キャッシュ割り当てを元の値のままにすることで、登録者が変更した割り当てが保持されます。登録者が AppExchange を実行してアプリケーションのパフォーマンスを観察するときに、組織キャッシュとセッションキャッシュの割り当てを調整できます。

メモ: 管理パッケージと未管理パッケージのインストール、および未管理パッケージのアップグレードでは、常に組織キャッシュとセッションキャッシュの割り当てが0に設定されます。この動作は、パッケージパーティションの割り当て値に関係なく発生します。登録者は、Salesforceパートナーの推奨値に基づいて組織キャッシュとセッションキャッシュを割り当てることができます。

「管理-リリース済み」パッケージからの Sコントロールの削除

新しいバージョンの「管理-リリース済み」パッケージからSコントロールを削除できるようになりました。登録者組織のシステム管理者は、登録者が新しいパッケージバージョンにアップグレードしたときにもSコントロールを削除できます。登録者がパッケージの新しいバージョンを初めてインストールする場合は、Sコントロールはインストールされません。

CustomTab 型を Sコントロールから Visualforce ページへ変更

メタデータ API を使用して組織にメタデータをリリースすると、CustomTab 型を Sコントロールから Visualforce ページまたはカスタムオブジェクト以外の種別に変更できます。カスタムオブジェクトタブも同様で、他の種別に変更することはできません。

パートナー用の Salesforce DX 機能 (正式リリース)

Salesforce DX には、パートナー用に特別に設計された機能がいくつか含まれています。Salesforce DX は、2017 年 10 月中旬に正式リリースされます。

パートナーへのスクラッチ組織の割り当て

Salesforce パートナー階層によって、スクラッチ組織の割り当て数と 1 日に作成可能な数が決まります。

非公開 Trialforce テンプレート

テンプレートはデフォルトで公開されます。非公開テンプレートを作成すると、承認された組織のみがこのテンプレートを使用して新しい組織にサインアップできるようになります。

無料の標準ユーザライセンス

Salesforce ユーザライセンスを持っていないけれども、本番のビジネス組織で Dev Hub を使用することを検討されていますか? Salesforce DX 開発者は、Salesforce Limited Access - Free ライセンスを使用して Dev Hub にアクセスし、スクラッチ組織の作成と管理、および名前空間と名前空間レジストリをリンクできます。この他にも、ユーザは Chatter にアクセスしてお互いにコラボレーションできる機能もあります。

関連トピック:

ISVforce ガイド: Scratch Org Allocations for Partners (パートナーのスクラッチ組織の割り当て)

ISVforce ガイド: Trialforce テンプレートを作成する

ISVforce ガイド: Salesforce Limited Access - Free ライセンス

AppExchange 公開コンソールのその他の変更

AppExchange 公開コンソールが変更されて、AppExchange リストのカスタマーエクスペリエンスが改善されました。最低価格を指定していない場合、AppExchange の有料リストに記載されるソリューションの最低価格を指定することが求められるようになりました。

メモ: この機能は使用資格のある Salesforce パートナーのみが使用できます。資格要件を含む、パートナープログラムの詳細は、www.salesforce.com/partners を参照してください。

AppExchange の有料リストへの最低価格情報の追加

AppExchange ソリューションの価格設定モデルが [有料、**Checkout** を使用しない] の場合、最低価格を指定していないと、コンソールで最低価格を指定するように求められるようになりました。公開されている AppExchange のリストの場合、リストの編集時にこの情報が求められます。次の情報を指定するように求められます。

- ゼロよりも大きい価格
- 支払い可能な通貨
- サブスクリプションの詳細 (請求頻度など)

コンソールの [価格設定] タブでこれらの詳細を追加します。これらの変更についての詳細は、Salesforce パートナーコミュニティを参照してください。

デバッグ: デバッグログ保持の標準化

デバッグログが以前よりも予測しやすいスケジュールで削除されるようになり、保持できる量も増加しました。新しいデバッグログイベントも追加されました。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Developer** Edition、および **Database.com** Edition

このセクションの内容:

より長い期間、より多くのデバッグログを保持

古いデバッグログを削除する方法が変更されました。デバッグログの保持期間は 7 日間になりました。15 分間で合計 250 MB のデバッグログを生成できます。組織が Winter '18 にアップグレードされると、7 日以上経過しているログはすべて削除されます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

プラットフォームイベント登録のデバッグログイベント
プラットフォームイベントに登録するプロセスおよびフローのデバッグに役立つデバッグログイベントがいくつか追加されました。

より長い期間、より多くのデバッグログを保持

古いデバッグログを削除する方法が変更されました。デバッグログの保持期間は7日間になりました。15分間で合計250 MBのデバッグログを生成できます。組織がWinter '18にアップグレードされると、7日以上経過しているログはすべて削除されます。この変更は、Lightning ExperienceとSalesforce Classicの両方に適用されます。

以前までは、生成できるデバッグログは最大50 MBでした。保持期間は定められておらず、容量制限を超えるたびに最も古いログが削除されていました。今回の変更で、50 MBの容量制限が削除され、7日間の保持期限が定められました。

15分間で250 MBを超えるデバッグログを生成すると、追跡フラグが無効になります。追跡フラグを最後に更新したユーザにメールが送信され、15分後に追跡フラグを再度有効化できることが通知されます。

ログ1件あたりのサイズ制限は2 MBのままです。デバックログのサイズが2 MBを超えると、`System.debug`ステートメントの始めの方のログの行など、古いログの行の削除によってサイズが縮小されます。ログの行は、デバッグログの最初からだけでなく、どの位置からでも削除できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: デバッグログの監視

プラットフォームイベント登録のデバッグログイベント

プラットフォームイベントに登録するプロセスおよびフローのデバッグに役立つデバッグログイベントがいくつか追加されました。

EVENT_SERVICE_PUB_BEGIN
イベントの種別

EVENT_SERVICE_PUB_DETAIL
登録ID、イベントを公開したユーザのID、イベントメッセージデータ

EVENT_SERVICE_PUB_END
イベントの種別

EVENT_SERVICE_SUB_BEGIN
イベントの種別とアクション(登録または登録解除)

EVENT_SERVICE_SUB_DETAIL
登録のID、登録インスタンスのID、参照データ(プロセスAPI名など)、登録を有効化または無効化したユーザのID、イベントメッセージデータ

EVENT_SERVICE_SUB_END
イベントの種別とアクション(登録または登録解除)

API

API バージョン 41.0 では、より多くのメタデータ型とデータオブジェクトにアクセスできます。SOSL およびデータサービスの新機能を使用して、検索を改善します。ユーザインターフェース API を使用して、ネイティブのモバイルアプリケーションとカスタム Web アプリケーションを作成します。Bulk API 2.0 を使用して、簡潔なユーザインターフェースで大量のレコードを処理します。

エディション

使用可能なエディション: **Developer** Edition、**Enterprise** Edition、**Unlimited** Edition、および **Performance** Edition

このセクションの内容:

- 新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト
- SOSL
- REST API
- SOAP API
- Chatter REST API
- レポートおよびダッシュボード REST API
- Bulk API 2.0 (正式リリース)
- Tooling API
- メタデータ API
- データサービス: カスタム Big Object および非同期 SOQL を使用した数百万件のレコードの操作
- エンタープライズメッセージング

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

SOSL

Salesforce Object Search Language (SOSL) で、リストビュー内の検索が新しくサポートされるようになりました。

REST API

REST API にフローランタイム API (パイロット) の新規リソースが追加されました。

SOAP API

SOAP API ではデータ型が変更されました。

Chatter REST API

Chatter REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce に統合します。このリリースでは、プラス投票、回答の検証、およびレコードの非公開ファイルが導入されました。

レポートおよびダッシュボード REST API

レポートおよびダッシュボード REST API の強化には、フォルダ共有を記述する新しいリソース、新しいレポートおよびダッシュボードプロパティ、分析通知パラメータへの変更が含まれます。

Bulk API 2.0 (正式リリース)

正式リリースされた新しい Bulk API 2.0 では、大量のデータを Salesforce 組織にすばやく読み込むための簡単なインターフェースが提供されます。

Tooling API

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。有効な組織のほとんどの Tooling API オブジェクトに対して CRUD 操作を実行できるようになりました。より多くの Tooling API オブジェクトで項目レベルの更新がサポートされるようになりました。

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

データサービス: カスタム Big Object および非同期 SOQL を使用した数百万件のレコードの操作

正式リリースされたカスタム Big Object および非同期 SOQL を使用して、数百万件のレコードを保存、管理、およびクエリできます。

エンタープライズメッセージング

イベントを使用すると、ビジネスシステム間の通信が簡略化されます。変更データキャプチャ (パイロット) を使用して、Salesforce でのレコードの変更のリアルタイム通知を受信します。大規模プラットフォームイベント (パイロット) を使用して、数百万件のカスタムイベントを配信および受信します。

Lightning コンソール JavaScript API によるコンソールアプリケーションのカスタマイズ (正式リリース)

Lightning コンソール JavaScript API では、Lightning コンソールアプリケーションとユーティリティバーをプログラムでカスタマイズできるメソッドが新規追加および更新されました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

Open CTI API

`notifyInitializationComplete()` メソッドを Lightning Experience で使用できるようになりました。このメソッドは、Salesforce に、ソフトフォンの初期化が完了したことと、Salesforce がスタンバイ URL に切り替えないようにすることを通知します。ソフトフォンの初期化中は、ソフトフォン領域に読み込み中アイコンが表示されます。`notifyInitializationComplete()` メソッドの機能は、Salesforce Classic の場合と異なります。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

その他の API の変更

統合検索で結果の RSS 形式がサポートされるようになりました。レコードタイプの SOQL クエリに新しい制限があります。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

このセクションの内容:

新しいオブジェクト
次のオブジェクトが新規追加されました。

変更されたオブジェクト
次のオブジェクトが変更されました。

新しいオブジェクト

次のオブジェクトが新規追加されました。

ChannelProgram
ベンダーがチャネルパートナーを通じた商品のマーケティングと販売に使用するチャネルプログラムを表します。

ChannelProgramFeed
チャネルプログラムフィードの単一のフィード項目を表します。

ChannelProgramHistory
チャネルプログラムオブジェクトの項目の値に対する変更履歴を表します。アクセスは参照のみです。

ChannelProgramLevel
チャネルプログラムのメンバー環境に基づいたレベルを表します。

ChannelProgramLevelFeed
チャネルプログラムレベルフィードの単一のフィード項目を表します。

ChannelProgramLevelHistory
チャネルプログラムレベルオブジェクトの項目の値に対する変更履歴を表します。アクセスは参照のみです。

ChannelProgramMember
チャネルプログラムのメンバーであるパートナーを表します。

ChannelProgramOwnerSharingRule
所有者以外のユーザとチャネルプログラムオブジェクトを共有するルールを表します。

ChannelProgramShare
チャネルプログラムレコードの共有エントリを表します。

ListEmail
Salesforce のリストメールを表します。

ListEmailRecipientSource
Salesforce のリストメールで、受信者のメールのソースを表します。

LocationFeed
場所の詳細ページに表示される単一のフィード項目を表します。

LogoutEventStream
LogoutEvents のストリーミングエンドポイントを表します。

MobileSettingsAssignment
特定のユーザプロファイルに対する Field Service Lightning モバイルアプリケーション設定の独自の設定の割り当てを表します。

NetworkAffinity
ユーザプロファイルを Network オブジェクト (コミュニティ) と関連付ける連結オブジェクトを表します。デフォルトのコミュニティをユーザプロファイルに割り当てるには、NetworkAffinity を使用します。

OmniSupervisorConfig
ユーザの Omni-Channel Supervisor 設定を決める設定を表します。

OmniSupervisorConfigGroup
スーパーバイザユーザに表示される Omni-Channel Supervisor 設定に割り当てられた公開グループを表します。

OmniSupervisorConfigProfile
特定のプロファイルに割り当てられているユーザに割り当てられた Omni-Channel Supervisor 設定を決める設定を表します。ユーザレベルの設定でプロファイルレベルの設定が上書きされます。

OmniSupervisorConfigUser
ユーザに割り当てられた Omni-Channel Supervisor 設定を決める設定を表します。ユーザレベルの設定でプロファイルレベルの設定が上書きされます。

PartnerFundAllocation
チャネルパートナーのパートナーマーケティング予算から割り当てられた資金を表します。

PartnerFundAllocationFeed
パートナー資金割り当てフィードの単一のフィード項目を表します。

PartnerFundAllocationHistory
パートナー資金割り当てオブジェクトの項目の値に対する変更履歴を表します。アクセスは参照のみです。

PartnerFundAllocationOwnerSharingRule
所有者以外のユーザとパートナー資金割り当てオブジェクトを共有するルールを表します。

PartnerFundAllocationShare
パートナー資金割り当てレコードの共有エントリを表します。

PartnerFundClaim
チャネルパートナーによるパートナーマーケティング予算からの資金の要求を表します。

PartnerFundClaimFeed
パートナー資金要求フィードの単一のフィード項目を表します。

PartnerFundClaimHistory
パートナー資金要求オブジェクトの項目の値に対する変更履歴を表します。アクセスは参照のみです。

PartnerFundClaimOwnerSharingRule
所有者以外のユーザとパートナー資金要求オブジェクトを共有するルールを表します。

PartnerFundClaimShare
パートナー資金要求レコードの共有エントリを表します。

PartnerFundRequest
チャネルパートナーによるパートナーマーケティング予算からの資金のリクエストを表します。

PartnerFundRequestFeed
パートナー資金リクエストフィードの単一のフィード項目を表します。

PartnerFundRequestHistory
パートナー資金リクエストオブジェクトの項目の値に対する変更履歴を表します。アクセスは参照のみです。

PartnerFundRequestOwnerSharingRule
所有者以外のユーザとパートナー資金リクエストオブジェクトを共有するルールを表します。

PartnerFundRequestShare
パートナー資金リクエストレコードの共有エントリを表します。

PartnerMarketingBudget
販売およびマーケティング商品とサービスのチャネルパートナーに資金を提供する予算を表します。

PartnerMarketingBudgetFeed
パートナーマーケティング予算フィードの単一のフィード項目を表します。

PartnerMarketingBudgetHistory
パートナーマーケティング予算オブジェクトの項目の値に対する変更履歴を表します。アクセスは参照のみです。

PartnerMarketingBudgetOwnerSharingRule
所有者以外のユーザとパートナーマーケティング予算オブジェクトを共有するルールを表します。

PartnerMarketingBudgetShare
パートナーマーケティング予算レコードの共有エントリを表します。

PendingServiceRouting
転送を待機している割り当て作業を表します。このオブジェクトは、API バージョン 40.0 以降で使用できます。

QuoteOwnerSharingRule
所有者以外のユーザと見積を共有するためのルールを表します。

QuoteShare
見積の共有エントリを表します。

ServiceCrew
フィールドサービス予定にまとめて割り当て可能なユーザグループを表します。

ServiceCrewFeed
サービスクルーの詳細ページに表示される単一のフィード項目を表します。

ServiceCrewHistory
サービスクルーの項目の値に対する変更履歴を表します。

ServiceCrewMember
特定のサービスクルーに属するサービスリソースを表します。

ServiceCrewMemberFeed
サービスクルーメンバーの詳細ページに表示される単一のフィード項目を表します。

ServiceCrewMemberHistory
サービスクルーメンバーの項目の値に対する変更履歴を表します。

ServiceCrewOwnerSharingRule
サービスクルーを共有するためのルールを表します。

ServiceCrewShare
サービスクルーの共有エントリを表します。

UserPermissionAccess
現在のユーザの権限によるアクセス権を表します。

VoiceMailGreeting
ユーザのボイスメールで再生されるカスタム挨拶メッセージを表します。

VoiceMailGreetingShare
VoiceMailGreeting の共有エントリを表します。

VoiceUserPreferences
ユーザがアウトバウンドコールを行うときに表示される番号を表します。

VoiceUserPreferencesShare
VoiceUserPreferences オブジェクトの共有エントリを表します。

WorkTypeOwnerSharingRule
作業種別を共有するためのルールを表します。

WorkTypeShare
作業種別の共有エントリを表します。

変更されたオブジェクト

次のオブジェクトが変更されました。

変更されたオブジェクト

ActivityHistory

`ActivitySubtype` 項目で、値 List Email が追加されました。

AgentWork

`CapacityPercentage` 項目と `CapacityWeight` 項目に create プロパティが追加されました。

`ShouldSkipCapacityCheck` 項目が追加されました。

AppExtension

`FieldServiceMobileSettingsId` 項目で、`creatable` プロパティが true に変更されました。

AppMenuItem

Type 項目に Network が追加されました。

Asset

`ProductCode` 項目と `StockKeepingUnit` 項目が追加されました。

AssignedResource

`ServiceCrewId` 項目が追加されました。

CampaignInfluenceModel

`isActive` 項目と `RecordPreference` 項目が追加されました。

`ModelType` 項目に 3 つの新しい値が追加されました。

- 3: 初回接触
- 4: 最終回接触
- 5: 均等分布

CaseMilestone

CaseMilestone オブジェクトで `describeCompactLayout()` コールがサポートされるようになりました。

ContentDocument

`SharingPrivacy` 項目が追加されました。

ContentNote

`SharingPrivacy` 項目が追加されました。

ContentVersion

`SharingPrivacy` 項目が追加されました。

`L` 選択リスト値が `ContentLocation` 項目に追加されました。

ContractLineItem

`Product2Id` 項目が追加されました。

CustomBrandAsset

`AssetCategory` 項目に次の選択リスト値が追加されました。

- `StaticLogoImageURL`
- `LoginQuaternaryColor`
- `LoginRightFrameUrl`
- `LogoAssetId`

`AssetSourceId` 項目が追加されました。この項目によって `ForeignKeyAssetId` は置き換えられて非推奨になりました。

DigitalSignature

- `SignatureType` 項目で、次の変更が行われました。
  - `defaultedOnCreate` プロパティが true に変更されました。
  - `restrictedPicklist` プロパティが false に変更されました。

DuplicateRecordSet

`DuplicateRecordSet` オブジェクトの `DuplicateRuleId` 項目の表示ラベルが `[重複ルール ID]` に戻りました。Spring '18 以前の表示ラベルは `[親]` でした。

Event

GroupEventType 選択リストで 2 (提案行動) 選択リスト値が使用されなくなりました。

EventLogFile

EventLogFile オブジェクトに次の新しいイベント種別が追加されました。

- ナレッジ記事
- プラットフォームの暗号化
- 検索
- 検索/クリック

CLIENT_IP 項目のデータ型が IP から String に変更されました。また、値「Salesforce.com IP」が、Salesforce 内部 IP (Salesforce ワークベンチまたは AppExchange からのログインなど) を表すようになりました。この変更は、CLIENT_IP が含まれるすべてのイベント種別に影響を与えます。

FeedComment

IsVerified 項目が追加されました。

FeedItem

HasVerifiedComment 項目が追加されました。

FieldServiceMobileSettings

- オブジェクト属性 createable と deletable が true に変更されました。
- DeveloperName 項目で、createable プロパティと updatable プロパティが true に変更されました。
- Language 項目で、defaultedOnCreate プロパティと createable プロパティが true に変更されました。
- 次の項目で creatable プロパティが true に変更されました。
  - NavbarBackgroundColor
  - BrandInvertedColor
  - FeedbackPrimaryColor
  - FeedbackSecondaryColor
  - PrimaryBrandColor
  - SecondaryBrandColor
  - ContrastPrimaryColor
  - ContrastSecondaryColor
  - ContrastTertiaryColor
  - ContrastQuaternaryColor
  - ContrastQuinaryColor
  - ContrastInvertedColor
  - IsSendLocationHistory
  - GeoLocationMinUpdateFreqMins
  - GeoLocationAccuracy
  - RecordDataCacheTimeMins
  - MetadataCacheTimeDays
  - UpdateScheduleTimeMins

  - IsShowEditFullRecord
  - TimeIntervalSetupMins
  - DefaultListViewDeveloperName
  - NavbarInvertedColor
  - FeedbackSelectedColor
  - FutureDaysInDatePicker
  - FutureDaysInDatePicker
  - PastDaysInDatePicker
  - PastDaysInDatePicker
- 次の項目が追加されました。
  - MasterLabel
  - IsDefault
  - BgGeoLocationMinUpdateFreqMins
  - BgGeoLocationAccuracy

ForecastingType

次の項目が追加されました。

- OpportunitySplitTypeId
- RoleType
- Territory2ModelId

Group

ChannelProgramGroup 選択リスト値が Type 項目に追加されました。

Location

次の項目が追加されました。

- RootLocationId
- LocationLevel

NavigationMenuItem

GlobalAction 選択リスト値が Type 項目に追加されました。

Network

OptionsUpDownVoteEnabled、OptionsEinsteinAnswersEnabled、OptionsCWBannerState、OptionsTopicSuggestionsEnabled、および ptionsEnableTalkingAboutStats 項目が追加されました。

NetworkMember

PreferencesDisableMarketingCloudEmail 項目が追加されました。

PlatformAction

TargetObject 項目と TargetUrl 項目が追加されました。

Product2

StockKeepingUnit 項目が追加されました。

SecurityCustomBaseline

isDefault 項目が追加されました。

ServiceAppointment

ParentRecordId 項目で、nillable プロパティが false に変更されました。

ServiceResource

- RelatedRecordId 項目で、nillable プロパティが true に変更されました。
- ResourceType 項目で、選択リスト値 C が追加されました。
- ServiceCrewId 項目が追加されました。

SlaProcess

RecordTypeId 項目と IsRecordTypeApplied 項目が追加されました。

Task

TaskSubtype 項目で、選択リスト値 ListEmail が追加されました。

UserAppMenuItem

Type 項目に Network が追加されました。

UserLicense

UsedLicensesLastUpdated 項目が追加されました。

MasterLabel、Status、TotalLicenses、および UsedLicenses 項目が正式リリースされました。

UserServicePresence

オブジェクト属性 deletable と undeletable が true に変更されました。

OwnerId 項目が追加されました。

VoiceCall

次の項目が追加されました。

- CallerIdType
- FromCountry
- ToCountry
- VendorType

VoiceVendorInfo

次の項目が追加されました。

- CompanyNumber
- LocalPresenceDefaultNumber

WorkOrder

次の項目が追加されました。

- MinimumCrewSize
- RecommendedCrewSize
- ServiceReportTemplateId

WorkOrderLineItem

次の項目が追加されました。

- LastViewedDate
- LastReferencedDate
- MinimumCrewSize
- RecommendedCrewSize

- `ServiceReportTemplateId`

WorkType

次の項目が追加されました。

- `OwnerId`
- `MinimumCrewSize`
- `RecommendedCrewSize`

関連トピック:

イベントログファイルでテナントの秘密の使用状況を参照
イベント監視ログの暗号化鍵の管理使用の追跡

SOSL

Salesforce Object Search Language (SOSL) で、リストビュー内の検索が新しくサポートされるようになりました。

リストビュー内の検索

`USING ListView` を使用すると、オブジェクトのリストビューを検索でき、大きなリストビューから 1 件のレコードを容易に探すことができます。

次の SOSL ステートメントは *MVP Customers* リストビューで *Acme* の Account オブジェクトを検索しています。

```
FIND {Acme} IN ALL FIELDS RETURNING Account(Id, Name USING ListView=MVPCustomers)
```

REST API

REST API にフローランタイム API (パイロット) の新規リソースが追加されました。

このセクションの内容:

新しいリソース: Flows と Flow Interviews (パイロット)
独自のフローランタイム環境を作成したいと思ったことはありませんか?それが可能になりました。フローを記述する 2 つのリソースとインタビューを記述および操作する 3 つのリソースが提供されます。既存のパイロットユーザの場合、前回のリリースからの変更はありません。

新しいリソース: Flows と Flow Interviews (パイロット)

独自のフローランタイム環境を作成したいと思ったことはありませんか? それが可能になりました。フローを記述する 2 つのリソースとインタビューを記述および操作する 3 つのリソースが提供されます。既存のパイロットユーザの場合、前回のリリースからの変更はありません。

メモ: フローランタイム REST API は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。フローランタイム REST API は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。

現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。フローランタイム REST API についてのフィードバックと提案は、IdeaExchange からお寄せください。

Flows
組織の有効なフロー定義を表示します。

```
/vXX.X/process/flows
```

Specific Flow
特定のフローに関する概要情報を表示します。

```
/vXX.X/process/flows/FlowName
```

Paused Interviews
実行ユーザが再開できる一時停止中のインタビューを表示します。

```
/vXX.X/process/interviews
```

New Interview
フローインタビューを開始します。

```
/vXX.X/process/interviews/FlowName
```

Specific Interview
進行中のインタビューを続行、一時停止、または終了したり、一時停止中のインタビューを再開したりします。

```
/vXX.X/process/interviews/FlowName/guid
```

関連トピック:

- XML でのフローランタイム REST API 要求の実行 (パイロット)
- 新しいインタビューのリクエストボディで想定されるようになった対応付け (パイロット)
- すべてのフローランタイム REST リソースでの末尾のスラッシュの使用 (パイロット)

SOAP API

SOAP API ではデータ型が変更されました。

新規、変更、および廃止されたコールとデータ型

次のデータ型が変更されました。

変更されたコール

`describeQuickActions()` および DescribeQuickActionResult
レコードタイプの更新アクションでは、アクションレイアウトの参照のみ項目が DescribeLayoutRow で返される `layoutItems` の一部として含まれるようになりました。

変更されたデータ型

RunTestsRequest

`tests` プロパティが `runTests()` コールで使用される RunTestsRequest 型に追加されました。このプロパティのデータ型は TestsNode[] です。現在、TestsNode 配列に含めることができるエントリは 1 つのみです。

TestsNode

RunTestsRequest の新しい下位型。Apex テストクラスの個々のメソッドを実行できます。テストノードには、クラス ID またはクラス名、およびテストメソッドの配列が含まれます。

Chatter REST API

Chatter REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce に統合します。このリリースでは、プラス投票、回答の検証、およびレコードの非公開ファイルが導入されました。

メモ: カスタム Chatter とコミュニティの環境を Salesforce で作成するには、ConnectApi (Chatter in Apex): **新規および変更されたクラスおよび** Enum を使用します。

このセクションの内容:

新規および変更された Chatter REST API **リソース**
このリリースで新しく追加または変更されたリソースを次に示します。

新規および変更された Chatter REST API **リクエストボディ**
このリリースで新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

新規および変更された Chatter REST API **レスポンスボディ**
このリリースで新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

新規および変更された Chatter REST API リソース

このリリースで新しく追加または変更されたリソースを次に示します。

Chatter フィード

コンテキストコミュニティに関係なく **Chatter** ストリームを取得または検索 (パイロット)

メモ: `globalScope` パラメータは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されます。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。`globalScope` パラメータは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。

- 新しい `globalScope` パラメータを指定して、既存の `/chatter/streams` リソースに対して GET 要求を実行します。
- 新しい `globalScope` パラメータを指定して、既存の `/chatter/streams/`***`streamId`*** リソースに対して GET 要求を実行します。

グループまたはトピックフィードからの固定されたフィード要素の取得 (ベータ)

> メモ: 今回のリリースには、ベータバージョンの固定された投稿が含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。投稿の固定は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。固定された投稿に関するフィードバックと提案は、Trailblazer コミュニティからお寄せください。

- 新規 `/chatter/feeds/record/groupId/pinned-feed-elements` リソースに対して GET 要求を実行します。
- 新規 `/chatter/feeds/topics/topicId/pinned-feed-elements` リソースに対して GET 要求を実行します。

グループまたはトピックフィードへのフィード要素の固定または固定解除 (ベータ)

- 新しい Pin Capability Input を指定して、新規 `/chatter/feeds/record/groupId/pinned-feed-elements` リソースに対して PATCH 要求を実行します。
- 新しい Pin Capability Input を指定して、新規 `/chatter/feeds/topics/topicId/pinned-feed-elements` リソースに対して PATCH 要求を実行します。

コメントのプラス投票とマイナス投票の取得

新規 `/chatter/comments/commentId/capabilities/up-down-vote` リソースに対して GET 要求を実行します。

コメントのプラス投票またはマイナス投票

新しい Up Down Vote Capability Input または `vote` パラメータを指定して、新規 `/chatter/comments/commentId/capabilities/up-down-vote` リソースに対して PATCH 要求を実行します。

フィード要素のプラス投票とマイナス投票の取得

新規 `/chatter/feed-elements/feedElementId/capabilities/up-down-vote` リソースに対して GET 要求を実行します。

フィード要素のプラス投票またはマイナス投票

新しい Up Down Vote Capability Input または `vote` パラメータを指定して、新規 `/chatter/feed-elementss/feedElementId/capabilities/up-down-vote` リソースに対して PATCH 要求を実行します。

フィード要素のメディア参照機能へのアクセス

新規 `/chatter/feed-elements/feedElementId/capabilities/media-references` リソースに対して GET 要求を実行します。

質問の投稿への回答の検証済み状況を取得

新規 `/chatter/comments/commentId/capabilities/verified` リソースに対して GET 要求を実行します。

質問の投稿への回答を検証済みまたは未検証とマーク

新しい Verified Capability Input または `isVerified` パラメータを指定して、新規 `/chatter/comments/commentId/capabilities/verified` リソースに対して PATCH 要求を実行します。

フィード要素のコメントの並び替え
新しい sort パラメータを指定して、既存の /chatter/feed-elements/***feedElementId***/capabilities/comments リソースに対して GET 要求を実行します。

新しい commentSort パラメータを指定して、既存の /chatter/feed-elements/***feedElementId*** リソースに対して GET 要求を実行します。

コミュニティのナレッジ

トピックの最多参照記事の取得
新規 /connect/communities/***communityId***/topics/***topicId***/top-viewed-articles リソースに対して GET 要求を実行します。

ファイル

レコードで非公開のファイルの作成

- 新しい sharingPrivacy パラメータを指定して、既存の /connect/files/***fileId*** リソースに対して POST 要求を実行します。
- 更新された File Input または新しい sharingPrivacy パラメータを指定して、既存の /connect/files/users/***userId*** リソースに対して POST 要求を実行します。
- 更新された File Input または新しい sharingPrivacy パラメータを指定して、既存の /connect/folders/***folderId***/items リソースに対して POST 要求を実行します。

ファイルをレコードで非公開になるように更新
更新された File Input または新しい sharingPrivacy パラメータを指定して、既存の /connect/files/***fileId*** リソースに対して PATCH 要求を実行します。

新規および変更された Chatter REST API リクエストボディ

このリリースで新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

Chatter フィード

Extensions Capability Input
このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- itemsToRemove — フィード要素から削除する添付ファイル ID のリスト。

Pin Capability Input (ベータ)
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- entityId — 固定または固定解除するエンティティの ID。バージョン 41.0 では、entityId をフィード項目 ID にする必要があり、フィードあたり 1 つのフィード項目のみを固定できます。
- isPinned — エンティティを固定するか (true) 固定解除するか (false) を指定します。

Up Down Vote Capability Input
この新しいリクエストボディには、1 つのプロパティがあります。

- vote — フィード要素またはコメントの投票の値を指定します。値は次のとおりです。

  - Down
  - None
  - Up

Verified Capability Input
この新しいリクエストボディには、1 つのプロパティがあります。

- isVerified — コメントを検証済み (true) または未検証 (false) とマークするように指定します。

ファイル

File Input
このリクエストボディには、1 つの新規プロパティがあります。

- sharingPrivacy — ファイルの共有プライバシーを指定します。値は次のとおりです。
  - None — ファイルはレコードアクセス権のある全員に表示されます、
  - PrivateOnRecords — ファイルはレコードで非公開になります。

新規および変更された Chatter REST API レスポンスボディ

このリリースで新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

Chatter フィード

Candidate Answers Status
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- hasCandidateAnswers — 質問の回答候補があるかどうかを示します。
- hasCandidateAnswersPublished — 回答候補が公開されているかどうかを示します。
- hasCandidateAnswersPublished — 回答候補が評価されているかどうかを示します。

Chatter Stream
このレスポンスボディには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- community — ストリームのコミュニティ概要。

Comment Capabilities
このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- upDownVote — コメントにこの機能がある場合、ユーザはプラス投票またはマイナス投票できます。
- verified — コメントにこの機能がある場合、権限を持つユーザはコメントを検証済みまたは未検証とマークできます。

Community Summary
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- id — コミュニティの 18 文字の ID。
- name — コミュニティのローカライズされた名前。

Extension
このレスポンスボディには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- attachmentId — 拡張機能の添付 ID。

Extension Definition

このレスポンスボディには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- position — パブリッシャーで拡張機能が表示される位置。

このレスポンスボディには、次のプロパティが含まれなくなりました。

- isEnabledInCommunity
- isEnabledInLightningPublisher

Feed

このレスポンスボディには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- pinnedFeedElementsUrl (ベータ) — 固定表示フィード項目の URL。

Feed Element Capabilities

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- mediaReferences — フィード要素にこの機能がある場合、1 つ以上のメディア参照があります。
- pin (ベータ) — フィード要素にこの機能がある場合、権限を持つユーザはフィードにフィード要素を固定できます。
- upDownVote — フィード投稿またはコメントにこの機能がある場合、ユーザはプラス投票またはマイナス投票できます。

Feed Item

このレスポンスボディには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- hasVerifiedComment — フィード項目に検証済みコメントがある場合は true、それ以外の場合は false。

Media Reference

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- mediaUrl — メディアをストリーミングまたはダウンロードする URL。
- thumbnailUrl — メディアのサムネイルの URL (存在する場合)。

Media Reference Capability

この新しいレスポンスボディには、次の 1 つのプロパティがあります。

- media — メディア参照のコレクション。

Message Segment: Inline Image

このレスポンスボディには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- imageDetails — 画像の詳細。ファイルが画像でない場合は null。

Pin Capability (ベータ)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- isPinnableByMe — コンテキストユーザがフィードにエンティティを固定または固定解除できるか (true)、否か (false) を示します。
- isPinned — エンティティがフィードに固定されているか (true)、否か (false) を示します。

Pinned Feed Element Collection (ベータ)

この新しいレスポンスボディには、次の 1 つのプロパティがあります。

- elements — 固定表示フィード要素のコレクション。

Question and Answers Capability

このレスポンスボディには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- candidateAnswers — 質問の回答候補の状況。

Social Post Capability

このレスポンスボディには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- hiddenBy — ソーシャル投稿を非表示にしたユーザ。

Up Down Vote Capability

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- downVoteCount — マイナス投票の数。
- myVote — コンテキストユーザの投票を示します。値は次のとおりです。
  - Down
  - None
  - Up
- upVoteCount — プラス投票の数。

Verified Capability

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- isVerifiableByMe — コンテキストユーザがコメントを検証済みまたは未検証としてマークする権限を持っているか (true)、否か (false) を示します。
- isVerified — コメントが検証済みとマークされている場合は true、それ以外の場合は false。
- lastVerifiedByUser — コメントを検証済みまたは未検証として最後にマークしたユーザ。該当するユーザがいない場合は null。コンテキストユーザがコメントを検証済みまたは未検証としてマークする権限を持たない場合も null。
- lastVerifiedDate — コメントが検証済みまたは未検証として最後にマークされた日付。該当する日付がない場合は null。コンテキストユーザがコメントを検証済みまたは未検証としてマークする権限を持たない場合も null。

コミュニティ

コミュニティ

このレスポンスボディには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- siteAsContainerEnabled — コミュニティが Site.com ページを使用するか (true)、Visualforce タブを使用するか (false) を示します。

Field Service

Features

このレスポンスボディには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- liveAgentHostName — 組織で設定された Live Agent ホスト名。

User Settings

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `hasFieldServiceLocationTracking` — ユーザが Field Service Lightning GPS 追跡を有効にしていることを示します。
- `hasFieldServiceMobileAccess` — ユーザが Field Service Lightning モバイルアプリケーションへのアクセス権を持つことを示します。

ファイル

File Detail

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `createdDate` — ファイルが作成された ISO8601 日付文字列。
- `sharingPrivacy` — ファイルの共有プライバシーを指定します。値は次のとおりです。
  - `None` — ファイルはレコードアクセス権のある全員に表示されます、
  - `PrivateOnRecords` — ファイルはレコードで非公開になります。
- `systemModstamp` — ユーザまたは自動システムプロセス (トリガなど) がファイルを更新したタイミングを示す ISO8601 日付文字列。

File Summary

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `createdDate` — ファイルが作成された ISO8601 日付文字列。
- `sharingPrivacy` — ファイルの共有プライバシーを指定します。値は次のとおりです。
  - `None` — ファイルはレコードアクセス権のある全員に表示されます、
  - `PrivateOnRecords` — ファイルはレコードで非公開になります。
- `systemModstamp` — ユーザまたは自動システムプロセス (トリガなど) がファイルを更新したタイミングを示す ISO8601 日付文字列。

Folder

このレスポンスボディには、次の 1 つの新しいプロパティがあります。

- `systemModstamp` — ユーザまたは自動システムプロセス (トリガなど) がフォルダを更新した ISO8601 日付文字列。

レポートおよびダッシュボード REST API

レポートおよびダッシュボード REST API の強化には、フォルダ共有を記述する新しいリソース、新しいレポートおよびダッシュボードプロパティ、分析通知パラメータへの変更が含まれます。

新しいリソースとパラメータ: フォルダおよび分析通知

レポートおよびダッシュボード REST API には、フォルダ共有を記述し、`notifications` リソースのパラメータを変更する、新しいリソースの `/folders` が含まれます。

リソース URI	サポートされている HTTP メソッド	説明
/services/data/v41.0/folders/<フォルダ ID>	GET	レポートフォルダまたはダッシュボードフォルダを記述します。
/services/data/v41.0/folders/<フォルダ ID>/shares	GET POST PUT	レポートフォルダまたはダッシュボードフォルダに関する共有情報を返します (GET)。 レポートフォルダまたはダッシュボードフォルダを共有します (POST)。 レポートフォルダまたはダッシュボードフォルダを共有し、そのレポートまたはダッシュボードフォルダの他の共有を削除します (PUT)。
/services/data/v41.0/folders/<フォルダ ID>/shares/<共有 ID>	GET PATCH DELETE	共有する特定のインスタンスを記述します (GET)。 共有する特定のインスタンスへの変更を保存します (PATCH)。 特定のインスタンスのレポートフォルダまたはダッシュボードフォルダの共有を終了します (DELETE)。
/services/data/v41.0/folders/<フォルダ ID>/shareRecipients?shareType=<共有種別>	GET	レポートフォルダまたはダッシュボードフォルダを共有するユーザのリストを返します。shareType の有効値は次のとおりです。 • user • group
/services/data/v41.0/analytics/notifications?source=lightningSubscribe	GET POST	?source=lightningSubscribe パラメータは、すべてのバージョンの API で廃止されています。代わりに、?source=lightningReportSubscribe を使用してください。
/services/data/v41.0/analytics/notifications?source=lightningReportSubscribe	GET POST	最近の通知のリストを返します (GET)。 分析通知を作成します (POST)。

新規および変更されたメソッド: レポートインスタンス

空のリクエストボディを使用して、レポートインスタンスの POST 処理を行えるようになりました。これまではリクエストボディで reportMetadata を指定する必要がありました。

レポート

リソース URI	サポートされている HTTP メソッド	説明
/sites/40/alyst/ レポート ID>/instances	POST	空のリクエストボディを使用して、レポート実行を非同期で実施できるようになりました。これまではリクエストボディで `reportMetadata` を指定する必要がありました。

変更されたリソース: `Dashboard Describe` および `Dashboard Results`

レポートおよびダッシュボード REST API には、新しい Lightning テーブルコンポーネントを記述する新しいプロパティと、パーセントおよび短縮された数値(たとえば、1,876 が 1.9k になる)をコンポーネントが表示するかどうかを指定するプロパティが含まれます。

ダッシュボード

プロパティ	型	説明
`displayUnits`	文字列	数値の表示方法を指定します。値は次のとおりです。 • `whole` — 四捨五入せず実際の数値を表示します。 • `auto` —最も近い千、万などの値に四捨五入された、短縮された数値を表示します。たとえば、1,876 は 1.9k と表示されます。1.9k と表示されていても、集計では実際の数値 (1,876) が使用されます。 • `null` — 数値の表示方法のカスタマイズは適用できません。
`showPercentages`	ブール	パーセントを表示するか(`true`)、否か(`false`)を指定します。
`tableColumns`	`tableColumns[]`	`type` プロパティ `tableColumns` オブジェクトには、次の新しい有効値があります。 • `detail` — ソースレポートの列からの値。
`visualizationType`	`FlexTable[]`	`visualizationType` プロパティには、Lightning テーブルダッシュボードコンポーネントを記述する新しい型である、`FlexTable[]` があります。

分析通知

プロパティ	型	説明
source	文字列	source プロパティの lightningSubscribe 値は、すべてのバージョンの API で廃止されています。代わりに、lightningReportSubscribe を使用してください。

Bulk API 2.0 (正式リリース)

正式リリースされた新しい Bulk API 2.0 では、大量のデータを Salesforce 組織にすばやく読み込むための簡単なインターフェースが提供されます。

Bulk API 2.0 は、OAuth 認証や CORS サポートなどの機能が提供される、Force.com REST API と同じセキュアでパフォーマンスが高い REST フレームワークを使用します。また、Bulk API 2.0 では、データファイルをいくつかのバッチに自動的に分割することで、合理化されたデータ操作のインターフェースも使用できます。データをアップロードして操作を指定します。Salesforce がそのデータを一括処理する最も効率的な方法を判断します。

Bulk API 2.0 には、次の新機能があります。

更新された制限
Bulk API 2.0 データの制限は、24 時間あたり 1 億レコード、ジョブデータアップロード要求あたり 150 MB の base64 エンコードされたデータに引き上げられました。

CSV データの区切り文字オプション
Bulk API 2.0 では、バッククォート、キャレット、カンマ、パイプ、セミコロン、タブの 6 つの項目区切り文字がサポートされます。

CSV データの行末オプション
Bulk API 2.0 では、行データの改行と行頭復帰に加えて、行末の改行がサポートされます。

監視サポート
Salesforce の [一括データ読み込みジョブ] 設定ページで、Bulk API 2.0 のジョブを監視できます。

新しいエンドポイント
すべての Bulk API 2.0 リソースは、Bulk API 2.0 パイロットで使用されていた /bulk/jobs/ ルートの代わりに /services/data/vXX.X/jobs/ingest/ のエンドポイントルートを使用するようになりました。

新しい未処理レコードリソース
Bulk API 2.0 では、失敗したジョブで処理されなかったジョブデータを取得する unprocessedrecords リソースが提供されます。

Tooling API

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。有効な組織のほとんどの Tooling API オブジェクトに対して CRUD 操作を実行できるようになりました。より多くの Tooling API オブジェクトで項目レベルの更新がサポートされるようになりました。

『Force.com Tooling API Developer's Guide (Force.com Tooling API 開発者ガイド)』には、すべての Tooling API に関する情報が含まれています。

このセクションの内容:

Tooling API で有効な組織での CRUD 操作のサポート開始
他の種類の組織と同様に、有効な組織でほとんどの Tooling API オブジェクトに対する CRUD 操作が許可されるようになりました。ただし、パフォーマンス上の理由から、一部の Tooling API オブジェクトについては有効な組織での CRUD 操作を実行できません。
より多くの Tooling API オブジェクトでの個々の項目の更新
Tooling API を使用して、いくつかのメタデータ型の個々の項目を直接変更できます。オブジェクト階層内のすべての項目を更新する代わりに、個々の項目または項目のサブセットを直接 PATCH 要求できます。
Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト
Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。
Tooling API におけるコールおよびリソースの変更
Tooling API では、SOAP コールおよび REST リソースが変更されました。

Tooling API で有効な組織での CRUD 操作のサポート開始

他の種類の組織と同様に、有効な組織でほとんどの Tooling API オブジェクトに対する CRUD 操作が許可されるようになりました。ただし、パフォーマンス上の理由から、一部の Tooling API オブジェクトについては有効な組織での CRUD 操作を実行できません。

次の Tooling API オブジェクトに対して有効な組織で CRUD 操作を実行するとエラー「Save or update not supported in active organizations」(有効な組織での保存または更新はサポートされていません) が発生します。

- ApexClass
- ApexComponent
- ApexPage
- ApexTrigger
- CustomField
- CustomObject

より多くの Tooling API オブジェクトでの個々の項目の更新

Tooling API を使用して、いくつかのメタデータ型の個々の項目を直接変更できます。オブジェクト階層内のすべての項目を更新する代わりに、個々の項目または項目のサブセットを直接 PATCH 要求できます。

API バージョン 39.00 の Tooling API で、メタデータ設定種別の個々の項目を更新できるようになりました。API バージョン 41.0 の Tooling API では、項目レベルの更新のサポートが次のオブジェクトに拡張されました。

- EventDelivery
- EventSubscription
- KeywordList
- ModerationRule

項目レベルの更新をサポートする最上位のオブジェクトには、次のオプションがあります。

- オブジェクトの `Metadata` 項目を使用して、項目を更新できます。`Metadata` 項目は、オブジェクトのメタデータ API コントラクト全体を表します。

Metadata 項目は、最上位のパッケージ化できる型から始まるメタデータ型の階層内のすべての項目を更新するために最適です。

- オブジェクト階層内の項目のサブセットを更新するため、インターフェースが変更されました。このインターフェースで個々の項目を直接更新できます。

  項目レベルの更新は、項目のサブセットのみを更新する場合に適しています。

たとえば、次の両方のコードサンプルで、ModerationRule の Active 項目が true に更新されます。項目レベルの更新を使用するコードの方が短く、シンプルです。

例: 項目レベルの更新を使用した項目値の変更

要求:

```
GET host/query/?q=Select+DurableId,Active+from+ModerationRule
```

GET の実行が成功した場合のレスポンスボディ:

```
{
  "size": 1,
  "totalSize": 1,
  "done": true,
  "queryLocator": null,
  "entityTypeName": "ModerationRule",
  "records": [
    {
      "attributes": {
        "type": "ModerationRule",
        "url": "host/sobjects/ModerationRule/DurableId"
      },
      "DurableId": "DurableId",
      "Active": false
    }
  ]
}
```

レスポンスボディの URL を使用した Active 項目の値の PATCH 要求:

```
PATCH host/sobjects/ModerationRule/DurableId
Body:  { "Active": true }
```

204 No Content の HTTP 応答コードを受信したら、Active 項目が true に更新されたことを確認できます。項目値を確認するには、最初のクエリを繰り返すか、PATCH で使用された URL を GET 要求します。

例: Metadata 項目を使用した項目値の変更

メモ: Metadata 項目を更新するには FullName 項目の値も必要なため、クエリに FullName を含めます。

要求:

```
GET host/query/?q=Select+Metadata,Fullname+from+ModerationRule
```

応答 (200 OK):

```
{
  "size" : 1,
  "totalSize" : 1,
  "done" : true,
  "queryLocator" : null,
  "entityTypeName" : "ModerationRule",
  "records" : [ {
    "attributes" : {
      "type" : "ModerationRule",
      "url" : "host/sobjects/ModerationRule/DurableId"
    },
    "Metadata" : {

      "action" : {
       "ModerationRuleAction" : "Block”
      }
      "actionLimit" : "5”
      "active" : "false”
      "description" : "Community bad word list"
      "entitiesAndFields" : {
          "entityName" : "FeedItem"
          "fieldName" : "RawBody"
          "keywordList" : "community1.badword_list"
          }
      "masterLabel" : "Civil Language"
      "notifyLimit" : null
      "timePeriod" : "Medium"
      "type" :  "Content"
      "userCriteria" : "All"
     "userMessage" : "You can't use %BLOCKED_KEYWORD% or other inappropriate words...",

      "urls" : null
     }
     "FullName" : "TestRule"
   } ]
  }
```

要求 - records.attributes.url **での** PATCH:

```
PATCH host/sobjects/ModerationRule/DurableId
Body:
{
    "Metadata" : {
      "action" : "Block",
      "actionLimit" : "5",
      "active" : "true",
      "description" : "Community bad word list",
      "entitiesAndFields" : {
          "entityName" : "FeedItem",
          "fieldName" : "RawBody",
          "keywordList" : "community1.badword_list",
```

```
        }
    "masterLabel" : "Civil Language",
    "notifyLimit" : null,
    "timePeriod" : "Medium",
    "type" : "Content",
    "userCriteria" : "All",
   "userMessage" : "You can't use %BLOCKED_KEYWORD% or other inappropriate words...",

    "urls" : null
  },
  "FullName" : "TestRule"
}
```

Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。

新しいオブジェクト

EventDelivery
イベントインスタンスと対象ペイロードの対応付け方法を表します。

EventSubscription
イベント種別への登録を表します。

Index
カスタム Big Object 内に定義されたインデックスを表します。

IndexField
カスタム Big Object のインデックス内の項目を表します。

変更されたオブジェクト

BusinessHoursSettings
`Holidays` 項目は廃止されました。

CaseSettings
次の項目が追加されました。

`EmailServicesAddress`
Salesforce によって生成され、メール-to-ケース転送の設定で使用されるルーティングアドレスを指定します。

`EmailToCaseId`
組織のメール-to-ケース設定を参照する識別子。

`IsVerified`
顧客が (通常は確認メールをクリックして) ルーティングアドレスを確認したかどうかを示します。

`ShowEmailAttachmentsInCaseAttachmentsRl`
ケースの [添付ファイル] 関連リストにメールの添付ファイルを表示するかどうかを示します。

`WebToCaseId`
組織の Web-to-ケース設定を参照する識別子。

次の項目は廃止されました。

- IsNewEmailDefaultTemplateEnabled
- NewEmailDefaultTemplateClass

ChatterAnswersSettings

IsOptimizeQuestionFlowEnabled 項目は廃止されました。

ChatterMobileSettings

次の項目は廃止されました。

- AndroidAuthorized
- BlackberryAuthorized
- IpadAuthorized
- IphoneAuthorized
- IsChatterMobileEnabled
- SessionTimeout

EntityDefinition

次の項目が追加されました。

IsAutomatedActivityCaptureEnabled
Einstein 活動キャプチャに対してオブジェクトが有効になっているかどうかを示します。

FieldDefinition

次の項目が追加されました。

IsPolymorphicForeignKey
外部キーに複数のオブジェクト種別が含まれるかどうかを示します。

FileUploadAndDownloadSecuritySettings

FileDownloadBehavior 項目の表示ラベルが Behavior に変更されました。

ForecastingSettings

次の項目は廃止されました。

- AdjustmentsSettings
- AdjustmentsSettingsId
- DataSourceSettingsId
- ForecastRangeSettings
- ForecastRangeSettingsId
- ForecastingCategoryMappings
- OpportunityListFieldsLabelMappings
- OpportunityListFieldsSelectedSettings
- OpportunityListFieldsSelectedSettingsId
- QuotasSettings
- QuotasSettingsId

次の項目が追加されました。

IsAmount
売上予測種別が収益金額に基づいているかどうかを示します。isAmount の値は常に isQuantity の値の反対です。

IsAvailable
売上予測種別を現在組織で使用できるかどうかを示します。

IsQuantity
売上予測種別が商品数量に基づいているかどうかを示します。`isQuantity` の値は常に `isAmount` の値の反対です。

MasterLabel
売上予測種別の UI 表示ラベルを示します。

KnowledgeSettings
次の項目が追加されました。

AnswersId
Salesforce ナレッジおよびアンサーの設定管理に使用するメタデータを参照する識別子。

ArticlePublicSharingCommunities
Salesforce ナレッジおよびコミュニティの設定管理に使用するメタデータを表します。

ArticlePublicSharingSitesChatterAnswersId
Chatter アンサーで Salesforce ナレッジおよびサイトの設定管理に使用するメタデータを参照する識別子。

ArticlePublicSharingSitesId
Salesforce ナレッジおよびサイトの設定管理に使用するメタデータを参照する識別子。

CaseFieldsId
ケースの記事を推奨するために使用するケース項目のリストを参照する識別子。

CasesId
Salesforce ナレッジおよびケースの設定管理に使用するメタデータを参照する識別子。

LanguagesId
Salesforce ナレッジで有効化された言語のリストを参照する識別子。

SuggestedArticlesId
ケースの記事を推奨するために使用するケース項目の設定管理に使用するメタデータを参照する識別子。

WorkOrderFieldsId
作業指示の記事を推奨するために使用する作業指示項目のリストを参照する識別子。

WorkOrderLineItemFieldsId
作業指示品目の記事を推奨するために使用する作業指示品目項目のリストを参照する識別子。

MobileSettings
次の項目が追加されました。

SalesforceMobileId
Salesforce Classic Mobile が稼働するデバイスの設定を参照する識別子。

PasswordPolicies
`MinPasswordLength` 項目の表示ラベルが `MinimumPasswordLength` に変更されました。

PathAssistantSettings
`PathAssistantForOpportunityEnabled` 項目の表示ラベルが `PathAssistantEnabled` に変更されました。

QuickActionDefinition
次の項目が変更されました。

`Type`
`Flow` が新しい有効値です (ベータ)。

TransactionSecurityPolicy
次の項目が追加されました。

`Description`
ポリシーに入力された説明。

`FullName`
メタデータ API の関連オブジェクトの完全名。

`Metadata`
ポリシーのメタデータ。

Tooling API におけるコールおよびリソースの変更

Tooling API では、SOAP コールおよび REST リソースが変更されました。

変更された SOAP コール

`runTests()`
`runTests()` コールに渡す RunTestsRequest オブジェクトには、API バージョン 41.0 以降の `runTests()` コールで必要な `tests` プロパティが含まれるようになりました。このプロパティは TestsNode 型の配列です。

`runTestsAsynchronous()`
`tests` パラメータは、API バージョン 41.0 以降で使用可能な必須のパラメータです。このプロパティは TestsNode 型の配列です。

変更された REST リソース

`/runTestsAsynchronous/`
`/runTestsAsynchronous/` REST リソースは、Apex テストクラスの名前 (名前空間が含まれる名前など) を受け入れます。以前は、このリソースはクラス ID のみを受け入れていました。この変更は、すべての API バージョンに適用されます。

`/runTestsSynchronous/`
`/runTestsSynchronous/` REST リソースは、Apex テストクラスの名前 (名前空間が含まれる名前など)を受け入れます。以前は、このリソースはクラスIDのみを受け入れていました。この変更は、すべてのAPIバージョンに適用されます。

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

新しいメタデータ型

CaseSubjectParticle
受信ソーシャル投稿から作成されたケースの [ケース 件名] 項目のソーシャルビジネスルールカスタム形式を表します。

EventDelivery
イベントインスタンスと対象ペイロードの対応付け方法を表します。

EventSubscription
イベント種別への登録を表します。

Index
カスタム Big Object 内に定義されたインデックスを表します。カスタム Big Object の複合主キー (インデックス) を定義するには、このメタデータ型を使用します。

NetworkBranding
コミュニティに適用されるブランド設定と配色を表します。Network コンポーネントの Branding 下位型の代わりに使用されます。

SocialCustomerServiceSettings
ケースへの受信ソーシャル投稿を書式設定するために保存されたソーシャルビジネスルールオプションを表します。

TopicsForObjects
トピックをオブジェクトに割り当てる機能、またはトピックの割り当てを削除する機能を表します。

更新されたメタデータ型とメタデータ項目

次のメタデータ型が変更され、メタデータ項目も追加または変更されました。

ActivitiesSettings
次の項目は削除されました。

`showRequestedMeetingsOnHomePage`
[ホーム] タブの Salesforce Classic カレンダーで使用されていました。Winter '18 で廃止されたクラウドスケジューラの [要請済みミーティング] サブタブを表示し、ユーザが要請済みで未確認のミーティングを表示していました。この機能は削除されたため、[ホーム] タブのカレンダーに [新規ミーティング要請] ボタンは表示されなくなりました。この項目はシステム管理者が [活動設定] ページで制御していました。

CommunityTemplateDefinition
次の項目が追加されました。

`baseTemplate`
CommunityTemplateDefinition が API バージョン 41.0 以降で作成されたことを示します。

CustomApplication
次の項目が追加されました。

`subscriberTabs`
管理パッケージからインストールされた Lightning アプリケーションに登録者が追加したタブのリスト。

次の項目が変更されています。

workspaceMapping
コンソールアプリケーションで特定のタブのレコードをどのように開くかを表します。この項目はすでに Salesforce Classic コンソールアプリケーションでサポートされていました。API バージョン 41.0 以降、Lightning コンソールアプリケーションでも使用できます。

CustomObject
次の項目が追加されました。

eventType
この項目はプラットフォームイベントにのみ適用されます。イベントが標準イベントか大規模イベントかを示します。大規模イベントは、パイロットの一部として使用できます。

CustomObjectTranslation
次の項目が追加されました。

fieldSets
項目セットの翻訳のリスト。

fieldSetTranslation
項目セットの翻訳の詳細が含まれます。

CustomSite
次の項目が追加されました。

browserXssProtection
クロスサイトスクリプティング攻撃に対する保護を有効にするかどうかを決定します。反射型クロスサイトスクリプティング攻撃が検出されると、コンテンツのない空白のページがブラウザに表示されます。

contentSniffingProtection
ブラウザでドキュメントコンテンツから MIME タイプが推定されないかどうかを決定します。有効な場合、ブラウザで悪意のあるファイルが動的コンテンツ (JavaScript、スタイルシート) として実行されないようにします。

cspUpgradeInsecureRequests
HTTP 要求 (サードパーティドメインを含む) が HTTPS にアップグレードされるかどうかを決定します。

referrerPolicyOriginWhenCrossOrigin
サードパーティのサイトに移動したときに、参照元ヘッダーで機密情報を非表示にするかどうかを決定します。

FlexiPage
ComponentInstance サブタイプに次の項目が追加されました。

visibilityRule
コンポーネントをページ上に表示する条件を定義する 1 つ以上の検索条件のセット。

ForecastingSettings
次の項目が追加されました。

hasProductFamily
売上予測種別で商品ファミリ売上予測が有効かどうかを示します。

opportunitySplitName
売上予測種別に分割種別があるかどうか、ある場合はその分割種別名を示します。

territory2ModelName
売上予測種別に Territory2 モデルがあるかどうか、ある場合はその Territory2 モデル名を示します。

NamedCredential
次の項目が追加されました。

allowMergeFieldsInBody
コールアウトが行われたときに HTTP リクエストボディに組織データを入力する差し込み項目を Apex コードで使用できるかどうかを指定します。

allowMergeFieldsInHeader
コールアウトが行われたときに HTTP ヘッダーに組織データを入力する差し込み項目を Apex コードで使用できるかどうかを指定します。

generateAuthorizationHeader
Salesforce で認証ヘッダーが生成され、指定ログイン情報を参照する各コールアウトに適用されるかどうかを指定します。

Network
次の項目が追加されました。

communityRoles
ユーザのコミュニティでのロールがカスタマー、パートナー、従業員のいずれであるかを特定します。

disableReputationRecordConversations
コミュニティで評価レベルが有効な場合、評価レベルに対してポイントをカウントするときにレコードへの貢献を除外するかどうかを決定します。

emailFooterLogo
コミュニティメールのフッターに表示されるロゴのドキュメント名。

emailFooterText
コミュニティメールのフッターに表示されるテキスト。

enableCustomVFErrorPageOverrides
デフォルトの Visualforce エラーページの代わりにカスタム Visualforce エラーページを使用するかどうかを決定します。

enableDirectMessages
コミュニティユーザがダイレクトメッセージを送信して、1 人以上のメンバーと非公開の会話を開始できるかどうかを決定します。

enableGuestFileAccess
ゲストユーザが公開ページおよびログインページでコミュニティと共有されているアセットファイルを表示できるかどうかを決定します。コミュニティビルダーのページまたはコミュニティレベルで公開アクセスが有効になっている場合、このプロパティは自動的に有効になります。

enableShowAllNetworkSettings
コミュニティの設定方法に基づいてデフォルトで非表示になっている設定を表示します。

enableTalkingAboutStats
コミュニティユーザに、トピックについてディスカッションしているユーザの数が表示されるかどうかを決定します。ユーザがトピックの入力を開始すると、トピックについてディスカッションしているユーザの数が表示され、システムからはトピックの提案が表示されます。

enableTopicSuggestions
ユーザが投稿を記述するときのトピックの提案を有効にします。

enableUpDownVote
質問と回答の「いいね!」をプラス投票とマイナス投票のオプションで置き換えます。

loginLogoStaticImageUrl
コミュニティログインページに表示されるロゴへの URL。

loginQuaternaryColor
コミュニティログインページの背景色。

loginRightFrameUrl
コミュニティログインページの右フレームへのパス。

recommendationAudience
新しいコミュニティメンバーによる利用者を作成します。または、カスタマイズした利用者メンバーのリストを管理しておすすめを整理または対象にするために使用できます。

recommendationDefinition
コミュニティのエンゲージメントを促進するカスタムおすすめを表します。特定の利用者を対象にしたり、チャネルを使用しておすすめの場所を指定したりします。

selfRegProfilePageOverrideSetting
必須。[セルフ登録] ページの設定が適用されるページ種別を指定します。

次の項目が廃止されました。

branding
NetworkBranding 型が Branding 下位型の代わりに使用されます。

QuickAction
次の項目が追加されました (ベータ)。

flowDefinition
カスタムアクションがフローを呼び出す場合、この項目は、そのフローの一意名を表します。

`Flow` が `type` 項目の有効値になりました (ベータ)。

SecuritySettings
次の項目が追加されました。

hstsOnForcecomSites
Visualforce、Force.com サイト、またはコミュニティで HTTPS を使用するかどうかを示します。

SharedTo
次の項目が追加されました。

channelProgramGroup
共有アクセス権を持つ、システムで管理されるグループ。グループには対応するチャネルプログラムまたはレベルのすべてのパートナーメンバーが含まれます。

channelProgramGroups
共有アクセス権を持つ、システムで管理されるグループのリスト。グループには対応するチャネルプログラムまたはレベルのすべてのパートナーメンバーが含まれます。

Translations
次の項目が追加されました。

`flowDefinitions`
フローの翻訳のリスト。翻訳でサポートされるのは、Flow または AutolaunchedFlow 型のみです。

Workflow
API バージョン 41.0 以降、ワイルドカードを使用して Workflow メタデータ型を取得すると、ワークフロールールまたはアクションのないエンティティについては、ファイルが返されません。以前のリリースでは、例のようにワイルドカード (*) を使用すると、組織内の標準またはカスタムエンティティごとに 1 つのファイルが返されていました。エンティティにワークフロールールまたはアクションがなくても、1つのファイルが返されていました。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<Package xmlns="http://soap.sforce.com/2006/04/metadata">
    <types>
        <members>*</members>
        <name>Workflow</name>
    </types>
    <version>41.0</version>
</Package>
```

データサービス: カスタム Big Object および非同期 SOQL を使用した数百万件のレコードの操作

正式リリースされたカスタム Big Object および非同期 SOQL を使用して、数百万件のレコードを保存、管理、およびクエリできます。

このセクションの内容:

カスタム Big Object を使用した数百万件 (または数十億件!) のレコードの操作 (正式リリース)
カスタム Big Object を使用して、Salesforce プラットフォームで大量のデータを保存および管理できます。カスタム Big Object では、百万件から十億件以上までのレコードを操作するときのパフォーマンスが一貫しています。

非同期 SOQL を使用した数百万件のレコードのクエリ (正式リリース)
非同期 SOQL は、Salesforce エンティティデータについて SOQL クエリをバックグラウンドで実行するための方法です。非同期SOQL APIを使用して、Big Object、標準オブジェクト、およびカスタムオブジェクトに対してクエリを実行します。Salesforce Big Object に保存された大量のデータを処理するために最適な方法が提供されます。

カスタム Big Object を使用した数百万件 (または数十億件!) のレコードの操作 (正式リリース)

カスタムBig Objectを使用して、Salesforceプラットフォームで大量のデータを保存および管理できます。カスタムBig Objectでは、百万件から十億件以上までのレコードを操作するときのパフォーマンスが一貫しています。

カスタム Big Object は使用中の Salesforce データと簡単に統合できます。Big Object は、SOQL、Bulk、Chatter REST、SOAP API や、膨大なデータを非同期で処理する強力なツールである非同期 SOQL で処理できます。

次の 2 種類の Big Object があります。

- **標準Big Object**—Salesforceによって定義され、Salesforce製品に含まれるオブジェクト。`FieldHistoryArchive` は、項目監査履歴製品の一部としてデータを格納する標準 Big Object です。

- **カスタム Big Object** — 組織に固有の情報を格納するために作成する新しいオブジェクト。カスタム Big Object は、Force.com が提供する機能を拡張します。たとえば、商品在庫を追跡するアプリケーションを作成している場合、分析と将来の最適化のために履歴在庫数を追跡する `HistoricalInventoryLevels` というカスタム Big Object を作成します。

カスタム Big Object は、次の使用事例に最適です。

- **顧客の 360 度ビュー** — ロイヤルティプログラム、E コマーストランザクション、請求、プロビジョニング情報などの詳細情報を含めるように、Salesforce データモデルを拡張します。
- **監査と追跡** — 分析またはコンプライアンス目的で、ユーザの Salesforce 利用状況または顧客の商品利用状況を長期的に追跡して管理します。
- **履歴アーカイブ** — 分析またはコンプライアンス目的で、履歴データへのアクセスを管理しながら、中核的な CRM または Force.com アプリケーションのパフォーマンスを最適化します。

組織でのカスタム Big Object の使用についての詳細は、『Big Object Implementation Guide (Big Object 実装ガイド)』を参照してください。

非同期 SOQL を使用した数百万件のレコードのクエリ (正式リリース)

非同期 SOQL は、Salesforce エンティティデータについて SOQL クエリをバックグラウンドで実行するための方法です。非同期 SOQL API を使用して、Big Object、標準オブジェクト、およびカスタムオブジェクトに対してクエリを実行します。Salesforce Big Object に保存された大量のデータを処理するために最適な方法が提供されます。

カスタム Big Object の導入により、膨大なレコードをプラットフォームに保持することができます。この新しい規模で作業しやすくするため、Salesforce は大量のデータに対するクエリを処理する非同期 SOQL を開発しました。

メモ: 非同期 SOQL は、追加の Big Object 容量のライセンスにのみ含まれています。

非同期 SOQL は RESTful API の形式で実装され、慣れ親しんだ SOQL 言語の構文でクエリを実行できます。

各クエリはバックグラウンドで実行され、デフォルトで、指定した任意の時間に 1 つのクエリを実行できます。結果は、指定した sObject または Big Object に書き込まれます。そのため、タイムアウト制限が適用されない複雑なクエリをサブセット化、結合、および作成できます。非同期 SOQL は、数百万や数十億件のレコードがあり、同期 SOQL よりも拡張可能でパフォーマンスの高い処理が必要な場合に最適です。

詳細は、『Async SOQL Guide (非同期 SOQL ガイド)』を参照してください。

エンタープライズメッセージング

イベントを使用すると、ビジネスシステム間の通信が簡略化されます。変更データキャプチャ (パイロット) を使用して、Salesforce でのレコードの変更のリアルタイム通知を受信します。大規模プラットフォームイベント (パイロット) を使用して、数百万件のカスタムイベントを配信および受信します。

このセクションの内容:

変更データキャプチャを使用した外部データの最新の状態の維持 (パイロット)
Salesforce レコードのほぼリアルタイムの変更を取得し、外部データストアの対応するレコードを同期します。変更データキャプチャは、Salesforce レコードの変更を表すデータ変更イベントを公開します。変更には、新規レコードの作成、既存のレコードの更新、レコードの削除、レコードの復元が含まれます。

大規模プラットフォームイベントによる 1 日あたり数百万件のイベントの配信 (パイロット)

前回のリリースで、Salesforce 内および外部ソースから配信するカスタマイズ可能な安全で拡張性の高いイベント、プラットフォームイベントが導入されました。今回のリリースでは、パイロットとして大規模プラットフォームイベントを公開および登録できます。新しい大規模プラットフォームイベントを使用して、1 日あたり数百万件のイベントを配信できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

変更データキャプチャを使用した外部データの最新の状態の維持 (パイロット)

Salesforce レコードのほぼリアルタイムの変更を取得し、外部データストアの対応するレコードを同期します。変更データキャプチャは、Salesforce レコードの変更を表すデータ変更イベントを公開します。変更には、新規レコードの作成、既存のレコードの更新、レコードの削除、レコードの復元が含まれます。

エディション

使用可能なエディション: **Performance** Edition、**Unlimited** Edition、**Enterprise** Edition、および **Developer** Edition

メモ: 変更データキャプチャは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。変更データキャプチャは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。変更データキャプチャに関するフィードバックと提案は、Trailblazer コミュニティグループからお寄せください。

たとえば、Salesforce の従業員カスタムオブジェクトレコードのコピーを使用した人事 (HR) システムがあるとします。Salesforce からデータ変更イベントを受信することで、HR システムの従業員レコードを同期できます。イベントを受信したら、HR システムの対応する挿入、更新、削除、または復元操作を処理できます。変更はほぼリアルタイムで受信されるため、HR システムのデータは常に最新の状態になります。

データ変更イベントは、Salesforce 組織で定義されたすべてのカスタムオブジェクトで使用できます。カスタムオブジェクトのイベントは、そのオブジェクトで有効にするまで公開されません。データ変更イベントは、標準オブジェクトのサブセットで使用でき、自動的に有効になります。データ変更イベントは、Salesforce で変更が発生したときにチャネル (イベントバス) で公開されます。

カスタムオブジェクトの他、次の標準オブジェクトがデータ変更イベントをサポートしています。

- Account
- Asset
- Campaign
- Case
- Contact
- ContractLineItem
- Entitlement
- Lead
- LiveChatTranscript
- Opportunity

- Order
- OrderItem
- Product2
- Quote
- QuoteLineItem
- ServiceContract

イベントの登録

データ変更イベントに登録するには、PushTopicイベントやプラットフォームイベントなどの他のストリーミングイベントに登録する場合と同じように、CometDを使用します。

登録チャネル

すべてのデータ変更イベントに登録するには、次のチャネルを使用します。

```
/data/ChangeEvents
```

標準オブジェクトのデータ変更イベントに登録するには、次のチャネルを使用します。

```
/data/<Standard_Object_Name>ChangeEvent
```

たとえば、取引先レコードのデータ変更イベントに登録するには、次のチャネルを使用します。

```
/data/AccountChangeEvent
```

カスタムオブジェクトのデータ変更イベントに登録するには、次のチャネルを使用します。

```
/data/<Custom_Object_Name>__ChangeEvent
```

たとえば、Employee__cカスタムオブジェクトレコードのデータ変更イベントに登録するには、次のチャネルを使用します。

```
/data/Employee__ChangeEvent
```

例: 次のデータ変更イベントは、取引先が作成されるときに送信されます。

```
{
  "data": {
    "schema": "IeRuaY6cbI_HsV8Rv1Mc5g",
    "payload": {
      "ChangeEventHeader": {
        "entityName": "Account",
        "recordIds": [
          "001R0000002aV0B"
        ],
        "changeType": "CREATE",
        "changeOrigin": "com.salesforce.core",
        "transactionKey": "001b7375-0086-250e-e6ca-b99bc3a8b69f",
        "sequenceNumber": 1,
        "isTransactionEnd": true,
        "commitTimestamp": 1501010206653,
        "commitNumber": 92847272780,
        "commitUser": "<User_ID>"
      },
```

```
      "Name": "Acme",
      "Description": "Everyone is talking about the cloud. But what does it mean?",
      "OwnerId": "<Owner_ID>",
      "CreatedDate": "2017-07-25T19:16:44Z",
      "CreatedById": "<User_ID>",
      "LastModifiedDate": "2017-07-25T19:16:44Z",
      "LastModifiedById": "<User_ID>"
    },
    "event": {
      "replayId": 6
    }
  },
  "channel": "/data/ChangeEvents"
}
```

大規模プラットフォームイベントによる 1 日あたり数百万件のイベントの配信 (パイロット)

前回のリリースで、Salesforce 内および外部ソースから配信するカスタマイズ可能な安全で拡張性の高いイベント、プラットフォームイベントが導入されました。今回のリリースでは、パイロットとして大規模プラットフォームイベントを公開および登録できます。新しい大規模プラットフォームイベントを使用して、1 日あたり数百万件のイベントを配信できます。この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic の両方に適用されます。

エディション

使用可能なエディション: **Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Enterprise** Edition

メモ: 大規模プラットフォームイベントは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。大規模プラットフォームイベントは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて購入をご決定ください。大規模プラットフォームイベントに関するフィードバックと提案は、Trailblazer コミュニティグループからお寄せください。

システムは基盤となるさまざまなデータストアを使用して、大規模イベントを標準イベントよりも効率的に処理します。プラットフォームイベントの定義を作成するときに、イベントの種別で「大量」を指定します。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「プラットフォームイベント」と入力し、[プラットフォームイベント] を選択します。
2. [プラットフォームイベント] ページで、[新規プラットフォームイベント] をクリックします。
3. 標準項目に入力します。
4. [イベントの種別] で、[大量] を選択します。
5. [保存] をクリックします。

大規模プラットフォームイベントは、標準プラットフォームイベントを公開および登録する場合と同じ方法で公開および登録できます。詳細は、『Platform Events Developer Guide (プラットフォームイベント開発者ガイド)』

の「Publishing Platform Events (プラットフォームイベントの公開)」および「Subscribing to Platform Events (プラットフォームイベントへの登録)」を参照してください。

関連トピック:

メタデータ API 開発者ガイド: CustomObject の `eventType` 項目

Lightning コンソール JavaScript API によるコンソールアプリケーションのカスタマイズ (正式リリース)

エディション

使用可能なエディション: **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

Lightning コンソール JavaScript API では、Lightning コンソールアプリケーションとユーティリティバーをプログラムでカスタマイズできるメソッドが新規追加および更新されました。これらの変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

この API により、Salesforce Classic でのみ使用可能なコンソールインテグレーションツールキットと同じ機能が Lightning Experience で使用できるようになります。Lightning コンソール JavaScript API は、Lightning コンソールアプリケーションとユーティリティバーで使用される Lightning コンポーネントに統合されます。

重要: 正式リリースされた Lightning コンソール JavaScript API は、パイロットバージョンとは大きく異なります。API 構文が変更されています。メソッドでは、コールバックではなく promise を使用して応答を返すようになりました。また、ユーティリティバー API のメソッドは、ワークスペース API のメソッドと同様に、JSON 配列の引数を取ります。

API に関連付けられた Lightning コンポーネントも変更されています。ワークスペース API またはユーティリティバー API を使用するには、それぞれ `<lightning:workspaceAPI />` と `<lightning:utilityBarAPI />` を Lightning コンポーネントに追加します。

`lightning:tabClosed` や `lightning:tabFocused` などのコンソールタブイベントには、`lightning` 名前空間が使用されるようになりました。

API にはいくつかの新しいメソッドとイベントがあり、一部のメソッドは異なる引数を取ります。メソッドの引数については、*『Salesforce コンソール開発者ガイド』*を参照してください。

たとえば、次の Lightning コンポーネントのコンポーネントとコントローラは、ワークスペース API の `openTab()` メソッドを使用します。このコンポーネントにはボタンがあり、押すと、指定されたレコードが表示される新しいワークスペースタブが開きます。次に、メソッドから返された `tabId` を使用して新しいタブにフォーカスが置かれます。

コンポーネントコード

```
<aura:component implements="flexipage:availableForAllPageTypes" access="global" >
    <lightning:workspaceAPI aura:id="workspace" />
    <lightning:button label="Open Tab" onclick="{! c.openTab }" />
 </aura:component>
```

コントローラコード

```
({
    openTab : function(component, event, helper) {
        var workspaceAPI = component.find("workspace");
        workspace.openTab({
            url: '#/sObject/001R0000003HgssIAC/view',
            focus: true
        }).then(function(newTabId) {
            workspaceAPI.focusTab({
                tabId: newTabId
            });
        });
    }
})
```

API バージョン 41.0 では、次のメソッドが新規追加されました。

ワークスペース API

getEnclosingTabInfo()
フォーカスのあるワークスペースタブまたはサブタブに関する情報を返します。

isConsoleNavigation()
現在のアプリケーションがコンソールナビゲーションを使用するかどうかを決定します。

setTabHighlighted()
指定されたタブを異なる背景色とバッジで強調表示します。

ユーティリティバー API

getEnclosingUtilityId()
囲むユーティリティの ID を返します。ユーティリティ内ではない場合は `false` を返します。

toggleModalMode()
ユーティリティのモーダルモードを切り替えます。モーダルモードの場合、ユーティリティパネルの表示中、オーバーレイによってユーザはコンソールを使用できなくなります。

force:hasRecordId
このインターフェースは、ユーティリティバーに追加された Lightning コンポーネントでの使用がサポートされるようになりました。

オムニチャネル API (ベータ)

メモ: 今回のリリースには、Lightning コンソール JavaScript API のオムニチャネルメソッドのベータバージョンが含まれています。機能の品質は高いですが、既知の制限があります。このメソッドは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。現在正式にリリースされている製品および機能のみに基づいて購入をご決定ください。

acceptAgentWork()
エージェントに割り当てられた作業項目を受け入れます。

closeAgentWork()
作業項目の状況を「完了」に変更し、オムニチャネルユーティリティの作業項目リストから削除します。

`declineAgentWork()`
エージェントに割り当てられた作業項目を却下します。

`getAgentWorks()`
現在エージェントに割り当てられ、エージェントのワークスペースで開いている作業項目のリストを返します。

`getAgentWorkload()`
エージェントに現在割り当てられているワークロードを取得します。このメソッドは、対応可能なエージェントに作業を再転送するために使用します。

`getServicePresenceStatusChannels()`
オムニチャネルユーザの現在のプレゼンス状況に関連付けられたサービスチャネルを取得します。

`getServicePresenceStatusId()`
エージェントの現在のプレゼンス状況を取得します。

`login()`
エージェントが特定のプレゼンス状況でオムニチャネルにログインします。

`logout()`
エージェントがオムニチャネルからログアウトします。

`setServicePresenceStatus()`
エージェントのプレゼンス状況を特定の ID を持つ状況に設定します。まだログインしていないユーザはプレゼンスにログインされます。したがって、さらにコールする必要はありません。

関連トピック:

Salesforce コンソール開発者ガイド: Lightning Experience のメソッド (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Open CTI API

`notifyInitializationComplete()` メソッドを Lightning Experience で使用できるようになりました。このメソッドは、Salesforce に、ソフトフォンの初期化が完了したことと、Salesforce がスタンバイ URL に切り替えないようにすることを通知します。ソフトフォンの初期化中は、ソフトフォン領域に読み込み中アイコンが表示されます。`notifyInitializationComplete()` メソッドの機能は、Salesforce Classic の場合と異なります。この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。

- Lightning Experience では、このメソッドは省略可能なコールバックオブジェクトを取ります。Salesforce Classic では、このメソッドは引数を取りません。
- Lightning Experience では、スタンバイ URL に移動した後、ブラウザセッションでそのスタンバイ URL の使用が継続されます。スタンバイ URL チェックを強制的に行うには、ブラウザを閉じる必要があります。Salesforce Classic では、スタンバイ URL チェックは、Salesforce へのログイン後にのみ実行され、同じ Salesforce セッションを使用し続ける場合は、チェックは繰り返されません。

関連トピック:

Open CTI 開発者ガイド

その他の API の変更

統合検索で結果の RSS 形式がサポートされるようになりました。レコードタイプの SOQL クエリに新しい制限があります。

統合検索で結果の RSS 形式をサポート

統合検索では、Salesforce 統合検索コネクタが外部検索プロバイダに接続されるため、Salesforce 内で外部リポジトリのデータを検索して返すことができます。外部検索プロバイダは Salesforce と提携して、『Salesforce Federated Search Developer Guide (Salesforce 統合検索開発者ガイド)』に含まれる API に準拠した検索サービスを提供します。

外部検索プロバイダは、RSS 仕様で定義されているように、Atom と RSS の両方の形式で結果を返すようになりました。

実行するユーザに関係なく RecordType の SOQL クエリはレコードの完全なリストを返さなくなりました

レコードタイプの SOQL クエリに制限が追加されました。ユーザにレコードタイプが属するオブジェクトに対する「参照」アクセス権がなければ、クエリの結果にそのレコードタイプは返されません。

重要な更新

HYPERLINK 関数での JavaScript の実行をブロックする重要な更新が適用されます。レコードがバックグラウンドで申請されたときにレコードを適切な承認プロセスに転送する重要な更新は遅延されました。

新しいリリースに円滑に移行できるように、それぞれの重要な更新には選択期間が用意されています。この選択期間は、[設定] の [重要な更新] ページに表示される自動有効化日付になると終了します。この期間中は、更新の有効化および無効化を必要に応じて手動で何度でも行って組織への影響を評価し、更新によって影響を受けるカスタマイズを修正することができます。選択期間を過ぎると、更新は有効になります。詳細は、「重要な更新への対応」を参照してください。

既存の重要な更新

以前のリリースで発表された次の重要な更新を依然として利用できます。

厳格な CSP 制限の重要な更新

コンテンツセキュリティポリシー (CSP) の厳格化の制限が LockerService から切り離されました。この制限は、Winter '18 の本番組織では適用されません。代わりに、Sandbox および Developer Edition のみに影響する 2 つの重要な更新で、CSP の厳格化に関する変更を利用できます。CSP の厳格化に対応するコードの更新により多くの時間を費やすことができます。

適用済みの重要な更新

「HYPERLINK 関数での JavaScript の実行をブロック」の適用 (重要な更新)

HYPERLINK 関数での JavaScript の実行のブロックは Summer '17 の重要な更新でしたが、2017 年 10 月 30 日にすべての組織で自動的に有効化されます。この変更は複数のリリースで段階的に行われました。これは、HYPERLINK 関数の URL 引数で JavaScript を使用するときに発生するセキュリティの脆弱性に対応します。JavaScript はクロスサイトスクリプティングを含むことができ、ユーザに代わって URL を実行できます。

「Visualforce ページに対する GET 要求の CSRF 保護を許可」の適用 (重要な更新)

「Visualforce ページに対する GET 要求の CSRF 保護を許可」は Spring '17 の重要な更新でしたが、2017 年 10 月 15 日にすべての組織に適用されます。この重要な更新により、Visualforce ページが GET 要求で確実に CSRF トークンを受け取るオプションを使用できるようになります。

延期された重要な更新

「バックグラウンドで行われたレコードの承認申請の適切な承認プロセスへの転送」(重要な更新) の延期

この重要な更新は、Summer '16 でリリースされ、Spring '18 で自動的に有効化される予定でしたが、Winter '19 に延期されました。

ヘルプ & トレーニング

Trailhead モジュールと手順の動画が追加されました。また、信頼とコンプライアンスに関するドキュメントも更新されました。

このセクションの内容:

動画を見る (英語のみ)

ユーザが Salesforce の新機能や改善された機能について学べるように、説明用の動画を作成および更新しています。

Trailhead で機能を探索

Salesforce の操作に慣れ、新機能について把握するのに最適な方法があります。それは、Salesforce をガイド付きで楽しく習得できるインタラクティブツール、Trailhead です。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

信頼とコンプライアンスに関するドキュメントの見直し

Salesforce の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントに季節的な更新が行われました。

動画を見る (英語のみ)

ユーザが Salesforce の新機能や改善された機能について学べるように、説明用の動画を作成および更新しています。

- 新しい動画「Dynamically Filter Reports Using URL Parameters (URL パラメータを使用したレポートの動的な絞り込み)」では、設定した条件に基づいて検索条件値をインテリジェントに自動設定する検索条件を、レポートに追加する方法について説明します。
- 新しい動画「Trend in Analytics (Analytics でのトレンド分析)」では、Einstein Analytics でレポートデータを経時的に追跡する方法を説明します。
- 新しい動画「Forecast Accurately with Collaborative Forecasts in Lightning Experience (Lightning Experience のコラボレーション売上予測による正確な売上予測)」では、コラボレーション売上予測を最大限活用する方法を示します。この動画では、さまざまな売上予測種別、日付範囲、通貨、積み上げ集計方法、調整、目標の表示など、実際の操作方法を確認できます。

- 新しい動画「Get Ready to Transition to Service Cloud in Lightning Experience (Lightning Experience 内の Service Cloud への移行準備)」は Salesforce Classic からの移行準備に役立ちます。この動画では、Lightning Experience のロールアウトの一般的な概念を説明し、サービスコンソールおよびサービス機能を Lightning Experience に移行する場合に関しても情報を提供します。
- 動画「Create a Custom Baseline for Security Health Check (セキュリティヘルスチェックのカスタムベースラインの作成) (Lightning Experience)」は更新され、デフォルトベースラインの選択と、ベースライン名および API 参照名の編集が追加されています。
- 動画「Introduction to Analytics Explorer (Analytics Explorer の概要)」は更新され、Winter '18 リリースでのエクスプローラへの変更についても説明されています。
- 動画「Search in Salesforce Lightning Experience (Salesforce Lightning Experience での検索)」は更新され、検索結果ページの変更の並び替えや、検索を絞り込むオプションについても説明されています。
- 特筆するべきは、動画がプレイリストに整理され、動画を簡単に見つけて、効率的に学習できるようになったことです。プレイリストに直感的に整理されているため、特定の分野の動画を検索し、1つのリストからすべてを見ることができます。たとえば「How Tos for Salesforce Health Cloud (Salesforce Health Cloud 入門)」プレイリストには、Health Cloud に関する動画がまとめられています。Salesforce ヘルプの「Handy Videos to Learn More About Salesforce (Salesforce の学習に役立つ動画)」をご覧ください!

Trailhead で機能を探索

Salesforce の操作に慣れ、新機能について把握するのに最適な方法があります。それは、Salesforce をガイド付きで楽しく習得できるインタラクティブツール、Trailhead です。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

https://trailhead.salesforce.com で Trailhead を確認し、適切なトレイルを見つけてください。最新のモジュールは次のとおりです。

新しいモジュール

Community Search の基本
コミュニティメンバーが必要な情報を見つけられるように、検索機能を設定します。

App Upgrading for AppExchange (AppExchange 向けのアプリケーションのアップグレード)
製品やサービスを更新して、顧客と共有します。

AppExchange Product Licensing and Customer Support (AppExchange 製品のライセンス付与およびカスタマーサポート)
アプリケーションのライセンスを管理して、優れたカスタマーサービスを提供します。

選択リスト管理
ジョブの適切な選択リスト項目を選択したり、選択リストを管理したり、選択リスト値を共有したりします。

Einstein Intent API の基本
深層学習カスタムモデルを構築して、テキストの分類とビジネスプロセスの自動化を行います。

新しいプロジェクト

Build a Gauge Chart That Visually Identifies Regional Data (地域データを視覚的に識別するゲージグラフの作成)
フラグアイコンを使用して、Einstein Analytics の素晴らしいダッシュボードを作成します。

信頼とコンプライアンスに関するドキュメントの見直し

Salesforce の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントに季節的な更新が行われました。

Infrastructure and Sub-Processors

ドキュメント『**Infrastructure and Sub-Processors**』に次の変更が加えられました。

Salesforce

- **Scope:** 新しいブランドを反映して、ドキュメント全体を通して「Analytics Cloud」についての言及が「Einstein Analytics」に変更されました。
- **Infrastructure - Customer Data Storage:** 新しいオーストラリアのデータセンターについての言及が追加されました。

Commerce Cloud

- **Scope:** 「Commerce Cloud Einstein」ブランドのサービスを追加し、「Commerce Cloud Store」ブランドのサービスを削除する更新が行われました。

Data.com

- **Customer Data Processing:** HCL Technologies および HCL America がサブプロセッサから削除されました。

Desk.com、Einstein Discovery、LiveMessage、Quip、Salesforce Inbox、SalesforceIQ CRM

- **Scope:** 新しいブランドを反映して、ドキュメント全体を通して「Einstein Data Discovery」についての言及が「Einstein Discovery」に変更されました。

Heroku

- **Customer Data Processing:** salesforce.com およびその関連会社のみが含まれるように顧客データ処理のエンティティ名が更新されました。

IoT Cloud

- **Customer Data Processing:** salesforce.com およびその関連会社のみが含まれるように顧客データ処理のエンティティ名が更新されました。

Marketing Cloud

- **Customer Data Processing:** 顧客データプロセッサのリストに Accenture Inc.、Cognizant Technology Solutions U.S. Corporation、Cognizant Technology Solutions Hungary Kft.、Cognizant Technology Solutions India Pvt. Ltd.、and Cognizant Technology Solutions Philippines, Inc. の 5 つの事業体が追加されました。

Salesforce DMP

- **Scope:** 「Krux」から「Salesforce DMP」へのブランド変更を反映して更新されました。

通知およびライセンス

通知およびライセンスドキュメントに次の変更が加えられました。

Salesforce

- 更新なし。

Commerce Cloud

- Services Covered: ブランド変更を反映して更新されました。
- Third Party Notices: 新しいサードパーティインテグレーションからの通知を反映して更新されました。

Data.com

- 更新なし。

Desk.com

- Third Party Content: 情報が更新されました。

Einstein Analytics

- ブランド変更を反映して更新されました。

Einstein Discovery

- ブランド変更を反映して更新されました。

Einstein Vision

- 更新なし。

ExactTarget

- 更新なし。

Heroku

- 更新なし。

IoT Cloud

- AWS IoT インテグレーションが追加されました。

LiveMessage

- Restricted Use of Information: 情報が更新されました。

Marketing Cloud (Radian6、Social Studio、Social.com)

- 更新なし。

Pardot

- Third Party Notices: 情報が更新されました。
- Distributed Software: 情報が更新されました。

予測インテリジェンス

- 更新なし。

Quip

- 更新なし。

SalesforceIQ

- Services Covered: 情報が更新されました。
- Purpose of this Documentation: 情報が更新されました。

Sales Cloud Einstein

- 更新なし。

Salesforce DMP

- ブランド変更を反映して更新されました。

Security, Privacy, and Architecture

ドキュメント『**Security, Privacy, and Architecture**』に次の変更が加えられました。

Salesforce

- **Services Covered:** 新しいブランドを反映して、ドキュメント全体を通して「Analytics Cloud」についての言及が「Einstein Analytics」に変更されました。このドキュメントでの説明にある特定要素としての「スクラッチ組織」は、一時的な開発者テスト環境には適用されないという言及が追加されました。
- **Incident Management:** 今後のヨーロッパの法的要件に対応して改訂された Salesforce のデータ処理に関する補遺と一貫性を保つために、記述が更新されました。
- **Audits and Certifications:** Salesforce Quote-to-Cash に新しいサービス組織管理 (SOC) 2 (Type 1) 評価が追加され、SSAE 16 から SSAE 18 に変更されました。
- **Analytics:**「Tracking and Analytics」セクションのタイトルが「Analytics」に変更されました。Salesforce によって行われる分析活動の説明が明記されました。顧客およびユーザとの通信に関する情報が「Interoperation with Other Services」セクションに移されました。
- **Sensitive Data:**「Customers using Public Cloud Infrastructure」についての言及を追加するなど、情報を完備する目的でセクションが編集されました。
- **Interoperation with Other Services:**「Interoperation with Salesforce Services」セクションのタイトルが「Interoperation with Other Services」に変更されました。サービスを Salesforce またはサードパーティが提供する他のサービスとどのように相互運用できるかに関する情報が追加されました。顧客およびユーザと Salesforce の通信に関する情報が追加され、以前は「Tracking and Analytics」セクションにあった記述が置き換えられました。

Commerce Cloud

- **Services Covered:**「Commerce Cloud Einstein」ブランドのサービスを追加し、「Commerce Cloud Store」ブランドのサービスを削除する更新が行われました。
- **Incident Management:** 今後のヨーロッパの法的要件に対応して改訂された Salesforce のデータ処理に関する補遺と一貫性を保つために、記述が更新されました。
- **Reliability and Backup:**「higher availability」が「high availability」に置き換えられました。改訂後の文章は「Customer Data submitted to the Commerce Cloud Services is stored on a primary database server with a replicated copy for high availability and performance.」です。
- **Analytics:**「Tracking and Analytics」セクションのタイトルが「Analytics」に変更されました。Salesforce によって行われる分析活動の説明が明記されました。顧客およびユーザとの通信に関する情報が「Interoperation with Other Services」セクションに移されました。
- **Interoperation with Other Services:**「Interoperation with Salesforce Services」セクションのタイトルが「Interoperation with Other Services」に変更されました。サービスを Salesforce またはサードパーティが提供する他のサービスとどのように相互運用できるかに関する情報が追加されました。顧客およびユーザと Salesforce の通信に関する情報が追加され、以前は「Tracking and Analytics」セクションにあった記述が置き換えられました。

Data.com

- **Incident Management:** 今後のヨーロッパの法的要件に対応して改訂された Salesforce のデータ処理に関する補遺と一貫性を保つために、記述が更新されました。
- **Analytics:** 「Tracking and Analytics」セクションのタイトルが「Analytics」に変更されました。Salesforce によって行われる分析活動の説明が明記されました。顧客およびユーザとの通信に関する情報が「Interoperation with Other Services」セクションに移されました。
- **Interoperation with Other Services:** 「Interoperation with Salesforce Services」セクションのタイトルが「Interoperation with Other Services」に変更されました。サービスを Salesforce またはサードパーティが提供する他のサービスとどのように相互運用できるかに関する情報が追加されました。顧客およびユーザと Salesforce の通信に関する情報が追加され、以前は「Tracking and Analytics」セクションにあった記述が置き換えられました。

Desk.com、Einstein Discovery、LiveMessage、Quip、Salesforce Inbox、SalesforceIQ CRM

- **Services Covered:** 新しいブランドを反映して、ドキュメント全体を通して「Einstein Data Discovery」についての言及が「Einstein Discovery」に変更されました。
- **Audits and Certifications:** Quip に適用されるサービス組織管理 (SOC) レポートで「Type 1」についての言及が「2」に置き換えられました。
- **Incident Management:** 今後のヨーロッパの法的要件に対応して改訂された Salesforce のデータ処理に関する補遺と一貫性を保つために、記述が更新されました。
- **Analytics:** 「Tracking and Analytics」セクションのタイトルが「Analytics」に変更されました。Salesforce によって行われる分析活動の説明が明記されました。顧客およびユーザとの通信に関する情報が「Interoperation with Other Services」セクションに移されました。
- **Interoperation with Other Services:** 「Interoperation with Salesforce Services」セクションのタイトルが「Interoperation with Other Services」に変更されました。サービスを Salesforce またはサードパーティが提供する他のサービスとどのように相互運用できるかに関する情報が追加されました。顧客およびユーザと Salesforce の通信に関する情報が追加され、以前は「Tracking and Analytics」セクションにあった記述が置き換えられました。

Einstein Vision

- **Services Covered:** 新しいブランドを反映して、ドキュメント全体を通して「Analytics Cloud」についての言及が「Einstein Analytics」に変更されました。
- **Architecture and Data Segregation:** 「Org ID」が「unique ID」に置き換えられ、「based on business needs」が追加されました。
- **User Authentication:** 「JWT Token」について言及が削除され、汎用的な「token」に置き換えられました。ランダムなセッション ID は認証後に作成されることが明記されました。
- **Reliability and Backup:** 「Customer Data submitted to the Einstein Vision Services is backed up daily.」という文章が追加されました。
- **Disaster Recovery:** Einstein Vision サービスの障害回復に関する新しいセクションが追加されました。
- **Deletion of Customer Data:** 「Salesforce reserves the right to reduce the number of days it retains such data after termination of the Master Subscription Agreement.」に対応する記述が追加されました。
- **Sensitive Data:** 機密データを含むまたは明らかにする「sounds or other information」についての言及を追加するなど、情報を完備する目的でセクションが編集されました。
- **Incident Management:** 今後のヨーロッパの法的要件に対応して改訂された Salesforce のデータ処理に関する補遺と一貫性を保つために、記述が更新されました。

- **Analytics:**「Tracking and Analytics」セクションのタイトルが「Analytics」に変更されました。Salesforce によって行われる分析活動の説明が明記されました。顧客およびユーザとの通信に関する情報が「Interoperation with Other Services」セクションに移されました。
- **Interoperation with Other Services:**「Interoperation with Salesforce Services」セクションのタイトルが「Interoperation with Other Services」に変更されました。サービスを Salesforce またはサードパーティが提供する他のサービスとどのように相互運用できるかに関する情報が追加されました。顧客およびユーザと Salesforce の通信に関する情報が追加され、以前は「Tracking and Analytics」セクションにあった記述が置き換えられました。

Heroku

- **Audits and Certifications**: 特定の Heroku サービスに適用される Payment Card Industry (PCI) 認証について説明するセクションが追加されました。
- **Security Policies and Procedures**: Heroku サービスに適用されるセキュリティポリシーおよび手順について説明する新しいセクションが追加されました。
- **Incident Management:** 今後のヨーロッパの法的要件に対応して改訂された Salesforce のデータ処理に関する補遺と一貫性を保つために、記述が更新されました。
- **User Authentication:** Heroku サービスにどのようにパスワードが保存されるのかについての説明が追加されました。
- **Disaster Recovery:** Heroku サービスに関する既存の障害回復計画についての詳細が追加されました。
- **Sensitive Data:** タイトルから「Personal」が削除されました。支払いカード名義人データが特定の Heroku サービスに送信される場合があることが明記されました。
- **Analytics:**「Tracking and Analytics」セクションのタイトルが「Analytics」に変更されました。Salesforce によって行われる分析活動の説明が明記されました。顧客およびユーザとの通信に関する情報が「Interoperation with Other Services」セクションに移されました。
- **Interoperation with Other Services:**「Interoperation with Salesforce Services」セクションのタイトルが「Interoperation with Other Services」に変更されました。サービスを Salesforce またはサードパーティが提供する他のサービスとどのように相互運用できるかに関する情報が追加されました。顧客およびユーザと Salesforce の通信に関する情報が追加され、以前は「Tracking and Analytics」セクションにあった記述が置き換えられました。

IoT Cloud

- **Incident Management:** 今後のヨーロッパの法的要件に対応して改訂された Salesforce のデータ処理に関する補遺と一貫性を保つために、記述が更新されました。
- **Data Encryption:** 128 ビットから 256 ビットの TLS 証明書に変更されました。
- **Analytics:**「Tracking and Analytics」セクションのタイトルが「Analytics」に変更されました。Salesforce によって行われる分析活動の説明が明記されました。顧客およびユーザとの通信に関する情報が「Interoperation with Other Services」セクションに移されました。
- **Interoperation with Other Services:**「Interoperation with Salesforce Services」セクションのタイトルが「Interoperation with Other Services」に変更されました。サービスを Salesforce またはサードパーティが提供する他のサービスとどのように相互運用できるかに関する情報が追加されました。顧客およびユーザと Salesforce の通信に関する情報が追加され、以前は「Tracking and Analytics」セクションにあった記述が置き換えられました。

Marketing Cloud

- **Incident Management:** 今後のヨーロッパの法的要件に対応して改訂された Salesforce のデータ処理に関する補遺と一貫性を保つために、記述が更新されました。

- **Deletion of Customer Data:**「up to」という言葉が追加されました。改訂後の文章は、「After termination of the ExactTarget service, following the 30-day period for return of Customer Data, Customer Data submitted to ExactTarget is retained in inactive status for up to 90 days, after which it is securely overwritten or deleted from ExactTarget.」です。
- **Analytics:**「Tracking and Analytics」セクションのタイトルが「Analytics」に変更されました。Salesforce によって行われる分析活動の説明が明記されました。顧客およびユーザとの通信に関する情報が「Interoperation with Other Services」セクションに移されました。
- **Interoperation with Other Services:**「Interoperation with Salesforce Services」セクションのタイトルが「Interoperation with Other Services」に変更されました。サービスを Salesforce またはサードパーティが提供する他のサービスとどのように相互運用できるかに関する情報が追加されました。顧客およびユーザと Salesforce の通信に関する情報が追加され、以前は「Tracking and Analytics」セクションにあった記述が置き換えられました。

Pardot

- **Audits and Certifications**: サービス組織管理 (SOC) 2 (Type 1) 評価についての言及が追加されました。
- **Incident Management:** 今後のヨーロッパの法的要件に対応して改訂された Salesforce のデータ処理に関する補遺と一貫性を保つために、記述が更新されました。
- **Deletion of Customer Data:**「termination of the Master Subscription Agreement」についての言及が「termination of the Pardot Services」に変更されました。
- **Analytics:**「Tracking and Analytics」セクションのタイトルが「Analytics」に変更されました。Salesforce によって行われる分析活動の説明が明記されました。顧客およびユーザとの通信に関する情報が「Interoperation with Other Services」セクションに移されました。
- **Interoperation with Other Services:**「Interoperation with Salesforce Services」セクションのタイトルが「Interoperation with Other Services」に変更されました。サービスを Salesforce またはサードパーティが提供する他のサービスとどのように相互運用できるかに関する情報が追加されました。顧客およびユーザと Salesforce の通信に関する情報が追加され、以前は「Tracking and Analytics」セクションにあった記述が置き換えられました。

Radian6

- **Incident Management:** 今後のヨーロッパの法的要件に対応して改訂された Salesforce のデータ処理に関する補遺と一貫性を保つために、記述が更新されました。
- **Analytics:**「Tracking and Analytics」セクションのタイトルが「Analytics」に変更されました。Salesforce によって行われる分析活動の説明が明記されました。顧客およびユーザとの通信に関する情報が「Interoperation with Other Services」セクションに移されました。
- **Interoperation with Other Services:**「Interoperation with Salesforce Services」セクションのタイトルが「Interoperation with Other Services」に変更されました。サービスを Salesforce またはサードパーティが提供する他のサービスとどのように相互運用できるかに関する情報が追加されました。顧客およびユーザと Salesforce の通信に関する情報が追加され、以前は「Tracking and Analytics」セクションにあった記述が置き換えられました。

Sales Cloud Einstein

- **Disaster Recovery:** 障害回復に関する新しいセクションが追加されました。
- **Analytics:**「Tracking and Analytics」セクションのタイトルが「Analytics」に変更されました。Salesforce によって行われる分析活動の説明が明記されました。顧客およびユーザとの通信に関する情報が「Interoperation with Other Services」セクションに移されました。
- **Interoperation with Other Services:**「Interoperation with Salesforce Services」セクションのタイトルが「Interoperation with Other Services」に変更されました。サービスを Salesforce またはサードパーティが提供する他のサービス

とどのように相互運用できるかに関する情報が追加されました。顧客およびユーザと Salesforce の通信に関する情報が追加され、以前は「Tracking and Analytics」セクションにあった記述が置き換えられました。

Salesforce DMP

- **Services Covered**:「Krux」から「Salesforce DMP」へのブランド変更を反映して更新されました。
- **Audits and Certifications**: スイス/米国間のプライバシーシールドの追加を反映して更新されました。
- **Incident Management:** 今後のヨーロッパの法的要件に対応して改訂された Salesforce のデータ処理に関する補遺と一貫性を保つために、記述が更新されました。
- **Disaster Recovery:** 障害回復に関する新しいセクションが追加されました。
- **Analytics:**「Tracking and Analytics」セクションのタイトルが「Analytics」に変更されました。Salesforce によって行われる分析活動の説明が明記されました。顧客およびユーザとの通信に関する情報が「Interoperation with Other Services」セクションに移されました。
- **Sensitive Data:** タイトルから「Personal」が削除され、NAI 行動規範へのリンクおよび個人データの定義を更新して変名識別子をサービスに送信可能であることを明記するなど、情報を完備する目的でセクションが編集されました。
- **Interoperation with Other Services:**「Interoperation with Salesforce Services」セクションのタイトルが「Interoperation with Other Services」に変更されました。サービスを Salesforce またはサードパーティが提供する他のサービスとどのように相互運用できるかに関する情報が追加されました。顧客およびユーザと Salesforce の通信に関する情報が追加され、以前は「Tracking and Analytics」セクションにあった記述が置き換えられました。

その他の Salesforce 製品とサービス

Desk.com

Desk.com は、小規模ビジネスや成長中のチーム向けの、オールインワンカスタマーサポートアプリケーションです。

新機能についての詳細は、Desk.com **製品更新のブログ**を参照してください。

Heroku

Heroku は、Web アプリケーションを作成およびリリースするための、クラウドベースのアプリケーションプラットフォームです。

新機能についての詳細は、「Heroku Changelog」を参照してください。

LiveMessage

LiveMessage を使用すると、サービスエージェントは、顧客が電話をかけるのに使用するのと同じ固定電話またはフリーダイヤルで顧客からのテキストメッセージを受信できます。また、エージェントは、顧客へのテキストメッセージを送信することもできるため、顧客がどこにいてもプロアクティブなコミュニケーションを行うことができます。

新機能についての詳細は、LiveMessage **のリリースページ**を参照してください。

Cloud サービス

Salesforce Cloud サービスの認定エキスパート、コンサルタント、革新的なツールが、プロフェッショナルサービス、具体的なアドバイス、専門知識を通じて、さまざまな場面をサポートします。

Cloud サービスの Premier Success Plan、 Signature Success Plan および Advisory Service の新しい機能についての詳細は、Cloud サービスリリースページを参照してください。